

平成 20 (2008) 年度 保健福祉にかかるアンケート調査について

今年度、「保健福祉に関する意識調査」、「高齢福祉・介護保険サービス意向調査」、及び「障害福祉サービス意向調査」の 3 調査を実施し、このたび、調査結果を取りまとめたので報告する。

1 調査の目的

- (1) 保健福祉施策等に係る区民の関心や満足度を把握し、事業の見直し・改善に向けた基礎資料として、また、施策や事業の目標の達成度を図る指標として活用する。
- (2) 高齢者、障害者、要支援・要介護認定者の保健福祉・介護保険サービスの利用実態や今後の利用意向等を把握し、保健福祉総合推進計画、介護保険事業計画、障害福祉計画等の検討に資する。

2 調査の概要

(1) 保健福祉に関する意識調査 (毎年実施)

調査対象者 20 歳以上の区民
調査標本数 3,000 人
有効回収数 1,168 人 (回収率 38.9%)

(2) 高齢福祉・介護保険サービス意向調査 (3 年ごとに実施)

① 高齢者調査

調査対象者 65 歳以上の区民 (障害者調査対象者、要支援・要介護認定者を除く)
調査標本数 3,000 人
有効回収数 1,762 人 (回収率 58.7%)

② 介護保険サービス意向調査

(ア) 「居宅サービス利用者」

調査対象者 介護保険サービスのうち居宅サービスを利用している区民
調査標本数 1,500 人
有効回収数 922 人 (回収率 61.5%)

(イ)「介護サービス未利用者」

調査対象者 要介護等の認定者のうち介護サービスを利用していない区民
調査標本数 500人
有効回収数 266人（回収率 53.2%）

(ウ)「ケアマネジャー」

調査対象者 区内全居宅介護支援事業所、及び隣接区の居宅介護支援事業所で区民のケアプランを10件以上扱っている事業所に所属するケアマネジャー
調査標本数 約250人
有効回収数 139人（回収率 55.6%）

(3) 障害福祉サービス意向調査（3年ごとに実施）

①障害者調査

調査対象者 身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者（障害者施設の入所者を除く）
調査標本数 1,500人
有効回収数 821人（回収率 54.7%）

②施設入所者調査

調査対象者 基準日（2008年4月1日）現在で、障害者施設に入所している中野区の給付対象者全員
調査標本数 198人
有効回収数 141人（回収率 71.2%）

3 調査方法

郵送配布・郵送回収

4 調査結果

別紙のとおり

5 今後の予定

- (1) 調査結果を区ホームページに掲載するとともに、調査報告書を区政資料センター、地域センター、図書館、保健福祉センターに備え、区民の閲覧に供する。
- (2) 調査概要を区報特別号（保健福祉総合推進計画、介護保険事業計画及び障害福祉計画の素案について12月中旬発行予定）に掲載する。

平成 20（2008）年度保健福祉サービス等に関する意識調査

及び意向調査報告書

－ 抜 粋 －

目 次

1. 保健福祉に関する意識調査報告書	3
（1）現在の健康状態	3
（2）かかりつけの診療所の有無	3
（3）地域の活動への参加	4
（4）介護保険制度のしくみを認識している度合い	4
（5）中野区の保健福祉施策についての満足度	5
2. 障害福祉サービス意向調査報告書	5
（1）希望する働き方<障害者調査>	5
（2）障害者が働くための環境整備<障害者調査>	6
（3）「すこやか福祉センター」でしたい相談<障害者調査>	7
（4）充実してほしい施策<障害者調査>	8
（5）入所理由<施設入所者調査>	9
（6）生活したい場所<施設入所者調査>	9
3. 高齢福祉・介護保険サービス意向調査報告書	10
（1）通院または治療中の疾病<高齢者調査>	10
（2）不安や悩みごとの相談相手<高齢者調査>	11
（3）隣近所の人とのつきあいの程度<高齢者調査>	11
（4）住民同士が支え合う地域づくりのために、区が行うべき支援 <高齢者調査>	12
（5）対象者の属性－同居の家族<居宅サービス利用者調査> <介護サービス未利用者調査>	13
（6）介護保険施設や有料老人ホームへの入所希望 <居宅サービス利用者調査>	14

(7) 介護保険のサービスと保険料について<居宅サービス利用者調査>	14
(8) 介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと <居宅サービス利用者調査>	15
(9) 介護保険施設や有料老人ホームへの入所希望 <介護サービス未利用者調査>	15
(10) 介護保険のサービスと保険料について<介護サービス未利用者調査>	16
(11) 介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと <居宅サービス利用者調査>	16
(12) 供給不足のため、利用者に提供できないサービス <ケアマネジャー調査>	17
(13) 近隣や地域の人々に望む支援や手助け<ケアマネジャー調査>	19
(14) 要介護者等が居宅や地域での生活を続けるために充実すべき点 <ケアマネジャー調査>	19

1. 保健福祉に関する意識調査報告書

(1)現在の健康状態 (保健福祉に関する意識調査報告書 13 ページ)

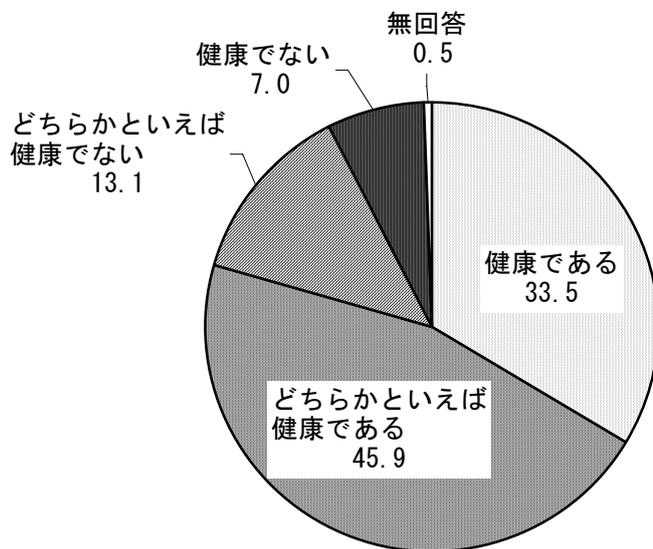
(全員の方に)

問1. あなたは、現在の自分の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つ)

<図1-1> 全体

回答者数 1,168人

単位：%



(2)かかりつけの診療所の有無 (保健福祉に関する意識調査報告書 33 ページ)

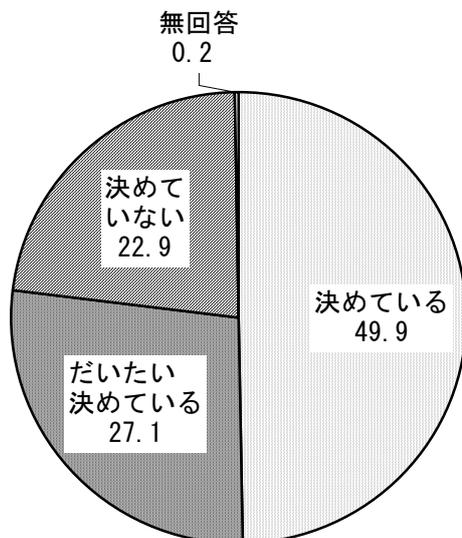
(全員の方に)

問10. あなたは、ふだんの診察や健康診断をするかかりつけの診療所(医院・クリニック)を決めていますか。(○は1つ)

<図1-31> 全体

回答者数 1,168人

単位：%



(3)地域活動への参加 (保健福祉に関する意識調査報告書 59 ページ)

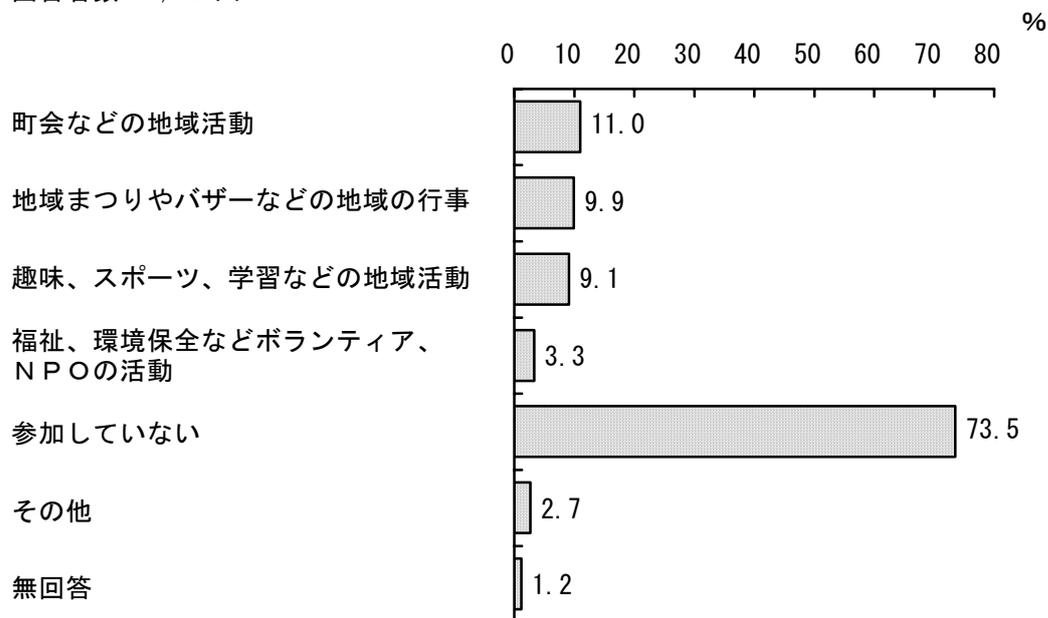
(全員の方に)

問 23. あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。

(あてはまるものすべてに○)

〈図 2-1〉 全体

回答者数 1,168人



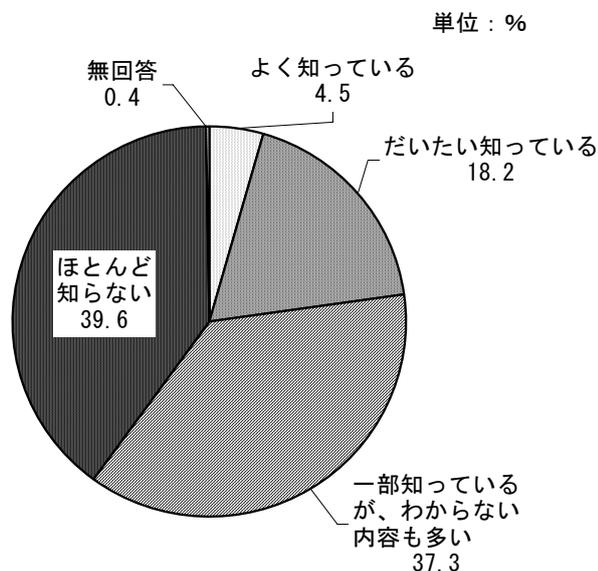
(4)介護保険制度のしくみを認識している度合い(保健福祉に関する意識調査報告書 77 ページ)

(全員の方に)

問 30. あなたは、介護保険制度のしくみ(手続き・保険料・給付内容など)について、どの程度ご存じですか。(○は1つ)

〈図 3-1〉 全体

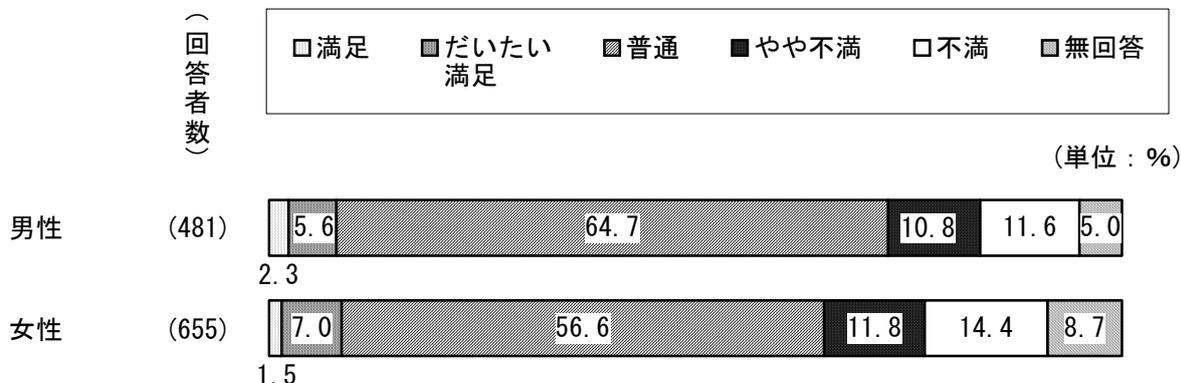
回答者数 1,168人



（全員の方に）

問 38. あなたは中野区の保健福祉施策について満足していますか。（○は1つ）

〈図 5-6〉 性別



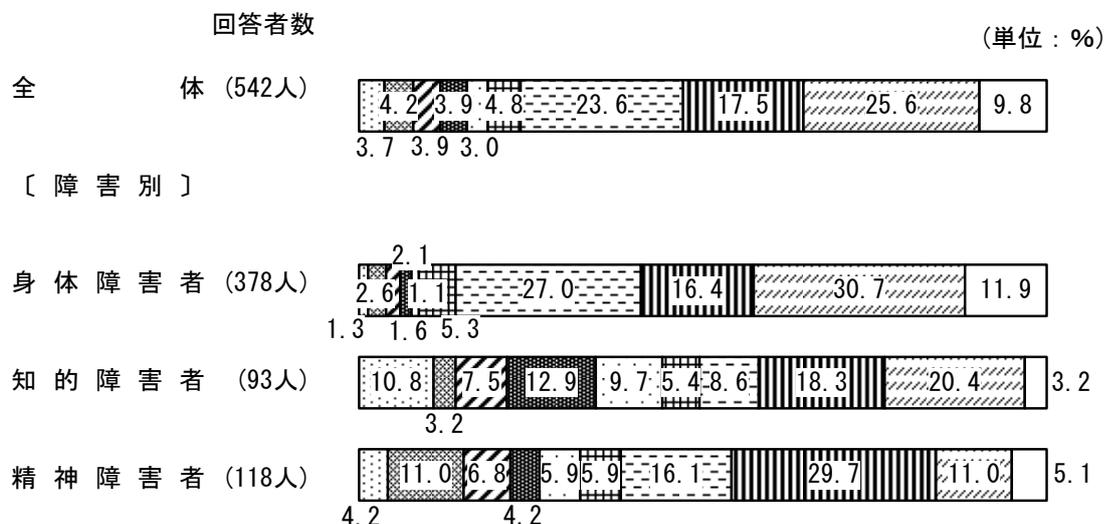
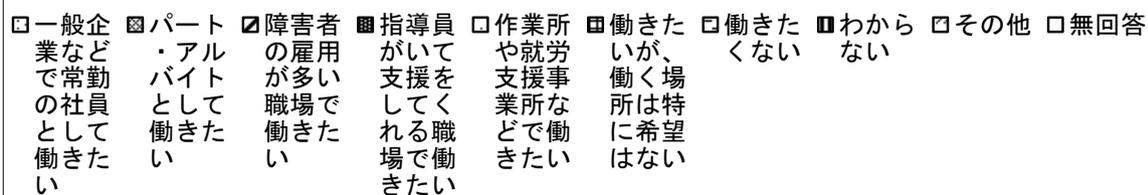
2. 障害福祉サービス意向調査報告書

(1)希望する働き方（〈障害者調査〉70 ページ）

（問 26 で「就労による定期的な収入がない」と答え方に）

問 30. あなた（ご本人）は今後、どのように働きたいと思いますか。（○は1つ）

〈図 I-5-5〉

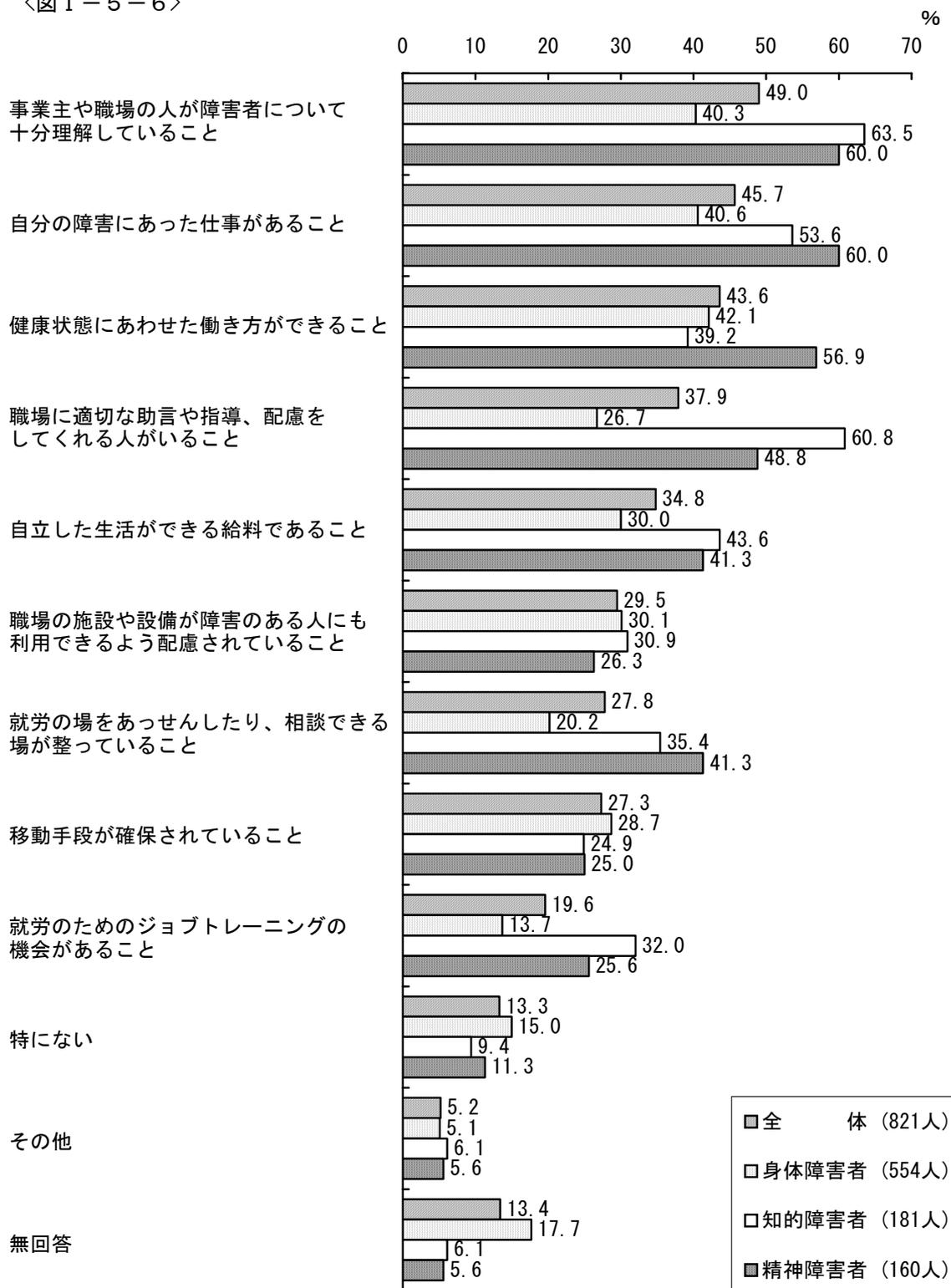


(2) 障害者が働くための環境整備 (<障害者調査> 74 ページ)

(全員の方に)

問 31. あなた（ご本人）は、障害者が働くためには、どのような環境が整っていることが大切だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

<図 I-5-6>

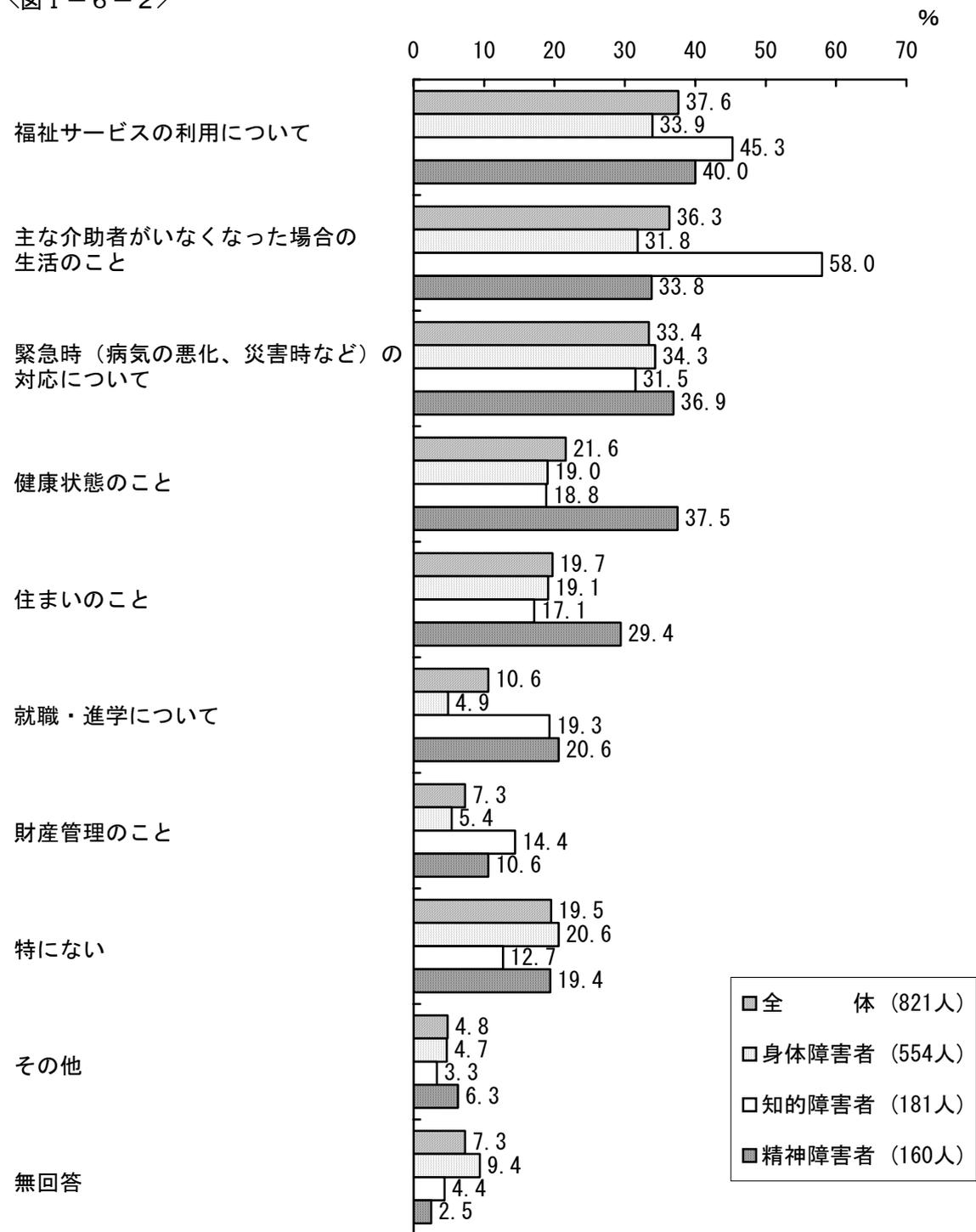


(3)「すこやか福祉センター」でしたい相談 (<障害者調査>79 ページ)

(全員の方に)

問 33. 区では、身近な地域に子ども、障害者、高齢者の保健福祉に関する相談を総合的に受ける(仮称)すこやか福祉センターの開設を予定していますが、あなた(ご本人)は、そこでどのような相談をしたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図 I-6-2>

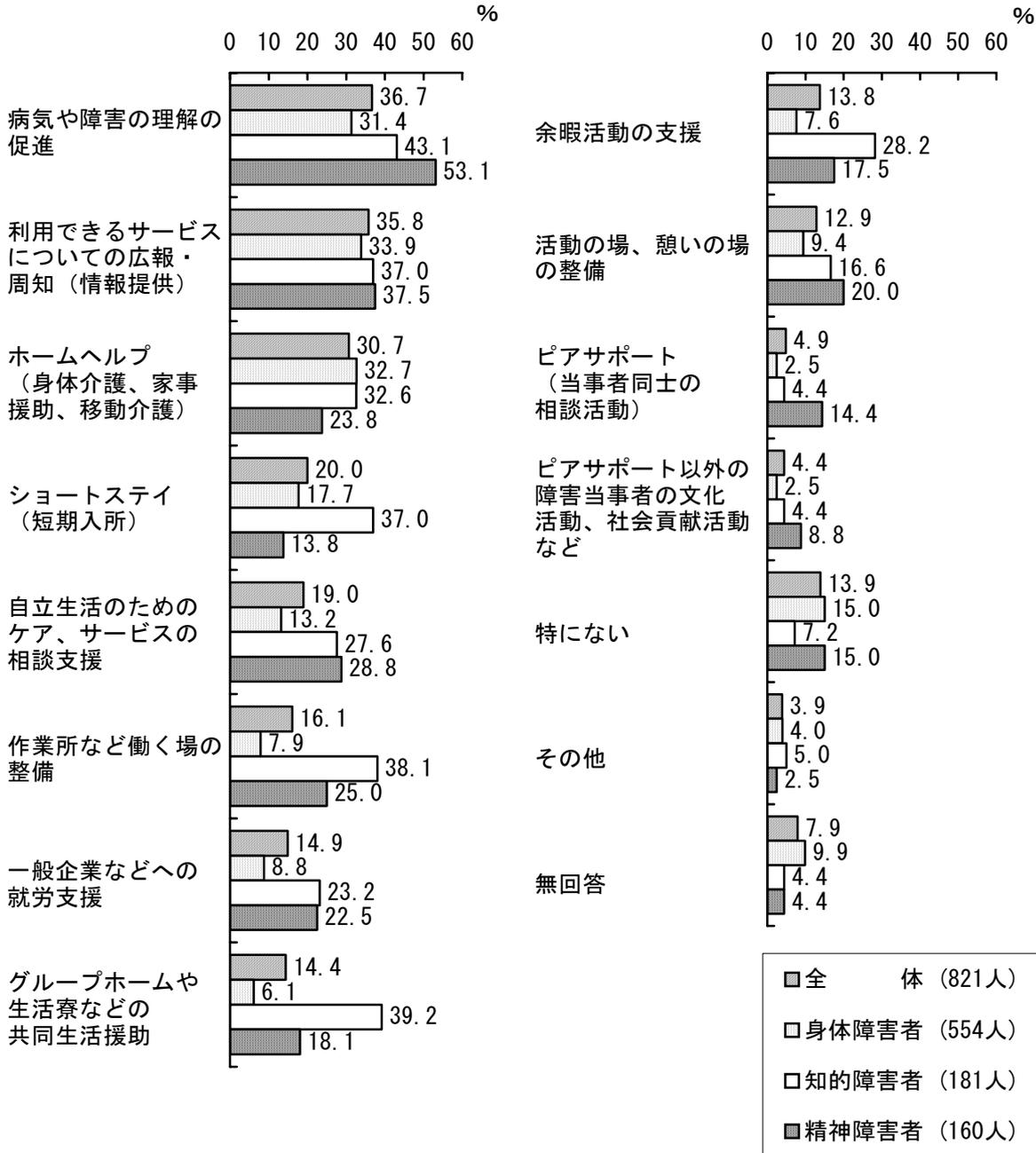


(4) 充実してほしい施策 (<障害者調査>89 ページ)

(全員の方に)

問 40. あなた(ご本人)は次の施策のうち、特に充実してほしいと思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図 I-6-9>

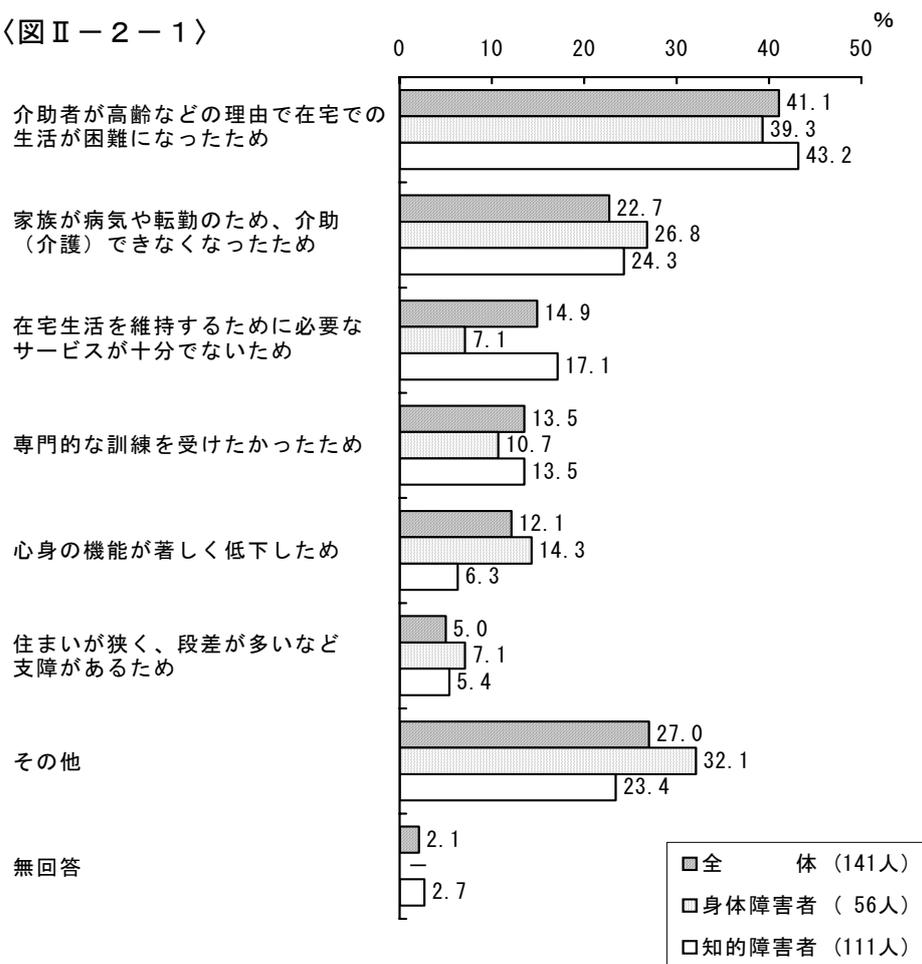


(5)入所理由 (＜施設入所者調査＞119 ページ)

(全員の方に)

問7. 現在の施設に入所することになった理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

＜図Ⅱ-2-1＞



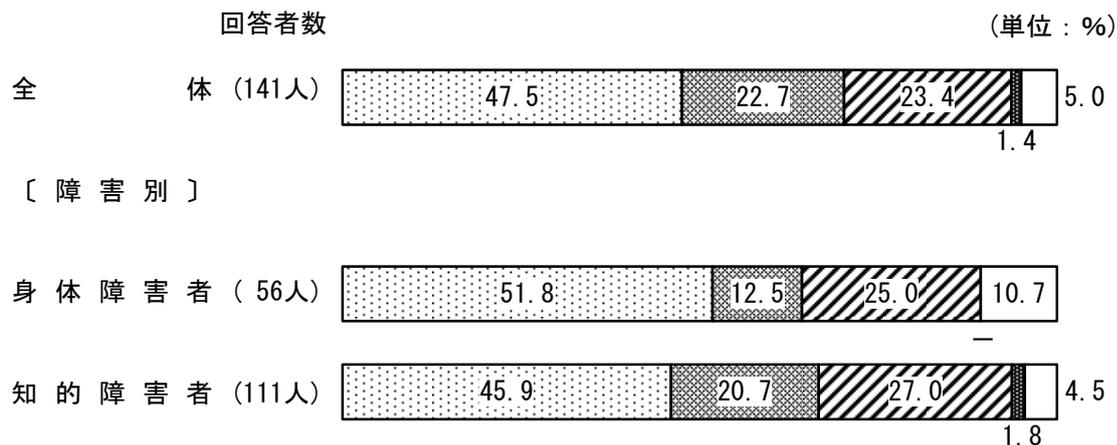
(6)生活したい場所 (＜施設入所者調査＞123 ページ)

(全員の方に)

問8. 今後、どこで生活したいですか。(○は1つ)

＜図Ⅱ-3-1＞

現在のよう
に、入所施
設で暮らし
たい
 施設を出て
地域の中で
暮らしたい
 わからない
 その他
 無回答



3 高齢福祉・介護保険サービス意向調査報告書

(1) 通院または治療中の疾病（＜高齢者調査＞21 ページ）

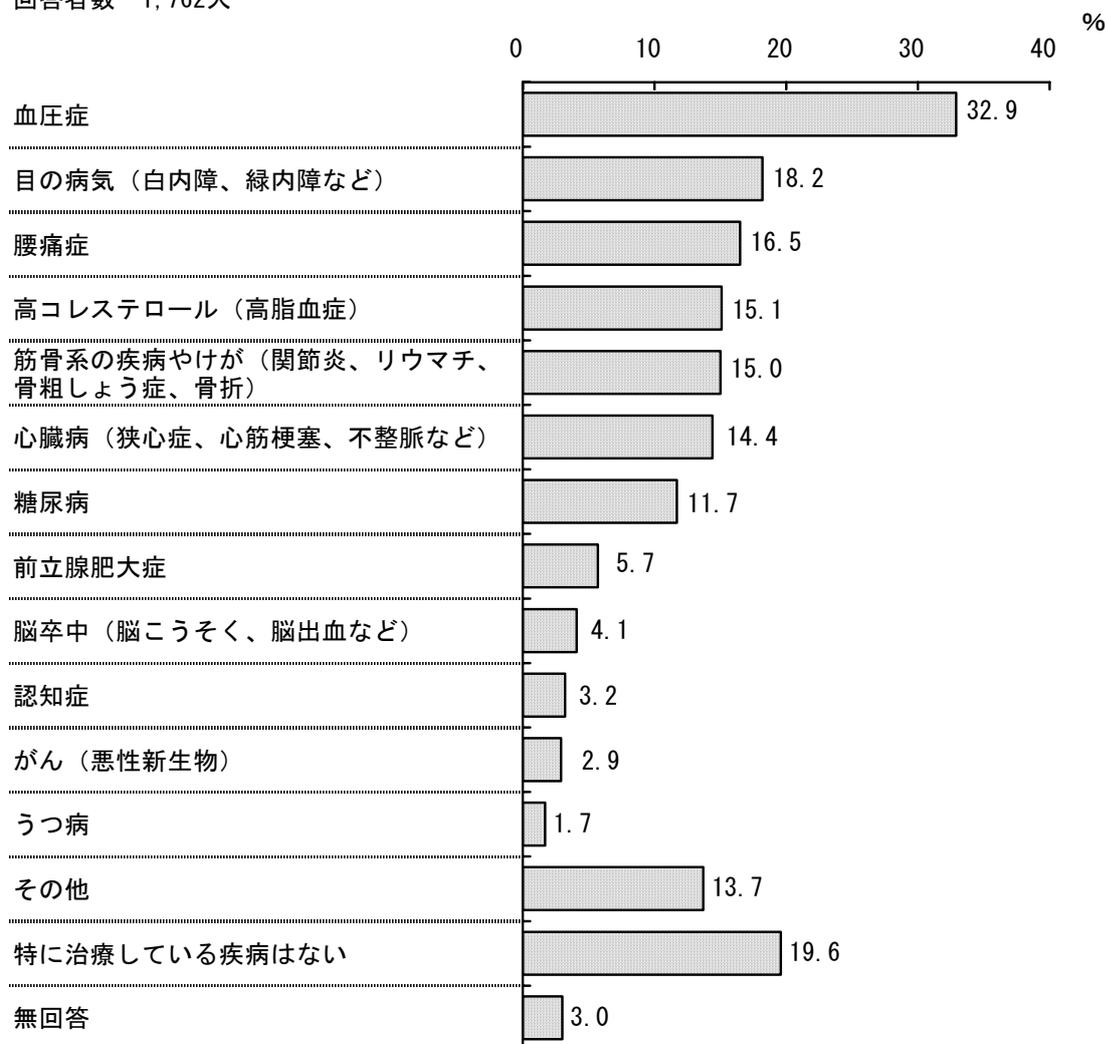
（全員の方に）

問 12. あなた（宛名の方ご本人）は、現在、通院または治療中の疾病はありますか。

（あてはまるものすべてに○）

＜図 1-2-16＞

回答者数 1,762人



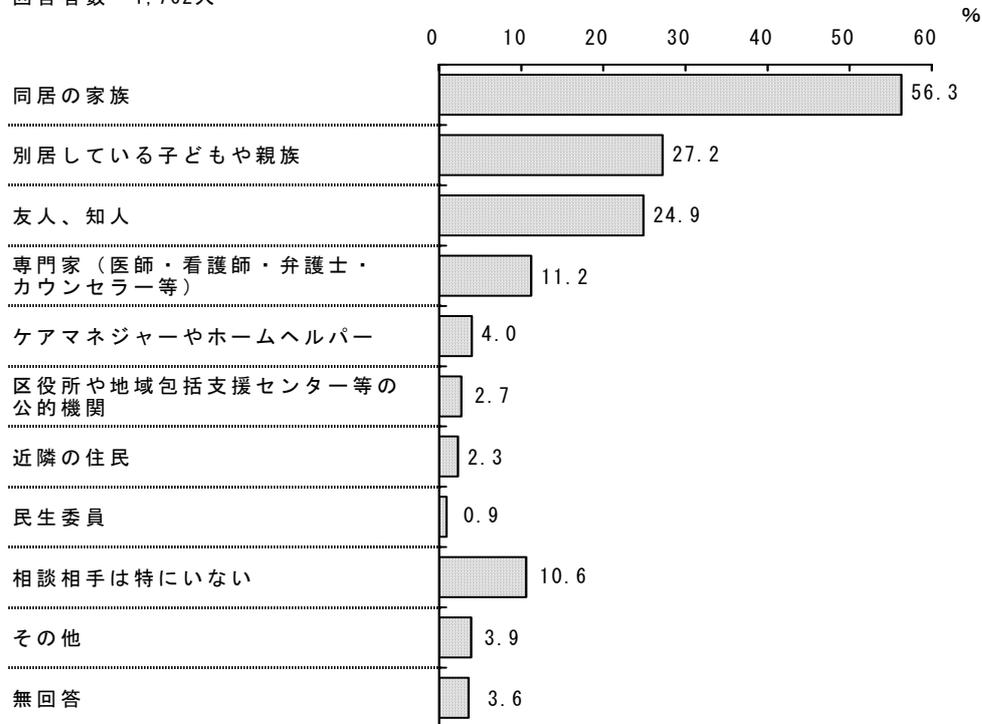
(2) 不安や悩みごとの相談相手 (<高齢者調査>47 ページ)

(全員の方に)

問 23. あなた(宛名の方ご本人)は、不安や悩みごととは誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図 1-5-9>

回答者数 1,762人

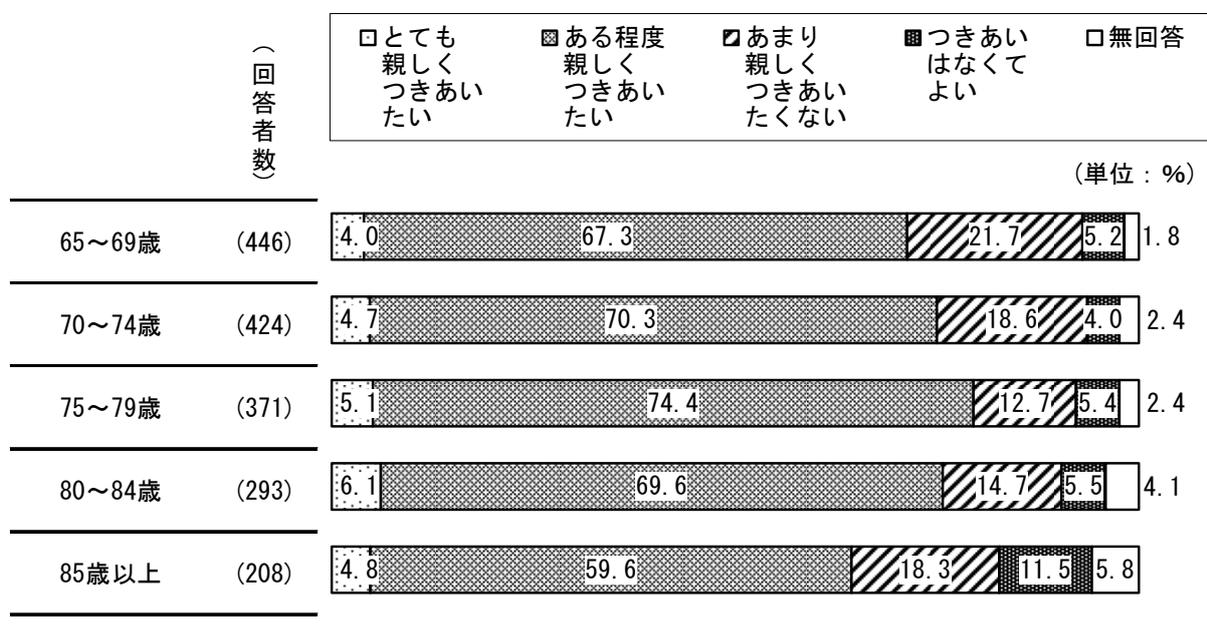


(3) 隣近所の人とのつきあいの程度 (<高齢者調査>59 ページ)

(全員の方に)

問 28. あなた(宛名の方ご本人)は、隣近所の人とどの程度のつきあいをしたいと思いますか。(○は1つ)

<図 1-6-3> 年齢別



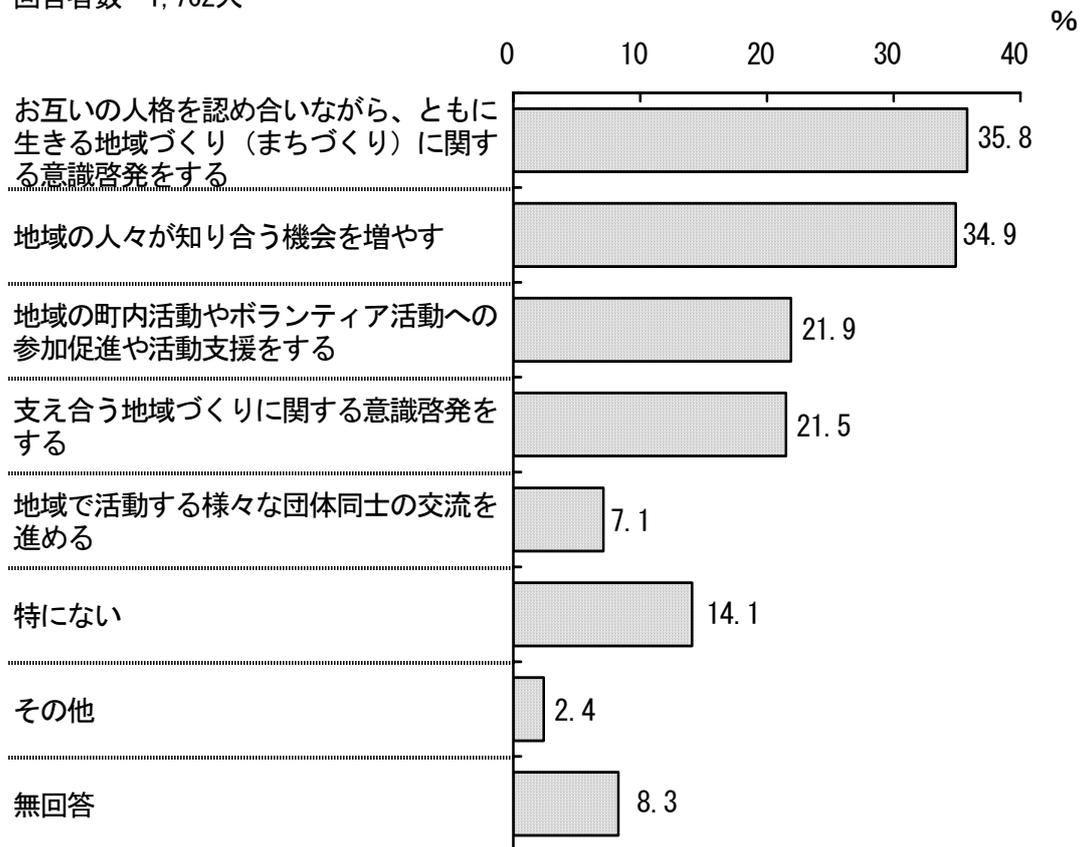
(4) 住民同士が支え合う地域づくりのために、区が行うべき支援(＜高齢者調査＞63 ページ)

(全員の方に)

問 30. 住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために、区はどのような支援を行う必要があると思いますか。(○は2つまで)

〈図 I - 6 - 9〉

回答者数 1,762人



(5)対象者の属性－同居の家族（＜居宅サービス利用者調査＞105 ページ）

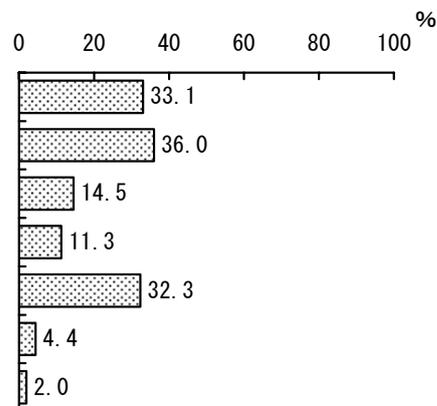
（＜介護サービス未利用者調査＞181 ページ）

（全員の方に）

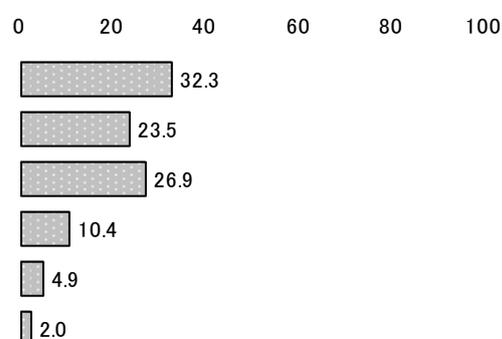
問7. あなた（宛名の方ご本人）と同居されている方はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

＜居宅サービス利用者調査＞

区分	回答者数	構成比 (%)
配偶者	305	33.1
子	332	36.0
子の配偶者	134	14.5
孫	104	11.3
ひとり暮らし	298	32.3
その他	41	4.4
無回答	18	2.0
全体	922	100.0

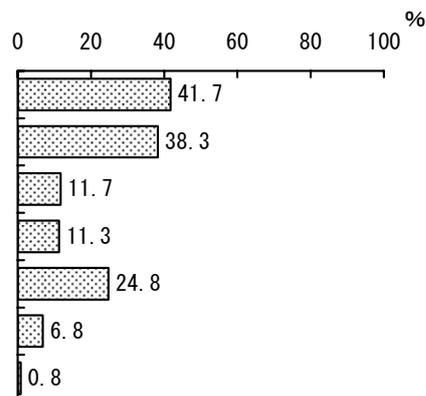


区分	回答者数	構成比 (%)
ひとり暮らし	298	32.3
高齢者夫婦だけ	217	23.5
高齢者と子ども	248	26.9
高齢者と子どもと孫	96	10.4
その他	45	4.9
無回答	18	2.0
全体	922	100.0

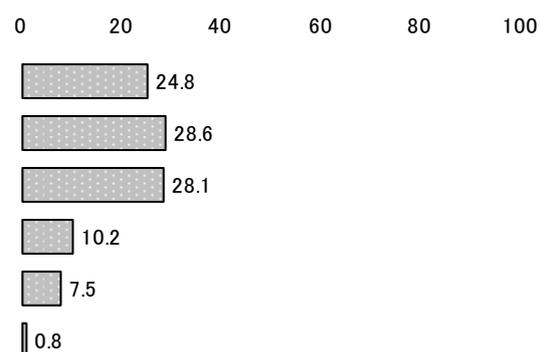


＜介護サービス未利用者調査＞

区分	回答者数	構成比 (%)
配偶者	111	41.7
子	102	38.3
子の配偶者	31	11.7
孫	30	11.3
ひとり暮らし	66	24.8
その他	18	6.8
無回答	2	0.8
全体	266	100.0



区分	回答者数	構成比 (%)
ひとり暮らし	66	24.8
高齢者夫婦だけ	76	28.6
高齢者と子ども	75	28.1
高齢者と子どもと孫	27	10.2
その他	20	7.5
未回答	2	0.8
全体	266	100.0



(6) 介護保険施設や有料老人ホームへの入所希望(＜居宅サービス利用者調査＞127 ページ)

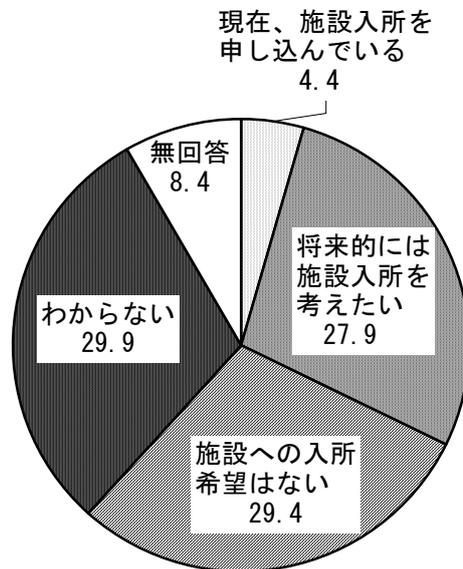
(全員の方に)

問 20. あなた(宛名の方ご本人)は、介護保険施設や有料老人ホームに入所(居)希望がありますか。(○は1つ)

＜図Ⅱ-5-2＞

回答者数 922人

単位：%



(7) 介護保険のサービスと保険料について(＜居宅サービス利用者調査＞146 ページ)

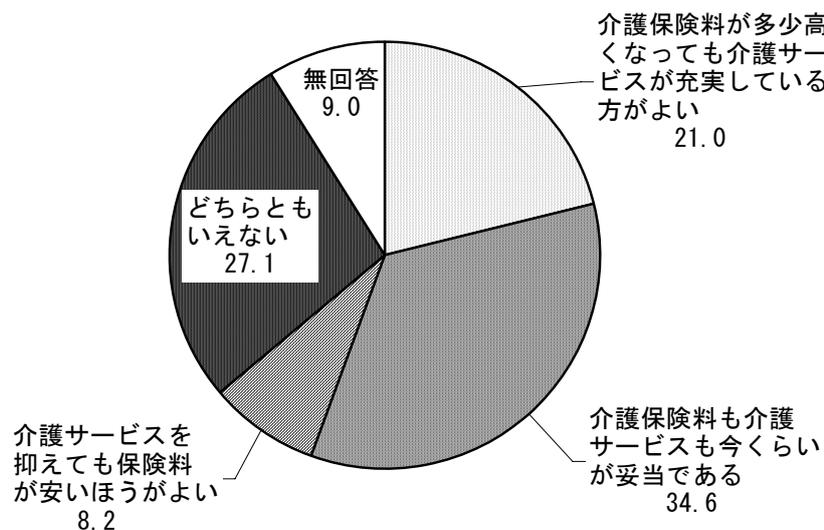
(全員の方に)

問 29. 介護保険のサービスと介護保険料について、あなたのお考えに最も近いものは次のうちのどれですか。(○は1つ)

＜図Ⅱ-7-5＞

回答者数 922人

単位：%



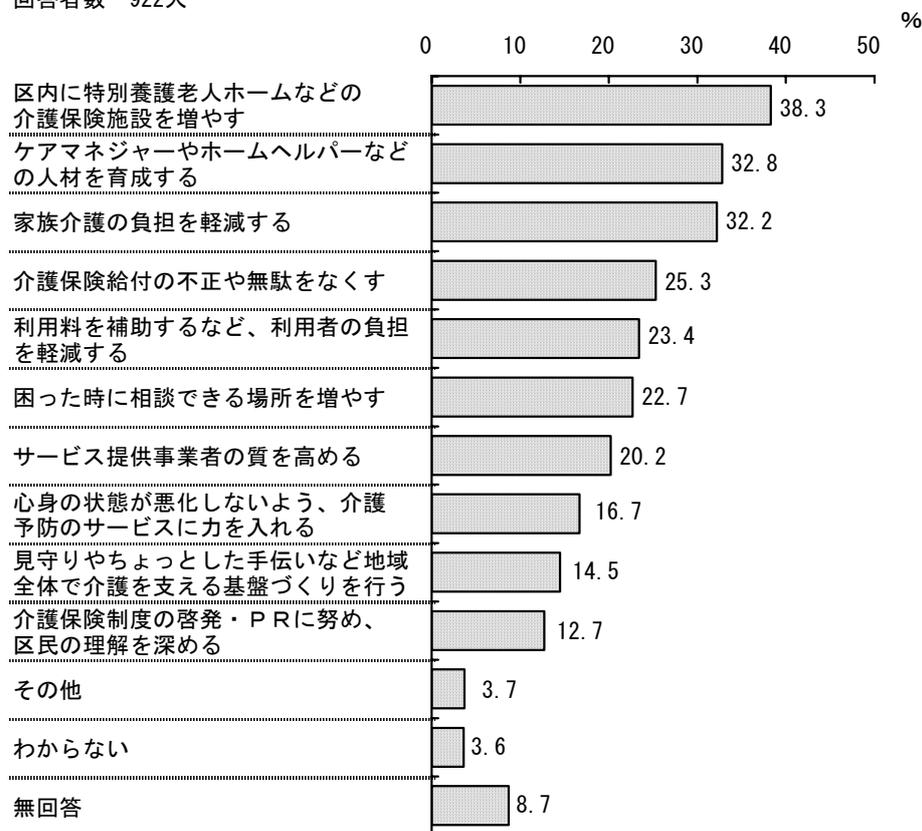
(8) 介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと
 (<居宅サービス利用者調査>149 ページ)

(全員の方に)

問 30. 介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきことは次のうちのどれですか。(○は3つまで)

<図Ⅱ-7-6>

回答者数 922人



(9) 介護保険施設や有料老人ホーム等への入所希望
 (<介護サービス未利用者調査>202 ページ)

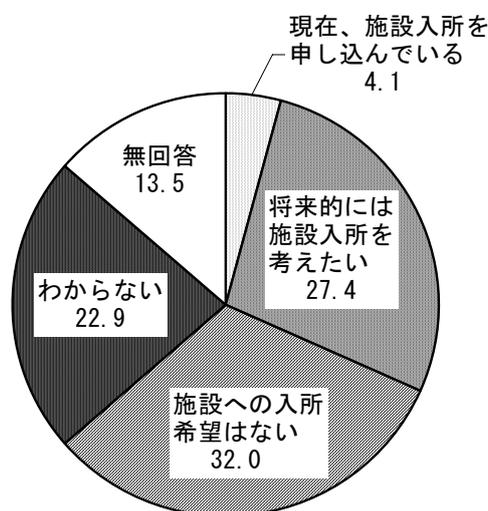
(全員の方に)

問 19. あなた(宛名の方ご本人)は、介護保険施設や有料老人ホームに入所(居)希望がありますか。(○は1つ)

<図Ⅲ-5-2>

回答者数 266人

単位：%



(10)介護保険のサービスと保険料について（＜介護サービス未利用者調査＞213 ページ）

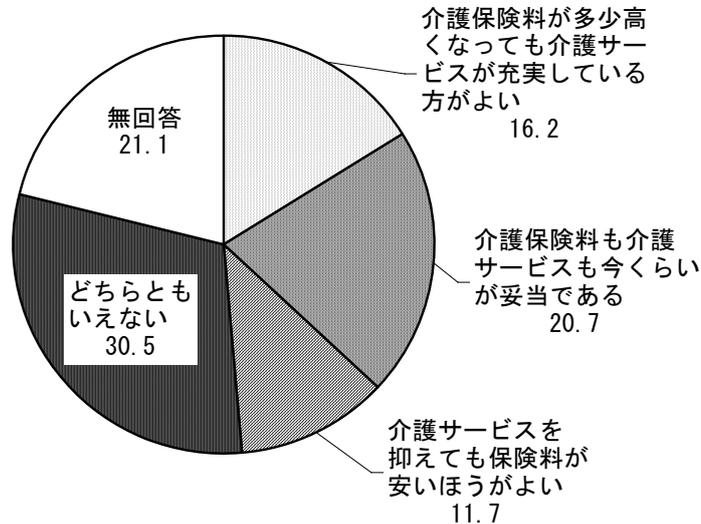
（全員の方に）

問 24. 介護保険のサービスと介護保険料について、あなた（宛名の方ご本人）のお考えに最も近いものは次のうちのどれですか。（○は1つ）

＜図Ⅲ－7－1＞

回答者数 266人

単位：%



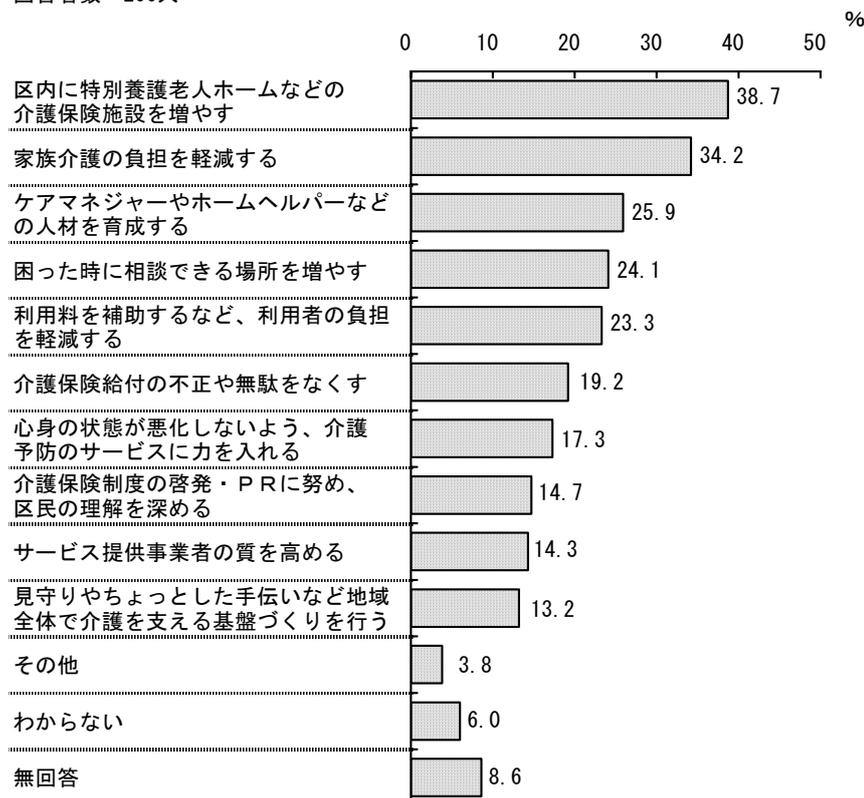
(11)介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと（＜介護サービス未利用者調査＞216 ページ）

（全員の方に）

問 30. 介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきことは次のうちのどれですか。（○は3つまで）

＜図Ⅲ－7－2＞

回答者数 266人

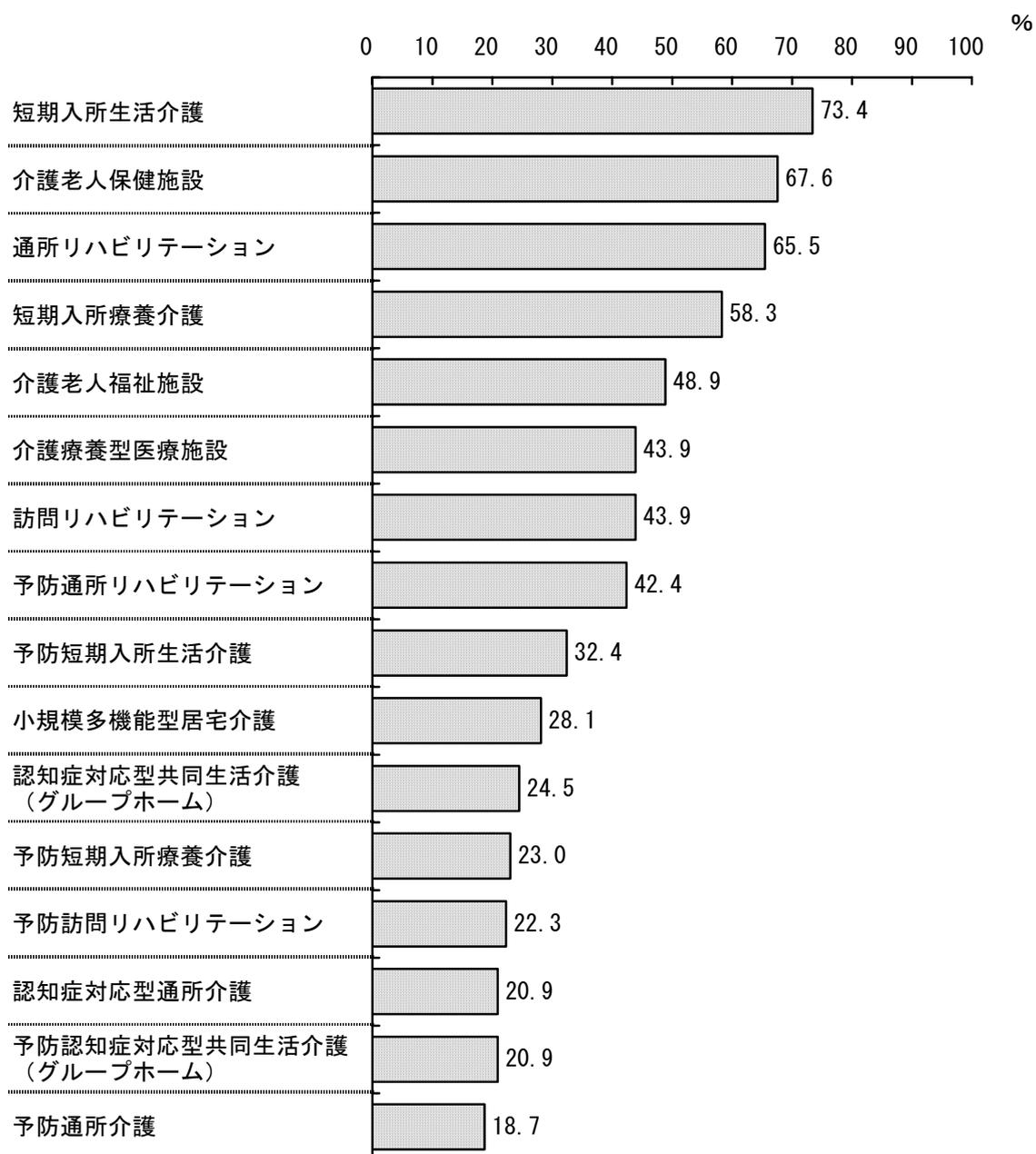


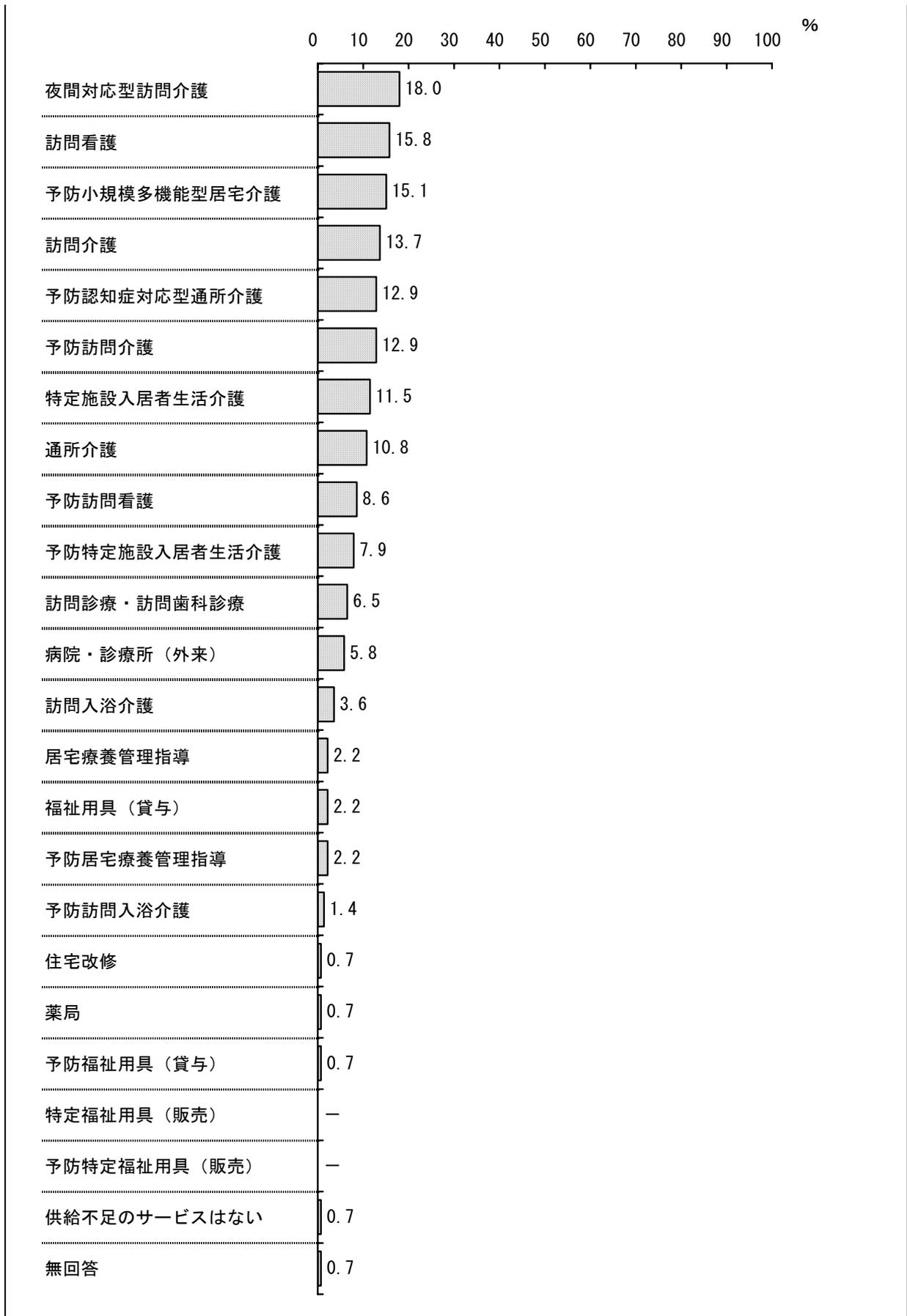
(全員の方に)

問 15. ケアプランを作成する際に、中野区内でサービス供給が不足しているため、利用者に提供できない(しにくい)サービスは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

〈図Ⅳ-2-3〉

回答者数 139人





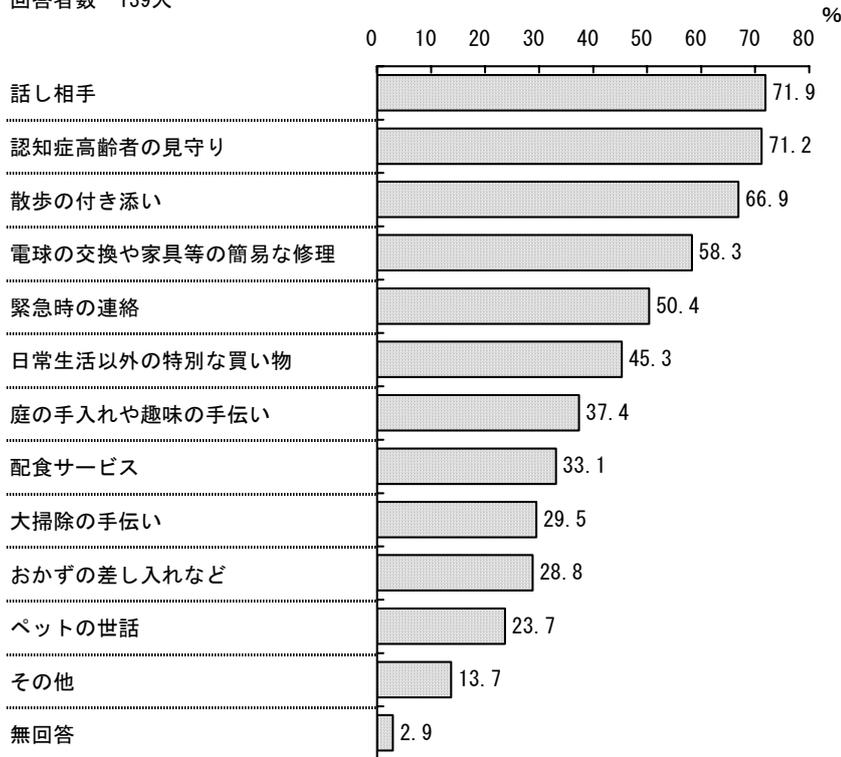
(13)近隣や地域の人々に望む支援や手助け（〈ケアマネジャー調査〉252 ページ）

（全員の方に）

問 18. 要介護者等が住み慣れた自宅や地域で暮らし続けるため、近隣や地域の人々からどのような支援や手助けがあったらよいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

〈図Ⅳ－２－５〉

回答者数 139人



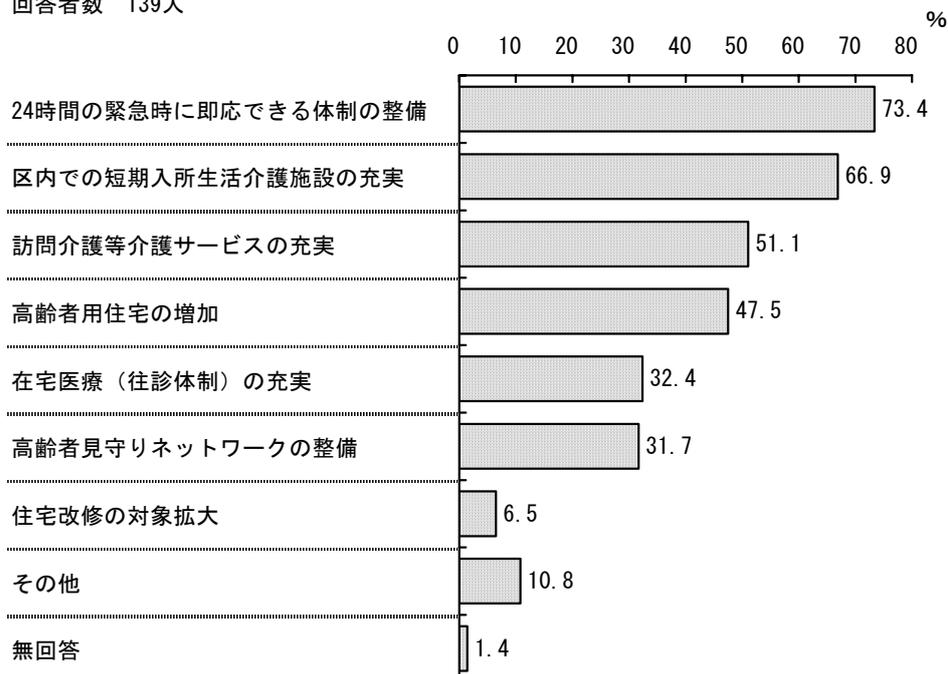
(14)要介護者等が居宅や地域での生活を続けるために充実すべき点（〈ケアマネジャー調査〉273 ページ）

（全員の方に）

問 33. 要介護者等の居宅の状況などから施設入所を希望せざるを得ないケースが多いと言われていますが、どのような点が充実すれば居宅や地域での生活を続けることができると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

〈図Ⅳ－７－１〉

回答者数 139人



平成20(2008)年度
保健福祉に関する意識調査
報 告 書

平成20(2008)年8月

中 野 区

は じ め に

区は、区民の皆様に、より質の高いサービスを提供するという視点から、「目標と成果による区政運営」を進め、平成 17（2005）年 3 月に新たに制定した基本構想で描くまちの実現を目指しています。

今回の調査はその一環として毎年実施しているものであり、区民の方々に保健福祉に関する関心やご意見をお聞きするとともに、区の取り組みが区民の意向に沿ったものになっているか、また、区民の求める水準にどの程度達しているかなどを把握することを目的としています。

この調査は、事業や施策の目標の達成度を測るために用いる設問項目と、特定の重点テーマに対応した設問項目の 2 種類で構成しています。区では現在、「健康づくり行動プラン」に基づく区民活動の推進、健診・保健 指導の円滑な実施、健康危機から守られる地域社会を目指した取り組みなどを行っており、今年度は重点テーマに、「医療・健康面」を設定いたしました。

今回の調査結果につきましては、今後保健福祉に関する区の事業や施策の見直し・改善に反映させるなど、活用を図っていきたいと考えております。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた区民のみなさまに対しまして、ここに厚くお礼申し上げます。

平成 20（2008）年 8 月

中野区保健福祉部

目 次

調査の概要

1	調査の目的	3
2	調査の設計	3
3	回答者の年齢別構成と母集団との比較	3
4	調査項目	3
5	集計・分析	3
6	報告書の見方	4

調査回答者の属性

1	性別	7
2	年齢	7
3	職業	7
4	世帯構成	8
5	住居形態	8
6	居住年数	8
7	居住地域	9

調査結果の分析

1	医療・健康面について	13
(1)	現在の健康状態	13
(2)	健康増進のための運動習慣	16
(3)	継続的に運動を続けるために必要なこと	18
(4)	健康診断の受診頻度	20
(5)	健康診断の受診場所	23
(6)	健康診断結果の活用	25
(7)	かぜやインフルエンザについて気をつけていること	26
(8)	新型インフルエンザについて考えたり、心がけていること	28
(9)	生活習慣病予防のために、実行していること	30
(10)	かかりつけの診療所の有無	33
(11)	栄養成分表示の参考	35
(12)	自分の歯の本数を認識している度合い	36
(13)	歯の健康について気をつけていること	38
(14)	喫煙による影響がある疾病の認識の度合い	40
(15)	喫煙の有無と喫煙本数	42
(16)	イライラやストレスの有無	44

(17) イライラやストレスへの対処	46
(18) 不眠時のアルコール飲料や薬の使用	49
(19) うつ病に関して相談することへの抵抗感	51
(20) 大量飲酒の有無	53
(21) 適度な飲酒量を認識している度合い	55
(22) 国民健康保険制度のしくみを認識している度合い	57
2 地域活動について	59
(1) 地域の活動への参加	59
(2) 地域の支えあい活動のエリア	62
(3) 近所づきあいの程度	64
(4) 地域住民間の見守りや支えあいの必要性についての実感	67
(5) 地域住民間の見守りや支えあいの活動	70
(6) 民生委員の活動の認識の度合い	73
(7) 募金や寄付、会費納入の有無	75
3 介護保険関係について	77
(1) 介護保険制度のしくみを認識している度合い	77
(2) 介護保険制度全体の評価	79
(3) 認知症へ病名が変わったことを認識している度合い	81
(4) 地域包括支援センターを認識している度合い	82
4 福祉のまちづくりについて	84
(1) 障害のある人と接する機会	84
(2) 「ユニバーサルデザイン」という言葉を認識している度合い	86
5 保健福祉の相談窓口について	87
(1) 身近に感じる機関	87
(2) 「成年後見制度」という言葉を認識している度合い	89
(3) 中野区の保健福祉施策についての満足度	91
(4) 保健福祉行政全体への意見・要望(自由回答)	93

調査票と単純集計

2008年度保健福祉に関する意識調査調査票	101
------------------------------	------------

調査の概要

1 調査の目的

保健福祉に係る区民の関心や要望内容及び保健福祉施策や事業に対する満足度、事業の成果等を把握するため、20歳以上の区民を対象としたアンケート調査を実施した。

2 調査の設計

- ・調査対象：満20歳以上の区民（基準日：平成20年4月1日現在265,262人）
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・有効回収数：1,168人（回収率：38.9%）
- ・調査方法：郵送法（郵送配布 - 郵送回収）
- ・調査期間：平成20（2008）年4月18日～5月8日

3 回答者の年齢別構成と母集団との比較

今回の調査回答者と母集団（調査対象者全体）の年齢構成は次の通りである。

単位：%

区分	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上	無回答
調査回答者	10.4	16.2	14.0	15.2	18.2	15.8	7.7	1.9	0.7
母集団	20.4	22.1	15.3	13.4	12.5	10.1	5.1	1.1	

4 調査項目

- （1）調査回答者の属性
- （2）医療・健康面について
- （3）地域活動について
- （4）介護保険関係について
- （5）福祉のまちづくりについて
- （6）保健福祉の相談窓口について

5 集計・分析

集計は、単純集計、属性とのクロス集計、設問間のクロス集計の3分類について行なった。

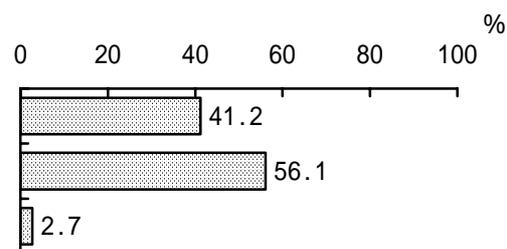
6 報告書の見方

- ・回答の比率（構成比）は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、回答比率を合計しても100%ちょうどにならない場合がある。
- ・回答者数が10人未満のものは標本誤差が大きいため、グラフに掲載してもコメントはしていない。
- ・数表やグラフの回答選択肢の表記は、一部省略しているところがある。
- ・一部グラフは掲載せずに、説明のみを記載しているところがある。

調査回答者の属性

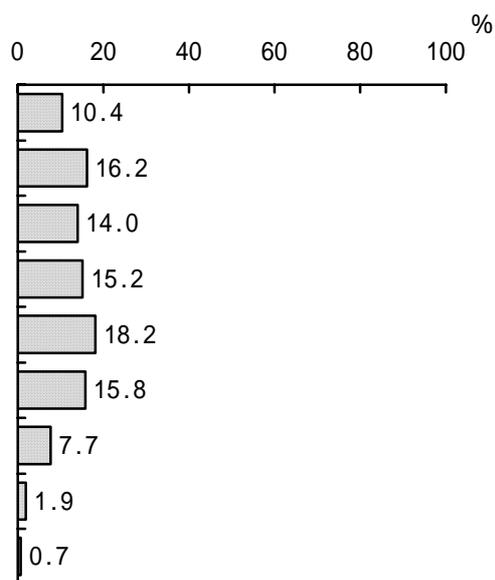
1 性別

区分	回答者数	構成比 (%)
男性	481	41.2
女性	655	56.1
無回答	32	2.7
全体	1,168	100.0



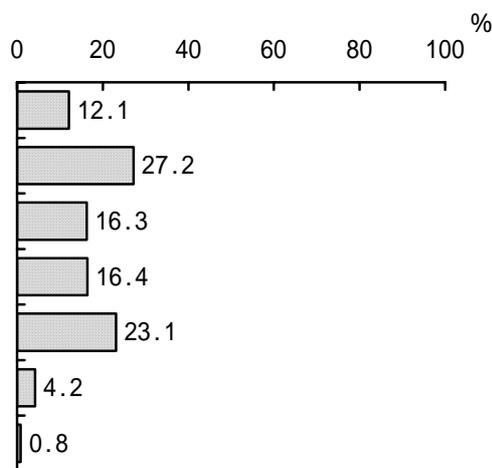
2 年齢

区分	回答者数	構成比 (%)
20歳代	121	10.4
30歳代	189	16.2
40歳代	163	14.0
50歳代	178	15.2
60歳代	213	18.2
70歳代	184	15.8
80歳代	90	7.7
90歳以上	22	1.9
無回答	8	0.7
全体	1,168	100.0



3 職業

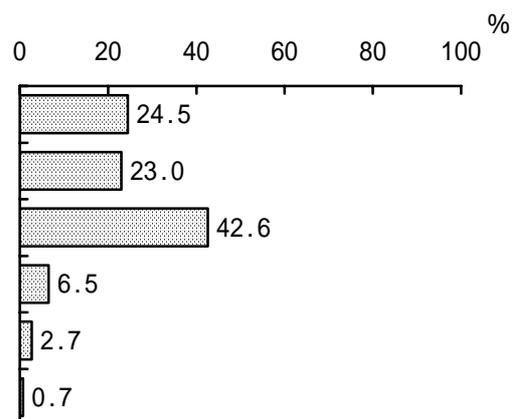
区分	回答者数	構成比 (%)
自営業、家族従業員	141	12.1
常勤の会社員、公務員、 団体職員	318	27.2
契約社員・パート・ アルバイト・非常勤職員	190	16.3
家事専業	191	16.4
無職	270	23.1
その他	49	4.2
無回答	9	0.8
全体	1,168	100.0



注：職業については、「内職」及び「学生」の回答者数がそれぞれ7人、18人と少ないため、これらを含め「その他」(49人)としてまとめ、集計した。

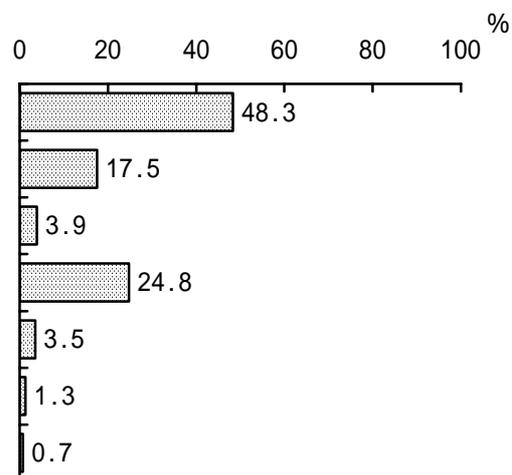
4 世帯構成

区分	回答者数	構成比 (%)
1人世帯	286	24.5
夫婦のみ世帯	269	23.0
2世代世帯(親と子)	498	42.6
3世代世帯(親と子と孫)	76	6.5
その他の世帯	31	2.7
無回答	8	0.7
全体	1,168	100.0



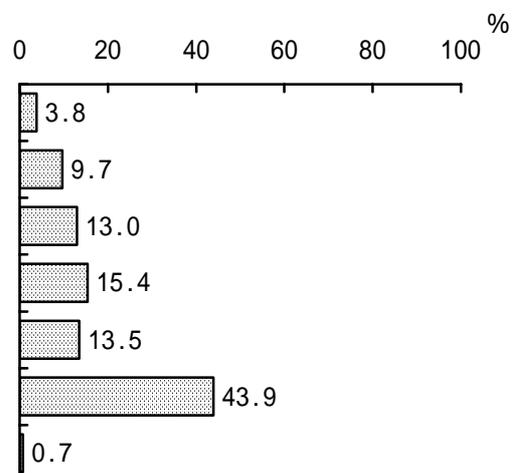
5 住居形態

区分	回答者数	構成比 (%)
持ち家(一戸建て)	564	48.3
持ち家(マンションなどの集合住宅)	204	17.5
公営住宅(都営、区営住宅など)	46	3.9
民間賃貸住宅(アパート・マンションなど)	290	24.8
社宅、社員寮、公務員住宅	41	3.5
その他	15	1.3
無回答	8	0.7
全体	1,168	100.0



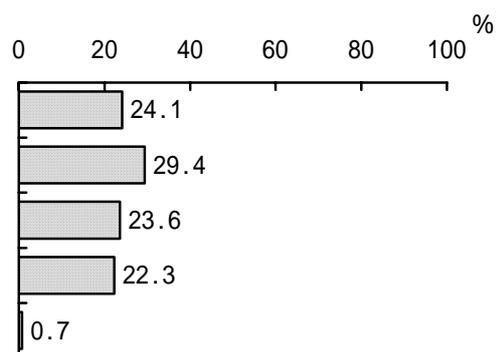
6 居住年数

区分	回答者数	構成比 (%)
1年未満	44	3.8
1～4年	113	9.7
5～9年	152	13.0
10～19年	180	15.4
20～29年	158	13.5
30年以上	513	43.9
無回答	8	0.7
全体	1,168	100.0



7 居住地域

区分	回答者数	構成比 (%)
本町、弥生町、南台	281	24.1
上高田、中野、東中野、中央	343	29.4
江原町、江古田、野方、丸山、沼袋、松が丘、新井	276	23.6
上鷺宮、鷺宮、白鷺、若宮、大和町	260	22.3
無回答	8	0.7
全体	1,168	100.0



調査結果の分析

1 . 医療・健康面について

(1) 現在の健康状態

健康であると答えた人は 8 割

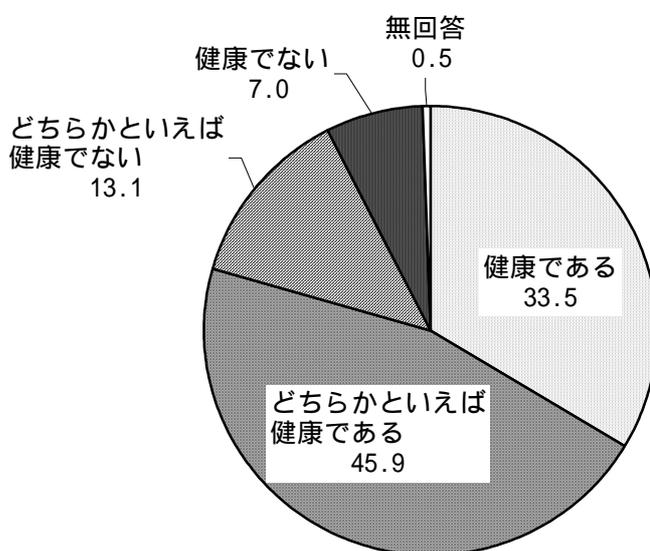
(全員の方に)

問 1 . あなたは、現在の自分の健康状態をどのように感じていますか。(1 は 1 つ)

図 1 - 1 全体

回答者数 1,168人

単位 : %



現在の自分の健康状態を「健康である」と答えた人は 33.5%、「どちらかといえば健康である」と答えた人は 45.9%となっており、この両者を合わせた“おおむね健康”が 8 割を占めている。一方、「どちらかといえば健康でない」と答えた人は 13.1%、「健康でない」と答えた人は 7.0%となっている。(図 1 - 1)

性別では、大きな差は見られない。(図 1 - 2)

年齢別では、年齢が若いほど「健康である」が高くなる傾向が見られ、20～30 歳代は 50%以上、40 歳代は 40%弱、50～60 歳代は 30%弱、70 歳代以上は 10%台となっている。一方、「どちらかといえば健康でない」と「健康でない」を合わせた“あまり健康でない”は 70 歳代で 30%、80 歳以上で 40%となっている。(図 1 - 3)

職業別では、自営業、家族従業員、常勤の会社員、公務員、団体職員、契約社員・パート・アルバイト・非常勤職員、家事専業は80%以上が“おおむね健康”としており、常勤の会社員、公務員、団体職員では86.8%と特に高い。一方、無職は“あまり健康でない”が37.0%と高くなっている。(図1-4)

運動習慣別では、継続的に運動している人は“おおむね健康”が9割と高くなっている。(図1-5・16ページ問2参照)

生活習慣病予防の方法別では、“おおむね健康”が全体的に80%前後と高くなっており、栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけるでは81.8%、気分転換・ストレス解消に努めているでは82.8%となっている。(30ページ問9参照)

図1-2 性別

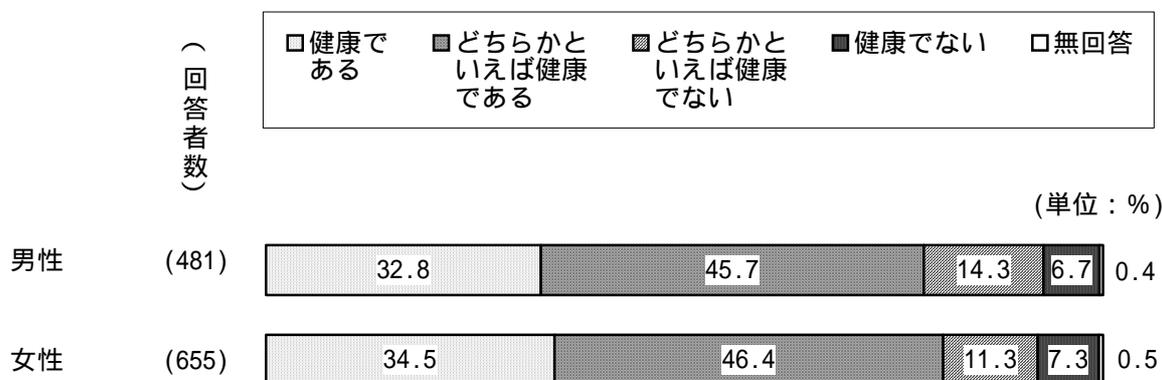


図1-3 年齢別

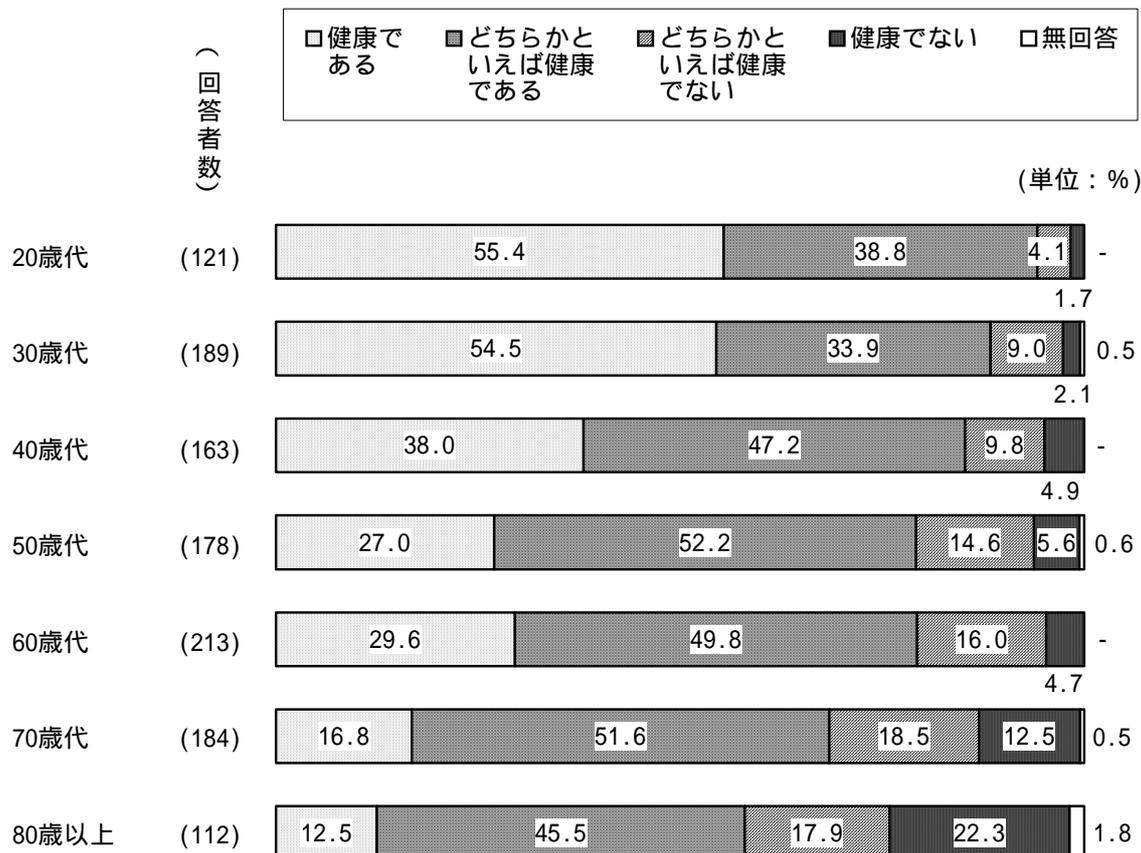


図 1 - 4 職業別

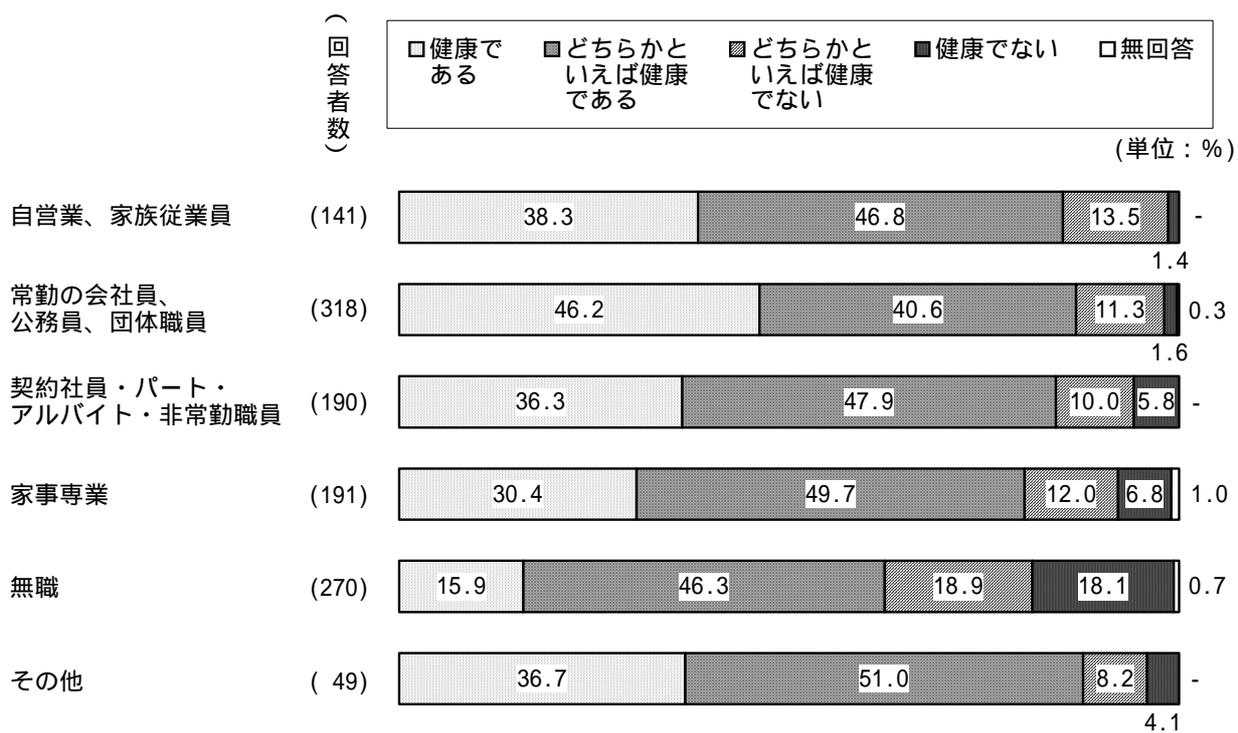
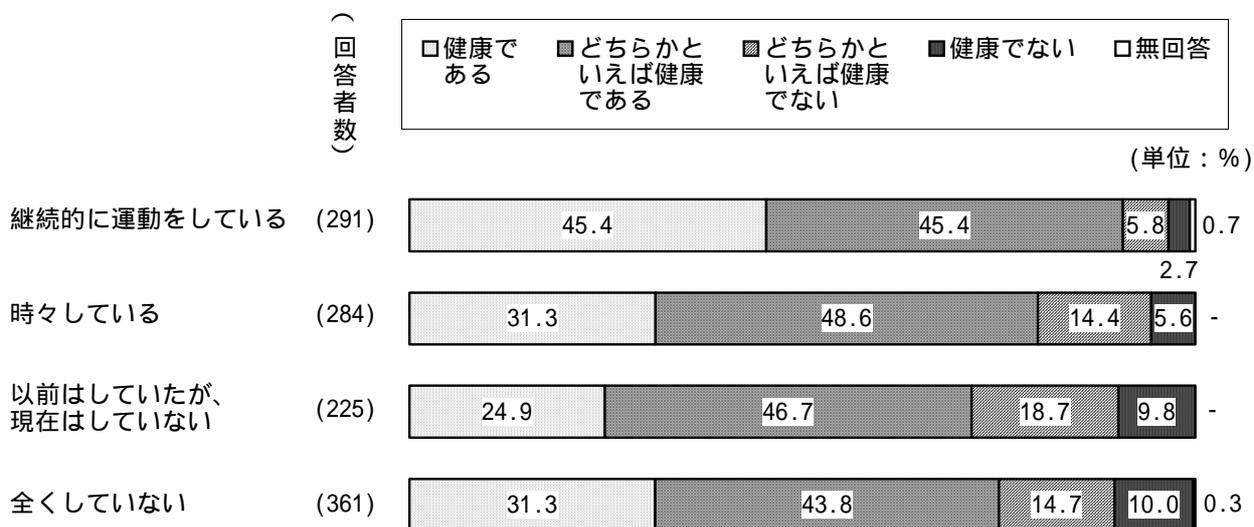


図 1 - 5 現在の健康状態と運動習慣の関係



(2) 健康増進のための運動習慣

継続的に運動をしているのは4人に1人

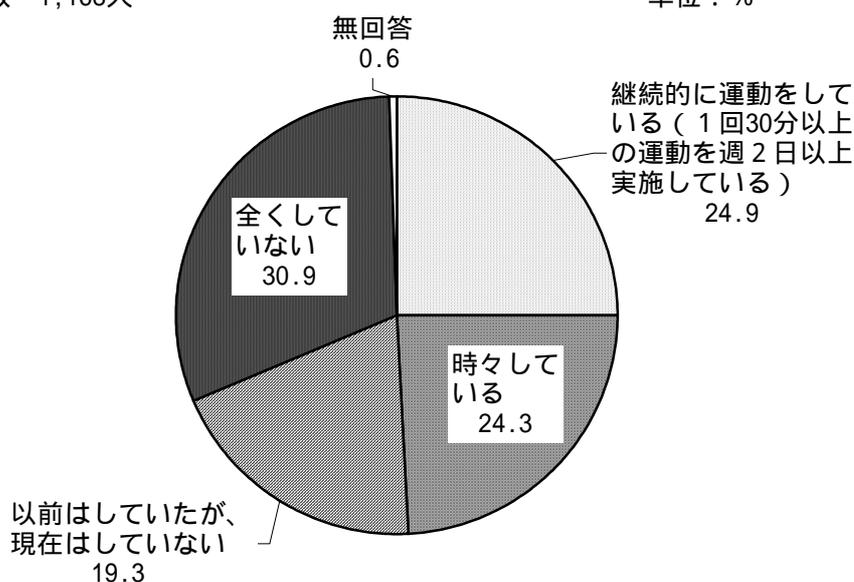
(全員の方に)

問2 . 健康増進のためには、持続的な運動を週1～2回以上行うことが効果的といわれていますが、あなたはこのような運動を行っていますか。(1 は1つ)

図1 - 6 全体

回答者数 1,168人

単位 : %



健康増進のために、持続的な運動を行っているかたずねたところ、「継続的に運動をしている (1回 30分以上の運動を週2日以上実施している) 」と答えた人は24.9%、「時々している」と答えた人は24.3%となっており、この両者を合わせると5割の人が運動を行なっている状況である。また、「以前はしていたが、現在はしていない」と答えた人は19.3%、「全くしていない」と答えた人は30.9%となっている。(図1 - 6)

性別では、「継続的に運動している (1回 30分以上の運動を週2日以上実施している) 」、「時々している」ともに、男性の方が高くなっており、この両者を合わせた“運動している”は、男性 (56.3%) の方が女性 (44.1%) より12ポイント高くなっている。(図1 - 7)

年齢別に見ると、80歳以上を除いて“運動している”人は年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、60～70歳代では60%前後となっている。一方、20歳代では「以前はしていたが、現在はしていない」と答えた人が28.9%、30歳代では「全くしていない」と答えた人が38.1%と高い。(図1 - 8)

図1 - 7 性別

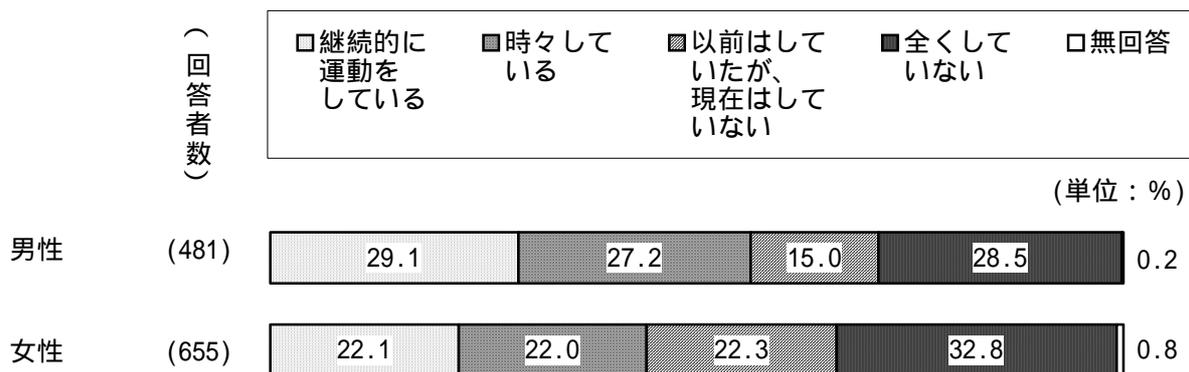
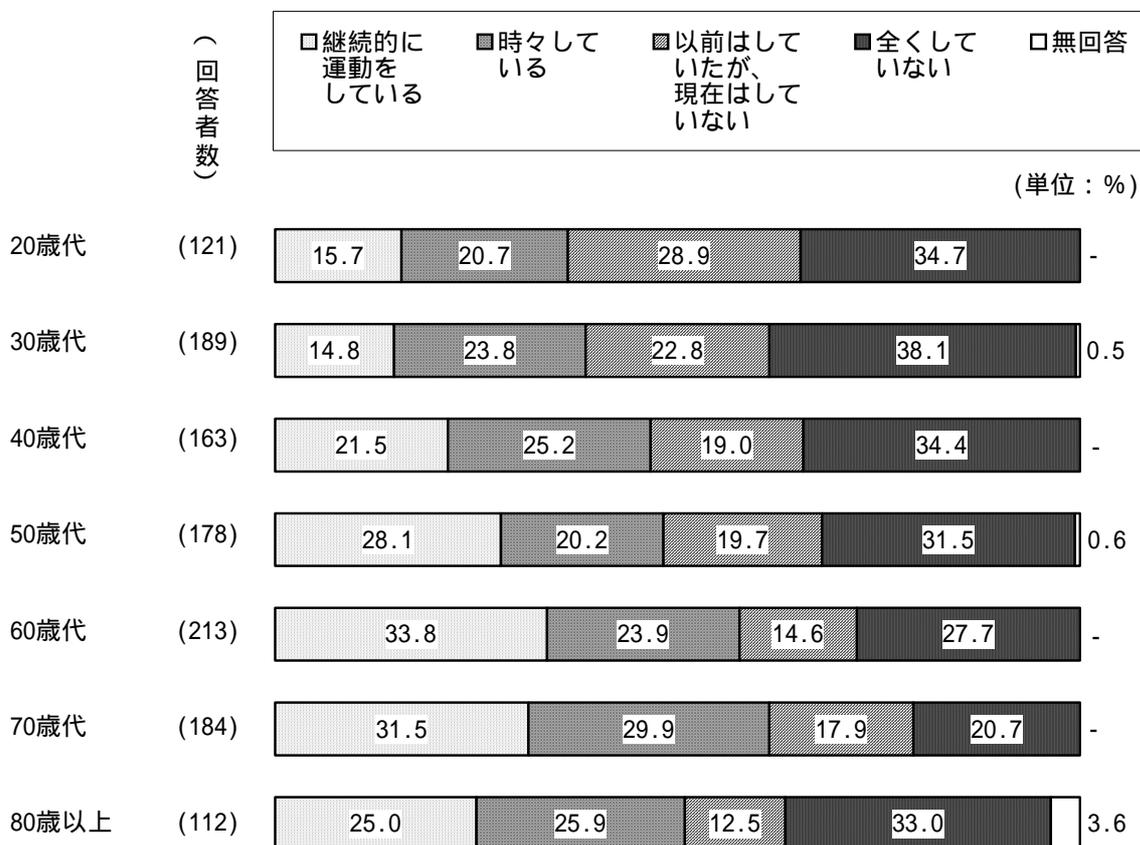


図1 - 8 年齢別



(3) 継続的に運動を続けるために必要なこと

「地域の環境整備」「軽費で手軽に取り組める施設」「時間的な余裕」が主

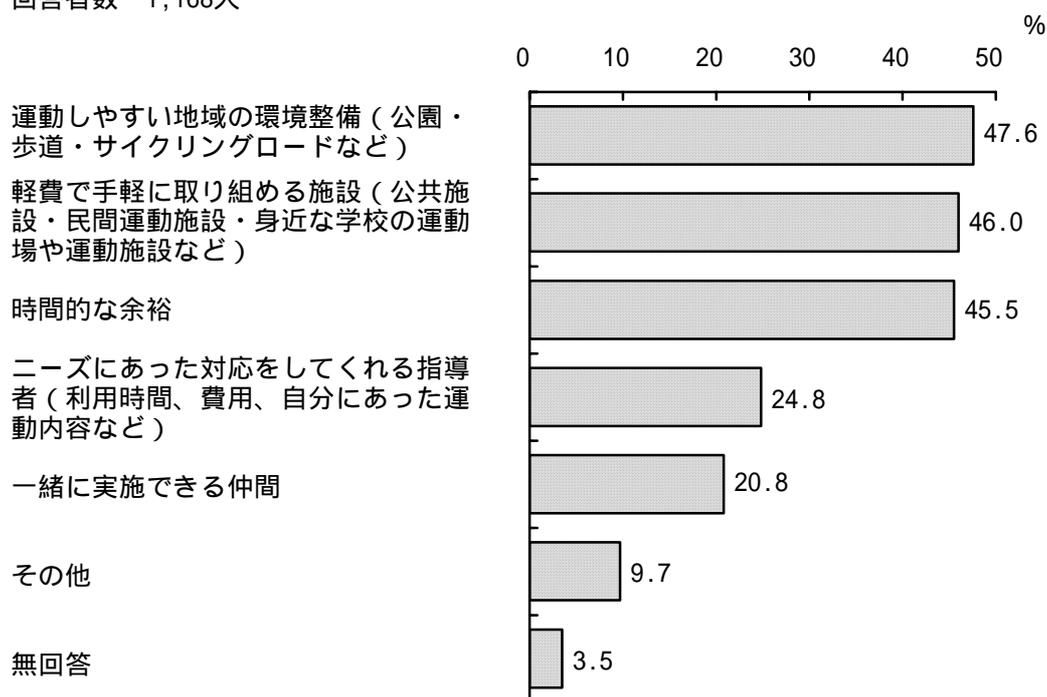
(全員の方に)

問3. あなたは、継続的に運動を続けるためには、何が必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに)

図1-9 全体

回答者数 1,168人



継続的に運動を続けるために必要なこととしては、「運動しやすい地域の環境整備 (公園・歩道・サイクリングロードなど) 」(47.6%) が最も多く、次いで、「軽費で手軽に取り組める施設 (公共施設・民間運動施設・身近な学校の運動場や運動施設など) 」(46.0%)、「時間的な余裕」(45.5%) が主なものとしてあげられる。以下、「ニーズにあった対応をしてくれる指導者 (利用時間、費用、自分にあった運動内容など) 」(24.8%)、「一緒に実施できる仲間」(20.8%) となっている。(図1-9)

性別では、「運動しやすい地域の環境整備」は男性 53.4%、女性 43.5%と、男性が10ポイント高くなっている。一方、「軽費で手軽に取り組める施設 (公共施設・民間運動施設・身近な学校の運動場や運動施設など) 」(女性 50.1%、男性 41.6%)、「ニーズにあった対応をしてくれる指導者 (利用時間、費用、自分にあった運動内容など) 」(女性 32.2%、男性 15.6%)、「一緒に実施できる仲間」(女性 23.5%、男性 17.7%) では女性の方が高くなっている。(図1-10)

年齢別では、「運動しやすい地域の環境整備」では20歳代で57.0%、「軽費で手軽に取り組める施設（公共施設・民間運動施設・身近な学校の運動場や運動施設など）」では20～40歳代で60%前後、「時間的な余裕」では20～40歳代で60%以上と高くなっている。（図1-11）

図1-10 性別

(単位：%)

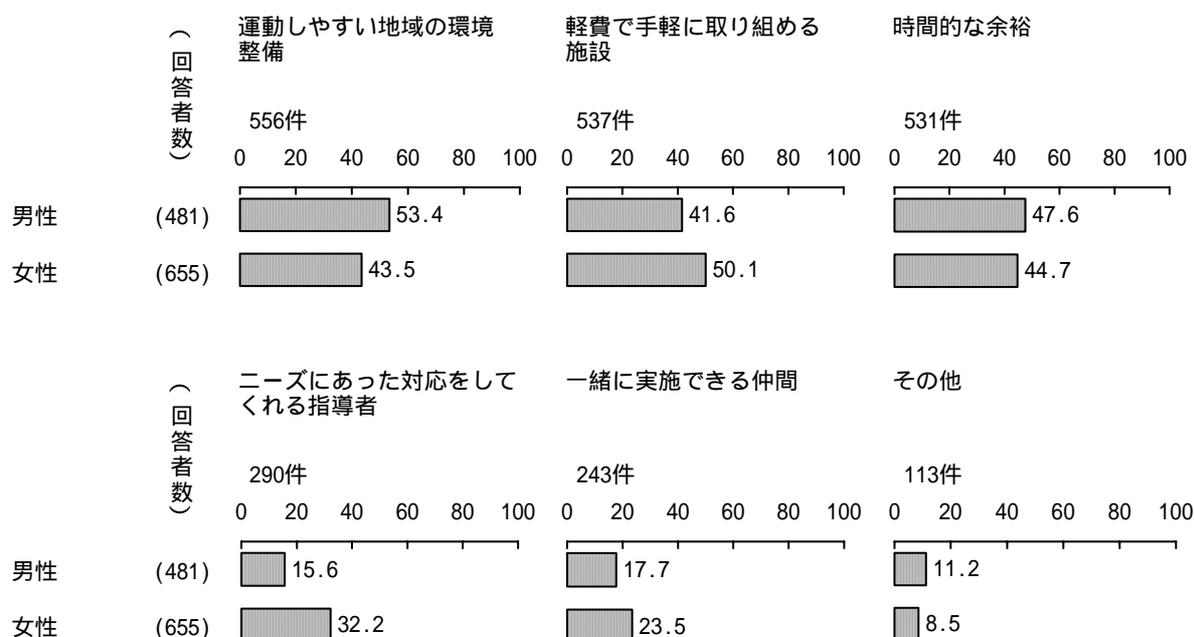
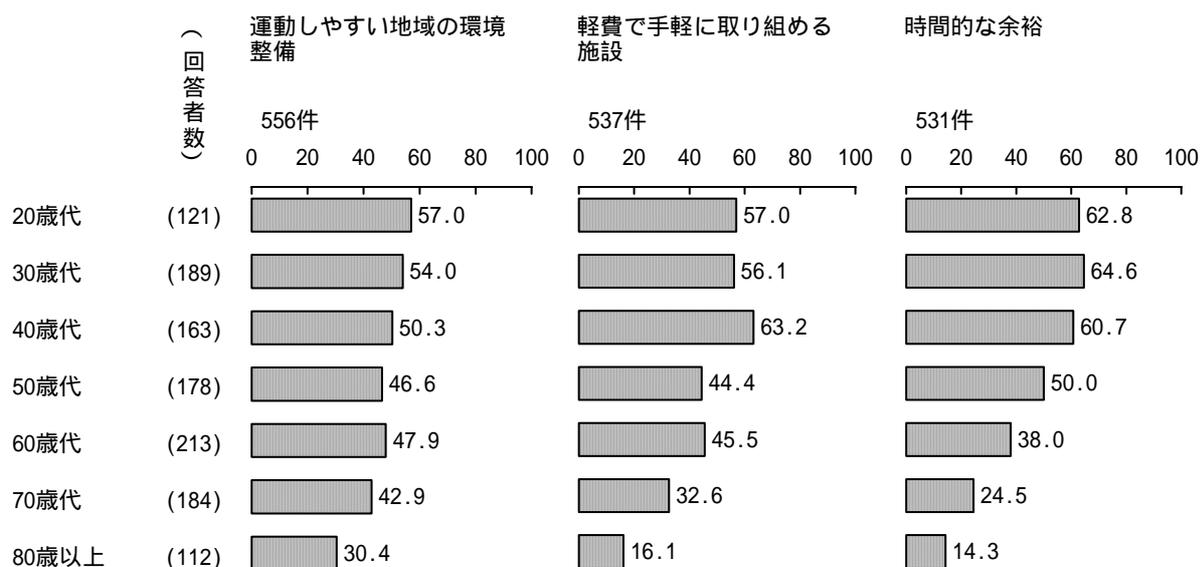


図1-11 年齢別（上位3項目）

(単位：%)



(4) 健康診断の受診頻度

毎年1回以上受診が7割強

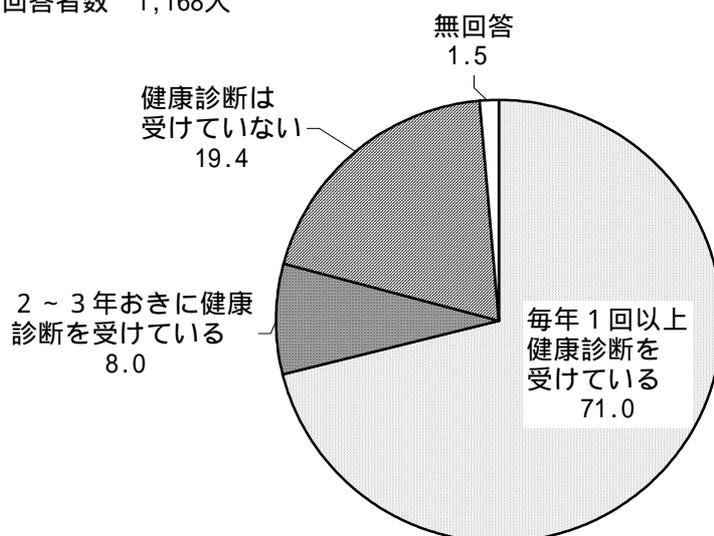
(全員の方に)

問4. あなたは、定期的に健康診断を受けていますか。(は1つ)

図1-12 全体

回答者数 1,168人

単位：%



健康診断の受診頻度については、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人が71.0%を占めている。「2～3年おきに健康診断を受けている」と答えた人は8.0%、「健康診断は受けていない」と答えた人は19.4%となっている。(図1-12)

性別では、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人は男性77.8%、女性65.8%と10ポイント以上の差となっている。一方、「健康診断は受けていない」と答えた人は女性23.1%、男性15.0%と、女性の割合が高くなっている。(図1-13)

年齢別では、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人は20～30歳代で60%台前半となっているのとは比べ、80歳以上では80%弱と高くなっている。また、「健康診断は受けていない」と答えた人は20～30歳代で高くなっており、特に30歳代では27.0%となっている。(図1-14)

職業別では、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人は常勤の会社員、公務員、団体職員で89.6%と非常に高くなっている。一方、「健康診断は受けていない」と答えた人は家事専業で29.8%、契約社員・パート・アルバイト・非常勤職員で25.8%と高くなっている。(図1-15)

かかりつけの診療所の有無別では、「毎年1回以上健康診断を受けている」と答えた人は、かかりつけの診療所を「決めている」で79.1%と高くなっている。一方、「健康診断は受けていない」と答えた人はかかりつけの診療所を「決めていない」で31.1%と高くなっている。(図1-16・33ページ問10参照)

図1-13 性別

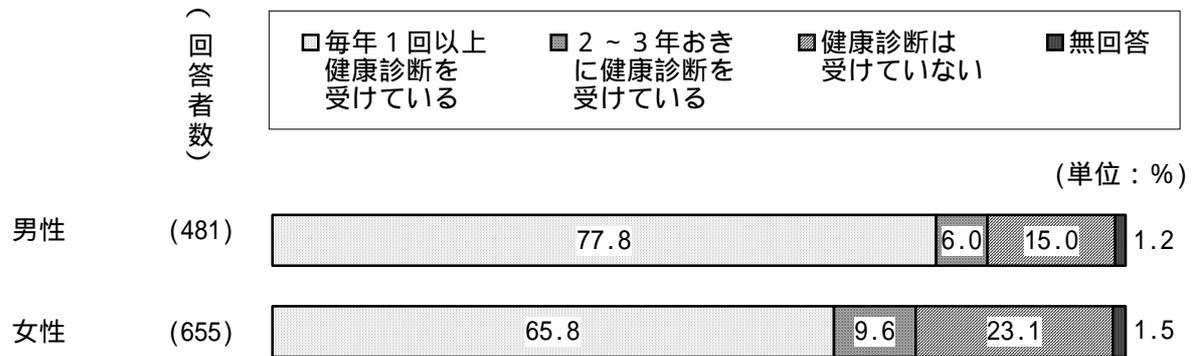


図1-14 年齢別

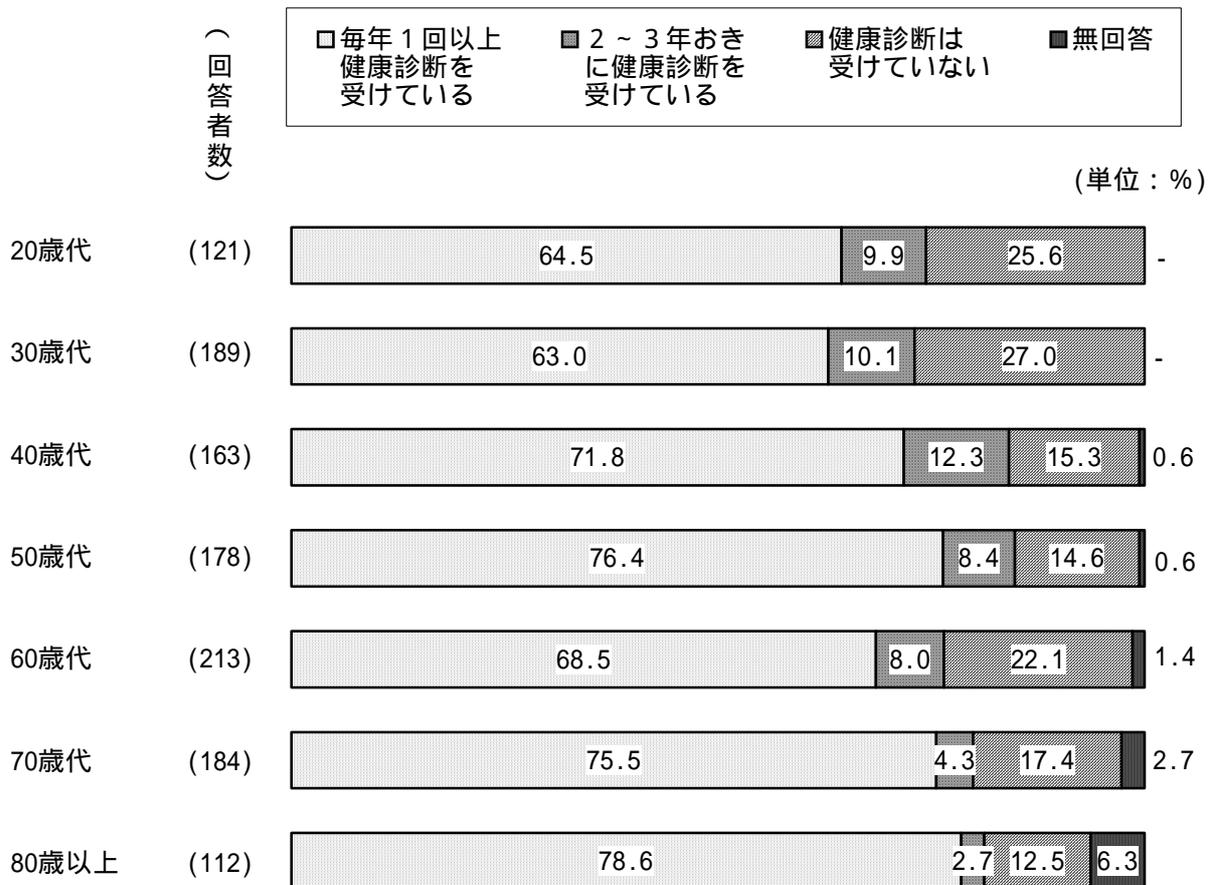


図 1 - 15 職業別

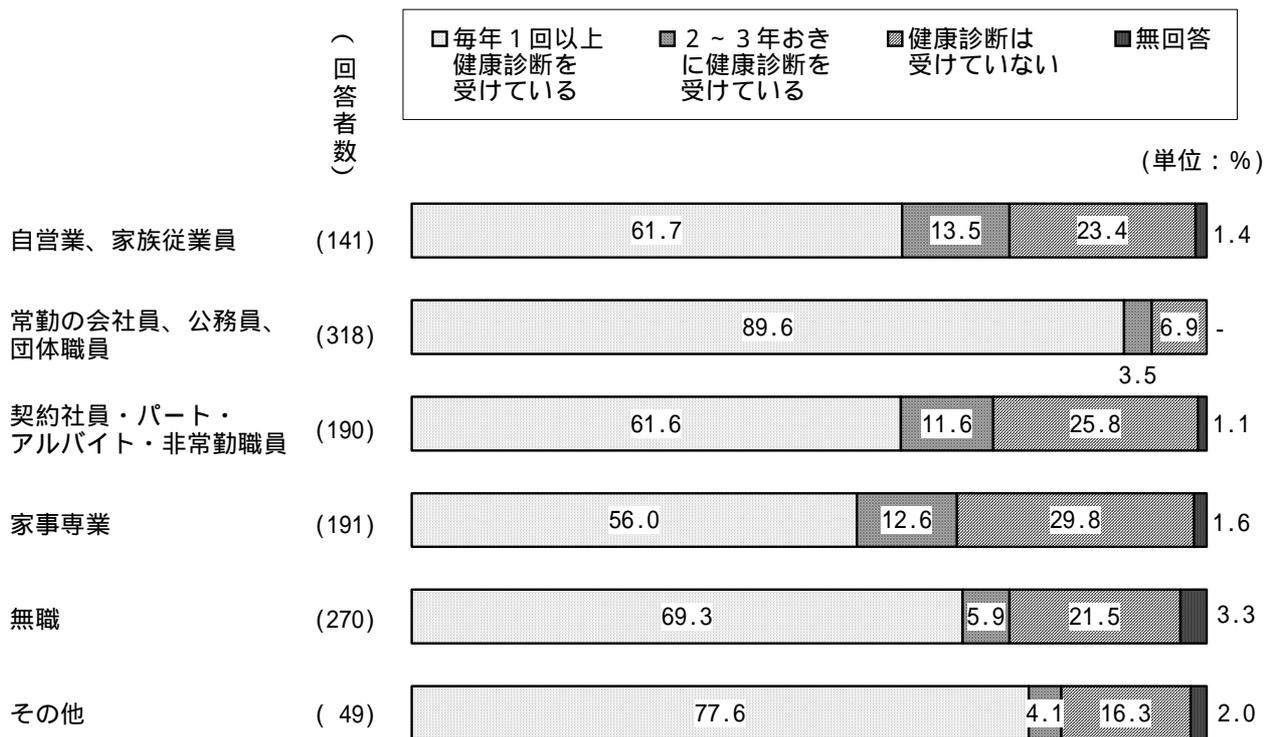
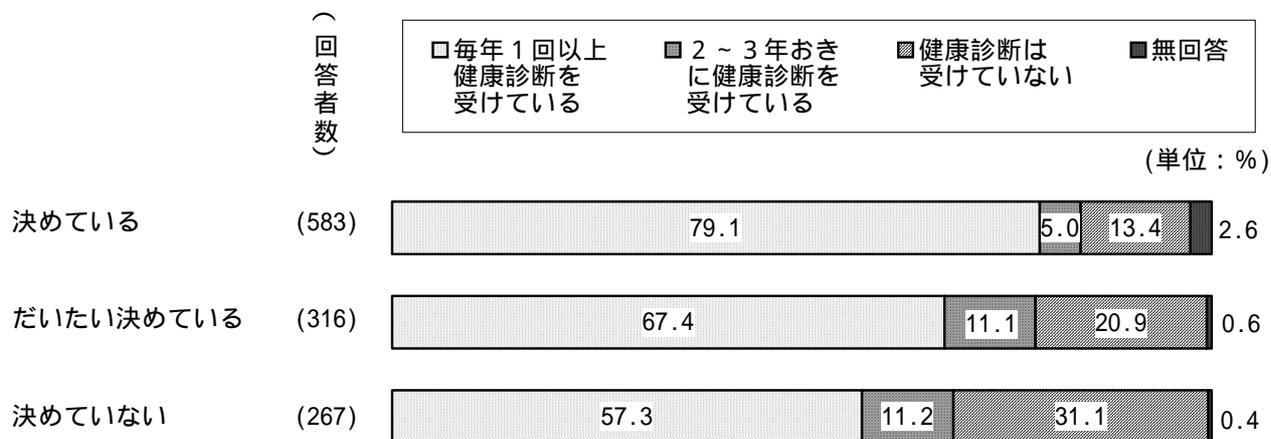


図 1 - 16 健康診断の受診頻度とかかりつけの診療所の有無の関係



(5) 健康診断の受診場所

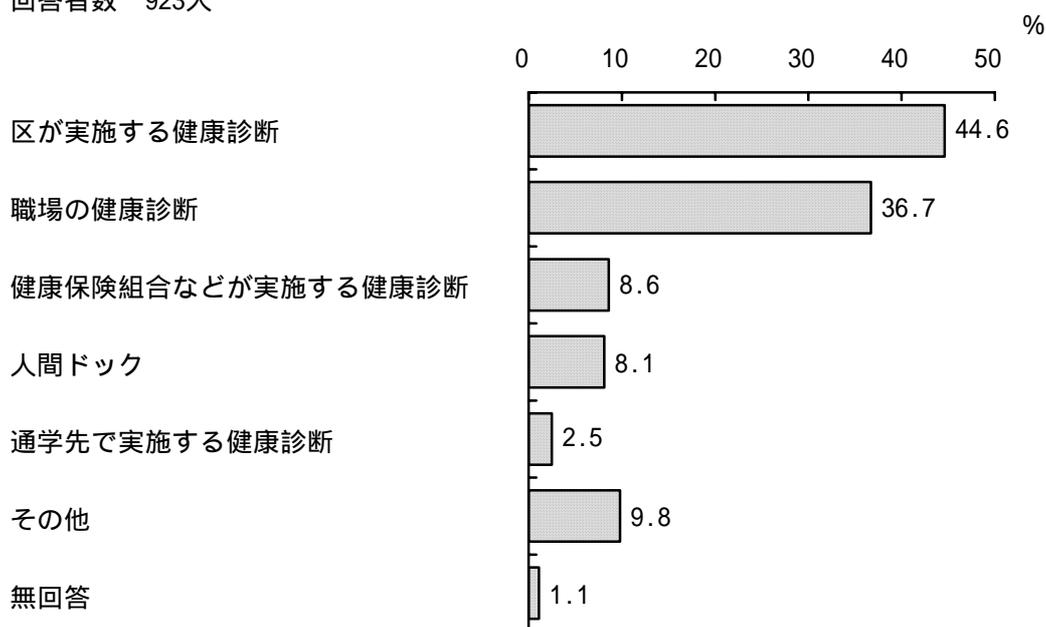
区が実施する健康診断が半数弱、職場の健康診断が4割弱

(問 4 で「 1 . 毎年 1 回以上健康診断を受けている」「 2 . 2 ~ 3 年おきに健康診断を受けている」と答えた方に)

問 5 . 健康診断をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに)

図 1 - 17 全体

回答者数 923人



健康診断を受けている人に、健康診断の受診場所をたずねたところ、「区が実施する健康診断」と答えた人が 44.6% で最も多く、次いで、「職場の健康診断」が 36.7% となっている。また、「健康保険組合などが実施する健康診断」(8.6%)、「人間ドック」(8.1%)、「通学先で実施する健康診断」(2.5%) は 1 割未満である。(図 1 - 17)

性別では、女性は「区が実施する健康診断」が 51.2%、男性は「職場の健康診断」が 42.4% で最も多い。(図 1 - 18)

年齢別では、「区が実施する健康診断」は 80 歳以上を除いて、年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、70 歳代以上では 70% 台となっている。一方、「職場の健康診断」は年齢が若いほど高くなる傾向が見られ、20 ~ 30 歳代で 70% 台となっている。(図 1 - 19)

職業別では、「区が実施する健康診断」は家事専業、自営業、家族従業員、無職で、それぞれ 70% 台と高い。一方、「職場の健康診断」は常勤の会社員、公務員、団体職員で 80.1% と高く、契約社員・パート・アルバイト・非常勤職員でも半数以上となっている。(図 1 - 20)

図1 - 18 性別（上位3項目）

（単位：％）

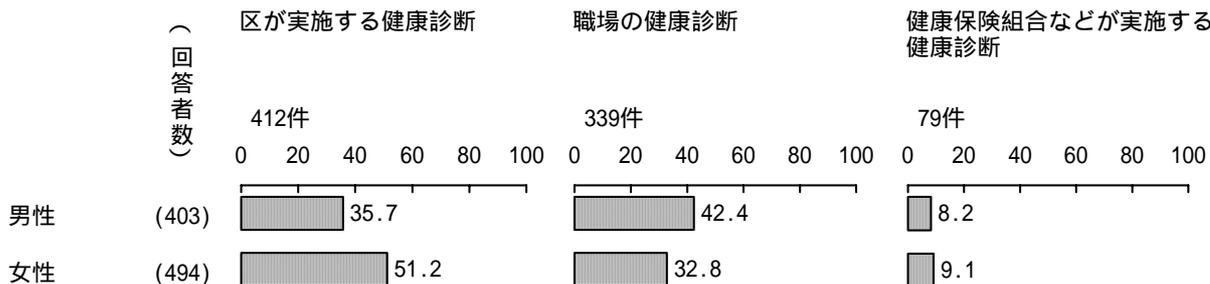


図1 - 19 年齢別（上位3項目）

（単位：％）

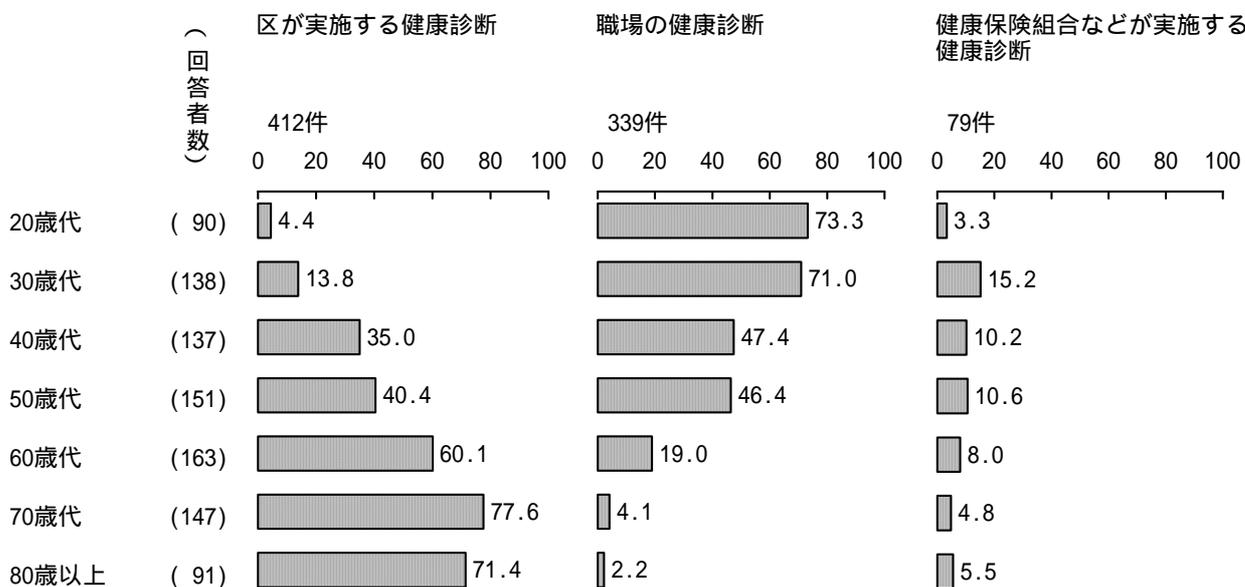
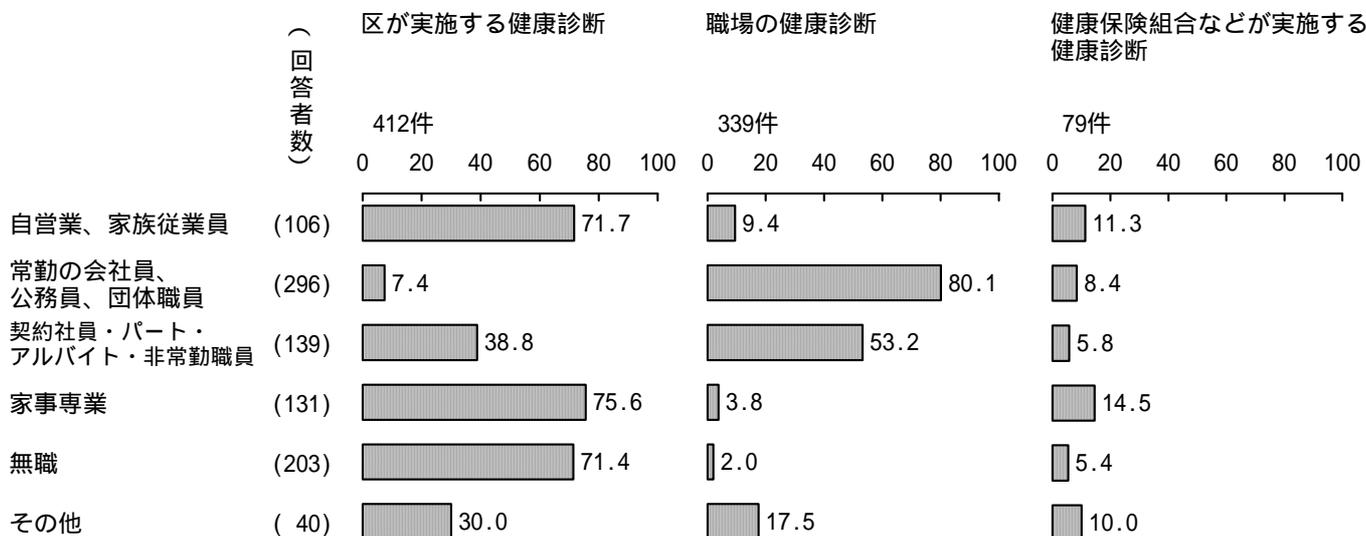


図1 - 20 職業別（上位3項目）

（単位：％）



(6) 健康診断結果の活用

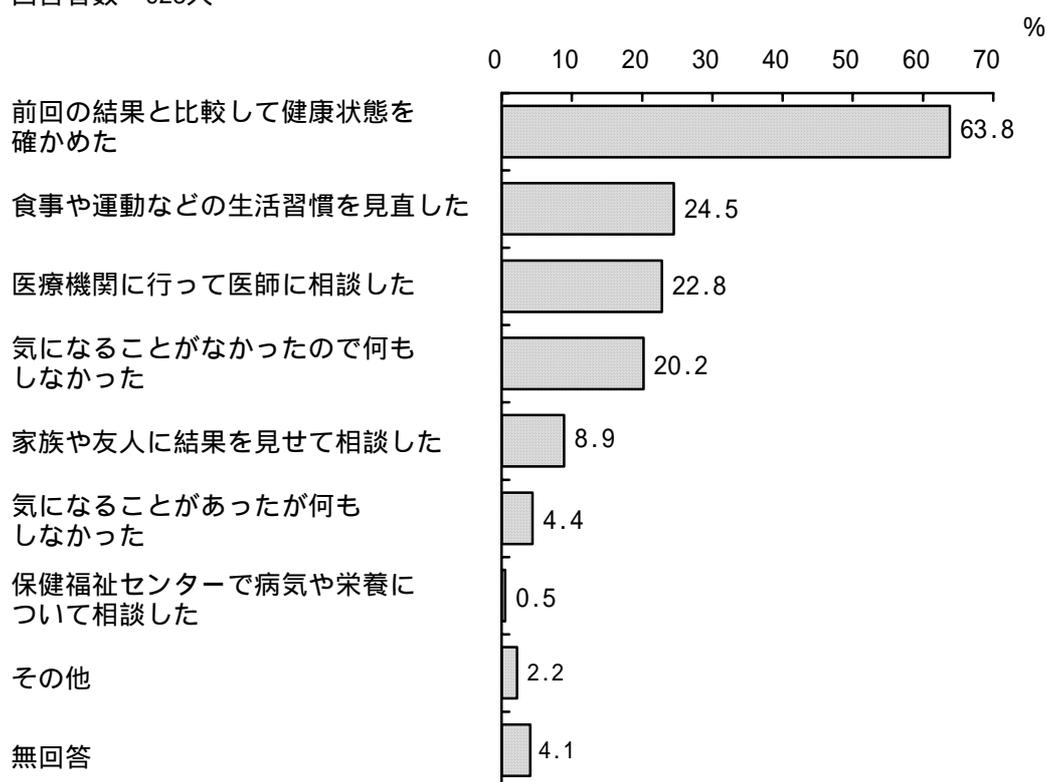
前回結果と比較した人が6割強

(問4で「1. 毎年1回以上健康診断を受けている」「2. 2～3年おきに健康診断を受けている」と答えた方に)

問6. 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに)

図1 - 21 全体

回答者数 923人



健康診断を受けている人に、健康診断の結果の活用についてたずねたところ、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」(63.8%)と答えた人が最も多くなっている。以下、「食事や運動などの生活習慣を見直した」(24.5%)、「医療機関に行って医師に相談した」(22.8%)、「気になることがなかったので何もしなかった」(20.2%)、「家族や友人に結果を見せて相談した」(8.9%)、「気になることがあったが何もしなかった」(4.4%)、「保健福祉センターで病気や栄養について相談した」(0.5%)の順になっている。(図1 - 21)

(7) かぜやインフルエンザについて気をつけていること

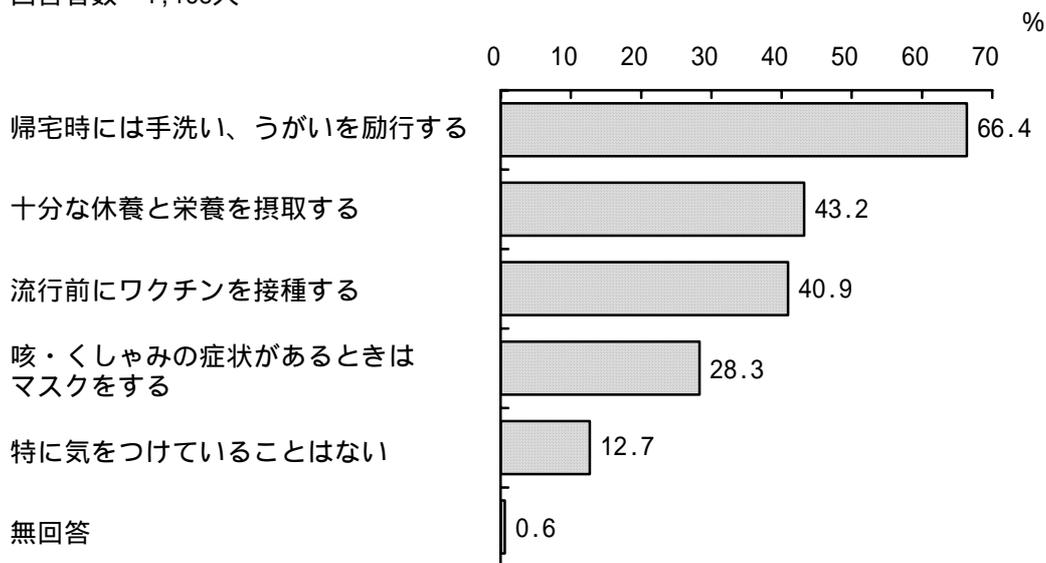
帰宅時の手洗い、うがいをする人が7割弱

(全員の方に)

問7. 冬季に流行するかぜやインフルエンザについてどのようなことに気をつけていますか。
(あてはまるものすべてに)

図1 - 22 全体

回答者数 1,168人



冬季に流行するかぜやインフルエンザについて気をつけていることとしては、「帰宅時には手洗い、うがいを励行する」(66.4%)が最も多く、以下、「十分な休養と栄養を摂取する」(43.2%)、「流行前にワクチンを接種する」(40.9%)、「咳・くしゃみの症状があるときはマスクをする」(28.3%)の順になっている。一方、「特に気をつけていることはない」と答えた人は12.7%となっている。(図1 - 22)

性別では、男性、女性ともに、「帰宅時には手洗い、うがいを励行する」と答えた人が最も高くなっているが、15.4ポイント差で女性の方が高い。また、全体的に女性の方が注意を払っている割合が高くなっている。一方、「特に気をつけていることはない」と答えた人は男性(18.3%)が女性(8.5%)を約10ポイント上回っている。(図1 - 23)

年齢別では、「帰宅時には手洗い、うがいを励行する」と答えた人は80歳以上を除いて60%以上となっている。また、「十分な休養と栄養を摂取する」と答えた人は40歳代、60~70歳代で約半数となっている。「流行前にワクチンを接種する」と答えた人は70歳代以上で、それぞれ60%前後となっている。一方、20歳代では22.3%と低くなっている。(図1 - 24)

図 1 - 23 性別

(単位：%)

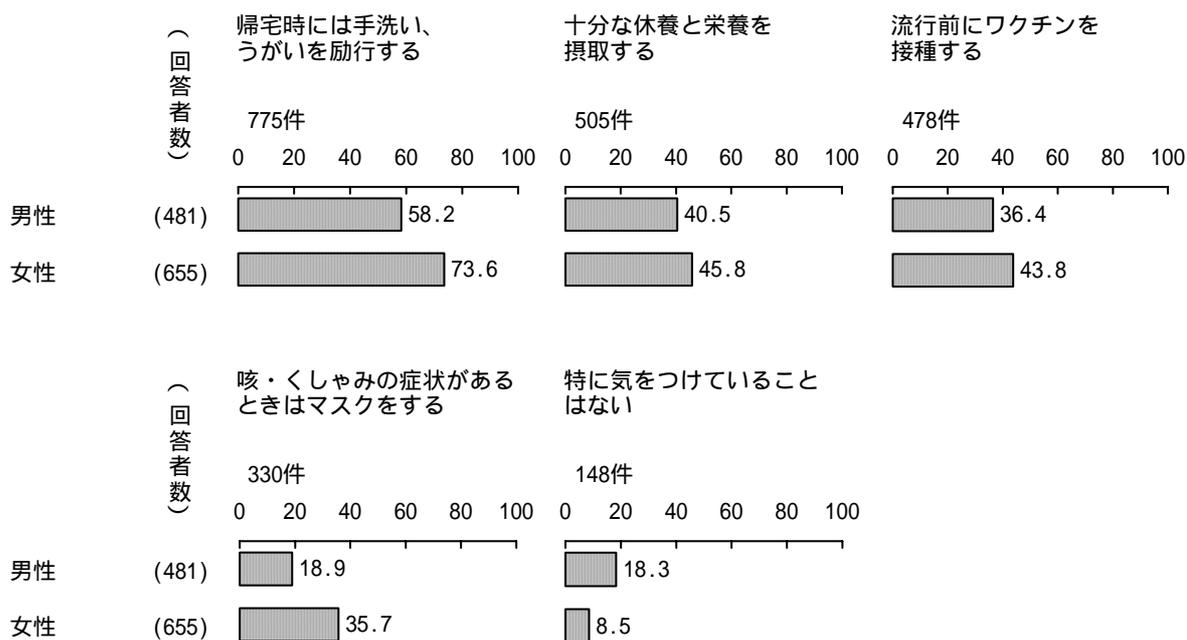
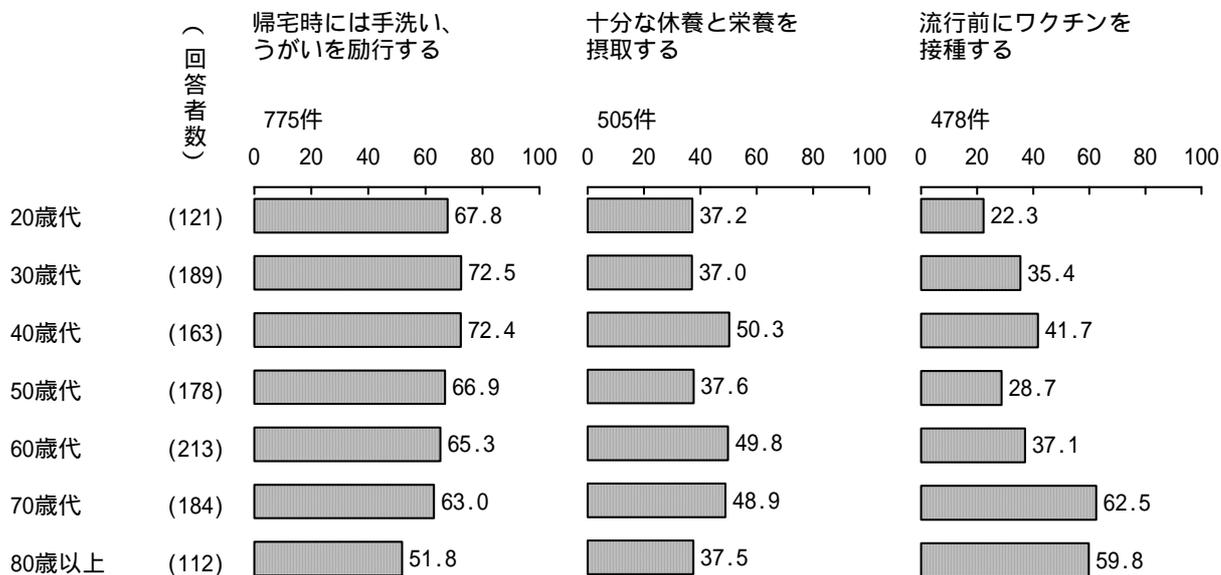


図 1 - 24 年齢別 (上位 3 項目)

(単位：%)



(8) 新型インフルエンザについて考えたり、心がけていること

「不要不急の外出を自粛」が4割強、一方、特に考えていない人が4割

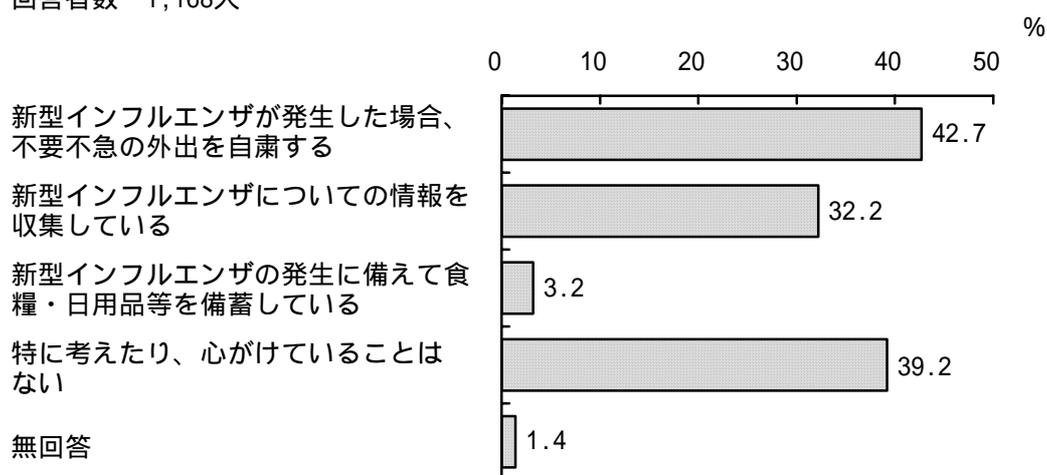
(全員の方に)

問 8 . あなたが、新型インフルエンザについて考えたり、心がけていることはなんですか。

(あてはまるものすべてに)

図 1 - 25 全体

回答者数 1,168人



新型インフルエンザとは、これまでのインフルエンザとは異なった「人にとって新しい」インフルエンザでおこる感染症で、誰でもがかったことがなく、免疫をもっていないインフルエンザです。この新型インフルエンザが発生し、世界で大流行することが懸念されています。

新型インフルエンザについて考えたり、心がけていることとしては、「新型インフルエンザが発生した場合、不要不急の外出を自粛する」(42.7%)が最も多く、次いで、「新型インフルエンザについての情報を収集している」(32.2%)が多くなっているが、「新型インフルエンザの発生に備えて食糧・日用品等を備蓄している」(3.2%)は少ない。また、「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人が39.2%となっている。(図1-25)

性別では、「新型インフルエンザが発生した場合、不要不急の外出を自粛する」と答えた人は女性(51.9%)が男性(29.9%)より高く、その差は22ポイントとなっている。また、「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人では男性(50.9%)が女性(31.0%)より高く、その差は約20ポイントとなっている。(図1-26)

年齢別では、「新型インフルエンザが発生した場合、不要不急の外出を自粛する」と答えた人は60歳代以上で50%前後と高くなっている。また、「特に考えたり、心がけていることはない」と答えた人は20歳代が高く、60%弱となっている。(図1-27)

図1-26 性別(上位3項目)

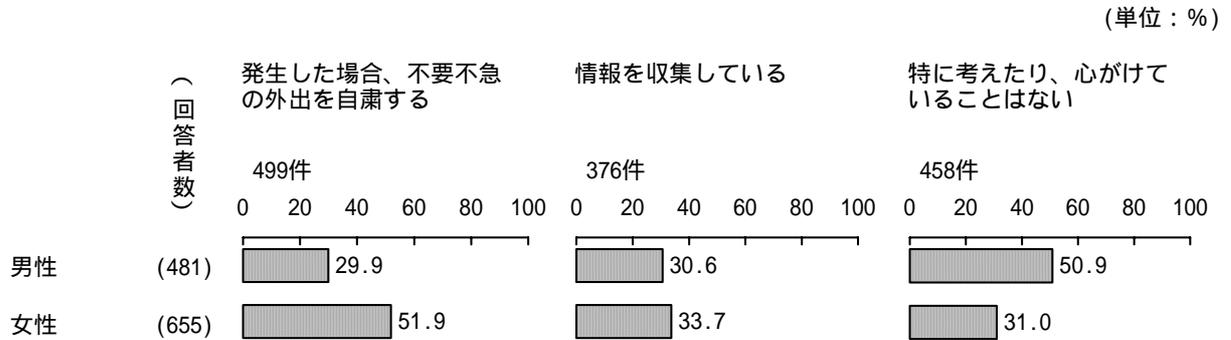
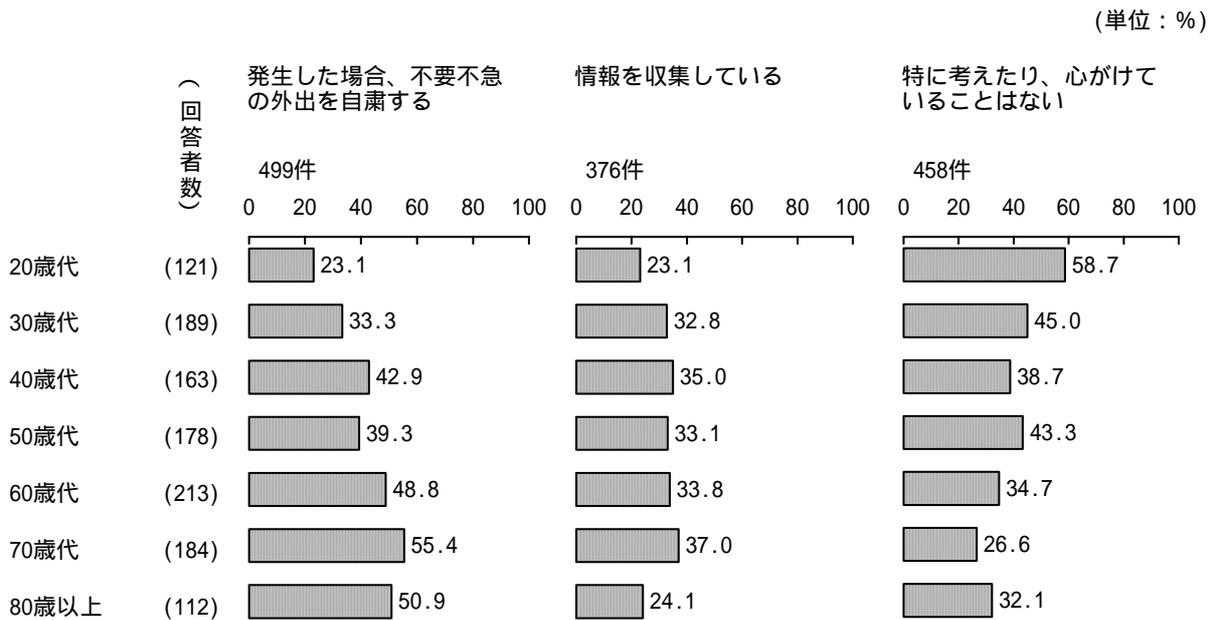


図1-27 年齢別(上位3項目)



(9) 生活習慣病予防のために、実行していること

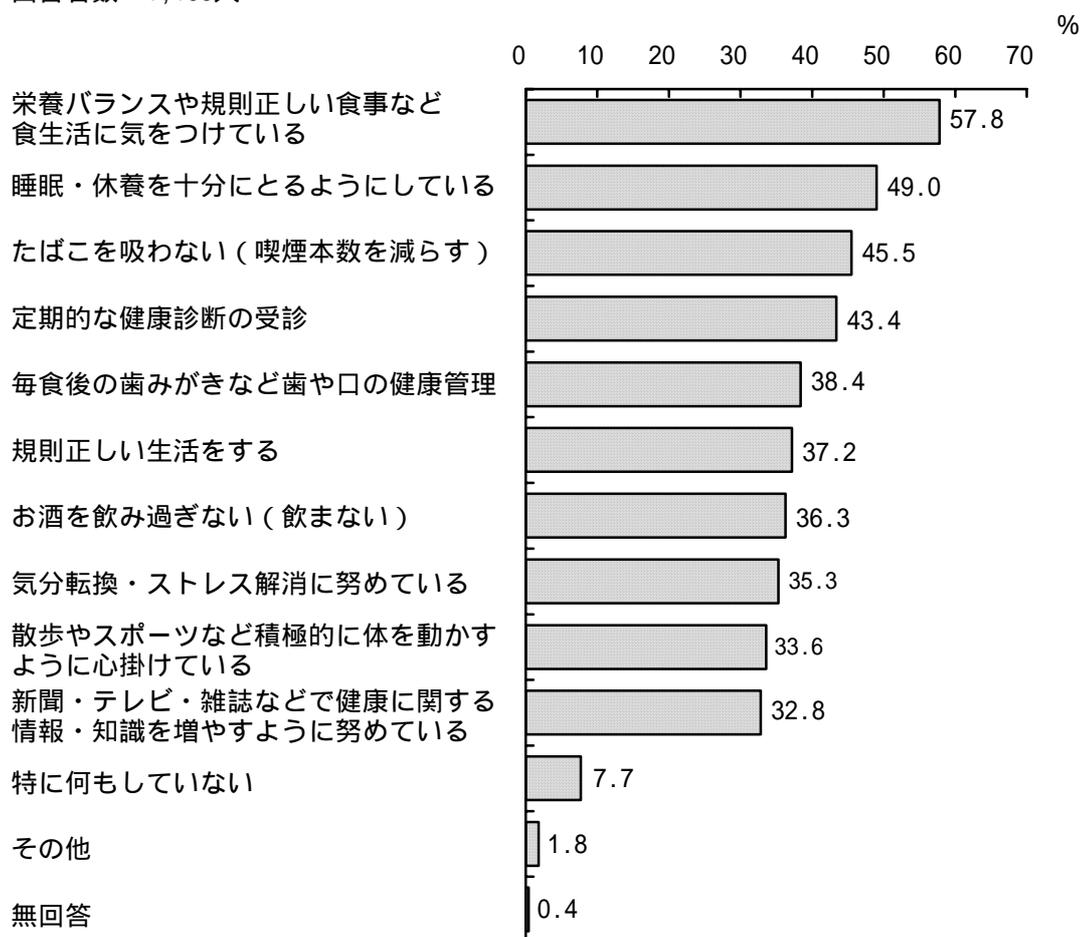
「食生活に気をつける」が6割弱、「十分な睡眠・休養」が5割

(全員の方に)

問9. がん、心臓病、脳卒中、糖尿病など、日頃の生活習慣が密接に関係する病気を「生活習慣病」と呼んでいます。あなたが、生活習慣病予防のために、自ら進んで実行していることがありますか。(あてはまるものすべてに)

図1 - 28 全体

回答者数 1,168人



生活習慣病予防のために、自ら進んで実行していることとしては、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」(57.8%)が最も多く、次いで、「睡眠・休養を十分にとるようにしている」(49.0%)、「たばこを吸わない(喫煙本数を減らす)」(45.5%)、「定期的な健康診断の受診」(43.4%)が4割以上で続いている。以下、「毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理」(38.4%)、「規則正しい生活をする」(37.2%)、「お酒を飲み過ぎない(飲まない)」(36.3%)、「気分転換・ストレス解消に努めている」(35.3%)、「散歩やスポーツなど積極的に体を動かすように心掛けている」(33.6%)、「新聞・テレビ・雑誌などで健康に関する情報・知識を増やすように努めている」(32.8%)も3割以上があげている。(図1 - 28)

性別に見ると、全体的に男性と比べ女性の方が予防の意識が高く、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」(女性 62.9%、男性 51.4%)、「毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理」(女性 44.9%、男性 29.7%)、「規則正しい生活をする」(女性 42.0%、男性 31.2%)、「気分転換・ストレス解消に努めている」(女性 40.8%、男性 28.5%)、「新聞・テレビ・雑誌などで健康に関する情報・知識を増やすように努めている」(女性 38.3%、男性 25.2%)では、それぞれ女性が男性より 10 ポイント以上高くなっている。一方、「散歩やスポーツなど積極的に体を動かすように心掛けている」では、男性(37.6%)が女性(30.8%)より約 7 ポイント高くなっている。(表 1 - 1)

年齢別に見ると、全体的に 60～70 歳代で割合が高くなっており、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」と答えた人では 60%台となっている。(表 1 - 1)

世帯構成別に見ると、全体的に夫婦のみ世帯で割合が高くなっており、「栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている」と答えた人では 65.1%、「睡眠・休養を十分にとるようにしている」「定期的な健康診断の受診」では 50%台となっている。(表 1 - 1)

図 1 - 29 性別 (上位 2 項目)

(単位：%)

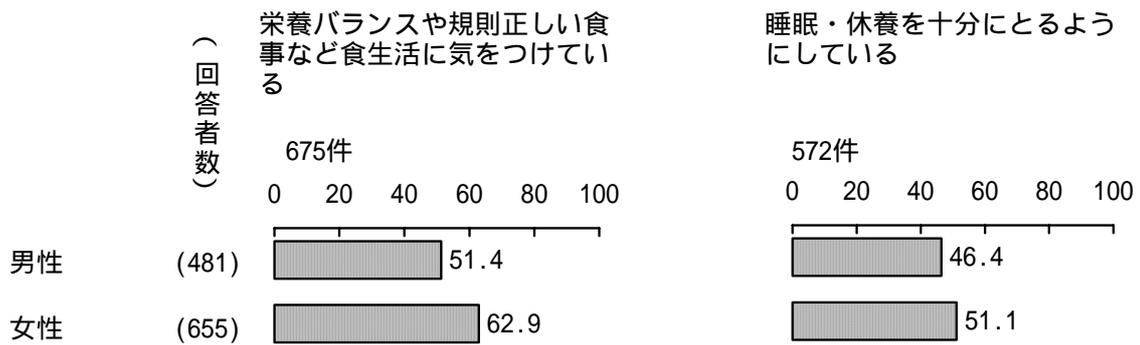


図 1 - 30 年齢別 (上位 2 項目)

(単位：%)

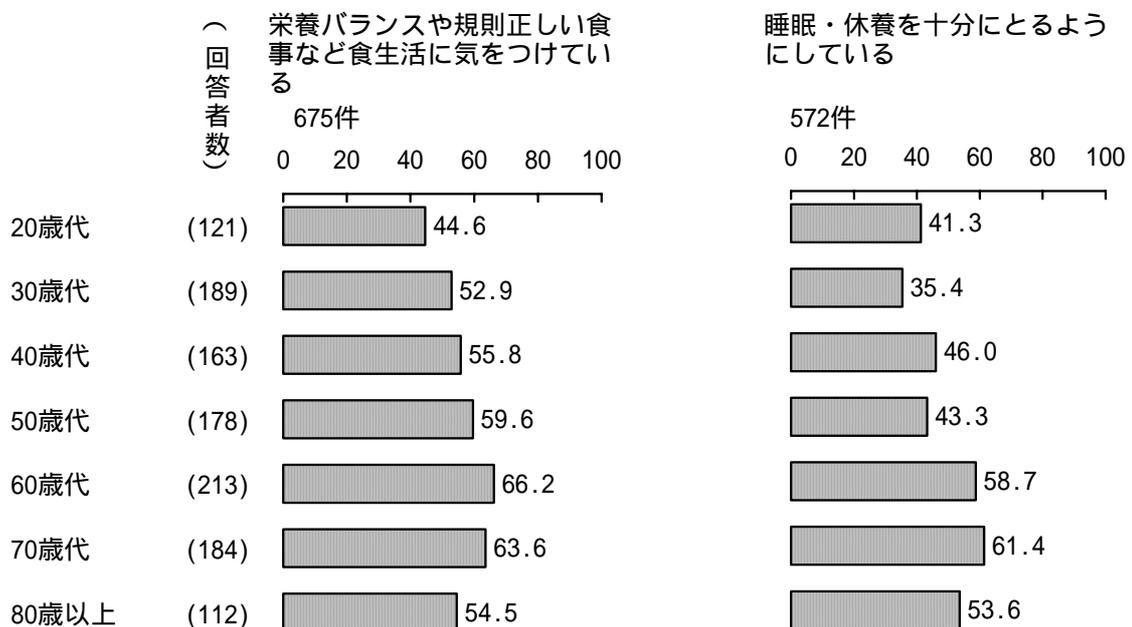


表1 - 1 性別、年齢別、世帯構成別

単位：%

		回答者数	栄養バランスがよい生活規則	睡眠・休養を十分に	たばこを吸わない (喫煙本数を減らす)	定期的な健康診断の	毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理	規則正しい生活を	お酒を飲み過ぎない (飲まない)
全体		1,168	57.8	49.0	45.5	43.4	38.4	37.2	36.3
性別	男性	481	51.4	46.4	45.7	44.1	29.7	31.2	33.9
	女性	655	62.9	51.1	45.2	42.9	44.9	42.0	38.0
年齢別	20歳代	121	44.6	41.3	47.9	15.7	30.6	28.1	44.6
	30歳代	189	52.9	35.4	48.7	33.3	35.4	28.6	32.3
	40歳代	163	55.8	46.0	50.9	44.8	38.7	38.7	38.0
	50歳代	178	59.6	43.3	38.8	49.4	32.6	35.4	25.8
	60歳代	213	66.2	58.7	47.4	52.6	48.4	47.4	43.7
	70歳代	184	63.6	61.4	40.8	50.5	46.7	40.8	34.8
	80歳以上	112	54.5	53.6	42.0	49.1	26.8	35.7	34.8
世帯構成別	1人世帯	286	50.3	47.9	43.7	34.6	36.7	31.8	31.8
	夫婦のみ世帯	269	65.1	58.7	48.3	51.7	43.9	40.9	38.7
	2世代世帯(親と子)	498	57.8	45.0	45.4	45.6	36.9	37.8	37.1
	3世代世帯(親と子と孫)	76	60.5	44.7	40.8	36.8	35.5	42.1	31.6
	その他の世帯	31	54.8	45.2	41.9	29.0	32.3	25.8	48.4

		回答者数	気分転換・ストレス解消に努める	積極的な心掛け	散歩やスポーツなど	健康に関する情報・知識を増やす	新聞・テレビなどで	特に何もしていない	その他	無回答
全体		1,168	35.3	33.6	32.8	7.7	1.8	0.4		
性別	男性	481	28.5	37.6	25.2	9.1	1.5	0.6		
	女性	655	40.8	30.8	38.3	6.9	2.0	0.3		
年齢別	20歳代	121	32.2	18.2	24.0	11.6	-	-		
	30歳代	189	34.9	24.3	18.0	13.2	0.5	-		
	40歳代	163	39.9	32.5	28.8	8.0	1.2	-		
	50歳代	178	36.5	34.8	24.2	7.9	1.7	1.1		
	60歳代	213	41.8	44.6	42.3	6.1	2.3	0.5		
	70歳代	184	37.0	41.8	46.7	3.3	2.7	0.5		
	80歳以上	112	15.2	29.5	43.8	4.5	3.6	0.9		
世帯構成別	1人世帯	286	38.8	32.5	34.3	9.8	3.5	1.0		
	夫婦のみ世帯	269	34.9	41.3	37.2	3.3	1.1	-		
	2世代世帯(親と子)	498	33.5	32.3	30.3	8.6	1.2	-		
	3世代世帯(親と子と孫)	76	31.6	18.4	26.3	6.6	1.3	2.6		
	その他の世帯	31	45.2	29.0	32.3	16.1	3.2	-		

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(10) かかりつけの診療所の有無

ふだんの診察や健康相談をする診療所をおおむね決めている人は8割弱

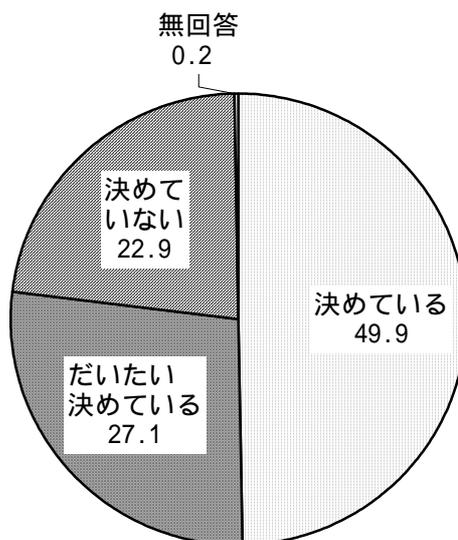
(全員の方に)

問10. あなたは、ふだんの診察や健康相談をするかかりつけの診療所(医院・クリニック)を決めていますか。(は1つ)

図1-31 全体

回答者数 1,168人

単位：%



ふだんの診察や健康相談をするかかりつけの診療所(医院・クリニック)を「決めている」と答えた人が49.9%と半数を占める。「だいたい決めている」と答えた人は27.1%で、この両者を合わせた“おおむね決めている”が8割弱となっている。一方、「決めていない」と答えた人は22.9%となっている。(図1-31)

性別に見ると、「決めている」と答えた人は男女とも約半数となっている。また、「だいたい決めている」と答えた人は女性(30.8%)が男性(23.1%)より7.7ポイント高くなっている。(図1-32)

年齢別に見ると、「決めている」と答えた人は年齢が上がるほど高くなる傾向が見られ、特に70歳代以上では80%前後となっている。(図1-33)

図1 - 32 性別

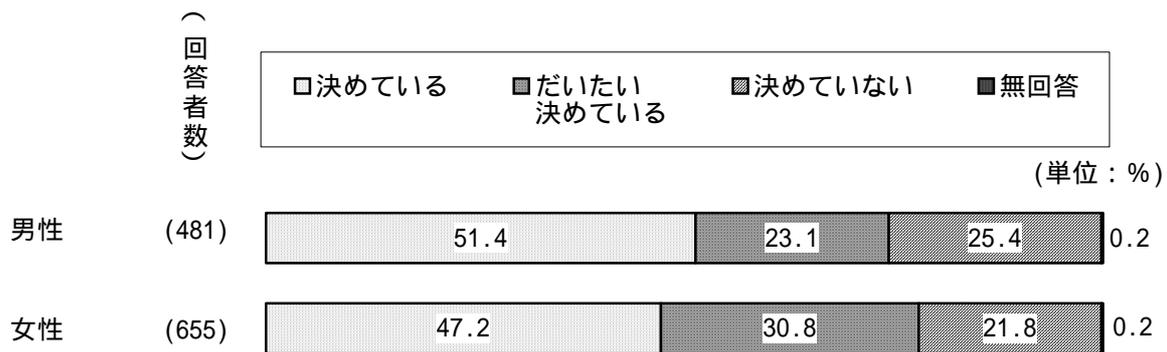
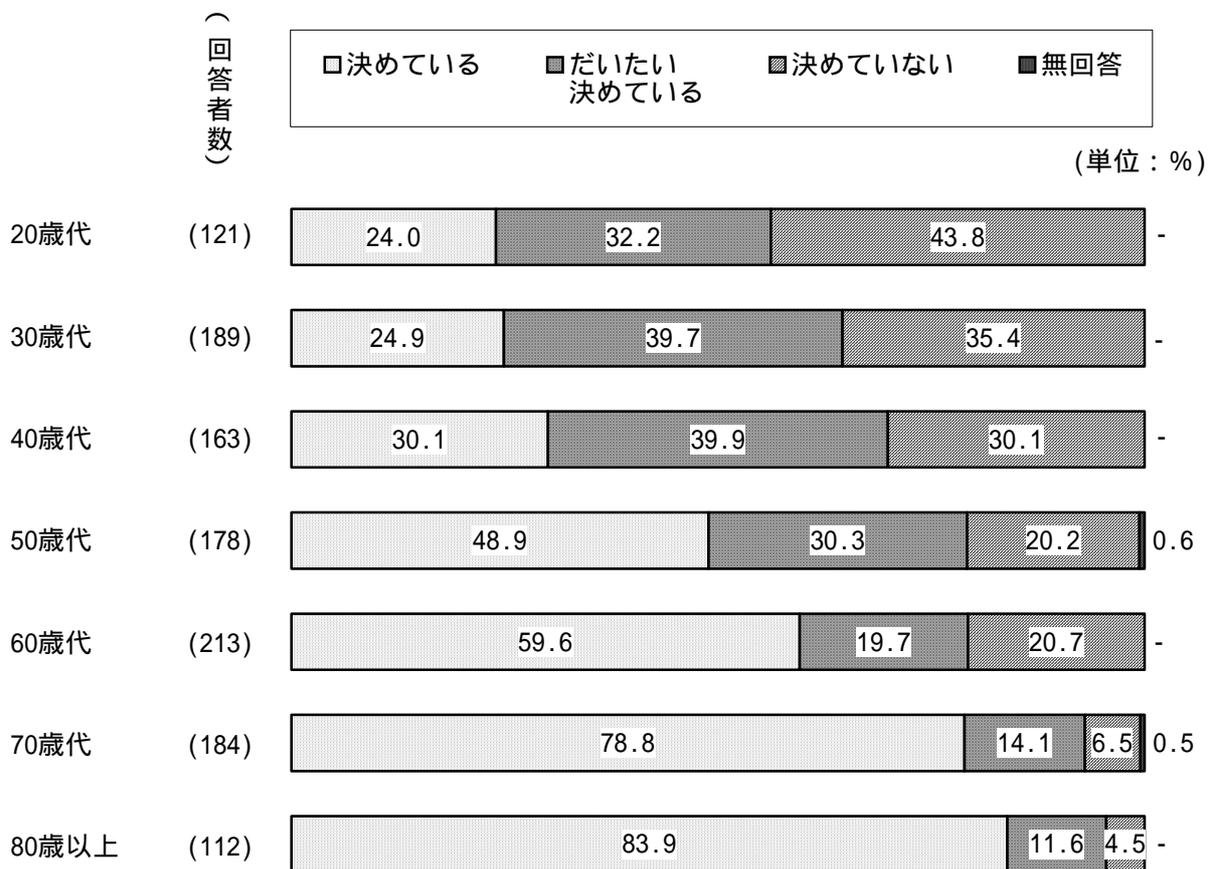


図1 - 33 年齢別



(11) 栄養成分表示の参考

参考にすると答えた人は6割強

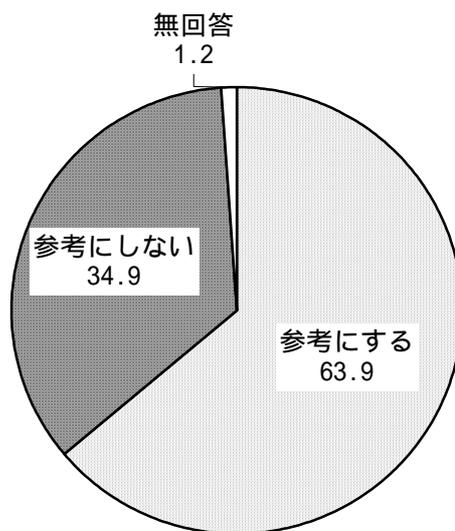
(全員の方に)

問11. あなたは、食品や調理済の料理を購入する時または外食の時に、栄養成分の表示があれば参考にしますか。(は1つ)

図1 - 34 全体

回答者数 1,168人

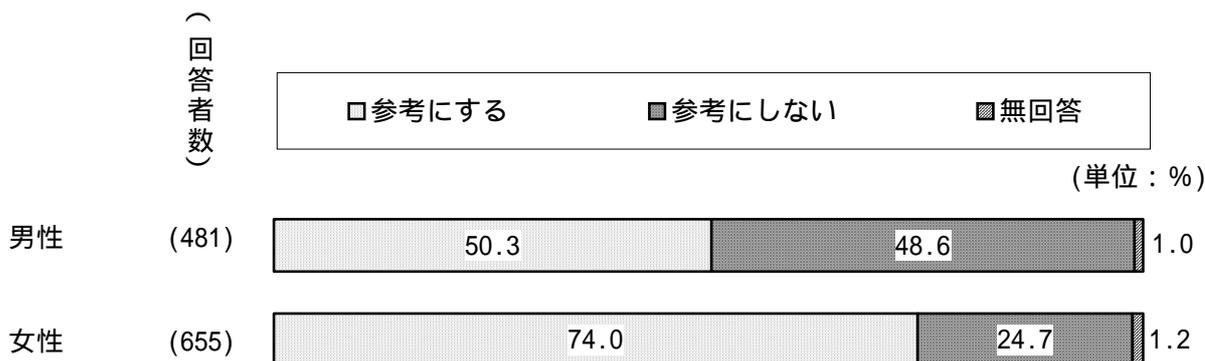
単位：%



食品や調理済の料理を購入する時や外食の時に、栄養成分の表示を「参考にする」と答えた人が 63.9%を占めている。一方、「参考にしない」と答えた人は 34.9%となっている。(図1 - 34)

性別に見ると、「参考にする」と答えた人は女性の方が 20 ポイント以上高くなっている。(女性 74.0%、男性 50.3%)(図1 - 35)

図1 - 35 性別



(12) 自分の歯の本数を認識している度合い

知っていると答えた人は4割弱

(全員の方に)

問12. あなたは、現在の自分の歯の本数を知っていますか。(は1つ)

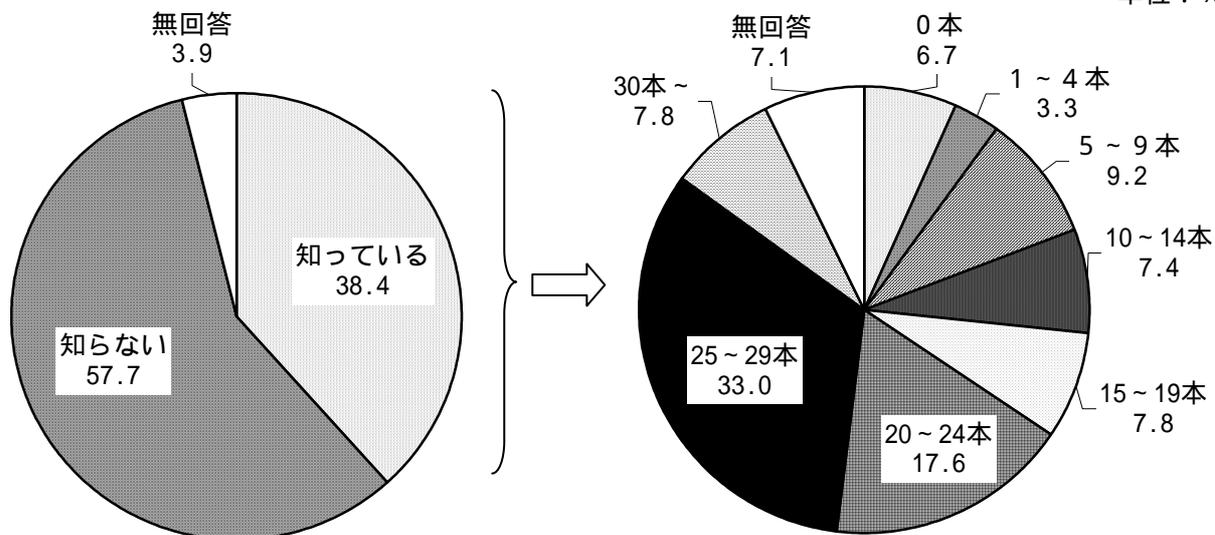
(「知っている」と答えた方に) 自分の歯の本数を記入してください。

図1 - 36 全体

回答者数 1,168人

回答者数 448人

単位：%



現在の自分の歯の本数を「知っている」と答えた人は38.4%、「知らない」と答えた人は57.7%となっている。

自分の歯の本数を知っている人に、本数をたずねたところ、「0本」(6.7%)、「1~4本」(3.3%)、「5~9本」(9.2%)、「10~14本」(7.4%)、「15~19本」(7.8%)、「20~24本」(17.6%)、「25~29本」(33.0%)、「30本~」(7.8%)となっている。(図1 - 36)

性別に見ると、「知っている」と答えた人は女性の方が16ポイント高くなっている。(女性44.6%、男性28.7%)一方、「知らない」と答えた人は男性の方が17ポイント高くなっている。(男性68.4%、女性51.0%)(図1 - 37)

年齢別に見ると、年齢が上がるほど「知っている」が高くなる傾向が見られる。(図1 - 38)

図1 - 37 性別

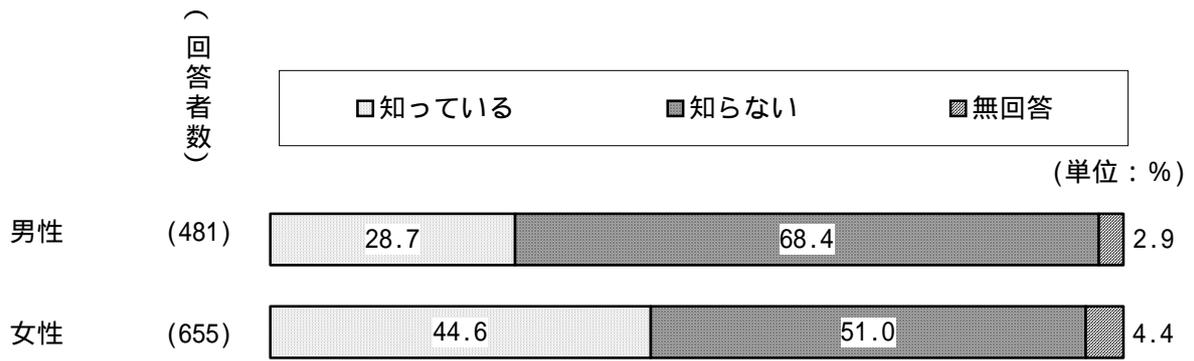
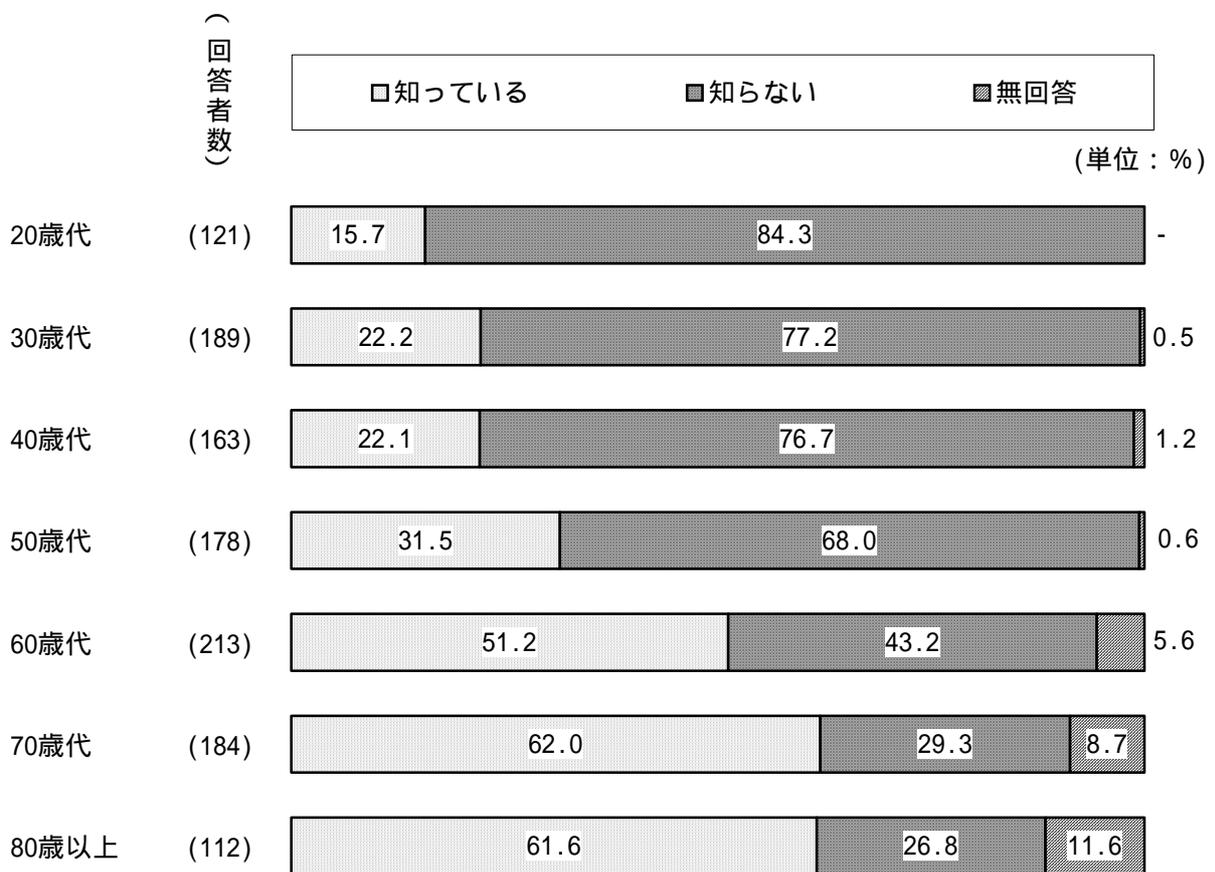


図1 - 38 年齢別



(13) 歯の健康について気をつけていること

定期的に歯科健診や歯石除去、歯面清掃をしている人が4割弱

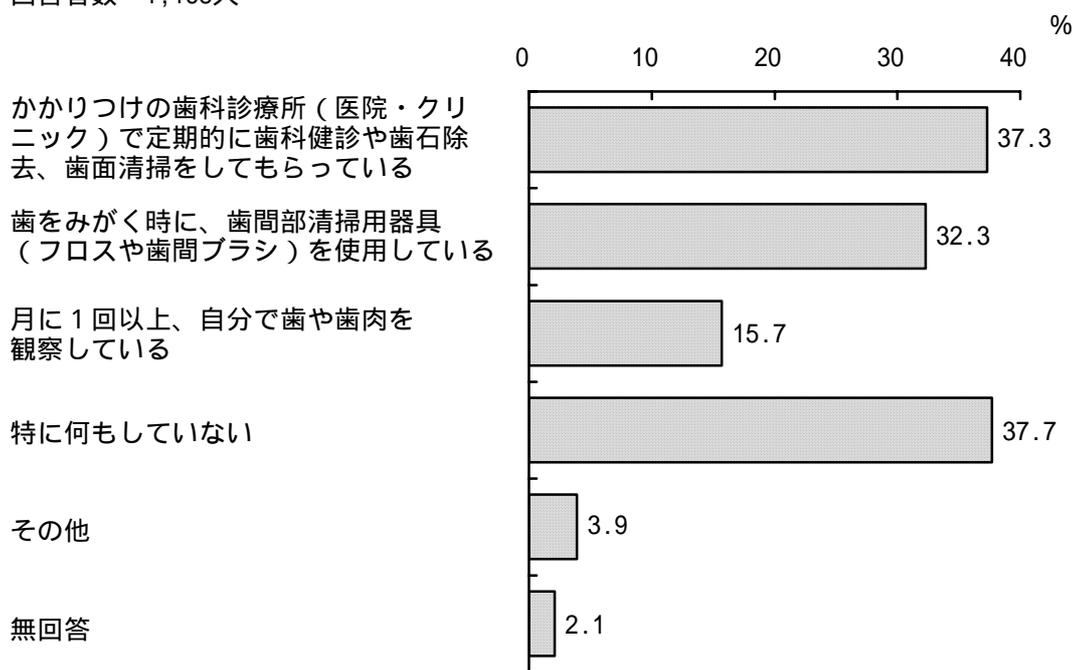
(全員の方に)

問13. あなたは、自分の歯の健康について気をつけていることはありますか。

(あてはまるものすべてに)

図1 - 39 全体

回答者数 1,168人



歯の健康について気をつけていることとしては、「かかりつけの歯科診療所(医院・クリニック)で定期的に歯科健診や歯石除去、歯面清掃をしてもらっている」(37.3%)が最も多く、以下、「歯をみがく時に、歯間部清掃用器具(フロスや歯間ブラシ)を使用している」(32.3%)、「月に1回以上、自分で歯や歯肉を観察している」(15.7%)の順になっている。また、「特に何もしていない」と答えた人は37.7%となっている。(図1 - 39)

性別に見ると、上位3項目すべてで男性より女性の方が高くなっている。(図1 - 40)

性・年齢別に見ると、「かかりつけの歯科診療所(医院・クリニック)で定期的に歯科健診や歯石除去、歯面清掃をもらっている」と答えた人は女性の50~70歳代で50%台となっている。また、「歯をみがく時に、歯間部清掃用器具(フロスや歯間ブラシ)を使用している」と答えた人は女性の40~60歳代で40~50%台となっている。一方、「特に何もしていない」は男性の20~30歳代、女性の20歳代で、それぞれ高くなっている。(表1 - 2)

図1 - 40 性別（上位3項目）

（単位：％）

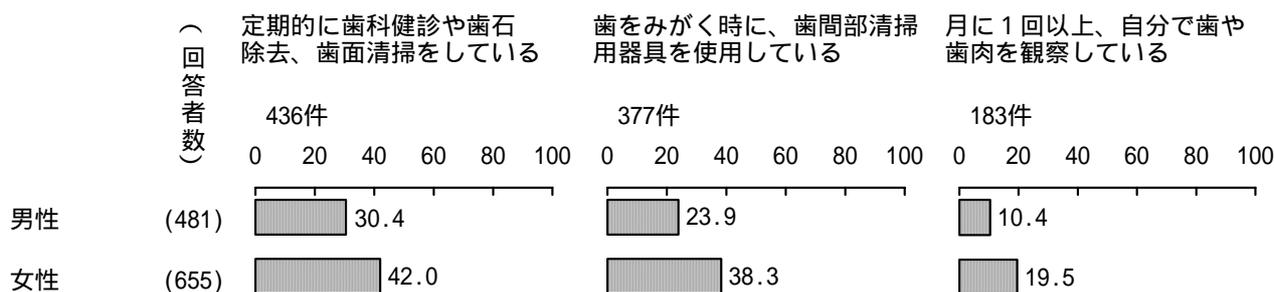


表1 - 2 性・年齢別

単位：％

	回答者数	定期的に歯科健診や歯石除去、歯面清掃をしている	歯をみがく時に、歯間部清掃器具を使用している	月に1回以上、自分で歯や歯肉を観察している	特に何もしていない	その他	無回答	
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
全体	1,168	37.3	32.3	15.7	37.7	3.9	2.1	
男性	20歳代	48	4.2	18.8	10.4	70.8	4.2	-
	30歳代	71	16.9	19.7	11.3	63.4	-	1.4
	40歳代	65	36.9	26.2	7.7	46.2	3.1	-
	50歳代	98	30.6	21.4	9.2	49.0	1.0	2.0
	60歳代	89	44.9	30.3	15.7	34.8	3.4	-
	70歳代	66	39.4	30.3	6.1	42.4	3.0	1.5
	80歳以上	44	27.3	15.9	11.4	45.5	13.6	4.5
女性	20歳代	72	18.1	22.2	13.9	54.2	2.8	-
	30歳代	118	40.7	38.1	20.3	30.5	4.2	-
	40歳代	96	36.5	45.8	20.8	32.3	-	1.0
	50歳代	79	51.9	43.0	19.0	19.0	8.9	-
	60歳代	120	54.2	51.7	18.3	26.7	1.7	1.7
	70歳代	107	50.5	37.4	26.2	21.5	3.7	6.5
	80歳以上	62	30.6	14.5	14.5	35.5	12.9	8.1

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(14) 喫煙による影響がある疾病の認識の度合い

肺がんへの影響を知っている人は9割半

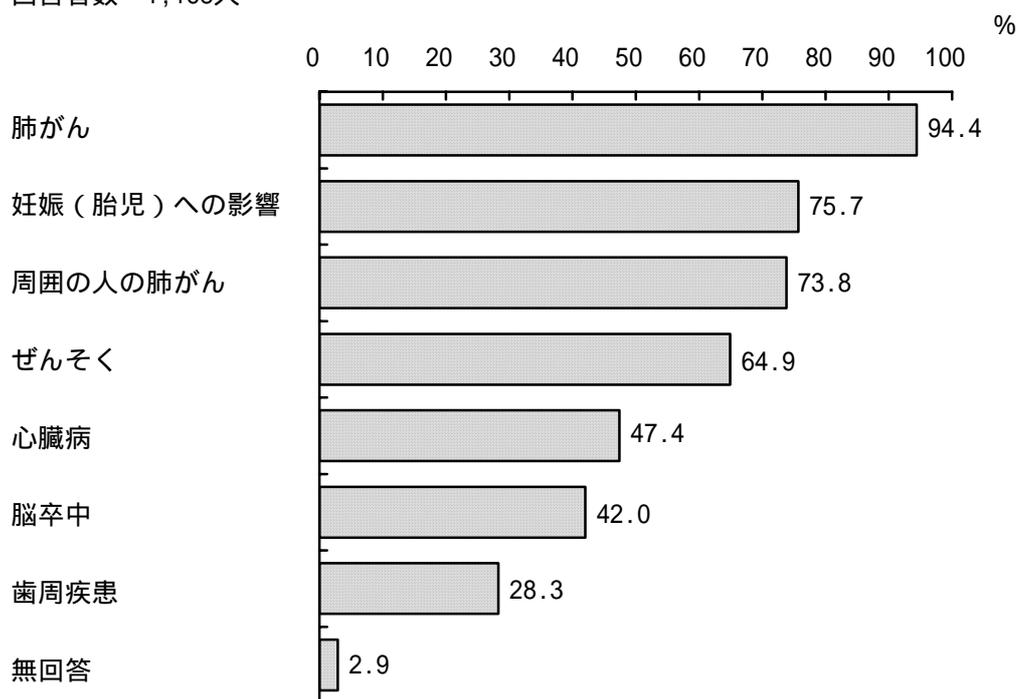
(全員の方に)

問14. あなたは、次にあげる疾病について喫煙による影響があることを知っていますか。

(あてはまるものすべてに)

図1 - 41 全体

回答者数 1,168人



喫煙による影響があることを知っている疾病についてたずねたところ、「肺がん」(94.4%)が最も多く、ほとんどの人があげている。次いで、「妊娠(胎児)への影響」(75.7%)、「周囲の人の肺がん」(73.8%)、「ぜんそく」(64.9%)が6割以上であげられている。以下、「心臓病」(47.4%)、「脳卒中」(42.0%)、「歯周疾患」(28.3%)の順になっている。(図1 - 41)

性別に見ると、「妊娠(胎児)への影響」では女性(84.6%)の方が男性(66.1%)より約20ポイント高い。また、「周囲の人の肺がん」(女性77.3%、男性71.1%)、「ぜんそく」(女性67.6%、男性62.0%)では女性の方がやや高い。一方、「心臓病」(男性51.6%、女性44.4%)、「脳卒中」(男性45.7%、女性39.4%)では男性の方がやや高くなっている。(図1 - 42)

年齢別に見ると、「妊娠(胎児)への影響」、「周囲の人の肺がん」では、年齢が上がるほど割合が低くなる傾向が見られ、80歳以上ではそれぞれ40%台となっている。(図1 - 43)

図 1 - 42 性別 (肺がん以外の 6 項目)

(単位: %)

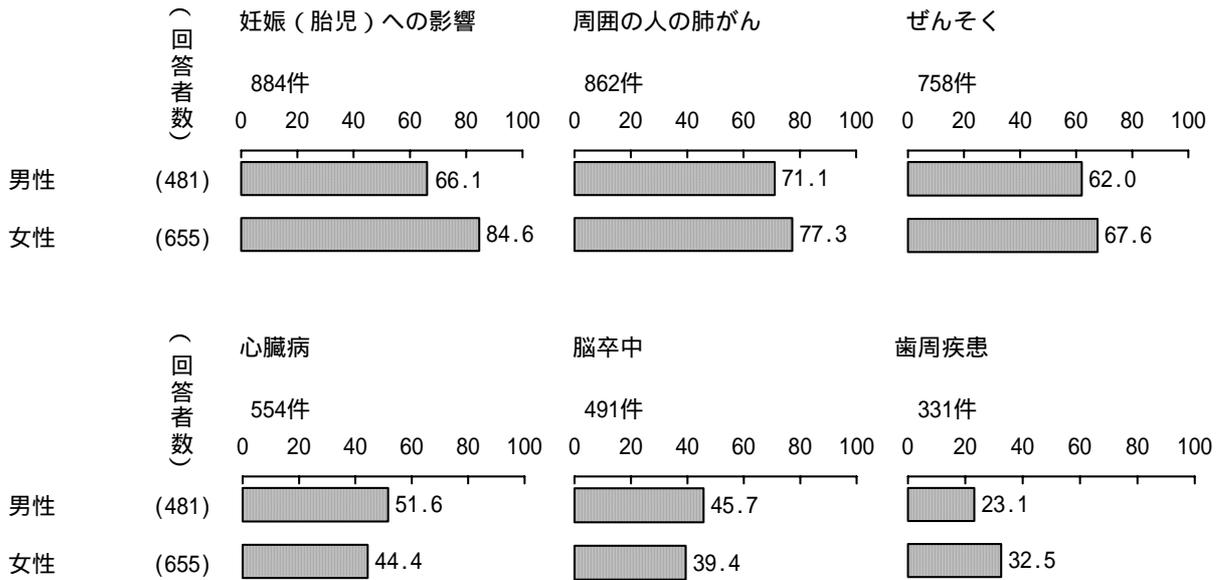
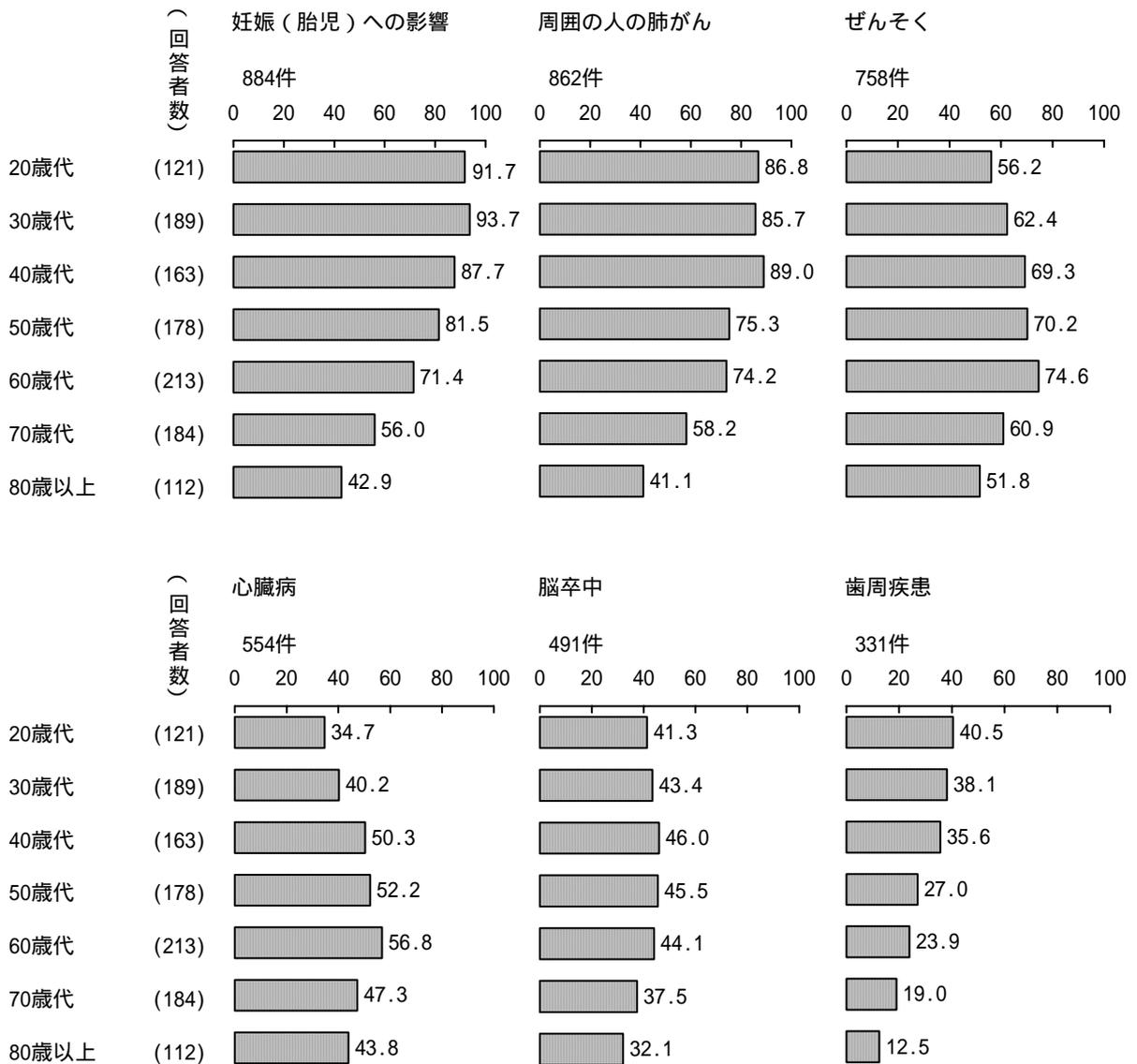


図 1 - 43 年齢別 (肺がん以外の 6 項目)

(単位: %)



(15) 喫煙の有無と喫煙本数

現在も吸っている人は2割強

(全員の方に)

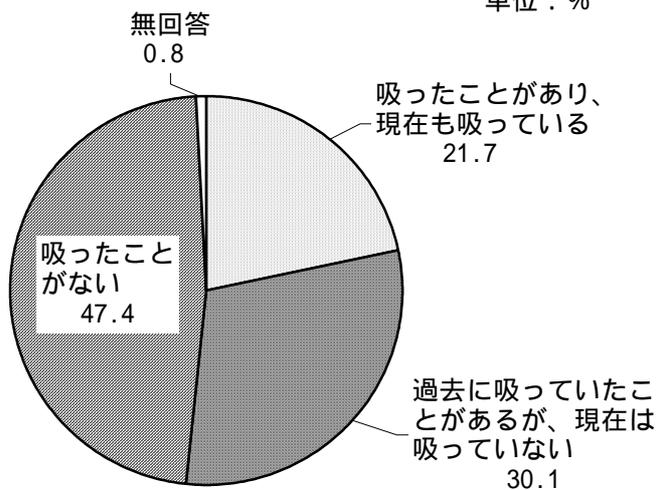
問15. あなたは、タバコを吸っていたことがありますか。(は1つ)

「1. 吸ったことがあります、現在も吸っている」か「2. 過去に吸っていたことがあるが、現在は吸っていない」をご回答の場合は、1日の喫煙本数をご記入ください。

図1-44 全体

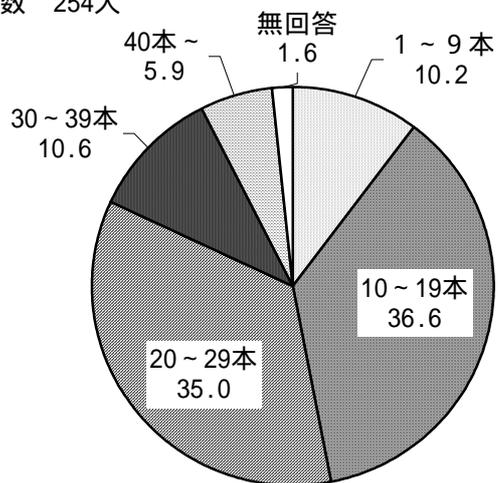
回答者数 1,168人

単位：%



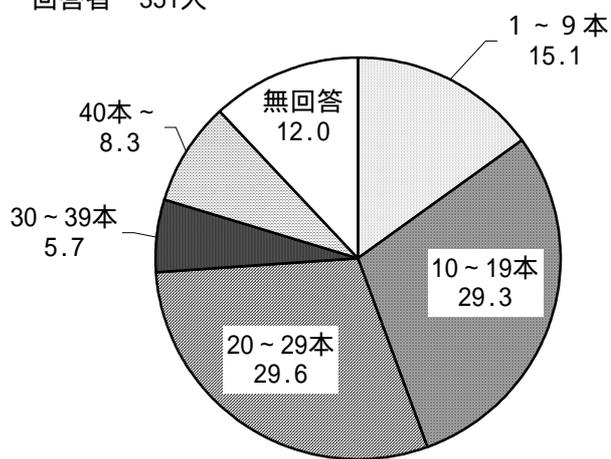
現在も吸っている人

回答者数 254人



過去に吸っていた人

回答者数 351人



タバコを「吸ったことがあり、現在も吸っている」と答えた人は 21.7%、「過去に吸っていたことがあるが、現在は吸っていない」と答えた人は 30.1%、「吸ったことがない」と答えた人は 47.4%となっている。

現在も吸っている人の1日の喫煙本数は、「1～9本」(10.2%)、「10～19本」(36.6%)、「20～29本」(35.0%)、「30～39本」(10.6%)、「40本～」(5.9%)となっている。

過去に吸っていた人の吸っていた頃の1日の喫煙本数は、「1～9本」(15.1%)、「10～19本」(29.3%)、「20～29本」(29.6%)、「30～39本」(5.7%)、「40本～」(8.3%)となっている。(図1-44)

性別に見ると、「吸ったことがあり、現在も吸っている」と答えた人は男性(30.4%)が女性(15.3%)より15ポイント高く、「過去に吸っていたことがあるが、現在は吸っていない」と答えた人は男性(46.2%)が女性(17.9%)より28ポイント高くなっている。一方、「吸ったことがない」と答えた人は女性で65.6%と高くなっている。(表1-3)

性・年齢別に見ると、「吸ったことがあり、現在も吸っている」と答えた人は男性の30～50歳代で、「過去に吸っていたことがあるが、現在は吸っていない」と答えた人は男性の50～80歳以上で、それぞれ高くなっている。一方、「吸ったことがない」と答えた人は女性の全年代で半数以上となっている。(表1-3)

表1-3 性別、性・年齢別

		回答者数	現在も吸ったことがあり、	過去には吸っていたが、	吸ったことがない	無回答
全体		1,168	21.7	30.1	47.4	0.8
性別	男性	481	30.4	46.2	23.5	-
	女性	655	15.3	17.9	65.6	1.2
男性	20歳代	48	31.3	18.8	50.0	-
	30歳代	71	45.1	19.7	35.2	-
	40歳代	65	35.4	35.4	29.2	-
	50歳代	98	33.7	54.1	12.2	-
	60歳代	89	27.0	53.9	19.1	-
	70歳代	66	21.2	65.2	13.6	-
	80歳以上	44	11.4	72.7	15.9	-
女性	20歳代	72	22.2	13.9	63.9	-
	30歳代	118	15.3	24.6	59.3	0.8
	40歳代	96	18.8	20.8	60.4	-
	50歳代	79	17.7	26.6	54.4	1.3
	60歳代	120	20.0	11.7	66.7	1.7
	70歳代	107	6.5	13.1	79.4	0.9
	80歳以上	62	4.8	12.9	77.4	4.8

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(16) イライラやストレスの有無

4人に3人はストレスを感じる

(全員の方に)

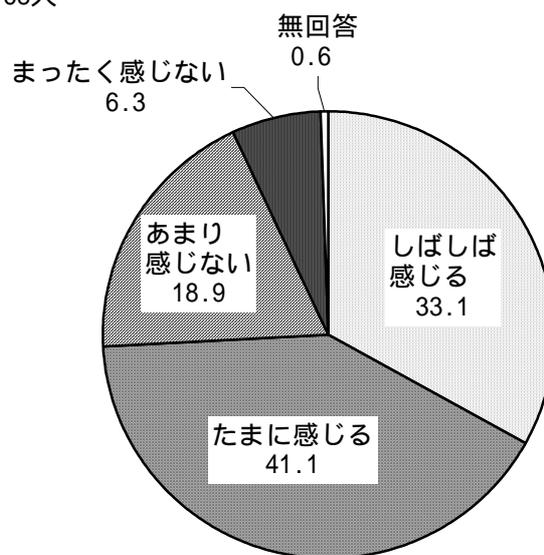
問16. あなたは、最近1か月以内に、イライラやストレスを感じたことがありますか。

(は1つ)

図1 - 45 全体

回答者数 1,168人

単位：%



最近1か月以内に、イライラやストレスを「しばしば感じる」と答えた人は33.1%、「たまに感じる」と答えた人は41.1%で、4人に3人がイライラやストレスを感じると答えている。一方、「あまり感じない」と答えた人は18.9%、「まったく感じない」と答えた人は6.3%となっている。(図1 - 45)

性別では、大きな差は見られない。(図1 - 46)

年齢別に見ると、イライラやストレスを感じる割合は、30歳代を除いて年齢が若いほど高くなる傾向が見られ、20~50歳代では8割以上となっている。(図1 - 47)

図1 - 46 性別

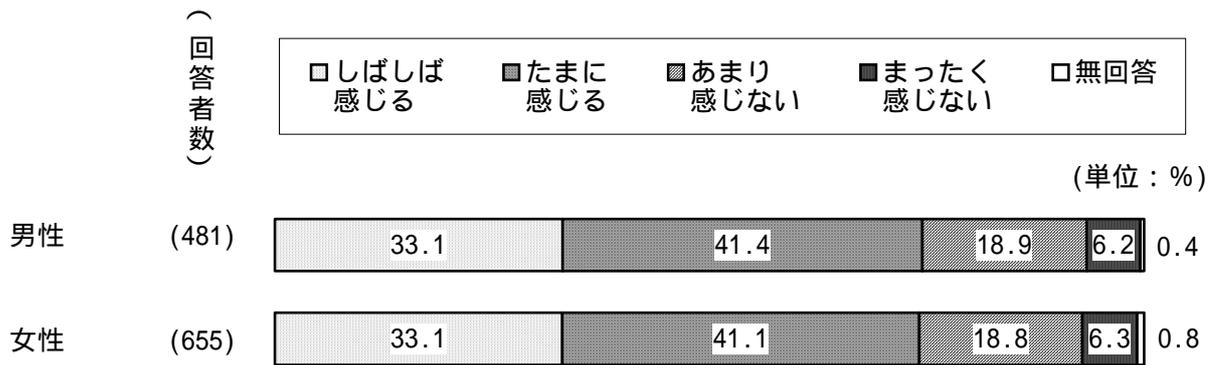
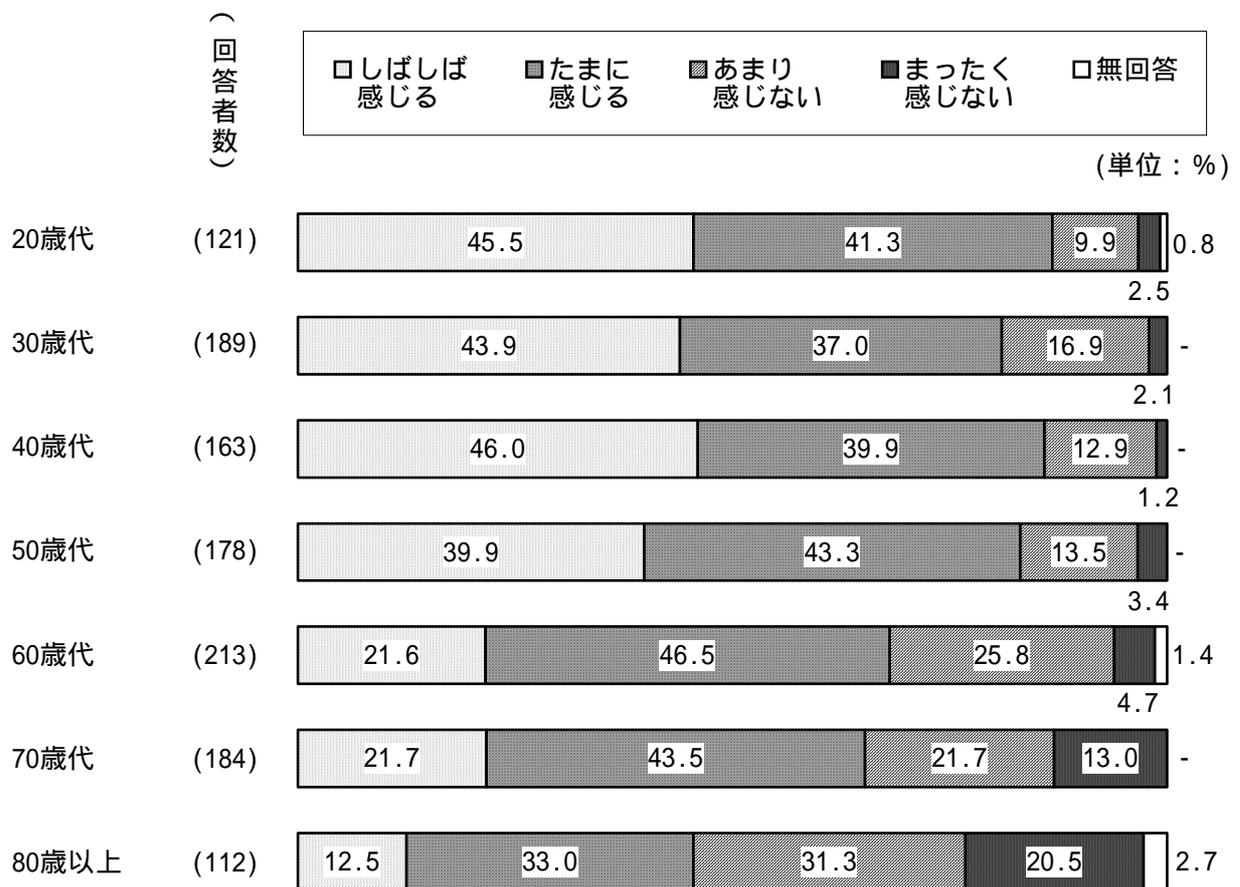


図1 - 47 年齢別



(17) イライラやストレスへの対処

「身近な人に話をして発散する」が4割半

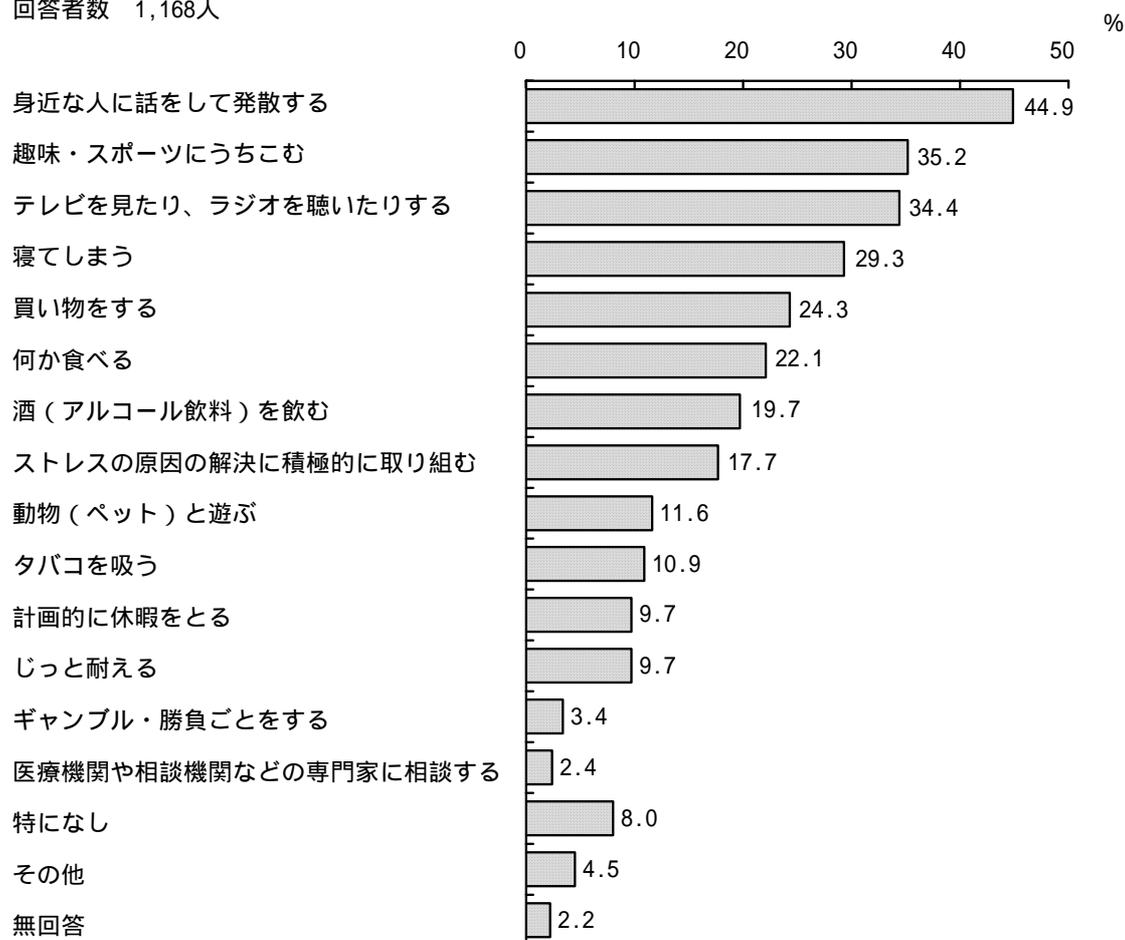
(全員の方に)

問17. あなたは、イライラやストレスがあるとき、どのようにしていますか。

(あてはまるものすべてに)

図1 - 48 全体

回答者数 1,168人



イライラやストレスがあるときの対処としては、「身近な人に話をして発散する」(44.9%)が最も多く、以下、「趣味・スポーツにうちこむ」(35.2%)、「テレビを見たり、ラジオを聴いたりする」(34.4%)、「寝てしまう」(29.3%)、「買い物をする」(24.3%)、「何か食べる」(22.1%)、「酒(アルコール飲料)を飲む」(19.7%)、「ストレスの原因の解決に積極的に取り組む」(17.7%)、「動物(ペット)と遊ぶ」(11.6%)、「タバコを吸う」(10.9%)が1割以上となっている。(図1 - 48)

性年齢別に見ると、「身近な人に話をして発散する」は女性の20～70歳代で50%以上と高く、特に20～30歳代では70%以上となっている。「趣味・スポーツにうちこむ」は男性の20～40歳代で50%前後と高くなっている。「テレビを見たり、ラジオを聴いたりする」は男性の60～70歳代、女性の20歳代で40%以上となっている。「寝てしまう」は男女ともに若い年代で高くなっており、特に男性の20～30歳代で40%前後、女性の20歳代で半数、30歳代で40%以上となっている。「買い物をする」「何か食べる」「酒（アルコール飲料）を飲む」ではそれぞれ年齢が若いほど割合が高い傾向が見られる。（表1 - 4）

職業別に見ると、契約社員・パート・アルバイト・非常勤職員、家事専業の人は、「身近な人に話をして発散する」「買い物をする」「何か食べる」で高くなっている。また、「寝てしまう」は常勤の会社員、公務員、団体職員、契約社員・パート・アルバイト・非常勤職員で高くなっている。（表1 - 4）

図1 - 49 性別（特徴的な3項目）

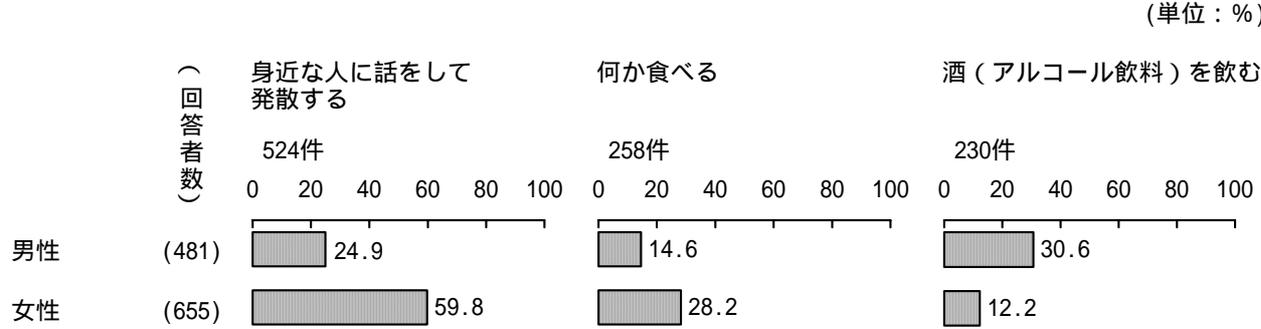


図1 - 50 年齢別（特徴的な3項目）

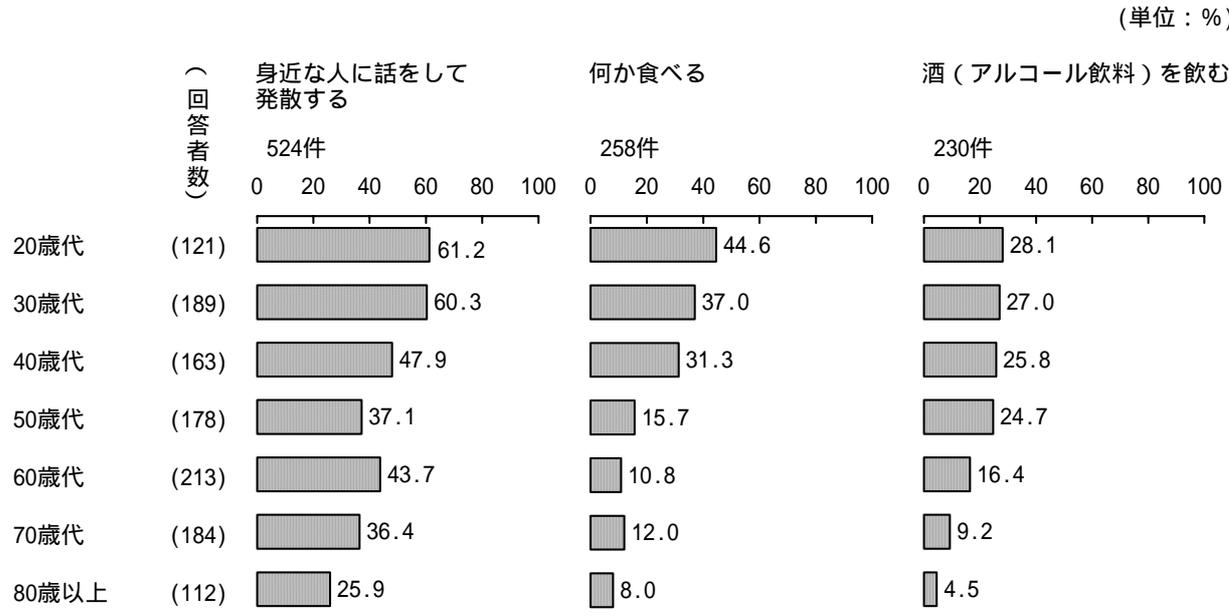


表1 - 4 性・年齢別、職業別

単位：%

	回答者数	身近な人に話を発散する	趣味・スポーツにうちこむ	テレビ、ラジオを聴いたりする	寝てしまう	買い物をする	何か食べる	飲料（アルコール）を飲む	ストレスの解消に積極的に取り組む	その他の原因
全体	1,168	44.9	35.2	34.4	29.3	24.3	22.1	19.7	17.7	
男性	20歳代	48	43.8	50.0	25.0	43.8	29.2	29.2	27.1	18.8
	30歳代	71	36.6	47.9	38.0	38.0	16.9	29.6	39.4	22.5
	40歳代	65	24.6	50.8	20.0	40.0	15.4	20.0	38.5	23.1
	50歳代	98	19.4	37.8	34.7	36.7	8.2	9.2	38.8	17.3
	60歳代	89	27.0	33.7	40.4	22.5	7.9	5.6	28.1	19.1
	70歳代	66	13.6	28.8	45.5	16.7	7.6	9.1	21.2	13.6
	80歳以上	44	11.4	29.5	13.6	22.7	4.5	4.5	9.1	13.6
女性	20歳代	72	72.2	36.1	43.1	51.4	66.7	55.6	29.2	23.6
	30歳代	118	74.6	29.7	33.9	41.5	48.3	41.5	19.5	16.9
	40歳代	96	63.5	35.4	26.0	34.4	28.1	38.5	17.7	16.7
	50歳代	79	58.2	34.2	34.2	30.4	26.6	24.1	6.3	21.5
	60歳代	120	55.8	42.5	37.5	14.2	26.7	14.2	7.5	19.2
	70歳代	107	51.4	29.9	41.1	15.0	22.4	15.0	2.8	14.0
	80歳以上	62	37.1	14.5	32.3	16.1	16.1	9.7	1.6	8.1
職業別	自営業、家族従業員	141	33.3	36.9	34.0	28.4	18.4	19.1	19.1	19.9
	常勤の会社員、公務員、団体職員	318	44.7	39.6	30.8	38.7	24.5	24.5	34.6	18.9
	契約社員・パート・アルバイト・非常勤職員	190	52.1	37.4	36.3	36.3	31.6	31.1	21.1	18.9
	家事専業	191	59.2	35.6	37.2	20.4	31.4	27.7	7.3	22.5
	無職	270	34.8	26.3	34.4	20.0	15.2	11.5	11.5	11.1
	その他	49	51.0	44.9	42.9	30.6	34.7	20.4	14.3	18.4

	回答者数	動物と遊ぶ（ペット）	タバコを吸う	じっと耐える	計画的に休暇をとる	ギャンブル・勝負ごとをする	医療機関や専門家に相談する	特になし	その他	
全体	1,168	11.6	10.9	9.7	9.7	3.4	2.4	8.0	4.5	
男性	20歳代	48	2.1	20.8	12.5	14.6	4.2	4.2	6.3	2.1
	30歳代	71	12.7	21.1	7.0	12.7	4.2	1.4	2.8	4.2
	40歳代	65	10.8	21.5	10.8	10.8	6.2	4.6	7.7	3.1
	50歳代	98	13.3	14.3	10.2	11.2	9.2	3.1	7.1	6.1
	60歳代	89	15.7	12.4	5.6	6.7	7.9	1.1	14.6	4.5
	70歳代	66	4.5	9.1	7.6	6.1	0.0	1.5	12.1	4.5
	80歳以上	44	-	4.5	6.8	2.3	-	4.5	31.8	-
女性	20歳代	72	16.7	12.5	8.3	20.8	5.6	1.4	1.4	-
	30歳代	118	16.1	7.6	11.9	13.6	1.7	-	0.8	4.2
	40歳代	96	16.7	9.4	9.4	13.5	2.1	2.1	1.0	7.3
	50歳代	79	16.5	10.1	17.7	8.9	2.5	2.5	5.1	6.3
	60歳代	120	13.3	8.3	8.3	6.7	3.3	1.7	8.3	5.0
	70歳代	107	6.5	1.9	9.3	5.6	-	5.6	7.5	6.5
	80歳以上	62	6.5	4.8	3.2	-	-	1.6	25.8	6.5
職業別	自営業、家族従業員	141	17.0	12.8	7.1	12.1	5.0	1.4	7.8	2.8
	常勤の会社員、公務員、団体職員	318	11.0	14.8	9.1	13.2	6.0	2.5	3.5	3.1
	契約社員・パート・アルバイト・非常勤職員	190	13.7	13.7	8.4	14.2	2.1	2.6	8.4	7.9
	家事専業	191	14.1	2.1	8.4	3.7	1.6	2.6	5.2	5.2
	無職	270	6.3	10.4	11.1	3.7	1.9	2.2	15.2	4.8
	その他	49	10.2	6.1	20.4	18.4	4.1	2.0	8.2	2.0

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(18) 不眠時のアルコール飲料や薬の使用

あると答えた人は3割強

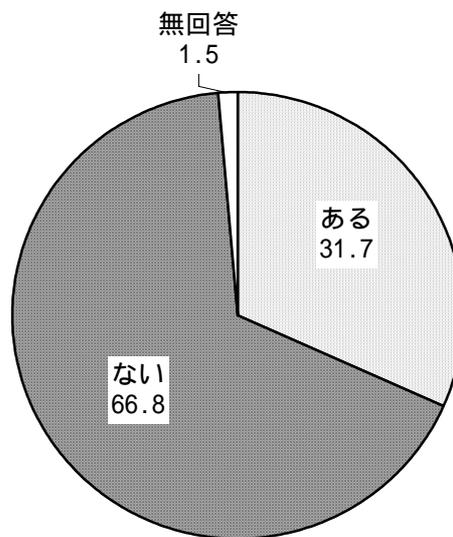
(全員の方に)

問18. あなたは、眠れない時にアルコール飲料や薬(睡眠補助剤)を使用したことがありますか。(は1つ)

図1 - 51 全体

回答者数 1,168人

単位：%



不眠時のアルコール飲料や薬の使用については、「ある」と答えた人が31.7%、「ない」と答えた人が66.8%となっている。(図1 - 51)

性別では、大きな差は見られない。(図1 - 52)

年齢別に見ると、70歳代で「ある」と答えた人が38.0%と多くなっている。(図1 - 53)

図1 - 52 性別

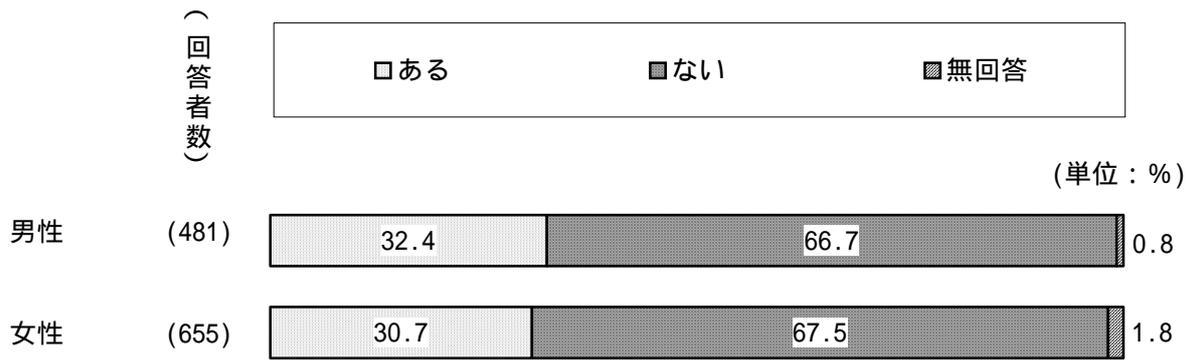
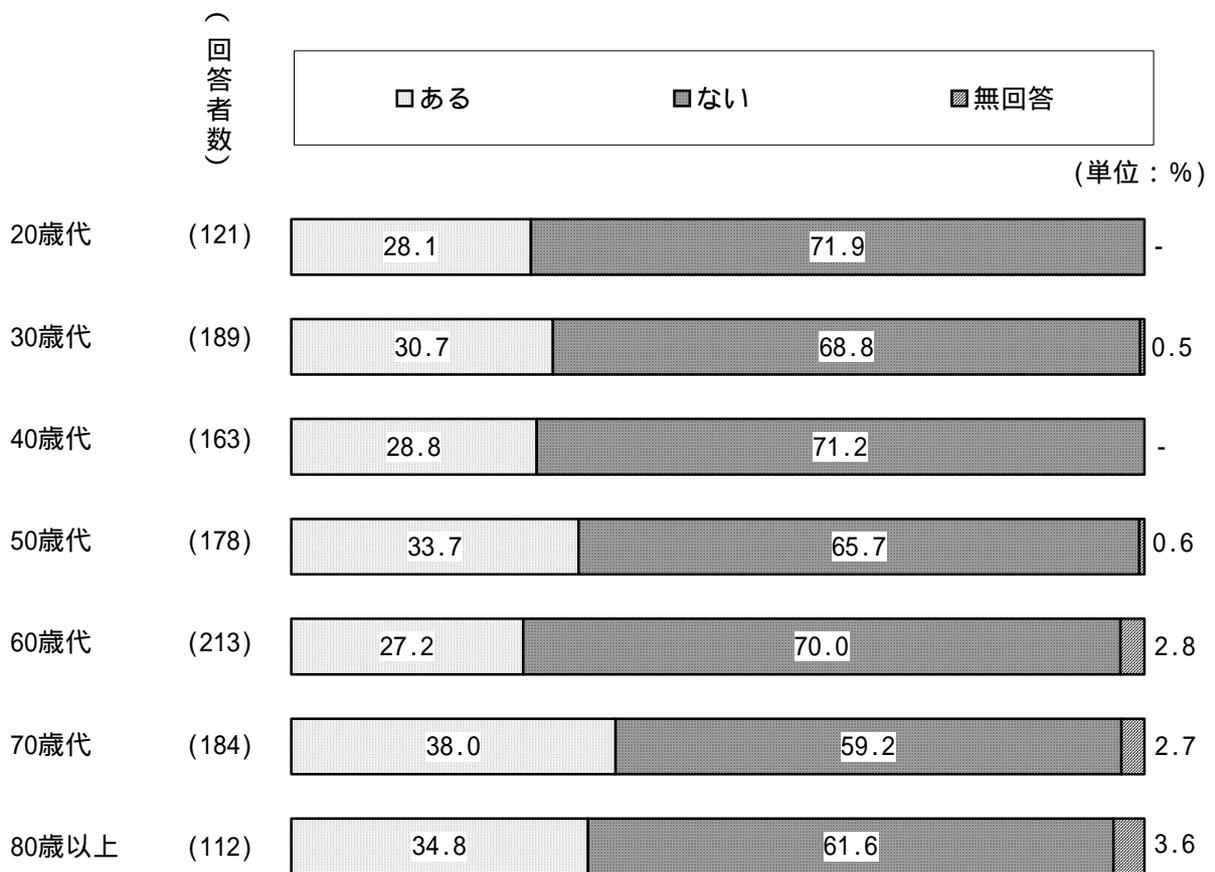


図1 - 53 年齢別



(19) うつ病に関して相談することへの抵抗感

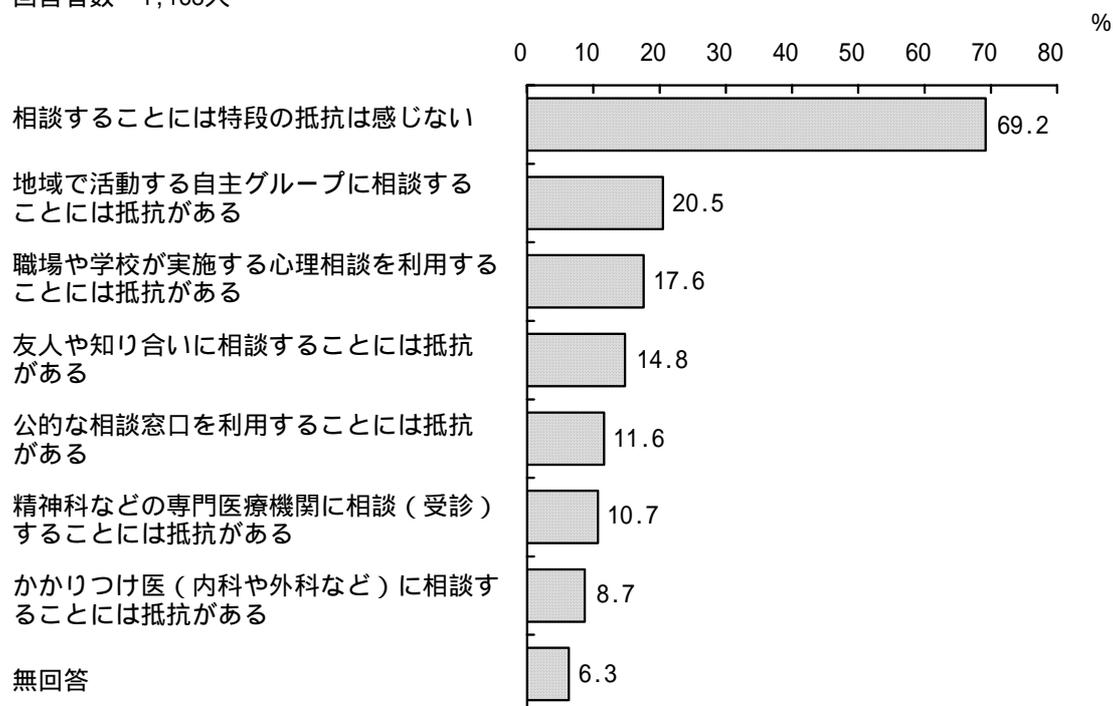
7割は相談することに抵抗感を感じない

(全員の方に)

問 19. 「うつ病」は、誰でもかかる可能性があります。適切に対応しないと病気が長引くことも多く、ときには自殺の要因になることもあります。本人や周囲の人が早く症状に気づき、早期に対応することが重要ですが、相談することに抵抗を感じる人が多いとされています。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたのお考えに近いのはどれですか。(あてはまるものすべてに)

図 1 - 54 全体

回答者数 1,168人



自分や家族がうつ病になったとき、相談することについては、「相談することには特段の抵抗は感じない」と答えた人が 69.2%で最も多くなっている。以下、「地域で活動する自主グループに相談することには抵抗がある」(20.5%)、「職場や学校が実施する心理相談を利用することには抵抗がある」(17.6%)、「友人や知り合いに相談することには抵抗がある」(14.8%)、「公的な相談窓口を利用することには抵抗がある」(11.6%)、「精神科などの専門医療機関に相談(受診)することには抵抗がある」(10.7%)、「かかりつけ医(内科や外科など)に相談することには抵抗がある」(8.7%)の順になっている。(図 1 - 54)

性別に見ると、「相談することには特段の抵抗は感じない」と答えた人では大きな差は見られない。「地域で活動する自主グループに相談することには抵抗がある」と答えた人では女性（24.3%）が男性（16.0%）より8ポイント高くなっている。また、「職場や学校が実施する心理相談を利用することには抵抗がある」では女性（19.2%）が男性（15.4%）よりも約4ポイントとやや高くなっている。（図1 - 55）

年齢別に見ると、「相談することには特段の抵抗は感じない」と答えた人は50～60歳代で80%弱と高くなっている。また全般的に年齢が上がるほど割合が低くなる傾向が見られる。「地域で活動する自主グループに相談することには抵抗がある」と答えた人では20～40歳代で、「職場や学校が実施する心理相談を利用することには抵抗がある」と答えた人では30～40歳代で、それぞれ約30%と高くなっている。（図1 - 56）

図1 - 55 性別（上位3項目）

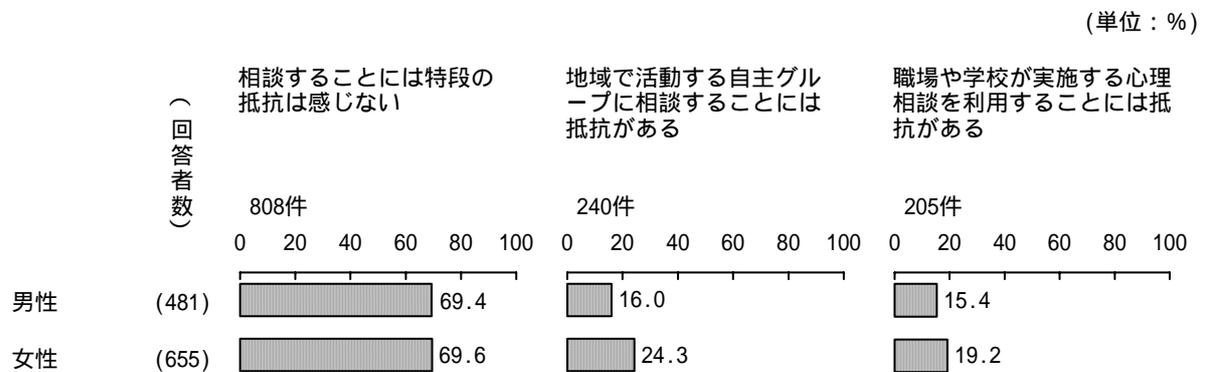
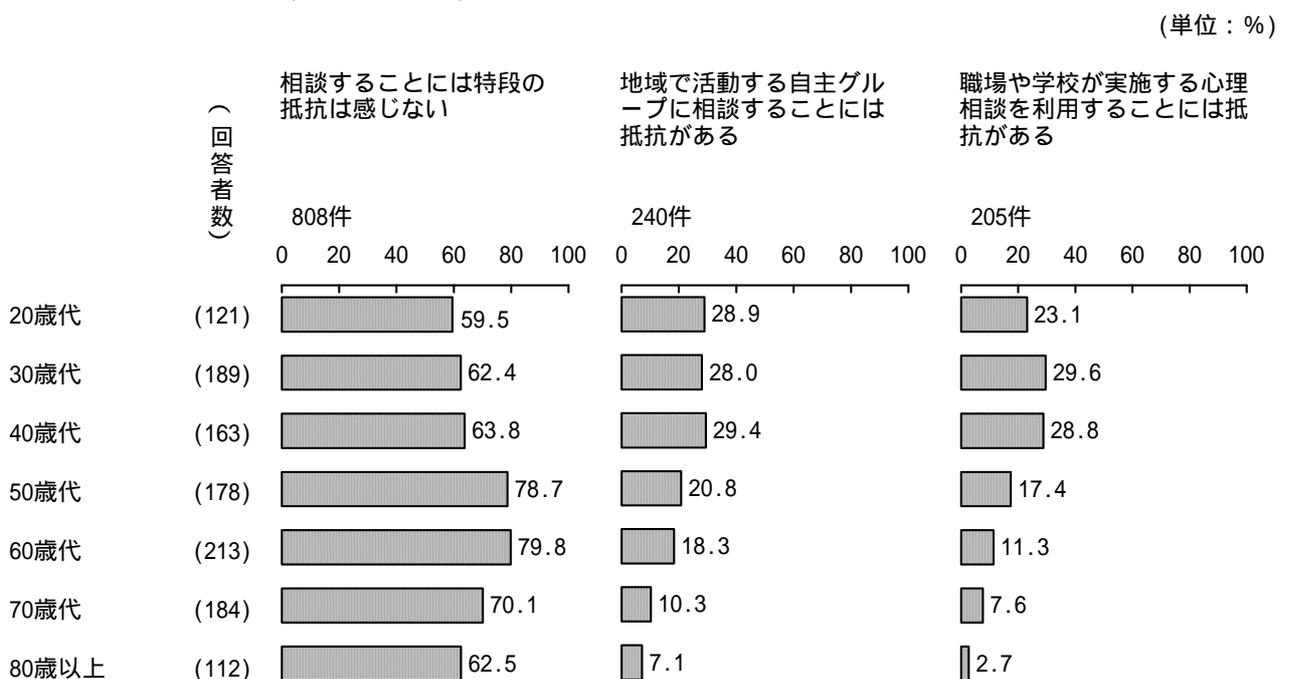


図1 - 56 年齢別（上位3項目）



(20) 大量飲酒の有無

4人に1人が大量飲酒をすることがある

(全員の方に)

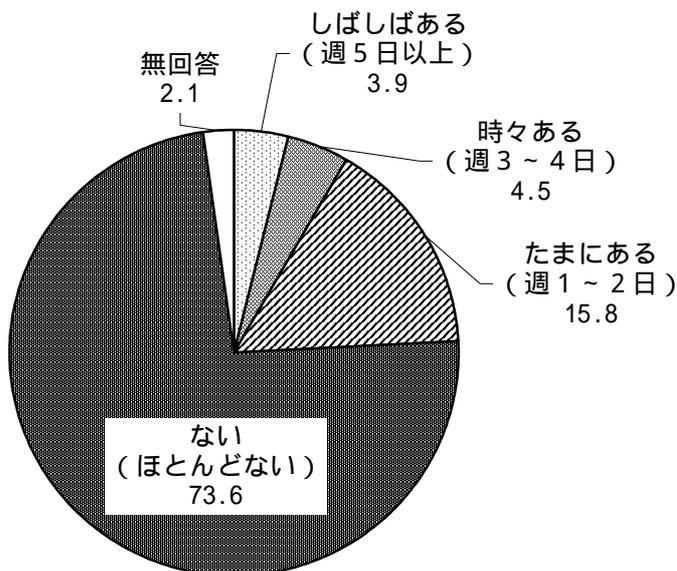
問20. あなたは、大量飲酒(1日・日本酒換算3合を超える飲酒)することがありますか。

(は1つ)

図1-57 全体

回答者数 1,168人

単位：%



大量飲酒をすることが「しばしばある(週5日以上)」と答えた人は3.9%、「時々ある(週3~4日)」と答えた人は4.5%、「たまにある(週1~2日)」と答えた人は15.8%で、4人に1人が大量飲酒をすることがあると答えている。一方、「ない(ほとんどない)」と答えた人は73.6%となっている。(図1-57)

性別に見ると、大量飲酒をすることがあると答えている人は、女性より男性が多い。一方、「ない(ほとんどない)」と答えた人は女性(83.4%)の方が男性(60.7%)より20ポイント以上高くなっている。(図1-58)(表1-5)

性年齢別に見ると、「しばしばある(週5日以上)」と答えた人は男性の30~70歳代で、「時々ある(週3~4日)」と答えた人は男性の50~60歳代で、「たまにある(週1~2日)」と答えた人は男性の20~50歳代で、それぞれ高くなっている。一方、「ない(ほとんどない)」と答えた人は女性で高くなっており、特に60歳代以上では90%前後となっている。(表1-5)

図1 - 58 性別

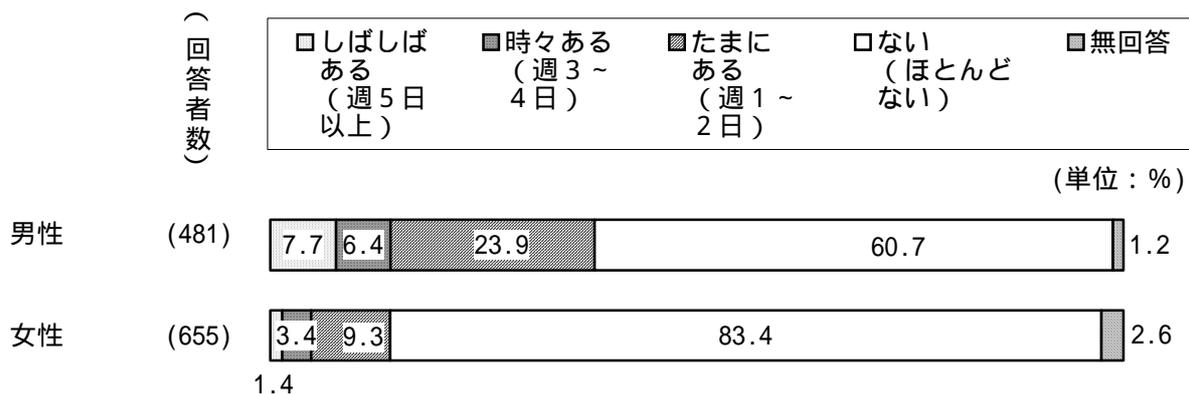


表1 - 5 性別、性・年齢別

単位：%

		回答者数	しばしばある (週5日以上)	時々ある (週3~4日)	たまにある (週1~2日)	ない (ほとんどない)	無回答
全体		1,168	3.9	4.5	15.8	73.6	2.1
性別	男性	481	7.7	6.4	23.9	60.7	1.2
	女性	655	1.4	3.4	9.3	83.4	2.6
男性	20歳代	48	2.1	6.3	27.1	64.6	-
	30歳代	71	8.5	5.6	32.4	52.1	1.4
	40歳代	65	12.3	6.2	24.6	56.9	-
	50歳代	98	8.2	10.2	29.6	52.0	-
	60歳代	89	7.9	9.0	20.2	60.7	2.2
	70歳代	66	9.1	1.5	18.2	71.2	-
	80歳以上	44	2.3	2.3	9.1	79.5	6.8
女性	20歳代	72	1.4	5.6	20.8	72.2	-
	30歳代	118	1.7	5.9	11.9	79.7	0.8
	40歳代	96	4.2	6.3	9.4	80.2	-
	50歳代	79	1.3	2.5	12.7	82.3	1.3
	60歳代	120	-	1.7	6.7	88.3	3.3
	70歳代	107	-	-	3.7	91.6	4.7
	80歳以上	62	1.6	1.6	1.6	85.5	9.7

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(21) 適度な飲酒量を認識している割合

適度な飲酒量を知っている人が6割強

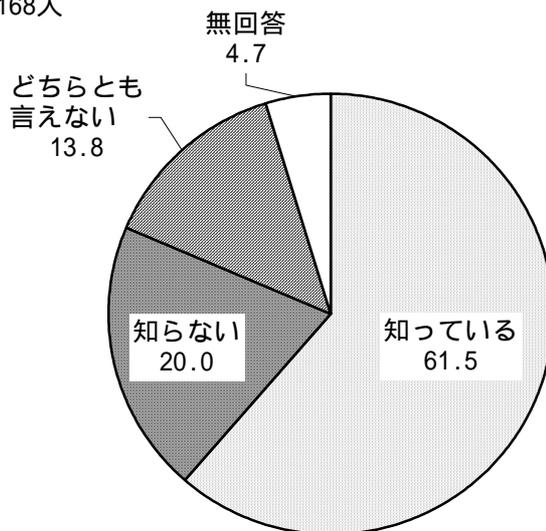
(全員の方に)

問21. あなたは、あなたにとって適度な飲酒量をご存じですか。(は1つ)

図1 - 59 全体

回答者数 1,168人

単位：%



自分にとって適度な飲酒量を「知っている」と答えた人は61.5%を占め、「知らない」と答えた人は20.0%、「どちらとも言えない」と答えた人は13.8%となっている。(図1 - 59)

性別に見ると、「知っている」と答えた人は男性(67.4%)の方が女性(56.9%)より10ポイント以上高くなっている。(図1 - 60)

年齢別に見ると、「知っている」と答えた人は50歳代で70%と最も高くなっている。一方、「知らない」と答えた人は70歳代以上で約30%と高くなっている。(図1 - 61)

節度ある適度な飲酒：1日平均純アルコールで約20グラム程度の飲酒

(注) 主な酒類の換算の目安

お酒の種類	ビール (中瓶1本500ml)	清酒 (1合180ml)	ウイスキー・ ブランデー (ダブル60ml)	焼酎(35度) (1合180ml)	ワイン (1杯120ml)
アルコール度数	5%	15%	43%	35%	12%
純アルコール量	20g	22g	20g	50g	12g

「健康日本21」より

図 1 - 60 性別

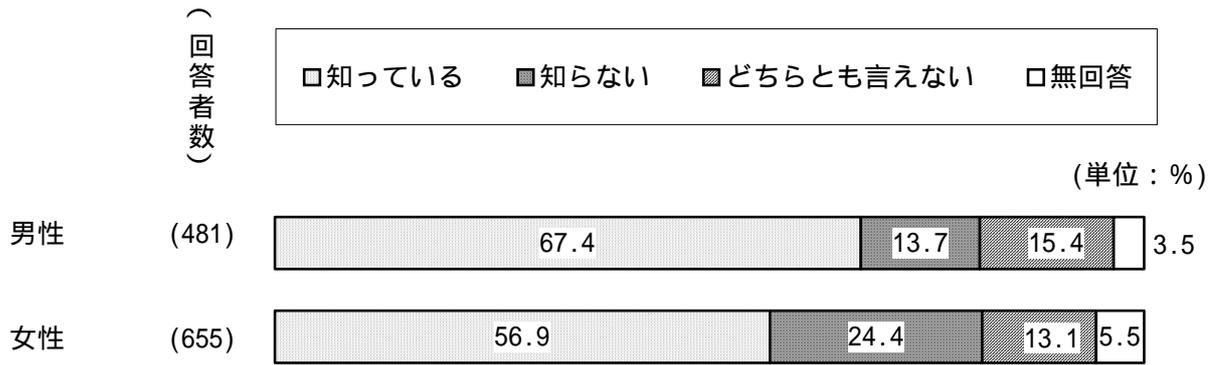
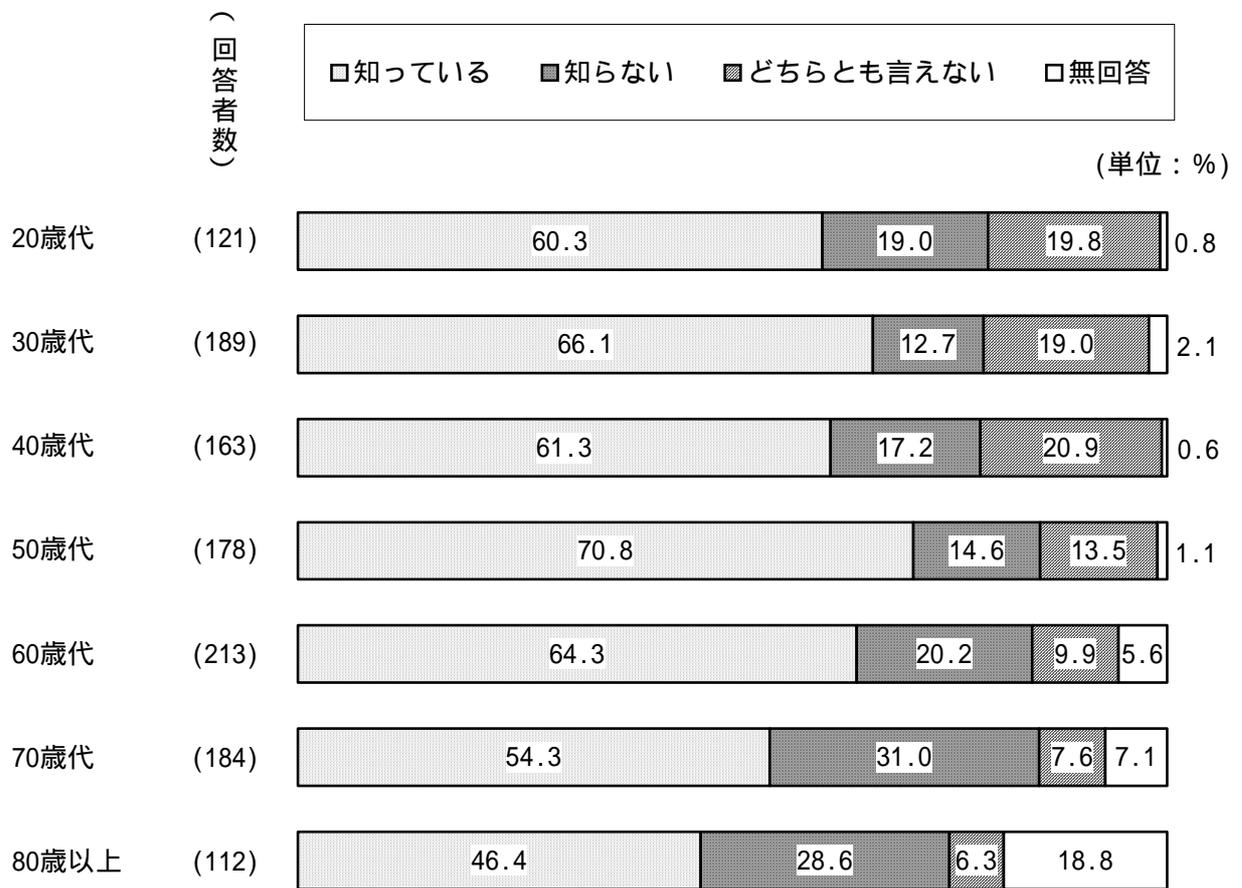


図 1 - 61 年齢別



(22) 国民健康保険制度のしくみを認識している度合い

おおむね知っていると答えた人は4割弱

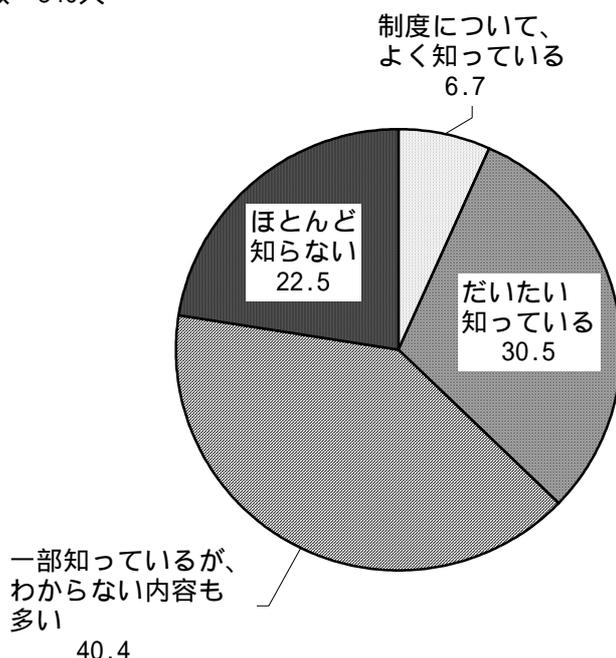
(国民健康保険に加入している方に)

問22. あなたは、国民健康保険制度のしくみ(手続き・保険料・給付内容など)について、どの程度ご存じですか。(は1つ)

図1 - 62 全体

回答者数 840人

単位：%



国民健康保険に加入している人に、国民健康保険制度のしくみについてどの程度知っているか聞いたところ、「制度について、よく知っている」と答えた人が6.7%、「だいたい知っている」と答えた人が30.5%で、この両者を合わせた“おおむね知っている”が4割弱となっている。また、「一部知っているが、わからない内容も多い」と答えた人は40.4%、「ほとんど知らない」と答えた人は22.5%となっている。(図1 - 62)

性別に見ると、「制度について、よく知っている」と答えた人は男性の方が4.5ポイントとやや高くなっている。(男性9.3%、女性4.7%)一方、「ほとんど知らない」と答えた人は女性の方が5.4ポイント高くなっている。(女性24.9%、男性19.5%)(図1 - 63)

年齢別に見ると、「制度について、よく知っている」と答えた人は40歳代を除いて年齢が上がるほど割合が高くなっているが、20~30歳代では2%台、40歳代では1.1%と低く、「ほとんど知らない」と答えた人は20歳代で47.8%と約半数となっている。(図1 - 64)

図1 - 63 性別

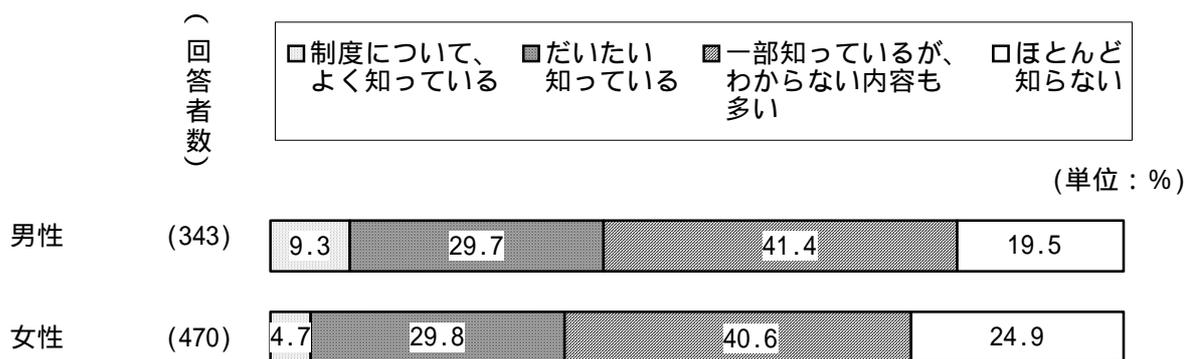
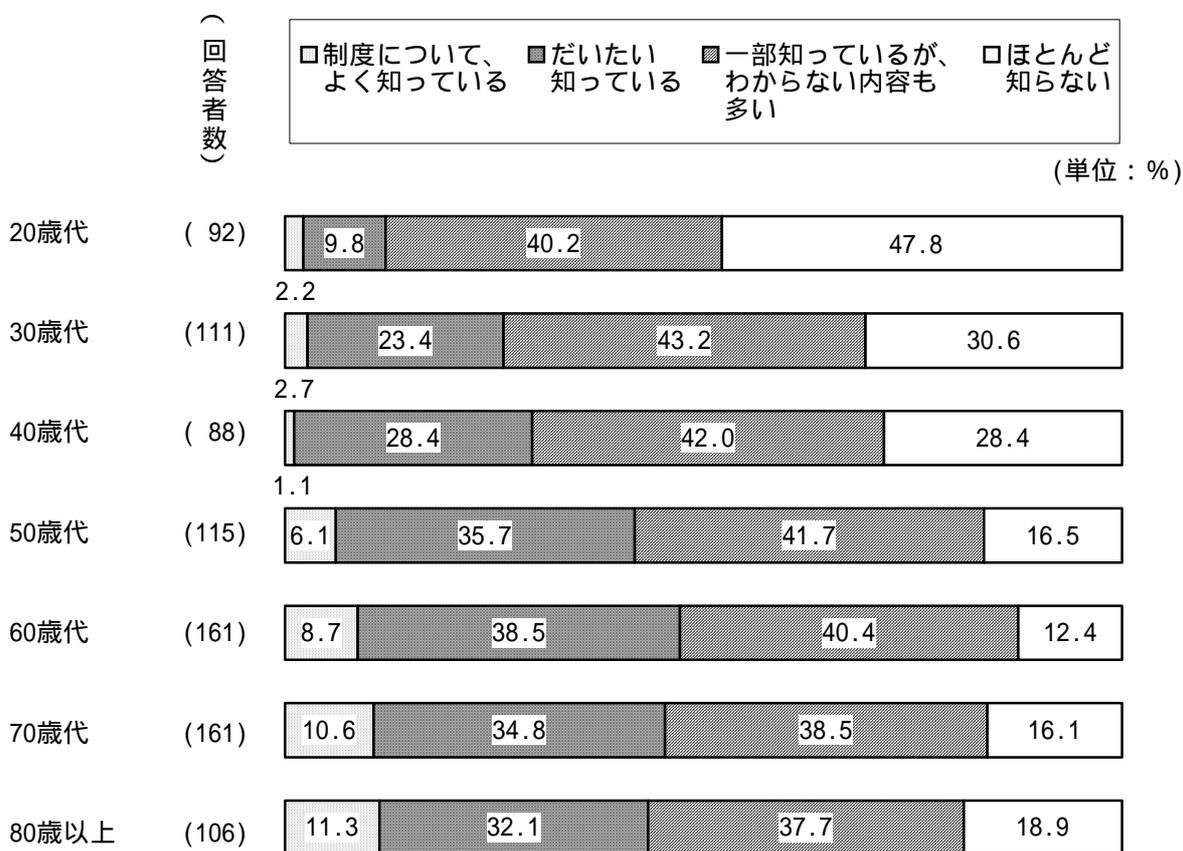


図1 - 64 年齢別



2. 地域活動について

(1) 地域の活動への参加

7割強が不参加、参加が最も多いのは町会などの活動が1割強

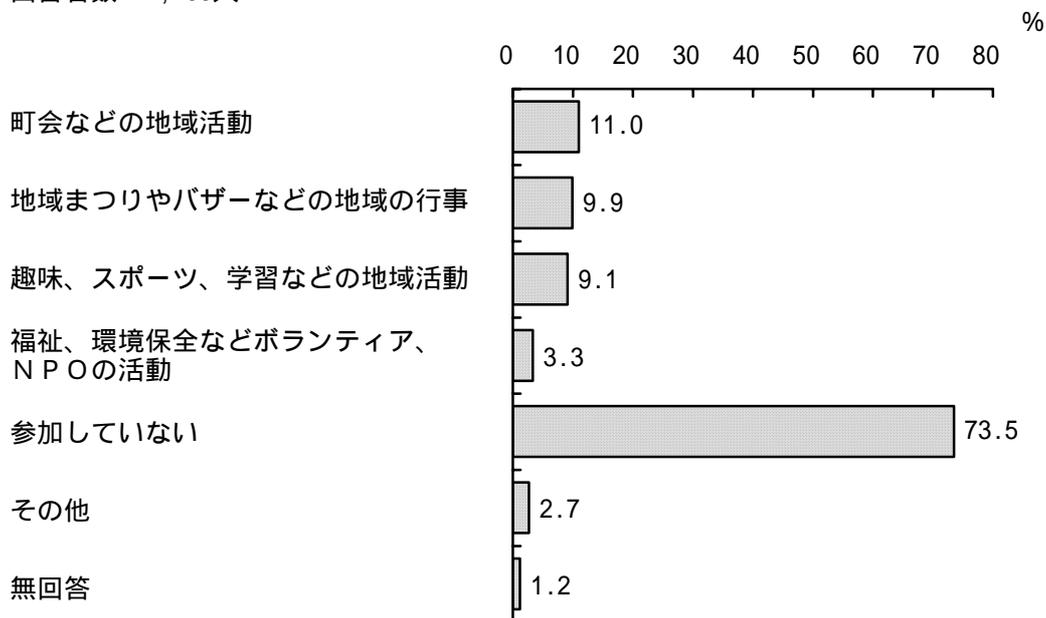
(全員の方に)

問23. あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。

(あてはまるものすべてに)

図2-1 全体

回答者数 1,168人



参加している地域活動としては、「町会などの地域活動」(11.0%)が最も多く、以下、「地域まつりやバザーなどの地域の行事」(9.9%)、「趣味、スポーツ、学習などの地域活動」(9.1%)、「福祉、環境保全などボランティア、NPOの活動」(3.3%)の順になっている。一方、「参加していない」と答えた人は73.5%となっている。(図2-1)

性別に見ると、どの活動においても女性の割合が高くなっており、特に、「地域まつりやバザーなどの地域の行事」では女性(13.0%)の方が男性(6.0%)より7ポイント高くなっている。一方、「参加していない」と答えた人では男性の方が10ポイント高くなっている。(男性80.0%、女性69.5%)(図2-2)

年齢別に見ると、「趣味、スポーツ、学習などの地域活動」と答えた人は70歳代で17.9%と高い。また、「参加していない」と答えた人は20~30歳代で80%前後と高くなっている。(図2-3)

職業別に見ると、どの活動においても、自営業、家族従業員、家事専業で高くなっている。また、「参加していない」と答えた人は常勤の会社員、公務員、団体職員、契約社員・パート・アルバイト・非常勤職員で80%以上と高くなっている。(図2-4)

世帯構成別に見ると、「参加していない」と答えた人は1人世帯で84.6%と高くなっている。

中野区での居住年数別に見ると、「参加していない」と答えた人は1年未満で97.7%と非常に高く、1～4年でも85.8%となっている。(図2-5)

居住地域別に見た場合、有意的な差異は認められなかった。

図2-2 性別(上位3項目)

(単位: %)

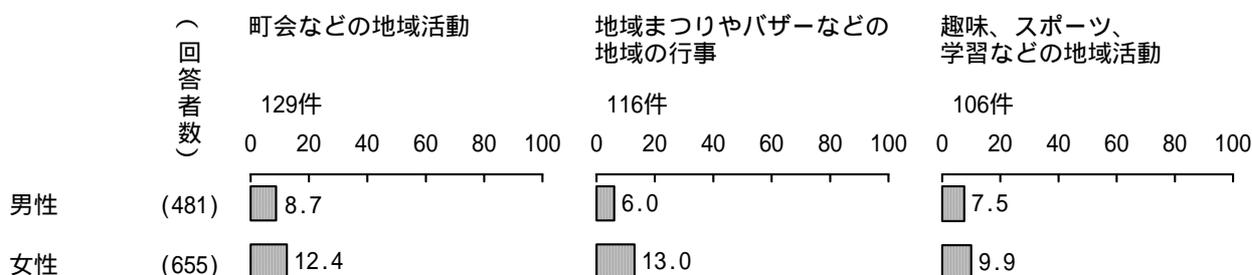


図2-3 年齢別(上位3項目)

(単位: %)

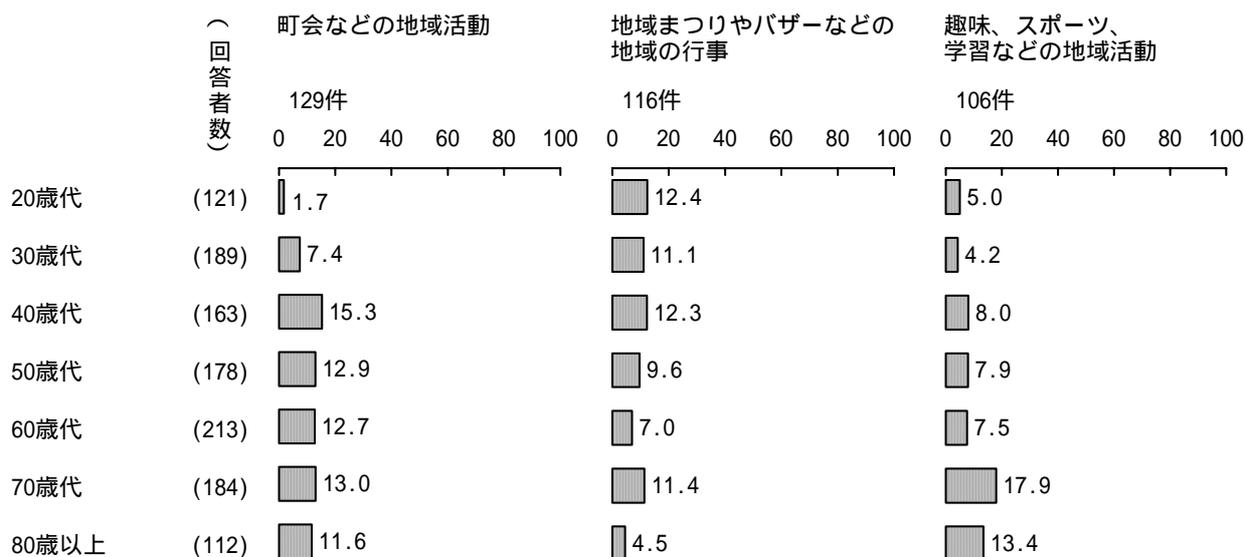


図2 - 4 職業別（上位3項目）

(単位：%)

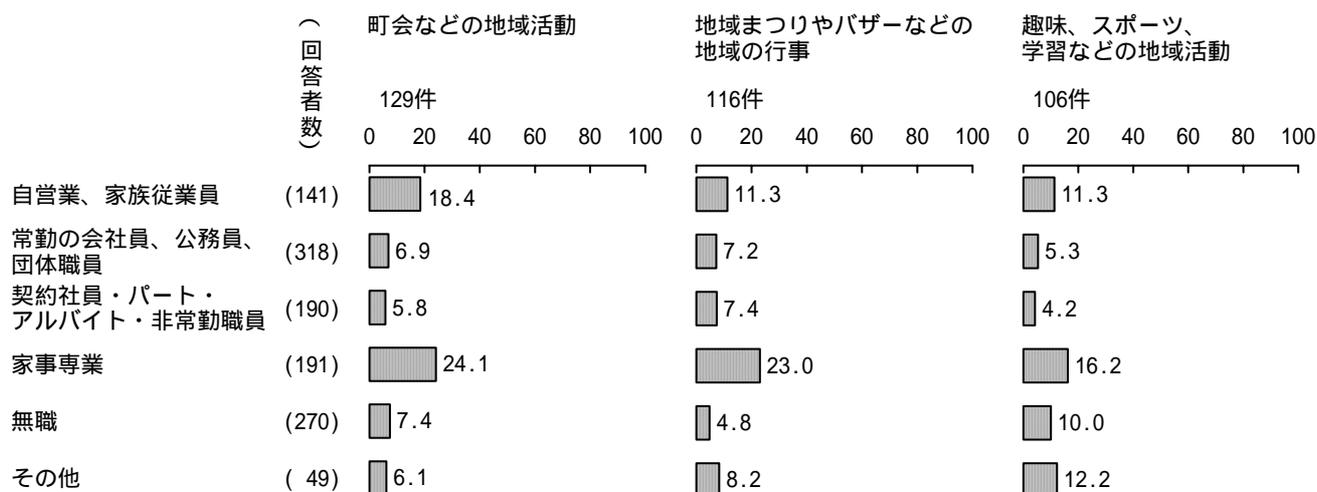
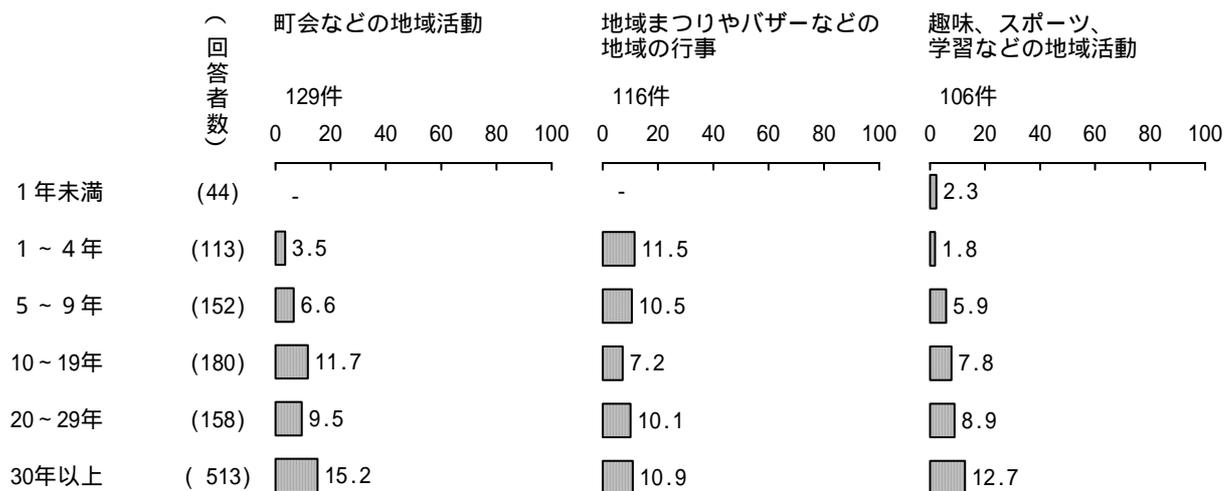


図2 - 5 中野区居住年数別（上位3項目）

(単位：%)



(2) 地域の支えあい活動のエリア

「小学校区の範囲」が4割強

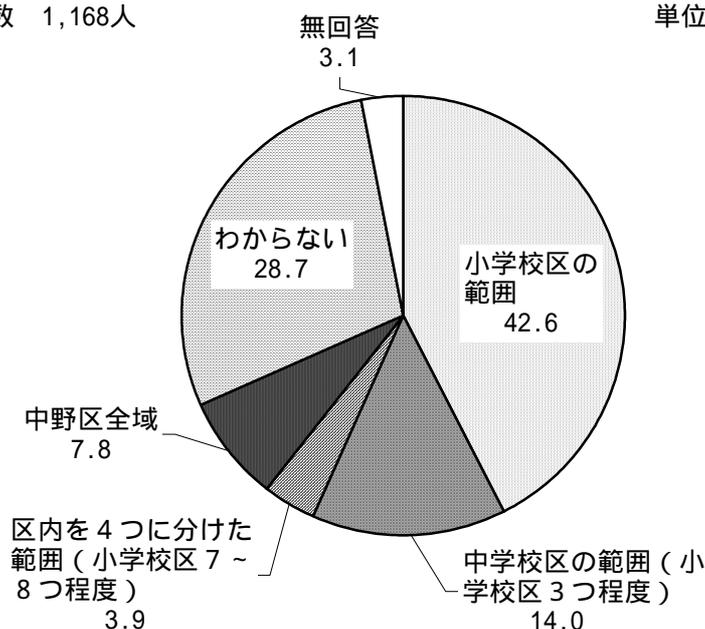
(全員の方に)

問24. 地域の支えあい活動といった場合、あなたは活動エリアとしてどの程度の広さを思い浮かべますか。最も近いものを選んでください。(は1つ)

図2-6 全体

回答者数 1,168人

単位：%



地域の支えあい活動のエリアとして思い浮かべる広さについては、「小学校区の範囲」と答えた人が42.6%で最も多くなっている。以下、「中学校区の範囲(小学校区3つ程度)」(14.0%)、「中野区全域」(7.8%)、「区内を4つに分けた範囲(小学校区7~8つ程度)」(3.9%)となっている。(図2-6)

年齢別に見ると、「小学校区の範囲」と答えた人は40歳代で59.5%と最も高く、30、50歳代では5割弱となっている。また、「中野区全域」と答えた人は20歳代で14.0%と最も高くなっている。一方、「わからない」と答えた人は80歳以上で半数となっている。(図2-7)

地域活動への参加別に見ると、「小学校区の範囲」「中学校区の範囲」と答えた人は町会などの地域活動、地域まつりやバザーなどの地域の行事でそれぞれ5割以上となっている。(図2-8・59ページ問23参照)

居住地域別に見た場合、有意的な差異は認められなかった。

図2 - 7 年齢別

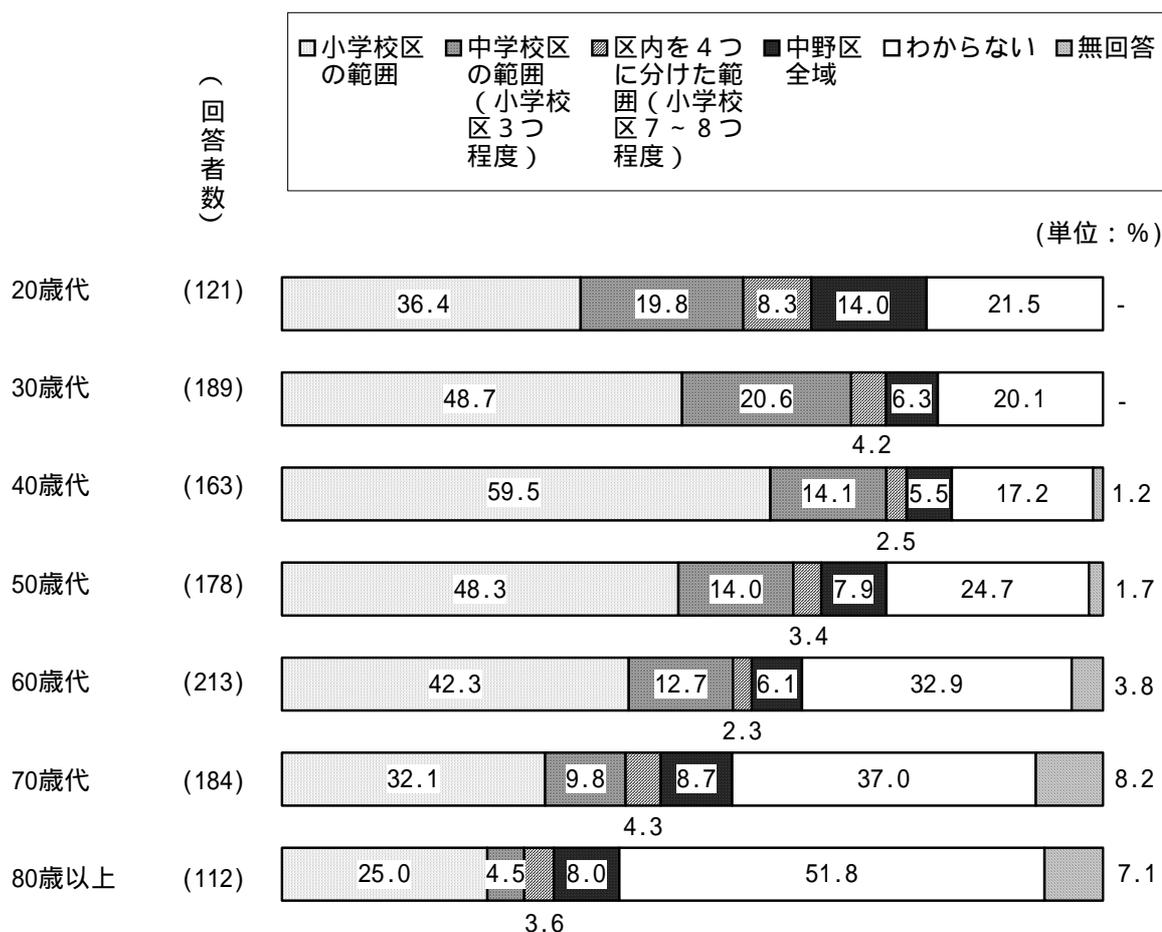
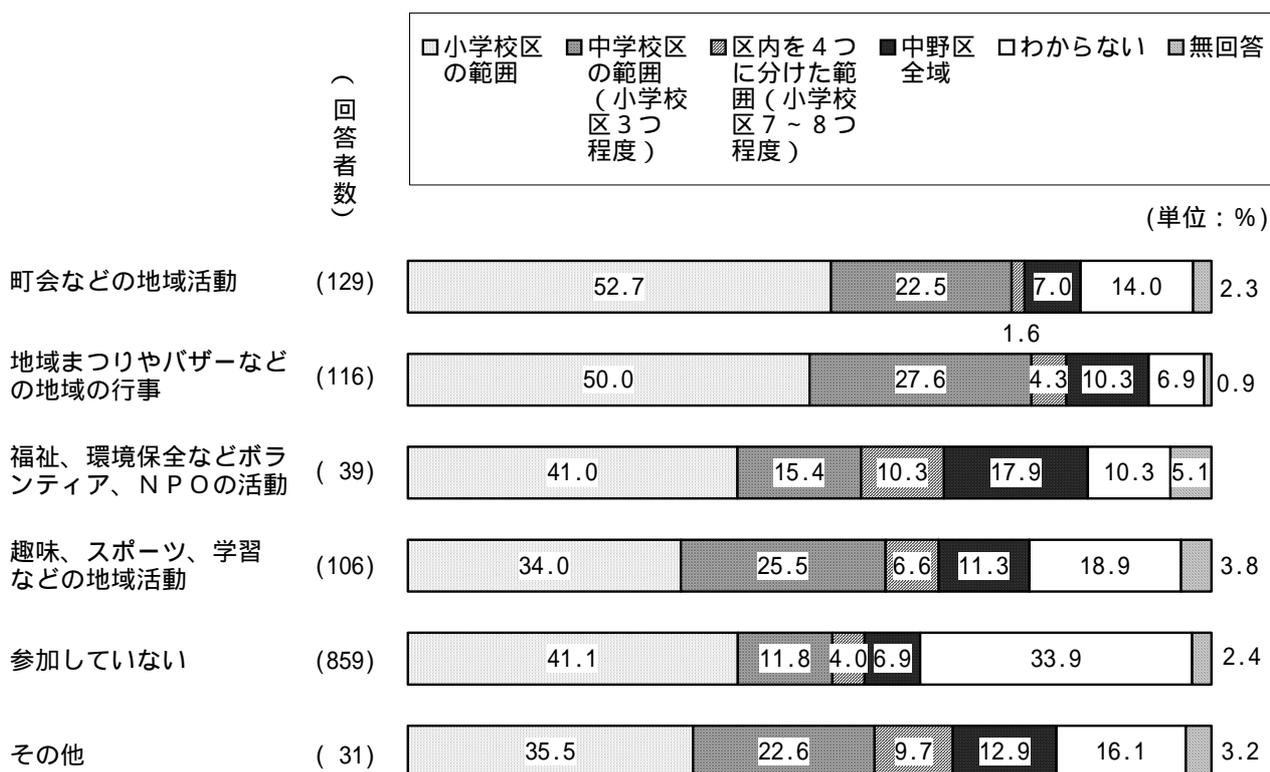


図2 - 8 地域の支えあいの活動エリアと参加している地域活動の関係



(3) 近所づきあいの程度

会釈したり、世間話程度のおつきあいが主

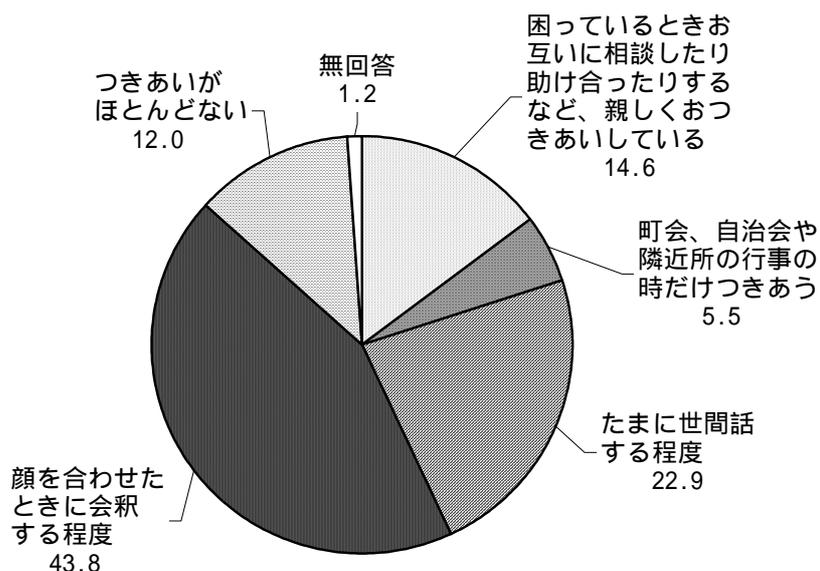
(全員の方に)

問25. あなたのご近所とのつきあいはどのようなものですか。(は1つ)

図2-9 全体

回答者数 1,168人

単位：%



近所づきあいの程度については、「顔を合わせたときに会釈する程度」と答えた人が43.8%で最も多くなっている。以下、「たまに世間話する程度」(22.9%)、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」(14.6%)、「町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう」(5.5%)となっている。また、「つきあいがほとんどない」と答えた人が12.0%となっている。(図2-9)

性別に見ると、男女とも「顔を合わせたときに会釈する程度」が最も高いが、その割合は男性51.8%、女性38.5%と10ポイント以上の差が見られる。女性は「たまに世間話する程度」「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」といった親しいつきあい方でも男性よりも高くなっている。(図2-10)

年齢別に見ると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」と答えた人は60歳代以上で20%前後、「たまに世間話する程度」を答えた人は50~60歳代で約30%、「顔を合わせたときに会釈する程度」「つきあいがほとんどない」と答えた人は20~30歳代で、それぞれ高くなっている。(図2-11)

職業別に見ると、「お互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」は自営業、家族従業員、家事専業、無職で 20%以上となっている。「たまに世間話する程度」は家事専業で 34.6%と最も高く、家事専業の人が近所の人と親しくつきあっていることが分かる。(図 2 - 12)

住居形態別に見ると、公営住宅と持ち家（一戸建て）の人は「お互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」「たまに世間話をする程度」でそれぞれ高い。また、「顔を合わせたときに会釈する程度」は社宅、社員寮、公務員住宅の人で 6 割弱、持ち家（マンションなどの集合住宅）、民間賃貸住宅の人でも半数弱と高い。一方、民間賃貸住宅の人は「つきあいがほとんどない」でも 3 割と高い。(図 2 - 13)

居住地域別に見た場合、有意的な差異は認められなかった。

図 2 - 10 性別

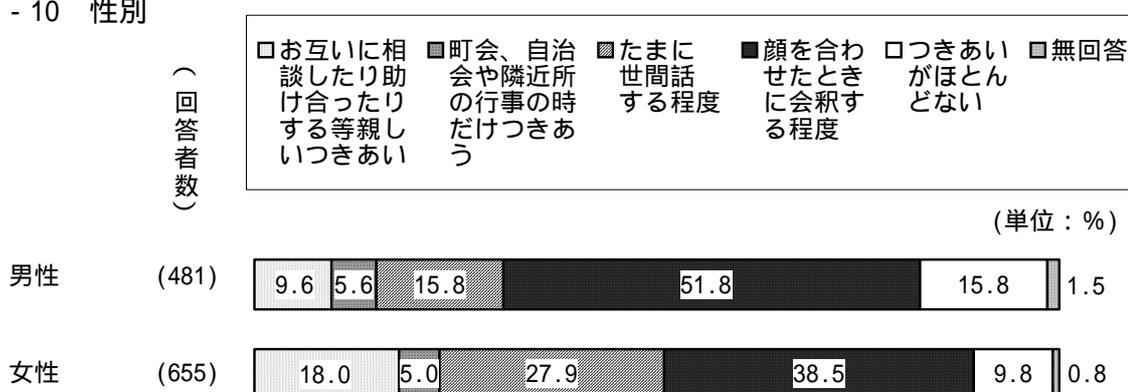


図 2 - 11 年齢別

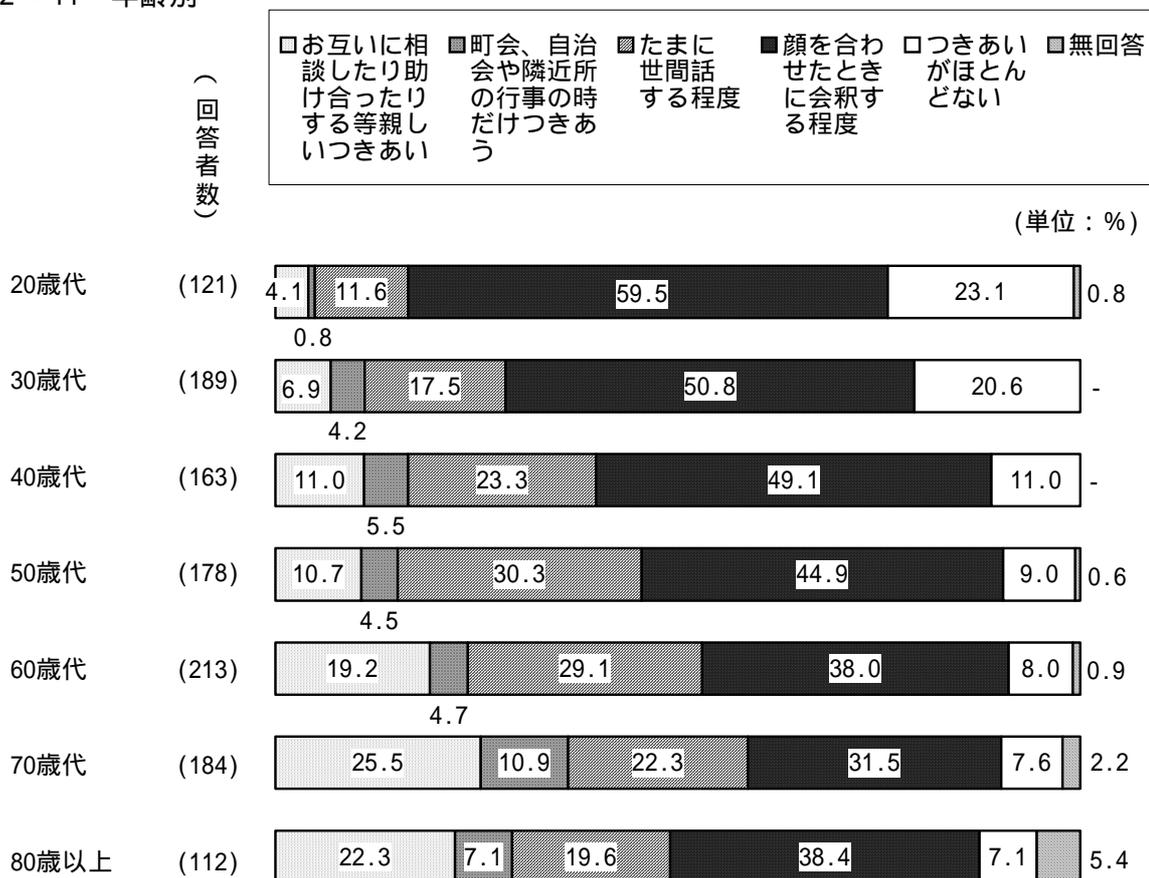


図 2 - 12 職業別

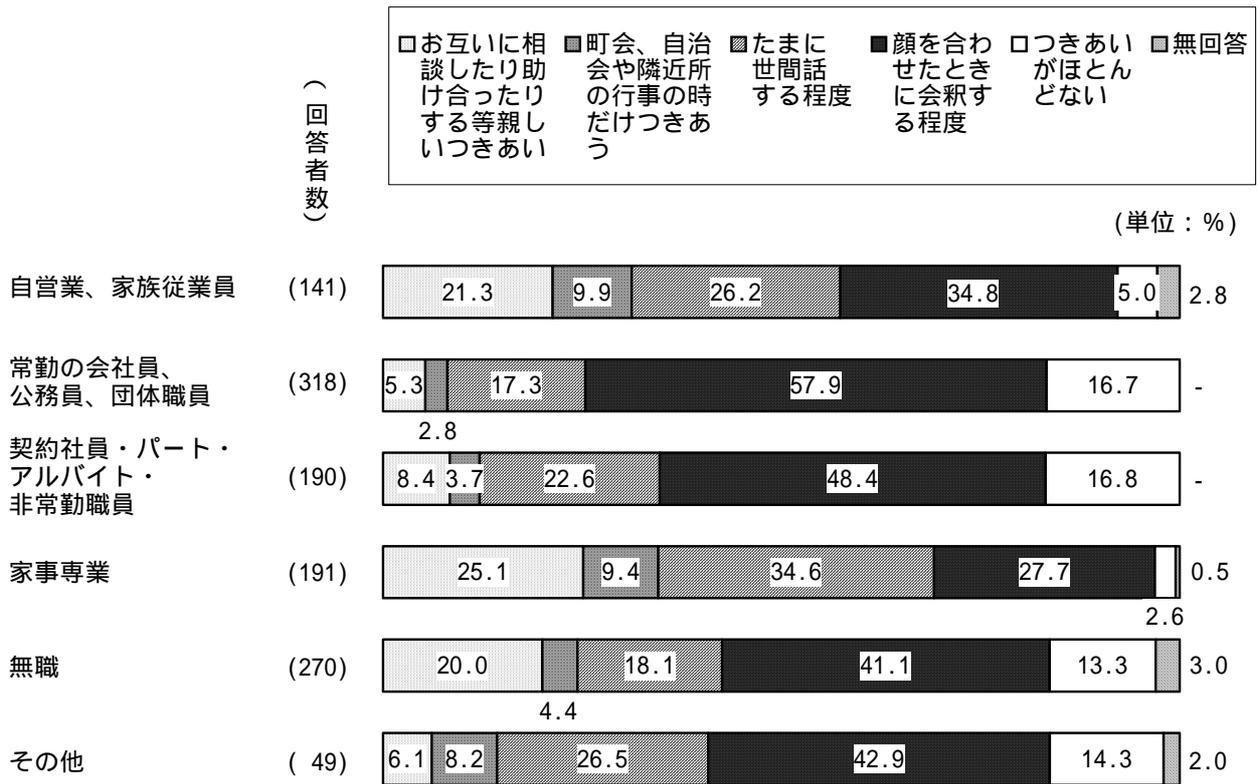
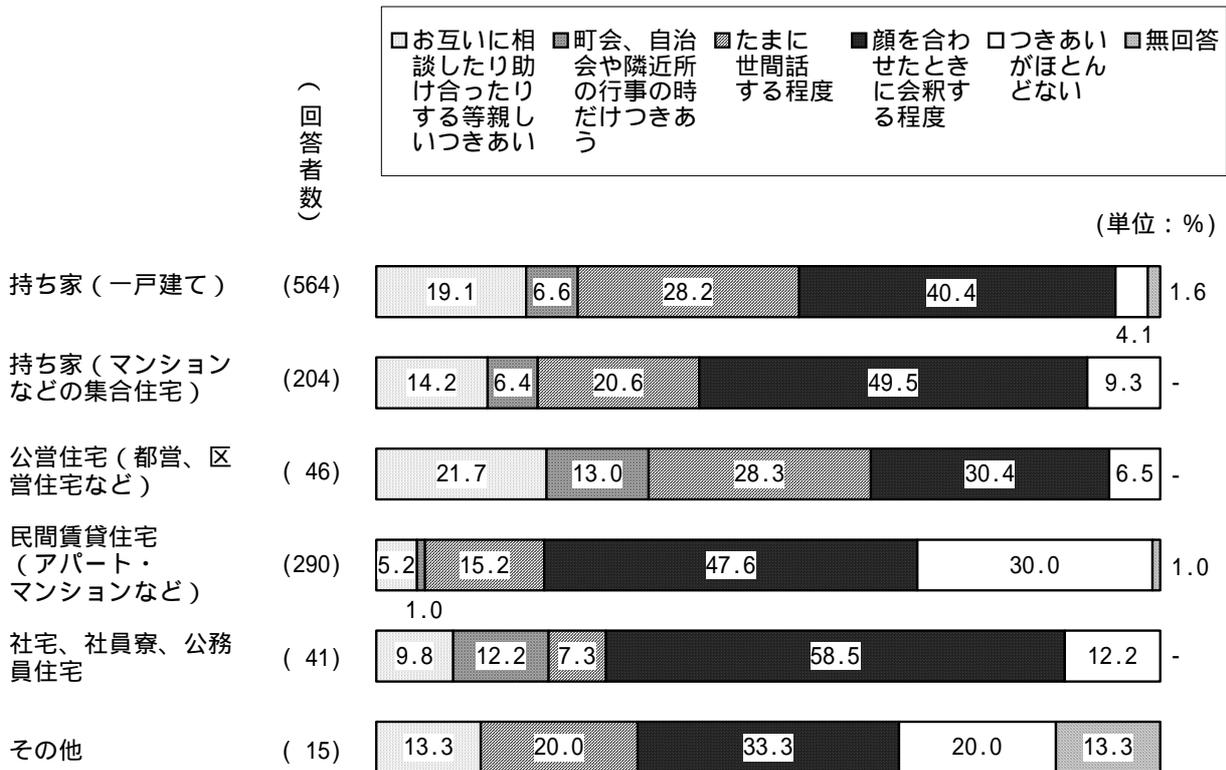


図 2 - 13 住居形態別



(4) 地域住民間の見守りや支えあいの必要性についての実感

実感したことがある人は6割弱

(全員の方に)

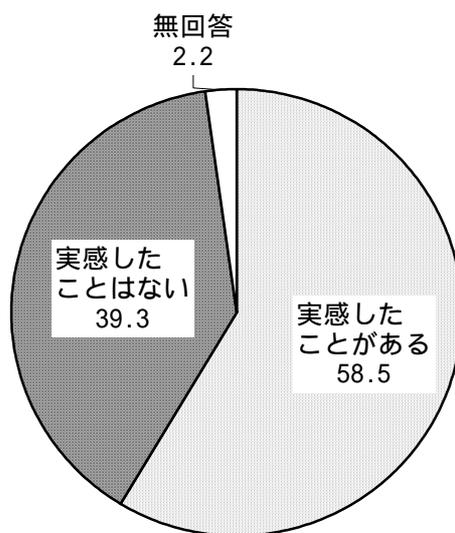
問26. あなたは、地域住民間の見守りや支えあいが必要だと実感したことがありますか。

(は1つ)

図2-14 全体

回答者数 1,168人

単位：%



地域住民間の見守りや支えあい...高齢者世帯や障害者世帯、子育て世帯などに対する声かけや困りごとへのちょっとしたお手伝い

地域住民間の見守りや支えあいが必要だと「実感したことがある」と答えた人は58.5%を占め、「実感したことはない」と答えた人は39.3%となっている。(図2-14)

性別に見ると、「実感したことがある」と答えた人は女性(60.2%)が男性(55.5%)より約5ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「実感したことがある」と答えた人は70歳代(65.8%)で6割半、60歳代(59.6%)で約6割と高くなっている。(図2-15)

世帯構成別に見ると、「実感したことがある」と答えた人は2世代世帯(親と子)で63.1%と高くなっている。一方、「実感したことはない」と答えた人は1人世帯で50.3%と半数となっている。(図2-16)

住居形態別に見ると、「実感したことがある」と答えた人は公営住宅(都営、区営住宅など)で76.1%と最も高く、次いで、持ち家(一戸建て)で63.3%となっている。一方、「実感したことはない」と答えた人は民間賃貸住宅(アパート・マンションなど)で48.3%、持ち家(マ

ンションなどの集合住宅)で46.1%と、それぞれ約半数となっている。(図2 - 17)

近所とのつきあい別に見ると、親しいつきあいがあるほど「実感したことがある」と答えた人の割合が高い。(図2 - 18・64 ページ問 25 参照)

居住地域別に見た場合、有意的な差異は認められなかった。

図2 - 15 年齢別

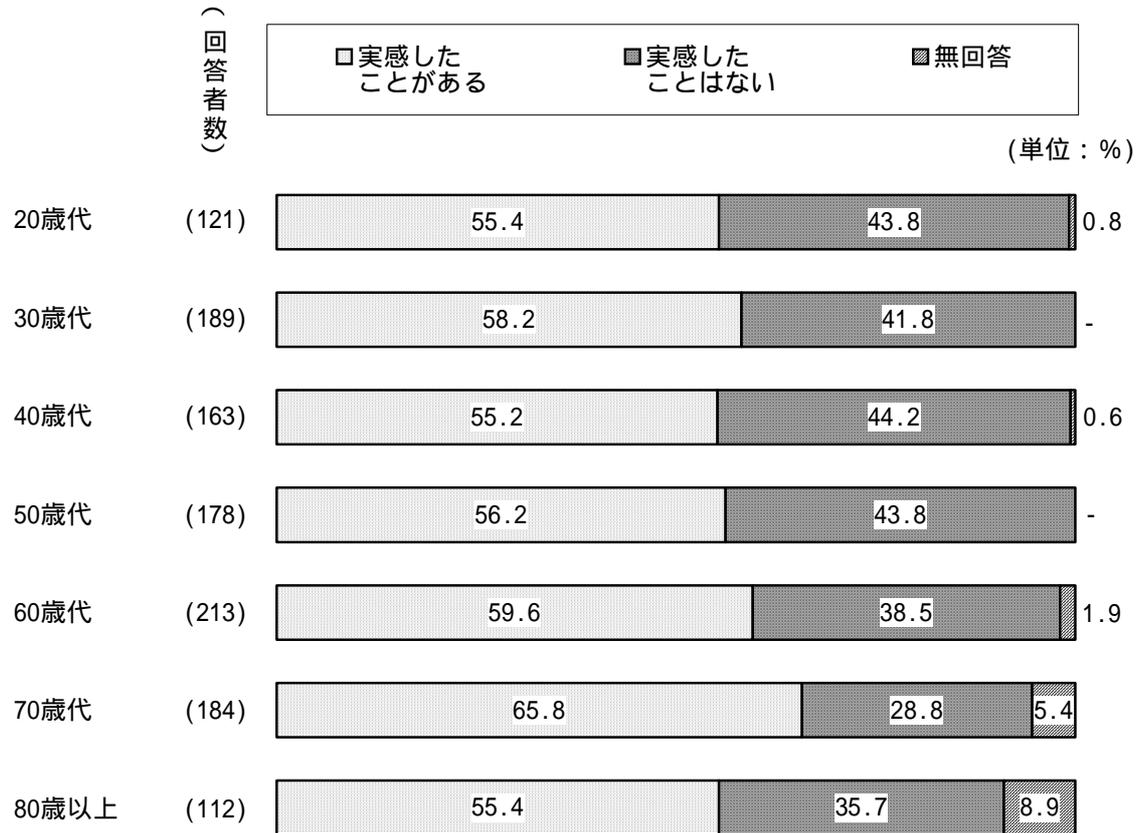


図2 - 16 世帯構成別

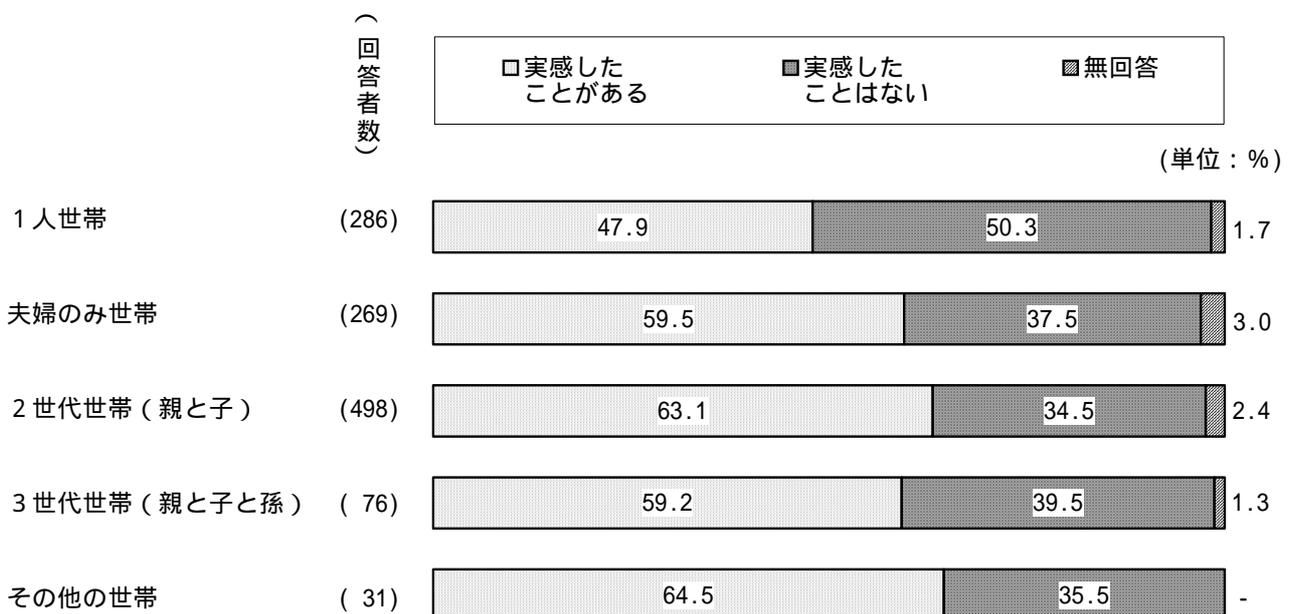


図 2 - 17 住居形態別

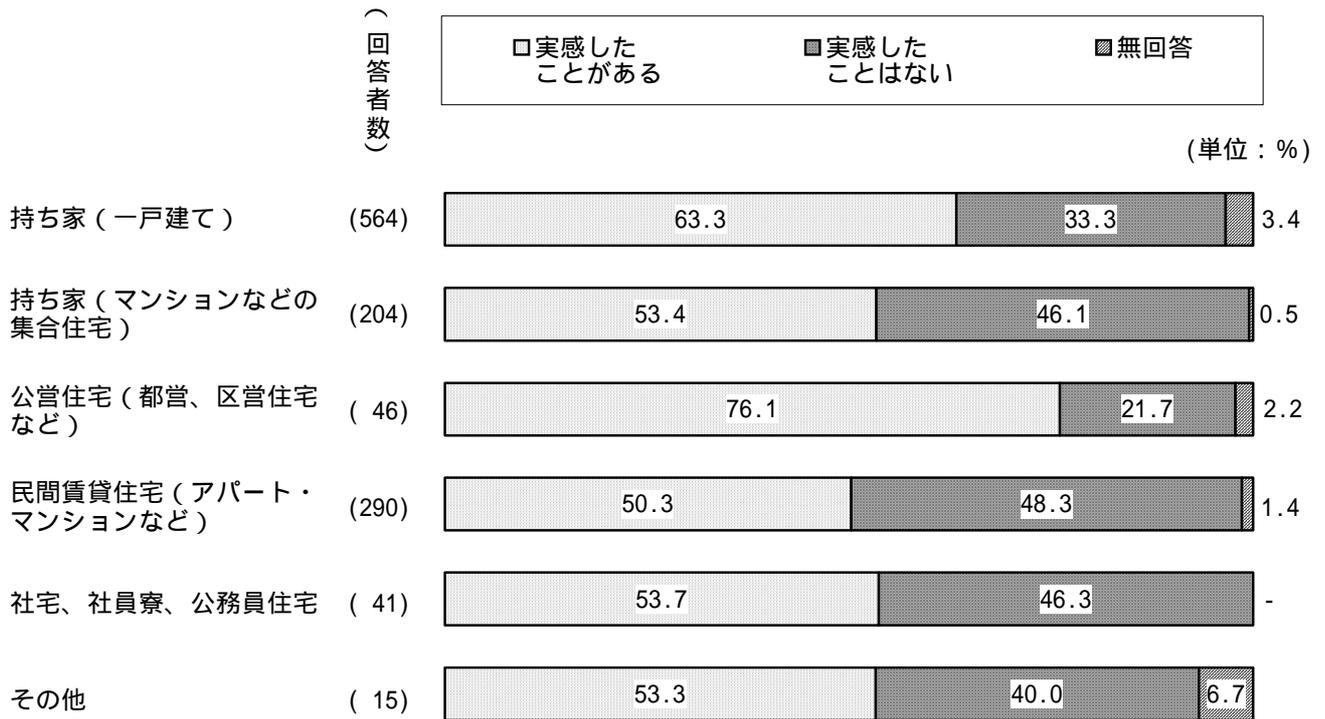
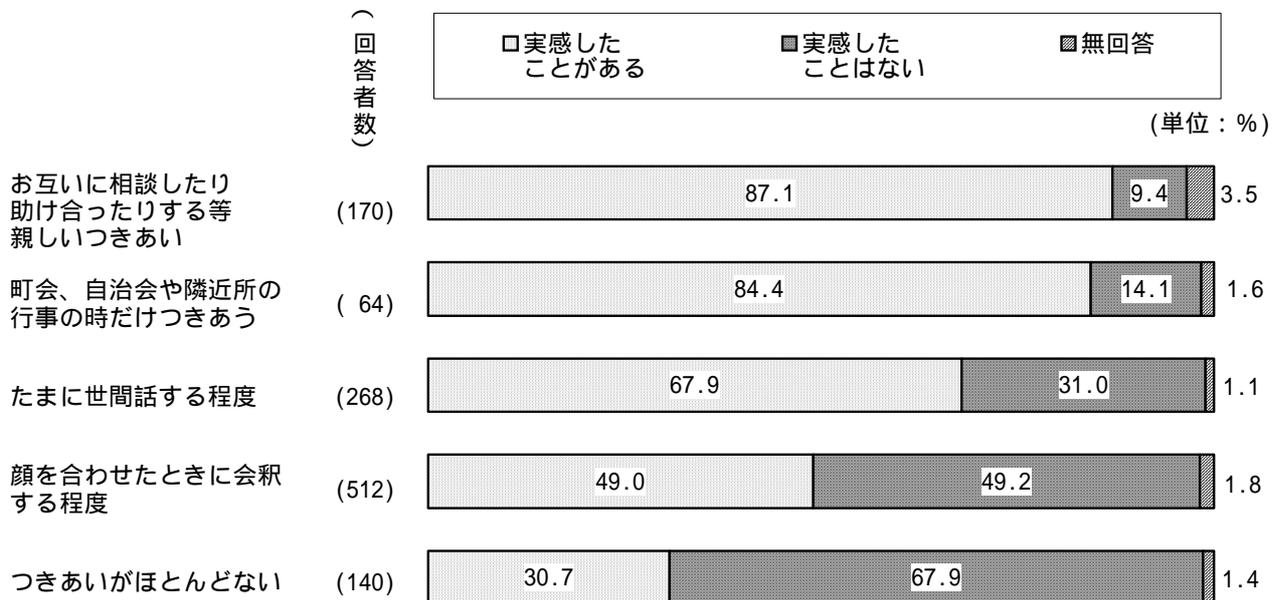


図 2 - 18 地域住民間の見守りや支えあいの必要性の実感と近所とのつきあいの関係



(5) 地域住民間の見守りや支えあいの活動

実際に見守りや支えあいの活動をしている人は2割

(全員の方に)

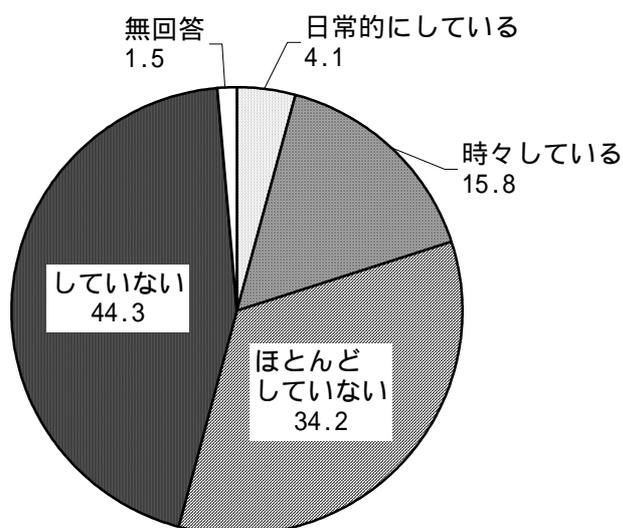
問27. あなたは、地域住民間の見守りや支えあいの活動をどの程度していますか。

(は1つ)

図2 - 19 全体

回答者数 1,168人

単位：%



地域住民間の見守りや支えあいの活動を「日常的にしている」と答えた人は4.1%、「時々している」と答えた人は15.8%で、活動している人は2割である。一方、「ほとんどしていない」と答えた人は34.2%、「していない」と答えた人は44.3%となっている。(図2 - 19)

性別に見ると、「日常的にしている」「時々している」ともに女性の方がやや高くなっており、女性の方が男性より5ポイント、活動をしている人の割合が高い。(図2 - 20)

年齢別に見ると、70歳代で「日常的にしている」が7.6%、「時々している」が26.1%と最も高く、活動している人が3割以上となっている。一方、「していない」と答えた人は20歳代で64.5%となっており、「ほとんどしていない」と合わせた活動していない人の割合は9割を超えている。(図2 - 21)

居住年数別に見た場合、「日常的にしている」「時々している」は30年以上でそれぞれ最も多くなっている。(図2 - 22)

近所づきあい別に見た場合、「日常的にしている」はお互いに相談したり助け合ったりする

など親しいつきあいで 22.9%と最も多く、「時々している」は町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあうで 50.0%と最も多くなっている。(図 2 - 23・64 ページ問 25 参照)

居住地域別に見た場合、有意的な差異は認められなかった。

図 2 - 20 性別

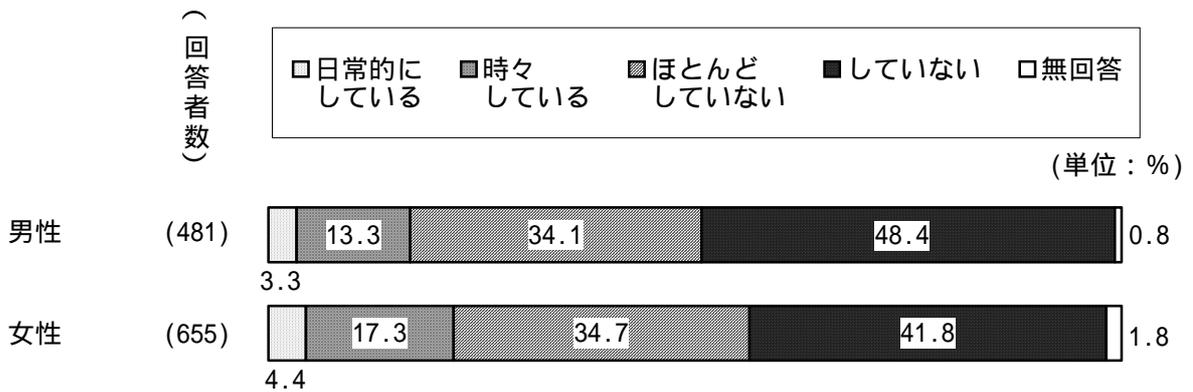


図 2 - 21 年齢別

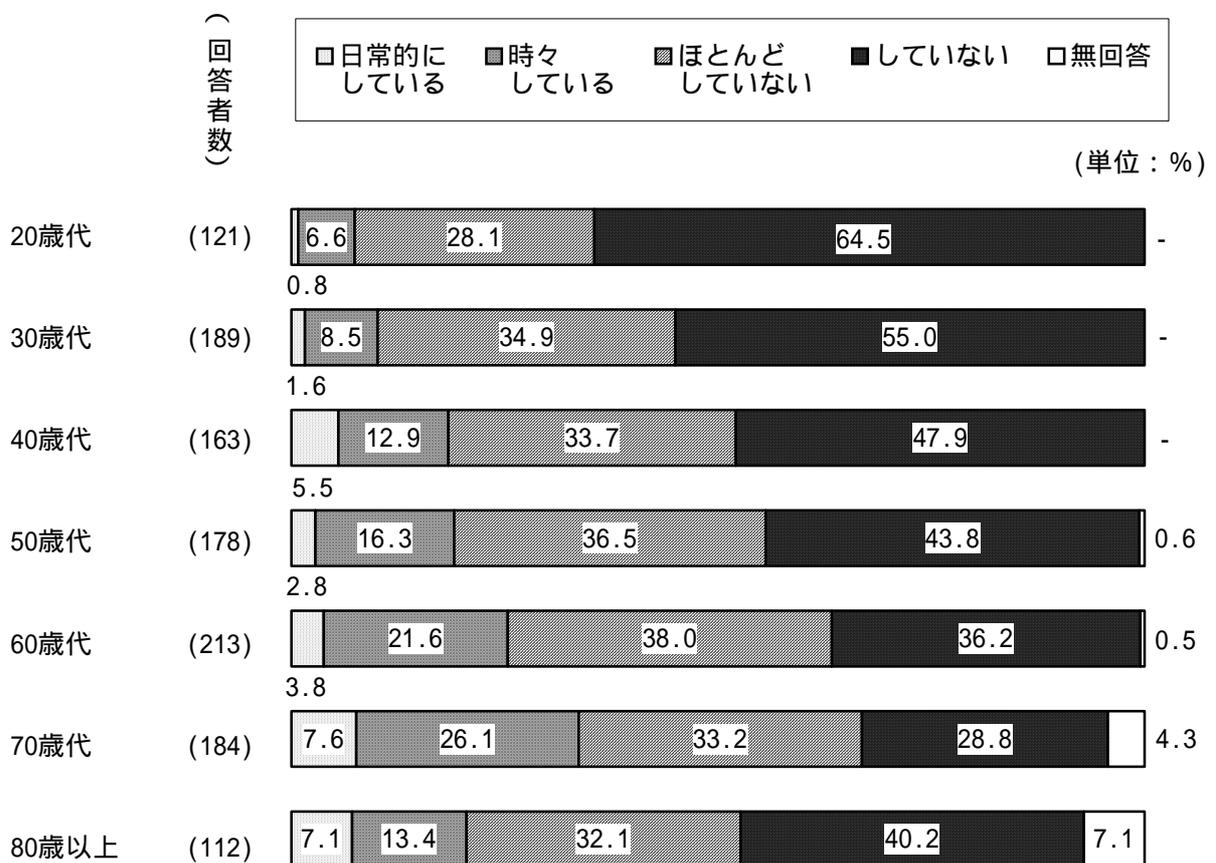


図 2 - 22 居住年数別

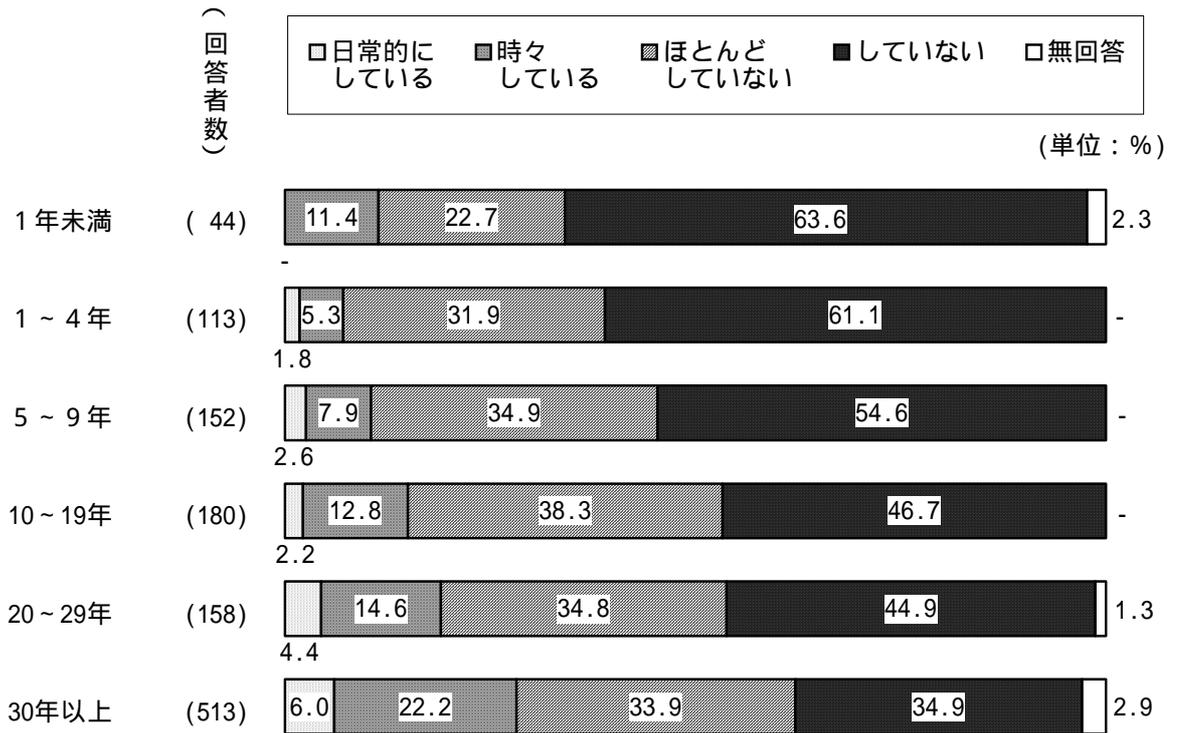
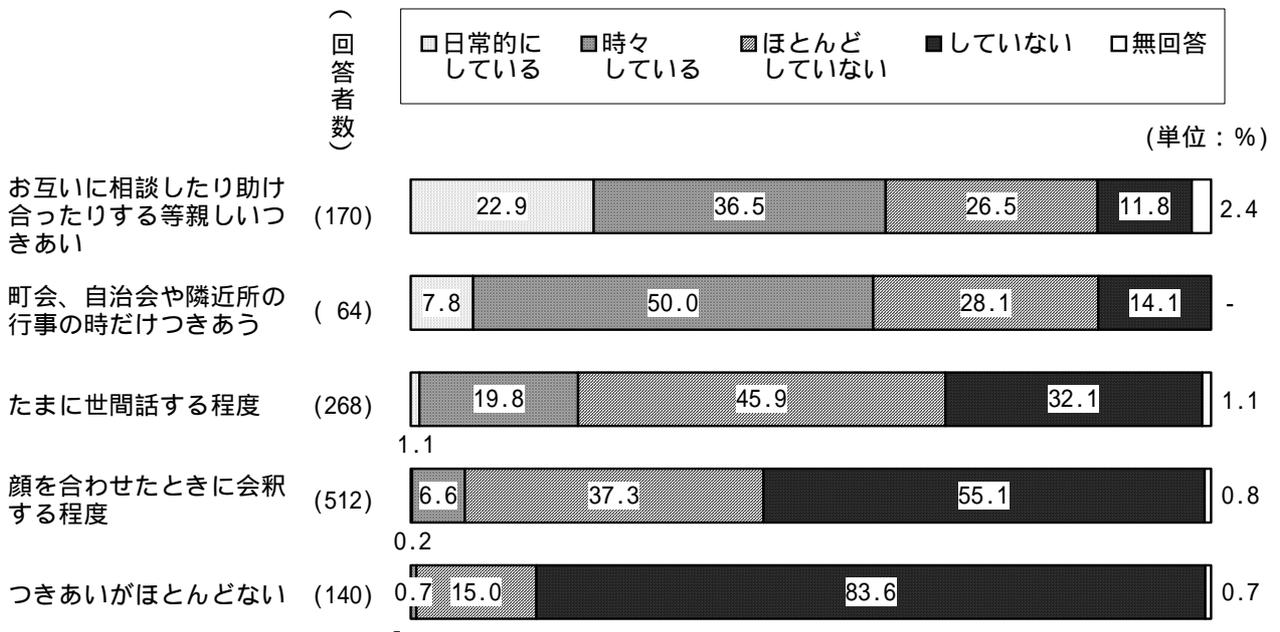


図 2 - 23 地域住民間の見守りや支えあいの活動と近所づきあいの程度の関係



(6) 民生委員の活動の認識の度合い

民生委員を知っている人は3割半

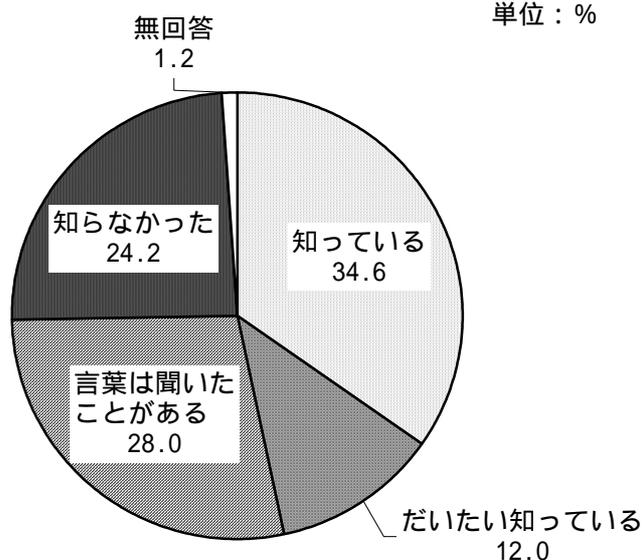
(全員の方に)

問28. 身近な相談相手として、民生委員(児童委員を兼ねます)が地域で活動していることをご存じですか。(は1つ)

図2-24 全体

回答者数 1,168人

単位：%



民生委員が地域で活動していることを「知っている」と答えた人は34.6%、「だいたい知っている」と答えた人は12.0%で、この両者を合わせた“おおむね知っている”が半数弱である。また、「言葉は聞いたことがある」と答えた人は28.0%、「知らない」と答えた人は24.2%となっている。(図2-24)

性別に見ると、「知っている」と答えた人は女性(38.8%)が男性(27.7%)より11ポイント高くなっている。一方、「言葉は聞いたことがある」と答えた人では、男性(32.2%)が女性(25.2%)より7ポイント高くなっている。(図2-25)

年齢別に見ると、「知っている」と答えた人は80歳以上を除いて年齢が上がるほど高くなっており、60~70歳代では50%前後となっている。また、「知らない」と答えた人は20~30歳代で高く、特に20歳代では71.1%となっている。(図2-26)

居住地域別に見た場合、有意的な差異は認められなかった。

図 2 - 25 性別

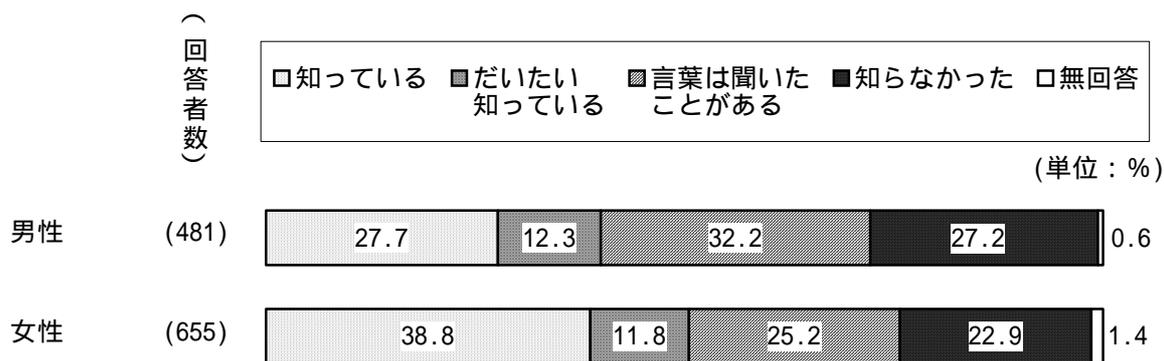
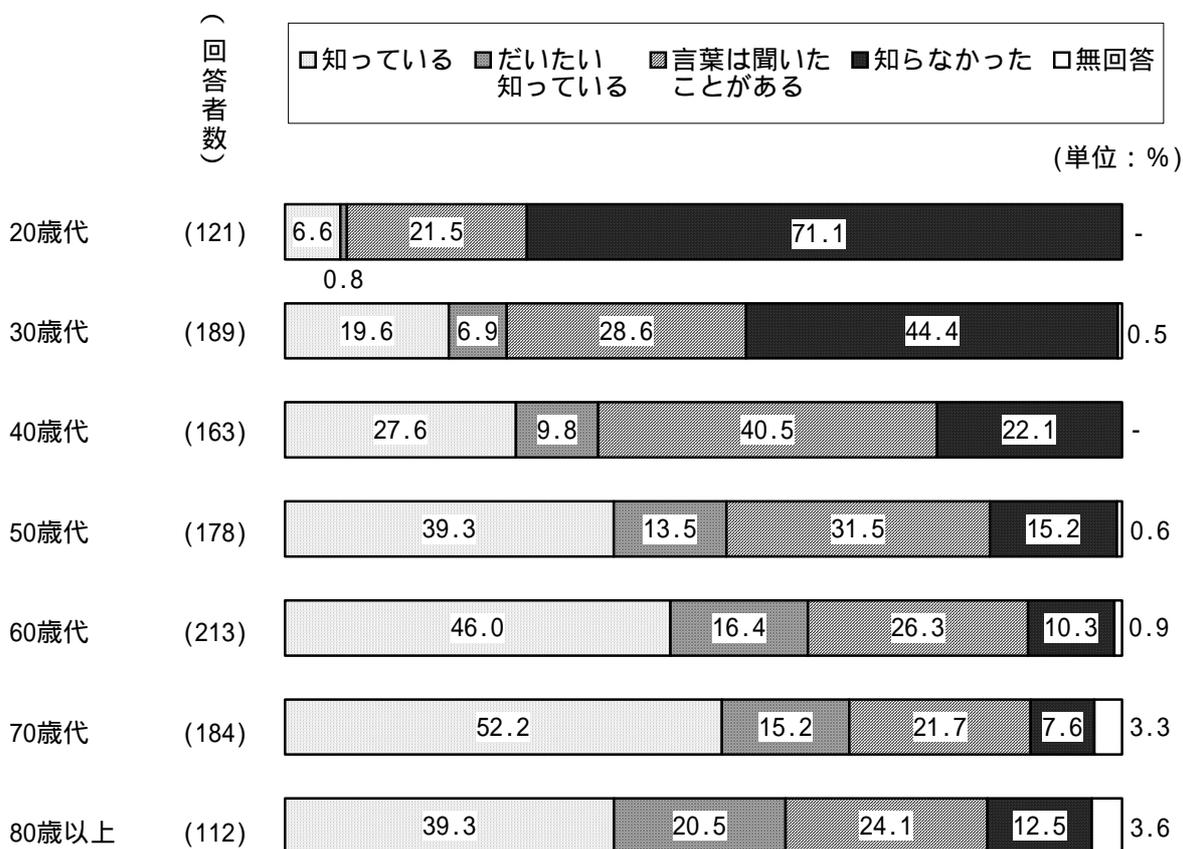


図 2 - 26 年齢別



(7) 募金や寄付、会費納入の有無

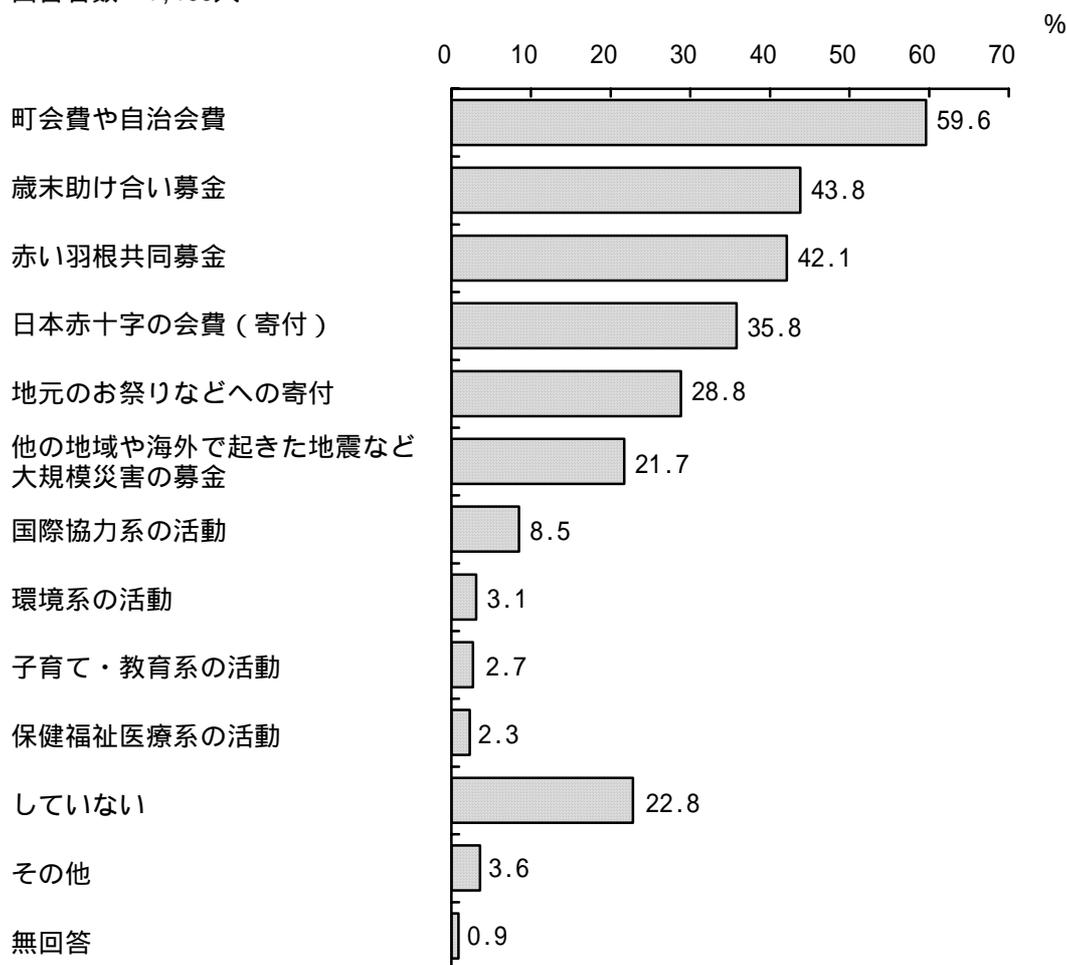
「町会費や自治会費」が6割、していない人は2割強

(全員の方に)

問29. あなたは、この1年間に、次にあげる募金や活動に寄付したり会費を納めたりしましたか。(あてはまるものすべてに)

図2-27 全体

回答者数 1,168人



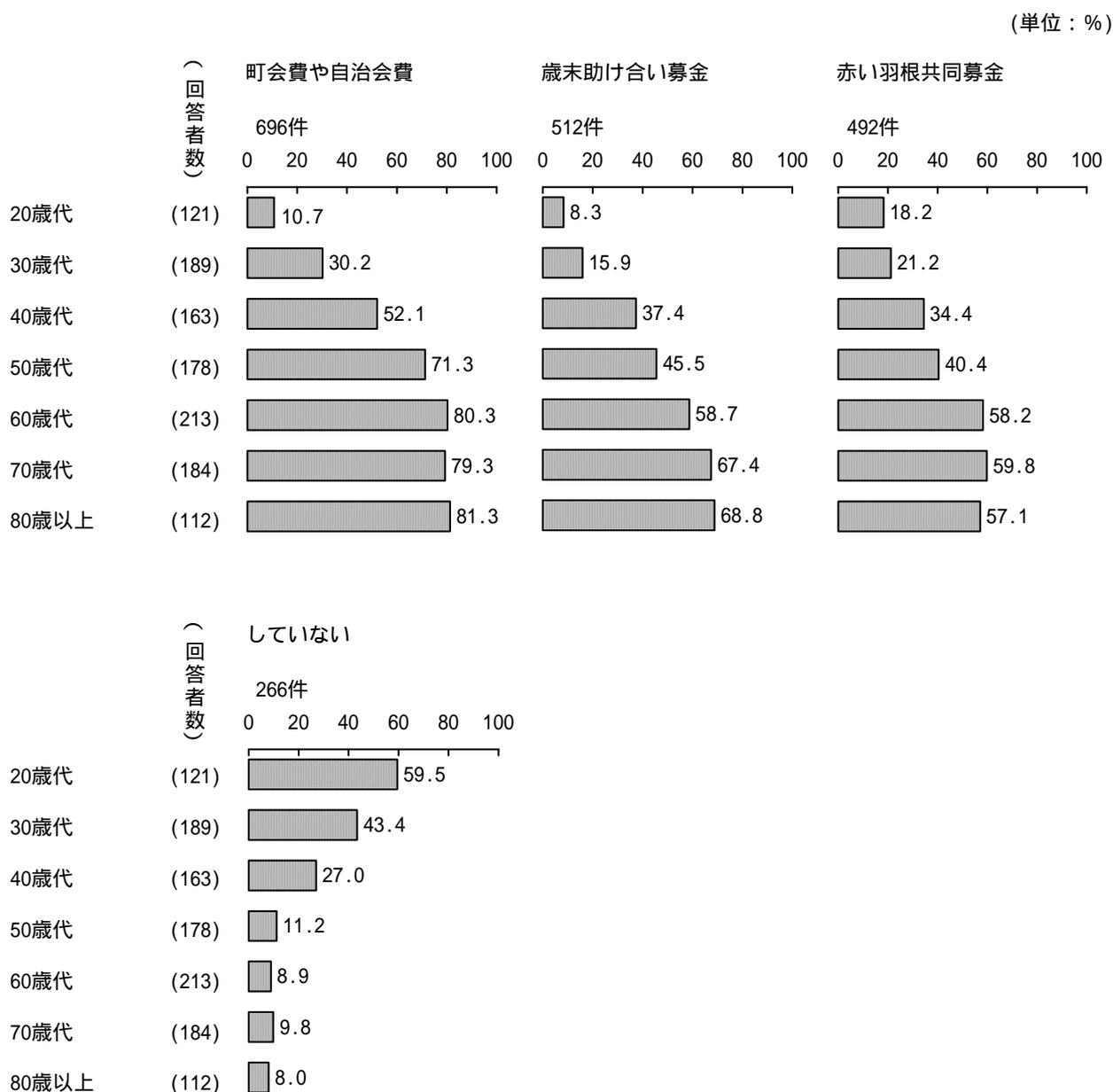
この1年間に、寄付したり会費を納めたりした募金や活動としては、「町会費や自治会費」(59.6%)が最も多く、以下、「歳末助け合い募金」(43.8%)、「赤い羽根共同募金」(42.1%)、「日本赤十字の会費(寄付)」(35.8%)、「地元のお祭りなどへの寄付」(28.8%)、「他の地域や海外で起きた地震など大規模災害の募金」(21.7%)が主なものとしてあげられている。一方、「していない」と答えた人は22.8%となっている。(図2-27)

性別に見ると、「日本赤十字の会費（寄付）」と答えた人は女性（39.1%）が男性（30.8%）より 8.3 ポイント高くなっている。一方、「地元のお祭りなどへの寄付」と答えた人では男性（32.6%）が女性（25.2%）より 7.4 ポイント高くなっている。

年齢別に見ると、「町会費や自治会費」「歳末助け合い募金」と答えた人は年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。また、「赤い羽根共同募金」では、80 歳以上を除いて、年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。一方、「していない」と答えた人は年齢が上がるほど割合が低くなる傾向が見られる。（図 2 - 28）

居住地域別に見た場合、有意的な差異は認められなかった。

図 2 - 28 年齢別（上位 3 項目 + 「していない」）



3 . 介護保険関係について

(1) 介護保険制度のしくみを認識している度合い

おおむね知っている人は2割強

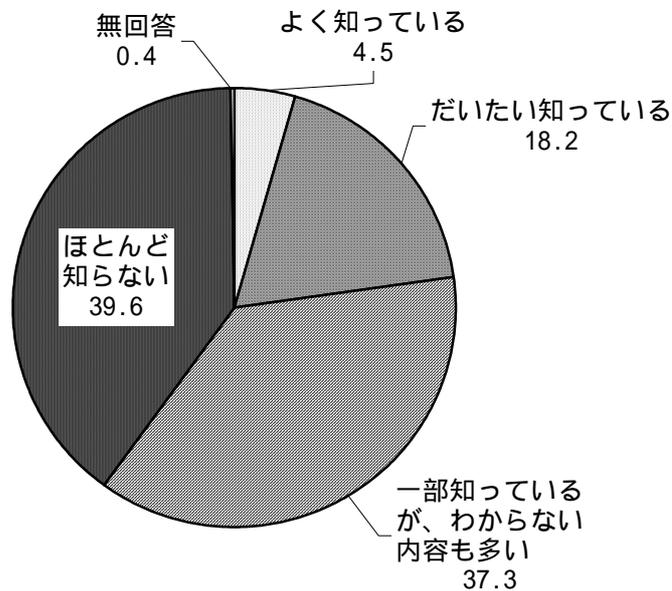
(全員の方に)

問 30 . あなたは、介護保険制度のしくみ (手続き・保険料・給付内容など) について、どの程度ご存じですか。(1 は 1 つ)

図 3 - 1 全体

回答者数 1,168人

単位 : %



介護保険制度のしくみについては、「よく知っている」と答えた人は 4.5%、「だいたい知っている」と答えた人は 18.2%で、この両者を合わせた“おおむね知っている”が2割強である。「一部知っているが、わからない内容も多い」と答えた人は 37.3%、「ほとんど知らない」と答えた人は 39.6%となっている。(図 3 - 1)

性別に見ると、“おおむね知っている”は男性の方がやや高い。一方、「一部知っているが、わからない内容も多い」と答えた人は男性(41.6%)が女性(33.7%)より約 8 ポイント高く、「ほとんど知らない」と答えた人は女性(42.3%)が男性(37.6%)より約 5 ポイント高くなっている。(図 3 - 2)

年齢別に見ると、“おおむね知っている”は 70 歳以上で約 36%と高くなっている。一方、「一部知っているが、わからない内容も多い」と「ほとんど知らない」を合わせた“あまり知らない”は、20~40 歳代で 90%前後と非常に高くなっている。(図 3 - 3)

図3 - 2 性別

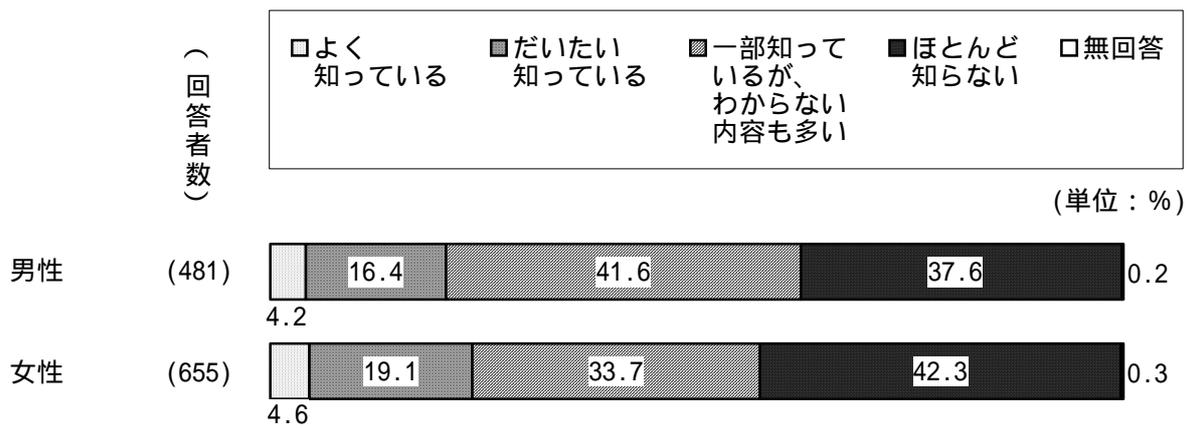
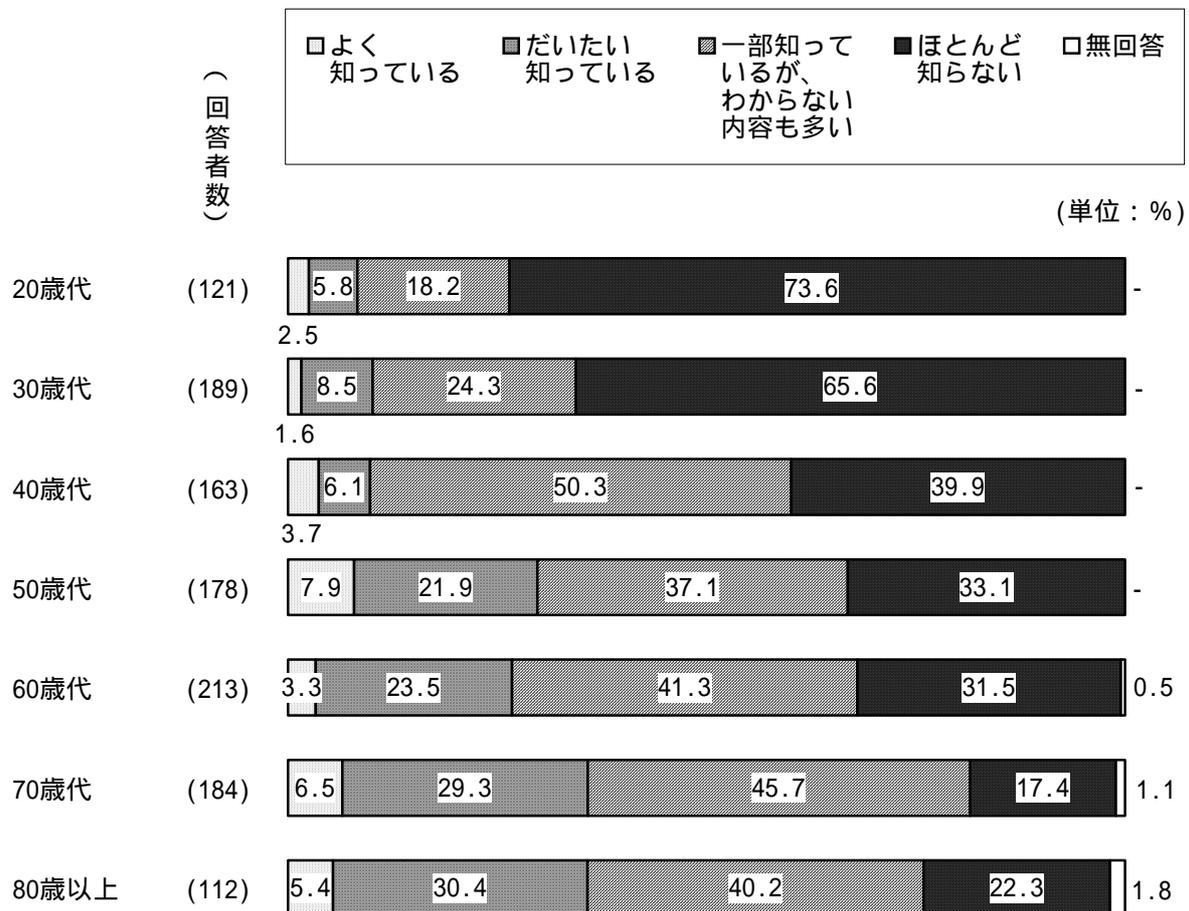


図3 - 3 年齢別



(2) 介護保険制度全体の評価

介護保険制度を評価している人は4割

(全員の方に)

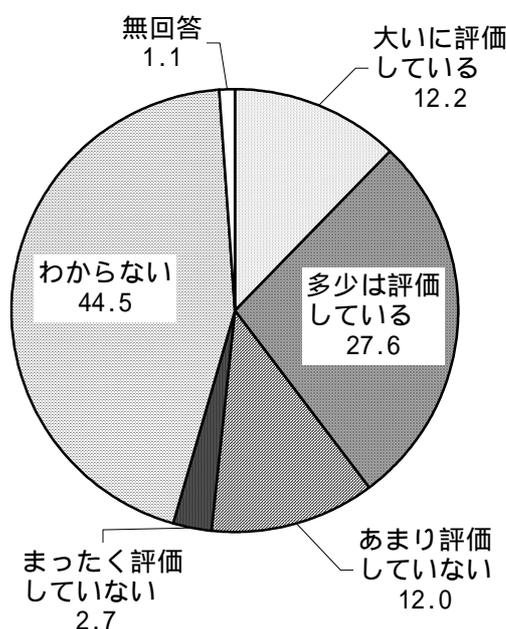
問31. 介護保険制度が始まって8年が経過し、中野区では現在8千人の方がこのサービスを利用しながら生活しています。あなたは、この制度を全体としてどの程度評価しますか。

(は1つ)

図3-4 全体

回答者数 1,168人

単位：%



介護保険制度については、「大いに評価している」と答えた人が12.2%、「多少は評価している」と答えた人が27.6%で、“評価している”人が4割となっている。一方、「あまり評価していない」と答えた人は12.0%、「まったく評価していない」と答えた人は2.7%となっているが、「わからない」と答えた人が最も多く44.5%となっている。(図3-4)

年齢別に見ると、「大いに評価している」と答えた人は30歳代を除いて年齢が上がるほど高くなっている。また、50歳代以上では半数以上の人々が“評価している”としている。一方、20歳代の約8割、30歳代の約7割が「わからない」と答えている。(図3-5)

介護保険制度をよく知っている、あるいはだいたい知っている人では、“評価している”が70%前後と高い。(図3-6・77ページ問30参照)

図3 - 5 年齢別

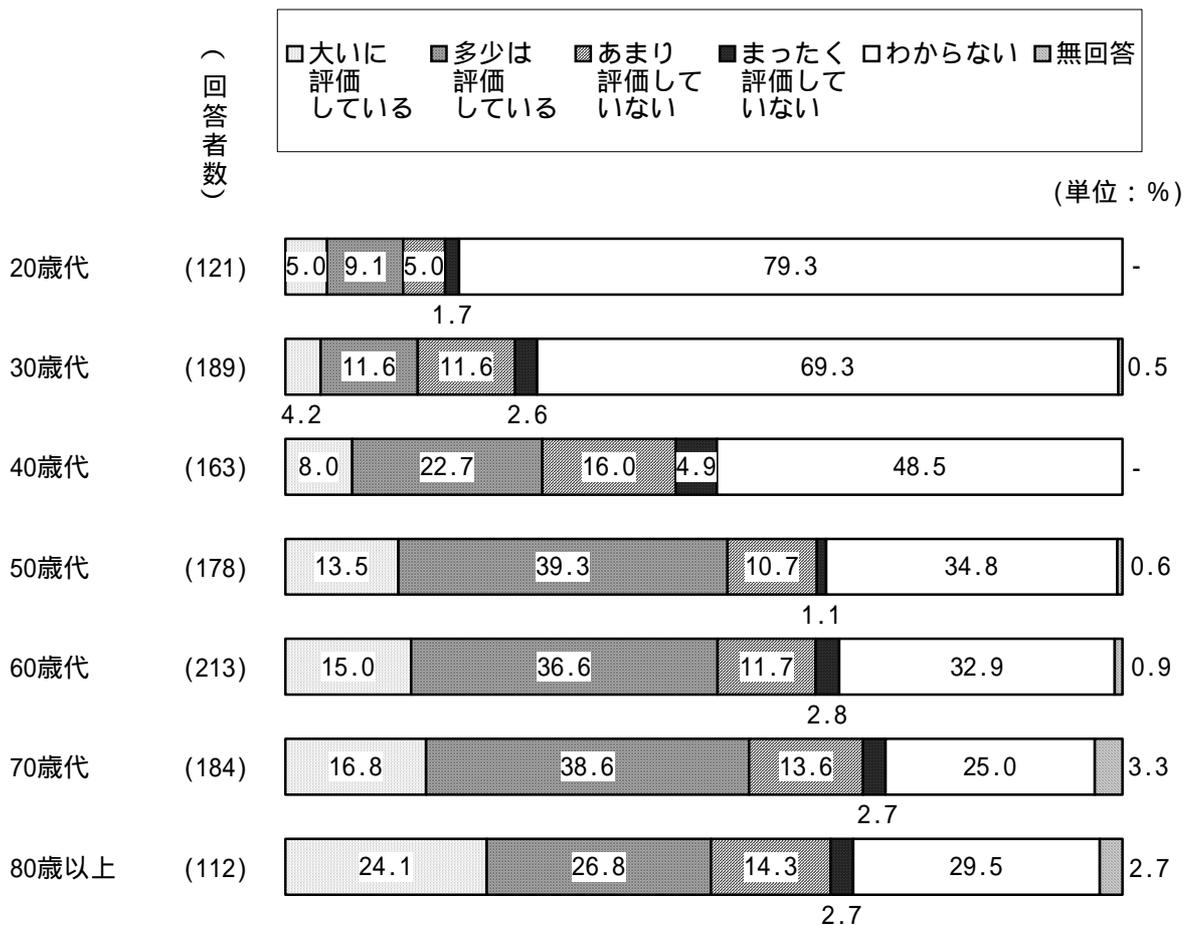
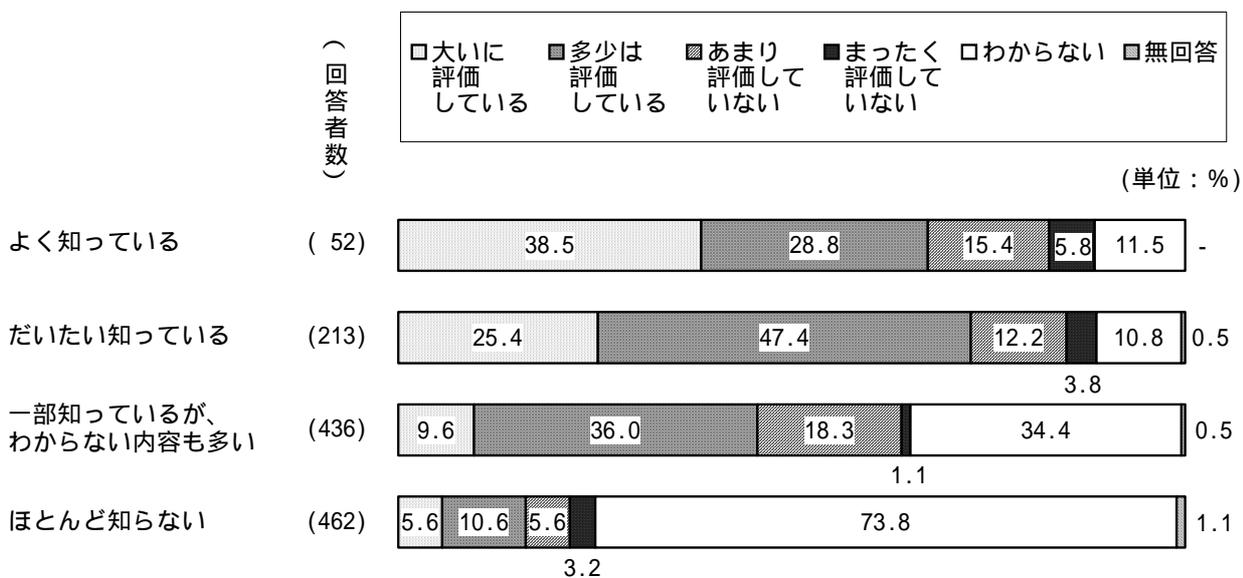


図3 - 6 介護保険制度全体の評価と介護保険のしくみについての認識の関係



(3) 認知症へ病名が変わったことを認識している度合い
病名が変わったことの認識の度合いは高く、9割近く

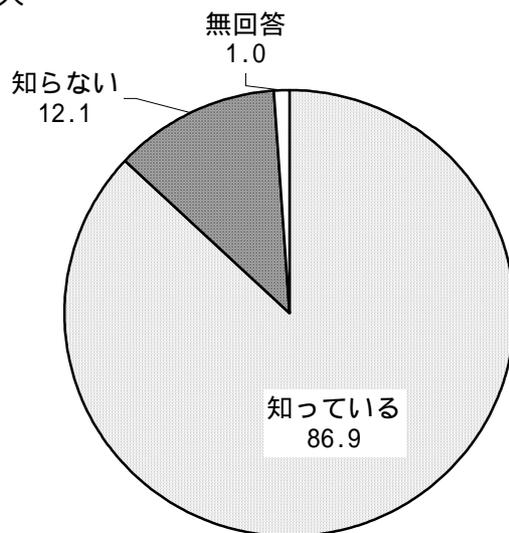
(全員の方に)

問32. あなたは、痴ほう症が認知症という病名が変わったことを知っていますか。(は1つ)

図3-7 全体

回答者数 1,168人

単位：%



痴ほう症から認知症という病名が変わったことを「知っている」と答えた人が86.9%を占め、「知らない」と答えた人は12.1%となっている。(図3-7)

(4) 地域包括支援センターを認識している度合い

地域包括支援センターがどこか知っている人は2割強

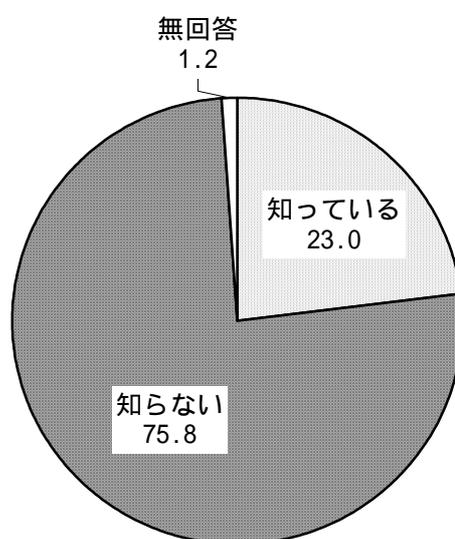
(全員の方に)

問 33. 高齢者の介護予防や在宅生活を支える各種相談(介護保険、権利擁護など)を行なう、地域包括支援センターが区内に8か所設置されていますが、あなたは、ご自分の住んでいる地域を担当している地域包括支援センターはどこか(名称・所在地など)ご存じですか。(は1つ)

図3-8 全体

回答者数 1,168人

単位：%



自分の住んでいる地域を担当している地域包括支援センターを「知っている」と答えた人は23.0%、「知らない」と答えた人は75.8%となっている。(図3-8)

性別に見ると、女性の方が「知っている」がやや高くなっている。(女性24.4%、男性20.0%)(図3-9)

年齢別に見ると、「知っている」と答えた人は80歳以上で約4割と高くなっている。一方、「知らない」と答えた人は20~40歳代で80%以上となっている。(図3-10)

「知っている」と答えた人は、介護保険制度をよく知っている人で7割弱、だいたい知っている人で5割弱となっている。一方、「知らない」と答えた人は、介護保険制度をほとんど知らない人で9割弱、一部知っているが、わからない内容も多いという人で8割となっている。(図3-11・77ページ問30参照)

図3 - 9 性別

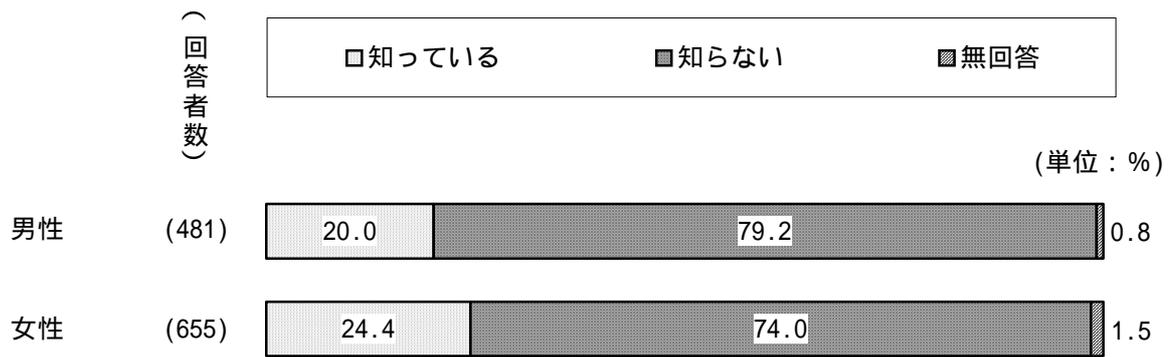


図3 - 10 年齢別

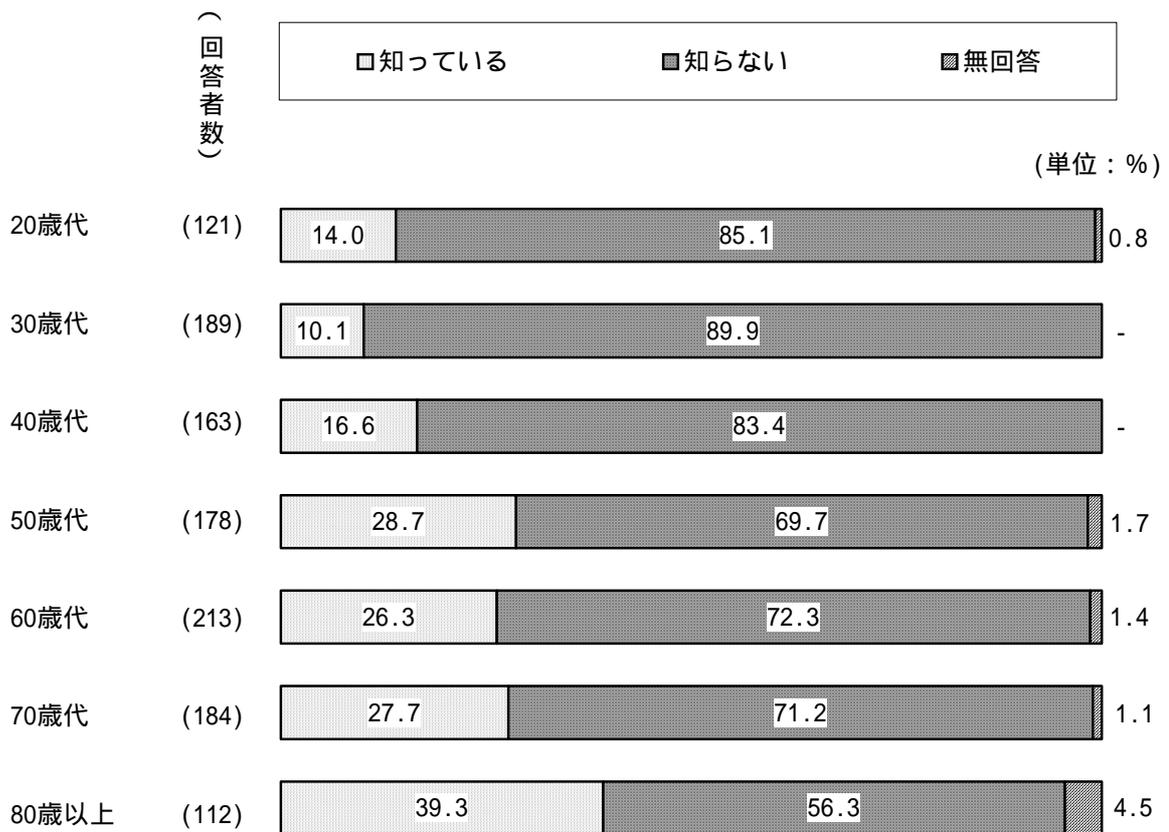
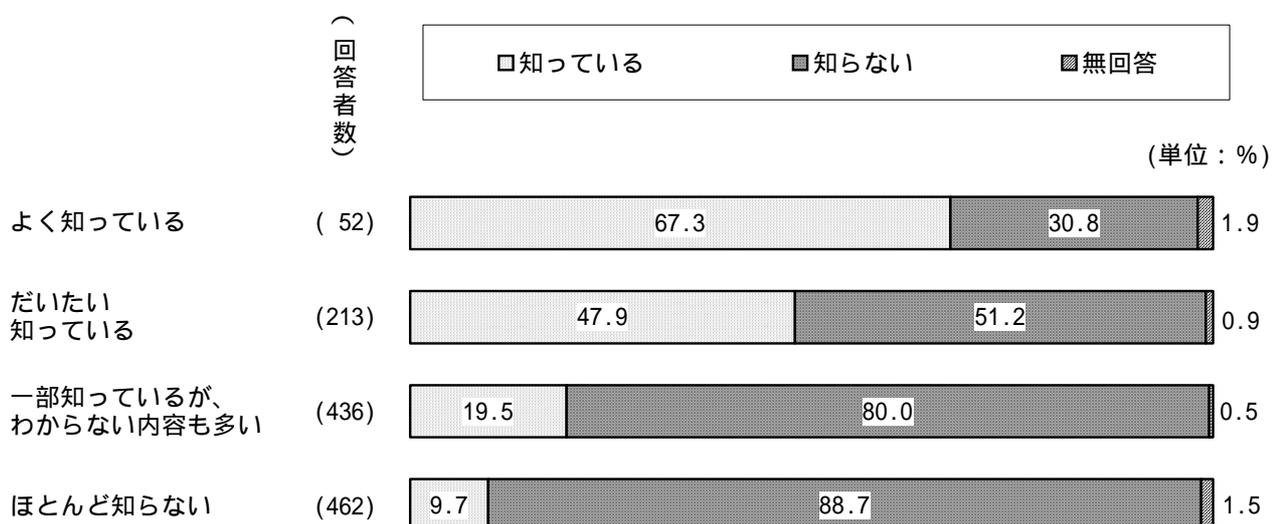


図3 - 11 地域包括支援センターの認識と介護保険のしくみについての認識の関係



4 . 福祉のまちづくりについて

(1) 障害のある人と接する機会

障害のある人と接する機会のある人は3割弱、ない人が7割

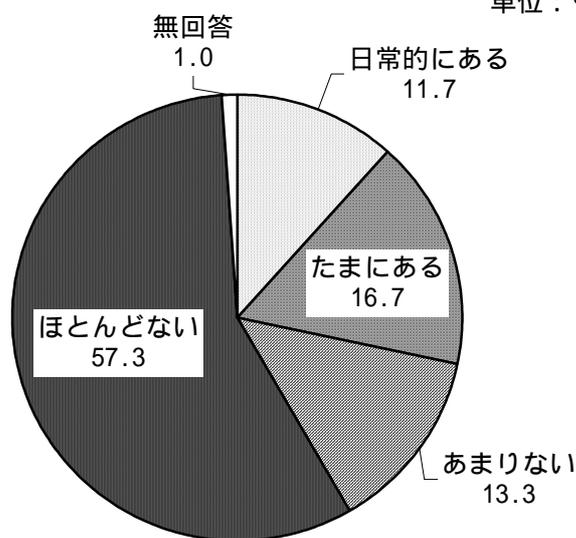
(全員の方に)

問 34 . あなたは、普段、障害のある同僚や友人・家族・知り合いなどと会話を交わしたり、一緒に行動や仕事をしたりする機会がありますか。(〃 は1つ)

図 4 - 1 全体

回答者数 1,168人

単位 : %



普段、障害のある同僚や友人・家族・知り合いなどと会話を交わしたり、一緒に行動や仕事をしたりする機会が「日常的にある」と答えた人が 11.7%、「たまにある」と答えた人が 16.7% となっている。一方、「あまりない」と答えた人は 13.3%、「ほとんどない」と答えた人は 57.3% と、障害のある人と接する機会がない人が 7割を占めている。(図 4 - 1)

性別に見ると、女性の方が「日常的にある」と「たまにある」を合わせた割合が高くなっている。(女性 31.6%、男性 23.9%)(図 4 - 2)

年齢別では、大きな差は見られない。(図 4 - 3)

図4 - 2 性別

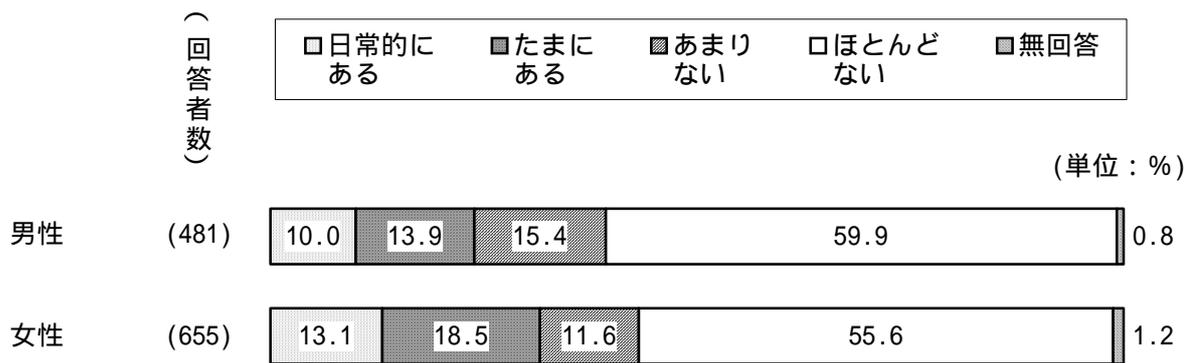
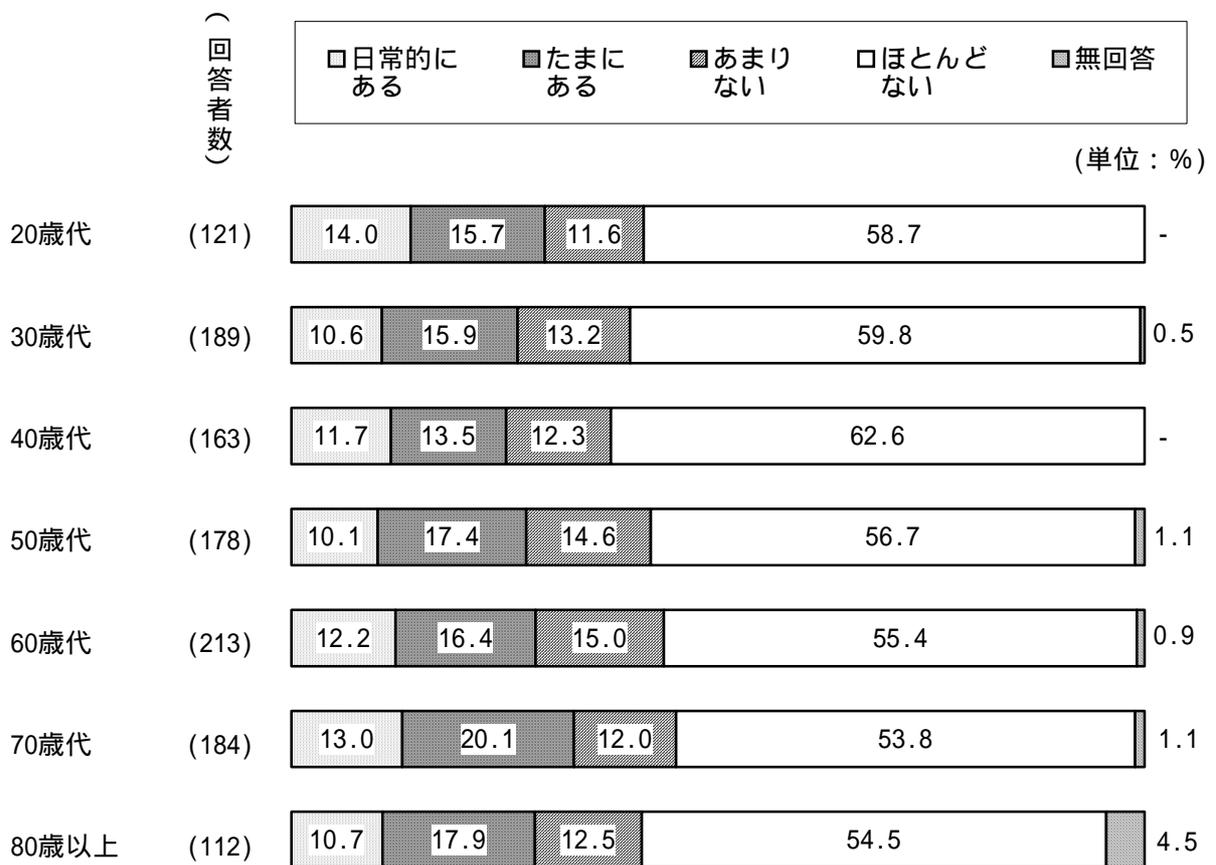


図4 - 3 年齢別



(2)「ユニバーサルデザイン」という言葉を認識している度合い

言葉も意味も知っている人は2割

(全員の方に)

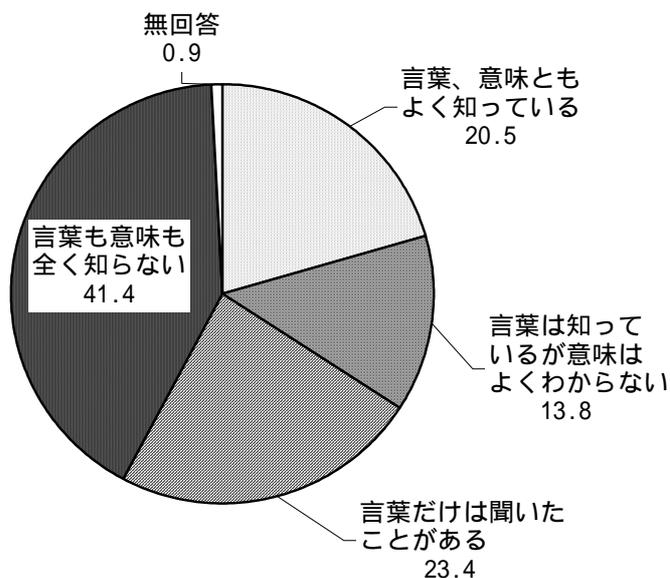
問35.あなたは、「ユニバーサルデザイン」という言葉と意味についてどの程度ご存じですか。

(は1つ)

図4-4 全体

回答者数 1,168人

単位：%



「ユニバーサルデザイン」という言葉と意味についてどの程度知っているかたずねたところ、「言葉、意味ともよく知っている」と答えた人は20.5%、「言葉は知っているが意味はよくわからない」と答えた人は13.8%、「言葉だけは聞いたことがある」と答えた人は23.4%となっている。また、「言葉も意味も全く知らない」と答えた人は41.4%となっている。(図4-4)

5 . 保健福祉の相談窓口について

(1) 身近に感じる機関

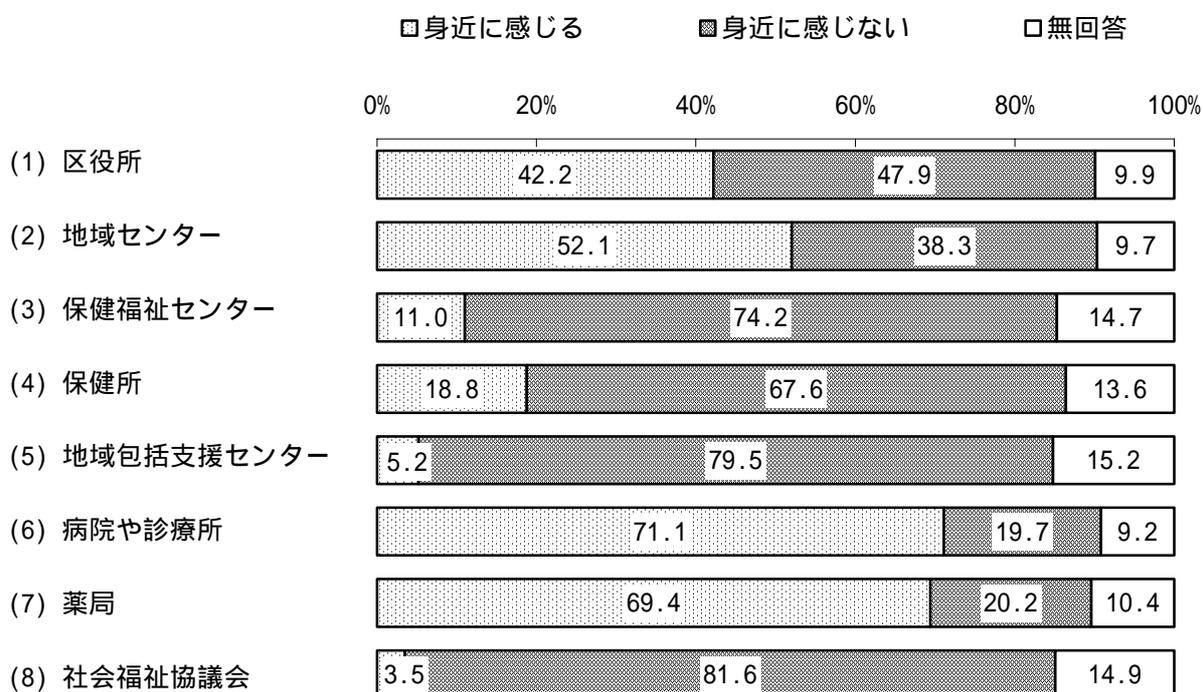
身近に感じるのは病院や薬局

(全員の方に)

問 36 . あなたは、次のそれぞれの機関について、身近に感じますか。

((1) ~ (8) それぞれについて は 1 つずつ)

図 5 - 1 全体



8つの機関をあげて身近に感じるかどうかたずねたところ、「身近に感じる」と答えた人が最も多いのは「病院や診療所」で71.1%、次いで「薬局」が69.4%となっている。以下、「地域センター」(52.1%)、「区役所」(42.2%)、「保健所」(18.8%)、「保健福祉センター」(11.0%)、「地域包括支援センター」(5.2%)、「社会福祉協議会」(3.5%)となっている。(図5-1)

性別に見ると、女性の方が「保健福祉センター」「保健所」「地域包括支援センター」でやや高くなっている。(表5-1)

年齢別に見ると、60歳代で「区役所」「地域センター」などを身近に感じる割合が高くなっている。20~40歳代では「薬局」が70%台後半と高くなっている。「病院や診療所」は、20~50歳代で70%台、60歳代以上では60%台となっている。(表5-1)

職業別に見ると、家事専業で「地域センター」「保健福祉センター」「保健所」など身近に感じるものが他の職業に比べ高くなっている。また、自営業、家族従業員で「地域センター」「保健所」が高くなっている。「区役所」は無職、その他の人で約半数となっている。(表5 - 1)

表5 - 1 性・年齢・職業別に見る「身近に感じる」割合

単位: %

		回答者数	(1) 区役所	(2) 地域センター	(3) 保健福祉センター	(4) 保健所	(5) 地域包括支援センター	(6) 病院や診療所	(7) 薬局	(8) 社会福祉協議会
全体		1,168	42.2	52.1	11.0	18.8	5.2	71.1	69.4	3.5
性別	男性	481	43.9	51.6	8.3	15.8	3.7	71.7	68.4	2.5
	女性	655	40.8	52.8	13.1	20.9	6.6	71.1	71.1	4.3
年齢別	20歳代	121	37.2	41.3	7.4	10.7	0.8	73.6	77.7	-
	30歳代	189	36.0	50.8	14.3	17.5	2.1	73.0	75.1	2.1
	40歳代	163	32.5	52.8	6.7	19.0	3.1	77.3	77.3	1.8
	50歳代	178	46.1	51.7	9.6	17.4	7.9	74.7	71.3	4.5
	60歳代	213	49.3	59.6	10.8	22.1	5.2	68.1	70.9	4.2
	70歳代	184	45.7	53.3	14.1	22.3	8.2	64.1	54.9	7.1
	80歳以上	112	45.5	50.0	12.5	19.6	9.8	69.6	58.9	3.6
職業別	自営業、家族従業員	141	46.1	61.7	9.9	24.1	5.7	75.2	70.9	2.8
	常勤の会社員、公務員、団体職員	318	38.4	39.6	6.9	12.9	3.5	73.0	73.9	1.6
	契約社員・パート・アルバイト・非常勤職員	190	38.9	47.9	7.4	14.2	1.6	65.8	68.9	3.2
	家事専業	191	39.3	68.6	19.4	28.8	9.9	72.8	72.3	6.8
	無職	270	47.4	53.3	12.6	19.3	6.7	69.6	61.9	3.3
	その他	49	49.0	49.0	10.2	16.3	2.0	73.5	71.4	6.1

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2)「成年後見制度」という言葉を認識している度合い

言葉もしくはみも知っているのは2割弱

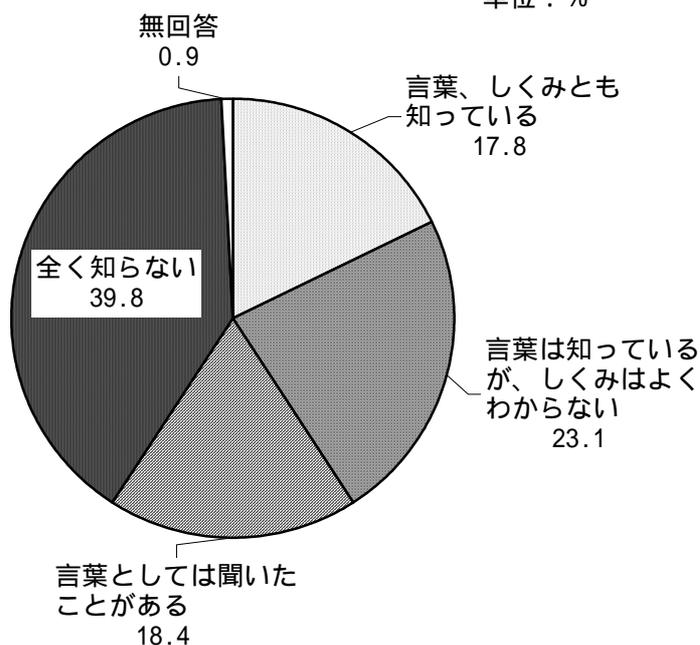
(全員の方に)

問 37.「成年後見制度」という言葉やしくみについてどの程度ご存じですか。(は1つ)

図5 - 2 全体

回答者数 1,168人

単位：%



「成年後見制度」という言葉やしくみについてどの程度知っているかたずねたところ、「言葉、しくみとも知っている」と答えた人は17.8%、「言葉は知っているが、しくみはよくわからない」と答えた人は23.1%、「言葉としては聞いたことがある」と答えた人は18.4%となっている。また、「全く知らない」と答えた人は39.8%となっている。(図5 - 2)

性別では、大きな差は見られない。(図5 - 3)

年齢別に見ると、「言葉、しくみとも知っている」は50歳代で25.8%と高く、20歳代で10.7%と低い。また、20~30歳代は「言葉は知っているが、しくみはよくわからない」で10%台と低くなっている一方、「全く知らない」では20歳代で6割強、30歳代で5割強となっている。(図5 - 4)

図5 - 3 性別

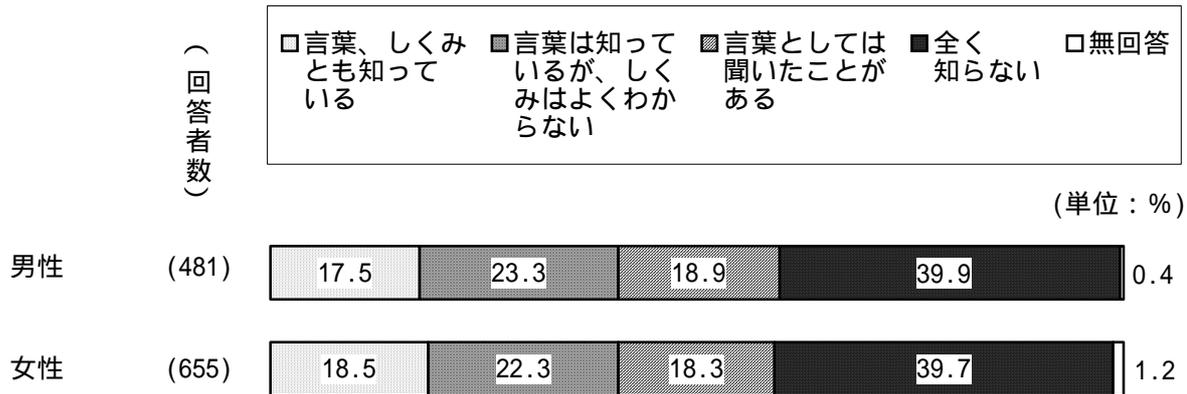
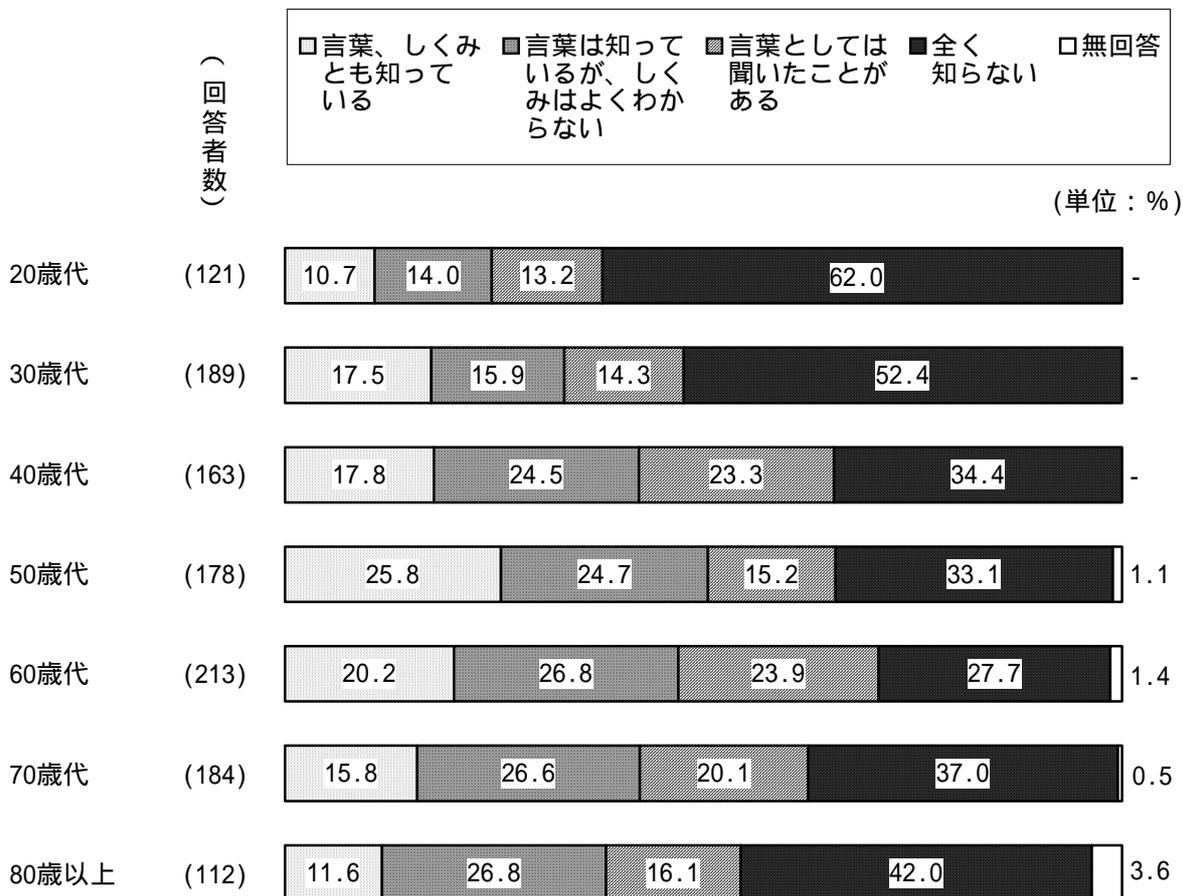


図5 - 4 年齢別



(3) 中野区の保健福祉施策についての満足度

ある程度満足している人が9%、多少なりとも不満な人が24%

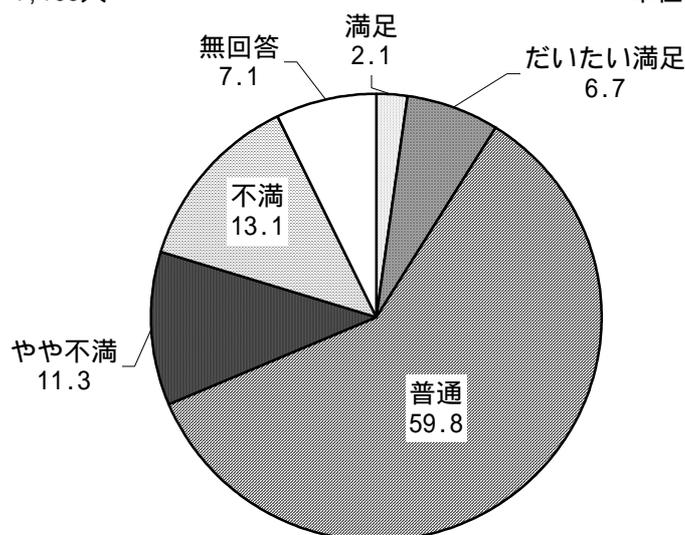
(全員の方に)

問38. あなたは中野区の保健福祉施策について満足していますか。(は1つ)

図5 - 5 全体

回答者数 1,168人

単位：%



中野区の保健福祉施策について、「満足」と答えた人は2.1%、「だいたい満足」と答えた人は6.7%となっており、この両者を合わせた“ある程度満足”は9%となっている。一方、「やや不満」と答えた人は11.3%、「不満」と答えた人は13.1%で、この両者を合わせた“多少なりとも不満”が24%となっており、満足と答えた人より不満と答えた人の方が多くなっている。また、「普通」と答えた人は59.8%となっている。(図5 - 5)

性・年齢別では、40歳代を見ると、「普通」は女性(51.0%)より男性(61.5%)で高くなっているが、「だいたい満足」「やや不満」「不満」では女性の方が多くなっている。(図5 - 7)

図5 - 6 性別

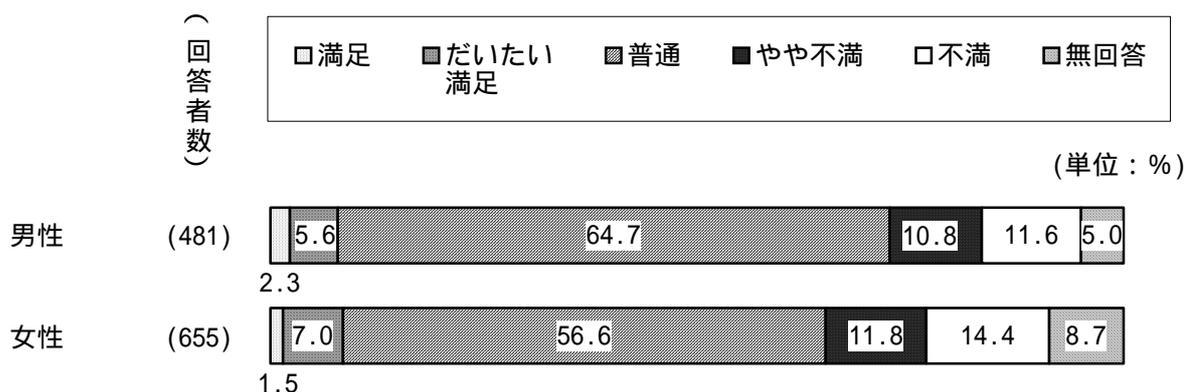
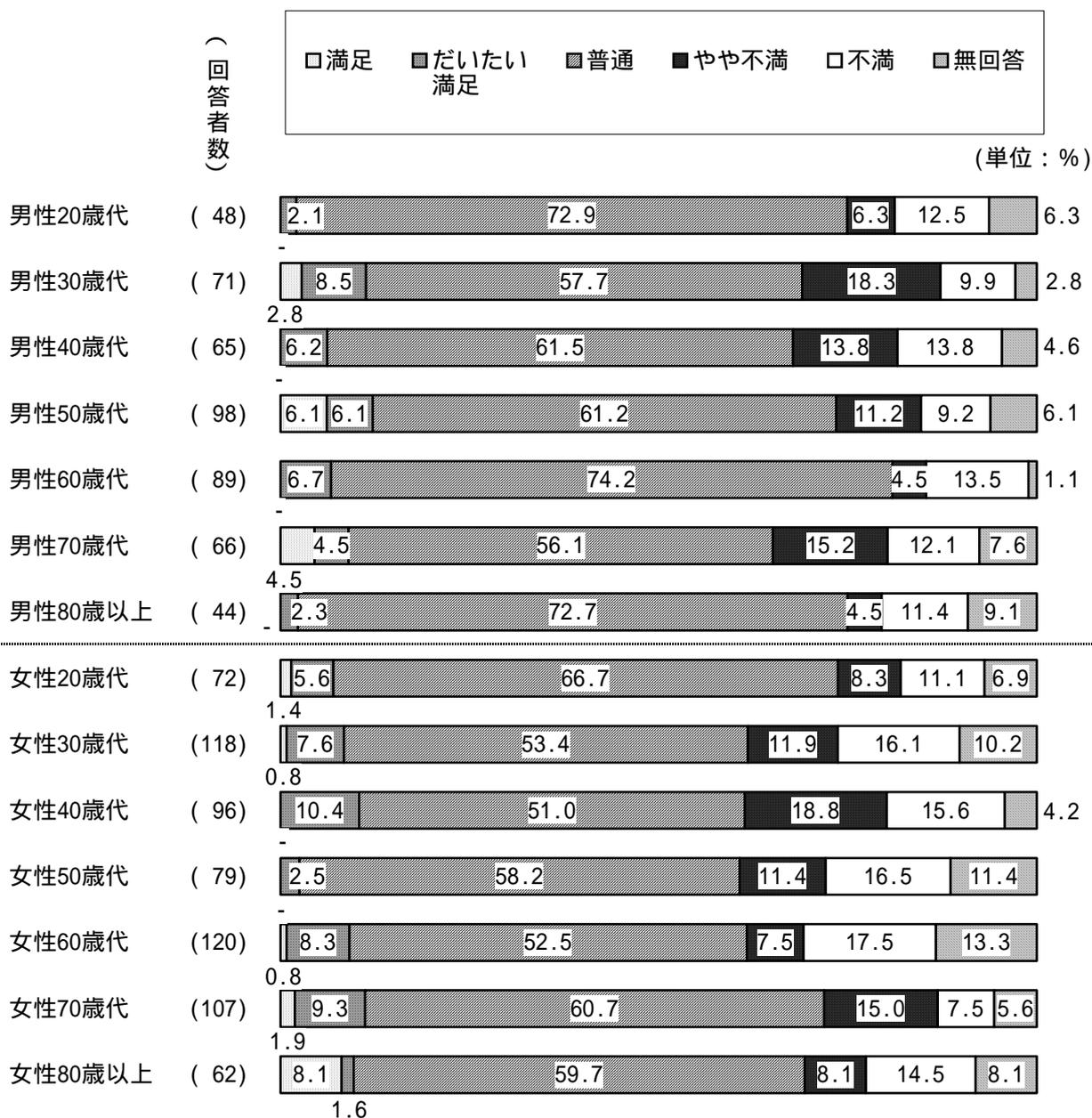


図5 - 7 性・年齢別



(4) 保健福祉行政全体への意見・要望（自由回答）

（全員の方に）

問 39．保健福祉行政全体や今回の調査について、ご意見やご要望などありましたら、ご自由にお書きください。

保健福祉行政全体や今回の調査について、要望、意見を自由に書いてもらったところ、290 人から 311 件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

< 保健福祉全般について >（42 件）

私の家族（夫婦のみ世帯）で高齢者と同居していない事もあって福祉と聞かれてもピンと来ないのが実感です。自分の身に何か変化がないと分からない点多いと思いました。（女性 / 40 歳代）

中野区に住んでいてよかったと言える保健福祉を期待している。（男性 / 80 歳代）

年収 200 万程度のところ国民健康保険料が 1.5 万というのはキツイです。何とかしてください。（男性 / 40 歳代）

介護保険等、払うのは当然としても使うときには負担がかからないようにしていただきたい。保険料や住民税が高くて生活が成り立たない。（男性 / 50 歳代）

父母の世代に比べて福祉は大幅に後退している。自分達が行政のお世話になる時には色々腹立たしい思いをするであろうと予想している。（男性 / 70 歳代）

保健福祉サービスを必要とする人のニーズに合ったサービスをしてほしい。（行政側の決めたラインにみんながあうはずがない）（女性 / 40 歳代）

保険料の年金からの天引きはいつ決定されたのか？PR がなされたとすればその具体例を知りたい。都・区の広報誌は見ておりますが気づきませんでした。（男性 / 70 歳代）

年金から保険料を差し引くことは不満です。介護保険料共です。（男性 / 70 歳代）

地域センターが近くに有ります。そこをもっと活用して健康に関する啓蒙など行ったらよいのではと思います。（女性 / 50 歳代）

30 代を過ぎた頃から保健福祉への関心が強くなりました（今回のような調査を行っていることを知らなかった為驚いています）関心があっても理解しにくいこと、内容が多く、日々の忙しさもあり、行動することができない方も多いと思います。（女性 / 30 歳代）

休日など運動したいときに、小学校の校庭など利用させてほしい。（女性 / 20 歳代）

予防面でどのような施策があるのか分かりにくい。健康診断と健康増進アドバイスを（医師の簡単な話だけでなく）本立てで行ってほしい。近隣他区に比べて施策が少ないように感じる。または、区民に伝える方法がよくないのか。（女性 / 40 歳代）

介護している人に対しての援助をしてほしいと思います。非常に厳しい状態です。（女性 / 50 歳代）

介護保険のサービスの運用を利用者任せにしている印象がある。もっと区や支援センターでイニシアチブを取ってほしい。医療現場との橋渡しもしてほしい。（女性 / 40 歳代）

介護保険のサービスの利用に制限があり過ぎ、同居家族がある場合はその家族が仕事を持っているとほとんどサービスが受けられない。今後の改善を切に望みます。(女性 / 40 歳代)

病気をしていないのに保険料を払うのはばかばかしいのでせめて年間1度も病気になっていない人には保険料を安くするなど、健康でいることの直接的なメリットがほしいです。(女性 / 30 歳代)

福祉行政の一部である生活保護者が今大きな問題となっております。年々増加し続ける要保護者の中には何をやっているんだと思われる事例も聞かされ腹が立つこともあります。事前の審査とあわせて事後の調査も必要ではないか。例・パチンコ通い、カラオケスナックへの出入り等(男性 / 70 歳代)

< 高齢福祉について > (31 件)

一人住まいの年配者に気を配って訪問するなどしてほしい。(女性 / 60 歳代)

銭湯が少なくなってきたので歩行が不自由な人が入浴しやすい方法を考えて下さい。(女性 / 60 歳代)

高齢者に対する多くの気遣い等に非常に感謝しています。例外かもしれませんが、今回からの高齢者に対する後期高齢者(75 歳以上)への呼び名に対し、人生の最後期の年齢ということで少々心を痛めております。初期・中期・後期は分かりますが、人生最後の期に入ったという感にはいつも心が痛みます。もう少し別な呼び方はなかったのでしょうか?(男性 / 70 歳代)

介護保険料の徴収が何で 40 才からなのか理解できない。介護を支えるのならもっと若い年齢からの徴収でいいし、介護される人が払うのであればもっと高齢の年代からの徴収でいいはずだ。(男性 / 50 歳代)

当事者ではないので TV で見る知識しかないのだが、後期高齢者制度等でお年寄りが大変だと言うのをよく見るので、ぜひお年寄りと障害のある方にやさしい区になってほしいと思う。後、20 代の無料(あるいは低料金)の健康診断を行ってほしい。(女性 / 20 歳代)

特別養護老人ホーム、介護療養型医療施設などの入所が早くできるようにしていただきたい。(女性 / 70 歳代)

高齢者になっても安心して住める様をお願いします。一番心配していることは、高齢になった時の住宅問題です。(女性 / 40 歳代)

老人の多い時代なので、時代はインターネット等の時代かもしれませんが、パソコンにインターネットを利用できる人ばかりでないので訪問を中心のサービスをもう少し多く取り入れてほしい。(女性 / 50 歳代)

家族の者ですが、介護保険制度を利用させていただき、本当に感謝しています。一方でヘルパーさんの待遇や介護時間の設定などももう少し改善してもいいのでは、と思う点もあります。地域のためにこれからもよろしくご検討ください。(女性 / 70 歳代)

老人にやさしい中野区になってほしい。生活の困った人には、相談、協力をしてほしい。(女性 / 40 歳代)

後期高齢者医療制度などが最近話題になっていますが、その他いろいろな所で税金がかかりすぎて、それがどのように使われているのか分からないし、社会全体もそうですが、政治も不透明なお金が多すぎます。これからますます高齢者が増える中、もっと高齢者へのサポートに力を入れていってもらえればと思っています。(男性 / 20 歳代)

<行政全般について> (40件)

適正な業務・経費バランス感覚と日常生活感覚の両立した行政をお願いします。この調査の結果は、どのような形で公表されるのか、詳細ではなくとも多少具体的に、アンケート用紙のどこかに明示して頂くと助かります。(男性/30歳代)

行政等に積極的に参加したいと思いますが、場所・内容等がわからず参加できません。(男性/80歳代)

各種の書類の文章をもう少し分かり易く短めなものにして頂きたい。(女性/70歳代)

老人にも分かりやすい対応説明と、親身になって相談にのってもらえる行政であってほしいです。誰の為の行政か考えてくれる事を望みます。(女性/60歳代)

保健福祉行政について国は後ろ向きであるので中野区は地方自治を発揮してぜひ前向きに対応することを切望する。地方財政が苦しいことはよく分かっているが、究極の行政サービスは福祉である。(男性/60歳代)

高齢者、病人は弱者です。行政は常に弱者の立場に立って考えていただきたい。つねに法令や規則が優先している様に思えてならない。中野区の行政目標は一つ、"日本一の老人天国"で頑張ってください。(女性/70歳代)

地域センターを時々利用するのですが、なぜあんなに人(職員)がいるのでしょうか?人員削減した方がよいと思います。(女性/40歳代)

役所が行っていることの多くが、利用者のみしかよく分からないことが多いと思います。もう少しわかりやすくどのような事が利用できるのか知りたいです。(男性/40歳代)

会社人間にとって、地域の保健福祉行政はあまり関心がなかった。(男性/60歳代)

認知症の母親を持つ友人の話を知ると、まだまだ民間に頼らなければならないのが実態の様で、行政としてどこまで公平に制度を作るかが今後の課題と思われまます。(男性/50歳代)

<本調査について> (42件)

きめ細かな調査で大変満足している。これまでに他地区(港区、練馬区)に居住したことがあるが、中野区はダントツに行き届いている。但し、私自身がその年齢(高齢)になったから特に強く感じていると思います。(女性/80歳代)

表題の「意識調査」という言葉は、役所の担当が私達を見ているという表現で不適切と考える。視点を変える必要があるのでは。(男性/60歳代)

アンケート調査をすることで皆のことを把握することができるのはいいと思います。ユニバーサルデザインや成年後見制度など言葉を改めて知りました。(女性/50歳代)

実態把握のためにもその都度こういう調査を実施して政策に反映して欲しい。(男性/60歳代)

私としては、このような調査をするにはかなりのお金がかかるのではないかと案じています。こんなことにお金を使うならもっと福祉にまわして欲しいです。(女性/70歳代)

この様なアンケートでは欠点は分からない。自己満足的な問が多いような気がする。(男性/50歳代)

大変でしょうが、中野区民の成人者男女全員のアンケート調査をしてほしい。(男性/50歳代)

アンケートには積極的に協力しますが、集計結果のフィードバックは区報等でぜひお願いしたい。(男性/60歳代)

調査票の紙面が多すぎる(経済的(送料含む)、環境面から)レイアウトを工夫すれば半分以

下の紙面、重量にできる。(男性 / 50 歳代)

高齢者にとっては ×式でよかったです。(女性 / 80 歳代)

この「用紙」も税金を使っていることと思います。無駄にならないように今後に役立ててください。(女性 / 40 歳代)

< 情報提供について > (32 件)

もっと情報公開、周知をしてほしいと思う。(女性 / 20 歳代)

中野区の保健福祉サービス自体、あまり把握できていません。(どんなサービスが、どこで受けられるか等) 保健福祉サービスの広報にも力を入れてもらえると良いと思います。(男性 / 30 歳代)

中野区の保健福祉施策を分かり易く PR して下さい。(女性 / 70 歳代)

中野区報もたまに読みますが、区民全体に関わる、特に社会保障についてはもっと紙面の工夫が必要だと思います。誰でもがわかりやすく、インパクトのある紙面構成、言葉遣いが大事ではないでしょうか。(男性 / 50 歳代)

保健福祉の基礎知識、新制度等をメールマガジンという形で配信してはどうでしょうか。(男性 / 40 歳代)

区報を見ていると毎回いろいろ書いてあるが、毎回同じ様な内容で知っている人でないとよくわからない場合が多い。もっと広く、詳しく知ってもらうための手段ややり方が必要だと思う。(男性 / 30 歳代)

保健福祉行政についての内容的なもの、どういうことを実施しているのか広報などから知ればありがたいと思います。(男性 / 50 歳代)

保健福祉行政がどのようなことをやっているのかわからない(地域センター等に行ったらパンフレット等があるのかもしれない)定期的にパンフレット等が各家庭に配られたらと思います。(男性 / 50 歳代)

< 保健福祉の窓口について > (17 件)

今回の調査とは関係ないのですが、以前区役所へ書類を提出しに行った時、不備があったのにもかかわらず窓口の方が嫌な顔一つせずとても丁寧に対応して下さいありがとうございました。(女性 / 20 歳代)

現生活の中では特に保健福祉等を意識して生活する必要を感じていませんが、これからは老人の仲間入りする年齢になります。もしものとき何時でも相談できる窓口をオープンにして頂ければ安心です。(女性 / 60 歳代)

日中仕事をしている人にとって区の行政機関を利用できる時間がありません。せめて土曜の午前中は区役所を利用できるようにしていただければ、相談等行け、行政活動がより透明的に見えてくると思います。まずは役人達自身の努力が必要と思われる。(男性 / 20 歳代)

区役所窓口での対応姿勢がもう少し広い視野 / 範囲でアドバイス出来るようになっていただけたらありがたい。(男性 / 60 歳代)

電話で福祉の話聞くことがありますが、つっけんどんに話させる人、窓口・受付、担当者の方皆様とは言いませんが、不親切な時もあり怪訝な顔をされた事もありました。年寄りには心細いものです。にこやかな対応をお願いいたします。(女性 / 50 歳代)

< 調査によってサービスを知る機会になったという意見について > (15 件)

アンケートによって自分の知識を感じました。一番身近な区の事、他の事をよくこれから勉強したいと思います。(女性 / 80 歳代)

中野に来て 1 年たったが、知らないことがたくさんあった。私のような一人暮らしだと知らない人が多いと思う。(女性 / 20 歳代)

今回のアンケートで、知らない制度や言葉がたくさんあり、普段時間的な余裕もないので今後困ることが増える気がし、不安になりました。(女性 / 40 歳代)

< 障害福祉について > (6 件)

身体の不自由な方が暮らしやすい環境作りに最大限の努力をお願い致します。健康な体の私達はどうにかかりますので...(女性 / 20 歳代)

高齢者福祉も大切だと思いますが、東京都はもっと精神通院者に対しての制度を見直してほしいです。(女性 / 30 歳代)

< 健康・医療について > (25 件)

医療費が高い。(男性 / 20 歳代)

インフルエンザの流行時に、地域にもっと情報を伝えてほしい。流行している学区など、子どもがいなくても知りたい。(男性 / 30 歳代)

区の財政が厳しいのは分かりますが、がん検診などの受けられる回数・検診できる施設が他の区に比べて劣っていると思います。平日仕事で帰りが遅いため(17 時以降)区の施設の利用を考えた時、土日に利用できる所が少ないですし、指定された日中では利用できないことがほとんどです。中野区の場合、区の中での地域間格差も大きいと思います。ほとんどの施設が区役所近辺にあるということです。(女性 / 50 歳代)

昨年私は半年ほど入院しましたが、高額費医療制度にとても助かりました。子どもが小学生ですが、母親が不在の場合公的に相談するところがなく不安でした。今現在、予後も不安が多く相談できるところがあればと思います。(女性 / 40 歳代)

区健康診断は 20 歳代でも受けられるようにしてほしいです。子宮ガンは 20 歳代でも受けられるのは知っていますし、2 年おきに受けています。その他の一般的な診断も受けられるととても助かるのですが...(女性 / 20 歳代)

< まちづくりについて > (23 件)

お年寄り、障害のある方はもちろん子ども達も世代を越えて交流できる中野区にして欲しいです。廃校になった場所も使えるといいなと思います。(女性 / 30 歳代)

中野区での犬の散歩の犬の放尿の不潔さに驚いています。野良猫もとても多くてフンに困っています。銀バエも多くて不衛生だと思う。保健衛生上とても問題が多いと思う。(男性 / 60 歳代)

私のような会社に所属している立場の人間は、地域サービスをほとんど利用する機会はありません。そのような立場の人間も利用できる部分のサービス(千代田区の図書館のような)を積極的にやってもらいたい。中野区民という実感を全く持てない。(女性 / 30 歳代)

全体が全く見えてこない。健康の為にスポーツ支援など他の市などでは活発な活動をしている

市町村がありますが、中野は高齢者、特に 60～70 代のまだ体力のある人々の活用・活動に努力すべきと思います。(女性 / 60 歳代)

小・中学校の空校舎を介護施設に利用してどうか。(女性 / 50 歳代)

子どもの頃から福祉教育などしてほしい。優しい人間が育たないと社会はよくなる。(女性 / 50 歳代)

地域毎(小学校区毎)に区民が軽費で利用できるスポーツセンターを設置してほしい。また、そこでは子どもの保育施設を併設してほしい。親と子が一緒に安心して利用できる施設が望ましい。(男性 / 30 歳代)

地域の活性化のために参加をしている人がメリットを感じられるシステム作りをお願いします。ボランティアであれば運営等にもお金が掛からないと思います。(男性 / 30 歳代)

病気になってしまう前から気軽に健康について話し合えるサロンのような場所(明るく、ある程度広く、行きたいなあと思われる雰囲気)がぜひほしい。(女性 / 70 歳代)

< 児童福祉について > (14 件)

保育園での子供の預かり(一時保育)について、2 人目以降料金を安くしてほしい。また、日・祝も預けられるとよい。時間も遅くまで預けられるとよい。(女性 / 30 歳代)

子供に対する施策については、金銭面のみならず以前居住していた練馬区、板橋区に比して明らかに劣っていると感じます。学校(中学校、小学校)に対しても区の助成や対策は、不足と思えます。(男性 / 40 歳代)

子供を作っているが、出産する産院等は中野区では適当な場所が見付からず、他の場所で考えています。産んだ後も働くことを希望していますが、周囲の話を聞くと苦労されているようなので、少しでも中野区が子育てしやすくなることを望みます。(女性 / 30 歳代)

高齢者・障害者はもちろんですが、子育て支援にも積極的に取り組んでほしい。子どもが産まれると、力を入れて取り組んでいる区に引っ越す方も多いです。(女性 / 30 歳代)

< 地域活動について > (6 件)

区報が頻繁に届き嬉しく思います。しかしながら私のような独身者(老人ではなく、子供もいない)が関われる様な地域活動がありません。ボランティアなど、地域活動の企画や情報を望みます。(女性 / 40 歳代)

地域の活動等は大変よいことと思っていますが、又区で行っている活動も素晴らしいと思いますが、あまりにも熱心になりすぎて、あいている時間に手伝いをしたいと思っている人を遠ざけてしまう傾向があると感じます。(女性 / 40 歳代)

体が丈夫で元気な人々がこれからも元気で税金を払えるよう支援できる条例を作り、実際に少しずつでも支援を進めてほしい。(男性 / 60 歳代)

調査票と単純集計

2008年度保健福祉サービスに関する アンケート調査

「保健福祉に関する意識調査」

調査票

中野区

【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できるかぎり宛名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合は、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えください。
2. このアンケートは匿名です。名前住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に 印をつけてください。
6. 「その他()」に 印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入ください。
7. ご記入いただきました調査票は、**平成20年5月8日(木)**までに、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて郵送してください。
8. 調査の内容や記入の方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

中野区保健福祉部企画調整担当

TEL . 3 2 2 8 - 5 6 0 9 FAX . 3 2 2 8 - 5 6 6 2

E-mail hokenfukusikeiei@city.tokyo-nakano.lg.jp

* 各選択肢及び無回答の数値は単純集計結果、単位は「%」。回答者数の単位は「人」。

はじめに、あなた（あて名の方）ご自身のことについてうかがいます

(1) あなたの性別は、どちらですか。(は1つ) 回答者数1,168

41.2 男性	56.1 女性	2.7 無回答
---------	---------	---------

(2) あなたの年齢は、次のどれにあてはまりますか。(は1つ) 回答者数1,168

10.4 20歳代	7.8 70～74歳
16.2 30歳代	8.0 75～79歳
14.0 40歳代	5.7 80～84歳
15.2 50歳代	2.0 85～89歳
9.8 60～64歳	1.9 90歳以上
8.5 65～69歳	0.7 無回答

(3) あなたのご職業は、次のどれにあてはまりますか。(は1つ。複数ある方は主なものの1つに) 回答者数1,168

12.1 自営業、家族従業員
27.2 常勤の会社員、公務員、団体職員
16.3 契約社員・パート・アルバイト・非常勤職員
0.6 内職
1.5 学生
16.4 家事専業
23.1 無職
2.1 その他 ()
0.8 無回答

(4) あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。(は1つ) 回答者数1,168

24.5 1人世帯
23.0 夫婦のみ世帯
42.6 2世代世帯(親と子)
6.5 3世代世帯(親と子と孫)
2.7 その他の世帯 ()
0.7 無回答

(5) お住まいは、次のどれにあたりますか。(は1つ)

回答者数1,168

- 48.3 持ち家(一戸建て)
- 17.5 持ち家(マンションなどの集合住宅)
- 3.9 公営住宅(都営、区営住宅など)
- 24.8 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど)
- 3.5 社宅、社員寮、公務員住宅
- 1.3 その他()
- 0.7 無回答

(6) あなたは中野区にお住まいになられて何年になりますか。(は1つ)

回答者数1,168

- 3.8 1年未満
- 9.7 1～4年
- 13.0 5～9年
- 15.4 10～19年
- 13.5 20～29年
- 43.9 30年以上
- 0.7 無回答

(7) あなたがお住まいの地域はどこですか。(は1つ)

回答者数 1,168

- 22.3 上鷺宮、鷺宮、白鷺、若宮、大和町
- 23.6 江原町、江古田、野方、丸山、沼袋、松が丘、新井
- 29.4 上高田、中野、東中野、中央
- 24.1 本町、弥生町、南台
- 0.7 無回答

質問の上に（全員の方に）と記載のあるものは全員の方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

今回の「保健福祉に関する意識調査」では、重点テーマの設問として、下記から始まる「医療・健康面」についてお聞きします。

1. 医療・健康面についてうかがいます

（全員の方に）

問1. あなたは、現在の自分の健康状態をどのように感じていますか。（ は1つ）

回答者数 1,168

- 33.5 健康である
- 45.9 どちらかといえば健康である
- 13.1 どちらかといえば健康でない
- 7.0 健康でない
- 0.5 無回答

（全員の方に）

問2. 健康増進のためには、持続的な運動を週1～2回以上行うことが効果的といわれていますが、あなたはこのような運動を行っていますか。（ は1つ）

回答者数1,168

- 24.9 継続的に運動をしている（1回30分以上の運動を週2日以上実施している）
- 24.3 時々している
- 19.3 以前はしていたが、現在はしていない
- 30.9 全くしていない
- 0.6 無回答

（全員の方に）

問3. あなたは、継続的に運動を続けるためには、何が重要だと思いますか。

（あてはまるものすべてに ）

回答者数1,168

- 47.6 運動しやすい地域の環境整備（公園・歩道・サイクリングロードなど）
- 20.8 一緒に実施できる仲間
- 46.0 軽費で手軽に取り組める施設（公共施設・民間運動施設・身近な学校の運動場や運動施設など）
- 24.8 ニーズにあった対応をしてくれる指導者（利用時間、費用、自分にあった運動内容など）
- 45.5 時間的な余裕
- 9.7 その他（ ）
- 3.5 無回答

(全員の方に)

問4 . あなたは、定期的に健康診断を受けていますか。(は1つ) 回答者数1,168

- | | | |
|------|-------------------|---------|
| 71.0 | 毎年1回以上健康診断を受けている | (問5、6へ) |
| 8.0 | 2～3年おきに健康診断を受けている | (問5、6へ) |
| 19.4 | 健康診断は受けていない | (問7へ) |
| 1.5 | 無回答 | |

(問4で「1」「2」に をつけた方に)

問5 . 健康診断をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数923

- | | | |
|------|-------------------|---------|
| 36.7 | 職場の健康診断 | |
| 44.6 | 区が実施する健康診断 | |
| 8.6 | 健康保険組合などが実施する健康診断 | |
| 2.5 | 通学先で実施する健康診断 | |
| 8.1 | 人間ドック | |
| 9.8 | その他() | 1.1 無回答 |

(問4で「1」「2」に をつけた方に)

問6 . 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに) 回答者数923

- | | | |
|------|------------------------|---------|
| 63.8 | 前回の結果と比較して健康状態を確かめた | |
| 24.5 | 食事や運動などの生活習慣を見直した | |
| 22.8 | 医療機関に行って医師に相談した | |
| 0.5 | 保健福祉センターで病気や栄養について相談した | |
| 8.9 | 家族や友人に結果を見せて相談した | |
| 20.2 | 気になることがなかったので何もしなかった | |
| 4.4 | 気になることがあったが何もしなかった | |
| 2.2 | その他() | 4.1 無回答 |

(全員の方に)

問7 . 冬季に流行するかぜやインフルエンザについてどのようなことに気をつけていますか。

(あてはまるものすべてに)

回答者数1,168

- | | |
|------|-----------------------|
| 43.2 | 十分な休養と栄養を摂取する |
| 66.4 | 帰宅時には手洗い、うがいを励行する |
| 28.3 | 咳・くしゃみの症状があるときはマスクをする |
| 40.9 | 流行前にワクチンを接種する |
| 12.7 | 特に気をつけていることはない |
| 0.6 | 無回答 |

(全員の方に)

問8 .あなたが、新型インフルエンザについて考えたり、心がけていることはなんですか。

(あてはまるものすべてに)

回答者数1,168

- 32.2 新型インフルエンザについての情報を収集している
- 3.2 新型インフルエンザの発生に備えて食糧・日用品等を備蓄している
- 42.7 新型インフルエンザが発生した場合、不要不急の外出を自粛する
- 39.2 特に考えたり、心がけていることはない
- 1.4 無回答

新型インフルエンザとは、これまでのインフルエンザとは異なった「人にとって新しい」インフルエンザでおこる感染症で、誰でもがかかったことがなく、免疫をもっていないインフルエンザです。この新型インフルエンザが発生し、世界で大流行することが懸念されています。

(全員の方に)

問9 .がん、心臓病、脳卒中、糖尿病など、日頃の生活習慣が密接に関係する病気を「生活習慣病」と呼んでいます。あなたが、生活習慣病予防のために、自ら進んで実行していることがありますか。(あてはまるものすべてに)

回答者数1,168

- 57.8 栄養バランスや規則正しい食事など食生活に気をつけている
- 38.4 毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理
- 33.6 散歩やスポーツなど積極的に体を動かすように心掛けている
- 49.0 睡眠・休養を十分にとるようにしている
- 35.3 気分転換・ストレス解消に努めている
- 45.5 たばこを吸わない(喫煙本数を減らす)
- 36.3 お酒を飲み過ぎない(飲まない)
- 37.2 規則正しい生活をする
- 43.4 定期的な健康診断の受診
- 32.8 新聞・テレビ・雑誌などで健康に関する情報・知識を増やすように努めている
- 7.7 特に何もしていない
- 1.8 その他()
- 0.4 無回答

(全員の方に)

問10 .あなたは、ふだんの診察や健康相談をするかかりつけの診療所(医院・クリニック)

を決めていますか。(は1つ)

回答者数1,168

- 49.9 決めている
- 27.1 だいたい決めている
- 22.9 . 決めていない
- 0.2 無回答

(全員の方に)

問11 .あなたは、食品や調理済の料理を購入する時または外食の時に、栄養成分の表示があれば参考にしますか。(は1つ)

回答者数1,168

- 63.9 参考にする
- 34.9 参考にしない
- 1.2 無回答

(全員のの方に)

問12. あなたは、現在の自分の歯の本数を知っていますか。(は1つ) 回答者数1,168

38.4	知っている	自分の歯の本数を記入してください()本
57.7	知らない	3.9 無回答

(全員のの方に)

問13. あなたは、自分の歯の健康について気をつけていることはありますか。

(あてはまるものすべてに) 回答者数1,168

15.7	月に1回以上、自分で歯や歯肉を観察している	
32.3	歯をみがく時に、歯間部清掃用器具(フロスや歯間ブラシ)を使用している	
37.3	かかりつけの歯科診療所(医院・クリニック)で定期的に歯科健診や歯石除去、歯面清掃をしてもらっている	
37.7	特に何もしていない	
3.9	その他()	2.1 無回答

(全員のの方に)

問14. あなたは、次にあげる疾病について喫煙による影響があることを知っていますか。

(あてはまるものすべてに) 回答者数1,168

94.4	肺がん	75.7	妊娠(胎児)への影響
64.9	ぜんそく	28.3	歯周疾患
47.4	心臓病	73.8	周囲の人の肺がん
42.0	脳卒中	2.9	無回答

(全員のの方に)

問15. あなたは、タバコを吸っていたことがありますか。(は1つ) 回答者数1,168

「1」か「2」をご回答の場合は、1日の喫煙本数をご記入ください。

21.7	吸ったことがあります、現在も吸っている	1日の喫煙本数()本
30.1	過去に吸っていたことがあるが、現在は吸っていない	
	吸っていた頃の1日の喫煙本数()本	
47.4	吸ったことがない	0.8 無回答

(全員のの方に)

問16. あなたは、最近1か月以内に、イライラやストレスを感じたことがありますか。

(は1つ) 回答者数1,168

33.1	しばしば感じる	18.9	あまり感じない
41.1	たまに感じる	6.3	まったく感じない
		0.6	無回答

(全員のの方に)

問17. あなたは、イライラやストレスがあるとき、どのようにしていますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数1,168

17.7	ストレスの原因の解決に積極的に取り組む	
9.7	計画的に休暇をとる	
44.9	身近な人に話をして発散する	
2.4	医療機関や相談機関などの専門家に相談する	
35.2	趣味・スポーツにうちこむ	
11.6	動物(ペット)と遊ぶ	
22.1	何か食べる	
24.3	買い物をする	
34.4	テレビを見たり、ラジオを聴いたりする	
3.4	ギャンブル・勝負ごとをする	
10.9	タバコを吸う	
19.7	酒(アルコール飲料)を飲む	
9.7	じっと耐える	
29.3	寝てしまう	
8.0	特になし	
4.5	その他()	2.2 無回答

(全員のの方に)

問18. あなたは、眠れない時にアルコール飲料や薬(睡眠補助剤)を使用したことがありますか。(は1つ) 回答者数1,168

31.7	ある	66.8	ない	1.5	無回答
------	----	------	----	-----	-----

(全員のの方に)

問19. 「うつ病」は、誰でもかかる可能性があります。適切に対応しないと病気が長引くことも多く、ときには自殺の要因になることもあります。本人や周囲の人が早く症状に気づき、早期に対応することが重要ですが、相談することに抵抗を感じる人が多いとされています。あなたもしくはあなたの家族がそういう状態になったとき、あなたのお考えに近いのはどれですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数1,168

69.2	相談することには特段の抵抗は感じない	
8.7	かかりつけ医(内科や外科など)に相談することには抵抗がある	
11.6	公的な相談窓口を利用することには抵抗がある	
10.7	精神科などの専門医療機関に相談(受診)することには抵抗がある	
20.5	地域で活動する自主グループに相談することには抵抗がある	
17.6	職場や学校が実施する心理相談を利用することには抵抗がある	
14.8	友人や知り合いに相談することには抵抗がある	
6.3	無回答	

(全員の方に)

問20. あなたは、大量飲酒(1日・日本酒換算3合を超える飲酒)することがありますか。

(は1つ)

回答者数1,168

3.9 しばしばある(週5日以上)	日本酒1合(180cc)換算は、 ビール大ビン1本 ウイスキーダブル1杯 ウイスキー水割り2杯 焼酎お湯割り1杯 ワインは同じ(180cc)
4.5 時々ある(週3~4日)	
15.8 たまにある(週1~2日)	
73.6 ない(ほとんどない)	
2.1 無回答	

(全員の方に)

問21. あなたは、あなたにとって適度な飲酒量をご存じですか。(は1つ) 回答者数1,168

61.5 知っている	20.0 知らない	13.8 どちらとも言えない
		4.7 無回答

(国民健康保険に加入している方に)

問22. あなたは、国民健康保険制度のしくみ(手続き・保険料・給付内容など)について、どの程度ご存じですか。(は1つ) 回答者数840

6.7 制度について、よく知っている
30.5 だいたい知っている
40.4 一部知っているが、わからない内容も多い
22.5 ほとんど知らない

「地域活動」以降の設問は、区の事業や施策の目標の達成度を測るために指標として用いる設問項目としてお聞きします。

2. 地域活動についてうかがいます

(全員の方に)

問23. あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。

(あてはまるものすべてに)

回答者数1,168

11.0 町会などの地域活動	
9.9 地域まつりやバザーなどの地域の行事	
3.3 福祉、環境保全などボランティア、NPOの活動	
9.1 趣味、スポーツ、学習などの地域活動	
73.5 参加していない	
2.7 その他()	1.2 無回答

(全員の方に)

問24 .地域の支えあい活動といった場合、あなたは活動エリアとしてどの程度の広さを思い浮かべますか。最も近いものを選んでください。(は1つ) 回答者数1,168

42.6	小学校区の範囲		
14.0	中学校区の範囲(小学校区3つ程度)		
3.9	区内を4つに分けた範囲(小学校区7~8つ程度)		
7.8	中野区全域		
28.7	わからない	3.1	無回答

(全員の方に)

問25 .あなたのご近所とのつきあいはどのようなものですか。(は1つ) 回答者数1,168

14.6	困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている		
5.5	町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう		
22.9	たまに世間話する程度		
43.8	顔を合わせたときに会釈する程度		
12.0	つきあいがほとんどない	1.2	無回答

(全員の方に)

問26 .あなたは、地域住民間の見守りや支えあいが必要だと実感したことがありますか。(は1つ) 回答者数1,168

58.5	実感したことがある	39.3	実感したことはない	2.2	無回答
------	-----------	------	-----------	-----	-----

地域住民間の見守りや支えあい...高齢者世帯や障害者世帯、子育て世帯などに対する声かけや困りごとへのちょっとしたお手伝い

(全員の方に)

問27 .あなたは、地域住民間の見守りや支えあいの活動をどの程度していますか。(は1つ) 回答者数1,168

4.1	日常的にしている	34.2	ほとんどしていない		
15.8	時々している	44.3	していない	1.5	無回答

(全員の方に)

問28 .身近な相談相手として、民生委員(児童委員を兼ねます)が地域で活動していることをご存じですか。(は1つ) 回答者数1,168

34.6	知っている	28.0	言葉は聞いたことがある		
12.0	だいたい知っている	24.2	知らなかった		
		1.2	無回答		

(全員のの方に)

問29. あなたは、この1年間に、次にあげる募金や活動に寄付したり会費を納めたりしましたか。(あてはまるものすべてに) 回答者数1,168

59.6	町会費や自治会費	
28.8	地元のお祭りなどへの寄付	
43.8	歳末助け合い募金	
42.1	赤い羽根共同募金	
35.8	日本赤十字の会費(寄付)	
21.7	他の地域や海外で起きた地震など大規模災害の募金	
8.5	国際協力系の活動	
2.3	保健福祉医療系の活動	
3.1	環境系の活動	
2.7	子育て・教育系の活動	
22.8	していない	
3.6	その他()	0.9 無回答

3. 介護保険関係についてうかがいます

(全員のの方に)

問30. あなたは、介護保険制度のしくみ(手続き・保険料・給付内容など)について、どの程度ご存じですか。(は1つ) 回答者数1,168

4.5	よく知っている	
18.2	だいたい知っている	
37.3	一部知っているが、わからない内容も多い	
39.6	ほとんど知らない	
0.4	無回答	

(全員のの方に)

問31. 介護保険制度が始まって8年が経過し、中野区では現在8千人の方がこのサービスを利用しながら生活しています。あなたは、この制度を全体としてどの程度評価しますか。(は1つ) 回答者数1,168

12.2	大いに評価している	2.7	まったく評価していない
27.6	多少は評価している	44.5	わからない
12.0	あまり評価していない	1.1	無回答

(全員の方に)

問32. あなたは、痴ほう症が認知症という病名に変わったことを知っていますか。

(は1つ)

回答者数1,168

86.9 知っている

12.1 知らない

1.0 無回答

認知症とは、物忘れがひどくなり、時間や場所が分からなくなるほどの症状が原因で不安になり、周辺症状(徘徊、暴言、妄想など)が生じますが、適切な医療の提供や不安を和らげることなどで周辺症状をなくしたり、軽くしたりすることができます。

(全員の方に)

問33. 高齢者の介護予防や在宅生活を支える各種相談(介護保険、権利擁護など)を行なう、地域包括支援センターが区内に8か所設置されていますが、あなたは、ご自分の住んでいる地域を担当している地域包括支援センターはどこか(名称・所在地など)ご存じですか。(は1つ)

回答者数1,168

23.0 知っている

75.8 知らない

1.2 無回答

4. 福祉のまちづくりについてうかがいます

(全員の方に)

問34. あなたは、普段、障害のある同僚や友人・家族・知り合いなどと会話を交わしたり、一緒に行動や仕事をしたりする機会がありますか。(は1つ)

回答者数1,168

11.7 日常的にある

16.7 たまにある

13.3 あまりない

57.3 ほとんどない

1.0 無回答

(全員の方に)

問35. あなたは、「ユニバーサルデザイン」という言葉と意味についてどの程度ご存じですか。(は1つ)

回答者数1,168

20.5 言葉、意味ともよく知っている

13.8 言葉は知っているが意味はよくわからない

23.4 言葉だけは聞いたことがある

41.4 言葉も意味も全く知らない

0.9 無回答

5 . 保健福祉の相談窓口についてうかがいます

(全員の方に)

問36 . あなたは、次のそれぞれの機関について、身近に感じますか。((1) ~ (8) それぞれについて は1つずつ) 回答者数1,168

(1) 区役所	42.2	身近に感じる	47.9	身近に感じない	9.9	無回答
(2) 地域センター	52.1	身近に感じる	38.3	身近に感じない	9.7	無回答
(3) 保健福祉センター	11.0	身近に感じる	74.2	身近に感じない	14.7	無回答
(4) 保健所	18.8	身近に感じる	67.6	身近に感じない	13.6	無回答
(5) 地域包括支援センター	5.2	身近に感じる	79.5	身近に感じない	15.2	無回答
(6) 病院や診療所	71.1	身近に感じる	19.7	身近に感じない	9.2	無回答
(7) 薬局	69.4	身近に感じる	20.2	身近に感じない	10.4	無回答
(8) 社会福祉協議会	3.5	身近に感じる	81.6	身近に感じない	14.9	無回答

(全員の方に)

問37 . 「成年後見制度」という言葉やしくみについてどの程度ご存じですか。(は1つ) 回答者数 1,168

17.8	言葉、しくみとも知っている		
23.1	言葉は知っているが、しくみはよくわからない		
18.4	言葉としては聞いたことがある		
39.8	全く知らない	0.9	無回答

成年後見制度とは認知症や障害などで判断能力が不十分な人の財産や権利を守るため、成年後見人などの援助者が代理人となって財産管理や契約などを行う制度です。

(全員の方に)

問38 . あなたは中野区の保健福祉施策について満足していますか。(は1つ) 回答者数1,168

2.1	満足	59.8	普通	13.1	不満
6.7	だいたい満足	11.3	やや不満	7.1	無回答

(全員の方に)

問39 . 保健福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

平成 20 (2008) 年度 保健福祉に関する意識調査

発行日 平成 20 (2008) 年 8 月

印刷登録番号 20 中保経第 5 号

発行 中野区保健福祉部企画調整担当
〒164-8501 東京都中野区中野 4-8-1
電話 03-3228-5609 (直通)

編集分析 社団法人 中央調査社
〒104-0061 東京都中央区銀座 6-16-12
電話 03-3549-3121 (代表)

平成20(2008)年度
高齢福祉・介護保険サービス意向調査
報 告 書

平成20(2008)年8月

中 野 区

は じ め に

わが国は、他の先進諸国に例を見ないスピードで少子高齢化が進行しており、今後、特に都市部においては、全国のスピードを大幅に上回る急激な変化が予測されています。

こうした状況のなか、区は、平成 15（2003）年 3 月に、区の保健福祉施策の基本計画となる「中野区保健福祉総合推進計画 2005」を策定しました。だれもが住み慣れた地域で、安心して健やかに暮らし続けられる「健康福祉都市なかの」の実現を目指し、取り組みを進めていますが、保健福祉サービスに対する需要が多様化しているなかで、高齢者が地域において、できる限り自立して生活していくことを支援するために、柔軟、かつ、地域の実情に即した保健福祉施策を推進していくことが、大きな課題となっています。

また、高齢者の介護を国民みんなで支えるしくみとして介護保険制度がスタートして約 8 年が経過し、区民の間にも着実に浸透してきましたが、これからも持続可能な制度としていくためには、サービスの利用状況や利用意向、サービス基盤の状況等を踏まえながら、必要な見直しをしていく必要があります。

今回おこなった調査では、平成 20（2008）年度中に改定を予定している「中野区保健福祉総合推進計画」と「第 4 期介護保険事業計画」の検討材料とするため、区内にお住まいの 65 歳以上の高齢者、介護サービス利用者、ケアマネジャー等を対象にサービスに対するご意見や、今後の取り組みに対し意見をお伺いしました。

今回の調査結果につきましては、今後保健福祉に関する区の事業や施策の見直し・改善に反映させるなど、活用を図っていきたいと考えております。

最後になりましたが、調査にご協力いただいたみなさまに対しまして、ここに厚くお礼申し上げます。

平成 20（2008）年 8 月

中 野 区 保 健 福 祉 部

目 次

調査の概要

1 調査の目的	3
2 調査の設計	3
3 調査の内容	4
4 報告書の見方	4

調査結果の分析

高齢者一般

1 回答者の属性	9
（1）性別	9
（2）年齢	9
（3）同居の家族	9
（4）別居の子ども	10
（5）居住年数	10
（6）住居形態	10
（7）居住地域	11
2 健康状態について	12
（1）自分の健康状態	12
（2）視力について	15
（3）聴力について	17
（4）歯のことで困っていること	19
（5）通院または治療中の疾病	21
（6）物覚え（記憶力）の変化	24
（7）気分が沈んだり憂うつな気持ちになったりすること	26
3 健康づくり運動について	28
（1）健康維持や向上のために実行していること	28
（2）健康づくりのための事業への参加	31
4 就業状況について	34
（1）就業の有無	34
（2）働いている理由	36
（3）働いていない理由	38
5 日常生活や社会参加について	40
（1）外出の有無	40

(2) 平日の昼間に一緒にいる人	42
(3) 将来に対する不安	44
(4) 不安や悩みごとの相談相手	47
(5) 地域の活動への参加	49
(6) 地域の活動に参加するきっかけ	51
(7) 異なる世代との交流への参加意向	53
(8) 楽しみや生きがい	56
6 地域とのかかわりについて	58
(1) 隣近所の人とのつきあいの程度	58
(2) 地域の人たちが協力して取り組むべき問題	61
(3) 住民同士が支え合う地域づくりのために、区が行うべき支援	63
(4) 地域で困っている世帯のためにできること	65
7 保健福祉サービス等の利用意向について	68
(1) 自分や家族が虚弱状態になった場合、利用したいサービス	68
(2) 「成年後見制度」や支援サービスの利用意向	70
(3) 福祉や介護サービスの情報源	72
8 介護保険制度について	74
(1) 介護保険のサービスと保険料について	74
(2) 介護を受けたい場所	76
(3) 自宅で介護を受けたい理由	79
(4) 地域の小規模老人ホームやグループホームで介護を受けたい理由	81
(5) 特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設で 介護を受けたい理由	83
(6) 地域包括支援センターを認識している度合い	85
9 高齢者問題等について	87
(1) 家庭内での高齢者虐待の防止策として効果的な対策	87
10 区の高齢者保健福祉施策への要望について	90
(1) 高齢社会に向けて、区に力を入れて欲しいこと	90
(2) 保健福祉行政全体についての意見や要望（自由回答）	93

居宅サービス利用者

1 対象者の属性	103
(1) アンケートの回答者	103
(2) 本人の性別	103
(3) 本人の年齢	103
(4) 要介護度	104
(5) 障害者手帳の有無	104
(6) 介護が必要になった原因	105

(7) 同居の家族	105
(8) 主な介護者	106
(9) 世帯年収	106
(10) 担当の地域包括支援センター	107
2 住環境について	108
(1) 住居形態	108
(2) 住居で困っていること	110
3 介護予防について	112
(1) 健康状態の維持や悪化しないために注意を払っていること	112
(2) 現在の介護度を悪化させないために利用したいサービス	114
4 在宅生活の継続について	116
(1) 「小規模多機能型居宅介護サービス」の認知と利用意向	116
(2) 「夜間対応型訪問介護サービス」の認知と利用意向	118
(3) ショートステイの利用状況	120
(4) ショートステイが利用できない時の対応	122
5 今後の在宅生活・施設入所希望について	124
(1) 今後の生活について	124
(2) 介護保険施設や有料老人ホームへの入所希望	127
(3) 希望する施設	130
(4) 将来施設に入所したい理由	132
6 地域包括支援センターについて	134
(1) 地域包括支援センターへの相談の有無	134
(2) 相談した感想	136
7 介護保険制度について	138
(1) ケアマネジャーの対応について	138
(2) ケアプランについて不満に思うこと	140
(3) ヘルパーについて	142
(4) デイサービスの職員について	144
(5) 介護保険のサービスと保険料について	146
(6) 介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと	149
(7) 介護保険制度の不満な点	152
(8) 介護保険制度に関する意見・要望 自由回答	156
(9) 介護で困った時の相談先（介護者）	167
(10) 介護をされていて不足と感じるサービス（介護者・自由回答）	169

介護サービス未利用者

1 対象者の属性	179
(1) アンケートの回答者	179

(2) 本人の性別	179
(3) 本人の年齢	179
(4) 要介護度	180
(5) 障害者手帳の有無	180
(6) 介護が必要になった原因	181
(7) 同居の家族	181
(8) 主な介護者	182
(9) 世帯年収	182
(10) 担当の地域包括支援センター	183
2 認定の申請について	184
(1) 要介護認定を申請した理由	184
(2) 介護保険サービスを利用していない理由	186
(3) 介護サービスを利用したいと思う状況	189
3 住環境について	191
(1) 住居形態	191
(2) 住居で困っていること	193
4 介護予防について	195
(1) 健康状態の維持や悪化しないために注意を払っていること	195
(2) 現在の介護度を悪化させないために参加したい事業	197
5 今後の在宅生活・施設入所希望について	199
(1) 今後の生活について	199
(2) 介護保険施設や有料老人ホーム等への入所希望	202
(3) 希望する施設	205
(4) 施設に入所したい理由	207
6 地域包括支援センターについて	209
(1) 地域包括支援センターへの相談の有無	209
(2) 相談した感想	211
7 介護保険制度について	213
(1) 介護保険のサービスと保険料について	213
(2) 介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと	216
(3) 介護保険制度の不満な点	219
(4) 介護保険制度に関する意見・要望（自由回答）	223
(5) 介護で困った時の相談先（介護者）	228
(6) 介護をされていて不足と感ずるサービス（介護者・自由回答）	230
 ケアマネジャー	
1 対象者の属性	235
(1) 所属する事業所の所在地	235

(2) 所属する事業所が提供するサービス	235
(3) 勤務体系	237
(4) ケアマネジャーとしての従事期間	237
(5) ケアマネジャー受験資格と当該職種の従事年数	238
(6) 過去 3 年間で、所属事業所を変わった回数	239
(7) 事業所を変わった主な理由	239
(8) 居宅サービス計画の作成人数	240
(9) 介護予防サービス計画の受託または作成人数	240
(10) 作成するケアプランの件数について	240
(11) ケアプランの件数が増えない理由 (自由回答)	241
(12) ケアプランの件数を減らせない理由 (自由回答)	242
2 ケアプランを作成する上での課題について	243
(1) 現行の介護サービスが要介護者等の自立支援に果たす役割	243
(2) 介護保険サービスによる家族の介護負担軽減	244
(3) 供給不足のため、利用者に提供できないサービス	245
(4) 供給不足以外に必要なサービスが提供出来ない場合	248
(5) 要介護者や家族にとって望まれるサービス (自由回答)	249
(6) 近隣や地域の人々に望む支援や手助け	252
3 サービス連携について	254
(1) 介護サービス提供事業者との連携	254
(2) 主治医との連携	255
(3) 地域包括支援センターとの連携	257
(4) 区の障害者施策の相談窓口とのサービス調整等の連携	258
(5) サービス担当者会議を開催する上での問題点	259
4 困難な事例への対応について	261
(1) ケアプラン作成の際、対応に苦慮するケース	261
(2) 要介護者や家族からの相談への対応	262
(3) アドバイスを得るところ	264
(4) 高齢者等への虐待が疑われるケースの発見や相談の件数	265
(5) 高齢者虐待対応について強化すべきこと	266
5 介護予防について	268
(1) 充実すべき区の介護予防事業	268
(2) 「家族介護教室」への参加のすすめ	270
6 認知症に関する課題について	271
(1) 「認知症サポート講座」への参加のすすめ	271
(2) 認知症高齢者に関して必要な施策	272
7 在宅介護の可能性の拡大について	273
(1) 要介護者等が居宅や地域での生活を続けるために充実すべき点	273

8 情報入手について	274
(1) よく閲覧するホームページ	274
(2) 区から希望する情報(自由回答)	275
9 業務遂行上の問題について	277
(1) 業務遂行上、困っていること	277
10 その他について	279
(1) 区に期待すること(自由回答)	279
(2) 地域包括支援センターに期待すること(自由回答)	283
(3) 介護保険制度に関する意見(自由回答)	286

調査票と単純集計

・ 高齢者調査	293
・ 居宅サービス利用者調査	310
・ 介護サービス未利用者調査	322
・ ケアマネジャー調査	332

調査の概要

1 調査の目的

高齢者、要支援・要介護認定者の保健福祉・介護保険サービスの利用実態や今後の利用意向等及び、介護サービス事業者の業務遂行状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

2 調査の設計

調査は、以下の ~ について、郵送配布、郵送回収の方法で行なった。

高齢者一般

基準日（平成 20 年 4 月 1 日）現在で 65 歳以上の区民から、介護保険で要支援又は要介護の認定を受けている者及び障害者調査等を除外した中から、3,000 人を無作為で抽出し調査の対象とした。

- ・調査対象：満 65 歳以上の区民（基準日：平成 20 年 4 月 1 日現在 58,655 人）
- ・調査標本数：3,000 人
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・有効回収数：1,762 人（回収率：58.7%）
- ・調査期間：平成 20（2008）年 4 月 18 日～ 5 月 8 日

居宅サービス利用者

- ・調査対象：介護保険サービスのうち居宅サービスを利用している区民
- ・調査標本数：1,500 人
- ・抽出方法：調査対象者から無作為に抽出
- ・有効回収数：922 人（回収率：61.5%）
- ・調査期間：平成 20（2008）年 4 月 18 日～ 5 月 8 日

介護サービス未利用者

- ・調査対象：要介護等の認定を受けており介護サービスを利用していない区民
- ・調査標本数：500 人
- ・抽出方法：調査対象者から無作為に抽出
- ・有効回収数：266 人（回収率：53.2%）
- ・調査期間：平成 20（2008）年 4 月 18 日～ 5 月 8 日

ケアマネジャー

- ・調査対象：区内全居宅介護支援事業所及び隣接区の居宅介護支援事業所で区民のケアプランを 10 件以上扱っている事業所に所属するケアマネジャー
- ・調査標本数：250 人
- ・抽出方法：調査対象者全員を抽出
- ・有効回収数：139 人（回収率：55.6%）
- ・調査期間：平成 20（2008）年 4 月 18 日～ 5 月 8 日

3 調査の内容

高齢者

- | | |
|-------------------|------------------------|
| (1) 調査回答者の属性 | (6) 地域とのかかわりについて |
| (2) 健康状態について | (7) 保健福祉サービス等の利用意向について |
| (3) 健康づくり運動について | (8) 介護保険制度について |
| (4) 就業状況について | (9) 高齢者問題等について |
| (5) 日常生活や社会参加について | (10) 高齢者保健福祉施策への要望について |

居宅サービス利用者

- | | |
|-----------------|------------------------|
| (1) 調査回答者の属性 | (5) 今後の在宅生活・施設入所希望について |
| (2) 住環境について | (6) 地域包括支援センターについて |
| (3) 介護予防について | (7) 介護保険制度について |
| (4) 在宅生活の継続について | |

介護サービス未利用者

- | | |
|---------------|------------------------|
| (1) 調査回答者の属性 | (5) 今後の在宅生活・施設入所希望について |
| (2) 認定の申請について | (6) 地域包括支援センターについて |
| (3) 住環境について | (7) 介護保険制度について |
| (4) 介護予防について | |

ケアマネジャー

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| (1) 調査回答者の属性 | (5) 介護予防について |
| (2) ケアプランを作成する上での課題
について | (6) 認知症に関する課題について |
| (3) サービス連携について | (7) 在宅介護の可能性の拡大について |
| (4) 困難な事例への対応について | (8) 情報入手について |
| | (9) 業務遂行上の問題について |

4 集計・分析

・集計は、単純集計、属性との基本クロス集計、設問間のクロス集計の3分類について行った。

5 報告書の見方

- ・回答の比率（構成比）は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、回答比率を合計しても100%ちょうどにならない場合がある。
- ・回答者数が10人未満のものは標本誤差が大きいため、グラフに掲載してもコメントはしていない。
- ・数表やグラフの回答選択肢の表記は、一部省略しているところがある。
- ・一部グラフは掲載せずに、説明のみを記載しているところがある。

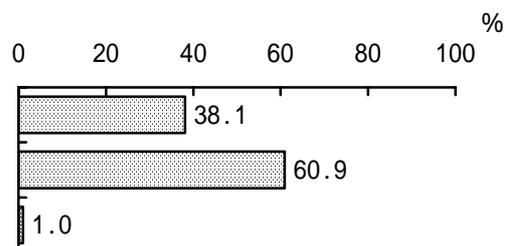
調査結果の分析

高齡者一般

1. 回答者の属性

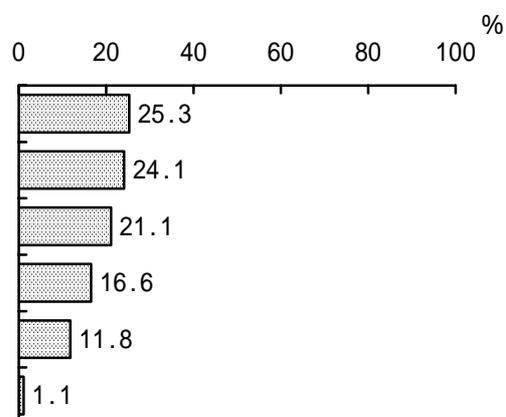
(1) 性別

区分	回答者数	構成比 (%)
男性	672	38.1
女性	1,073	60.9
無回答	17	1.0
全体	1,762	100.0



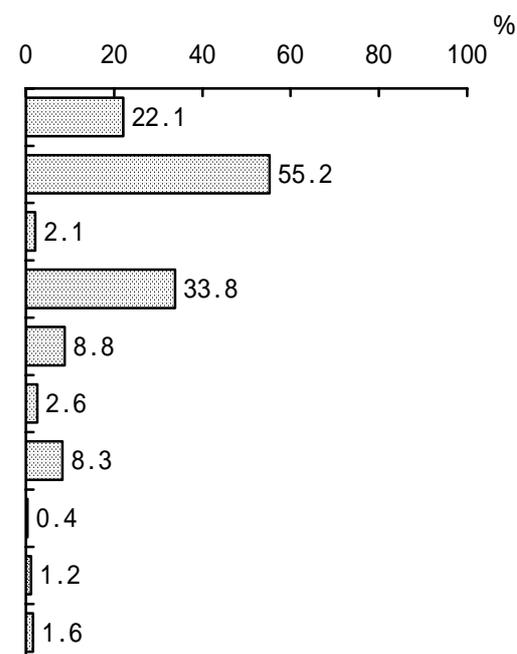
(2) 年齢

区分	回答者数	構成比 (%)
65歳～69歳	446	25.3
70歳～74歳	424	24.1
75歳～79歳	371	21.1
80歳～84歳	293	16.6
85歳以上	208	11.8
無回答	20	1.1
全体	1,762	100.0



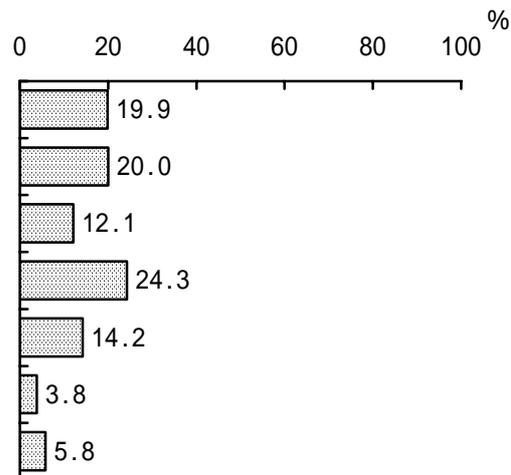
(3) 同居の家族

区分	回答者数	構成比 (%)
同居している家族はいない (ひとり暮らしである)	390	22.1
配偶者	972	55.2
親	37	2.1
子ども	596	33.8
子どもの配偶者	155	8.8
兄弟姉妹、 兄弟姉妹の家族	45	2.6
孫	147	8.3
同居家族はいるが、同居 家族は現在入院中である	7	0.4
その他	22	1.2
無回答	29	1.6
全体	1,762	100.0



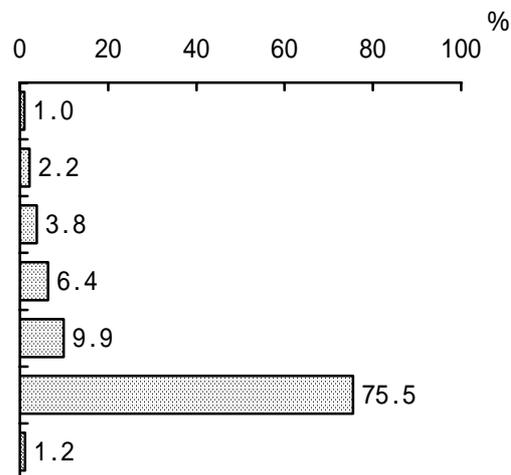
(4) 別居の子ども

区分	回答者数	構成比 (%)
子どもはいない	201	19.9
歩いていける範囲(10分以内)に住んでいる	202	20.0
30分以内で行ける場所に 住んでいる	122	12.1
30分以上かかる場所に 住んでいる	245	24.3
関東近県に住んでいる	143	14.2
その他の地域に住んでいる	38	3.8
無回答	59	5.8
全体	1,010	100.0



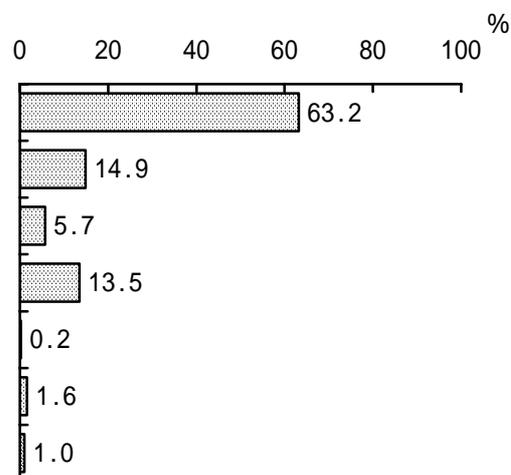
(5) 居住年数

区分	回答者数	構成比 (%)
1年未満	17	1.0
1～4年	38	2.2
5～9年	67	3.8
10～19年	113	6.4
20～29年	175	9.9
30年以上	1,330	75.5
無回答	22	1.2
全体	1,762	100.0



(6) 住居形態

区分	回答者数	構成比 (%)
持ち家(一戸建て)	1,113	63.2
持ち家(マンションなどの 集合住宅)	263	14.9
公営住宅 (都営、区営住宅など)	100	5.7
民間賃貸住宅(アパート・ マンションなど)	237	13.5
社宅、社員寮、公務員住宅	4	0.2
その他	28	1.6
無回答	17	1.0
全体	1,762	100.0



(7) 居住地域

区分		回答者数	構成比 (%)
南 部	本町、弥生町、南台	373	21.2
中央部	上高田、中野、東中野、中央	506	28.7
北東部	江原町、江古田、野方、丸山、沼袋、松が丘、新井	455	25.8
北西部	上鷺宮、鷺宮、白鷺、若宮、大和町	412	23.4
無回答		16	0.9
全体		1,762	100.0

2 . 健康状態について

(1) 自分の健康状態

おおむね健康であると答えた人は7割

(全員の方に)

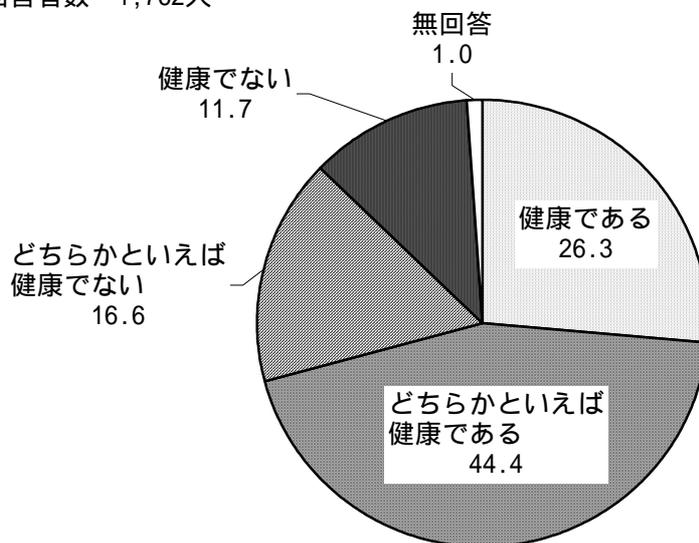
問 8 . あなた (宛名の方ご本人) は、普段、ご自分の健康についてどうお感じですか。

(〃 は1つ)

図 - 2 - 1

回答者数 1,762人

単位 : %



現在の自分の健康状態を「健康である」と答えた人は 26.3%、「どちらかといえば健康である」と答えた人は 44.4%となっており、この両者を合わせた“おおむね健康”が 70.8%を占めている。一方、「どちらかといえば健康でない」と答えた人は 16.6%、「健康でない」と答えた人は 11.7%となっている。(図 - 2 - 1)

性別では、「健康である」が男性で 31.4%と女性 (23.3%) より高くなっている。(図 - 2 - 2)

性・年齢別では、男女ともに年齢が若いほど“おおむね健康”と答えた人が高くなる傾向が見られ、男性の 65~74 歳、女性の 65~69 歳は 80%台となっている。一方、「どちらかといえば健康でない」と「健康でない」を合わせた“あまり健康でない”は年齢の上昇とともに高くなり、特に 85 歳以上では「健康でない」と答えた人が男女とも 30%台となっている。(図 - 2 - 3)

世帯構成別では、高齢者夫婦だけ、高齢者と子どもの2世代の世帯では70%以上が“おおむね健康”としているが、ひとり暮らしの世帯では61.8%と低くなっている。(図 - 2 - 4)

図 - 2 - 2 性別

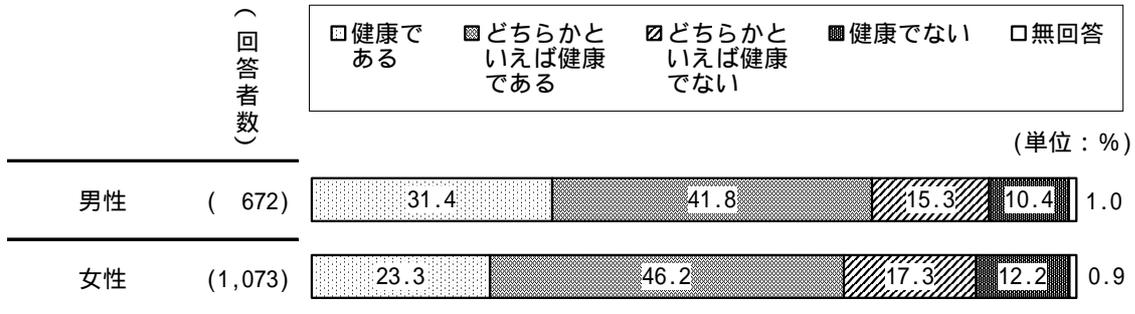


図 - 2 - 3 性・年齢別

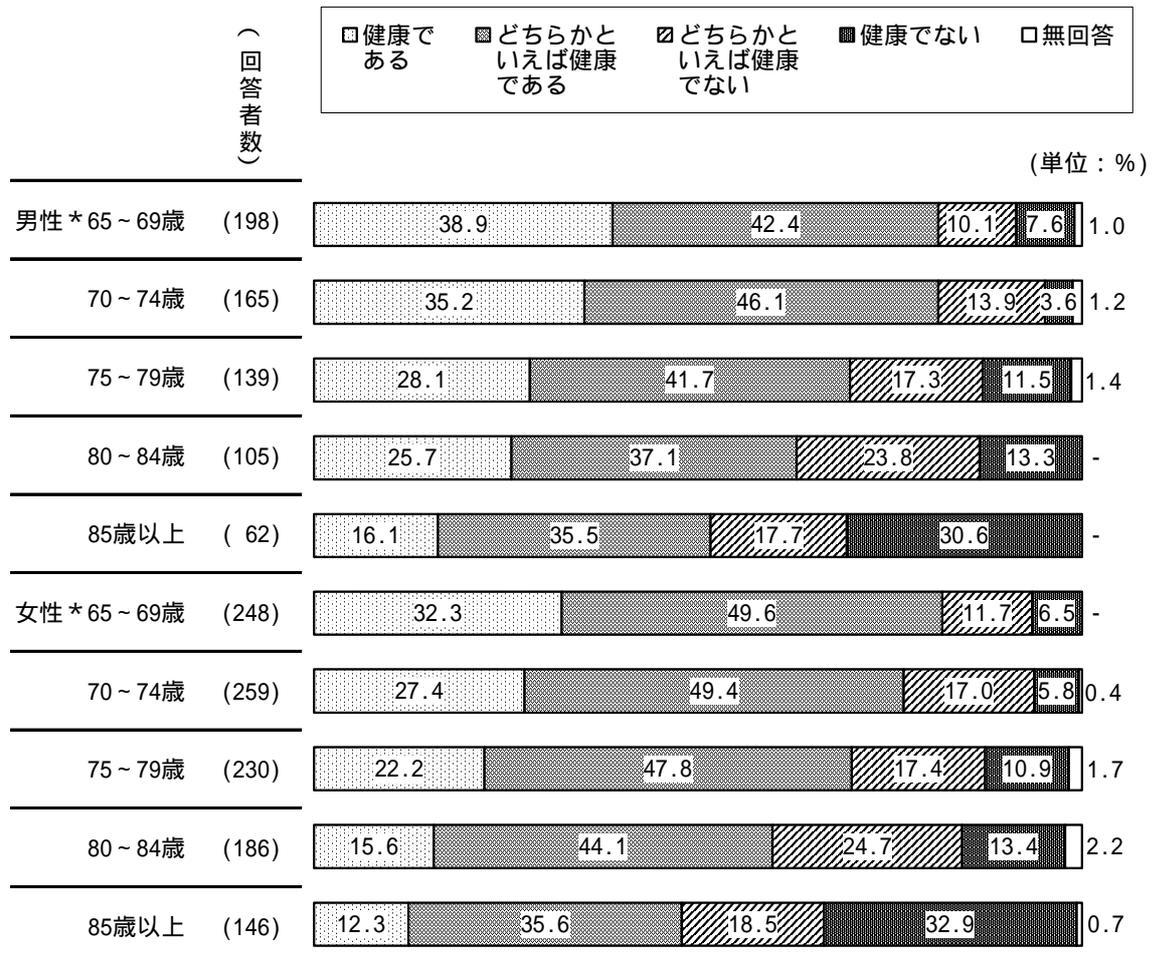
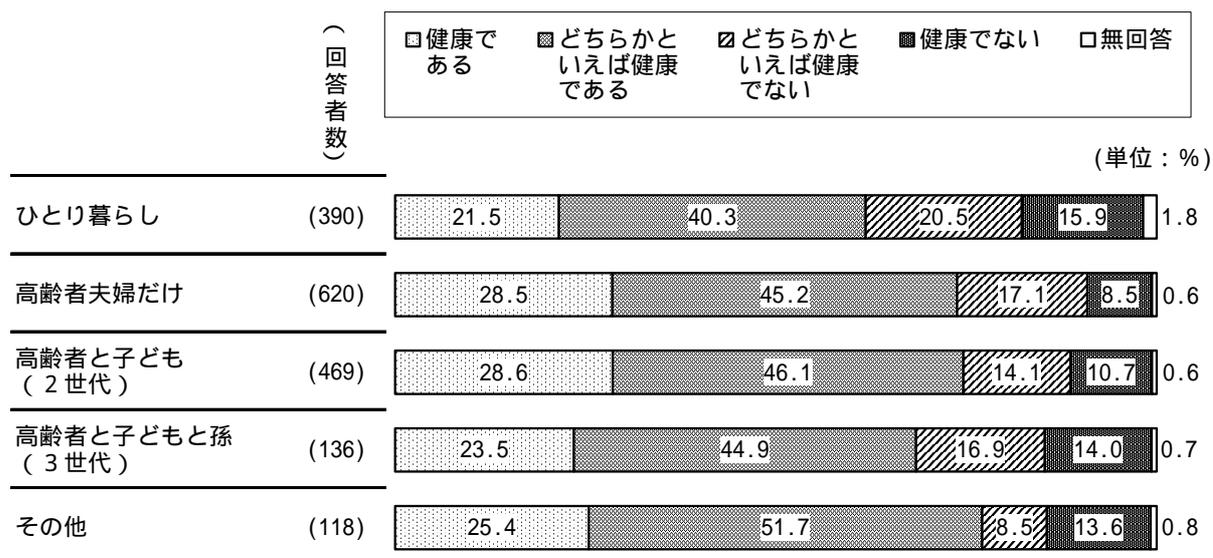


図 - 2 - 4 世帯構成別



(2) 視力について

細かい字が読めると答えた人は8割弱

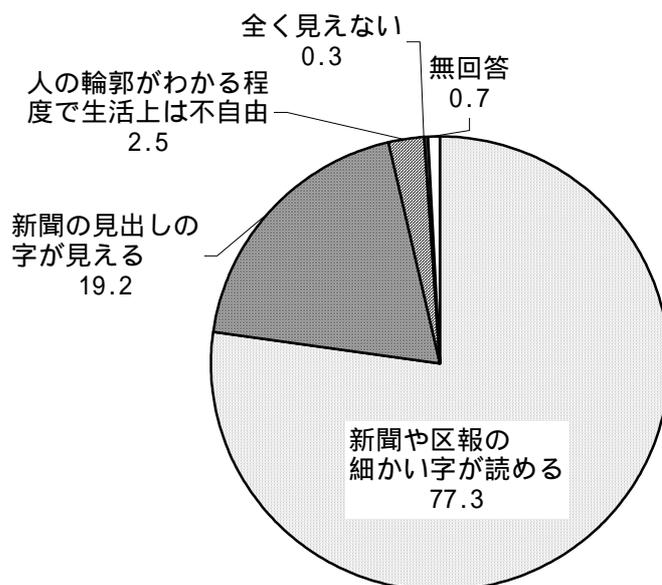
(全員の方に)

問9. あなた(宛名の方ご本人)の視力についておたずねします。(めがねをかけた状態も含めて)。(は1つ)

図 - 2 - 5

回答者数 1,762人

単位：%



視力については、「新聞や区報の細かい字が読める」と答えた人が77.3%を占めている。「新聞の見出しの字が見える」と答えた人は19.2%、「人の輪郭がわかる程度で生活上は不自由」と答えた人は2.5%、「全く見えない」と答えた人は0.3%となっている。(図 - 2 - 5)

性別では、「新聞や区報の細かい字が読める」が男性で80.7%と女性(75.5%)より高くなっている。(図 - 2 - 6)

年齢別では、「新聞や区報の細かい字が読める」と答えた人が65~74歳で80%台、75~84歳で70%台となっているが、85歳以上では55.3%と低くなっている。(図 - 2 - 7)

現在の健康状態別では、「新聞や区報の細かい字が読める」と答えた人は健康であるとする人ほど高くなり、健康である人では90.5%を占めるのに対し、健康でない人では48.1%と低くなっている。(図 - 2 - 8・12ページ問8参照)

図 - 2 - 6 性別

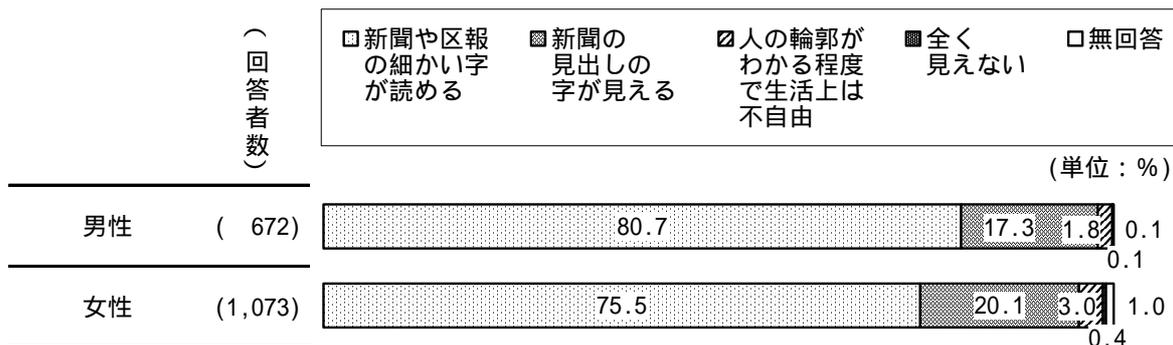


図 - 2 - 7 年齢別

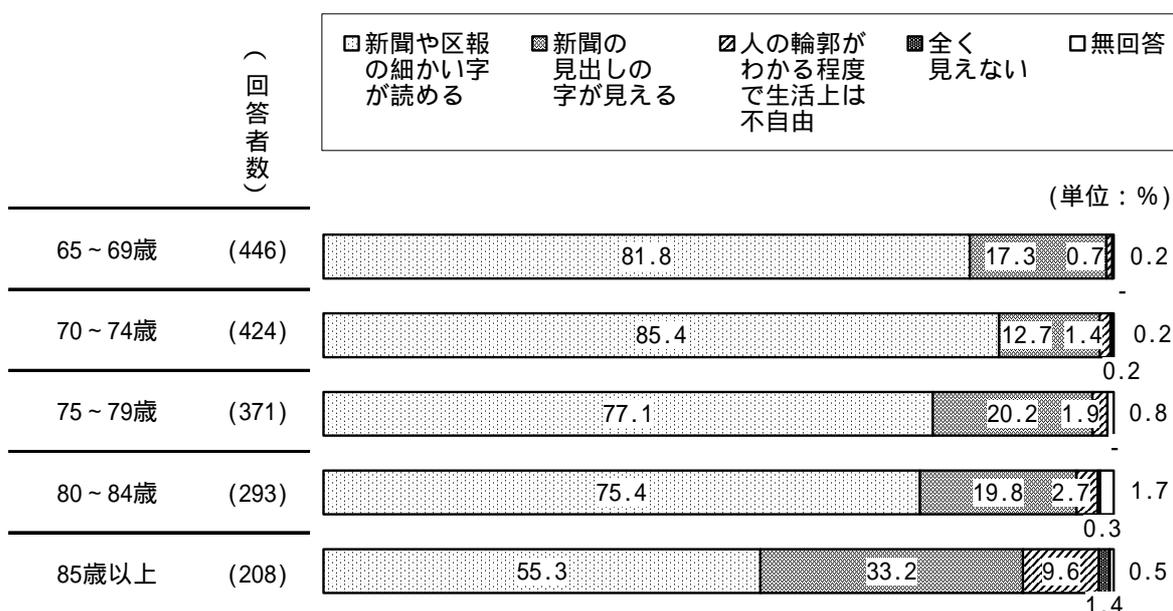
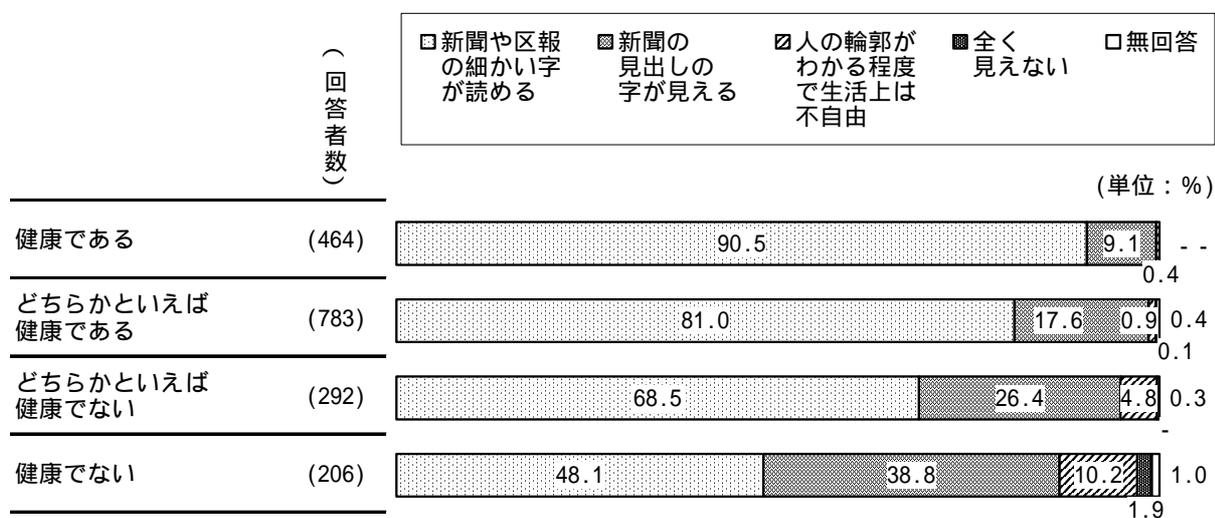


図 - 2 - 8 視力と現在の健康状態の関係



(3) 聴力について

4人に3人は普通に聞こえる

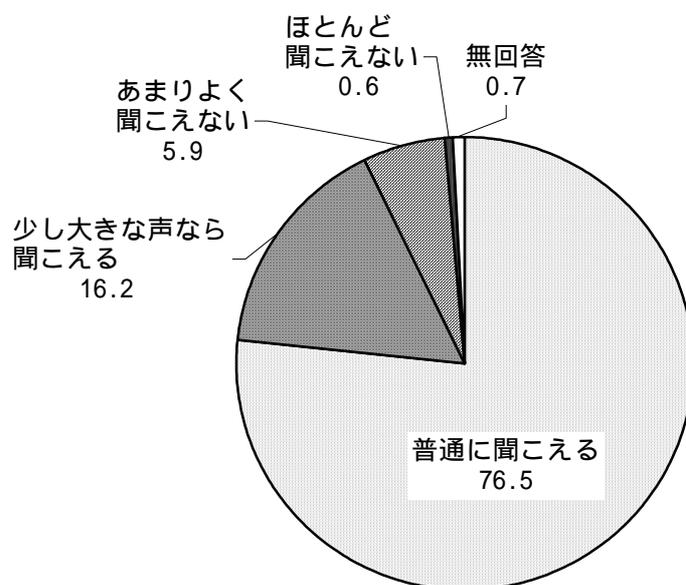
(全員の方に)

問 10. あなた(宛名の方ご本人)の聴力についておたずねします。(補聴器をつけた状態も含めて)。(は1つ)

図 - 2 - 9

回答者数 1,762人

単位：%



聴力については、「普通に聞こえる」と答えた人が76.5%を占めている。「少し大きな声なら聞こえる」と答えた人は16.2%、「あまりよく聞こえない」と答えた人は5.9%、「ほとんど聞こえない」と答えた人は0.6%となっている。(図 - 2 - 9)

性別では、大きな差は見られない。(図 - 2 - 10)

年齢別では、「普通に聞こえる」と答えた人は年齢の若い人ほど高く、65～74歳で80%台、75～79歳で70%台、80～84歳で60%台となっているが、85歳以上では44.2%と低くなっている。(図 - 2 - 11)

現在の健康状態別では、「普通に聞こえる」と答えた人は健康であるとする人ほど高くなり、健康である人では90.3%を占めるのに対し、健康でない人では52.9%と低くなっている。(図 - 2 - 12・12ページ問8参照)

図 - 2 - 10 性別

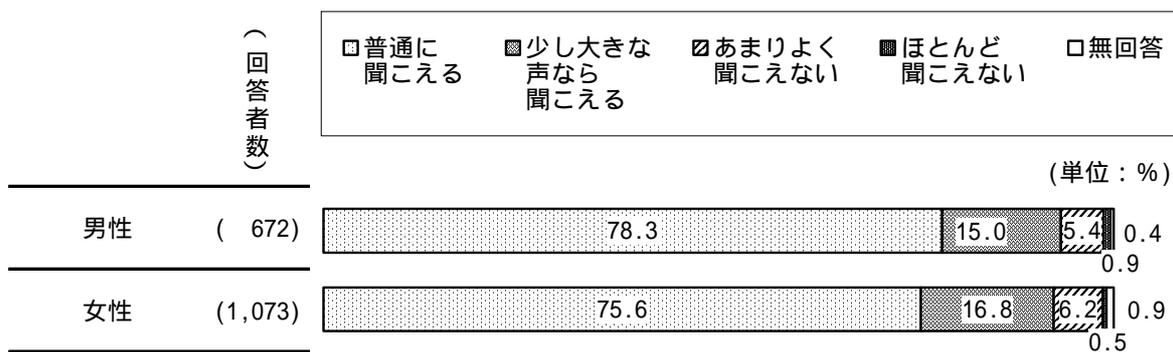


図 - 2 - 11 年齢別

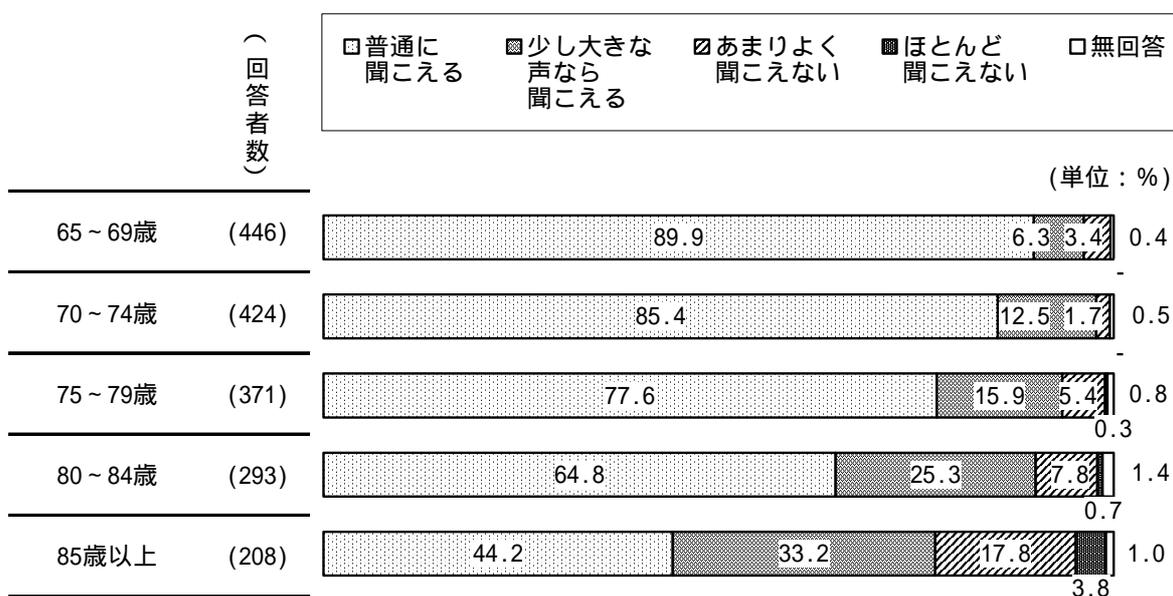
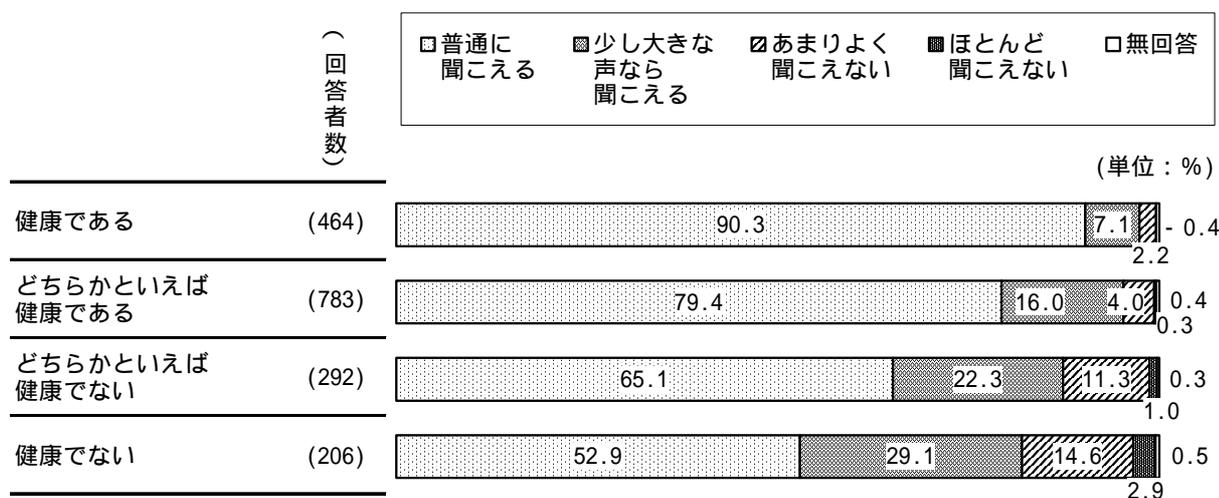


図 - 2 - 12 聴力と現在の健康状態の関係



(4) 歯のことで困っていること

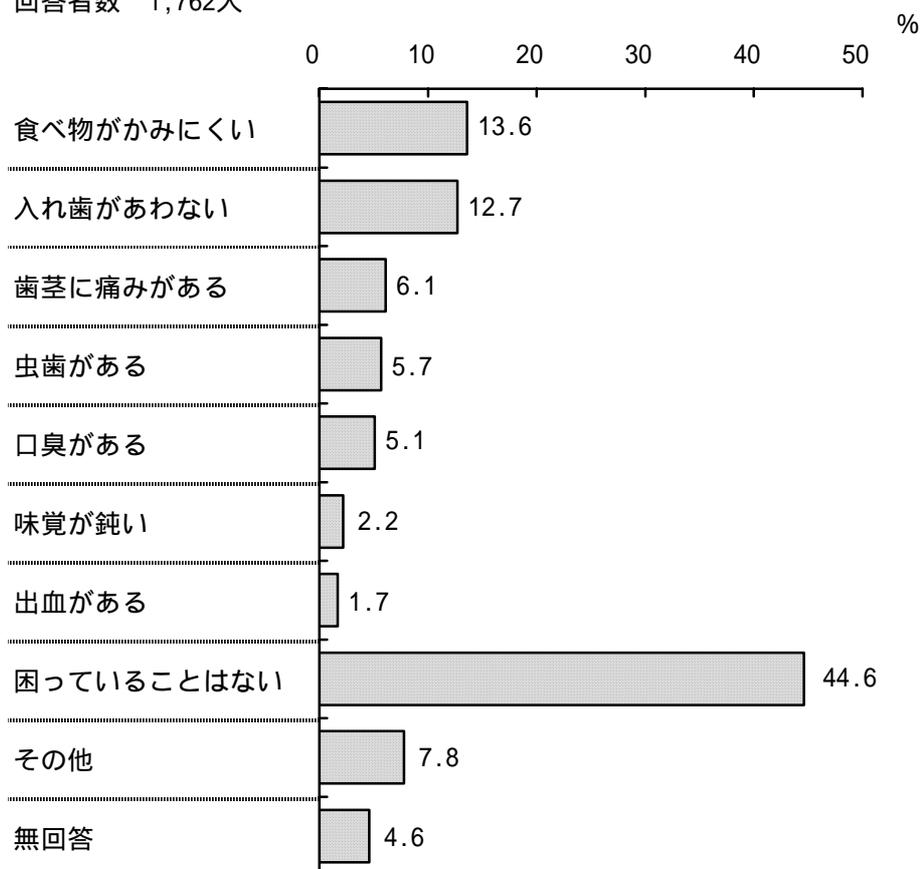
困っていることはない人が4割半

(全員の方に)

問11. あなた(宛名の方ご本人)は、現在、歯のことで何か困っていることがありますか。
(あてはまるものすべてに)

図 - 2 - 13

回答者数 1,762人



歯のことで困っていることとしては、「食べ物がかみにくい」(13.6%)が最も多く、次いで、「入れ歯があわない」(12.7%)も1割以上の人があげている。以下、「歯茎に痛みがある」(6.1%)、「虫歯がある」(5.7%)、「口臭がある」(5.1%)、「味覚が鈍い」(2.2%)、「出血がある」(1.7%)となっているが、「困っていることはない」と答えた人が最も多く44.6%となっている。(図 - 2 - 13)

性別では、「入れ歯があわない」が男性(10.9%)より女性(14.0%)で高い。(図 - 2 - 14)

年齢別では、「入れ歯があわない」と答えた人は年齢の高い人ほど高く、65～74歳で10%未満であるが、80歳以上で20%前後となっている。(図 - 2 - 15)

図 - 2 - 14 性別 (上位6位)

(単位: %)

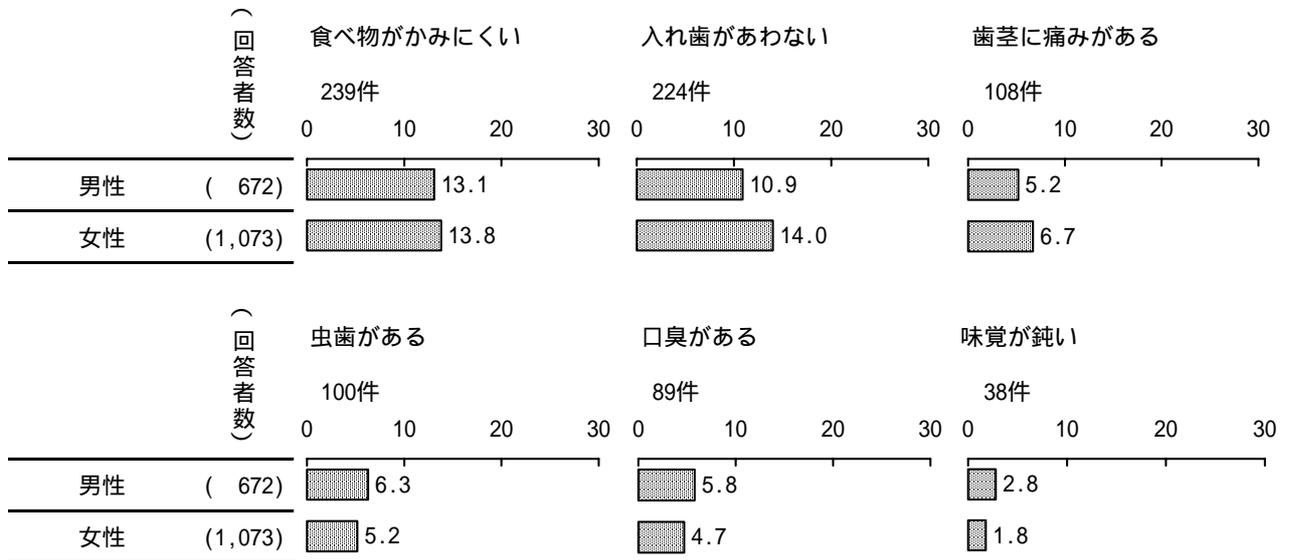
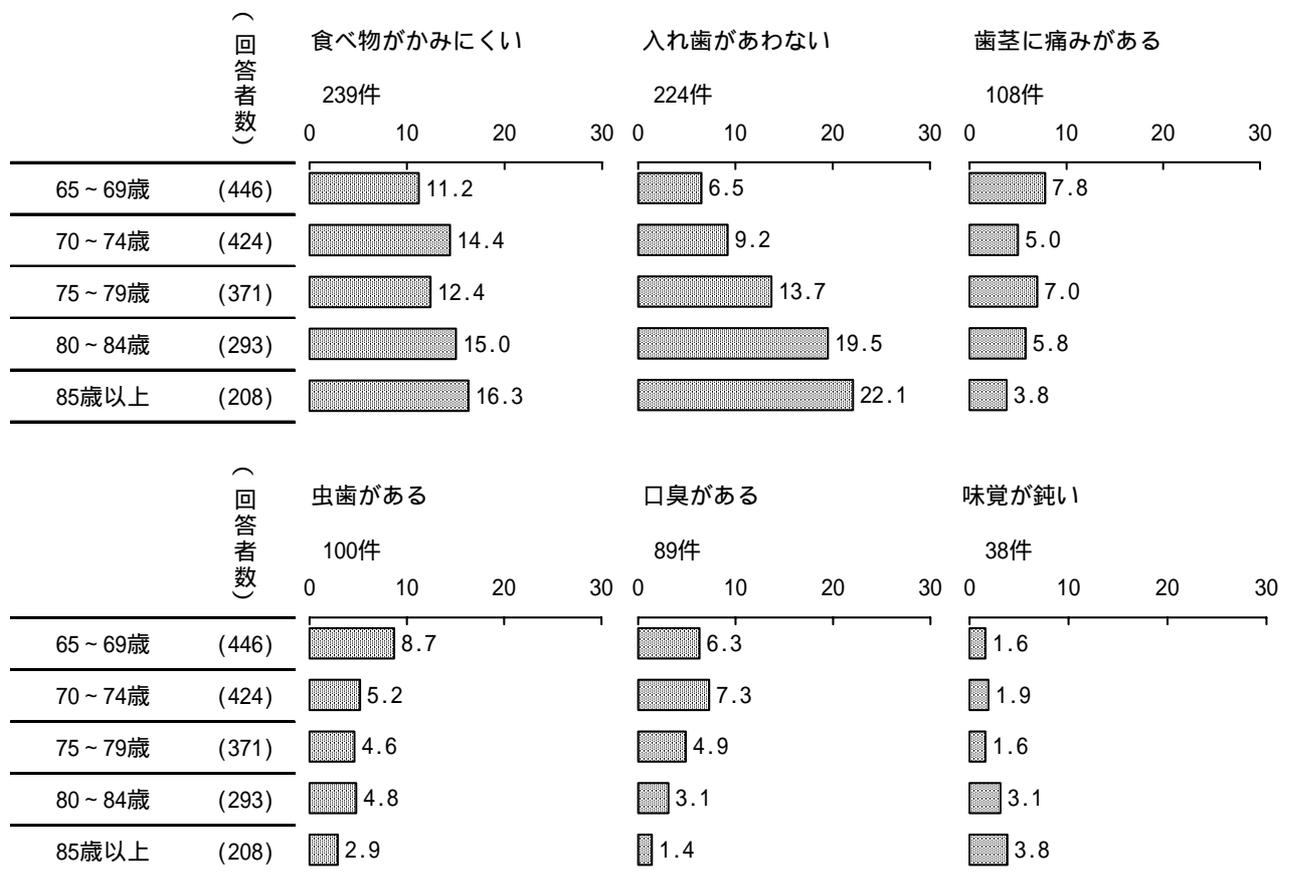


図 - 2 - 15 年齢別 (上位6位)

(単位: %)



(5) 通院または治療中の疾病

「 血 圧 症 」 が 3 割 強

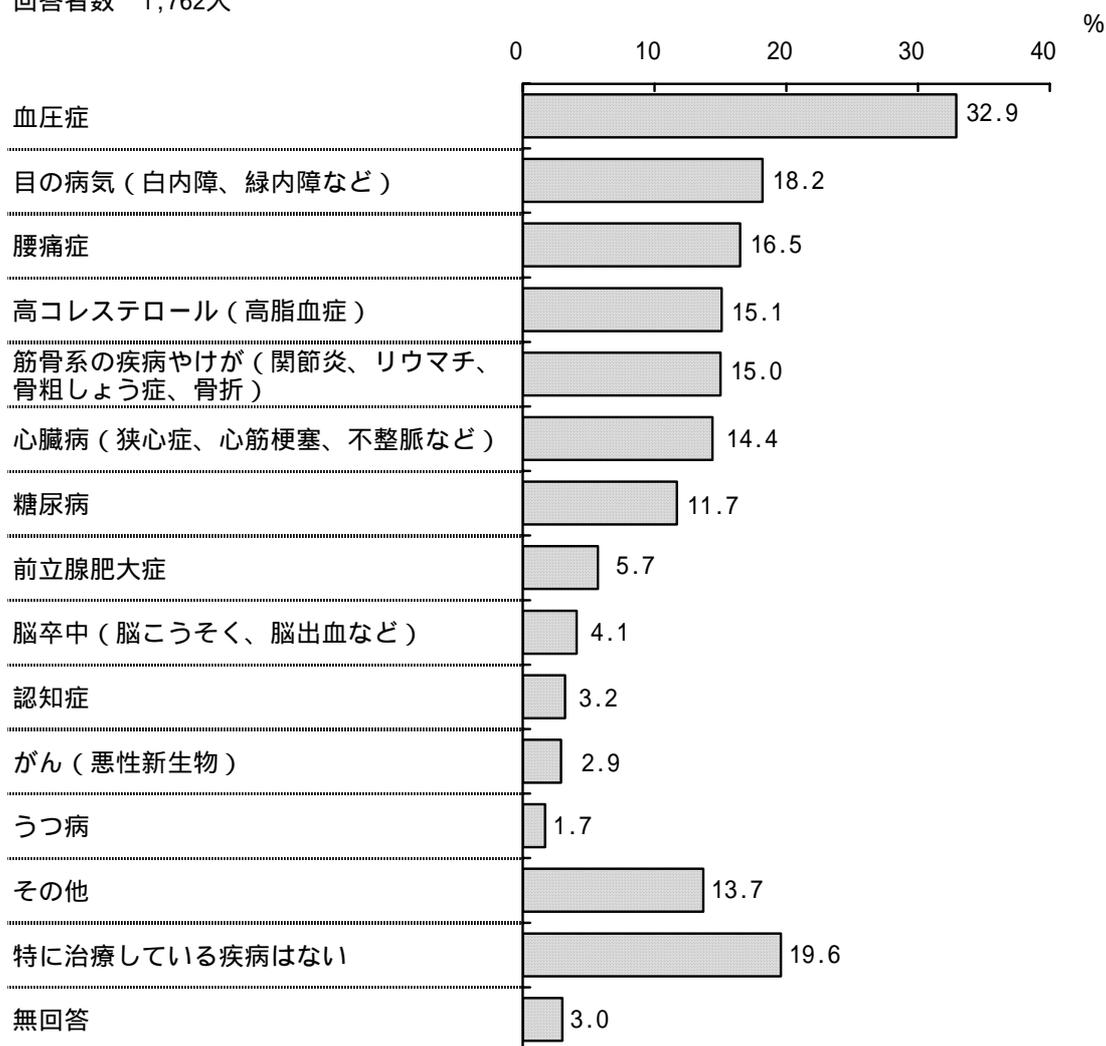
(全 員 の 方 に)

問 12 . あ なた (宛 名 の 方 ご 本 人) は 、 現 在 、 通 院 ま た は 治 療 中 の 疾 病 は あ り ま す か 。

(あ て は ま る も の す べ て に)

図 - 2 - 16

回答者数 1,762人



現在、通院または治療中の疾病としては、「血圧症」(32.9%)が最も多く、3割以上があげている。以下、「目の病気(白内障、緑内障など)」(18.2%)、「腰痛症」(16.5%)、「高コレステロール(高脂血症)」(15.1%)、「筋骨系の疾病やけが(関節炎、リウマチ、骨粗しょう症、骨折)」(15.0%)、「心臓病(狭心症、心筋梗塞、不整脈など)」(14.4%)、「糖尿病」(11.7%)が1割以上となっている。一方、「特に治療している疾病はない」と答えた人は19.6%である(図 - 2 - 16)

性別では、「目の病気」(男性 14.4%、女性 20.7%)、「腰痛症」(男性 13.4%、女性 18.5%)、「高コレステロール」(男性 9.1%、女性 19.0%)、「筋骨系の疾病やけが」(男性 5.2%、女性 21.0%) が男性より女性で高い。(図 - 2 - 17)

性・年齢別では、おおむね年齢の高い人ほど高くなる傾向が見られるが、「高コレステロール」は男女ともに 70~79 歳で高くなっている。(図 - 2 - 18)

現在の健康状態別では、いずれも「健康である」と答えた人で低くなっている。「目の病気」、「腰痛症」、「筋骨系の疾病やけが」、「心臓病」は“健康でない”と答えた人ほど高くなっている。(図 - 2 - 19・12 ページ問 8 参照)

図 - 2 - 17 性別 (上位 6 位)

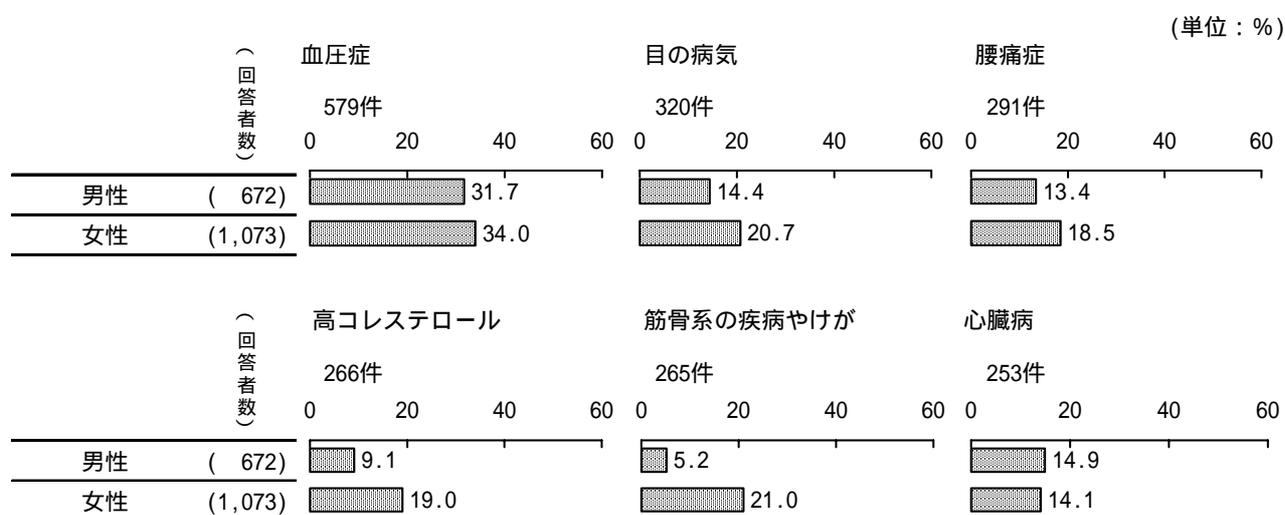


図 - 2 - 18 性・年齢別（上位 6 位）

（単位：％）

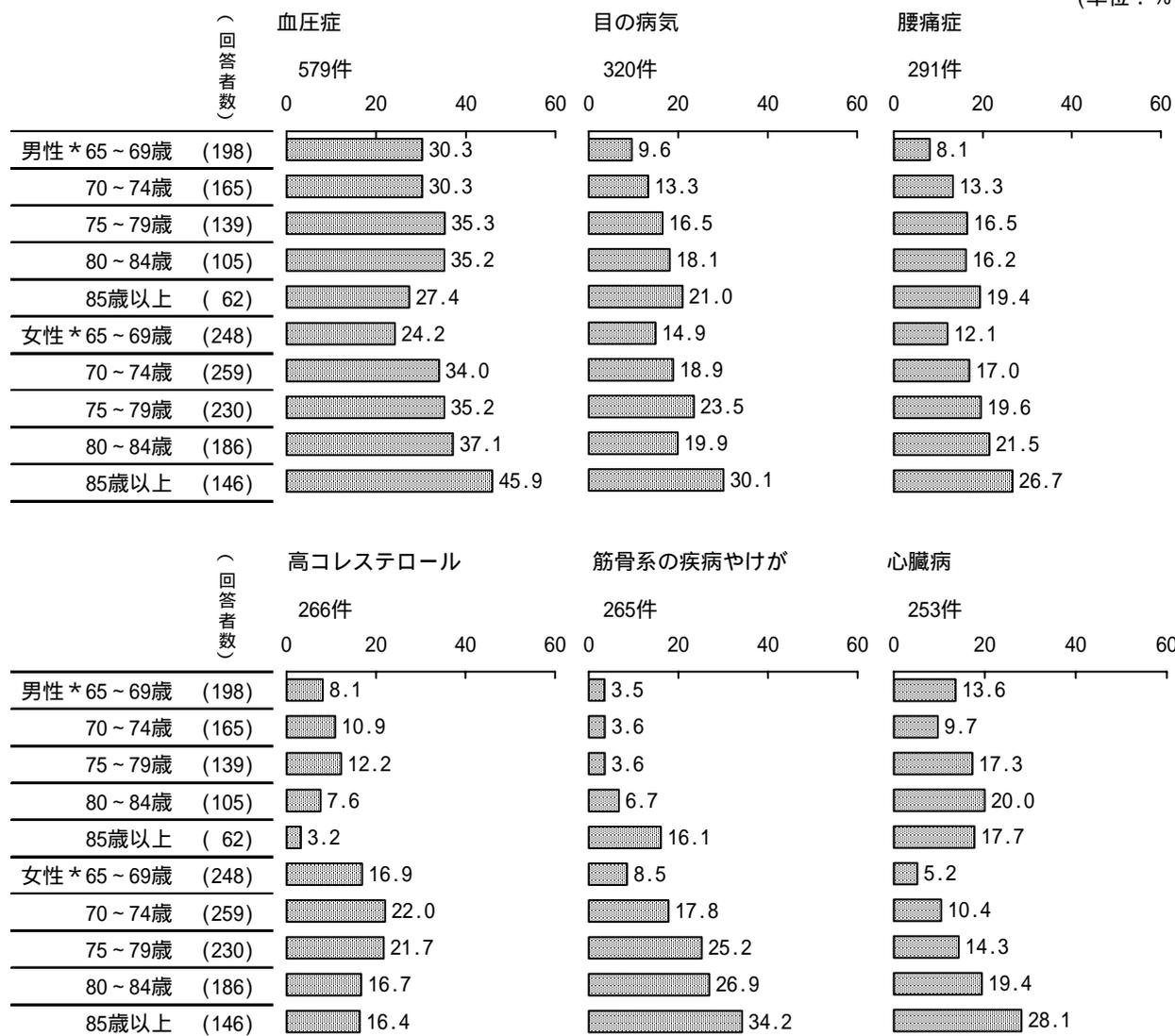
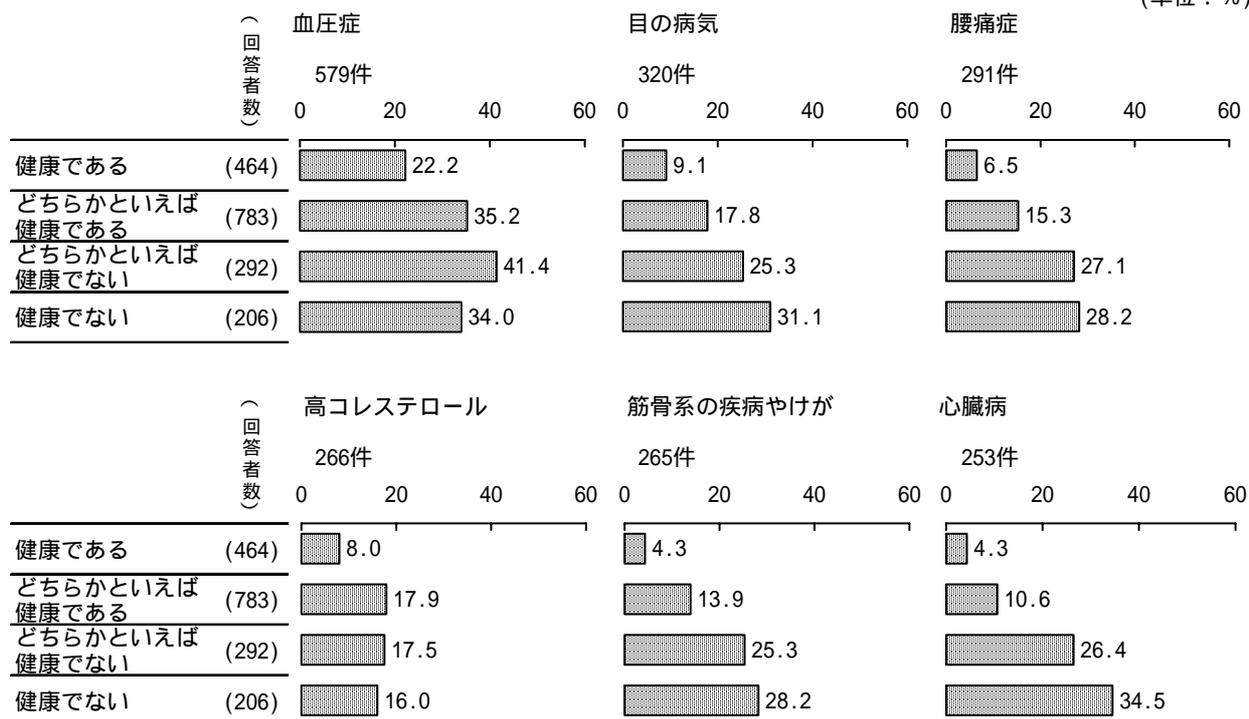


図 - 2 - 19 通院または治療中の疾病と現在の健康状態の関係（上位 6 位）

（単位：％）



(6) 物覚え(記憶力)の変化

多少なりとも悪くなったと答えた人が半数強

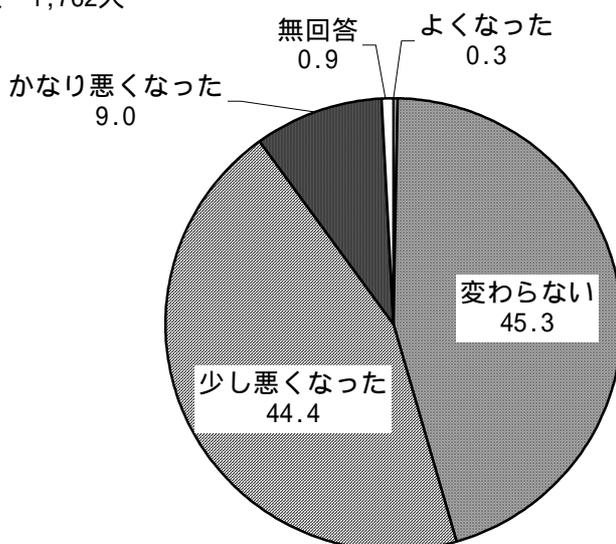
(全員の方に)

問13.あなた(宛名の方ご本人)は、1年前に比べて物覚え(記憶力)に変化はありましたか。
(は1つ)

図 - 2 - 20

回答者数 1,762人

単位：%



1年前と比べた物覚え(記憶力)の変化については、「よくなった」と答えた人は0.3%にとどまるのに対し、「少し悪くなった」と答えた人は44.4%、「かなり悪くなった」と答えた人は9.0%となっており、この両者を合わせた“多少なりとも悪くなった”が53.4%と半数強を占めている。また、「変わらない」と答えた人は45.3%となっている。(図 - 2 - 20)

性別では、大きな差は見られない。(図 - 2 - 21)

年齢別では、年齢が若いほど「変わらない」と答えた人が高くなっている。一方、“多少なりとも悪くなった”は年齢の上昇とともに高くなり、特に85歳以上では「かなり悪くなった」と答えた人が26.4%となっている。(図 - 2 - 22)

世帯構成別では、高齢者と子どもの2世代の世帯では50%が「変わらない」と答えているが、ひとり暮らし、高齢者夫婦だけ、高齢者と子どもと孫の3世代の世帯では、“多少なりとも悪くなった”と答えた人が過半数を占めている。(図 - 2 - 23)

図 - 2 - 21 性別

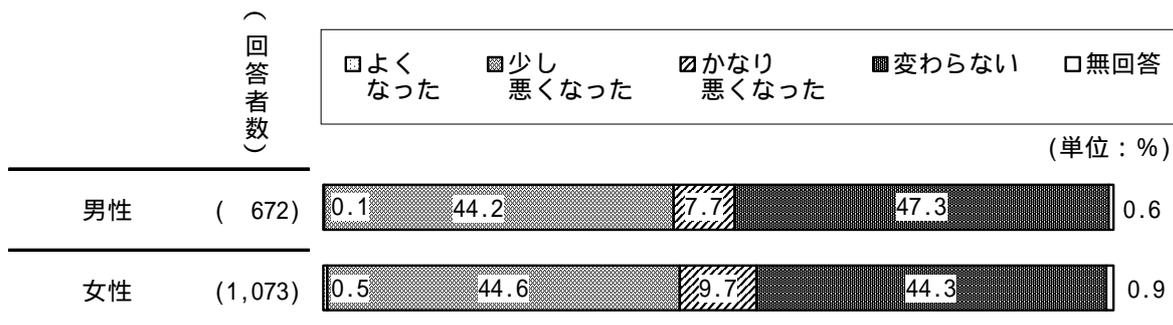


図 - 2 - 22 年齢別

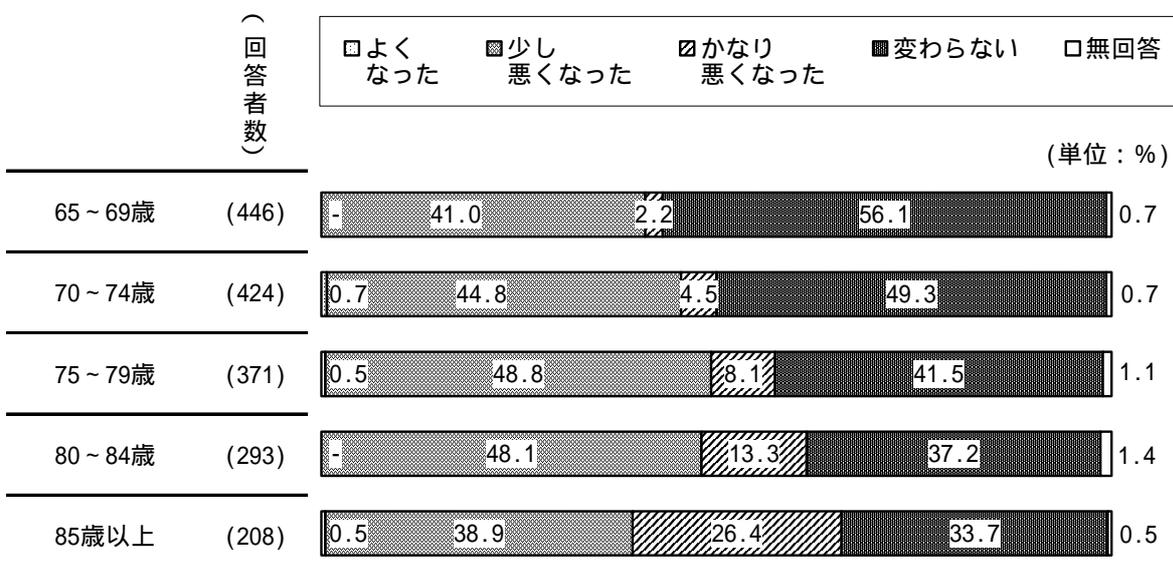
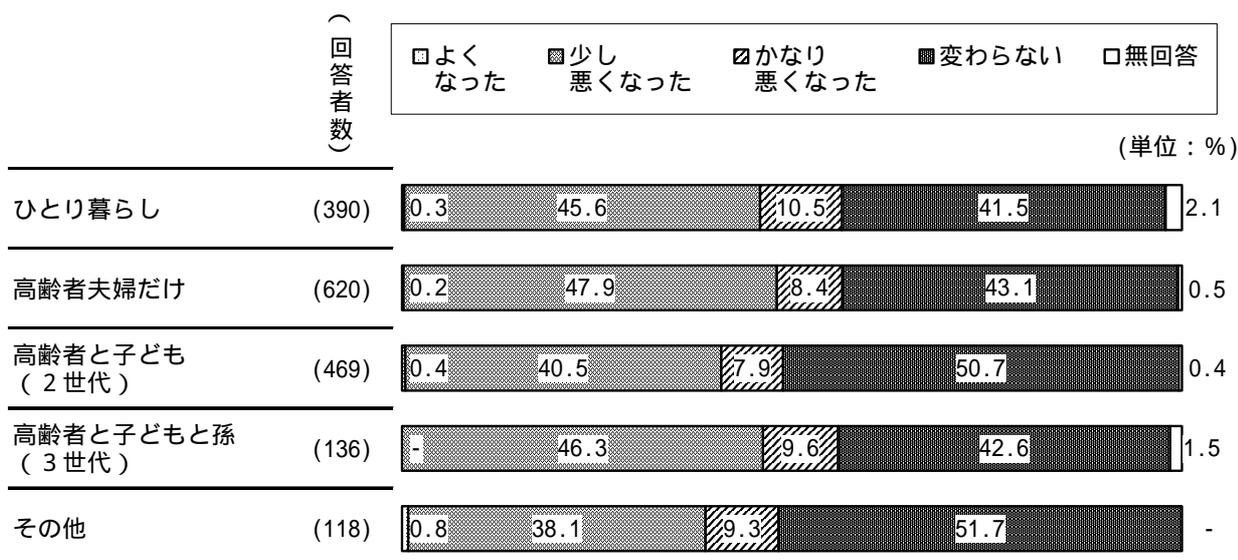


図 - 2 - 23 世帯構成別



(7) 気分が沈んだり憂うつな気持ちになったりすること

あったと答えた人は3割半

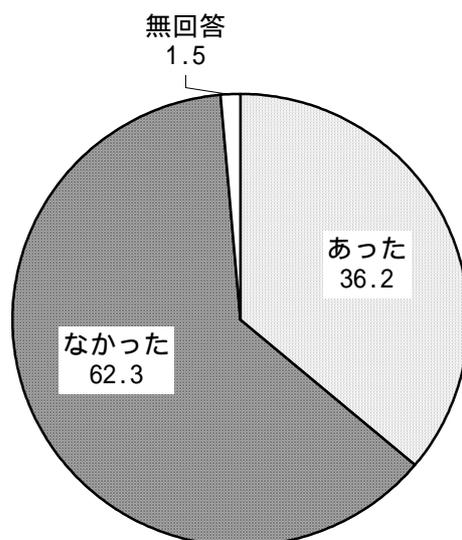
(全員の方に)

問14. あなた(宛名の方ご本人)は、この1か月間で、気分が沈んだり憂(ゆう)うつな気持ちになったりしたことがありますか。(は1つ)

図 - 2 - 24

回答者数 1,762人

単位：%



この1か月間で、気分が沈んだり憂(ゆう)うつな気持ちになったりしたことが、「あった」と答えた人が36.2%となっている。一方、「なかった」と答えた人が62.3%を占めている。(図 - 2 - 24)

性別では、「あった」と答えた人が男性(32.0%)より女性(38.6%)で高くなっている。(図 - 2 - 25)

性・年齢別では、男女ともに年齢が高いほど「あった」と答えた人が高くなる傾向が見られ、男性は80歳以上、女性は75歳以上で40%台となっている。(図 - 2 - 26)

世帯構成別では、ひとり暮らしの世帯で「あった」と答えた人が45.1%と高くなっている。高齢者と子どもの2世代の世帯では29.9%と低くなっている。

図 - 2 - 25 性別

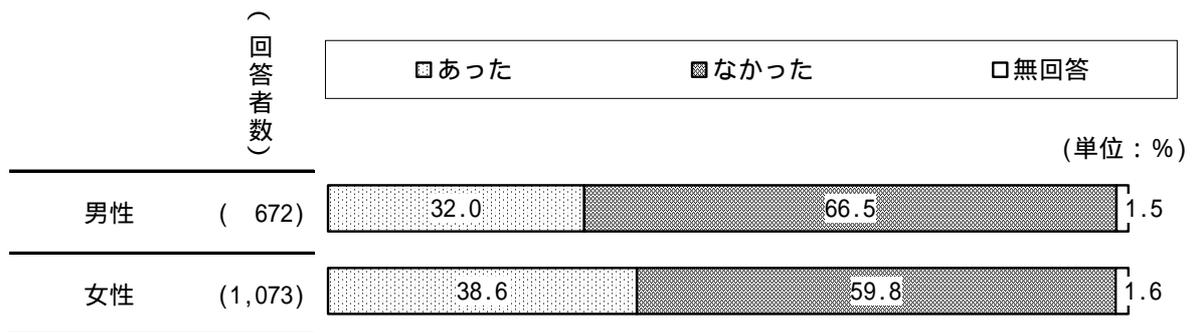
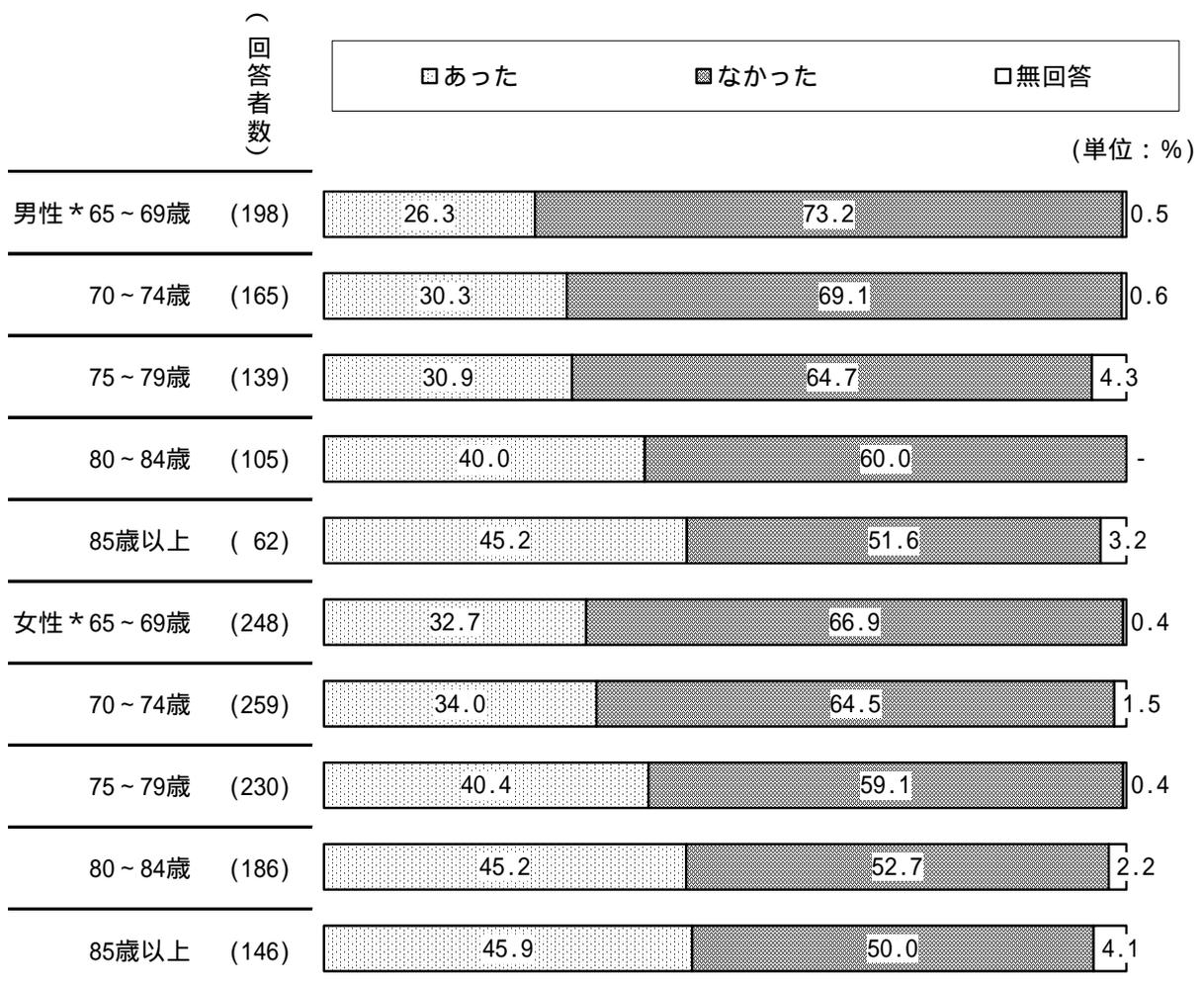


図 - 2 - 26 性・年齢別



3. 健康づくり運動について

(1) 健康維持や向上のために実行していること

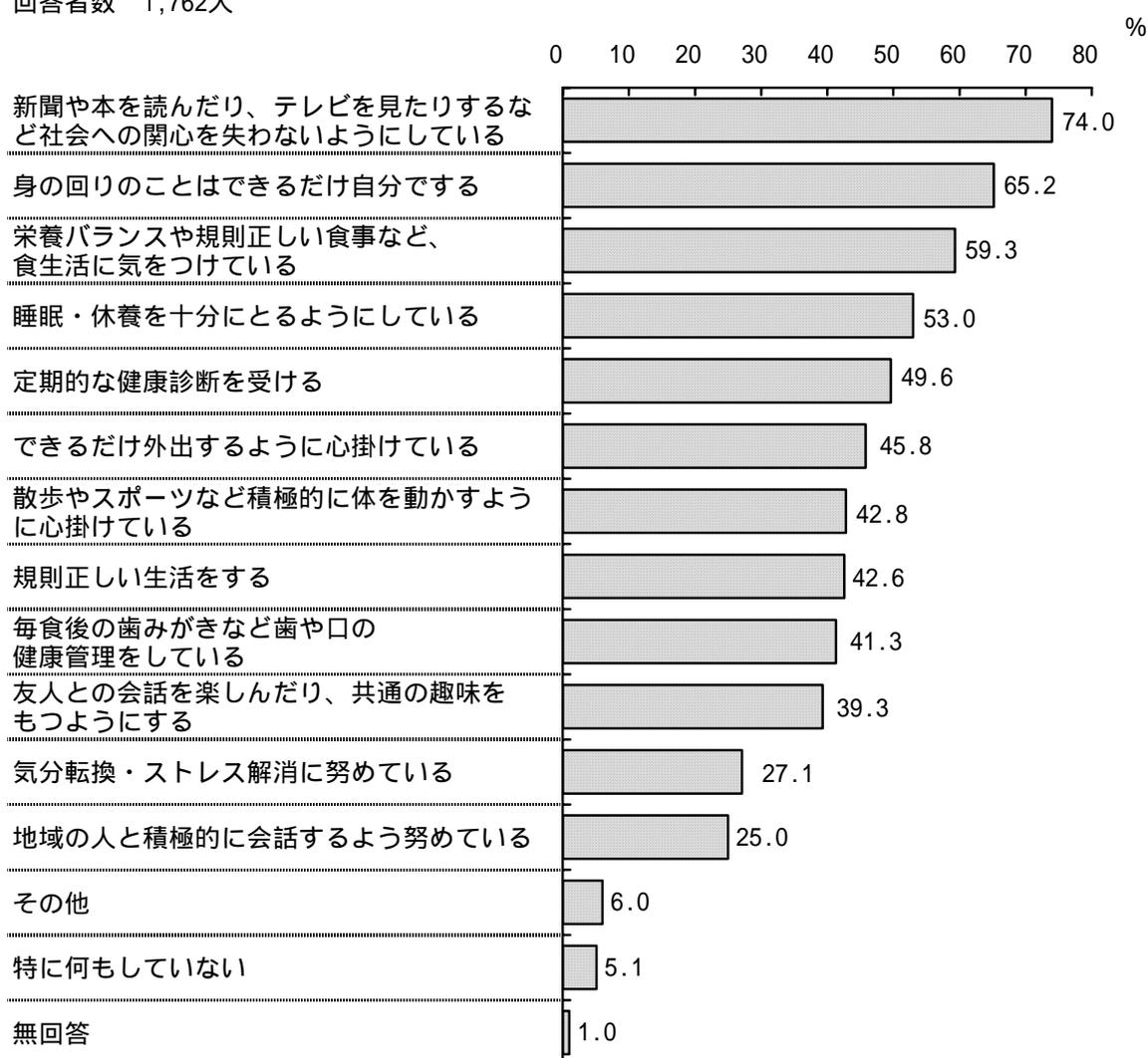
新聞や本、テレビなど社会への関心をもつと答えた人が7割強

(全員の方に)

問15. あなた(宛名の方ご本人)が、健康を維持し向上するために、現在、自ら進んで実行していることがありますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 3 - 1

回答者数 1,762人



健康を維持し向上するために実行していることとしては、「新聞や本を読んだり、テレビを見たりするなど社会への関心を失わないようにしている」(74.0%)が最も多く、次いで、「身の回りのことはできるだけ自分でする」(65.2%)、「栄養バランスや規則正しい食事など、食生活に気をつけている」(59.3%)、「睡眠・休養を十分にとるようにしている」(53.0%)、「定期的な健康診断を受ける」(49.6%)が約半数以上であげられている。(図 - 3 - 1)

性別では、「身の回りのことはできるだけ自分でする」(男性 55.1%、女性 71.5%)、「毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理をしている」(男性 32.6%、女性 47.0%)、「友人との会話を楽しんだり、共通の趣味をもつようにする」(男性 29.6%、女性 45.5%)、「地域の人と積極的に会話するよう努めている」(男性 17.7%、女性 29.4%)が男性より女性で 10 ポイント以上高くなっている。(図 - 3 - 2)(表 - 3 - 1)

性・年齢別では、「身の回りのことはできるだけ自分でする」が女性の 70～74 歳、「散歩やスポーツなど積極的に体を動かすように心掛けている」は男性の 65～69 歳、「毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理をしている」は女性の 70～74 歳、「友人との会話を楽しんだり、共通の趣味をもつようにする」は女性の 65～79 歳で全体より 10 ポイント以上高くなっている。(表 - 3 - 1)

健康づくり事業への参加別では、ほとんどの項目で、参加経験のない人に比べ、参加経験のある人のほうが高くなっている。(表 - 3 - 1・31 ページ問 16 参照)

図 - 3 - 2 性別(上位 6 位)

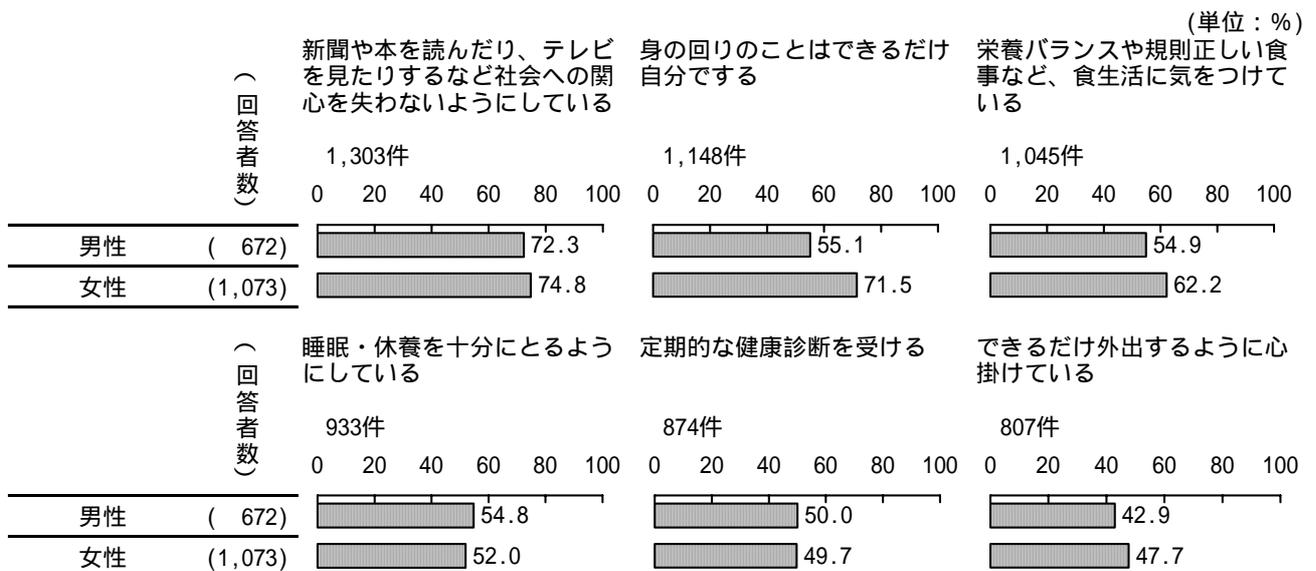


表 - 3 - 1 性別、性・年齢別、健康づくり事業への参加別

単位：%

	回答者数	など社会への関心を失わないようにしている	テレビや本を読み、新聞や雑誌を見たりする	身の回りのことはできる	にしい食生活	栄養バランスや規則正しい生活	睡眠・休養を十分にしている	定期的な健康診断を受ける	できるだけ外出する	に極歩やスポーツなど積極的に体を動かすよう積
全体	1,762	74.0	65.2	59.3	53.0	49.6	45.8	42.8		
性別	男性	672	72.3	55.1	54.9	54.8	50.0	42.9	48.5	
	女性	1,073	74.8	71.5	62.2	52.0	49.7	47.7	39.6	
男性	65～69歳	198	73.7	51.0	56.6	51.5	48.5	42.4	54.0	
	70～74歳	165	73.9	49.7	50.3	56.4	47.3	44.2	49.1	
	75～79歳	139	71.2	61.9	58.3	55.4	49.6	46.8	50.4	
	80～84歳	105	72.4	57.1	57.1	57.1	55.2	43.8	44.8	
	85歳以上	62	64.5	61.3	48.4	54.8	51.6	30.6	30.6	
女性	65～69歳	248	80.6	69.0	67.3	48.8	47.6	47.6	48.8	
	70～74歳	259	79.2	76.4	68.0	55.6	53.7	54.8	51.0	
	75～79歳	230	78.3	71.7	63.9	54.3	52.6	53.9	37.4	
	80～84歳	186	73.1	71.5	54.8	52.7	51.1	43.0	32.3	
	85歳以上	146	54.1	67.1	50.7	47.3	41.1	32.2	17.1	
業健康への参加別	積極的に参加している	80	85.0	81.3	67.5	53.8	68.8	65.0	66.3	
	たまに参加している	86	77.9	74.4	69.8	58.1	57.0	47.7	51.2	
	参加したことはある	145	77.9	71.0	65.5	62.1	63.4	55.2	38.6	
	興味はあるが、参加したことがない	856	78.9	68.3	61.9	55.8	52.7	49.6	46.6	
	参加する気がない	519	65.7	56.8	52.0	47.2	39.1	36.2	35.3	

	回答者数	を規則正しい生活	健康な歯を磨く	毎食後の歯磨き	通う趣味を共有	友人と話す	気分転換に努力	地域の会話を積極	その他	ないに何もして
全体	1,762	42.6	41.3	39.3	27.1	25.0	6.0	5.1		
性別	男性	672	44.3	32.6	29.6	21.6	17.7	4.8	5.2	
	女性	1,073	41.6	47.0	45.5	30.6	29.4	6.8	5.0	
男性	65～69歳	198	42.9	38.9	29.3	22.7	15.7	5.6	4.5	
	70～74歳	165	40.6	32.7	35.8	26.1	18.8	4.8	5.5	
	75～79歳	139	51.8	27.3	25.9	23.7	18.7	3.6	5.0	
	80～84歳	105	38.1	27.6	27.6	15.2	16.2	3.8	1.9	
	85歳以上	62	50.0	29.0	25.8	12.9	21.0	6.5	12.9	
女性	65～69歳	248	44.0	51.2	52.0	34.3	29.4	6.9	3.6	
	70～74歳	259	45.2	54.8	53.3	35.5	33.2	5.8	2.7	
	75～79歳	230	40.9	43.0	50.0	33.5	32.6	6.1	3.9	
	80～84歳	186	40.3	43.5	39.2	26.9	28.0	5.9	5.4	
	85歳以上	146	34.9	36.3	21.9	16.4	19.9	11.0	13.0	
業健康への参加別	積極的に参加している	80	53.8	50.0	76.3	38.8	68.8	13.8	-	
	たまに参加している	86	48.8	43.0	52.3	31.4	46.5	4.7	1.2	
	参加したことはある	145	47.6	46.9	45.5	35.2	36.6	6.9	3.4	
	興味はあるが、参加したことがない	856	43.0	43.0	41.8	27.7	23.9	5.5	3.5	
	参加する気がない	519	40.3	37.4	28.3	23.9	13.9	4.6	9.4	

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 健康づくりのための事業への参加

参加経験のある人が2割弱

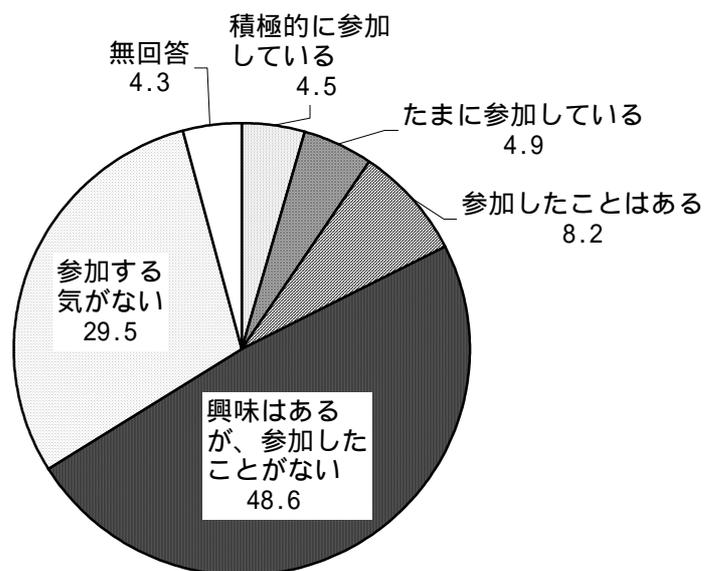
(全員の方に)

問16. 地域の高齢者会館や高齢者福祉センターで、実施している健康づくりのための事業への参加について、あなた(宛名の方ご本人)におたずねします。(は1つ)

図 - 3 - 3

回答者数 1,762人

単位：%



地域の高齢者会館や高齢者福祉センターで、実施している健康づくりのための事業へ「積極的に参加している」と答えた人は4.5%、「たまに参加している」と答えた人は4.9%、「参加したことはある」と答えた人は8.2%と、参加経験のある人が2割弱となっている。また、「興味はあるが、参加したことがない」と答えた人は48.6%、「参加する気がない」と答えた人は29.5%となっている。(図 - 3 - 3)

性別では、「積極的に参加している」、「たまに参加している」、「参加したことはある」と答えた参加経験のある人が男性より女性で高くなっている。一方、「興味はあるが、参加したことがない」、「参加する気がない」と答えた人は女性より男性のほうが高くなっている。(図 - 3 - 4)

性・年齢別では、男性は年齢が高いほど参加経験のある人が高くなる傾向が見られ、85歳以上では20%を超える。また、男性の65~84歳では「興味はあるが、参加したことがない」と答えた人が50%以上となっている。女性では70歳以上で参加経験のある人が20%以上となっている。また、女性の65~74歳では「興味はあるが、参加したことがない」と答えた人が50%

以上となっている。(図 - 3 - 5)

居住地域別では、「積極的に参加している」は北東部で6.2%と最も高く、「たまに参加している」は南部で7.8%と最も高い。「興味はあるが、参加したことがない」と答えた人はどの地域も50%弱であるが、「参加する気がない」と答えた人は北東部で25.7%と他の地域よりも低くなっている。(図 - 3 - 6)

図 - 3 - 4 性別

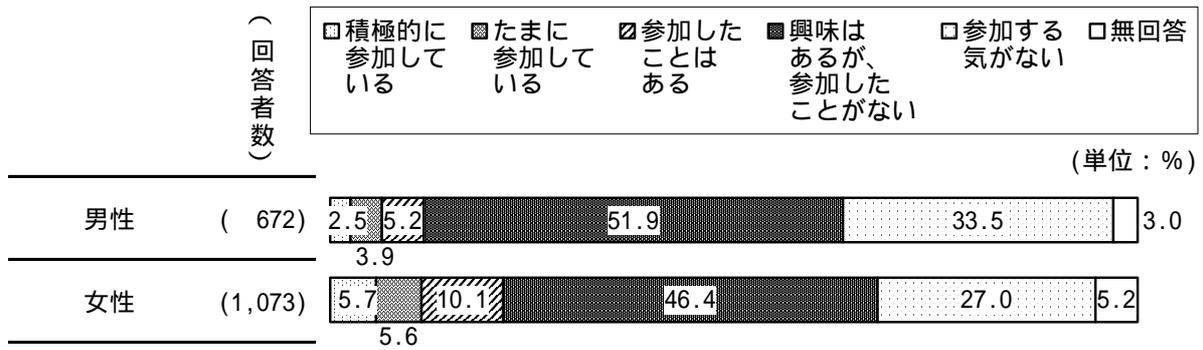


図 - 3 - 5 性・年齢別

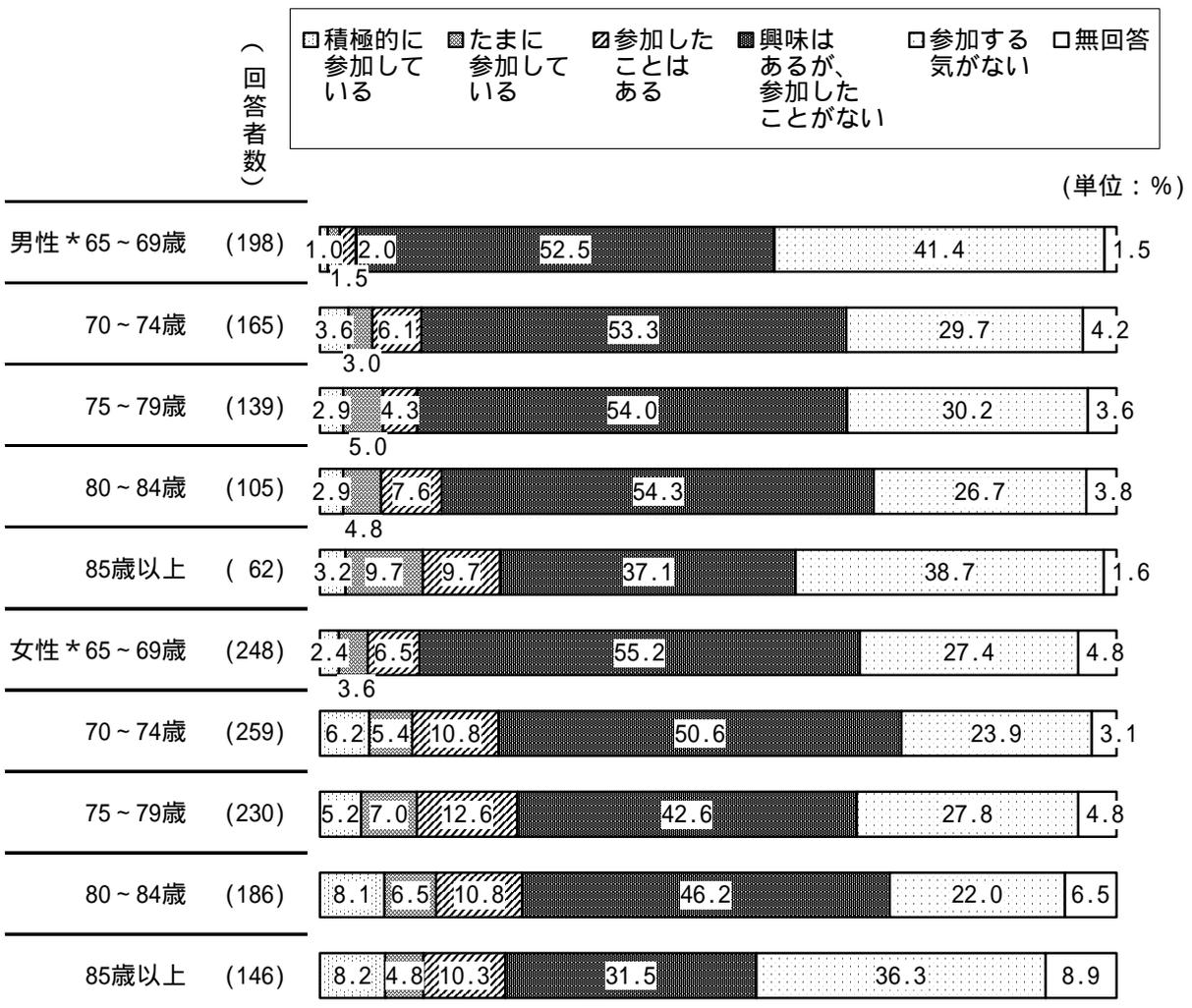
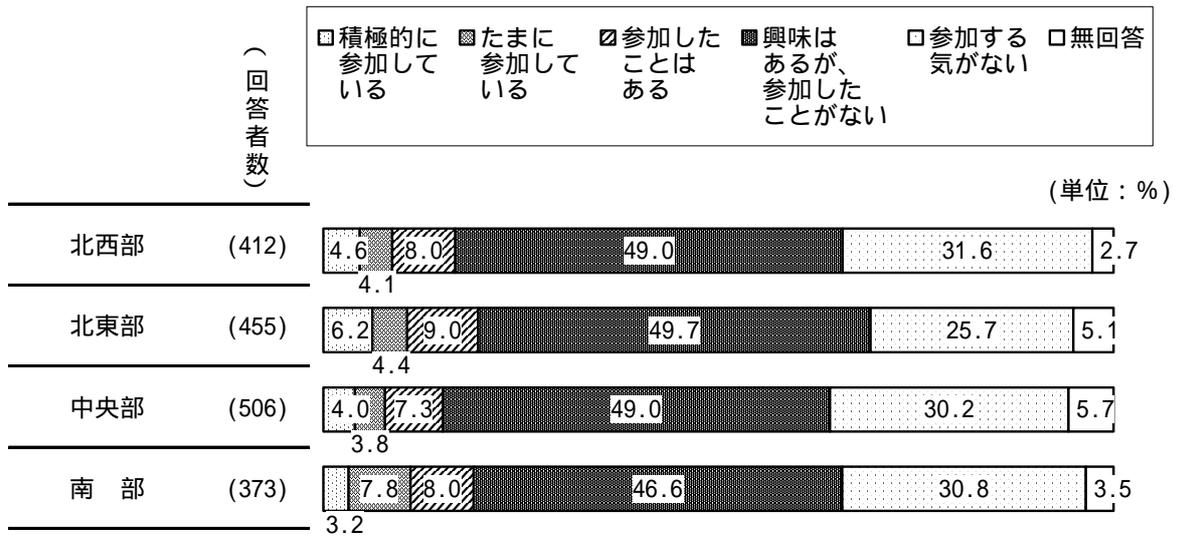


図 - 3 - 6 居住地域別



4 . 就業状況について

(1) 就業の有無

仕事をしている人は3割弱

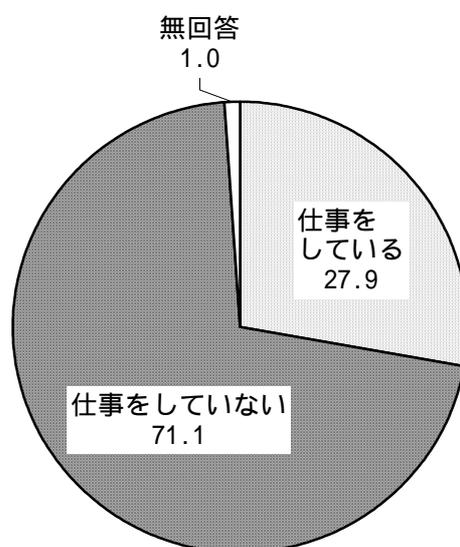
(全員の方に)

問 17 . あなた (宛名の方ご本人) は、現在、収入の得られる仕事をしてますか。(〃 は1つ)

図 - 4 - 1

回答者数 1,762人

単位 : %



現在、収入の得られる「仕事をしている」と答えた人が 27.9%、「仕事をしていない」と答えた人が 71.1%となっている。(図 - 4 - 1)

性別では、「仕事をしている」と答えた人が女性 (21.4%) より男性 (38.2%) で高くなっている。(図 - 4 - 2)

年齢別では、男女ともに年齢が若いほど「仕事をしている」と答えた人が高くなり、65～69歳で 44.4%、70～74歳で 36.6%、75歳以上では 10%台となっている。(図 - 4 - 3)

図 - 4 - 2 性別

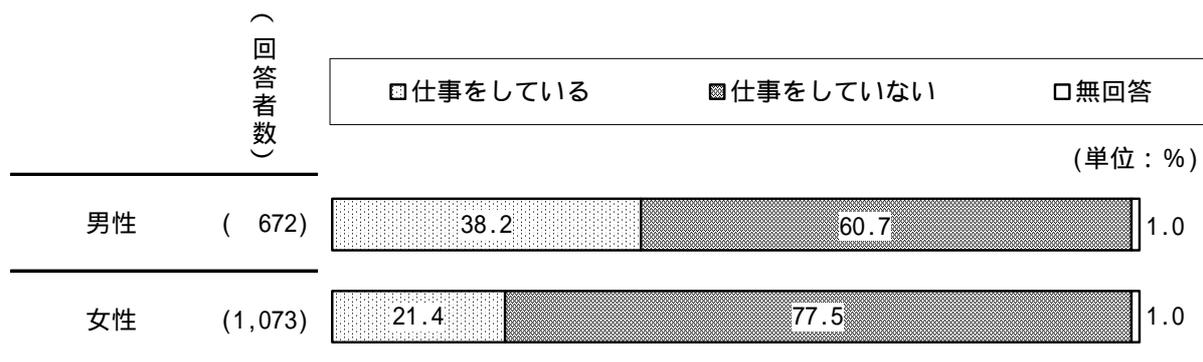
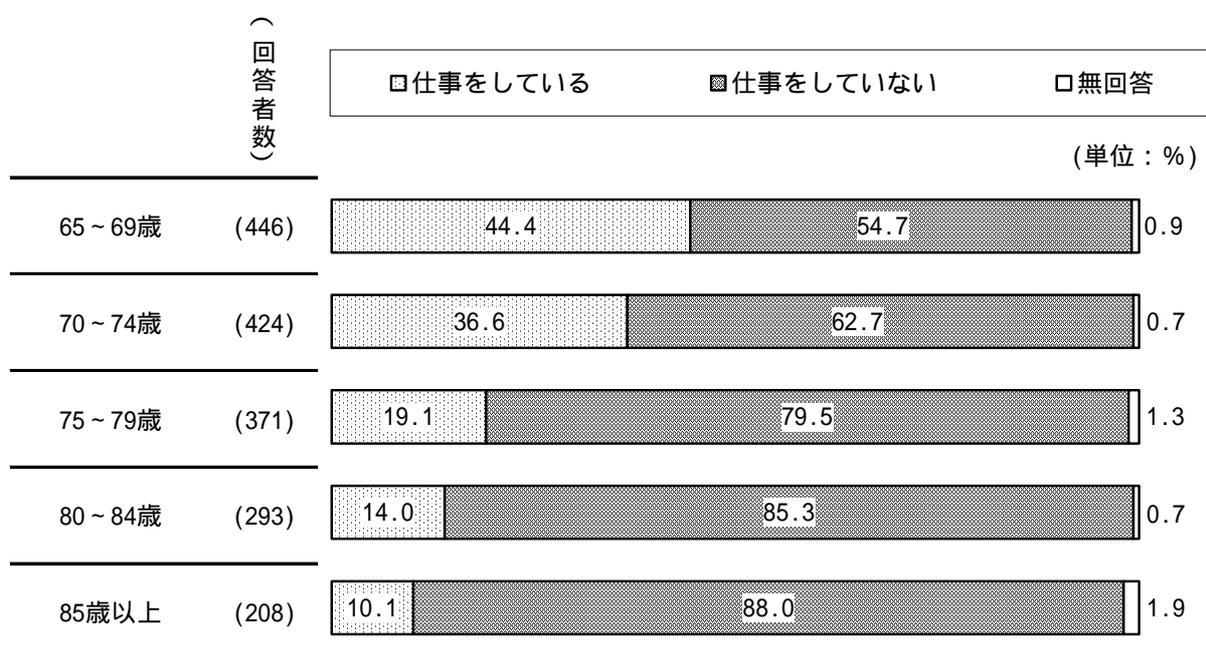


図 - 4 - 3 年齢別



(2) 働いている理由

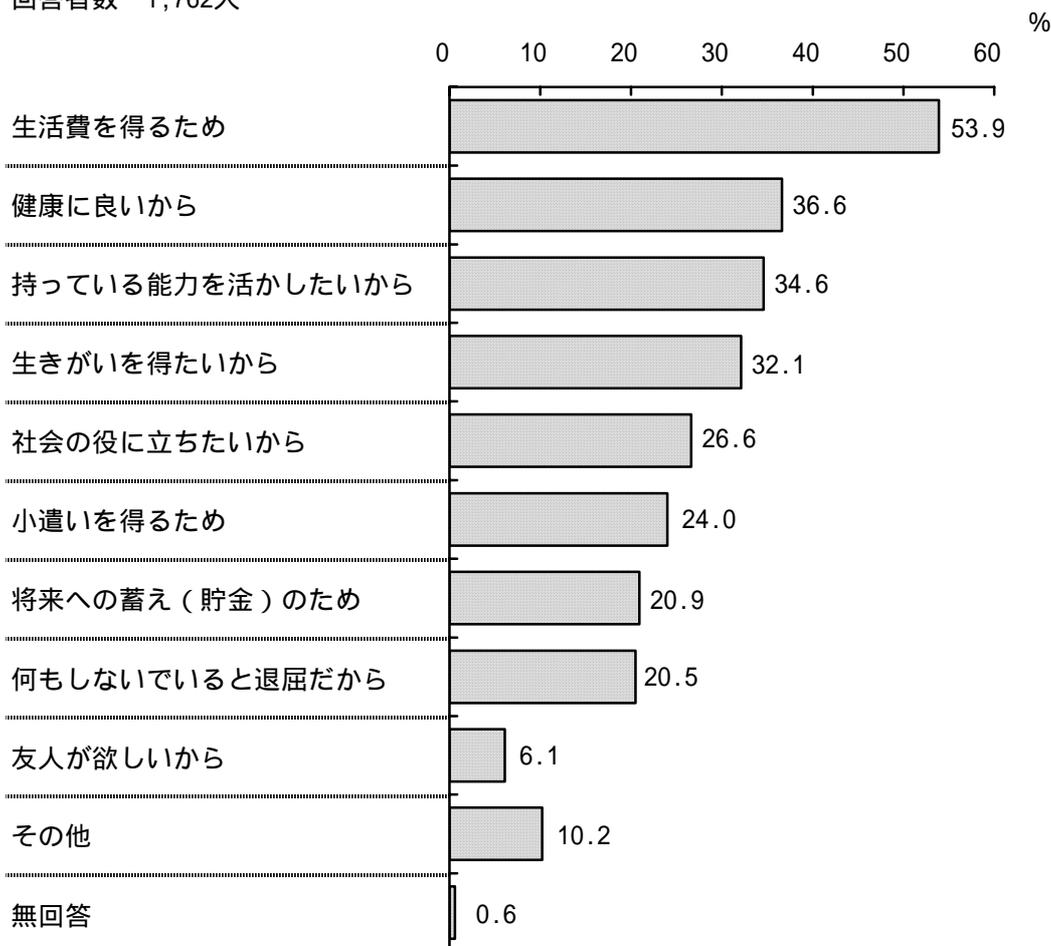
「生活費を得るため」が半数以上

(問17で「1. 仕事をしている」と答えた方に)

問18. あなた(宛名の方ご本人)が働いている理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 4 - 4

回答者数 1,762人



仕事をしている人に働いている理由をたずねたところ、「生活費を得るため」(53.9%)が最も多く、以下、「健康に良いから」(36.6%)、「持っている能力を活かしたいから」(34.6%)、「生きがいを得たいから」(32.1%)、「社会の役に立ちたいから」(26.6%)、「小遣いを得るため」(24.0%)、「将来への蓄え(貯金)のため」(20.9%)、「何もしていないと退屈だから」(20.5%)、「友人が欲しいから」(6.1%)の順になっている。(図 - 4 - 4)

性別では、上位6項目はいずれも男性のほうが高く、中でも「生活費を得るため」(男性63.0%、女性43.9%)が女性より19.1ポイント高くなっている。(図 - 4 - 5)

性・年齢別では、「生活費を得るため」は男女ともに65~74歳で高くなっている。(図 - 4 - 6)

図 - 4 - 5 性別（上位 6 位）

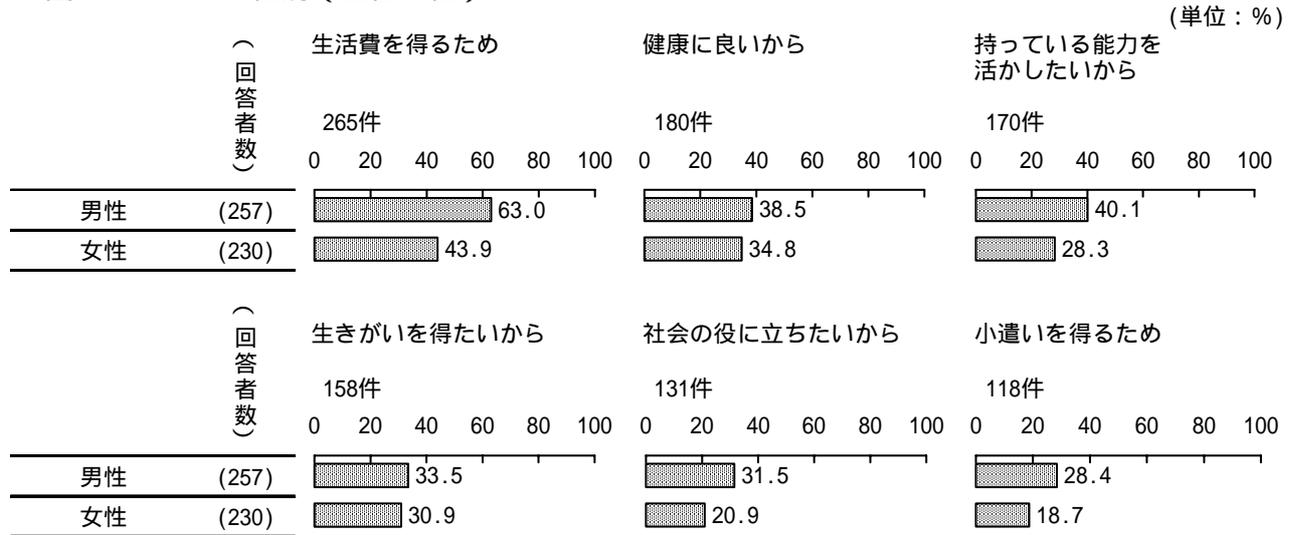
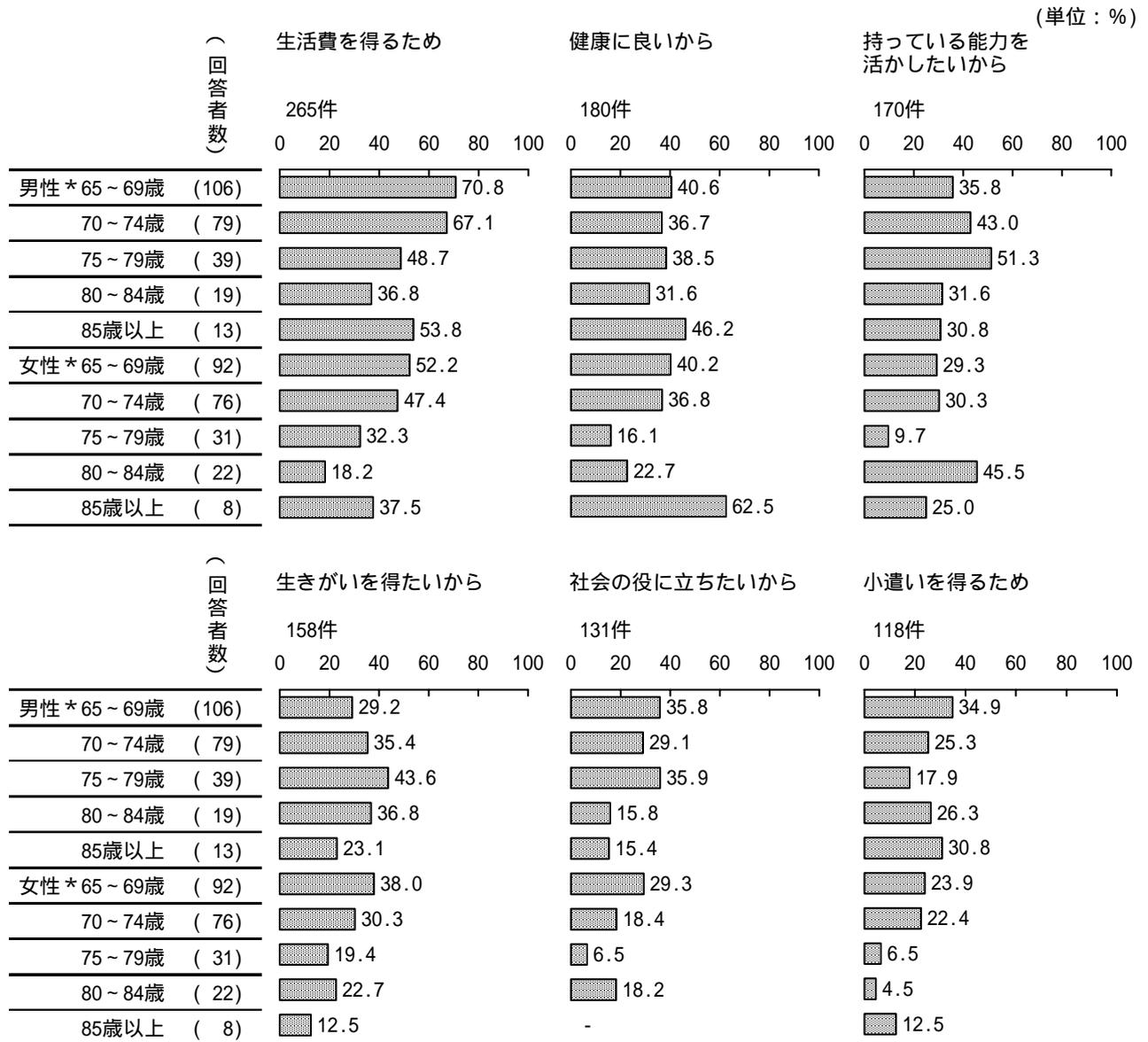


図 - 4 - 6 性・年齢別（上位 6 位）



(3) 働いていない理由

「年齢的な理由のため」が5割半

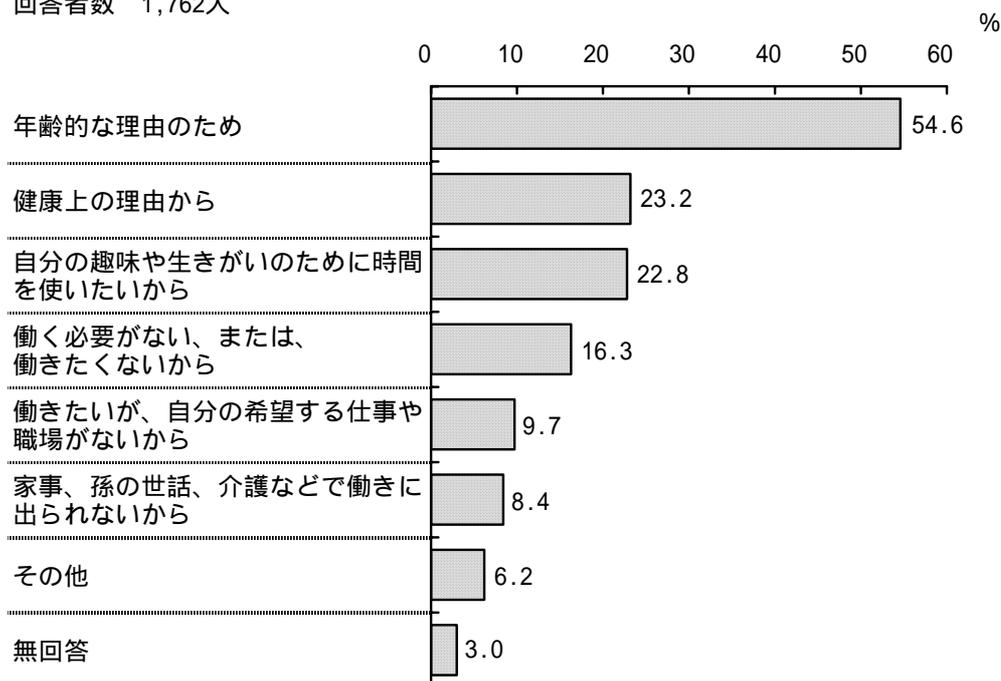
(問17で「2. 仕事をしていない」と答えた方に)

問19. あなた(宛名の方ご本人)が、現在、働いていない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 4 - 7

回答者数 1,762人



仕事をしていない人に働いていない理由をたずねたところ、「年齢的な理由のため」(54.6%)が最も多く、以下、「健康上の理由から」(23.2%)、「自分の趣味や生きがいのために時間を使いたいから」(22.8%)、「働く必要がない、または、働きたくないから」(16.3%)、「働きたいが、自分の希望する仕事や職場がないから」(9.7%)、「家事、孫の世話、介護などで働きに出られないから」(8.4%)の順になっている。(図 - 4 - 7)

性別では、「自分の趣味や生きがいのために時間を使いたいから」(男性27.5%、女性20.7%)、「働きたいが、自分の希望する仕事や職場がないから」(男性15.2%、女性7.2%)は男性のほうが高く、「働く必要がない、または、働きたくないから」(男性12.0%、女性18.3%)、「家事、孫の世話、介護などで働きに出られないから」(男性4.9%、女性10.2%)は女性のほうが高くなっている。(図 - 4 - 8)

性・年齢別では、男女ともに「年齢的な理由のため」は年齢が高いほど高くなり、「自分の趣味や生きがいのために時間を使いたいから」は年齢が若いほど高くなっている。また、「働きたいが、自分の希望する仕事や職場がないから」は男性の70~74歳で33.7%と高くなっている。(図 - 4 - 9)

図 - 4 - 8 性別 (上位 6 位)

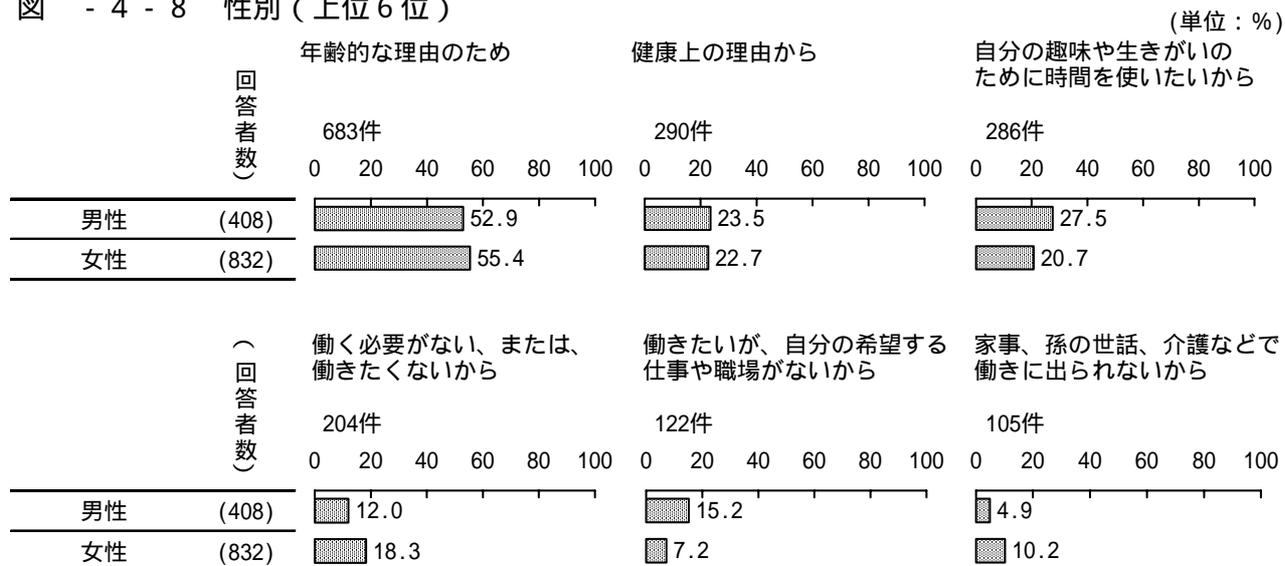
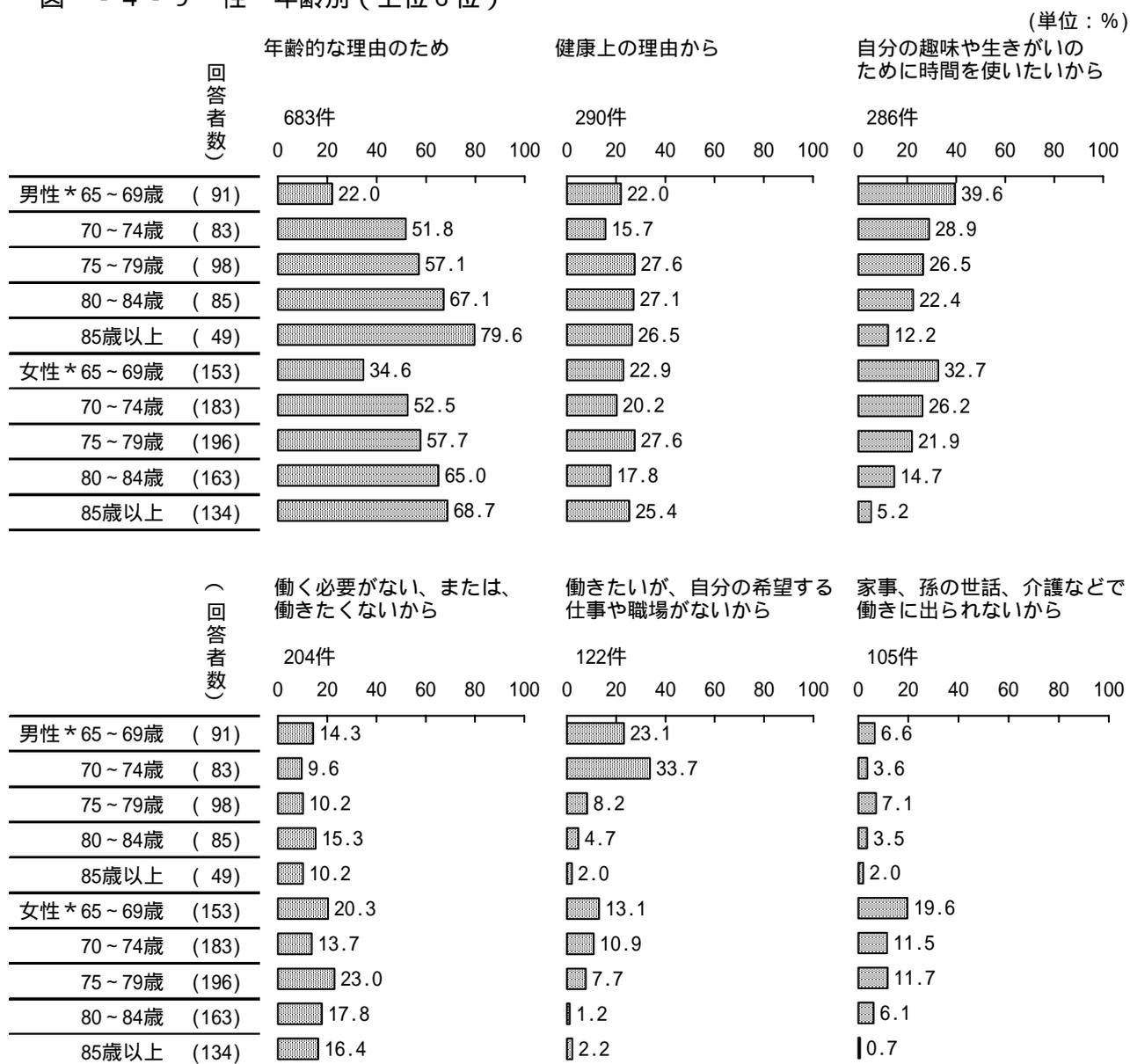


図 - 4 - 9 性・年齢別 (上位 6 位)



5 . 日常生活や社会参加について

(1) 外出の有無

ほとんど毎日出かける人が半数近く

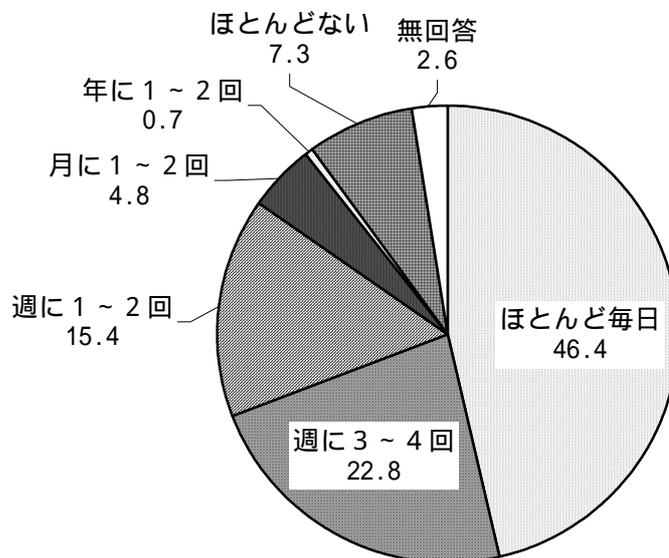
(全員の方に)

問 20 . あなた (宛名の方ご本人) は、買い物や用事で外出することがありますか (通院やデイケアのための外出は含めません) 。 (〃 は 1 つ)

図 - 5 - 1

回答者数 1,762人

単位 : %



外出の有無については、「ほとんど毎日」と答えた人が 46.4% と半数近くを占めている。「週に 3 ～ 4 回」と答えた人が 22.8%、「週に 1 ～ 2 回」と答えた人が 15.4%、「月に 1 ～ 2 回」と答えた人が 4.8%、「年に 1 ～ 2 回」と答えた人が 0.7%、「ほとんどない」と答えた人が 7.3% となっている。(図 - 5 - 1)

性別では、「ほとんど毎日」と答えた人が男性 (43.8%) より女性 (48.1%) で高くなっている。(図 - 5 - 2)

性・年齢別では、男女とも外出頻度は年齢が上がるにつれて低くなっている。「ほとんど毎日」と答えた人は、男女ともに年齢が若いほど高くなる傾向が見られ、男女とも 65 ～ 74 歳では過半数を占めているが、年齢の上昇につれて低くなり 85 歳以上では 10% 台となっている。(図 - 5 - 3)

図 - 5 - 2 性別

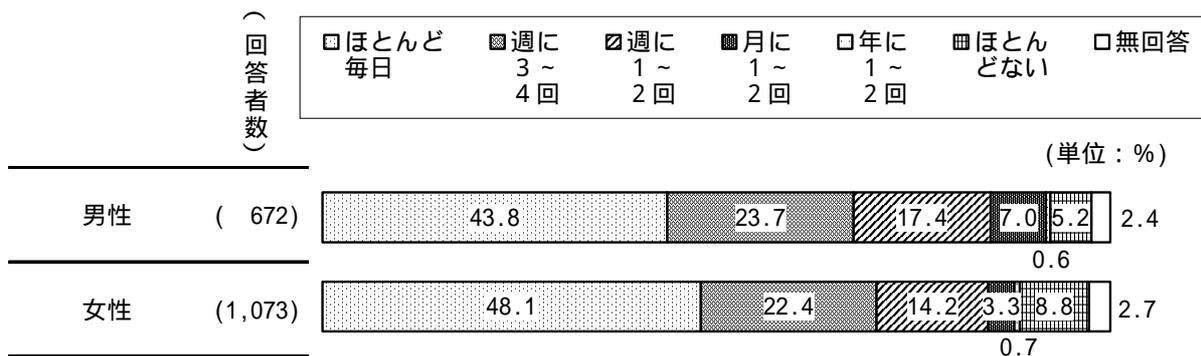
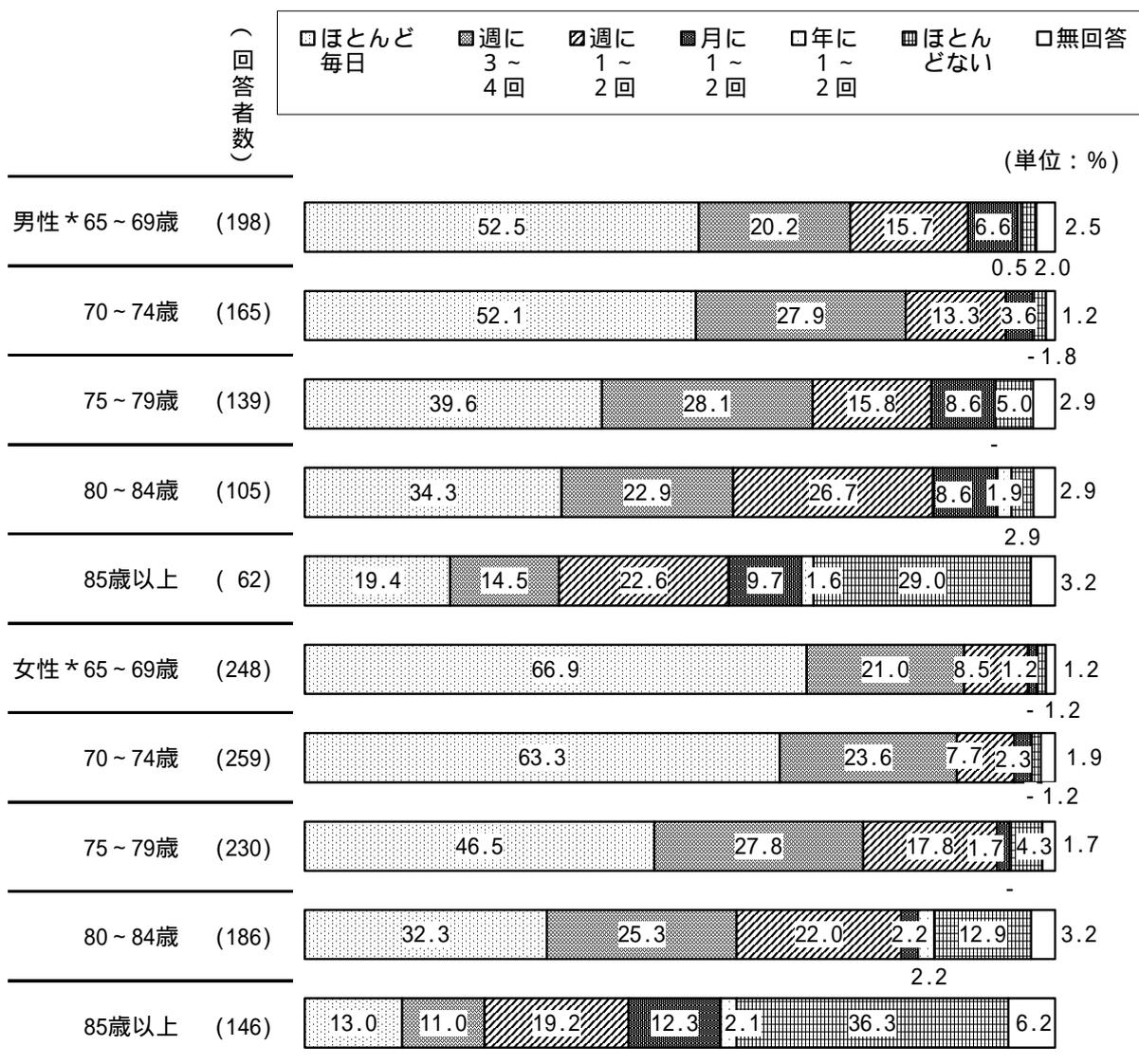


図 - 5 - 3 性・年齢別



(2) 平日の昼間に一緒にいる人

配偶者や家族という人が5割弱、ひとりである人が3割強

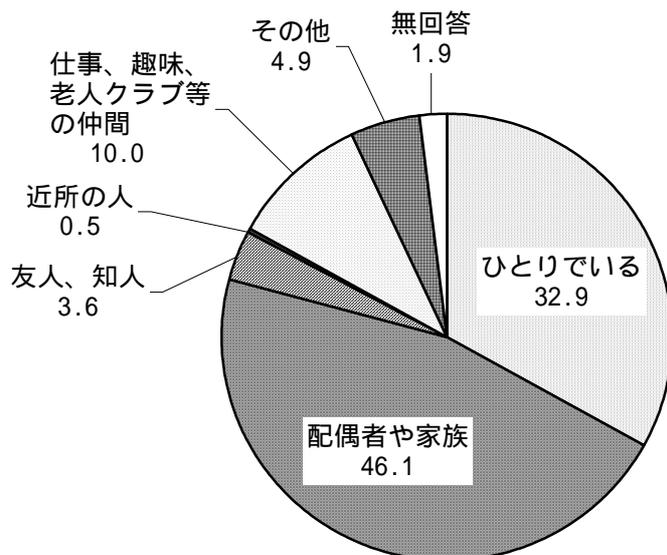
(全員の方に)

問21. あなた(宛名の方ご本人)は、平日の昼間、誰といることが多いですか。(は1つ)

図 - 5 - 4

回答者数 1,762人

単位：%



平日の昼間に一緒にいる人としては、「配偶者や家族」と答えた人が46.1%と半数近くを占める。次いで、「ひとりである」と答えた人が32.9%となっている。以下、「仕事、趣味、老人クラブ等の仲間」(10.0%)、「友人、知人」(3.6%)、「近所の人」(0.5%)となっている。(図 - 5 - 4)

性別では、「ひとりである」と答えた人が男性(22.5%)より女性(39.3%)で高く、「配偶者や家族」と答えた人が女性(40.7%)より男性(55.4%)で高くなっている。また、「仕事、趣味、老人クラブ等の仲間」も女性(7.3%)より男性(14.1%)で高くなっている。(図 - 5 - 5)

性・年齢別では、男性はすべての年代で「配偶者や家族」と答えた人が高く、80~84歳で75.2%、75~79歳、85歳以上で60%台、65~74歳で40%台となっている。一方、女性では「配偶者や家族」と答えた人が65~79歳で40%台、80歳以上では30%台となり、80歳以上では「ひとりである」と答えた人が50%を占めている。また、「仕事、趣味、老人クラブ等の仲間」は男女ともに年齢の若い人で高くなる傾向が見られる。(図 - 5 - 6)

異世代との交流への参加意向別では、参加意向がない人で「ひとりである」と答えた人が40.9%と高くなっている。一方、参加意向のある人で「仕事、趣味、老人クラブ等の仲間」が15.2%と高くなっている。(53ページ問26参照)

図 - 5 - 5 性別

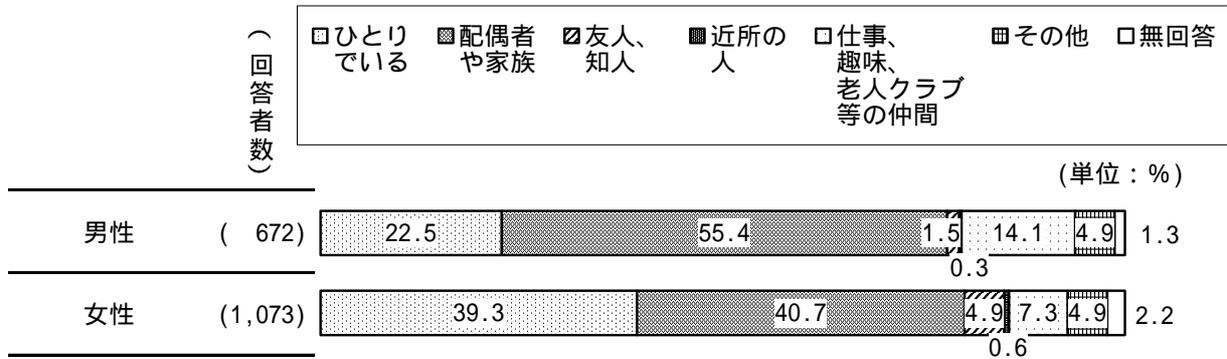
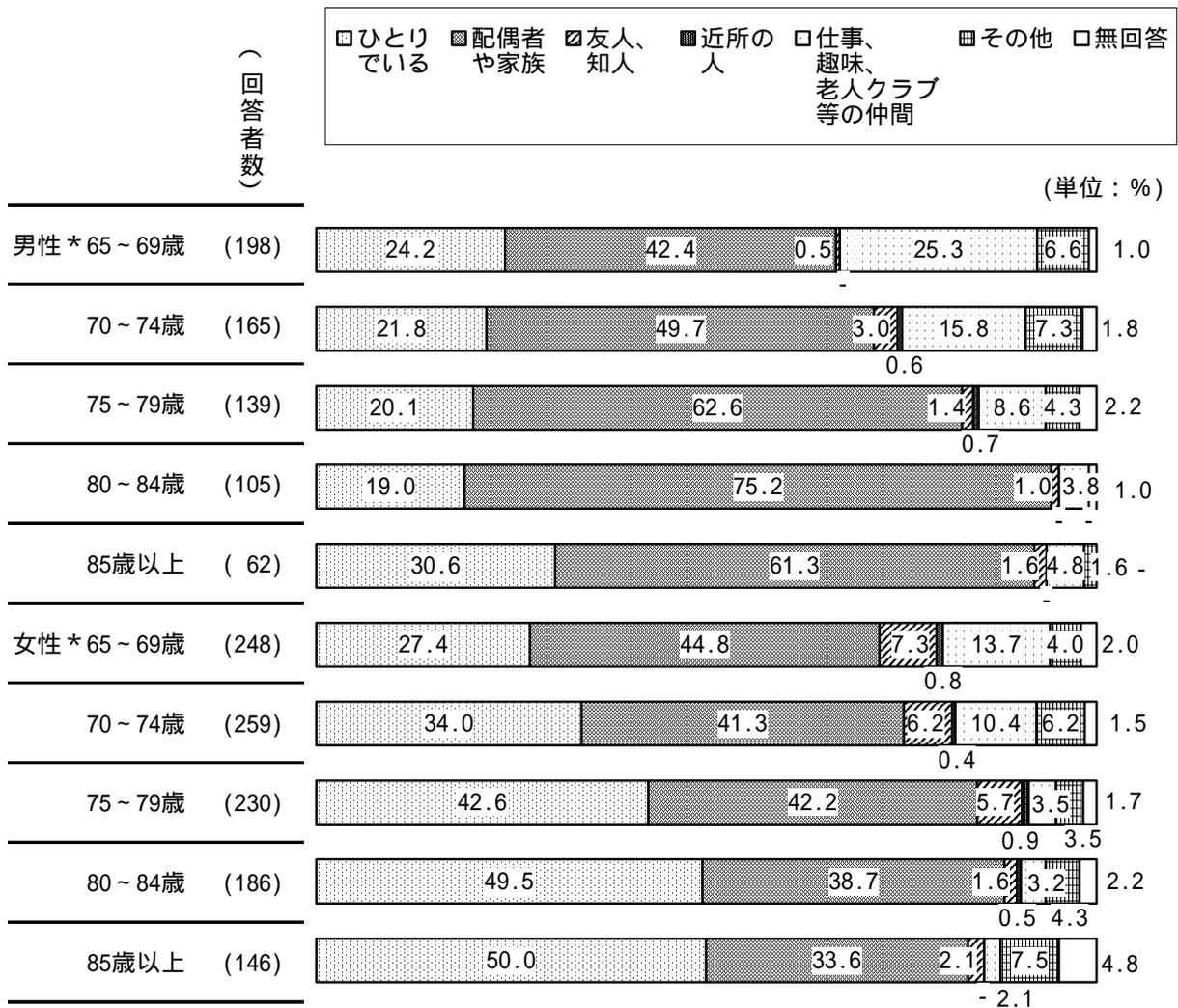


図 - 5 - 6 性・年齢別



(3) 将来に対する不安

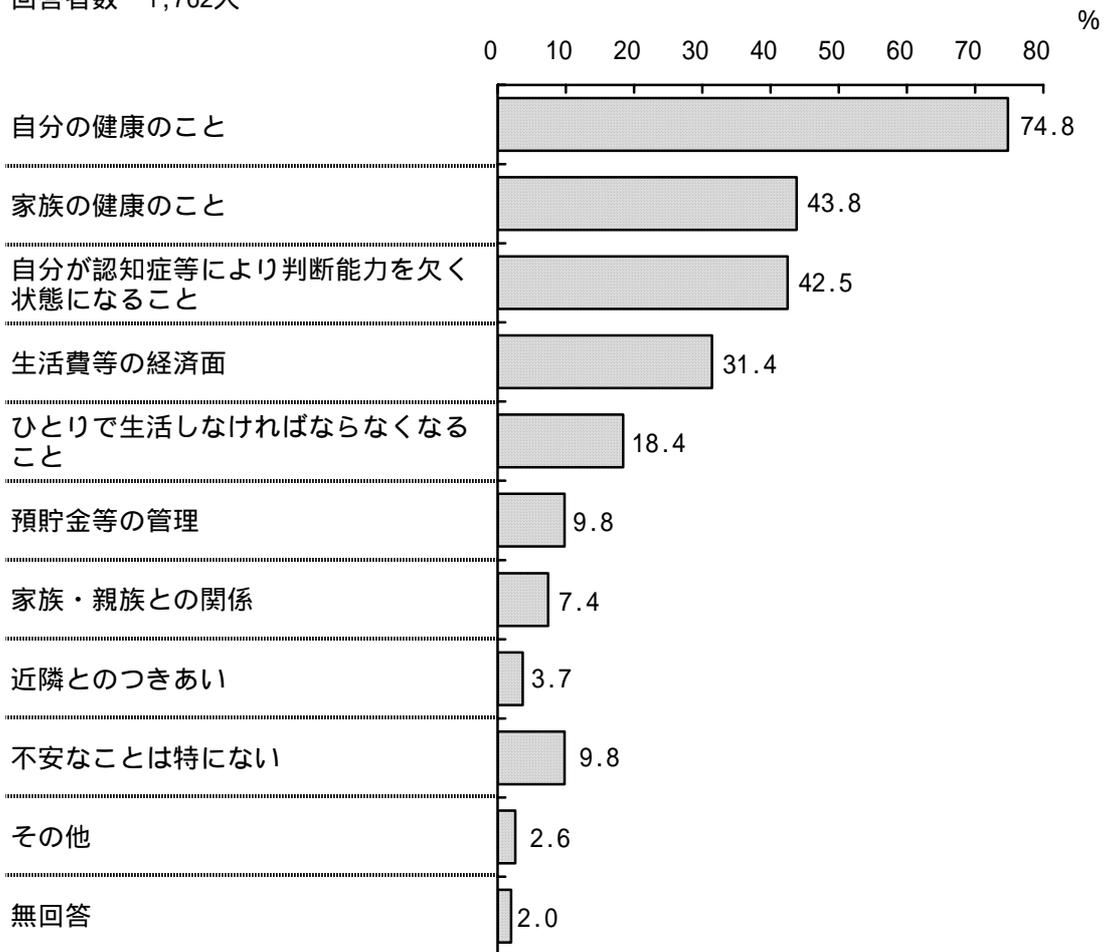
4人に3人は自分の健康のことが不安

(全員の方に)

問22. あなた(宛名の方ご本人)は、将来に対してどのようなことに不安がありますか。
(あてはまるものすべてに)

図 - 5 - 7

回答者数 1,762人



将来に対する不安としては、「自分の健康のこと」(74.8%)が最も多く、4人に3人が答えている。次いで、「家族の健康のこと」(43.8%)、「自分が認知症等により判断能力を欠く状態になること」(42.5%)、「生活費等の経済面」(31.4%)が多くあげられている。以下、「ひとりで生活しなければならなくなること」(18.4%)、「預貯金等の管理」(9.8%)、「家族・親族との関係」(7.4%)、「近隣とのつきあい」(3.7%)の順になっている。また、「不安なことは特にない」と答えた人は9.8%となっている。(図 - 5 - 7)

性別では、「家族の健康のこと」(男性 48.5%、女性 41.1%)、「ひとりで生活しなければな

らなくなること」(男性 22.8%、女性 15.6%)は男性のほうが高く、「自分が認知症等により判断能力を欠く状態になること」(男性 33.2%、女性 48.4%)は女性のほうが高くなっている。
(図 - 5 - 8)(表 - 5 - 1)

性・年齢別では、「自分の健康のこと」は男女のすべての年代で最も不安なこととしてあげられ、特に男性の85歳以上で80%を超えている。「家族の健康のこと」は男性の70~74歳、80~84歳、女性の65~74歳で、「自分が認知症等により判断能力を欠く状態になること」は女性の65~79歳で50%前後となっている。「生活費等の経済面」は男女とも65~74歳で高くなっている。(表 - 5 - 1)

世帯構成別では、高齢者夫婦だけの人で「家族の健康のこと」と「ひとりで生活しなければならなくなること」と答えた人が他の世帯の人に比べ高くなっている。(表 - 5 - 1)

不安や悩みごとの相談相手別では、「自分が認知症等により判断能力を欠く状態になること」と答えた人の割合が“区役所や地域包括支援センター等の公的機関”や“ケアマネジャーやホームヘルパー”を相談相手としてあげた人で高くなっている。(表 - 5 - 1・47ページ問23参照)

図 - 5 - 8 性別(上位6位)

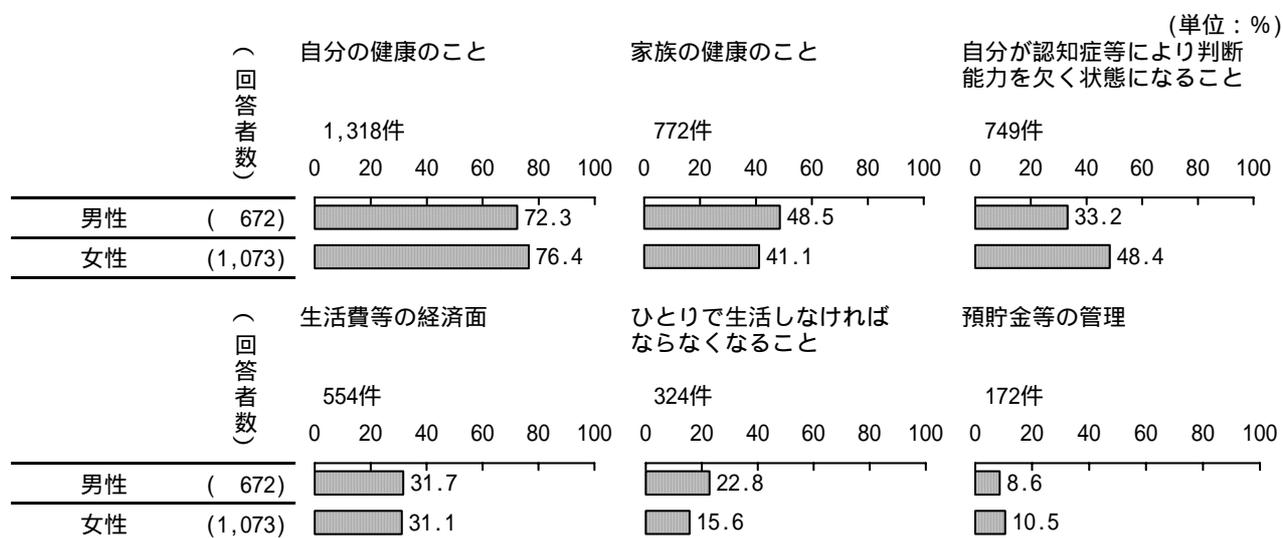


表 - 5 - 1 性別、性・年齢別、世帯構成別、不安や悩みごとの相談相手別

単位：%

	回答者数	自分の健康のこと	家族の健康のこと	自分が認知症等により判断能力が欠く状態になること	生活費等の経済面	ひとり暮らしで生活しなければならなくなる	預貯金等の管理	家族・親族との関係	近隣とのつきあい	不安なことは特にない	その他	
全体	1,762	74.8	43.8	42.5	31.4	18.4	9.8	7.4	3.7	9.8	2.6	
性別	男性	672	72.3	48.5	33.2	31.7	22.8	8.6	8.3	3.6	11.6	2.2
	女性	1,073	76.4	41.1	48.4	31.1	15.6	10.5	6.7	3.7	8.8	2.8
男性	65～69歳	198	67.7	47.0	33.3	38.9	16.7	8.1	9.6	3.5	15.7	1.5
	70～74歳	165	75.8	53.3	30.9	36.4	24.2	7.9	7.3	3.0	8.5	3.0
	75～79歳	139	71.9	46.8	30.9	30.9	22.3	10.8	10.1	2.9	10.1	1.4
	80～84歳	105	70.5	50.5	35.2	18.1	29.5	8.6	7.6	3.8	13.3	3.8
	85歳以上	62	80.6	40.3	38.7	22.6	24.2	6.5	4.8	6.5	8.1	1.6
女性	65～69歳	248	76.2	52.8	54.0	38.3	21.0	10.1	6.9	4.4	6.0	3.6
	70～74歳	259	78.8	49.8	50.2	42.1	15.1	10.4	8.5	3.1	6.6	1.5
	75～79歳	230	79.1	38.7	49.1	27.8	18.7	10.4	6.5	3.5	10.0	2.6
	80～84歳	186	78.0	28.0	44.6	18.8	12.9	12.9	5.4	4.3	10.2	2.2
	85歳以上	146	66.4	26.7	40.4	21.2	6.2	8.9	4.8	2.7	13.7	4.8
世帯構成別	ひとり暮らし	390	77.7	10.5	45.9	33.8	9.5	10.0	5.6	4.9	7.4	2.6
	高齢者夫婦だけ	620	74.7	56.9	41.6	32.9	27.9	10.5	8.1	3.4	9.2	2.3
	高齢者と子ども(2世代)	469	74.2	53.5	42.0	28.4	14.9	8.3	7.5	3.6	10.0	2.1
	高齢者と子どもと孫(3世代)	136	71.3	43.4	36.0	24.3	5.1	7.4	9.6	2.9	19.1	3.7
	その他	118	77.1	52.5	46.6	38.1	27.1	13.6	5.9	2.5	9.3	4.2
不安や悩みごとの相談相手別	同居の家族	992	79.0	58.7	43.3	30.3	22.6	9.7	8.2	3.2	8.2	1.8
	友人、知人	439	81.5	46.2	55.4	40.1	18.7	11.6	7.3	3.9	6.2	1.6
	別居している子どもや親族	480	83.3	47.1	52.7	31.5	19.2	13.1	10.4	5.2	6.3	2.7
	近隣の住民	41	90.2	48.8	46.3	41.5	24.4	22.0	24.4	19.5	2.4	4.9
	専門家(医師・看護師・弁護士・カウンセラー等)	197	85.3	57.9	48.2	34.5	25.4	15.7	13.2	7.6	4.6	3.0
	区役所や地域包括支援センター等の公的機関	48	83.3	52.1	58.3	31.3	25.0	20.8	16.7	10.4	2.1	6.3
	ケアマネジャーやホームヘルパー	70	75.7	38.6	60.0	38.6	25.7	18.6	11.4	8.6	4.3	4.3
	民生委員	16	68.8	18.8	50.0	56.3	6.3	12.5	12.5	12.5	6.3	-
	相談相手は特にない	186	66.1	29.6	37.1	38.7	17.2	14.0	8.6	4.3	15.1	4.3
	その他	68	47.1	20.6	33.8	22.1	7.4	8.8	5.9	2.9	25.0	14.7

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(4) 不安や悩みごとの相談相手

同居の家族に相談する人が半数以上

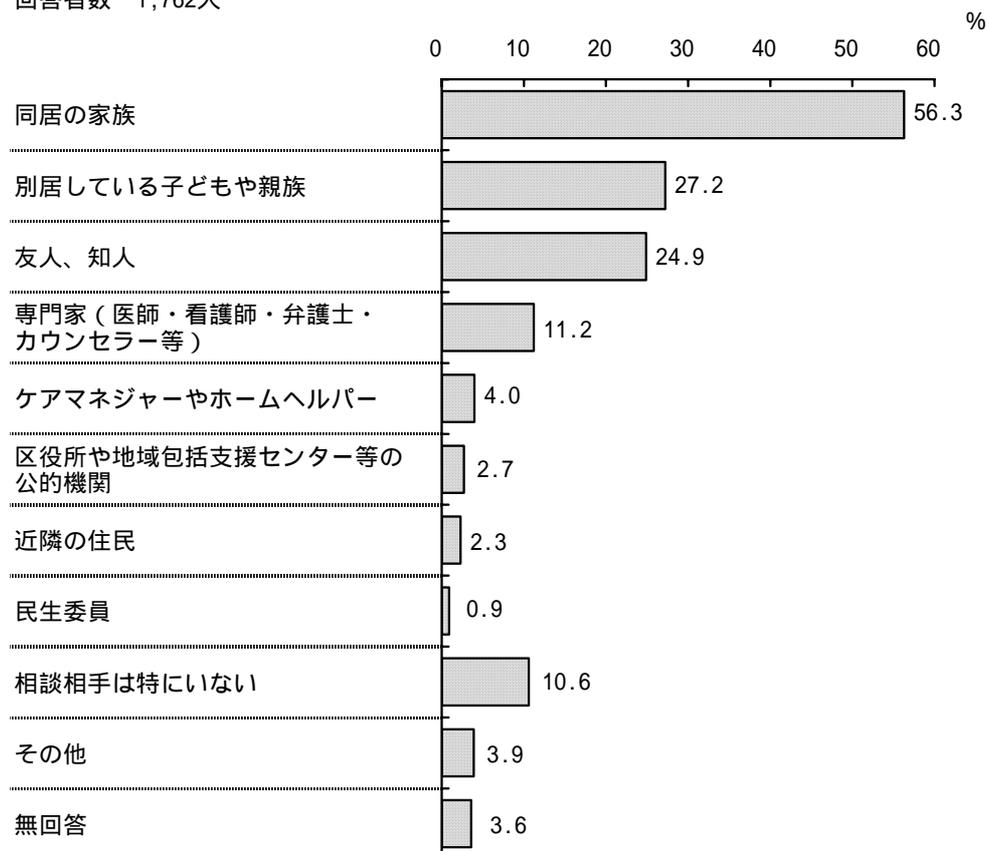
(全員の方に)

問23. あなた(宛名の方ご本人)は、不安や悩みごとは誰に相談していますか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 5 - 9

回答者数 1,762人



不安や悩みごとの相談相手としては、「同居の家族」(56.3%)と答えた人が最も多く、半数以上となっている。以下、「別居している子どもや親族」(27.2%)、「友人、知人」(24.9%)、「専門家(医師・看護師・弁護士・カウンセラー等)」(11.2%)が主な相談相手としてあげられている。また、「相談相手は特にいない」と答えた人が10.6%となっている。(図 - 5 - 9)

性別では、「同居の家族」(男性65.2%、女性51.2%)は男性で高く、「別居している子どもや親族」(男性17.0%、女性33.7%)、「友人、知人」(男性14.1%、女性31.3%)は女性で高くなっている。また、「相談相手は特にいない」(男性15.0%、女性7.6%)は男性で高くなっている。(図 - 5 - 10)

性・年齢別では、「同居の家族」は男性の75~84歳で70%前後と高いが、女性はこの年齢で45%前後と低くなっている。「別居している子どもや親族」は女性の75~79歳で40.4%と高い。また、「友人、知人」は男女とも年齢が若い人ほど高くなっている。(図 - 5 - 11)

図 - 5 - 10 性別（上位 5 位 + 「相談相手は特にいない」）

（単位：％）

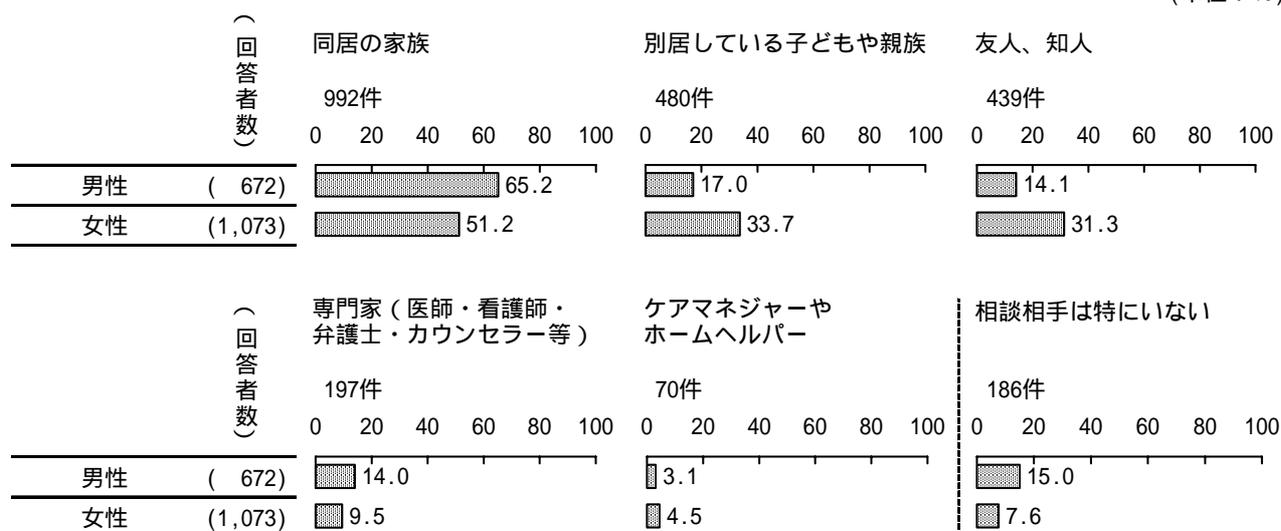
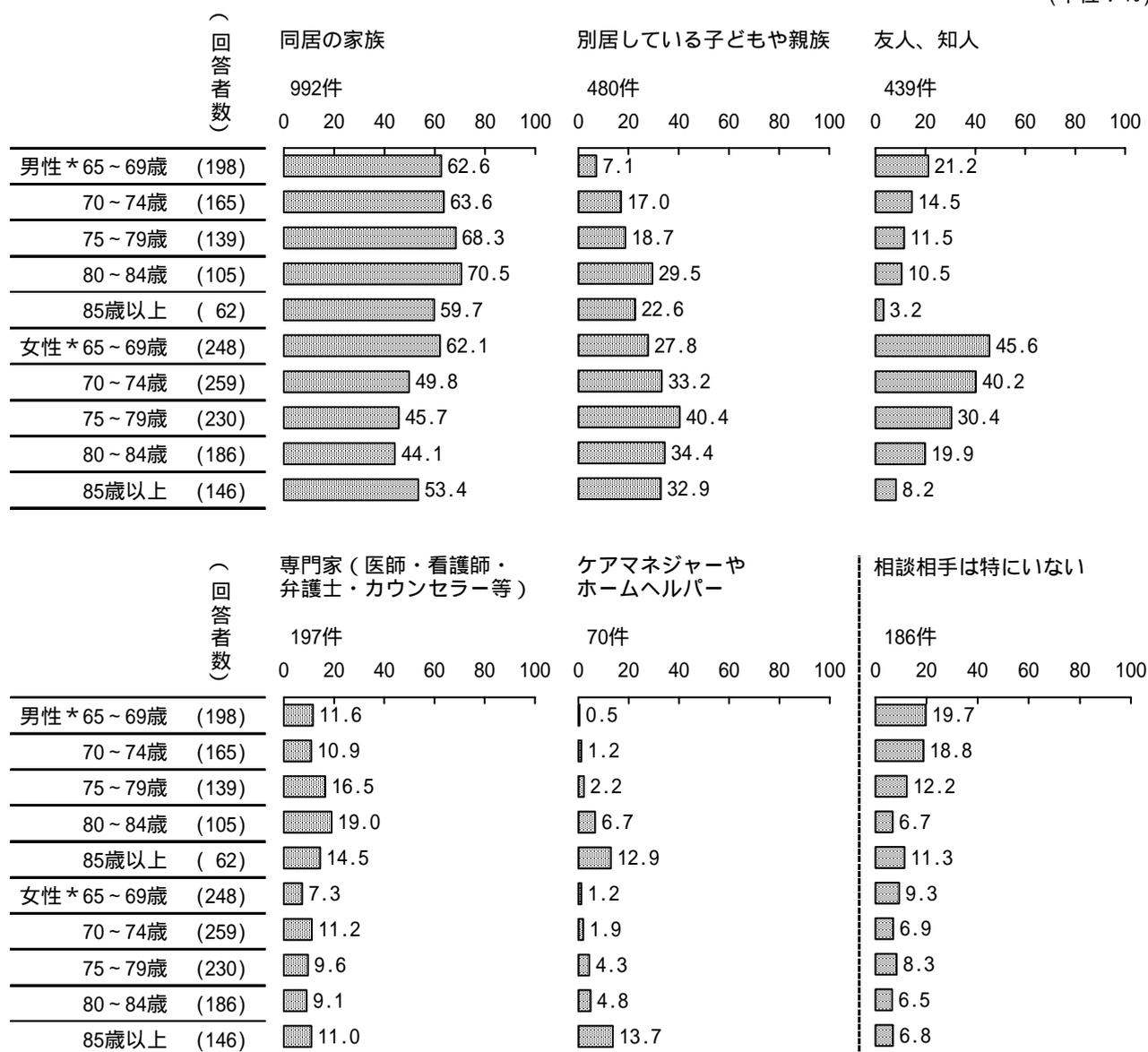


図 - 5 - 11 性・年齢別（上位 5 位 + 「相談相手は特にいない」）

（単位：％）



(5) 地域の活動への参加

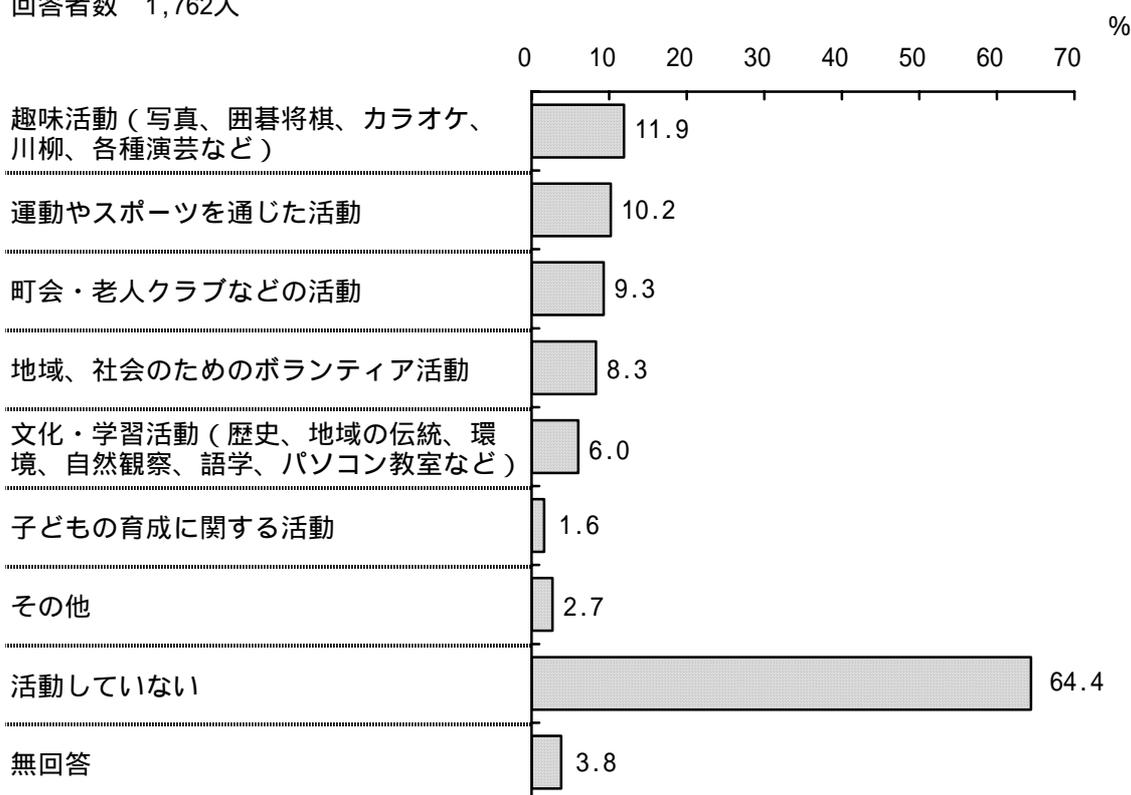
参加していない人が6割半

(全員の方に)

問 24 . あなた (宛名の方ご本人) は、この 1 年間に次のような地域の活動に参加しましたか。
(あてはまるものすべてに)

図 - 5 - 12

回答者数 1,762人



参加した地域の活動としては、「趣味活動 (写真、囲碁将棋、カラオケ、川柳、各種演芸など)」(11.9%) が最も多く、次いで、「運動やスポーツを通じた活動」(10.2%) が 1 割以上となっている。以下、「町会・老人クラブなどの活動」(9.3%)、「地域、社会のためのボランティア活動」(8.3%)、「文化・学習活動 (歴史、地域の伝統、環境、自然観察、語学、パソコン教室など)」(6.0%)、「子どもの育成に関する活動」(1.6%) の順になっている。一方、「活動していない」と答えた人が 64.4% と 6 割を超えている。(図 - 5 - 12)

性別では、大きな差は見られない。(図 - 5 - 13)

性・年齢別では、「趣味活動」は男性では年齢差は見られず、女性では年齢が若いほど高い。「運動やスポーツを通じた活動」は男性では 65~79 歳で 10% 台、女性では年齢が若いほど高い。「地域、社会のためのボランティア活動」は男女とも 65~74 歳で 10% 台となっている。(図 - 5 - 14)

図 - 5 - 13 性別（上位5位 + 「活動していない」）

（単位：％）

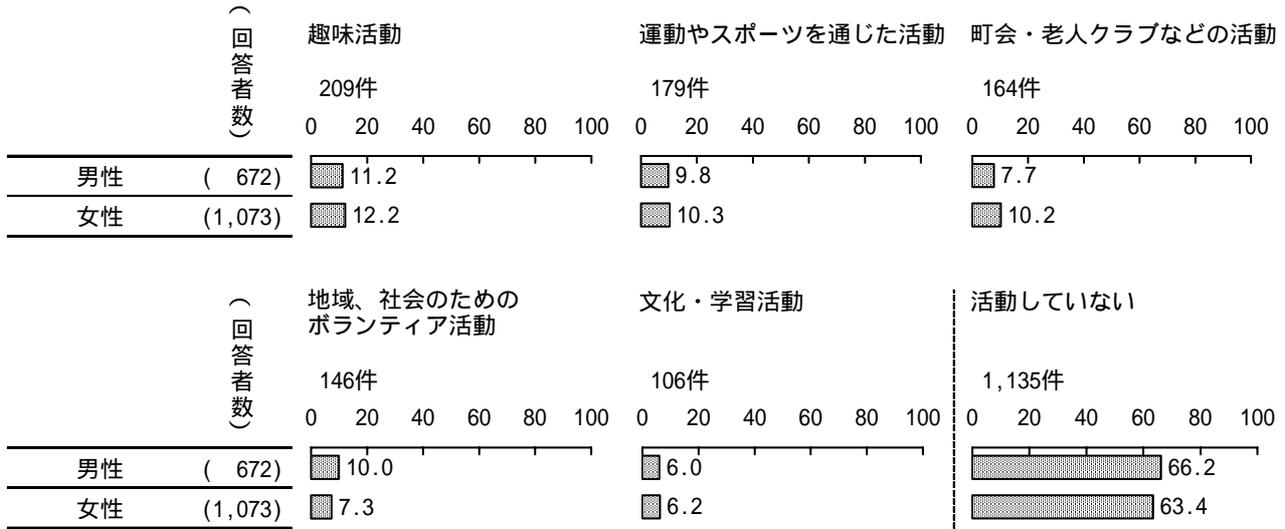
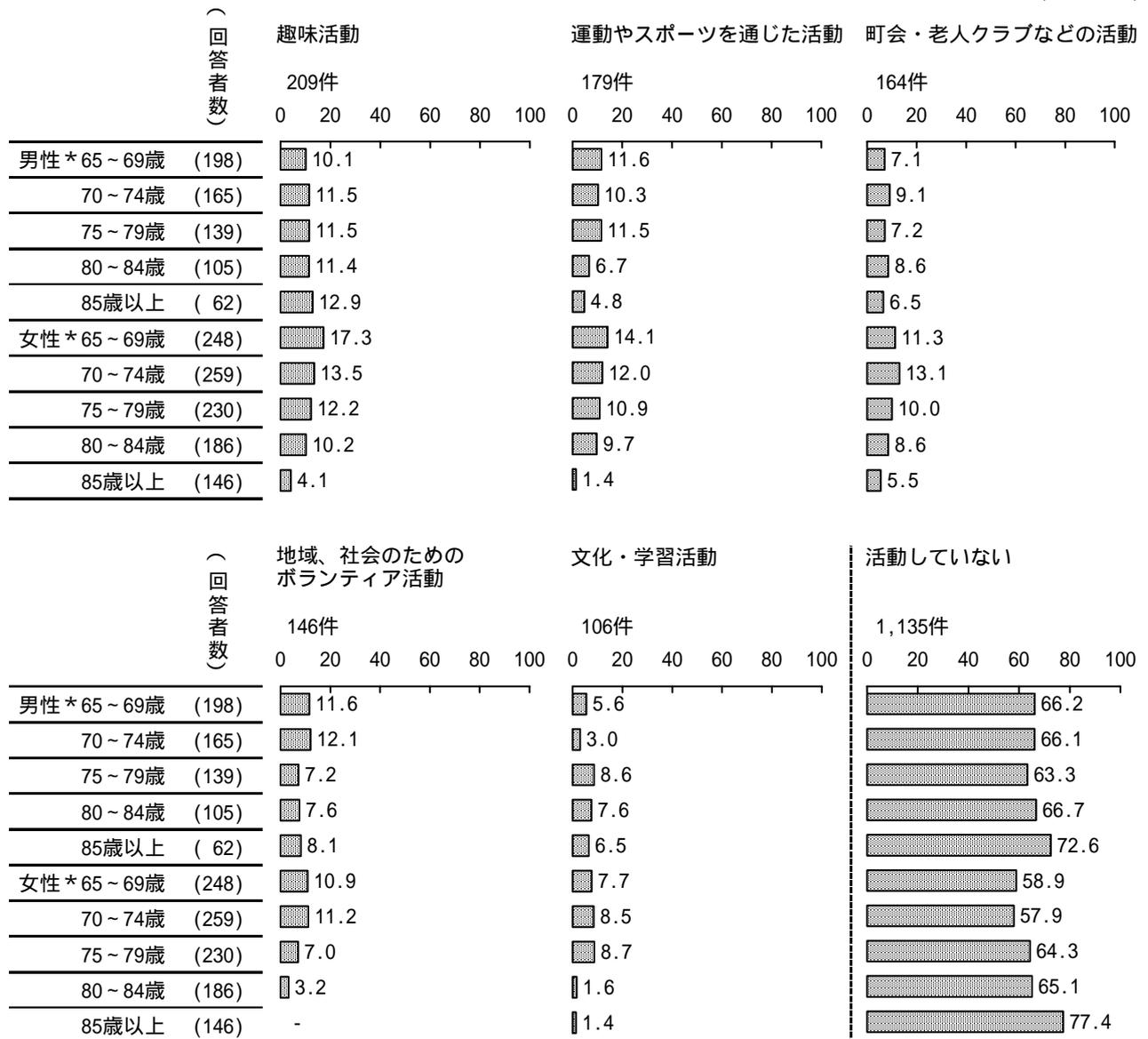


図 - 5 - 14 性・年齢別（上位5位 + 「活動していない」）

（単位：％）



(6) 地域の活動に参加するきっかけ

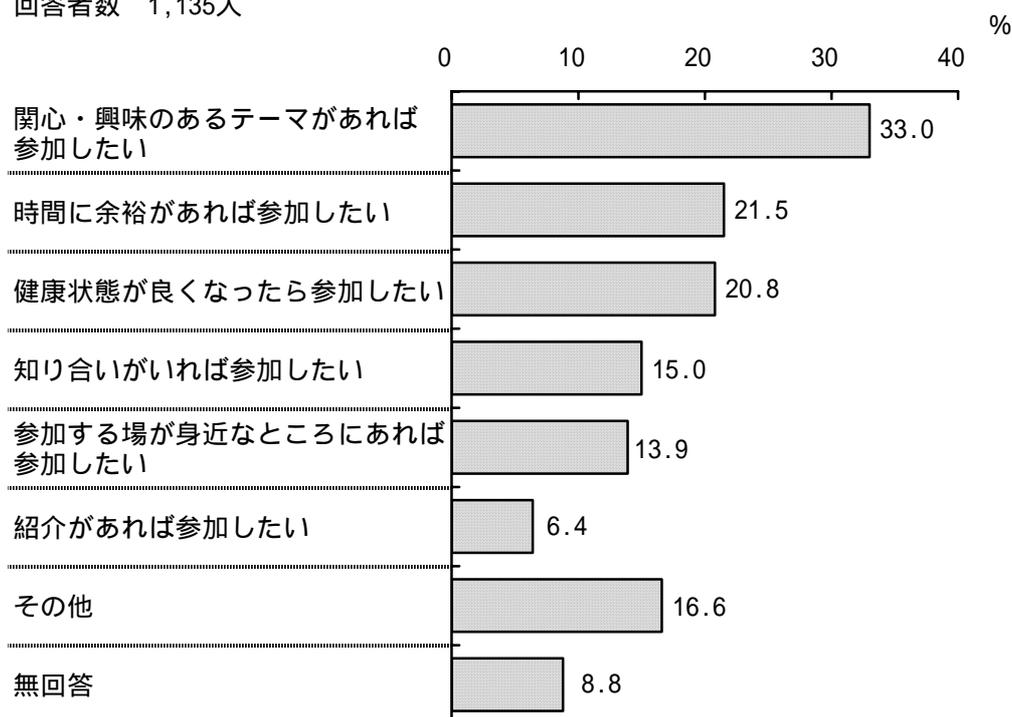
「関心・興味のあるテーマがあれば参加したい」が3人に1人

(問24で「8.活動していない」と答えた方に)

問25. あなた(宛名の方ご本人)は、どのようなきっかけがあれば、地域の活動に参加したいと思いませんか。(あてはまるものすべてに)

図 - 5 - 15

回答者数 1,135人



地域の活動に参加していない人に、どのようなきっかけがあれば、地域の活動に参加したいと思うかたずねた。「関心・興味のあるテーマがあれば参加したい」(33.0%)が最も多く、以下、「時間に余裕があれば参加したい」(21.5%)、「健康状態が良くなったら参加したい」(20.8%)、「知り合いがいれば参加したい」(15.0%)、「参加する場が身近なところがあれば参加したい」(13.9%)、「紹介があれば参加したい」(6.4%)の順になっている。(図 - 5 - 15)

性別では、「関心・興味のあるテーマがあれば参加したい」(男性 39.6%、女性 28.8%)は男性で高くなっている。(図 - 5 - 16)

年齢別では、「関心・興味のあるテーマがあれば参加したい」と「時間に余裕があれば参加したい」は年齢の若い人ほど高く、「健康状態が良くなったら参加したい」は年齢の高い人ほど高くなっている。(図 - 5 - 17)

図 - 5 - 16 性別（上位 6 位）

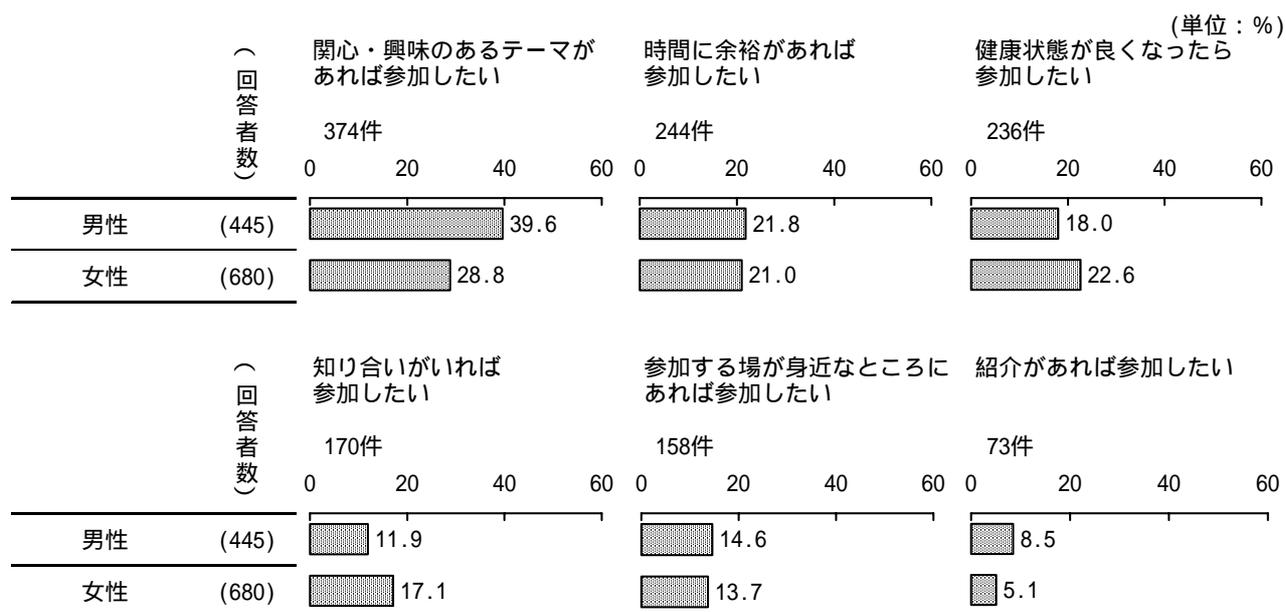
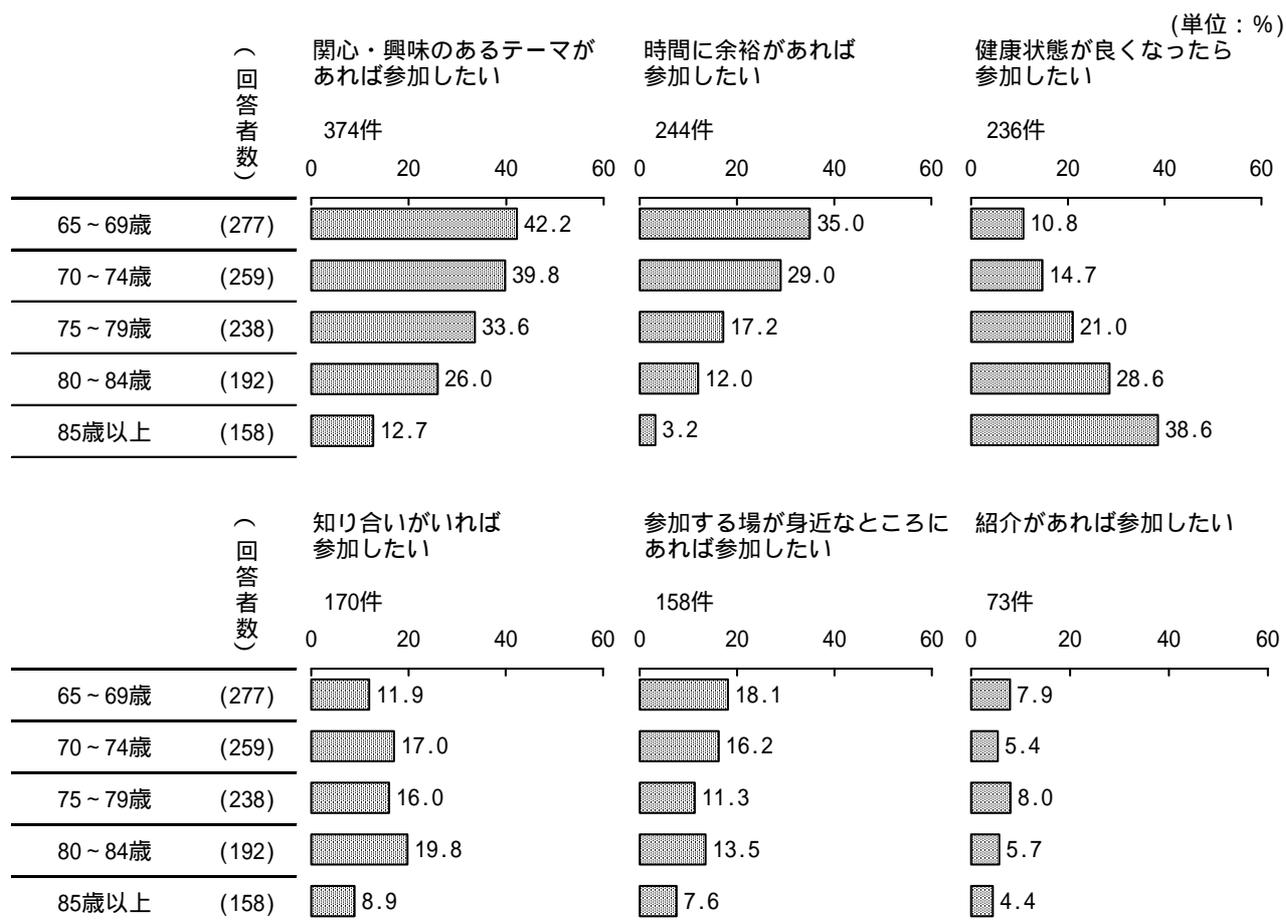


図 - 5 - 17 年齢別（上位 6 位）



(7) 異なる世代との交流への参加意向

参加意向のある人が過半数

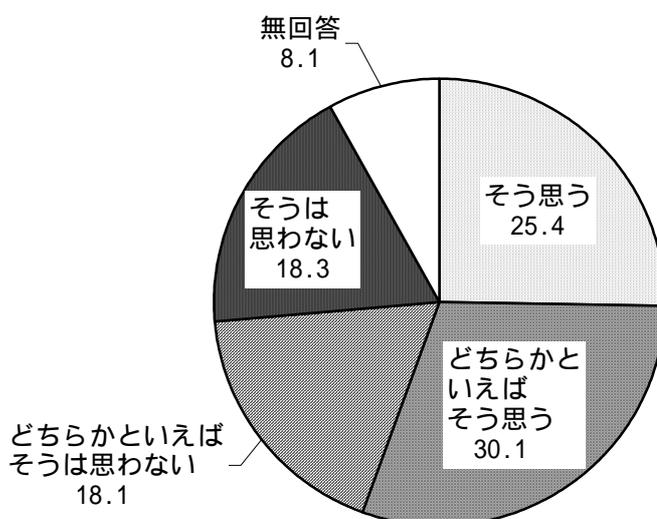
(全員の方に)

問 26 . あなた (宛名の方ご本人) は、異なる世代 (子どもや青年、壮年世代など) との交流の機会があった場合、参加したいと思いますか。(は1つ)

図 - 5 - 18

回答者数 1,762人

単位 : %



異なる世代 (子どもや青年、壮年世代など) との交流の機会があった場合、参加したいと思うかたずねたところ、「そう思う」と答えた人が 25.4%、「どちらかといえばそう思う」と答えた人が 30.1%で、参加意向のある人が過半数を占めている。一方、「どちらかといえばそうは思わない」と答えた人が 18.1%、「そうは思わない」と答えた人が 18.3%となっている。(図 - 5 - 18)

性別では、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」と答えた人がいずれも女性より男性で高く、参加意向は男性のほうが高くなっている。(図 - 5 - 19)

年齢別では、年齢が若い人で参加意向が高くなる傾向が見られ、65~74 歳では 60%以上の人が参加意向があると答えているが、年齢の上昇とともに参加意向は低くなり、85 歳以上で 30%半ばとなる。(図 - 5 - 20)

居住地域別では、すべての地域で参加意向がある人が過半数を占めるが、「そう思う」と答えた人が北西部 (27.2%) と中央部 (28.5%) で高くなっている。(図 - 5 - 21)

地域活動への参加経験別では、活動していないと答えた人で参加意向が低く、何らかの具体的な活動をしている人では、参加意向のある人が70%以上と高くなっている。(図 - 5 - 22・49 ページ問 24 参照)

図 - 5 - 19 性別

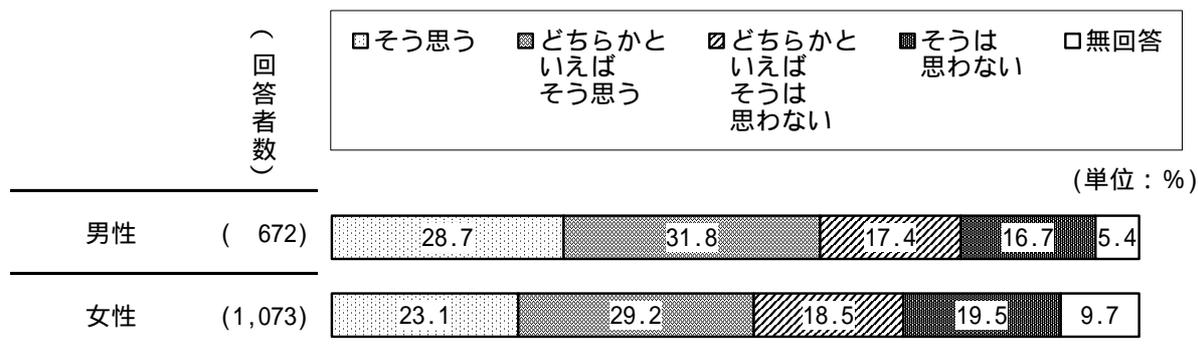


図 - 5 - 20 年齢別

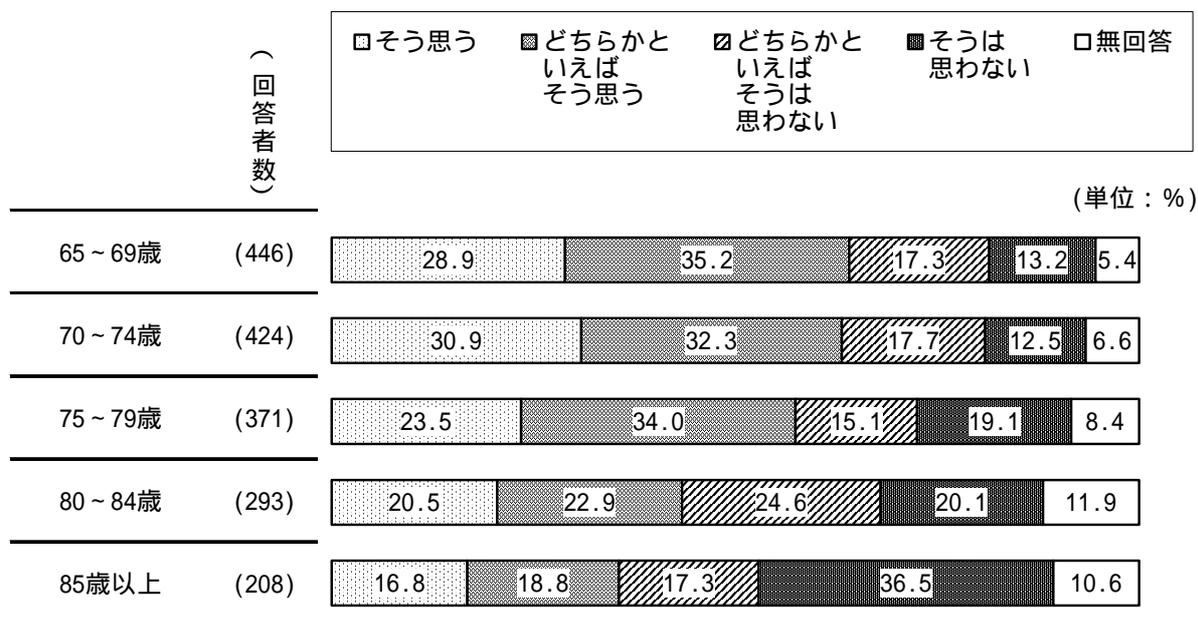


図 - 5 - 21 居住地域別

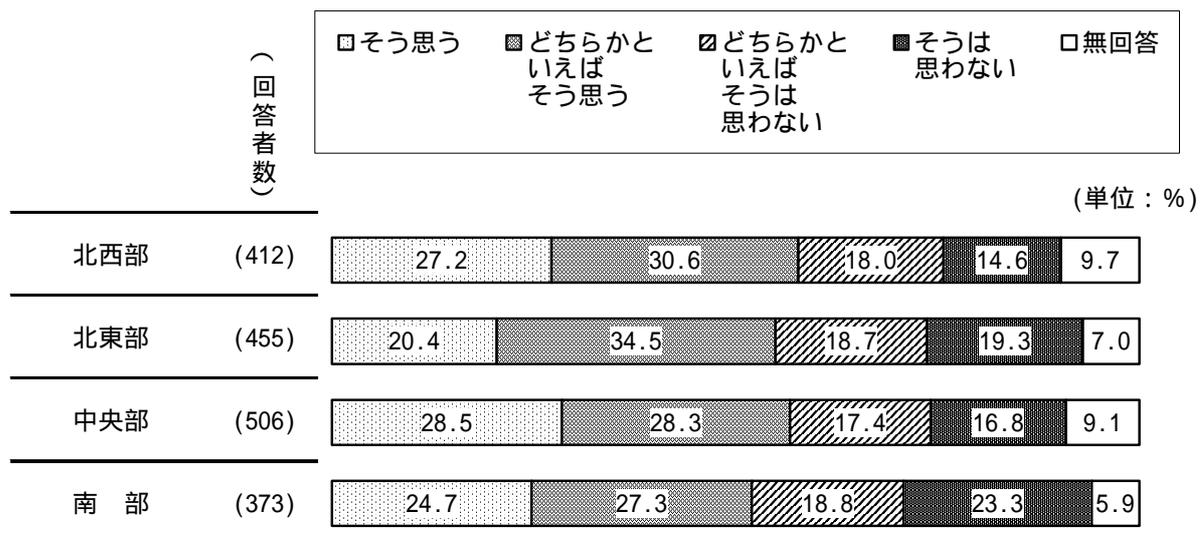
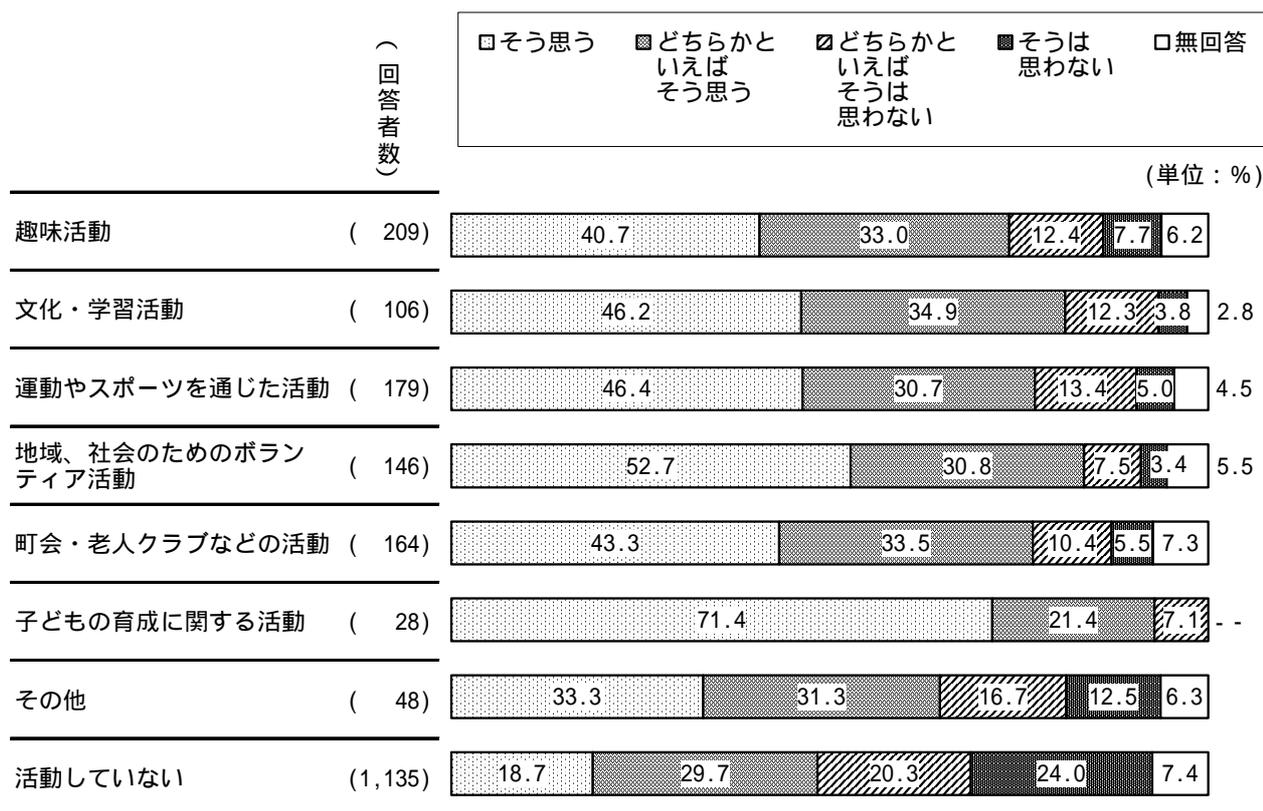


図 - 5 - 22 異なる世代との交流への参加意向と地域活動への参加経験の関係



(8) 楽しみや生きがい

「旅行」が5割近く

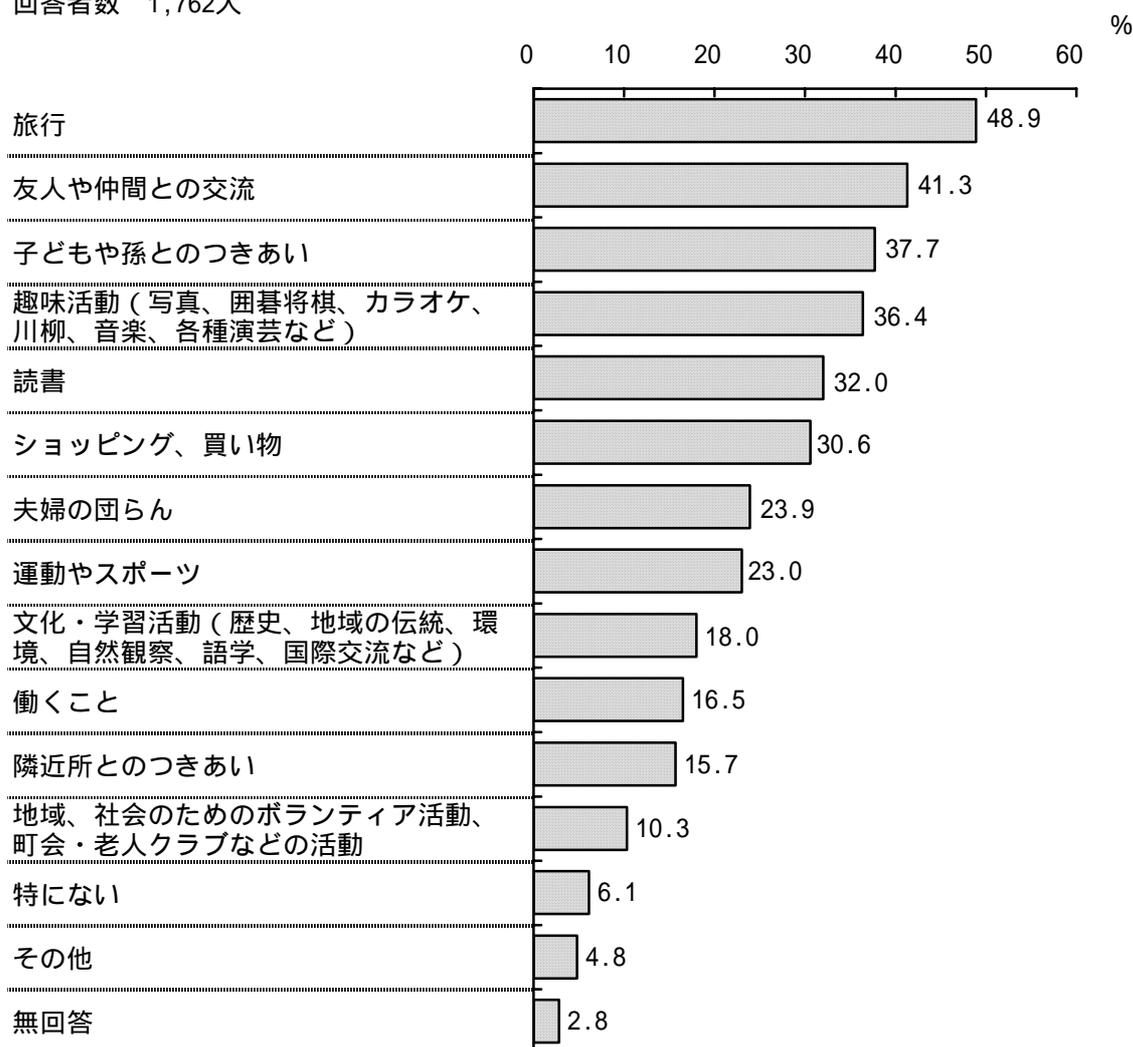
(全員の方に)

問 27 . あなた (宛名の方ご本人) にとっての楽しみや生きがいは、どのようなことですか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 5 - 23

回答者数 1,762人



楽しみや生きがいとしては、「旅行」(48.9%) と答えた人が最も多く、次いで、「友人や仲間との交流」(41.3%) も4割以上の方が答えている。以下、「子どもや孫とのつきあい」(37.7%)、「趣味活動 (写真、囲碁将棋、カラオケ、川柳、音楽、各種演芸など)」(36.4%)、「読書」(32.0%)、「ショッピング、買い物」(30.6%) が3割以上であげられている。(図 - 5 - 23)

性別では、「友人や仲間との交流」(男性 33.0%、女性 46.5%)、「ショッピング、買い物」(男

性 16.2%、女性 40.1%) は女性で高く、「趣味活動」(男性 42.9%、女性 32.5%)、「夫婦の団らん」(男性 34.2%、女性 17.7%)、「運動やスポーツ」(男性 29.0%、女性 19.4%)、「働くこと」(男性 22.3%、女性 12.7%) は男性で高くなっている。(表 - 5 - 2)

性・年齢別では、「旅行」、「友人や仲間との交流」、「趣味活動」、「運動やスポーツ」、「働くこと」は男女とも年齢の若い人で高くなる傾向が見られる。「子どもや孫とのつきあい」は男性の 80~84 歳、女性の 75~79 歳で高くなっている。(表 - 5 - 2)

世帯構成別では、高齢者と子どもと孫の 3 世代の人では「子どもや孫とのつきあい」が 62.5% と高くなっている。高齢者夫婦だけの世帯では「夫婦の団らん」が 39.2% と高くなっている。(表 - 5 - 2)

表 - 5 - 2 性別、性・年齢別、世帯構成別

単位: %

		回答者数	旅行	友人や仲間との交流	子どもや孫とのつきあい	趣味活動	読書	ショッピング、買い物	夫婦の団らん	運動やスポーツ	文化・学習活動	働くこと	隣近所とのつきあい	地域のボランティア活動、町会・老人クラブなどの活動	特にない	その他
全体		1,762	48.9	41.3	37.7	36.4	32.0	30.6	23.9	23.0	18.0	16.5	15.7	10.3	6.1	4.8
性別	男性	672	48.2	33.0	34.2	42.9	30.5	16.2	34.2	29.0	21.6	22.3	10.3	10.4	5.7	3.9
	女性	1,073	49.7	46.5	40.4	32.5	33.0	40.1	17.7	19.4	15.8	12.7	19.0	10.1	6.5	5.4
男性	65~69歳	198	54.5	37.9	33.3	51.0	30.3	18.2	33.3	39.9	23.2	28.3	8.1	12.1	4.5	3.0
	70~74歳	165	49.7	35.8	31.5	44.8	33.3	13.9	33.9	32.7	20.0	29.7	10.3	11.5	4.2	4.8
	75~79歳	139	49.6	29.5	35.3	37.4	30.2	18.7	35.3	26.6	25.2	20.9	9.4	8.6	3.6	3.6
	80~84歳	105	43.8	30.5	42.9	35.2	27.6	14.3	39.0	17.1	21.0	9.5	14.3	9.5	8.6	3.8
	85歳以上	62	29.0	21.0	27.4	35.5	27.4	14.5	24.2	9.7	14.5	6.5	11.3	8.1	12.9	4.8
女性	65~69歳	248	61.7	57.7	41.1	42.3	36.3	48.0	27.8	27.8	19.4	23.8	19.4	11.7	3.2	4.4
	70~74歳	259	62.9	56.4	40.9	36.3	38.6	50.2	20.1	26.3	21.2	17.4	21.2	15.1	2.3	4.2
	75~79歳	230	51.7	47.4	44.8	33.9	35.2	39.1	19.1	15.7	15.2	7.4	17.8	10.0	6.1	4.3
	80~84歳	186	31.7	36.0	32.8	25.3	30.6	29.6	9.7	14.5	9.7	4.3	20.4	8.1	9.7	7.0
	85歳以上	146	26.0	22.6	41.1	17.1	17.1	24.0	4.8	5.5	8.9	4.8	14.4	1.4	15.8	8.9
世帯構成別	ひとり暮らし	390	38.5	37.4	24.9	31.5	28.5	26.9	0.5	14.4	14.4	12.6	14.9	6.4	9.5	7.2
	高齢者夫婦だけ	620	51.8	40.8	42.3	38.7	33.2	27.9	39.2	27.9	18.9	17.7	14.0	12.1	4.8	3.9
	高齢者と子ども(2世代)	469	48.4	39.4	37.7	36.5	32.2	33.9	24.9	22.2	15.6	18.6	16.6	9.4	5.5	4.3
	高齢者と子どもと孫(3世代)	136	61.0	46.3	62.5	35.3	30.1	37.5	23.5	26.5	22.8	11.8	21.3	12.5	4.4	4.4
	その他	118	59.3	57.6	31.4	44.9	36.4	39.0	20.3	27.1	30.5	19.5	15.3	13.6	6.8	5.1

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

6 . 地域とのかかわりについて

(1) 隣近所の人とのつきあいの程度

4人に3人が親しくつきあいたい

(全員の方に)

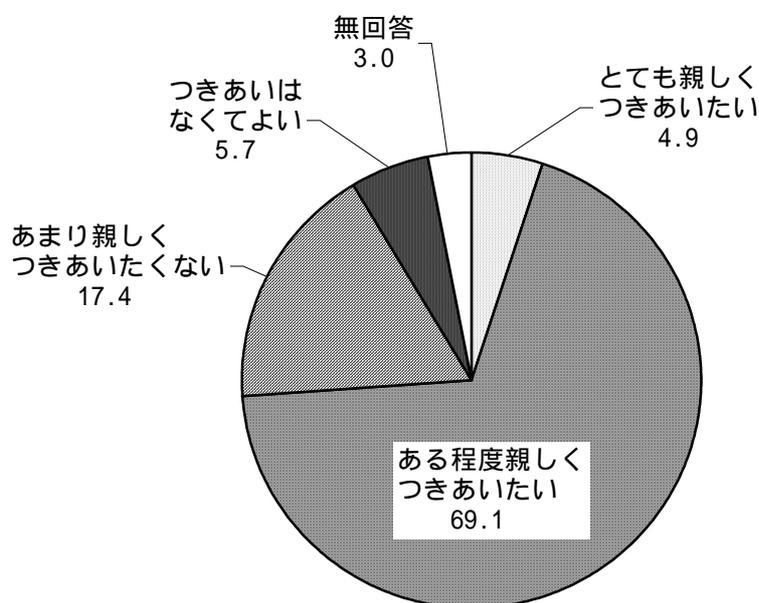
問 28 . あなた(宛名の方ご本人)は、隣近所の人とどの程度のつきあいをしたいと思いますか。

(1 つ)

図 - 6 - 1

回答者数 1,762人

単位 : %



隣近所の人と「とても親しくつきあいたい」と答えた人が4.9%、「ある程度親しくつきあいたい」と答えた人が69.1%と、この両者を合わせると4人に3人は親しくつきあいたいと答えている。一方、「あまり親しくつきあいたくない」と答えた人が17.4%、「つきあいはなくてよい」と答えた人が5.7%となっている。(図 - 6 - 1)

性別では、「とても親しくつきあいたい」と答えた人は女性(3.7%)より男性(6.8%)で高く、「ある程度親しくつきあいたい」と答えた人は男性(65.3%)より女性(71.4%)で高いが、これらを合わせた“親しくつきあいたい”人の割合は男女とも70%以上となっている。(図 - 6 - 2)

年齢別では、「とても親しくつきあいたい」と答えた人は差が見られないが、「ある程度親しくつきあいたい」と答えた人は75~79歳で74.4%と最も高く、次いで70~74歳、80~84歳

で70%、65～69歳で67.3%となっているが、85歳以上では60%にとどまる。85歳以上では「つきあいはなくてよい」と答えた人が11.5%と高くなっている。(図 - 6 - 3)

住居形態別では、持ち家(一戸建て)と公営住宅(都営、区営住宅など)では“親しくつきあいたい”と答えた人が75%前後となっているが、持ち家(マンションなどの集合住宅)では民間賃貸住宅(アパート・マンションなど)では60%台となっている。(図 - 6 - 4)

居住地域別では、すべての地域で“親しくつきあいたい”と答えた人が70%以上を占めるが、南部で80%を超えている。(図 - 6 - 5)

図 - 6 - 2 性別

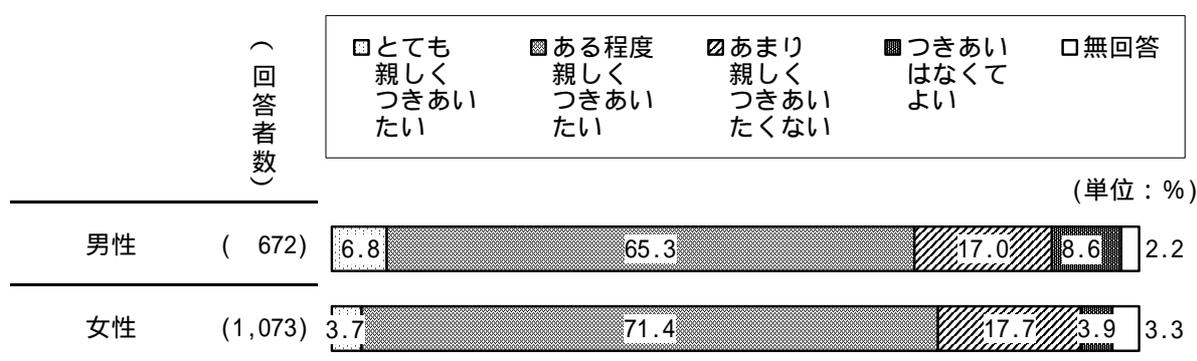


図 - 6 - 3 年齢別

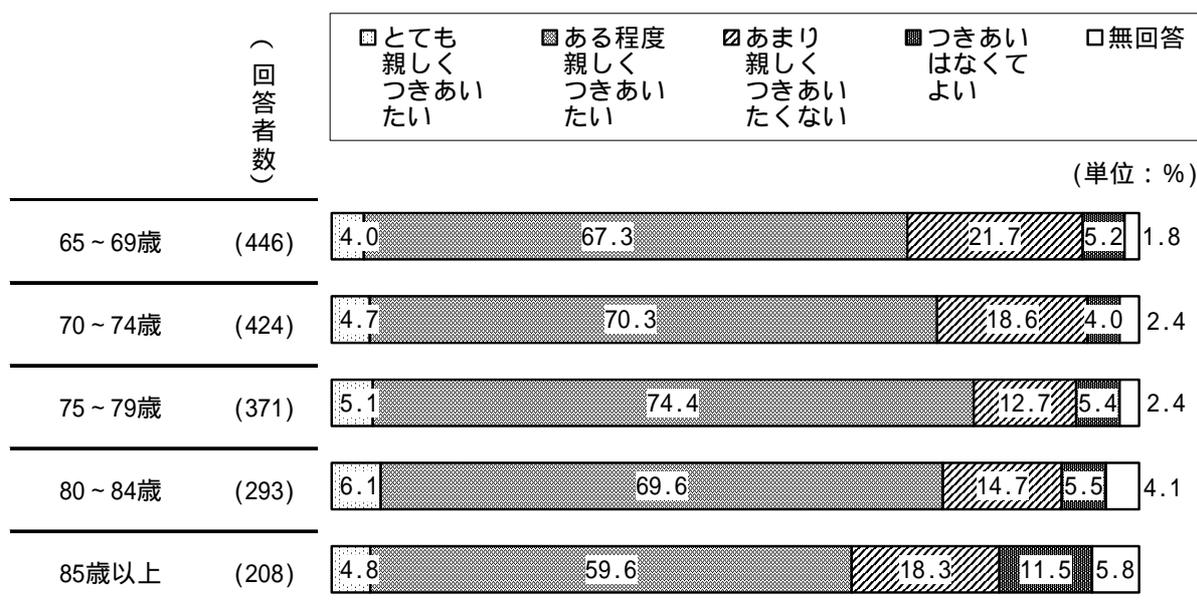


図 - 6 - 4 住居形態別

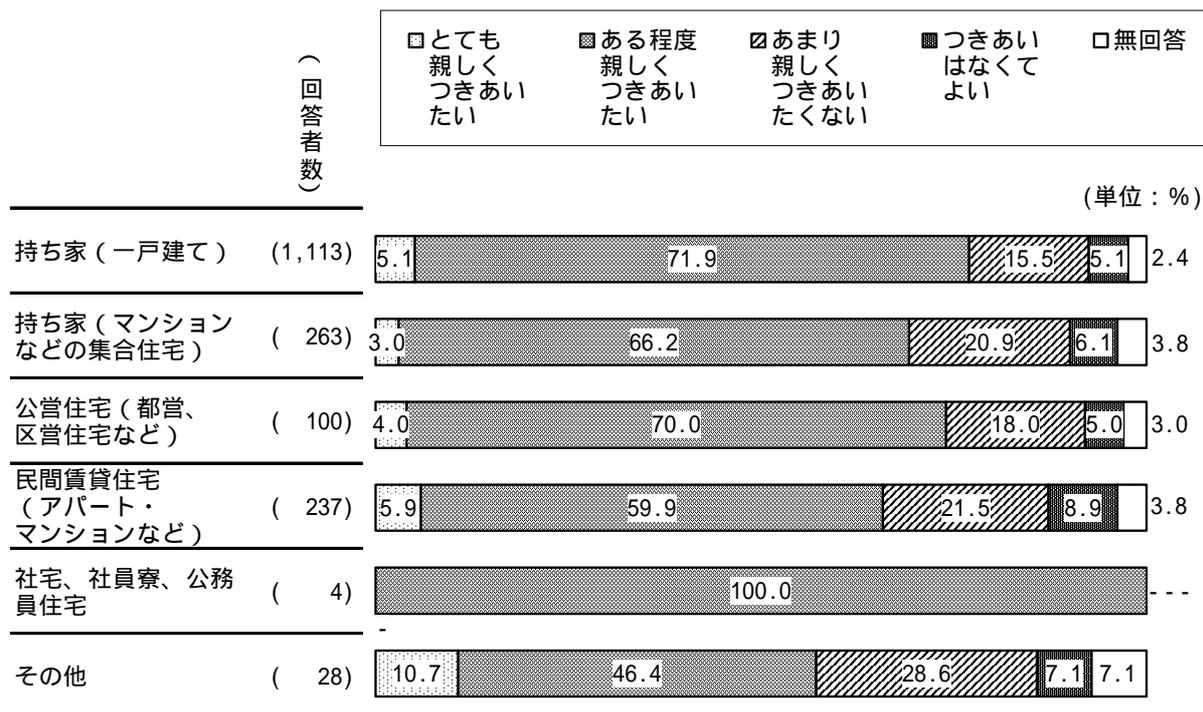
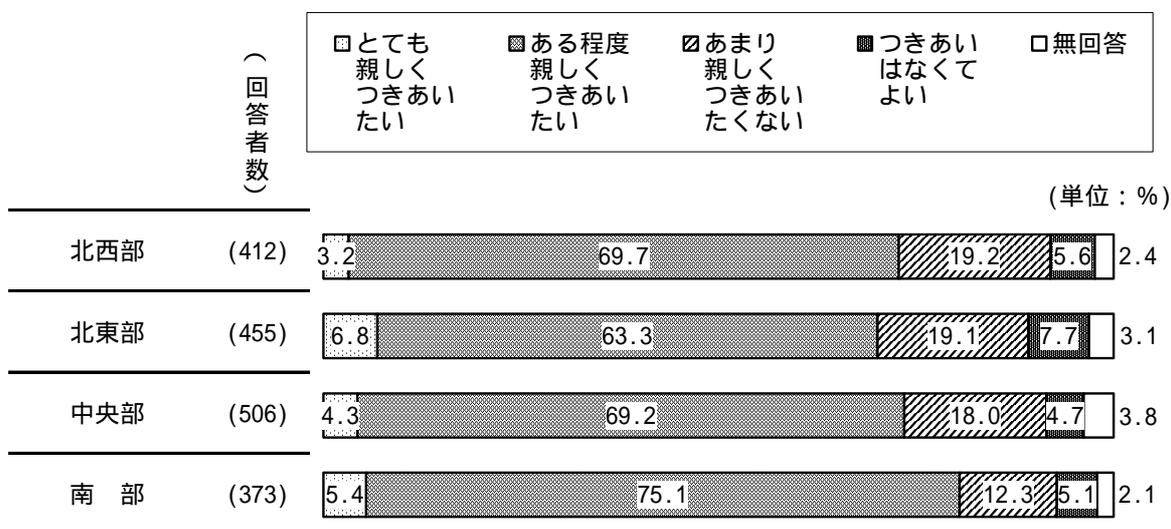


図 - 6 - 5 居住地域別



(2) 地域の人たちが協力して取り組むべき問題

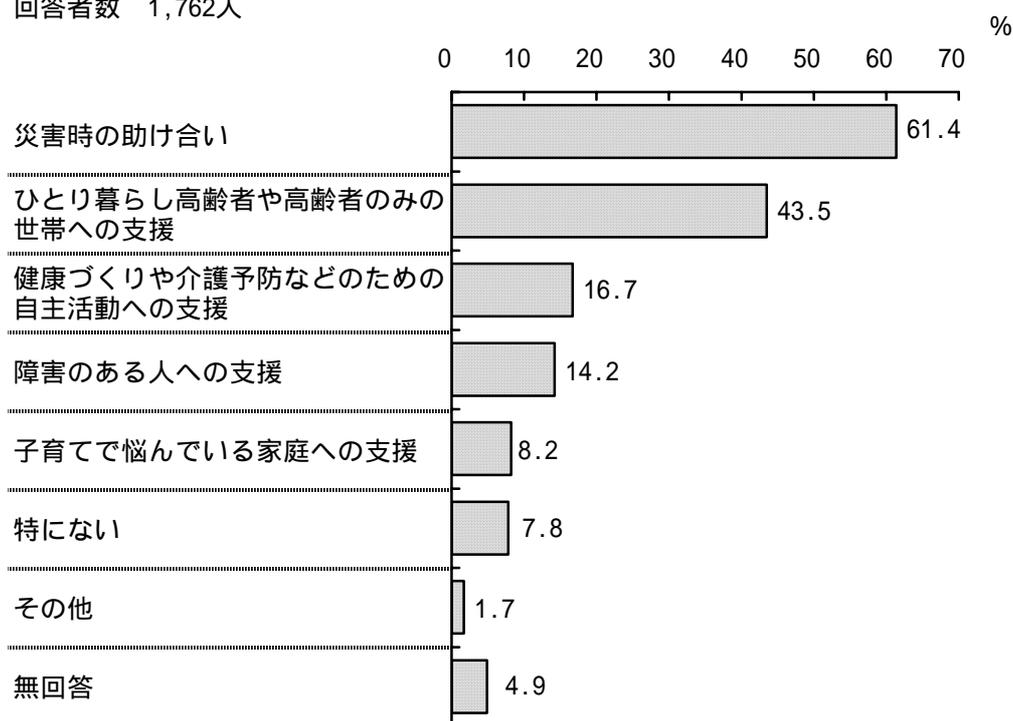
「災害時の助け合い」が6割強

(全員の方に)

問29. 地域の人たちが協力して、取り組んでいくことが特に必要な問題は、どのようなことだと思いますか。(は2つまで)

図 - 6 - 6

回答者数 1,762人



地域の人たちが協力して、取り組んでいくことが特に必要な問題としては、「災害時の助け合い」(61.4%)と答えた人が最も多く、次いで、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援」(43.5%)となっている。以下、「健康づくりや介護予防などのための自主活動への支援」(16.7%)、「障害のある人への支援」(14.2%)、「子育てで悩んでいる家庭への支援」(8.2%)の順になっている。(図 - 6 - 6)

性別では、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援」(男性40.6%、女性45.3%)、「子育てで悩んでいる家庭への支援」(男性4.9%、女性10.3%)は女性で高くなっている。(図 - 6 - 7)

年齢別では、「災害時の助け合い」は70~74歳で67.9%と高くなっている。「子育てで悩んでいる家庭への支援」は65~69歳で15.7%と高くなっている。(図 - 6 - 8)

居住地域別では、大きな差は見られず、「災害時の助け合い」はすべての地域で 60%前後の人が取り組むべき問題と考えている。

図 - 6 - 7 性別（上位 5 位 + 「特にない」）

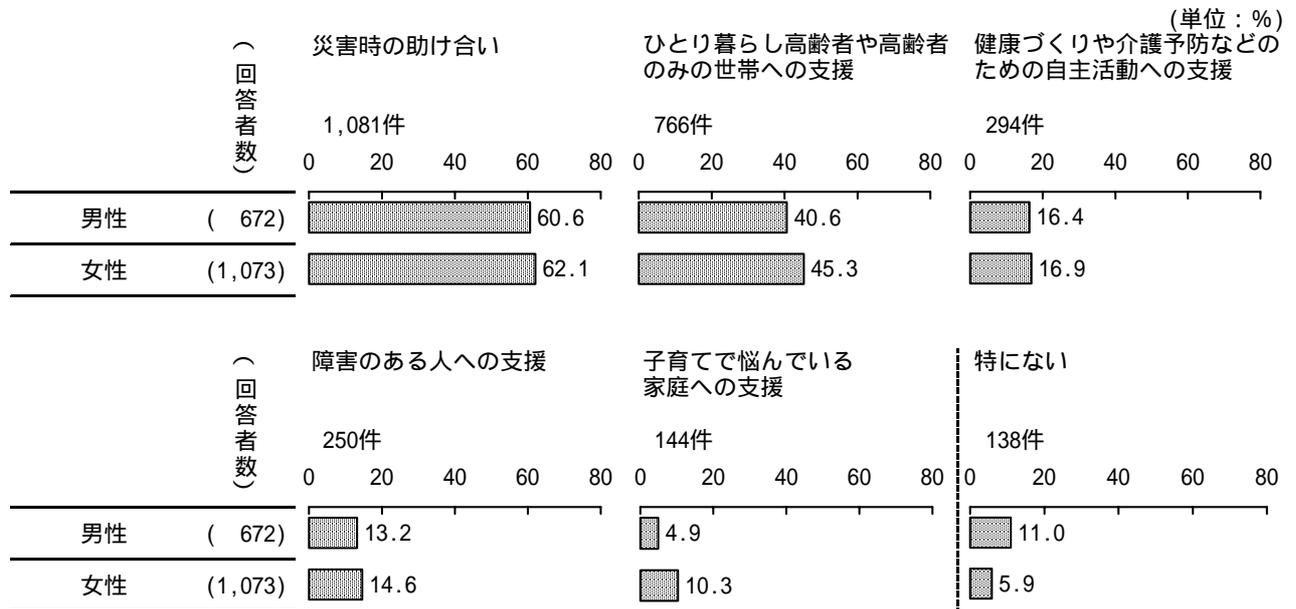
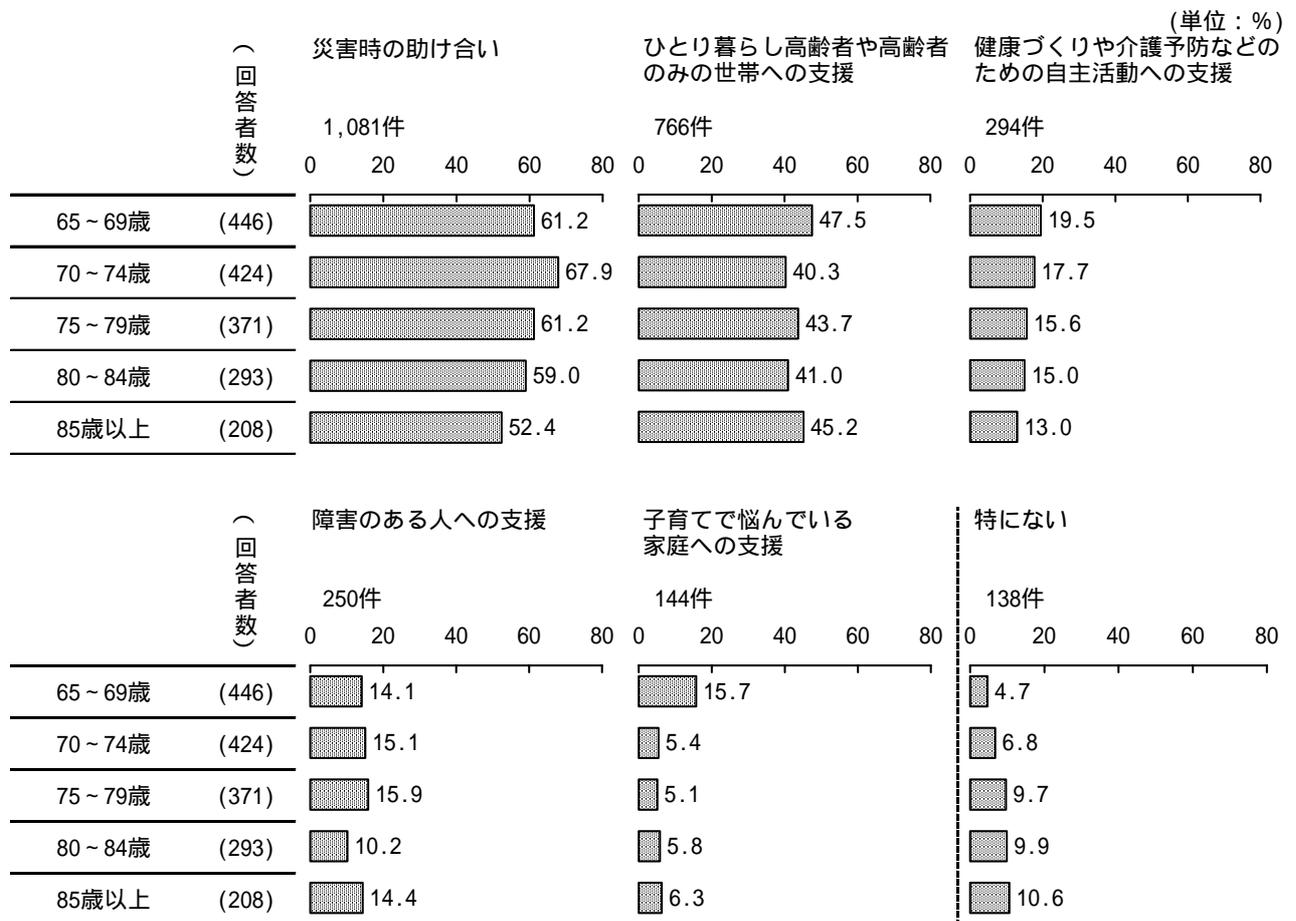


図 - 6 - 8 年齢別（上位 5 位 + 「特にない」）



(3) 住民同士が支え合う地域づくりのために、区が行うべき支援

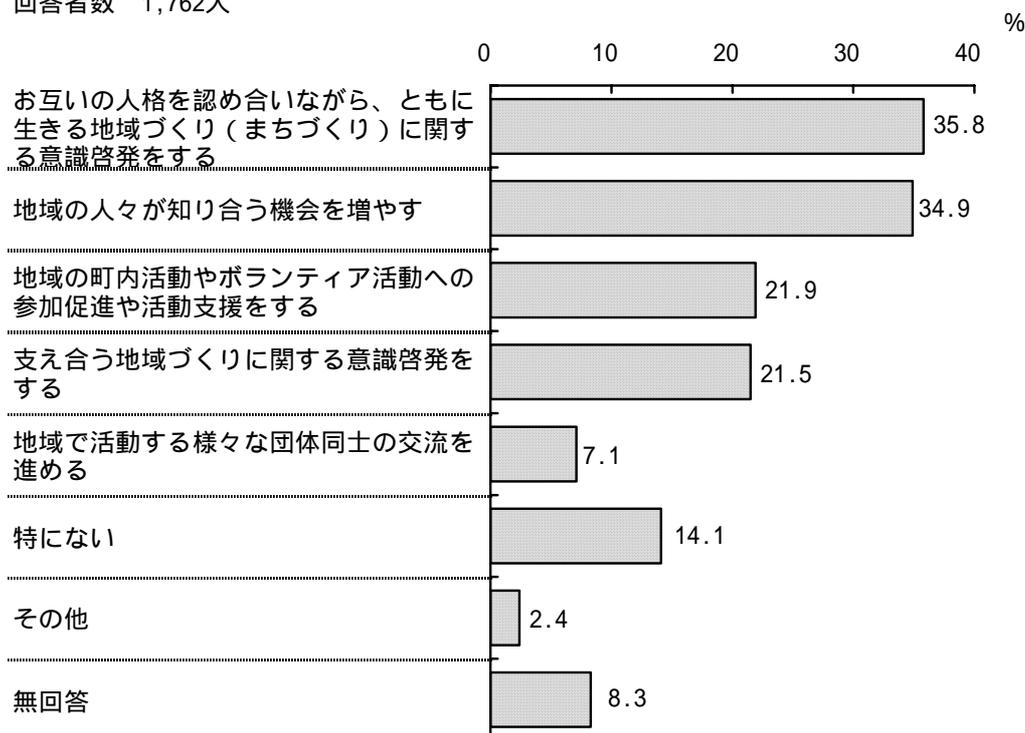
「人格を認め合い、ともに生きる地域づくりへの意識啓発」と「地域の人々が知り合う機会を増やす」が3割半

(全員の方に)

問30. 住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために、区はどのような支援を行う必要があると思いますか。(は2つまで)

図 - 6 - 9

回答者数 1,762人



住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために区が行うべき支援としては、「お互いの人格を認め合いながら、ともに生きる地域づくり(まちづくり)に関する意識啓発をする」(35.8%)と「地域の人々が知り合う機会を増やす」(34.9%)が3割半と多くなっている。次いで、「地域の町内活動やボランティア活動への参加促進や活動支援をする」(21.9%)と「支え合う地域づくりに関する意識啓発をする」(21.5%)が2割強となっている。(図 - 6 - 9)

性別では、「お互いの人格を認め合いながら、ともに生きる地域づくり(まちづくり)に関する意識啓発をする」(男性 32.7%、女性 37.9%)は女性で高く、「地域の町内活動やボランティア活動への参加促進や活動支援をする」(男性 25.0%、女性 20.0%)は男性で高くなっている。(図 - 6 - 10)

性・年齢別では、「お互いの人格を認め合いながら、ともに生きる地域づくりに関する意識啓発をする」は女性の65~79歳、「地域の人々が知り合う機会を増やす」は男性の70~74歳、女性の75~79歳でそれぞれ40%以上となっている。「地域の町内活動やボランティア活動への参加促進や活動支援をする」は男女とも65~69歳で高い。(図 - 6 - 11)

図 - 6 - 10 性別 (上位 5 位 + 「特にない」)

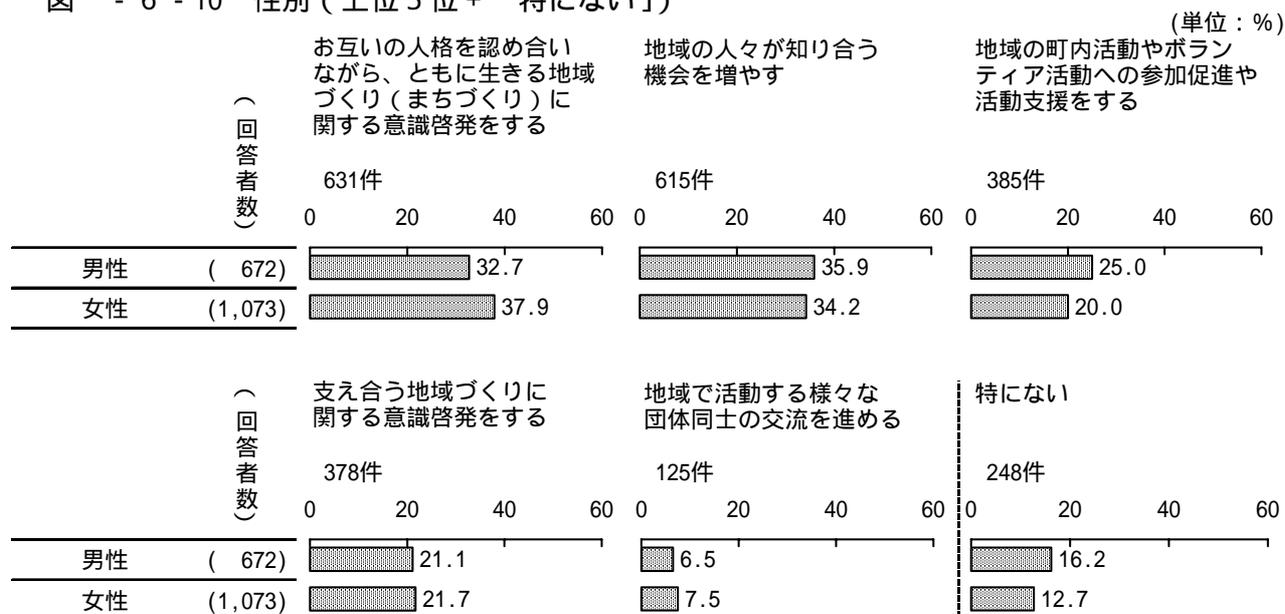
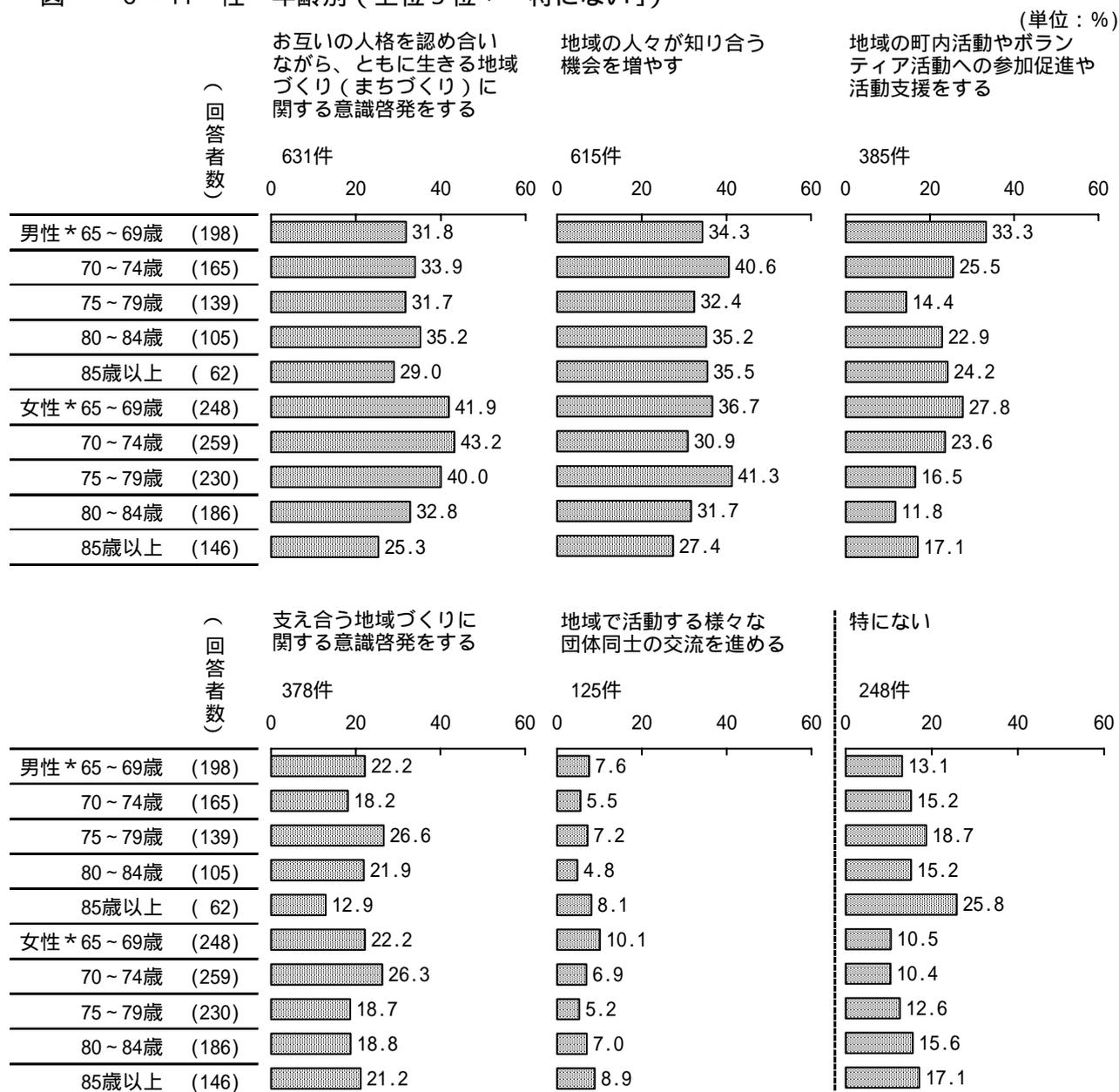


図 - 6 - 11 性・年齢別 (上位 5 位 + 「特にない」)



(4) 地域で困っている世帯のためにできること

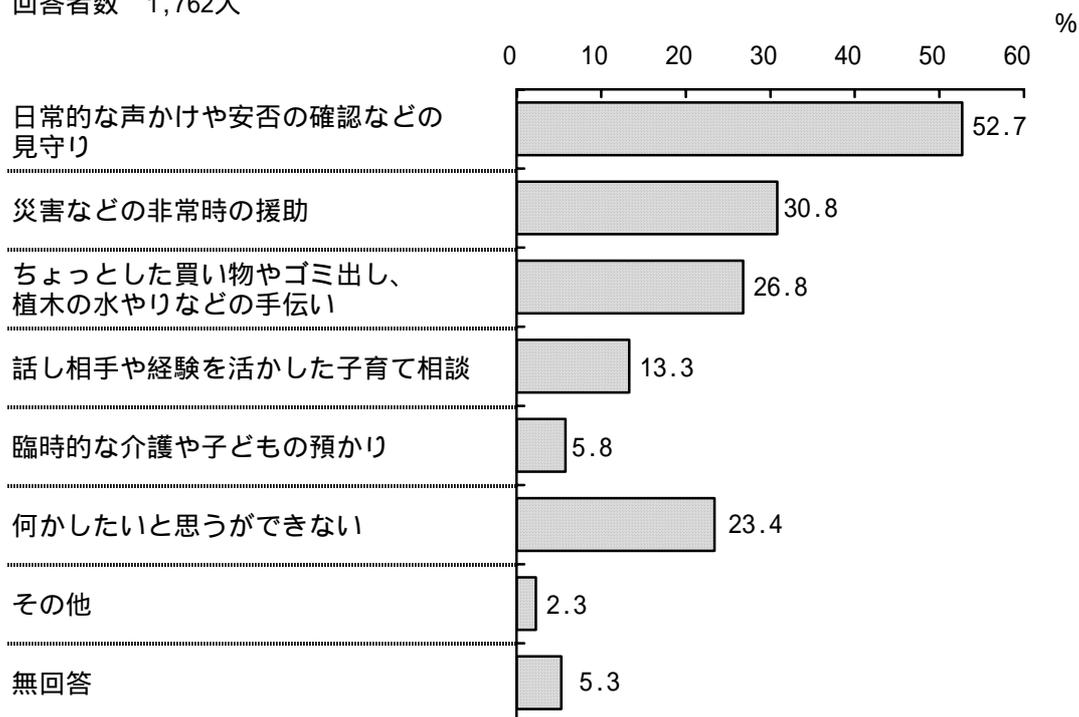
「日常的な声かけや安否の確認などの見守り」が5割強

(全員の方に)

問31 .仮に、地域で、高齢者や障害者、子どものことなどで困っている世帯があったとしたら、あなた(宛名の方ご本人)ができることは何ですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 6 - 12

回答者数 1,762人



地域で困っている世帯のためにできることとしては、「日常の声かけや安否の確認などの見守り」(52.7%)が最も多く、5割強となっている。以下、「災害などの非常時の援助」(30.8%)、「ちょっとした買い物やゴミ出し、植木の水やりなどの手伝い」(26.8%)、「話し相手や経験を活かした子育て相談」(13.3%)、「臨時的な介護や子どもの預かり」(5.8%)の順になっている。一方、「何かしたいと思うができない」と答えた人が23.4%となっている。(図 - 6 - 12)

性別では、「災害などの非常時の援助」(男性45.8%、女性21.6%)が男性で24.2ポイント高くなっている。(図 - 6 - 13)

年齢別では、具体的な項目は年齢の若い人ほど高くなる傾向が見られる。(図 - 6 - 14)

世帯構成別では、「災害などの非常時の援助」は高齢者夫婦だけの世帯の人で38.7%と高く、「話し相手や経験を活かした子育て相談」は高齢者と子どもと孫の3世代世帯の人で20.6%と高くなっている。(図 - 6 - 15)

図 - 6 - 13 性別（上位5位 + 「何かしたいと思うができない」）

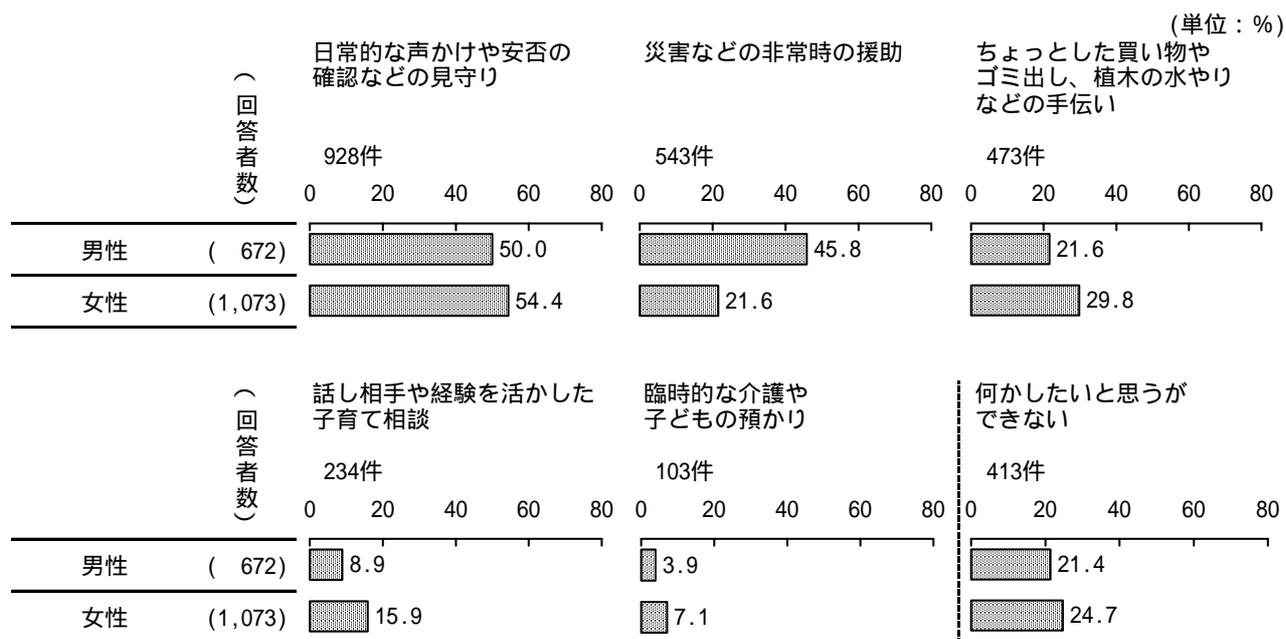


図 - 6 - 14 年齢別（上位5位 + 「何かしたいと思うができない」）

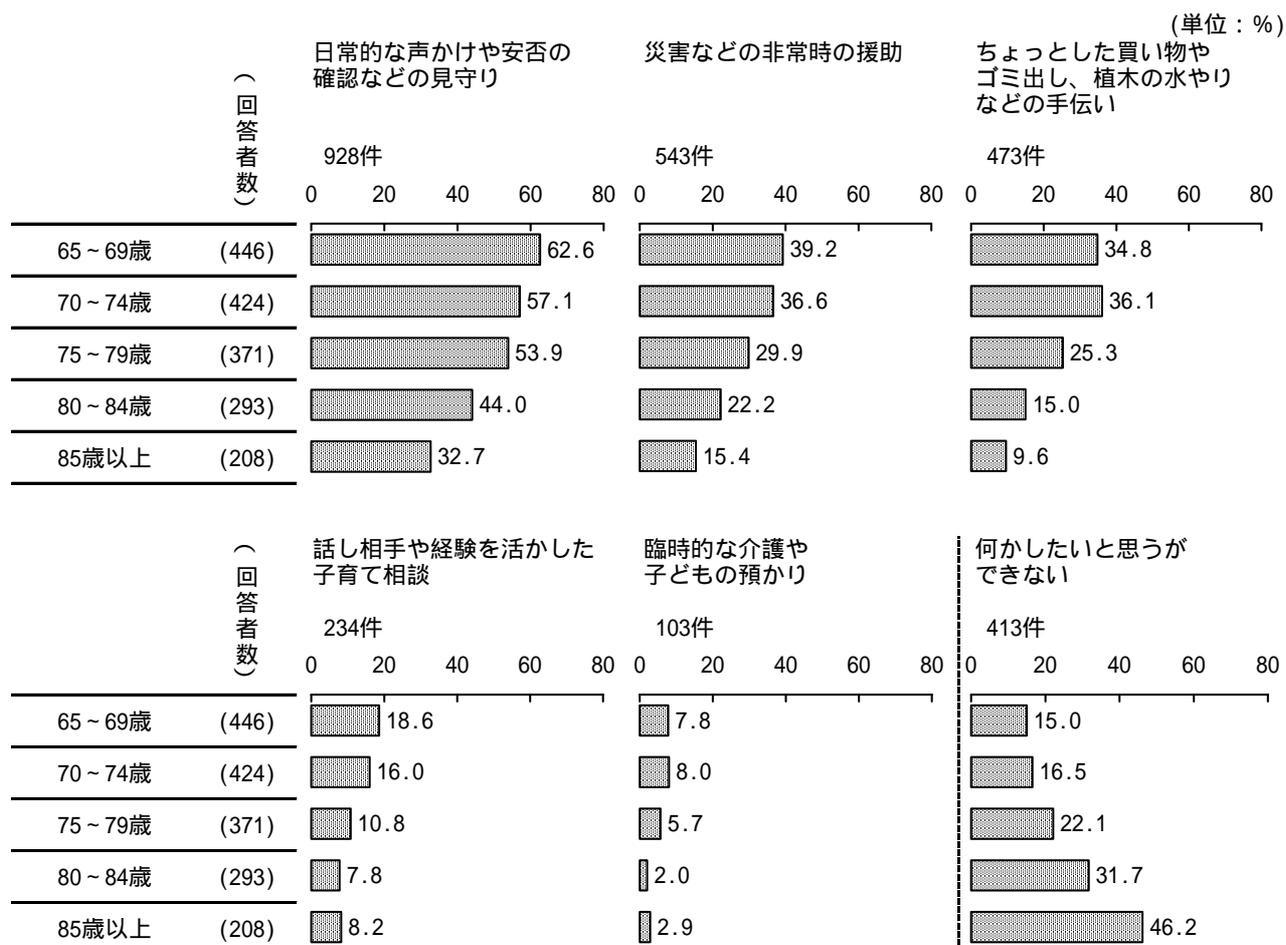


図 - 6 - 15 世帯構成別（上位5位 + 「何かしたいと思うができない」）

（単位：％）

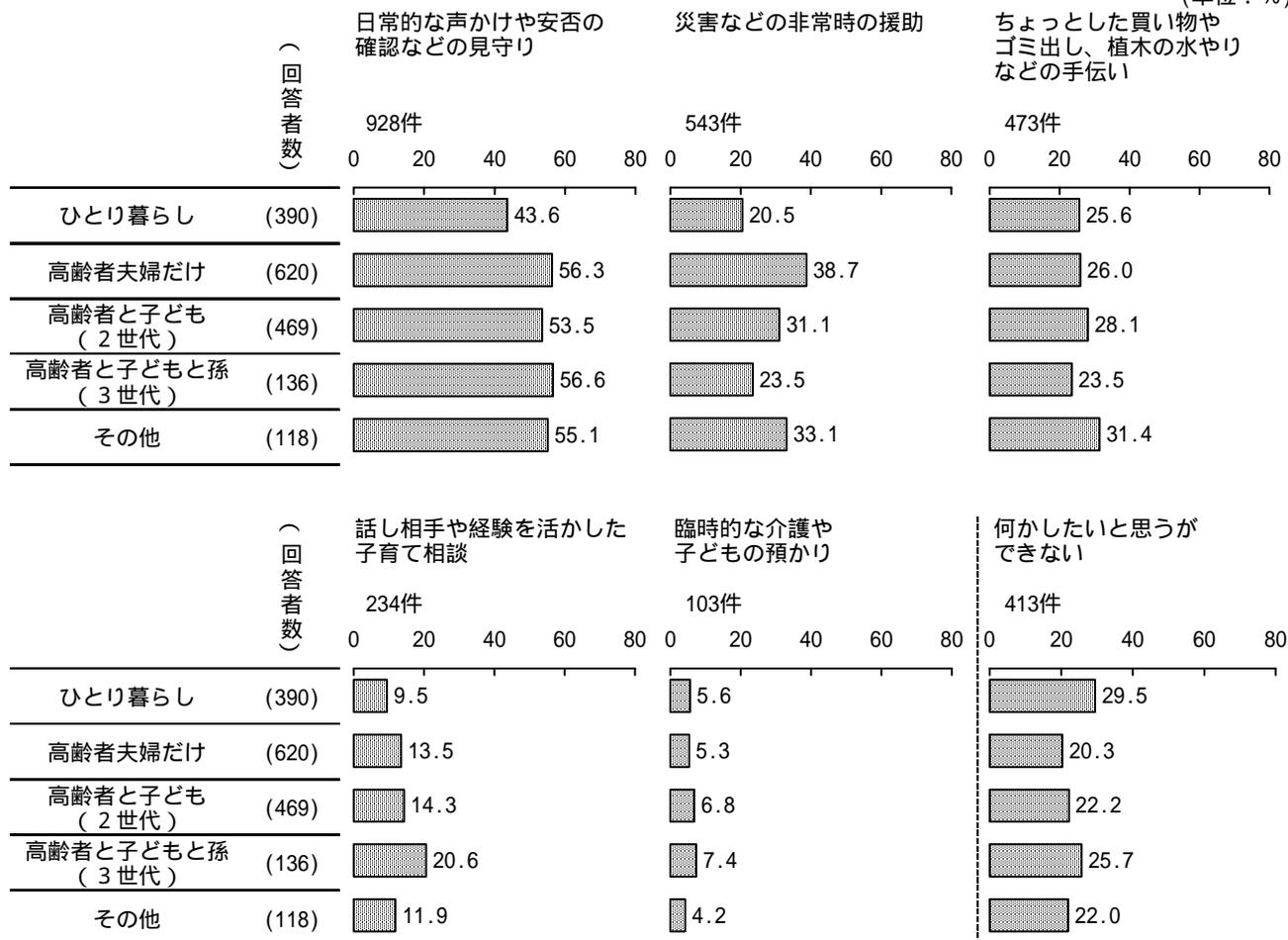
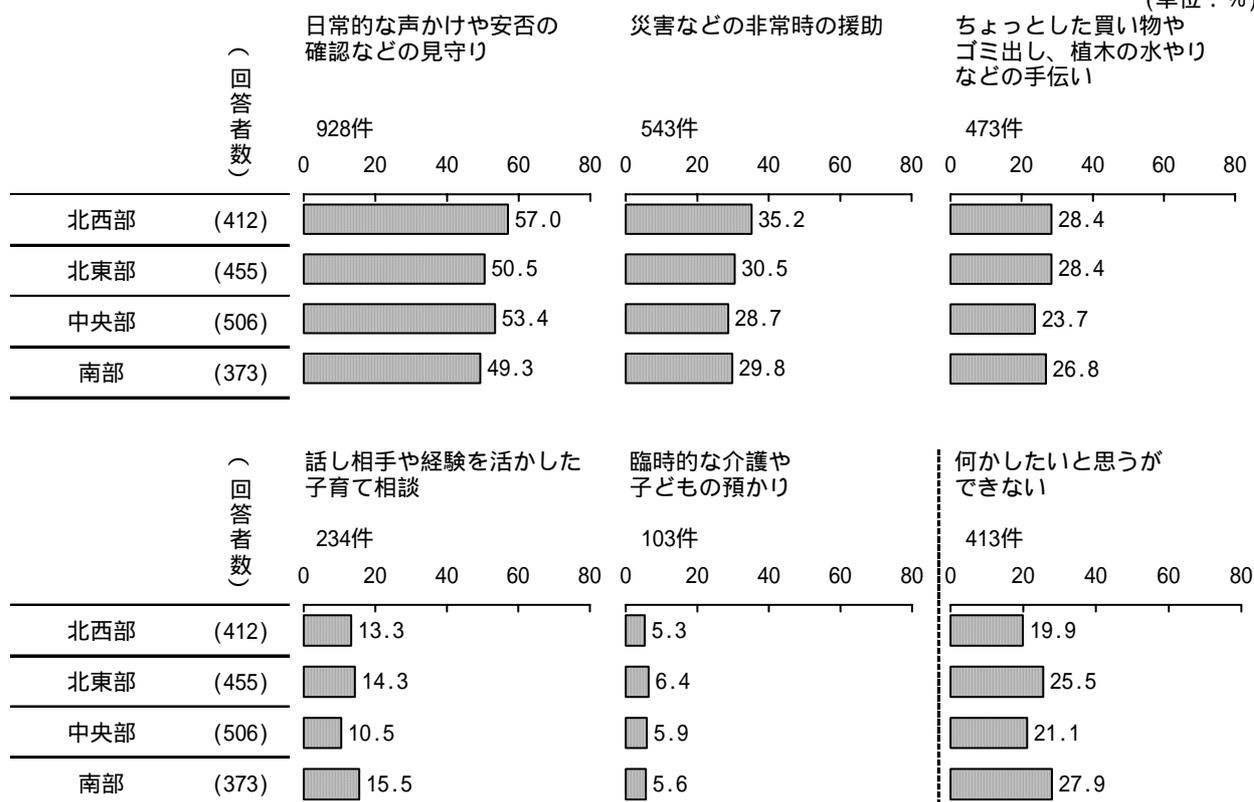


図 - 6 - 16 居住地域別（上位5位 + 「何かしたいと思うができない」）

（単位：％）



7. 保健福祉サービス等の利用意向について

(1) 自分や家族が虚弱状態になった場合、利用したいサービス

「家事の援助」と「食事の配達」が5割強

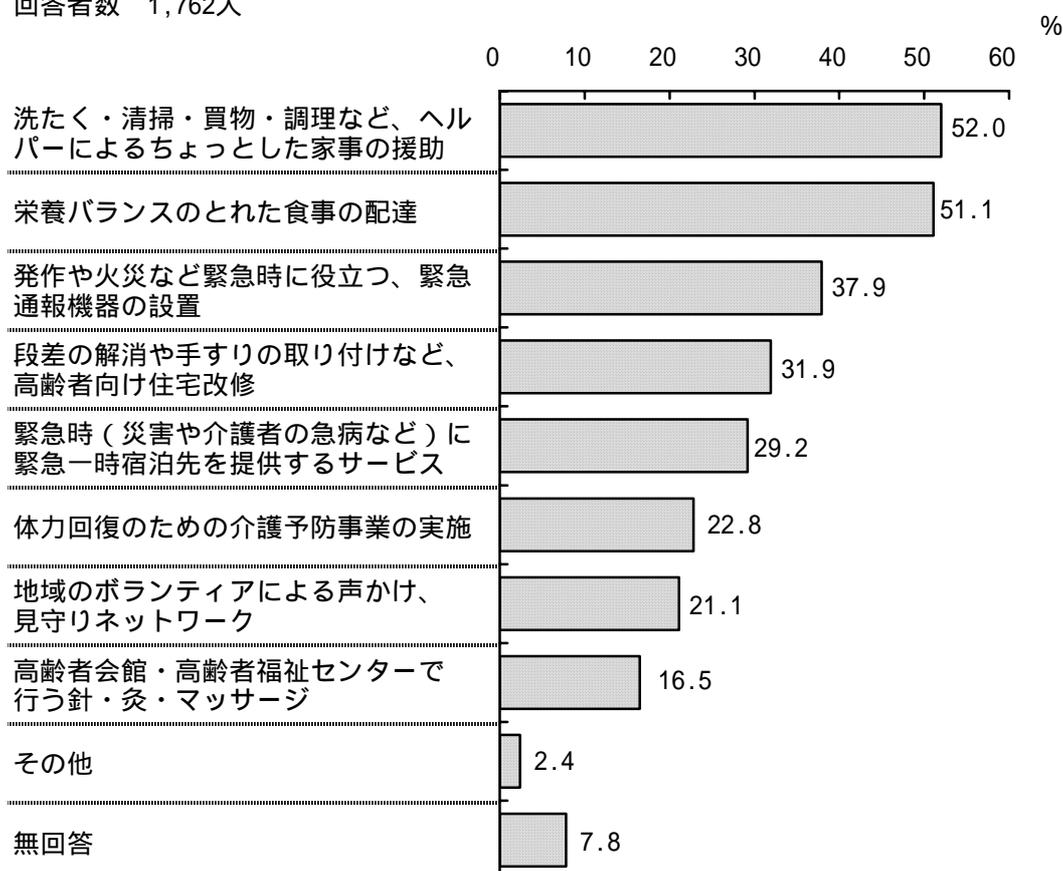
(全員の方に)

問32. 仮に、あなた(宛名の方ご本人)ご自身やご家族が、虚弱な状態(介護を必要としない程度)になった場合、利用したいと思うサービスは何ですか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 7 - 1

回答者数 1,762人



自分や家族が虚弱状態になった場合、利用したいサービスとしては、「洗たく・清掃・買物・調理など、ヘルパーによるちょっとした家事の援助」(52.0%)と「栄養バランスのとれた食事の配達」(51.1%)をあげた人がそれぞれ5割以上となっている。以下、「発作や火災など緊急時に役立つ、緊急通報機器の設置」(37.9%)、「段差の解消や手すりの取り付けなど、高齢者向け住宅改修」(31.9%)、「緊急時(災害や介護者の急病など)に緊急一時宿泊先を提供するサービス」(29.2%)が多くなっている。(図 - 7 - 1)

性別では、「緊急時に緊急一時宿泊先を提供するサービス」(男性 25.4%、女性 31.3%)が女性で高くなっている。(図 - 7 - 2)(表 - 7 - 1)

性・年齢別に見ると、上位4項目は男性では80~84歳で高くなっている。女性では「洗たく・清掃・買物・調理など、ヘルパーによるちょっとした家事の援助」は65~69歳、「栄養バランスのとれた食事の配達」は70~74歳で60%近くと高く、「段差の解消や手すりの取り付けなど、高齢者向け住宅改修」は65~69歳で高い。また、「体力回復のための介護予防事業の実施」は男性の65~74歳で30%と高くなっている。(表 - 7 - 1)

図 - 7 - 2 性別(上位3位)

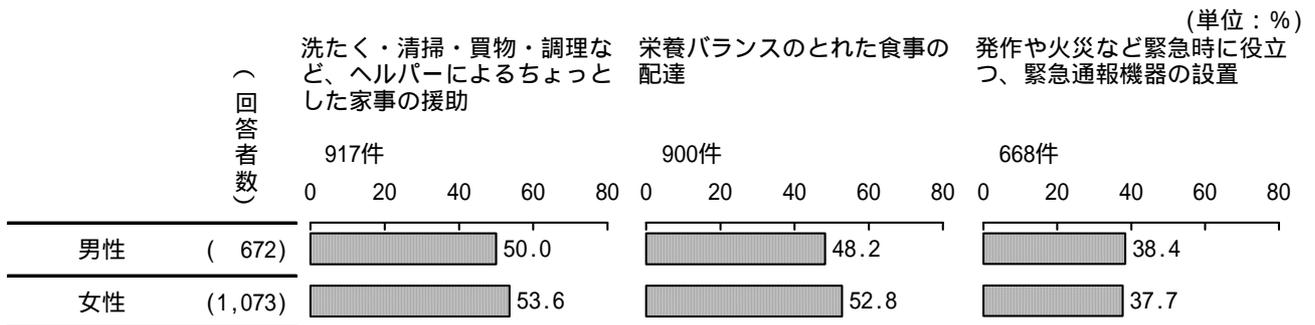


表 - 7 - 1 性別、性・年齢別

		回答者数	洗たく・清掃・買物・調理など、ヘルパーによるちょっとした家事の援助	栄養バランスのとれた食事の配達	発作や火災など緊急時に役立つ機器の設置	改修など、高年齢者向けの住宅	緊急時に緊急一時宿泊先を提供するサービス	体力回復のための介護予防事業の実施	地域のボランテニアによる声かけ、見守りネットワーク	センターで行う針灸・福祉サービス	高齢者会館・高齢者福祉センター	その他
性別	年齢別											
全体		1,762	52.0	51.1	37.9	31.9	29.2	22.8	21.1	16.5	2.4	
性別	男性	672	50.0	48.2	38.4	32.0	25.4	24.6	23.8	18.0	3.3	
	女性	1,073	53.6	52.8	37.7	31.7	31.3	21.5	19.4	15.3	1.9	
男性	65~69歳	198	52.5	49.5	36.4	29.3	24.7	29.3	26.3	20.2	2.5	
	70~74歳	165	43.6	43.6	40.6	28.5	27.3	29.7	24.2	15.8	2.4	
	75~79歳	139	51.1	46.0	36.7	34.5	23.0	18.0	18.7	14.4	4.3	
	80~84歳	105	58.1	58.1	43.8	40.0	26.7	16.2	22.9	22.9	2.9	
	85歳以上	62	40.3	45.2	35.5	29.0	24.2	24.2	27.4	17.7	6.5	
女性	65~69歳	248	58.5	50.8	39.1	37.5	34.3	25.8	23.4	14.5	1.6	
	70~74歳	259	53.3	58.7	41.3	32.8	32.8	22.0	23.9	12.4	1.5	
	75~79歳	230	55.2	55.7	37.8	31.7	33.0	17.0	17.4	17.0	0.9	
	80~84歳	186	47.3	48.9	33.9	24.7	24.7	21.5	11.3	16.1	2.7	
	85歳以上	146	51.4	47.3	34.2	29.5	29.5	21.2	18.5	17.8	3.4	

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 「成年後見制度」や支援サービスの利用意向

利用したいと答えた人は半数弱

(全員の方に)

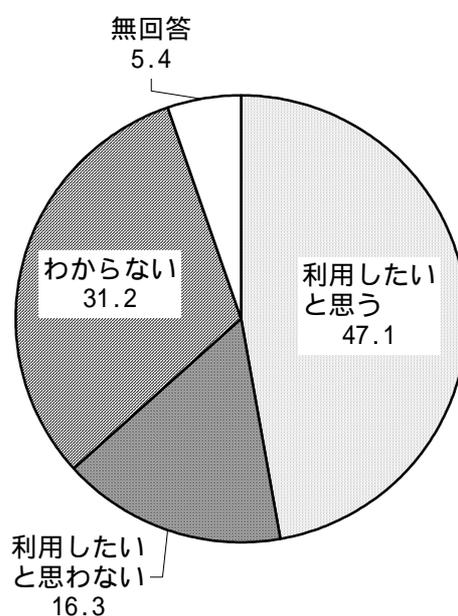
問 33 . 権利擁護センター(アシストなかの)では、認知症などの原因により自らの判断では契約手続きなどが難しくなった方に対する支援サービスや、権利や財産を保護する「成年後見制度」の利用相談などを行っています。仮に、あなた(宛名の方ご本人)やご家族が寝たきりや認知症になった場合、こうしたサービスや制度を利用したいと思いますか。

(は1つ)

図 - 7 - 3

回答者数 1,762人

単位 : %



自分や家族が寝たきりや認知症になった場合、支援サービスや、権利や財産を保護する「成年後見制度」を「利用したいと思う」と答えた人が 47.1%と半数近くを占める。一方、「利用したいと思わない」と答えた人は 16.3%、「わからない」と答えた人は 31.2%となっている。

(図 - 7 - 3)

性別では、「利用したいと思う」と答えた人が女性(40.9%)より男性(56.5%)で高くなっている。(図 - 7 - 4)

性・年齢別では、「利用したいと思う」と答えた人が男性の 65~74 歳、80~84 歳では 60% 近く、75~79 歳でも 50% 半ばと高くなっている。一方、「利用したいと思わない」と答えた人は女性の 65~69 歳で 20% 以上となっている。(図 - 7 - 5)

図 - 7 - 4 性別

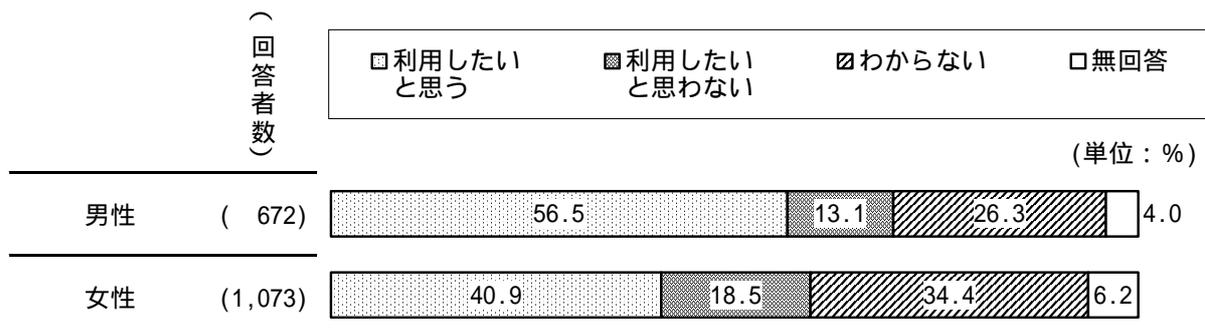
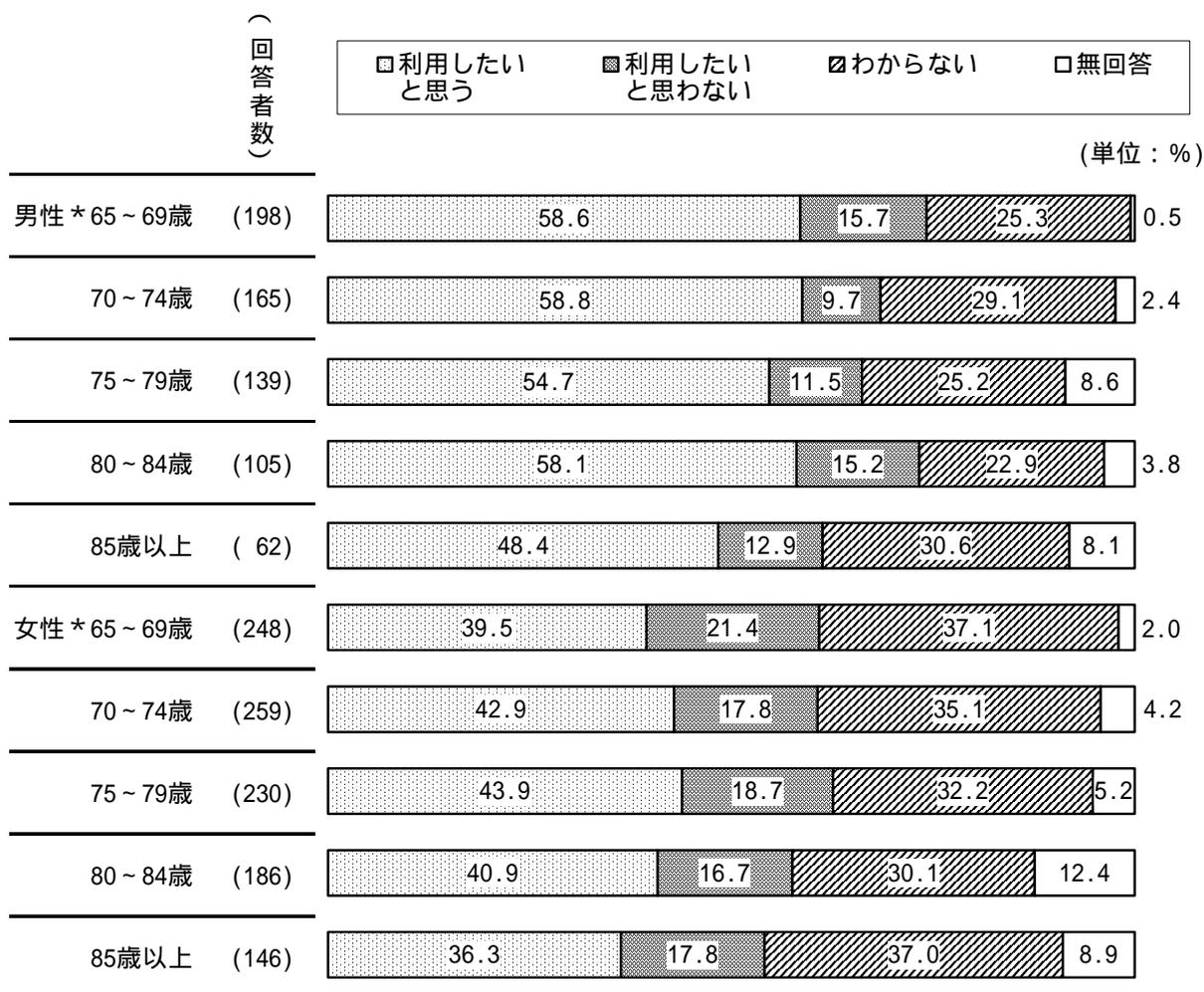


図 - 7 - 5 性・年齢別



(3) 福祉や介護サービスの情報源

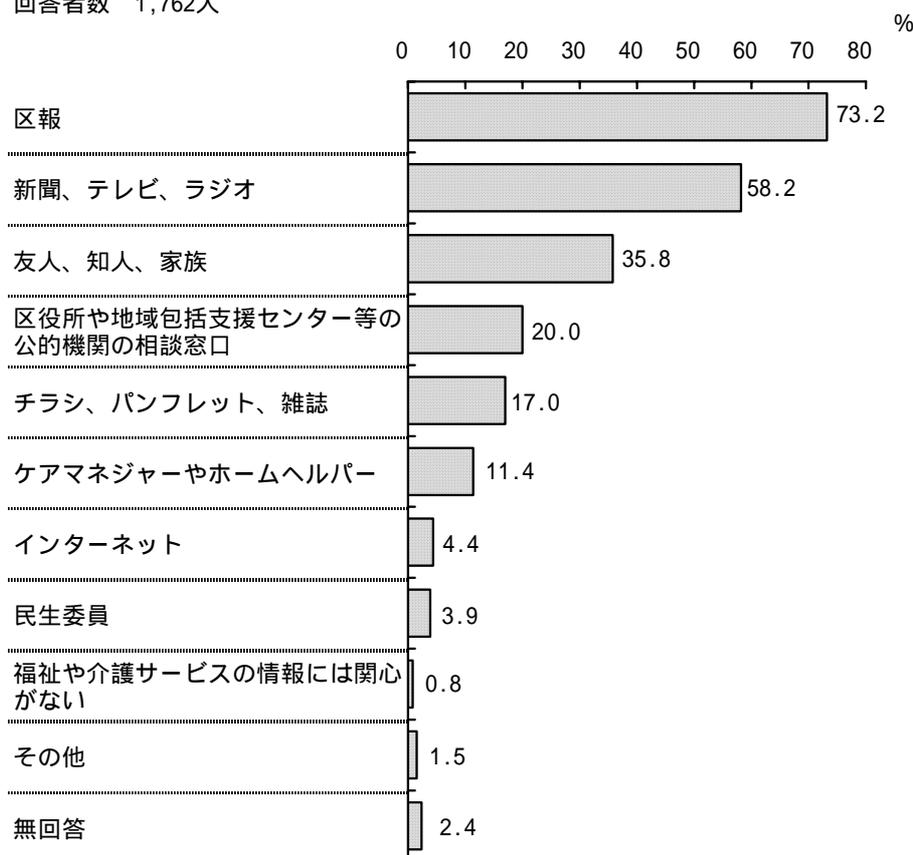
「区報」が7割強

(全員の方に)

問34. あなた(宛名の方ご本人)は福祉や介護サービスの情報をどこから得ることが多いですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 7 - 6

回答者数 1,762人



福祉や介護サービスの情報源としては、「区報」(73.2%)が最も多く、7割強となっている。次いで、「新聞、テレビ、ラジオ」(58.2%)が半数以上となっている、以下、「友人、知人、家族」(35.8%)、「区役所や地域包括支援センター等の公的機関の相談窓口」(20.0%)、「チラシ、パンフレット、雑誌」(17.0%)、「ケアマネジャーやホームヘルパー」(11.4%)が主な情報源としてあげられている。(図 - 7 - 6)

性別では、「友人、知人、家族」(男性 28.7%、女性 40.4%)は女性のほうが高い(図 - 7 - 7)

性・年齢別では、「区報」は男性の80~84歳、女性の75~79歳で80%以上となっている。「友人、知人、家族」は女性の70~74歳で45.6%と高い。また、「区役所や地域包括支援センター等の公的機関の相談窓口」と「ケアマネジャーやホームヘルパー」は男女とも85歳以上で高くなっている。(図 - 7 - 8)

図 - 7 - 7 性別（上位 6 位）

（単位：％）

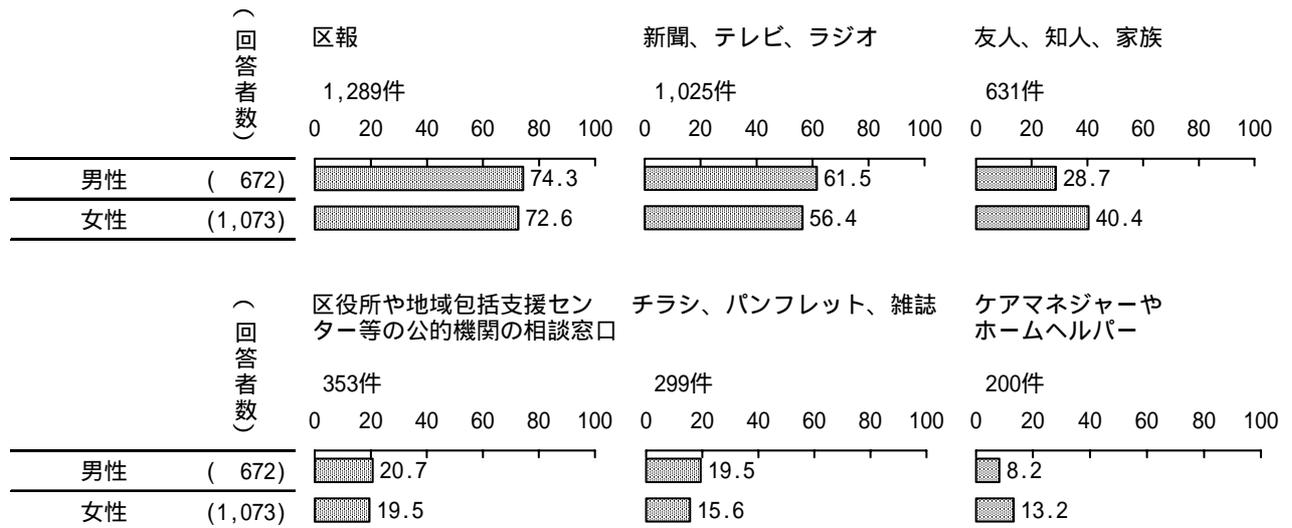
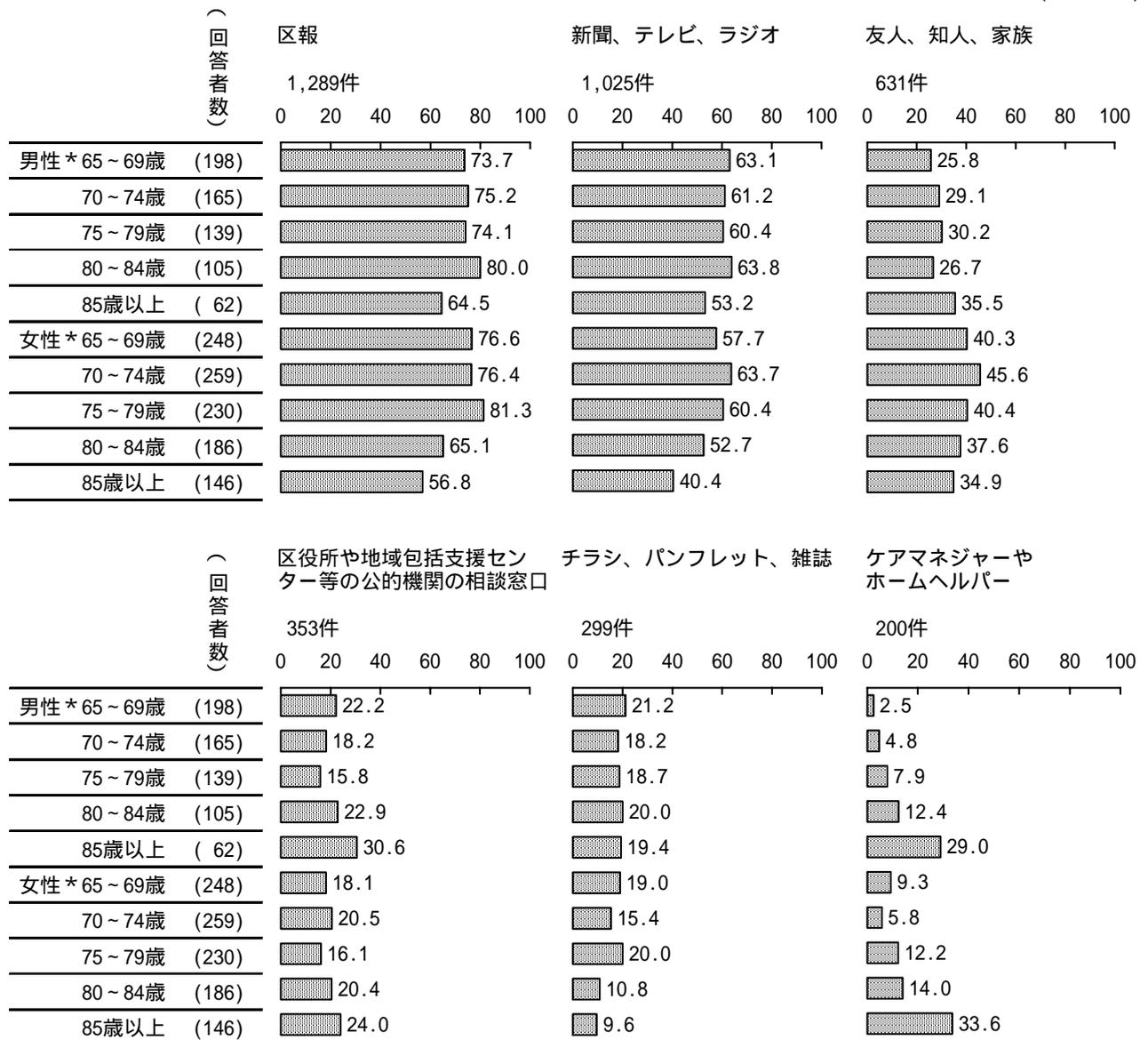


図 - 7 - 8 性・年齢別（上位 6 位）

（単位：％）



8 . 介護保険制度について

(1) 介護保険のサービスと保険料について

4人に1人は「今くらいが妥当」

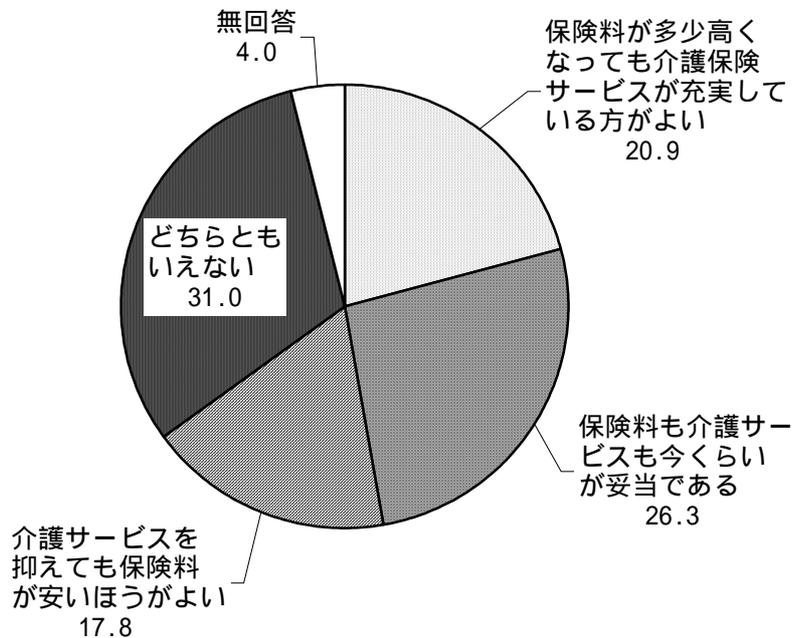
(全員の方に)

問 35 . 介護保険のサービスと保険料について、あなた (宛名の方ご本人) の考えに最も近いものは次のうちのどれですか。(1 は 1 つ)

図 - 8 - 1

回答者数 1,762人

単位 : %



介護保険のサービスと保険料については、「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」と答えた人が 20.9%、「保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」と答えた人が 26.3%、「介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい」と答えた人が 17.8%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人が 31.0%と最も多くなっている。(図 - 8 - 1)

性別に見ると、男性では「保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」と答えた人が 31.5%で最も高く、女性 (23.0%) より高くなっている。女性では「どちらともいえない」と答えた人が 33.7%で最も高く、男性 (26.9%) より高くなっている。(図 - 8 - 2)

年齢別では、「保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい」と答えた人は85歳以上で27.9%と高く、「介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい」と答えた人は65～79歳で20%前後と高くなっている。(図 - 8 - 3)

図 - 8 - 2 性別

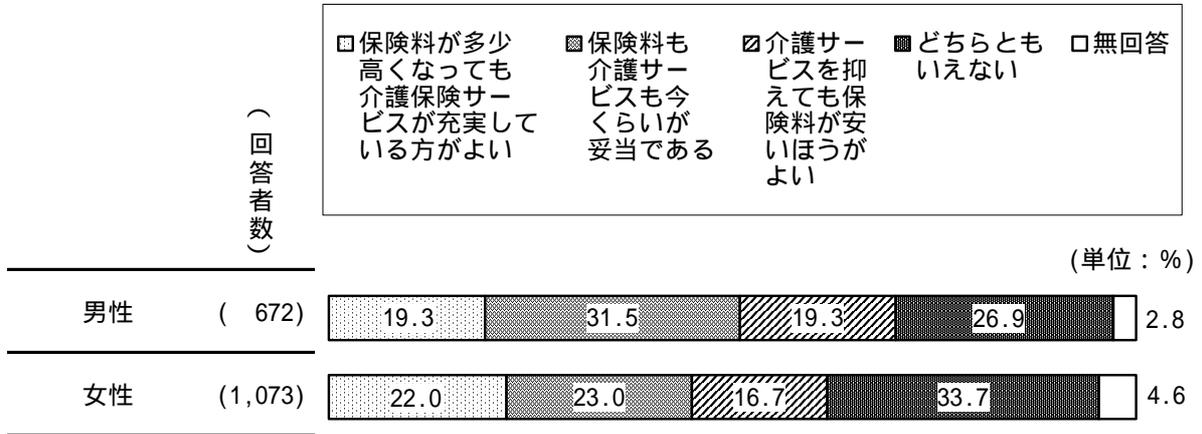
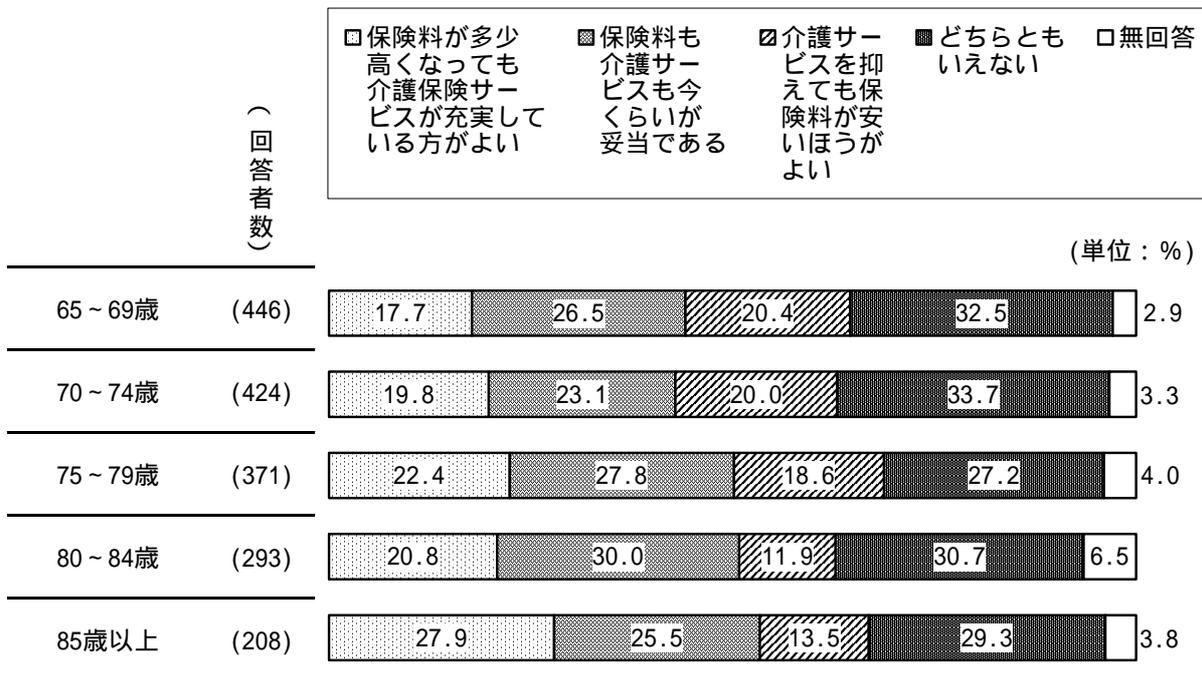


図 - 8 - 3 年齢別



(2) 介護を受けたい場所

「可能な限り自宅で介護を受けたい」が4割強

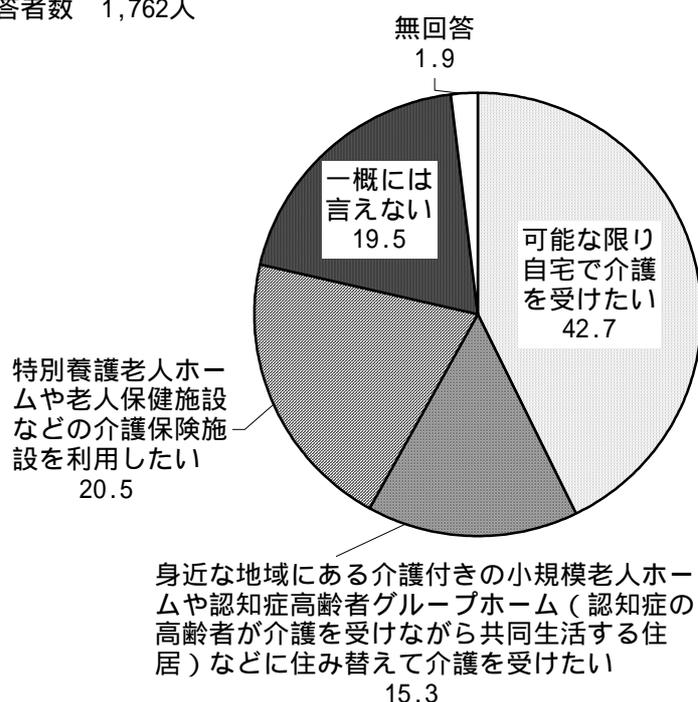
(全員の方に)

問36. 仮に、あなた(宛名の方ご本人)が寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合に、どこで介護を受けたいと思いますか。(は1つ)

図 - 8 - 4

回答者数 1,762人

単位：%



自分が寝たきりや認知症になり介護が必要となった場合に、介護を受けたい場所としては、「可能な限り自宅で介護を受けたい」と答えた人が最も多く 42.7%、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設を利用したい」と答えた人が 20.5%、「身近な地域にある介護付きの小規模老人ホームや認知症高齢者グループホーム(認知症の高齢者が介護を受けながら共同生活する住居)などに住み替えて介護を受けたい」と答えた人が 15.3%となっている。(図 - 8 - 4)

性別では、「可能な限り自宅で介護を受けたい」と答えた人が女性(38.2%)より男性(49.9%)で高くなっている。「身近な地域にある介護付きの小規模老人ホームや認知症高齢者グループホームなどに住み替えて介護を受けたい」と答えた人が男性(11.6%)より女性(17.4%)で高くなっている。(図 - 8 - 5)

年齢別では、「可能な限り自宅で介護を受けたい」と答えた人は、年齢が高いほど高くなる

傾向が見られ、64～74歳では30%台、75～84歳では40%台、85歳以上では50%以上となっている。一方、「身近な地域にある介護付きの小規模老人ホームや認知症高齢者グループホームなどに住み替えて介護を受けたい」と答えた人は年齢の若い人で高くなっている。(図 - 8 - 6)

世帯構成別では、「可能な限り自宅で介護を受けたい」と答えた人は、ひとり暮らしの世帯で34.6%と低くなっている。(図 - 8 - 7)

住居形態別では、「可能な限り自宅で介護を受けたい」と答えた人は、持ち家(一戸建て)の人で48.3%と高くなっている。「身近な地域にある介護付きの小規模老人ホームや認知症高齢者グループホームなどに住み替えて介護を受けたい」と答えた人は持ち家(マンションなどの集合住宅)と民間賃貸住宅で、「特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設を利用したい」と答えた人は持ち家(一戸建て)以外で20%以上となっている。(図 - 8 - 8)

図 - 8 - 5 性別

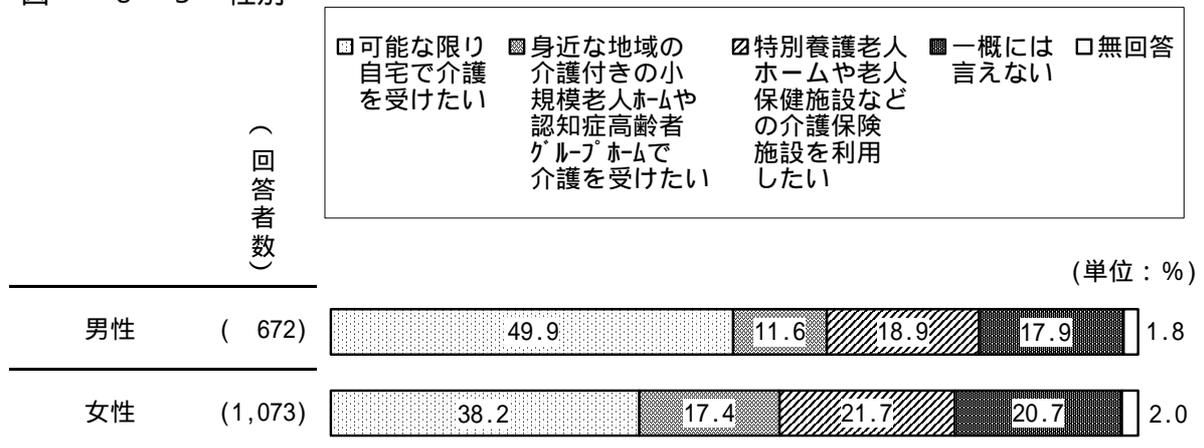


図 - 8 - 6 年齢別

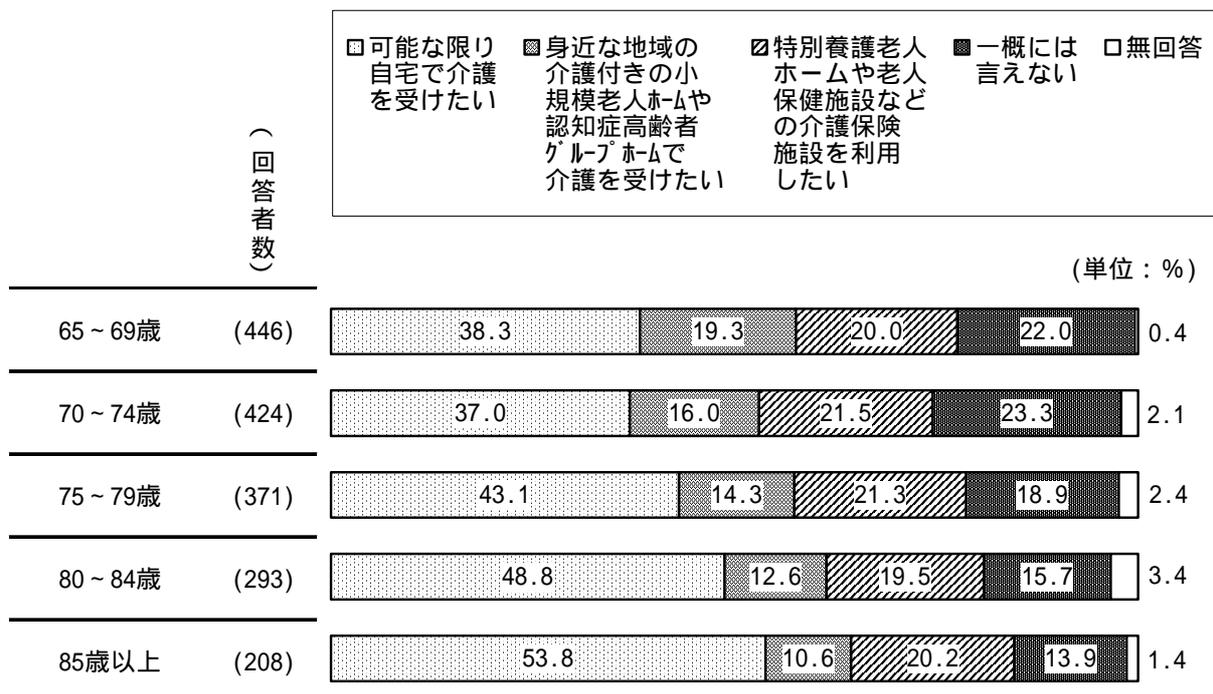


図 - 8 - 7 世帯構成別

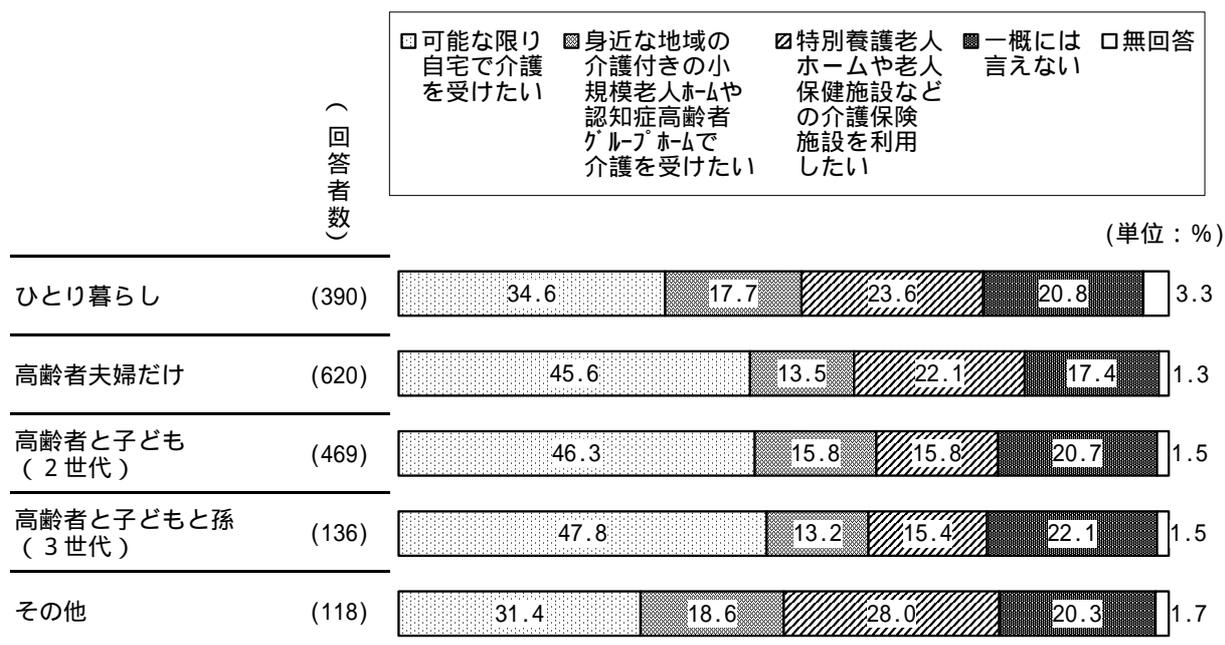
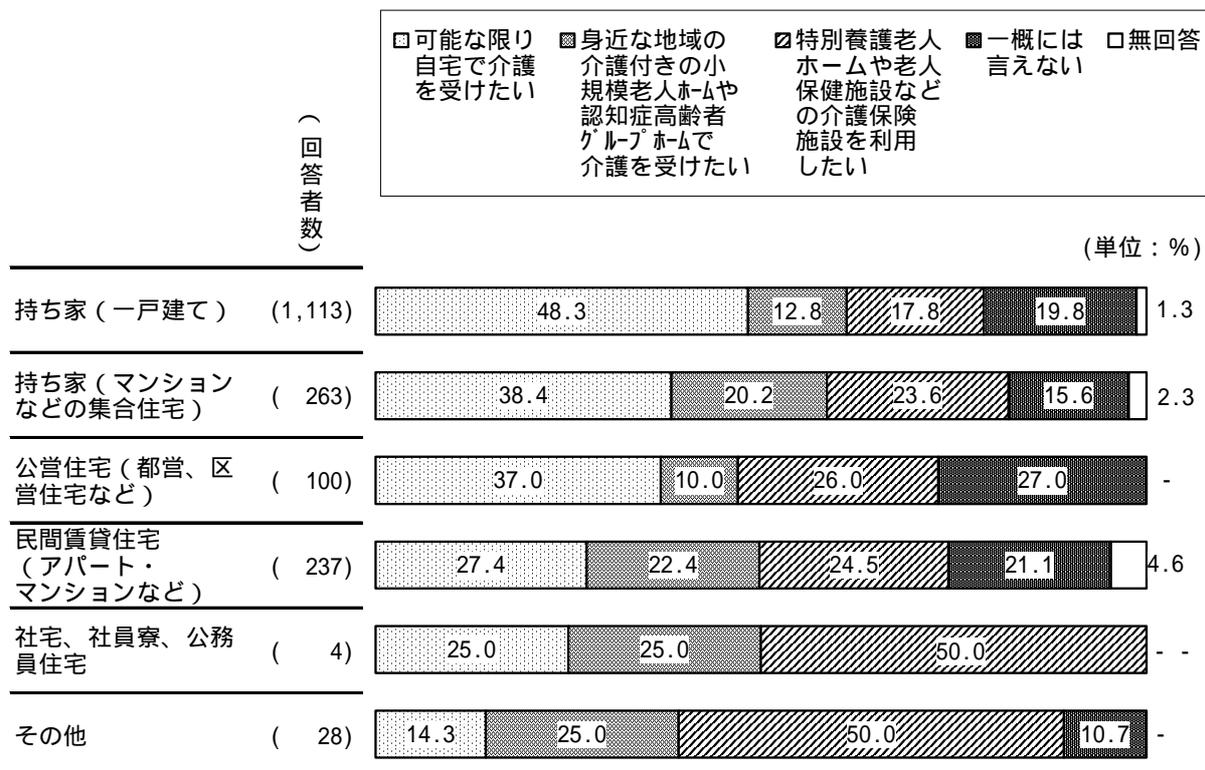


図 - 8 - 8 住居形態別



(3) 自宅で介護を受けたい理由

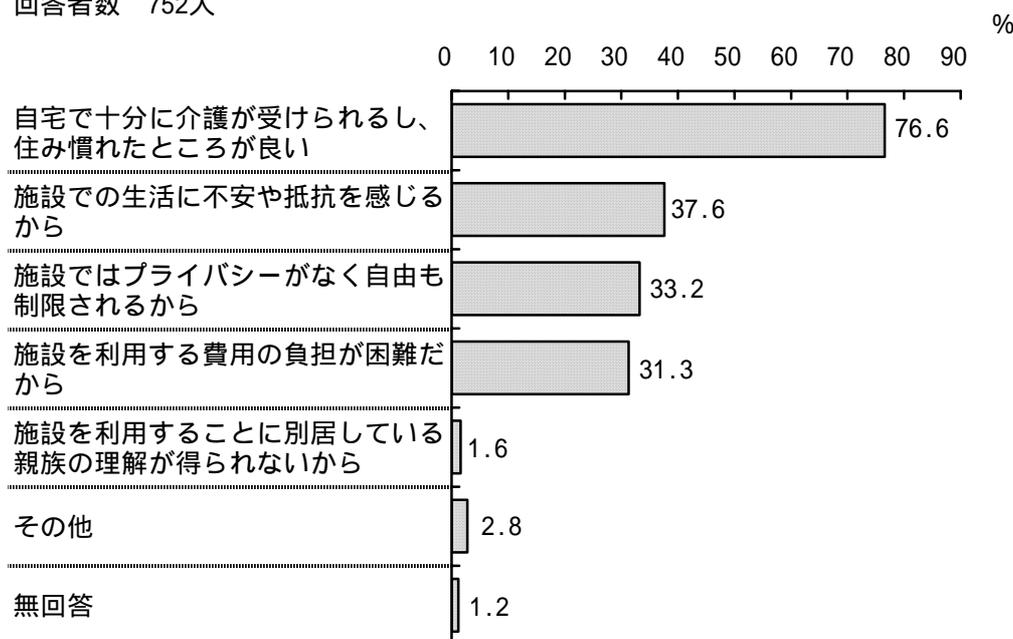
「自宅で十分に介護が受けられるし、住み慣れたところが良い」が7割半

(問 36 で「 1 . 可能な限り自宅で介護を受けたい」と答えた方に)

問 37 . それはなぜですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 8 - 9

回答者数 752人



自宅での介護を希望する人にその理由をたずねたところ、「自宅で十分に介護が受けられるし、住み慣れたところが良い」(76.6%)が最も多く、4人に3人が答えている。以下、「施設での生活に不安や抵抗を感じるから」(37.6%)、「施設ではプライバシーがなく自由も制限されるから」(33.2%)、「施設を利用する費用の負担が困難だから」(31.3%)が3割以上であげられ、「施設を利用することに別居している親族の理解が得られないから」(1.6%)と答えた人は少ない。(図 - 8 - 9)

性別では、「自宅で十分に介護が受けられるし、住み慣れたところが良い」(男性80.9%、女性73.2%)は男性で高く、「施設での生活に不安や抵抗を感じるから」(男性31.9%、女性42.2%)は女性で高くなっている。(図 - 8 - 10)(表 - 8 - 1)

年齢別では、「自宅で十分に介護が受けられるし、住み慣れたところが良い」は75~79歳で84.4%と高く、「施設での生活に不安や抵抗を感じるから」は70~74歳で43.9%と高い。「施設ではプライバシーがなく自由も制限されるから」、「施設を利用する費用の負担が困難だから」は65~74歳で40%弱と高くなっている。(表 - 8 - 1)

世帯構成別では、「自宅で十分に介護が受けられるし、住み慣れたところが良い」は高齢者夫婦だけの世帯で 82.0%と高い。「施設での生活に不安や抵抗を感じるから」は高齢者と子どもと孫の3世代世帯の人で 47.7%と高くなっている。(表 - 8 - 1)

図 - 8 - 10 性別(上位3位)

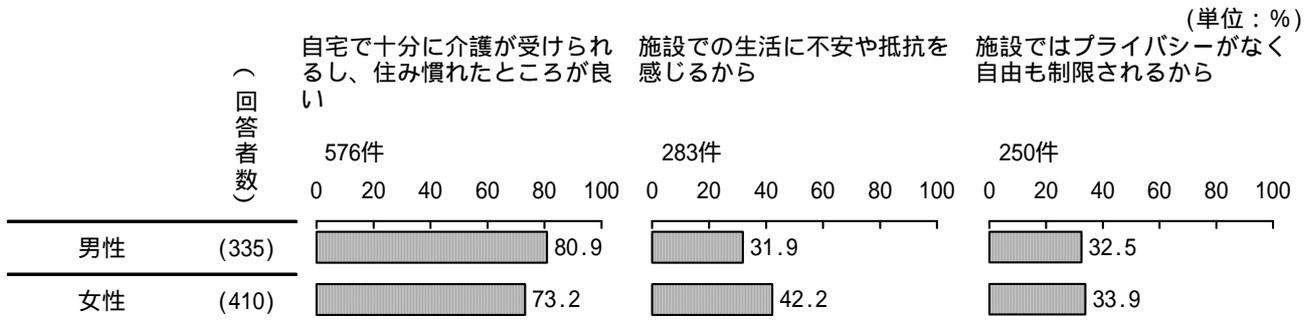


表 - 8 - 1 性別、年齢別、世帯構成別

単位: %

		回答者数	自宅で十分に介護が受けられるし、住み慣れたところが良い	施設での生活に不安や抵抗を感じるから	施設ではプライバシーがなく自由も制限されるから	施設で生活するに費用がかかる	施設で生活するに利用しにくい
全体		752	76.6	37.6	33.2	31.3	1.6
性別	男性	335	80.9	31.9	32.5	31.0	1.8
	女性	410	73.2	42.2	33.9	31.2	1.5
年齢別	65～69歳	171	71.9	34.5	37.4	38.6	-
	70～74歳	157	72.0	43.9	39.5	37.6	3.2
	75～79歳	160	84.4	39.4	30.6	25.6	0.6
	80～84歳	143	75.5	35.7	29.4	27.3	0.7
	85歳以上	112	80.4	32.1	26.8	24.1	4.5
世帯構成別	ひとり暮らし	135	74.1	38.5	32.6	28.9	2.2
	高齢者夫婦だけ	283	82.0	37.8	33.2	31.4	1.8
	高齢者と子ども(2世代)	217	70.5	35.9	33.6	33.6	0.9
	高齢者と子どもと孫(3世代)	65	80.0	47.7	29.2	24.6	1.5
	その他	37	81.1	27.0	40.5	35.1	-

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(4) 地域の小規模老人ホームやグループホームで介護を受けたい理由

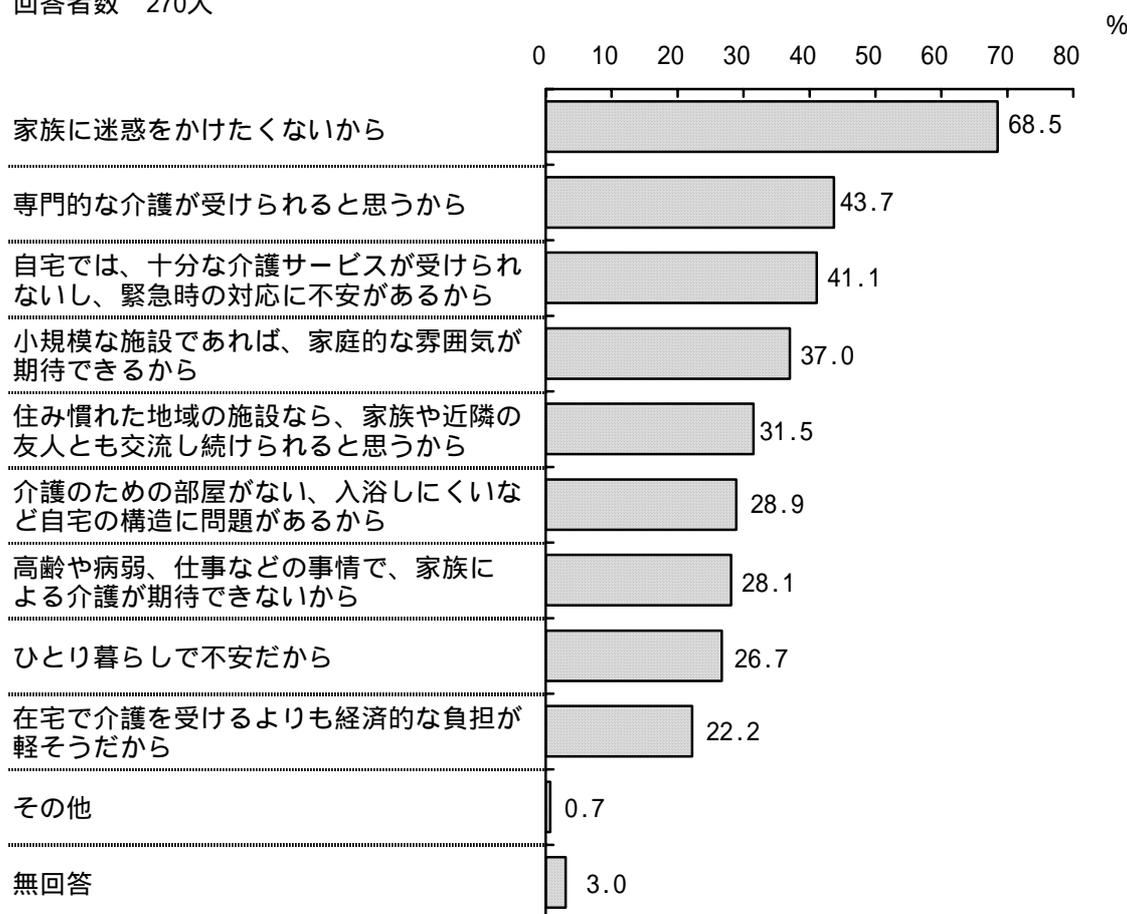
「家族に迷惑をかけたくないから」が7割弱

(問36で「2. 身近な地域にある介護付きの小規模老人ホームや認知症高齢者グループホーム(認知症の高齢者が介護を受けながら共同生活する住居)などに住み替えて介護を受けたい」と答えた方に)

問38. それはなぜですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 8 - 11

回答者数 270人



地域の小規模老人ホームやグループホームでの介護を希望する人にその理由をたずねたところ、「家族に迷惑をかけたくないから」(68.5%)が最も多く、7割近くとなっている。以下、「専門的な介護が受けられると思うから」(43.7%)、「自宅では、十分な介護サービスが受けられないし、緊急時の対応に不安があるから」(41.1%)、「小規模な施設であれば、家庭的な雰囲気が期待できるから」(37.0%)、「住み慣れた地域の施設なら、家族や近隣の友人とも交流し続けられると思うから」(31.5%)、「介護のための部屋がない、入浴しにくいなど自宅の構造に問題があるから」(28.9%)、「高齢や病弱、仕事などの事情で、家族による介護が期待できないから」(28.1%)、「ひとり暮らしで不安だから」(26.7%)、「在宅で介護を受けるよりも経済的な負担が軽そうだから」(22.2%)の順になっている。(図 - 8 - 11)

性別では、「家族に迷惑をかけたくないから」(男性 62.8%、女性 71.7%)は女性で高くなっている。一方、「専門的な介護が受けられると思うから」(男性 48.7%、女性 42.2%)は男性で高くなっている。(図 - 8 - 12)(表 - 8 - 2)

年齢別では、「家族に迷惑をかけたくないから」は75～79歳で73.6%と高い。「専門的な介護が受けられると思うから」、「自宅では、十分な介護サービスが受けられないし、緊急時の対応に不安があるから」は70～74歳と85歳以上で50%以上と高い。(表 - 8 - 2)

世帯構成別では、上位5項目と「高齢や病弱、仕事などの事情で、家族による介護が期待できないから」は高齢者と子どもの2世帯の人で高くなっている。また、ひとり暮らしの人では「ひとり暮らしで不安だから」が60.9%と最も高くなっている。(表 - 8 - 2)

図 - 8 - 12 性別 (上位3位)

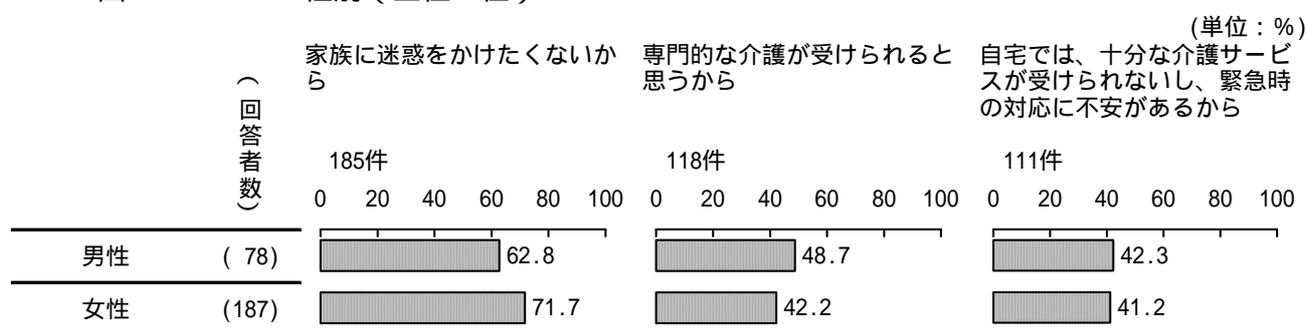


表 - 8 - 2 性別、年齢別、世帯構成別

		回答者数	単位: %									
			家族に迷惑をかけたくないから	専門的な介護が受けられると思うから	自宅では、十分な介護サービスが受けられないし、緊急時の対応に不安があるから	小規模な施設で、家族から	近隣の地域の人と交流し、	住み慣れた地域の施設で、	問題があるから	介護のために部屋がない、	高齢や病弱による介護の	ひとり暮らしで不安だから
全体		270	68.5	43.7	41.1	37.0	31.5	28.9	28.1	26.7	22.2	
性別	男性	78	62.8	48.7	42.3	34.6	26.9	39.7	30.8	17.9	29.5	
	女性	187	71.7	42.2	41.2	38.5	34.2	25.1	27.8	30.5	18.7	
年齢別	65～69歳	86	68.6	41.9	34.9	33.7	37.2	23.3	27.9	22.1	16.3	
	70～74歳	68	67.6	55.9	50.0	42.6	25.0	39.7	25.0	27.9	26.5	
	75～79歳	53	73.6	35.8	37.7	32.1	35.8	22.6	28.3	28.3	26.4	
	80～84歳	37	67.6	32.4	40.5	43.2	32.4	32.4	27.0	29.7	21.6	
	85歳以上	22	63.6	54.5	50.0	36.4	22.7	31.8	45.5	31.8	22.7	
世帯構成別	ひとり暮らし	69	39.1	30.4	40.6	31.9	21.7	23.2	17.4	60.9	13.0	
	高齢者夫婦だけ	84	76.2	40.5	41.7	32.1	27.4	34.5	35.7	14.3	28.6	
	高齢者と子ども(2世代)	74	82.4	58.1	47.3	50.0	41.9	29.7	36.5	13.5	23.0	
	高齢者と子どもと孫(3世代)	18	83.3	50.0	38.9	44.4	33.3	33.3	16.7	11.1	22.2	
	その他	22	72.7	45.5	22.7	22.7	45.5	22.7	18.2	22.7	22.7	

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(5) 特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設で
介護を受けたい理由

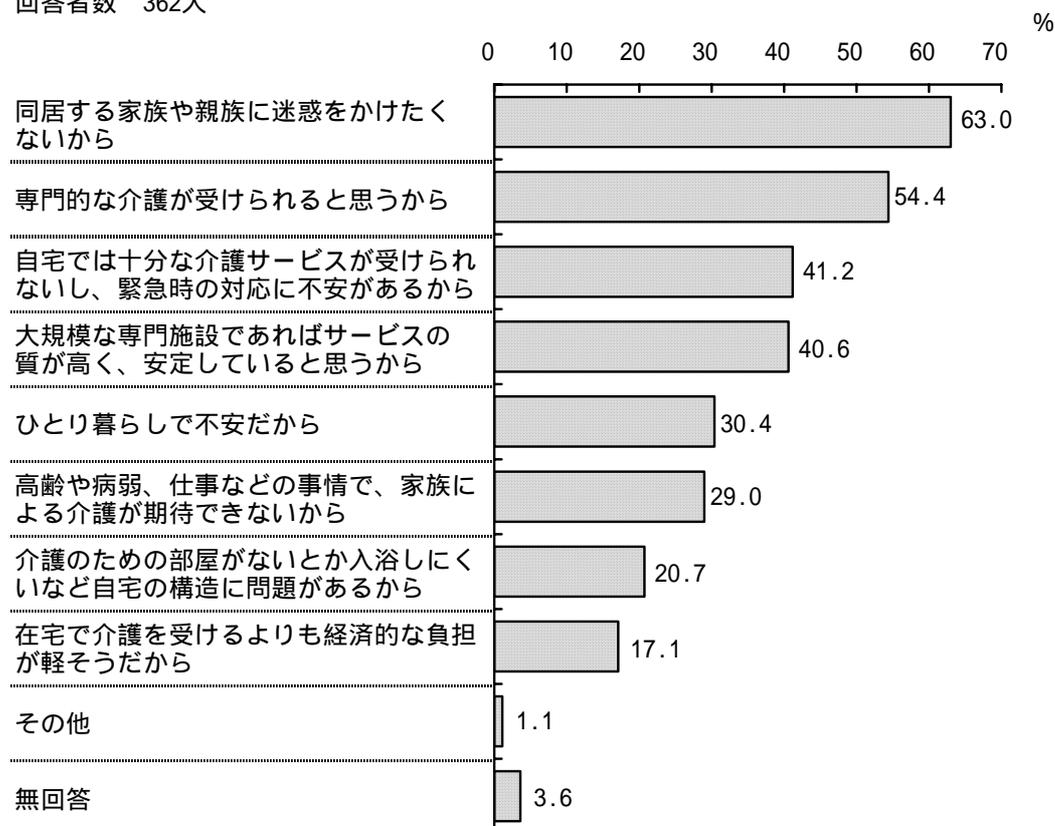
「同居する家族や親族に迷惑をかけたくないから」が6割強

(問 36 で「 3 . 特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設を利用したい」と答
えた方に)

問 39 . それはなぜですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 8 - 13

回答者数 362人



特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設を希望している人にその理由をたずねたところ、「同居する家族や親族に迷惑をかけたくないから」(63.0%)が最も多く、次いで、「専門的な介護が受けられると思うから」(54.4%)があげられている。以下、「自宅では十分な介護サービスが受けられないし、緊急時の対応に不安があるから」(41.2%)、「大規模な専門施設であればサービスの質が高く、安定していると思うから」(40.6%)、「ひとり暮らしで不安だから」(30.4%)、「高齢や病弱、仕事などの事情で、家族による介護が期待できないから」(29.0%)、「介護のための部屋がないとか入浴しにくいなど自宅の構造に問題があるから」(20.7%)、「在宅で介護を受けるよりも経済的な負担が軽そうだから」(17.1%)の順になっている。(図 - 8 - 13)

性別では、「専門的な介護が受けられると思うから」(男性 57.5%、女性 53.2%)、「自宅では十分な介護サービスが受けられないし、緊急時の対応に不安があるから」(男性 44.1%、女

性 39.9%)、「大規模な専門施設であればサービスの質が高く、安定していると思うから」(男性 44.1%、女性 39.1%)は男性で高くなっている。(図 - 8 - 14)(表 - 8 - 3)

年齢別では、「同居する家族や親族に迷惑をかけたくないから」は 65~69 歳と 85 歳以上で 70%強と高くなっている。「専門的な介護が受けられると思うから」は 75~84 歳で 60%前後、「大規模な専門施設であればサービスの質が高く、安定していると思うから」は同じく 75~84 歳で 45%前後と高い。「自宅では、十分な介護サービスが受けられないし、緊急時の対応に不安があるから」と「高齢や病弱、仕事などの事情で、家族による介護が期待できないから」は 80~84 歳、「ひとり暮らしで不安だから」と「介護のための部屋がないとか入浴しにくいなど自宅の構造に問題があるから」は 85 歳以上で高い。(表 - 8 - 3)

世帯構成別では、ひとり暮らしの人では「ひとり暮らしで不安だから」が 72.8%と最も高くなっている。また、「大規模な専門施設であればサービスの質が高く、安定していると思うから」はひとり暮らしの人と高齢者夫婦だけの人で 45%前後と高くなっている。(表 - 8 - 3)

図 - 8 - 14 性別 (上位 3 位)

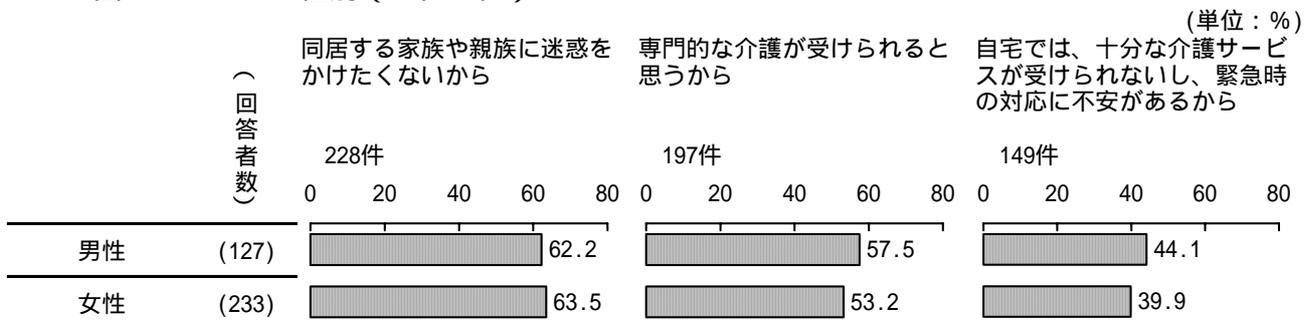


表 - 8 - 3 性別、年齢別、世帯構成別

		回答者数	同居する家族や親族に迷惑をかけたくないから	専門的な介護が受けられると思うから	自宅では、十分な介護サービスが受けられないし、緊急時の対応に不安があるから	大規模な専門施設があればいいと思うから	ひとり暮らしで不安だから	高齢や病弱、仕事などの事情で、家族による介護が期待できないから	介護のための部屋がないとか入浴しにくいなど自宅の構造に問題があるから	在宅で介護を受けようだから
全体		362	63.0	54.4	41.2	40.6	30.4	29.0	20.7	17.1
性別	男性	127	62.2	57.5	44.1	44.1	26.8	26.8	22.0	16.5
	女性	233	63.5	53.2	39.9	39.1	32.6	30.5	19.7	17.6
年齢別	65~69歳	89	73.0	53.9	41.6	40.4	24.7	28.1	22.5	16.9
	70~74歳	91	63.7	50.5	40.7	38.5	29.7	27.5	18.7	20.9
	75~79歳	79	59.5	59.5	35.4	44.3	29.1	24.1	20.3	19.0
	80~84歳	57	47.4	61.4	49.1	45.6	35.1	36.8	15.8	10.5
	85歳以上	42	71.4	47.6	42.9	33.3	40.5	33.3	26.2	14.3
世帯構成別	ひとり暮らし	92	30.4	54.3	43.5	45.7	72.8	25.0	20.7	16.3
	高齢者夫婦だけ	137	69.3	57.7	43.1	46.7	19.7	29.9	19.7	14.6
	高齢者と子ども(2世代)	74	81.1	55.4	40.5	35.1	10.8	29.7	25.7	21.6
	高齢者と子どもと孫(3世代)	21	90.5	33.3	33.3	28.6	-	23.8	9.5	19.0
	その他	33	69.7	51.5	33.3	24.2	21.2	42.4	21.2	15.2

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(6) 地域包括支援センターを認識している度合い

知っている人は3割

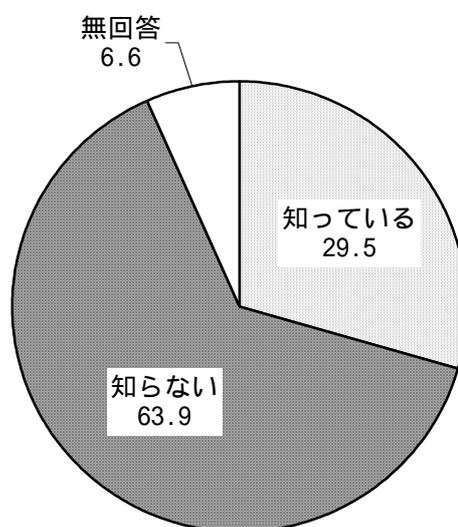
(全員の方に)

問40. 高齢者の介護予防や在宅生活を支える各種相談(介護保険、権利擁護など)を行う、地域包括支援センターが区内に8か所設置されていますが、あなた(宛名の方ご本人)はご自分の住んでいる地域を担当している地域包括支援センターはどこか(名称・所在地など)ご存じですか。(は1つ)

図 - 8 - 15

回答者数 1,762人

単位：%



自分の住んでいる地域を担当している地域包括支援センターを「知っている」と答えた人は29.5%にとどまり、「知らない」と答えた人が63.9%を占めている。(図 - 8 - 15)

性別では、大きな差は見られない。(図 - 8 - 16)

年齢別では、「知っている」と答えた人は、85歳以上で最も高く41.3%となっている。80～84歳では30%、65～79歳では30%弱となっている。(図 - 8 - 17)

図 - 8 - 16 性別

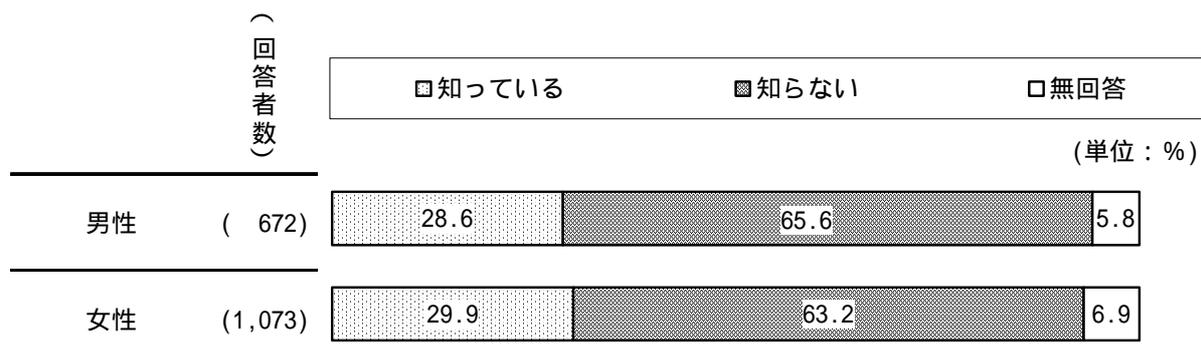
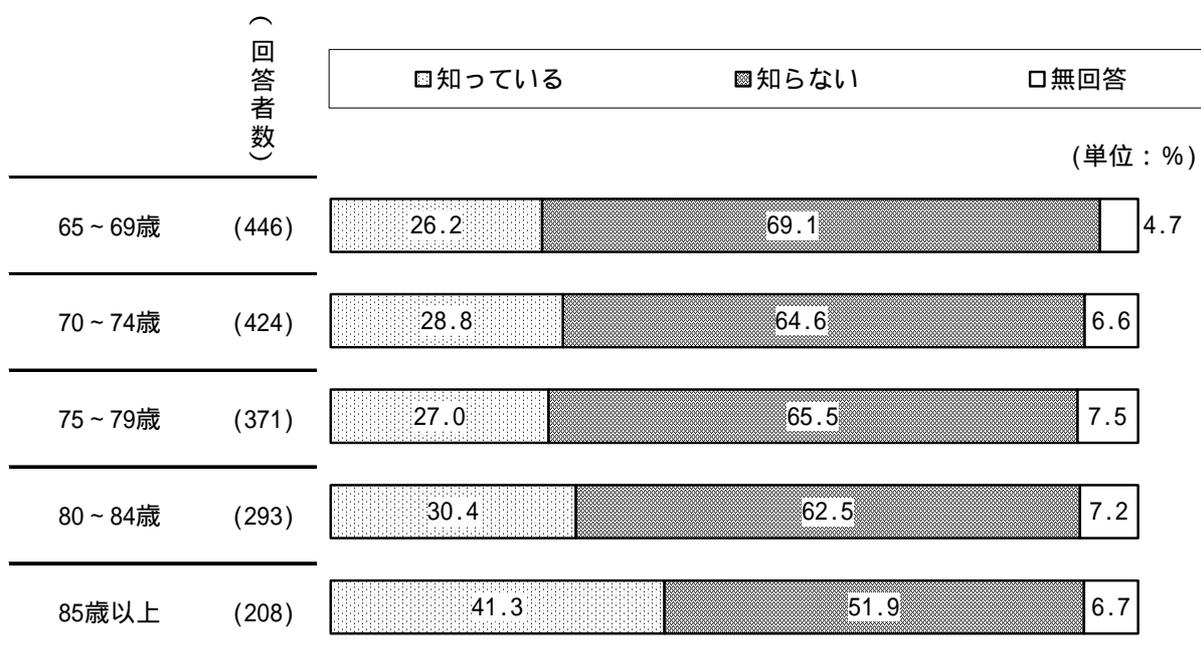


図 - 8 - 17 年齢別



9 . 高齢者問題等について

(1) 家庭内での高齢者虐待の防止策として効果的な対策

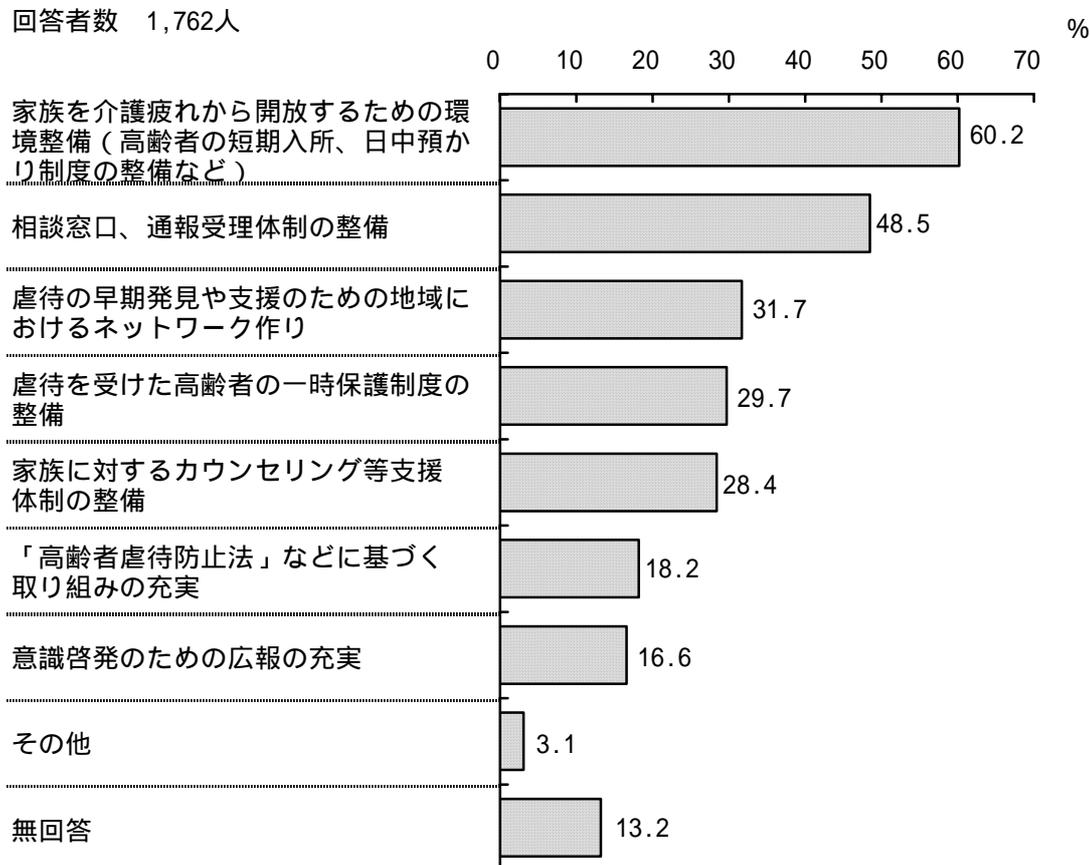
「家族を介護疲れから開放するための環境整備」が6割

(全員の方に)

問 41 . 高齢者が家族・親族等から身体的、精神的な暴力を受けるなどの「高齢者虐待」が社会問題となっています。あなた(宛名の方ご本人)は、家庭内での高齢者虐待の防止策としてどのような対策が効果的だと思いますか。(当てはまるものすべてに)

図 - 9 - 1

回答者数 1,762人



家庭内での高齢者虐待の防止策としては、「家族を介護疲れから開放するための環境整備(高齢者の短期入所、日中預かり制度の整備など)」(60.2%) が最も多く6割となっている。次いで、「相談窓口、通報受理体制の整備」(48.5%) を半数近い人があげている。以下、「虐待の早期発見や支援のための地域におけるネットワーク作り」(31.7%)、「虐待を受けた高齢者の一時保護制度の整備」(29.7%)、「家族に対するカウンセリング等支援体制の整備」(28.4%)、「「高齢者虐待防止法」などに基づく取り組みの充実」(18.2%)、「意識啓発のための広報の充実」(16.6%) の順になっている。(図 - 9 - 1)

性別では、「家族を介護疲れから開放するための環境整備」(男性 55.1%、女性 63.7%)は女性で高く、「相談窓口、通報受理体制の整備」(男性 51.9%、女性 46.3%)は男性で高くなっている。(図 - 9 - 2)

性・年齢別では、「家族を介護疲れから開放するための環境整備」は女性の65～69歳で80%近くと高い。また、「虐待を受けた高齢者の一時保護制度の整備」、「家族に対するカウンセリング等支援体制の整備」も女性の65～69歳で他の年代より高くなっている。「虐待の早期発見や支援のための地域におけるネットワーク作り」は男性の65～69歳で40%強と高くなっている。(図 - 9 - 3)

図 - 9 - 2 性別 (上位6位)

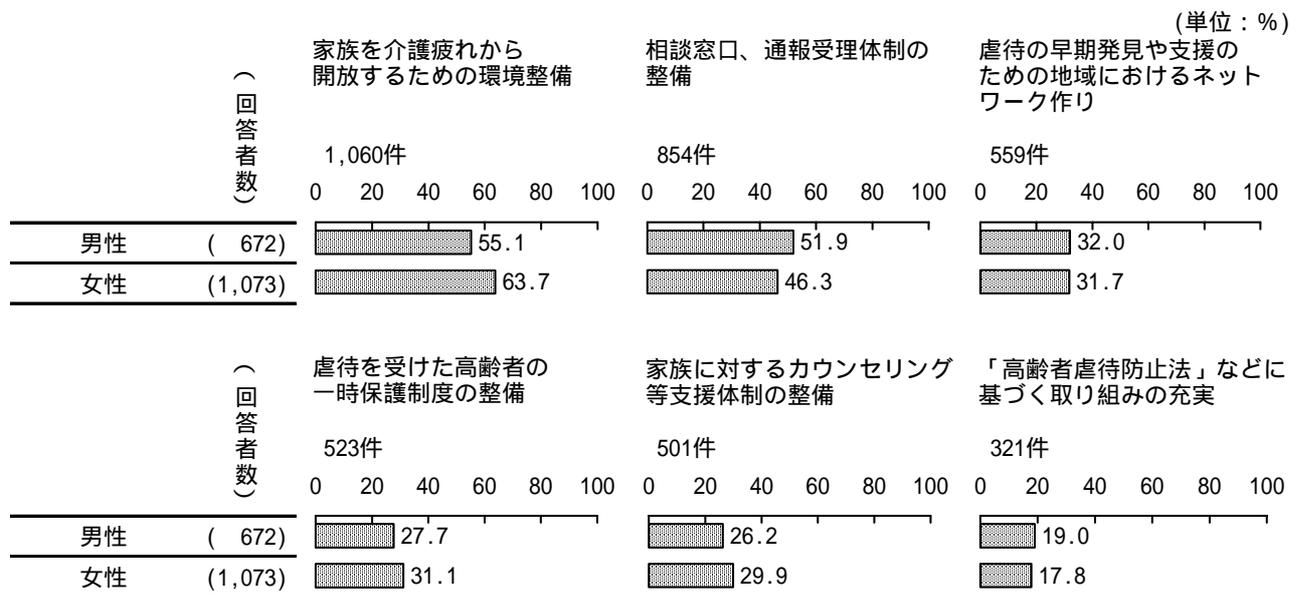
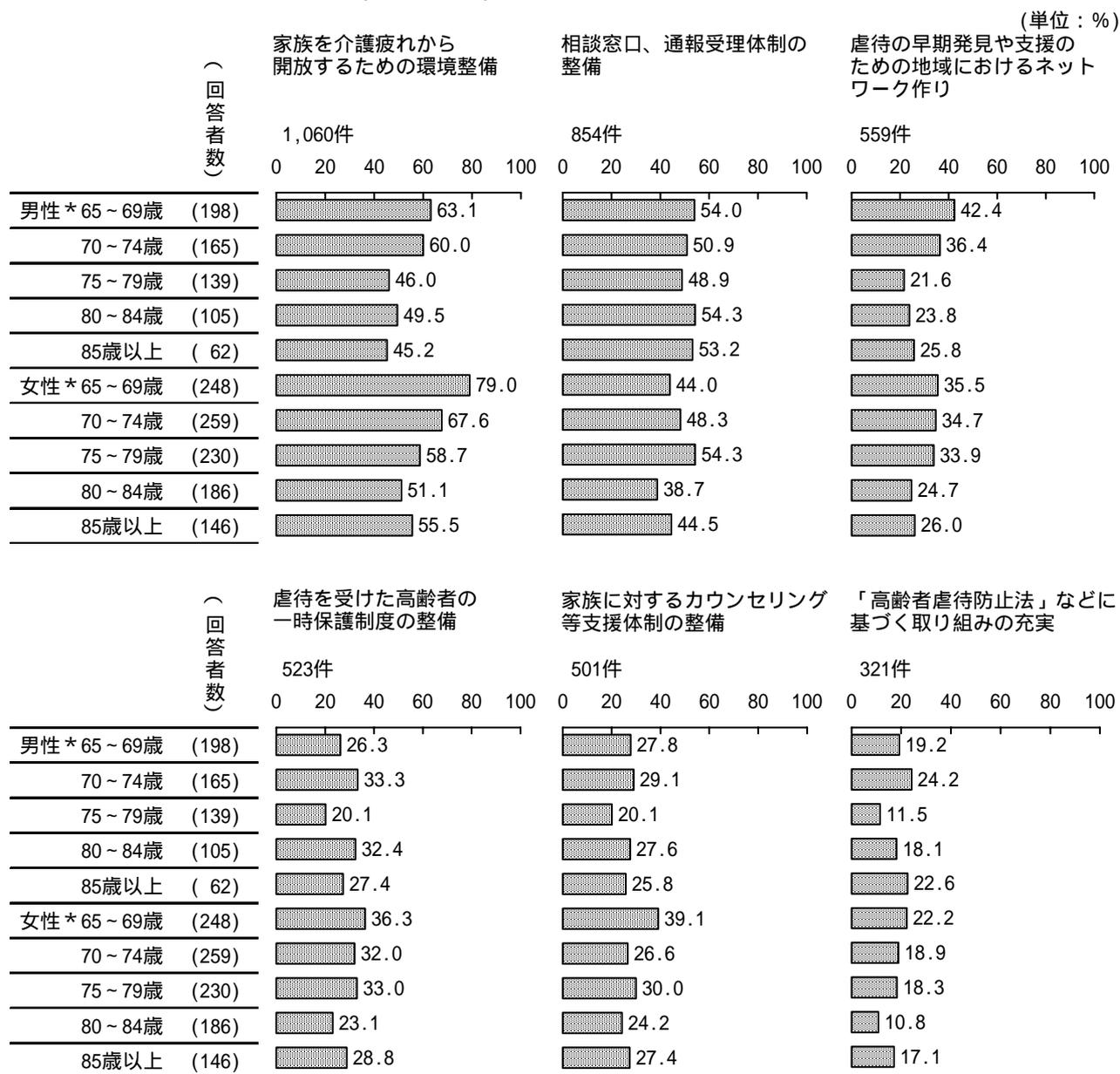


図 - 9 - 3 性・年齢別（上位6位）



10. 区の高齢者保健福祉施策への要望について

(1) 高齢社会に向けて、区に力を入れて欲しいこと

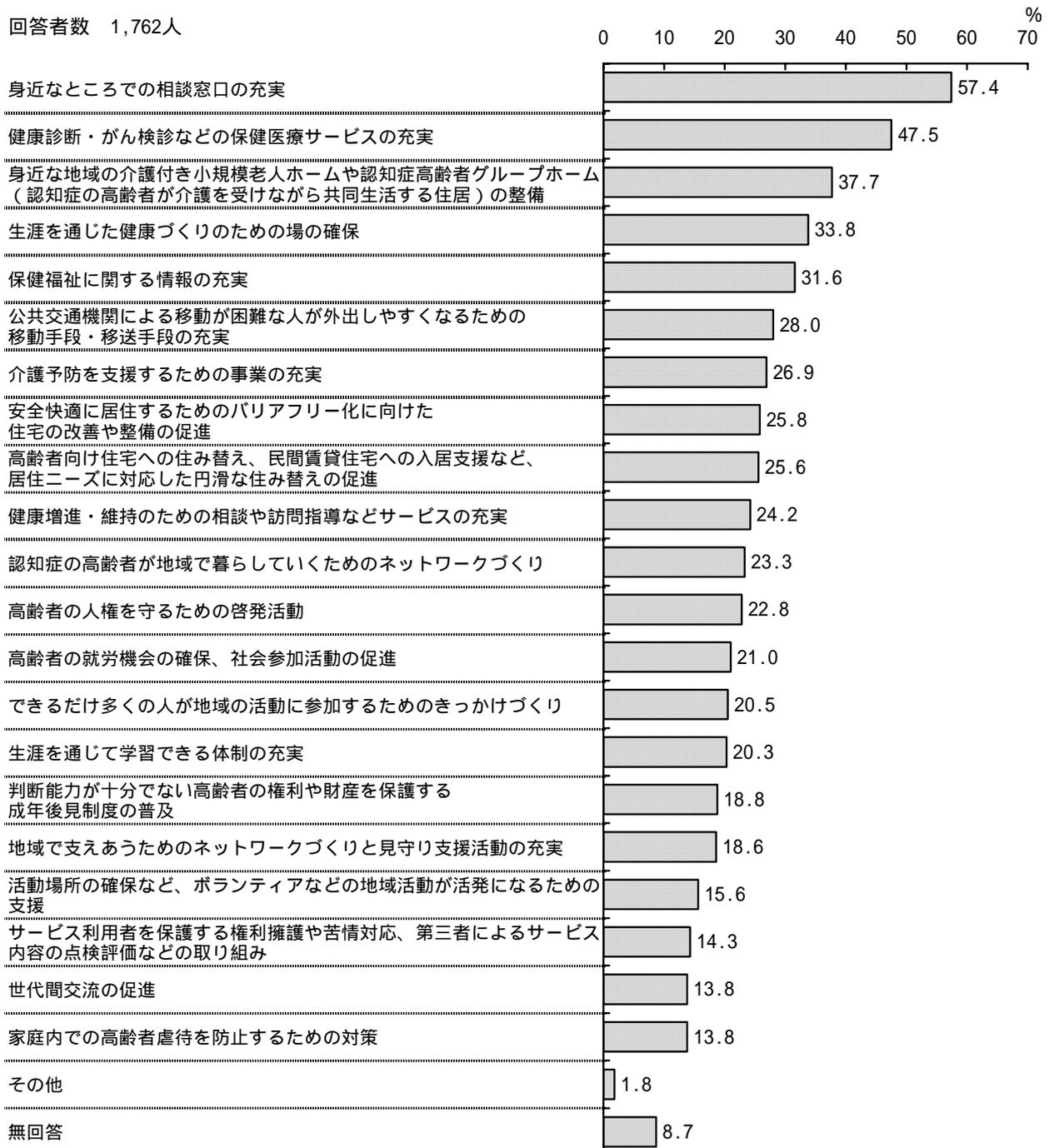
「身近なところでの相談窓口の充実」が6割弱

(全員の方に)

問42. あなた(宛名の方ご本人)は、これからの高齢社会に向けて、区がどのようなことに特に力を入れて欲しいと思いますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 10 - 1

回答者数 1,762人



高齢社会に向けて、区に力を入れて欲しいこととしては、「身近なところでの相談窓口の充実」(57.4%)が最も多く、6割近い人が要望している。次いで、「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」(47.5%)を半数近い人があげている。以下、「身近な地域の介護付き小規模老人ホームや認知症高齢者グループホーム(認知症の高齢者が介護を受けながら共同生活する住居)の整備」(37.7%)、「生涯を通じた健康づくりのための場の確保」(33.8%)、「保健福祉に関する情報の充実」(31.6%)を3割以上、「公共交通機関による移動が困難な人が外出しやすくなるための移動手段・移送手段の充実」(28.0%)、「介護予防を支援するための事業の充実」(26.9%)、「安全快適に居住するためのバリアフリー化に向けた住宅の改善や整備の促進」(25.8%)、「高齢者向け住宅への住み替え、民間賃貸住宅への入居支援など、居住ニーズに対応した円滑な住み替えの促進」(25.6%)、「健康増進・維持のための相談や訪問指導などサービスの充実」(24.2%)、「認知症の高齢者が地域で暮らしていくためのネットワークづくり」(23.3%)、「高齢者の人権を守るための啓発活動」(22.8%)、「高齢者の就労機会の確保、社会参加活動の促進」(21.0%)、「できるだけ多くの人が地域の活動に参加するためのきっかけづくり」(20.5%)、「生涯を通じて学習できる体制の充実」(20.3%)が2割以上となっている。区への要望は多岐にわたっている。(図 - 10 - 1)

性別では、「身近な地域の介護付き小規模老人ホームや認知症高齢者グループホームの整備」(男性33.9%、女性40.3%)は女性で高く、「高齢者の就労機会の確保、社会参加活動の促進」(男性26.5%、女性17.6%)は男性で高くなっている。(表 - 10 - 1)

性・年齢別では、「身近なところでの相談窓口の充実」は女性の75~79歳で60%半ば、「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」は男女の65~69歳で50%半ばと高くなっている。「身近な地域の介護付き小規模老人ホームや認知症高齢者グループホームの整備」は女性の65~69歳で50%強と高い。「生涯を通じた健康づくりのための場の確保」は男性の65~74歳、80~84歳、女性の65~69歳で40%前後と高くなっている。また、「高齢者の就労機会の確保、社会参加活動の促進」は男性の65~74歳で30%半ばと高くなっている。(表 - 10 - 1)

表 - 10 - 1 性別、性・年齢別

単位：%

	回答者数	身近なところでの相談窓口の充実	健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実	身近な地域の介護付き小規模老人ホームや認知症高齢者グループホームの整備	生涯を通じた健康づくりのための場の確保	保健福祉に関する情報の充実	公共交通機関による移動が困難な人が外出しやすくなるための移動手段・移送手段の充実	介護予防を支援するための事業の充実	安全快適に居住するためのバリアフリー化に向けた住宅の改善や整備の促進	高齢者向け住宅への住み替え、民間賃貸住宅への入居支援など、居住ニーズに対応した円滑な住み替えの促進	健康増進・維持のための相談や訪問指導などサービスの充実	認知症の高齢者が地域で暮らしていくためのネットワークづくり
全体	1,762	57.4	47.5	37.7	33.8	31.6	28.0	26.9	25.8	25.6	24.2	23.3
性別	男性	672	57.3	49.7	33.9	36.9	29.2	25.7	27.2	25.1	24.9	22.0
	女性	1,073	57.6	46.3	40.3	32.2	33.3	29.4	25.2	25.9	24.0	24.2
男性	65～69歳	198	55.6	54.0	35.4	41.9	30.3	25.8	28.3	28.3	24.7	24.7
	70～74歳	165	57.6	47.9	38.2	40.0	25.5	29.1	27.9	32.7	23.0	18.8
	75～79歳	139	56.8	50.4	25.2	29.5	25.2	20.9	24.5	18.7	20.1	20.1
	80～84歳	105	61.0	45.7	34.3	39.0	36.2	25.7	29.5	29.5	30.5	19.0
	85歳以上	62	56.5	43.5	35.5	22.6	30.6	27.4	27.4	29.0	30.6	30.6
女性	65～69歳	248	54.8	54.4	50.4	41.1	33.1	35.5	27.4	28.2	25.8	25.4
	70～74歳	259	60.2	51.0	38.6	36.7	36.7	26.3	29.7	28.2	25.1	20.8
	75～79歳	230	66.5	49.6	38.7	32.2	32.2	25.7	23.5	23.5	23.0	29.6
	80～84歳	186	50.0	37.1	35.5	25.8	30.6	27.4	25.3	22.0	22.6	23.1
	85歳以上	146	53.4	30.8	34.9	16.4	32.2	32.2	26.0	21.2	21.9	20.5

	回答者数	高齢者の人権を守るための啓発活動	高齢者の就労機会の確保、社会参加の促進	参加するだけ多くの人が地域の活動にできるためのきっかけづくり	生涯を通じて学習できる体制の充実	判断能力が十分でない高齢者の権利や財産を保護する成年後見制度の普及	地域で支えあうためのネットワークづくりと見守り支援活動の充実	活動場の確保が活発になるための支援	内容の点検評価などの取り組み	世代間交流の促進	家庭内での高齢者虐待を防止するための対策	その他
全体	1,762	22.8	21.0	20.5	20.3	18.8	18.6	15.6	14.3	13.8	13.8	1.8
性別	男性	672	24.0	26.5	21.7	21.0	20.1	17.0	13.7	14.0	12.5	2.4
	女性	1,073	22.1	17.6	19.8	20.0	18.1	19.6	14.6	13.7	14.6	1.4
男性	65～69歳	198	22.2	34.3	26.3	24.2	24.2	19.2	15.7	15.2	10.1	2.0
	70～74歳	165	25.5	34.5	24.2	22.4	16.4	17.0	12.1	13.3	18.2	2.4
	75～79歳	139	21.6	20.1	16.5	17.3	18.0	12.2	9.4	12.2	10.8	2.9
	80～84歳	105	26.7	17.1	18.1	17.1	16.2	16.2	9.5	11.4	10.5	1.9
	85歳以上	62	25.8	11.3	17.7	22.6	29.0	21.0	9.7	16.1	17.7	3.2
女性	65～69歳	248	21.0	27.4	23.8	23.8	19.4	23.4	16.1	14.9	16.9	0.8
	70～74歳	259	27.8	20.1	28.6	23.6	18.5	21.2	16.2	14.3	15.8	0.8
	75～79歳	230	20.9	16.5	19.6	22.6	16.5	20.4	12.6	14.8	13.5	1.3
	80～84歳	186	21.5	8.6	11.8	14.0	18.3	17.2	11.3	10.2	14.5	2.2
	85歳以上	146	15.8	9.6	7.5	11.0	17.1	11.6	11.6	12.3	9.6	2.7

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 保健福祉行政全体への意見・要望 (自由回答)

(全員の方に)

問 43 .保健福祉行政全体について、ご意見やご要望などありましたらご自由にお書きください。

(自由記入)

保健福祉行政全体について、要望、意見を自由に書いてもらったところ、349 人から 524 件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

< 保健福祉の窓口について > (15 件)

相談窓口と言っても、行く事も出来ない人も居ると思います。在宅介護をしているお宅に何げなくどうですか、と言ってそれとなく様子を見る。そんなところから話が引き出せる。その様な事はケアマネさんでなくても、ボランティアの方に出来るのではないのでしょうか。聞いてもらうだけで楽になると思います。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

役所やセンターへ行った時、係の人達は高齢者に対してわかりやすく、親切に説明してほしいです。難しい言葉は使わないでほしいです。(女性 / 65 歳 ~ 69 歳)

現在は高齢でも生活上の問題はないが、今後おきる不安について、安心して相談したり、手助けを希望する場合、スムーズにこれらの要望に応えてもらえる公的窓口がほしいと常々思っています。(女性 / 70 歳 ~ 74 歳)

今現在、一応福祉に頼る事はないので良いのですが、困った事が発生した時に優しく丁寧に指導して頂く事が希望です。(女性 / 70 歳 ~ 74 歳)

相談窓口の内容を充実すると共に、その窓口を区民が周知出来る方法を十分に考慮してほしい。(女性 / 70 歳 ~ 74 歳)

< 区の保健福祉サービスについて > (26 件)

一人ぐらしの人が孤独死をするのをできるだけ防ぐために、電話をかけなくてもボタンを押すことで昼間 (9:00 ~ 5:00) は区役所へ、時間外は 119 番へ直結し、どこで (住所を言わなくても) 緊急事態が発生しているかがわかるシステムを作って頂ければとても安心です。(性別無回答 / 年齢無回答)

区営の老人ホーム (特別養護老人ホーム及び小規模老人ホーム・グループホーム) を多く作って、順番待ちが少なくなること。せめて、3 ヶ月 ~ 6 ヶ月待ちで入れる様に設備を作って欲しい。(女性 / 70 歳 ~ 74 歳)

一人暮らしの老人の見守りをする地域のネットワークを充実すると共に、家族と同居している老人についても家族まかせにしないで、負担をかけないような支援をしていただきたい。(女性 / 85 歳以上)

1 人暮らしの人がこれからますます増えると思われるので、1 人暮らし宅を定期的に訪問し、安否をたずねる支援を充実してほしい。(男性 / 65 歳 ~ 69 歳)

現在、老人の一人暮らしが多くなっています。そういう方が集まってお互い助け合いながら住め

る安い住まい（アパート・マンション等）を区が作って下さることを望みます。（女性 / 75 歳 ~ 79 歳）

< 区の保健福祉施策について > （38 件）

介護保険料、医療保険料もあがる傾向にあり、生活を圧迫しているので、保険料をあげなくても内容を充実していくため、区の保健福祉予算を十分確保すべきです。（女性 / 65 歳 ~ 69 歳）
福祉行政に優しさや温かさが感じられない。いつも弱者が泣いている、ガマンしている。全体を見るのではなく、一人一人を見てほしい。（女性 / 75 歳 ~ 79 歳）

十分に考えながら、予算とも相談しながら事業を実施してほしいと思います。（男性 / 65 歳 ~ 69 歳）

誰でも公平な（支援）サービスを受けられる様、行政はじめボランティア、民生委員、町会組織等が常に支援出来る体制を作って欲しい。（女性 / 65 歳 ~ 69 歳）

書面上の対策で実施的でない様に思われます。現状を知って、現状にマッチした対策をお願い致します。（女性 / 65 歳 ~ 69 歳）

いきいきと、老いても健康に過せる様に身体の悪くなる前の予防法を、積極的に行政がきめ細かく地域に教える場をもっと多く作って下さい。一日でも長く病気にならず健康でいられる様に。（女性 / 65 歳 ~ 69 歳）

後期高齢者医療制度に対する不満が爆発しているが、確かに細かいところで優しさに欠けたり、説明の不足などで良くない点があり過ぎるが、根本的な問題として、今のままでは健康保険制度そのものが崩壊してしまう事を理解すべきだし、理解させなければならないと思う。誰しも負担の少ないのが良いのは当然だが、このままでは将来もたない事を知るべきではないだろうか。（男性 / 65 歳 ~ 69 歳）

< 区への要望について > （47 件）

高齢者（とくに一人暮らし）の住まいに区の保健福祉の担当する人が訪問して、本人の健康状態の把握と相談事に耳を傾けてほしい。（男性 / 75 歳 ~ 79 歳）

高齢者が安心して住める様に、福祉に特に力を入れてほしい。自分の事が出来なくなった時に、1日に2時間位家事を手伝ってほしい。（女性 / 75 歳 ~ 79 歳）

高齢化社会に向けて福祉・介護の充実にさらなる取組みを期待いたします。（男性 / 65 歳 ~ 69 歳）

23区によって福祉行政に差がある事を知ったので、そのような事がないように中野区も力を入れて欲しい。（女性 / 65 歳 ~ 69 歳）

区内で働く介護士、看護師の待遇改善を中野区は率先して心掛けてほしい。それが高齢化社会を支える側面になると信じます。（男性 / 65 歳 ~ 69 歳）

1人暮らしの老人や、障害者の方々の共同住宅を作る事を希望します。（男性 / 85 歳以上）

住民の声が最も届きやすい区が、都政や国政にその声を的確に伝えて下さい。中野区だけでは出来ないとしたら、杉並、練馬など他区との連携や合併も視野に入れて、新しい発想での施策を考えて下さい。（男性 / 65 歳 ~ 69 歳）

区民にとって決して安い税金・保険料では無く、年金だけの生活ですので福祉の事についても受けたい活動に参加出来るゆとりある生活が出来る様お願い致します。（女性 / 75 歳 ~ 79 歳）

<健康・医療・介護予防について> (38件)

健康診断、検診などが中野区以外の近隣区でも受けられるとありがたいと思います。(女性 / 70歳~74歳)

生涯健康でいられる様体力作りをしたいと思っています。(女性 / 70歳~74歳)

定期無料健康診断の充実を希望。(女性 / 65歳~69歳)

介護予防の知識等を知らせ、病気にならないための活動をしていただきたい。(男性 / 65歳~69歳)

私または配偶者が毎日の生活の中で、たまたま朝に変調をきたした時、身近なところに総合病院があったら心強いと思います。(女性 / 70歳~74歳)

<介護保険サービスについて> (59件)

介護を受けている人にばかり目を向けず、介護している人達にもしっかり目を向ける様お願いいたします。(女性 / 65歳~69歳)

有料老人ホームの充実。各地域に安価な施設があると、利用しやすい。(女性 / 65歳~69歳)

認知症の高齢者をかかえた家族は介護が大変である。デイサービスの充実を望みたい。(女性 / 75歳~79歳)

母の介護をしていて感じた事は、介護サービスを受けるための手続きに時間がかかり、サービスをすぐ受けられない事や、受ける為の条件がいろいろあって、サービスが受けにくいものもあった。(女性 / 65歳~69歳)

高齢で認知症になってしまったら本当に大変で、家族に支えられて生きてはいますが、専門支援機関を充実してほしい。(女性 / 85歳以上)

居住地区に知人も無く、出来るなら定期的にでも良いから各戸への見回りを充実して欲しいと願います。(女性 / 65歳~69歳)

介護従事者や医療従事者が人間らしい暮らしの保障(給与や勤務時間の点で)を得られれば、介護を受ける人も安心だと思います。(女性 / 65歳~69歳)

在宅介護は期待出来ない様に思う。色々な人の話を聞くと、一日の2、3時間訪問してもらっても意味がない。もし充実するのであれば、24時間対応するしかないと思うからです。(男性 / 65歳~69歳)

万一の場合、多額の一時金を必要とすることなく年金受給額の範囲内位で入居出来る施設を充実して下さい。現状は長期間の待機を余儀なくされていると聞いており、とても不安です。(女性 / 70歳~74歳)

居宅介護支援の充実を図ることが大切だと思います。(男性 / 65歳~69歳)

がんなどはくわしく知られますが、認知症は人によっていろいろの違いがあり、夫が認知症になり介護の大変さを知りました。ケアマネジャーさんやヘルパーさん達の指導により毎日を過せますが、これらの方々がより活動しやすいよう、又、介護付き老人ホームがふえたらと思います。(男性 / 85歳以上)

老人(高齢者)は活動範囲が狭いので、地域での施設の充実を望みます。公共の老人ホームも少ないです。介護保険(サービス)の内容が自分では良く理解できません。手続きも自分一人では理解できません。(女性 / 85歳以上)

りっぱな病院も良いが、年金だけで生活出来るような小規模な老人ホームをたくさんつくって

ほしい。(女性/70歳~74歳)

高齢者が病気になった後、寝たきりにならないようリハビリに力を入れた施設で、あまり長期にならないで退院出来るような医療をかねそなえた施設が多くあったら良いと思います。(女性/65歳~69歳)

車椅子が通り易いように道路を平らにしてください。(女性/75歳~79歳)

介護される方の対応は十分大切ですが、介護する方(家族)側のアドバイスやサポートも必要と考えます。(女性/65歳~69歳)

低額で趣味の交流ができる施設、または、サークルづくりの拡充をお願いしたい。(男性/65歳~69歳)

<介護保険制度について>(85件)

介護を受ける認定内容を具体的に周知する必要がある。(男性/70歳~74歳)

様々な制度の細かな決まりと、現実の需要とのずれで、実際には利用出来ない場合が多いので、常に決まりを見直していただくと共に、融通性を何とか生かして欲しい。(女性/70歳~74歳)

介護保険制度になってからのほうが区のサービスが悪くなった。以前は無料で受けられたサービスが今は有料になり、所得の少ない人にとっては大変だと思う。(女性/80歳~84歳)

介護保険料を安く、介護提供の自己負担をなくして、少しでも安く利用出来る様に、利用したくても費用が高くて使えません。(女性/80歳~84歳)

現在、介護保険を納めていますが、今の所健康でおりますが、未々支払が出来なくなった時、又、納めている額がどのように活用されるのか詳細を知って置きたいです。(男性/70歳~74歳)

<本調査について>(30件)

アンケートの集計結果、及び、その結果がどの様に行政に反映されたか区報等で公開して下さい。(男性/65歳~69歳)

様々な情報や郵送物など、もっと高齢者がわかりやすい表現を使ったものを作成し、きちんと高齢者が理解ができるものに全て改善していくことが、これからの高齢化社会に対して行政が行うべき基本的、かつ、第一歩ではないでしょうか。(女性/75歳~79歳)

このアンケートをもとに中野区の保健福祉サービスの更なる向上を大いに期待しております。(男性/65歳~69歳)

地域活動・ボランティアなど良く言うが、一部の人達がなかま作り、ひまつぶしに行なって、なかなか新しい人は一歩が出ない、入りにくい。(男性/65歳~69歳)

貴重なアンケートを有効に活用していただきたいと思います。(女性/75歳~79歳)

80歳すぎている高齢者にこのようなアンケートは本人も負担となり、問いかけもむずかしい内容でなかなかこたえられません。このアンケート自体、考え直して下さい。せめて60歳代の方に送ってほしいと思います。家族も負担に思いました。(女性/80歳~84歳)

アンケート形式で問題が整理され、それに基づく対応、対策が施された場合、それが最善であるかどうかは疑問である。直接、高齢者の生活実態に触れ、ほんとうに実効性のあるシステムづくりを望みます。(男性/65歳~69歳)

< 情報提供について > (13 件)

一般の方、特に高齢者の方への保健福祉行政全体についての広報活動を具体的に実施して頂きたい。(男性 / 70 歳 ~ 74 歳)

保健に関する資料等の説明書等、年寄りにももっと簡潔にわかりやすく文字等大きくしていただきたい。(男性 / 70 歳 ~ 74 歳)

介護サービスに対しての内容等が全然解らない。普段から広報に力を入れて欲しい。(女性 / 70 歳 ~ 74 歳)

< 子育てについて > (4 件)

保健福祉行政が充実することは大変結構だと思いますが、若い人達に希望をあたえる事も必要だと思います。子育てや将来の子供達のために教育を充実させることなど必要。(女性 / 85 歳以上)

< 地域活動・まちづくりについて > (33 件)

若者がもどってきて、活気のあるまちづくりになる施策をお願いします。(男性 / 65 歳 ~ 69 歳)

病人にならない予防対策をもっと力を入れて下さい。運動する場所が少ない。区主催の健康アップになることをもっと PR して、60 歳以上の区民が元気で生活出来るのが医療費削減につながると思います。(女性 / 70 歳 ~ 74 歳)

高齢者が多くなる昨今、出来るだけ健康を維持出来る指導、及び運動施設を作って欲しい。また、老人どうしのボランティアの確立を実行してほしい。(女性 / 65 歳 ~ 69 歳)

子供が少なくなった分、その施設 (学校その他) 老人のためにまわして増加する、お年寄りが安心して生きて行ける場をふやして頂きたい。(女性 / 85 歳以上)

近年転入したような区民、特にマンションの住人などが地域社会に同化するような方向づけが必要と思われる。近隣の人の名前、家族構成などが不明のまま経過しているケースが増加している。(男性 / 75 歳 ~ 79 歳)

アンケートに答えながら自分自身まだ高齢者という意識がなく、介護保険関連への関心も認識も無かったと実感。これから高齢者に関する活動等があれば、これに積極的に参加していきたいと思います。(男性 / 65 歳 ~ 69 歳)

医療、運動、スポーツ、趣味活動等、中野区の端にある地域、例えば、中野区の中心部から遠くはなれた地域で、隣の区にある施設の方が近いという場合が多く、離れた地区にもっと行き易い場所を作って欲しいと思います。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

近隣公園に老若男女、誰でも使える健康器具の設置してほしい。(男性 / 65 歳 ~ 69 歳)

私は週二回地域の高齢者会館での健康づくりに参加させていただいております。おかげさまで心身共に健康な気分です。毎回帰宅致します。もっと大勢の方が利用なさればいつも思っております。(女性 / 70 歳 ~ 74 歳)

高齢者が住まいの近くでおしゃべりしたり運動したり出来る場所がほしい。(学校の空き教室や会館など 10 人前後収容できる) (女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

地域のネットワークづくりといっても、専門的スタッフや活動拠点は必要です。それを核にしたシステムづくりと情報の徹底をしてほしいです。(女性 / 65 歳 ~ 69 歳)

< 経済的な生活の不安について > (18 件)

今は夫婦 2 人だけで公共住宅に住んでいるが、どちらかが欠けた場合、1 人の年金だけで家賃の支払がまず心配。それから生活費等、預金があまりないので 1 人になってからの生活が一番心配です。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

一人暮らしなので、今は健康ですが病気になった時の事が不安。第一には国民年金の年金暮らしなので、何より今後の生活の経済的不安が一番。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

< 将来の不安について > (20 件)

現在、私は心身共に健康ですが、いつどの様な状態になるかわかりませんので、何となく不安は多少ありますので、その時に応じたサービスが受けられましたらありがたいと思っております。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

認知症になるのではと言う不安が有り、それなりに努力をしていると思っておりますが、認知症になった折に施設に入居することが出来るのか、現在は心配です。(女性 / 80 歳 ~ 84 歳)

現在は比較的健康で認知症ではないと思われるが、いつまでこの状態でいられるかはわからない。医師、専門家などのバックアップ体制を充実してもらいたい。(男性 / 75 歳 ~ 79 歳)

家の近くに有料の老人ホームは何棟かできました。しかし、とても高くてそこに入ることは不可能のように思います。安心して老いるなど、とてもできない現状です。現在、自分自身は心身ともに元気ですのであまり先のことは心配しないようにしていますが、衰えた時は果たして行政に頼れるのでしょうか。(女性 / 70 歳 ~ 74 歳)

< 住まい・住宅の整備について > (8 件)

高齢者向け住宅への住み替えを行うこと。(男性 / 75 歳 ~ 79 歳)

わが家は、築五十年でこのまま住むには老人には耐震も含めて非常に不安。出費で困るが、只今改築中である。補助があればと思っている。(男性 / 85 歳以上)

< 高齢者にたいする意識の啓発 > (11 件)

人々のおもいやり精神の充実。程良くかわりを持つ。(女性 / 70 歳 ~ 74 歳)

若い世代をひっくるめて、老人は優しい目を若者に、若者はいたわりの目をもって老人に、この様な社会を作り上げていただける様に相互の啓蒙をお願いしたい。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

< 保健福祉全般について > (17 件)

保健福祉行政の詳細を理解している人は非常に少ないと思う。わかり易く常識的な行政をして下さい。(男性 / 75 歳 ~ 79 歳)

高齢者の人権を守り、尊敬し、安心して生活が出来る。やさしく、明るく、あたたかな保健福祉介護行政をお願いします。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

保健福祉行政に対する世代間の相互の認識確認の交流、それによって、より良い在り方を見つけ出す事が必要だと思います。(男性 / 80 歳 ~ 84 歳)

何事につけても不安なこの頃です。高齢者として現在を支えてもらっている若い人から見ても、将来の我が事として安心していられる様な、息の長いわかり易い福祉行政を考えてほしいと思います。(女性 / 70 歳 ~ 74 歳)

<その他> (62件)

出来るだけ自分の力で元気に頑張るつもりですが、本当に困った時には安く住めて普通に生活出来れば幸せだと思います。(女性 / 65歳 ~ 69歳)

生涯学習の輪をひろげて、共に学んでいきたいです。(女性 / 70歳 ~ 74歳)

高齢者の為に色々考えて下さっている中野区に住んでいて幸せだと感謝しています。今後共、宜しくお願い申し上げます。(女性 / 85歳以上)

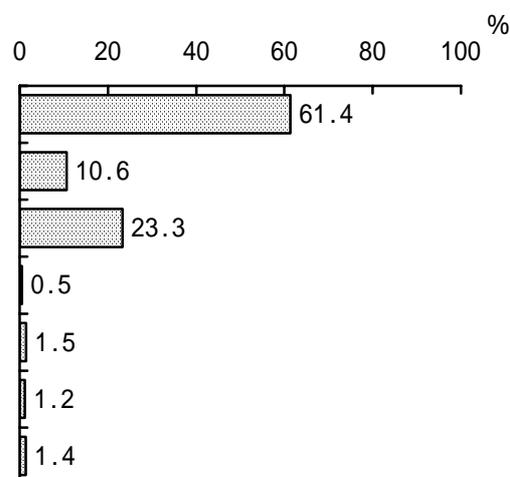
社会で受け入れて、地域で出来るだけ面倒を見られる所がこれから多く出来ることを望みます。動けなくなってから行くのではなく、自分の事は出来る時から参加出来る形式でも良いと思います。(女性 / 65歳 ~ 69歳)

居宅サービス利用者

1. 対象者の属性

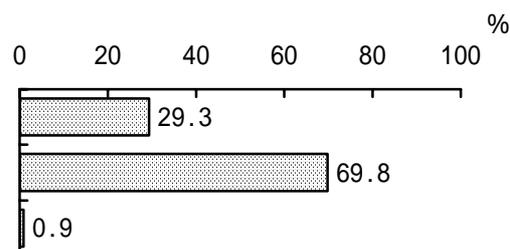
(1) アンケートの回答者

区分	回答者数	構成比 (%)
本人	566	61.4
配偶者	98	10.6
子どもまたはその配偶者	215	23.3
孫またはその配偶者	5	0.5
兄弟姉妹	14	1.5
その他	11	1.2
無回答	13	1.4
全体	922	100.0



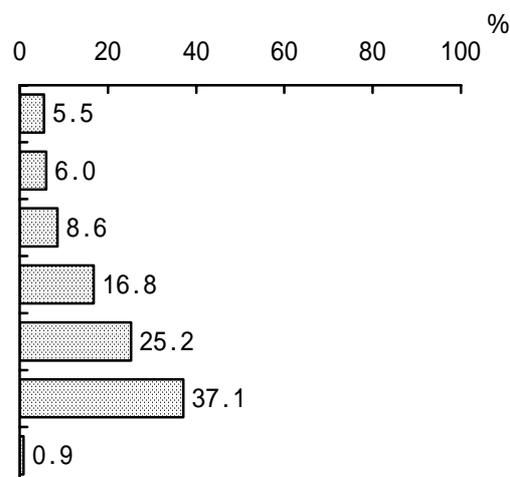
(2) 本人の性別

区分	回答者数	構成比 (%)
男性	270	29.3
女性	644	69.8
無回答	8	0.9
全体	922	100.0



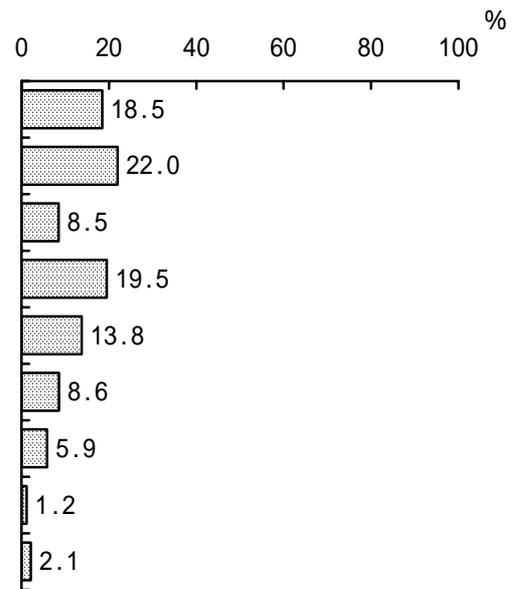
(3) 本人の年齢

区分	回答者数	構成比 (%)
40歳～64歳	51	5.5
65歳～69歳	55	6.0
70歳～74歳	79	8.6
75歳～79歳	155	16.8
80歳～84歳	232	25.2
85歳以上	342	37.1
無回答	8	0.9
全体	922	100.0



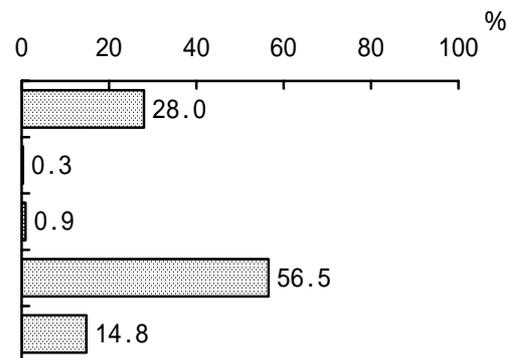
(4) 要介護度

区分	回答者数	構成比 (%)
要支援 1	171	18.5
要支援 2	203	22.0
要介護 1	78	8.5
要介護 2	180	19.5
要介護 3	127	13.8
要介護 4	79	8.6
要介護 5	54	5.9
わからない	11	1.2
無回答	19	2.1
全体	922	100.0



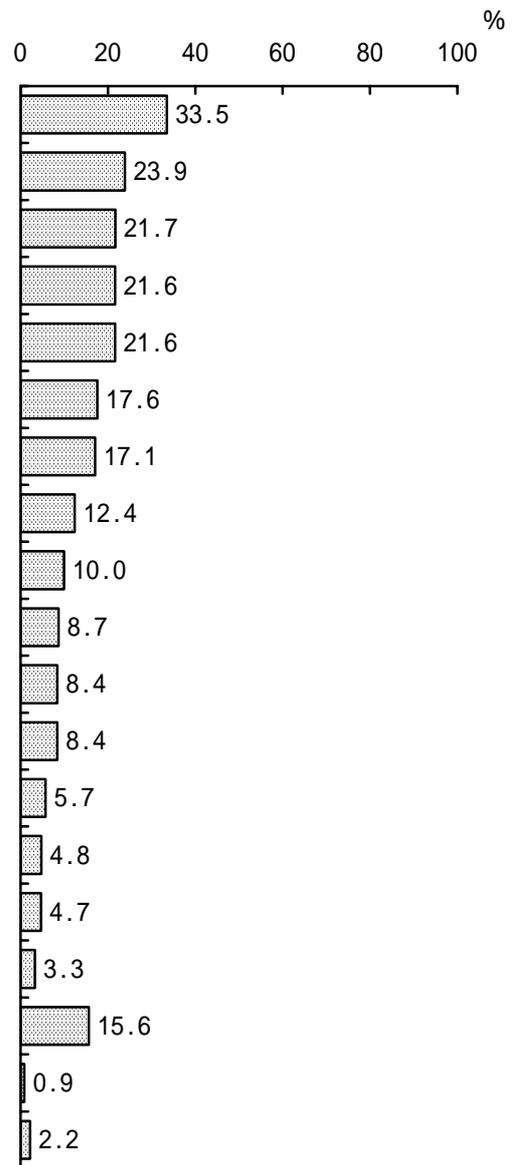
(5) 障害者手帳の有無 (複数回答)

区分	回答者数	構成比 (%)
身体障害者手帳を持っている	258	28.0
愛の手帳 (療育手帳) を持っている	3	0.3
精神障害者保健福祉手帳を持っている	8	0.9
障害者手帳は持っていない	521	56.5
無回答	136	14.8
全体	922	100.0



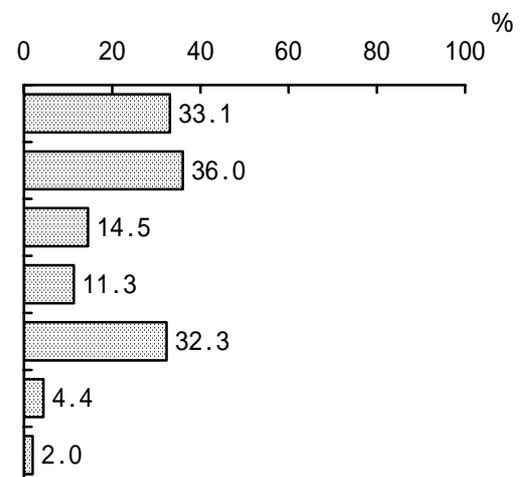
(6) 介護が必要になった原因 (複数回答)

区分	回答者数	構成比 (%)
年をとって不自由になった	309	33.5
骨折・転倒	220	23.9
膝などの関節疾患や リウマチ	200	21.7
脳梗塞や脳出血など 脳血管疾患	199	21.6
高血圧	199	21.6
骨粗しょう症	162	17.6
認知症	158	17.1
眼科疾患	114	12.4
心疾患	92	10.0
呼吸器疾患	80	8.7
糖尿病	77	8.4
泌尿器疾患	77	8.4
胃腸疾患	53	5.7
腎疾患	44	4.8
がんなどの悪性疾患	43	4.7
パーキンソン病	30	3.3
その他	144	15.6
介護の必要はない	8	0.9
無回答	20	2.2
全体	922	100.0



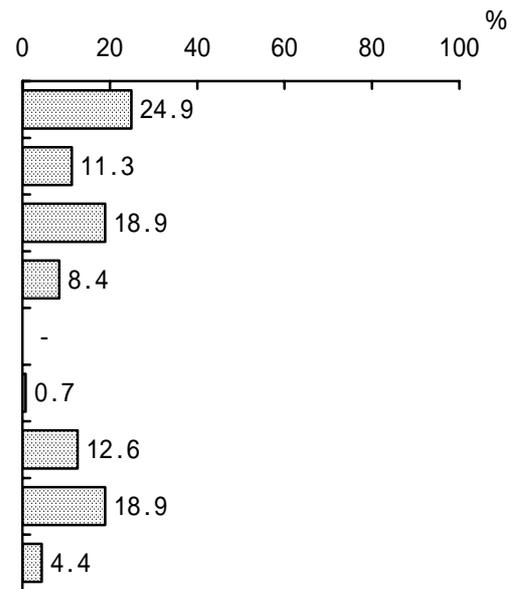
(7) 同居の家族 (複数回答)

区分	回答者数	構成比 (%)
配偶者	305	33.1
子	332	36.0
子の配偶者	134	14.5
孫	104	11.3
ひとり暮らし	298	32.3
その他	41	4.4
無回答	18	2.0
全体	922	100.0



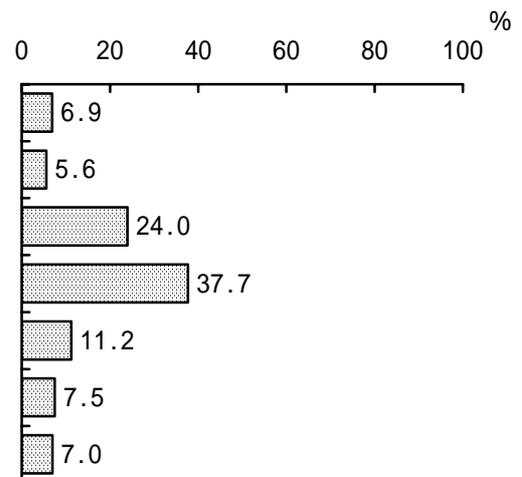
(8) 主な介護者

区分	回答者数	構成比 (%)
配偶者	230	24.9
息子	104	11.3
娘	174	18.9
息子の配偶者	77	8.4
娘の配偶者	0	-
孫またはその配偶者	6	0.7
その他の方	116	12.6
介護者はいない	174	18.9
無回答	41	4.4
全体	922	100.0

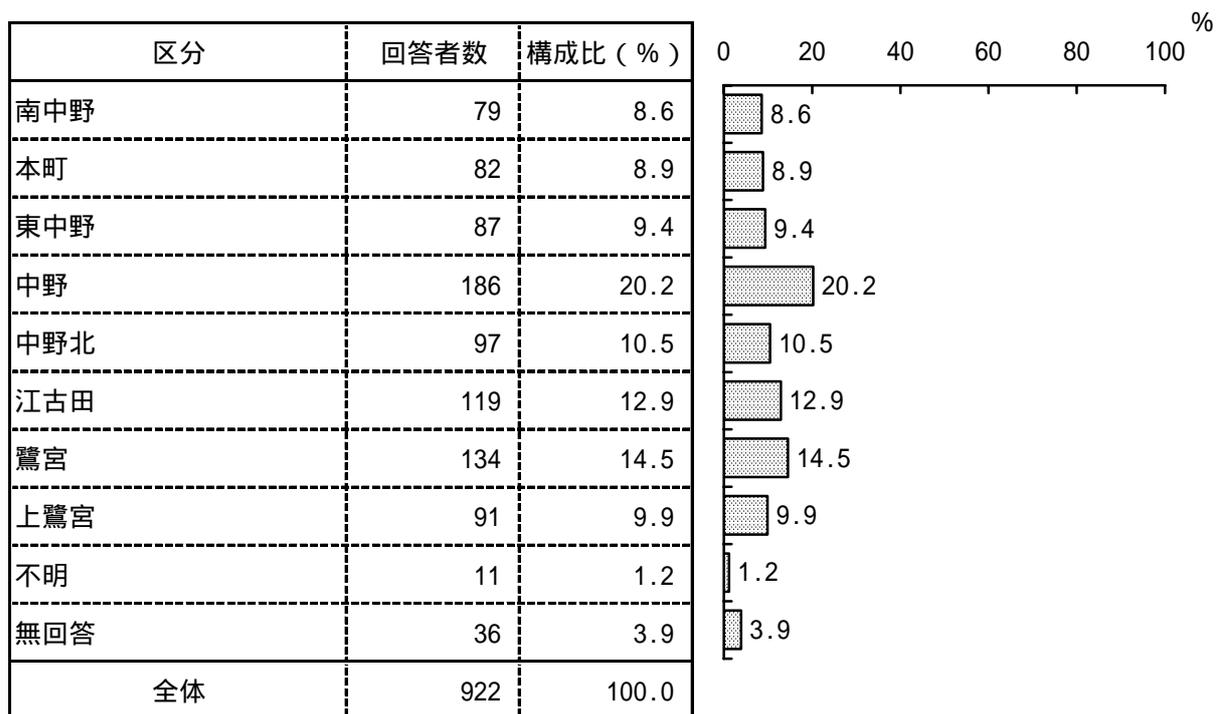


(9) 世帯年収

区分	回答者数	構成比 (%)
生活保護を受給している	64	6.9
80万円以下	52	5.6
81万～200万円未満	221	24.0
200万～500万円未満	348	37.7
500万～800万円未満	103	11.2
800万円以上	69	7.5
無回答	65	7.0
全体	922	100.0



(10) 担当の地域包括支援センター



2. 住環境について

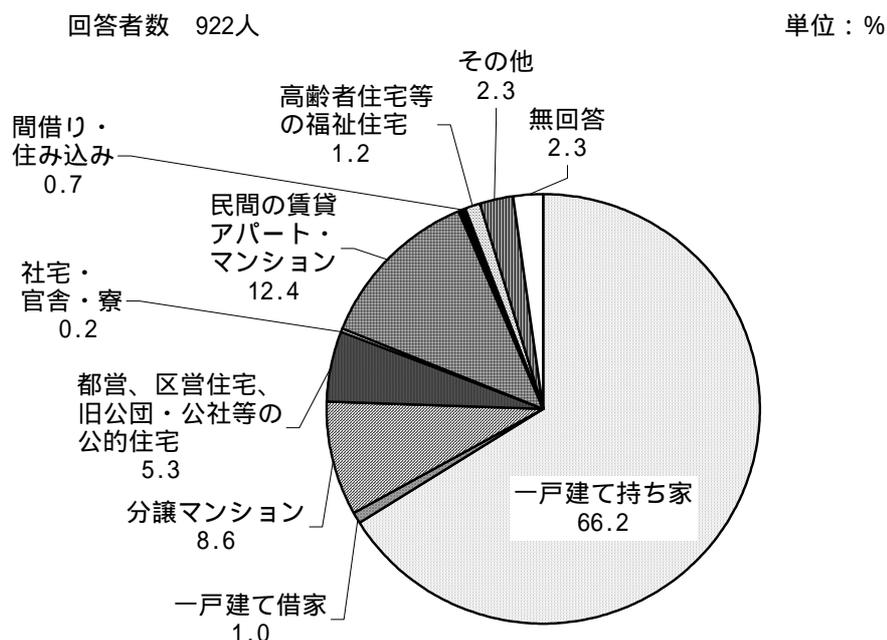
(1) 住居形態

一戸建て持ち家の人 が 6 割半

(全員の方に)

問 11. あなた(宛名の方ご本人)の現在のお住まいは、次のうちのどれですか。(は1つ)

図 - 2 - 1



住居形態は、「一戸建て持ち家」と答えた人が 66.2%を占めている。以下、「民間の賃貸アパート・マンション」(12.4%)、「分譲マンション」(8.6%)、「都営、区営住宅、旧公団・公社等の公的住宅」(5.3%)、「高齢者住宅等の福祉住宅」(1.2%)、「一戸建て借家」(1.0%)、「間借り・住み込み」(0.7%)、「社宅・官舎・寮」(0.2%)となっている。(図 - 2 - 1)

性別では、大きな差は見られない。(表 - 2 - 1)

年齢別では、「一戸建て持ち家」は 80~84 歳で 69.8%、85 歳以上で 75.4%と 80 歳以上で高くなっている。一方、「民間の賃貸アパート・マンション」は 40~64 歳と 75~79 歳で 10%台、65~74 歳で 20%台と高くなっている。(表 - 2 - 1)

要介護度別では、「一戸建て持ち家」は要介護 3 と要介護 5 の人で 70%台となっているが、

他の要介護度の人でも60%以上となっている。(表 - 2 - 1)

表 - 2 - 1 性別、年齢別、要介護度別

単位：%

		回答者数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲マンション	都営、区営住宅、 公社等の公的住宅	社宅・官舎・寮	民間の賃貸アパート・ マンション	間借り・住み込み	高齢者住宅等の福祉住宅	その他
全体		922	66.2	1.0	8.6	5.3	0.2	12.4	0.7	1.2	2.3
性別	男性	270	67.4	1.1	5.9	4.8	-	14.1	0.7	0.7	2.2
	女性	644	65.7	0.9	9.5	5.6	0.3	11.6	0.6	1.4	2.3
年齢別	40～64歳	51	56.9	-	11.8	3.9	2.0	19.6	-	-	3.9
	65～69歳	55	49.1	-	7.3	10.9	-	29.1	1.8	1.8	-
	70～74歳	79	57.0	1.3	3.8	6.3	-	24.1	-	1.3	2.5
	75～79歳	155	54.2	2.6	11.0	7.7	0.6	16.8	1.3	-	4.5
	80～84歳	232	69.8	1.3	7.8	4.7	-	8.2	1.3	2.2	1.3
	85歳以上	342	75.4	0.3	8.5	3.8	-	6.7	-	1.2	2.0
要介護度別	要支援1	171	66.1	0.6	9.4	8.2	0.6	9.4	-	0.6	0.6
	要支援2	203	63.5	0.5	9.4	3.9	-	13.8	1.0	2.0	3.0
	要介護1	78	64.1	-	14.1	6.4	-	9.0	1.3	1.3	3.8
	要介護2	180	66.7	1.1	5.6	5.0	0.6	13.9	1.1	1.7	3.3
	要介護3	127	71.7	-	7.1	4.7	-	14.2	-	0.8	1.6
	要介護4	79	67.1	3.8	8.9	5.1	-	10.1	-	1.3	2.5
	要介護5	54	70.4	3.7	7.4	1.9	-	13.0	-	-	1.9

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 住居で困っていること

「玄関の段差」が3割弱

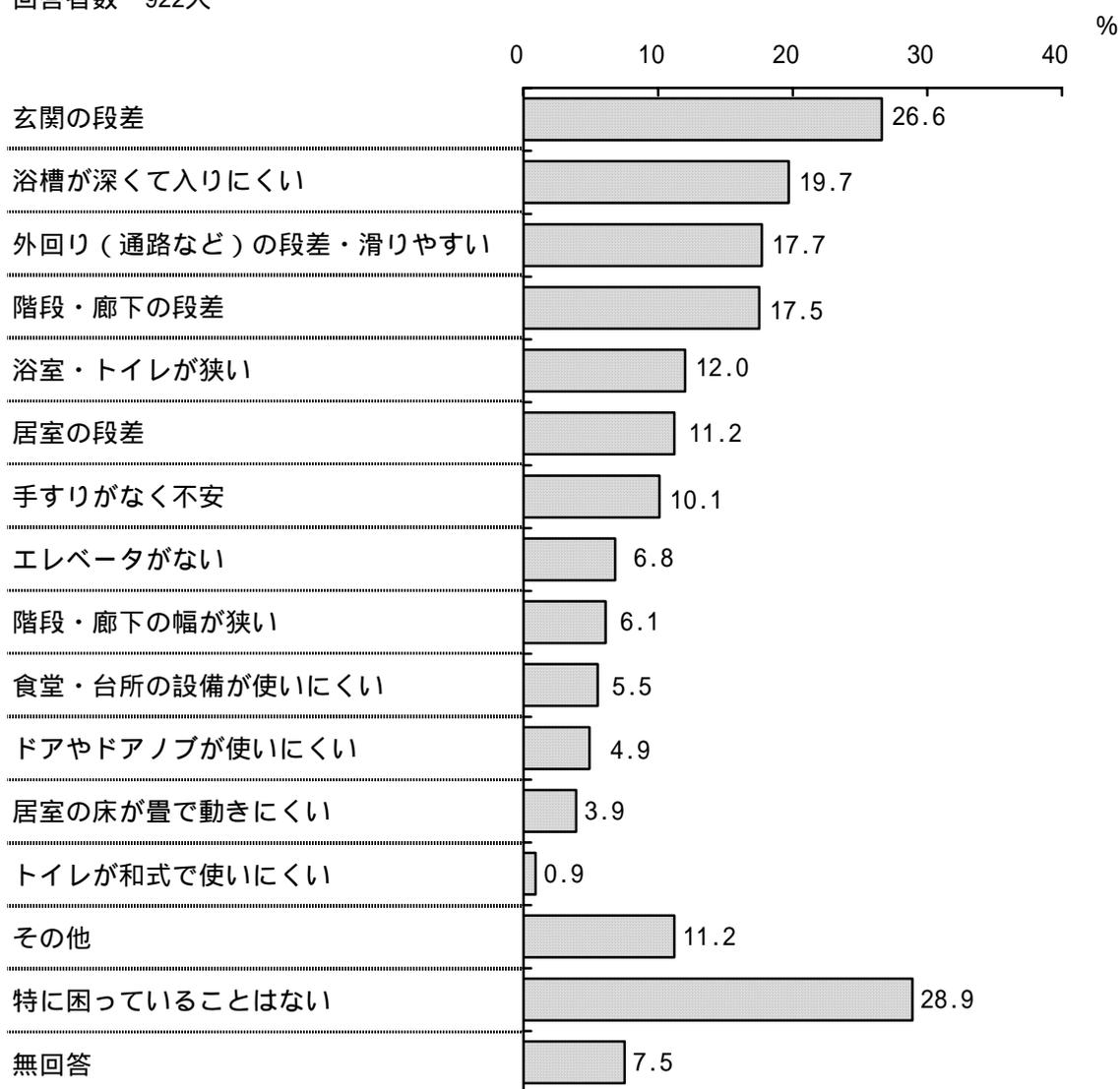
(全員の方に)

問12. 現在のお住まいで、困っていることを、次の中から選んでください。

(あてはまるものすべてに)

図 - 2 - 2

回答者数 922人



住居で困っていることとしては、「玄関の段差」(26.6%)が最も多く、以下、「浴槽が深くて入りにくい」(19.7%)、「外回り(通路など)の段差・滑りやすい」(17.7%)、「階段・廊下の段差」(17.5%)と「段差」に困っているとの答えが続いている。一方、「特に困っていることはない」と答えた人は28.9%となっている。(図 - 2 - 2)

性別では、大きな差は見られない。(表 - 2 - 2)

年齢別では、「玄関の段差」はすべての年齢で困っているものとして、最も高い比率となっているが、中でも65～69歳で30%半ばと高くなっている。「外回り(通路など)の段差・滑りやすい」は40～64歳、「階段・廊下の段差」は40～69歳でいずれも20%半ばと高くなっている。一方、「特に困っていることはない」と答えた人は70～74歳で30%半ばと高くなっている。(表 - 2 - 2)

要介護度別では、「玄関の段差」は要介護3～5の人で35%以上と高くなっている。「浴槽が深くて入りにくい」、「外回り(通路など)の段差・滑りやすい」、「浴室・トイレが狭い」は要介護3の人で他の要介護度の人より高くなっている。(表 - 2 - 2)

居住形態別では、「玄関の段差」、「外回り(通路など)の段差・滑りやすい」は一戸建て借家で高くなっている。「浴槽が深くて入りにくい」は分譲マンション、公的住宅で30%前後と高くなっている。(表 - 2 - 2)

表 - 2 - 2 性別、年齢別、要介護度別、居住形態別

単位: %

	回答者数	玄関の段差	浴槽が深くて入りにくい	外回り(通路など)の段差・滑りやすい	階段・廊下の段差	浴室・トイレが狭い	居室の段差	手すりがなく不安	エレベータがない	階段・廊下の幅が狭い	食堂・台所の設備が使いにくい	ドアやドアノブが使いにくい	居室の床が畳で動きにくい	トイレが和式で使いにくい	その他	特に困っていることはない	
全体	922	26.6	19.7	17.7	17.5	12.0	11.2	10.1	6.8	6.1	5.5	4.9	3.9	0.9	11.2	28.9	
性別	男性	270	24.8	18.9	15.9	16.7	12.6	9.6	12.2	5.2	7.0	5.6	4.1	3.0	1.9	8.9	30.4
	女性	644	27.5	20.2	18.6	17.5	11.8	11.8	8.9	7.5	5.6	5.4	5.3	4.2	0.5	12.3	28.1
年齢別	40～64歳	51	29.4	17.6	25.5	25.5	15.7	5.9	17.6	7.8	11.8	5.9	5.9	2.0	-	13.7	21.6
	65～69歳	55	36.4	23.6	21.8	25.5	14.5	14.5	9.1	9.1	18.2	12.7	7.3	3.6	-	18.2	18.2
	70～74歳	79	24.1	13.9	10.1	10.1	6.3	7.6	7.6	6.3	5.1	6.3	5.1	5.1	2.5	6.3	35.4
	75～79歳	155	24.5	21.9	22.6	21.3	11.6	9.7	11.0	8.4	3.2	5.2	5.2	1.3	-	14.2	25.8
	80～84歳	232	29.7	19.0	17.2	19.8	11.6	12.5	8.6	7.3	5.2	5.6	5.6	5.6	0.9	11.2	28.4
	85歳以上	342	24.3	20.5	16.1	13.2	13.2	12.0	9.9	5.3	5.6	4.1	3.8	3.8	1.2	9.6	31.6
要介護度別	要支援1	171	18.1	14.0	9.9	15.8	7.6	9.4	7.0	5.8	2.9	5.3	5.3	3.5	1.8	9.9	35.1
	要支援2	203	22.7	21.7	18.2	15.8	7.9	11.8	5.4	6.9	5.9	3.9	3.4	3.9	1.0	11.3	29.6
	要介護1	78	23.1	23.1	19.2	23.1	12.8	5.1	14.1	11.5	6.4	10.3	2.6	3.8	-	14.1	29.5
	要介護2	180	27.2	16.7	23.3	20.6	13.3	14.4	12.8	6.7	6.1	4.4	6.7	3.9	-	10.6	28.9
	要介護3	127	38.6	29.1	27.6	15.7	19.7	11.8	13.4	3.9	8.7	6.3	7.1	3.1	-	11.0	21.3
	要介護4	79	38.0	21.5	16.5	20.3	17.7	12.7	13.9	8.9	12.7	7.6	6.3	2.5	1.3	11.4	21.5
	要介護5	54	35.2	13.0	3.7	9.3	9.3	5.6	5.6	7.4	3.7	3.7	1.9	7.4	1.9	13.0	29.6
居住形態別	一戸建て持ち家	610	31.0	17.5	19.2	19.0	8.7	12.0	8.0	6.2	6.9	4.3	4.4	4.4	0.7	9.8	31.3
	一戸建て借家	9	55.6	22.2	33.3	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1	-	11.1	-	-	11.1	11.1	-
	分譲マンション	79	15.2	27.8	11.4	20.3	16.5	7.6	15.2	8.9	6.3	5.1	6.3	1.3	-	16.5	24.1
	公的住宅	49	10.2	32.7	12.2	20.4	26.5	10.2	2.0	16.3	6.1	12.2	14.3	6.1	-	4.1	40.8
	社宅・官舎・寮	2	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-
	民間の賃貸アパート・マンション	114	28.1	25.4	16.7	10.5	23.7	13.2	21.1	4.4	4.4	8.8	2.6	1.8	1.8	15.8	18.4
	間借り・住み込み	6	16.7	16.7	50.0	33.3	33.3	33.3	50.0	-	-	33.3	16.7	33.3	16.7	33.3	16.7
	高齢者住宅等の福祉住宅	11	9.1	18.2	9.1	9.1	-	-	9.1	18.2	-	18.2	9.1	9.1	-	27.3	36.4
	その他	21	-	9.5	23.8	9.5	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	-	4.8	-	-	9.5	42.9

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

3. 介護予防について

(1) 健康状態の維持や悪化しないために注意を払っていること

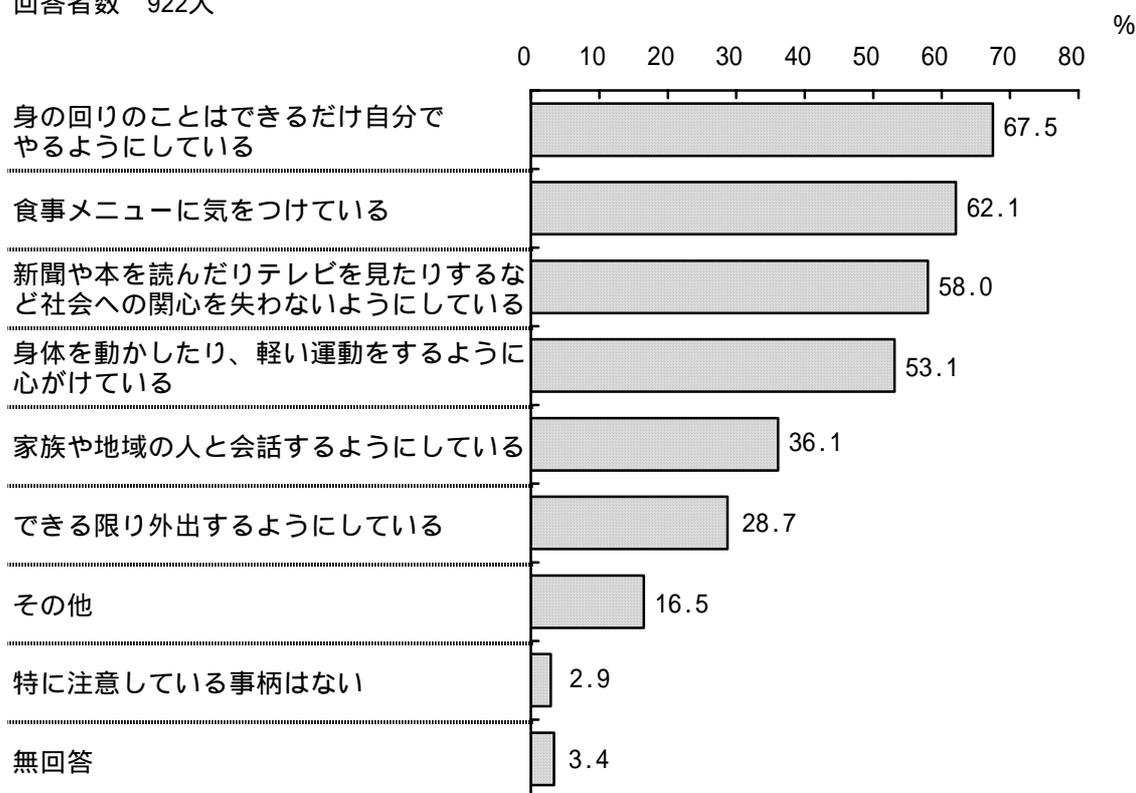
「身の回りのことはできるだけ自分でやるようにしている」が7割弱

(全員の方に)

問13. あなた(宛名の方ご本人)は現在の健康状態を維持したり悪化しないように、どのような点に注意を払っていますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 3 - 1

回答者数 922人



現在の健康状態を維持したり悪化しないように、注意を払っていることとしては、「身の回りのことはできるだけ自分でやるようにしている」(67.5%)が最も多く、「食事メニューに気をつけている」(62.1%)、「新聞や本を読んだりテレビを見たりするなど社会への関心を失わないようにしている」(58.0%)、「身体を動かしたり、軽い運動をするように心がけている」(53.1%)をあげた人が半数以上となっている。(図 - 3 - 1)

性別では、「身の回りのことはできるだけ自分でやるようにしている」(男性 55.9%、女性 72.2%)、「食事メニューに気をつけている」(男性 58.5%、女性 63.5%)、「家族や地域の人と会話するようにしている」(男性 29.3%、女性 38.8%)が男性より女性で5ポイント以上高くなっている。一方、「身体を動かしたり、軽い運動をするように心がけている」(男性 58.1%、女性 50.8%)は女性より男性で7.3ポイント高くなっている。(表 - 3 - 1)

性・年齢別では、「身の回りのことはできるだけ自分でやるようにしている」が女性の70～79歳、「新聞や本を読んだりテレビを見たりするなど社会への関心を失わないようにしている」が男性の70～74歳と女性の75～79歳、「身体を動かしたり、軽い運動をするように心がけている」が男性の70～74歳と女性の65～69歳、「できる限り外出するようにしている」は男性の65～69歳で全体より10ポイント以上高くなっている。(表 - 3 - 1)

要介護度別では、「身の回りのことはできるだけ自分でやるようにしている」は要支援1～要介護1の人で80%前後、「新聞や本を読んだりテレビを見たりするなど社会への関心を失わないようにしている」は要支援1～2の人で70%台と高くなっている。(表 - 3 - 1)

表 - 3 - 1 性別、性・年齢別、要介護度別

		単位：%								
		回答者数	自身の回りのことにはできているだけ	食事メニューに気をつけている	新聞や本を読んだりテレビの関心を失わないようにしている	身体を動かしたり心がけて軽い運動をするようにしている	家族や地域の人と会話するよう	できる限り外出するようにしている	その他	特に注意している事柄はない
全体		922	67.5	62.1	58.0	53.1	36.1	28.7	16.5	2.9
性別	男性	270	55.9	58.5	56.7	58.1	29.3	30.7	11.5	5.6
	女性	644	72.2	63.5	58.5	50.8	38.8	27.6	18.6	1.9
男性	40～64歳	24	50.0	70.8	50.0	62.5	37.5	20.8	8.3	4.2
	65～69歳	25	56.0	68.0	64.0	52.0	24.0	48.0	20.0	4.0
	70～74歳	37	59.5	48.6	70.3	64.9	32.4	35.1	10.8	2.7
	75～79歳	40	50.0	62.5	57.5	55.0	25.0	22.5	5.0	5.0
	80～84歳	55	56.4	58.2	52.7	60.0	32.7	29.1	14.5	9.1
	85歳以上	89	58.4	55.1	52.8	56.2	27.0	31.5	11.2	5.6
女性	40～64歳	27	55.6	55.6	29.6	44.4	40.7	22.2	14.8	3.7
	65～69歳	30	70.0	66.7	60.0	63.3	40.0	20.0	20.0	-
	70～74歳	42	83.3	71.4	64.3	57.1	42.9	38.1	14.3	2.4
	75～79歳	115	82.6	67.8	68.7	51.3	44.3	30.4	19.1	-
	80～84歳	176	72.7	60.8	60.2	53.4	38.1	28.4	23.3	4.0
	85歳以上	252	67.1	62.7	54.8	46.4	35.3	25.4	16.3	1.2
要介護度別	要支援1	171	81.3	64.3	72.5	59.6	40.4	40.4	12.9	2.3
	要支援2	203	78.8	62.1	71.9	57.1	41.4	35.5	16.3	2.5
	要介護1	78	84.6	59.0	59.0	51.3	32.1	25.6	17.9	-
	要介護2	180	71.1	62.2	56.7	59.4	32.8	25.6	15.6	1.7
	要介護3	127	59.1	65.4	44.9	44.9	33.1	21.3	14.2	5.5
	要介護4	79	35.4	64.6	41.8	40.5	32.9	17.7	20.3	2.5
	要介護5	54	9.3	51.9	20.4	33.3	27.8	13.0	33.3	9.3

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 現在の介護度を悪化させないために利用したいサービス

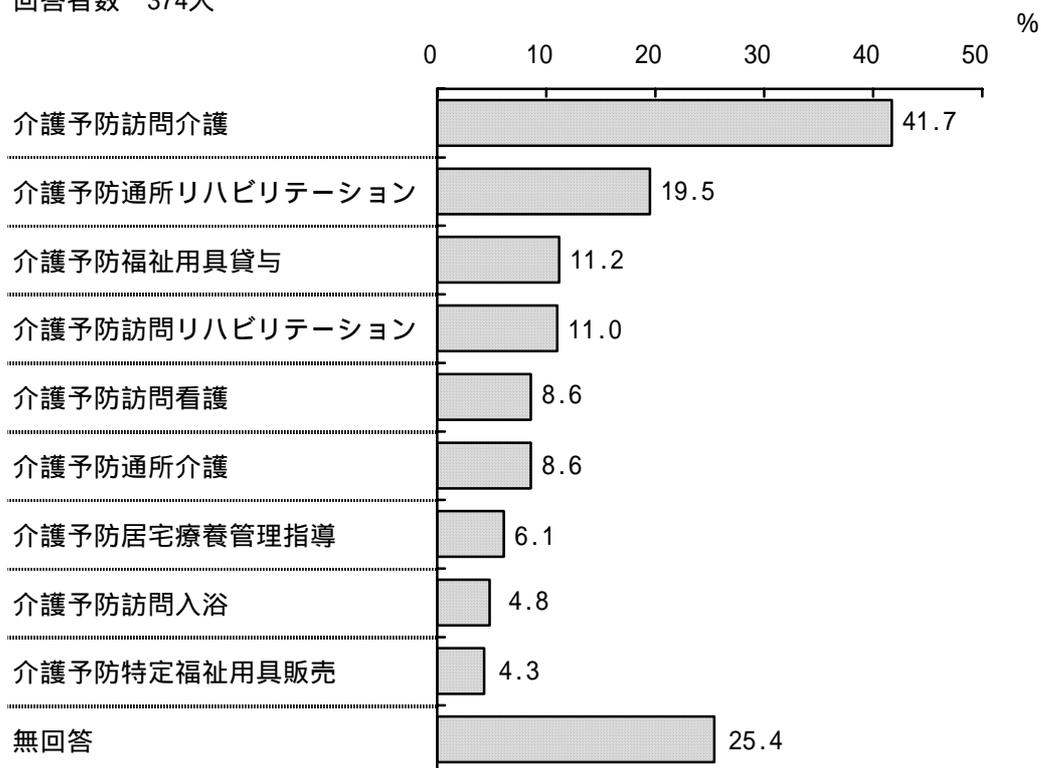
「介護予防訪問介護」が4割強

(介護認定が要支援1・2の方に)

問14. あなた(宛名の方ご本人)の現在の介護度を悪化させないために、どのようなサービスを利用したいと思いますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 3 - 2

回答者数 374人



介護認定が要支援1・2の人に、現在の介護度を悪化させないために利用したいサービスをたずねたところ、「介護予防訪問介護」(41.7%)が最も多く、4割強となっている。(図 - 3 - 2)

性別では、「介護予防訪問介護」(男性33.7%、女性44.3%)は男性より女性のほうが高く、「介護予防通所リハビリテーション」(男性26.5%、女性17.0%)は女性より男性のほうが高くなっている。(表 - 3 - 2)

年齢別では、「介護予防訪問介護」は年齢の上昇にともなって高くなり、80~84歳で50%弱と最も高くなる。(表 - 3 - 2)

要介護度別では、「介護予防訪問介護」は要支援1(47.4%)の人のほうが、要支援2(36.9%)の人より高くなっている。「介護予防福祉用具貸与」、「介護予防訪問リハビリテーション」、「介護予防訪問入浴」は要支援2の人のほうが、要支援1の人より4～6ポイント高くなっている。(表 - 3 - 2)

表 - 3 - 2 性別、年齢別、要介護度別

単位: %

		回答者数	介護予防訪問介護	介護予防通所リハビリテーション	介護予防福祉用具貸与	介護予防訪問リハビリテーション	介護予防訪問看護	介護予防通所介護	介護予防居宅療養管理指導	介護予防訪問入浴	介護予防特定福祉用具販売
全体		374	41.7	19.5	11.2	11.0	8.6	8.6	6.1	4.8	4.3
性別	男性	83	33.7	26.5	13.3	9.6	9.6	10.8	4.8	4.8	6.0
	女性	289	44.3	17.0	10.7	11.4	8.3	7.6	6.2	4.8	3.5
年齢別	40～64歳	9	11.1	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	-	-	-
	65～69歳	17	35.3	17.6	17.6	17.6	5.9	11.8	11.8	5.9	5.9
	70～74歳	36	38.9	33.3	8.3	2.8	8.3	8.3	2.8	-	-
	75～79歳	74	41.9	21.6	9.5	13.5	2.7	4.1	4.1	2.7	2.7
	80～84歳	113	47.8	16.8	7.1	14.2	8.0	6.2	8.0	6.2	6.2
	85歳以上	125	40.0	16.0	15.2	7.2	12.8	12.8	6.4	6.4	4.8
要介護度別	要支援1	171	47.4	19.3	8.2	8.8	8.2	9.4	7.0	1.8	4.7
	要支援2	203	36.9	19.7	13.8	12.8	8.9	7.9	5.4	7.4	3.9

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

4 . 在宅生活の継続について

(1) 「小規模多機能型居宅介護サービス」の認知と利用意向

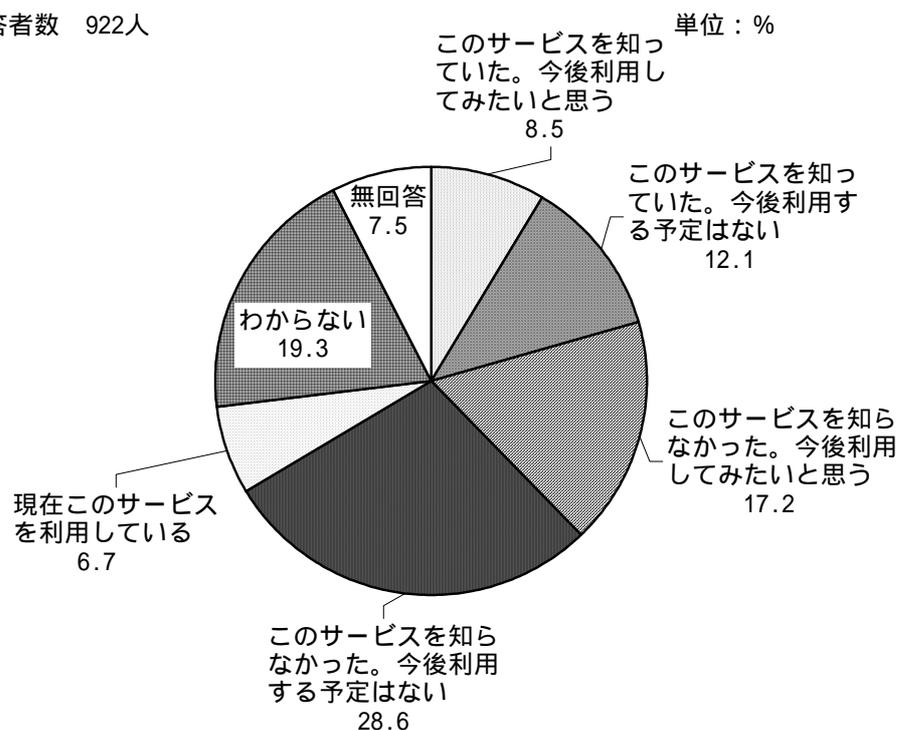
知っていた人が2割、知らなかった人は4割半

(全員の方に)

問 15 . 「小規模多機能型居宅介護サービス」は、「通い」を中心に、利用者の選択に応じて「訪問」や「泊まり」のサービスを組み合わせて利用できます。少人数の家庭的な雰囲気の中で、日常生活上の介助や機能訓練などのサービスを顔見知りの職員から受けることができます。一方、このサービスを使うと、他の事業所のデイサービスや訪問介護、ショートステイが利用できなくなります。あなた(宛名の方ご本人)はこのサービスをご存知でしたか。また、今後利用したいですか。(は1つ)

図 - 4 - 1

回答者数 922人



「小規模多機能型居宅介護サービス」の認知と利用意向については、「このサービスを知っていた。今後利用してみたいと思う」と答えた人が 8.5%、「このサービスを知っていた。今後利用する予定はない」と答えた人が 12.1%で、知っていた人は約 2 割である。一方、「このサービスを知らなかった。今後利用してみたいと思う」と答えた人が 17.2%、「このサービスを知らなかった。今後利用する予定はない」と答えた人が 28.6%で、知らなかった人が 4 割半である。(図 - 4 - 1)

性別では、サービスの認知には男女差が見られないが、「このサービスを知らなかった。今

後利用してみたいと思う」と答えた人が男性で 23.0%と女性（14.8%）より高くなっている。
 （表 - 4 - 1）

年齢別では、サービスを知っていた人は 40～69 歳では 10%強にとどまるが、70～79 歳、85 歳以上では 20%以上となっている。「このサービスを知らなかった。今後利用してみたいと思う」と答えた人は、65～69 歳で 30%と高く、「このサービスを知らなかった。今後利用する予定はない」と答えた人は、40～64 歳で 50%と高い。（表 - 4 - 1）

要介護度別では、サービスを知っていた人は要支援 2 と要介護 4 で約 4 人に 1 人の割合となっているが、「このサービスを知っていた。今後利用する予定はない」と答えた人がいずれも 20%前後と高い。また、「このサービスを知らなかった。今後利用する予定はない」と答えた人は要介護 5 で 40%強と高くなっている。（表 - 4 - 1）

表 - 4 - 1 性別、年齢別、要介護度別

		回答者数	今後利用してみたいと思う。	今後利用する予定はない。	今後利用してみたいと思う。	今後利用する予定はない。	現在このサービスを利用している	わからない
全体		922	8.5	12.1	17.2	28.6	6.7	19.3
性別	男性	270	9.6	10.4	23.0	26.7	7.8	16.3
	女性	644	7.9	13.0	14.8	29.5	6.2	20.7
年齢別	40～64歳	51	3.9	7.8	19.6	49.0	3.9	11.8
	65～69歳	55	5.5	7.3	29.1	30.9	1.8	21.8
	70～74歳	79	7.6	13.9	13.9	26.6	11.4	16.5
	75～79歳	155	11.6	12.3	15.5	25.2	6.5	20.6
	80～84歳	232	6.5	12.1	18.1	27.6	5.2	22.8
	85歳以上	342	9.4	13.5	15.8	28.4	7.9	18.1
要介護度別	要支援 1	171	12.9	8.2	18.1	32.7	4.1	17.5
	要支援 2	203	7.4	17.2	12.3	24.6	7.4	21.2
	要介護 1	78	9.0	9.0	24.4	24.4	7.7	21.8
	要介護 2	180	8.9	9.4	21.1	28.3	6.1	17.2
	要介護 3	127	4.7	12.6	19.7	29.1	6.3	22.0
	要介護 4	79	5.1	21.5	11.4	34.2	10.1	16.5
	要介護 5	54	9.3	7.4	14.8	42.6	9.3	11.1

注：網がけは全体結果よりも 5 ポイント以上多いもの

(2) 「夜間対応型訪問介護サービス」の認知と利用意向

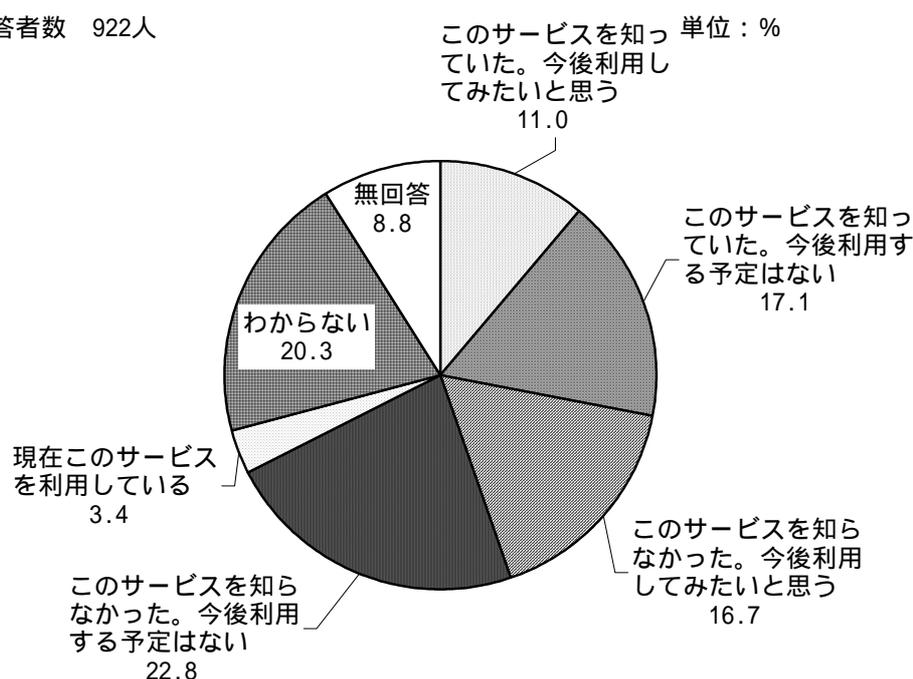
知っていた人、利用意向のある人ともに3割弱

(全員の方に)

問 16. 「夜間対応型訪問介護サービス」は、ヘルパー等が定期的に巡回したり、緊急通報に応じて訪問する、夜間専用の訪問介護サービスです。あなた(宛名の方ご本人)はこのサービスをご存知でしたか。また、今後利用したいですか。(は1つ)

図 - 4 - 2

回答者数 922人



「夜間対応型訪問介護サービス」の認知と利用意向については、「このサービスを知っていた。今後利用してみたいと思う」と答えた人が 11.0%、「このサービスを知っていた。今後利用する予定はない」と答えた人が 17.1%で、知っていた人の割合は3割弱である。一方、「このサービスを知らなかった。今後利用してみたいと思う」と答えた人が 16.7%、「このサービスを知らなかった。今後利用する予定はない」と答えた人が 22.8%で、サービスを知らなかった人は4割となっている。(図 - 4 - 2)

性別では、サービスの認知には男女差が見られないが、「このサービスを知らなかった。今後利用してみたいと思う」と答えた人が男性で 20.4%と女性(14.9%)より高くなっている。(表 - 4 - 2)

年齢別では、サービスを知っていた人は 40~64 歳で半数近くになるが、65~69 歳で 20%を下回り、70 歳以上で 30%弱となっている。認知度が高い 40~64 歳では「このサービスを知っていた。今後利用する予定はない」と答えた人が 30%強と利用意向は低くなっている。認知度

が低い 65～69 歳では「このサービスを知らなかった。今後利用してみたいと思う」と答えた人が 20%強と利用意向は高くなっている。(表 - 4 - 2)

要介護度別では、サービスを知っていた人は要介護 4～5 の人で 40%以上となっているが、「このサービスを知っていた。今後利用する予定はない」と答えた人がいずれも 20%半ばと高い。また、「このサービスを知らなかった。今後利用してみたいと思う」と答えた人は要介護 1～3 の人で 20%以上と高くなっている。(表 - 4 - 2)

表 - 4 - 2 性別、年齢別、要介護度別

		回答者数	このサービスを知っていた。今後利用してみたいと思う。	このサービスを知っていた。今後利用する予定はない。	このサービスを知らなかった。今後利用してみたいと思う。	このサービスを知らなかった。今後利用する予定はない。	現在このサービスを利用している	わからない
全体		922	11.0	17.1	16.7	22.8	3.4	20.3
性別	男性	270	12.2	15.9	20.4	24.8	4.1	16.7
	女性	644	10.6	17.4	14.9	22.2	3.0	22.0
年齢別	40～64歳	51	11.8	33.3	17.6	23.5	-	9.8
	65～69歳	55	3.6	14.5	23.6	21.8	3.6	27.3
	70～74歳	79	16.5	11.4	13.9	20.3	7.6	21.5
	75～79歳	155	12.3	15.5	18.1	21.3	3.9	20.0
	80～84歳	232	9.5	16.8	15.5	22.8	1.3	24.1
	85歳以上	342	11.1	17.3	16.1	24.6	3.8	18.4
要介護度別	要支援1	171	12.3	8.8	12.9	29.8	2.3	22.2
	要支援2	203	8.4	19.2	11.3	22.7	3.4	20.2
	要介護1	78	9.0	15.4	26.9	20.5	2.6	23.1
	要介護2	180	11.7	17.2	20.0	23.3	1.1	20.0
	要介護3	127	11.8	16.5	23.6	25.2	2.4	18.1
	要介護4	79	13.9	27.8	11.4	21.5	7.6	16.5
	要介護5	54	14.8	25.9	13.0	11.1	11.1	20.4

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(3) ショートステイの利用状況

希望どおり利用できている・利用できていない人の割合は、ほぼ同一

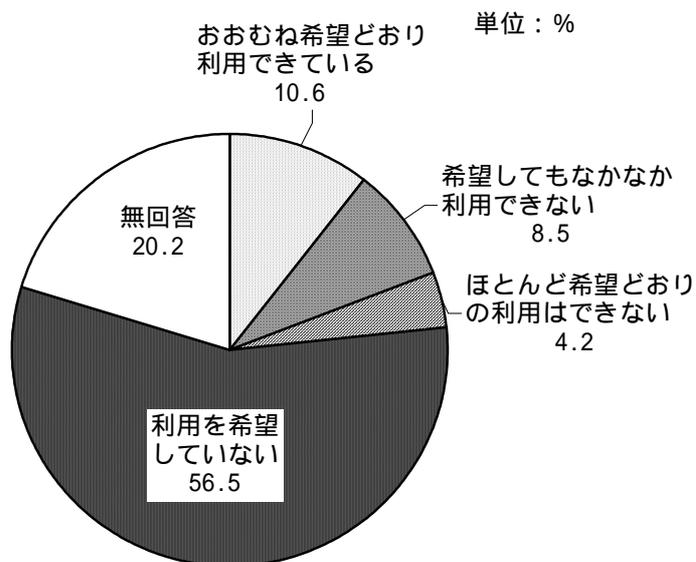
(全員の方に)

問 17 ショートステイ(短期入所生活介護・短期入所療養介護)を希望どおり利用できますか。

(は1つ)

図 - 4 - 3

回答者数 922人



ショートステイを「おおむね希望どおり利用できている」と答えた人が 10.6%、「希望してもなかなか利用できない」、「ほとんど希望どおりの利用はできない」と答えた人は合計で 12.7%となっている。一方で、「利用を希望していない」と答えた人が 56.5%となっている。

(図 - 4 - 3)

性別では、「希望してもなかなか利用できない」が男性で 11.9%と女性(7.0%)より高くなっている。(表 - 4 - 3)

年齢別では、「おおむね希望どおり利用できている」は 65 歳以降は年齢が上がるほど高くなり 85 歳以上では 10%半ばとなっている。一方、「希望してもなかなか利用できない」は 40~64 歳で 20%と高くなっている。(表 - 4 - 3)

要介護度別では、「おおむね希望どおり利用できている」は要介護 5 と要介護 3 の人で 30%弱と高くなっている。一方、「希望してもなかなか利用できない」は要介護 1 と要介護 3 ~ 5

の人で 15%前後と高くなっている。「ほとんど希望どおりの利用はできない」は要介護5の人で10%強と高くなっている。(表 - 4 - 3)

同居家族別では、「おおむね希望どおり利用できている」は高齢者と子どもの2世代の世帯と高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で10%半ばと高くなっている。一方、「希望してもなかなか利用できない」は高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で10%半ばと高くなっている。(表 - 4 - 3)

表 - 4 - 3 性別、年齢別、要介護度別、同居家族別

		回答者数	利用おおむね希望どおり	利用希望してもなかなか	のほとんど希望どおり	い利用を希望していない
全体		922	10.6	8.5	4.2	56.5
性別	男性	270	11.5	11.9	5.2	54.1
	女性	644	10.4	7.0	3.6	57.8
年齢別	40～64歳	51	7.8	19.6	2.0	66.7
	65～69歳	55	3.6	5.5	1.8	80.0
	70～74歳	79	6.3	7.6	10.1	59.5
	75～79歳	155	8.4	6.5	3.2	57.4
	80～84歳	232	9.5	7.8	2.2	53.4
	85歳以上	342	15.2	8.5	5.3	52.9
要介護度別	要支援1	171	3.5	3.5	2.9	67.8
	要支援2	203	4.9	4.4	2.0	63.1
	要介護1	78	2.6	15.4	2.6	56.4
	要介護2	180	12.2	6.1	5.6	58.3
	要介護3	127	25.2	12.6	3.1	49.6
	要介護4	79	12.7	13.9	7.6	46.8
	要介護5	54	29.6	16.7	11.1	33.3
同居家族別	ひとり暮らし	298	5.7	4.0	4.0	63.8
	高齢者夫婦だけ(1世代)	217	10.1	9.7	6.0	56.7
	高齢者と子ども(2世代)	248	15.7	9.3	4.0	52.0
	高齢者と子どもと孫(3世代)	96	16.7	15.6	2.1	51.0
	その他	45	8.9	13.3	2.2	55.6

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(4) ショートステイが利用できない時の対応

「家族の予定を取りやめるなどして対応している」が4割強

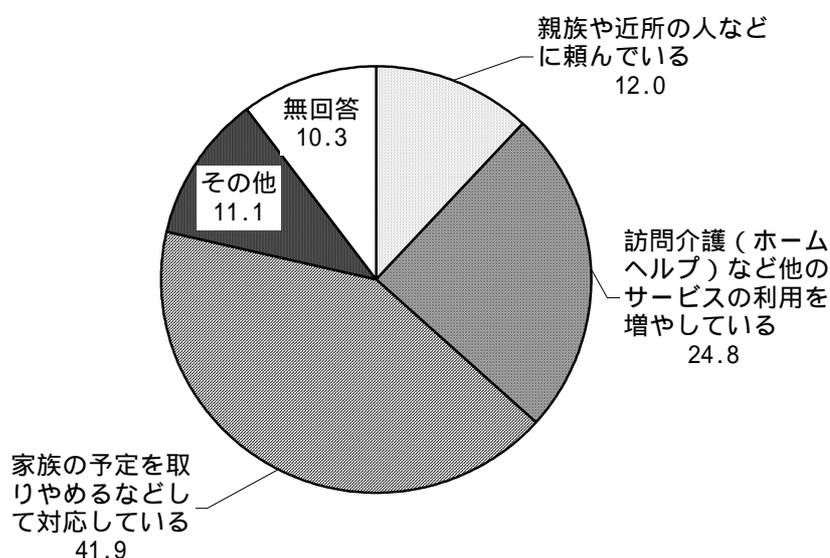
(問17で「2. 希望してもなかなか利用できない」「3. ほとんど希望どおりの利用はできない」と答えた方に)

問18. あなた(宛名の方ご本人)はショートステイを利用できない時どのように対応していますか。(は1つ)

図 - 4 - 4

回答者数 117人

単位：%



ショートステイを希望どおり利用できないと答えた人に、利用できない時の対応についてたずねたところ、「家族の予定を取りやめるなどして対応している」と答えた人が41.9%と最も多くなっている。以下、「訪問介護(ホームヘルプ)など他のサービスの利用を増やしている」と答えた人が24.8%、「親族や近所の人などに頼んでいる」と答えた人が12.0%となっている。

(図 - 4 - 4)

同居家族別では、ひとり暮らしの世帯では「訪問介護(ホームヘルプ)など他のサービスの利用を増やしている」と答えた人が40%強と高く、高齢者夫婦だけ、高齢者と子どもの2世代の世帯、高齢者と子どもと孫の3世代の世帯では「家族の予定を取りやめるなどして対応している」と答えた人が40%以上となっている。(表 - 4 - 4)

表 - 4 - 4 同居家族別

単位: %

	回答者数	頼親 んで族 いるや 近所 の人 など に	のブ訪 利用し問 を増介 や他の護 しての(ホ いるサーム ビヘル スル	るる家 な族の ど予 し定 てを 対取 をり んし てめ	そ の 他
全体	117	12.0	24.8	41.9	11.1
ひとり暮らし	24	25.0	41.7	12.5	12.5
高齢者夫婦だけ(1世代)	34	8.8	23.5	44.1	5.9
高齢者と子ども(2世代)	33	6.1	21.2	42.4	18.2
高齢者と子どもと孫(3世代)	17	17.6	11.8	58.8	11.8
その他	7	-	28.6	71.4	-

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

5 . 今後の在宅生活・施設入所希望について

(1) 今後の生活について

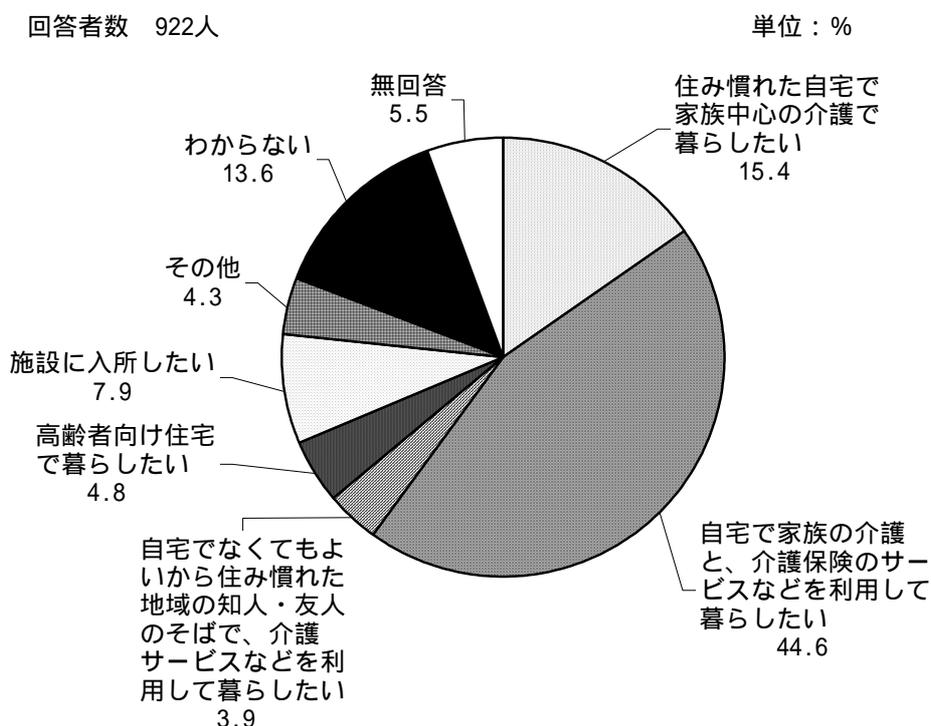
自宅での生活を望む人が 6 割

(全員の方に)

問 19 . あなた (宛名の方ご本人) は、今後の生活についてどのようにお考えですか。

(1 つ)

図 - 5 - 1



今後の生活については、「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用して暮らしたい」と答えた人が 44.6%で最も多く、次いで、「住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい」と答えた人が 15.4%となっており、6 割が住み慣れた地域で暮らしたいという意向を持っている。(図 - 5 - 1)

アンケート回答者別では、「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用して暮らしたい」と答えた人は、配偶者や子どもまたはその配偶者で高くなっている。(表 - 5 - 1)

性別では、「住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい」と答えた人が男性で 20.7%と女性 (13.2%) より高くなっている。(表 - 5 - 1)

年齢別では、「住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい」と答えた人は40～64歳で20%半ばと高くなっている。「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用して暮らしたい」と答えた人は40～64歳と85歳以上で50%前後と高くなっている。「自宅でなくてもよいから住み慣れた地域の知人・友人のそばで、介護サービスなどを利用して暮らしたい」は65～69歳で10%と他の年齢より高くなっている。(表 - 5 - 1)

要介護度別では、「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用して暮らしたい」と答えた人は、要介護3～4の人で60%台と高くなっている。(表 - 5 - 1)

同居家族別では、「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用して暮らしたい」と答えた人は、高齢者夫婦だけ、高齢者と子どもの2世代の世帯、高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で50%以上と高くなっている。(表 - 5 - 1)

主な介護者別では、配偶者、息子、娘、息子の配偶者を介護者とする人では「住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい」及び「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用して暮らしたい」と答えた人の割合が高いが、その他の方を介護者とする人では、「自宅でなくてもよいから住み慣れた地域の知人・友人のそばで、介護サービスなどを利用して暮らしたい」、「高齢者向け住宅で暮らしたい」、「施設に入所したい」の割合が高くなっている。また、介護者がいないとする人では「自宅でなくてもよいから住み慣れた地域の知人・友人のそばで、介護サービスなどを利用して暮らしたい」とする人が10%となっている。(表 - 5 - 1)

世帯収入別では、「住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい」及び「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用して暮らしたい」と答えた人は、世帯年収が高いほど高くなる傾向が見られる。「自宅でなくてもよいから住み慣れた地域の知人・友人のそばで、介護サービスなどを利用して暮らしたい」と「高齢者向け住宅で暮らしたい」は世帯年収が低いほど高くなる傾向が見られ、生活保護を受給している人で20%前後と高くなっている。また、「施設に入所したい」と答えた人は80万円以下の世帯で13.5%と高くなっている。(表 - 5 - 1)

表 - 5 - 1 アンケート回答者別、性別、年齢別、要介護度別、同居家族別、主な介護者別、世帯収入別

単位：%

	回答者数	住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい	自宅のサービスなどを利用し、保険のサービスなどを利用し、高齢者向け住宅で暮らしたい	自宅の地域の人から住み慣れた地域の知人・友人をそばで介護したい	高齢者向け住宅で暮らしたい	施設に入所したい	その他	わからない	
全体	922	15.4	44.6	3.9	4.8	7.9	4.3	13.6	
アンケート回答者別	本人	566	15.0	35.7	6.0	6.5	8.1	16.1	
	配偶者	98	19.4	61.2	-	3.1	5.1	5.1	
	子どもまたはその配偶者	215	15.3	60.0	0.5	1.4	7.4	11.6	
	孫またはその配偶者	5	20.0	60.0	-	-	-	20.0	
	兄弟姉妹	14	14.3	14.3	-	-	35.7	14.3	
	その他	11	18.2	54.5	-	9.1	-	9.1	
性別	男性	270	20.7	47.8	3.0	3.0	8.9	7.8	
	女性	644	13.2	43.2	4.2	5.6	7.6	16.0	
年齢別	40～64歳	51	25.5	49.0	-	3.9	7.8	7.8	
	65～69歳	55	16.4	41.8	10.9	5.5	5.5	14.5	
	70～74歳	79	13.9	40.5	3.8	8.9	5.1	15.2	
	75～79歳	155	11.6	40.6	1.9	9.7	8.4	16.1	
	80～84歳	232	16.8	37.9	6.0	3.4	9.5	14.2	
	85歳以上	342	14.9	51.2	2.6	2.6	7.9	12.6	
要介護度別	要支援1	171	18.1	31.0	4.1	5.8	8.2	19.9	
	要支援2	203	14.3	34.5	5.4	8.9	6.9	17.7	
	要介護1	78	17.9	51.3	9.0	2.6	6.4	6.4	
	要介護2	180	15.0	47.2	3.3	4.4	6.7	10.6	
	要介護3	127	14.2	63.0	-	2.4	9.4	7.9	
	要介護4	79	10.1	62.0	2.5	-	8.9	13.9	
	要介護5	54	18.5	51.9	-	3.7	11.1	7.4	
	ひとり暮らし	298	7.7	24.8	9.4	9.4	10.4	21.5	
同居家族別	高齢者夫婦だけ(1世代)	217	20.3	52.5	0.5	4.1	6.9	9.2	
	高齢者と子ども(2世代)	248	19.8	57.3	1.2	2.0	6.9	7.3	
	高齢者と子どもと孫(3世代)	96	17.7	58.3	-	1.0	6.3	14.6	
	その他	45	17.8	42.2	4.4	2.2	8.9	15.6	
	主な介護者別	配偶者	230	19.6	57.0	-	3.0	6.5	7.8
息子	104	21.2	50.0	2.9	1.9	4.8	2.9	10.6	
娘	174	14.4	58.0	0.6	5.2	7.5	1.7	10.3	
息子の配偶者	77	22.1	55.8	-	-	5.2	2.6	11.7	
孫またはその配偶者	6	33.3	50.0	-	-	-	-	-	
その他の方	116	6.9	25.9	10.3	10.3	17.2	5.2	18.1	
介護者はいない	174	9.8	24.1	10.3	7.5	6.9	10.9	23.6	
世帯収入別	生活保護を受給している	64	4.7	12.5	18.8	23.4	7.8	6.3	17.2
	80万円以下	52	11.5	34.6	5.8	5.8	13.5	5.8	19.2
	81万～200万円未満	221	11.3	38.9	5.4	4.1	10.0	7.2	17.2
	200万～500万円未満	348	16.4	50.0	1.7	3.7	8.0	4.0	11.2
	500万～800万円未満	103	18.4	64.1	-	1.9	3.9	-	8.7
	800万円以上	69	23.2	58.0	-	-	7.2	-	10.1

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 介護保険施設や有料老人ホームへの入所希望

入所希望がある人は3割強

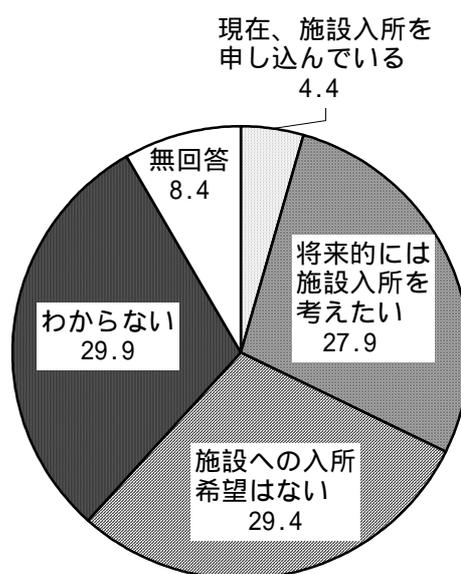
(全員の方に)

問 20 . あなた (宛名の方ご本人) は、介護保険施設や有料老人ホームに入所 (居) 希望がありますか。 (1 は 1 つ)

図 - 5 - 2

回答者数 922人

単位 : %



介護保険施設や有料老人ホームへの入所希望については、「現在、施設入所を申し込んでいる」と答えた人が 4.4%、「将来的には施設入所を考えたい」と答えた人が 27.9%となっている。一方、「施設への入所希望はない」と答えた人は 29.4%を占めるが、「わからない」と答えた人も 29.9%となっている。(図 - 5 - 2)

アンケート回答者別では、「施設への入所希望はない」と答えた人は、子どもまたはその配偶者で 40%と高くなっている。(表 - 5 - 2)

性別では、「施設への入所希望はない」と答えた人が男性で 34.1%と女性 (27.5%) より高くなっている。(表 - 5 - 2)

年齢別では、「施設への入所希望はない」と答えた人は 40~64 歳で 40%と高くなっている。75~84 歳では、「将来的には施設入所を考えたい」と答えた人が 30%前後となり、「施設への入所希望はない」と答えた人より高くなっている。(表 - 5 - 2)

要介護度別では、「現在、施設入所を申し込んでいる」と答えた人は、介護度が上がるほど高くなり、要介護4～5の人で10%台となっている。「将来的には施設入所を考えたい」と答えた人は、要支援1の人で30%強と高い。「施設への入所希望はない」と答えた人は、要介護3と5の人で30%半ばと高くなっている。(表 - 5 - 2)

同居家族別では、「施設への入所希望はない」と答えた人は、高齢者と子どもの2世代の世帯で40%弱と高くなっている。(表 - 5 - 2)

主な介護者別では、「将来的には施設入所を考えたい」と答えた人は、息子、息子の配偶者、その他の方を介護者とする人で30%台となっている。(表 - 5 - 2)

世帯収入別では、「現在、施設入所を申し込んでいる」と答えた人は、80万円以下の人で10%と高くなっている。「施設への入所希望はない」と答えた人は、800万円以上の40%弱と高くなっている。(表 - 5 - 2)

表 - 5 - 2 アンケート回答者別、性別、年齢別、要介護度別、同居家族別、主な介護者別、世帯収入別

単位：%

		回答者数	現在、施設入所を申し込んでいる	将来的には施設入所を考えた	施設への入所希望はない	わからない
全体		922	4.4	27.9	29.4	29.9
アンケート回答者別	本人	566	1.9	29.7	25.8	31.4
	配偶者	98	10.2	22.4	30.6	29.6
	子どもまたはその配偶者	215	7.9	24.7	39.5	26.0
	孫またはその配偶者	5	-	-	20.0	80.0
	兄弟姉妹	14	14.3	50.0	7.1	21.4
	その他	11	9.1	36.4	27.3	27.3
性別	男性	270	5.9	25.9	34.1	26.3
	女性	644	3.9	28.9	27.5	31.2
年齢別	40～64歳	51	7.8	25.5	39.2	25.5
	65～69歳	55	-	30.9	29.1	34.5
	70～74歳	79	7.6	25.3	34.2	25.3
	75～79歳	155	1.3	31.0	23.2	34.2
	80～84歳	232	4.3	28.9	24.1	32.3
	85歳以上	342	5.6	26.3	33.3	27.5
要介護度別	要支援1	171	0.6	33.9	25.7	26.9
	要支援2	203	1.5	28.1	27.1	32.5
	要介護1	78	5.1	28.2	25.6	35.9
	要介護2	180	5.6	22.2	30.6	34.4
	要介護3	127	6.3	29.1	37.0	26.8
	要介護4	79	10.1	29.1	30.4	24.1
	要介護5	54	13.0	22.2	35.2	22.2
同居家族別	ひとり暮らし	298	4.0	30.5	24.5	31.2
	高齢者夫婦だけ(1世代)	217	5.1	26.7	28.6	31.3
	高齢者と子ども(2世代)	248	4.8	24.2	38.3	27.4
	高齢者と子どもと孫(3世代)	96	5.2	30.2	26.0	32.3
	その他	45	2.2	33.3	24.4	28.9
主な介護者別	配偶者	230	6.1	24.8	31.7	30.0
	息子	104	3.8	35.6	35.6	16.3
	娘	174	5.2	22.4	33.9	35.1
	息子の配偶者	77	5.2	31.2	32.5	27.3
	孫またはその配偶者	6	-	-	33.3	50.0
	その他の方	116	6.0	37.1	21.6	29.3
	介護者はいない	174	1.7	27.6	23.6	35.6
世帯収入別	生活保護を受給している	64	7.8	28.1	17.2	35.9
	80万円以下	52	9.6	17.3	32.7	32.7
	81万～200万円未満	221	3.2	29.9	31.2	29.0
	200万～500万円未満	348	4.9	29.3	27.6	30.7
	500万～800万円未満	103	2.9	25.2	34.0	32.0
	800万円以上	69	5.8	29.0	37.7	26.1

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(3) 希望する施設

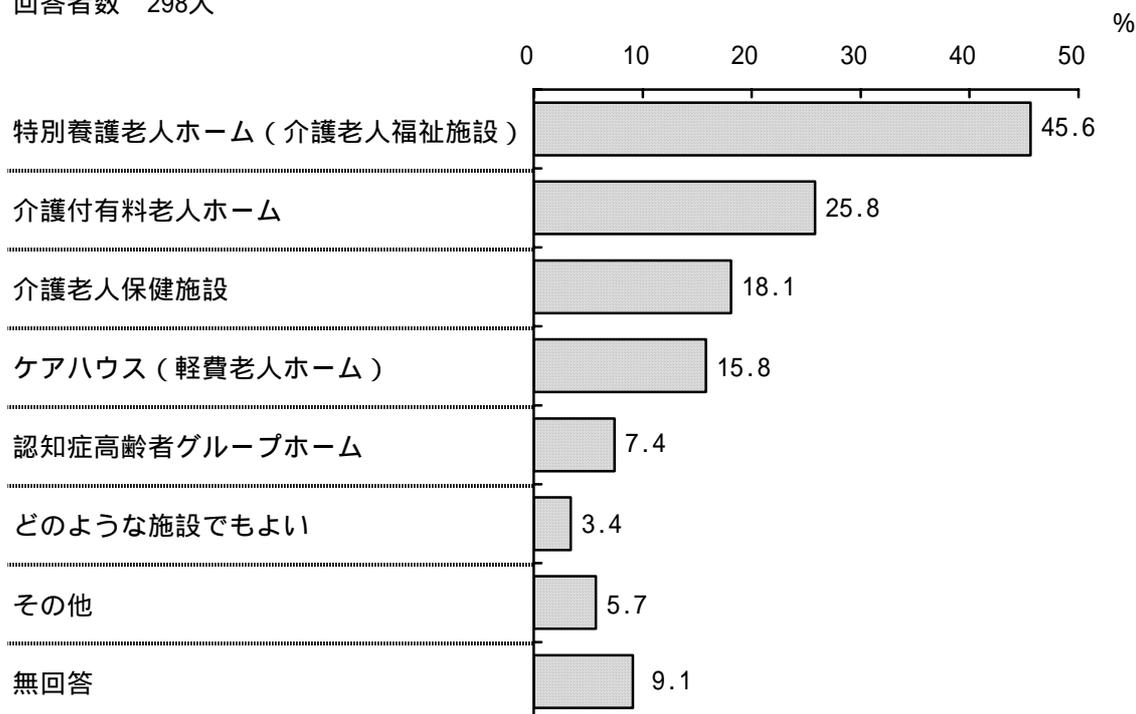
「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)」が4割半

(問20で「1. 現在、施設入所を申し込んでいる」「2. 将来的には施設入所を考えたい」と答えた方に)

問21. あなた(宛名の方ご本人)が入所(居)を希望されている施設はどのような施設ですか。
(希望するもの2つに)

図 - 5 - 3

回答者数 298人



施設の入所希望がある人に、どのような施設を希望しているかたずねたところ、「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)」(45.6%)が最も多く、以下、「介護付有料老人ホーム」(25.8%)、「介護老人保健施設」(18.1%)、「ケアハウス(軽費老人ホーム)」(15.8%)、「認知症高齢者グループホーム」(7.4%)の順になっている。(図 - 5 - 3)

性別では、「介護老人保健施設」(男性25.6%、女性15.2%)は男性のほうが高く、「ケアハウス(軽費老人ホーム)」(男性8.1%、女性19.0%)は女性のほうが高くなっている。(表 - 5 - 3)

年齢別では、「介護付有料老人ホーム」は85歳以上で30%強となっている。(表 - 5 - 3)

要介護度別では、「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)」は要介護3～5で60%台となっ

ている。「介護付有料老人ホーム」と「ケアハウス（軽費老人ホーム）」は要支援1～2の人で高くなっている。（表 - 5 - 3）

表 - 5 - 3 性別、年齢別、要介護度別

単位：%

		回答者数	特別養護老人ホーム （介護老人福祉施設）	介護付有料老人ホーム	介護老人保健施設	ケアハウス （軽費老人ホーム）	認知症高齢者グループ ホーム	どのような施設でもよい	その他
全体		298	45.6	25.8	18.1	15.8	7.4	3.4	5.7
性別	男性	86	50.0	23.3	25.6	8.1	4.7	1.2	8.1
	女性	211	44.1	27.0	15.2	19.0	8.5	4.3	4.7
年齢別	40～64歳	17	76.5	5.9	23.5	11.8	5.9	-	11.8
	65～69歳	17	35.3	29.4	29.4	17.6	5.9	-	5.9
	70～74歳	26	26.9	23.1	7.7	23.1	11.5	3.8	11.5
	75～79歳	50	52.0	24.0	14.0	22.0	6.0	6.0	12.0
	80～84歳	77	37.7	24.7	20.8	10.4	6.5	6.5	3.9
	85歳以上	109	50.5	31.2	17.4	15.6	8.3	0.9	1.8
要介護度別	要支援1	59	28.8	42.4	15.3	25.4	1.7	6.8	8.5
	要支援2	60	30.0	31.7	23.3	30.0	3.3	-	1.7
	要介護1	26	42.3	15.4	7.7	7.7	7.7	7.7	15.4
	要介護2	50	52.0	24.0	22.0	10.0	12.0	4.0	6.0
	要介護3	45	68.9	17.8	13.3	11.1	15.6	2.2	4.4
	要介護4	31	61.3	16.1	32.3	3.2	9.7	-	-
	要介護5	19	68.4	10.5	5.3	-	5.3	-	10.5

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(4) 将来施設に入所したい理由

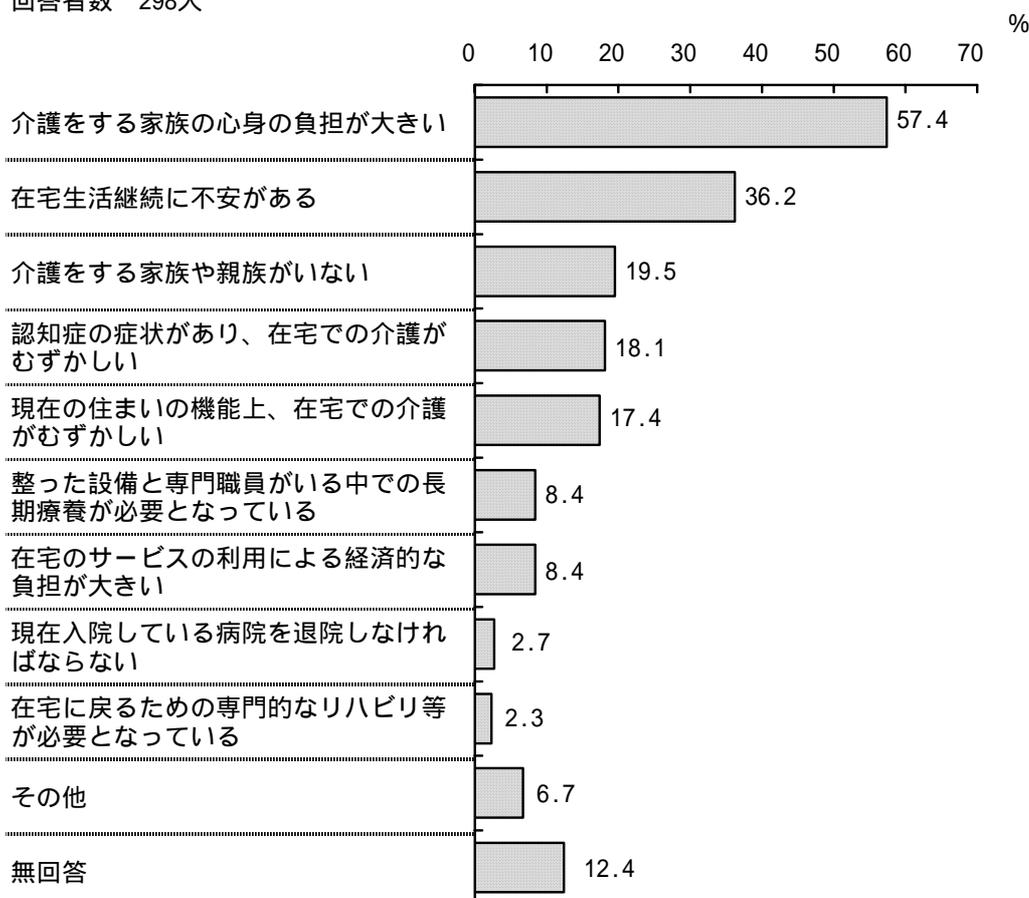
「介護をする家族の心身の負担が大きい」が6割弱

(問20で「1. 現在、施設入所を申し込んでいる」「2. 将来的には施設入所を考えたい」と答えた方に)

問22. あなた(宛名の方ご本人)が現在、または将来施設に入所(居)したいとお考えの理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 5 - 4

回答者数 298人



入所希望がある人に施設に入所したい理由をたずねたところ、「介護をする家族の心身の負担が大きい」(57.4%)が最も多く、次いで、「在宅生活継続に不安がある」(36.2%)があげられている。以下、「介護をする家族や親族がいない」(19.5%)、「認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい」(18.1%)、「現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい」(17.4%)等があげられている。(図 - 5 - 4)

アンケート回答者別では、「介護をする家族や親族がいない」と答えた人は、本人が回答している人で30%弱と高くなっているが、「介護をする家族の心身の負担が大きい」や「認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい」は本人以外の家族が回答している人で高くなっている。(表 - 5 - 4)

性別では、「介護をする家族の心身の負担が大きい」と答えた人が男性で 67.4%と女性（53.6%）より高くなっている。（表 - 5 - 4）

年齢別では、「介護をする家族の心身の負担が大きい」、「認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい」と答えた人は 85 歳以上で高くなっている。（表 - 5 - 4）

要介護度別では、「介護をする家族の心身の負担が大きい」、「認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい」と答えた人は、要介護 3～4 の人で高くなっている。（表 - 5 - 4）

同居家族別では、「介護をする家族の心身の負担が大きい」、「認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい」と答えた人は、高齢者夫婦だけ、高齢者と子どもの 2 世代の世帯、高齢者と子どもと孫の 3 世代の世帯で高くなっている。一方、ひとり暮らしの世帯では「在宅生活継続に不安がある」、「介護をする家族や親族がいない」が高くなっている。（表 - 5 - 4）

表 - 5 - 4 アンケート回答者別、性別、年齢別、要介護度別、同居家族別

単位：%

	回答者数	の介護をする家族の心身の負担が大きい	在宅生活継続に不安がある	が介護をする家族や親族がいない	在宅での介護がむずかしい	認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい	現在の在宅での介護がむずかしい	現在の在宅での介護がむずかしい	現在の在宅での介護がむずかしい	現在の在宅での介護がむずかしい	現在の在宅での介護がむずかしい	現在の在宅での介護がむずかしい
全体	298	57.4	36.2	19.5	18.1	17.4	8.4	8.4	2.7	2.3	6.7	
回答者別	本人	179	45.3	36.3	26.8	3.4	16.2	6.1	6.1	0.6	2.2	8.4
	配偶者	32	81.3	34.4	9.4	40.6	18.8	15.6	9.4	3.1	3.1	
	子どもまたはその配偶者	70	78.6	38.6	2.9	44.3	20.0	11.4	12.9	5.7	2.9	5.7
	兄弟姉妹	9	77.8	44.4	44.4	22.2	11.1	11.1	-	-	-	-
	その他	5	20.0	-	20.0	40.0	20.0	-	-	-	-	-
性別	男性	86	67.4	33.7	16.3	19.8	18.6	12.8	12.8	5.8	1.2	7.0
	女性	211	53.6	37.4	20.9	17.5	17.1	6.6	6.6	1.4	2.8	6.6
年齢別	40～64歳	17	94.1	23.5	-	29.4	17.6	11.8	29.4	17.6	-	11.8
	65～69歳	17	41.2	47.1	41.2	5.9	5.9	11.8	5.9	-	-	11.8
	70～74歳	26	57.7	42.3	26.9	23.1	19.2	15.4	11.5	3.8	3.8	-
	75～79歳	50	46.0	40.0	30.0	10.0	12.0	4.0	6.0	-	2.0	12.0
	80～84歳	77	48.1	32.5	23.4	13.0	22.1	7.8	3.9	-	2.6	9.1
	85歳以上	109	66.1	36.7	10.1	24.8	18.3	8.3	9.2	3.7	2.8	2.8
要介護度別	要支援1	59	54.2	37.3	23.7	5.1	13.6	5.1	6.8	-	-	6.8
	要支援2	60	38.3	38.3	33.3	6.7	20.0	5.0	5.0	-	3.3	6.7
	要介護1	26	42.3	53.8	19.2	15.4	19.2	7.7	7.7	-	3.8	-
	要介護2	50	66.0	30.0	20.0	26.0	22.0	10.0	8.0	2.0	-	4.0
	要介護3	45	73.3	37.8	11.1	33.3	20.0	13.3	8.9	8.9	-	15.6
	要介護4	31	80.6	35.5	6.5	35.5	16.1	9.7	9.7	3.2	12.9	-
	要介護5	19	68.4	26.3	5.3	21.1	10.5	15.8	21.1	10.5	-	15.8
同居家族別	ひとり暮らし	103	31.1	42.7	40.8	4.9	18.4	4.9	2.9	1.9	1.9	7.8
	高齢者夫婦だけ(1世代)	69	63.8	29.0	14.5	20.3	15.9	10.1	8.7	1.4	2.9	7.2
	高齢者と子ども(2世代)	72	84.7	38.9	4.2	23.6	20.8	11.1	16.7	4.2	-	6.9
	高齢者と子どもと孫(3世代)	34	73.5	23.5	-	44.1	14.7	11.8	5.9	5.9	8.8	2.9
	その他	16	56.3	50.0	12.5	18.8	6.3	6.3	6.3	-	-	6.3

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

6 . 地域包括支援センターについて

(1) 地域包括支援センターへの相談の有無

相談したことがある人は4割

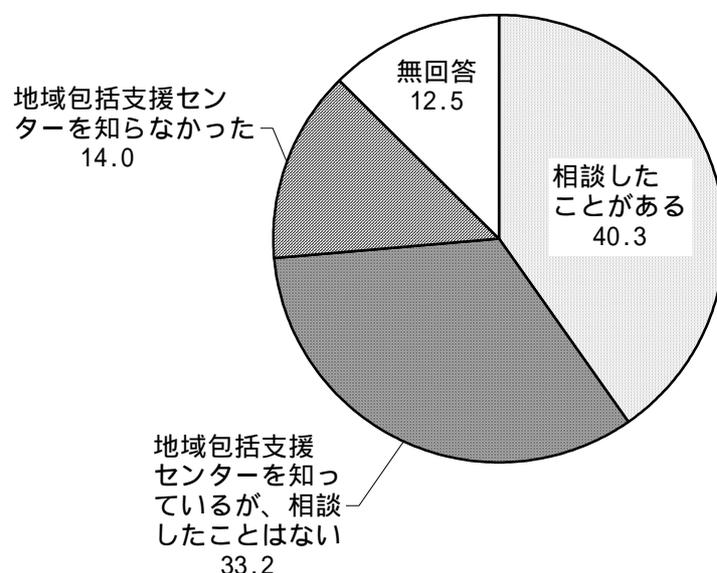
(全員の方に)

問 23 . 区は、区内に 8 か所の地域包括支援センターを設置して、介護サービス利用の他、高齢者の総合相談を受けています。あなた (宛名の方ご本人) は地域包括支援センターに相談したことはありますか。(〃 は 1 つ)

図 - 6 - 1

回答者数 922人

単位 : %



地域包括支援センターに「相談したことがある」と答えた人が 40.3%、「地域包括支援センターを知っているが、相談したことはない」と答えた人と合わせると、73.5%の人が地域包括支援センターを知っている結果となった。「地域包括支援センターを知らなかった」と答えた人は 14.0%となっている。(図 - 6 - 1)

性別では、地域包括支援センターを知っている人の割合は女性のほうが高く、「地域包括支援センターを知らなかった」と答えた人は男性で 17.0%と女性(12.9%)より高くなっている。(表 - 6 - 1)

年齢別では、「相談したことがある」と答えた人は 70~74 歳で 50%強と最も高く、75~84 歳で 40%台、40~69 歳と 85 歳以上で 40%弱となっている。一方、「地域包括支援センターを知らなかった」と答えた人は 65~69 歳で 20%強と高くなっている。(表 - 6 - 1)

要介護度別では、「相談したことがある」と答えた人は、要支援 2 の人で 50%強と高くなっ

ている。「地域包括支援センターを知っているが、相談したことはない」と答えた人は要介護4の人で40%強と高い。また、「地域包括支援センターを知らなかった」と答えた人は要介護3の人で20%強と高くなっている。(表 - 6 - 1)

同居家族別では、「相談したことがある」と答えた人は、高齢者夫婦だけの人で40%半ばと高い。「地域包括支援センターを知っているが、相談したことはない」と答えた人は、高齢者と子どもの2世代の世帯で40%と高くなっている。また、「地域包括支援センターを知らなかった」と答えた人は、ひとり暮らしの世帯と高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で20%弱と高くなっている。(表 - 6 - 1)

介護保険制度への不満別では、「相談したことがある」と答えた人は、要介護認定について納得できないとする人、サービスを利用する手続きが複雑とする人で高くなっている。(表 - 6 - 1)

表 - 6 - 1 性別、年齢別、要介護度別、同居家族別、介護保険制度への不満別

単位：%

		回答者数	が相談したことがある	は相談したいことがある	地域包括支援センターを知っている
全体		922	40.3	33.2	14.0
性別	男性	270	38.5	30.4	17.0
	女性	644	41.0	34.5	12.9
年齢別	40～64歳	51	37.3	43.1	13.7
	65～69歳	55	36.4	38.2	21.8
	70～74歳	79	53.2	19.0	15.2
	75～79歳	155	40.6	29.0	15.5
	80～84歳	232	42.2	31.5	11.6
	85歳以上	342	37.1	37.1	13.5
要介護度別	要支援1	171	42.7	33.9	9.4
	要支援2	203	51.7	27.6	6.9
	要介護1	78	41.0	33.3	16.7
	要介護2	180	33.9	35.0	16.1
	要介護3	127	34.6	37.8	22.8
	要介護4	79	34.2	41.8	15.2
	要介護5	54	40.7	35.2	16.7
同居家族別	ひとり暮らし	298	38.3	32.6	17.4
	高齢者夫婦だけ(1世代)	217	45.6	27.6	12.4
	高齢者と子ども(2世代)	248	39.1	39.1	9.7
	高齢者と子どもと孫(3世代)	96	36.5	34.4	18.8
	その他	45	44.4	28.9	15.6
介護保険制度への不満別	要介護認定について納得できない	180	50.0	33.3	10.6
	サービスの質が悪い	67	38.8	41.8	16.4
	サービスを利用する手続きが複雑	206	45.6	30.6	16.5
	利用料が高い	102	40.2	31.4	21.6
	介護保険料が高い	204	42.2	30.4	16.2
	その他	69	46.4	36.2	14.5
	不満な点はない	204	38.2	39.2	12.7

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 相談した感想

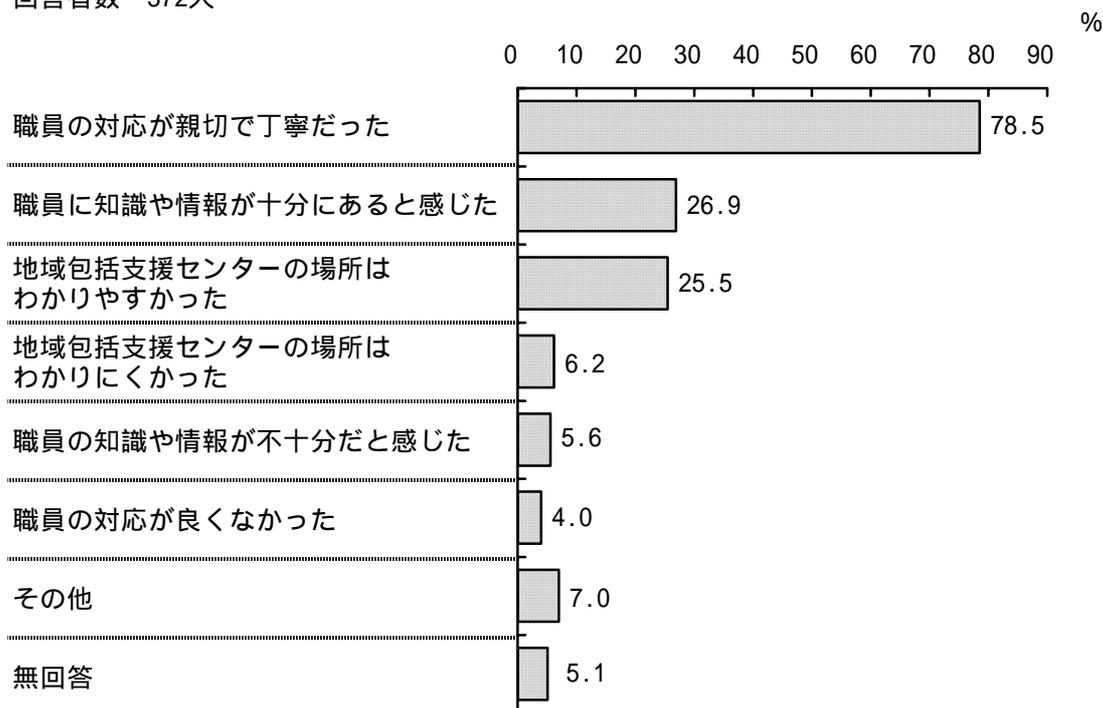
よい評価が多く「職員の対応が親切で丁寧だった」は8割弱

(問 23 で「 1 . 相談したことがある」と答えた方に)

問 24 . 相談してみていかがでしたか。(あてはまるものすべてに)

図 - 6 - 2

回答者数 372人



地域包括支援センターに相談したことがある人に感想をたずねたところ、「職員の対応が親切で丁寧だった」と答えた人が 78.5%と最も多く、次いで、「職員に知識や情報が十分にあると感じた」(26.9%)、「地域包括支援センターの場所はわかりやすかった」(25.5%)とよい評価が得られている。一方、「地域包括支援センターの場所はわかりにくかった」(6.2%)、「職員の知識や情報が不十分だと感じた」(5.6%)、「職員の対応が良くなかった」(4.0%)などよくない評価はいずれも1割未満となっている。(図 - 6 - 2)

性別では、大きな差は見られない。(表 - 6 - 2)

年齢別では、「職員の対応が親切で丁寧だった」と答えた人はすべての年齢で60%以上となっている。「職員に知識や情報が十分にあると感じた」と答えた人は、75～79歳で40%強と高くなっている。(表 - 6 - 2)

要介護度別では、「職員の対応が親切で丁寧だった」と答えた人は要支援1～要介護1の人

で 80%以上となっている。「職員に知識や情報が十分にあると感じた」と答えた人は、要介護1の人で40%弱と高くなっている。(表 - 6 - 2)

表 - 6 - 2 性別、年齢別、要介護度別

		単位：%							
		回答者数	で職員 丁寧の 対応が 親切	じが職 員に知 識や情 感報	りや すか 場所 は援 わセ かん	りや すか 場所 は援 わセ かん	たが職 員に 十分 な知 識と 感情 情報	な職 員の 対応 が良 く	そ の 他
全体		372	78.5	26.9	25.5	6.2	5.6	4.0	7.0
性別	男性	104	78.8	26.0	23.1	6.7	4.8	3.8	6.7
	女性	264	78.4	27.3	26.5	6.1	6.1	4.2	7.2
年齢別	40～64歳	19	78.9	10.5	21.1	5.3	10.5	-	21.1
	65～69歳	20	60.0	20.0	30.0	10.0	-	10.0	10.0
	70～74歳	42	71.4	21.4	16.7	4.8	11.9	9.5	2.4
	75～79歳	63	82.5	42.9	23.8	11.1	-	-	7.9
	80～84歳	98	78.6	24.5	27.6	8.2	4.1	5.1	7.1
	85歳以上	127	81.1	26.0	27.6	2.4	7.9	3.1	5.5
要介護度別	要支援1	73	83.6	27.4	24.7	2.7	5.5	5.5	9.6
	要支援2	105	81.9	29.5	28.6	8.6	2.9	1.0	6.7
	要介護1	32	81.3	37.5	21.9	12.5	-	-	12.5
	要介護2	61	72.1	23.0	27.9	4.9	11.5	4.9	3.3
	要介護3	44	77.3	20.5	22.7	6.8	11.4	4.5	9.1
	要介護4	27	77.8	22.2	22.2	3.7	3.7	7.4	3.7
	要介護5	22	63.6	31.8	27.3	4.5	4.5	9.1	4.5

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

7. 介護保険制度について

(1) ケアマネジャーの対応について

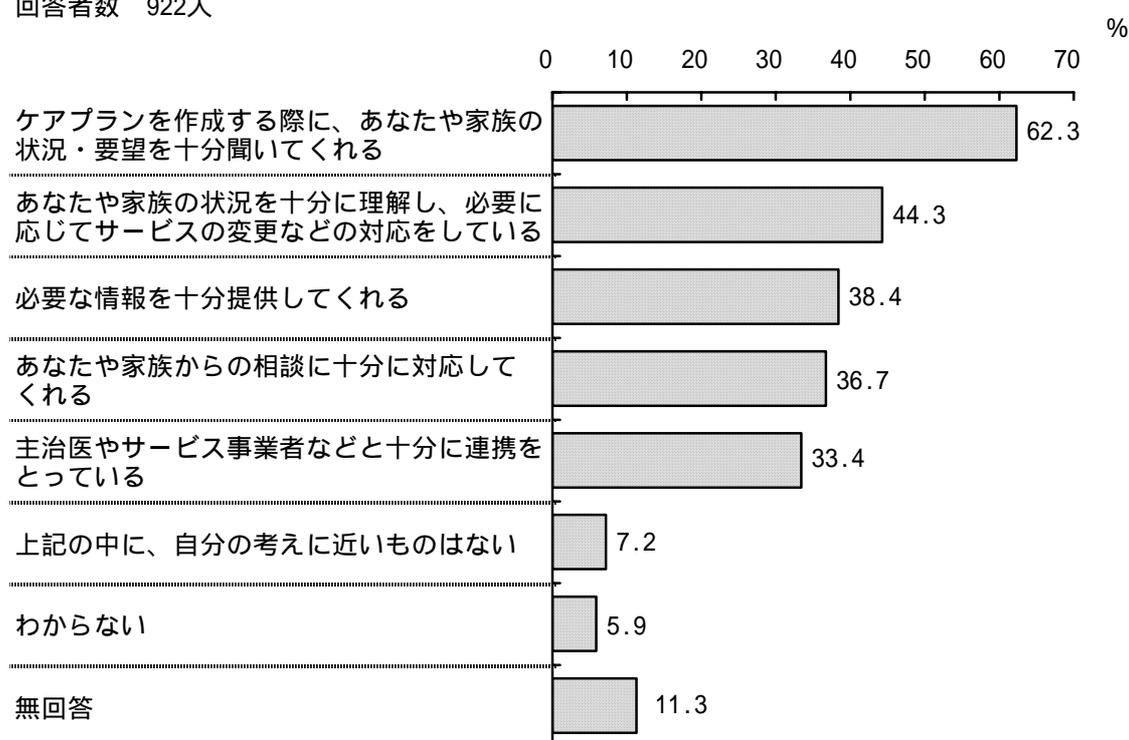
状況や要望を十分聞いてくれると答えた人が6割強

(全員の方に)

問25. ケアマネジャーの対応について伺います。次の中で、あなた(宛名の方ご本人)のお考えに最も近いものすべてに をつけてください。(あてはまるものすべてに)

図 - 7 - 1

回答者数 922人



ケアマネジャーの対応については、「ケアプランを作成する際に、あなたや家族の状況・要望を十分聞いてくれる」(62.3%)が最も多く、以下、「あなたや家族の状況を十分に理解し、必要に応じてサービスの変更などの対応をしている」(44.3%)、「必要な情報を十分提供してくれる」(38.4%)、「あなたや家族からの相談に十分に対応してくれる」(36.7%)が続いている。(図 - 7 - 1)

性別では、具体的な項目は女性より男性のほうが高く、特に「あなたや家族からの相談に十分に対応してくれる」(男性43.7%、女性33.5%)、「主治医やサービス事業者などと十分に連携をとっている」(男39.3%、女性30.9%)は差が10ポイント前後となっている。(表 - 7 - 1)

年齢別では、「必要な情報を十分提供してくれる」と「主治医やサービス事業者などと十分

に連携をとっている」は65～69歳で50%近くと高くなっている。(表 - 7 - 1)

要介護度別では、「ケアプランを作成する際に、あなたや家族の状況・要望を十分聞いてくれる」は介護度が上がるにつれて高くなり、要介護4で最も高く80%弱となっている。(表 - 7 - 1)

表 - 7 - 1 性別、年齢別、要介護度別

単位:%

		回答者数	て状ケ く況ア れる・プ 望ラン を作成 十分に 聞いて	ての必 い変要 る更に るな の に 応 じ て サ ー ビ ス	し必要 てな く情 れ報 を 十分 提供	れ談あ るにな 十分た にや 対家 応族 しから ての く相	と者主 っ治 て医 いとや る十分 にサ にー 連ビ 携ス を業	え上 に記 近の中 いもの は、自 ない分の 考	わ か ら ない
全体		922	62.3	44.3	38.4	36.7	33.4	7.2	5.9
性別	男性	270	65.6	47.8	40.4	43.7	39.3	7.4	4.4
	女性	644	61.2	42.4	37.4	33.5	30.9	7.1	6.5
年齢別	40～64歳	51	60.8	39.2	27.5	47.1	21.6	11.8	9.8
	65～69歳	55	58.2	38.2	49.1	36.4	45.5	12.7	5.5
	70～74歳	79	54.4	41.8	35.4	34.2	30.4	12.7	7.6
	75～79歳	155	64.5	48.4	41.3	35.5	34.2	7.1	3.9
	80～84歳	232	62.5	43.1	40.1	33.6	32.3	5.2	5.2
	85歳以上	342	64.6	44.7	36.5	38.0	34.2	5.8	6.1
要介護度別	要支援1	171	54.4	27.5	32.7	22.2	18.7	7.6	5.8
	要支援2	203	57.1	38.4	36.0	31.0	28.6	6.9	6.4
	要介護1	78	61.5	48.7	37.2	34.6	34.6	2.6	6.4
	要介護2	180	68.9	55.0	45.0	45.6	42.2	4.4	5.0
	要介護3	127	69.3	54.3	45.7	48.8	43.3	11.0	6.3
	要介護4	79	77.2	51.9	45.6	46.8	39.2	7.6	5.1
	要介護5	54	66.7	46.3	29.6	44.4	42.6	13.0	3.7

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) ケアプランについて不満に思うこと

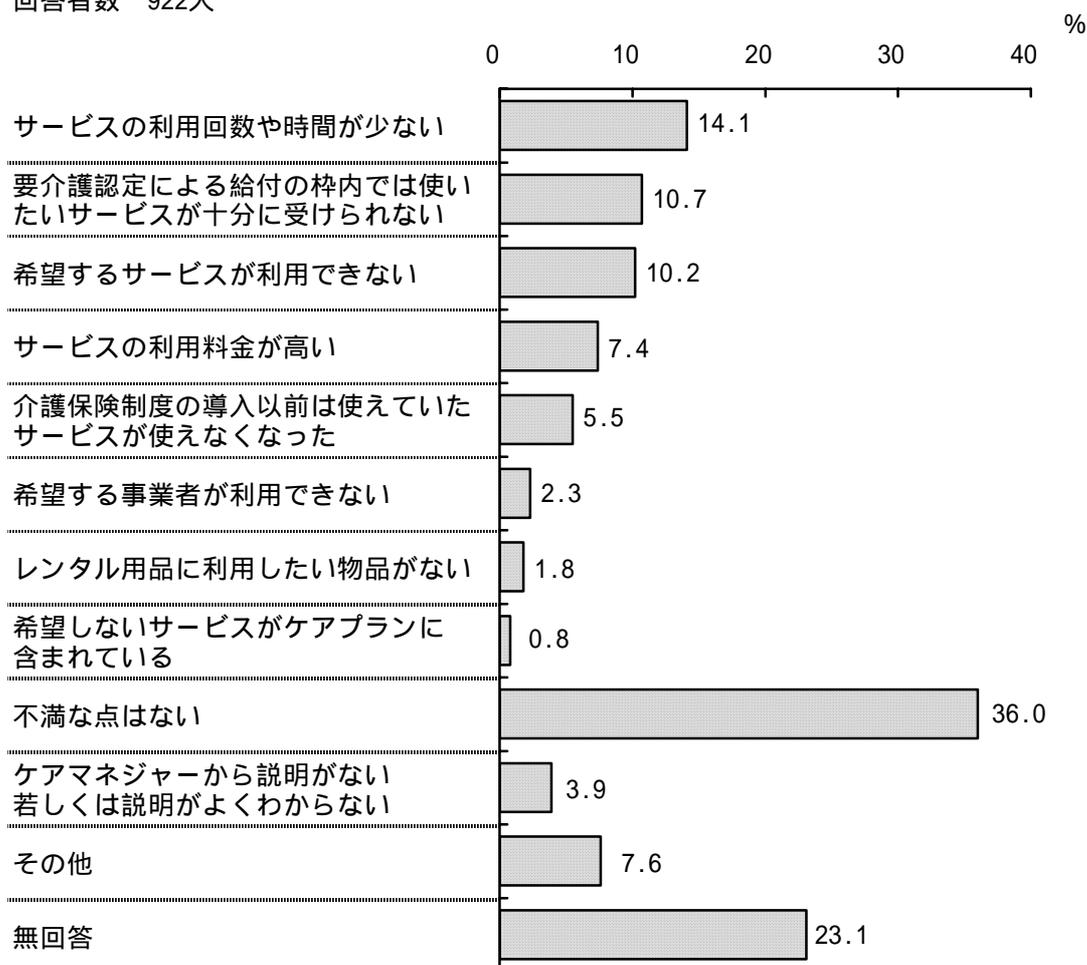
不満がない人が3割半

(全員の方に)

問26. ケアプランについて伺います。あなた(宛名の方ご本人)が、ケアプランについて不満とすることを次の中から選んでください。(あてはまるものすべてに)

図 - 7 - 2

回答者数 922人



ケアプランについては、「不満な点はない」(36.0%)と答えた人が最も多い結果となった。不満と思うこととしては、「サービスの利用回数や時間が少ない」(14.1%)が最も多く、次いで、「要介護認定による給付の枠内では使いたいサービスが十分に受けられない」(10.7%)、「希望するサービスが利用できない」(10.2%)があげられている。(図 - 7 - 2)

性別では、「希望するサービスが利用できない」が女性で11.8%と男性(6.3%)より高くなっている。(表 - 7 - 2)

年齢別では、「サービスの利用回数や時間が少ない」と答えた65歳以上で10%以上となっている。「希望するサービスが利用できない」は65～69歳で20%近くと高くなっている。「サービスの利用料金が高い」は40～64歳で10%半ばと高くなっている。(表 - 7 - 2)

表 - 7 - 2 性別、年齢別

単位: %

		回答者数	サービスの利用回数や時間が少ない	要介護認定給付の枠内でサービスが十分に受けられない	希望するサービスが利用できない	サービスの利用料金が高い	介護保険制度導入以前のサービスが使えなくなった	ケアマネジャーから説明がない・説明がよくわからない	希望する事業者が利用できない	レンタル用品に利用したい物品がない	希望しないサービスがケアプランに含まれている	不満な点はない	その他
全体		922	14.1	10.7	10.2	7.4	5.5	3.9	2.3	1.8	0.8	36.0	7.6
性別	男性	270	13.0	8.9	6.3	8.5	4.8	3.7	3.3	1.1	1.5	37.4	8.1
	女性	644	14.3	11.5	11.8	6.8	5.9	4.0	1.9	2.2	0.5	35.4	7.5
年齢別	40～64歳	51	5.9	2.0	7.8	15.7	2.0	2.0	5.9	2.0	2.0	41.2	11.8
	65～69歳	55	16.4	5.5	18.2	7.3	9.1	7.3	-	1.8	-	40.0	10.9
	70～74歳	79	11.4	16.5	11.4	5.1	6.3	2.5	-	3.8	1.3	31.6	11.4
	75～79歳	155	12.3	14.2	9.7	7.1	6.5	3.2	1.9	2.6	1.3	34.2	11.0
	80～84歳	232	14.7	9.1	6.9	5.6	5.2	3.4	3.0	0.4	-	40.5	3.4
	85歳以上	342	15.8	11.1	11.4	8.2	5.0	4.7	2.3	2.0	0.9	33.6	7.0

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(3) ヘルパーについて

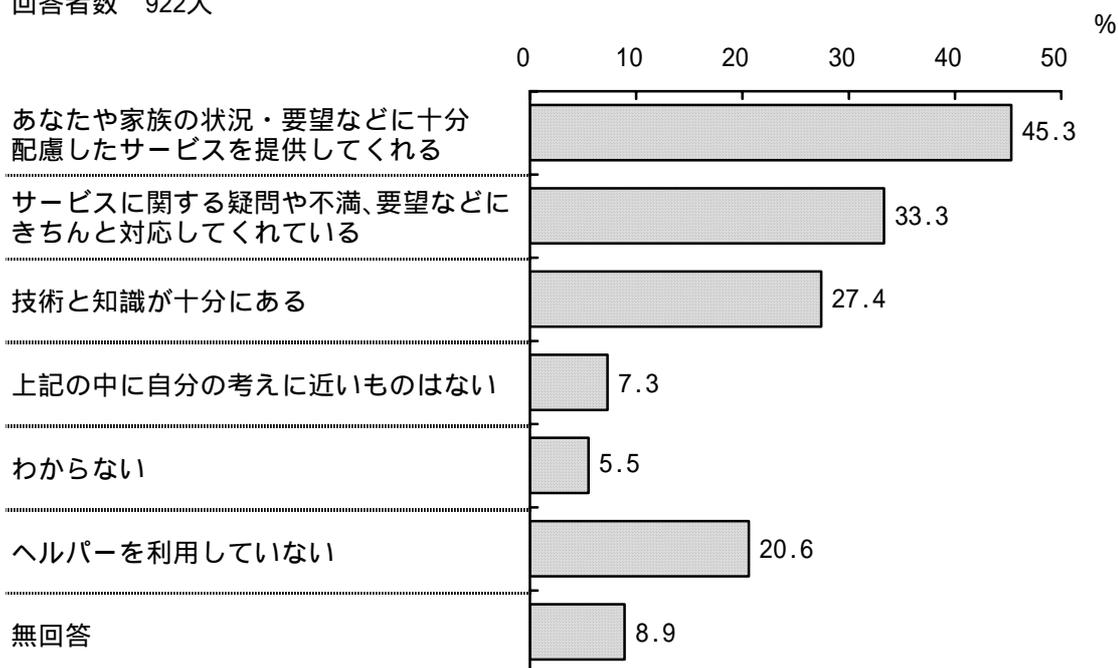
状況や要望に十分配慮したサービスだと答えた人が4割半

(全員の方に)

問27. ヘルパーについて伺います。次の中で、あなた(宛名の方ご本人)のお考えに最も近いもの、すべてにをつけてください。(あてはまるものすべてに)

図 - 7 - 3

回答者数 922人



ヘルパーについては、「あなたや家族の状況・要望などに十分配慮したサービスを提供してくれる」(45.3%)が最も多く、以下、「サービスに関する疑問や不満、要望などにきちんと対応してくれている」(33.3%)、「技術と知識が十分にある」(27.4%)の順になっている。(図 - 7 - 3)

性別では、具体的な項目は男性より女性のほうが高くなっている。(表 - 7 - 3)

年齢別では、具体的な項目はいずれも75~79歳で最も高くなっている。(表 - 7 - 3)

要介護度別では、「あなたや家族の状況・要望などに十分配慮したサービスを提供してくれる」は要支援1の人で50%半ばと高くなっている。「サービスに関する疑問や不満、要望などにきちんと対応してくれている」と「技術と知識が十分にある」は要支援2の人で最も高くなっている。(表 - 7 - 3)

表 - 7 - 3 性別、年齢別、要介護度別

単位：%

		回答者数	状況を たされ たサ ービス を提 供し てい る	状況 ・要 望に 十分 配慮 して いる	サ ー ビ ス に 関 する 疑 問 に 対 し て は あ ら ず	技術 と知 識が 十分 にあ る	上記 の中 には 自分 の考 えが ない	わか らな い	ヘル パー を利 用し てい ない
全体		922	45.3	33.3	27.4	7.3	5.5	20.6	
性別	男性	270	41.5	31.1	23.3	5.2	7.0	24.4	
	女性	644	46.7	34.0	28.9	8.2	4.8	19.1	
年齢別	40～64歳	51	29.4	17.6	17.6	13.7	11.8	31.4	
	65～69歳	55	34.5	29.1	27.3	12.7	9.1	27.3	
	70～74歳	79	38.0	35.4	21.5	8.9	3.8	22.8	
	75～79歳	155	51.6	38.1	35.5	7.7	4.5	15.5	
	80～84歳	232	46.6	34.1	27.6	4.7	4.3	19.8	
	85歳以上	342	47.1	32.7	26.0	6.7	5.6	20.8	
要介護度別	要支援1	171	55.6	35.1	30.4	7.0	5.8	9.9	
	要支援2	203	47.8	41.4	35.5	6.4	4.4	13.3	
	要介護1	78	38.5	30.8	16.7	5.1	10.3	21.8	
	要介護2	180	41.7	31.7	27.2	6.1	6.7	28.3	
	要介護3	127	36.2	26.8	26.0	6.3	4.7	37.0	
	要介護4	79	50.6	31.6	21.5	11.4	3.8	21.5	
	要介護5	54	40.7	31.5	18.5	14.8	1.9	16.7	

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(4) デイサービスの職員について

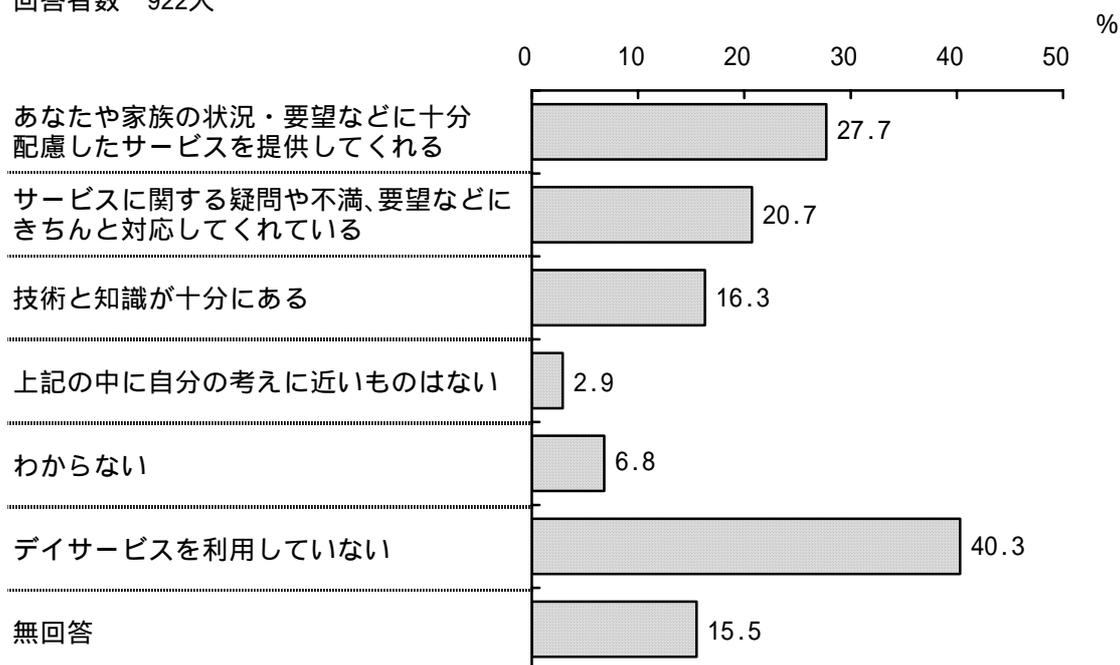
状況や要望に十分配慮したサービスだと答えた人が3割弱

(全員の方に)

問28. デイサービスの職員について伺います。次の中で、あなた(宛名の方ご本人)のお考えに最も近いもの、すべてに をつけてください。(あてはまるものすべてに)

図 - 7 - 4

回答者数 922人



デイサービスの職員については、「あなたや家族の状況・要望などに十分配慮したサービスを提供してくれる」(27.7%)が最も多く、次いで、「サービスに関する疑問や不満、要望などにきちんと対応してくれている」(20.7%)、「技術と知識が十分にある」(16.3%)の順になっている。(図 - 7 - 4)

性別では、大きな差は見られない。(表 - 7 - 4)

年齢別では、「あなたや家族の状況・要望などに十分配慮したサービスを提供してくれる」と「サービスに関する疑問や不満、要望などにきちんと対応してくれている」は85歳以上で最も高くなっている。「技術と知識が十分にある」は65~69歳で最も高い。(表 - 7 - 4)

要介護度別では、具体的な項目は要介護3の人で最も高くなっている。(表 - 7 - 4)

表 - 7 - 4 性別、年齢別、要介護度別

単位：%

		回答者数	状況を 把握し たい	サービス に関する 疑問	技術と 知識が 十分に ある	上記の 中自分 の考え に近い ものは ない	わから ない	デー タイ サー ビス を利 用し ない
全体		922	27.7	20.7	16.3	2.9	6.8	40.3
性別	男性	270	28.5	18.9	16.7	5.9	9.3	32.6
	女性	644	27.3	21.4	16.1	1.7	5.7	43.8
年齢別	40～64歳	51	29.4	21.6	13.7	2.0	9.8	47.1
	65～69歳	55	25.5	18.2	20.0	9.1	7.3	45.5
	70～74歳	79	20.3	16.5	17.7	1.3	11.4	43.0
	75～79歳	155	20.6	14.2	12.3	2.6	6.5	47.1
	80～84歳	232	25.9	21.6	16.8	1.7	5.2	41.4
	85歳以上	342	33.9	24.3	17.0	3.5	6.4	34.5
要介護度別	要支援1	171	12.9	14.0	9.4	1.8	5.8	52.0
	要支援2	203	21.2	15.8	13.8	3.0	4.4	47.8
	要介護1	78	33.3	21.8	19.2	3.8	9.0	33.3
	要介護2	180	36.1	22.8	19.4	2.8	8.3	33.3
	要介護3	127	44.1	35.4	25.2	3.1	7.9	27.6
	要介護4	79	36.7	29.1	16.5	3.8	8.9	35.4
	要介護5	54	20.4	9.3	13.0	3.7	5.6	51.9

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(5) 介護保険のサービスと保険料について

今くらいが妥当と答えた人が3割半

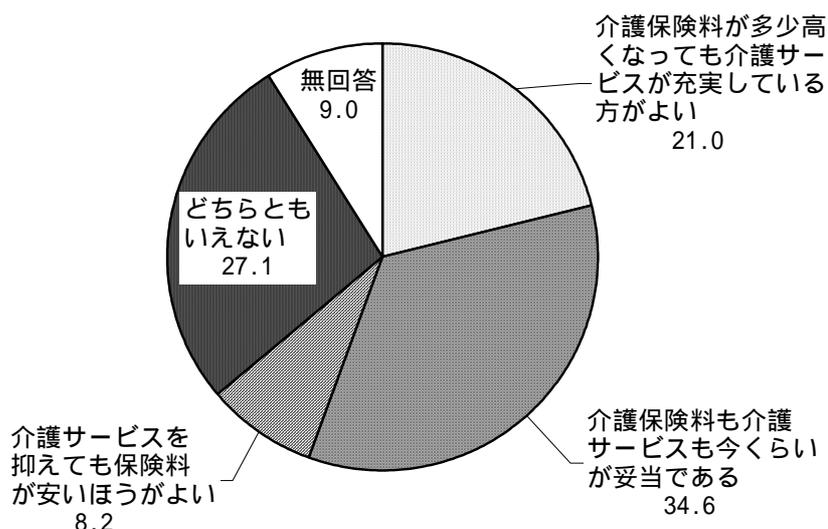
(全員の方に)

問 29 . 介護保険のサービスと介護保険料について、あなたのお考えに最も近いものは次のうちのどれですか。(は1つ)

図 - 7 - 5

回答者数 922人

単位：%



介護保険のサービスと保険料については、「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」と答えた人が 21.0%、「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」と答えた人が最も多く 34.6%となり、「介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい」と答えた人が 8.2%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人が 27.1%となっている。(図 - 7 - 5)

性別では、大きな差は見られない。(表 - 7 - 5)

年齢別では、40～69歳で「どちらともいえない」と答えた人が最も多く、70歳以上では「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」と答えた人が最も多くなっている。また、「介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい」と答えた人は70～74歳で20%強と他の年齢より高くなっている。(表 - 7 - 5)

要介護度別では、「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」と答えた人が要支援1と要介護2の人で40%と高くなっている。「介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい」と答えた人は、要介護5の人で10%強と高くなっている。(表 - 7 - 5)

同居家族別では、「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」と答えた人は、高齢者夫婦だけの世帯で40%強と高くなっている。(表 - 7 - 6)

主な介護者別では、「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」と答えた人は、息子の配偶者を介護者とする人で30%強となっている。(表 - 7 - 6)

世帯収入別では、「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」と答えた人は、世帯収入が上がるほど高くなり800万円以上では20%半ばとなっている。一方、「介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい」と答えた人は、世帯収入が低いほど高くなる傾向が見られ、生活保護を受給している人では20%弱となっている。(表 - 7 - 6)

入所を希望している施設別では、「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」と答えた人は、介護付有料老人ホームを希望する人で30%半ばと高く、「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」と答えた人は、介護老人保健施設を希望する人で高く50%近くとなっている。(表 - 7 - 6)

施設に入所したい理由別では、「認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい」と答えた人及び「現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい」と答えた人で、「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」が「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」の割合を上回っている。(表 - 7 - 6)

介護保険制度への不満別では、「要介護認定について納得できない」と答えた人及び「サービスの質が悪い」と答えた人で「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」が30%前後と高くなっている。不満な点はないとする人では「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」が50%強を占めている。(表 - 7 - 6)

表 - 7 - 5 性別、年齢別、要介護度別

単位: %

		回答者数	方がよ い	く な い	サ ー ビ ス が 安 い	ど ち ら も い え な い
全体		922	21.0	34.6	8.2	27.1
性別	男性	270	20.0	35.9	8.1	27.8
	女性	644	21.1	34.3	8.4	26.9
年齢別	40～64歳	51	11.8	27.5	7.8	47.1
	65～69歳	55	20.0	27.3	14.5	34.5
	70～74歳	79	19.0	31.6	21.5	21.5
	75～79歳	155	18.7	36.8	9.7	27.7
	80～84歳	232	22.0	37.1	6.0	24.1
	85歳以上	342	23.1	35.4	5.3	26.0
要介護度別	要支援1	171	22.8	39.8	8.8	16.4
	要支援2	203	20.2	36.5	8.4	26.6
	要介護1	78	23.1	29.5	7.7	35.9
	要介護2	180	17.2	40.0	5.6	29.4
	要介護3	127	24.4	33.9	8.7	26.8
	要介護4	79	17.7	36.7	8.9	31.6
	要介護5	54	22.2	16.7	13.0	42.6

表 - 7 - 6 同居家族別、主な介護者別、世帯収入別、入所を希望している施設別、施設に入所したい理由別、介護保険制度への不満別

単位：％

	回答者数	介護保険料が多少高い	介護保険料も介護サービスも今より多い	介護サービスを抑えようとしても介護サービスが安い	どちらともいえない	
全体	922	21.0	34.6	8.2	27.1	
同居家族別	ひとり暮らし	298	21.5	35.2	9.7	23.2
	高齢者夫婦だけ(1世代)	217	18.4	41.5	6.5	26.3
	高齢者と子ども(2世代)	248	20.6	31.9	8.1	30.2
	高齢者と子どもと孫(3世代)	96	24.0	29.2	9.4	31.3
	その他	45	17.8	31.1	6.7	37.8
主な介護者別	配偶者	230	19.1	38.7	9.6	26.1
	息子	104	21.2	38.5	4.8	25.0
	娘	174	20.7	33.3	6.9	32.2
	息子の配偶者	77	31.2	35.1	5.2	24.7
	孫またはその配偶者	6	-	16.7	16.7	66.7
	その他の方	116	19.0	37.1	8.6	25.0
	介護者はいない	174	20.1	31.0	9.8	27.6
世帯収入別	生活保護を受給している	64	14.1	23.4	17.2	26.6
	80万円以下	52	15.4	32.7	9.6	32.7
	81万～200万円未満	221	19.5	35.7	10.4	25.3
	200万～500万円未満	348	23.3	37.9	6.3	25.9
	500万～800万円未満	103	23.3	37.9	4.9	26.2
800万円以上	69	26.1	30.4	2.9	39.1	
入所を希望している施設別	特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)	136	25.7	34.6	5.9	27.2
	介護老人保健施設	54	25.9	48.1	1.9	20.4
	認知症高齢者グループホーム	22	27.3	36.4	13.6	22.7
	ケアハウス(軽費老人ホーム)	47	25.5	36.2	10.6	25.5
	介護付有料老人ホーム	77	36.4	35.1	3.9	19.5
	どのような施設でもよい	10	-	50.0	30.0	10.0
	その他	17	17.6	41.2	11.8	29.4
施設に入所したい理由別	介護をする家族の心身の負担が大きい	171	26.3	38.6	6.4	24.6
	介護をする家族や親族がない	58	19.0	43.1	3.4	31.0
	在宅に戻る為の専門的なりハビリ等が必要	7	42.9	57.1	-	-
	整った設備と専門職員がいる中での長期療養が必要	25	28.0	40.0	4.0	24.0
	現在入院している病院を退院しなければならない	8	25.0	12.5	25.0	37.5
	認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい	54	35.2	33.3	7.4	22.2
	在宅のサービスの利用による経済的な負担が大きい	25	28.0	28.0	12.0	24.0
	現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい	52	32.7	25.0	9.6	28.8
	在宅生活継続に不安がある	108	25.9	39.8	7.4	24.1
その他	20	15.0	35.0	10.0	40.0	
介護保険制度への不満別	要介護認定について納得できない	180	29.4	26.7	8.9	32.2
	サービスの質が良くない	67	31.3	20.9	10.4	37.3
	サービスを利用する手続きが複雑	206	19.4	31.6	11.2	36.9
	利用料が高い	102	13.7	26.5	10.8	47.1
	介護保険料が高い	204	13.7	23.0	17.6	41.2
	その他	69	31.9	26.1	5.8	33.3
不満な点はない	204	23.5	52.0	5.4	16.7	

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(6) 介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと

介護保険施設の増加と人材の育成を要望

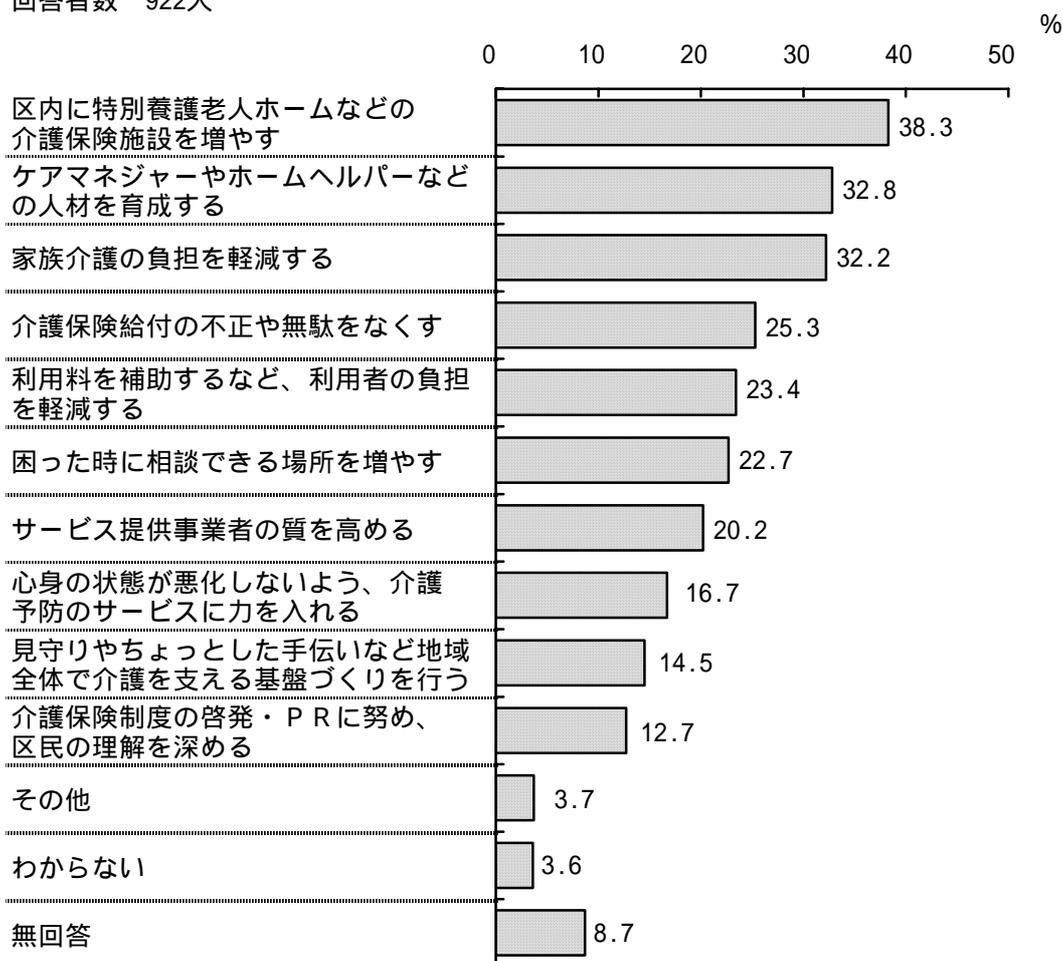
(全員の方に)

問 30 . 介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきことは次のうちのどれですか。

(〃 は 3 つまで)

図 - 7 - 6

回答者数 922人



介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこととしては、「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」(38.3%) が最も多く、次いで、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する」(32.8%) 「家族介護の負担を軽減する」(32.2%) が 3 割以上であげられている。(図 - 7 - 6)

性別では、「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」(男性 32.6%、女性 40.7%) は女性で高くなっている。(表 - 7 - 7)

年齢別に見ると、65 歳以上では「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」

と答えた人が最も多いが、40～64歳では「家族介護の負担を軽減する」と答えた人が最も多くなっている。また、40～64歳では「介護保険給付の不正や無駄をなくす」と「利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減する」が全体より10ポイント以上高く、65～69歳では「サービス提供事業者の質を高める」、「心身の状態が悪化しないよう、介護予防のサービスに力を入れる」、「介護保険制度の啓発・PRに努め、区民の理解を深める」が全体より10ポイント以上高くなっている。(表 - 7 - 7)

要介護度別では、「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」は要介護3～4の人で50%前後と高くなっている。「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する」は要介護1、4～5の人で40%、「家族介護の負担を軽減する」は要介護3～5の人で50%前後と高くなっている。(表 - 7 - 7)

同居家族別では、「家族介護の負担を軽減する」は、高齢者と子どもの2世代の世帯と高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で高くなっている。(表 - 7 - 7)

主な介護者別では、「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」は息子及び息子の配偶者を介護者とする人で高くなっている。(表 - 7 - 7)

世帯収入別では、「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」と「家族介護の負担を軽減する」は、800万円以上の人で50%強と高くなっている。「利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減する」は80万円以下の人で40%と高くなっている。(表 - 7 - 7)

介護保険のサービスと保険料について別では、「家族介護の負担を軽減する」と答えた人は保険料が多少高くてもサービスが充実している方がよいとする人で40%弱と高く、「利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減する」と「困った時に相談できる場所を増やす」と答えた人は介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよいとする人で30%強と高い。(表 - 7 - 7)

介護保険制度への不満別では、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する」と「サービス提供事業者の質を高める」と回答した人は、サービスの質が良くないとする人で高くなっている。「利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減する」と回答した人は、利用料が高いとする人及び介護保険料が高いとする人で高くなっている。(表 - 7 - 7)

表 - 7 - 7 性別、年齢別、要介護度別、同居家族別、主な介護者別、世帯収入別、介護保険のサービスと保険料について別、介護保険制度への不満別

単位：％

	回答者数	区内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やす	ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する	家族介護の負担を軽減する	介護保険給付の不正や無駄をなくす	利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減する	困った時に相談できる場所を増やす	サービス提供事業者の質を高める	心身の状態が悪化しないよう、介護サービスの力を入れる	見守りやちょっとした手伝いなど地域全体で介護を支える基盤づくりを行う	民の理解を深める	介護保険制度の啓発・PRに努め、区	その他
全体	922	38.3	32.8	32.2	25.3	23.4	22.7	20.2	16.7	14.5	12.7	3.7	
性別													
男性	270	32.6	33.0	34.1	25.2	23.7	21.1	20.4	14.1	12.6	16.7	5.6	
女性	644	40.7	32.5	31.4	25.2	23.1	23.1	20.0	18.0	15.4	11.0	3.0	
年齢別													
40～64歳	51	33.3	33.3	43.1	37.3	35.3	25.5	25.5	9.8	9.8	9.8	5.9	
65～69歳	55	38.2	36.4	23.6	30.9	21.8	25.5	30.9	27.3	18.2	25.5	7.3	
70～74歳	79	34.2	27.8	29.1	24.1	29.1	25.3	17.7	11.4	10.1	6.3	5.1	
75～79歳	155	33.5	32.3	27.1	23.9	23.9	23.9	16.8	12.9	16.1	12.3	1.9	
80～84歳	232	38.4	32.8	25.4	23.7	16.8	21.6	16.4	18.5	15.9	13.8	4.7	
85歳以上	342	42.1	33.3	39.2	24.9	24.6	20.5	22.5	17.5	14.0	12.0	2.6	
要介護度別													
要支援1	171	33.3	32.7	18.1	25.7	22.8	24.0	15.2	19.9	13.5	16.4	2.3	
要支援2	203	38.9	29.1	22.7	27.6	22.7	22.2	22.7	17.7	16.3	12.8	1.5	
要介護1	78	28.2	39.7	39.7	21.8	26.9	17.9	15.4	17.9	14.1	10.3	9.0	
要介護2	180	38.9	29.4	28.9	22.8	18.3	20.6	21.1	19.4	15.0	17.2	3.3	
要介護3	127	51.2	34.6	54.3	27.6	25.2	25.2	19.7	8.7	16.5	7.9	3.9	
要介護4	79	45.6	39.2	48.1	20.3	26.6	27.8	26.6	12.7	13.9	8.9	2.5	
要介護5	54	33.3	38.9	48.1	29.6	29.6	22.2	18.5	16.7	9.3	5.6	9.3	
同居家族別													
ひとり暮らし	298	32.6	29.5	13.1	27.9	22.1	23.5	20.5	18.1	18.8	12.4	3.0	
高齢者夫婦だけ(1世代)	217	41.9	31.8	32.7	24.0	23.5	26.3	17.5	14.3	10.6	14.3	4.1	
高齢者と子ども(2世代)	248	41.9	34.3	44.0	24.2	27.0	20.6	22.6	18.1	14.5	11.3	4.0	
高齢者と子どもと孫(3世代)	96	41.7	33.3	53.1	25.0	25.0	13.5	18.8	17.7	11.5	13.5	1.0	
その他	45	37.8	46.7	51.1	22.2	8.9	26.7	26.7	13.3	15.6	11.1	8.9	
主な介護者別													
配偶者	230	40.0	33.0	37.4	26.1	27.0	24.8	16.5	14.8	10.9	16.5	3.0	
息子	104	45.2	33.7	40.4	23.1	27.9	18.3	22.1	21.2	11.5	9.6	1.9	
娘	174	38.5	32.2	44.8	31.0	21.8	20.7	24.1	14.9	16.1	10.3	3.4	
息子の配偶者	77	50.6	36.4	58.4	19.5	20.8	19.5	19.5	18.2	15.6	9.1	6.5	
孫またはその配偶者	6	16.7	16.7	50.0	33.3	33.3	16.7	16.7	16.7	33.3	-	16.7	
その他の方	116	39.7	33.6	19.0	22.4	21.6	25.9	20.7	18.1	16.4	8.6	5.2	
介護者はいない	174	28.7	32.8	10.3	23.6	20.7	22.4	21.3	16.7	17.8	14.4	2.9	
世帯収入別													
生活保護を受給している	64	31.3	21.9	12.5	23.4	18.8	32.8	29.7	17.2	12.5	6.3	3.1	
80万円以下	52	34.6	21.2	28.8	19.2	40.4	13.5	17.3	17.3	15.4	13.5	7.7	
81万～200万円未満	221	33.9	34.8	25.3	24.9	29.4	23.5	22.6	18.6	15.8	10.9	4.1	
200万～500万円未満	348	42.5	35.6	34.5	26.1	18.4	22.7	17.2	15.2	15.5	13.5	2.9	
500万～800万円未満	103	39.8	33.0	40.8	24.3	21.4	26.2	25.2	16.5	13.6	17.5	4.9	
800万円以上	69	50.7	36.2	56.5	29.0	23.2	10.1	13.0	17.4	11.6	13.0	2.9	
介護サービスと保険料について別													
保険料が多少高くてもサービスが充実している方がよい	194	43.3	37.6	38.7	24.7	16.5	21.1	23.7	20.6	18.0	18.0	3.6	
介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である	319	42.3	35.7	31.0	26.0	24.1	24.1	19.1	19.4	18.5	16.0	2.5	
介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい	76	28.9	26.3	30.3	28.9	32.9	32.9	21.1	17.1	14.5	10.5	3.9	
どちらともいえない	250	42.0	35.2	36.4	29.6	30.8	23.6	22.0	14.0	10.8	8.0	5.6	
介護保険制度への不満別													
要介護認定について納得できない	180	47.2	40.0	32.8	28.9	25.6	29.4	28.9	19.4	17.2	8.3	4.4	
サービスの質が良くない	67	31.3	49.3	40.3	35.8	23.9	25.4	49.3	19.4	20.9	9.0	4.5	
サービスを利用する手続きが複雑	206	47.1	39.8	42.7	33.5	21.8	35.9	23.8	19.4	18.4	11.2	4.4	
利用料が高い	102	48.0	29.4	52.9	33.3	49.0	27.5	25.5	11.8	18.6	7.8	5.9	
介護保険料が高い	204	48.0	30.4	45.1	33.3	42.6	21.6	18.1	14.7	14.2	9.8	2.0	
その他	69	42.0	29.0	39.1	26.1	18.8	15.9	26.1	15.9	20.3	10.1	15.9	
不満な点はない	204	31.4	35.8	22.1	18.1	18.6	17.2	16.7	20.1	15.2	20.6	3.4	

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(7) 介護保険制度の不満な点

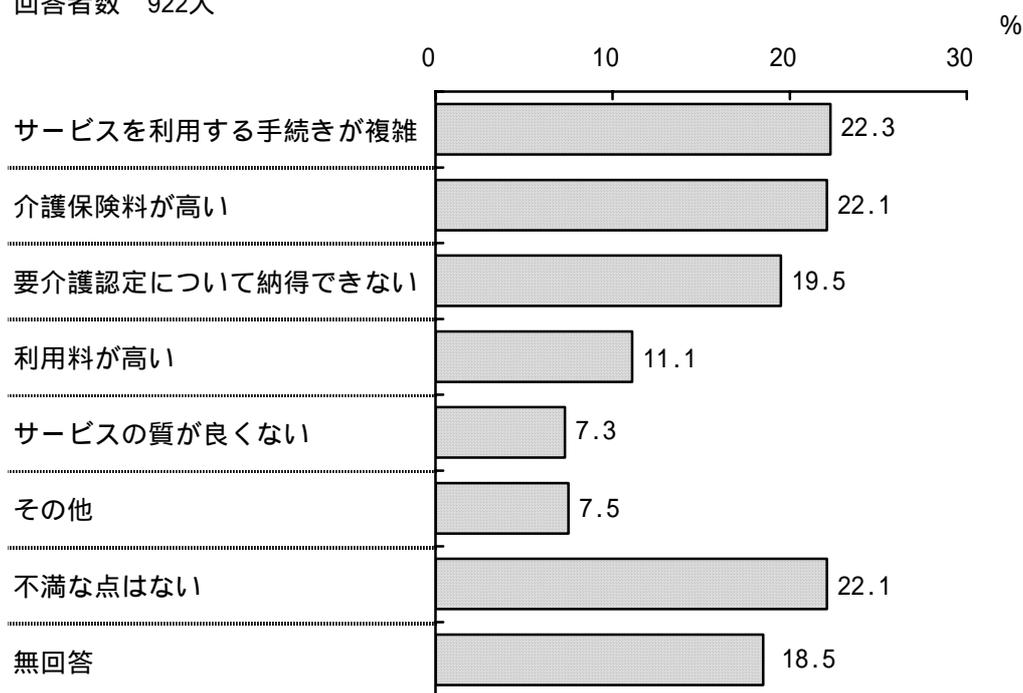
複雑な手続き、介護保険料が高いこと、要介護認定に約2割の人が不満

(全員の方に)

問31. あなた(宛名の方ご本人)は、介護保険制度にどのような不満な点がありますか。
(あてはまるものすべてに)

図 - 7 - 7

回答者数 922人



介護保険制度の不満な点としては、「サービスを利用する手続きが複雑」(22.3%)をあげた人が最も多く、「介護保険料が高い」(22.1%)、「要介護認定について納得できない」(19.5%)をあげた人も2割前後となっている。一方、「不満な点はない」と答えた人も2割を超えている。(図 - 7 - 7)

性別では、「サービスを利用する手続きが複雑」(男性 18.9%、女性 23.8%)、「介護保険料が高い」(男性 19.6%、女性 22.8%)、「要介護認定について納得できない」(男性 17.4%、女性 20.3%)は女性で高くなっている。一方、「不満な点はない」(男性 27.4%、女性 20.2%)は男性で高くなっている。(表 - 7 - 8)

年齢別に見ると、「介護保険料が高い」、「利用料が高い」、「サービスの質が良くない」は65~69歳で高くなっている。(表 - 7 - 8)

要介護度別では、「サービスを利用する手続きが複雑」は要介護3の人で、「介護保険料が高い」は要介護4の人で30%台と高くなっている。「要介護認定について納得できない」は要支援1～2の人で30%弱と高くなっている。(表 - 7 - 8)

同居家族別では、「介護保険料が高い」は、高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で高く、「利用料が高い」は高齢者と子どもの2世代の世帯で高くなっている。(表 - 7 - 8)

主な介護者別では、「サービスを利用する手続きが複雑」は、息子の配偶者を介護者とする人で高くなっている。(表 - 7 - 8)

世帯収入別では、「サービスを利用する手続きが複雑」と「要介護認定について納得できない」は、800万円以上の人で高くなっている。(表 - 7 - 8)

地域包括支援センターへの相談の有無別では、「要介護認定について納得できない」と答えた人は、相談したことのある人で高くなっている。(表 - 7 - 9)

介護保険のサービスと保険料について別では、「サービスを利用する手続きが複雑」、「介護保険料が高い」、「利用料が高い」と答えた人は、介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよいとする人で高い。「要介護認定について納得できない」と答えた人は、保険料が多少高くてもサービスが充実している方がよいとする人で高くなっている。(表 - 7 - 9)

介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと別では、「サービスを利用する手続きが複雑」と答えた人は、困った時に相談できる場所を増やすとする人で30%半ばと高い。「介護保険料が高い」、「利用料が高い」と答えた人は、利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減するとする人で高くなっている。「要介護認定について納得できない」、「サービスの質が良くない」と答えた人は、サービス提供事業者の質を高めるとする人で高くなっている。(表 - 7 - 9)

表 - 7 - 8 性別、年齢別、要介護度別、同居家族別、主な介護者別、世帯収入別

単位：%

		回答者数	サービスが複雑	介護保険料が高い	要介護認定について納得できない	利用料が高い	サービスの質が良くない	その他	不満な点はない
全体		922	22.3	22.1	19.5	11.1	7.3	7.5	22.1
性別	男性	270	18.9	19.6	17.4	10.4	7.8	8.5	27.4
	女性	644	23.8	22.8	20.3	11.2	7.0	7.1	20.2
年齢別	40～64歳	51	21.6	11.8	15.7	17.6	7.8	17.6	23.5
	65～69歳	55	16.4	27.3	23.6	20.0	18.2	12.7	20.0
	70～74歳	79	19.0	21.5	24.1	3.8	12.7	6.3	26.6
	75～79歳	155	23.2	25.2	18.1	10.3	7.1	7.1	18.7
	80～84歳	232	27.2	20.3	19.4	7.8	4.7	4.3	22.4
	85歳以上	342	20.5	22.8	19.0	12.3	5.8	7.9	23.1
要介護度別	要支援1	171	19.3	18.1	26.9	2.9	3.5	5.3	18.7
	要支援2	203	24.1	21.7	27.6	9.9	6.4	8.4	22.2
	要介護1	78	28.2	29.5	21.8	16.7	10.3	6.4	19.2
	要介護2	180	17.2	17.8	16.1	12.8	7.8	10.0	28.3
	要介護3	127	33.1	21.3	15.0	13.4	7.9	5.5	22.0
	要介護4	79	17.7	36.7	11.4	11.4	7.6	10.1	19.0
	要介護5	54	20.4	22.2	1.9	18.5	14.8	9.3	25.9
同居家族別	ひとり暮らし	298	22.8	20.5	23.2	7.0	6.0	4.0	25.5
	高齢者夫婦だけ(1世代)	217	22.1	23.0	18.0	8.3	5.5	7.4	20.7
	高齢者と子ども(2世代)	248	21.8	21.4	19.0	16.5	9.7	9.3	22.2
	高齢者と子どもと孫(3世代)	96	22.9	27.1	10.4	12.5	3.1	10.4	22.9
	その他	45	24.4	24.4	20.0	15.6	20.0	13.3	13.3
主な介護者別	配偶者	230	21.7	24.3	15.7	11.7	7.0	6.5	22.6
	息子	104	24.0	17.3	19.2	15.4	5.8	9.6	23.1
	娘	174	23.6	24.7	20.1	11.5	9.8	9.8	16.1
	息子の配偶者	77	27.3	24.7	13.0	14.3	3.9	10.4	24.7
	孫またはその配偶者	6	16.7	16.7	33.3	16.7	-	-	33.3
	その他の方	116	21.6	20.7	21.6	9.5	7.8	6.0	22.4
	介護者はいない	174	19.0	20.7	25.3	6.9	8.6	6.3	28.2
世帯収入別	生活保護を受給している	64	23.4	21.9	23.4	9.4	4.7	4.7	29.7
	80万円以下	52	13.5	26.9	21.2	15.4	-	5.8	25.0
	81万～200万円未満	221	22.6	24.4	23.1	10.9	8.6	5.0	22.2
	200万～500万円未満	348	21.8	21.8	17.5	9.2	8.0	8.9	23.0
	500万～800万円未満	103	21.4	13.6	10.7	11.7	4.9	10.7	30.1
	800万円以上	69	31.9	21.7	26.1	14.5	7.2	10.1	11.6

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

表 - 7 - 9 地域包括支援センターへの相談別、
介護保険のサービスと保険料について別、
介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと別

単位：%

		回答者数	手続きが複雑	サービスを利用する	介護保険料が高い	要介護認定について 納得できない	利用料が高い	ない	サービスの質が良く	その他	不満な点はない
全体		922	22.3	22.1	19.5	11.1	7.3	7.5	22.1		
相談の地域包括支援センターの有無への別	相談したことがある	372	25.3	23.1	24.2	11.0	7.0	8.6	21.0		
	地域包括支援センターを知っているが相談はない	306	20.6	20.3	19.6	10.5	9.2	8.2	26.1		
	地域包括支援センターを知らなかった	129	26.4	25.6	14.7	17.1	8.5	7.8	20.2		
介護保険のサービスについて別	保険料が多少高くてもサービスが充実している方がよい	194	20.6	14.4	27.3	7.2	10.8	11.3	24.7		
	介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である	319	20.4	14.7	15.0	8.5	4.4	5.6	33.2		
	介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい	76	30.3	47.4	21.1	14.5	9.2	5.3	14.5		
	どちらともいえない	250	30.4	33.6	23.2	19.2	10.0	9.2	13.6		
介護保険制度全体をよくするために、区が力を入れるべきこと別	介護保険制度の啓発・PRに努め、区民の理解を深める	117	19.7	17.1	12.8	6.8	5.1	6.0	35.9		
	ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する	302	27.2	20.5	23.8	9.9	10.9	6.6	24.2		
	状態が悪化しないよう介護予防のサービスに力を入れる	154	26.0	19.5	22.7	7.8	8.4	7.1	26.6		
	見守りやちょっとした手伝いなど地域全体で介護	134	28.4	21.6	23.1	14.2	10.4	10.4	23.1		
	困った時に相談できる場所を増やす	209	35.4	21.1	25.4	13.4	8.1	5.3	16.7		
	家族介護の負担を軽減する	297	29.6	31.0	19.9	18.2	9.1	9.1	15.2		
	区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす	353	27.5	27.8	24.1	13.9	5.9	8.2	18.1		
	サービス提供事業者の質を高める	186	26.3	19.9	28.0	14.0	17.7	9.7	18.3		
	介護保険給付の不正や無駄をなくす	233	29.6	29.2	22.3	14.6	10.3	7.7	15.9		
	利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減する	216	20.8	40.3	21.3	23.1	7.4	6.0	17.6		
その他	34	26.5	11.8	23.5	17.6	8.8	32.4	20.6			

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(8) 介護保険制度に関する意見・要望 (自由回答)

(全員の方に)

問 32 . あなた (宛名の方ご本人) の、介護保険制度に関するご意見・ご要望などをご自由にお書きください。

介護保険制度について、意見、要望を自由に書いてもらったところ、274 人から 300 件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

< 介護保険制度全般について > (42 件)

介護保険制度の充実をお願いします。特別養護老人ホーム施設増大。(女性/65 歳 ~ 69 歳)
強制加入の割、国民健康保険の方がすぐ利用できるが、介護保険は申請書・医者意見書など手続きがめんどくさく、高額医療でも返却されない。不満。介護保険を使う人の気持ちが伝わらない。

(女性/40 歳 ~ 64 歳)

見切り発車で行った制度のつけが今になって回ってきているのではないのでしょうか。根本的に、制度をじっくりと見直して頂き、利用者さん中心の制度になってほしいと心から思います。これから施設 (特に介護療養型、介護老人保健、ショートステイ) 及び訪問看護師、の存在が必要だと思います。(女性/80 歳 ~ 84 歳)

老齢になるにつれ、介護保険制度の有り難みがわかってきた。(女性/85 歳以上)

細かい制度が変わるときには、年寄りにもよく分かる様にしてください (保険料とかサービスとか) (女性/75 歳 ~ 79 歳)

特別養護老人ホームに申し込みをしてから 1 年が経ちますが、A ランクにしてもらっても中野区では 8 0 0 ~ 1 2 0 0 人が A ランクで入所待ちをしていると言われました。アルツハイマー型認知症の母は少しずつ私達に想像もできない事を日常の中ですので目を離せずにいる。制度の見直しと共に、早く希望に沿って対応をしてもらいたい。(女性/80 歳 ~ 84 歳)

用語が複雑。(似た呼称が多い) 制度が複雑。(区保健福祉部があり、地域センターがあり、高齢者福祉センターがあり、さらにケアマネジャー、ヘルパー、社会福祉協議会、地域包括支援センターがあり、用語にしてもデイサービス、ケアハウス、ケアプラン、ショートステイ、介護予防通所、リハビリテーション、介護予防訪問看護等々。複雑怪奇) (男性/75 歳 ~ 79 歳)

70 代迄の介護保険料は全員が負担するとしてもいいですが、8 0 代位 ~ は負担を 0 にしてもいいのではないかと思います。7 0 代までは少し増やしてもいいと思います。(女性/65 歳 ~ 69 歳)

種々手続きが複雑、面倒で介護人に 2 重 3 重の負担。その為、介護人の方が病気になる。ヘルパー (他人の家や人の世話は一番難しい仕事) はせめて、昔のお手伝いさん程度の自由度を持たせてほしい。実働の割に (本人は一生懸命でも) 効果は薄い。1 度の時間を細切れにし過ぎる。内容を制限し過ぎる。ショートステイが近い所が使えない (日にちが希望とは行かない様なので) (男性/80 歳 ~ 84 歳)

契約書などの書類が多すぎる。本人の自立の気持ちが伝わりにくく体調軽視傾向になる。(女性/80 歳 ~ 84 歳)

今年から始まった後期高齢者保険制度はあまりにも老人をばかにした制度であり、今日の基礎を築いてきたことを忘れたやりかたと思う。少ない年金から介護保険料、健康保険料とを天引きとは恐れ入った。この制度を廃止してほしい。(男性/75歳～79歳)

介護保険料を支払っているのに、いざ必要とする時に制限があり過ぎて、ほとんど役に立たないことが分かりました。家族の負担が多すぎる。(男性/40歳～64歳)

最初に発足した時は介護者の負担軽減するために、そして自宅で安心して生活できるようにと言うことだったと思います。今では、違うような気がします。通院のための制約とか、あまりに非合理的で利用しにくいと思います。(女性/85歳以上)

保険料の天引きは困ります。外出の少ない老人の少しばかりの運動にもなりますので、自分から納得して納めたいと思います。(女性/80歳～84歳)

近くに子どもがいて、食事の支度、掃除、洗濯等嫁と受け持っているので幸せだと思えます。介護保険が出来てよかったと思えます。始めは他人が家に入ることに賛成していませんでしたが、今では大変感謝して満足しております。(女性/85歳以上)

本人は介護保険の制度やシステムを全く理解できません。ただ、子どもが亡くなって認知症の妻との生活を支えているものは介護保険制度であることは間違いありません。長生きしているうちに蓄えもなくなり、保険料や利用料の支払いは厳しいですが、ありがたい制度です。もし自分が死んだら、残された妻がどうなるのかどうなるのかとても心配です。(男性/85歳以上)

介護保険の不正や無駄をなくし、もっとわかりやすくしてほしい。あまりわかりません。(女性/70歳～74歳)

介護保険制度は大変優れたものだと思います。ある程度の負担はやむを得ないと思う。ただ全般に老人、病人、身障者は将来の不安を抱えているので、介護者を含めてカウンセラーの導入を考えて欲しい。一番大きな不安は経済と今後の生活設計です。(男性/70歳～74歳)

介護保険があることで十分に助かっています。(女性/80歳～84歳)

介護保険の当初はよかった。(主人死去)介護5 希望することがどんどん減らされていく区によって異なることは納得がいかない 説明不足のことが多い(女性/75歳～79歳)

介護保険が利用できることを本当に感謝しております。ありがとうございます。一方でサービス提供者(ヘルパーさん)などにはもっと待遇をよくすべき(経験年数なども考慮して)と思えますし、上記の通り、介護時間の設定にも疑問が残ります。今後のためによりしくご検討ください。(女性/70歳～74歳)

書類の質問などが多いが本人は理解不能。(女性/85歳以上)

介護保険、年金制度等、国民全体で支えあう制度については早い時期から制度の仕組み、お金の使われ方などを教えて欲しい。(女性/85歳以上)

要介護3、デイサービスの利用と自宅で介護しています。現在は介護保険に感謝していますが、進行し家族の判断も出来なくなった時施設になかなか入れないとの事、常に不安は持っています。(女性/85歳以上)

制度についてこれからの社会状態では仕方がない。きめ細かくこれからも目配りして欲しい。(男性/85歳以上)

介護保険を利用する申し込みのときに調査に来られる人の対応が、とても嫌な思いをします。質問の内容も答えたくないものもあります。(女性/70歳～74歳)

誰でも年をとれば面倒を見てもらわなければなりません。ゆりかごから墓場までの言葉があるよ

うに、この国で生まれてよかったように死ぬる最高の介護保険制度を作ってください。(男性/40歳~64歳)

私は一人暮らしで介護制度が出来て将来が明るくなった。長く続くといいと思う。(女性/85歳以上)

現在の制度が先ぼそりにならない事を祈ります。(女性/75歳~79歳)

<要介護認定について> (38件)

介護認定の調査員のレベルに差があると感じる。(男性/40歳~64歳)

年齢が進むにつれて介護度は変わっていくと思います。そんな場合の対応を十分考えていただきたいと思います。(女性/80歳~84歳)

介護認定があいまいなような気がします。(女性/80歳~84歳)

家族の中で介護を受けるのは高齢者が中心なのは理解できるが、我家の場合、主婦すべき者(私)が介護を受ける場合、実母へのケアが何も受けられず、今後は別に住む事も検討して行かなければ70才を過ぎた母は持病(肝硬変)を持っていても介護の対象にならない事は不安で不満である。(女性/40歳~64歳)

体の方がよくなるとよいのですが、段々と弱ってくるので介護度がどんどん軽くなるのに困っています。国の方針との事ですが、それが一番悩みの種です。(女性/75歳~79歳)

介護保険申請から認定まで時間がかかりすぎる。認定について必要な介護位置(体の部分)方法を明記してほしい。(女性/80歳~84歳)

要介護認定が厳しすぎると思います。(女性/70歳~74歳)

この年になって元に戻すことは不可能なので悪化しない様、また、迷惑を掛けない様にすることに心掛けていますが、介護から支援に変更した理由が分からなく、不満です。早く死ぬと言われている様に思います。(女性/85歳以上)

・骨粗鬆症は外見ではよくわからないので、本人の不自由さを審査のときに判断材料の1つとして組み入れて欲しい。(よく話をきいて) ・リハビリは本人のやる気がとても大事で、スタッフの人に一寸工夫して欲しいと思うときもある。(女性/40歳~64歳)

認定の差があるのではないですか(女性/80歳~84歳)

介護認定の書類を出すたびに認定が変わりますが、どこを認定にして決まるのかよく分からない。(女性/70歳~74歳)

介護認定が、要介護から要支援になってしまったために、それまで利用していたデイサービスに行かれなくなり、担当のケアマネジャーさんも変わってしまいました。デイもケアマネジャーさんもすごくよかったので残念でした。要介護の時も限度額一杯に使っていたわけではないので、利用限度額とは関係なく要支援の人は受け入れられないというのが納得しかねました。(女性/75歳~79歳)

要介護認定の質問があまりに現実にそぐわない質問が多い。要介護1だとベッドが借りられないのはおかしいと思う。(女性/40歳~64歳)

要支援と要介護の認定の時、介護を受ける位の病気を沢山持って必死に人に頼らず戦っている。寝て居ないだけで際の苦しみを理解して見た目だけの支援と介護の線引きをしないでほしい。被保険者は出来るだけ人に頼りたくないで、自力で頑張っとうにも限界が来て申請する者の有る事を理解する様、審査の時掘り下げて質問して決定して頂きたい。(女性/80歳~84歳)

同居人がどんな型の人間であっても入居すれば介護の対象から外されるとなると、同居してくれる人はあってもその人が仕事が忙しかったり等で介護は出来ないのでは、永久に1人生活を余儀なくせざるを得ない。(用心棒のために)同居して貰いたい。(女性/80歳~84歳)

介護保険制度出来てよかったと思う。認定の基準に多くの差があることを知ってほしい。受けている人も認識して欲しい。(女性/80歳~84歳)

介護から支援になった人の中には本当に困っている人が多い。もっと親身になって実態を把握して認定するよう望む。(女性/85歳以上)

介護度でわくを決めてしまうのではなく、その人に必要なサービスは何かということを見きわめて、その都度利用できるようにすれば、無駄も不足もなくなる。大事なことは『問題を解決すること』です。(女性/80歳~84歳)

介護認定の調査の方がマニュアルにとらわれすぎていて、どう考えても要介護1ではないかと思われる人が要支援だったりしています。ケアマネジャーさんも同じような事をおっしゃっていました。どうも最近の介護認定はお年寄りに冷たい気がしてなりません。お医者様も同意見でした。介護保険料が不足しているならば、国民の40歳以上ではなく35歳以上とか30歳以上の方から徴収する方向にするしかないのかも知れません。(男性/80歳~84歳)

要支援はわかりにくい。前の要介護1~5に戻した方が良くと思います。(女性/85歳以上)

認定期間が短く、体の不自由な身には更新申請が大変です。もう少し長くしていただけないでしょうか。治る見込みのない、現状維持が出来ればやっとの身にはつらいです。訪問介護の家事サービスをお願いしていますが、やっていただけない事が多く、もう少し規制をゆるめていただけないでしょうか。ヘルパーさんは理解があり、助けてあげたいけどとおっしゃって下さいますが、事務所で色々言われる様です。(女性/65歳~69歳)

介護認定の際、ベッド利用の医師の意見書等、何度も提出しなくてはいけないのは、なんとかしてほしい。(女性/85歳以上)

<介護保険料やサービス利用者負担について>(26件)

保険料をもう少し安くしてほしい。年金生活者には高い。(男性/70歳~74歳)

保険料が納得できない、ヘルパーさんのモラルの低いのに驚いています(例えば周りの人に必要のない介護人のこと、家庭内のことを喋る)(女性/80歳~84歳)

介護保険料の検討と利用させて頂くのが困難の様、隠居のため明るい介護の出来る様検討ください。(性別無回答/85歳以上)

介護認定のサービスだけではやっていけないので、自費が多く出ている現状です。もう少し、利用料を補助していただけたらと思います。(男性/75歳~79歳)

保険料が年金から天引きとはとてもいやだ。必要なサービスが制限されて。全く家族の負担は減らない。(女性/85歳以上)

介護保険制度には直接関係ないが、後期高齢者医療制度に伴い、保険料が前年比で11万円も増額、天引きされております。増額はやむを得ないと思いますが、単年度で処理するのではなくて2~3年かけて調整していただければと思いました。(男性/80歳~84歳)

介護保険制度は結構と思いますが、保険料そのものが高いと思います。まだ健常に近い人からも多額の保険料を少ない年金から天引きされるとのことです。保険という相互扶助ですので、自分が病気になったときのことを考えるとやむを得ない面がありますが、道路や軍事などの税金を少

なくして老人のために使う政治と国家でなければ老人は棄民にされてしまいます。老人の側も自覚を持ち、選挙や政治に意思を反映しなければいつまでも変わらず泣きと愚痴に終わるでしょう。(女性/80歳～84歳)

家族が負担になりすぎて悲しい事件が起こることのないよう、支えとなってくれることを願いたい。(男性/75歳～79歳)

今後利用料(ヘルパー、訪問入浴など)があがらないか不安。物価も上がっていることですし、利用料もあがったらやっていけない。(女性/85歳以上)

介護保険制度によって私達が支えられている事は十分に分かってはいるつもりですが、年金から値上げされ、差し引かれる事にちょっぴり不安がよぎりますが、高額介護サービス費支払いの時は本当に有難く思っています。(女性/80歳～84歳)

年金が少ないので、介護保険料がもう少しお安くなれば助かります。(女性/85歳以上)

頂く年金の額は人それぞれ皆ちがいますのに、保険料が同額なのは納得できません。(女性/85歳以上)

<ケアマネジャーやケアプランについて>(13件)

熱意ある若いケアマネジャーやヘルパーをもっと厚遇してほしい。(女性/70歳～74歳)

現在利用しているケアマネジャーの方は本当に一生懸命に困ったときの私宅を助けて下さっていますので心から感謝いたしております。(女性/85歳以上)

介護保険制度を全て理解できていないので不明な点もある。ケアマネジャーからもどんどんサービスの提案(こんなことも出来る等の説明をしてくれると助かります)してほしい。(女性/80歳～84歳)

ケアマネジャーさんやデイサービスの介護士さんに恵まれ、よくしていただいています。その方々の給与、待遇など労働条件をよくしてください。薄給でよく働いていると感謝ですが、長く働く方が少ないと思います。(女性/85歳以上)

ケアマネジャーさんがとても良く、デイサービスに楽しんで行くようになりました。体そうなどをして体を動かしてくるので、本人のためにすごく良いと思います。舅91歳はつえを使わないで歩いています。(男性/85歳以上)

自分(ケアマネジャー)の考えでサービス内容をこころろ変えないでほしい。こちらあっちこちと大変です。(女性/40歳～64歳)

ケアマネジャーとのコミュニケーションのとり方がよくわからないというかどの程度まで使用していいのかがよくわからない。ただ、家に来て少し話をして帰ってしまい月に一度見えるだけなので内容的にもショートステイを希望しても説明がよくわからないし積極的に進めていただけないのでいまだ申し込みもできない。(男性/85歳以上)

ケアプラン以外の突発的な事柄にも対処してほしい。(女性/40歳～64歳)

ケアマネジャーやヘルパーなどの人材の待遇改善に配慮してやって欲しい。(男性/85歳以上)

<訪問介護(ホームヘルプ)について>(54件)

ヘルパーの質の差が大きい。ヘルパーの賃金が安すぎるからだと思う。(女性/80歳～84歳)

現在、ホームヘルパーのサービス提供と勤務時間に制限がありますが、利用者の希望に応じられるような制度にしてほしい。(男性/65歳～69歳)

一人で歩行が出来ないので、外出（散歩）にヘルパーがもう少し来てもらいたい（家の中ではせまいのでつかまりながら歩いております）（女性/65歳～69歳）

1．ヘルパーに働く時間をきちんと守って働いてほしい。（10分遅れて、10分早く帰ると20分損した気分になる） 2．通院の自費分は不当、もとのように介護保険適用にすべき。（男性/80歳～84歳）

ヘルパーの質向上、施設の充実、ショートステイいつも満員だ、入れない！！老人ホームも満員だよ、入れない！！（女性/85歳以上）

ヘルパーさんはありがたいのですが、（これはやってはいけない）とか言わないで希望することは何でもしてもらいたい。（女性/80歳～84歳）

週1回1時間お掃除にお世話していただいております。おかげさまで2年余りの間無事に過ごしています。現状をなるべく長く過ごしたいと思います。この様なシステムとヘルパーさんに感謝致します。（女性/80歳～84歳）

1回の訪問介護の時間を90分よりもっと長く2時間単位でしてもらえると助かる。（女性/70歳～74歳）

私の体も年とともに、手も足も言うことを聞いてくれなくなっています。買い物の時間をとると食事をつくる時間がないのです。大根やお米の様なものは前からですが、だんだん買い物も（普通の）つかれるし。もう少し時間がいただけたらいいなと思います。（女性/85歳以上）

利用させていただくようになってから、とてもありがたい制度だと思っております。しかしヘルパーさんのお給料が安く、長く続けることが出来ず転職されていく方が多いので、利用する者からみて何とか出来ないのかと思うところがあります。（女性/85歳以上）

日々介護を受けるホームヘルパーが交代するのでは困る。又、ヘルパーの資質、技術の向上を図ってもらいたい。（男性/85歳以上）

サービスなど利用できる幅を広げて欲しい。ヘルパーさんをお願いしたくても、家族と同居だと出来ないと言われることが多い。同居していても、働いていれば出来ないことが多くなる。家族の負担が少しでも減ればよいと思うことが多々あります。利用したくても出来ない人が増える中、本当に何をすればよいのか利用する側に立って考えてもらいたい。（女性/40歳～64歳）

ホームヘルパーを利用しています。私より年上の方（70歳以上）です。サービスを受けている私が、気がねしなくてはいけなことが多々あります。苦痛です。料金を払いながら、気を使いながら、もう少し若い方で専門的にテキパキと仕事等できる方を事業所の方も人材を育成して欲しいと思います。（女性/65歳～69歳）

私については色々聞かれるが、ヘルパーさんケアマネジャーについては知らされない。どこまで話をしているのかわからない。（女性/40歳～64歳）

ヘルパーさんが足りないという。今後の高齢者増加に不安である。ヘルパーさんの待遇をよくし、増やして欲しい。（女性/80歳～84歳）

私は未だほんの支援だけで介護の大変なことがよく分からないが老人二人とか一人になった時のことを考えるとヘルパーさんの教育とか賃金とかもっと考えて欲しいと思います。（女性/80歳～84歳）

十人十色。それぞれ長所短所があるが、ヘルパー自身に差（技量）があると思う。もう少し、気楽に援助して頂きたい。（女性/75歳～79歳）

訪問看護婦さん、ヘルパーさんの食事をずっと続けていただきたいと思います。自分（92

オ)は一人で外出する事がないのでヘルパーさんの買い物、食事を作ってくださいと私は何も出来ませんのでずっと続けてください。お願いいたします。(女性/85歳以上)

利用者を侮辱するようなことを言う(事業所関連)ヘルパーの教育をしてほしい。物をほしがる、お喋りばかりする、規則ばかり言う。ヘルパーを頼むととても疲れる。でも少し助けてもらわなくてはね。(女性/75歳~79歳)

急に必要になった時に間に合わない。急に体調が悪くなった場合、ヘルパーを利用できないのが心配。どなたを頼むか、現在ヘルパーを利用しているがスケジュール通り故、急の利用は無理だろう。(女性/80歳~84歳)

訪問看護は2時間では少ない。せめて3時間はほしい。(女性/80歳~84歳)

規則・規定だけにこだわるのはよくない。ケースによって柔軟な対応がヘルパー全員で出来るようにしてほしい。(男性/65歳~69歳)

病院付き添いの場合、診察室と待合室では介護の値段が違うとか判りにくいです。(男性/65歳~69歳)

私の所などは動けるのに「入浴」だけ。元は居間のそうじをしてくれた。(男性/85歳以上)

介護ヘルパーさんの賃金が安いのではないのでしょうか。家庭から家庭(患者の)30分位の通う時間は無給なので、1ヶ月一生懸命に働いても給料は低い。これでは職業として長く続けにくい。気の毒に思います。(女性/80歳~84歳)

ヘルパーさんが短時間に出来る作業をもっと増やしてほしい(掃除、草むしりなど)(女性/80歳~84歳)

ヘルパーさんの手伝ってくれる時間内で庭の除草や冬期の落葉はきなど、サービスの内容が自由に頼めると良いのですが、ある程度の制限がありますので、その点が改善されると尚ありがたいのです。(女性/70歳~74歳)

ヘルパーに掃除などの指導が出来ていないのが多い。庭のゴミなどを掃除してくれない。清潔に生活できるようにヘルパーを訓練してほしい。全く料理の出来ないヘルパーが多い。制度そのものに疑問がある。前の方が良かった。(男性/85歳以上)

<通所介護(デイサービス)について>(8件)

デイケアのサービスを受けています。本人に取りましても、家族に取りましても大変ありがたい制度だと感謝しています。(女性/85歳以上)

デイサービスの職員の中に止める者が多いと聞く。待遇向上が課題である。デイサービスは8時間の所が多い。6時間ぐらいのところを増加させたい。(男性/85歳以上)

これからはデイサービスやショートステイ等も利用していきたいと考えていますが、なかなか希望する所にはいかれないと聞きます。介護施設に色々差があるようですが、よい人材が得られるためにも介護に関わる方達のお給料を上げて欲しいと思います。(女性/85歳以上)

デイケアの定員の基準がわからない。(男性/75歳~79歳)

デイサービスに行っておりますが、月に1回ですが、職員の方のサービスは大変よいと思っております。(女性/85歳以上)

<短期入所生活・療養介護(ショートステイ)について>(7件)

現在は自宅での介護が十分可能であるが、将来の事を考えると不安があります。介護者が病気に

なった時どうするのか(すぐショートステイが可能か、それが本人に適した施設であるか)が心配。私が認知症や病気になったときに質のよい、入所施設に入所できるかが心配(金銭的にも、入所待ちの期間についても)(女性/75歳~79歳)

現在ショートステイはまだ利用していませんが、困った時は申し込めばすぐ対応していただけるのでしょうか。(女性/70歳~74歳)

ショートステイがなかなか思うように利用できません。そのわりには書類の手続きが難しい。在宅で介護をしていますのでいかなるときでも10日間位はショートステイができればとても助かります。(女性/85歳以上)

中野区は老人が多いのにショートステイの場が少なく、なかなか利用がしにくい(近場での)。家族の見てる場合、税金は高いが利用が出来ないのはどうしてか?(女性/40歳~64歳)

<介護サービス事業者について>(4件)

一人暮らし老人が急変、激痛等の時お願いしたい事業所の時給があまりにも高いのでおそろしいです。その事のみ始終考えて迷っています。(女性/80歳~84歳)

この制度は利用者にとってとてもよいことと思う。だが事業者の人材育成を充実して欲しい。と、事業者自体が営利目的の為だけの事業者かどうか、定期的に見てほしい。(女性/80歳~84歳)

<その他の介護保険サービスに対する意見>(53件)

・サービスの質を高めてほしい ・具体的なサービスに出会っていない ・中野区の障害者に対する介護を期待します(男性/70歳~74歳)

同じマンションに住んでいる娘の負担が大きすぎるので、同居とみなさずに食事のしたくなどもう少し助けてほしい。娘は昼食・夕食の準備のため、いつも時計とにらめっこです。自分も73歳で、整骨院に行きたくてもいつもかけあしの状態です。(女性/85歳以上)

生活介護以外は満足しています。(男性/40歳~64歳)

最初のように全てしてほしい。(女性/75歳~79歳)

区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす(入所希望を出しています。入所者の死亡を待っているみたい、何とかしてくれ)(女性/85歳以上)

御陰様で介護サービスが受けられ、助かっています。ゴミの山にならず、すっきりした家内で生活出来ます。御世話になり、有難うございます。(女性/80歳~84歳)

介護している人が病気になった時、すぐ特別養護老人ホームの様な所に1ヶ月~2ヶ月ぐらい入所できればよいと思う時がある。(女性/85歳以上)

サービスの回数を増やしてほしい。(女性/75歳~79歳)

ケアマネジャー・ヘルパーの方々の仕事の質、また時間の余裕があればもっとあった方がいい。(女性/85歳以上)

要介護の時はいいが、要支援となった時でもオムツ等はどうしても必要な人がいるので、画一的に「これは要支援者には支給されない」等決めてしまわないでほしい。(男性/70歳~74歳)

当初の様に、家事サービスのみの様な単位を復活してほしい。(女性/85歳以上)

職員皆よくやっています。(性別無回答/年齢無回答)

現在の所介護者に対して不満はありません。年々からだが不自由になっていくので、今はよくても半年先は分からないので不安です。一人暮らしの不安は増すばかり、体調を整えるのに必死で

す。介護もきめ細かく考えてください。(女性/80歳~84歳)

認定を受ける時やケアマネジャーさんとの手続きが複雑すぎ高齢者には分かりにくい。書類(書く)が多すぎる。自宅での介護を望む人には出来るだけたくさんのサービスを受けられる様をお願いいたします。介護保険施設になかなか入れないので。(女性/85歳以上)

現実にどのようなサービスを利用者が求めているのか、どのように向上すべきか決定される人は現場を見て判断してるのかどうか疑ってしまうときがある。机上の空論では通用しない世界であることをもっと認識してほしいです。(女性/40歳~64歳)

介護保険制度は始め大盤振る舞いでいい事尽くしだったが、段々制限が多くなり、サービスの内容が低下して利用が難しくなり介護保険料を支払うのが嫌になっている。もっと需要にのっとったサービスが出来るよう要望する。(女性/65歳~69歳)

ヘルパーや職員の人材確保に尽力をつくしてもらいたい。(女性/75歳~79歳)

仕事を持つ同居家族の負担を減らせるサービスを提供して欲しい。同居する、しないでは極端に精神的に違うので、かわいそうだと思う。不平等だと思う(同じ介護保険料払っているのに)(女性/85歳以上)

福祉は制度施設より人である。制度や施設が立派でも従業員の資質が低くではどうにもならない。提言1 給与が低い。業務内容に見合った額に引き上げ、よい人材の応募定着を図る。2 資質が低い。教養・指導を強化し技能の向上を、プロとしての自覚を持たせる。3 制約が多すぎる。固定した作業にとらわれず、ある程度裁量を認め利用者の求めに応ずることにより喜びや感謝が得られ、自分も誇りと意欲が得られる。(男性/80歳~84歳)

介護度が上がったとき、十分なサービスが受けられるのか不安です。(男性/65歳~69歳)

少ない庭ですが、草むしり等を年に2回位していただけたらと思います。(女性/80歳~84歳)

以前は作業が2時間だったように思います。1時間半はいかにも中途半端です。前のようにあと半時間伸ばしていただきたいと切望します。私の場合は、どの方にも恵まれて信頼関係も深めてきました。ありがたく思っています。(女性/85歳以上)

介護度が低い為、受けられサービスに限りが多く家族の負担が多い。だれの為の介護保険制度なのか考えさせられます。このままだと介護を受けている人だけが生き、家族が死ぬ事が有るのでは家族の人数や資産に合わせたサービスを考えてほしい。今のサービスは一人子にとっては地獄です。(男性/85歳以上)

在宅での食事サービスをもっと充実したものにしてほしい。例にして、毎日の弁当の提供。(男性/70歳~74歳)

食事サービスの内容を指定するの、良いですが、実質に本人の味が解っていないので全体的に工夫する必要が欲しいです。(男性/75歳~79歳)

介護保険制度のサービスを受けて大変助けていただいております。毎日感謝しております。ケアマネジャーさんが医師、看護師、ヘルパーさんとの連携をよくとって頂いて老老介護でも頑張っております。ありがとうございます。(男性/75歳~79歳)

・本当に必要な人に対して、きちんと判断し、サービスを受けさせて欲しい事。・介護度の低い利用者に対して、適当なケアをしている事も有ると聞き心配になりました。(男性/65歳~69歳)
精神面に対する対処が出来ていない。(女性/65歳~69歳)

今、年をとるとこんなに思うように動けなくなるものかとびっくりしています。が、こんなに安い料金でこれだけ助けて頂けるのに感謝しています。毎週1回お会いする日を楽しみに、自分の

身体と心にむち打って頑張っています。色々な事を教えていただいています。(女性/75 歳~79 歳)

保険料は高額なのに、それに見合うサービスではない。(男性/65 歳~69 歳)

ほとんどの介護が長期化しています。家庭での介護には限界があると思うので、介護度の重い方は家族が倒れる前に入所できるよう考えて欲しいです。ショートステイと家庭でのバランスが十分とれるような体制を作って欲しいと思います。もっと自由に利用できるように…。長期化すると家族の精神的負担が多く、耐えられません。(女性/40 歳~64 歳)

公的な介護保険施設をもっと増やして欲しい。(女性/85 歳以上)

最近、特に福祉にたずさわる人達の人員がたりず、ショートに出向く度に、一番思う事です。そのうち老老ヘルパーになりかねないです。働く人達の賃金をもう少し上げて、労働に見合う賃金にしてあげてほしいです。(女性/85 歳以上)

ヘルパーサービスについて。各個人でヘルパーサービスを受けたい内容があります。項目の中に希望するものがなく、それに近い項目にケアマネジャーさんが苦勞した上にサービスを受けましたが、出費が増すばかりでリハビリにならず。家族が行っています。区がケアマネジャーとサービス内容を打合せし、本人の希望を受けて下さい。(女性/70 歳~74 歳)

高齢になってから要介護から要支援になり、利用が希望どうりにならなくなった。アンケートの質問が多くて大変でした。(女性/85 歳以上)

< 区に対する意見 > (25 件)

他区では民生委員・ボランティアが活躍しているが、中野区では余り聞かない。(女性/85 歳以上)
書類が多すぎる。(女性/80 歳~84 歳)

障害者住宅や都営住宅に早く入れるようにしてほしい。(女性/65 歳~69 歳)

お金がなくても安心して暮らせる社会にしてください。(女性/65 歳~69 歳)

全てがお役所仕事。机の上の考えで現場を知らなさ過ぎる。(男性/75 歳~79 歳)

区の介護保険施設が増えることを希望します。(女性/75 歳~79 歳)

介護する人の人件費が安すぎるので区で補助すべきだ！！(男性/40 歳~64 歳)

住所の近くに地域包括支援センターがあるのに、遠くのセンターの管轄になっているので不便です。ヘルパーの人にもよるが、質がよくないです。(女性/75 歳~79 歳)

都 2 3 区の中で、特別養護老人ホームのような介護保険施設が少ないのではないかと。財政負担が大変と思うが、充実に努力して欲しい。(男性/75 歳~79 歳)

介護、お世話のよきお働きに感謝します。今後もお年寄り、又区民のためによきお働きが与えられますように祈っています。頑張ってください。(女性/85 歳以上)

被介護の状態が変わり、考えも変わると思うので、年に何回か再度アンケート募集してほしい。(男性/80 歳~84 歳)

足腰が痛くて歩行が出来ません。医師よりプールで歩くことを勧められていますので、身体障害者用プールを希望しています。(女性/70 歳~74 歳)

歳を重ねるごとに健康状態が変わります。介護していただく度合いも変化しますが、その都度ケアマネジャーさんに依頼して頂くのがとても面倒です。定期的の実態調査 etc をしていただければありがたいです。(女性/80 歳~84 歳)

タクシー券を増やして欲しい(男性/70 歳~74 歳)

地域包括支援センターの充実。気軽に相談出来るよう職員の質と量を充実させてほしい。(女性/75歳~79歳)

<その他の意見、自身の状況> (30件)

ベッドなどの毎月レンタルして代金を支払っているが、メンテナンスが悪い。こちらから連絡をしないと、マットレスも変えてもらえない。(女性/80歳~84歳)

介護保険利用で家の中に手すり、バリアフリー化等工事させるとその料金は一般の施工業者に当たらせると価格において割高である。これは介護保険利用者はその料金を1割負担すれば可なるという盲点でありあまり不平が出ない。それは税金が負担することで、この施工者の見積もりを慎重にチェックする必要があると思う。(女性/75歳~79歳)

老化は進行するのみですので、常に相談してほしい。(男性/80歳~84歳)

介護に来ていただいて感謝しております。見守って手伝って下さる方がいらっしゃるので、体が動く限り一人で頑張っています。(女性/80歳~84歳)

今は主人一人に介護を依頼しているが、主人(75才)が倒れたらと思うと不安です。(女性/70歳~74歳)

中野区社会福祉協議会の”ほほえみ”サービスのホームヘルパーさんをお願いしようと連絡したら、職員さんが我家へ来てくださって、関節リウマチは65歳以下でも介護保険制度が使えると教えてくださって、介護認定を受けてから約5年ほどになりました。(男性/40歳~64歳)

あまり多くを求めないで、今は自分で出来る事をしているつもり。デイサービスを一日利用しているが、たのしく過ごしている。老人の考えと若い人と一緒にする様、老人も考えなくてはいけないと思っている。もう少し老化が進むと考えていても思う様に出来ない不安がある。(女性/80歳~84歳)

色々お世話になっております。とても感謝しております。ありがとうございます。(女性/80歳~84歳)

1人1人は半人前ですが、支援センター指導で2人で1人前 夫婦で協力し合って余りお世話にならない様、協力努力しております。妻は耳が悪く聞こえません(補聴器を使用しております)(男性/85歳以上)

助けていただいて大変感謝しています。甘えることなく生活をとかがえてはおりますが、未婚のため子も孫もなく、不安のことも少なくやはり今後お世話をかけるでしょう。ご迷惑をお掛けしますが宜しく願い申し上げます。(女性/80歳~84歳)

皆様細かいことをよくなさっていらっしゃると思う。(女性/80歳~84歳)

身体が不自由になって、サービスを受けて有難いと思っております。まだ軽度な状態なので今の所は不満な点はありませんが、ゆくゆくお世話になると思います。その時になったらいろいろと相談にのって下さる様にお願いします。只今要支援です。指が思うように動きません。読みにくくてすみません。(性別無回答/年齢無回答)

介護のお世話になる前と後では、全ての生活に於いて心身共に楽になり有難い事と感謝して居ります。欲を申し上げれば、一寸したお掃除でも手を下していけない規則もある様で気を使う点もあります。(女性/80歳~84歳)

介護をしてくれる人は大変でしょうが、よろしく申し上げます。(女性/75歳~79歳)

(9) 介護で困った時の相談先 (介護者)

ケアマネジャーと家族・親族に相談する人が4割弱

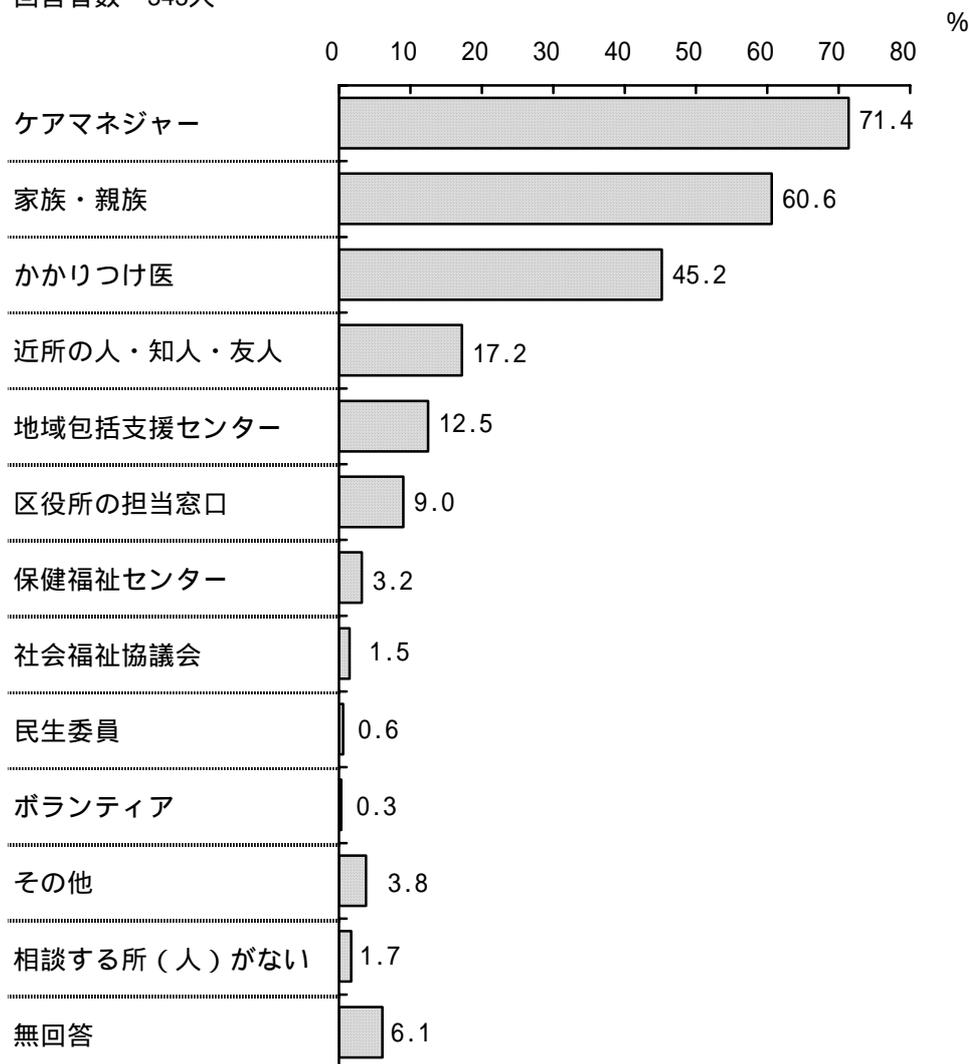
(アンケートの回答を本人のかわりに答えている介護者の方に)

問 33 . 介護をされていて困った時などに、どこ (だれ) に相談しますか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 7 - 8

回答者数 343人



アンケートの回答を本人のかわりに答えている介護者に、介護で困った時の相談先をたずねた。「ケアマネジャー (71.4%) が最も多く、次いで、「家族親族」(60.6%)、「かかりつけ医 (45.2%) が主な相談先としてあげられている。「相談する所 (人) がない」(1.7%) と答えた人はほとんどいなかった。(図 - 7 - 8)

性別では、「ケアマネジャー」(男性 75.4%、女性 69.4%)、「かかりつけ医」(男性 57.9%、女性 38.9%)、「地域包括支援センター」(男性 17.5%、女性 10.0%)は男性のほうが高くなっている。「家族・親族」(男性 53.5%、女性 64.2%)は女性のほうが高くなっている。(表 - 7 - 10)

主な介護者別では、「ケアマネジャー」は息子及び息子の配偶者を介護者とする人で 80%以上と高くなっている。「家族・親族」は娘及び息子の配偶者とする人で高くなっている。「かかりつけ医」は配偶者とする人で 50%強と高くなっている。(表 - 7 - 10)

表 - 7 - 10 性別、主な介護者別

		単位: %												
		回答者数	ケアマネジャー	家族・親族	かかりつけ医	近所の人・知人・友人	地域包括支援センター	区役所の担当窓口	保健福祉センター	社会福祉協議会	民生委員	ボランティア	その他	相談する所(人)がない
全体		343	71.4	60.6	45.2	17.2	12.5	9.0	3.2	1.5	0.6	0.3	3.8	1.7
性別	男性	114	75.4	53.5	57.9	14.9	17.5	7.0	6.1	1.8	0.9	0.9	3.5	-
	女性	229	69.4	64.2	38.9	18.3	10.0	10.0	1.7	1.3	0.4	-	3.9	2.6
主な介護者別	配偶者	106	66.0	51.9	51.9	16.0	14.2	7.5	6.6	0.9	-	0.9	1.9	1.9
	息子	50	82.0	54.0	34.0	12.0	16.0	16.0	4.0	2.0	-	-	4.0	4.0
	娘	93	68.8	67.7	43.0	16.1	8.6	6.5	-	1.1	-	-	5.4	1.1
	息子の配偶者	55	80.0	78.2	47.3	25.5	16.4	3.6	-	1.8	1.8	-	1.8	-
	孫またはその配偶者	5	80.0	100.0	40.0	-	20.0	-	-	-	-	-	20.0	-
	その他の方	27	66.7	40.7	40.7	22.2	3.7	22.2	3.7	-	3.7	-	-	7.4
介護者はいない		6	66.7	50.0	66.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	-	-	-	-

(10) 介護をしていて不足と感じるサービス（介護者・自由回答）

（アンケートの回答を本人のかわりに答えている介護者の方に）

問 34. 介護をされていて、不足していると感じるサービスはどのようなものですか。ご自由にお書きください。

アンケートの回答を本人のかわりに答えている介護者に、介護をしていて、不足していると感じるサービスについて自由に書いてもらったところ、153人から166件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

<介護サービスの充実（見守り、食事）について>（30件）

・入所サービスの充実 ・多機能のデイサービス ・ケアマネジャーやヘルパーの質を高くしてほしい。（女性 / 75歳～79歳）

朝昼夜の食事の時間がなく辛いです。3度の食事の配達をお願いします。（女性 / 40歳～64歳）
介護認定を受けた本人が家族と同居していると、身体介護は受けられても生活介護は受けられない。サービス枠は余っているのに！なぜなら私娘一人で介護している場合、外出することも（2時間位でも）出来ない。又、私が病院に検査に行くことも不自由である。そのような時、定期的でなくてもいいので生活介護ということで留守を見守る程度のサービスを考えてほしい。同居家族がいても枠内であれば、どちらでも利用できるように！お願いします。（女性 / 85歳以上）

透析の送りむかえをヘルパーさんをお願いしていますが、介護保険内では不十分なので自費で時間を長くしています。年の上目も悪いので、1人で院内も自由に歩かせるのも心配ですし、院内の看護婦さんの手も足りないのでヘルパーさんにおねがいしています。もう少し院内も介護保険でお願いできないでしょうか？（女性 / 85歳以上）

本人の身体的な事しかヘルパーさんをお願いできないので、「見守り」「話し相手」的な事でもしていただけると短時間でも息抜きや買い物に出やすい。と思う...（男性 / 65歳～69歳）

ヘルパーさんが帰った後は（10時から12時）は本人一人になったとき、訪問者（宅配、セールス等）が来るとオートロックを開けてしまい対応してしまう場合があるので17時くらいまで留守番者がいてくれるとありがたいと思う。（女性 / 85歳以上）

家人が家を長時間あける時、自分の為に民間のサービス（利用料）1時間3000円位で、1日2万円くらいはとても負担である。（女性 / 85歳以上）

要支援でもおむつの利用をさせてほしいです。発足時は通院で待ち時間も利用できたのに、今はできないと聞いたが、それではリハビリに行かなくなる。そんな中途半端な利用は不可能で利用しにくい。（女性 / 85歳以上）

・現在は在宅で介護できる状態ですが、困難になったときすぐに入れる施設が見つかるのか心配である。・若い年代の認知症対応（デイサービス）を高齢者と分けた方がよいと思われる。体力・思考に差があり入りにくい雰囲気は最初はある。・認知症の初期の対応プログラムによるデイサービス（機能訓練）があるとよい。（男性 / 65歳～69歳）

「緊急に預かって頂きたいときはどうしたよいか」と不安になる時があります。区の施設です

ぐに対応していただけるのでしょうか？（女性／85歳以上）

ショートステイ、ヘルパーの利用を簡単に出来ればと思います。家族の誰かが、必ず家にいないと泊まりで出掛けることが出来ないのが不自由です。（男性／75歳～79歳）

利用する時間が短いのであつという間の出来事です。残念に思ってます。もっと時間を長く利用できるといいですね。（女性／65歳～69歳）

一人暮らしの老人に対して（特に一人では外出不可能な老人）不安を少しでも取り除くような精神的なサービス提供があればいいなと思います。（男性／85歳以上）

母は一人で外に出られない（買い物、銀行）ので、食事は民間の宅配サービスを利用し、銀行は2ヶ月に1度、買い物は週1で私が行っているのですが、民間の業者は不景気などでなくなってしまわないか不安です。銀行や手続き系のことも、私に何かあったとき普通のヘルパーさんでは任せるのに不安な内容のことは誰が代行してくれるのでしょうか。弁当、日用雑貨の宅配サービス（料金は口座引き落としで）というサービスが必要だと感じています。（女性／75歳～79歳）

老人は「自分で出来る」と思ったり、言ったりする事でも実際は出来ていない事が沢山ある。例えば「風呂に湯を張り入浴する」事でも着替えが充分でなかったり、湯を入れすぎたり、適温を熱くしすぎたり、洗髪がおっくうだったり、助言や支度や後始末にどうしても介護者の手助けがいる。春 夏 秋 冬の下着、洋服なども老人だけだと充分出来ない。そういう細かい部分のサービスをどうしたらいいか今後の問題だと思う。（女性／85歳以上）

認知症老人に対する家族不在時の見守り、食事介助など、非定時・非定型なサービスは、介護保険で柔軟に対応することがむずかしい。（女性／80歳～84歳）

訪問介護は時間で1時間～1時間半で「何はしていけない、これは入ってない！！」など言っては、何の為に来てもらってるかが意味ない！！時間も少なすぎる！！（女性／40歳～64歳）

<ケアマネジャー、ヘルパー等、職員の質の向上について>（13件）

高齢者にかかわって仕事をする人は人格的に優れている人以外は仕事を与えるべきではないと思う。（女性／80歳～84歳）

信用できるヘルパーさんがいないことが残念です。ヘルパーさんの品質向上はどうしたらよろしいのでしょうか。（女性／80歳～84歳）

介護サービスをしてくれる人達の処遇をもっと高めることが必要と考える。それがサービスの質を高めることにつながると考える。（女性／85歳以上）

その他の件でひとこと。介護の為に家の中に職人に入ってもらった。結果として、近所の家の介護を受けている家のことを多分に話された。こういったことは、なるべく他人には知られたくないと思うので、そういう点、よく教育してほしいと思う次第です。ケアマネジャーも含めてのことだと思います。（男性／75歳～79歳）

・土・日曜に来てくれるヘルパーがいない。・病気に応じた知識と技術を持っているヘルパーがいない。（女性／85歳以上）

<介護者の負担（軽減）について>（18件）

被介護者本人のためのサービスだけでなく、介護する家族の負担軽減にも配慮してもらいたい。自己負担割合1割は大いに助かるが、逆に必要以上に介護サービス利用増につながることもありうる。サービス内容メニューを増やし、メニューごとに自己負担率を変える等、より柔軟な制

度にしてほしい。(女性/80歳~84歳)

働いているので、職場に電話がかかってきてもすぐ対応できない。そのような時は、代わりに内科受診など誰かに頼めるとありがたい。(女性/85歳以上)

本人が高齢である程度認知症もあり、又、自宅以外の場所での宿泊では家族がいないと混乱する関係上、家族の介護負担が大きい。家族もある程度の範囲の社会生活(田舎の法事の出席などで2~3泊の外泊)が出来る様、長時間の自宅での見守りなどがお願いできると大変ありがたい。(男性/85歳以上)

気管切開、経管栄養、要介護5の在宅介護を配偶者が主にしています。故に介護者に疲労がたまり、せめて月に1週間位預かってくれる所があれば共倒れにならなくて済むのではと切望します。現在介護者も通院状態です。(男性/75歳~79歳)

家族と暮らしている(二世帯住居)とはいえ、本人はできるだけ家族には迷惑をかけたくないという思いもあり、ヘルパーさんに週2回来てもらっていますが、独居老人ではないので本人が望むサービスが受けられない状態です。(女性/85歳以上)

家族が介護しているのですが、一人では病院にも行けずいつも家のものが付いていきます。ヘルパーをお願いしたいのですが、耳が聞こえないし...。本人が嫌がるので困っております。(女性/75歳~79歳)

低料金での施設は望むのが無理なのでしょうか。本人に余裕がないことを知った家族は"義務"として負担し続けなければいけないのかと思ったりして気がめいる一方です。(女性/80歳~84歳)

介護している人の疲れた心身ともに、いやされる様な場所、勉強会のようなものがほしいと思います。(男性/80歳~84歳)

現在私のところではあまりサービスに不満はありませんが、介護する家族の休み日があったら嬉しいのにとすることはあります。(女性/40歳~64歳)

<要介護認定や保険料負担について>(6件)

介護させていただいて...かかるお金がとても負担に思うし...またこれから老後を迎える私たちのこの先もとてもいろいろな面で不安だらけです。不正や無駄遣いは...腹立たしい!!(女性/80歳~84歳)

介護タクシーの利用も1割負担にしてもらいたいです。(女性/85歳以上)

前回の認定では介護3であったものが、今年度は介護2となる理由は納得しない。認知症は年々進行し介護が大変になるのに、いろいろなサービスを受けたいと思っても制約された事で介護者が共倒れになる。2年に一度の認定される時に訪問される方のその場の本人の状態には、本当に介護の必要なところを全面的に把握しきれていないのではないのでしょうか。(男性/80歳~84歳)

不足よりも介護度が低いとサービスに限界があります。介護保険内で賄え無い、自腹を切ること、それではお金が続かない、サービスは受けられないと誰の為の介護保険なのか。(男性/85歳以上)

まだ利用していませんが、要介護状態区分がいつも納得いかない。本人が第一ですが、介護する側からの用件をもっと聞いて欲しい。(女性/85歳以上)

< ケアマネジャーやケアプランについて > (5 件)

人間の状態は波があります。1ヶ月一律の介護プランでは成り立たない日があります。難しいのでしょうか、フレキシビリティがあるプラン契約は、行政側からは指導できないのでしょうか。

(男性 / 40 歳 ~ 64 歳)

ケアマネジャーとはどの程度までの相談をして良いのかわかりません。ケアマネジャーも人間ですから、あまりくだらない話は聞きたくないのかもしれませんが、ただ毎月のスケジュールの印を押すだけでは？と思う事もあります。(女性 / 80 歳 ~ 84 歳)

酸素を使っていますが、中野区はほとんど施設がないそうですがどうしてでしょう。他の区の施設にお願いしています。ケアマネジャーの勉強不足だと思います。(男性 / 85 歳以上)

ケアマネジャーが相談できるような感じではない。ケアマネジャーによって善し悪しがある。地域包括支援センターの対応が機械的である。(女性 / 65 歳 ~ 69 歳)

< 訪問介護 (ホームヘルプ) について > (10 件)

突発的急用が家庭に起こった時、介護センター (ヘルパー) にお願いしたいが、時間が短いとかヘルパーがいないとかで、留守番がいない。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

日中、家族は全員働いているため、介護サービスの時間が 16:30 ぐらいで終わってしまうので、以後は民間のヘルパーを利用して (家族が帰ってくるまで) いるが、高額のため費用が嵩むので、もう少しヘルパーの時間帯を延長してもらえると助かります。(女性 / 80 歳 ~ 84 歳)

介護して下さるヘルパーさんが不足している。(女性 / 85 歳以上)

昨年夏より、介護保険利用が大変厳しくなり、ヘルパーさんに来て頂ける時間が大変削減されました。財政厳しい実情は理解はしておりますが、今少し、ヘルパーさんに手伝って頂きたいお願い申し上げます。(男性 / 40 歳 ~ 64 歳)

・散歩はなぜ介護保険適用にならないのか？散歩したくても (健康に良いから) 1人で散歩できない為、ヘルパーを必要とする。・同居している場合、同居人が仕事を持っている場合はヘルパーの仕事範囲を広げてほしい。あまりにも同居している人達に対して、サービス内容に制限がありすぎる。(掃除、散歩など...) ・今の状態では、何の為の介護保険かわからない！！利用したいサービスが受けられない。(女性 / 85 歳以上)

家族のいない老人ひとりで病人の看護はとても苦痛です。在宅看護をするならばヘルパーを増やしてもらいたい。ケアマネジャーの質を高めていただきたい。忙しそうにされていて、うまく泳いでいる感じです。福祉精神のない者はこの仕事にたずさわってほしくない。(女性 / 85 歳以上)

< 通所介護 (デイサービス) について > (7 件)

以前、食事の宅配サービスを頼んだことがあったのですが、エリアの壁があり頼んでみたいと思ったところからサービスを受けることが出来なかった。日曜日に家人が外出することが多いのでデイサービスを探しているのですが、やはり少ないので現在待機中です。(女性 / 40 歳 ~ 64 歳) 運動機能の低下を防ぎたいが散歩にもまったく出なくなってしまい、強くは言えないし言えば怒りだしてしまいます。しかし足が弱れば歩けなくなります。デイサービスを利用していますが介護度もばらばらですので皆一緒には行かないと思いますが、なるべく歩かせたり、足の弱りをふせぐ体操をもっと本格的にとり入れてほしい。(女性 / 85 歳以上)

夫に合ったデイサービスがなかなか見つからなくて残念。(男性 / 70 歳 ~ 74 歳)

行き慣れたデイサービスで泊まりのあるところがあるとよいのですが…。ショートは何度か行きましたが慣れてくれません。(女性/85歳以上)

<短期入所生活・療養介護(ショートステイ)について>(17件)

将来ショートステイも必要になる時が来るかもしれないと思い、ケアマネジャーに尋ねましたが、ショートステイはひと月くらい前に申し込む必要があるとのことでした。1~2週間くらい前の申し込みでも可能になれば良いのと思いました。(女性/85歳以上)

ショートステイの充実を願います。(女性/85歳以上)

私共は兄弟も子供もなく、2人でデイサービスなどを利用しながら介護をしています。ショートステイが何々、希望通りに行かない時が多いため、もう少しショートステイの利用できる施設が増えればと思っています。(男性/85歳以上)

在宅介護の場合、介護度があがればあがる程自己負担額が多くなり、かといって近くのショートステイは希望通りの日数がとれず特別養護老人ホームもすぐには入れないという状況は改善して欲しい。施設に関するケアマネジャーの持っている情報量が少ない。事業所から派遣されるヘルパーの質にばらつきがある。(女性/85歳以上)

決まった日にショートステイがなかなかとれない。介護認定のどこまでが介護保険がきくのかなかなかわからない。デイサービスで夜の遅い時間までやってほしい。ショートステイというのはケアマネジャーさん、高齢者福祉センターの方が勝手に決めることなのですか。もう少し利用する側の方にたって決めてもらいたいと思います。(男性/40歳~64歳)

ショートステイ先が近くに(都内に)ない。看護師は必要。(男性/80歳~84歳)

ショートステイについて、こちらが希望する日に利用できるように努めて欲しい。(女性/85歳以上)

・病状がやや不安定(なれない所で血圧の変動(+))等)な場合、ショートステイが利用できない。病院等が受け入れてくれるショートステイを作ってほしい。・日中の見守りサービス、尿意があるのでレベル維持のためには見守りトイレ介助が必要。(女性/80歳~84歳)

ショートステイが出来る施設が区内に欲しい。いつでも利用できるとうい(年寄り)は気分がこころ変わるの)いつでもステイできる体制があると助かります。(女性/80歳~84歳)

・受け入れてくれるショートステイの施設が少ないこと。料金が高いこと。・介護なしでは外出出来ませんが、床屋に行きたいとか、医者に行きたいとかの希望をかなえてあげられないことがあります(家族がいないので)(男性/85歳以上)

<施設(増設、入所待等)について>(21件)

特別養護老人ホームの充実。父は昨年なくなったが、3年前近県までずいぶん施設をさがした。だが、全部の施設で入所は出来なかった。(女性/80歳~84歳)

特別養護老人ホームを利用したいのですが、500~600人待ちと言われました。年収も少ないのでもっと施設を増やしていただけるとありがたいです。(男性/80歳~84歳)

現在は利用していないが、老人保健施設、特別養護老人ホームなど、いざと言うときに利用がすぐ可能になるとよいと思う。高齢者は体調の急変、事故など心積もりはしていても思わぬところでいろいろな変化が起こるので…。期待しています。(女性/85歳以上)

施設入所を希望しても、その施設がなくすぐ入れない。また、施設があっても今度は職員不足で

十分な介護を得られない。充実した施設(特に認知症で軽度～中度の人)が利用できる施設を作ってほしい。認知症といってもさまざまな症状があるので、軽・中度の人が安心して過ごせる施設を望みます。もっと認知症の人の実態を知ってほしい。(女性/80歳～84歳)

ヘルパーさんの時間が2時間限度なので、長時間外出したい時に自費になってしまうのが困ります。近所にすぐいけて家族が顔を見せやすい充実した施設があるといいと思います。なるべく在宅でみたいのですが、24時間介護は厳しい。時々息抜きしたいのですが、ショートステイはなかなかはじめません。家庭に準じた施設あるいは自宅と施設半々のような暮らし方が出来ないものか。(男性/70歳～74歳)

特別養護老人ホームに申し込んでも400人待ちとか200人待ちとか言われて、申し込み用紙を出しても何も連絡が来ない。民間の施設なんか高額で入れない。公営施設をもっと増やすべき!(男性/40歳～64歳)

希望する日に宿泊できる施設(旅行など介護者が外出したい時、連休、お盆など希望の日にショートでみてもらえたらと思います)散歩や外出など気分転換できること。ヘルパーさんと、買い物以外に散歩したり、お茶を飲んだり、お喋りしたり、ゆったり過ごせる時間もあつたらと思います。(女性/75歳～79歳)

国民年金受給者でも入所できる特別養護老人ホームが増えてほしい。切実な望みです。現実はお金がある程度ないと入所させてもらえない。ある程度施設の気持ちわからない訳ではないが、本当に入所したい人が多く、さびしい生活をしている事に腹立たしい気持ちになります。(女性/85歳以上)

介護する配偶者が病気のため介護出来ないため、入所出来る施設を増やす事を切に願いたい。(男性/85歳以上)

緊急時にすぐに入院できる施設がなくて困った事があります。短期療養施設が少ないのではと感じました。(男性/70歳～74歳)

<情報提供について>(6件)

認知症について、専門外の人になかなか理解してもらえない。外面だけよいので、精神的に非常に疲れる。(女性/85歳以上)

認知症に対して、具体的な症状例と対応の方法の教示をお願いします。(女性/75歳～79歳)

日々の暮らしに追われているので、どんなサービスがあるのかが分かりません。公報または、介護を受けているものにお知らせいただけるとありがたいです。(女性/80歳～84歳)

情報提供だと思う。介護をしている方同士の意見交換紙などがあつたら身近に意見を取り入れられるのではないかと思う。インターネットなどない方もまだいるので。(女性/80歳～84歳)

介護に関する事、例えば介護保険制度・認知症・介護の施設等々の情報を得たいと思います。

アンケートの集計結果は計画作成に使用されるとの事ですが、集計結果を知らせてほしい。(男性/75歳～79歳)

<その他の意見>(24件)

少々体の不自由でもなるべく移動させて体力をつけて何事も出来る様に訓練することがよいと思います。(男性/85歳以上)

病院に通院する時、リフトタクシーが時間が思うように取れない。介護をしている時、今手がほ

しい時(車椅子から落ちた時)とかその時どこに行ったら良いか分からない。(女性/85歳以上)
1日に1回は外出先、話し相手のいる場所・地域の学校の空き教室などを利用して新聞や新しい情報、コミュニケーションの場を作ること地震の時などの対応がスムーズに運べると思います。(女性/80歳~84歳)

一生懸命やってくれているので本当に感謝しています。(男性/40歳~64歳)

介護保険を利用してサービスを受けて居りますが、前記した工事に関する施行業者の価格は十分検討管理の上費用の無駄をはぶいた方がよろしいと思います。又、現場で働いているヘルパーの給料が安い点は十分改めるべきと思います。又、有料老人ホームの料金等はより精査した方がよろしいです。(女性/75歳~79歳)

今は入院中なので看護婦さんの心配りが一番気になります。よく面倒見て下さっていると思います。(男性/85歳以上)

介護保険が出来てとても助かっています。昨年4月の改定からは要支援に対しお金を使いすぎではないかと思えます。要支援の方の中には実際には余り必要ではないのにヘルパー派遣を依頼し、割に元気であるがゆえのわがまま、お金を払っているのだからという横柄な態度の方が多くいると聞きます。本当に介護が必要な方のための介護保険でなければならないと思えますし、公正・公平な介護認定であってほしいのです。なくてはならない介護保険、決して破綻することのない様をお願いしたいと思えます。(女性/85歳以上)

急に具合が悪くなったときなど、どこの病院に行ったらよいか分からず困っている。近くの病院はなかなか受け入れてもらえず、近所の医院でも時間外は診察してもらえず本当にどうしたらよいか分からない。車椅子が使えないほど調子の悪いときで駐車場がない医院では一人では連れて行けない。気軽にいつでも診察してくれる医者があるとよいと思う。(女性/85歳以上)
民間アパートに住んでいますが、家賃が高すぎですし2年間の更新があります。生活保護を受けていますので時々都営住宅に申し込んでくださいと言われますが...。何故この様な方から都営住宅に入れないのでしょうか。中野区は年寄りを大切にするとかいろいろな区報がきますが、どの様にお考えでしょうか?(女性/70歳~74歳)

車イスで出掛ける時の交通費が高い。福祉タクシー券だけでは間に合わない。もっと気軽にバスを利用したいです。(女性/80歳~84歳)

区役所等の相談窓口。初めての経験で、手さぐりで介護しているので、今後のことが不安。ケアマネジャーは人により差があるので、行政として血の通ったサービスをお願いします。(女性/75歳~79歳)

火災、急病、盗難、防犯等につき、緊急に対処して欲しい。(男性/85歳以上)

現況では、私が元気で介護の日々を過ごしているが(家族に助けをもらいながら)体調を悪くした時のことを考えると不安いっぱいです。とにかく元気でいなくてはなりません。(女性/80歳~84歳)

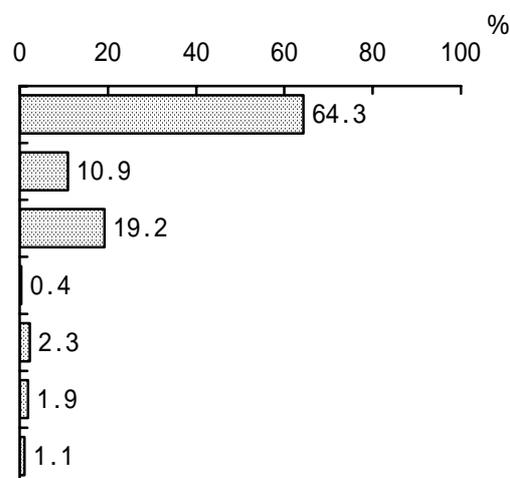
(病人を持っていると春は書類が多く、秋頃アンケート願いたいです。)各個人の病状が違っているので、サービス内容の1部が当てはまれば良い、と言う不都合なサービスは病状に依ってはサービスを受けない方が良い。介護保険でサービスを受けられる事はお願いしたいので、区へ相談をする方、ケアマネジャー、その他の方の希望を伺ってほしい。家族は日々出来る事は行い、サービスとご近所の方々の応援、手伝いを経ています。感謝一杯です。区のご担当者の方々。介護をしている方は1日として休みはありません。見直しをお願いします。(女性/70歳~74歳)

介護サービス未利用者

1. 対象者の属性

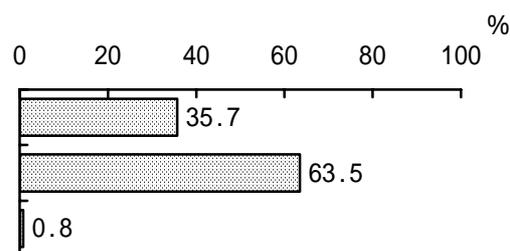
(1) アンケートの回答者

区分	回答者数	構成比 (%)
本人	171	64.3
配偶者	29	10.9
子どもまたはその配偶者	51	19.2
孫またはその配偶者	1	0.4
兄弟姉妹	6	2.3
その他	5	1.9
無回答	3	1.1
全体	266	100.0



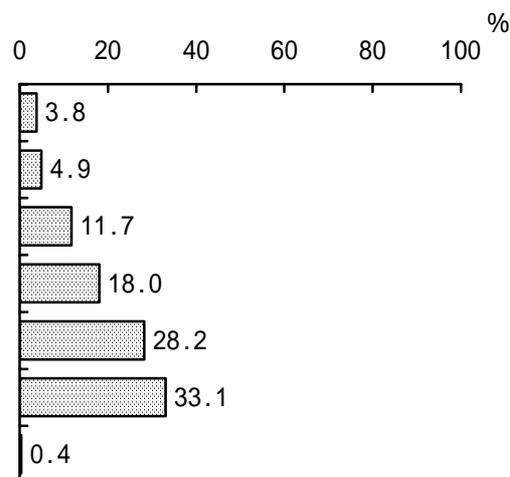
(2) 本人の性別

区分	回答者数	構成比 (%)
男性	95	35.7
女性	169	63.5
無回答	2	0.8
全体	266	100.0



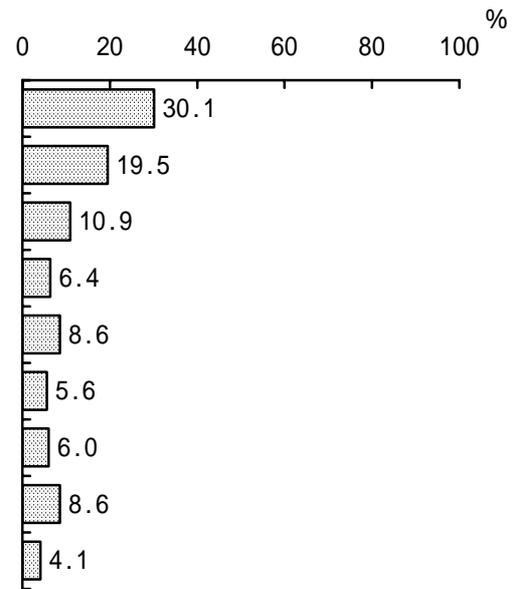
(3) 本人の年齢

区分	回答者数	構成比 (%)
40歳～64歳	10	3.8
65歳～69歳	13	4.9
70歳～74歳	31	11.7
75歳～79歳	48	18.0
80歳～84歳	75	28.2
85歳以上	88	33.1
無回答	1	0.4
全体	266	100.0



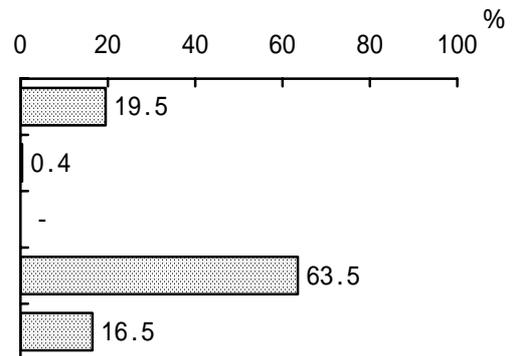
(4) 要介護度

区分	回答者数	構成比 (%)
要支援 1	80	30.1
要支援 2	52	19.5
要介護 1	29	10.9
要介護 2	17	6.4
要介護 3	23	8.6
要介護 4	15	5.6
要介護 5	16	6.0
わからない	23	8.6
無回答	11	4.1
全体	266	100.0



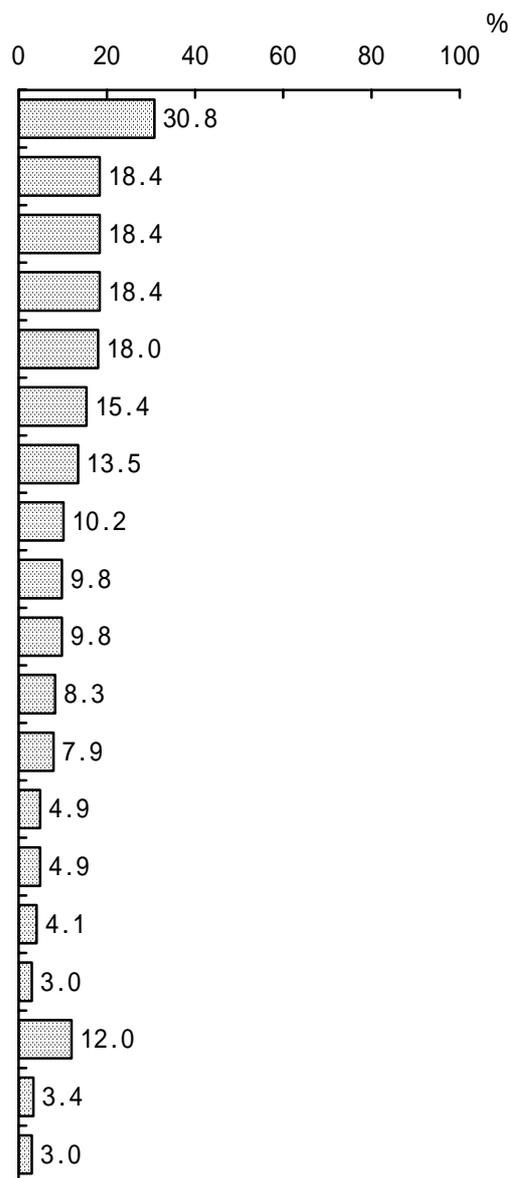
(5) 障害者手帳の有無 (複数回答)

区分	回答者数	構成比 (%)
身体障害者手帳を持っている	52	19.5
愛の手帳 (療育手帳) を持っている	1	0.4
精神障害者保健福祉手帳を持っている	0	-
障害者手帳は持っていない	169	63.5
無回答	44	16.5
全体	266	100.0



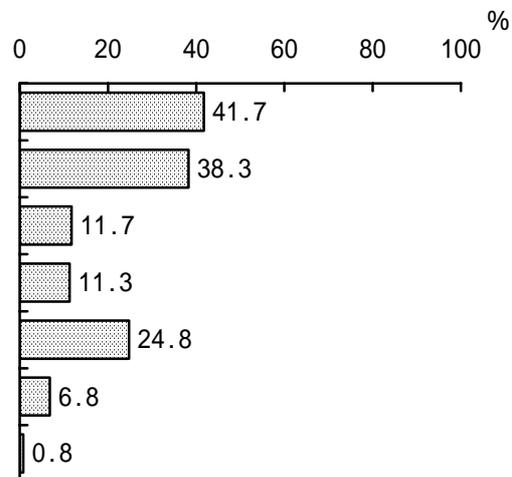
(6) 介護が必要になった原因(複数回答)

区分	回答者数	構成比(%)
年をとって不自由になった	82	30.8
脳梗塞や脳出血など 脳血管疾患	49	18.4
骨折・転倒	49	18.4
膝などの関節疾患や リウマチ	49	18.4
高血圧	48	18.0
認知症	41	15.4
骨粗しょう症	36	13.5
眼科疾患	27	10.2
心疾患	26	9.8
糖尿病	26	9.8
呼吸器疾患	22	8.3
泌尿器疾患	21	7.9
腎疾患	13	4.9
胃腸疾患	13	4.9
がんなどの悪性疾患	11	4.1
パーキンソン病	8	3.0
その他	32	12.0
介護の必要はない	9	3.4
無回答	8	3.0
全体	266	100.0



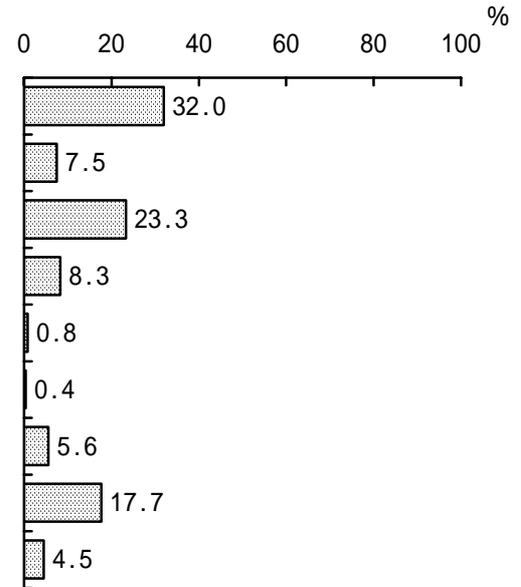
(7) 同居の家族(複数回答)

区分	回答者数	構成比(%)
配偶者	111	41.7
子	102	38.3
子の配偶者	31	11.7
孫	30	11.3
ひとり暮らし	66	24.8
その他	18	6.8
無回答	2	0.8
全体	266	100.0



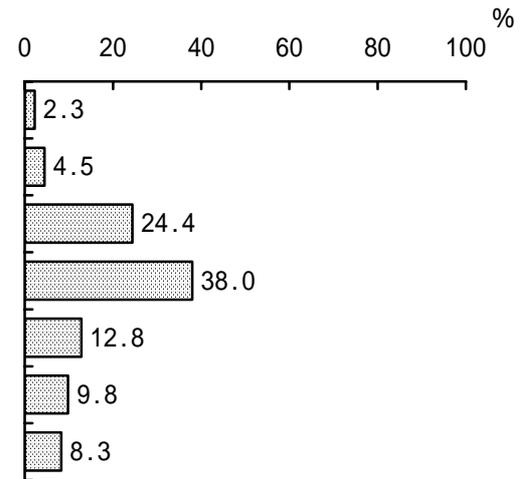
(8) 主な介護者

区分	回答者数	構成比 (%)
配偶者	85	32.0
息子	20	7.5
娘	62	23.3
息子の配偶者	22	8.3
娘の配偶者	2	0.8
孫またはその配偶者	1	0.4
その他の方	15	5.6
介護者はいない	47	17.7
無回答	12	4.5
全体	266	100.0

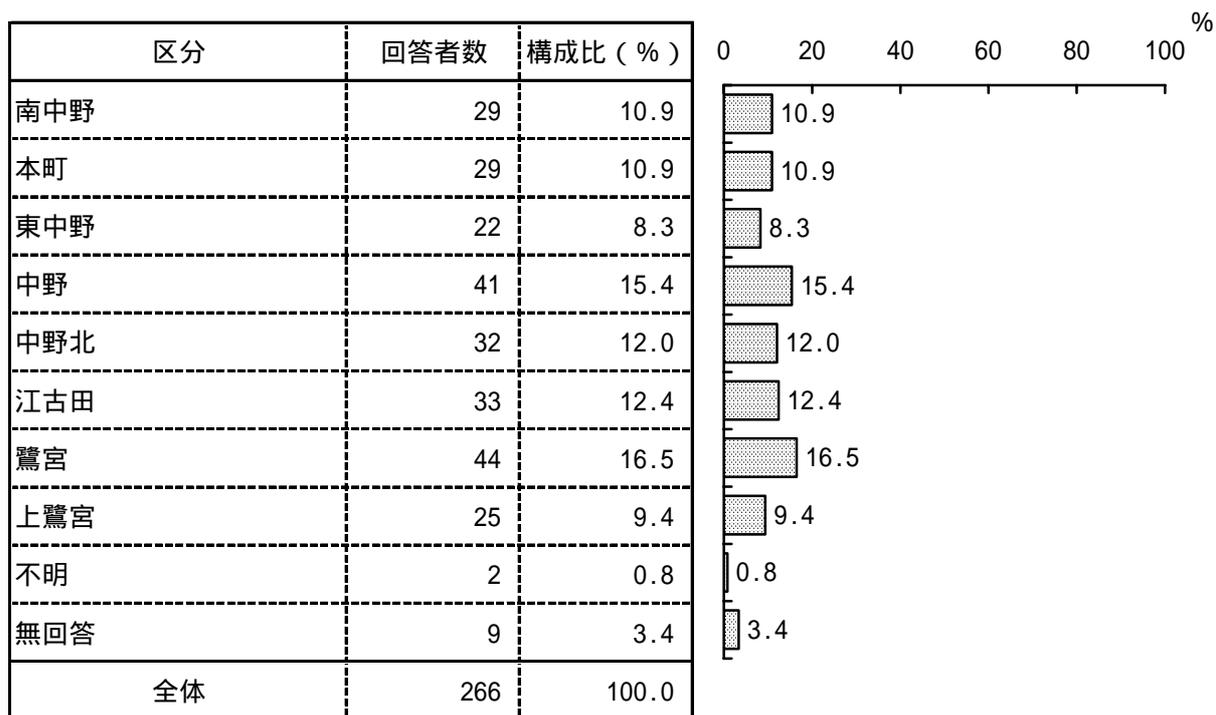


(9) 世帯年収

区分	回答者数	構成比 (%)
生活保護を受給している	6	2.3
80万円以下	12	4.5
81万～200万円未満	65	24.4
200万～500万円未満	101	38.0
500万～800万円未満	34	12.8
800万円以上	26	9.8
無回答	22	8.3
全体	266	100.0



(10) 担当の地域包括支援センター



2. 認定の申請について

(1) 要介護認定を申請した理由

「必要な時にサービスが受けられるようにするため」が3割強

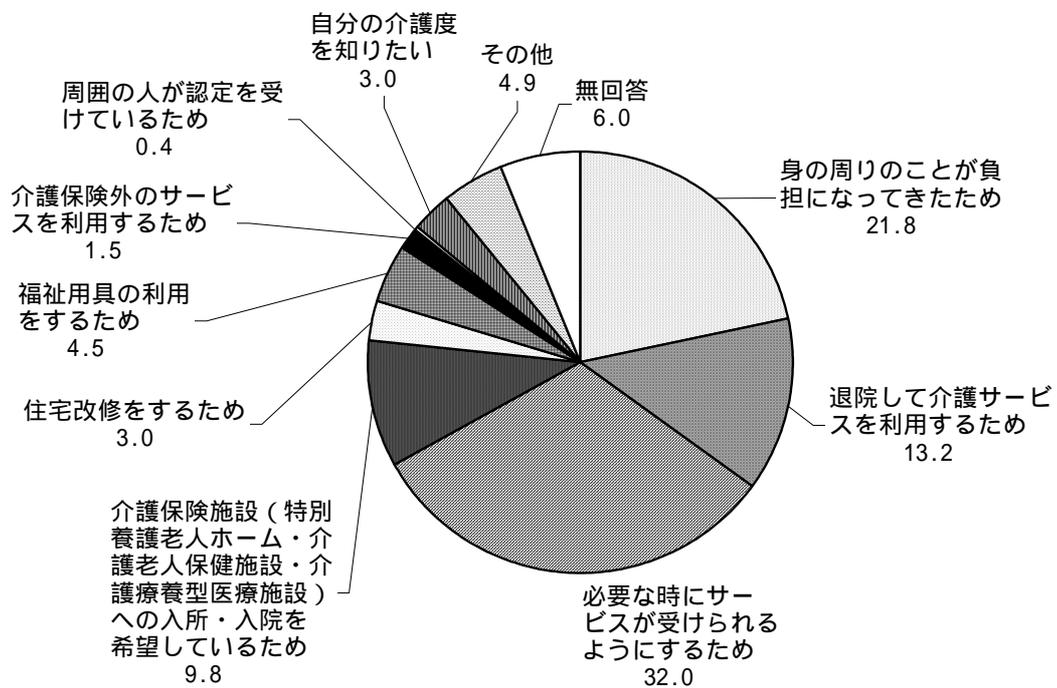
(全員の方に)

問11. あなた(宛名の方ご本人)が要介護認定を申請された理由は何ですか。(は1つ)

図 - 2 - 1

回答者数 266人

単位：%



要介護認定を申請した理由としては、「必要な時にサービスが受けられるようにするため」と答えた人が32.0%で最も多く、次いで、「身の周りのことが負担になってきたため」と答えた人が21.8%となっている。(図 - 2 - 1)

性別では、大きな差は見られない。(表 - 2 - 1)

年齢別では、「身の周りのことが負担になってきたため」と答えた人は85歳以上で30%と高くなっている。また、「必要な時にサービスが受けられるようにするため」と答えた人は40～64歳で40%となっている。(表 - 2 - 1)

要介護度別では、「身の周りのことが負担になってきたため」は要介護5の人で31.3%、要支援1の人で28.8%と高くなっている。また、「必要な時にサービスが受けられるようにするため」は要介護1の人で51.7%、要介護2の人で52.9%と、それぞれ半数を超えている。(表-2-1)

同居家族別では、ひとり暮らしの世帯では「身の周りのことが負担になってきたため」が34.8%、「介護保険施設への入所・入院を希望しているため」が16.7%と高くなっている。一方、高齢者夫婦だけ、高齢者と子どもの2世代の世帯、高齢者と子どもと孫の3世代の世帯では「必要な時にサービスが受けられるようにするため」が40%前後と高くなっている。(表-2-1)

表 - 2 - 1 性別、年齢別、要介護度別、同居家族別

単位：%

		回答者数	身の周りのことが負担に	退院して介護サービスを利用するため	必要な時にサービスが受けられるようにするため	介護保険施設への入所・入院を希望しているため	住宅改修をするため	福祉用具の利用をするため	介護保険外のサービスを利用するため	周囲の人が認定を受けているため	自分の介護度を知りたい	その他
全体		266	21.8	13.2	32.0	9.8	3.0	4.5	1.5	0.4	3.0	4.9
性別	男性	95	24.2	14.7	31.6	9.5	4.2	2.1	2.1	-	3.2	5.3
	女性	169	20.7	12.4	32.5	10.1	2.4	5.9	1.2	0.6	3.0	4.7
年齢別	40～64歳	10	20.0	10.0	40.0	10.0	-	10.0	-	-	-	10.0
	65～69歳	13	15.4	23.1	7.7	15.4	-	15.4	-	-	7.7	-
	70～74歳	31	9.7	19.4	32.3	6.5	3.2	3.2	6.5	-	6.5	9.7
	75～79歳	48	16.7	20.8	33.3	8.3	6.3	-	-	-	4.2	4.2
	80～84歳	75	22.7	6.7	36.0	12.0	4.0	2.7	2.7	-	2.7	4.0
	85歳以上	88	29.5	10.2	30.7	9.1	1.1	6.8	-	1.1	1.1	4.5
要介護度別	要支援1	80	28.8	7.5	33.8	6.3	6.3	3.8	2.5	-	1.3	5.0
	要支援2	52	23.1	15.4	32.7	3.8	1.9	7.7	1.9	-	1.9	1.9
	要介護1	29	20.7	3.4	51.7	6.9	-	3.4	-	3.4	3.4	6.9
	要介護2	17	11.8	29.4	52.9	-	-	-	-	-	5.9	-
	要介護3	23	-	34.8	13.0	26.1	4.3	4.3	-	-	4.3	8.7
	要介護4	15	13.3	20.0	26.7	33.3	-	6.7	-	-	-	-
	要介護5	16	31.3	6.3	18.8	31.3	-	-	6.3	-	-	6.3
同居家族別	ひとり暮らし	66	34.8	12.1	18.2	16.7	-	-	1.5	-	1.5	4.5
	高齢者夫婦だけ(1世代)	76	14.5	14.5	39.5	7.9	6.6	2.6	-	1.3	5.3	5.3
	高齢者と子ども(2世代)	75	22.7	13.3	37.3	4.0	1.3	6.7	2.7	-	4.0	5.3
	高齢者と子どもと孫(3世代)	27	11.1	11.1	40.7	7.4	3.7	14.8	3.7	-	-	3.7
	その他	20	20.0	15.0	20.0	20.0	5.0	5.0	-	-	-	-

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 介護保険サービスを利用していない理由

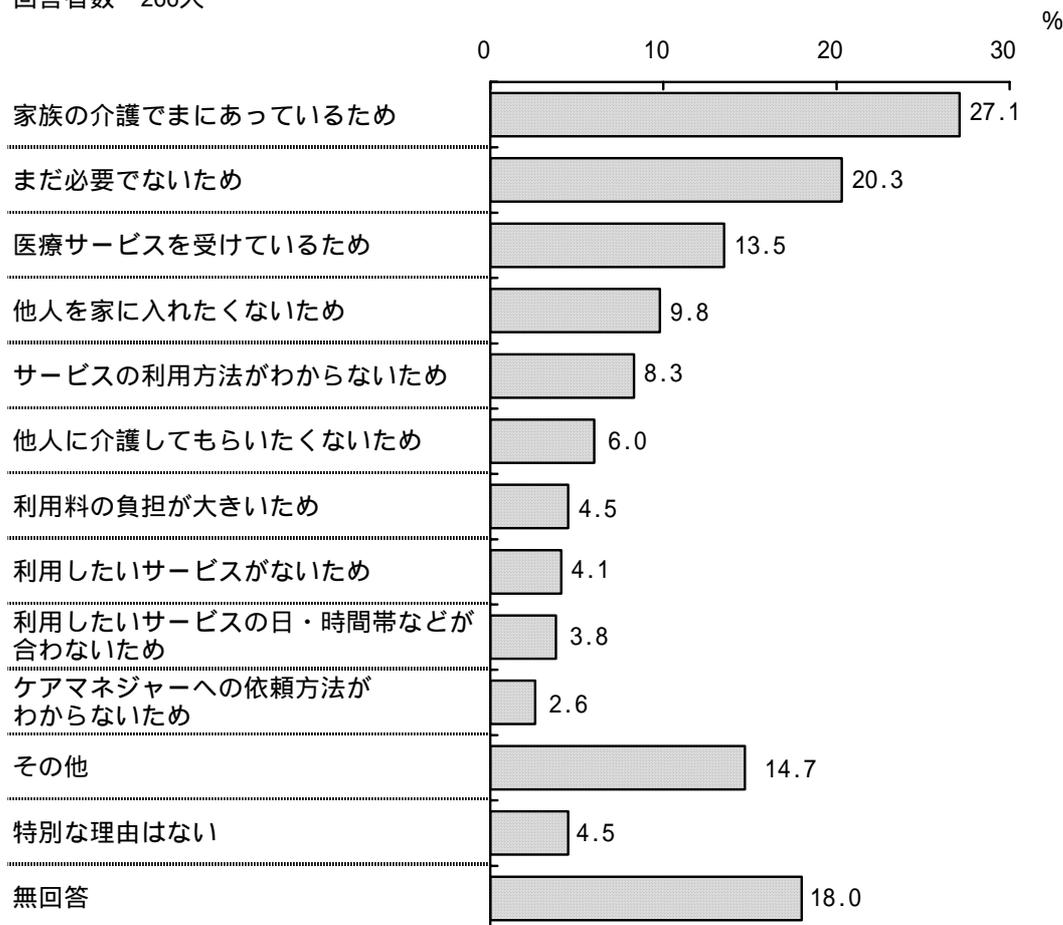
「家族の介護でまにあっているため」が3割弱

(全員の方に)

問12. あなた(宛名の方ご本人)が、介護保険サービスを利用していない理由についてお答えください。(あてはまるものすべてに)

図 - 2 - 2

回答者数 266人



介護保険サービスを利用していない理由としては、「家族の介護でまにあっているため」(27.1%)が最も多く、次いで、「まだ必要でないため」(20.3%)があげられている。以下、「医療サービスを受けているため」(13.5%)、「他人を家に入れたくないため」(9.8%)などがあげられている。(図 - 2 - 2)

性別では、「医療サービスを受けているため」が女性で16.6%と男性(8.4%)より高くなっている。(表 - 2 - 2)

年齢別では、「家族の介護でまにあっているため」は65~69歳で30.8%、85歳以上で29.5%と30%と高くなっている。また、「まだ必要でないため」は70~84歳で20%台半ばと高くなっている。(表 - 2 - 2)

要介護度別では、「家族の介護でまにあっているため」は要介護1の人で37.9%、要介護2の人で47.1%と高くなっている。一方、要介護4の人で13.3%、要介護5の人で12.5%と低くなっている。「まだ必要でないため」は要支援の人で高く、要介護の人では低くなっている。一方、「医療サービスを受けているため」では介護度が上がるほど高くなっており、要介護4の人で46.7%、要介護5の人では50.0%と高くなっている。(表 - 2 - 2)

同居家族別では、「家族の介護でまにあっているため」は高齢者と子どもの2世代の世帯、高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で、それぞれ33.3%と高くなっている。一方、「まだ必要でないため」は高齢者夫婦だけで27.6%と高くなっている。(表 - 2 - 2)

表 - 2 - 2 性別、年齢別、要介護度別、同居家族別

単位：%

		回答者数	家族の介護のために	まだ必要でないため	医療サービスを受けているため	他人を家に入れたくないため	サービスがわからないため	他人に介護してもらいたくないため
全体		266	27.1	20.3	13.5	9.8	8.3	6.0
性別	男性	95	27.4	18.9	8.4	10.5	10.5	8.4
	女性	169	27.2	21.3	16.6	9.5	7.1	4.7
年齢別	40～64歳	10	20.0	-	10.0	10.0	10.0	10.0
	65～69歳	13	30.8	15.4	15.4	7.7	-	-
	70～74歳	31	25.8	25.8	12.9	3.2	3.2	6.5
	75～79歳	48	25.0	27.1	10.4	10.4	12.5	2.1
	80～84歳	75	26.7	24.0	12.0	10.7	8.0	6.7
	85歳以上	88	29.5	14.8	15.9	11.4	9.1	8.0
要介護度別	要支援1	80	28.8	25.0	5.0	10.0	11.3	7.5
	要支援2	52	26.9	30.8	5.8	11.5	5.8	5.8
	要介護1	29	37.9	10.3	10.3	6.9	6.9	10.3
	要介護2	17	47.1	11.8	-	17.6	11.8	11.8
	要介護3	23	21.7	8.7	26.1	8.7	8.7	4.3
	要介護4	15	13.3	-	46.7	20.0	13.3	-
	要介護5	16	12.5	-	50.0	-	-	-
同居家族別	ひとり暮らし	66	16.7	21.2	12.1	7.6	10.6	4.5
	高齢者夫婦だけ(1世代)	76	28.9	27.6	13.2	13.2	7.9	6.6
	高齢者と子ども(2世代)	75	33.3	16.0	12.0	8.0	8.0	9.3
	高齢者と子どもと孫(3世代)	27	33.3	11.1	18.5	7.4	7.4	-
	その他	20	25.0	20.0	20.0	15.0	5.0	5.0

		回答者数	利用料の負担が大きい	利用したいサービスがない	利用したくないサービスが多い	ケアの依頼方法がわかりにくい	その他	特別な理由はない
全体		266	4.5	4.1	3.8	2.6	14.7	4.5
性別	男性	95	6.3	5.3	1.1	1.1	14.7	4.2
	女性	169	3.6	3.6	5.3	3.6	14.8	4.7
年齢別	40～64歳	10	-	-	-	20.0	50.0	-
	65～69歳	13	7.7	-	-	-	-	7.7
	70～74歳	31	-	3.2	3.2	-	12.9	3.2
	75～79歳	48	8.3	4.2	2.1	2.1	14.6	6.3
	80～84歳	75	4.0	5.3	1.3	-	13.3	4.0
	85歳以上	88	4.5	4.5	8.0	4.5	14.8	4.5
要介護度別	要支援1	80	7.5	3.8	2.5	2.5	10.0	6.3
	要支援2	52	3.8	1.9	5.8	-	15.4	5.8
	要介護1	29	-	6.9	-	-	10.3	-
	要介護2	17	11.8	17.6	5.9	5.9	23.5	-
	要介護3	23	-	-	8.7	4.3	34.8	4.3
	要介護4	15	6.7	6.7	6.7	13.3	20.0	-
	要介護5	16	-	-	-	-	18.8	-
同居家族別	ひとり暮らし	66	4.5	3.0	4.5	4.5	9.1	7.6
	高齢者夫婦だけ(1世代)	76	3.9	3.9	2.6	1.3	14.5	2.6
	高齢者と子ども(2世代)	75	4.0	5.3	4.0	1.3	16.0	5.3
	高齢者と子どもと孫(3世代)	27	-	7.4	3.7	7.4	14.8	3.7
	その他	20	15.0	-	5.0	-	30.0	-

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

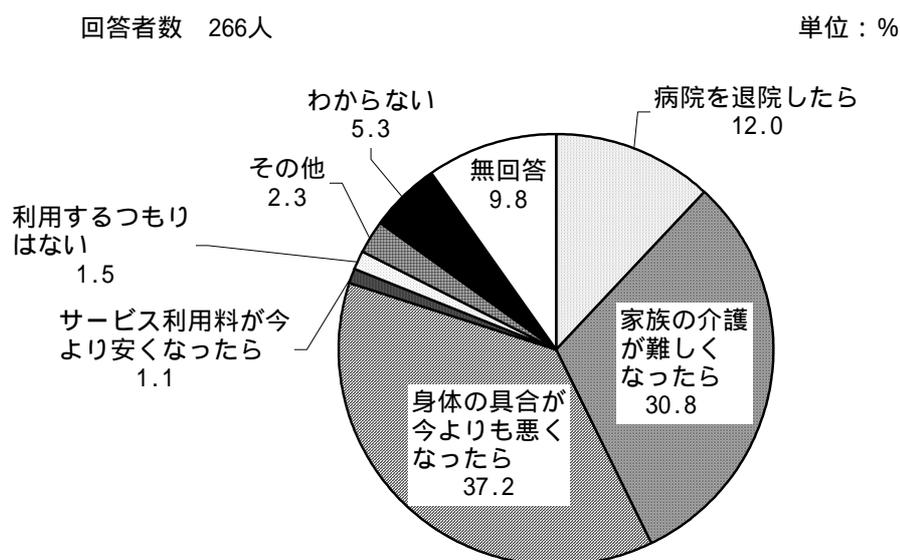
(3) 介護サービスを利用したいと思う状況

「身体の具合が今よりも悪くなったら」「家族の介護が難しくなったら」が3割台

(全員の方に)

問13. あなた(宛名の方ご本人)は、どのような状況になったら、介護サービスを利用したいと考えていますか。(は1つ)

図 - 2 - 3



どのような状況になったら、介護サービスを利用したいと考えているかたずねたところ、「身体の具合が今よりも悪くなったら」と答えた人が 37.2%で最も多く、次いで、「家族の介護が難しくなったら」と答えた人が 30.8%となっている。一方、「利用するつもりはない」と答えた人は 1.5%と少ない。(図 - 2 - 3)

性別では、大きな差は見られない。(表 - 2 - 3)

年齢別では「身体の具合が今よりも悪くなったら」と答えた人は 40~64 歳で 50.0%、70~74 歳で 48.4%と高くなっている。また、「家族の介護が難しくなったら」と答えた人は 75~79 歳で 35.4%、85 歳以上で 36.4%と、それぞれ 30%台半ばとなっている。「病院を退院したら」と答えた人は 65~69 歳で 23.1%と高くなっている。(表 - 2 - 3)

要介護度別では、「身体の具合が今よりも悪くなったら」は介護度が下の人ほど高くなっており、要支援 1 の人では 60.0%となっている。「家族の介護が難しくなったら」は要介護 1 の人で 51.7%と半数を超えている。また、「病院を退院したら」は介護度が上の人ほど高くなっており、要介護 5 の人では 56.3%となっている。(表 - 2 - 3)

同居家族別では、「身体の具合が今よりも悪くなったら」はひとり暮らしで 51.5%と高く、高齢者と子どもの2世代の世帯と高齢者と子どもと孫の3世代の世帯でそれぞれ 25%と低くなっている。また、「家族の介護が難しくなったら」は高齢者と子どもの2世代の世帯で 42.7%と高く、ひとり暮らしで 13.6%と低くなっている。(表 - 2 - 3)

表 - 2 - 3 性別、年齢別、要介護度別、同居家族別

単位:%

	回答者数	病院を退院したら	家族の介護が難しくなったら	身体の具合が今よりも悪くなったら	サービス利用料が今より安くなったら	利用するつもりはない	その他	わからない
全体	266	12.0	30.8	37.2	1.1	1.5	2.3	5.3
性別								
男性	95	10.5	32.6	40.0	2.1	1.1	1.1	3.2
女性	169	13.0	30.2	36.1	0.6	1.8	3.0	6.5
年齢別								
40～64歳	10	10.0	20.0	50.0	-	-	10.0	-
65～69歳	13	23.1	23.1	30.8	-	-	-	-
70～74歳	31	9.7	16.1	48.4	3.2	3.2	-	-
75～79歳	48	10.4	35.4	43.8	-	2.1	-	2.1
80～84歳	75	9.3	29.3	44.0	2.7	-	5.3	4.0
85歳以上	88	14.8	36.4	23.9	-	2.3	1.1	11.4
要介護度別								
要支援1	80	2.5	18.8	60.0	2.5	-	1.3	7.5
要支援2	52	-	38.5	40.4	-	3.8	-	5.8
要介護1	29	3.4	51.7	27.6	-	-	3.4	-
要介護2	17	11.8	35.3	35.3	5.9	-	5.9	-
要介護3	23	39.1	30.4	17.4	-	-	8.7	-
要介護4	15	33.3	40.0	13.3	-	-	-	-
要介護5	16	56.3	18.8	-	-	6.3	-	-
同居家族別								
ひとり暮らし	66	9.1	13.6	51.5	-	1.5	3.0	6.1
高齢者夫婦だけ(1世代)	76	9.2	35.5	43.4	2.6	1.3	-	1.3
高齢者と子ども(2世代)	75	14.7	42.7	25.3	-	1.3	4.0	5.3
高齢者と子どもと孫(3世代)	27	18.5	33.3	25.9	-	3.7	3.7	14.8
その他	20	15.0	25.0	30.0	5.0	-	-	5.0

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

3. 住環境について

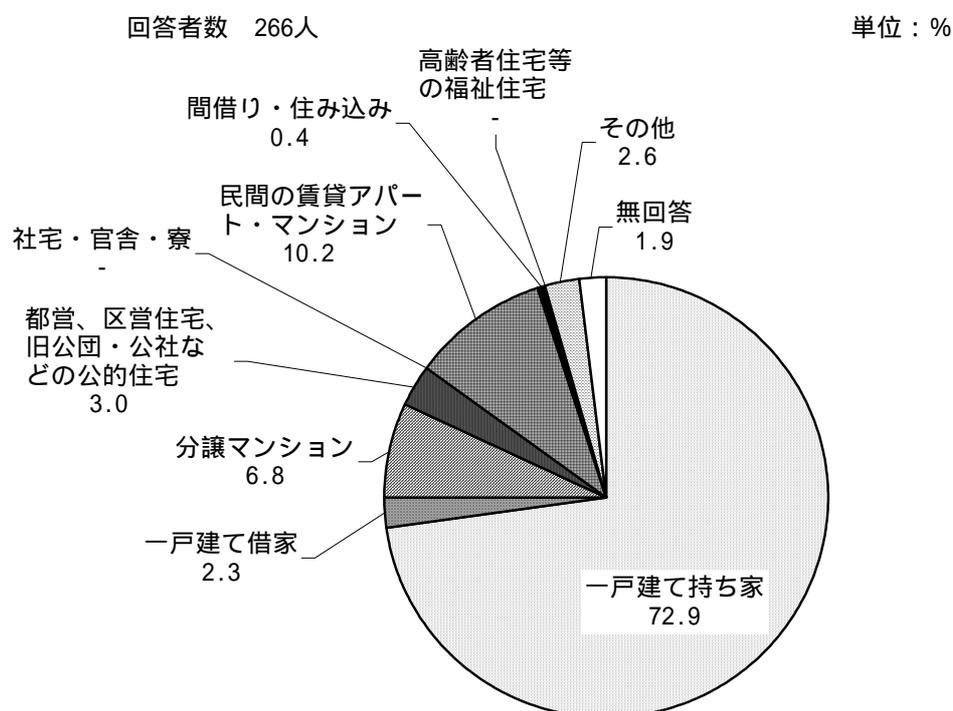
(1) 住居形態

一戸建て持ち家の人7割強

(全員の方に)

問14. あなた(宛名の方ご本人)の現在のお住まいは、次のうちのどれですか。(は1つ)

図 - 3 - 1



住居形態は、「一戸建て持ち家」が最も多く72.9%を占めている。以下、「民間の賃貸アパート・マンション」(10.2%)、「分譲マンション」(6.8%)、「都営、区営住宅、旧公団・公社などの公的住宅」(3.0%)等となっている。(図 - 3 - 1)

性別では、「一戸建て持ち家」は女性で78.1%と男性(65.3%)より高くなっている。(表 - 3 - 1)

年齢別では、「一戸建て持ち家」は40~64歳、85歳以上の人で、それぞれ80%と高くなっている。「分譲マンション」は70~74歳の人で12.9%、「民間の賃貸アパート・マンション」は75~79歳の人で16.7%となっている。(表 - 3 - 1)

要介護度別では、「都営、区営住宅、旧公団・公社などの公的住宅」は要介護2の人で11.8%と高くなっている。また、「一戸建て持ち家」は要支援1、要介護1、2の人で70%台半ばとなっている。(表 - 3 - 1)

表 - 3 - 1 性別、年齢別、要介護度別

単位：%

		回答者数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲マンション	都営、区営住宅、旧公団・公社などの公的住宅	社宅・官舎・寮	民間の賃貸アパート・マンション	間借り・住み込み	高齢者住宅等の福祉住宅	その他
全体		266	72.9	2.3	6.8	3.0	-	10.2	0.4	-	2.6
性別	男性	95	65.3	3.2	9.5	5.3	-	13.7	-	-	2.1
	女性	169	78.1	1.2	5.3	1.8	-	8.3	0.6	-	3.0
年齢別	40～64歳	10	80.0	-	-	-	-	10.0	-	-	10.0
	65～69歳	13	69.2	-	7.7	-	-	7.7	-	-	7.7
	70～74歳	31	61.3	3.2	12.9	3.2	-	12.9	3.2	-	3.2
	75～79歳	48	70.8	-	6.3	-	-	16.7	-	-	4.2
	80～84歳	75	70.7	4.0	2.7	5.3	-	12.0	-	-	1.3
	85歳以上	88	79.5	2.3	9.1	3.4	-	4.5	-	-	1.1
要介護度別	要支援1	80	75.0	3.8	8.8	2.5	-	10.0	-	-	-
	要支援2	52	69.2	1.9	5.8	1.9	-	13.5	-	-	1.9
	要介護1	29	75.9	3.4	10.3	-	-	6.9	3.4	-	-
	要介護2	17	76.5	-	5.9	11.8	-	5.9	-	-	-
	要介護3	23	73.9	-	4.3	-	-	13.0	-	-	4.3
	要介護4	15	73.3	-	6.7	6.7	-	6.7	-	-	6.7
	要介護5	16	68.8	-	6.3	6.3	-	6.3	-	-	12.5

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 住居で困っていること

「玄関の段差」が2割強

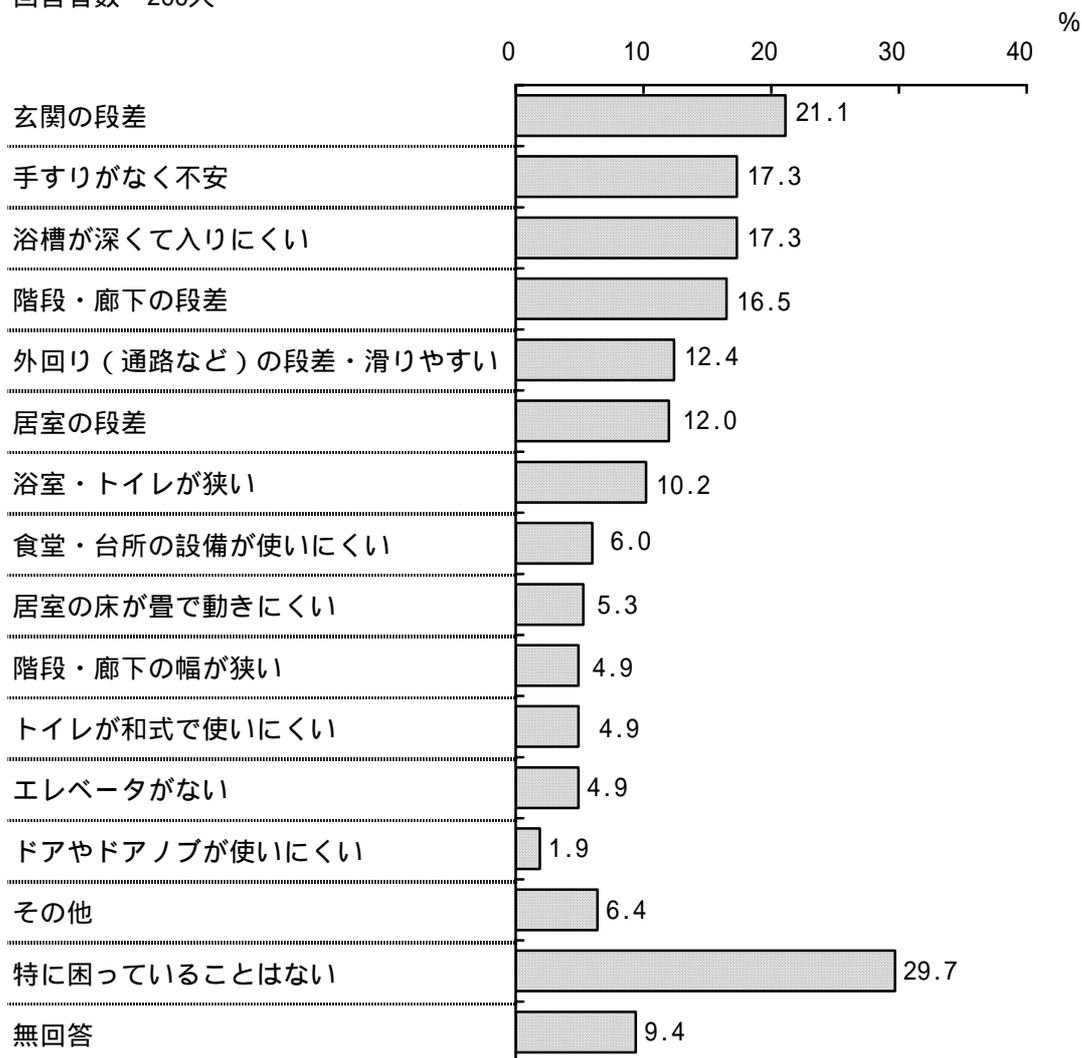
(全員の方に)

問15. 現在のお住まいで、困っていることを、次の中から選んでください。

(あてはまるものすべてに)

図 - 3 - 2

回答者数 266人



住居で困っていることとしては、「玄関の段差」(21.1%)と答えた人が最も多く、以下、「手すりがなく不安」と「浴槽が深くて入りにくい」(各17.3%)、「階段・廊下の段差」(16.5%)、「外回り(通路など)の段差・滑りやすい」(12.4%)、「居室の段差」(12.0%)、「浴室・トイレが狭い」(10.2%)が1割以上であげられている。一方、「特に困っていることはない」と答えた人は29.7%となっている。(図 - 3 - 2)

性別では、「玄関の段差」(女性 23.7%、男性 16.8%)「浴槽が深くて入りにくい」(女性 20.1%、男性 12.6%)「階段・廊下の段差」(女性 17.8%、男性 13.7%)「外回り(通路など)の段差・滑りやすい」(女性 14.8%、男性 8.4%)などで、女性が男性より高くなっている。(表 - 3 - 2)

年齢別では、40～64歳の人には「玄関の段差」(40.0%)「手すりがなく不安」「浴槽が深くて入りにくい」(ともに 30.0%)で高くなっている。また、85歳以上の人でも「玄関の段差」(26.1%)「浴槽が深くて入りにくい」(22.7%)で高くなっている。(表 - 3 - 2)

要介護度別では、「玄関の段差」「手すりがなく不安」「浴槽が深くて入りにくい」「居室の段差」「浴室・トイレが狭い」では要介護3～5の人が高くなっている。また、「階段・廊下の段差」は要介護3の人で、「外回り(通路など)の段差・滑りやすい」は要介護2、4の人で、それぞれ高くなっている。(表 - 3 - 2)

住居形態別では、「玄関の段差」は一戸建ての人で高くなっている。(表 - 3 - 2)

表 - 3 - 2 性別、年齢別、要介護度別、住居形態別

単位:%

	回答者数	玄関の段差	手すりがなく不安	浴槽が深くて入りにくい	階段・廊下の段差	外回り(通路など)の段差・滑りやすい	居室の段差	浴室・トイレが狭い	食堂・台所の設備が使いにくい	居室の床が畳で動きにくい	階段・廊下の幅が狭い	トイレが和式で使いにくい	エレベーターがない	ドアやドアノブが使いにくい	その他	特に困っていることは	
全体	266	21.1	17.3	17.3	16.5	12.4	12.0	10.2	6.0	5.3	4.9	4.9	4.9	1.9	6.4	29.7	
性別	男性	95	16.8	16.8	12.6	13.7	8.4	10.5	11.6	4.2	4.2	5.3	7.4	6.3	3.2	11.6	29.5
	女性	169	23.7	17.8	20.1	17.8	14.8	13.0	9.5	6.5	5.9	4.7	3.6	4.1	1.2	3.6	30.2
年齢別	40～64歳	10	40.0	30.0	30.0	20.0	10.0	10.0	-	10.0	-	10.0	-	-	-	30.0	
	65～69歳	13	-	15.4	7.7	15.4	-	7.7	15.4	-	-	7.7	7.7	-	-	7.7	30.8
	70～74歳	31	6.5	16.1	19.4	19.4	6.5	9.7	16.1	9.7	9.7	6.5	-	6.5	6.5	12.9	29.0
	75～79歳	48	14.6	16.7	4.2	20.8	16.7	8.3	6.3	8.3	4.2	4.2	6.3	2.1	2.1	6.3	29.2
	80～84歳	75	25.3	16.0	17.3	13.3	9.3	10.7	6.7	2.7	6.7	2.7	5.3	5.3	-	2.7	24.0
	85歳以上	88	26.1	17.0	22.7	15.9	15.9	17.0	11.4	6.8	2.3	6.8	4.5	6.8	2.3	8.0	35.2
要介護度別	要支援1	80	21.3	12.5	10.0	16.3	12.5	7.5	5.0	2.5	3.8	2.5	5.0	5.0	2.5	7.5	28.8
	要支援2	52	7.7	21.2	17.3	13.5	9.6	9.6	13.5	3.8	1.9	-	3.8	3.8	3.8	42.3	
	要介護1	29	24.1	20.7	20.7	13.8	10.3	17.2	6.9	3.4	3.4	3.4	3.4	6.9	-	3.4	34.5
	要介護2	17	23.5	5.9	17.6	17.6	17.6	11.8	5.9	-	-	11.8	-	5.9	-	5.9	23.5
	要介護3	23	26.1	26.1	26.1	26.1	13.0	21.7	21.7	17.4	8.7	4.3	4.3	13.0	-	8.7	26.1
	要介護4	15	40.0	26.7	40.0	13.3	26.7	20.0	26.7	13.3	13.3	13.3	6.7	6.7	6.7	6.7	13.3
	要介護5	16	43.8	25.0	37.5	12.5	12.5	25.0	25.0	6.3	18.8	18.8	6.3	-	-	18.8	25.0
住居形態別	一戸建て持ち家	194	25.3	18.0	16.0	19.1	13.9	12.9	8.2	5.7	5.7	4.6	5.7	3.6	2.1	6.7	30.9
	一戸建て借家	6	33.3	16.7	16.7	16.7	-	33.3	33.3	50.0	-	-	16.7	-	-	-	-
	分譲マンション	18	5.6	22.2	22.2	11.1	11.1	5.6	27.8	5.6	5.6	-	-	5.6	-	5.6	33.3
	公的住宅	8	-	12.5	50.0	25.0	-	-	12.5	-	12.5	12.5	-	37.5	-	25.0	12.5
	民間の賃貸アパート・マンション	27	11.1	18.5	22.2	7.4	11.1	14.8	11.1	3.7	3.7	3.7	3.7	7.4	3.7	-	33.3
	間借り・住み込み	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	その他	7	-	-	-	-	14.3	-	-	-	-	-	28.6	-	-	14.3	14.3

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

4 . 介護予防について

(1) 健康状態の維持や悪化しないために注意を払っていること

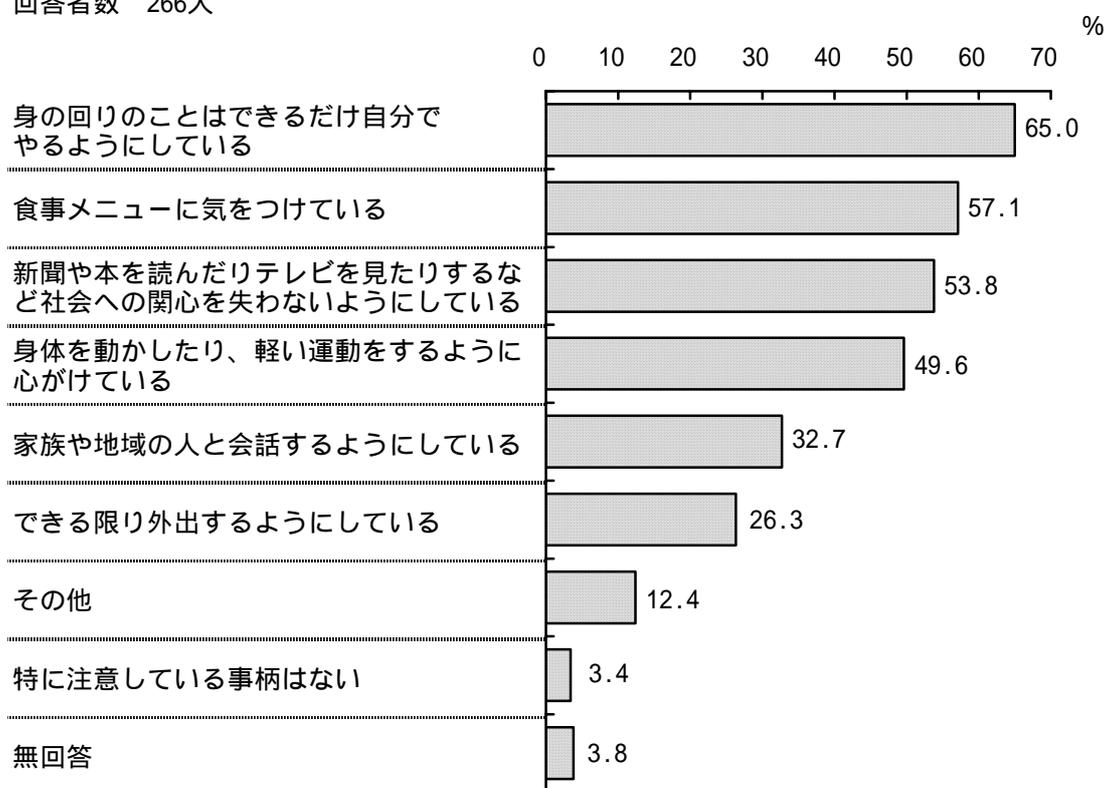
「身の回りのことはできるだけ自分でやるようにしている」が6割半

(全員の方に)

問 16 . あなた (宛名の方ご本人) は現在の健康状態を維持したり悪化しないように、どのような点に注意を払っていますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 4 - 1

回答者数 266人



現在の健康状態を維持したり悪化しないように、注意を払っていることとしては、「身の回りのことはできるだけ自分でやるようにしている」(65.0%)が最も多く、「食事メニューに気をつけている」(57.1%)、「新聞や本を読んだりテレビを見たりするなど社会への関心を失わないようにしている」(53.8%)、「身体を動かしたり、軽い運動をするように心がけている」(49.6%)をあげた人が約半数以上となっている。(図 - 4 - 1)

性別では、「家族や地域の人と会話するようにしている」は女性で38.5%と男性(23.2%)より高くなっている。一方、「できる限り外出するようにしている」は男性で32.6%と女性(22.5%)より高くなっている。(表 - 4 - 1)

性・年齢別では、「身の回りのことはできるだけ自分でやるようにしている」は男女の75～79歳、女性の80～84歳で70%以上と高くなっている。「食事メニューに気をつけている」は女性の70～74歳で64.3%、「新聞や本を読んだりテレビを見たりするなど社会への関心を失わないようにしている」は男性の85歳以上で60.7%、女性の80～84歳で63.5%と高くなっている。(表 - 4 - 1)

要介護度別では、全般的に要支援1の人で高く、特に「身の回りのことはできるだけ自分でやるようにしている」では85.0%となっている。また、要支援2の人で78.8%、要介護2の人で70.6%となっている。「食事メニューに気をつけている」は要支援1、要介護1、2の人で、「新聞や本を読んだりテレビを見たりするなど社会への関心を失わないようにしている」は要支援1、2、要介護2の人で、それぞれ高くなっている。(表 - 4 - 1)

表 - 4 - 1 性別、性・年齢別、要介護度別

		回答者数	自身の回りのことにはできているだけ	「食事メニュー」に気をつけている	「新聞や本を読んだりテレビを見たりするなど社会への関心を失わないようにしている」	「身の回りのことを動かすように心がけて、軽い運動をする」	「家族や地域のひとと会話するよ	「できる限り外出するようにし	その他	特に注意している事柄はない
全体		266	65.0	57.1	53.8	49.6	32.7	26.3	12.4	3.4
性別	男性	95	63.2	56.8	53.7	48.4	23.2	32.6	10.5	4.2
	女性	169	66.3	57.4	53.8	49.7	38.5	22.5	13.6	3.0
男性	40～64歳	4	75.0	75.0	50.0	50.0	75.0	25.0	-	-
	65～69歳	6	100.0	66.7	66.7	83.3	16.7	33.3	-	-
	70～74歳	17	47.1	52.9	52.9	47.1	11.8	35.3	17.6	-
	75～79歳	17	70.6	47.1	47.1	41.2	17.6	17.6	5.9	5.9
	80～84歳	23	60.9	60.9	47.8	47.8	13.0	47.8	4.3	-
	85歳以上	28	60.7	57.1	60.7	46.4	35.7	28.6	17.9	10.7
女性	40～64歳	6	50.0	33.3	83.3	66.7	16.7	16.7	-	-
	65～69歳	6	50.0	50.0	16.7	66.7	16.7	33.3	16.7	-
	70～74歳	14	57.1	64.3	42.9	50.0	42.9	35.7	21.4	-
	75～79歳	31	71.0	61.3	58.1	51.6	38.7	19.4	19.4	3.2
	80～84歳	52	75.0	53.8	63.5	51.9	50.0	34.6	7.7	-
	85歳以上	59	61.0	59.3	45.8	42.4	30.5	8.5	15.3	6.8
要介護度別	要支援1	80	85.0	62.5	72.5	61.3	38.8	41.3	5.0	2.5
	要支援2	52	78.8	57.7	65.4	48.1	32.7	23.1	9.6	1.9
	要介護1	29	62.1	65.5	37.9	44.8	27.6	13.8	6.9	-
	要介護2	17	70.6	76.5	58.8	52.9	35.3	17.6	17.6	-
	要介護3	23	56.5	52.2	56.5	47.8	26.1	17.4	13.0	4.3
	要介護4	15	20.0	40.0	6.7	33.3	20.0	13.3	33.3	-
	要介護5	16	-	18.8	-	25.0	18.8	-	50.0	6.3

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 現在の介護度を悪化させないために参加したい事業

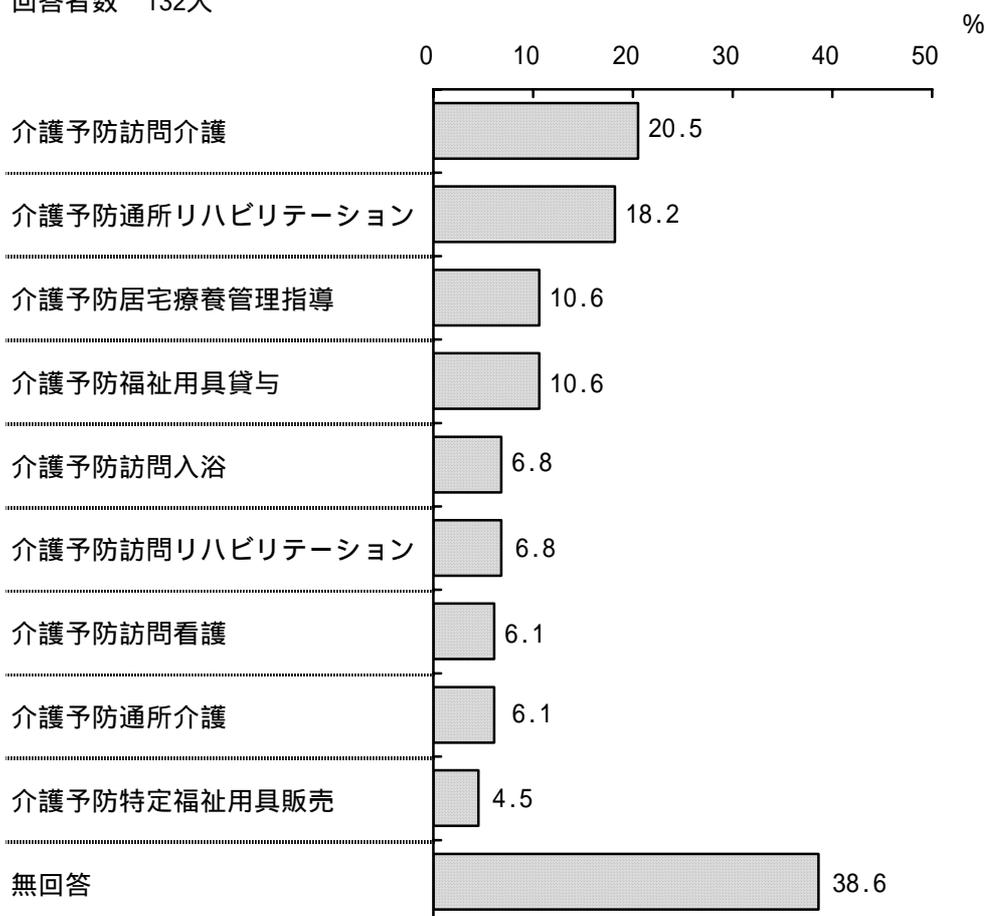
「介護予防訪問介護」「介護予防通所リハビリテーション」が約2割

(介護認定が要支援 1・2 の方に)

問 17 . あなた (宛名の方ご本人) の現在の介護度を悪化させないために、どのような事業に参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 4 - 2

回答者数 132人



介護認定が要支援 1・2 の人に、現在の介護度を悪化させないために参加したい事業をたずねたところ、「介護予防訪問介護」(20.5%) が最も多く、次いで、「介護予防通所リハビリテーション」(18.2%) があげられている。(図 - 4 - 2)

性別では、「介護予防通所リハビリテーション」が男性で 22.0% と女性 (14.8%) より高くなっている。(表 - 4 - 2)

年齢別では、「介護予防訪問介護」は 80 ~ 84 歳の人で 30.2%、「介護予防通所リハビリテーション」は 70 ~ 74 歳の人で 41.2%、「介護予防福祉用具貸与」は 75 ~ 79 歳の人で 17.4% と、

高くなっている。(表 - 4 - 2)

要介護度別では、「介護予防通所リハビリテーション」は要支援2の人で26.9%と高くなっている。(表 - 4 - 2)

表 - 4 - 2 性別、年齢別、要介護度別

単位: %

		回答者数	介護予防訪問介護	介護予防通所リハビリテーション	介護予防福祉用具貸与	介護予防居宅療養管理指導	介護予防訪問リハビリテーション	介護予防訪問入浴	介護予防通所介護	介護予防訪問看護	介護予防特定福祉用具販売
全体		132	20.5	18.2	10.6	10.6	6.8	6.8	6.1	6.1	4.5
性別	男性	50	22.0	22.0	10.0	12.0	6.0	8.0	10.0	8.0	4.0
	女性	81	19.8	14.8	11.1	9.9	7.4	6.2	3.7	4.9	4.9
年齢別	40～64歳	1	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0
	65～69歳	6	16.7	50.0	-	-	16.7	-	-	16.7	-
	70～74歳	17	5.9	41.2	5.9	11.8	-	5.9	5.9	-	5.9
	75～79歳	23	17.4	8.7	17.4	8.7	8.7	4.3	17.4	4.3	8.7
	80～84歳	43	30.2	18.6	9.3	9.3	7.0	9.3	7.0	7.0	-
	85歳以上	42	19.0	9.5	9.5	14.3	7.1	7.1	-	7.1	4.8
要介護度別	要支援1	80	25.0	12.5	13.8	13.8	3.8	2.5	7.5	7.5	5.0
	要支援2	52	13.5	26.9	5.8	5.8	11.5	13.5	3.8	3.8	3.8

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

5 . 今後の在宅生活・施設入所希望について

(1) 今後の生活について

自宅での生活を望む人が約 6 割

(全員の方に)

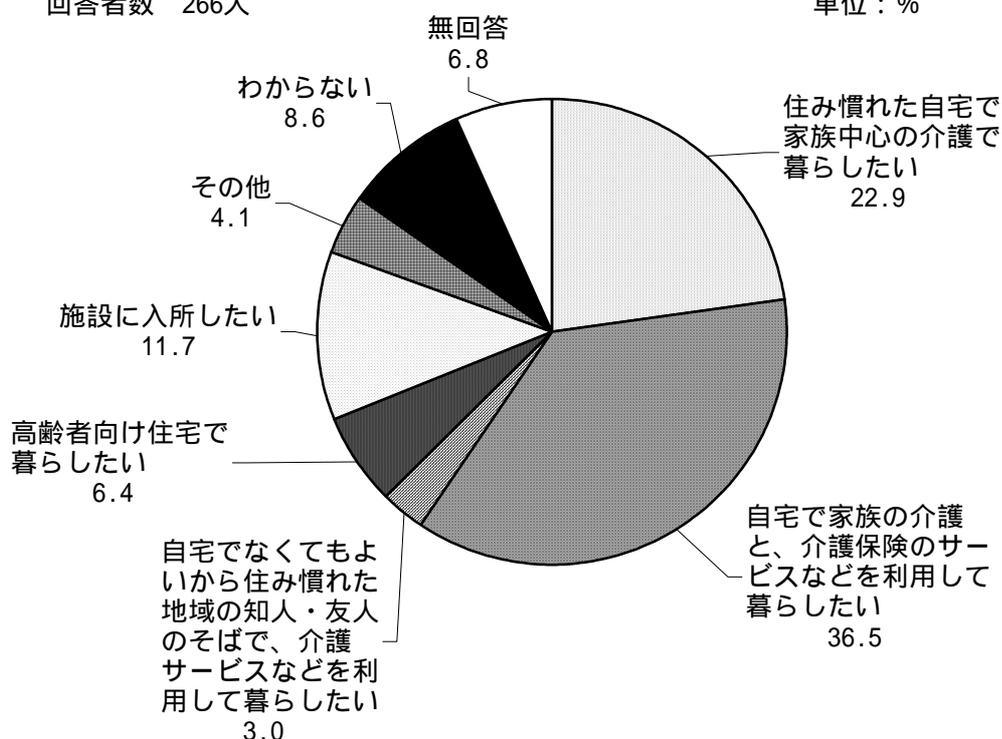
問 18 . あなた (宛名の方ご本人) は、今後の生活についてどのようにお考えですか。

(1 つ)

図 - 5 - 1

回答者数 266人

単位 : %



今後の生活については、「自宅でも家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用して暮らしたい」と答えた人が 36.5%で最も多く、次いで、「住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい」と答えた人が 22.9%となっている。一方、「施設に入所したい」と答えた人は 11.7%となっている。(図 - 5 - 1)

アンケート回答者別では、「施設に入所したい」と答えた人は子どもまたはその配偶者で 21.6%と高くなっている。(表 - 5 - 1)

性別では、「施設に入所したい」と答えた人が男性で 16.8%と女性 (8.9%) より高くなっている。(表 - 5 - 1)

年齢別では、「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用」と答えた人は40～69歳、85歳以上で高く、それぞれ40%台となっている。「住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい」と答えた人は75～79歳で29.2%、「施設に入所したい」と答えた人は40～64歳で20.0%となっている。(表 - 5 - 2)

要介護度別では、「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用」と答えた人は要介護2の人で64.7%、要介護1の人で51.7%と高く、半数を超えている。また、「施設に入所したい」と答えた人は要介護4と5の人で40%と高くなっている。(表 - 5 - 2)

同居家族別では、「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用」と答えた人は高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で51.9%と高く、「住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい」と答えた人は高齢者と子どもの2世代の世帯で34.7%となっている。一方、「高齢者向け住宅で暮らしたい」と答えた人はひとり暮らしで12.1%と高くなっている。(表 - 5 - 2)

主な介護者別では、「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用」と答えた人は息子の配偶者(50.0%)、娘(46.8%)で高くなっている。一方、「高齢者向け住宅で暮らしたい」、「住み慣れた地域で介護サービス等を利用して暮らしたい」と答えた人は、介護者はいないで、それぞれ14.9%、12.8%と高くなっている。(表 - 5 - 2)

世帯収入別では、「自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用」と答えた人は200万～500万円未満で42.6%、「住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい」と答えた人は500万～800万円未満で41.2%、800万円以上で30.8%と高くなっている。(表 - 5 - 2)

表 - 5 - 1 アンケート回答者別、性別

		単位: %							
		回答者数	介護みで慣れた自宅で家族中心の	自宅サービスの介護と、介護保	住み慣れた地域で介護サ	高齢者向け住宅で暮らしたい	施設に入所したい	その他	わからない
全体		266	22.9	36.5	3.0	6.4	11.7	4.1	8.6
回答者別	本人	171	25.1	35.7	4.7	9.4	7.0	4.1	7.6
	配偶者	29	20.7	31.0	-	3.4	13.8	6.9	13.8
	子どもまたはその配偶者	51	21.6	39.2	-	-	21.6	3.9	9.8
	孫またはその配偶者	1	-	100.0	-	-	-	-	-
	兄弟姉妹	6	-	16.7	-	-	50.0	-	16.7
	その他	5	-	80.0	-	-	20.0	-	-
性別	男性	95	21.1	37.9	1.1	6.3	16.8	4.2	7.4
	女性	169	23.7	36.1	3.6	6.5	8.9	4.1	9.5

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

表 - 5 - 2 年齢別、要介護度別、同居家族別、主な介護者別、世帯収入別

単位：%

	回答者数	住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい	自宅のサービスなどを利用	住み慣れた地域で介護サービス等を利用して暮らしたい	高齢者向け住宅で暮らしたい	施設に入所したい	その他	わからない
全体	266	22.9	36.5	3.0	6.4	11.7	4.1	8.6
年齢別	40～64歳	10	20.0	40.0	-	-	20.0	20.0
	65～69歳	13	-	46.2	15.4	-	15.4	7.7
	70～74歳	31	19.4	29.0	3.2	16.1	9.7	9.7
	75～79歳	48	29.2	31.3	2.1	8.3	6.3	4.2
	80～84歳	75	25.3	32.0	5.3	9.3	9.3	9.3
	85歳以上	88	22.7	43.2	-	1.1	15.9	5.7
要介護度別	要支援1	80	17.5	32.5	7.5	11.3	11.3	10.0
	要支援2	52	23.1	40.4	1.9	5.8	7.7	9.6
	要介護1	29	24.1	51.7	3.4	-	-	10.3
	要介護2	17	23.5	64.7	-	-	-	5.9
	要介護3	23	21.7	43.5	-	4.3	17.4	-
	要介護4	15	13.3	33.3	-	6.7	40.0	-
	要介護5	16	25.0	-	-	-	37.5	25.0
同居家族別	ひとり暮らし	66	6.1	31.8	6.1	12.1	15.2	19.7
	高齢者夫婦だけ(1世代)	76	27.6	34.2	1.3	6.6	15.8	3.9
	高齢者と子ども(2世代)	75	34.7	37.3	2.7	2.7	5.3	6.7
	高齢者と子どもと孫(3世代)	27	29.6	51.9	-	-	11.1	-
	その他	20	10.0	40.0	5.0	10.0	10.0	10.0
主な介護者別	配偶者	85	28.2	37.6	-	5.9	11.8	5.9
	息子	20	25.0	35.0	-	5.0	15.0	5.0
	娘	62	24.2	46.8	1.6	-	9.7	9.7
	息子の配偶者	22	22.7	50.0	-	-	13.6	9.1
	娘の配偶者	2	50.0	50.0	-	-	-	-
	孫またはその配偶者	1	-	100.0	-	-	-	-
	その他の方	15	20.0	40.0	-	13.3	6.7	6.7
	介護者はいない	47	10.6	17.0	12.8	14.9	14.9	14.9
世帯収入別	生活保護を受給している	6	-	16.7	-	50.0	-	16.7
	80万円以下	12	16.7	16.7	8.3	16.7	-	25.0
	81万～200万円未満	65	16.9	33.8	3.1	7.7	12.3	16.9
	200万～500万円未満	101	21.8	42.6	3.0	5.9	10.9	5.0
	500万～800万円未満	34	41.2	35.3	2.9	2.9	8.8	2.9
	800万円以上	26	30.8	30.8	-	-	23.1	-

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 介護保険施設や有料老人ホーム等への入所希望

入所希望がある人は3割強

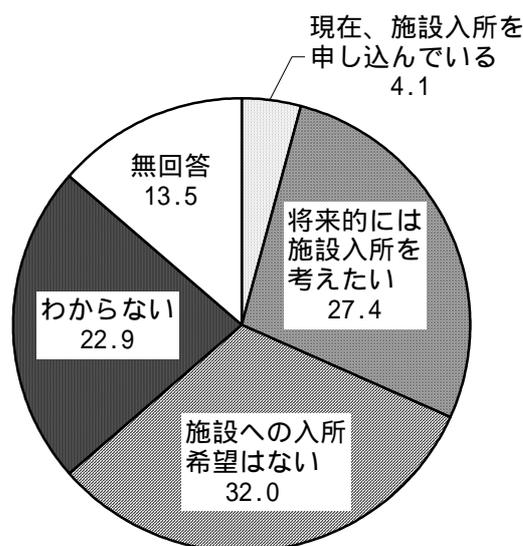
(全員の方に)

問19. あなた(宛名の方ご本人)は、介護保険施設や有料老人ホーム等に入所(居)希望がありますか。(は1つ)

図 - 5 - 2

回答者数 266人

単位：%



介護保険施設や有料老人ホーム等への入所希望については、「現在、施設入所を申し込んでいる」と答えた人が4.1%、「将来的には施設入所を考えたい」と答えた人が27.4%となっている。一方、「施設への入所希望はない」と答えた人は32.0%を占めるが、「わからない」と答えた人も22.9%となっている。(図 - 5 - 2)

アンケート回答者別では、「施設への入所希望はない」と答えた人は子どもまたはその配偶者で37.3%、「現在、施設入所を申し込んでいる」と答えた人は配偶者で13.8%と高くなっている。(表 - 5 - 3)

性別では、「施設への入所希望はない」と答えた人は男性が38.9%で女性(28.4%)より高い。一方、「将来的には施設入所を考えたい」と答えた人では女性が30.8%と男性(22.1%)より高くなっている。(表 - 5 - 3)

年齢別では、「施設への入所希望はない」と答えた人は65~74歳、85歳以上で30%台後半と高くなっている。一方、「将来的には施設入所を考えたい」と答えた人は75~84歳で40%前後と高くなっている。(表 - 5 - 3)

要介護度別では、「施設への入所希望はない」と答えた人は要支援2、要介護1の人で40%台半ばと高くなっている。一方、「将来的には施設入所を考えたい」と答えた人は要支援1、要介護3、4の人で30%台半ばと高くなっている。「現在、施設入所を申し込んでいる」と答えた人は要介護4、5で20%台となっている。(表 - 5 - 4)

同居家族別では、「施設への入所希望はない」と答えた人は高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で63.0%と高くなっている一方、ひとり暮らしの人で19.7%と低くなっている。(表 - 5 - 4)

主な介護者別では、「施設入所への希望はない」と答えた人は息子の配偶者で50.0%、娘で41.9%と高くなっている。一方、「将来的には施設入所を考えたい」と答えた人は息子、その他の方、介護者はいないで、それぞれ30%台半ばとなっている。(表 - 5 - 4)

世帯収入別では、「施設入所への希望はない」と答えた人は500万～800万円未満で41.2%、800万円以上で50.0%と高くなっている。一方、「将来的には施設入所を考えたい」と答えた人は80万円以下で33.3%、200万～500万円未満で32.7%となっている。また、「わからない」と答えた人が80万円以下で41.7%と高くなっている。(表 - 5 - 4)

表 - 5 - 3 アンケート回答者別、性別、年齢別

単位：%

		回答者数	現在、施設入所を申し込んでいる	将来的には施設入所を考えたい	施設への入所希望はない	わからない
全体		266	4.1	27.4	32.0	22.9
アンケート回答者別	本人	171	0.6	30.4	32.7	23.4
	配偶者	29	13.8	27.6	24.1	24.1
	子どもまたはその配偶者	51	7.8	21.6	37.3	23.5
	孫またはその配偶者	1	-	-	-	100.0
	兄弟姉妹	6	16.7	16.7	33.3	-
	その他	5	20.0	20.0	20.0	20.0
性別	男性	95	6.3	22.1	38.9	22.1
	女性	169	3.0	30.8	28.4	23.1
年齢別	40～64歳	10	-	20.0	30.0	30.0
	65～69歳	13	-	7.7	38.5	15.4
	70～74歳	31	9.7	16.1	38.7	22.6
	75～79歳	48	2.1	43.8	22.9	18.8
	80～84歳	75	2.7	38.7	28.0	21.3
	85歳以上	88	5.7	17.0	37.5	27.3

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

表 - 5 - 4 要介護度別、同居家族別、主な介護者別、世帯収入別

単位：％

	回答者数	現在、施設入所を申し込んでいる	将来的には施設入所を考えたい	施設への入所希望はない	わからない	
全体	266	4.1	27.4	32.0	22.9	
要介護度別	要支援1	80	1.3	36.3	26.3	22.5
	要支援2	52	1.9	21.2	46.2	21.2
	要介護1	29	3.4	24.1	44.8	20.7
	要介護2	17	-	11.8	29.4	52.9
	要介護3	23	4.3	34.8	17.4	21.7
	要介護4	15	20.0	33.3	26.7	13.3
	要介護5	16	25.0	18.8	18.8	6.3
同居家族別	ひとり暮らし	66	3.0	30.3	19.7	30.3
	高齢者夫婦だけ(1世代)	76	7.9	31.6	28.9	21.1
	高齢者と子ども(2世代)	75	1.3	24.0	38.7	21.3
	高齢者と子どもと孫(3世代)	27	3.7	14.8	63.0	14.8
	その他	20	5.0	35.0	20.0	20.0
主な介護者別	配偶者	85	4.7	28.2	35.3	18.8
	息子	20	5.0	35.0	25.0	15.0
	娘	62	4.8	19.4	41.9	25.8
	息子の配偶者	22	4.5	13.6	50.0	22.7
	娘の配偶者	2	-	50.0	50.0	-
	孫またはその配偶者	1	-	-	-	100.0
	その他の方	15	6.7	33.3	13.3	40.0
	介護者はいない	47	2.1	34.0	19.1	19.1
世帯収入別	生活保護を受給している	6	-	33.3	33.3	16.7
	80万円以下	12	-	33.3	16.7	41.7
	81万～200万円未満	65	1.5	24.6	29.2	21.5
	200万～500万円未満	101	5.9	32.7	28.7	24.8
	500万～800万円未満	34	2.9	20.6	41.2	26.5
	800万円以上	26	7.7	30.8	50.0	11.5

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(3) 希望する施設

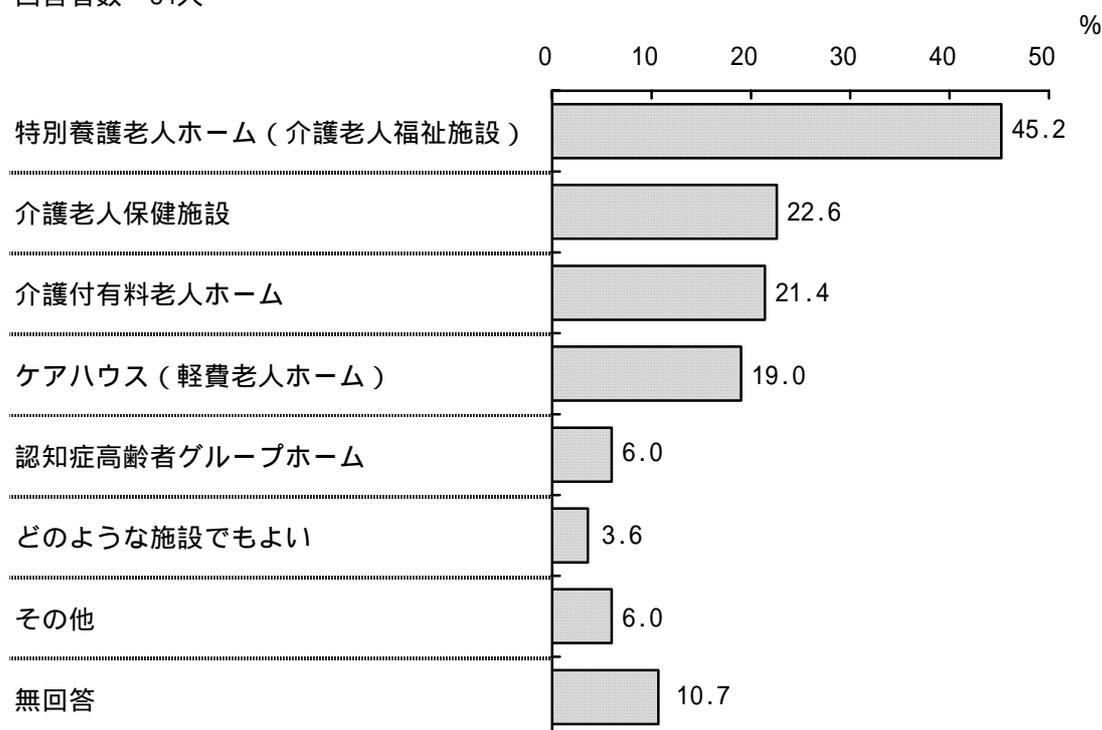
「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)」が4割半

(問19で「1. 現在、施設入所を申し込んでいる」「2. 将来的には施設入所を考えたい」と答えた方に)

問20. あなた(宛名の方ご本人)が入所(居)を希望されている施設はどのような施設ですか。
(希望するもの2つに)

図 - 5 - 3

回答者数 84人



施設への入所希望がある人に、どのような施設を希望しているかたずねたところ、「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)」(45.2%)が最も多く、以下、「介護老人保健施設」(22.6%)、「介護付有料老人ホーム」(21.4%)、「ケアハウス(軽費老人ホーム)」(19.0%)が2割前後となっている。(図 - 5 - 3)

性別では、「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)」、「ケアハウス(軽費老人ホーム)」と答えた人は女性の方が男性より高くなっている。(表 - 5 - 5)

年齢別では、「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)」と答えた人は80歳以上で50%以上と高くなっている。「ケアハウス(軽費老人ホーム)」と答えた人は80~84歳で25.8%と高くなっている。(表 - 5 - 5)

要介護度別では、「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)」と答えた人は要支援2の人で、「介護付有料老人ホーム」、「ケアハウス(軽費老人ホーム)」と答えた人は要支援1、2の人で、それぞれ高くなっている。(表 - 5 - 5)

表 - 5 - 5 性別、年齢別、要介護度別

単位: %

	回答者数	特別養護老人ホーム (介護老人福祉施設)	介護老人保健施設	介護付有料老人ホーム	ケアハウス (軽費老人ホーム)	認知症高齢者グループ ホーム	どのような施設でもよい	その他	
全体	84	45.2	22.6	21.4	19.0	6.0	3.6	6.0	
性別	男性	27	40.7	29.6	25.9	11.1	7.4	7.4	-
	女性	57	47.4	19.3	19.3	22.8	5.3	1.8	8.8
年齢別	40～64歳	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	65～69歳	1	-	-	100.0	-	-	-	-
	70～74歳	8	50.0	25.0	25.0	12.5	-	25.0	25.0
	75～79歳	22	31.8	18.2	22.7	18.2	9.1	4.5	4.5
	80～84歳	31	51.6	25.8	19.4	25.8	6.5	-	6.5
	85歳以上	20	50.0	20.0	20.0	15.0	5.0	-	-
要介護度別	要支援1	30	40.0	16.7	26.7	30.0	3.3	3.3	6.7
	要支援2	12	66.7	16.7	33.3	25.0	-	-	-
	要介護1	8	12.5	25.0	25.0	12.5	25.0	-	12.5
	要介護2	2	-	50.0	-	-	-	-	-
	要介護3	9	77.8	22.2	22.2	-	11.1	11.1	-
	要介護4	8	50.0	25.0	25.0	12.5	12.5	-	12.5
	要介護5	7	57.1	42.9	-	-	-	14.3	-

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(4) 施設に入所したい理由

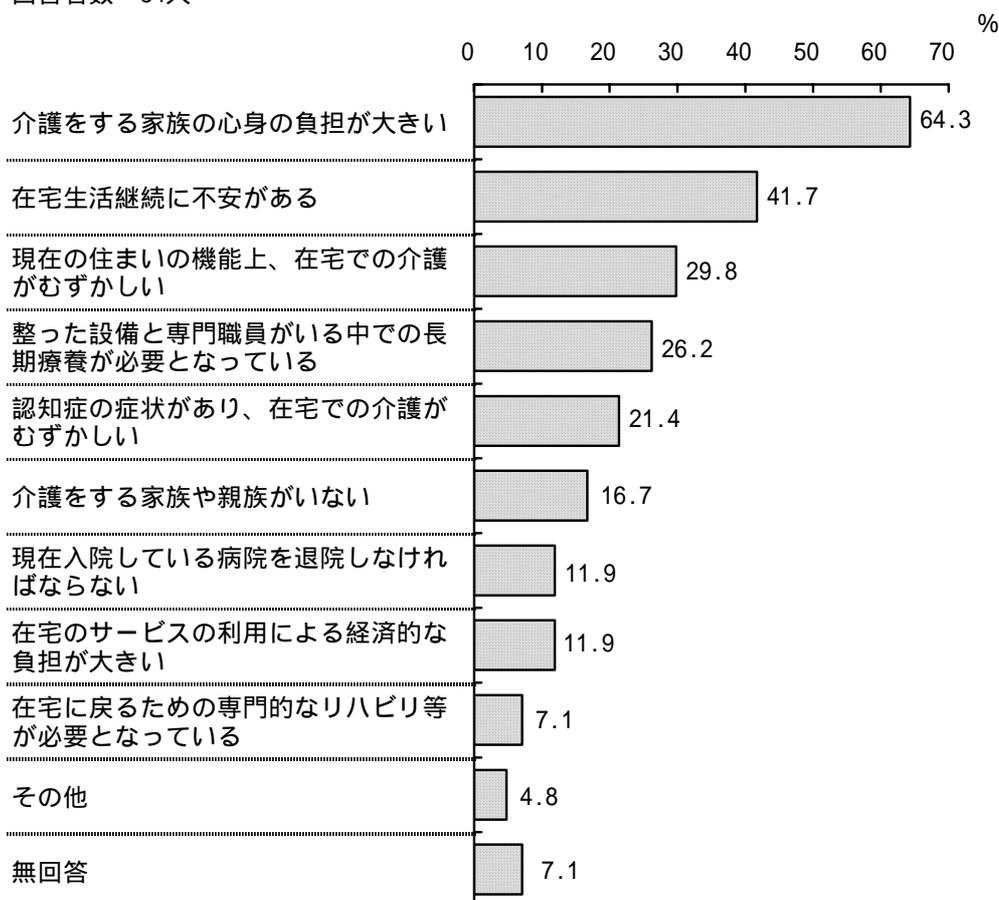
「介護をする家族の心身の負担が大きい」が6割半

(問19で「1. 現在、施設入所を申し込んでいる」「2. 将来的には施設入所を考えたい」と答えた方に)

問21. あなた(宛名の方ご本人)が現在、または将来施設に入所(居)したいとお考えの理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 5 - 4

回答者数 84人



介護保険施設や有料老人ホーム等への入所希望がある人に施設に入所したい理由をたずねた。「介護をする家族の心身の負担が大きい」(64.3%)が最も多く、次いで、「在宅生活継続に不安がある」(41.7%)があげられている。(図 - 5 - 4)

アンケート回答者別では、「介護をする家族の心身の負担が大きい」は子どもまたはその配偶者で86.7%、配偶者で75.0%と高くなっている。(表 - 5 - 6)

性別では、「介護をする家族の心身の負担が大きい」、「現在入院している病院を退院しなければならない」では男性の方が女性より高く、その他の理由については女性の方が男性よりも高くなっている。(表 - 5 - 6)

年齢別では、「在宅生活継続に不安がある」は80～84歳で、「現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい」、「認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい」、「介護をする家族や親族がいない」では85歳以上で、それぞれ高くなっている。(表 - 5 - 6)

要介護度別では、「在宅生活継続に不安がある」、「介護をする家族や親族がいない」は要支援1の人でそれぞれ53.3%、36.7%、「現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい」は要支援2で50.0%と、それぞれ高くなっている。一方、「整った設備と専門職員がいる中で長期療養が必要となっている」、「認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい」は要支援認定の人で低くなっている。(表 - 5 - 6)

同居家族別では、「介護をする家族の心身の負担が大きい」は高齢者と子どもの2世代の世帯で78.9%と高くなっている。(表 - 5 - 6)

表 - 5 - 6 アンケート回答者別、性別、年齢別、要介護度別、同居家族別

単位：%

	回答者数	介護をする家族の心身の負担が大きい	在宅生活継続に不安がある	現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい	現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい	整った設備と専門職員がいる中で長期療養が必要となっている	認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい	介護をする家族や親族がいない	現在入院している病院を退院しなければならぬ	在宅のサービスの利用による経済的な負担が大きい	在宅に戻るための専門的なりはびり等が必要となっている	その他
全体	84	64.3	41.7	29.8	26.2	21.4	16.7	11.9	11.9	7.1	4.8	
アンケート回答者別	本人	53	54.7	45.3	28.3	13.2	3.8	26.4	-	13.2	3.8	7.5
	配偶者	12	75.0	41.7	16.7	41.7	41.7	-	50.0	16.7	25.0	-
	子どもまたはその配偶者	15	86.7	26.7	46.7	60.0	53.3	-	20.0	6.7	6.7	-
	兄弟姉妹	2	100.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-
	その他	2	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-
性別	男性	27	74.1	25.9	25.9	14.8	18.5	14.8	22.2	11.1	3.7	-
	女性	57	59.6	49.1	31.6	31.6	22.8	17.5	7.0	12.3	8.8	7.0
年齢別	40～64歳	2	100.0	50.0	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-
	65～69歳	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	70～74歳	8	75.0	62.5	12.5	62.5	12.5	12.5	25.0	-	25.0	-
	75～79歳	22	59.1	31.8	27.3	27.3	18.2	9.1	13.6	13.6	9.1	-
	80～84歳	31	61.3	48.4	29.0	12.9	16.1	19.4	6.5	12.9	-	12.9
85歳以上	20	65.0	30.0	45.0	30.0	35.0	25.0	15.0	15.0	10.0	-	
要介護度別	要支援1	30	56.7	53.3	26.7	13.3	6.7	36.7	3.3	16.7	-	6.7
	要支援2	12	66.7	41.7	50.0	8.3	8.3	16.7	8.3	16.7	16.7	8.3
	要介護1	8	87.5	12.5	12.5	12.5	50.0	-	12.5	-	-	-
	要介護2	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	要介護3	9	66.7	44.4	11.1	22.2	44.4	11.1	11.1	-	-	-
	要介護4	8	100.0	62.5	37.5	87.5	37.5	-	37.5	12.5	25.0	-
要介護5	7	85.7	28.6	57.1	71.4	42.9	-	42.9	14.3	28.6	-	
同居家族別	ひとり暮らし	22	31.8	40.9	31.8	22.7	13.6	18.2	9.1	4.5	-	9.1
	高齢者夫婦だけ(1世代)	30	66.7	36.7	20.0	23.3	20.0	20.0	23.3	10.0	10.0	-
	高齢者と子ども(2世代)	19	78.9	42.1	31.6	31.6	31.6	10.5	-	5.3	10.5	5.3
	高齢者と子どもと孫(3世代)	5	100.0	60.0	60.0	40.0	40.0	20.0	-	40.0	-	-
	その他	8	87.5	50.0	37.5	25.0	12.5	12.5	12.5	37.5	12.5	12.5

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

6 . 地域包括支援センターについて

(1) 地域包括支援センターへの相談の有無

相談したことがある人は半数弱

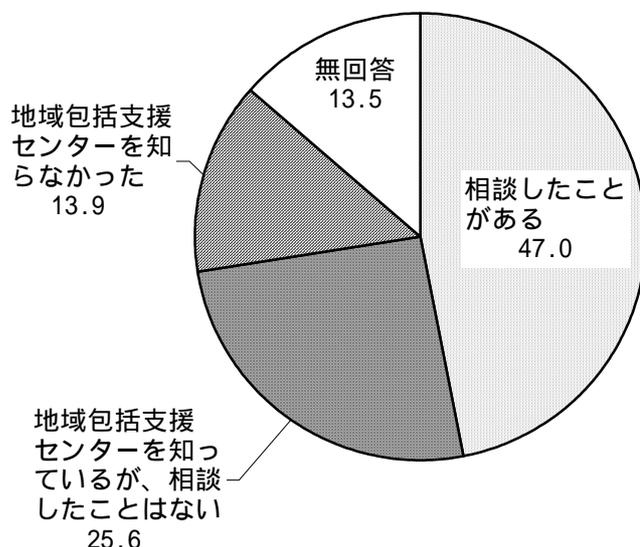
(全員の方に)

問 22 . 区は、区内に 8 か所の地域包括支援センターを設置して、介護サービス利用の他、高齢者の総合相談を受けていますが、あなた (宛名の方ご本人) は地域包括支援センターに相談したことはありますか。(〃 は 1 つ)

図 - 6 - 1

回答者数 266人

単位 : %



地域包括支援センターに「相談したことがある」と答えた人が 47.0% と半数近くを占めている。「地域包括支援センターを知っているが、相談したことはない」と答えた人は 25.6% で合わせると、7 割強の人が地域包括支援センターを知っていた。「地域包括支援センターを知らなかった」と答えた人は 13.9% となっている。(図 - 6 - 1)

性別では、大きな差は見られない。(表 - 6 - 1)

年齢別では、「相談したことがある」と答えた人は 65 ~ 74 歳、85 歳以上で、「地域包括支援センターを知っているが、相談したことはない」と答えた人は 40 ~ 64 歳で、それぞれ 50% 以上となっている。また、「地域包括支援センターを知らなかった」と答えた人は 70 ~ 74 歳で 19.4% と高くなっている。(表 - 6 - 1)

要介護度別では、「相談したことがある」は要介護1の人で72.4%と高く、要介護2、4の人で50%台前半となっている。「地域包括支援センターを知っているが、相談したことはない」は要支援2、要介護3の人で30%台前半と高くなっている。「地域包括支援センターを知らなかった」は要介護5の人で37.5%と高くなっている。(表 - 6 - 1)

同居家族別では、「相談したことがある」は高齢者と子どもの2世代の世帯で54.7%、「地域包括支援センターを知っているが、相談したことはない」は高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で33.3%と、それぞれ高くなっている。(表 - 6 - 1)

表 - 6 - 1 性別、年齢別、要介護度別、同居家族別

		回答者数	あ 相 談 し た こ と が	い い ん 地 域 が 包 括 支 援 な て せ	か ん 地 域 を 包 括 支 援 な せ
全体		266	47.0	25.6	13.9
性別	男性	95	47.4	25.3	14.7
	女性	169	46.2	26.0	13.6
年齢別	40～64歳	10	40.0	50.0	-
	65～69歳	13	53.8	30.8	-
	70～74歳	31	51.6	16.1	19.4
	75～79歳	48	45.8	25.0	12.5
	80～84歳	75	38.7	30.7	14.7
	85歳以上	88	53.4	20.5	15.9
要介護度別	要支援1	80	42.5	26.3	20.0
	要支援2	52	44.2	32.7	11.5
	要介護1	29	72.4	13.8	6.9
	要介護2	17	52.9	29.4	5.9
	要介護3	23	47.8	34.8	4.3
	要介護4	15	53.3	26.7	6.7
	要介護5	16	50.0	6.3	37.5
同居家族別	ひとり暮らし	66	48.5	24.2	12.1
	高齢者夫婦だけ(1世代)	76	38.2	30.3	15.8
	高齢者と子ども(2世代)	75	54.7	18.7	16.0
	高齢者と子どもと孫(3世代)	27	48.1	33.3	7.4
	その他	20	45.0	30.0	15.0

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 相談した感想

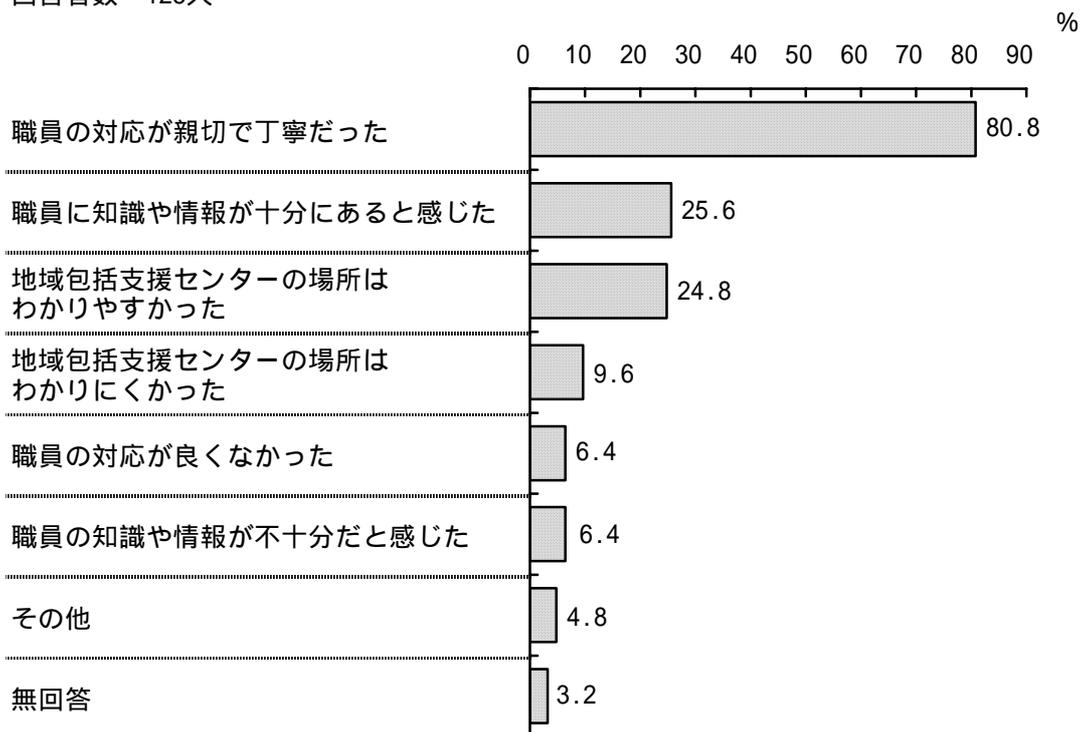
よい評価が多く「職員の対応が親切で丁寧だった」は8割強

(問 22 で「 1 . 相談したことがある」と答えた方に)

問 23 . 相談してみてもいかがでしたか。(あてはまるものすべてに)

図 - 6 - 2

回答者数 125人



地域包括支援センターに相談したことがある人に、その感想をたずねたところ、「職員の対応が親切で丁寧だった」(80.8%)が最も多く、次いで、「職員に知識や情報が十分にあると感じた」(25.6%)とよい評価が得られている。一方、「職員の対応が良くなかった」(6.4%)などよくない評価はいずれも1割未満となっている。(図 - 6 - 2)

性別では、「職員の対応が親切で丁寧だった」が男性で84.4%と女性(78.2%)より高くなっている。(表 - 6 - 2)

年齢別では、「職員の対応が親切で丁寧だった」は75~79歳で80%台半ばとなっている。「職員に知識や情報が十分にあると感じた」は80歳以上で30%以上となっている。(表 - 6 - 2)

表 - 6 - 2 性別、年齢別、要介護度別

単位：％

		回答者数	職員 の 対応 が 親切	職員 に 知 識 や 情 報	地域 の 支 援 が あ る か	地域 の 支 援 が あ る か	職員 の 対 応 が 良 く な か つ た	職員 の 知 識 や 情 報 が 不 十 分 だ と 感 じ る	そ の 他
全体		125	80.8	25.6	24.8	9.6	6.4	6.4	4.8
性別	男性	45	84.4	26.7	28.9	8.9	8.9	8.9	-
	女性	78	78.2	25.6	23.1	10.3	5.1	3.8	7.7
年齢別	40～64歳	4	75.0	25.0	25.0	-	25.0	25.0	25.0
	65～69歳	7	71.4	28.6	28.6	-	14.3	14.3	-
	70～74歳	16	75.0	-	18.8	6.3	12.5	6.3	-
	75～79歳	22	86.4	18.2	27.3	9.1	4.5	-	-
	80～84歳	29	79.3	31.0	17.2	13.8	3.4	6.9	6.9
	85歳以上	47	83.0	34.0	29.8	10.6	4.3	6.4	6.4
要介護度別	要支援1	34	76.5	35.3	29.4	11.8	8.8	8.8	2.9
	要支援2	23	87.0	17.4	17.4	4.3	-	4.3	8.7
	要介護1	21	76.2	28.6	33.3	4.8	9.5	4.8	4.8
	要介護2	9	88.9	22.2	22.2	11.1	11.1	-	11.1
	要介護3	11	90.9	9.1	18.2	9.1	9.1	-	-
	要介護4	8	75.0	37.5	25.0	25.0	-	25.0	-
	要介護5	8	62.5	12.5	12.5	25.0	-	12.5	-

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

7. 介護保険制度について

(1) 介護保険のサービスと保険料について

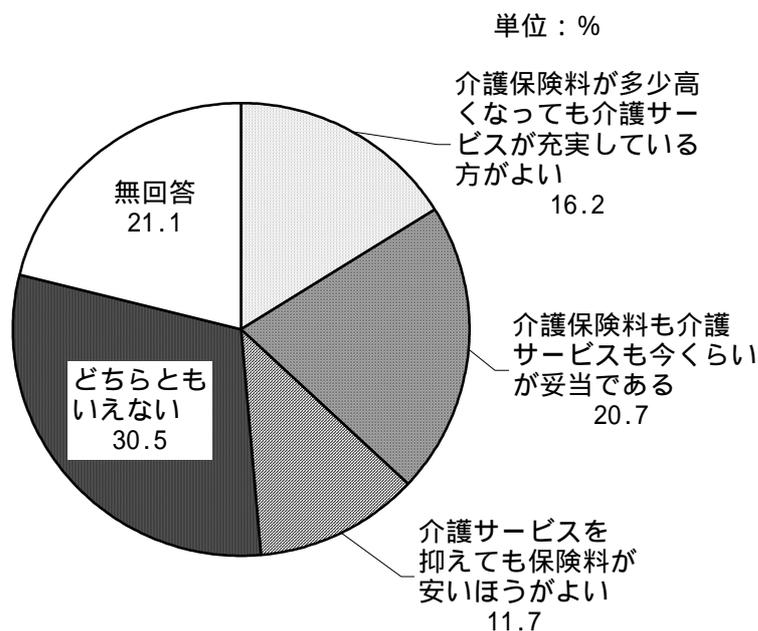
今くらいが妥当と答えた人が2割

(全員の方に)

問24. 介護保険のサービスと介護保険料について、あなた(宛名の方ご本人)のお考えに最も近いものは次のうちのどれですか。(は1つ)

図 - 7 - 1

回答者数 266人



介護保険のサービスと介護保険料については、「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」と答えた人が16.2%、「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」と答えた人が20.7%、「介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい」と答えた人が11.7%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人が30.5%と最も多くなっている。(図 - 7 - 1)

性別では、大きな差は見られない。(表 - 7 - 1)

年齢別では、「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」は65~74歳で10%未満と低くなっている。「介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい」は80~84歳で17.3%と高くなっている。(表 - 7 - 1)

要介護度別では、「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」は要介護3、4の人で20%台半ばと高くなっている。一方、要介護5の人では6.3%と低くなっている。(表 - 7 - 2)

同居家族別では、「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」は高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で37.0%と高くなっている。一方、高齢者夫婦だけの1世代の世帯では11.8%と低くなっている。(表 - 7 - 2)

主な介護者別では、息子の配偶者は「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」(40.9%)、「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」(22.7%)で高くなっている。また、息子は「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」で30.0%、娘は「どちらともいえない」で37.1%と、それぞれ高くなっている。(表 - 7 - 2)

世帯収入別では、収入額が200万円未満は、「介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい」で高くなっている。200万~500万円未満の人は「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」(22.8%)、「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」(25.7%)で、800万円以上の人は「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」(26.9%)で、それぞれ高くなっている。(表 - 7 - 2)

入所を希望している施設別では、「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」と答えた人は介護付有料老人ホームで38.9%と高くなっている。(表 - 7 - 2)

施設に入所したい理由別では、介護をする家族の心身の負担が大きいは「介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である」で25.9%、「介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい」で24.1%と高くなっている。(表 - 7 - 2)

表 - 7 - 1 性別、年齢別

単位: %

		回答者数	介護保険料が多少高くなるが充実	介護保険料も今くらいが妥当である	介護サービスが安い抑え	どちらともいえない
全体		266	16.2	20.7	11.7	30.5
性別	男性	95	15.8	18.9	13.7	27.4
	女性	169	16.6	21.3	10.7	32.5
年齢別	40~64歳	10	20.0	-	10.0	30.0
	65~69歳	13	7.7	23.1	7.7	23.1
	70~74歳	31	9.7	22.6	16.1	19.4
	75~79歳	48	18.8	22.9	6.3	33.3
	80~84歳	75	17.3	21.3	17.3	29.3
	85歳以上	88	17.0	20.5	9.1	34.1

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

表 - 7 - 2 要介護度別、同居家族別、主な介護者別、世帯収入別、入所を希望している施設別、施設に入所したい理由別

単位：%

	回答者数	介護保険料が多少高くなるが、介護サービスが充実している	介護保険料も介護サービスも安く、介護サービスが充実している	介護サービスが抑えられて、介護保険料が安い	どちらともいえない	
全体	266	16.2	20.7	11.7	30.5	
要介護度別	要支援1	80	16.3	17.5	12.5	33.8
	要支援2	52	13.5	25.0	7.7	34.6
	要介護1	29	20.7	24.1	6.9	20.7
	要介護2	17	17.6	23.5	11.8	35.3
	要介護3	23	26.1	21.7	17.4	26.1
	要介護4	15	26.7	13.3	6.7	26.7
	要介護5	16	6.3	25.0	12.5	43.8
	同居家族別	ひとり暮らし	66	18.2	22.7	12.1
高齢者夫婦だけ(1世代)		76	21.1	11.8	18.4	28.9
高齢者と子ども(2世代)		75	10.7	21.3	10.7	30.7
高齢者と子どもと孫(3世代)		27	18.5	37.0	-	29.6
その他		20	10.0	25.0	5.0	40.0
主な介護者別	配偶者	85	15.3	17.6	16.5	32.9
	息子	20	5.0	30.0	15.0	15.0
	娘	62	12.9	17.7	6.5	37.1
	息子の配偶者	22	22.7	40.9	4.5	13.6
	娘の配偶者	2	-	100.0	-	-
	孫またはその配偶者	1	-	-	-	100.0
	その他の方	15	26.7	13.3	6.7	33.3
	介護者はいない	47	17.0	14.9	14.9	31.9
世帯収入別	生活保護を受給している	6	16.7	16.7	33.3	-
	80万円以下	12	8.3	25.0	16.7	41.7
	81万～200万円未満	65	10.8	13.8	16.9	32.3
	200万～500万円未満	101	22.8	25.7	6.9	31.7
	500万～800万円未満	34	14.7	20.6	2.9	32.4
	800万円以上	26	15.4	26.9	11.5	30.8
入所を希望している施設別	特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)	38	23.7	13.2	13.2	36.8
	介護老人保健施設	19	31.6	10.5	10.5	36.8
	認知症高齢者グループホーム	5	20.0	40.0	20.0	20.0
	ケアハウス(軽費老人ホーム)	16	25.0	18.8	6.3	37.5
	介護付有料老人ホーム	18	38.9	16.7	11.1	16.7
	どのような施設でもよい	3	-	100.0	-	-
	その他	5	20.0	20.0	20.0	-
施設に入所したい理由別	介護をする家族の心身の負担が大きい	54	24.1	25.9	9.3	22.2
	介護をする家族や親族がいない	14	28.6	7.1	-	57.1
	在宅に戻る為の専門的なりハビリ等が必要	6	-	16.7	16.7	33.3
	整った設備と専門職員がいる中での長期療養が必要	22	13.6	13.6	4.5	45.5
	現在入院している病院を退院しなければならない	10	20.0	10.0	20.0	40.0
	認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい	18	11.1	27.8	16.7	38.9
	在宅のサービスの利用による経済的な負担が大きい	10	30.0	20.0	10.0	40.0
	現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい	25	20.0	20.0	8.0	36.0
	在宅生活継続に不安がある	35	14.3	14.3	5.7	45.7
	その他	4	50.0	-	-	50.0

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(2) 介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと

介護保険施設の増加と家族の負担の軽減を要望

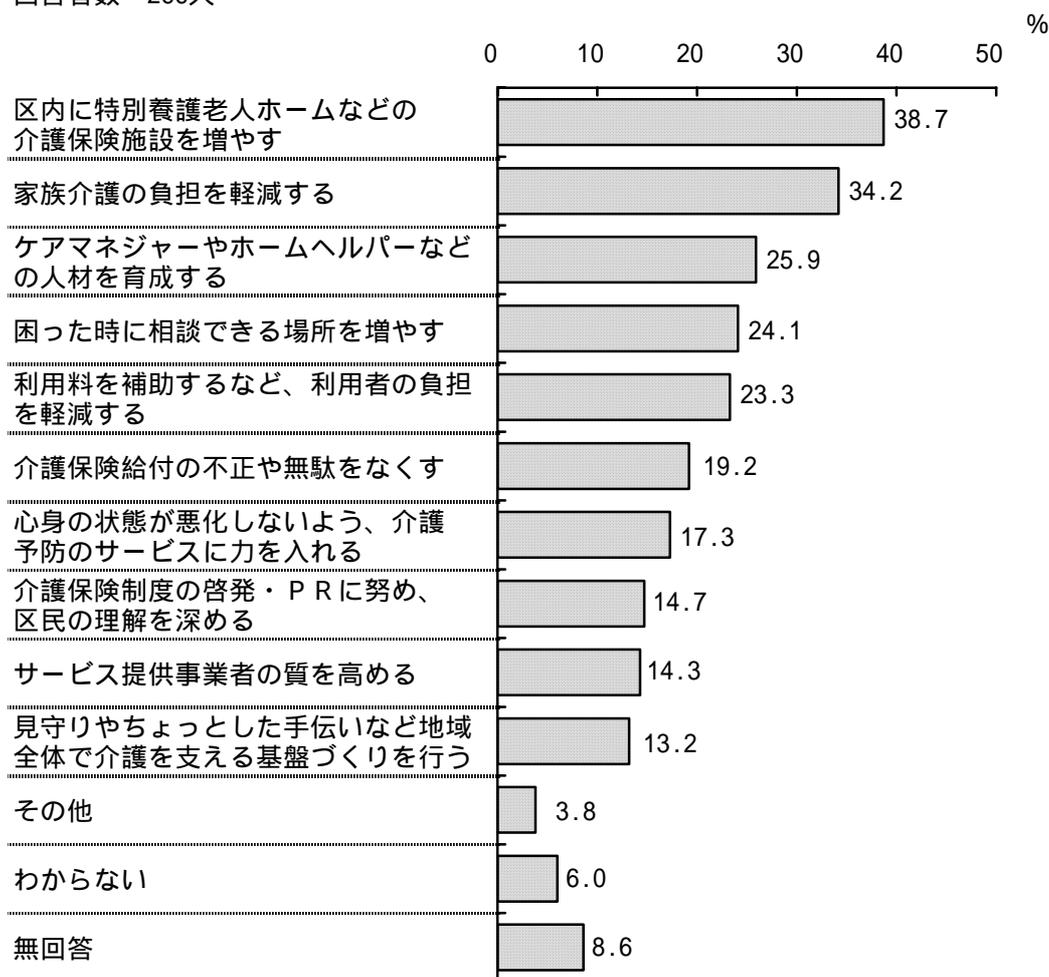
(全員の方に)

問 25 . 介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきことは次のうちのどれですか。

(〃 は3つまで)

図 - 7 - 2

回答者数 266人



介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこととしては、「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」(38.7%) が最も多く、次いで、「家族介護の負担を軽減する」(34.2%) があげられている。(図 - 7 - 2)

性別では、「心身の状態が悪化しないよう、介護予防のサービスに力を入れる」が男性で 23.2% と女性(14.2%) より高くなっている。「サービス提供事業者の質を高める」(女性 17.8%、男性 8.4%)、「見守りやちょっとした手伝いなど地域全体で介護を支える基盤づくりを行う」(女性 14.8%、男性 9.5%) では女性の方が高くなっている。(表 - 7 - 3)

年齢別では、「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」は65～69歳、85歳以上で40%台半ば、「家族介護の負担を軽減する」は40～64歳で90%、85歳以上では40%、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する」は40～64歳で40%、65～69歳で50%台前半、「困った時に相談できる場所を増やす」は75～84歳30%と、それぞれ高くなっている。(表 - 7 - 3)

要介護度別では、「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」は要介護3～5で、「家族介護の負担を軽減する」は要介護2～5で、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する」は要介護4、5で、それぞれ高くなっている。(表 - 7 - 3)

同居家族別では、「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」はひとり暮らしの人で45.5%と高く、高齢者と子どもの2世代の世帯で29.3%と低くなっている。「家族介護の負担を軽減する」は高齢者と子どもの2世代の世帯で45.3%、高齢者と子どもと孫の3世代の世帯で55.6%と高くなっている。(表 - 7 - 3)

主な介護者別では、「家族介護の負担を軽減する」は息子の配偶者(72.7%)、息子(45.0%)で、「困った時に相談できる場所を増やす」は息子の配偶者(31.8%)、介護者はいない(38.3%)で、それぞれ高くなっている。(表 - 7 - 3)

世帯収入別では、「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」は800万円以上で46.2%、「家族介護の負担を軽減する」は200万～500万円未満で41.6%、800万円以上で46.2%、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する」は500万円以上で30%台前半、「困った時に相談できる場所を増やす」は80万円以下で33.3%と、それぞれ高くなっている。(表 - 7 - 3)

介護保険のサービスと保険料について別では、保険料が多少高くてもサービスが充実している方がよいという人は「区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす」(51.2%)、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する」(44.2%)で、それぞれ高くなっている。(表 - 7 - 3)

表 - 7 - 3 性別、年齢別、要介護度別、同居家族別、主な介護者別、世帯収入別、
介護保険のサービスと保険料について別

単位：%

	回答者数	区内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やす	家族介護の負担を軽減する	ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する	困った時に相談できる場所を増やす	利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減する	介護保険給付の不正や無駄をなくす	心身の状態が悪化しないよう、介護予防のサービスに力を入れる	介護保険制度の啓発・PRに努め、国民の理解を深める	サービス提供事業者の質を高める	見守りやちょっとした手伝いなど地域全体で介護を支える基盤づくりを行う	その他	
全体	266	38.7	34.2	25.9	24.1	23.3	19.2	17.3	14.7	14.3	13.2	3.8	
性別	男性	95	38.9	36.8	24.2	22.1	22.1	18.9	23.2	15.8	8.4	9.5	2.1
	女性	169	39.1	33.1	26.6	24.9	24.3	19.5	14.2	14.2	17.8	14.8	4.7
年齢別	40～64歳	10	10.0	90.0	40.0	20.0	10.0	10.0	20.0	-	10.0	10.0	
	65～69歳	13	46.2	30.8	53.8	7.7	23.1	15.4	23.1	15.4	7.7	-	
	70～74歳	31	22.6	19.4	22.6	29.0	22.6	12.9	25.8	12.9	16.1	6.5	
	75～79歳	48	39.6	29.2	18.8	31.3	18.8	20.8	18.8	16.7	12.5	20.8	
	80～84歳	75	38.7	28.0	25.3	29.3	25.3	25.3	12.0	16.0	13.3	13.3	
	85歳以上	88	46.6	40.9	25.0	17.0	26.1	17.0	18.2	12.5	15.9	12.5	3.4
要介護度別	要支援1	80	42.5	25.0	16.3	32.5	26.3	21.3	20.0	13.8	10.0	15.0	2.5
	要支援2	52	28.8	36.5	34.6	23.1	15.4	15.4	25.0	17.3	17.3	17.3	1.9
	要介護1	29	31.0	37.9	17.2	13.8	34.5	17.2	17.2	13.8	6.9	6.9	10.3
	要介護2	17	29.4	47.1	23.5	17.6	23.5	17.6	11.8	-	23.5	11.8	-
	要介護3	23	47.8	56.5	21.7	34.8	17.4	17.4	13.0	17.4	13.0	13.0	4.3
	要介護4	15	53.3	60.0	40.0	20.0	40.0	20.0	13.3	26.7	-	13.3	6.7
同居家族別	要介護5	16	62.5	50.0	50.0	6.3	18.8	25.0	18.8	12.5	37.5	6.3	-
	ひとり暮らし	66	45.5	15.2	22.7	27.3	18.2	13.6	18.2	9.1	15.2	19.7	3.0
	高齢者夫婦だけ(1世代)	76	42.1	31.6	18.4	23.7	23.7	25.0	14.5	19.7	7.9	11.8	1.3
	高齢者と子ども(2世代)	75	29.3	45.3	28.0	21.3	30.7	20.0	17.3	13.3	20.0	12.0	6.7
	高齢者と子どもと孫(3世代)	27	33.3	55.6	37.0	33.3	18.5	14.8	22.2	18.5	14.8	7.4	7.4
その他	20	50.0	40.0	45.0	15.0	20.0	20.0	20.0	15.0	15.0	10.0	-	
主な介護者別	配偶者	85	42.4	34.1	23.5	17.6	22.4	20.0	17.6	18.8	10.6	11.8	3.5
	息子	20	25.0	45.0	20.0	15.0	35.0	10.0	15.0	-	15.0	-	-
	娘	62	37.1	38.7	29.0	19.4	32.3	22.6	17.7	9.7	22.6	14.5	6.5
	息子の配偶者	22	36.4	72.7	27.3	31.8	18.2	9.1	22.7	13.6	9.1	13.6	4.5
	娘の配偶者	2	50.0	50.0	-	100.0	-	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-
	孫またはその配偶者	1	100.0	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-
	その他の方	15	46.7	46.7	33.3	13.3	20.0	33.3	13.3	13.3	13.3	20.0	6.7
	介護者はいない	47	36.2	8.5	29.8	38.3	17.0	17.0	17.0	19.1	17.0	17.0	-
世帯収入別	生活保護を受給している	6	33.3	-	16.7	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	-
	80万円以下	12	33.3	33.3	25.0	33.3	16.7	16.7	8.3	25.0	25.0	33.3	8.3
	81万～200万円未満	65	41.5	29.2	23.1	27.7	35.4	15.4	20.0	10.8	20.0	9.2	1.5
	200万～500万円未満	101	41.6	41.6	26.7	24.8	20.8	19.8	21.8	17.8	11.9	16.8	3.0
	500万～800万円未満	34	35.3	26.5	32.4	11.8	20.6	29.4	14.7	14.7	17.6	8.8	5.9
	800万円以上	26	46.2	46.2	34.6	26.9	19.2	19.2	7.7	19.2	7.7	3.8	7.7
介護サービスと保険料について別	保険料が多少高くてもサービスが充実している方がよい	43	51.2	37.2	44.2	20.9	9.3	27.9	16.3	18.6	16.3	11.6	2.3
	介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である	55	38.2	36.4	30.9	30.9	12.7	20.0	30.9	21.8	10.9	16.4	5.5
	介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい	31	32.3	25.8	12.9	32.3	32.3	22.6	19.4	19.4	6.5	6.5	-
	どちらともいえない	81	45.7	34.6	25.9	25.9	34.6	22.2	11.1	12.3	23.5	17.3	4.9

(3) 介護保険制度の不満な点

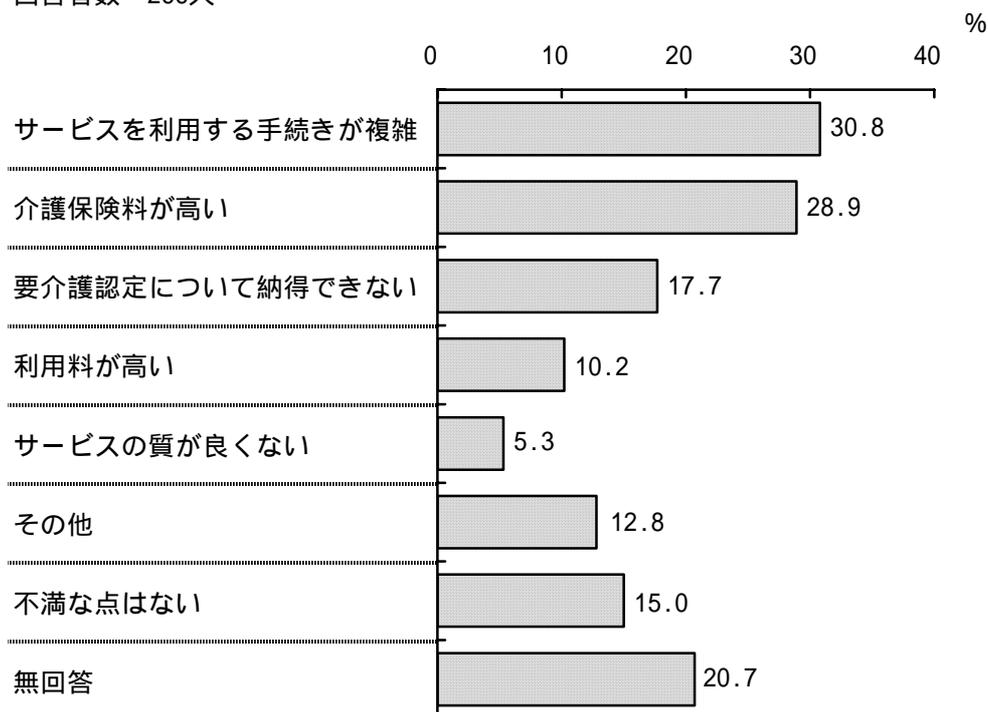
複雑な手続きと介護保険料が高いことに約3割の人が不満

(全員の方に)

問26. あなた(宛名の方ご本人)は、介護保険制度にどのような不満な点がありますか。
(あてはまるものすべてに)

図 - 7 - 3

回答者数 266人



介護保険制度の不満な点としては、「サービスを利用する手続きが複雑」(30.8%)と「介護保険料が高い」(28.9%)をあげた人が3割前後と多くなっている。一方、「不満な点はない」と答えた人は15.0%となっている。(図 - 7 - 3)

性別では、「不満な点はない」が男性で21.1%と女性(11.8%)より高くなっている。(表 - 7 - 4)

年齢別では、「サービスを利用する手続きが複雑」は40~64歳(40.0%)、85歳以上(37.5%)で、「介護保険料が高い」は75~79歳(37.5%)で、「要介護認定について納得できない」、「利用料が高い」は65~69歳で順に38.5%、15.4%と、それぞれ高くなっている。(表 - 7 - 4)

要介護度別では、「サービスを利用する手続きが複雑」は要介護3、4で50%前後と高く、要介護2、5で10%台前半と低くなっている。「介護保険料が高い」は要介護2で60%弱、要

介護4で40%台半ばと高くなっている。(表 - 7 - 4)

同居家族別では、高齢者と子どもの2世代の世帯では「介護保険料が高い」で34.7%、「利用料が高い」で16.0%と高くなっている。また、高齢者と子どもと孫の3世代の世帯では「サービスを利用する手続きが複雑」が44.4%と高くなっている。(表 - 7 - 4)

主な介護者別では、「サービスを利用する手続きが複雑」が娘で38.7%、息子の配偶者で36.4%と高くなっており、息子では15.0%と低くなっている。(表 - 7 - 4)

世帯収入別では、「サービスを利用する手続きが複雑」は800万円以上で40%弱と高くなっている。また、「要介護認定について納得できない」は80万円以下で25.0%と高く、800万円以上では7.7%と低くなっている。(表 - 7 - 4)

地域包括支援センターへの相談の有無別では、相談したことがある人では「サービスを利用する手続きが複雑」で38.4%、「利用料が高い」で15.2%と高くなっている。また、地域包括支援センターを知っているが相談はない人では「介護保険料が高い」で35.3%、「要介護認定について納得できない」で23.5%と高くなっている。(表 - 7 - 5)

介護保険のサービスと保険料について別では、保険料が多少高くてもサービスが充実している方がよい人という人は「要介護認定について納得できない」で25.6%、介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当であるという人は「サービスを利用する手続きが複雑」で38.2%、介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよいという人は「介護保険料が高い」で35.5%と、それぞれ高くなっている。(表 - 7 - 5)

介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと別では、「サービスを利用する手続きが複雑」は家族介護の負担を軽減するで40%、「介護保険料が高い」、「利用料が高い」は利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減するでそれぞれ、53.2%、25.8%、「要介護認定について納得できない」はケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成するで36.2%、「サービスの質が悪い」はサービス事業者の質を高めるで13.2%、ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成するで11.6%となっている。(表 - 7 - 5)

表 - 7 - 4 性別、年齢別、要介護度別、同居家族別、主な介護者別、世帯収入別

単位：%

		回答者数	サービスが複雑	介護保険料が高い	納得できないについて	要介護認定について	利用料が高い	サービスが良くない	その他	不満な点はない
全体		266	30.8	28.9	17.7	10.2	5.3	12.8	15.0	
性別	男性	95	27.4	29.5	17.9	11.6	6.3	12.6	21.1	
	女性	169	32.5	29.0	17.2	8.9	4.7	13.0	11.8	
年齢別	40～64歳	10	40.0	10.0	20.0	10.0	10.0	40.0	20.0	
	65～69歳	13	23.1	30.8	38.5	15.4	7.7	7.7	15.4	
	70～74歳	31	16.1	29.0	9.7	6.5	3.2	19.4	16.1	
	75～79歳	48	27.1	37.5	18.8	2.1	2.1	10.4	12.5	
	80～84歳	75	32.0	25.3	18.7	12.0	2.7	10.7	16.0	
	85歳以上	88	37.5	28.4	15.9	13.6	8.0	11.4	14.8	
要介護度別	要支援1	80	32.5	25.0	17.5	13.8	5.0	12.5	13.8	
	要支援2	52	28.8	28.8	23.1	5.8	3.8	5.8	19.2	
	要介護1	29	24.1	24.1	20.7	17.2	3.4	24.1	20.7	
	要介護2	17	11.8	58.8	35.3	-	5.9	17.6	-	
	要介護3	23	47.8	26.1	4.3	13.0	13.0	13.0	13.0	
	要介護4	15	53.3	46.7	13.3	13.3	-	6.7	13.3	
	要介護5	16	12.5	31.3	6.3	12.5	18.8	31.3	18.8	
同居家族別	ひとり暮らし	66	25.8	27.3	12.1	6.1	6.1	9.1	9.1	
	高齢者夫婦だけ(1世代)	76	25.0	25.0	14.5	9.2	1.3	18.4	17.1	
	高齢者と子ども(2世代)	75	32.0	34.7	20.0	16.0	8.0	12.0	16.0	
	高齢者と子どもと孫(3世代)	27	44.4	33.3	18.5	7.4	7.4	7.4	25.9	
	その他	20	50.0	25.0	40.0	10.0	5.0	15.0	10.0	
主な介護者別	配偶者	85	30.6	28.2	17.6	8.2	1.2	20.0	15.3	
	息子	20	15.0	30.0	20.0	10.0	5.0	5.0	10.0	
	娘	62	38.7	32.3	16.1	12.9	8.1	11.3	17.7	
	息子の配偶者	22	36.4	31.8	18.2	13.6	9.1	9.1	22.7	
	娘の配偶者	2	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-	
	孫またはその配偶者	1	100.0	100.0	-	-	-	-	-	
	その他の方	15	33.3	46.7	20.0	-	6.7	6.7	6.7	
	介護者はいない	47	27.7	25.5	19.1	12.8	6.4	12.8	6.4	
世帯収入別	生活保護を受給している	6	16.7	33.3	-	16.7	-	-	33.3	
	80万円以下	12	25.0	16.7	25.0	-	-	25.0	-	
	81万～200万円未満	65	24.6	32.3	18.5	16.9	3.1	10.8	15.4	
	200万～500万円未満	101	33.7	31.7	21.8	9.9	7.9	13.9	10.9	
	500万～800万円未満	34	32.4	29.4	11.8	5.9	2.9	8.8	20.6	
	800万円以上	26	38.5	23.1	7.7	3.8	7.7	19.2	38.5	

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

表 - 7 - 5 地域包括支援センターへの相談の有無別、
介護保険のサービスと保険料について別、
介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきこと別

単位：％

	回答者数	手続きが複雑	サービスを利用する	介護保険料が高い	納得できない	要介護認定について	利用料が高い	ない	サービスの質が良く	その他	不満な点はない
全体	266	30.8	28.9	17.7	10.2	5.3	12.8	15.0			
相談の有無別の地域包括支援センター	相談したことがある	125	38.4	33.6	22.4	15.2	6.4	16.0	12.0		
	地域包括支援センターを知っているが相談はない	68	26.5	35.3	23.5	7.4	5.9	14.7	22.1		
	地域包括支援センターを知らなかった	37	27.0	21.6	8.1	8.1	5.4	8.1	16.2		
介護保険のサービスについて別	保険料が多少高くてもサービスが充実している方がよい	43	30.2	25.6	25.6	7.0	4.7	11.6	20.9		
	介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である	55	38.2	23.6	21.8	7.3	7.3	7.3	20.0		
	介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい	31	32.3	35.5	16.1	12.9	-	12.9	19.4		
	どちらともいえない	81	30.9	32.1	14.8	9.9	6.2	17.3	8.6		
介護保険制度全体をよくするために、区が力を入れるべきこと別	介護保険制度の啓発・PRに努め、区民の理解を深める	39	33.3	20.5	15.4	12.8	-	12.8	25.6		
	ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する	69	36.2	33.3	36.2	7.2	11.6	18.8	15.9		
	状態が悪化しないよう介護予防のサービスに力を入れる	46	30.4	28.3	26.1	13.0	6.5	4.3	21.7		
	見守りや手伝いなど地域全体で介護を支える基盤づくり	35	25.7	22.9	14.3	11.4	8.6	11.4	8.6		
	困った時に相談できる場所を増やす	64	32.8	29.7	20.3	14.1	4.7	14.1	12.5		
	家族介護の負担を軽減する	91	39.6	37.4	27.5	15.4	7.7	17.6	14.3		
	区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす	103	37.9	33.0	21.4	12.6	6.8	14.6	12.6		
	サービス提供事業者の質を高める	38	31.6	39.5	23.7	5.3	13.2	21.1	5.3		
	介護保険給付の不正や無駄をなくす	51	29.4	37.3	23.5	5.9	-	9.8	19.6		
	利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減する	62	37.1	53.2	14.5	25.8	6.5	9.7	6.5		
その他	10	60.0	50.0	20.0	20.0	20.0	30.0	10.0			

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(4) 介護保険制度に関する意見・要望 (自由回答)

(全員の方に)

問27. あなた(宛名の方ご本人)の、介護保険制度に関するご意見・ご要望などをご自由にお書きください。

介護保険制度について、意見、要望を自由に書いてもらったところ、77人から80件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

<介護保険制度全般について> (17件)

何か所もの事業所やケアマネジャーに受け入れを断われ、途方にくれております。区役所の担当の方も何も相談にのってもらえず、介護サービスなど不必要と思えるこの頃です。実際どのようなサービスが受けられるかの説明も全くないです。医師や親族のみが頼みの綱です。最近いらした認定者は自分のことばかり延々話されて、3時間以上も時間を費やされ、疲れました。もっと老人の身になった介護制度を望み、中野区は他の市町村に比べてサービス低下としますので、同居者がいても、必要なサービスが受けられるようにして欲しい。現状では、介護保険料を払いたくないです。(女性/40歳~64歳)

制度、法律をまもるより使用者中心に考えてほしい。(男性/75歳~79歳)

制度はなるべく使わせるような仕組みになっていて、不必要な用具を貸してくれたがり、うちの様に、目も出血で下半分が黒く見えなく耳はぜんぜん聞こえなくなっても二ヶ月1度の通院タクシー代も出してくれず、身障者用の級を上げてくれない。介護保険も健康保険もすべて払っていて何一つ介護支援を受けていないのに。老人だからと、たいした必要もないのにマッサージ0円や100円で1日おきにかかっている人もいます。交通事故とか歩けないほどの人にはマッサージも必要でしょうが、大半の人は肩こり程度です。ちなみに私は膝痛も腰痛も自分で灸をしたりして養生しています。健保も介護も無駄使いすぎます。これではいくらあっても不足でしょうね。(男性/80歳~84歳)

よく分かりませんが今の介護保険制度もっと安く済めば良いと思いますがそうそう勝手な事も申せません。現状でよいと思っております。(男性/85歳以上)

以前、制度を利用して戴きましたが書類やパンフレットが多過ぎるのでもっと少なくした方が資源を節約できていいと思います。今はどうなっているのでしょうか。(女性/85歳以上)

介護保険料の使途の透明化。(女性/80歳~84歳)

皆さんもこの支援を受けるようにやがてなります。制度がヒトをみるのではなく、ヒトがヒトをみる制度であって欲しいと望みます。(女性/年齢無回答)

・私自身どのように申請して介護保険に該当するのか知らなかった。もっとPRすべきだと思う。・大変かと思うが現在元気で自分で働いている人達にもっと目を向けて生活に楽しみ(?)生きがいをもたらすことを積極的にやって欲しい。・70代になると病人扱いの職員の方もいるが、今まで自分でやってきたのでできるだけ自分で努力したいと思うのでその為の協力をしてほしい。(女性/70歳~74歳)

手続きがわかりにくい。相談しても結局有効な助言は得られなかった。同居家族がいるとホームヘルパーの家事支援が不可能ということだが、日中働らきに出ている家族の場合、どうすれば面倒が見られるのか教えて欲しいものだ。(女性/85歳以上)

介護保険では人生最後の人達のためにある様に感ずる。有難く受けとめるが、それでは遅い。自分で努力して一生懸命に生きる喜びを知りその様に生活できることが老いたものの人生。現在の保険制度は希望も喜びもないように感ずる。ご苦労は分かりますが、私が人生最後の時にお世話になった時にわかることでしょうか?(女性/75歳~79歳)

医療・介護共に充実した特養を希望している。老々介護のため現在は入院している。費用は高額なので不安であるが、緊急事態を考えると症状が安定しても退院できない。介護保険と医療保険は一本化できないのでしょうか。(女性/85歳以上)

保険料の徴収はしっかりしているが、サービスを受けようとすると、木で鼻をくくったような対応には頭に来る。ケアマネジャーは勉強不足です。せめて丁寧語、尊敬語、謙譲語をしっかり話せるような人材育成を制度に盛り込んで下さい。健常人が障害者を看てるんだと言わんばかりの制度を見直して欲しい。(障害者の意見を取り入れるように)(男性/70歳~74歳)

<要介護認定について>(8件)

今までの要介護2から今回要支援2となり認定調査する人により判断が違う。統一した見方がないのか。(女性/85歳以上)

介護認定がきびしい。(性別無回答/65歳~69歳)

要介護認定で最初から2と言われたのですが、1で良いと思います。私はお掃除をお手伝いして頂きたくお願いしたのですが、ケアマネジャーの方は変わらないと云われて近所の人が介護が一段上がって支払いも多くなった、お手伝いは同じなので下げてもらったと聞いた。なるだけ保険料で合わせられる様にサービスも一度行ってもらってこれが要支援1なのか納得したいです。介護保険料を大切に使うて下さい。お願いします。(女性/80歳~84歳)

認定までに時間がかかりすぎると思う。(女性/85歳以上)

認定員の方があまり病気のことが詳しくないと思います。書類がたくさんあるので、必ず作成年月日を記入してほしいです。それと書類の有効期限がある場合はいつまでと記入して頂きたいです。よろしくお願い致します。(女性/75歳~79歳)

レベル認定の基準を最初に教えてくれないなど対応は親切だが内容は無く、当事者は困ってしまう。厚労省の方針で現場が縛られ、利用者が困る状態になっているのではないかと。(女性/85歳以上)

<介護保険料やサービス利用者負担について>(5件)

介護利用料を割引していただけるので大変助かります。ありがたいと思ってます。1つお願いがあります。介護用具を購入した場合、其の物の全額を支払い、1~2ヶ月過ぎに1割引した金額を振り込んで下さるそうですが事前に細かく説明してほしいと思います。大きい金額だと其の場でお支払いする事が不可能の場合がありますのでご迷惑をおかけすることがあります。やりくりして生活している者には1~2ヶ月でも長すぎると思いますが?(女性/80歳~84歳)

介護保険料が高すぎる。(男性/85歳以上)

1割負担以外の負担の出費がきつい。特別養護老人ホームは、4年近く待っているが連絡がない。

なんとかして欲しい。(女性/80歳~84歳)

<訪問介護(ホームヘルプ)について>(4件)

私はまだ一ヶ月になりませんが、ハンバーグを頼んだら焼いた物が、かたくて食べられなかった。味噌汁もまずくてのめなかった。中心になって教えている方がいないのでしょうか。ある程度料理の出来る人でないと困ります。(女性/80歳~84歳)

私は要支援2ですが、例えば掃除等する場合ホームヘルパーの方と一緒にしなければならないのでしょうか。(男性/65歳~69歳)

訪問介護の時間が短いように思われます。(女性/75歳~79歳)

ヘルパーさんの時間がたりない。1番家族には必要な事だと思います。家族だけではなく本人でも時間がほしいと思います。(女性/80歳~84歳)

<住宅改修について>(3件)

まだ介護保険を利用したことはないのであまり良くわからず、ただ玄関の階段の上り下りの時とガレージに行く時、トイレに行く時に早く手すりをつけたいと思って居ります。(女性/75歳~79歳)

昨年階段の手すりがほしいと申込みましたら私の部屋が中2階ですので中2階以上の手すりはつけられないと言われましたので頼む気がなくなりました。なぜ中2階までしか利用できないのか?と聞きましたら反対に何で2階まで行く必要があるのかと聞かれました。一軒の家に居て2階へ用事があることもあります(例えば階段の掃除の場合など)それ以来頼む気力が失われました。(女性/80歳~84歳)

<施設への入所について>(2件)

現在の介護保険制度では介護度が軽いうちは良いが体の自由がきかなくなり、4などになると自宅で介護制度を受けるだけでは、とても無理です。施設に入りたくても中々入れません。又、病院に入っても3ヶ月くらいで出され、次の病院をさがすのにも大変な思いをします。江古田の森の様な、立派な施設が出来ましたのに人員不足などであまり稼動していないと聞きます。もったいない事だと思います。老人保健施設など6ヶ月は入れるのに3ヶ月で出される(江古田の森)と聞きました。(男性/70歳~74歳)

<その他の介護保険サービス(手続き)に対する意見について>(11件)

計画表を作成しないと緊急で病院に行きたい時等に利用出来なくて困っています。そのような時、お願い利用できるような、設定、人材が欲しいです。無理でしょうか。(男性/85歳以上)

介護サービスの内容がはっきり理解出来ないの具体的なサービスの説明をしてほしい。(男性/80歳~84歳)

制度利用方法等役所(本部)と地域センターの連絡をもっと密にしてほしい。地域包括支援センター等でもっと話が出来たり、指導、利用方法の説明がほしい。センターまで本人が伺うことが出来ない場合等。(男性/75歳~79歳)

もっと簡単に手続きができることと、老人ホーム等の増設。(中野区内でなくても、他の場所にホームを建設し保護していくように)(女性/85歳以上)

高齢で一人暮らしの身には手続きなど面倒すぎます。(女性/85歳以上)

介護保険サービスの種類内容の充実。(女性/85歳以上)

二回お話した事ありますが、からだの不自由さは理解しがたいと思います。一時間だけでは足浴も思うようにならず、この一年間お世話になっていません。もう少し時間がほしいと思いました。

(女性/80歳~84歳)

ある程度、病の知識を勉強して欲しい。(女性/80歳~84歳)

介護認定を受けている者が回答するには少しむずかしい(?)問ではないでしょうか。5問くらいは本人以外の家族が記入しました。高い介護保険料を払っているのに収入によってサービスを受けられないのは不平等だと思います。毎月の薬代が少しでも減額されたらと思っています。(男性/70歳~74歳)

介護用具のサービスをもっと。(男性/65歳~69歳)

<施設増設・設置について>(4件)

特別養護老人ホームなど費用の少ないホームの増設を(中野区内)近くの東京都内(外)近くに設置を希望してます。(男性/85歳以上)

保険のスタートはそもそも、地域で安心して暮らしてゆけるように、介護の必要な人を支えてゆくために出来たものだから、もっと施設や支援システムを充実させてゆくべきです。(経済的なものを含めて)(女性/80歳~84歳)

<その他の意見・現在の状況>(23件)

老人いたわりの文化が深化進展する様、行政が中心となって努力を望む。(男性/85歳以上)

どこの事業所を選別したら良いのか考える。(女性/75歳~79歳)

年令からそろそろ介護受ける年令になっていると思うが、未知の世界なのでまだ不安なので皆様のご支援を期待しています。日常生活に自信をもてなくなってからでは遅いと思います。(男性/80歳~84歳)

独居の人の安心が欲しい。(女性/75歳~79歳)

この問題は今後益々老人が増えるに従い深刻な問題になります。避けて通れないこの問題を政争の具にすることなく国の柱として考えてほしい。夢と希望のない国は青少年問題にまで及ぶかと危惧しています。更なるご努力をお願いします。(男性/80歳~84歳)

年寄になると近くに頼りになる方を感じます(女性/80歳~84歳)

介護保険制度を利用し独居生活をできるだけ長く続けたい(女性/75歳~79歳)

認知症の為、内容はよく話せない。(男性/85歳以上)

身体の具合が良い時は自宅にいたい。介護支援をお願いしたいのですが自分で出来ないのが困ります。娘も都外など又専業主婦でないため申し訳ない気がします。2ヶ月に1度、通院(心臓)、6ヶ月に1度ペースメーカーの診察、その他難聴なので病院にての検査。(女性/85歳以上)

現在未だ介護保険制度に対して、今すぐ必要と云うわけでないで、深く考えられません。この制度によって、多くの老人が喜びと希望の持てるものになってくれればと言うのが本音です。(女性/75歳~79歳)

老人が多くて大変だと思います。なるべく自分の事はやりたいと思っています。よろしくお願い致します。(女性/80歳~84歳)

介護保険料を納めているので、時々利用しようかなと思うが、自分でリハビリに毎日通院したり、努めて散歩外出をしたりして家族の手助けで何とか生活しているので現在の処サービスは受けていないが、医者からいざという時、認定を受けておいた方が良いと強く勧められ認定を受けたのである。(男性 / 70 歳 ~ 74 歳)

色々な病気をしながらも入退院をくり返し乍ら元気に乗り越えて来ましたが、昨年秋頃より急に腰部脊柱管狭窄症というとても痛みがひどくて耐えられぬ事となり、入院、退院後、俄に超高齢者の立場となりました。そしてとても辛く悲しくなりました。今は少し楽になりましたので、一人で頑張って生きております。今は高齢者が多くなり、政府も区役所も大変と思います。殆どの方々が皆様良い方に囲まれております事を感謝して明るく為すよう努めます。有難うございました。(女性 / 85 歳以上)

未だ利用していない為よくはわからないが、制度と云うのはとかく線引き、わくで範囲が定まり、事に直面しての応用の処置はむずかしいのではないかと懸念です。世の中、規則どおりに行かない事の方が沢山あり、温かい心と助け合い願いたいものです。乱筆お許し下さい。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

(5) 介護で困った時の相談先(介護者)

家族・親族に相談する人が6割近く

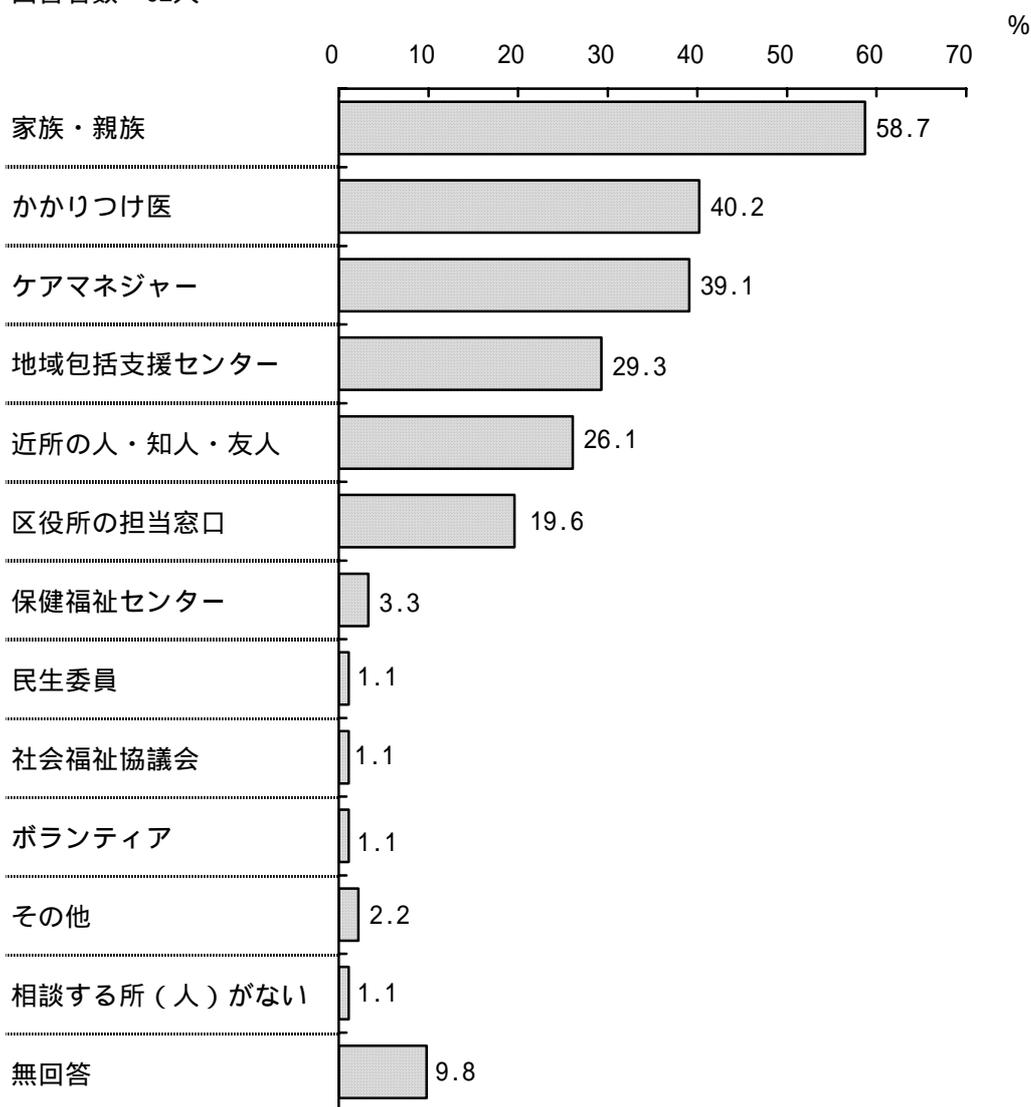
(アンケートの回答を本人のかわりに答えている介護者の方に)

問28. 介護をされていて困った時などに、どこ(だれ)に相談しますか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 7 - 4

回答者数 92人



アンケートの回答を本人のかわりに答えている介護者に、介護で困った時の相談先をたずねたところ、「家族・親族」(58.7%)が最も多く、以下、「かかりつけ医」(40.2%)、「ケアマネジャー」(39.1%)、「地域包括支援センター」(29.3%)が主な相談先としてあげられている。「相談する所(人)がない」(1.1%)と答えた人はほとんどいなかった。(図 - 7 - 4)

性別では、「家族・親族」が男性で67.7%と女性(54.1%)より高くなっている。一方、「地域包括支援センター」(女性34.4%、男性19.4%)、「近所の人・知人・友人」(女性29.5%、男性19.4%)では女性の方が高くなっている。(表 - 7 - 6)

要介護度別では、「家族・親族」は要介護1～3で60%台後半、「かかりつけ医」は要支援1で50%、要支援2で60%、要介護4で50%台前半、「ケアマネジャー」は要支援2で50.0%、要介護4、5で40%台半ばと、それぞれ高くなっている。(表 - 7 - 6)

同居家族別では、高齢者と子どもの2世代の世帯では「家族・親族」(64.7%)、「かかりつけ医」(47.1%)、「地域包括支援センター」(44.1%)で、高齢者と子どもと孫の3世代の世帯では「家族・親族」(70.0%)、「かかりつけ医」(50.0%)、「ケアマネジャー」(60.0%)で、それぞれ高くなっている。(表 - 7 - 6)

表 - 7 - 6 性別、要介護度別、同居家族別

単位: %

		回答者数	家族・親族	かかりつけ医	ケアマネジャー	地域包括支援センター	近所の人・知人・友人	区役所の担当窓口	保健福祉センター	民生委員	社会福祉協議会	ボランティア	その他	相談する所(人)がない
全体		92	58.7	40.2	39.1	29.3	26.1	19.6	3.3	1.1	1.1	1.1	2.2	1.1
性別	男性	31	67.7	41.9	35.5	19.4	19.4	16.1	-	-	-	-	-	-
	女性	61	54.1	39.3	41.0	34.4	29.5	21.3	4.9	1.6	1.6	1.6	3.3	1.6
要介護度別	要支援1	8	37.5	50.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	12.5
	要支援2	10	60.0	60.0	50.0	30.0	30.0	20.0	-	-	-	-	-	-
	要介護1	19	68.4	31.6	36.8	42.1	21.1	15.8	-	-	-	-	-	-
	要介護2	6	66.7	33.3	66.7	33.3	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-
	要介護3	15	66.7	33.3	26.7	26.7	46.7	26.7	6.7	-	6.7	-	-	-
	要介護4	13	61.5	53.8	46.2	23.1	38.5	23.1	7.7	7.7	-	-	7.7	-
	要介護5	15	46.7	40.0	46.7	20.0	13.3	20.0	6.7	-	-	6.7	6.7	-
同居家族別	ひとり暮らし	17	47.1	29.4	23.5	29.4	23.5	23.5	-	-	5.9	-	5.9	5.9
	高齢者夫婦だけ(1世代)	23	56.5	30.4	43.5	17.4	17.4	30.4	8.7	4.3	-	-	-	-
	高齢者と子ども(2世代)	34	64.7	47.1	41.2	44.1	23.5	17.6	2.9	-	-	-	2.9	-
	高齢者と子どもと孫(3世代)	10	70.0	50.0	60.0	10.0	30.0	-	-	-	-	10.0	-	-
	その他	6	50.0	66.7	33.3	33.3	83.3	16.7	-	-	-	-	-	-

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

(6) 介護をしていて不足と感じるサービス(介護者・自由回答)

(アンケートの回答を本人のかわりに答えている介護者の方に)

問29. 介護をされていて、不足していると感じるサービスはどのようなものですか。ご自由にお書きください。

アンケートの回答を本人のかわりに答えている介護者に、介護をしていて、不足していると感じるサービスについて自由に書いてもらったところ、33件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

不足というより、不満があります。サービスを受けていない場合は、その認定された金額の一部でも衛生用品の購入に当てることができないのでしょうか。例えばポータブルトイレの防臭剤(20包1050円)や入れ歯の安定剤(1本980円)など、在宅で暮らす母にとってはどれも必需品です。一ヶ月にかかる費用は数千円になります。認定されているのは紙オムツなど限られたものだけで、それだけでは不十分だと思います。在宅による介護を推進するには使用しやすいサービスとともに、もう少し柔軟な介護用品の認定をしていただきたいと切に思います。(女性/85歳以上)

スベリ症の為、歩行が困難で、病院への送り迎えを自家用車で行っています。認定では車椅子の貸与がダメだったので、近い病院にも車で行っているのが大変です。(女性/75歳~79歳)

現在、宅配食事サービスを利用しているが、その代金の一部負担をお願いしたい。(女性/70歳~74歳)

透析患者のショートステイ、ロングステイが中野区にはない。(男性/85歳以上)

家事援助、病院への付き添い、救急時への対応。(女性/40歳~64歳)

現在発病からずっと入院中(現在は左側にマヒが大きい)ですが、リハビリ中心の病院の為にいつの時点で出なくてはいけないかわからないのと、その後そのような施設に入れるのかなど、先が見えないので不安である。自宅での介護は難しい状況。介護家族は妹ですが、現在62才、仕事もしているし、本人は、ベッドから自力で車イスに移ることも不可能な状況です。(女性/70歳~74歳)

1、夜間の管理(巡回等) 2、ケアサービス体制を充実させ、きめ細かい対応ができるようにして欲しい。3、老人ホームの斡旋、支援(パンフレットのみで終わらせるのではなく、親身になって「ホーム」を探してもらえる体制と施設の増加(管理の充実:有料老人ホームでも看護師が24時間いる等も含め)(女性/85歳以上)

まだ身体が健康なので、それほど介護を必要としていないのが、やる気がなくなり寝ている事が多くなって来た。今後どうなっていくのか、又、どのように元気付けていけばいいのかが気がかりです。(女性/80歳~84歳)

デイサービスだけでなく、1ヶ月~2ヶ月に1度くらいショートステイサービスに行かせて頂くと家族のものは大助かりです。(男性/85歳以上)

介護保険施設の数と質の充実。(女性/85歳以上)

長年の二人共働きにて近所付近のお話しをする事があまりない。人との話がきらい。(男性 / 75 歳 ~ 79 歳)

ケアマネジャー間のコミュニケーションを充実させる。最大の希望 : 土曜、日曜に相談窓口を開けて欲しい。(女性 / 年齢無回答)

出来るだけ同居家族が面倒を見ることが建前の様だが、朝早くから夜遅くまで働きに出ている場合などは現実には無理だと思う。もっと柔軟に対応して欲しいと思う。また、ヘルパーをお願いする場合どこに頼めばいいのかもわからない。今回要介護の認定がおりてその案内が届いた時の書類の不親切には驚いた。ただ地域の事業所が書かれた紙を送りそれで決めろという配慮のなさ、無神経さにあきれられるばかり。まさにお役所仕事とはよく言ったものと感じってしまった。相手の立場にたったらあんなことで決められるものではないということは、普通の人ならわかるはず。これからますます老人が増えてくることを真剣に考えるべき。(女性 / 85 歳以上)

認知症に関しては、介護している本人でないと苦労度はなかなか理解出来ない。一般的に見たら普通に見えても、四六時中生活してみると、とんでもない様に。よくメディア等でこんな事が起きる前に、誰かに相談できなかったのか…とされているが、それは言葉の上だけで、行き詰っているからこそ話せない…という事がほとんどと思う。これからどんどん高齢者が増える中でいろいろな悲劇はもっと多くなると思う。実際に見ていても逃げ出したくなると気が度々ある。やはりあるレベルに達したら入所できるホームがもっと必要と思うし、働ける人に安心して働けるような環境が必要と思う。(女性 / 85 歳以上)

介護認定が人によって違うように思う。年令をとれば自由にサービスを受けられるものが介護ではないか、認定など不必要。出来なければ介護制度などいらぬ。人件費の無駄。(男性 / 85 歳以上)

要介護の食事代等は少ないが、医療費への支出が増加している。このため、90 歳以上の高齢者に対し所得税の減免措置があれば良いと思う。(男性 / 85 歳以上)

同居人がどういう状況であっても(高齢・昼間は仕事でいない等)健康であると、使えるサービスは限られてくる。もう少しそれぞれの状況に応じての柔軟な対応を望む。デイサービスを使えない症状(興奮しやすい、攻撃性があるなど)の認知症患者をかかえる介護者は疲れ果てている。24 時間介護を一人で抱えている方も同じだと思う。介護者の心が壊れないような対策も必要だと思う。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

宿泊を伴うサービス。(短期間)(女性 / 80 歳 ~ 84 歳)

リハビリの出来る施設が少ないと思います。(男性 / 70 歳 ~ 74 歳)

ヘルパーの訪問時間。(合計で)(女性 / 40 歳 ~ 64 歳)

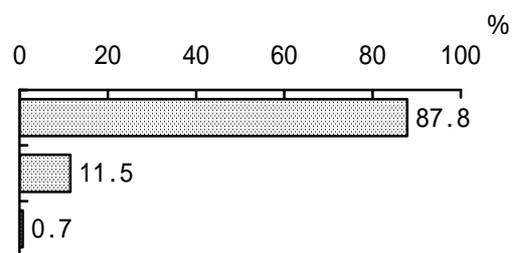
・自宅で介護を受けたくてもチューブ交換・緊急事態に 24 時間体制で応じる医院がない。・認知症のため介護予防が無理。・費用の負担が重いので軽減できる方法を知りたい。・在宅介護を十分に支援できる医療・介護の体制・介護保険施設の充実(女性 / 85 歳以上)

ケアマネジャー

1. 対象者の属性

(1) 所属する事業所の所在地

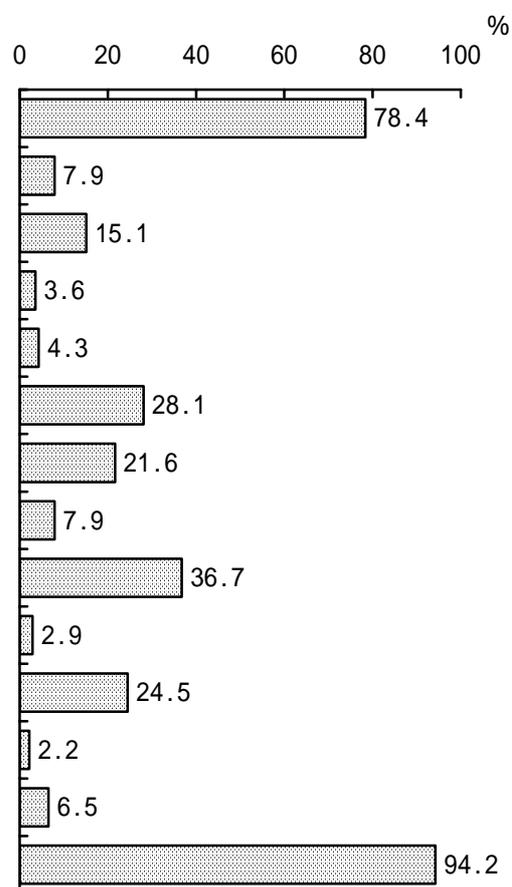
区分	回答者数	構成比 (%)
中野区	122	87.8
中野区以外	16	11.5
無回答	1	0.7
全体	139	100.0



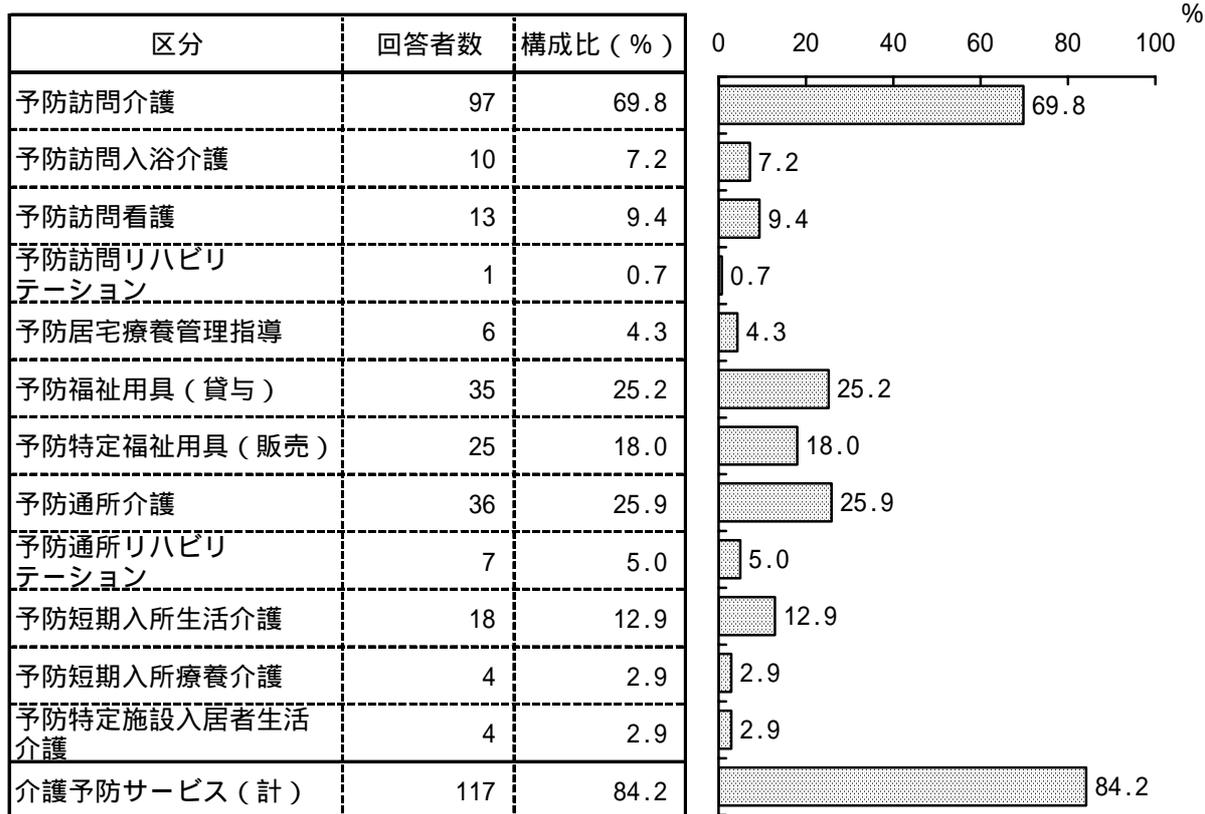
(2) 所属する事業所が提供するサービス

居宅サービス

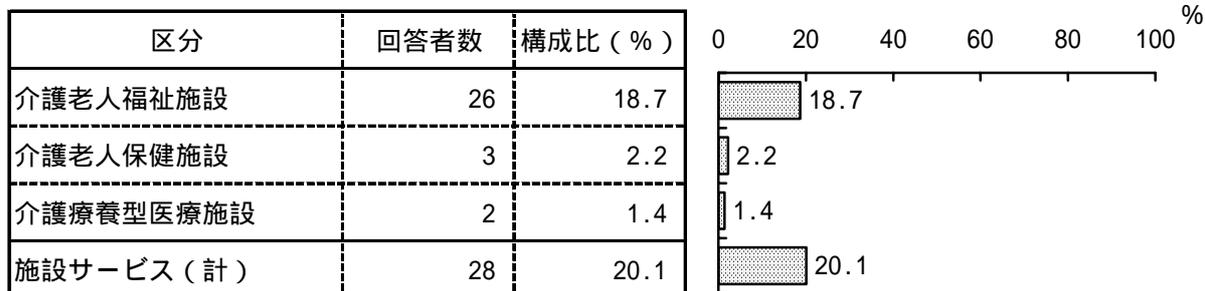
区分	回答者数	構成比 (%)
訪問介護	109	78.4
訪問入浴介護	11	7.9
訪問看護	21	15.1
訪問リハビリテーション	5	3.6
居宅療養管理指導	6	4.3
福祉用具（貸与）	39	28.1
特定福祉用具（販売）	30	21.6
住宅改修	11	7.9
通所介護	51	36.7
通所リハビリテーション	4	2.9
短期入所生活介護	34	24.5
短期入所療養介護	3	2.2
特定施設入居者生活介護	9	6.5
居宅サービス（計）	131	94.2



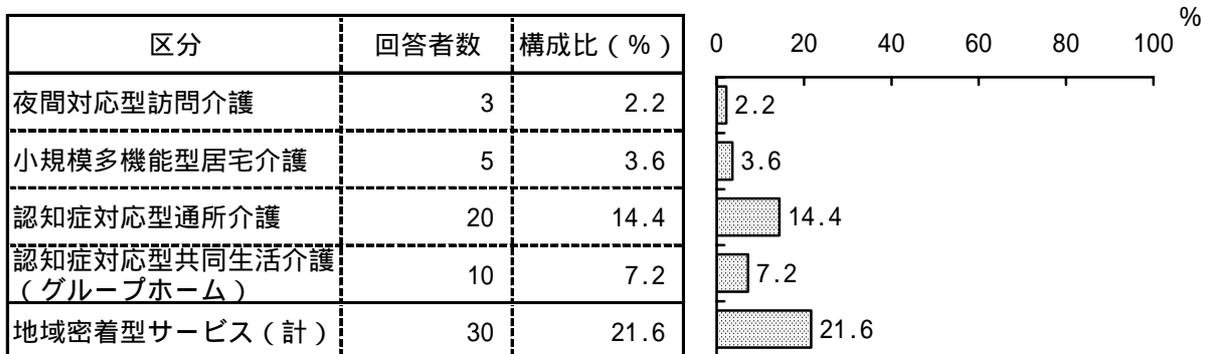
介護予防サービス



施設サービス

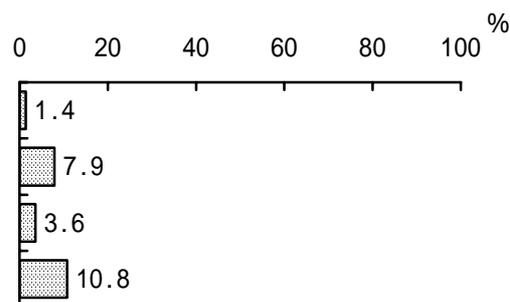


地域密着型サービス



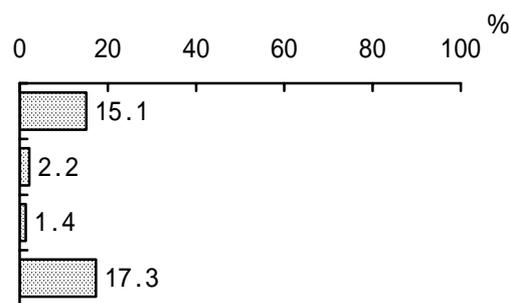
介護予防地域密着型サービス

区分	回答者数	構成比 (%)
予防小規模多機能型 居宅介護	2	1.4
予防認知症対応型通所介護	11	7.9
予防認知症対応型共同生活 介護（グループホーム）	5	3.6
介護予防地域密着型 サービス（計）	15	10.8

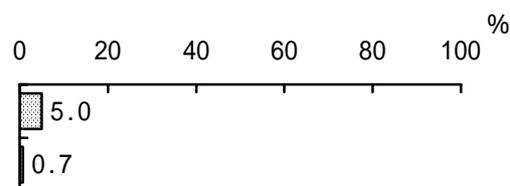


その他のサービス

区分	回答者数	構成比 (%)
病院・診療所	21	15.1
薬局	3	2.2
その他のサービス	2	1.4
その他のサービス（計）	24	17.3

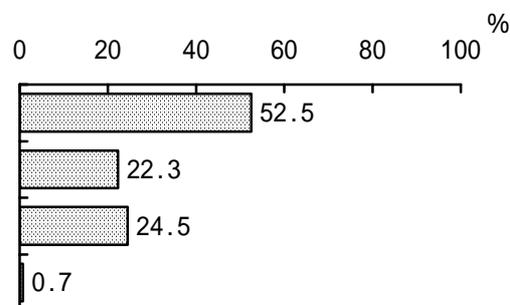


区分	回答者数	構成比 (%)
併設事業なし	7	5.0
無回答	1	0.7



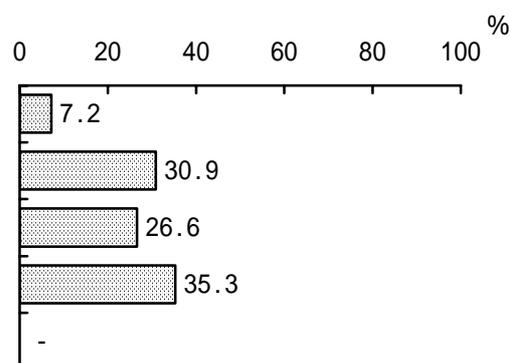
(3) 勤務体系

区分	回答者数	構成比 (%)
常勤で専従	73	52.5
常勤で兼務	31	22.3
非常勤	34	24.5
無回答	1	0.7
全体	139	100.0



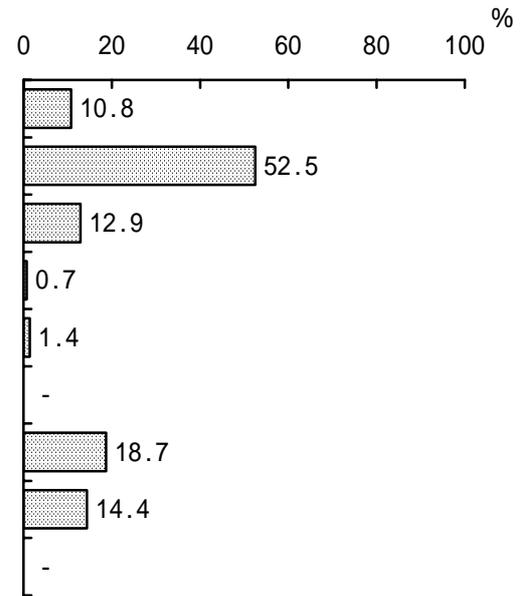
(4) ケアマネジャーとしての従事期間

区分	回答者数	構成比 (%)
1年未満	10	7.2
1年以上3年未満	43	30.9
3年以上5年未満	37	26.6
5年以上	49	35.3
無回答	0	-
全体	139	100.0



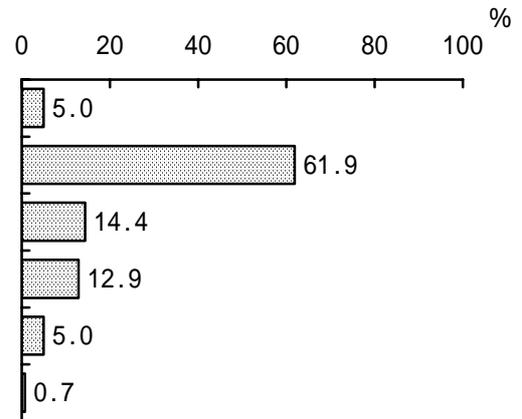
(5) ケアマネジャー受験資格と当該職種の従事年数
受験資格

区分	回答者数	構成比 (%)
社会福祉士	15	10.8
介護福祉士	73	52.5
看護師・保健師	18	12.9
医師・歯科医師	1	0.7
薬剤師	2	1.4
理学療法士・作業療法士	0	-
ホームヘルパー	26	18.7
その他	20	14.4
無回答	0	-
全体	139	100.0



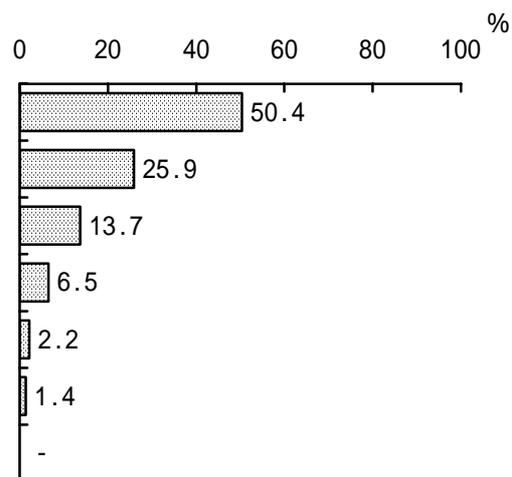
当該職種の従事年数

区分	回答者数	構成比 (%)
5年未満	7	5.0
5年以上10年未満	86	61.9
10年以上15年未満	20	14.4
15年以上20年未満	18	12.9
20年以上	7	5.0
無回答	1	0.7
全体	139	100.0



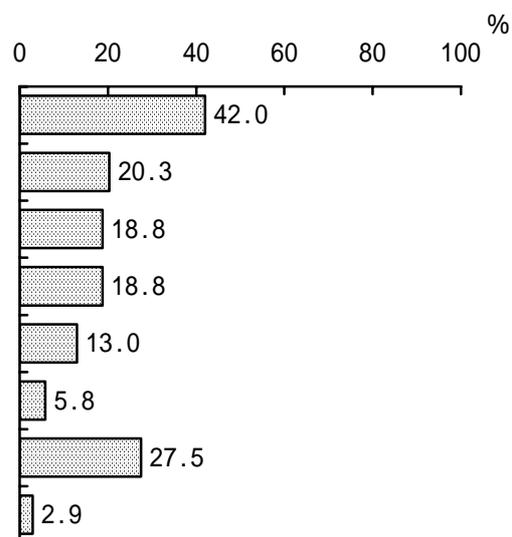
(6) 過去3年間で、所属事業所を変った回数

区分	回答者数	構成比(%)
0回	70	50.4
1回	36	25.9
2回	19	13.7
3回	9	6.5
4回	3	2.2
5回以上	2	1.4
無回答	0	-
全体	139	100.0



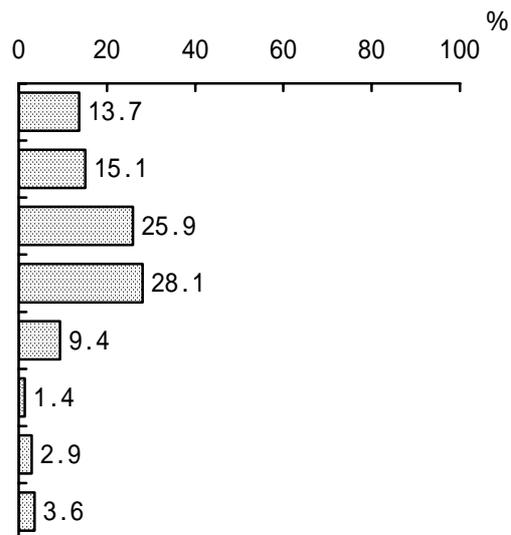
(7) 事業所を変った主な理由

区分	回答者数	構成比(%)
事業所の管理運営方針が合わない	29	42.0
業務上の負担が多い	14	20.3
事業所の統合・廃止	13	18.8
人間関係の問題	13	18.8
給与に関する問題	9	13.0
給与以外の福利厚生等での問題	4	5.8
その他	19	27.5
無回答	2	2.9
全体	69	100.0



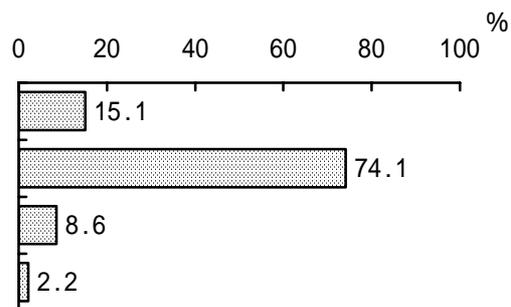
(8) 居宅サービス計画の作成人数

区分	回答者数	構成比 (%)
10名以下	19	13.7
11名～20名	21	15.1
21名～30名	36	25.9
31名～35名	39	28.1
36名～40名	13	9.4
41名～50名	2	1.4
51名以上	4	2.9
無回答	5	3.6
全体	139	100.0



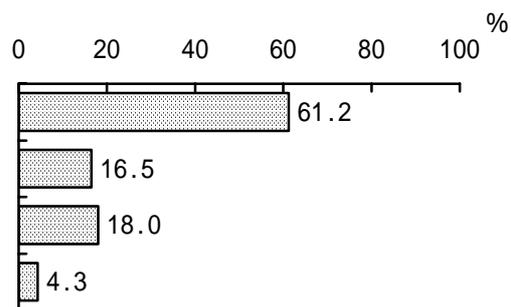
(9) 介護予防サービス計画の受託または作成人数

区分	回答者数	構成比 (%)
0名	21	15.1
1名～8名	103	74.1
9名以上	12	8.6
無回答	3	2.2
全体	139	100.0



(10) 作成するケアプランの件数について

区分	回答者数	構成比 (%)
現在の件数で十分	85	61.2
もっと件数を増やしたい	23	16.5
もっと件数を減らしたい	25	18.0
無回答	6	4.3
全体	139	100.0



(11) ケアプランの件数が増えない理由 (自由回答)

(問10で「2」に つけた方に)

問11. ケアプラン件数を増やしたいのに増えない理由をお書きください。

作成するケアプランの件数を増やしたいのに増えない理由について、自由に書いてもらった回答のうち、代表的な意見を掲載する。

依頼が月に1件程度しか来ない。営業活動をしていない。

依頼件数が少ない。営業活動しても件数上がらない。

新規の方と接する事がない。

新規プランの申し込みが少ない

理由は良くわからないが新規依頼が減った。依頼がない。

利用者からの問い合わせが少ない。

近隣にケアマネジャー事業所が多い(特に特別養護老人ホーム併設が)。

自信がない。兼務の為。

増やし方が判らない。

予防給付に移行が多くて、ケアプランにならない。

介護予防に移動する方がとても多い。本当はもう少し関わり訪問する必要がある方でも、予防ができる人が多く、予防に行ってからもしばらくは訪問等しているのが現状である。

現在担当している方が、ご逝去されたり、入所されたりして、担当からはずれてしまって件数が減ってしまう数が多いため。

新規が増えても、既存が増減する為。

もう少し増やしたいと思うが、状態の変化がある方が多く、関わる時間が長く、サービス調整も度々の人もある。書類作成、請求事務、電話対応と日々追われている状態。

書類整備に追われているため、徐々に新規を受け入れさせていただいている。

ケアマネジャーの仕事についてまだ2ヶ月なので研修中です。

(12) ケアプランの件数を減らせない理由 (自由回答)

(問10で「3」に をつけた方に)

問12. ケアプラン件数を減らしたくても減らせない理由をお書きください。

作成するケアプランの件数を減らしたくても減らせない理由について、自由に書いてもらった回答のうち代表的な意見を掲載する。

所属事務所の役割として拒否することができない為。

母体が株式会社で、上限いっぱい持つことが運営上必要なため。

お客様の理解を得られない。

会社の売り上げや、自分の給料に影響が出てくる。

経営的には減らせないが、業務内容を考えると、現在の利用者数は多い。併設サービスがあるので、また希望されてくる方が多いため、お断りすることはできない。 正当な理由はなく、断っていない。(人員での対応以外)

事業所の数値目標があるから。

会社の利益の為。

35件もたないと人件費の維持ができないと言われている。

会社員として逆らえないから。

介護予防8件持っているが、安い上に手間がかかり大変。しかし、地域包括支援センターとの交流もあるので、会社の方針として8件のノルマがある。予防プランは、ボランティア的だと思っている。予防プランが導入されてから労働時間が増えた。

地域包括支援センターでの予防支援で必然的に増加傾向にあるため。

プラン料が安すぎ。事業所はあまりうけてくれない。委託の数もどんどん減っている。

地域包括支援センターに従事している専任のケアマネジャーはいるが経験年数が1年も満たないため対応できるプラン数にも限りがある。また地域包括支援センターに依頼される予防プランは受けるしかないため減らせない。

地域包括支援センターの職員人数が少ない。居宅介護支援事業所が委託を受けてくれないというか、受けられない。

拒否することができない為(地域包括支援センターの予防居宅だから)

長い間の関係(薬局その他)なので自分でよいと思ってくださる方が多いので減らせない。又、私自身もケアマネジャーとしてお世話して愛情のような気持ちがあり手ばなせない。

どうしてもと依頼されると断れない。(自分のケアプラン件数にみたない場合)

一度うけてしまったら、終了するまで、他に引継ぎにくいケースが多いため。私のエゴがもしれないですけど、なかなか対応が難しいケースは、他に引継ぎにくい。

中野区内を担当するケアマネジャーが他にいないため。

2. ケアプランを作成する上での課題について

(1) 現行の介護サービスが要介護者等の自立支援に果たす役割

役割を果たしていると答えた人が過半数

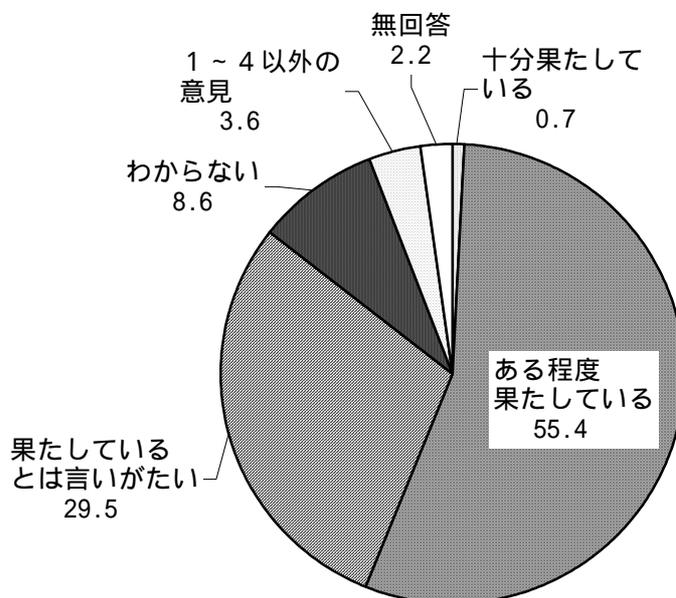
(全員の方に)

問 13. 介護保険制度は要介護者等の自立支援を目的の一つとしていますが、現行の介護サービスはその役割を十分果たしていると思いますか。(は1つ)

図 - 2 - 1

回答者数 139人

単位：%



現行の介護サービスが、要介護者等の自立支援にその役割を「十分果たしている」と答えた人は0.7%、「ある程度果たしている」と答えた人は55.4%と、役割を果たしていると答えた人が過半数を占める。一方、「果たしているとは言いがたい」と答えた人は29.5%となっている。

(図 - 2 - 1)

(2) 介護保険サービスによる家族の介護負担軽減

介護負担軽減につながっていると答えた人が約8割

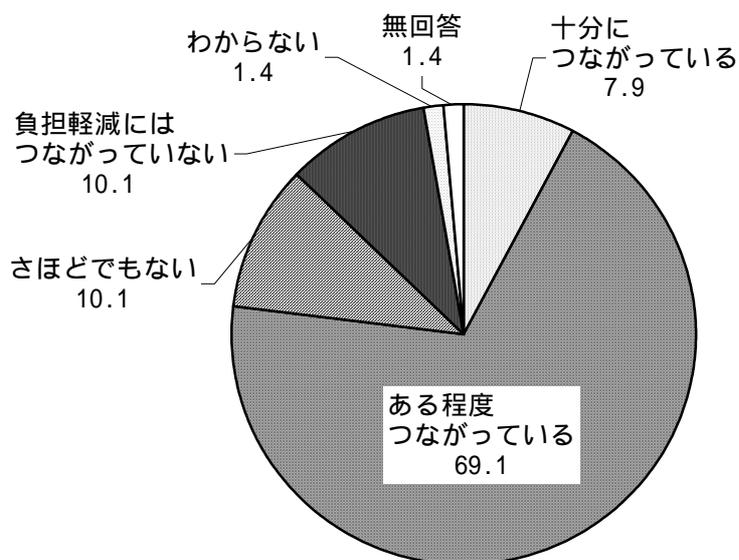
(全員の方に)

問14. 介護保険サービスは、家族の介護負担軽減につながっていると思いますか。(は1つ)

図 - 2 - 2

回答者数 139人

単位：%



介護保険サービスが家族の介護負担軽減に「十分につながっている」と答えた人は7.9%、「ある程度つながっている」と答えた人は69.1%と、介護負担軽減につながっていると答えた人が8割近くを占めている。一方、「さほどでもない」と答えた人、「負担軽減にはつながっていない」と答えた人はともに10.1%となっている。(図 - 2 - 2)

(3) 供給不足のため、利用者に提供できないサービス

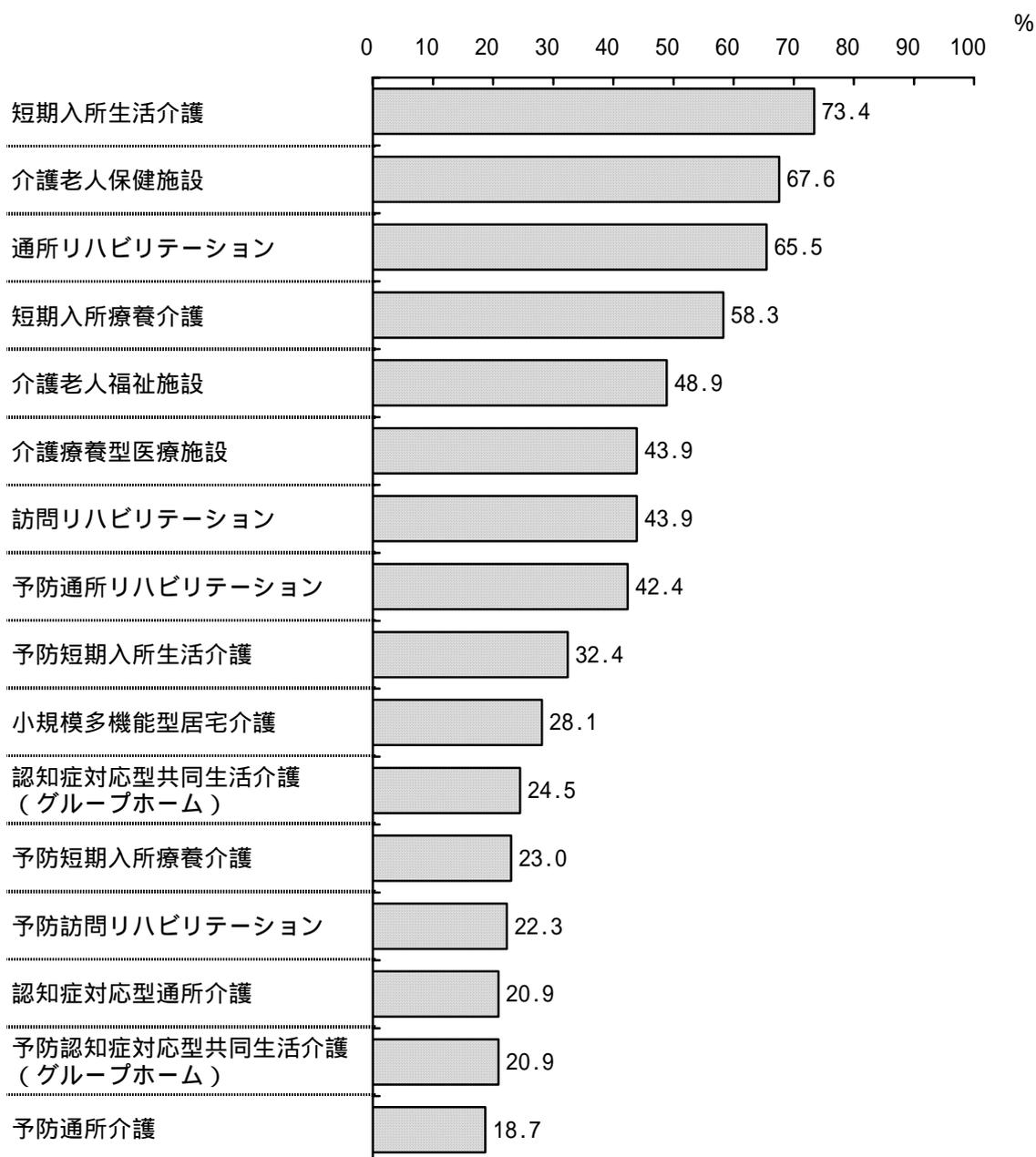
居宅サービスの不足感が高い

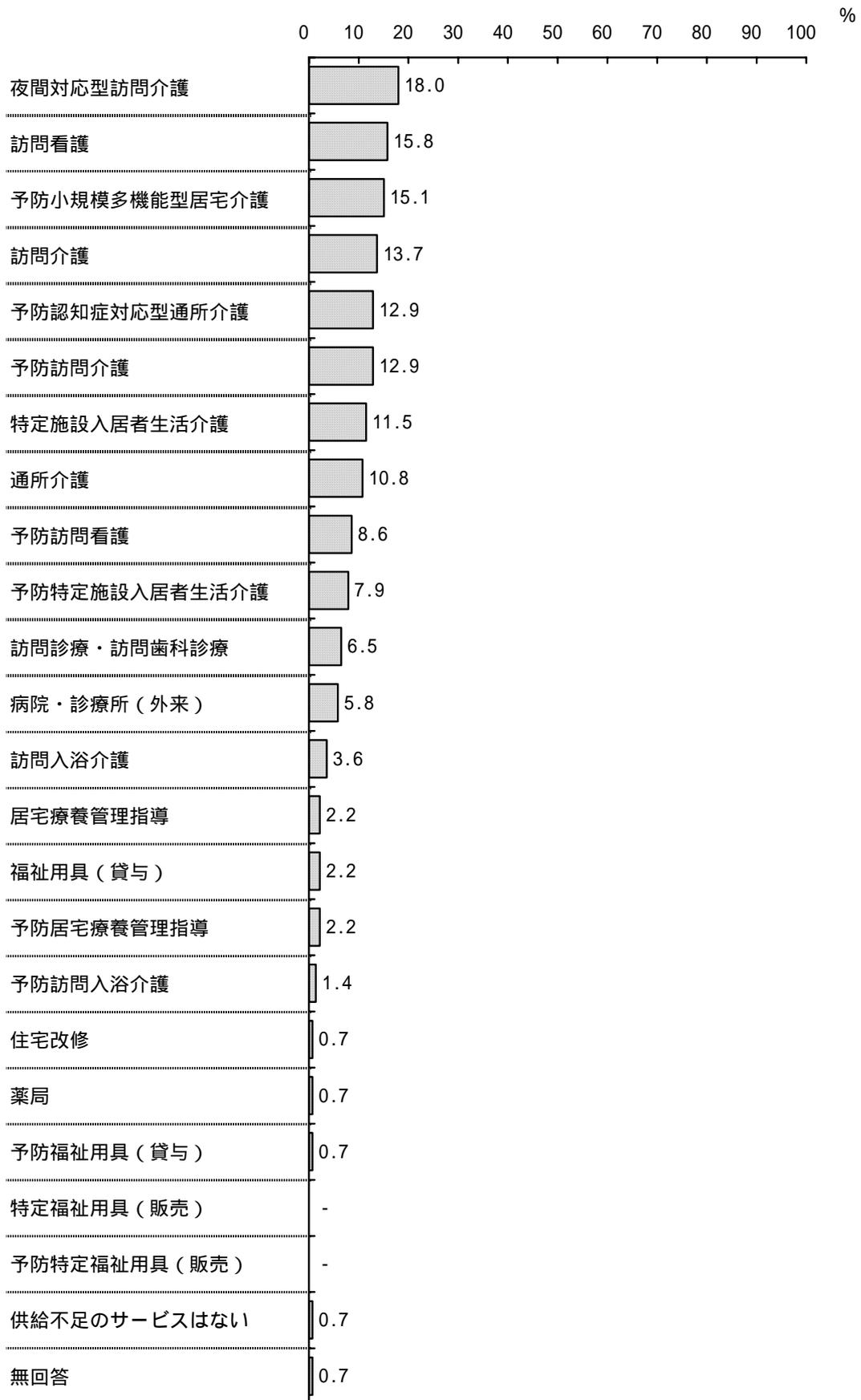
(全員の方に)

問 15. ケアプランを作成する際に、中野区内でサービス供給が不足しているため、利用者に提供できない(しにくい)サービスは何ですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 2 - 3

回答者数 139人





ケアプランを作成する際に、中野区内でサービス供給が不足しているため、利用者に提供できない(しにくい)サービスについてたずねたところ、「短期入所生活介護」(73.4%)が最も多く、以下、「介護老人保健施設」(67.6%)、「通所リハビリテーション」(65.5%)で6割以上となっている。(図 - 2 - 3)

(4) 供給不足以外に必要なサービスが提供出来ない場合

「介護保険制度の給付では対応できない」が半数弱

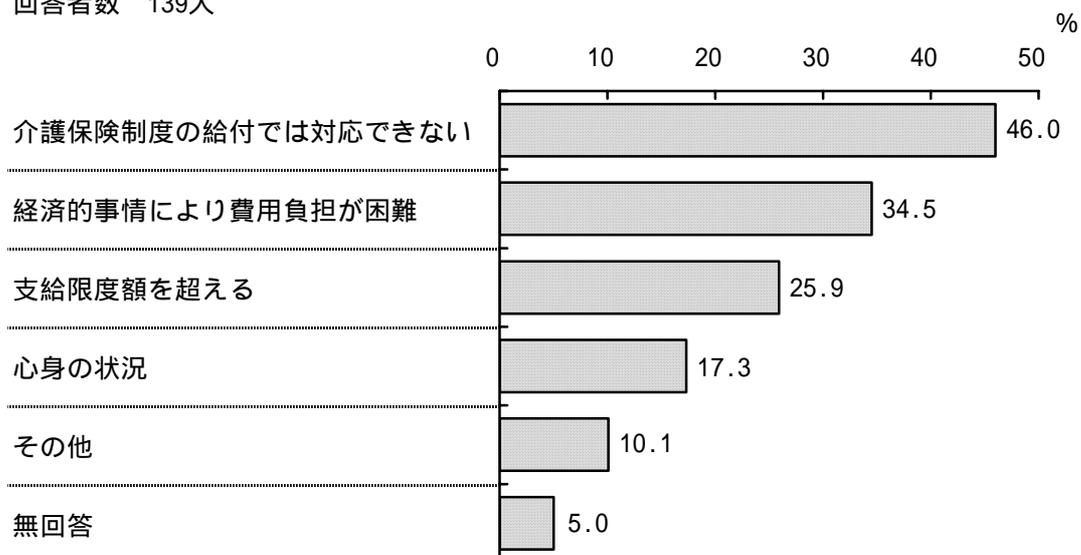
(全員の方に)

問16. 供給不足以外に必要なサービスが提供(調整)出来ないのはどのような場合ですか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 2 - 4

回答者数 139人



供給不足以外でサービスが提供出来ない場合としては、「介護保険制度の給付では対応できない」(46.0%)が最も多く、以下、「経済的事情により費用負担が困難」(34.5%)、「支給限度額を超える」(25.9%)、「心身の状況」(17.3%)となっている。(図 - 2 - 4)

(5) 要介護者や家族にとって望まれるサービス（自由回答）

（全員の方に）

問 17. 現行のサービスや区の保健福祉サービス以外で要介護者等や家族にとってどのようなサービスがあったらよいと思いますか。最近の経験を踏まえて自由にお書きください。

現行のサービス以外で要介護者や家族にとって望まれると思うサービスについて自由に書いてもらったところ 78 件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

通院介助

通院介助などの自費サービス、安い値段で設定してほしい。

通院介助、つきそいに関して介護度によって値段を決めたらどうか

通院のためのタクシー補助券。

通院介助で院内での介助をしてくださるところがあると助かる。または病院との協力で病院側がみてくれるとか考えて頂きたい。

日常生活上のサービス

緊急時に電話をして、排泄介助など身体保護をしてくれるヘルパーがあったら良い。

配食サービス週3回（昼のみ）ではなく、夕食にも利用できると良い。

食事を一緒に食べたり、話をしてくれる方。外出（散歩等）をしてくれる方。

美容室や公共施設利用時の送迎や付添い。電球の交換などちょっとこまった時の助けサービス。

軽費で利用できる家事、外出援助サービス、ほほえみサービスでは対応できない部分あり。家族同居（日中同居）の場合の家事支援。独居の方の入退院時の付き添い（自費サービスが高いため、利用が難しい）

巡回バス 高齢者福祉センターや高齢者会館の事業を利用したいが、介護保険のデイサービスのように送迎がない為、利用できない方が多い。最寄り駅等、あるいは、既存のバスルート以外を回ってくれる無料バス等があると良い。

介護者の支援、負担軽減、緊急時のサービス

介護自己負担軽減のため、また法事等のためショートステイの利用を希望される方が多いが区内の施設を複数申ししてもなかなか利用できない。また歩行の自立のためリハビリを希望される方が多いが、利用できる通所リハビリテーションが中野区では特に予防ではない。

家族の介護負担軽減サービス。家族の外出時に預けられる低価格有料サービス。住宅斡旋事業。高齢者は不動産屋へ行き、商品を選択できない。地域のヘルパー支援（保険外で自由に使えるヘルパーサービス）。

要介護者を介護する人が、高齢な配偶者の場合、介護者に万一のことがあると共倒れになってしまう。介護者が要介護認定に反映されにくい。体調不良で介護できなくなった場合、その生活を支援するサポート体制がほしいです。高次脳機能障害の方への支援もほしいです。

・24時間対応の緊急サービス ・緊急時のショートステイ ・医療的処置をうけている人のためのデイサービスの充実

・家族を支援する。ピアカウンセリンググループの運営。（特に認知症、うつなど精神疾患のある方の家族対象）保険制度への理解 ・緊急時一時保護目的のショートステイより緊急性が低くても、保護、家族の休息目的な、ショートステイのベッドの確保。（区としての全特別養護老人ホームに1ベッドずつくらい） ・ケアマネジャーの育成 ・認定の精度をあげる。

相談にのってくれるサービス

何でも相談し、ゆっくり話を聞いてくれるところ。

訴えに対する聞く体制。不安やあせりがあり、話を聞くという作業が必要であるが、現在の仕事から考えるとこの作業の時間がとれない。それをボランティアで探せない。じっくり聞いてあげると、ケアサービスがいない事の方が多い。

情報提供

緊急時の対応、避難場所とかの情報、地域のネットワーク、見守りがどうなっているのか知りたい。

要介護者や家族が区の高齢者保健福祉サービスを十分に理解しているとは言いがたいのでまず、介護支援専門員を通じて浸透させることが先決ではないかと思われる。

見守り等、介護保険外のサービス

見守り協力員や民生委員が増えるとよい。独居だと、話し相手のみ必要という方もいるので。単純な見守りや、気がねなく声かけし合える地域でのボランティア。見守り・緊急通報システムなどあるが、手続きがめんどろなと条件が限られてしまう。

認知症の方の見守りボランティア。もしくは有償ボランティアのお金の給付。

重度者で家族が日中独居の場合、今の保険内ではサービス時間が限られている。各自に合った柔軟な対応ができるようにしてもらいたい。

介護保険サービス制限を緩和。“アレもコレもしてはいけません（サービス）”、“アレもコレもしなさい。（書類等）” 経営できません。

介護保険では認められていない話し相手や、区や金融機関への手続き（ボランティアで）などのサービス。

介護施設

都営区営住宅の一部が高齢者用住宅になっていて、ある程度自立した生活できるが、外出の自由も確保しながら、その建物内に介護ステーションがあるような施設があったら、いいのではないかと思うこと有り。

難病患者の入所可能な施設がない。呼吸器をつけている方が長期療養できる病院があると良い。支援困難（アル中）の事例を専門で行う機関を設けて欲しい。

在宅生活のことを考えて、手術（延命治療）して下さい。医療行為がある施設増設（病院のようなです）。

その他

成年後見人制度をもう少し使いやすくしたサービス。病院内付添サービス。

社会資源が少ない。ほほえみサービスの協会員が少なく、サービスを受けられないことがある。

地域コミュニティ。家族、本人が気軽に立ち寄れる場。

入浴可能なデイショートステイ。学校を利用して子供と要介護者のふれあい。

障害者の福祉サービスにある”訪問学校”の様なシステム。デイサービスに通う事になかなか適応できない方々も多く自宅で趣味や学習などサポートしてくれるシステムがあれば良いと思う。

夜間対応型訪問介護の様に日中誰も居ない時に呼べるサービスが欲しい。

巡回型訪問介護。

第2号被保険者が、短時間で必要なサービス(入浴やリハビリ)を受けられるような通所介護的なサービスがあると良いと思います。第2号被保険者の方は、高齢者ばかりの通所介護に1日いるのは、苦痛のようです。

利用している通所介護事業所でのショートステイの実施及び、ショートステイの利用料の負担の助成。

(6) 近隣や地域の人々に望む支援や手助け

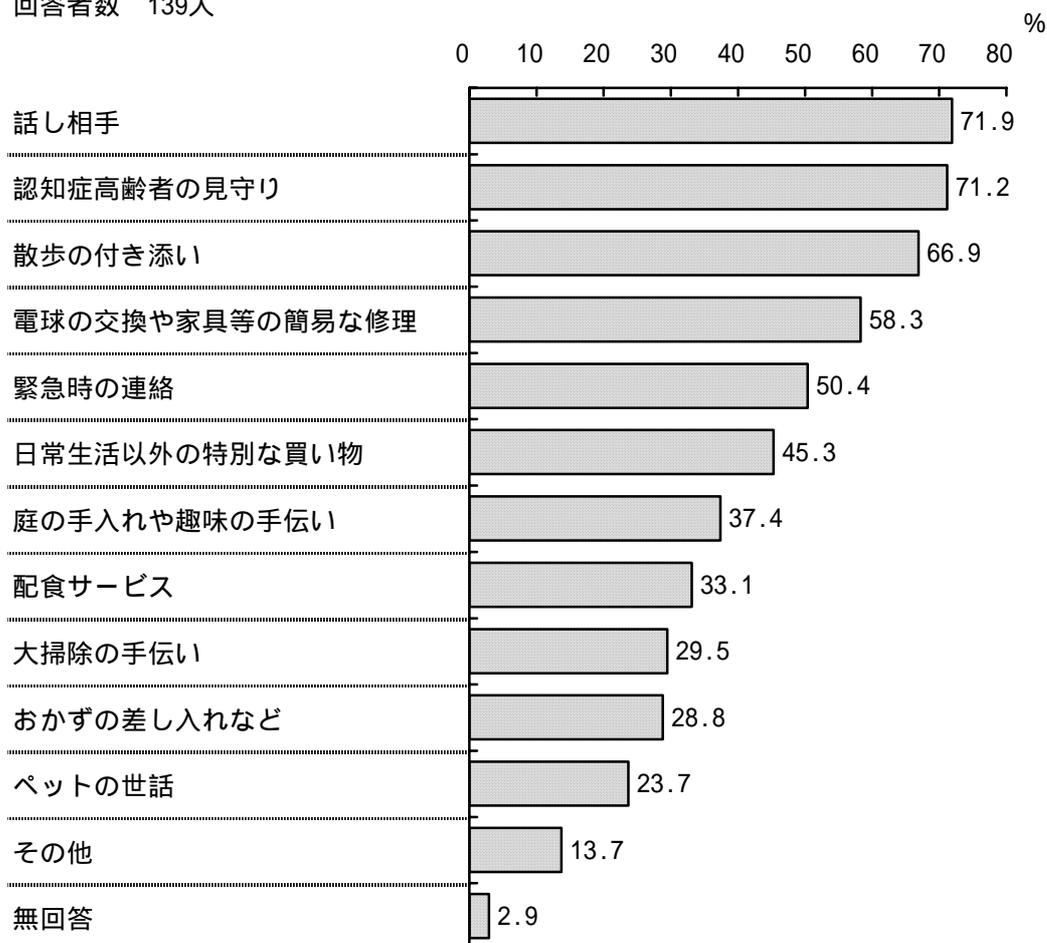
望むのは「話し相手」と「認知症高齢者の見守り」

(全員の方に)

問 18. 要介護者等が住み慣れた自宅や地域で暮らし続けるため、近隣や地域の人々からどのような支援や手助けがあったらよいと思いますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 2 - 5

回答者数 139人



要介護者等が住み慣れた自宅や地域で暮らし続けるために、近隣や地域の人々に望む支援や手助けとしては、「話し相手」(71.9%)と「認知症高齢者の見守り」(71.2%)が7割強と多く、次いで、「散歩の付き添い」(66.9%)、「電球の交換や家具等の簡易な修理」(58.3%)、「緊急時の連絡」(50.4%)が5割以上であげられている。(図 - 2 - 5)

その他の意見

病院への付き添いや役所などへ出向く際の付き添い。

ゴミ出し。

通院介助（保険対応できないもの）。

選択肢にあるサービスをしてくれる方をどこでどうやって探すのか、お願いしていいのかわからないので、その情報提供も支援の1つだと思います。

地域コミュニティが薄い中、住民同志の顔が見える、おつきあいが必要ではないか

近隣とは、関係性の問題があるから、難しいと思う。上記については、有償ボランティア以外にも、他の制度でうまくいかないのか…と思う。他に独居の方の、入院時の保障人に困ったことがある。

様子を見ていただく。

交番や、警察署の方々に、認知症の病状に対する理解があると、認知症の独居の高齢者を地域でみることができやすくなると思う。

介護サービス以外の上記すべて必要である。法律ではやれないと困っている方に断るのは非常に辛い。

地域センターのサークル参加のための送迎。ボランティアが定着していない。

安否確認、声かけ（訪問）(TEL) 声掛けによる生活援助（買物等）

3 . サービス連携について

(1) 介護サービス提供事業者との連携

連携が取れていると答えた人がほとんど

(全員の方に)

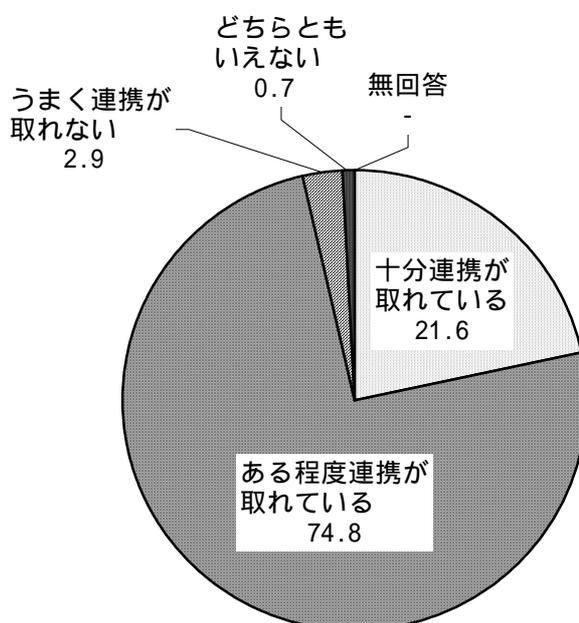
問 19 . ケアプランの実施にあたって、介護サービス提供事業者との連携がとれていますか。

(〃 は 1 つ)

図 - 3 - 1

回答者数 139人

単位 : %



介護サービス提供事業者との連携については、「十分連携が取れている」と答えた人が 21.6%、「ある程度連携が取れている」と答えた人が 74.8%と、ほとんどの人が連携が取れていると答えている。一方、「うまく連携が取れない」と答えた人は 2.9%となっている。(図 - 3 - 1)

うまく連携が取れない場合の具体的な状況

細かい内容など直接会って話をする機会が少ない。

こちら側から連絡しない限り、全くしない事業所もありばらつきがある。

大きな病院の医師との調整が困難で、電話で話すことができない場合が多い。又、利用事業所がないと、それだけで連携をすることが困難となる。

1ヶ月の報告書を出すようにしてはどうか？簡単でいいので。ケアマネジャーが1カ月1回行って、聞いても不十分な事があるから(忘れていたり、言わなかったり etc)

(2) 主治医との連携

連携が取れていると答えた人が2割強

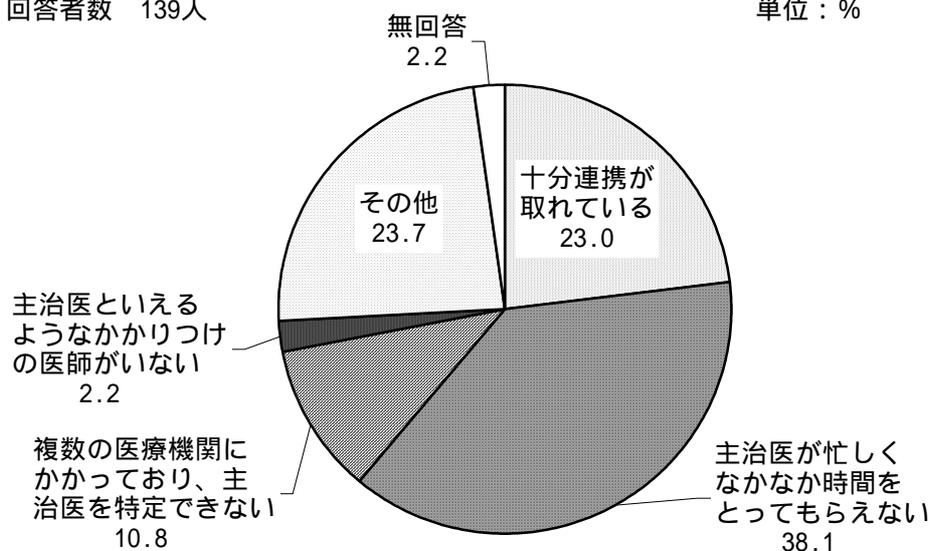
(全員の方に)

問20. 主治医(かかりつけ医)との連携についてはどうですか。(は1つ)

図 - 3 - 2

回答者数 139人

単位：%



主治医との連携については、「十分連携が取れている」と答えた人が23.0%となっている。一方、「主治医が忙しくなかなか時間をとってもらえない」と答えた人が38.1%、「複数の医療機関にかかっており、主治医を特定できない」と答えた人が10.8%、「主治医といえるようなかかりつけの医師がない」と答えた人が2.2%と、約半数の人がうまく連携が取れていないと答えている。(図 - 3 - 2)

その他の意見

往診以外の医師とは連携がとり辛い。

医療部分に対しては連携はとれるが、在宅生活に理解のある医師が少ない。

医師との連絡の取り方等、具体的に連携をとる際の方法について難しい場合が多い。必要な場合のみ連携している。(自分自身が看護婦なので一般的な疾患であれば、特に主治医に意見を求める必要性を感じない) 医師だってすごく忙しい事を考慮すべき必要な場合には随時出向いて情報交換する様にしています。

ケースバイケース。十分に連携がとれる方もいれば、とりにくい方もいる。ほとんどの医師は多忙なため、周囲の医療関係者を通して、情報をいただいたり、指示をいただくようにしている。

ほとんどの医師は協力してくれるが、中には個人情報保護があるからと非協力的な医師もいる。

十分とは言えないが、必要時電話やFAXで連携をとっている。

医師によって違う。私自身が元医療系のため、他のケアマネジャーよりはとれやすいと思うが、医師との話し方が特にわかりにくいのではないかと思う。どんなことをきいておく方がよいか等、もっと医師も在宅の観点を持って。

全員の主治医と十分に連携が取れているとは言えず、利用者によりばらつきがある。往診医や個人病院のドクターとは連絡が取りやすい。

十分とはいえないが、連携が取れるよう努力している。医師に連絡、出向くようにしている。主治医によってはよく連携のとれている医師もありますが、多くはサービス担当者会議のお知らせをしても梨のつづて。行政からもっと介護との連携をとるように指導していただきたいと思います。

会議への参加はきびしいが、ケアプランの変更等は郵送している。返事がある先生もいらっしゃる。

地域の開業医の先生とは連携をとりやすいが大病院の医師とは、本人通院時に同行は難しい。

医師によって対応や考え方が違うので、とまどうことが多い。医師会や区の方でも簡単な書式で質問出来るようにしてほしい。こちらの質問に関して医療費が発生してしまうことのないようにしてほしい。

主治医が介護保険サービスをしっかり把握していなくて、利用者の話を鵜呑みにしてしまい、訪問サイドと連携がとれない。

(3) 地域包括支援センターとの連携

連携が取れていると答えた人が9割近く

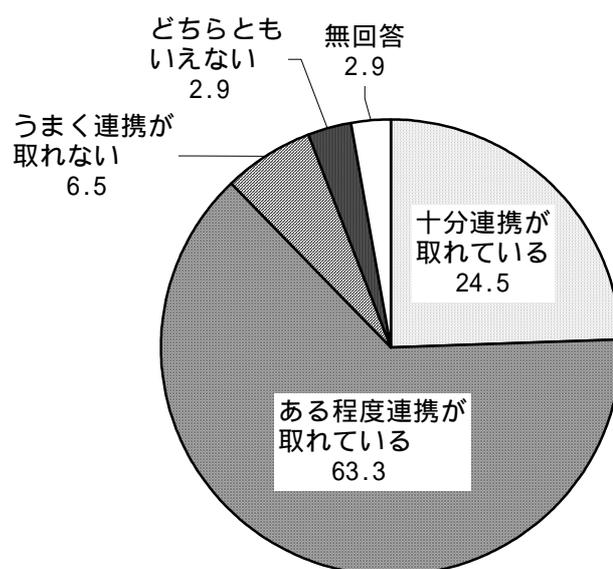
(全員の方に)

問 21 . 地域包括支援センターとの連携についてはどうですか。(1 は 1 つ)

図 - 3 - 3

回答者数 139人

単位 : %



地域包括支援センターとの連携については、「十分連携が取れている」と答えた人が 24.5%、「ある程度連携が取れている」と答えた人が 63.3%と、ほぼ 9 割の人が連携が取れていると答えている。(図 - 3 - 3)

うまく連携が取れない場合の具体的な状況

何か相談しても、適切な返答が得られない。

誰が専門職種でどんな対応をしてくれるのか、分からない。予防プランの委託ぐらいで、連携はとらない。

センターによって対応に差がある。センターが忙しく、予防の委託を受けても知らない間に担当者が変わる。若く経験が浅いスタッフが多いセンターがあると、困難ケースの相談をしても対応がしきれない時がある。

地域によって職員の対応が悪い。職員の担当がよく変わる。

予防の委託については無駄が多すぎ。低コストなので委託を廃止してほしい。手間ばかりかかりすぎ。委託されているのに何故二人のケアマネジャーが担当者会議に出席するのか？そういう時間があるなら自分たち(地域包括支援センター)で予防プランをもってほしい。(直プラン)

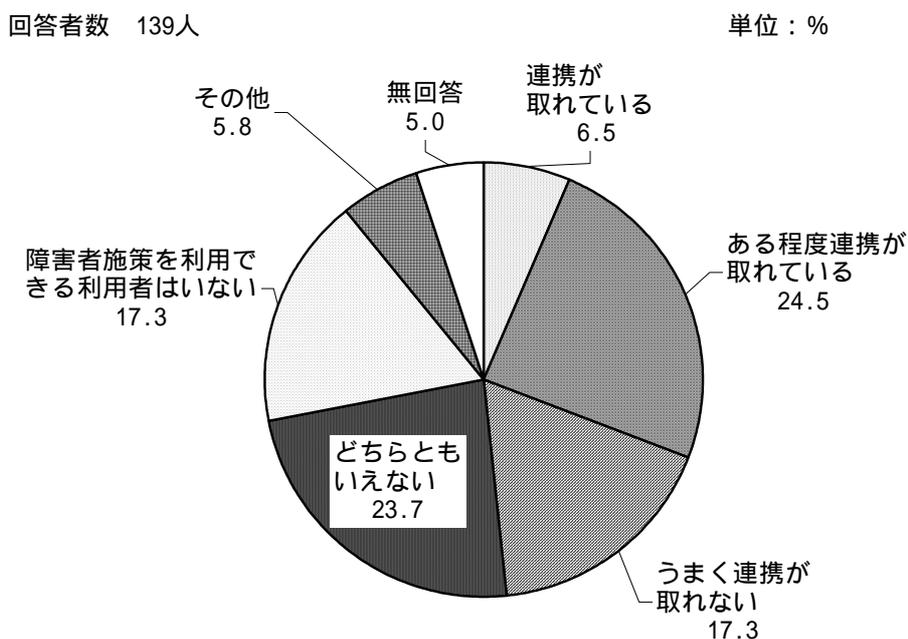
(4) 区の障害者施策の相談窓口とのサービス調整等の連携

連携が取れていると答えた人が3割

(全員の方に)

問 22. 障害者施策を利用できる利用者について、区の障害者施策の相談窓口とのサービス調整等の連携が取れていますか。(は1つ)

図 - 3 - 4



区の障害者施策の相談窓口とのサービス調整等の連携については、「連携が取れている」と答えた人が6.5%、「ある程度連携が取れている」と答えた人が24.5%で、連携が取れていると答えたのは約3割である。一方、「うまく連携が取れない」と答えた人が17.3%となっている。(図 - 3 - 4)

その他の意見

役所の担当者の態度が悪いと訴えられたことがある。

障害者施策のことはあまり分からない。

相談はしても上手くサービスに結びつかない。

介護保険で利用できないサービス(散歩) 外出支援を利用していたが、寒く外出を希望しないため歩行介助が不足したため、歩行ができなくなったため、下肢筋力と体力低下につながった。

(5) サービス担当者会議を開催する上での問題点

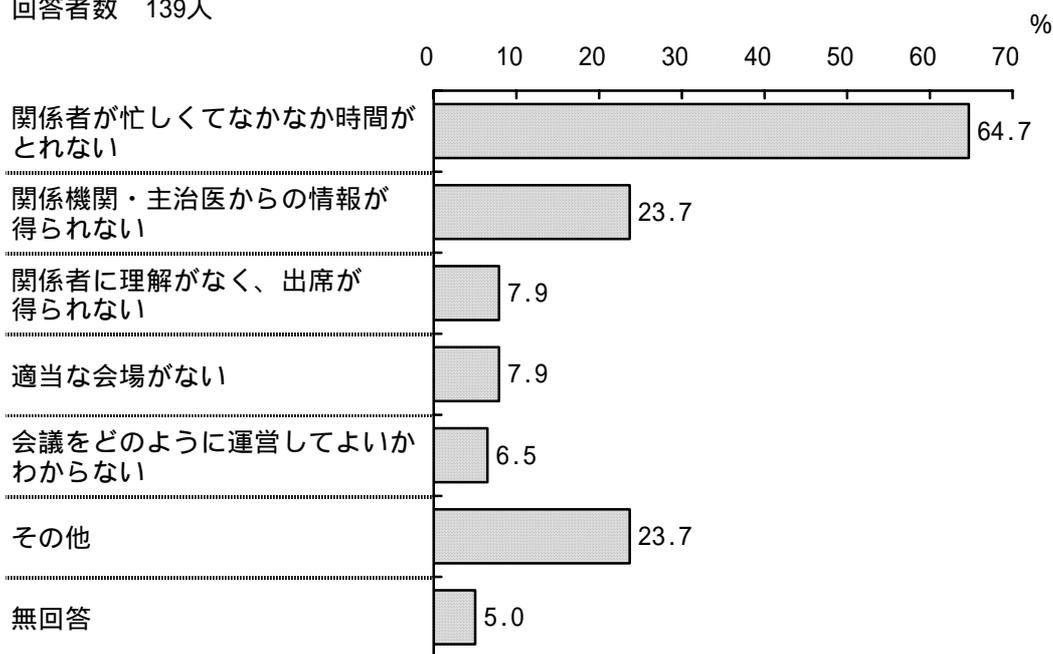
「関係者が忙しくてなかなか時間がとれない」が6割強

(全員の方に)

問23. サービス担当者会議を開催する上での問題点は何ですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 3 - 5

回答者数 139人



サービス担当者会議を開催する上での問題点としては、「関係者が忙しくてなかなか時間がとれない」(64.7%)が最も多く、他の問題点に比べ突出している。次いで、「関係機関・主治医からの情報が得られない」(23.7%)が2割強となっている。(図 - 3 - 5)

その他の意見

持ち件数が多いので、スケジュール管理に困難な面がある。

利用サービスが多い場合、全事業者が出席できる時間の調整が難しい時がある。時にデイサービス事業所(者)が現場をぬげにくい時間帯があることが多い。

ご本人が参加されない会議への出席が得られない場合がある。(ご本人の希望により担当者のみでの介護の場合も...)何が欠席とされるのか分からない。

細かく行おうとする(サービス調整増えるたび)が、事業者は一定の理解あるが、本人、家族の理解が得られにくい。

進行するケアマネジャーが進行役になっておらず、検討する会議になっていないことが多く、時間の無駄を感じるが多い。事前に情報収集もできていないので話もまとまらず困る。

最近は、協力的で、スムーズに開催できるようになった。あえて、問題とするなら、何のために、何について話し合うのか、十分に理解されていない方がみうけられる。ケアマネジャーの努力不足もあるが、ケアプランを中心にして、介護上の問題を解決していくよう、働きかけていく必要がある。

担当者会議の日程決定時に時間調整が困難な時がありますが、できるだけ各サービス担当者の出席できる日時を設定するので、規定より遅れることがある。

本当に問題があまりない状況のあまり変わらない方に、半年に1度の担当者会議が必要か疑問。サービス事業所とある程度連絡が取れていればよいのではないか。

担当者会議の開催の回数が多く、やっても記録に残すまでが大変。福祉用具業者の6ヶ月の担当者会議は全事業所を集めるのが大変。実際にやり切れていない。

すべての関係者をそろえようとする、難しい為、出席できる人に参加してもらい、できない人には照会を依頼するようにしている。

忙しい中、皆一生懸命時間をとって集まってくれます。会議をしなくても電話、互いの事業所に行つての話し合いなどしています。週の対応曜日の増減などにも会議が必要（少なくとも我が区では）というのは、時間の無駄ではないでしょうか。

ケースによると思うが、一同会わなくても日頃から連絡をしっかりとるようにしていれば、そのことの方が大切と考える。

主介護者である家族が勤労している場合（特に年齢的にも要職に就いている方が多い）、日程調整がむずかしい。訪看の出席率が悪い。

本人の理解を得られない場合もある。確実に見直し必要な場合は、各事業所の方々と会議している。なるべく情報共有したい為と思ひ足を運んでいる。

担当者会議を開かなければならない意味がそれぞれのスタッフに浸透していない。ヘルパー2級の人に研修の必要があると思います。

更新や区変時は必要あるがケアプランが頻繁にかわる利用者さんの場合や、状態が安定している福祉用具のみの利用者さんの場合、半年ごとの開催の必要性が感じられない。

日程の調整がむずかしい。家族がまたやるんですかと、いやな顔をする。気がつくとな本人の気持ちがおきざりにされていることがある。（家族の意見を重視してしまうため）

認定結果を受けてから開催するため、時間的余裕がなく、関係者全員の出席が困難。（認定結果が出てわかるまでが時間がかかる）

問題点とは感じていない。会議開催の必要性についての認知度が上がったと思う。個人的にも会議を設定することで、担当者との意見交換がスムーズになった。担当医の理解を得ることができれば、なお良いと思う。

今のところ問題点はない。医師との連携も医療系の相談員を通してFAXのやりとりをすることがある。

介護サービス事業所からの情報入手は出来るが、主治医から照会の回答をもらえない事がある。

4 . 困難な事例への対応について

(1) ケアプラン作成の際、対応に苦慮するケース

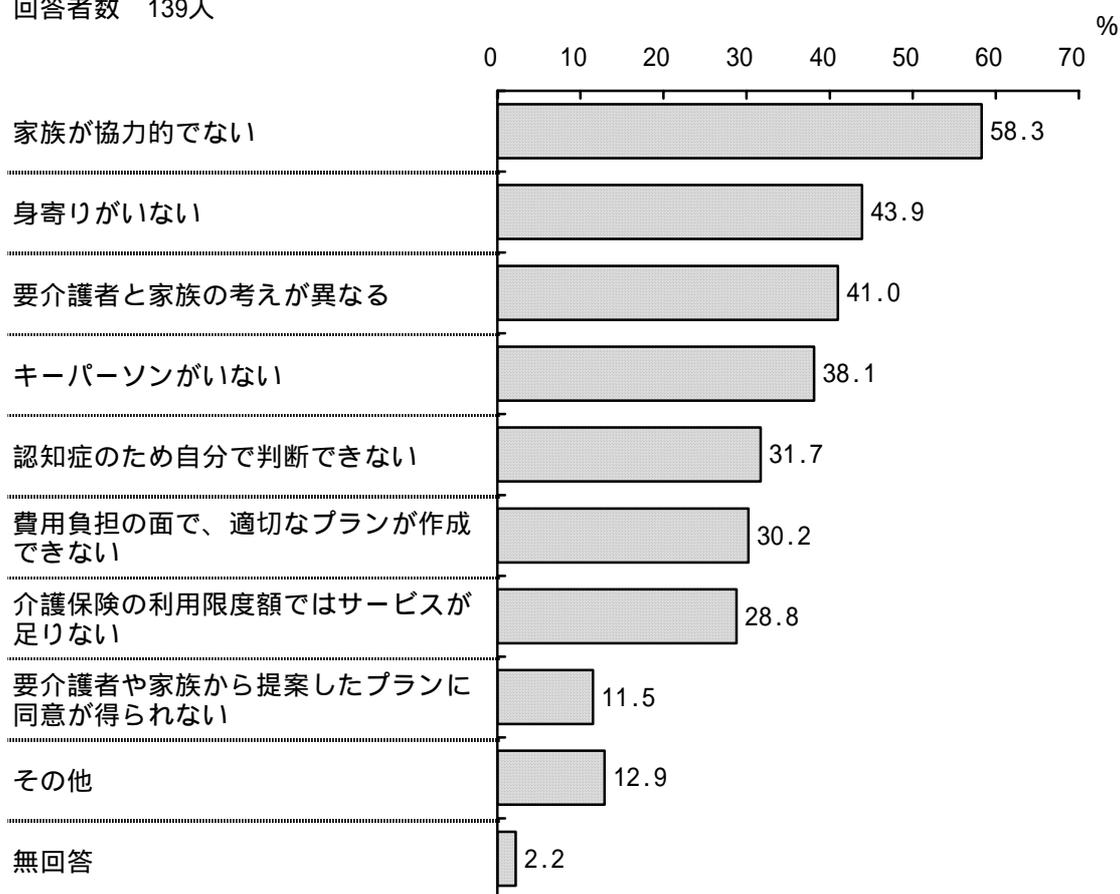
「家族が協力的でない」が6割近く

(全員の方に)

問 24 . ケアプランを作成する際に、特に対応に苦慮するケースはどのようなケースですか。
(あてはまるものすべてに)

図 - 4 - 1

回答者数 139人



ケアプラン作成の際、苦慮するケースとしては、「家族が協力的でない」(58.3%) が最も多く、以下、「身寄りがない」(43.9%)、「要介護者と家族の考えが異なる」(41.0%)、「キーパーソンがない」(38.1%)、「認知症のため自分で判断できない」(31.7%)、「費用負担の面で、適切なプランが作成できない」(30.2%) などが続いている。(図 - 4 - 1)

(2) 要介護者や家族からの相談への対応

対応できていると答えた人が8割強

(全員の方に)

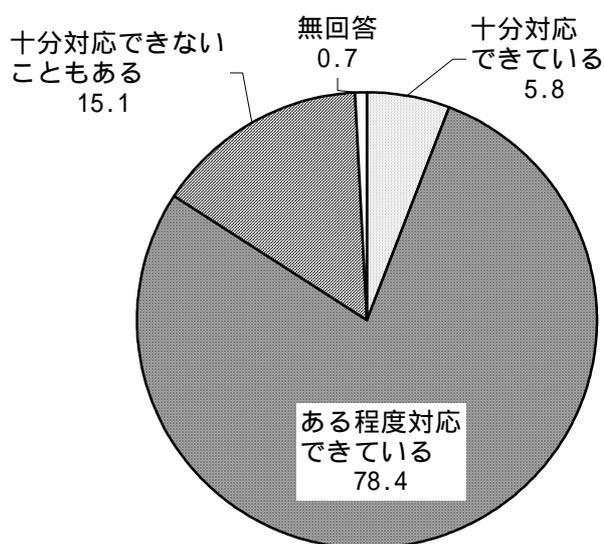
問25. あなたは、要介護者等や家族からの相談を十分に受け止め、対応できていますか。

(は1つ)

図 - 4 - 2

回答者数 139人

単位：%



要介護者等や家族からの相談に、「十分対応できている」と答えた人が 5.8%、「ある程度対応できている」と答えた人が 78.4%と、8割以上の方が対応できていると答えている。一方、「十分対応できないこともある」と答えた人は 15.1%となっている。(図 - 4 - 2)

対応できない具体的な内容

ケアマネジャーの対応する相談の域を超えている。ご家族に相談した方がよいような内容。要介護者から無理難題をいわれる。自分は税金を沢山支払っている。オレの言うことを聞け…etc

関係がうまくとれないケースもある。

散歩、見守りを求められる。介護保険料払っているから適当にやっといてと言われる。ショートステイを毎月同じ施設で利用したいと押される。介護に飽きたから好きにしろと言われる。

対応に追われることがある為。

家族の意見や希望ももっともだと思っても、現行の介護保険制度では対応できず、謝るしか

ないこともある。

それをだれに相談、対処してよいのかがわからない。

要望が多かったり、急に変わったりして、振り回されてしまう。

要介護者や家族から、ヘルパーやその事業所に対する具体的要素が多く、又、その必要性も理解できることから。事業所選定に苦慮し、十分には対応できない。

知識不足、経験不足。

要介護者は、本人が元気だった時に、家族の中で自分が役になっていたことを、ヘルパーにしてほしい。家族も、要介護者の手がわりをしてくれると思っている。介護保険でできること、できないことを理解してもらうまでは、時間がかかります。

時間がない、介護保険制度内で対応できないことも多い。

本人又は家族がいつも不満や苦情ばかり言っており、怒鳴ったり文句をいったり、権利の主張ばかりで、マナー、礼儀、節度をわきまえないケースが中野区は多い。

無理な要望で説明しても納得、理解をしていただけない。ケアマネジャーの力量不足や自分（利用者）を把握していないと思われる。（同居家族の生活援助サービス、ショートステイの確保等）ケアマネジャーは全て何でも知っていると思い込み、知らないと返事すると勉強しなさいと言われる。（例えば障害者のサービス、年金等の介護保サービス以外の事等）

(3) アドバイスを得るところ

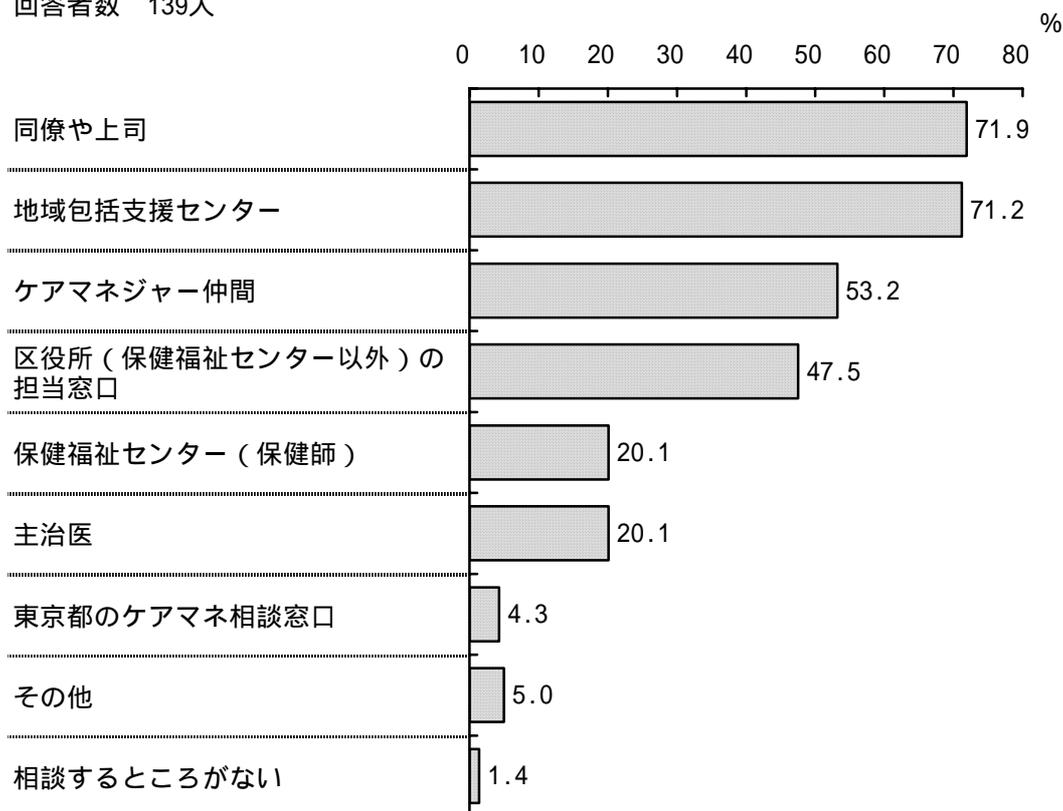
「同僚や上司」と「地域包括支援センター」が7割強

(全員の方に)

問 26. 要介護者等や家族からの相談への対応に苦慮した場合、どこからアドバイス等を得ていますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 4 - 3

回答者数 139人



要介護者等や家族からの相談への対応に苦慮した場合、アドバイス等を得ているところについては、「同僚や上司」(71.9%)と「地域包括支援センター」(71.2%)が7割強と多くなっている。以下、「ケアマネジャー仲間」(53.2%)、「区役所(保健福祉センター以外)の担当窓口」(47.5%)の順になっており、「相談するところがない」(1.4%)は低い数字であった。(図

- 4 - 3)

(4) 高齢者等への虐待が疑われるケースの発見や相談の件数

虐待が疑われるケースを発見したり相談を受けたりしたことがある人が6割強

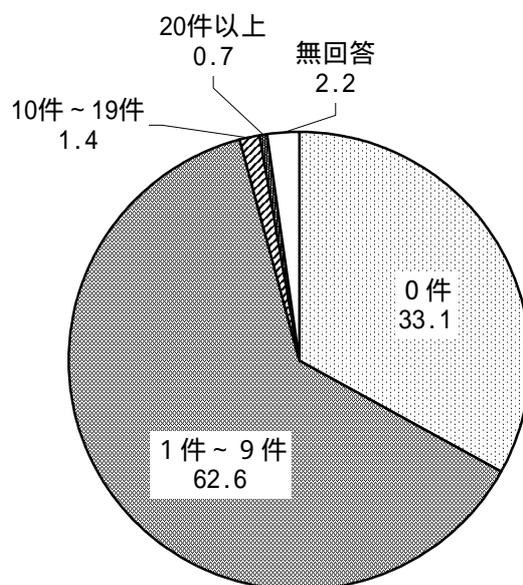
(全員の方に)

問 27 . ケアマネジャーに従事して以来、高齢者等に対する虐待が疑われるようなケースを発見したり相談を受けたりしたことがどのくらいありますか。(〃 は1つ)

図 - 4 - 4

回答者数 139人

単位 : %



高齢者等に対する虐待が疑われるようなケースを発見したり相談を受けたりした件数については、「1件～9件」と答えた人が62.6%を占めている。「10件～19件」と答えた人が1.4%、「20件以上」と答えた人が0.7%となっている。一方、「0件」と答えた人は33.1%と3人に1人の割合となっている。(図 - 4 - 4)

(5) 高齢者虐待対応について強化すべきこと

「地域包括支援センターとの連携」が7割

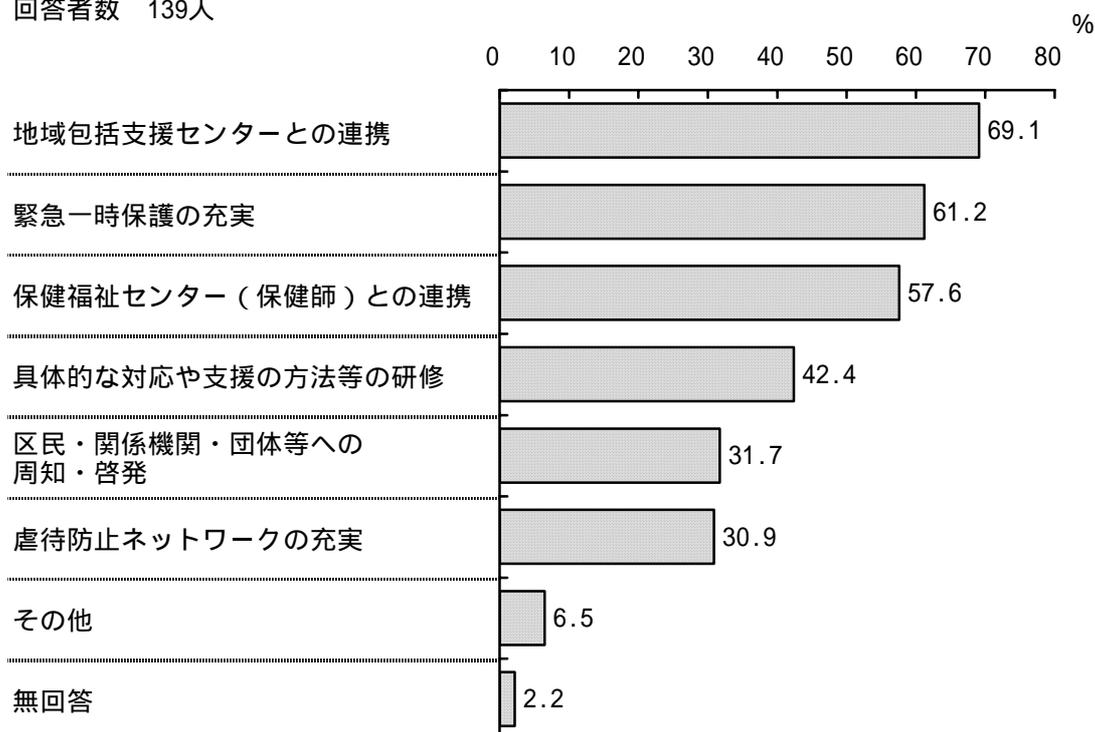
(全員の方に)

問28. 高齢者虐待対応について強化すべきと思うことは何ですか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 4 - 5

回答者数 139人



高齢者虐待対応について強化すべきこととしては、「地域包括支援センターとの連携」(69.1%)が最も多く、次いで、「緊急一時保護の充実」(61.2%)、「保健福祉センター（保健師）との連携」(57.6%)が5割以上であげられている。(図 - 4 - 5)

その他の意見

民生委員、近所の報告、見守り。

個人情報保護の問題があり、相談時も苦慮する。

言葉の虐待があっても、はっきりと区へ言えない。

家族に虐待との意識がない場合には、対応に困ることがある。

虐待といっても、色々あり、一番気がつきやすいのは、ヘルパー、入浴等の現場の職員なので、そこがどう気付き、連携とるかが、重要と思われる。

地域包括支援センターは、いつも忙しそうにしている、相談しづらい。人員を増やし、担当者を決める。

非常にひどいケースは具体的に出来るけれども、多くは見ても見ぬふりになってしまう。

強権発動（子どもの虐待とおなじで、権力で動く力がないと、回りで見ているだけになる）

区が中心になって対応してほしい。全ての情報を区に集める！

5 . 介護予防について

(1) 充実すべき区の介護予防事業

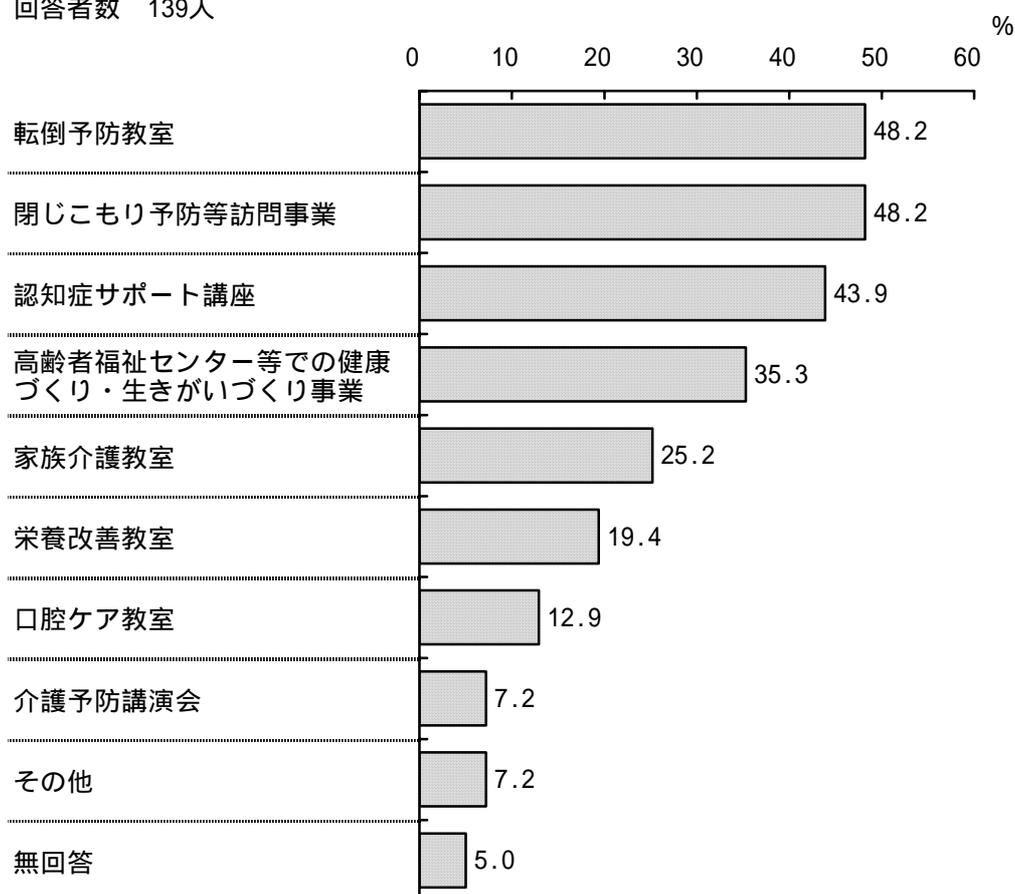
「転倒予防教室」と「閉じこもり予防等訪問事業」が半数近く

(全員の方に)

問 29 . 区は介護予防事業として下記の事業を実施していますが、充実すべきと思われる事業を選んでください。(は3つまで)

図 - 5 - 1

回答者数 139人



充実すべき区の介護予防事業については、「転倒予防教室」と「閉じこもり予防等訪問事業」がともに48.2%で最も多く、次いで、「認知症サポート講座」(43.9%)も4割強の人があげている。(図 - 5 - 1)

介護予防講演会で取り上げるべきテーマ

自立した生活を送るために、自分のことはできるだけ自分で行っていく意識を本人も家族も持ってもらい依存的な考えを変えていく。

自主トレ対策。

介護に疲れた時の対応。認知症のサポート。

認知症に対する偏見を正す。

介護保険の制度について。認知症。

本人、家族の関わりの強化、介護の家族力の強化。

その他の意見

医療面、身体面、本人が自分の事をあまりにも知らない。

利用率がどの程度あるのかわかりませんが、区民への周知、区民がやりたいと思う事業をやる必要があると思いますが。

できるだけ身近なところで、少人数で、気軽に参加できるものがあれば、参加したいという方が多い。今までのものは、地域の老人会のつながりが強く入れない、遠すぎるという意見を聞いている。

若くして要介護状態となり、良くなり、予防になった人の行く所がない！本人リハビリを行いながら自立して生活したいと意欲的に思うが、現在利用できる場所は高齢者センター等老人ばかりで、加齢の老人と障害のある方では違い、精神的に負担となる。

意見です。介護予防は40才から必要だと思う。その部分の周知もしてほしい。色々な講座に参加する人は、意識の高い人なので意識の低い人にどう周知するかを考えてほしい。

町会の老人会が解散している。サポートが必要と思う。

民間のスポーツ施設の中に、高齢者向けのクラス等を設置して、どこの施設に行っても、低料金（所得に応じ）で気軽に利用でき、スタッフが必ず対応してくれるよう（相談に応じるなど助言等）区に助成してほしい。

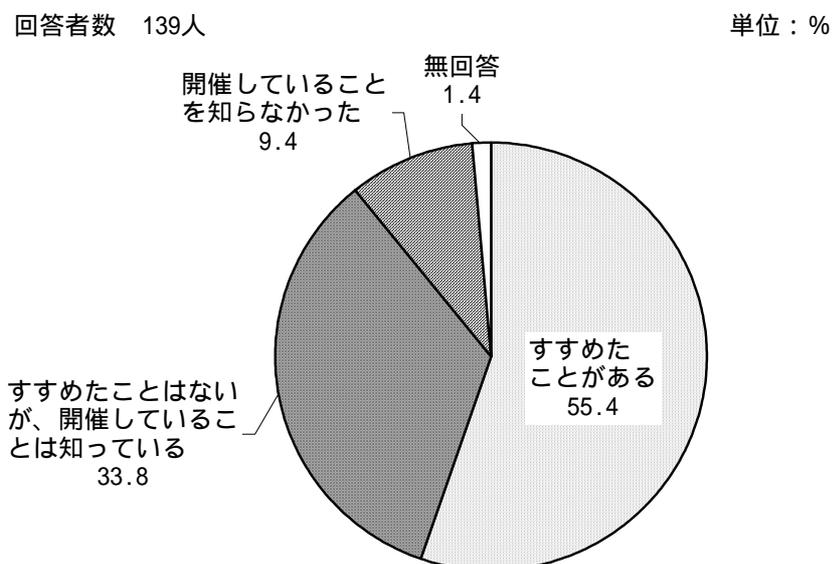
(2)「家族介護教室」への参加のすすめ

すすめたことがあると答えた人が過半数

(全員の方に)

問30. 区は在宅で介護している家族を支援するために具体的な介護の仕方などについて学ぶ「家族介護教室」を開催していますが、あなたは、家族に参加をすすめたことがありますか。(は1つ)

図 - 5 - 2



区が開催する「家族介護教室」への参加を、家族に「すすめたことがある」と答えた人が55.4%と過半数を占めている。「すすめたことはないが、開催していることは知っている」と答えた人が33.8%と9割が家族介護教室を知っており、「開催していることを知らなかった」と答えた人は9.4%であった。(図 - 5 - 2)

広く周知されるために必要な方法

開催する際は、居宅介護支援事務所にもFAX等で知らせてほしい。

各事業所への周知(年度計画あれば良いと思います。)

毎回事務所にFAX連絡で終わりなので冊子を下さい。

介護認定通知書内に同封する。

ケアマネジャーにも周知する。

6 . 認知症に関する課題について

(1) 「認知症サポート講座」への参加のすすめ

すすめたことがあると答えた人が半数近く

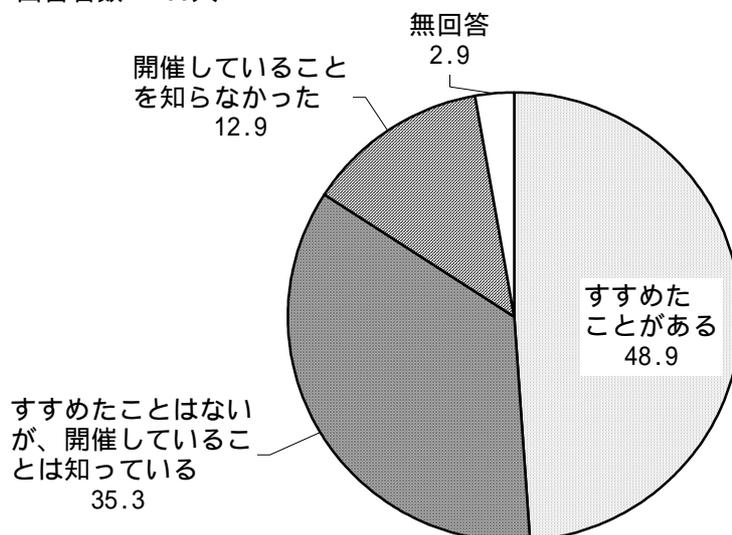
(全員の方に)

問 31 . 区は認知症の方を抱える家族をサポートするために認知症の方の特性などについて学ぶ「認知症サポート講座」を開催していますが、あなたは家族に参加をすすめたことがありますか。(は1つ)

図 - 6 - 1

回答者数 139人

単位 : %



区が開催する「認知症サポート講座」の参加を、家族に「すすめたことがある」と答えた人が 48.9%と半数近くを占めた。「すすめたことはないが、開催していることは知っている」と答えた人が 35.3%で、8割以上が講座の開催を知っており、「開催していることを知らなかった」と答えた人は 12.9%であった。(図 - 6 - 1)

広く周知されるために必要な方法

全ケアマネジャーの事務所に講座の内容を F A X 等して周知する。 認知症専門医に配布して診療時に家族に勧めていただく。

介護認定通知書内に同封する。調査時にその疑いのある方の家族に周知する 保健師との連携など。

広報紙だけでなく、トップページに大きく広告しても良いのでは…。高齢者の息子、娘世代もインターネットを利用するようになっているので。

区の連絡会を毎月開催し、情報提供を行う。 区民が出席できる介護情報提供のための会を定期的で開催する。(例、3ヶ月毎)

(2) 認知症高齢者に関して必要な施策

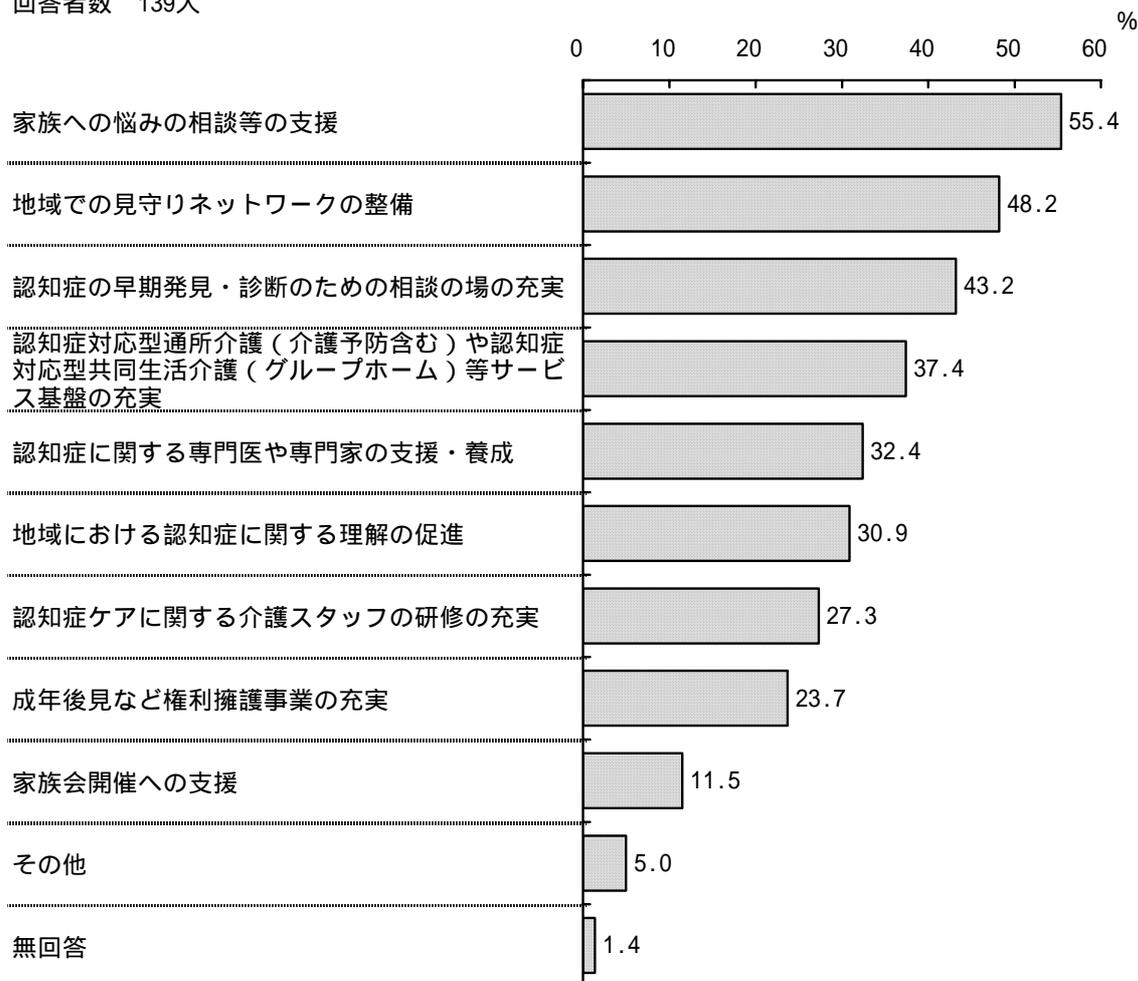
「家族への悩みの相談等の支援」が5割強

(全員の方に)

問32. 認知症高齢者に関してどのような施策が特に必要だと考えますか。(は3つまで)

図 - 6 - 2

回答者数 139人



認知症高齢者に関して必要な施策については、「家族への悩みの相談等の支援」(55.4%)が最も多く、以下、「地域での見守りネットワークの整備」(48.2%)、「認知症の早期発見・診断のための相談の場の充実」(43.2%)などが続いている。(図 - 6 - 2)

7. 在宅介護の可能性の拡大について

(1) 要介護者等が居宅や地域での生活を続けるために充実すべき点

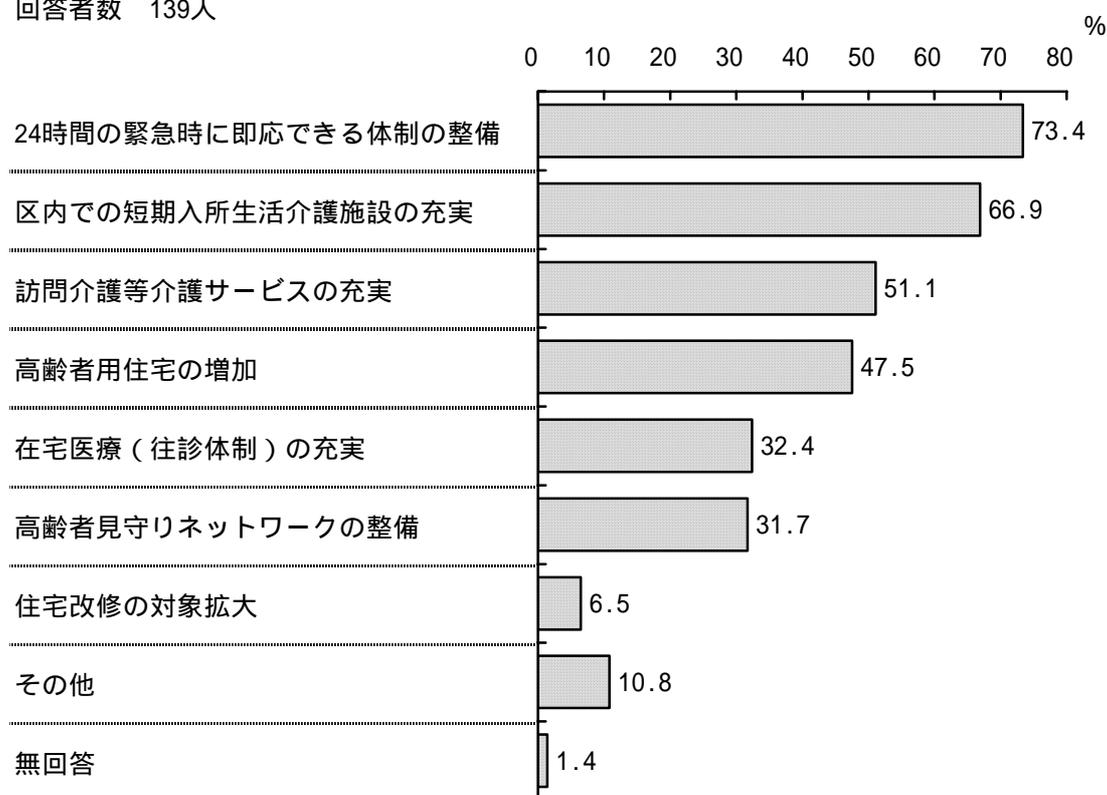
「24時間の緊急時に即応できる体制の整備」が7割強

(全員の方に)

問 33. 要介護者等の居宅の状況などから施設入所を希望せざるを得ないケースが多いと言われていますが、どのような点が充実すれば居宅や地域での生活を続けることができますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 7 - 1

回答者数 139人



要介護者等が居宅や地域での生活を続けるために充実すべき点としては、「24時間の緊急時に即応できる体制の整備」(73.4%)が最も多く、次いで、「区内での短期入所生活介護施設の充実」(66.9%)があげられている。(図 - 7 - 1)

8 . 情報入手について

(1) よく閲覧するホームページ

「ワムネット」が6割強

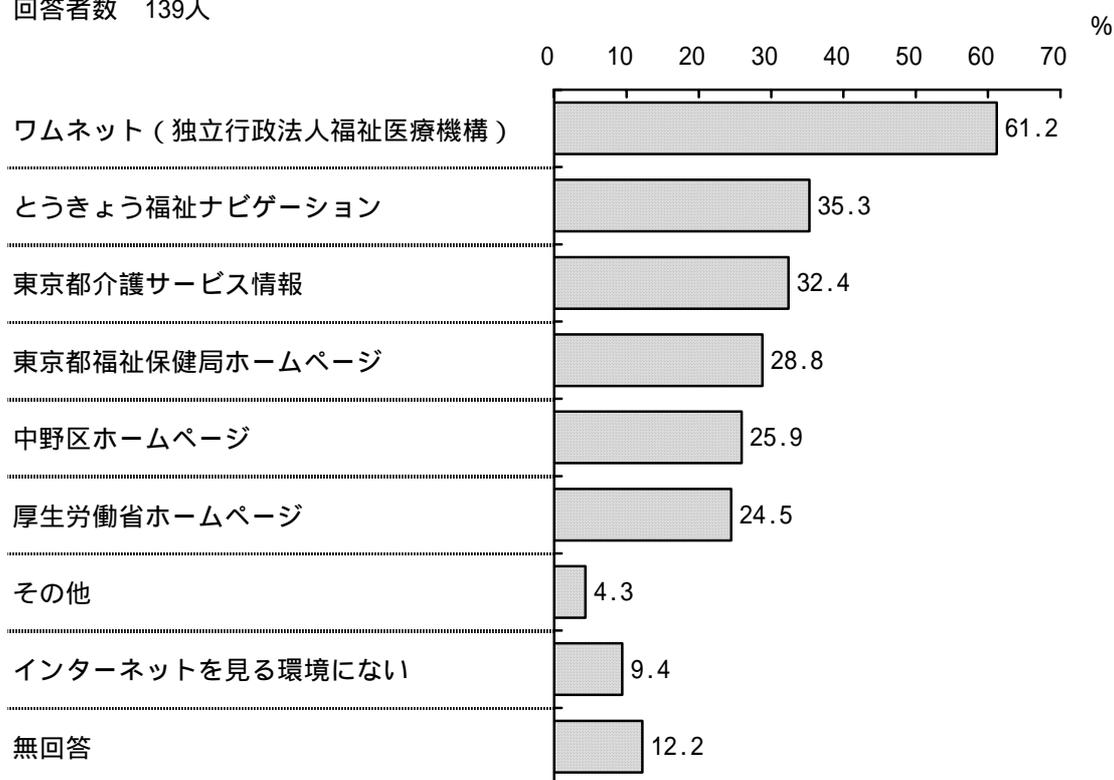
(全員の方に)

問 34 . 介護保険関連の情報は、専門書籍・雑誌以外にインターネットでもかなり入手できるようになっています。次のホームページをよくご覧になりますか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 8 - 1

回答者数 139人



よく閲覧するホームページは、「ワムネット (独立行政法人福祉医療機構)」(61.2%) が最も多く6割強となっている。以下、「とうきょう福祉ナビゲーション」(35.3%)、「東京都介護サービス情報」(32.4%)、「東京都福祉保健局ホームページ」(28.8%)、「中野区ホームページ」(25.9%)、「厚生労働省ホームページ」(24.5%)の順となっている。(図 - 8 - 1)

(2) 区から希望する情報(自由回答)

(全員の方に)

問35. 中野区からどのような情報の入手を希望しますか。具体的に記入をお願いします。

区からどのような情報の入手を希望するかを自由に記入してもらったところ、58件の回答があった。ここではその中から代表的な意見を掲載する。

ショートステイや施設の空き情報等について

特別養護老人ホーム申込数を一覧表にして、各施設の待ち人数を見れるようにしてほしい。
通所介護の事業所の空き情報。

・ショートステイ空き情報をタイムリーで欲しい。(これまでも試みられたとは思いますが)
・ケアマネジャー支援 特に正しい知識の啓発

特別養護老人ホームの待ち情報、ショートステイの空き情報など。施設に関する情報が不足しているので、FAXで教えてほしい。給付管理上のケアマネジャーからの相談と区の判断事例。インターネットは、ひらこうと思う気力もないのでFAXだと必ず目に入るのでFAX通信がうれしい。

ショートステイの空き情報を充実。訪問リハビリの情報を充実。認知症サポート講座の周知。

・中野区の施設の空き情報 区で行っている介護施策情報 介保外のサービス情報

介護保険施設の情報。給付算定に関する規定。

新年度になったら、福祉、保健センターの職員体制変更になった。高齢者、障害者サービスの内容と窓口の情報。介護保険関連の情報 障害者関連の情報 予防教室等の情報

新しく出来た施設、事業所の情報 都内の特別養護老人ホーム、老人保健施設等、新しくできる施設等の情報

高齢者が低賃料で居住できるような住まい関係の情報。

制度改正等の情報について

制度改正等の情報。

制度が変わったことや、運営規定などの説明例。読んでるひまがない。

厚労省から通達が出た場合はスムーズに各事業所に伝えてほしい。

認定制度について

・審査会の判断基準について 個人情報を入力しても要支援2～要介護2のバラツキがありません。

認定審査会の資料を地域包括支援センターで受け取りたい。

世田谷区や他区において認定調査の際、前回の認定内容が記載されている調査表で調査するので、利用者に対し変化に対する理由がききやすい。例) 今年の調査時は歩けたのに何かありましたか? 例) 寝返りが出来なかったのに、お元気になりましたね、等々。

要介護認定・要支援認定変更申請の認定交付日

ケアマネジャー業務関連について

制度に対するQ & A。最新情報。新規事業所の参入状況。

良いプランを作り、実行、実践していく仕方。介護保険外のサービス。社会資源情報。

緊急時対応できる情報がほしい。地域包括支援センターの許可がないと緊急に対応をしてもらえず、困っている。

区外の事業所には情報が流れてこない。(研修などの)FAXでも何でも良いので情報がほしい。ケアマネジャーから区への、主に給付に関して現場で直面する疑問点や、問い合わせ内容をQ & Aのような形で公開して頂けたらと思います。

サービス事業所マップ(地図)(杉並区は情報を出している)

在宅と施設のマネジメントは、別物なので、在宅だけの情報もほしい。

安価(ボランティア)な訪問介護。

1人暮らしだと、本人の情報からだと(認知や、人のコミュニケーションがとれない場合)情報が少ない。現在の友人だけだと、経済的な事もあると手を引いてしまうケースが多い。権利擁護の事

パンフレット、インターネットなど。

情報提供について

区のサービスや障害者サービスの具体的内容の情報提供。

区よりの地域包括支援センターへの情報提供 区開催の研修。

国、都のタイムリーな通知(国、都の過去の通知)が一覧になっていると検索できて説明しやすい。昔の分はなかなか検索できないので、新人の人は理解できていない様です。

事業者連絡会を定期的に関いて、区としての方針など教えていただきたい。きめ細かな対応を望む。

区の研修などに参加し情報を得る。介護保険枠にとらわれない。区などの独特のサービス。

グレーな制度が多いので、中野区では、算定できる冊子を1つ事業所に配布してほしい。FAXで連絡は、他の広告が非常に多いので大事なFAXを受けることができない。わかりにくい。

1冊、中野区版でまとめた保険制度冊子を下さい。

・国や東京都の動きで、中野区としてはどう対応していくのか、その対応方法の早い時期での告知。・法案が国会で、成立された際の、その後予測されるおおまかなスケジュールの案内。各事業所へ区が受けた苦情をきちんと伝えてほしい。苦情が止まっただけでは改善の余地なし。介護等施策にかかわる会議録。

その他

支援困難事例(アル中等)が人権の問題もあるので、区で専門的に行って欲しい。情報の入手ではないが、

業務遂行範囲内の情報は入手出来ていると思う。多量に入手しても収集がつかなくなる。

当事業所はインターネットを接続しておりません。知人ケアマネジャーからです。又当事業所

は区外です。情報入手は中々困難となり、出来れば区内の事業所も研修等の参加を認めてほしい。

9 . 業務遂行上の問題について

(1) 業務遂行上、困っていること

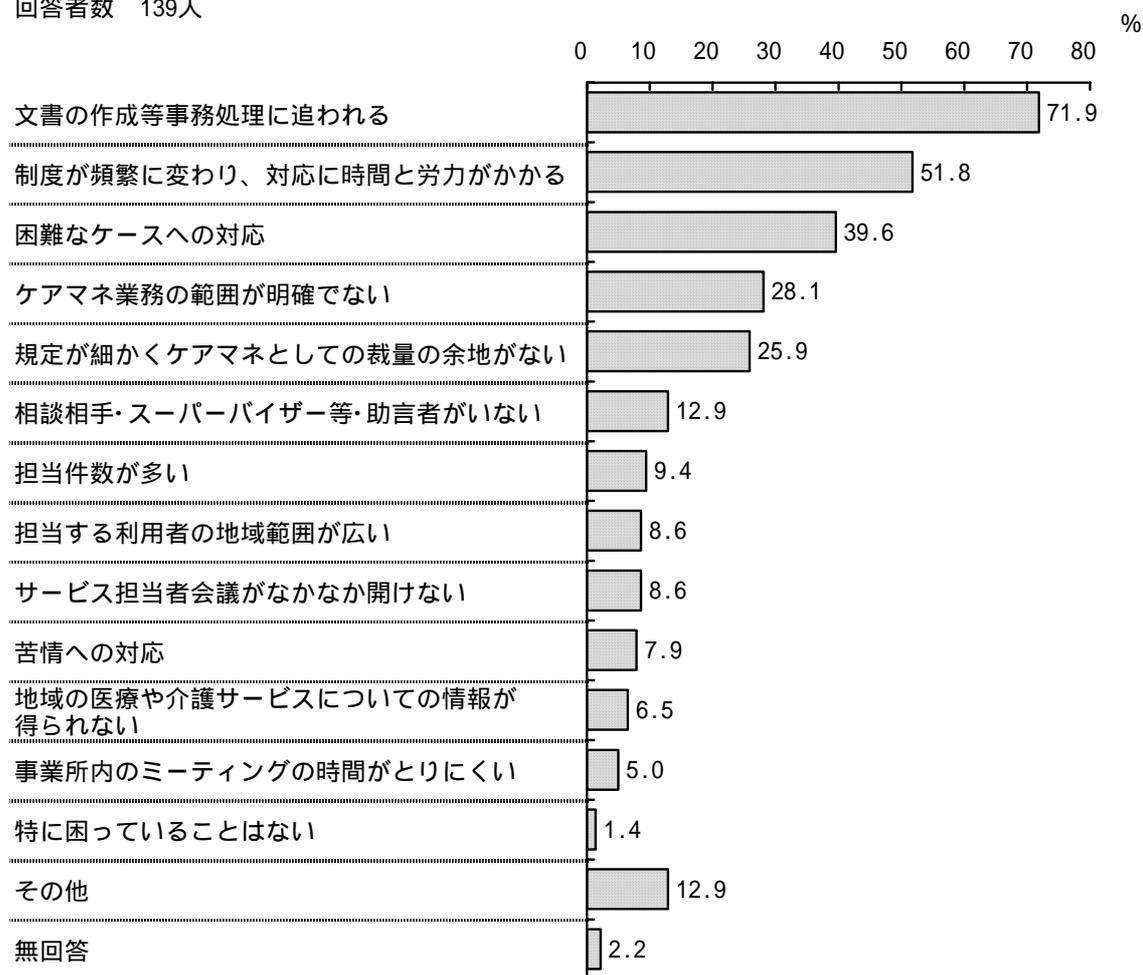
「文書の作成等事務処理に追われる」が7割強

(全員の方に)

問 36 . 業務遂行上、最も困っていることはどのようなことですか。(は3つまで)

図 - 9 - 1

回答者数 139人



業務遂行上、最も困っていることとしては、「文書の作成等事務処理に追われる」(71.9%) が最も多く、7割強となっている。次いで、「制度が頻繁に変わり、対応に時間と労力がかかる」(51.8%) をあげた人が半数を超える。(図 - 9 - 1)

その他の意見

住居の心配。施設入所にあたり、家族（連絡先）がない。

何でも関係ないことまであてにされる。緊急時救急車より先にTelをしてくる。

ケアマネジメントは関係機関の協力なしには成り立ちません。ですので、ケアマネジメントの問題はケアマネジャーのみを見ていると解決しません。また、当のケアマネジャー自身も、自分達の本当の問題を理解していないことも考えられます。関係機関が、きちんとケアマネジャーに協力し、ケアマネジャーもきちんと、それに応じられるようなケアマネジメントをする。之の両者の働きを行政がバックアップする。そのように、すべての歯車が同時にかみあわなくては、なりません。

作成する書類の量が多過ぎて事務処理が追いつかない。表に出れば出るほど書類の量が多くなる。

業務が広範囲で、一つの事が起こるとそれに関連した事務作業が多すぎる。

私の所ではケアマネジャー1人なので、35名件数を維持するのが難しく、入院入所死亡で件数が減った場合、新規が入りにくい。

PCの操作。かなりの事務量、ストレスなのに報酬が安い。介護保険制度の抑制がひどすぎる。

報酬が低く経営困難。

現在研修が長く、内容も業務に結びつかないことが多い。

地域や担当者によって解釈が違う部分がある。

アセスメント1, 2, 3, 4表の作成に毎日追われています。モニタリングに1カ月に1回訪問など毎日が昼食もかきこみの食べ方です。他の方々はそのようにしているのでしょうか？ケアマネジャーとして最もやりやすい、1カ月間のやり方などのマニュアルがありましたら見たいです。

コムスン以来の規定、指定への対応。コンプラの改善で時間をとられ、サービスが型にはまってしまい、適正な個別対応に、費やせる時間が減少しており、コンプライアンスの重要さはわかるが、どこまでは許容されるかのライン引きが知りたい。

特殊寝台レンタル対象外の要支、要介1の中には特定疾病の方が多くいる。特定疾病者は無条件にレンタル出来るよう希望する。事務上の手続き簡素化するため。

利用者(家族)のわがまま・身勝手・言葉の暴力等-ケアマネジャーが担当を辞退できるよう、区の助言・協力が得られるよう体制づくりをしてほしい。

10. その他について

(1) 区に期待すること(自由回答)

(全員の方に)

問 37. 区にどのようなことを期待しますか。ご自由にお書きください。

区に期待することを自由に記入してもらったところ、68件の回答があった。ここではその中から代表的な意見を掲載する。

介護保険制度について

介護保険制度について区民に十分説明して欲しい。江古田の森が区民のために機能する施設指導をして欲しい。

制度の細かい動きをアナウンスして頂けると、業務のあいまにホームページのサイトを見てチェックする時間がはぶけるのでありがたい。

制度が変わったり、解釈が変わった時の区民への説明を徹底してほしい。

制度的な事に対する、仲介をしてほしい。

予防とは何だろう。本当に力を入れ金をかけなければ予防は出来ない。声だけでなく、地域全体を要支援状態にならない様にすべき。個々の方が支援が必要になった時には、すみやかに支えるべき。その施策を具体的にほしい。

持続可能な介護保険の運営と後期高齢者医療制度や生保法、自立支援法など制度の間の方々の対応についてどのようにするのか、明確な解答をきいてみたい。

介護保険範囲外の生活援助、外出、同行、見守りに対する支援策を作してほしい

自治体によって微妙に違う点の多い介護保険制度ですが、特に近隣の自治体とは統一していただくと、ご利用の方にも説明しやすいかなと思います。

グレーゾーンの区なりの見解を文章などではっきりさせて欲しい。

認定がおりるまで時間がかかりすぎます。スムーズな対応をお願いします。介護保険が利用できない場合の有償ボランティア団体が少なく、なかなか頼めない。区で何らかの援助をし、散歩や通院介助、同居家族がいる場合の家事援助等負担が少なく利用できるようにしてほしい。

認定調査の内容と実際の利用者の介護度があっていなかったり、給付に対しても対応が違ったりで、もっと詳しく情報をだして欲しい。

様々な状況や理由があると思われるが、更新認定や変更認定に時間がかかっている場合が多く、対応に苦慮することもあるので出来るだけ期間内を出して頂けると助かる。

今の区のポリシーを貫いてほしい。自立になっても利用できる家事援助サービスを復活させてほしい。ムダな予防プランが多いのを減らすために。

区の施策として高齢化社会を考えていけたら。

家族の介護の軽減の生活支援をつづけてほしい。

介護保険サービス・施設の充実について

介護保険サービスについて、制度運用上の注意点、問題点について（予防サービスを含む）具体的にQ & Aで随時情報提供してもらいたい。ケアマネジャーや事業所からの問い合わせなど頻度の多い点について、半年もしくは年度ごとにQ & A集の形でほしい

・直営、地域包括支援センターを2ヶ所、設置してほしい。委託の地域包括支援センターだけでは対応にバラツキがあります。自治体が、手本になってほしい。 ・老人保健施設の稼働 ・グループホームの充実

利用者を各居宅介護支援事業所に平等に紹介できるシステム作りをしてほしい。

特別養護老人ホーム、老人保健施設、江古田にできたが、まだまだ充分ではない。もっと作る方向で検討してほしい。

高齢単身者が安心して生活できる住宅を増やしてほしい。昨年から、高齢者アパートの引き上げで、住宅を追われ、次の住まいがなかなか決まらず、困っています。

少ない介護サービスの充実。

リハビリサービスの充実。・要支援者へのリハビリの週2回の対応の充実。

・だれにでもわかる介護保険。・利用者だけでなく事業者も守ってほしい。・予防の方が通える通所リハビリをお願いしたい。

若い方（脳梗塞など発病後一定期間のリハビリが終わった人）でもっとリハビリをしたい人が通える施設がほしい。

ショートステイ、特別養護老人ホーム、デイケアの充実。

現場の状況把握について

困難なケースの現場を区の方に見てほしい。時間の限られている中で認知症利用者さんにどれ位、手がかかるか体験してほしい。

高齢者の方の生活の現状をもっと把握して、福祉の充実を図ってほしい。

若干、コンプライアンスができていない場面が見受けられます。

区内のケアマネジャーは以前よりケアマネジャーの経験の浅いケアマネジャーが増えていると思います。従来のキャリアのあるケアマネジャーが辞めたりしているのは残念な事です。区のみの問題ではないですが、メンタル的なフォローアップで続けられるように支援して欲しいと思います。そうでないと処遇困難なケースを受けるケアマネジャーがいなくなってしまうと思います。

ケアマネジャーが困っている時に手をさしのべて欲しい。

各事業所での対応の仕方にバラつきがあり、どう依頼をしていったらよいのか困ることがあります。ケアマネジャーはどう連携を図ったらよいのか、具体的にご指導いただきたいと思えます。

介護支援専門員にもいろいろな方がいらっしゃるのですが仕方がないが、少なくとも、中野区の大切な区民の介護保険を、区民の立場に立って、適切に利用していただくよう努力しているわれわれを、一事業所、民間事業所として遇するのではなく、仲間として対してほしい。

制度ぎりぎりのところで、生活を支えていかなければならないような人の相談、都の指導が入り、返還になるのでは、事業所がやってゆかれない。区の後押しが必要です。

ケアマネジャーの支援 アセスメントでの判断でサービスを利用するが、ケアマネジャー

個々との判断に裁量を委ねるだけでなく、保険との正しい知識の啓発・指導（実地指導時の指導と通常伺う時の移動と、同じレベルに保ち、給付適正のため、スーパーバイズ的な役割を行政に担って頂きたい）

軽度者の福祉用具の制限（特殊寝台レンタル等）ヘルパー活動内容の是非について、院内介助、通院途中の買い物、2ヶ所の通院（病院間の介助）など、もっと高齢区民が理解できるようなパンフレットを作るなど保険者としてサービスに関する説明責任を果たして欲しい。ケアマネジャー支援として区の関連機関との連携を行っている事例を研修など行ってほしい。具体的な業務活動につながる内容でお願いしたい。ケアマネジャーとの意見交換の場を多く作ってほしい。

研修の充実について

ケアマネジャーに対する研修の充実。保険者としての姿勢の明確化。責任の主体をはっきりして欲しい。介護保険以外の職員の方たちとの連携をどこかが中心になって支援する体制を作って欲しい。

研修や勉強会の場を今後も設けて欲しい。

認定調査研修があるも、以前の2分の1以下の調査数である。いきいき（社協）と区の認定係ができない方、（土日希望）なかなか連絡取れない方のケースが多く、疑問に思う。又、公平性を保つため、しっかりと指導してほしい。

カウンセリングについて研修の機会があると良いと思います。

認知症や虐待の対応について、研修会等の開催をお願いしたい。

区外の事業所も連絡会によんでほしい

区、窓口の対応について

区役所全体が暗い感じがする。明るく親切をお願いします。

地域包括支援センターのように、もう少し親身に相談に応じてほしい。窓口対応を感じ良くしてほしい。（利用者からも嫌な思いをしたという意見が時々きかれます）

介護保険が適用できるサービスかどうか迷うような時、給付係が丁寧に対応して下さるのは大変有り難いです。但し、担当者によって、解答が異なる場合があります。意識統一を図って頂くことを期待します。

相談に乗り、明確な返答を出してほしい。

公平でないのであまり期待していない。通達のあった事を実行したり、守ったり、する程度。現状の相談窓口などは困った時に（プランなど作成する時）利用しています。今後も継続してほしい。主治医の意見書、認定結果の書類を郵送していただけるとありがたいです。

介護保険制度に精通してほしい。経験豊かで有資格者の職員を民間から多く採用し配置し、適切な指導・助言ができるよう体制をつくってほしい（3年毎に異動になる、腰掛け的な職員体制は問題！）質問・相談に対し適確な助言をしてほしい。

保険給付の可否について相談することあり。事前に相談日時や被保番を伝えておくと、当日はスムーズな対応や見解をいただき、助かっています。ただ、対応いただく担当者によって意見が異なるため、統一した見解を持っていただきたいと思います。

国の介護保険制度である以上、区に期待することはあまりない。ただ、業務遂行上の要請に

は、親身に対応して頂きたい。(介護保険課へ)生活援護課のワーカーとはよく話し合うが、得ることも大きく親身になって対応してもらっている。どんどん相談したい気持ちになる。

その他

情報のネットワーク化。

新規者(要介護者)がほしい。

事業者支援、助成 ヘルパー養成。

近隣の区より中野区は対応(介護保険利用)についてゆるやかでプランを作り易い。

区独自のQ & Aを出してほしい。

コムスンが撤退し、他の事業者へ業務委譲されたが、事業者交替について区の指導が不十分であった。区さらに都、国と責任はあると思うが、(以前電話にて相談したが)事業者名変更しても、サービス内容に変更なければ特にプラン変更ではないと話したコムスン事業所スタッフも、実際に。あらためての契約、プラン作成が当たり前と思うが、これは実例であるがきちんと指導すべきと思う。

(2) 地域包括支援センターに期待すること(自由回答)

(全員の方に)

問38. 地域包括支援センターにどのようなことを期待しますか。ご自由にお書きください。

地域包括支援センターに期待することを自由に記入してもらったところ、57件の回答があった。ここではその中から代表的な意見を掲載する。

相談窓口について

相談しやすく大変お世話になっています。

質問したい事や確認したい事などがあった場合に迅速に対応していただけるとありがたいです。

気軽に相談に行ったり、情報提供を得やすい状況を作って欲しい。地域包括支援センターの職員は多忙で不在が多い。

総合相談窓口としての機能を強化して欲しいと思う。

区と民間のつなぎ役として、いろいろな困難ケース等の相談窓口になってほしい。

中野区地域包括支援センターの職員の対応は非常に親切であり助かっています。

接する機会のある地域包括支援センターはどこも親切で相談しやすい。ただ判断基準や書類の取扱方法が様々。公的な機関だと思っているので統一したほうが良いと思う。

介護予防で手いっぱいと思うので、相談に行きにくい。相談に行っても、解答をはぐらかされる気がする。地域包括支援センターは、ケアマネジャーのための相談窓口ですか。

ケアマネジャーの支援について

ケアマネジャー勉強会等を開催してほしい。

ケアマネジャーの支援という部分をもっと行って欲しいです。どこの地域包括支援センターも予防支援のための事業所になっている感があります。もっとケアマネジャーと連携を取って一緒にやっていけるようにしていきたいと思うのですが、人の入れ変わりがはげしいですよ。全地域包括支援センターで、ずっと同じ人なのは半分もない感じです。地域で支えられるといいです。

包括的、継続的マネジメントの充実。ケアマネジャーに対する支援を期待したい。

困難な事例への対応について

困難ケースの相談や同行訪問。介護保険で提供できないサービス援助。

困難事例の担当や連携。

困難事例などの相談。緊急時のショートステイなど、施設受け入れの相談、協力体制。入院先がみつからず、病院情報などのアドバイス。

困難なケースや又地域での役割についてもっと相談にのって欲しいし、動いて欲しい。

困難事例の相談窓口として、スーパーバイザーの役割を期待している。

困難ケースへのアドバイス。十分相談に乗って頂いています。
要支援は地域包括支援センターで全部引受けて欲しい。
困難家族との橋渡しをしてほしい。

介護業者との連携について

より連携を取りながら、支え合える関係にしていきたい。
ケアマネジャーが直面している困難さや疑問点を吸い上げて、区に報告・説明をしっかりと
して頂きたいと思います。
担当地域居宅介護支援事業所との密な連携、相談への対応。虐待事例などの介入、相談でき
る体制。制度に理解のない利用者への協力として支援して欲しい。適切なスーパーヴァイス
が欲しい。事例検討会、小規模な勉強会開催の支援。
要介護利用者紹介又は依頼を各居宅介護に平等に行ってほしい。

情報提供について

地域の情報が集約されており、その情報を提供してほしい。
側面的支援してもらっています。地域ケア会議の情報をいただきたいです。
区内の事業所の特色や、区内にどのようなクリニックがどこにあるか、把握しておいて頂け
ると、ありがたい。
これからも適切なアドバイスをして欲しい。いろいろな困難ケースのマニュアル的な文書等
を作成してほしい。

センターの運営について

せめて、自治体が窓口相談をもう少し年寄りや足を運びやすい場所に設置してほしい。地域
包括支援センターの役割が、保健の要素が強すぎて、年寄りの介護についての位置付けには
いたっていない。
社協の経営に変えるべき。民間はよくない。他区を見習うべき。
基幹型のセンターを必ず残してほしい。
偏見と好みで運営されている様を感じる。何のメリットがあるのでしょうか。
地域の方々が十分理解されていないようです。PRも必要かと思います。
地域包括支援センターは、委託により民間が行政の役割を担わされているが、待遇面、身分
保証なくて、公正中立の立場を求めるのには無理がある。地域包括支援センターは全て公務
員とすべき-責任をもって区の職員としての責務を果たしてほしい。
地域包括支援センターと事業者の関係づくり
区内8ヶ所の地域包括支援センターで事務的なことからすべて統一してほしい。支援センタ
ーの権限をもう少し明確にしてほしい。
地域包括支援センターに移った利用者を追ってみると、殆んど訪問もなければ電話もないと
言っている。担当者会議には出席してくれその場では支援の内容を説明するが、それきりで
あるため不安に思っている。自立支援の機能を果たしていない。
支援に関しては自動的に地域包括支援センター担当ということにしてほしい。又、記録物が
大変すぎ。請け負ってやる気(書く)がおきない。

区、街からも、介護保険は使用できません。の様な事を利用者、家族に説明する事。 事業者に丸投です。

地域の高齢者の把握、問題解決。 ケアマネジャーへの情報提供 地域のケアマネジャーの指導的立場 法を決めた時の役割をきちんとやってくれること-それだけの人員、力量がないと思われる。

センター職員について

自分自身が地域包括支援センターの職員ですが、予防プランが30件~40件(1人)受け持つ尚且つ地域包括支援センターの本来の仕事をしるというのは、肉体的にきつい。いつまで続けられるか?と思う。

職員が若く、異動が多いのでは。

区民にその存在を周知してもらい、いつ相談に行ってもきちんと答えられる職員がいる事。ケアマネジャーへの指導を。

ケアマネジメントの介護給付等、給付管理のことをもう少し勉強してほしいですね。それなくしてケアマネジャー支援はありえませんので。

もっとがんばってほしいが、人材育成に区としても経済的にも支援してあげてほしい。

質問してもあいまいな答えが多い。忙しそうで相談しづらい。

予防居宅介護支援事業所であってはならない。本来業務が円滑に行なわれるような適正な人員配置が可能な報酬体制を国に求める。

(3) 介護保険制度に関する意見(自由回答)

(全員の方に)

問39. 介護保険制度に関してご意見等ありましたら、ご自由にご記入をお願いします。

介護保険制度に関して、意見を自由に記入してもらったところ、69件の回答があった。ここではその中から代表的な意見を掲載する。

ケアマネジャー・現場の負担について

法規制が厳しく、ケアマネジャーは苦しい。(法的書類等)(ケアマネジャーいじめかと思われる)認定調査が公平でない 介護予防は労力かかり、低賃金でやりきれない。 廃止希望。 医者で介護保険制度について無知な人がいる。(大学病院など、大病院)照会状が書いてもらえない。(書類の不備となる)

ケアマネジャーの業務範囲が明確でないので、難しい。

報酬を上げて賃金が増えるような体制にして下さい。

その場当りでケアマネジャーが振り回されていて、必要な事が分からなくなっている。私は帳簿上のケアマネジャーではなく生きたケアマネジャーでいたい。

月1回利用者様の自宅を訪問してのモニタリング、記録、書類の整備、担当者介護の設定、開催、研修。業務が多すぎて、余裕がない。ケアマネジャーの社会的立場が低いと思う。

ケアマネジャー(居宅介護支援事業者)に課せられる業務は負担が大きいが、評価として「減算」と捉えられる部分が強調されている。加算項目を増やすことでモチベーションも上がると思う。

在宅と施設はマネジメントが根本的にちがいます。利用者の生活面積も異なる。利用者のニーズに対しケアマネジャーは、圧倒的に不利な立場からのスタートでマネジメントを始めなければならない。在宅のケアマネジャーに対して親切な対応をしてほしい。

せっかく5年間の経験でケアマネジャーになっても法令遵守という名のもとに、かなり何回も方向転換をせまられた感があります。(国は変えてないといいますが)新しい制度で熟してないと言われればそれまでですが、もう少し「減算」に振り回されずに裁量をもたせて欲しいです。それが生活保護のように細かく決めてもらうしかないと思います。サラリーマンのケアマネジャーが増え、1,000単位に見合うケースしかやらないという人が増えないような制度にして欲しいし、キャリアを評価してもらえる制度にして欲しい。

以前に比べて、サービス内容の適正さが必要になってきている事の理解を得られていない。それが苦情になり広がっていく。あまりにも自由にサービスを使いすぎた為一度そういうサービスを受けた人達の観念は払拭出来ていない。有する能力を代行してしまった事。それに対して依存してしまった事。今後の世代は先の事を考え自力でと生活の場を構築していくだろうと考えるが、現在の家族構成では、とっぴりの1割負担でのサービスに甘えて行くだろうと。家族との格差がありすぎる。

税金を投入しているからと言って民間の事業所に公正中立を押し付け、公務員と同じ立場を

求めるのはおかしい。同じ税金投入でも医療保険は、業務上管理されておらず、しめつけがない。担当件数、減算等あるのがおかしい。プランは一人一人個別性があるべき。月1回訪問が適正な人もいれば、3ヶ月に1度で十分(家族がおり必要ない)な人もいる。ケアマネジャーの裁量権が行使できる制度へ！見直してほしい。件数も同様。自由競争、独自性を民間から取り上げ管理するのはやめてほしい。書類ばかり作られて、現場で生きた活発なコミュニケーション(利用者、事業者等との)にもっと時間がとれるようにして下さい！介護報酬が安すぎます。医療保険同様点数制にしてほしい。例書類作成(申込書・プラン等)訪問(人によっては月数回) 減算だけでなく増算！もして下さい。

介護支援専門員の仕事の内容が段々厳しくなっておりますが、H12年度から始まった当初に比較して、大きく変わってきたことについては介護保険制度上やむをえないと思いますがもう少し希望の持てるものにして欲しいと思います。

日々業務に追われ、中野区の介護保険制度を良くしていこうと考える、行動する、余裕がなく、申し訳ないです。ケアマネジャーを続けるだけで精一杯です。

・介保事業に従事していて未来に希望が持てるよう、報酬の見直しを行ってほしい。・利用者の細かいニーズに対応し、本来の自立支援につながるよう、ケア内容についての見直しを行ってほしい。

独居、日中独居、介護者(同居者)がいても、緊急時に入所(ショートステイ)できるような書類の簡素化。柔軟に受け入れてほしい。受け入れ先を担当者会議(半年に1回)をケアマネジャーの裁量にしてほしい。

制度上の不備・サービス範囲の不足について

(訪問介護のサービスの幅を広げて欲しい)今後ますます、独居の高齢者、在宅医療の依存度の高い利用者も増えて行く中で、特例として、継続の見守り、断続的介護が利用できるようになって欲しい。年に1回だけ、利用できるサービス(カーテンの取り外し、洗濯とか大掃除等、電球の取りかえ)在宅生活を支援していくには、訪問介護のサービスの幅を広げないと、在宅生活の継続が今後難しくなると思う。

本当に受けたい人が受けられないサービスだと思う。

細かすぎて自立支援ばかり求められているので、非常に本人や望む生活支援につながりません。

同居家族が居るため訪問介護は必要ない方へのサービス選択肢がほしい。

早く生活援助は介護保険から除外してください。要支援1、2の人は「介護」保険はいらない。

生活上困っている事に対応できる制度であるべき。制度にふりまわされ利用者の生活の不足部分を補う事が難しくなっている。

今の介護保険制度は「縛り」が多すぎて利用者の実態に合っていない。訪問介護の生活援助を一律に規制するのはおかしい。実際に即してみたい。車イス、ベッドが原則として要介護2以上しか使えないのは非常に困る。せめて要介護1以上はすべて使えるようにしてほしい。ケアプラン料が余りにも安い。中立で公正で適正なプランを立てさせようとするならば居宅事業だけで独立できるよう報酬を上げるべきだ。

介護サービスの充実、量もさることながら、質のよいサービスが提供されることをひたすら

願っている。最近ヘルパーに不満、苦情が増えているように思う。ヘルパー自身が不満を抱えている人が多いせいか、優秀な人材確保にはヘルパーや介護職員の待遇の改善しかないのではと思う。地域や近隣のボランティアな支援も限度がある。しっかりとした基盤整備がなされることが先決のように思う。

他区では散歩も介護保険でカバー出来るところがあります。厳しいだけでなく、何が必要かも考えていただきたいと思います。

要支援の人が、予防になって訪介のサービスが減ってから、認知症が進んだり、妄想、幻覚が見えたりすることが増えたりして、半年毎に介護度が上がるタイプの人があります。予防が予防になっていない側面、多々あります。

制度はまだ未熟なので、修正は不可欠。特に介護職の社会的な、専門職としての地位をもたせないと、人材の流出は止められない。制度を維持するためには、内容だけではなく人材を育成し続けなければ絵に描いた餅だと思う。

国が主体となったものではなく、利用者と向きあった制度にして頂けると、もう少し、利用しやすく、矛盾する点や非効率なことが少なくなるのではと思います。

居宅サービス計画書の重要性を謳ってほしい。サービス担当者や作成者側としては、その重要性を十分に理解している。そして、利用者や家族への交付時にも、「なぜ作成するのか」「なぜ署名が必要か」を説明している。しかし、サービス自体を困った時の協力という捉え方としている利用者が多く、メモ用紙となっていることも…。自立支援のためのサービス提供ということを謳ってほしいです。

支援と要介護の二本立てについて、疑問を感じる

介護者の負担について

介護者の負担が大きすぎる。

障害者が介護保険に移行した場合、制度の理解が得られず困っている。介護保険ではカバーしきれないことが多い。高齢者と一緒にするのは無理と思う。

保険料が高額で、40歳以上人口7418万人を考えるともっと手厚い介護が可能ではと思う。上から下への感じがとても高圧的だ。事務量が多く、利用者の所へ行けない。人間を法の枠に型をかためさせる感がある。

お金がかからない制度にし、負担感（介護保険料）が国民全体軽くなる様に。（自立した人間に対して関わり過ぎでは）

介護保険料について、保険料の段階が所得の低い層に対して多く設定されており、800万以上と上限が設定されている。所得の多い層に対して手厚い印象があるので、公平性を図ってほしい。

制度の簡素化について

制度が頻回に変わり、利用者への説明が行政側から充分説明できていないため、いつもケアマネジャーが間に入り苦情を受けてしまう。内容もどんどん複雑になっており、変更点を充分理解できず支援してしまうケアマネジャーも多く、指導監査で指摘を受けバーンアウトしてしまう。自立支援といっても現行の内容では、制約が多すぎて十分な支援ができないことが多いから。

高齢者が介護保険制度を理解するのは難しく、何年に一度制度が変わるのも、高齢者にとっては、大変な事だと思ふ。介護保険制度を利用者にわかりやすく説明するのはケアマネジャーの責務だと思いますが、誰もがわかりやすい制度に変えてほしい。できるサービスできないサービスなどその都度説明し、理解力の低下した高齢者に説明するのはかなりの労力です。ルール細分化、明確化。

介護保険がスタートしてかなり経過したが、今だに理解していない高齢者も見受けられる。専門用語は特に分かりづらいので、分かり易いパンフレットの作成をお願いしたい。

手続き・書類の簡素化について

事後処理もっと簡略化できないか。余りにもケアマネジャーを信頼していない。家族の自己負担減で始まった制度なのに、同居していると生活援助が受けられないのであれば、益々、独居老人が増えてしまう。

書類が複雑なので簡素化してほしい。動けば動くほど、書類に追われる

・このままではケアマネジャーをする人がいなくなります。賃金アップが無理なら、せめて煩雑な事務処理や、書類不備による減点制を何とかして欲しい。・書類や印鑑重視のお役所流は時代にそぐわない。特に1～8表の書式の多さに加えて雑多な「証拠書類」を要求さえ、その膨大な紙の使用量は、環境保護やMOTTAIの精神に逆行する。行政が、介護保険制度という新しい制度を通して、まず範を垂れて、この国を良い方向へ導いて下さい。書類、事務手続きを簡素化してほしい。

事務処理が多く、それに追われてしまっている。規定が厳しく、規定に引っかからないようなサービスになってしまう。本当に利用者の望むサービスからは、遠ざかってしまう。ケアマネジャーだけでなく、介護に携わる職員の報酬が低すぎる。

行政への要望について

区は、サービス事業所に丸投げせず、もっと関わるべき。

今後の介護保険制度について推移と予測を含めて区民への周知をしていく必要があると考えます。

区民への介護保険制度の詳しい説明 介護保険でできるサービス(訪問介護は何かできないか)など詳細なパンフレットの全区民配布 ケアマネジャーの支援(ショートステイの情報、認知症が重度な利用者が利用できるショートステイの情報提供)

認定制度について

認定審査資料の受けとりは、同じ事業所のケアマネジャーであれば代わりに受けとれるようにしていただきたい。サービス提供責任者の教育・指導をお願いします。

1、認定結果に疑問を感じる場合があります。 2、限度額があってもサービス(訪問介護)を使えないことで家族から苦情がある。

認定区分について、要介護4で動きまわる人は要介護5でベッド上だけの生活の人より手がかかり、排泄ケアで時間が延長になることが多いので、判定の見直しをしてもらいたい。動けるので「4」になるが、手間はかかる。

介護認定の時、プラン内容等も参考にし、ケアマネジャーがかかわる必要があるか、プラン

だけでよいのか等も考慮しながら認定結果がでる方向性があったらと感じます。

事業者に対して

法律を守っていない事業者が多すぎる。指導調査（監査）の人員を増やし徹底して不正を取り除き保険料を利用者に還元してほしい。社協の認定調査を民間に移してほしい。

利用者支援より、事業者支援していかないと、サービスする側が不足してしまう。

事業所ごとに身分の違いがあるなど、安定した身分の保証が必要と思います。

事業所がきちんと経営できるように報酬を改善してほしい。人員基準等があまりに厳しすぎて、しぼられすぎる。悪徳事務所排除のためにまじめで細々とやっている事業所が追いやられている。大手は上手く逃げている。

標準 35 件担当でも運営が赤字になるので、介護報酬の見直しをしてほしい。

要介護、要支援に関わらず、居宅介護支援事業のケアマネジャー対象の勉強会（他区に比べて少ないです。）や情報提供をお願いしたい。地域包括支援センターにも入ってくる情報と入ってこない情報があるようにも感じます。

調査票と単純集計

2008年度保健福祉サービスに関する
アンケート調査
「高齢福祉・介護保険サービス意向調査」
《高齢者調査》
調査票
中野区

【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できるかぎり宛名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合には、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えください。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に 印をつけてください。
6. 「その他()」に 印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入ください。
7. ご記入いただきました調査票は、**平成20年5月8日(木)**までに、
同封した返信用封筒(切手不要)に入れて郵送してください。
8. 調査の内容や記入の方法などについて、ご不明な点がございましたら、
下記までお問合せください。

中野区保健福祉部企画調整担当

TEL . 3 2 2 8 - 5 6 0 9 FAX . 3 2 2 8 - 5 6 6 2

E-mail hokenfukusikeiei@city.tokyo-nakano.lg.jp

* 各選択肢及び無回答の数値は単純集計結果、単位は「%」。回答者数の単位は「人」。

質問の上に（全員の方に）と記載のあるものは全員の方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます

（全員の方に）

問1．あなた（宛名の方ご本人）の性別をお答えください。（ は1つ） 回答者数1,762

38.1	男性	60.9	女性	1.0	無回答
------	----	------	----	-----	-----

（全員の方に）

問2．あなた（宛名の方ご本人）の現在の年齢をお答えください。（ は1つ）

回答者数1,762

25.3	65歳～69歳	21.1	75歳～79歳	11.8	85歳以上
24.1	70歳～74歳	16.6	80歳～84歳	1.1	無回答

（全員の方に）

問3．あなた（宛名の方ご本人）と同居されているご家族はどなたですか。（あてはまるものすべてに ） 回答者数1,762

22.1	同居している家族はいない（ひとり暮らしである）	問4へ
55.2	配偶者	問4へ
2.1	親	} 問5へ
33.8	子ども	
8.8	子どもの配偶者	
2.6	兄弟姉妹、兄弟姉妹の家族	
8.3	孫	
0.4	同居家族はいるが、同居家族は現在入院中である	} 1.6 無回答
1.2	その他（ ）	

（問3で「1．同居している家族はいない」か「2．配偶者」と答えた方に）

問4．ひとり暮らし、またはご夫婦のみで暮らしていらっしゃるのですが、あなた（宛名の方ご本人）には、別にお住まいになっているお子さんがおられますか。お子さんが2人以上いる場合は、住まいの近い方でお答えください。（ は1つ）

回答者数 1,010

19.9	子どもはいない	
20.0	歩いていける範囲（10分以内）に住んでいる	
12.1	30分以内で行ける場所に住んでいる	
24.3	30分以上かかる場所に住んでいる	
14.2	関東近県に住んでいる	
3.8	その他の地域に住んでいる	5.8 無回答

(全員の方に)

問5 . あなた(宛名の方ご本人)が中野区にお住まいになられて何年になりますか。

(は1つ)

回答者数1,762

1.0	1年未満
2.2	1～4年
3.8	5～9年
6.4	10～19年
9.9	20～29年
75.5	30年以上
1.2	無回答

(全員の方に)

問6 . あなた(宛名の方ご本人)のお住まいは次のどれにあたりますか。入院中の方は、戻られる予定のご自宅についてお答えください。(は1つ) 回答者数1,762

63.2	持ち家(一戸建て)
14.9	持ち家(マンションなどの集合住宅)
5.7	公営住宅(都営、区営住宅など)
13.5	民間賃貸住宅(アパート、マンションなど)
0.2	社宅、社員寮、公務員住宅
1.6	その他()
1.0	無回答

(全員の方に)

問7 . あなた(宛名のご本人)がお住まいの地域はどこですか。(は1つ)

回答者数 1,762

23.4	上鷲宮、鷲宮、白鷲、若宮、大和町
25.8	江原町、江古田、野方、丸山、沼袋、松が丘、新井
28.7	上高田、中野、東中野、中央
21.2	本町、弥生町、南台
0.9	無回答

あなた（宛名の方ご本人）の健康状態についておたずねします

（全員の方に）

問8．あなた（宛名の方ご本人）は、普段、ご自分の健康についてどうお感じですか。

（ は1つ）

回答者数1,762

26.3 健康である	16.6 どちらかといえば健康でない
44.4 どちらかといえば健康である	11.7 健康でない
	1.0 無回答

（全員の方に）

問9．あなた（宛名の方ご本人）の視力についておたずねします。（めがねをかけた状態も含めて）。（ は1つ）

回答者数1,762

77.3 新聞や区報の細かい字が読める
19.2 新聞の見出しの字が見える
2.5 人の輪郭がわかる程度で生活上は不自由
0.3 全く見えない
0.7 無回答

（全員の方に）

問10．あなた（宛名の方ご本人）の聴力についておたずねします。（補聴器をつけた状態も含めて）。（ は1つ）

回答者数1,762

76.5 普通に聞こえる	5.9 あまりよく聞こえない
16.2 少し大きな声なら聞こえる	0.6 ほとんど聞こえない
	0.7 無回答

（全員の方に）

問11．あなた（宛名の方ご本人）は、現在、歯のことで何か困っていることがありますか。

（ は1つ）

回答者数1,762

12.7 入れ歯があわない
13.6 食べ物がかみにくい
6.1 歯茎に痛みがある
5.7 虫歯がある
5.1 口臭がある
1.7 出血がある
2.2 味覚が鈍い
44.6 困っていることはない
7.8 その他（)
4.6 無回答

(全員のの方に)

問12. あなた(宛名の方ご本人)は、現在、通院または治療中の疾病はありますか。

(あてはまるものすべてに)

回答者数1,762

- | | | |
|------|-------------------------------|--|
| 19.6 | 特に治療している疾病はない | |
| 32.9 | 血圧症 | |
| 14.4 | 心臓病(狭心症、心筋梗塞、不整脈など) | |
| 11.7 | 糖尿病 | |
| 4.1 | 脳卒中(脳こうそく、脳出血など) | |
| 2.9 | がん(悪性新生物) | |
| 3.2 | 認知症 | |
| 15.0 | 筋骨系の疾病やけが(関節炎、リウマチ、骨粗しょう症、骨折) | |
| 16.5 | 腰痛症 | |
| 18.2 | 目の病気(白内障、緑内障など) | |
| 1.7 | うつ病 | |
| 5.7 | 前立腺肥大症 | |
| 15.1 | 高コレステロール(高脂血症) | |
| 13.7 | その他() | |
| 3.0 | 無回答 | |

(全員のの方に)

問13. あなた(宛名の方ご本人)は、1年前に比べて物覚え(記憶力)に変化はありましたか。(は1つ)

回答者数1,762

- | | |
|------|----------|
| 0.3 | よくなった |
| 44.4 | 少し悪くなった |
| 9.0 | かなり悪くなった |
| 45.3 | 変わらない |
| 0.9 | 無回答 |

(全員のの方に)

問14. あなた(宛名の方ご本人)は、この1か月間で、気分が沈んだり憂(ゆう)うつな気持ちになったりしたことがありましたか。(は1つ)

回答者数1,762

- | | |
|------|------|
| 36.2 | あった |
| 62.3 | なかった |
| 1.5 | 無回答 |

健康づくり運動についておたずねします

(全員の方に)

問15. あなた(宛名の方ご本人)が、健康を維持し向上するために、現在、自ら進んで実行していることがありますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数1,762

- 5.1 特に何もしていない
- 59.3 栄養バランスや規則正しい食事など、食生活に気をつけている
- 42.8 散歩やスポーツなど積極的に体を動かすように心掛けている
- 45.8 できるだけ外出するように心掛けている
- 41.3 毎食後の歯みがきなど歯や口の健康管理をしている
- 53.0 睡眠・休養を十分にとるようにしている
- 27.1 気分転換・ストレス解消に努めている
- 42.6 規則正しい生活をする
- 49.6 定期的な健康診断を受ける
- 65.2 身の回りのことはできるだけ自分でする
- 74.0 新聞や本を読んだり、テレビを見たりするなど社会への関心を失わないようにしている
- 25.0 地域の人と積極的に会話するよう努めている
- 39.3 友人との会話を楽しんだり、共通の趣味をもつようにする
- 6.0 その他()
- 1.0 無回答

(全員の方に)

問16. 地域の高齢者会館や高齢者福祉センターで、実施している健康づくりのための事業への参加について、あなた(宛名の方ご本人)におたずねします。(は1つ)

回答者数 1,762

- 4.5 積極的に参加している
- 4.9 たまに参加している
- 8.2 参加したことはある
- 48.6 興味はあるが、参加したことがない
- 29.5 参加する気がない
- 4.3 無回答

就業状況についておたずねします

(全員の方に)

問17. あなた(宛名の方ご本人)は、現在、収入の得られる仕事をしていますか。

(は1つ)

回答者数1,762

27.9	仕事をしている	問 18 へ
71.1	仕事をしていない	問 19 へ
1.0	無回答	

(問17で「1. 仕事をしている」をお答えの方に)

問18. あなた(宛名の方ご本人)が働いている理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに)

回答者数492

53.9	生活費を得るため	
24.0	小遣いを得るため	
20.9	将来への蓄え(貯金)のため	
36.6	健康に良いから	
6.1	友人が欲しいから	
34.6	持っている能力を活かしたいから	
32.1	生きがいを得たいから	
26.6	社会の役に立ちたいから	
20.5	何もしていないと退屈だから	
10.2	その他()	
0.6	無回答	

(問17で「2. 仕事をしていない」をお答えの方に)

問19. あなた(宛名の方ご本人)が、現在、働いていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)

回答者数1,252

9.7	働きたいが、自分の希望する仕事や職場がないから	
16.3	働く必要がない、または、働きたくないから	
23.2	健康上の理由から	
8.4	家事、孫の世話、介護などで働きに出られないから	
54.6	年齢的な理由のため	
22.8	自分の趣味や生きがいのために時間を使いたいから	
6.2	その他()	
3.0	無回答	

日常生活や社会参加についておたずねします

(全員の方に)

問20. あなた(宛名の方ご本人)は、買い物や用事で外出することがありますか(通院やデイケアのための外出は含めません)。(は1つ) 回答者数1,762

46.4	ほとんど毎日	4.8	月に1～2回
22.8	週に3～4回	0.7	年に1～2回
15.4	週に1～2回	7.3	ほとんどない
		2.6	無回答

(全員の方に)

問21. あなた(宛名の方ご本人)は、平日の昼間、誰といることが多いですか。

(は1つ)

回答者数1,762

32.9	ひとりである	
46.1	配偶者や家族	
3.6	友人、知人	
0.5	近所の人	
10.0	仕事、趣味、老人クラブ等の仲間	
4.9	その他()	
1.9	無回答	

(全員の方に)

問22. あなた(宛名の方ご本人)は、将来に対してどのようなことに不安がありますか。

(あてはまるものすべてに)

回答者数1,762

74.8	自分の健康のこと	
31.4	生活費等の経済面	
43.8	家族の健康のこと	
42.5	自分が認知症等により判断能力を欠く状態になること	
18.4	ひとりで生活しなければならなくなること	
9.8	預貯金等の管理	
7.4	家族・親族との関係	
3.7	近隣とのつきあい	
9.8	不安なことは特にない	
2.6	その他()	
2.0	無回答	

(全員のの方に)

問23. あなた(宛名の方ご本人)は、不安や悩みごとは誰に相談していますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数1,762

- 56.3 同居の家族
- 24.9 友人、知人
- 27.2 別居している子どもや親族
- 2.3 近隣の住民
- 11.2 専門家(医師・看護師・弁護士・カウンセラー等)
- 2.7 区役所や地域包括支援センター等の公的機関
- 4.0 ケアマネジャーやホームヘルパー
- 0.9 民生委員
- 10.6 相談相手は特にいない
- 3.9 その他()
- 3.6 無回答

(全員のの方に)

問24. あなた(宛名の方ご本人)は、この1年間に次のような地域の活動に参加しましたか。(あてはまるものすべてに) 回答者数1,762

- 11.9 趣味活動(写真、囲碁将棋、カラオケ、川柳、各種演芸など)
 - 6.0 文化・学習活動(歴史、地域の伝統、環境、自然観察、語学、パソコン教室など)
 - 10.2 運動やスポーツを通じた活動
 - 8.3 地域、社会のためのボランティア活動
 - 9.3 町会・老人クラブなどの活動
 - 1.6 子どもの育成に関する活動
 - 2.7 その他()
 - 64.4 活動していない
 - 3.8 無回答
- 問26へ
問25へ

(問24で「8.活動していない」をお答えの方に)

問25. あなた(宛名の方ご本人)は、どのようなきっかけがあれば、地域の活動に参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数1,135

- 33.0 関心・興味のあるテーマがあれば参加したい
- 21.5 時間に余裕があれば参加したい
- 13.9 参加する場が身近なところがあれば参加したい
- 6.4 紹介があれば参加したい
- 15.0 知り合いがいれば参加したい
- 20.8 健康状態が良くなったら参加したい
- 16.6 その他()
- 8.8 無回答

(全員のの方に)

問26. あなた(宛名の方ご本人)は、異なる世代(子どもや青年、壮年世代など)との交流の機会があった場合、参加したいと思いますか。(は1つ) 回答者数1,762

25.4	そう思う	18.1	どちらかといえばそうは思わない
30.1	どちらかといえばそう思う	18.3	そうは思わない
		8.1	無回答

(全員のの方に)

問27. あなた(宛名の方ご本人)にとっての楽しみや生きがいは、どのようなことですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数1,762

36.4	趣味活動(写真、囲碁将棋、カラオケ、川柳、音楽、各種演芸など)
18.0	文化・学習活動(歴史、地域の伝統、環境、自然観察、語学、国際交流など)
23.0	運動やスポーツ
16.5	働くこと
48.9	旅行
32.0	読書
30.6	ショッピング、買い物
10.3	地域、社会のためのボランティア活動、町会・老人クラブなどの活動
41.3	友人や仲間との交流
23.9	夫婦の団らん
37.7	子どもや孫とのつきあい
15.7	隣近所とのつきあい
6.1	特にない
4.8	その他()
2.8	無回答

地域とのかかわりについておたずねします

(全員のの方に)

問28. あなた(宛名の方ご本人)は、隣近所の人とどの程度のつきあいをしたいと思いますか。(は1つ) 回答者数1,762

4.9	とても親しくつきあいたい	17.4	あまり親しくつきあいたくない
69.1	ある程度親しくつきあいたい	5.7	つきあいはなくてよい
		3.0	無回答

(全員の方に)

問29. 地域の人たちが協力して、取り組んでいくことが特に必要な問題は、どのようなこと
だと思いますか。()は2つまで) 回答者数1,762

- 43.5 ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援
- 14.2 障害のある人への支援
- 8.2 子育てで悩んでいる家庭への支援
- 16.7 健康づくりや介護予防などのための自主活動への支援
- 61.4 災害時の助け合い
- 7.8 特にない
- 1.7 その他()
- 4.9 無回答

(全員の方に)

問30. 住民同士がともに支え合う地域づくりを進めるために、区はどのような支援を行う必
要があると思いますか。()は2つまで) 回答者数1,762

- 34.9 地域の人々が知り合う機会を増やす
- 21.5 支え合う地域づくりに関する意識啓発をする
- 35.8 お互いの人格を認め合いながら、ともに生きる地域づくり(まちづくり)
に関する意識啓発をする
- 21.9 地域の町内活動やボランティア活動への参加促進や活動支援をする
- 7.1 地域で活動する様々な団体同士の交流を進める
- 14.1 特にない
- 2.4 その他()
- 8.3 無回答

(全員の方に)

問31. 仮に、地域で、高齢者や障害者、子どものことなどで困っている世帯があったとした
ら、あなた(宛名の方ご本人)ができることは何ですか。
(あてはまるものすべてに) 回答者数1,762

- 52.7 日常的な声かけや安否の確認などの見守り
- 26.8 ちょっとした買い物やゴミ出し、植木の水やりなどの手伝い
- 13.3 話し相手や経験を活かした子育て相談
- 5.8 臨時的な介護や子どもの預かり
- 30.8 災害などの非常時の援助
- 23.4 何かしたいと思うができない
- 2.3 その他()
- 5.3 無回答

保健福祉サービス等の利用意向についておたずねします

(全員の方に)

問32. 仮に、あなた(宛名の方ご本人)ご自身やご家族が、虚弱な状態(介護を必要としない程度)になった場合、利用したいと思うサービスは何ですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数1,762

- 51.1 栄養バランスのとれた食事の配達
- 31.9 段差の解消や手すりの取り付けなど、高齢者向け住宅改修
- 52.0 洗たく・清掃・買物・調理など、ヘルパーによるちょっとした家事の援助
- 21.1 地域のボランティアによる声かけ、見守りネットワーク
- 37.9 発作や火災など緊急時に役立つ、緊急通報機器の設置
- 29.2 緊急時(災害や介護者の急病など)に緊急一時宿泊先を提供するサービス
- 22.8 体力回復のための介護予防事業の実施
- 16.5 高齢者会館・高齢者福祉センターで行う針・灸・マッサージ
- 2.4 その他()
- 7.8 無回答

(全員の方に)

問33. 権利擁護センター(アシストなかの)では、認知症などの原因により自らの判断では契約手続きなどが難しくなった方に対する支援サービスや、権利や財産を保護する「成年後見制度」の利用相談などを行っています。仮に、あなた(宛名の方ご本人)やご家族が寝たきりや認知症になった場合、こうしたサービスや制度を利用したいと思えますか。(は1つ) 回答者数1,762

- 47.1 利用したいと思う
- 16.3 利用したいと思わない
- 31.2 わからない
- 5.4 無回答

(全員の方に)

問34. あなた(宛名の方ご本人)は福祉や介護サービスの情報をどこから得ることが多いですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数1,762

- 73.2 区報
- 20.0 区役所や地域包括支援センター等の公的機関の相談窓口
- 58.2 新聞、テレビ、ラジオ
- 35.8 友人、知人、家族
- 11.4 ケアマネジャーやホームヘルパー
- 3.9 民生委員
- 17.0 チラシ、パンフレット、雑誌
- 4.4 インターネット
- 0.8 福祉や介護サービスの情報には関心がない
- 1.5 その他()
- 2.4 無回答

介護保険制度についておたずねします

(全員の方に)

問35. 介護保険のサービスと保険料について、あなた(宛名の方ご本人)の考えに最も近いものは次のうちのどれですか。(は1つ) 回答者数1,762

- 20.9 保険料が多少高くなっても介護保険サービスが充実している方がよい
- 26.3 保険料も介護サービスも今くらいが妥当である
- 17.8 介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい
- 31.0 どちらともいえない
- 4.0 無回答

(全員の方に)

問36. 仮に、あなた(宛名の方ご本人)が寝たきりや認知症になり、介護が必要となった場合に、どこで介護を受けたいと思いますか。(は1つ) 回答者数1,762

- 42.7 可能な限り自宅で介護を受けたい 問 37 へ
- 15.3 身近な地域にある介護付きの小規模老人ホームや認知症高齢者グループホーム(認知症の高齢者が介護を受けながら共同生活する住居)などに住み替えて介護を受けたい 問 38 へ
- 20.5 特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設を利用したい 問 39 へ
- 19.5 一概には言えない 問 40 へ
- 1.9 無回答

(問36で「1.可能な限り自宅で介護を受けたい」と答えた方に)

問37. それはなぜですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数752

- 76.6 自宅で十分に介護が受けられるし、住み慣れたところが良い
- 33.2 施設ではプライバシーがなく自由も制限されるから
- 31.3 施設を利用する費用の負担が困難だから
- 1.6 施設を利用することに別居している親族の理解が得られないから
- 37.6 施設での生活に不安や抵抗を感じるから
- 2.8 その他()
- 1.2 無回答

(問 36 で「2. 身近な地域にある介護付きの小規模老人ホームや認知症高齢者グループホーム(認知症の高齢者が介護を受けながら共同生活する住居)などに住み替えて介護を受けたい」と答えた方に)

問38. それはなぜですか。(あてはまるものすべてに)

回答者数270

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 26.7 | ひとり暮らしで不安だから |
| 68.5 | 家族に迷惑をかけたくないから |
| 28.1 | 高齢や病弱、仕事などの事情で、家族による介護が期待できないから |
| 43.7 | 専門的な介護が受けられると思うから |
| 41.1 | 自宅では、十分な介護サービスが受けられないし、緊急時の対応に不安があるから |
| 28.9 | 介護のための部屋がない、入浴しにくいなど自宅の構造に問題があるから |
| 37.0 | 小規模な施設であれば、家庭的な雰囲気が期待できるから |
| 22.2 | 在宅で介護を受けるよりも経済的な負担が軽そうだから |
| 31.5 | 住み慣れた地域の施設なら、家族や近隣の友人とも交流し続けられると思うから |
| 0.7 | その他() |
| 3.0 | 無回答 |

(問 36 で「3. 特別養護老人ホームや老人保健施設などの介護保険施設を利用したい」と答えた方に)

問39. それはなぜですか。(あてはまるものすべてに)

回答者数362

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 30.4 | ひとり暮らしで不安だから |
| 63.0 | 同居する家族や親族に迷惑をかけたくないから |
| 29.0 | 高齢や病弱、仕事などの事情で、家族による介護が期待できないから |
| 54.4 | 専門的な介護が受けられると思うから |
| 41.2 | 自宅では十分な介護サービスが受けられないし、緊急時の対応に不安があるから |
| 20.7 | 介護のための部屋がないとか入浴しにくいなど自宅の構造に問題があるから |
| 17.1 | 在宅で介護を受けるよりも経済的な負担が軽そうだから |
| 40.6 | 大規模な専門施設であればサービスの質が高く、安定していると思うから |
| 1.1 | その他() |
| 3.6 | 無回答 |

(全員の方に)

問40. 高齢者の介護予防や在宅生活を支える各種相談(介護保険、権利擁護など)を行う、地域包括支援センターが区内に8か所設置されていますが、あなた(宛名の方ご本人)はご自分の住んでいる地域を担当している地域包括支援センターはどこか(名称・所在地など)ご存じですか。(は1つ)

回答者数1,762

- | | | | | | |
|------|-------|------|------|-----|-----|
| 29.5 | 知っている | 63.9 | 知らない | 6.6 | 無回答 |
|------|-------|------|------|-----|-----|

高齢者問題等についておたずねします

(全員の方に)

問41．高齢者が家族・親族等から身体的、精神的な暴力を受けるなどの「高齢者虐待」が社会問題となっています。あなた(宛名の方ご本人)は、家庭内での高齢者虐待の防止策としてどのような対策が効果的だと思いますか。(あてはまるものすべてに)

回答者数 1,762

- 48.5 相談窓口、通報受理体制の整備
- 31.7 虐待の早期発見や支援のための地域におけるネットワーク作り
- 29.7 虐待を受けた高齢者の一時保護制度の整備
- 60.2 家族を介護疲れから開放するための環境整備(高齢者の短期入所、日中預かり制度の整備など)
- 28.4 家族に対するカウンセリング等支援体制の整備
- 18.2 「高齢者虐待防止法」などに基づく取り組みの充実
- 16.6 意識啓発のための広報の充実
- 3.1 その他()
- 13.2 無回答

区の高齢者保健福祉施策への要望についておたずねします

(全員の方に)

問42. あなた(宛名の方ご本人)は、これからの高齢社会に向けて、区がどのようなことに特に力を入れて欲しいと思いますか。(あてはまるものすべてに)

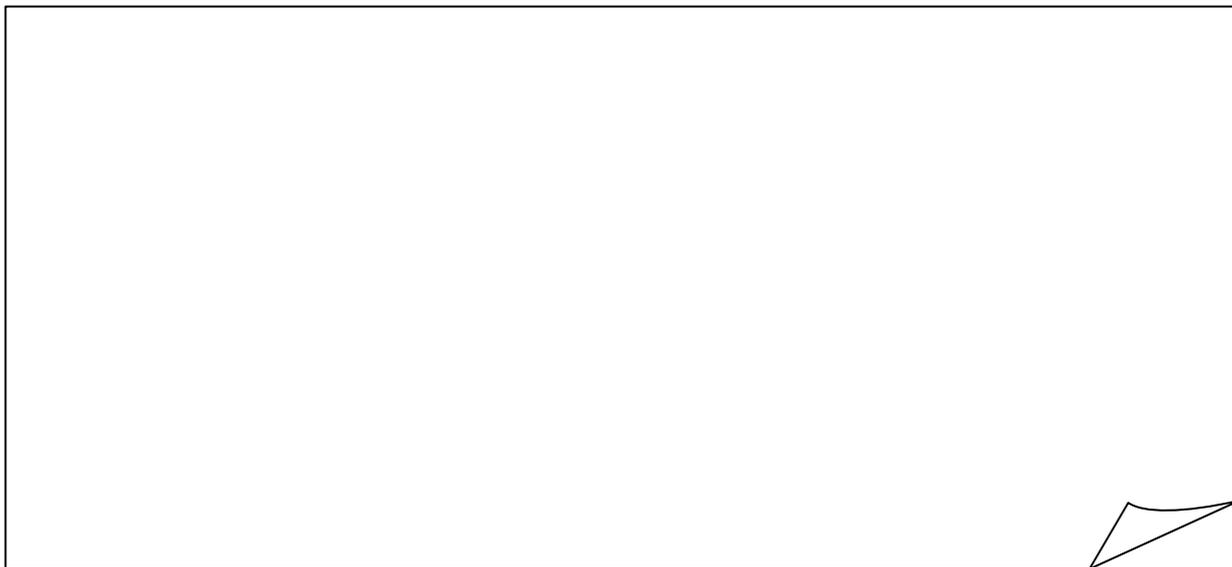
回答者数1,762

- 57.4 身近なところでの相談窓口の充実
- 21.0 高齢者の就労機会の確保、社会参加活動の促進
- 20.3 生涯を通じて学習できる体制の充実
- 13.8 世代間交流の促進
- 15.6 活動場所の確保など、ボランティアなどの地域活動が活発になるための支援
- 20.5 できるだけ多くの人が地域の活動に参加するためのきっかけづくり
- 33.8 生涯を通じた健康づくりのための場の確保
- 24.2 健康増進・維持のための相談や訪問指導などサービスの充実
- 47.5 健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実
- 26.9 介護予防を支援するための事業の充実
- 18.6 地域で支えあうためのネットワークづくりと見守り支援活動の充実
- 23.3 認知症の高齢者が地域で暮らしていくためのネットワークづくり
- 13.8 家庭内での高齢者虐待を防止するための対策
- 25.8 安全快適に居住するためのバリアフリー化に向けた住宅の改善や整備の促進
- 28.0 公共交通機関による移動が困難な人が外出しやすくなるための移動手段・移送手段の充実
- 25.6 高齢者向け住宅への住み替え、民間賃貸住宅への入居支援など、居住ニーズに対応した円滑な住み替えの促進
- 37.7 身近な地域の介護付き小規模老人ホームや認知症高齢者グループホーム(認知症の高齢者が介護を受けながら共同生活する住居)の整備
- 14.3 サービス利用者を保護する権利擁護や苦情対応、第三者によるサービス内容の点検評価などの取り組み
- 18.8 判断能力が十分でない高齢者の権利や財産を保護する成年後見制度の普及
- 22.8 高齢者の人権を守るための啓発活動
- 31.6 保健福祉に関する情報の充実
- 1.8 その他()
- 8.7 無回答

保健福祉行政について区への要望をお書きください

(全員の方に)

問43．保健福祉行政全体について、ご要望やご意見などありましたらご自由にお書きください。(自由記入)



ご協力ありがとうございました

2008年度保健福祉サービスに関するアンケート調査
「高齡福祉・介護保険サービス意向調査」
《居宅サービス利用者》
調 査 票
中 野 区

【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合は、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えください。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に 印をつけてください。
6. 「その他（具体的に ）」に 印をつけられた方は、お手数ですが具体的に記入してください。
7. ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れ、

平成 20 年 5 月 8 日（木）

までに、郵便ポストに投函してください。

8. 調査の内容や記入方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

中野区保健福祉部介護保険担当

TEL . 3 2 2 8 - 5 6 2 9 FAX . 3 2 2 8 - 8 9 7 2

E-mail kaigohoken@city.tokyo-nakano.lg.jp

* 各選択肢及び無回答の数値は単純集計結果、単位は「%」。回答者数の単位は「人」。

質問の上に（全員の方に）と記載のあるものは全員の方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

はじめに、基本的なことについてうかがいます

（全員の方に）

問1．このアンケートにお答えいただくのはどなたですか。（複数の方が相談して回答される場合は、主に回答される方一人に をつけてください。） 回答者数922

61.4	ご本人	10.6	配偶者
23.3	子どもまたはその配偶者	0.5	孫またはその配偶者
1.5	兄弟姉妹	1.2	その他（ ）
		1.4	無回答

（全員の方に）

問2．あなた（宛名の方ご本人）の性別をお答えください。（ は1つ） 回答者数922

29.3	男性	69.8	女性	0.9	無回答
------	----	------	----	-----	-----

（全員の方に）

問3．あなた（宛名の方ご本人）の現在の年齢をお答えください。（4月1日現在でお答えください）（ は1つ） 回答者数922

5.5	40歳～64歳	6.0	65歳～69歳	8.6	70歳～74歳
16.8	75歳～79歳	25.2	80歳～84歳	37.1	85歳以上
				0.9	無回答

（全員の方に）

問4．あなた（宛名の方ご本人）の要介護度は次のどれですか。（ は1つ） 回答者数922

18.5	要支援1	22.0	要支援2	8.5	要介護1
19.5	要介護2	13.8	要介護3	8.6	要介護4
5.9	要介護5	1.2	わからない	2.1	無回答

（全員の方に）

問5．あなた（宛名の方ご本人）は障害者手帳をお持ちですか。

（あてはまるものすべてに ）

回答者数922

28.0	身体障害者手帳を持っている
0.3	愛の手帳（療育手帳）を持っている
0.9	精神障害者保健福祉手帳を持っている
56.5	障害者手帳は持っていない
14.8	無回答

(全員のの方に)

問6. あなた(宛名の方ご本人)が介護を必要とするようになったと考えられる原因は何ですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数922

21.6	脳梗塞や脳出血など脳血管疾患	23.9	骨折・転倒
21.7	膝などの関節疾患やリウマチ	17.1	認知症
21.6	高血圧	10.0	心疾患
8.4	糖尿病	17.6	骨粗しょう症
3.3	パーキンソン病	4.7	がんなどの悪性疾患
4.8	腎疾患	12.4	眼科疾患
8.7	呼吸器疾患	8.4	泌尿器疾患
5.7	胃腸疾患	33.5	年をとって不自由になった
15.6	その他 ()	0.9	介護の必要はない
		2.2	無回答

(全員のの方に)

問7. あなた(宛名の方ご本人)と同居されている方はどなたですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数922

33.1	配偶者	36.0	子
14.5	子の配偶者	11.3	孫
32.3	ひとり暮らし	4.4	その他(具体的に)
		2.0	無回答

(全員のの方に)

問8. あなた(宛名の方ご本人)を主に介護している方お一人に をつけてください。(は1つ) 回答者数922

24.9	配偶者	11.3	息子
18.9	娘	8.4	息子の配偶者
-	娘の配偶者	0.7	孫またはその配偶者
12.6	その他の方 (具体的に)	18.9	介護者はいない
		4.4	無回答

(全員のの方に)

問9. あなた(宛名の方ご本人)の世帯全体(同居している方すべて)の収入(年間)はどのくらいですか。(は1つ) 回答者数922

6.9	生活保護を受給している	5.6	80万円以下
24.0	81万~200万円未満	37.7	200万~500万円未満
11.2	500万~800万円未満	7.5	800万円以上
		7.0	無回答

(全員の方に)

問10. あなた(宛名の方ご本人)の地域を担当する地域包括支援センターはどこですか。同封の一覧表を参考にお答えください。(は1つ) 回答者数922

8.6 南中野	8.9 本町	9.4 東中野
20.2 中野	10.5 中野北	12.9 江古田
14.5 鷺宮	9.9 上鷺宮	1.2 不明
		3.9 無回答

住環境についておたずねします

(全員の方に)

問11. あなた(宛名の方ご本人)の現在のお住まいは、次のうちのどれですか。

(は1つ)

回答者数922

66.2 一戸建て持ち家	1.0 一戸建て借家
8.6 分譲マンション	5.3 都営、区営住宅、旧公団・公社などの公的住宅
0.2 社宅・官舎・寮	0.7 間借り・住み込み
12.4 民間の賃貸アパート・マンション	2.3 その他()
1.2 高齢者住宅等の福祉住宅	2.3 無回答

(全員の方に)

問12. 現在のお住まいで、困っていることを、次の中から選んでください。(あてはまるものすべてに) 回答者数922

11.2 居室の段差	3.9 居室の床が畳で動きにくい
17.5 階段・廊下の段差	6.1 階段・廊下の幅が狭い
10.1 手すりがなく不安	4.9 ドアやドアノブが使いにくい
12.0 浴室・トイレが狭い	19.7 浴槽が深くて入りにくい
0.9 トイレが和式で使いにくい	5.5 食堂・台所の設備が使いにくい
26.6 玄関の段差	6.8 エレベータがない
17.7 外回り(通路など)の段差・滑りやすい	
11.2 その他()	
28.9 特に困っていることはない	
7.5 無回答	

介護予防についておたずねします

(全員の方に)

問13. あなた(宛名の方ご本人)は現在の健康状態を維持したり悪化しないように、どのような点に注意を払っていますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数922

- | | | |
|------|--|---|
| 62.1 | 食事メニューに気をつけている | |
| 53.1 | 身体を動かしたり、軽い運動をするように心がけている | |
| 67.5 | 身の回りのことはできるだけ自分でやるようにしている | |
| 58.0 | 新聞や本を読んだりテレビを見たりするなど社会への関心を失わないようにしている | |
| 36.1 | 家族や地域の人と会話するようにしている | |
| 28.7 | できる限り外出するようにしている | |
| 16.5 | その他(具体的に |) |
| 2.9 | 特に注意している事柄はない | |
| 3.4 | 無回答 | |

(介護認定が要支援1・2の方に)

問14. あなた(宛名の方ご本人)の現在の介護度を悪化させないために、どのようなサービスを利用したいと思いますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数374

- | | | | |
|------|-----------------|------|-----------------|
| 41.7 | 介護予防訪問介護 | 4.8 | 介護予防訪問入浴 |
| 8.6 | 介護予防訪問看護 | 11.0 | 介護予防訪問リハビリテーション |
| 6.1 | 介護予防居宅療養管理指導 | 11.2 | 介護予防福祉用具貸与 |
| 4.3 | 介護予防特定福祉用具販売 | 8.6 | 介護予防通所介護 |
| 19.5 | 介護予防通所リハビリテーション | 25.4 | 無回答 |

在宅生活の継続についておたずねします

(全員の方に)

問15. 「小規模多機能型居宅介護サービス」は、「通い」を中心に、利用者の選択に応じて「訪問」や「泊まり」のサービスを組み合わせて利用できます。少人数の家庭的な雰囲気の中で、日常生活上の介助や機能訓練などのサービスを顔見知りの職員から受けることができます。一方、このサービスを使うと、他の事業所のデイサービスや訪問介護、ショートステイが利用できなくなります。あなた(宛名の方ご本人)はこのサービスをご存知でしたか。また、今後利用したいですか。(は1つ) 回答者数922

- | | | |
|------|----------------------------|---------|
| 8.5 | このサービスを知っていた。今後利用してみたいと思う | |
| 12.1 | このサービスを知っていた。今後利用する予定はない | |
| 17.2 | このサービスを知らなかった。今後利用してみたいと思う | |
| 28.6 | このサービスを知らなかった。今後利用する予定はない | |
| 6.7 | 現在このサービスを利用している | |
| 19.3 | わからない | 7.5 無回答 |

このサービスは、要支援1・2、要介護1～5の方が利用できます。

(全員の方に)

問16. 「夜間対応型訪問介護サービス」は、ヘルパー等が定期的に巡回したり、緊急通報に応じて訪問する、夜間専用の訪問介護サービスです。あなた(宛名の方ご本人)はこのサービスをご存知でしたか。また、今後利用したいですか。(は1つ) 回答者数922

- | | | |
|------|----------------------------|---------|
| 11.0 | このサービスを知っていた。今後利用してみたいと思う | |
| 17.1 | このサービスを知っていた。今後利用する予定はない | |
| 16.7 | このサービスを知らなかった。今後利用してみたいと思う | |
| 22.8 | このサービスを知らなかった。今後利用する予定はない | |
| 3.4 | 現在このサービスを利用している | |
| 20.3 | わからない | 8.8 無回答 |

このサービスは要介護1～5の方が登録して利用できます。

(全員の方に)

問17. ショートステイ(短期入所生活介護・短期入所療養介護)を希望どおり利用できますか。(は1つ) 回答者数922

- | | | |
|------|-------------------|------|
| 10.6 | おおむね希望どおり利用できている | 問19へ |
| 8.5 | 希望してもなかなか利用できない | |
| 4.2 | ほとんど希望どおりの利用はできない | |
| 56.5 | 利用を希望していない | 問19へ |
| 20.2 | 無回答 | |

(問17で「2」「3」に つけた方に)

問18. あなた(宛名の方ご本人)はショートステイを利用できない時どのように対応していますか。(は1つ) 回答者数117

- 12.0 親族や近所の人などに頼んでいる
- 24.8 訪問介護(ホームヘルプ)など他のサービスの利用を増やしている
- 41.9 家族の予定を取りやめるなどして対応している
- 11.1 その他()
- 10.3 無回答

今後の在宅生活・施設入所希望についておたずねします

(全員の方に)

問19. あなた(宛名の方ご本人)は、今後の生活についてどのようにお考えですか。

(は1つ)

回答者数922

- 15.4 住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい
- 44.6 自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用して暮らしたい
- 3.9 自宅でなくてもよいから住み慣れた地域の知人・友人のそばで、介護サービスなどを利用して暮らしたい
- 4.8 高齢者向け住宅で暮らしたい
- 7.9 施設に入所したい
- 4.3 その他()
- 13.6 わからない
- 5.5 無回答

問20. あなた(宛名の方ご本人)は、介護保険施設や有料老人ホームに入所(居)希望がありますか。(は1つ) 回答者数922

- 4.4 現在、施設入所を申し込んでいる
- 27.9 将来的には施設入所を考えたい
- 29.4 施設への入所希望はない
- 29.9 わからない
- 8.4 無回答

問 21、22 へ



↓
(問20で「1」「2」に をつけた方に)

問21. あなた(宛名の方ご本人)が入所(居)を希望されている施設はどのような施設ですか。(希望するもの2つに) 回答者数298

- 45.6 特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)
- 18.1 介護老人保健施設
- 7.4 認知症高齢者グループホーム
- 15.8 ケアハウス(軽費老人ホーム)
- 25.8 介護付有料老人ホーム
- 3.4 どのような施設でもよい
- 5.7 その他()
- 9.1 無回答

→ (問20で「1」「2」に をつけた方に)

問22. あなた(宛名の方ご本人)が現在、または将来施設に入所(居)したいとお考えの理由は何ですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数298

- 57.4 介護をする家族の心身の負担が大きい
- 19.5 介護をする家族や親族がいない
- 2.3 在宅に戻るための専門的なりハビリ等が必要となっている
- 8.4 整った設備と専門職員がいる中での長期療養が必要となっている
- 2.7 現在入院している病院を退院しなければならない
- 18.1 認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい
- 8.4 在宅のサービスの利用による経済的な負担が大きい
- 17.4 現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい
- 36.2 在宅生活継続に不安がある
- 6.7 その他()
- 12.4 無回答

地域包括支援センターについておたずねします

(全員の方に)

問23. 区は、区内に8か所の地域包括支援センターを設置して、介護サービス利用の他、高齢者の総合相談を受けています。あなた(宛名の方ご本人)は地域包括支援センターに相談したことはありますか。(は1つ) 回答者数922

- 40.3 相談したことがある
 - 33.2 地域包括支援センターを知っているが、相談したことはない
 - 14.0 地域包括支援センターを知らなかった
 - 12.5 無回答
- } 問25へ
↓

（問23で「1」に つけた方に）

問24．相談してみてもいかがでしたか。（あてはまるものすべてに ） 回答者数372

- 78.5 職員の対応が親切で丁寧だった
 - 4.0 職員の対応が良くなかった
 - 26.9 職員に知識や情報が十分にあると感じた
 - 5.6 職員の知識や情報が不十分だと感じた
 - 25.5 地域包括支援センターの場所はわかりやすかった
 - 6.2 地域包括支援センターの場所はわかりにくかった
 - 7.0 その他（ ）
- 5.1 無回答

介護保険制度についておたずねします

（全員の方に）

問25．ケアマネジャーの対応について伺います。次の中で、あなた（宛名の方ご本人）のお考えに最も近いものすべてに つけてください。（あてはまるものすべてに ）

回答者数922

- 62.3 ケアマネジャーは、ケアプランを作成する際に、あなたや家族の状況・要望を十分聞いてくれる
 - 38.4 ケアマネジャーは、必要な情報を十分提供してくれる
 - 44.3 ケアマネジャーは、あなたや家族の状況を十分に理解し、必要に応じてサービスの変更などの対応をしている
 - 36.7 ケアマネジャーは、あなたや家族からの相談に十分に対応してくれる
 - 33.4 ケアマネジャーは、主治医やサービス事業者などと十分に連携をとっている
 - 7.2 上記の中に、自分の考えに近いものはない
 - 5.9 わからない
- 11.3 無回答

（全員の方に）

問26．ケアプランについて伺います。あなた（宛名の方ご本人）が、ケアプランについて不満と思うことを次の中から選んでください。（あてはまるものすべてに ） 回答者数922

- 10.2 希望するサービスが利用できない
 - 0.8 希望しないサービスがケアプランに含まれている
 - 2.3 希望する事業者が利用できない
 - 14.1 サービスの利用回数や時間が少ない
 - 7.4 サービスの利用料金が低い
 - 10.7 要介護認定による給付の枠内では使いたいサービスが十分に受けられない
 - 5.5 介護保険制度の導入以前は使えていたサービスが使えなくなった
 - 1.8 レンタル用品に利用したい物品がない
（利用したい物品名 ）
 - 36.0 不満な点はない
 - 3.9 ケアマネジャーから説明がない若しくは説明がよくわからない
 - 7.6 その他（ ）
- 23.1 無回答

(全員の方に)

問27. ヘルパーについて伺います。次の中で、あなた(宛名の方ご本人)のお考えに最も近いもの、すべてに をつけてください。(あてはまるものすべてに) 回答者数922

- | | | |
|------|---|---------|
| 45.3 | ヘルパーは、あなたや家族の状況・要望などに十分配慮したサービスを提供してくれる | |
| 27.4 | ヘルパーは、技術と知識が十分にある | |
| 33.3 | ヘルパーは、サービスに関する疑問や不満、要望などにきちんと対応してくれている | |
| 7.3 | 上記の中に自分の考えに近いものはない | |
| 5.5 | わからない | |
| 20.6 | ヘルパーを利用していない | 8.9 無回答 |

(全員の方に)

問28. デイサービスの職員について伺います。次の中で、あなた(宛名の方ご本人)のお考えに最も近いもの、すべてに をつけてください。(あてはまるものすべてに) 回答者数922

- | | | |
|------|--|----------|
| 27.7 | デイサービスの職員は、あなたや家族の状況・要望などに十分配慮したサービスを提供してくれる | |
| 16.3 | デイサービスの職員は、技術と知識が十分にある | |
| 20.7 | デイサービスの職員は、サービスに関する疑問や不満、要望などにきちんと対応してくれている | |
| 2.9 | 上記の中に自分の考えに近いものはない | |
| 6.8 | わからない | |
| 40.3 | デイサービスを利用していない | 15.5 無回答 |

(全員の方に)

問29. 介護保険のサービスと保険料について、あなたのお考えに最も近いものは次のうちのどれですか。(は1つ) 回答者数922

- | | | |
|------|---------------------------------|--|
| 21.0 | 介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい | |
| 34.6 | 介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である | |
| 8.2 | 介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい | |
| 27.1 | どちらともいえない | |
| 9.0 | 無回答 | |

(全員の方に)

問30 .介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきことは次のうちのどれですか。

(は3つまで)

回答者数922

- | | |
|---|---------|
| 12.7 介護保険制度の啓発・P Rに努め 、 区民の理解を深める | |
| 32.8 ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する | |
| 16.7 心身の状態が悪化しないよう、介護予防のサービスに力を入れる | |
| 14.5 見守りやちょっとした手伝いなど地域全体で介護を支える基盤づくりを行う | |
| 22.7 困った時に相談できる場所を増やす | |
| 32.2 家族介護の負担を軽減する | |
| 38.3 区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす | |
| 20.2 サービス提供事業者の質を高める | |
| 25.3 介護保険給付の不正や無駄をなくす | |
| 23.4 利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減する | |
| 3.7 その他 () | |
| 3.6 わからない | 8.7 無回答 |

(全員の方に)

問31 .あなた(宛名の方ご本人)は、介護保険制度にどのような不満な点がありますか。

(あてはまるものすべてに)

回答者数922

- | | |
|----------------------|----------|
| 19.5 要介護認定について納得できない | |
| 7.3 サービスの質が悪い | |
| 22.3 サービスを利用する手続きが複雑 | |
| 11.1 利用料が高い | |
| 22.1 介護保険料が高い | |
| 7.5 その他 () | |
| 22.1 不満な点はない | 18.5 無回答 |

(全員の方に)

問32 .あなた(宛名の方ご本人)の、介護保険制度に関するご意見・ご要望などをご自由にお書きください。

次の、問 33・34 は、このアンケートにご本人が答えている場合には、回答の必要はありません。このアンケートの回答をご本人のかわりに答えていただいている介護者の方だけ、お答えください。

問33 . 介護をされていて困った時などに、どこ(だれ)に相談しますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数343

- 60.6 家族・親族
- 17.2 近所の人・知人・友人
- 71.4 ケアマネジャー
- 12.5 地域包括支援センター
- 0.6 民生委員
- 9.0 区役所の担当窓口
- 3.2 保健福祉センター
- 45.2 かかりつけ医
- 1.5 社会福祉協議会
- 0.3 ボランティア
- 3.8 その他()
- 1.7 相談する所(人)がない
- 6.1 無回答

問34 . 介護をされていて、不足していると感じるサービスはどのようなものですか。ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

2008年度保健福祉サービスに関するアンケート調査
「高齡福祉・介護保険サービス意向調査」
《介護サービス未利用者》

調 査 票

中 野 区

【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合は、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えください。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に 印をつけてください。
6. 「その他（ ）」に 印をつけられた方は、お手数ですが具体的に記入してください。
7. ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れ、

平成 20 年 5 月 8 日（木）

までに、郵便ポストに投函してください。

8. 調査の内容や記入方法などについて、ご不明な点がありましたら、下記までお問い合わせください。

中野区保健福祉部介護保険担当

TEL . 3 2 2 8 - 5 6 2 9 FAX . 3 2 2 8 - 8 9 7 2

E-mail kaigohoken@city.tokyo-nakano.lg.jp

* 各選択肢及び無回答の数値は単純集計結果、単位は「%」。回答者数の単位は「人」。

質問の上に（全員の方に）と記載のあるものは全員の方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

はじめに、基本的なことについてうかがいます

（全員の方に）

問1．このアンケートにお答えいただくのはどなたですか。（複数の方が相談して回答される場合は、主に回答される方一人に をつけてください。） 回答者数266

64.3	ご本人	10.9	配偶者
19.2	子どもまたはその配偶者	0.4	孫またはその配偶者
2.3	兄弟姉妹	1.9	その他（ ）
		1.1	無回答

（全員の方に）

問2．あなた（宛名の方ご本人）の性別をお答えください。（ は1つ） 回答者数266

35.7	男性	63.5	女性	0.8	無回答
------	----	------	----	-----	-----

（全員の方に）

問3．あなた（宛名の方ご本人）の現在の年齢をお答えください。（4月1日現在でお答えください）（ は1つ） 回答者数266

3.8	40歳～64歳	4.9	65歳～69歳	11.7	70歳～74歳
18.0	75歳～79歳	28.2	80歳～84歳	33.1	85歳以上
				0.4	無回答

（全員の方に）

問4．あなた（宛名の方ご本人）の要介護度は次のどれですか。（ は1つ） 回答者数266

30.1	要支援1	19.5	要支援2	10.9	要介護1
6.4	要介護2	8.6	要介護3	5.6	要介護4
6.0	要介護5	8.6	わからない	4.1	無回答

（全員の方に）

問5．あなた（宛名の方ご本人）は、障害者手帳をお持ちですか。（あてはまるものすべてに ） 回答者数266

19.5	身体障害者手帳を持っている
0.4	愛の手帳（療育手帳）を持っている
-	精神障害者保健福祉手帳を持っている
63.5	障害者手帳は持っていない
16.5	無回答

(全員のの方に)

問6. あなた(宛名の方ご本人)が介護を必要とするようになったと考えられる原因は何ですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数266

18.4 脳梗塞や脳出血など脳血管疾患	18.4 骨折・転倒
18.4 膝などの関節疾患やリウマチ	15.4 認知症
18.0 高血圧	9.8 心疾患
9.8 糖尿病	13.5 骨粗しょう症
3.0 パーキンソン病	4.1 がんなどの悪性疾患
4.9 腎疾患	10.2 眼科疾患
8.3 吸器疾患	7.9 泌尿器疾患
4.9 胃腸疾患	30.8 年をとって不自由になった
12.0 その他()	3.4 介護の必要はない
	3.0 無回答

(全員のの方に)

問7. あなた(宛名の方ご本人)と同居されている方はどなたですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数266

41.7 配偶者	38.3 子
11.7 子の配偶者	11.3 孫
24.8 ひとり暮らし	6.8 その他()
	0.8 無回答

(全員のの方に)

問8. あなた(宛名の方ご本人)を主に介護している方お一人に をつけてください。(は1つ) 回答者数266

32.0 配偶者	7.5 息子
23.3 娘	8.3 息子の配偶者
0.8 娘の配偶者	0.4 孫またはその配偶者
5.6 その他の方()	17.7 介護者はいない
	4.5 無回答

(全員のの方に)

問9. あなた(宛名の方ご本人)の世帯全体(同居している方すべて)の収入(年間)はどのくらいですか。(は1つ) 回答者数266

2.3 生活保護を受給している	4.5 80万円以下
24.4 81万~200万円未満	38.0 200万~500万円未満
12.8 500万~800万円未満	9.8 800万円以上
	8.3 無回答

(全員のの方に)

問10. あなた(宛名の方ご本人)の地域を担当する地域包括支援センターはどこですか。同封の一覧表を参考にお答えください。(は1つ) 回答者数266

10.9 南中野	10.9 本町	8.3 東中野
15.4 中野	12.0 中野北	12.4 江古田
16.5 鷺宮	9.4 上鷺宮	0.8 不明
		3.4 無回答

認定の申請についておたずねします

(全員のの方に)

問11. あなた(宛名の方ご本人)が要介護認定を申請された理由は何ですか。

(は1つ)

回答者数266

21.8 身の周りのことが負担になってきたため
13.2 退院して介護サービスを利用するため
32.0 必要な時にサービスが受けられるようにするため
9.8 介護保険施設(特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・介護療養型医療施設)への入所・入院を希望しているため
3.0 住宅改修をするため
4.5 福祉用具の利用をするため
1.5 介護保険外のサービスを利用するため
0.4 周囲の人が認定を受けているため
3.0 自分の介護度を知りたい
4.9 その他()
6.0 無回答

(全員のの方に)

問12. あなた(宛名の方ご本人)が、介護保険サービスを利用していない理由についてお答えください。(あてはまるものすべてに) 回答者数266

20.3 まだ必要でないため
27.1 家族の介護でまにあっているため
13.5 医療サービスを受けているため
9.8 他人を家に入れたくないため
6.0 他人に介護してもらいたくないため
8.3 サービスの利用方法がわからないため
2.6 ケアマネジャーへの依頼方法がわからないため
3.8 利用したいサービスの日・時間帯などが合わないため
4.1 利用したいサービスがないため
4.5 利用料の負担が大きいため
14.7 その他()
4.5 特別な理由はない
18.0 無回答

(全員の方に)

問13. あなた(宛名の方ご本人)は、どのような状況になったら、介護サービスを利用したいと考えていますか。(は1つ) 回答者数266

12.0 病院を退院したら	
30.8 家族の介護が難しくなったら	
37.2 身体の具合が今よりも悪くなったら	
1.1 サービス利用料が今より安くなったら	
1.5 利用するつもりはない	
2.3 その他()	
5.3 わからない	9.8 無回答

住環境についておたずねします

(全員の方に)

問14. あなた(宛名の方ご本人)の現在のお住まいは、次のうちのどれですか。(は1つ) 回答者数266

72.9 一戸建て持ち家	2.3 一戸建て借家
6.8 分譲マンション	3.0 都営、区営住宅、旧公団・公社などの公的住宅
- 社宅・官舎・寮	
10.2 民間の賃貸アパート・マンション	0.4 間借り・住み込み
- 高齢者住宅等の福祉住宅	2.6 その他()
	1.9 無回答

(全員の方に)

問15. 現在のお住まいで、困っていることを、次の中から選んでください。

(あてはまるものすべてに)

回答者数266

12.0 居室の段差	5.3 居室の床が畳で動きにくい
16.5 階段・廊下の段差	4.9 階段・廊下の幅が狭い
17.3 手すりがなく不安	1.9 ドアやドアノブが使いにくい
10.2 浴室・トイレが狭い	17.3 浴槽が深くて入りにくい
4.9 トイレが和式で使いにくい	6.0 食堂・台所の設備が使いにくい
21.1 玄関の段差	4.9 エレベータがない
12.4 外回り(通路など)の段差・滑りやすい	
6.4 その他()	
29.7 特に困っていることはない	
9.4 無回答	

介護予防についておたずねします

(全員の方に)

問16. あなた(宛名の方ご本人)は現在の健康状態を維持したり悪化しないように、どのような点に注意を払っていますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数266

- | | | |
|------|--|---------|
| 57.1 | 食事メニューに気をつけている | |
| 49.6 | 身体を動かしたり、軽い運動をするように心がけている | |
| 65.0 | 身の回りのことはできるだけ自分でやるようにしている | |
| 53.8 | 新聞や本を読んだりテレビを見たりするなど社会への関心を失わないようにしている | |
| 32.7 | 家族や地域の人と会話するようにしている | |
| 26.3 | できる限り外出するようにしている | |
| 12.4 | その他() | |
| 3.4 | 特に注意している事柄はない | 3.8 無回答 |

(介護認定が要支援1・2の方に)

問17. あなた(宛名の方ご本人)の現在の介護度を悪化させないために、どのような事業に参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数132

- | | | | |
|------|-----------------|------|-----------------|
| 20.5 | 介護予防訪問介護 | 6.8 | 介護予防訪問入浴 |
| 6.1 | 介護予防訪問看護 | 6.8 | 介護予防訪問リハビリテーション |
| 10.6 | 介護予防居宅療養管理指導 | 10.6 | 介護予防福祉用具貸与 |
| 4.5 | 介護予防特定福祉用具販売 | 6.1 | 介護予防通所介護 |
| 18.2 | 介護予防通所リハビリテーション | 38.6 | 無回答 |

今後の在宅生活・施設入所希望についておたずねします

(全員の方に)

問18. あなた(宛名の方ご本人)は、今後の生活についてどのようにお考えですか。(は1つ) 回答者数226

- | | | |
|------|---|--|
| 22.9 | 住み慣れた自宅で家族中心の介護で暮らしたい | |
| 36.5 | 自宅で家族の介護と、介護保険のサービスなどを利用して暮らしたい | |
| 3.0 | 自宅でなくてもよいから住み慣れた地域の知人・友人のそばで、介護サービスなどを利用して暮らしたい | |
| 6.4 | 高齢者向け住宅で暮らしたい | |
| 11.7 | 施設に入所したい | |
| 4.1 | その他() | |
| 8.6 | わからない | |
| 6.8 | 無回答 | |

問19．あなた（宛名の方ご本人）は、介護保険施設や有料老人ホーム等に入所（居）希望がありますか。（ は1つ） 回答者数226

- | | |
|---------------------|--------|
| 4.1 現在、施設入所を申し込んでいる | } 問22へ |
| 27.4 将来的には施設入所を考えたい | |
| 32.0 施設への入所希望はない | |
| 22.9 わからない | |
| 13.5 無回答 | |

（問19で「1」「2」に をつけた方に）

→問20．あなた（宛名の方ご本人）が入所（居）を希望されている施設はどのような施設ですか。（希望するもの2つに ） 回答者数84

- | |
|--------------------------|
| 45.2 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） |
| 22.6 介護老人保健施設 |
| 6.0 認知症高齢者グループホーム |
| 19.0 ケアハウス（軽費老人ホーム） |
| 21.4 介護付有料老人ホーム |
| 3.6 どのような施設でもよい |
| 6.0 その他（) |
| 10.7 無回答 |

（問19で「1」「2」に をつけた方に）

→問21．あなた（宛名の方ご本人）が現在、または将来施設に入所したいとお考えの理由は何ですか。（あてはまるものすべてに ） 回答者数84

- | |
|------------------------------------|
| 64.3 介護をする家族の心身の負担が大きい |
| 16.7 介護をする家族や親族がいない |
| 7.1 在宅に戻るための専門的なりハビリ等が必要となっている |
| 26.2 整った設備と専門職員がいる中での長期療養が必要となっている |
| 11.9 現在入院している病院を退院しなければならない |
| 21.4 認知症の症状があり、在宅での介護がむずかしい |
| 11.9 在宅のサービスの利用による経済的な負担が大きい |
| 29.8 現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい |
| 41.7 在宅生活継続に不安がある |
| 4.8 その他（) |
| 7.1 無回答 |

地域包括支援センターについておたずねします

(全員の方に)

問22. 区は、区内に8か所の地域包括支援センターを設置して、介護サービス利用の他、高齢者の総合相談を受けていますが、あなた(宛名の方ご本人)は地域包括支援センターに相談したことはありますか。(は1つ) 回答者数266

47.0 相談したことがある

25.6 地域包括支援センターを知っているが、相談したことはない

13.9 地域包括支援センターを知らなかった

13.5 無回答

} 問24へ

(問22で「1」に をつけた方に)

問23. 相談してみてもいかがでしたか。(あてはまるものすべてに) 回答者数125

80.8 職員の対応が親切で丁寧だった

6.4 職員の対応が良くなかった

25.6 職員に知識や情報が十分にあると感じた

6.4 職員の知識や情報が不十分だと感じた

24.8 地域包括支援センターの場所はわかりやすかった

9.6 地域包括支援センターの場所はわかりにくかった

4.8 その他()

3.2 無回答

介護保険制度についておたずねします

(全員の方に)

問24. 介護保険のサービスと介護保険料について、あなた(宛名の方ご本人)のお考えに最も近いものは次のうちのどれですか。(は1つ) 回答者数266

16.2 介護保険料が多少高くなっても介護サービスが充実している方がよい

20.7 介護保険料も介護サービスも今くらいが妥当である

11.7 介護サービスを抑えても保険料が安いほうがよい

30.5 どちらともいえない

21.1 無回答

(全員の方に)

問25 .介護保険制度全体をよくするため、区が力を入れるべきことは次のうちのどれですか。

(は3つまで)

回答者数266

- | | |
|---|---------|
| 14.7 介護保険制度の啓発・P Rに努め 、 区民の理解を深める | |
| 25.9 ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成する | |
| 17.3 心身の状態が悪化しないよう、介護予防のサービスに力を入れる | |
| 13.2 見守りやちょっとした手伝いなど地域全体で介護を支える基盤づくりを行う | |
| 24.1 困った時に相談できる場所を増やす | |
| 34.2 家族介護の負担を軽減する | |
| 38.7 区内に特別養護老人ホームなどの介護保険施設を増やす | |
| 14.3 サービス提供事業者の質を高める | |
| 19.2 介護保険給付の不正や無駄をなくす | |
| 23.3 利用料を補助するなど、利用者の負担を軽減する | |
| 3.8 その他 () | |
| 6.0 わからない | 8.6 無回答 |

(全員の方に)

問26 .あなた(宛名の方ご本人)は、介護保険制度にどのような不満な点がありますか。

(あてはまるものすべてに)

回答者数266

- | | |
|----------------------|----------|
| 17.7 要介護認定について納得できない | |
| 5.3 サービスの質が悪い | |
| 30.8 サービスを利用する手続きが複雑 | |
| 10.2 利用料が高い | |
| 28.9 介護保険料が高い | |
| 12.8 その他 () | |
| 15.0 不満な点はない | 20.7 無回答 |

(全員の方に)

問27 .あなた(宛名の方ご本人)の、介護保険制度に関するご意見・ご要望などをご自由にお書きください。(自由記入)

次の、問 28・29 は、このアンケートにご本人が答えている場合には、回答の必要はありません。このアンケートの回答をご本人のかわりに答えていただいている介護者の方だけ、お答えください。

問28 . 介護をされていて困った時などに、どこ（だれ）に相談しますか。

（あてはまるものすべてに ）

回答者数92

- 58.7 家族・親族
- 26.1 近所の人・知人・友人
- 39.1 ケアマネジャー
- 29.3 地域包括支援センター
 - 1.1 民生委員
- 19.6 区役所の担当窓口
 - 3.3 保健福祉センター
- 40.2 かかりつけ医
 - 1.1 社会福祉協議会
 - 1.1 ボランティア
 - 2.2 その他（)
 - 1.1 相談する所（人）がない
- 9.8 無回答

問29 . 介護をされていて、不足していると感じるサービスはどのようなものですか。ご自由にお書きください。（自由記入）

ご協力ありがとうございました

2008年度保健福祉サービスに関するアンケート調査
「高齢福祉・介護保険サービス意向調査」
《ケアマネジャー》

調 査 票

中 野 区

【調査のご記入にあたってのお願い】

1. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
2. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
3. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
4. お答えは、あてはまる回答の番号に 印をつけてください。
5. 「その他（ ）」に 印をつけられた方は、お手数ですが具体的に記入してください。
6. ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れ、

平成 20 年 5 月 8 日（木）

までに、郵便ポストに投函してください。

7. 調査の内容や記入の方法などについてご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

中野区保健福祉部介護保険担当

TEL . 3 2 2 8 - 5 6 2 9 FAX . 3 2 2 8 - 8 9 7 2

E-mail kaigohoken@city.tokyo-nakano.lg.jp

* 各選択肢及び無回答の数値は単純集計結果、単位は「%」。回答者数の単位は「人」。

質問の上に（全員の方に）と記載のあるものは全員の方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

1 はじめに、基本的なことについてうかがいます

（全員の方に）

問1．あなたの所属する事業所の所在地は次のどれですか。（ は1つ） 回答者数139

87.8	中野区	11.5	中野区以外	0.7	無回答
------	-----	------	-------	-----	-----

（全員の方に）

問2．あなたの所属する事業者（法人）はどのような介護サービス等を行っていますか。

（あてはまるものすべてに ）

回答者数139

居宅サービス			
78.4	訪問介護	7.9	訪問入浴介護
15.1	訪問看護	3.6	訪問リハビリテーション
4.3	居宅療養管理指導	28.1	福祉用具（貸与）
21.6	特定福祉用具（販売）	7.9	住宅改修
36.7	通所介護	2.9	通所リハビリテーション
24.5	短期入所生活介護	2.2	短期入所療養介護
6.5	特定施設入居者生活介護		
介護予防サービス			
69.8	予防訪問介護	7.2	予防訪問入浴介護
9.4	予防訪問看護	0.7	予防訪問リハビリテーション
4.3	予防居宅療養管理指導	25.2	予防福祉用具（貸与）
18.0	予防特定福祉用具（販売）	25.9	予防通所介護
5.0	予防通所リハビリテーション	12.9	予防短期入所生活介護
2.9	予防短期入所療養介護	2.9	予防特定施設入居者生活介護
施設サービス			
18.7	介護老人福祉施設	2.2	介護老人保健施設
1.4	介護療養型医療施設		
地域密着型サービス			
2.2	夜間対応型訪問介護	3.6	小規模多機能型居宅介護
14.4	認知症対応型通所介護	7.2	認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
介護予防地域密着型サービス			
1.4	予防小規模多機能型居宅介護	7.9	予防認知症対応型通所介護
3.6	予防認知症対応型共同生活介護（グループホーム）		
その他のサービス			
15.1	病院・診療所	2.2	薬局
1.4	その他のサービス（		）
5.0	併設事業なし	0.7	無回答

(全員の方向に)

問3 .あなたの現在の勤務体系を次の中から選んでください。(は1つ) 回答者数139

52.5 常勤で専従	22.3 常勤で兼務(兼務職内容)
24.5 非常勤	0.7 無回答

(全員の方向に)

問4 .あなたはケアマネジャーとして、何年間従事していますか。(は1つ) 回答者数139

7.2 1年未満	30.9 1年以上3年未満
26.6 3年以上5年未満	35.3 5年以上

(全員の方向に)

問5 .あなたのケアマネジャー受験資格と当該職種の従事期間を教えてください。

(1) 受験資格 回答者数139

10.8 社会福祉士	52.5 介護福祉士
12.9 看護師・保健師	0.7 医師・歯科医師
1.4 薬剤師	- 理学療法士・作業療法士
18.7 ホームヘルパー	14.4 その他()

(2) 従事年数(ケアマネジャーになる前の従事年数で複数の受験資格を持つ場合は通算してください)(は1つ) 回答者数139

5.0 5年未満	61.9 5年以上10年未満
14.4 10年以上15年未満	12.9 15年以上20年未満
5.0 20年以上	0.7 無回答

(全員の方向に)

問6 .過去3年間で、所属事業所を変った回数は何回ですか。(は1つ) 回答者数139

50.4 0回	問8へ	25.9 1回	13.7 2回
6.5 3回		2.2 4回	1.4 5回以上

(問6で「1」以外に をつけた方に)

問7 .事業所を変った主な理由は何ですか。(は3つまで) 回答者数69

18.8 事業所の統合・廃止	13.0 給与に関する問題
5.8 給与以外の福利厚生等での問題	42.0 事業所の管理運営方針が合わない
20.3 業務上の負担が多い	18.8 人間関係の問題
27.5 その他(具体的に)	2.9 無回答

(全員のの方に)

問8．あなたは現在、何名の居宅サービス計画を作成していますか。(は1つ)

回答者数139

13.7	10名以下	15.1	11名～20名
25.9	21名～30名	28.1	31名～35名
9.4	36名～40名	1.4	41名～50名
2.9	51名以上	3.6	無回答

(全員のの方に)

問9．あなたは現在、何名の介護予防サービス計画の受託または作成をしていますか。

(は1つ)

回答者数139

15.1	0名	74.1	1名～8名	8.6	9名以上	2.2	無回答
------	----	------	-------	-----	------	-----	-----

(全員のの方に)

問10．作成するケアプランの件数について、次の中から選んでください。(は1つ)

回答者数139

61.2	現在の件数で十分	問13へ
16.5	もっと件数を増やしたい	問11へ
18.0	もっと件数を減らしたい	問12へ
4.3	無回答	

(問10で「2」に をつけた方に)

問11．ケアプラン件数を増やしたいのに増えない理由をお書きください。

(問10で「3」に をつけた方に)

問12．ケアプラン件数を減らしたくても減らせない理由をお書きください。

2 ケアプランを作成する上での課題についておたずねします

(全員の方に)

問13. 介護保険制度は要介護者等の自立支援を目的の一つとしていますが、現行の介護サービスはその役割を十分果たしていると思いますか。(は1つ) 回答者数139

0.7	十分果たしている	
55.4	ある程度果たしている	
29.5	果たしているとは言いがたい	
	(具体的に)
8.6	わからない	
3.6	1～4以外の意見	
	(具体的に)
2.2	無回答	

(全員の方に)

問14. 介護保険サービスは、家族の介護負担軽減につながっていると思いますか。

(は1つ) 回答者数139

7.9	十分につながっている	
69.1	ある程度つながっている	
10.1	さほどでもない	
10.1	負担軽減にはつながっていない	
	(具体的に)
1.4	わからない	
1.4	無回答	

(全員の方に)

問15. ケアプランを作成する際に、中野区内でサービス供給が不足しているため、利用者に提供できない(しにくい)サービスは何ですか。(あてはまるものすべてに)

回答者数139

居宅サービス	
13.7 訪問介護	3.6 訪問入浴介護
15.8 訪問看護	43.9 訪問リハビリテーション
2.2 居宅療養管理指導	2.2 福祉用具(貸与)
- 特定福祉用具(販売)	0.7 住宅改修
10.8 通所介護	65.5 通所リハビリテーション
73.4 短期入所生活介護	58.3 短期入所療養介護
11.5 特定施設入居者生活介護	
介護予防サービス	
12.9 予防訪問介護	1.4 予防訪問入浴介護
8.6 予防訪問看護	22.3 予防訪問リハビリテーション
2.2 予防居宅療養管理指導	0.7 予防福祉用具(貸与)
- 予防特定福祉用具(販売)	18.7 予防通所介護
42.4 予防通所リハビリテーション	32.4 予防短期入所生活介護
23.0 予防短期入所療養介護	7.9 予防特定施設入居者生活介護
施設サービス	
48.9 介護老人福祉施設	67.6 介護老人保健施設
43.9 介護療養型医療施設	
地域密着型サービス	
18.0 夜間対応型訪問介護	28.1 小規模多機能型居宅介護
20.9 認知症対応型通所介護	24.5 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)
介護予防地域密着型サービス	
15.1 予防小規模多機能型居宅介護	12.9 予防認知症対応型通所介護
20.9 予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	
その他のサービス	
5.8 病院・診療所(外来)	6.5 訪問診療・訪問歯科診療
0.7 薬局	
0.7 供給不足のサービスはない	0.7 無回答

(全員の方に)

問16 . 供給不足以外に必要なサービスが提供(調整)出来ないのはどのような場合ですか。

(は1つ)

回答者数139

- 17.3 心身の状況
- 34.5 経済的事情により費用負担が困難
- 25.9 支給限度額を超える
- 46.0 介護保険制度の給付では対応できない
- 10.1 その他(具体的に)
- 5.0 無回答

(全員の方に)

問17 . 現行の介護サービスや区の保健福祉サービス以外で要介護者等や家族にとってどのようなサービスがあったらよいと思いますか。最近の経験を踏まえて自由にお書きください。

(全員の方に)

問18 . 要介護者等が住み慣れた自宅や地域で暮らし続けるため、近隣や地域の人々からどのような支援や手助けがあったらよいと思いますか。(あてはまるものすべてに)

回答者数139

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 71.9 話し相手 | 71.2 認知症高齢者の見守り |
| 66.9 散歩の付き添い | 58.3 電球の交換や家具等の簡易な修理 |
| 45.3 日常生活以外の特別な買い物 | 29.5 大掃除の手伝い |
| 23.7 ペットの世話 | 50.4 緊急時の連絡 |
| 37.4 庭の手入れや趣味の手伝い | 28.8 おかずの差し入れなど |
| 33.1 配食サービス | |
| 13.7 その他 | |

(具体的に)

2.9 無回答

3 サービス連携についておたずねします

(全員の方に)

問19 .ケアプランの実施にあたって、介護サービス提供事業者との連携がとれていますか。

(は1つ)

回答者数139

- 21.6 十分連携が取れている
- 74.8 ある程度連携が取れている
- 2.9 うまく連携が取れない
- 具体的に
- 0.7 どちらともいえない

(全員の方に)

問20 .主治医(かかりつけ医)との連携についてはどうですか。(は1つ) 回答者数139

- 23.0 十分連携が取れている
- 38.1 主治医が忙しくなかなか時間をとってもらえない
- 10.8 複数の医療機関にかかっており、主治医を特定できない
- 2.2 主治医といえるようなかかりつけの医師がいない
- 23.7 その他

具体的に

2.2 無回答

(全員の方に)

問21 .地域包括支援センターとの連携についてはどうですか。(は1つ) 回答者数139

- 24.5 十分連携が取れている
- 63.3 ある程度連携が取れている
- 6.5 うまく連携が取れない

具体的に

2.9 どちらともいえない

2.9 無回答

(全員の方に)

問22 . 障害者施策を利用できる利用者について、区の障害者施策の相談窓口とのサービス調整等の連携が取れていますか。(1 は1つ) 回答者数139

- 6.5 連携が取れている
- 24.5 ある程度連携が取れている
- 17.3 うまく連携が取れない
- 23.7 どちらともいえない
- 17.3 障害者施策を利用できる利用者はいない
- 5.8 その他

具体的に

5.0 無回答

(全員の方に)

問23 . サービス担当者会議を開催する上での問題点は何ですか。
(あてはまるものすべてに) 回答者数139

- 64.7 関係者が忙しくてなかなか時間がとれない
- 23.7 関係機関・主治医からの情報が得られない
- 7.9 関係者に理解がなく、出席が得られない
- 6.5 会議をどのように運営してよいかわからない
- 7.9 適切な会場がない
- 23.7 その他

具体的に

5.0 無回答

4 困難な事例への対応についておたずねします

(全員の方に)

問24 .ケアプランを作成する際に、特に対応に苦慮するケースはどのようなケースですか。
(あてはまるものすべてに) 回答者数139

- | | |
|--------------------------------|---------|
| 43.9 身寄りがいない | |
| 38.1 キーパーソンがいない | |
| 58.3 家族が協力的でない | |
| 31.7 認知症のため自分で判断できない | |
| 41.0 要介護者と家族の考えが異なる | |
| 11.5 要介護者や家族から提案したプランに同意が得られない | |
| 30.2 費用負担の面で、適切なプランが作成できない | |
| 28.8 介護保険の利用限度額ではサービスが足りない | |
| 12.9 その他() | 2.2 無回答 |

(全員の方に)

問25 .あなたは、要介護者等や家族からの相談を十分に受け止め、対応できていますか。
(は1つ) 回答者数139

- | | |
|--------------------|------------------|
| 5.8 十分対応できている | 78.4 ある程度対応できている |
| 15.1 十分対応できないこともある | 0.7 無回答 |

【「3」に をつけた方に】

対応できない具体的な内容をあげてください。

(全員の方に)

問26 .要介護者等や家族からの相談への対応に苦慮した場合、どこからアドバイス等を得ていますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数139

- | | |
|-----------------------------|--|
| 71.9 同僚や上司 | |
| 53.2 ケアマネジャー仲間 | |
| 71.2 地域包括支援センター | |
| 20.1 保健福祉センター(保健師) | |
| 47.5 区役所(4.保健福祉センター以外)の担当窓口 | |
| 4.3 東京都のケアマネ相談窓口 | |
| 20.1 主治医 | |
| 5.0 その他() | |
| 1.4 相談するところがない | |

(全員の方向に)

問27 .ケアマネジャーに従事して以来、高齢者等に対する虐待が疑われるようなケースを発見したり相談を受けたりしたことがどのくらいありますか。(は1つ) 回答者数139

33.1	0件	62.6	1件から9件	
1.4	10件~19件	0.7	20件以上	2.2 無回答

(全員の方向に)

問28 .高齢者虐待対応について強化すべきと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数139

69.1	地域包括支援センターとの連携	
57.6	保健福祉センター(保健師)との連携	
61.2	緊急一時保護の充実	
30.9	虐待防止ネットワークの充実	
42.4	具体的な対応や支援の方法等の研修	
31.7	区民・関係機関・団体等への周知・啓発	
6.5	その他	
	(具体的に)	
		2.2 無回答

5 介護予防についておたずねします

(全員の方向に)

問29 .区は介護予防事業として下記の事業を実施していますが、充実すべきと思われる事業を選んでください。(は3つまで) 回答者数139

48.2	転倒予防教室	12.9	口腔ケア教室
19.4	栄養改善教室	48.2	閉じこもり予防等訪問事業
25.2	家族介護教室	43.9	認知症サポート講座
7.2	介護予防講演会		
	(テーマ)		
35.3	高齢者福祉センター・高齢者会館での健康づくり・生きがいづくり事業		
7.2	その他		
	()		
		5.0	無回答

(全員の方に)

問30. 区は在宅で介護している家族を支援するために具体的な介護の仕方などについて学ぶ「家族介護教室」を開催していますが、あなたは、家族に参加をすすめたことがありますか。(は1つ) 回答者数139

- 55.4 すすめたことがある
- 33.8 すすめたことはないが、開催していることは知っている
- 9.4 開催していることを知らなかった
- 1.4 無回答

〔「3」に をつけた方に〕

広く周知されるには、どのような方法が必要だと思いますか。

()

6 認知症に関する課題についておたずねします

(全員の方に)

問31. 区は認知症の方を抱える家族をサポートするために認知症の方の特性などについて学ぶ「認知症サポート講座」を開催していますが、あなたは家族に参加をすすめたことがありますか。(は1つ) 回答者数139

- 48.9 すすめたことがある
- 35.3 すすめたことはないが、開催していることは知っている
- 12.9 開催していることを知らなかった
- 2.9 無回答

〔「3」に をつけた方に〕 回答者数18

広く周知されるには、どのような方法が必要だと思いますか。

()

(全員の方に)

問32 . 認知症高齢者に関してどのような施策が特に必要だと考えますか。(〃 は3つまで)

回答者数 139

- 30.9 地域における認知症に関する理解の促進
- 48.2 地域での見守りネットワークの整備
- 55.4 家族への悩みの相談等の支援
- 11.5 家族会開催への支援
- 27.3 認知症ケアに関する介護スタッフの研修の充実
- 43.2 認知症の早期発見・診断のための相談の場の充実
- 32.4 認知症に関する専門医や専門家の支援・養成
- 23.7 成年後見など権利擁護事業の充実
- 37.4 認知症対応型通所介護(介護予防含む)や認知症対応型共同生活介護(グループホーム)等サービス基盤の充実
- 5.0 その他()
- 1.4 無回答

7 在宅介護の可能性の拡大についておたずねします

(全員の方に)

問33 . 要介護者等の居宅の状況などから施設入所を希望せざるを得ないケースが多いと言われていますが、どのような点が充実すれば居宅や地域での生活を続けることができると
思いますか。(あてはまるものすべてに)

回答者数139

- 51.1 訪問介護等介護サービスの充実
- 73.4 24時間の緊急時に即応できる体制の整備
- 66.9 区内での短期入所生活介護施設の充実
- 31.7 高齢者見守りネットワークの整備
- 6.5 住宅改修の対象拡大
- 47.5 高齢者用住宅の増加
- 32.4 在宅医療(往診体制)の充実
- 10.8 その他()
- 1.4 無回答

8 情報入手についておたずねします

(全員の方に)

問34 . 介護保険関連の情報は、専門書籍・雑誌以外にインターネットでもかなり入手できるようになっています。次のホームページをよくご覧になりますか。

(あてはまるものすべてに)

回答者数139

61.2 ワムネット(独立行政法人福祉医療機構)

<http://www.wam.go.jp/>

24.5 厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/>

28.8 東京都福祉保健局ホームページ

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/index.html>

35.3 とうきょう福祉ナビゲーション

<http://fukunavi.or.jp/fukunavi/>

32.4 東京都介護サービス情報

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kourei/hoken/>

[kaigo_lib/index.html](http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kourei/hoken/kaigo_lib/index.html)

25.9 中野区ホームページ

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/>

4.3 その他よくご覧になるホームページ

(

)

9.4 インターネットを見る環境にない

12.2 無回答

(全員の方に)

問35 . 中野区からどのような情報の入手を希望しますか。具体的に記入をお願いします。

9 業務遂行上の問題についておたずねします

(全員の方に)

問36. 業務遂行上、最も困っていることはどのようなことですか。(は3つまで)

回答者数139

- 9.4 担当件数が多い
- 8.6 担当する利用者の地域範囲が広い
- 39.6 困難なケースへの対応
- 7.9 苦情への対応
- 12.9 相談相手・スーパーバイザー等・助言者がいない
- 5.0 事業所内のミーティングの時間がとりにくい
- 8.6 サービス担当者会議がなかなか開けない
- 51.8 制度が頻繁に変わり、対応に時間と労力がかかる
- 6.5 地域の医療や介護サービスについての情報が得られない
- 28.1 ケアマネ業務の範囲が明確でない
- 71.9 文書の作成等事務処理に追われる
- 25.9 規定が細かくケアマネとしての裁量の余地がない
- 1.4 特に困っていることはない
- 12.9 その他

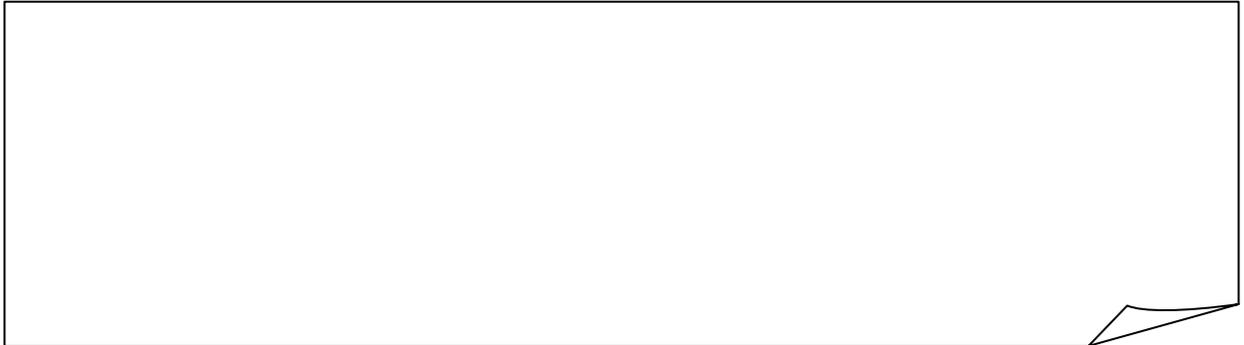
具体的に

2.2 無回答

10 その他についておたずねします

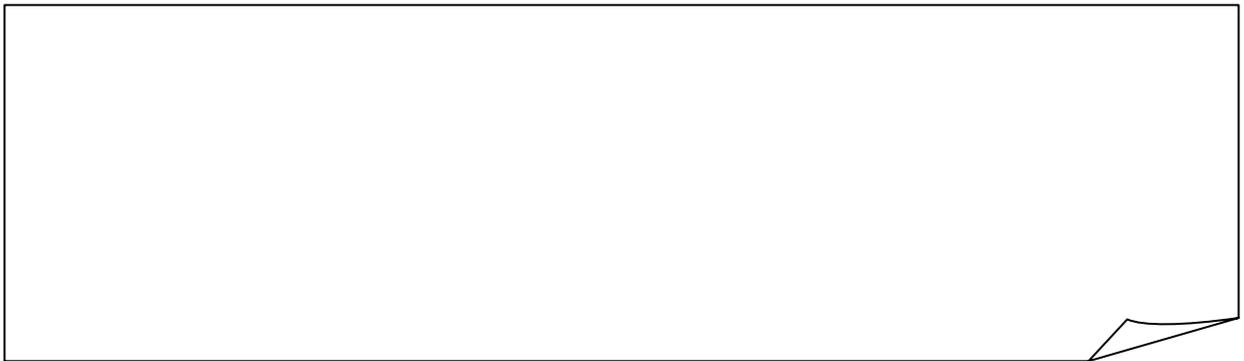
(全員の方に)

問37. 区にどのようなことを期待しますか。ご自由にお書きください。



(全員の方に)

問38. 地域包括支援センターにどのようなことを期待しますか。ご自由にお書きください。



(全員の方に)

問39. 介護保険制度に関してご意見等ありましたら、ご自由に記入をお願いします。



ご協力ありがとうございました

平成 20 (2008) 年度 高齢福祉・介護保険サービス意向調査
報告書

発行日	平成 20 (2008) 年 8 月
印刷登録番号	20 中保経第 5 号
発行	中野区保健福祉部企画調整担当 〒164-8501 東京都中野区中野 4-8-1 電話 03-3228-5609 (直通)
編集分析	社団法人 中央調査社 〒104-0061 東京都中央区銀座 6-16-12 電話 03-3549-3121 (代表)

平成20（2008）年度
障害福祉サービス意向調査
（障害者調査/施設入所者調査）
報 告 書

平成20（2008）年8月

中 野 区

は じ め に

平成18年4月、障害種別ごとに区分されていたサービスの一元化や就労支援の強化などを柱とした障害者自立支援法が施行され、障害者福祉の制度は大きな転換を迎えました。

区としても、平成18年3月に、区の保健福祉施策の基本計画である「中野区保健福祉総合推進計画」の改定、翌年の3月には、「第1期中野区障害福祉計画」を策定し、通所施設など日中活動の場の整備や地域生活支援事業に基づくサービスの充実に努めてきました。

本調査は、これら計画が平成20年度に改定時期を迎えているため、その改定作業に向け、障害者の日常生活や社会参加するために必要な支援など、サービスに関するご意見や関心を把握するために実施しました。

調査は、障害者手帳を所持している区民の方を対象として実施しましたが、今回、区として初めて障害者施設に入所されている方にも協力を依頼し、施設から地域生活への移行希望など、今後の生活の意向について伺いました。

この調査結果は計画改定の基礎資料として、また、障害者福祉施策を充実させるための検討材料として活用させていただきます。

ここに、本調査の趣旨をご理解くださり、ご協力をいただいた障害のある方、そのご家族や介護をされている方、施設職員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成20(2008)年8月末日

中野区保健福祉部

目 次

調査の概要

1	調査の目的	3
2	調査の設計	3
3	調査の内容	4
4	集計・分析	4
5	報告書の見方	4

調査結果の分析

障害者調査

1	回答者の属性	9
	(1) アンケートの回答者	9
	(2) 本人の性別	9
	(3) 本人の年齢	10
	(4) 身体障害者手帳の等級	10
	(5) 愛の手帳の度数	11
	(6) 精神障害者保健福祉手帳の等級	11
	(7) 身体障害者手帳に記載された障害名	11
	(8) 精神障害の診断名	12
	(9) 要支援・要介護認定	12
	(10) 所持手帳別アンケート回答者	13
	(11) 所持手帳別本人年齢	13
2	住まいについて	15
	(1) 家族構成	15
	(2) 住居形態	17
	(3) 住宅で困っていること	19
	(4) 火事や地震などの災害に関して不安を感じていること	22
3	日常生活の介護や支援について	25
	(1) 日常生活で介助を必要とすること	25
	(2) 主な介助者	28
	(3) 主な介助者が介助困難になった場合の対処	30
	(4) ひとり暮らしになった場合の意向	32
	(5) 平日の日中の過ごし方	34
	(6) 休日の日中の過ごし方	39

(7) 近所とのつきあい方	41
(8) 今後、してみたい活動	43
(9) 就業訓練や自立した生活のための訓練	45
(10) 訓練を受ける意向	48
4 外出状況について	51
(1) 外出頻度	51
(2) 外出の主な目的	53
(3) 外出時に困ること	56
(4) 外出時の交通手段	58
5 働くことについて	60
(1) 就労による定期的な収入の有無	60
(2) 現在の就労形態	63
(3) 仕事を見つけた方法	66
(4) 仕事に関する不安や不満	67
(5) 希望する働き方	70
(6) 障害者が働くための環境整備	74
6 保健福祉サービスなどについて	77
(1) 利用した相談サービス	77
(2) 「すこやか福祉センター」でしたい相談	79
(3) 障害福祉サービスの利用	81
(4) 障害福祉サービスを利用していない理由	82
(5) 「アシストなかの(権利擁護センター)」の認識	84
(6) 「アシストなかの」の利用	85
(7) 中野区の施設のバリアフリー化	86
(8) 障害者に対する理解	88
(9) 充実してほしい施策	89
(10) 障害者を含めた区の健康づくりに関して力を入れるべき事業	95
(11) 日常生活で困っていること(自由回答)	98
(12) 保健福祉行政全体への意見・要望(自由回答)	106

施設入所者調査

1 回答者の属性	115
(1) アンケートの回答者	115
(2) 本人の性別	115
(3) 本人の年齢	116
(4) 身体障害者手帳の等級	116
(5) 愛の手帳の度数	117
(6) 障害の種類	117
(7) 入所施設の種類	118

2 入所について	119
(1) 入所理由	119
3 今後の生活について	123
(1) 生活したい場所	123
(2) 施設退所後の生活	126
(3) 施設退所後に住みたい場所	127
(4) 保健福祉行政全体への意見・要望（自由回答）	128

調査票と単純集計

• 障害者調査票と単純集計	131
• 施設入所者調査票と単純集計	147

調査の概要

1 調査の目的

障害者の保健福祉サービスの利用実態や今後の利用意向を把握することを目的とする。

2 調査の設計

調査は、以下の 、 について、郵送配布、郵送回収の方法で行なった。

障害者調査

基準日（2008年4月1日）現在で、身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの区民から、障害者施設の入所者を除外し、1,500人を無作為で抽出し調査の対象とした。

- ・調査対象：身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している区民。
ただし、障害者施設の入所者を除く。
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：1,500人（身体障害者900人、知的障害者300人、精神障害者300人）
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・有効回収数：821人（回収率：54.7%）
- ・調査期間：平成20（2008）年4月18日～5月8日

施設入所者調査

基準日（2008年4月1日）現在で、障害者施設に入所している中野区の給付対象者198人全員を調査の対象とした。

- ・調査対象：障害者施設に入所している中野区の給付対象者
- ・調査地域：日本全域
- ・調査標本数：198人
- ・有効回収数：141人（回収率：71.2%）
- ・調査期間：平成20（2008）年4月18日～5月8日

3 調査の内容

障害者調査

- (1) 回答者の属性
- (2) 住まいについて
- (3) 日常生活の介護や支援について
- (4) 外出状況について
- (5) 働くことについて
- (6) 保健福祉サービスなどについて

施設入所者調査

- (1) 回答者の属性
- (2) 入所について
- (3) 今後の生活について

4 集計・分析

障害者調査は、単純集計、属性とのクロス集計、設問間のクロス集計の3分類について、施設入所者調査は、単純集計、属性とのクロス集計の2分類についておこなった。

5 報告書の見方

- ・ 回答の比率（構成比）は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、回答比率を合計しても100%ちょうどにならない場合がある。
- ・ 数表やグラフの回答選択肢の表記は、一部省略しているところがある。

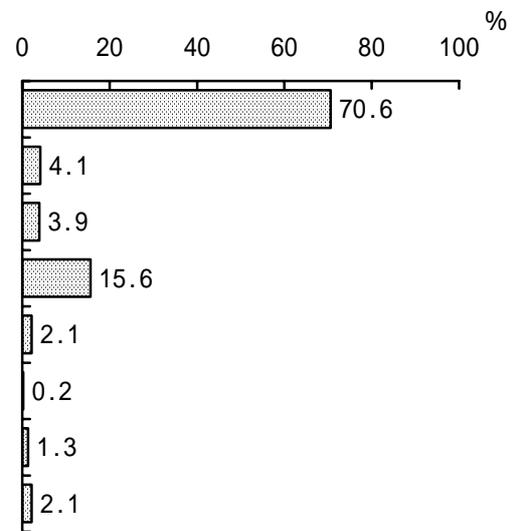
調査結果の分析

障害者調査

1. 回答者の属性

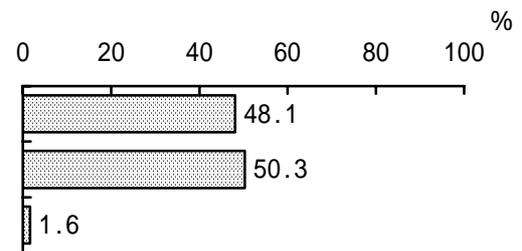
(1) アンケートの回答者

区分	回答者数	構成比 (%)
本人	580	70.6
配偶者	34	4.1
子どもまたはその配偶者	32	3.9
親	128	15.6
兄弟姉妹	17	2.1
友人、知人	2	0.2
その他	11	1.3
無回答	17	2.1
全体	821	100.0



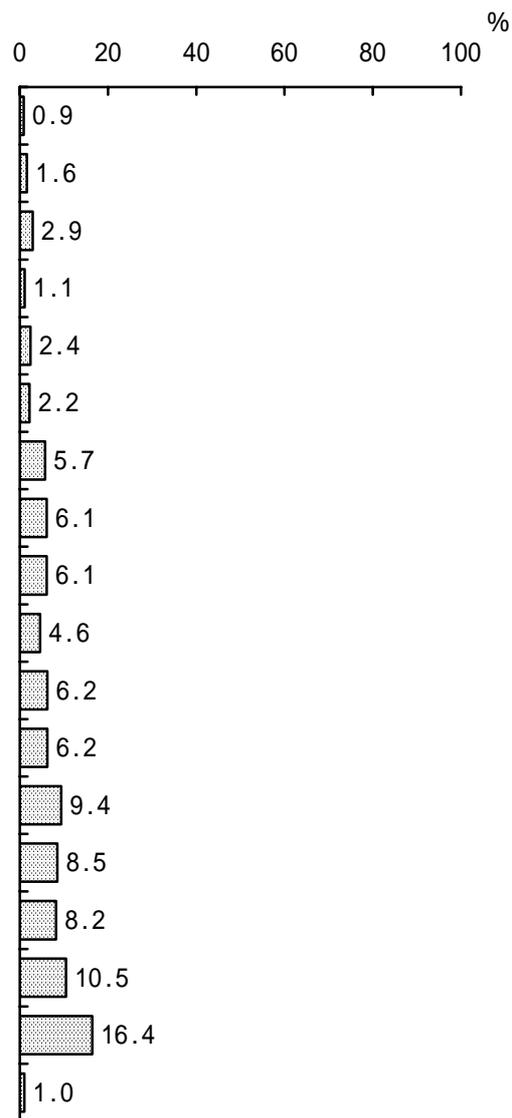
(2) 本人の性別

区分	回答者数	構成比 (%)
男性	395	48.1
女性	413	50.3
無回答	13	1.6
全体	821	100.0



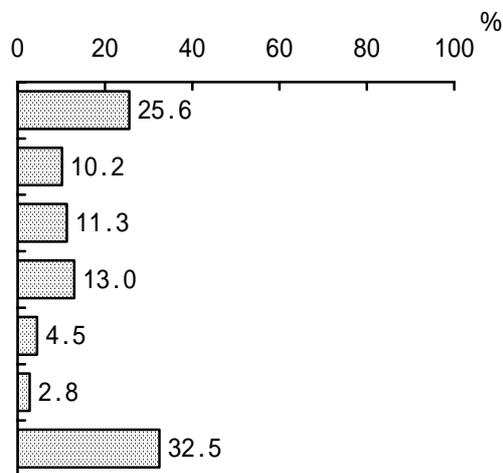
(3) 本人の年齢

区分	回答者数	構成比 (%)
0歳～5歳	7	0.9
6歳～11歳	13	1.6
12歳～17歳	24	2.9
18歳～19歳	9	1.1
20歳～24歳	20	2.4
25歳～29歳	18	2.2
30歳～34歳	47	5.7
35歳～39歳	50	6.1
40歳～44歳	50	6.1
45歳～49歳	38	4.6
50歳～54歳	51	6.2
55歳～59歳	51	6.2
60歳～64歳	77	9.4
65歳～69歳	70	8.5
70歳～74歳	67	8.2
75歳～79歳	86	10.5
80歳以上	135	16.4
無回答	8	1.0
全体	821	100.0



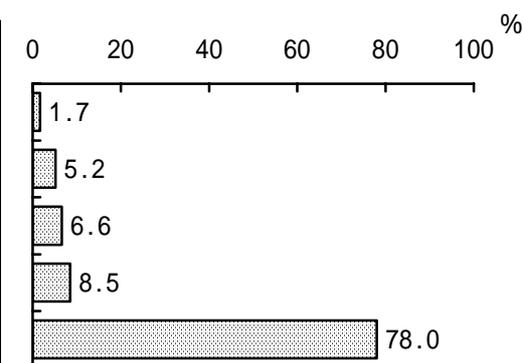
(4) 身体障害者手帳の等級

区分	回答者数	構成比 (%)
1級	210	25.6
2級	84	10.2
3級	93	11.3
4級	107	13.0
5級	37	4.5
6級	23	2.8
無回答	267	32.5
全体	821	100.0



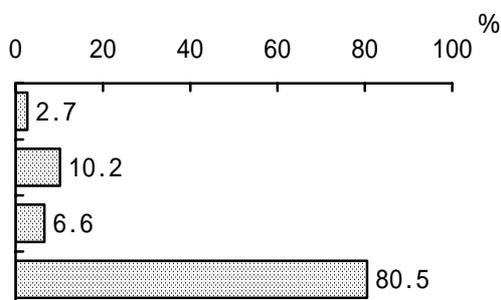
(5) 愛の手帳の度数

区分	回答者数	構成比 (%)
1 度	14	1.7
2 度	43	5.2
3 度	54	6.6
4 度	70	8.5
無回答	640	78.0
全体	821	100.0



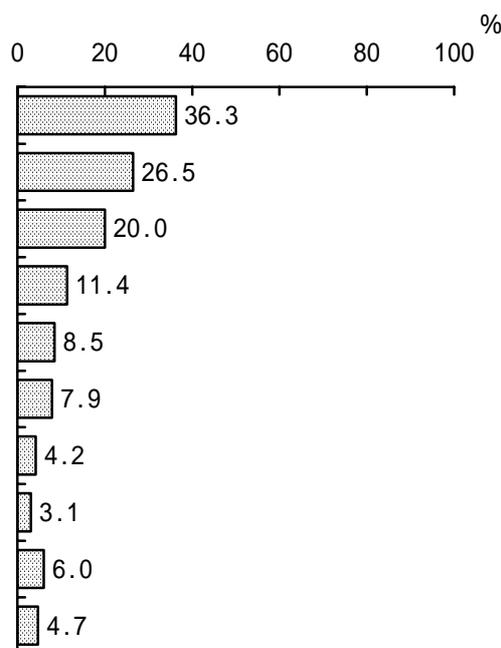
(6) 精神障害者保健福祉手帳の等級

区分	回答者数	構成比 (%)
1 級	22	2.7
2 級	84	10.2
3 級	54	6.6
無回答	661	80.5
全体	821	100.0



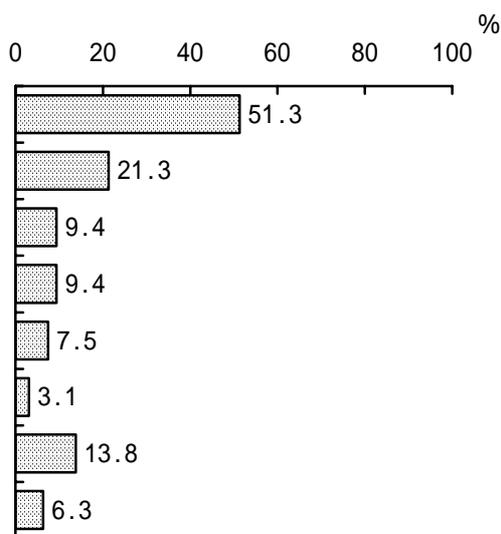
(7) 身体障害者手帳に記載された障害名 (複数回答)

区分	回答者数	構成比 (%)
下肢機能障害	201	36.3
内部機能障害	147	26.5
上肢機能障害	111	20.0
体幹機能障害	63	11.4
視覚障害	47	8.5
聴覚障害・平衡機能障害	44	7.9
音声・言語・そしゃく機能障害	23	4.2
肢体不自由 (脳原性まひ)	17	3.1
その他	33	6.0
無回答	26	4.7
全体	554	100.0



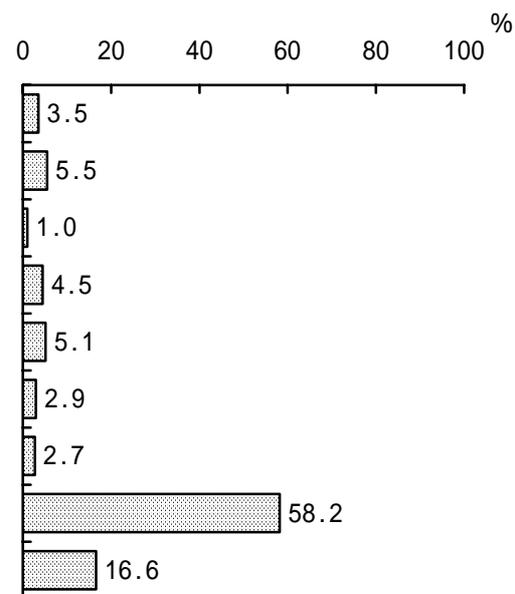
(8) 精神障害の診断名 (複数回答)

区分	回答者数	構成比 (%)
統合失調症	82	51.3
気分障害 (躁うつ病、うつ病)	34	21.3
神経症	15	9.4
てんかん	15	9.4
人格および行動の障害	12	7.5
アルコール、薬物依存症	5	3.1
その他	22	13.8
無回答	10	6.3
全体	160	100.0



(9) 要支援・要介護認定

区分	回答者数	構成比 (%)
要支援 1	29	3.5
要支援 2	45	5.5
要介護 1	8	1.0
要介護 2	37	4.5
要介護 3	42	5.1
要介護 4	24	2.9
要介護 5	22	2.7
要支援・要介護認定は 受けていない	478	58.2
無回答	136	16.6
全体	821	100.0



(10) 所持手帳別アンケート回答者

1. 身体障害者手帳の等級別

	構成比 (%)						
	回答者数	1級	2級	3級	4級	5級	6級
全体	554	37.9	15.2	16.8	19.3	6.7	4.2
ご本人	428	35.3	12.4	17.8	22.2	7.7	4.7
配偶者	31	32.3	25.8	25.8	12.9	3.2	-
子どもまたはその配偶者	28	57.1	14.3	7.1	14.3	3.6	3.6
親	43	51.2	20.9	11.6	9.3	4.7	2.3
兄弟姉妹	9	55.6	44.4	-	-	-	-
友人、知人	2	50.0	50.0	-	-	-	-
その他	7	28.6	42.9	28.6	-	-	-

注：アンケート回答者については無回答があったため、内訳の合計数が全体の回答者数と一致しない。

2. 愛の手帳の度数別

	構成比 (%)				
	回答者数	1度	2度	3度	4度
全体	181	7.7	23.8	29.8	38.7
ご本人	58	10.3	13.8	19.0	56.9
配偶者	2	-	-	100.0	-
子どもまたはその配偶者	1	-	-	-	100.0
親	102	5.9	31.4	34.3	28.4
兄弟姉妹	8	25.0	12.5	50.0	12.5
友人、知人	-	-	-	-	-
その他	7	-	28.6	28.6	42.9

注：アンケート回答者については無回答があったため、内訳の合計数が全体の回答者数と一致しない。

3. 精神障害者保健福祉手帳の等級別

	回答者数	構成比 (%)		
		1級	2級	3級
全体	160	13.8	52.5	33.8
ご本人	121	8.3	59.5	32.2
配偶者	6	50.0	-	50.0
子どもまたはその配偶者	-	-	-	-
親	22	18.2	45.5	36.4
兄弟姉妹	6	50.0	16.7	33.3
友人、知人	-	-	-	-
その他	3	33.3	33.3	33.3

注：アンケート回答者については無回答があったため、内訳の合計数が全体の回答者数と一致しない。

(11) 所持手帳別本人年齢

区分	身体障害者手帳		愛の手帳		精神障害者 保健福祉手帳	
	回答者数	構成比 (%)	回答者数	構成比 (%)	回答者数	構成比 (%)
0歳～5歳	4	0.7	5	2.8	0	-
6歳～11歳	3	0.5	11	6.1	1	0.6
12歳～17歳	2	0.4	22	12.2	1	0.6
18歳～19歳	2	0.4	9	5.0	0	-
20歳～24歳	5	0.9	15	8.3	5	3.1
25歳～29歳	4	0.7	11	6.1	5	3.1
30歳～34歳	22	4.0	20	11.0	15	9.4
35歳～39歳	19	3.4	21	11.6	19	11.9
40歳～44歳	21	3.8	17	9.4	19	11.9
45歳～49歳	18	3.2	13	7.2	16	10.0
50歳～54歳	19	3.4	9	5.0	30	18.8
55歳～59歳	37	6.7	4	2.2	16	10.0
60歳～64歳	61	11.0	11	6.1	17	10.6
65歳～69歳	65	11.7	2	1.1	8	5.0
70歳～74歳	61	11.0	4	2.2	3	1.9
75歳～79歳	83	15.0	3	1.7	2	1.3
80歳以上	126	22.7	4	2.2	2	1.3
無回答	2	0.4	0	-	1	0.6
全体	554	100.0	181	100.0	160	100.0

2. 住まいについて

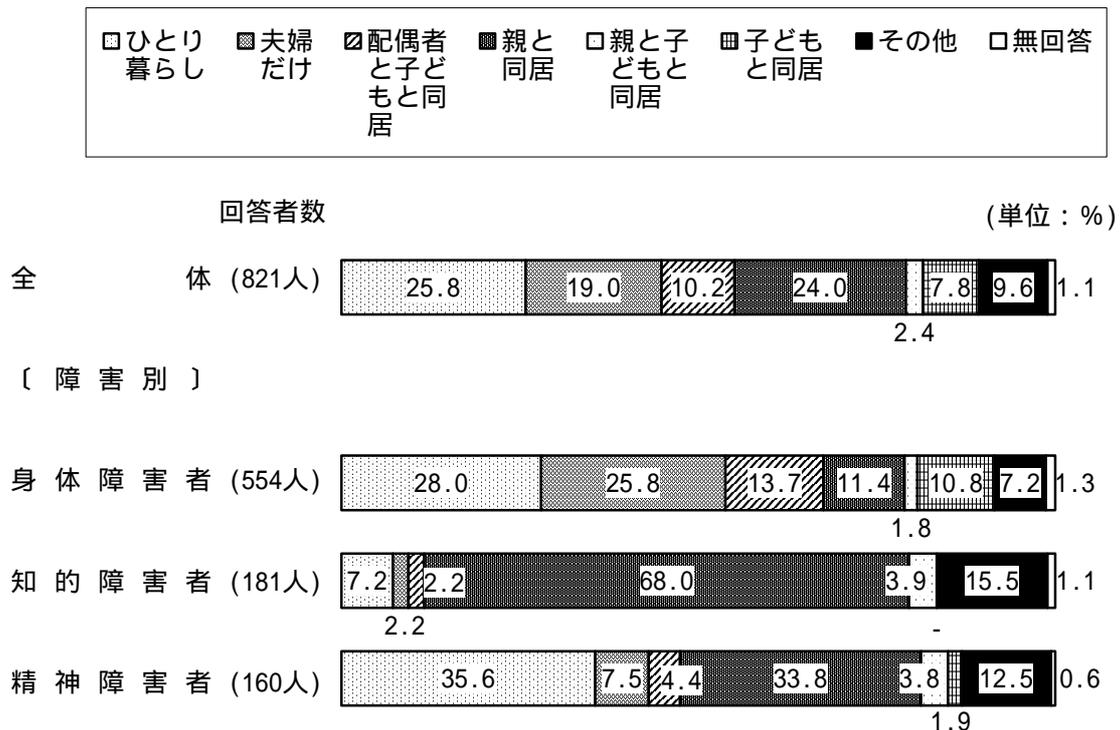
(1) 家族構成

ひとり暮らし、親と同居がそれぞれ4人に1人

(全員の方に)

問8. あなた(ご本人)の家族構成をお答えください。(は1つ)

図 - 2 - 1



家族構成については、全体では、「ひとり暮らし」(25.8%)が最も多く、次いで「親と同居」(24.0%)も2割半となっている。以下、「夫婦だけ」(19.0%)、「配偶者と子どもと同居」(10.2%)、「子どもと同居」(7.8%)、「親と子どもと同居」(2.4%)となっている。

身体障害者では、「ひとり暮らし」(28.0%)が最も多く、以下、「夫婦だけ」(25.8%)、「配偶者と子どもと同居」(13.7%)、「親と同居」(11.4%)、「子どもと同居」(10.8%)、「親と子どもと同居」(1.8%)となっている。

知的障害者では、「親と同居」(68.0%)が最も多く、以下、「ひとり暮らし」(7.2%)、「親と子どもと同居」(3.9%)、「夫婦だけ」と「配偶者と子どもと同居」(各2.2%)となっている。

精神障害者では、「ひとり暮らし」(35.6%)が最も多く、以下、「親と同居」(33.8%)、「夫婦だけ」(7.5%)、「配偶者と子どもと同居」(4.4%)、「親と子どもと同居」(3.8%)、「子どもと同居」(1.9%)の順になっている。(図 - 2 - 1)

表 - 2 - 1 年齢別

単位：%

	回答者数	ひとり暮らし	夫婦だけ	配偶者と子どもと同居	親と同居	親と子どもと同居	子どもと同居	その他	無回答
全体	821	25.8	19.0	10.2	24.0	2.4	7.8	9.6	1.1
0～11歳	20	-	-	5.0	85.0	5.0	-	5.0	-
12～19歳	33	3.0	-	-	87.9	3.0	-	6.1	-
20～29歳	38	18.4	2.6	2.6	68.4	2.6	-	5.3	-
30～39歳	97	17.5	2.1	5.2	59.8	4.1	1.0	9.3	1.0
40～49歳	88	21.6	4.5	3.4	52.3	1.1	1.1	14.8	1.1
50～59歳	102	43.1	8.8	11.8	13.7	2.0	4.9	14.7	1.0
60～69歳	147	27.2	29.9	17.7	4.8	2.0	8.8	9.5	-
70～79歳	153	25.5	40.5	14.4	-	0.7	11.1	6.5	1.3
80歳以上	135	32.6	23.7	10.4	-	3.7	20.0	7.4	2.2

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、「ひとり暮らし」は50歳代で43.1%、80歳以上で32.6%と高くなっている。「親と同居」は0歳～40歳代で高く、特に0～11歳で85.0%、12～19歳で87.9%となっている。また、「夫婦だけ」は70歳代で40%、60歳代で30%と高くなっている。(表 - 2 - 1)

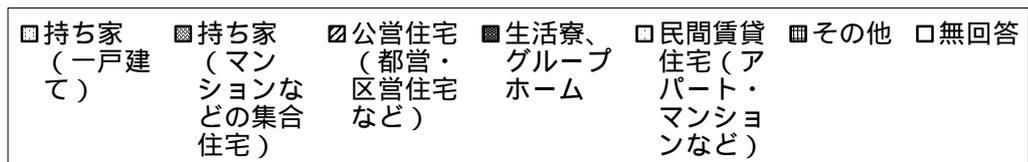
(2) 住居形態

持ち家の人は6割

(全員の方に)

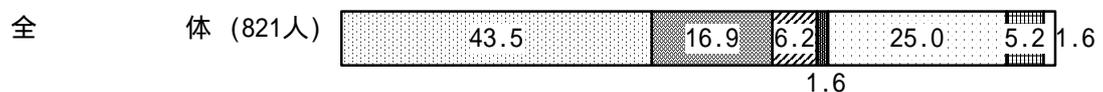
問9 . あなた (ご本人) のお住まいは次のどれにあたりますか。(〇 は1つ)

図 - 2 - 2

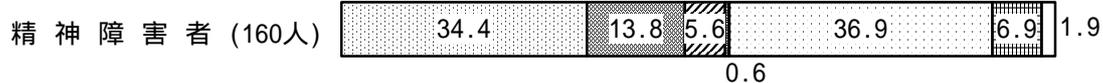
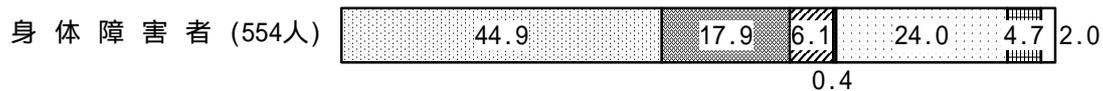


回答者数

(単位 : %)



[障 害 別]



住居形態については、全体では、「持ち家（一戸建て）」（43.5%）が最も多く、以下、「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」（25.0%）、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」（16.9%）、「公営住宅（都営・区営住宅など）」（6.2%）、「生活寮、グループホーム」（1.6%）となっている。

身体障害者では、「持ち家（一戸建て）」（44.9%）が最も多く、以下、「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」（24.0%）、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」（17.9%）、「公営住宅（都営・区営住宅など）」（6.1%）、「生活寮、グループホーム」（0.4%）となっている。

知的障害者では、「持ち家（一戸建て）」（40.9%）が最も多く、以下、「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」（21.0%）、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」（17.7%）、「生活寮、グループホーム」（6.1%）、「公営住宅（都営・区営住宅など）」（3.9%）となっている。

精神障害者では、「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」（36.9%）が最も多く、以下、「持ち家（一戸建て）」（34.4%）、「持ち家（マンションなどの集合住宅）」（13.8%）、「公営住宅（都営・区営住宅など）」（5.6%）、「生活寮、グループホーム」（0.6%）となっている。

（図 - 2 - 2）

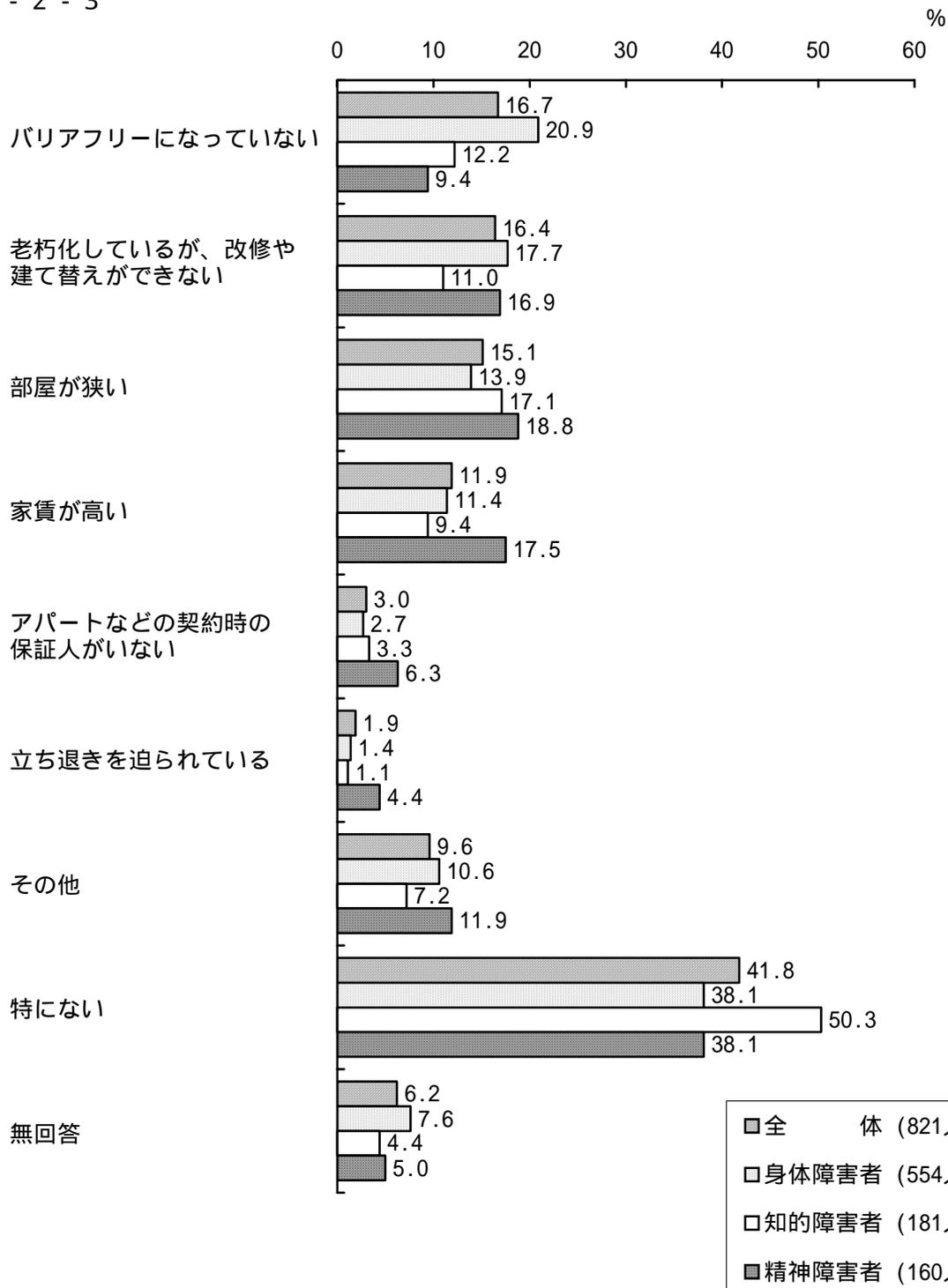
(3) 住宅で困っていること

困っていることがある人は5割以上

(全員の方に)

問10. あなた(ご本人)の住宅で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 2 - 3



住宅で困っていることとしては、全体では、「バリアフリーになっていない」(16.7%)が最も多く、以下、「老朽化しているが、改修や建て替えができない」(16.4%)、「部屋が狭い」(15.1%)、「家賃が高い」(11.9%)、「アパートなどの契約時の保証人がいない」(3.0%)、「立ち退きを迫られている」(1.9%)の順になっている。一方、「特にない」と答えた人は41.8%となっている。

身体障害者では、「バリアフリーになっていない」(20.9%)が最も多く、以下、「老朽化しているが、改修や建て替えができない」(17.7%)、「部屋が狭い」(13.9%)、「家賃が高い」(11.4%)、「アパートなどの契約時の保証人がいない」(2.7%)、「立ち退きを迫られている」(1.4%)の順になっている。一方、「特にない」と答えた人は38.1%となっている。

知的障害者では、「部屋が狭い」(17.1%)が最も多く、以下、「バリアフリーになっていない」(12.2%)、「老朽化しているが、改修や建て替えができない」(11.0%)、「家賃が高い」(9.4%)、「アパートなどの契約時の保証人がいない」(3.3%)、「立ち退きを迫られている」(1.1%)の順になっている。一方、「特にない」と答えた人は50.3%となっている。

精神障害者では、「部屋が狭い」(18.8%)が最も多く、以下、「家賃が高い」(17.5%)、「老朽化しているが、改修や建て替えができない」(16.9%)、「バリアフリーになっていない」(9.4%)、「アパートなどの契約時の保証人がいない」(6.3%)、「立ち退きを迫られている」(4.4%)の順になっている。一方、「特にない」と答えた人は38.1%となっている。(図 - 2 - 3)

表 - 2 - 2 身体障害者手帳に記載された障害名別

単位: %

	回答者数	バリアフリーになっていない	老朽化しているが、改修や建て替えができない	部屋が狭い	家賃が高い	アパートなどの契約時の保証人がいない	立ち退きを迫られている	その他	特にない	無回答	
全体	554	20.9	17.7	13.9	11.4	2.7	1.4	10.6	38.1	7.6	
手帳に記載の障害名	上肢機能障害	111	30.6	23.4	18.9	14.4	2.7	1.8	15.3	28.8	4.5
	下肢機能障害	201	27.9	19.9	15.4	10.4	4.0	2.0	14.4	32.8	7.5
	体幹機能障害	63	36.5	17.5	17.5	11.1	1.6	1.6	12.7	22.2	3.2
	内部機能障害	147	17.0	19.0	15.0	12.9	2.0	-	8.8	42.2	7.5
	視覚障害	47	10.6	8.5	17.0	8.5	2.1	4.3	6.4	51.1	8.5
	聴覚障害・平衡機能障害	44	18.2	13.6	11.4	6.8	-	2.3	11.4	40.9	9.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	23	21.7	17.4	8.7	17.4	-	4.3	17.4	26.1	4.3
	肢体不自由(脳原性まひ)	17	23.5	17.6	5.9	23.5	-	-	11.8	35.3	5.9
その他	33	15.2	12.1	6.1	9.1	3.0	-	3.0	54.5	6.1	

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

身体障害者手帳に記載された障害名別に見ると、「バリアフリーになっていない」は体幹機能障害(36.5%)、上肢機能障害(30.6%)、下肢機能障害(27.9%)で多くなっている。また、上肢機能障害は、「老朽化しているが、改修や建て替えができない」(23.4%)、「部屋が狭い」(18.9%)でも多くなっている。(表 - 2 - 2)

表 - 2 - 3 家族構成別

単位: %

	回答者数	てバリアフリーになっ ていない	改修や建て替えがで きない	老朽化して いるが、	部屋が狭い	家賃が高い	アパ ートの 保証人 などの 契約	立 ち退 きを 迫ら れて いる	その他	特 に な い	無 回 答
全体	821	16.7	16.4	15.1	11.9	3.0	1.9	9.6	41.8	6.2	
ひとり暮らし	212	12.7	14.2	13.2	18.9	6.6	4.2	11.3	37.3	5.7	
夫婦だけ	156	22.4	19.2	11.5	9.6	0.6	0.6	9.0	41.0	6.4	
配偶者と子どもと同居	84	19.0	20.2	20.2	9.5	1.2	2.4	8.3	35.7	7.1	
親と同居	197	13.7	13.2	20.8	11.2	3.0	1.0	7.6	48.2	3.0	
親と子どもと同居	20	5.0	20.0	15.0	10.0	-	-	10.0	50.0	15.0	
子どもと同居	64	29.7	25.0	7.8	4.7	-	-	17.2	40.6	4.7	
その他	79	13.9	13.9	15.2	10.1	3.8	2.5	7.6	49.4	5.1	

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

家族構成別では、子どもと同居は「バリアフリーになっていない」(29.7%)、「老朽化しているが、改修や建て替えができない」(25.0%)で多くなっている。また、「バリアフリーになっていない」は夫婦だけ(22.4%)でも多くなっている。ひとり暮らしは「家賃が高い」(18.9%)で、配偶者と子供と同居、親と同居は「部屋が狭い」でそれぞれ約2割となっている。(表 - 2 - 3)

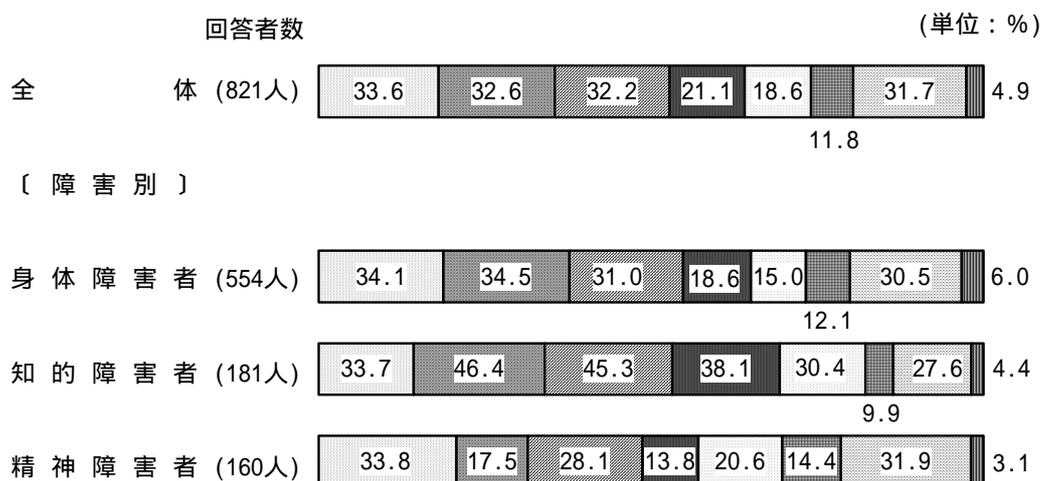
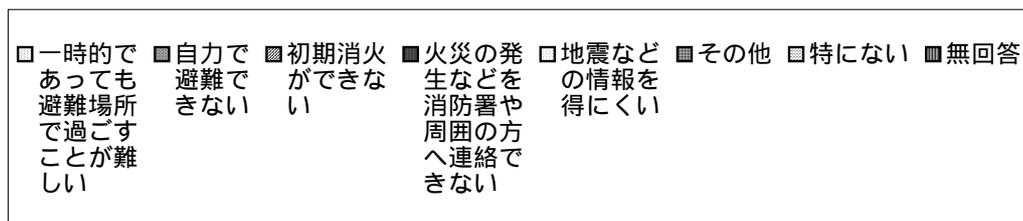
(4) 火事や地震などの災害に関して不安を感じていること

6割強の人が何らかの不安を感じている

(全員の方に)

問11. 火事や地震などの災害に関して、障害があるためにあなた(ご本人)が不安を感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 2 - 4



火事や地震などの災害に関して不安を感じていることとしては、全体では、「一時的であつても避難場所ですぐることが難しい」(33.6%)が最も多く、以下、「自力で避難できない」(32.6%)、「初期消火ができない」(32.2%)、「火災の発生などを消防署や周囲の方へ連絡できない」(21.1%)、「地震などの情報を得にくい」(18.6%)の順になっている。一方、「特になし」と答えた人は31.7%となっている。

身体障害者では、「自力で避難できない」(34.5%)が最も多く、以下、「一時的であっても避難場所で過ごすことが難しい」(34.1%)、「初期消火ができない」(31.0%)、「火災の発生などを消防署や周囲の方へ連絡できない」(18.6%)、「地震などの情報を得にくい」(15.0%)の順になっている。一方、「特にない」と答えた人は30.5%となっている。

知的障害者では、「自力で避難できない」(46.4%)が最も多く、以下、「初期消火ができない」(45.3%)、「火災の発生などを消防署や周囲の方へ連絡できない」(38.1%)、「一時的であっても避難場所で過ごすことが難しい」(33.7%)、「地震などの情報を得にくい」(30.4%)の順になっている。一方、「特にない」と答えた人は27.6%となっている。

精神障害者では、「一時的であっても避難場所で過ごすことが難しい」(33.8%)が最も多く、以下、「初期消火ができない」(28.1%)、「地震などの情報を得にくい」(20.6%)、「自力で避難できない」(17.5%)、「火災の発生などを消防署や周囲の方へ連絡できない」(13.8%)の順になっている。一方、「特にない」と答えた人は31.9%となっている。(図 - 2 - 4)

表 - 2 - 4 身体障害者手帳に記載された障害名別

単位: %

	回答者数	自力で避難できない	一時的で過ごすことも避難が難しい	初期消火ができない	消防署や周囲の方へ連絡できない	地震などの情報を得にくい	その他	特にない	無回答	
全体	554	34.5	34.1	31.0	18.6	15.0	12.1	30.5	6.0	
手帳に記載の障害名	上肢機能障害	111	53.2	42.3	46.8	27.9	14.4	9.0	22.5	1.8
	下肢機能障害	201	45.3	40.3	40.8	16.4	12.9	8.5	26.9	3.5
	体幹機能障害	63	63.5	54.0	52.4	27.0	20.6	9.5	12.7	3.2
	内部機能障害	147	20.4	29.3	17.0	10.2	9.5	21.1	34.7	8.2
	視覚障害	47	34.0	29.8	25.5	19.1	12.8	4.3	34.0	6.4
	聴覚障害・平衡機能障害	44	36.4	29.5	27.3	40.9	43.2	15.9	25.0	6.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	23	43.5	30.4	39.1	39.1	17.4	4.3	30.4	-
	肢体不自由(脳原性まひ)	17	52.9	52.9	47.1	29.4	23.5	11.8	17.6	-
	その他	33	24.2	27.3	30.3	21.2	18.2	15.2	51.5	-

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

身体障害者手帳に記載された障害名別に見ると、「自力で避難できない」「一時的であっても避難場所で過ごすことが難しい」「初期消火ができない」は体幹機能障害で半数を超えており、特に「自力で避難できない」は63.5%と最も多くなっている。また、上肢機能障害、下肢機能障害、肢体不自由(脳原性まひ)でも4割以上となっている。聴覚障害・平衡機能障害の人は「火災の発生などを消防署や周囲の方へ連絡できない」(40.9%)、「地震などの情報を得にくい」(43.2%)でそれぞれ4割以上となっている。(表 - 2 - 4)

表 - 2 - 5 年齢別

単位：%

	回答者数	が難一 難場時的 しい所で いであつ て過つ ても避 けられ ない	自力で 避難 でき ない	初期 消火 が でき ない	火災 の 発 生 な ど を 消 滅 し な い 方 へ 連 絡 し な い	地震 な ど の 情 報 を 得 ない	その他	特 に ない	無 回 答
全体	821	33.6	32.6	32.2	21.1	18.6	11.8	31.7	4.9
0～11歳	20	50.0	80.0	70.0	60.0	55.0	-	10.0	-
12～19歳	33	45.5	51.5	51.5	39.4	39.4	18.2	18.2	3.0
20～29歳	38	42.1	44.7	52.6	50.0	34.2	13.2	18.4	-
30～39歳	97	38.1	26.8	32.0	20.6	21.6	16.5	33.0	5.2
40～49歳	88	30.7	20.5	23.9	15.9	15.9	14.8	37.5	6.8
50～59歳	102	23.5	17.6	22.5	12.7	8.8	8.8	42.2	2.0
60～69歳	147	31.3	26.5	23.8	13.6	12.9	12.9	36.1	3.4
70～79歳	153	30.7	32.0	28.8	19.0	15.0	4.6	37.3	7.8
80歳以上	135	40.0	49.6	42.2	23.0	21.5	15.6	18.5	5.2

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、全般的に0～29歳で高くなっている。また、80歳以上が上位3項目で高くなっている。(表 - 2 - 5)

3. 日常生活の介護や支援について

(1) 日常生活で介助を必要とすること

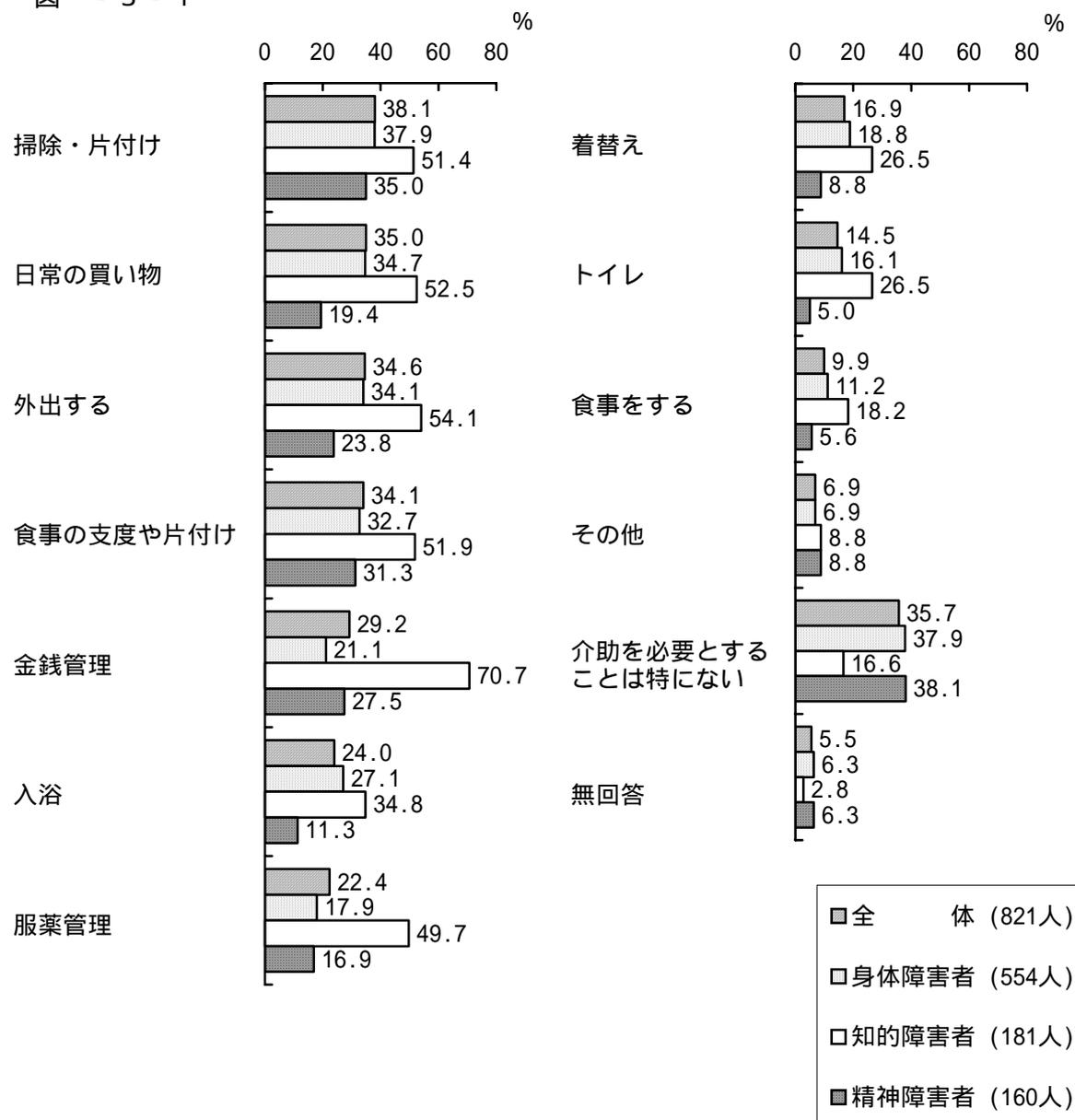
6 割弱の人が何らかの介助を必要としている

(全員の方に)

問12. あなた(ご本人)の日常生活で介助を必要とすることはありますか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 3 - 1



日常生活で介助を必要とすることとしては、全体では、「掃除・片付け」(38.1%)が最も多く、以下、「日常の買い物」(35.0%)、「外出する」(34.6%)、「食事の支度や片付け」(34.1%)、「金銭管理」(29.2%)、「入浴」(24.0%)、「服薬管理」(22.4%)、「着替え」(16.9%)、「トイレ」(14.5%)、「食事をする」(9.9%)の順になっている。一方、「介助を必要とすることは特にない」と答えた人は35.7%となっている。

身体障害者では、「掃除・片付け」(37.9%)が最も多く、以下、「日常の買い物」(34.7%)、「外出する」(34.1%)、「食事の支度や片付け」(32.7%)、「入浴」(27.1%)、「金銭管理」(21.1%)、「着替え」(18.8%)、「服薬管理」(17.9%)、「トイレ」(16.1%)、「食事をする」(11.2%)の順になっている。一方、「介助を必要とすることは特にない」と答えた人は37.9%となっている。

知的障害者では、「金銭管理」(70.7%)が最も多く、以下、「外出する」(54.1%)、「日常の買い物」(52.5%)、「食事の支度や片付け」(51.9%)、「掃除・片付け」(51.4%)、「服薬管理」(49.7%)、「入浴」(34.8%)、「トイレ」と「着替え」(各26.5%)、「食事をする」(18.2%)の順になっている。一方、「介助を必要とすることは特にない」と答えた人は16.6%となっている。

精神障害者では、「掃除・片付け」(35.0%)が最も多く、以下、「食事の支度や片付け」(31.3%)、「金銭管理」(27.5%)、「外出する」(23.8%)、「日常の買い物」(19.4%)、「服薬管理」(16.9%)、「入浴」(11.3%)、「着替え」(8.8%)、「食事をする」(5.6%)、「トイレ」(5.0%)の順になっている。一方、「介助を必要とすることは特にない」と答えた人は38.1%となっている。(図 - 3 - 1)

表 - 3 - 1 年齢別

単位: %

	回答者数	掃除・片付け	日常の買い物	外出する	食事の支度や片付け	金銭管理	入浴	服薬管理	着替え	トイレ	食事をする	その他	介助を必要とする とは特にない	無回答
全体	821	38.1	35.0	34.6	34.1	29.2	24.0	22.4	16.9	14.5	9.9	6.9	35.7	5.5
0～11歳	20	85.0	85.0	95.0	80.0	90.0	80.0	90.0	55.0	55.0	25.0	5.0	5.0	-
12～19歳	33	54.5	66.7	57.6	54.5	75.8	39.4	66.7	33.3	30.3	18.2	12.1	12.1	6.1
20～29歳	38	55.3	44.7	47.4	44.7	63.2	28.9	44.7	21.1	18.4	10.5	10.5	18.4	0.0
30～39歳	97	37.1	30.9	30.9	35.1	33.0	17.5	23.7	17.5	13.4	11.3	10.3	35.1	7.2
40～49歳	88	27.3	23.9	27.3	33.0	35.2	11.4	18.2	9.1	9.1	6.8	8.0	39.8	2.3
50～59歳	102	24.5	20.6	26.5	22.5	20.6	15.7	12.7	11.8	9.8	6.9	3.9	53.9	3.9
60～69歳	147	28.6	23.8	23.8	26.5	16.3	20.4	10.2	11.6	9.5	3.4	5.4	49.0	6.8
70～79歳	153	37.3	34.0	30.1	28.8	19.0	20.3	16.3	13.7	13.1	10.5	5.2	38.6	5.9
80歳以上	135	51.9	51.1	47.4	43.0	25.9	38.5	25.2	24.4	19.3	15.6	7.4	17.0	8.1

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、全般的に0歳～29歳と80歳以上で高くなっている。(表 - 3 - 1)

表 - 3 - 2 家族構成別

単位: %

	回答者数	掃除・片付け	日常の買い物	外出する	食事の支度や片付け	金銭管理	入浴	服薬管理	着替え	トイレ	食事をする	その他	介助を必要とする とは特にない	無回答
全体	821	38.1	35.0	34.6	34.1	29.2	24.0	22.4	16.9	14.5	9.9	6.9	35.7	5.5
ひとり暮らし	212	31.1	23.6	21.7	21.2	9.4	16.0	6.6	6.6	5.2	4.7	5.7	47.6	6.6
夫婦だけ	156	39.7	37.2	35.9	35.3	24.4	23.1	18.6	21.2	14.1	9.0	7.7	30.1	9.0
配偶者と子どもと同居	84	21.4	22.6	26.2	20.2	11.9	21.4	9.5	9.5	9.5	6.0	6.0	53.6	3.6
親と同居	197	48.2	46.2	47.2	47.2	56.9	29.4	41.6	24.4	22.3	14.7	8.6	24.4	3.0
親と子どもと同居	20	30.0	20.0	15.0	25.0	30.0	15.0	25.0	10.0	5.0	10.0	10.0	30.0	10.0
子どもと同居	64	54.7	51.6	48.4	43.8	29.7	37.5	28.1	26.6	29.7	18.8	3.1	34.4	1.6
その他	79	36.7	38.0	39.2	45.6	43.0	30.4	34.2	21.5	17.7	11.4	8.9	25.3	6.3

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

家族構成別では全体的に、子どもと同居、親と同居で多くなっている。(表 - 3 - 2)

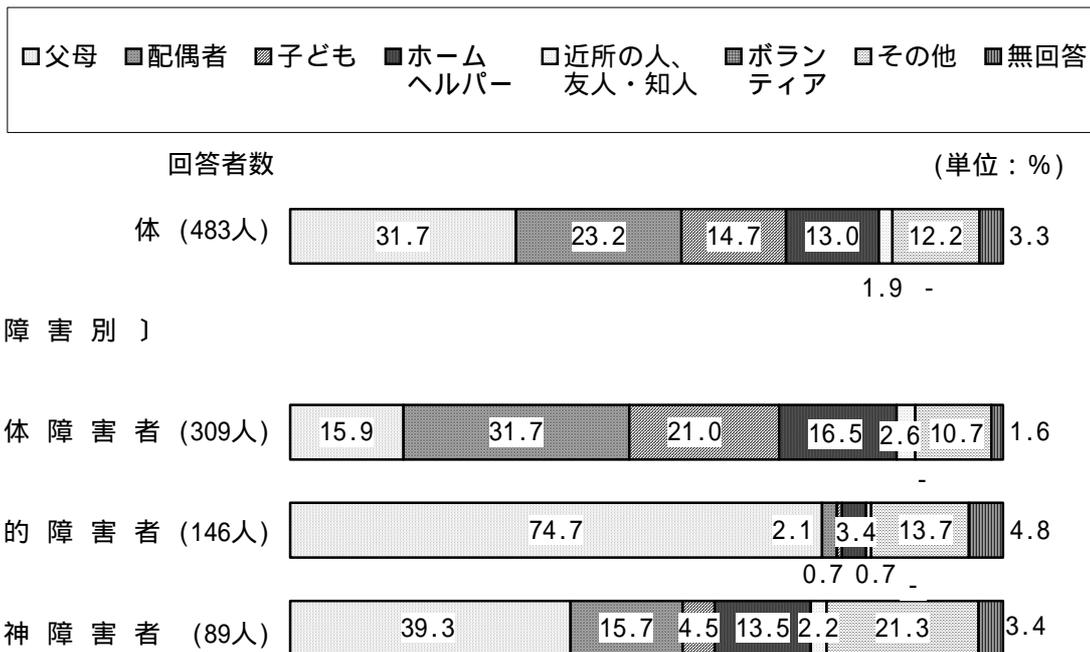
(2) 主な介助者

父母が 3 割強、配偶者が 2 割強

(問 12 で「 1 ~ 11 」の具体的な介助が必要と答えた方に)

問 13 . あなた (ご本人) の主な介助者はどなたですか。 (〇 は 1 つ)

図 - 3 - 2



主な介助者については、全体では、「父母」(31.7%)が最も多く、以下、「配偶者」(23.2%)、「子ども」(14.7%)、「ホームヘルパー」(13.0%)、「近所の人、友人・知人」(1.9%)の順になっている。

身体障害者では、「配偶者」(31.7%)が最も多く、以下、「子ども」(21.0%)、「ホームヘルパー」(16.5%)、「父母」(15.9%)、「近所の人、友人・知人」(2.6%)の順になっている。

知的障害者では、「父母」(74.7%)が最も多く、以下、「ホームヘルパー」(3.4%)、「配偶者」(2.1%)、「子ども」(0.7%)、「近所の人、友人・知人」(0.7%)の順になっている。

精神障害者では、「父母」(39.3%)が最も多く、以下、「配偶者」(15.7%)、「ホームヘルパー」(13.5%)、「子ども」(4.5%)、「近所の人、友人・知人」(2.2%)の順になっている。(図 - 3 - 2)

表 - 3 - 3 年齢、家族構成別

単位：%

		回答者数	父母	配偶者	子ども	近所の人、友人・知人	ホームヘルパー	ボランティア	その他	無回答
全体		483	31.7	23.2	14.7	1.9	13.0	-	12.2	3.3
年齢別	0～11歳	19	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	12～19歳	27	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	31	87.1	-	-	-	6.5	-	-	6.5
	30～39歳	56	71.4	3.6	1.8	1.8	3.6	-	8.9	8.9
	40～49歳	51	56.9	9.8	2.0	-	7.8	-	23.5	-
	50～59歳	43	20.9	16.3	7.0	7.0	18.6	-	25.6	4.7
	60～69歳	65	3.1	46.2	12.3	1.5	20.0	-	13.8	3.1
	70～79歳	85	-	49.4	16.5	3.5	17.6	-	9.4	3.5
	80歳以上	101	-	24.8	43.6	1.0	16.8	-	13.9	-
家族構成別	ひとり暮らし	97	5.2	1.0	20.6	6.2	45.4	-	14.4	7.2
	夫婦だけ	95	-	83.2	4.2	1.1	6.3	-	3.2	2.1
	配偶者と子どもと同居	36	5.6	69.4	19.4	-	2.8	-	2.8	-
	親と同居	143	93.0	0.7	-	0.7	2.1	-	2.1	1.4
	親と子どもと同居	12	58.3	25.0	8.3	-	-	-	-	8.3
	子どもと同居	41	2.4	-	85.4	2.4	4.9	-	4.9	-
	その他	54	9.3	3.7	5.6	-	9.3	-	66.7	5.6

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、「父母」と答えた人は年齢が若いほど割合が多く、0～19歳では100%、20歳代で9割弱、30歳代で7割強となっている。また、「ホームヘルパー」と答えた人は50～60歳代で約2割、「配偶者」と答えた人は60～70歳代で5割弱、「子供」と答えた人は80歳以上で4割強となっている。(表 - 3 - 3)

家族構成別に見ると、ひとり暮らしは「ホームヘルパー」(45.4%)、「子ども」(20.6%)で多くなっている。また、「配偶者」と答えた人は夫婦だけ(83.2%)、配偶者と子どもと同居(69.4%)で、「父母」と答えた人は、親と同居(93.0%)、親と子どもと同居(58.3%)で、「子ども」と答えた人は子どもと同居(85.4%)で、それぞれ多くなっている。(表 - 3 - 3)

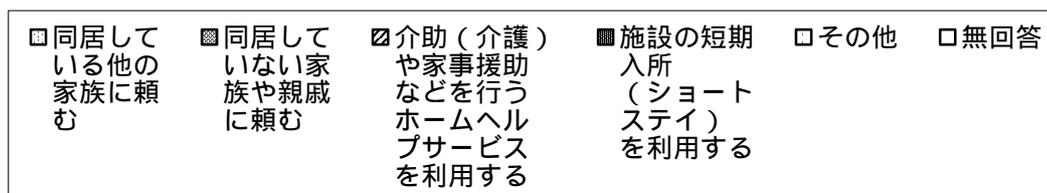
(3) 主な介助者が介助困難になった場合の対処

「ホームヘルプサービスの利用」と「同居している他の家族に頼む」が2割強

(全員の方に)

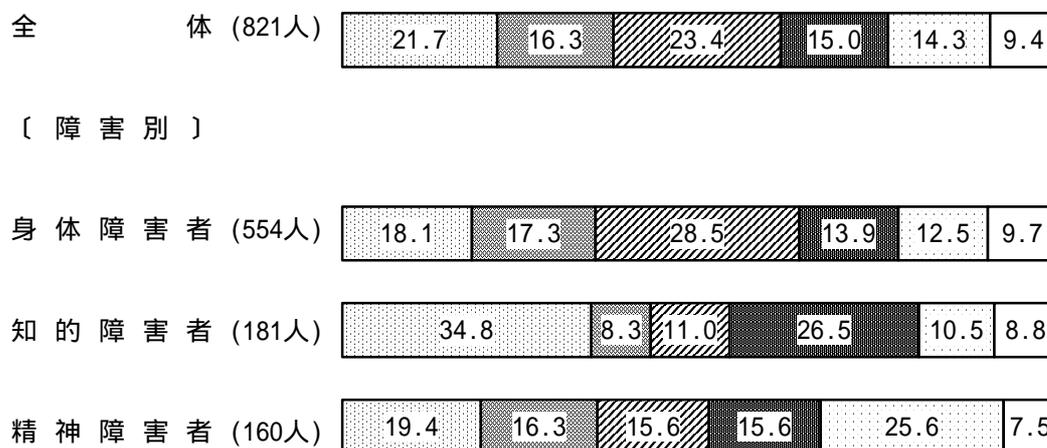
問14. あなた(ご本人)の主な介助者が急病・事故などで介助が困難になった場合、どのよう
にしたいですか。(は1つ)

図 - 3 - 3



回答者数

(単位：%)



主な介助者が急病・事故などで介助が困難になった場合の対処については、全体では、「介助(介護)や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用する」(23.4%)が最も多く、以下、「同居している他の家族に頼む」(21.7%)、「同居していない家族や親戚に頼む」(16.3%)、「施設の短期入所(ショートステイ)を利用する」(15.0%)となっている。

身体障害者では、「介助(介護)や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用する」(28.5%)が最も多く、以下、「同居している他の家族に頼む」(18.1%)、「同居していない家族や親戚に頼む」(17.3%)、「施設の短期入所(ショートステイ)を利用する」(13.9%)となっている。

知的障害者では、「同居している他の家族に頼む」(34.8%)が最も多く、以下、「施設の短期入所(ショートステイ)を利用する」(26.5%)、「介助(介護)や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用する」(11.0%)、「同居していない家族や親戚に頼む」(8.3%)となっている。

精神障害者では、「同居している他の家族に頼む」(19.4%)が最も多く、以下、「同居していない家族や親戚に頼む」(16.3%)、「介助(介護)や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用する」と「施設の短期入所(ショートステイ)を利用する」(各15.6%)となっている。(図 - 3 - 3)

表 - 3 - 4 年齢別

単位：%

	回答者数	同居している他の家族に頼む	同居していない家族や親戚に頼む	介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用する	施設の短期入所（ショートステイ）を利用する	その他	無回答
全体	821	21.7	16.3	23.4	15.0	14.3	9.4
0～11歳	20	65.0	10.0	5.0	20.0	-	-
12～19歳	33	60.6	9.1	-	27.3	-	3.0
20～29歳	38	36.8	18.4	10.5	23.7	7.9	2.6
30～39歳	97	23.7	11.3	13.4	23.7	18.6	9.3
40～49歳	88	20.5	15.9	21.6	13.6	20.5	8.0
50～59歳	102	18.6	16.7	17.6	10.8	26.5	9.8
60～69歳	147	17.7	12.9	29.9	12.2	17.7	9.5
70～79歳	153	16.3	20.9	32.0	9.2	9.2	12.4
80歳以上	135	12.6	20.0	31.9	16.3	8.1	11.1

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、「同居している他の家族に頼む」と答えた人は0～19歳で6割以上、20歳代で4割弱と多く、年齢が高くなるほど割合が低くなる傾向が見られる。また、「施設の短期入所（ショートステイ）を利用する」と答えた人は0歳～30歳代で2割以上となっている。一方、「介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用する」は60歳代以上で3割前後と多くなっている。（表 - 3 - 4）

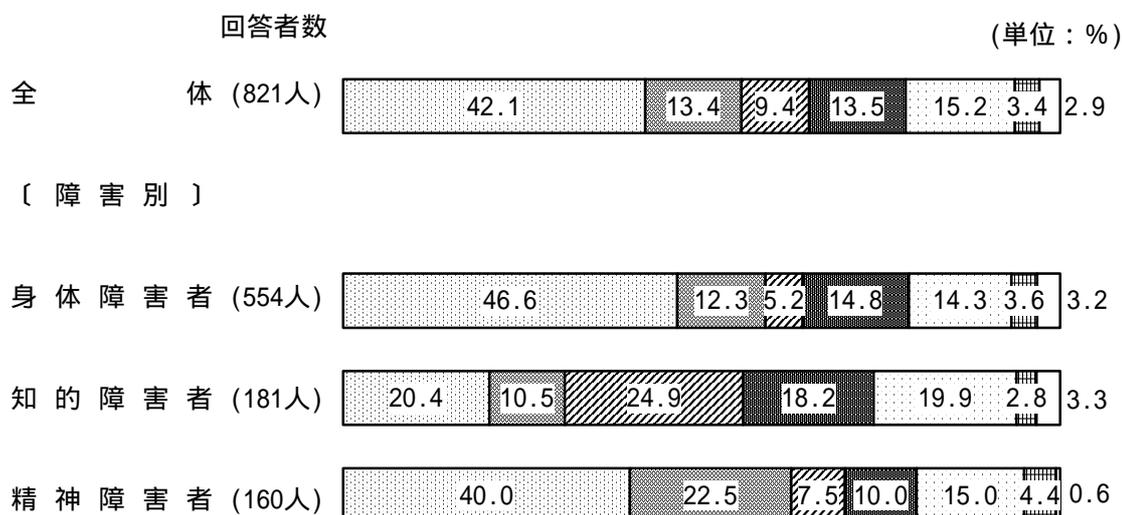
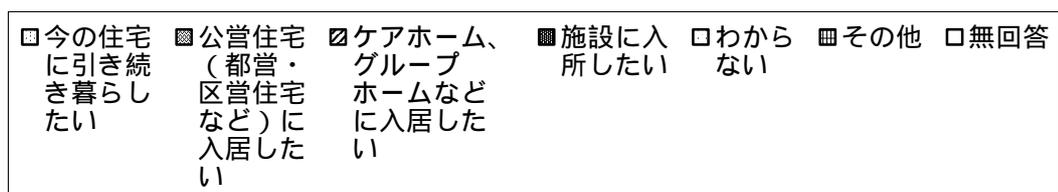
(4) ひとり暮らしになった場合の意向

「今の住宅に引き続き暮らしたい」が4割強

(全員の方に)

問15. もし、あなた(ご本人)がひとり暮らしになった場合を想定すると、どのようなところで生活したいと思いますか。現在、すでにひとり暮らしの方は、今後の意向をお答えください。(は1つ)

図 - 3 - 4



ひとり暮らしになった場合の意向については、全体では、「今の住宅に引き続き暮らしたい」(42.1%)が最も多く、4割強を占める。以下、「施設に入所したい」(13.5%)、「公営住宅(都営・区営住宅など)に入居したい」(13.4%)、「ケアホーム、グループホームなどに入居したい」(9.4%)となっている。

身体障害者では、「今の住宅に引き続き暮らしたい」(46.6%)が最も多く、半数弱を占める。以下、「施設に入所したい」(14.8%)、「公営住宅(都営・区営住宅など)に入居したい」(12.3%)、「ケアホーム、グループホームなどに入居したい」(5.2%)となっている。

知的障害者では、「ケアホーム、グループホームなどに入居したい」(24.9%)が最も多く、以下、「今の住宅に引き続き暮らしたい」(20.4%)、「施設に入所したい」(18.2%)、「公営住宅(都営・区営住宅など)に入居したい」(10.5%)となっている。

精神障害者では、「今の住宅に引き続き暮らしたい」(40.0%)が最も多く4割を占める。以下、「公営住宅(都営・区営住宅など)に入居したい」(22.5%)、「施設に入所したい」(10.0%)、「ケアホーム、グループホームなどに入居したい」(7.5%)となっている。(図 - 3 - 4)

表 - 3 - 5 年齢、家族構成別

単位：%

	回答者数	今の住宅に引き続き暮らしたい	公営住宅（都営・区営住宅など）に入居したい	ケアホーム、グループホームなどに入居したい	施設に入所したい	わからない	その他	無回答	
全体	821	42.1	13.4	9.4	13.5	15.2	3.4	2.9	
年齢別	0～11歳	20	15.0	5.0	25.0	10.0	40.0	5.0	-
	12～19歳	33	24.2	9.1	27.3	12.1	24.2	-	3.0
	20～29歳	38	23.7	5.3	31.6	15.8	15.8	7.9	-
	30～39歳	97	27.8	28.9	10.3	13.4	15.5	4.1	-
	40～49歳	88	33.0	19.3	11.4	10.2	20.5	2.3	3.4
	50～59歳	102	48.0	24.5	5.9	7.8	8.8	3.9	1.0
	60～69歳	147	48.3	9.5	7.5	12.9	15.0	2.7	4.1
	70～79歳	153	52.3	11.1	4.6	15.0	12.4	1.3	3.3
	80歳以上	135	47.4	2.2	5.2	19.3	14.8	5.2	5.9
家族構成別	ひとり暮らし	212	42.0	25.9	5.7	8.0	10.4	4.2	3.8
	夫婦だけ	156	59.0	4.5	4.5	12.8	14.7	1.9	2.6
	配偶者と子どもと同居	84	47.6	10.7	3.6	11.9	19.0	2.4	4.8
	親と同居	197	27.4	12.2	20.3	16.2	21.3	2.5	-
	親と子どもと同居	20	50.0	10.0	10.0	5.0	25.0	-	-
	子どもと同居	64	43.8	4.7	6.3	23.4	14.1	6.3	1.6
	その他	79	34.2	11.4	11.4	17.7	10.1	6.3	8.9

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、「今の住宅に引き続き暮らしたい」と答えた人は50歳以上で50%前後と高くなっている。また、「公営住宅（都営・区営住宅など）に入居したい」と答えた人は30歳代で30%弱、50歳代で20%台半ば、「ケアホーム、グループホームなどに入居したい」と答えた人は12～29歳で30%前後と、それぞれ多くなっている。（表 - 3 - 5）

家族構成別に見ると、「今の住宅に引き続き暮らしたい」と答えた人は夫婦だけ（59.0%）、親と子どもと同居（50.0%）、配偶者と子どもと同居（47.6%）で多くなっている。また、「公営住宅（都営・区営住宅など）に入居したい」と答えた人はひとり暮らし（25.9%）で、「ケアホーム、グループホームなどに入居したい」と答えた人は親と同居（20.3%）で、「施設に入所したい」と答えた人は子どもと同居（23.4%）で、それぞれ多くなっている。（表 - 3 - 5）

(5) 平日の日中の過ごし方

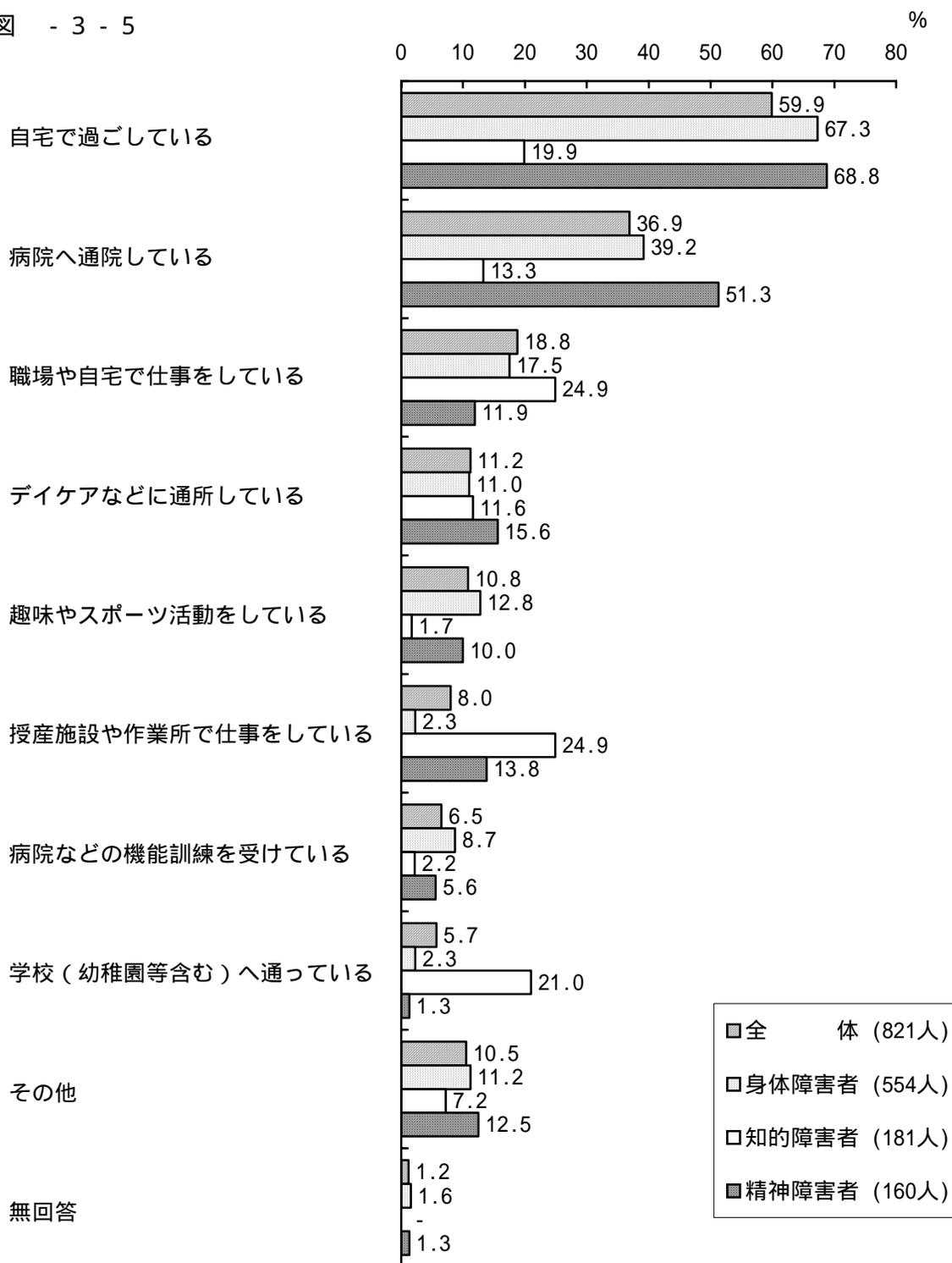
自宅で過ごしている人が6割

(全員の方に)

問16. あなた(ご本人)は、平日の日中は主にどのように過ごしていますか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 3 - 5



平日の日中の過ごし方については、全体では、「自宅で過ごしている」(59.9%)が最も多く、以下、「病院へ通院している」(36.9%)、「職場や自宅で仕事をしている」(18.8%)、「デイケアなどに通所している」(11.2%)、「趣味やスポーツ活動をしている」(10.8%)、「授産施設や作業所で仕事をしている」(8.0%)、「病院などの機能訓練を受けている」(6.5%)、「学校(幼稚園等含む)へ通っている」(5.7%)の順になっている。

身体障害者では、「自宅で過ごしている」(67.3%)が最も多く、以下、「病院へ通院している」(39.2%)、「職場や自宅で仕事をしている」(17.5%)、「趣味やスポーツ活動をしている」(12.8%)、「デイケアなどに通所している」(11.0%)、「病院などの機能訓練を受けている」(8.7%)、「授産施設や作業所で仕事をしている」(2.3%)、「学校(幼稚園等含む)へ通っている」(2.3%)の順になっている。

知的障害者では、「職場や自宅で仕事をしている」と「授産施設や作業所で仕事をしている」がともに24.9%で最も多く、以下、「学校(幼稚園等含む)へ通っている」(21.0%)、「自宅で過ごしている」(19.9%)、「病院へ通院している」(13.3%)、「デイケアなどに通所している」(11.6%)、「病院などの機能訓練を受けている」(2.2%)、「趣味やスポーツ活動をしている」(1.7%)の順になっている。

精神障害者では、「自宅で過ごしている」(68.8%)が最も多く、以下、「病院へ通院している」(51.3%)、「デイケアなどに通所している」(15.6%)、「授産施設や作業所で仕事をしている」(13.8%)、「職場や自宅で仕事をしている」(11.9%)、「趣味やスポーツ活動をしている」(10.0%)、「病院などの機能訓練を受けている」(5.6%)、「学校(幼稚園等含む)へ通っている」(1.3%)の順になっている。(図 - 3 - 5)

表 - 3 - 6 年齢別

単位：%

	回答者数	自宅で過ごしている	病院へ通院している	職場や自宅で仕事をしている	デイケアなどに通所している	趣味やスポーツ活動をしている	授産施設や作業所で仕事をしている	病院などの機能訓練を受けている	学校（幼稚園等含む）へ通っている	その他	無回答
全体	821	59.9	36.9	18.8	11.2	10.8	8.0	6.5	5.7	10.5	1.2
0～11歳	20	10.0	5.0	-	-	-	-	5.0	100.0	-	-
12～19歳	33	9.1	3.0	6.1	6.1	-	15.2	-	69.7	-	-
20～29歳	38	21.1	18.4	36.8	18.4	5.3	34.2	2.6	-	5.3	-
30～39歳	97	40.2	29.9	41.2	11.3	6.2	19.6	3.1	1.0	8.2	1.0
40～49歳	88	44.3	36.4	35.2	11.4	8.0	18.2	1.1	1.1	9.1	1.1
50～59歳	102	59.8	39.2	27.5	10.8	12.7	7.8	5.9	-	12.7	-
60～69歳	147	71.4	42.9	12.9	10.9	16.3	2.7	10.9	0.7	11.6	2.0
70～79歳	153	78.4	47.7	10.5	11.1	15.7	0.7	8.5	-	8.5	0.7
80歳以上	135	80.0	38.5	3.0	13.3	8.1	-	8.9	-	17.0	3.0

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、「自宅で過ごしている」は0～11歳を除いて、年齢が高いほど割合が多くなる傾向が見られ、60歳以上では7割以上となっている。また、「病院へ通院している」も80歳以上を除いて同様の傾向が見られ、60～70歳代では4割以上となっている。一方、「職場や自宅で仕事をしている」は20～50歳代で多くなっている。（表 - 3 - 6）

表 - 3 - 7 身体障害者手帳の等級別

単位：%

	回答者数	自宅で過ごしている	病院へ通院している	職場や自宅で仕事をしている	趣味やスポーツ活動をしている	デイケアなどに通所している	病院などの機能訓練を受けている	学校(幼稚園等含む)へ通っている	授産施設や作業所で仕事をしている	その他	無回答
全体	554	67.3	39.2	17.5	12.8	11.0	8.7	2.3	2.3	11.2	1.6
1級	210	66.2	49.5	14.8	13.3	14.8	11.0	2.9	0.5	12.9	1.9
2級	84	64.3	25.0	15.5	10.7	14.3	13.1	4.8	6.0	10.7	1.2
3級	93	73.1	32.3	17.2	12.9	8.6	8.6	1.1	1.1	9.7	1.1
4級	107	69.2	41.1	19.6	15.0	6.5	4.7	1.9	2.8	12.1	0.9
5級	37	67.6	27.0	24.3	8.1	2.7	-	-	5.4	8.1	-
6級	23	56.5	34.8	30.4	13.0	8.7	4.3	-	4.3	4.3	8.7

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

身体障害者手帳の等級別では、「自宅で過ごしている」は6級の人を除いて6割以上となっており、特に3級では7割強となっている。「病院へ通院している」は1級の人で49.5%と約半数となっている。また、「職場や自宅で仕事をしている」は等級が低いほど割合が多くなる傾向が見られ、5級で24.3%、6級で30.4%となっている。(表 - 3 - 7)

表 - 3 - 8 愛の手帳の度数別

単位：%

	回答者数	職場や自宅で仕事をしている	授産施設や作業所で仕事をしている	学校(幼稚園等含む)へ通っている	自宅で過ごしている	病院へ通院している	デイケアなどに通所している	病院などの機能訓練を受けている	趣味やスポーツ活動をしている	その他	無回答
全体	181	24.9	24.9	21.0	19.9	13.3	11.6	2.2	1.7	7.2	-
1度	14	21.4	-	7.1	35.7	35.7	14.3	14.3	-	28.6	-
2度	43	4.7	39.5	14.0	23.3	11.6	27.9	2.3	2.3	9.3	-
3度	54	18.5	33.3	31.5	18.5	9.3	7.4	-	-	1.9	-
4度	70	42.9	14.3	20.0	15.7	12.9	4.3	1.4	2.9	5.7	-

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

愛の手帳の度数別では、「職場や自宅で仕事をしている」は4度の人で42.9%と最も多い。「授産施設や作業所で仕事をしている」は2度の人で39.5%、3度の人で33.3%、「学校(幼稚園等含む)へ通っている」も3度の人で31.3%と、多くなっている。また、「自宅で過ごしている」「病院へ通院している」は1度の人でそれぞれ35.7%となっている。(表 - 3 - 8)

表 - 3 - 9 精神障害者保健福祉手帳の等級別

単位：%

	回答者数	自宅で過ごしている	病院へ通院している	デイケアなどに通所している	授産施設や作業所で仕事をしている	職場や自宅で仕事をしている	趣味やスポーツ活動をしている	病院などの機能訓練を受けている	学校（幼稚園等含む）へ通っている	その他	無回答
全体	160	68.8	51.3	15.6	13.8	11.9	10.0	5.6	1.3	12.5	1.3
1級	22	50.0	40.9	27.3	9.1	4.5	4.5	4.5	-	18.2	4.5
2級	84	71.4	50.0	14.3	16.7	8.3	9.5	6.0	-	11.9	1.2
3級	54	72.2	57.4	13.0	11.1	20.4	13.0	5.6	3.7	11.1	-

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

精神障害者保健福祉手帳の等級別では、「自宅で過ごしている」「病院へ通院している」「職場や自宅で仕事をしている」で等級が低いほど割合が多くなる傾向が見られ、3度の人ではそれぞれ7割強、6割弱、2割強となっている。一方、「デイケアなどに通所している」は等級が高いほど割合が多くなる傾向が見られ、1度の人で3割弱となっている。（表 - 3 - 9）

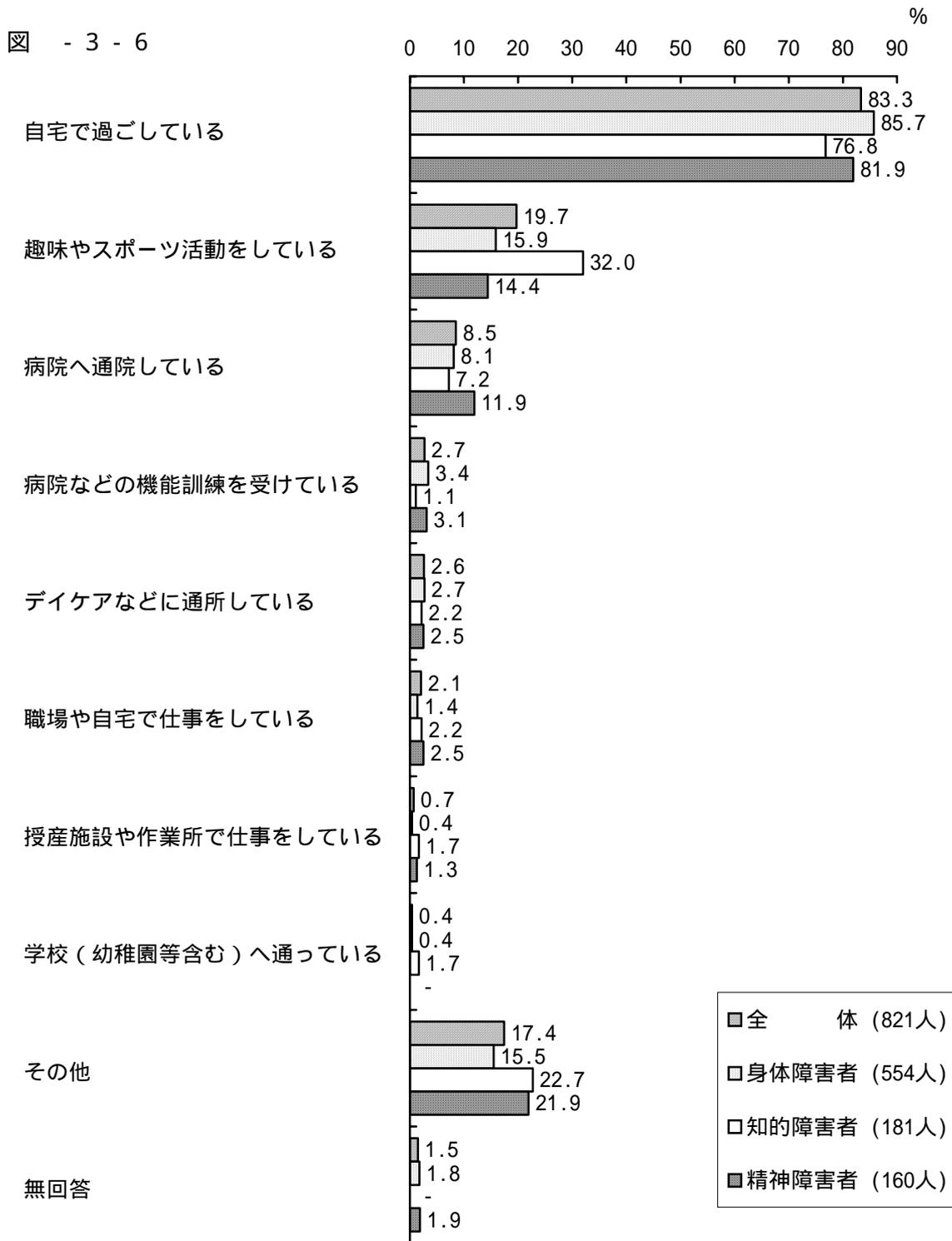
(6) 休日の日中の過ごし方

自宅で過ごしている人が8割強

(全員の方に)

問 17 . あなた (ご本人) は、休日の日中は主にどのように過ごしていますか。

(あてはまるものすべてに)



休日の日中の過ごし方については、全体では、「自宅で過ごしている」(83.3%)が最も多く、以下、「趣味やスポーツ活動をしている」(19.7%)、「病院へ通院している」(8.5%)、「病院などの機能訓練を受けている」(2.7%)、「デイケアなどに通所している」(2.6%)、「職場や自宅で仕事をしている」(2.1%)、「授産施設や作業所で仕事をしている」(0.7%)、「学校(幼稚園等含む)へ通っている」(0.4%)の順になっている。

身体障害者では、「自宅で過ごしている」(85.7%)が最も多く、以下、「趣味やスポーツ活動をしている」(15.9%)、「病院へ通院している」(8.1%)、「病院などの機能訓練を受けている」(3.4%)、「デイケアなどに通所している」(2.7%)、「職場や自宅で仕事をしている」(1.4%)、「授産施設や作業所で仕事をしている」と「学校(幼稚園等含む)へ通っている」(各0.4%)の順になっている。

知的障害者では、「自宅で過ごしている」(76.8%)が最も多く、以下、「趣味やスポーツ活動をしている」(32.0%)、「病院へ通院している」(7.2%)、「職場や自宅で仕事をしている」と「デイケアなどに通所している」(各2.2%)、「授産施設や作業所で仕事をしている」と「学校(幼稚園等含む)へ通っている」(各1.7%)、「病院などの機能訓練を受けている」(1.1%)の順になっている。

精神障害者では、「自宅で過ごしている」(81.9%)が最も多く、以下、「趣味やスポーツ活動をしている」(14.4%)、「病院へ通院している」(11.9%)、「病院などの機能訓練を受けている」(3.1%)、「職場や自宅で仕事をしている」と「デイケアなどに通所している」(各2.5%)、「授産施設や作業所で仕事をしている」(1.3%)の順になっている。(図 - 3 - 6)

表 - 3 - 10 年齢別

単位:%

	回答者数	自宅で過ごしている	趣味やスポーツ活動をしている	病院へ通院している	病院などの機能訓練を受けている	デイケアなどに通所している	職場や自宅で仕事をしている	授産施設や作業所で仕事をしている	学校(幼稚園等含む)へ通っている	その他	無回答
全体	821	83.3	19.7	8.5	2.7	2.6	2.1	0.7	0.4	17.4	1.5
0～11歳	20	75.0	40.0	-	-	5.0	-	-	5.0	20.0	-
12～19歳	33	93.9	42.4	6.1	-	3.0	-	-	-	12.1	-
20～29歳	38	73.7	44.7	2.6	2.6	-	-	2.6	-	36.8	-
30～39歳	97	82.5	26.8	11.3	1.0	1.0	3.1	1.0	1.0	20.6	-
40～49歳	88	77.3	25.0	8.0	1.1	2.3	6.8	2.3	1.1	21.6	1.1
50～59歳	102	81.4	15.7	4.9	2.9	-	3.9	1.0	-	18.6	-
60～69歳	147	83.0	18.4	9.5	4.8	2.7	2.0	0.7	-	13.6	2.7
70～79歳	153	89.5	14.4	11.8	3.9	5.2	-	-	-	11.8	1.3
80歳以上	135	83.7	5.9	8.1	2.2	3.0	0.7	-	-	17.8	3.7

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、「自宅で過ごしている」は12～19歳で93.9%、70～79歳で89.5%と多くなっている。また、「趣味やスポーツ活動をしている」は0～29歳で4割以上、30～49歳で20%台後半と多くなっている。(表 - 3 - 10)

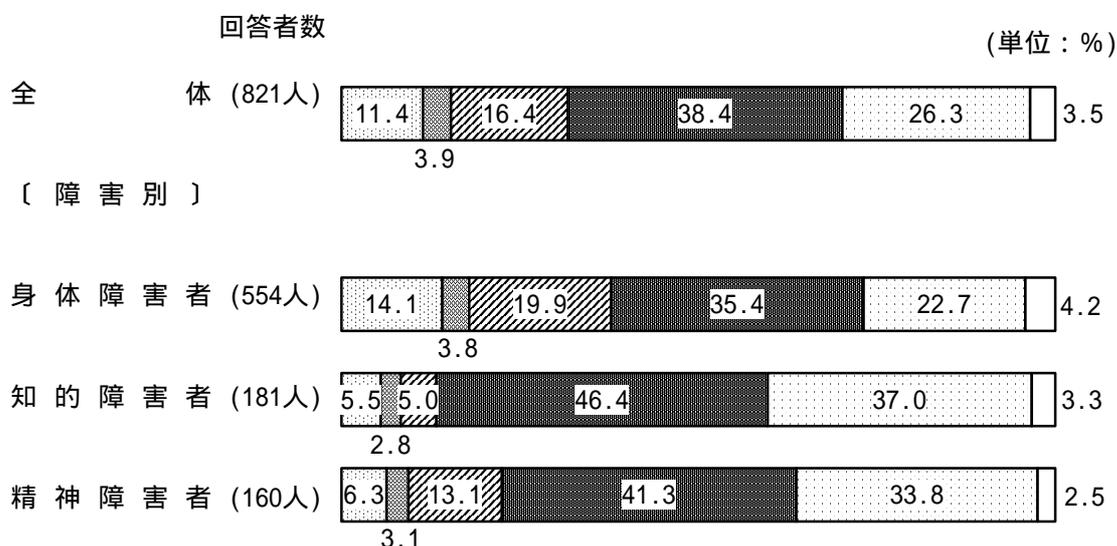
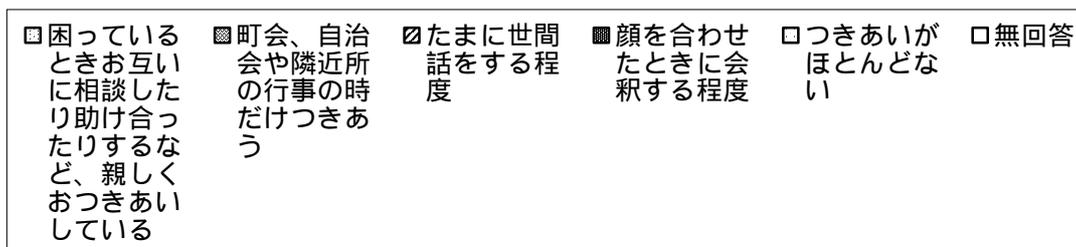
(7) 近所とのつきあい方

「顔を合わせたときに会釈する程度」が4割弱、4人に1人はつきあいがほとんどない

(全員の方に)

問18. あなた(ご本人)のご近所とのつきあいはどのようなものですか。(は1つ)

図 - 3 - 7



近所とのつきあい方については、全体では、「顔を合わせたときに会釈する程度」(38.4%)が最も多く、以下、「つきあいがほとんどない」(26.3%)、「たまに世間話をする程度」(16.4%)、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」(11.4%)、「町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう」(3.9%)となっている。

身体障害者では、「顔を合わせたときに会釈する程度」(35.4%)が最も多く、以下、「つきあいがほとんどない」(22.7%)、「たまに世間話をする程度」(19.9%)、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」(14.1%)、「無回答」(4.2%)、「町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう」(3.8%)となっている。

知的障害者では、「顔を合わせたときに会釈する程度」(46.4%)が最も多く、以下、「つきあいがほとんどない」(37.0%)、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」(5.5%)、「たまに世間話をする程度」(5.0%)、「町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう」(2.8%)となっている。

精神障害者では、「顔を合わせたときに会釈する程度」(41.3%)が最も多く、以下、「つきあいがほとんどない」(33.8%)、「たまに世間話をする程度」(13.1%)、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」(6.3%)、「町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう」(3.1%)となっている。(図 - 3 - 7)

表 - 3 - 11 年齢、家族構成別

単位：%

	回答者数	つきあ いして いる 割合	困ら ない 割合	町会 、自 治会 の時 だけ は近 所	たま に世 間話 をす る程 度	顔を 合わ せた とき に会 積す る程 度	いつ きあ いが ほと んど ない	無回 答
全体	821	11.4	3.9	16.4	38.4	26.3	3.5	
年齢別	0～11歳	20	5.0	5.0	10.0	40.0	35.0	5.0
	12～19歳	33	6.1	3.0	3.0	66.7	15.2	6.1
	20～29歳	38	2.6	2.6	2.6	50.0	42.1	-
	30～39歳	97	5.2	-	10.3	40.2	43.3	1.0
	40～49歳	88	6.8	1.1	13.6	43.2	30.7	4.5
	50～59歳	102	7.8	5.9	12.7	35.3	34.3	3.9
	60～69歳	147	15.6	4.1	20.4	40.1	17.7	2.0
	70～79歳	153	20.3	2.0	26.1	31.4	17.0	3.3
	80歳以上	135	11.1	8.9	17.8	32.6	23.0	6.7
家族構成別	ひとり暮らし	212	13.2	4.2	18.9	31.6	28.8	3.3
	夫婦だけ	156	19.2	5.1	23.1	33.3	16.0	3.2
	配偶者と子どもと同居	84	9.5	3.6	22.6	42.9	16.7	4.8
	親と同居	197	5.6	2.5	7.1	49.2	33.5	2.0
	親と子どもと同居	20	10.0	10.0	10.0	30.0	30.0	10.0
	子どもと同居	64	9.4	6.3	20.3	34.4	26.6	3.1
	その他	79	7.6	1.3	12.7	39.2	34.2	5.1

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」「たまに世間話をする程度」は70～79歳でそれぞれ最も高くなっている。一方、「顔を合わせたときに会釈する程度」は12～19歳で66.7%、20～29歳で50.0%、「つきあいがほとんどない」では20～29歳で42.1%、30～39歳で43.3%と、若い世代で多くなっている。(表 - 3 - 11)

家族構成別に見ると、夫婦だけは「困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいしている」(19.2%)、「たまに世間話をする程度」(23.1%)で、配偶者と子どもと同居は「たまに世間話をする程度」(22.6%)、親と同居は「顔を合わせたときに会釈する程度」(49.2%)、「つきあいがほとんどない」(33.5%)で、それぞれ多くなっている。(表 - 3 - 11)

(8) 今後、してみたい活動

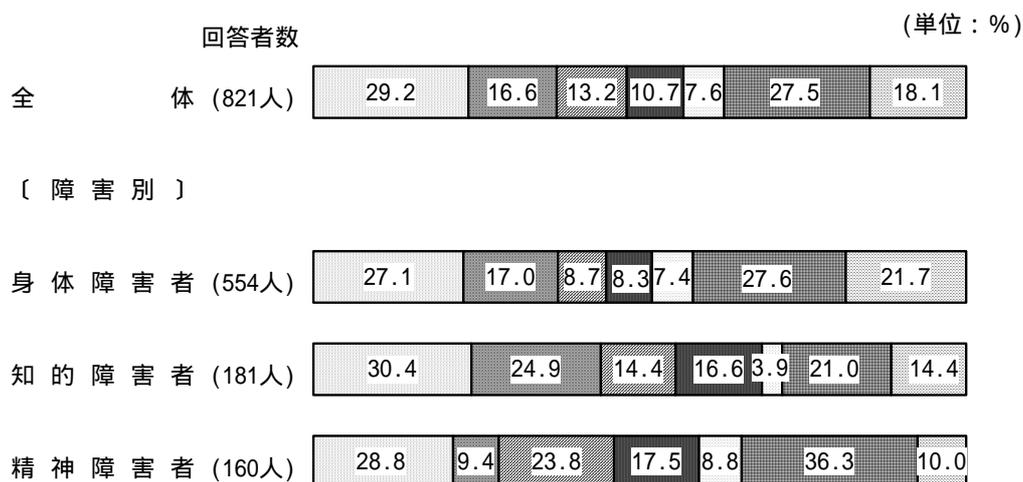
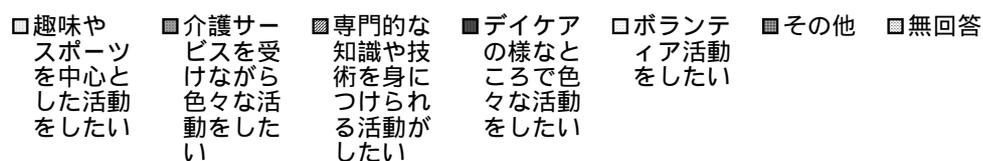
趣味やスポーツをしたいと答えた人が3割

(全員の方に)

問 19 . あなた (ご本人) は今後、どのような活動をしてみたいと思いますか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 3 - 8



今後、してみたい活動としては、全体では、「趣味やスポーツを中心とした活動をしたい」(29.2%) が最も多く、以下、「介護サービスを受けながら色々な活動をしたい」(16.6%)、「専門的な知識や技術を身につけられる活動がしたい」(13.2%)、「デイケアの様などころで色々な活動をしたい」(10.7%)、「ボランティア活動をしたい」(7.6%) の順になっている。

身体障害者では、「趣味やスポーツを中心とした活動をしたい」(27.1%)が最も多く、以下、「介護サービスを受けながら色々な活動をしたい」(17.0%)、「専門的な知識や技術を身につけられる活動がしたい」(8.7%)、「デイケアの様などころで色々な活動をしたい」(8.3%)、「ボランティア活動をしたい」(7.4%)の順になっている。

知的障害者では、「趣味やスポーツを中心とした活動をしたい」(30.4%)が最も多く、次いで、「介護サービスを受けながら色々な活動をしたい」(24.9%)、「デイケアの様などころで色々な活動をしたい」(16.6%)、「専門的な知識や技術を身につけられる活動がしたい」(14.4%)、「ボランティア活動をしたい」(3.9%)の順になっている。

精神障害者では、「趣味やスポーツを中心とした活動をしたい」(28.8%)が最も多く、以下、「専門的な知識や技術を身につけられる活動がしたい」(23.8%)、「デイケアの様などころで色々な活動をしたい」(17.5%)、「介護サービスを受けながら色々な活動をしたい」(9.4%)、「ボランティア活動をしたい」(8.8%)の順になっている。(図 - 3 - 8)

表 - 3 - 12 年齢別

単位:%

	回答者数	趣味やスポーツを中心とした活動がしたい	介護サービスを受けながら色々な活動がしたい	専門的な知識や技術を身につけられる活動がしたい	デイケアの様などころで色々な活動がしたい	ボランティア活動がしたい	その他	無回答
全体	821	29.2	16.6	13.2	10.7	7.6	27.5	18.1
0～11歳	20	30.0	30.0	45.0	15.0	-	20.0	10.0
12～19歳	33	42.4	27.3	33.3	21.2	9.1	6.1	6.1
20～29歳	38	44.7	34.2	18.4	23.7	10.5	21.1	2.6
30～39歳	97	38.1	11.3	23.7	11.3	8.2	26.8	11.3
40～49歳	88	29.5	18.2	22.7	13.6	10.2	26.1	9.1
50～59歳	102	31.4	4.9	15.7	6.9	10.8	35.3	12.7
60～69歳	147	33.3	16.3	8.8	7.5	12.2	27.9	17.0
70～79歳	153	24.8	18.3	3.3	9.2	3.9	25.5	28.8
80歳以上	135	14.8	17.0	2.2	10.4	2.2	31.9	30.4

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、「趣味やスポーツを中心とした活動をしたい」は12～29歳で4割以上、「介護サービスを受けながら色々な活動をしたい」は0～29歳で30%前後、「専門的な知識や技術を身につけられる活動がしたい」は0～19歳で3割以上、「デイケアの様などころで色々な活動がしたい」は12～29歳で20%強とそれぞれ多くなっており、若い世代で活動への意欲が多く見られる。(表 - 3 - 12)

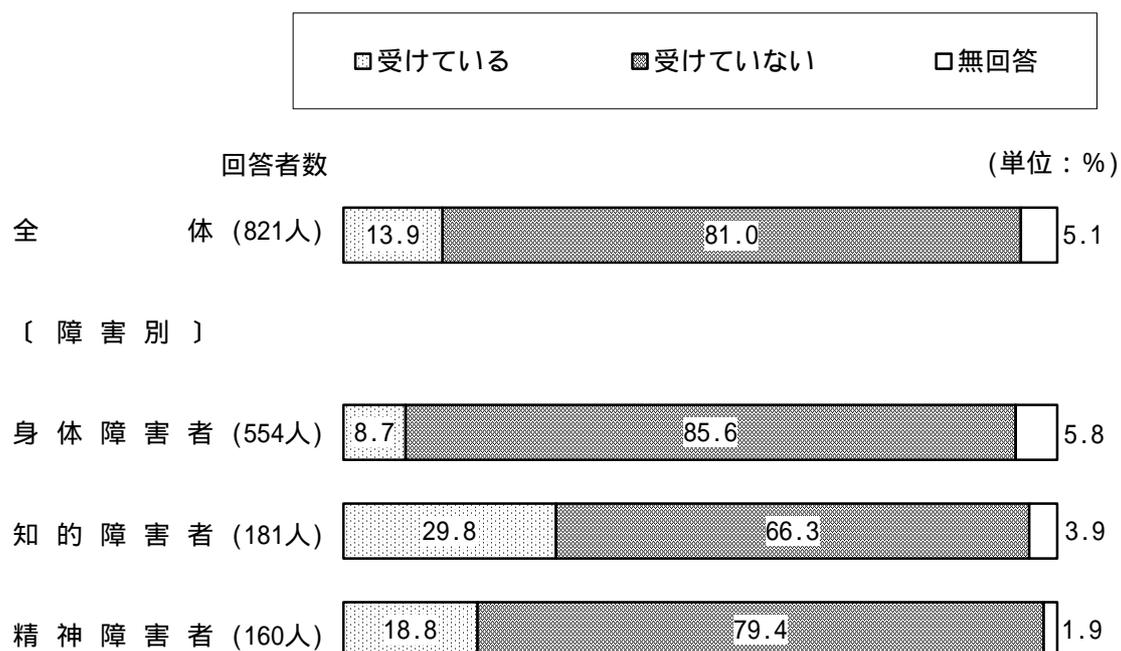
(9) 就業訓練や自立した生活のための訓練

訓練を受けている人は1割強

(全員の方に)

問20. あなた(ご本人)は仕事に就くための訓練や自立した生活ができるような訓練を受けていますか。(は1つ)

図 - 3 - 9



仕事に就くための訓練や自立した生活ができるような訓練については、全体では、「受けている」と答えた人が13.9%にとどまり、「受けていない」と答えた人が81.0%を占めている。

身体障害者では、「受けている」と答えた人が8.7%、「受けていない」と答えた人が85.6%となっている。

知的障害者では、「受けている」と答えた人が29.8%、「受けていない」と答えた人が66.3%となっている。

精神障害者では、「受けている」と答えた人が18.8%、「受けていない」と答えた人が79.4%となっている。(図 - 3 - 9)

表 - 3 - 13 年齢別

単位：%

	回答者数	受けている	受けていない	無回答
全体	821	13.9	81.0	5.1
0～11歳	20	20.0	75.0	5.0
12～19歳	33	45.5	51.5	3.0
20～29歳	38	28.9	65.8	5.3
30～39歳	97	23.7	76.3	-
40～49歳	88	23.9	71.6	4.5
50～59歳	102	9.8	87.3	2.9
60～69歳	147	7.5	90.5	2.0
70～79歳	153	7.8	83.7	8.5
80歳以上	135	5.2	83.7	11.1

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、0～49歳では「受けている」が2割以上となっており、特に12～19歳では45.5%と多くなっている。一方、「受けていない」は50～69歳で90%前後、70歳以上では80%強となっている。(表 - 3 - 13)

表 - 3 - 14 身体障害者手帳の等級別

単位：%

	回答者数	受けている	受けていない	無回答
全体	554	8.7	85.6	5.8
1級	210	10.5	84.3	5.2
2級	84	4.8	89.3	6.0
3級	93	6.5	89.2	4.3
4級	107	8.4	84.1	7.5
5級	37	16.2	78.4	5.4
6級	23	4.3	87.0	8.7

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

身体障害者手帳の等級別に見ると、「受けていない」は2級、3級の人で約9割と多くなっている。(表 - 3 - 14)

表 - 3 - 15 愛の手帳の度数別

単位: %

	回答者数	受けている	受けていない	無回答
全体	181	29.8	66.3	3.9
1度	14	7.1	92.9	-
2度	43	20.9	76.7	2.3
3度	54	40.7	53.7	5.6
4度	70	31.4	64.3	4.3

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

愛の手帳の度数別に見ると、「受けていない」は1度の人で92.9%、2度の人で76.7%と多い。一方、3度の人では「受けている」が40.7%と多くなっている。(表 - 3 - 15)

表 - 3 - 16 精神障害者保健福祉手帳の等級別

単位: %

	回答者数	受けている	受けていない	無回答
全体	160	18.8	79.4	1.9
1級	22	22.7	72.7	4.5
2級	84	17.9	81.0	1.2
3級	54	18.5	79.6	1.9

精神障害者保健福祉手帳の等級別では、1級の人が22.7%とやや多くなっている。(表 - 3 - 16)

(10) 訓練を受ける意向

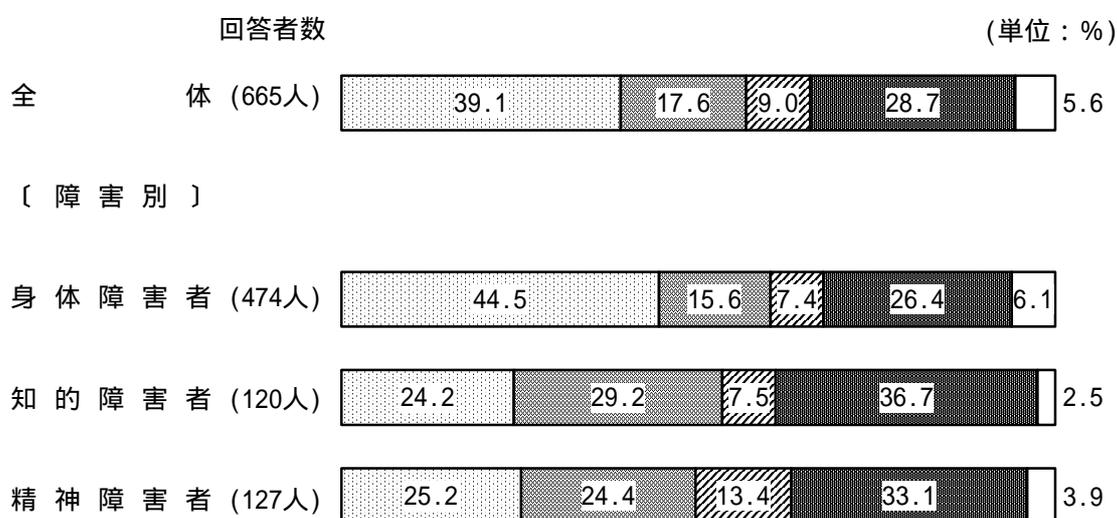
受ける意向のある人は2割弱

(問20で「2. 受けていない」と答えた方に)

問21. 今後、訓練を受ける気持ちはありますか。(は1つ)

図 - 3 - 10

訓練を受ける必要はない
 今後、受けてみたいと考えている
 訓練は必要だと思うが、受けたくない
 わからない
 無回答



訓練を受けていないと答えた人に、今後、訓練を受ける気持ちはあるかどうかたずねたところ、全体では、「訓練を受ける必要はない」と答えた人が39.1%で最も多く、「今後、受けてみたいと考えている」と答えた人は17.6%、「訓練は必要だと思うが、受けたくない」と答えた人は9.0%となっている。また、「わからない」と答えた人が28.7%となっている。

身体障害者では、「訓練を受ける必要はない」と答えた人が44.5%で最も多く、「今後、受けてみたいと考えている」と答えた人は15.6%、「訓練は必要だと思うが、受けたくない」と答えた人は7.4%となっている。また、「わからない」と答えた人が26.4%となっている。

知的障害者では、「今後、受けてみたいと考えている」と答えた人が29.2%で、「訓練を受ける必要はない」(24.2%)と答えた人より多くなっている。「訓練は必要だと思うが、受けたくない」と答えた人は7.5%となっている。また、「わからない」と答えた人が36.7%と多くなっている。

精神障害者では、「訓練を受ける必要はない」と答えた人が25.2%、「今後、受けてみたいと考えている」と答えた人が24.4%と、ともに4人に1人の割合である。「訓練は必要だと思うが、受けたくない」と答えた人は13.4%となっている。また、「わからない」と答えた人が33.1%と多くなっている。(図 - 3 - 10)

表 - 3 - 17 年齢別

単位：%

	回答者数	ない 訓練を受ける必要は	今後、受けてみたい と考えている	訓練は必要だと思 うが、受けたくない	わからない	無回答
全体	665	39.1	17.6	9.0	28.7	5.6
0～11歳	15	6.7	73.3	-	20.0	-
12～19歳	17	17.6	52.9	5.9	23.5	-
20～29歳	25	32.0	12.0	4.0	48.0	4.0
30～39歳	74	27.0	27.0	9.5	31.1	5.4
40～49歳	63	27.0	23.8	12.7	34.9	1.6
50～59歳	89	44.9	12.4	4.5	32.6	5.6
60～69歳	133	43.6	21.8	6.8	23.3	4.5
70～79歳	128	43.0	9.4	9.4	30.5	7.8
80歳以上	113	50.4	5.3	13.3	22.1	8.8

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、「訓練を受ける必要はない」と答えた人は50歳代で4割以上、80歳以上では半数となっている。一方、「今後、受けてみたいと考えている」は0～19歳では半数以上、30～49歳では2割以上となっており、若い年代において今後の訓練を受ける意向が多く見られる。(表 - 3 - 17)

表 - 3 - 18 身体障害者手帳に記載された障害名別

単位：%

	回答者数	ない 訓練 を受ける 必要は	今後、受 けて みたい と考 えて いる	訓練 は必 要だ と思 う が、 受 け た く な い	わ か ら な い	無 回 答	
全体	474	44.5	15.6	7.4	26.4	6.1	
手 帳 に 記 載 の 障 害 名	上肢機能障害	91	45.1	20.9	5.5	26.4	2.2
	下肢機能障害	175	47.4	18.3	6.9	21.7	5.7
	体幹機能障害	52	36.5	15.4	1.9	40.4	5.8
	内部機能障害	132	46.2	15.2	9.8	23.5	5.3
	視覚障害	41	43.9	4.9	7.3	29.3	14.6
	聴覚障害・平衡機能障害	38	36.8	7.9	13.2	31.6	10.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	21	47.6	4.8	4.8	42.9	-
	肢体不自由(脳原性まひ)	17	47.1	11.8	5.9	35.3	-
	その他	23	47.8	17.4	-	26.1	8.7

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

身体障害者手帳に記載された障害名別に見ると、「訓練を受ける必要はない」は、体幹機能障害で36.5%、聴覚障害・平衡機能障害で36.8%と少なくなっている。(表 - 3 - 18)

4 . 外出状況について

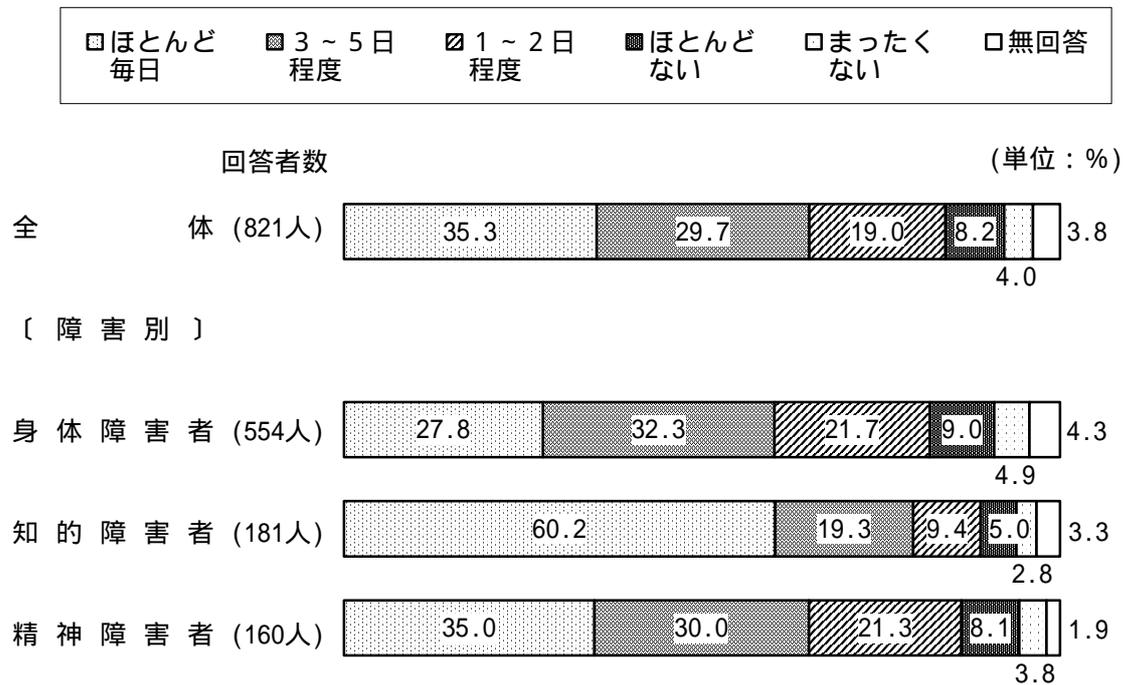
(1) 外出頻度

外出している人は8割以上、ほとんど毎日外出するのは3割半

(全員の方に)

問 22 . あなた (ご本人) は、一週間に、どのくらい外出しますか。(は1つ)

図 - 4 - 1



一週間に、どのくらい外出するかたずねたところ、全体では、「ほとんど毎日」と答えた人が 35.3%で最も多く、「3～5日程度」と答えた人が 29.7%、「1～2日程度」と答えた人が 19.0%となっている。一方、「ほとんどない」と答えた人が 8.2%、「まったくない」と答えた人が 4.0%となっている。

身体障害者では、「ほとんど毎日」と答えた人が 27.8%、「3～5日程度」と答えた人が 32.3%、「1～2日程度」と答えた人が 21.7%となっている。一方、「ほとんどない」と答えた人が 9.0%、「まったくない」と答えた人が 4.9%となっている。

知的障害者では、「ほとんど毎日」と答えた人が 60.2%を占め、「3～5日程度」と答えた人が 19.3%、「1～2日程度」と答えた人が 9.4%となっている。一方、「ほとんどない」と答えた人が 5.0%、「まったくない」と答えた人が 2.8%となっている。

精神障害者では、「ほとんど毎日」と答えた人が 35.0%、「3～5日程度」と答えた人が 30.0%、「1～2日程度」と答えた人が 21.3%となっている。一方、「ほとんどない」と答えた人が 8.1%、「まったくない」と答えた人が 3.8%となっている。(図 - 4 - 1)

表 - 4 - 1 年齢別

単位: %

	回答者数	ほとんど毎日	3 } 5 日程度	1 } 2 日程度	ほとんどない	まったくない	無回答
全体	821	35.3	29.7	19.0	8.2	4.0	3.8
0～11歳	20	100.0	-	-	-	-	-
12～19歳	33	75.8	24.2	-	-	-	-
20～29歳	38	68.4	21.1	7.9	2.6	-	-
30～39歳	97	51.5	23.7	10.3	10.3	1.0	3.1
40～49歳	88	37.5	31.8	18.2	2.3	4.5	5.7
50～59歳	102	40.2	31.4	15.7	3.9	4.9	3.9
60～69歳	147	26.5	35.4	25.9	6.1	1.4	4.8
70～79歳	153	23.5	36.6	23.5	7.2	5.2	3.9
80歳以上	135	13.3	24.4	25.9	22.2	9.6	4.4

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、「ほとんど毎日」と答えた人は 40 歳代を除いて年齢が若いほど多くなる傾向が見られ、0～39 歳では半数を超えている。また、「3～5日程度」と答えた人は 60～79 歳で 30% 台後半とやや多くなっている。一方、80 歳以上では「1～2日程度」が 25.9%、「ほとんどない」が 22.2%、「まったくない」が 9.6%と多くなっている。(表 - 4 - 1)

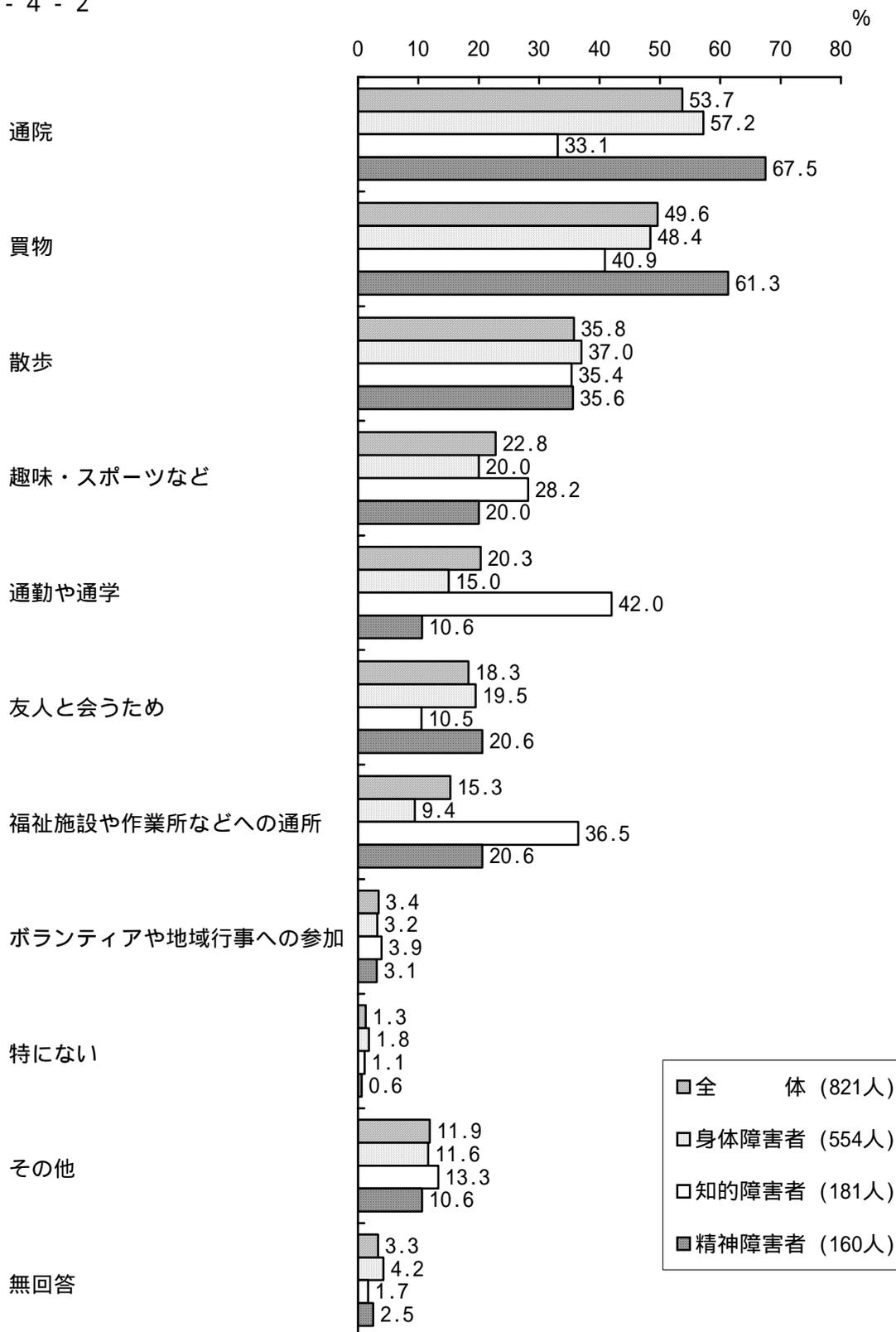
(2) 外出の主な目的

主に通院や買物

(全員の方に)

問23. あなた(ご本人)の外出の主な目的は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図 - 4 - 2



外出の目的については、全体では、「通院」(53.7%)が最も多く、以下、「買物」(49.6%)、「散歩」(35.8%)、「趣味・スポーツなど」(22.8%)、「通勤や通学」(20.3%)、「友人と会うため」(18.3%)、「福祉施設や作業所などへの通所」(15.3%)、「ボランティアや地域行事への参加」(3.4%)の順になっている。

身体障害者では、「通院」(57.2%)が最も多く、以下、「買物」(48.4%)、「散歩」(37.0%)、「趣味・スポーツなど」(20.0%)、「友人と会うため」(19.5%)、「通勤や通学」(15.0%)、「福祉施設や作業所などへの通所」(9.4%)、「ボランティアや地域行事への参加」(3.2%)の順になっている。

知的障害者では、「通勤や通学」(42.0%)が最も多く、以下、「買物」(40.9%)、「福祉施設や作業所などへの通所」(36.5%)、「散歩」(35.4%)、「通院」(33.1%)、「趣味・スポーツなど」(28.2%)、「友人と会うため」(10.5%)、「ボランティアや地域行事への参加」(3.9%)の順になっている。

精神障害者では、「通院」(67.5%)が最も多く、以下、「買物」(61.3%)、「散歩」(35.6%)、「福祉施設や作業所などへの通所」(20.6%)、「友人と会うため」(20.6%)、「趣味・スポーツなど」(20.0%)、「通勤や通学」(10.6%)、「ボランティアや地域行事への参加」(3.1%)の順になっている。(図 - 4 - 2)

表 - 4 - 2 年齢別

単位：%

	回答者数	通院	買物	散歩	趣味・スポーツなど	通勤や通学	友人と会うため
全体	821	53.7	49.6	35.8	22.8	20.3	18.3
0～11歳	20	20.0	30.0	40.0	25.0	100.0	5.0
12～19歳	33	18.2	48.5	27.3	42.4	78.8	3.0
20～29歳	38	39.5	34.2	36.8	47.4	31.6	18.4
30～39歳	97	51.5	47.4	40.2	29.9	39.2	29.9
40～49歳	88	58.0	58.0	31.8	27.3	35.2	17.0
50～59歳	102	51.0	56.9	28.4	20.6	17.6	18.6
60～69歳	147	62.6	55.1	44.2	25.2	9.5	20.4
70～79歳	153	59.5	45.8	32.7	15.7	3.9	17.6
80歳以上	135	56.3	43.7	37.0	9.6	1.5	14.1

	回答者数	福祉施設や作業所などへの通所	ボランティア参加や地域行事への参加	特になし	その他	無回答
全体	821	15.3	3.4	1.3	11.9	3.3
0～11歳	20	-	-	-	10.0	-
12～19歳	33	21.2	-	-	12.1	-
20～29歳	38	44.7	-	-	15.8	2.6
30～39歳	97	30.9	2.1	1.0	11.3	2.1
40～49歳	88	25.0	5.7	-	10.2	3.4
50～59歳	102	15.7	3.9	2.9	7.8	3.9
60～69歳	147	10.2	6.8	0.7	9.5	1.4
70～79歳	153	7.8	3.3	1.3	15.0	3.3
80歳以上	135	5.2	1.5	3.0	14.8	7.4

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、「通院」と答えた人は30歳以上で5割以上となっており、特に60歳代では62.6%と高くなっている。「買物」と答えた人は40～60歳代で高く、50%台後半となっている。また、「趣味・スポーツ」と答えた人は12～29歳で40%台と高くなっているが、70歳代では15.7%、80歳以上では9.6%と低くなっている。(表 - 4 - 2)

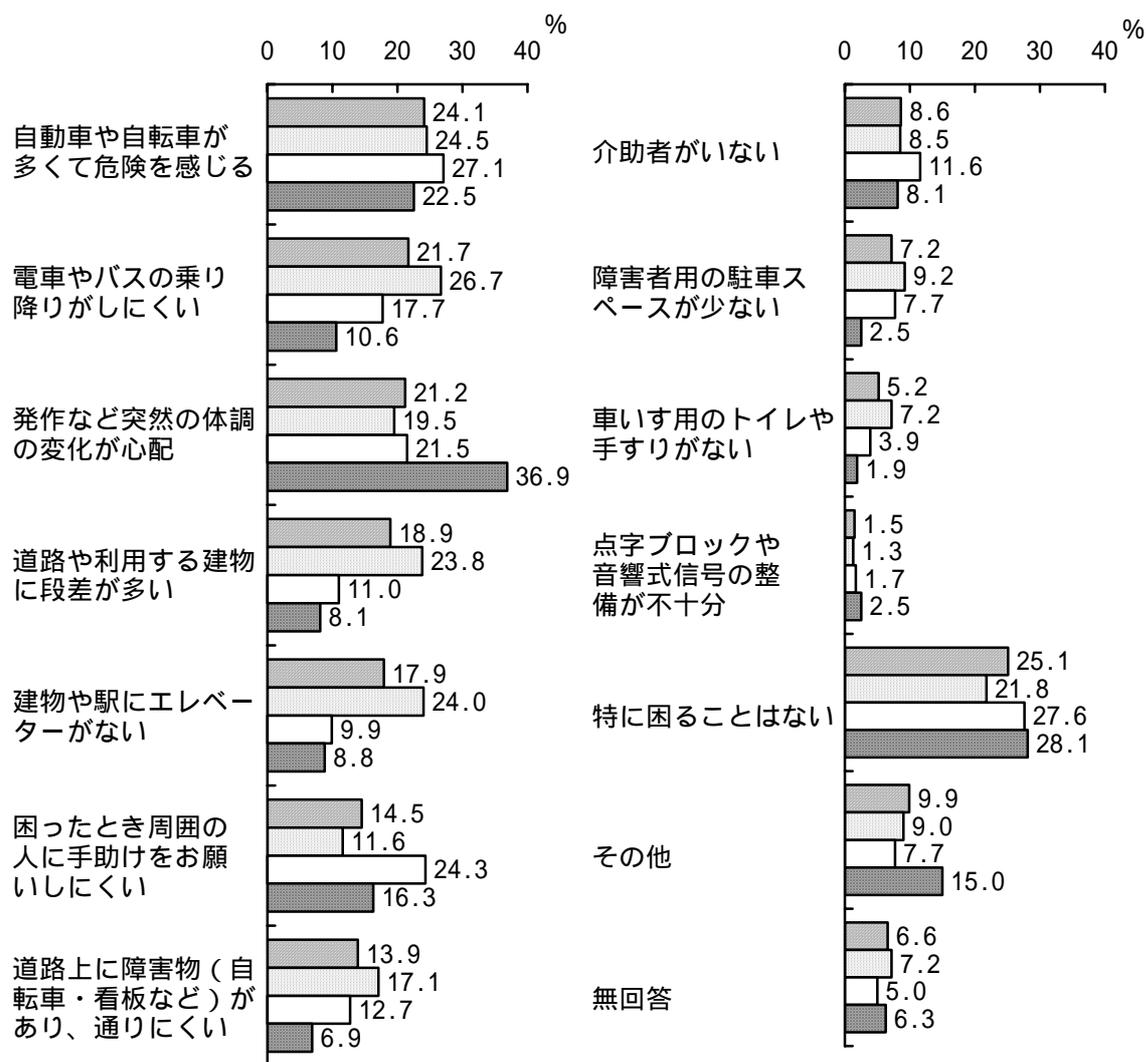
(3) 外出時に困ること

7割近くが困ったことがあり、困りごとの内容は多岐にわたる

(全員の方に)

問24. あなた(ご本人)が外出する時に困ることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

図 - 4 - 3



■全 体 (821人)
 □身体障害者 (554人)
 □知的障害者 (181人)
 ■精神障害者 (160人)

外出時に困ることとしては、全体では、「自動車や自転車がなくて危険を感じる」(24.1%)が最も多く、以下、「電車やバスの乗り降りがしにくい」(21.7%)、「発作など突然の体調の変化が心配」(21.2%)、「道路や利用する建物に段差が多い」(18.9%)、「建物や駅にエレベーターがない」(17.9%)、「困ったとき周囲の人に手助けをお願いしにくい」(14.5%)、「道路上に障害物(自転車・看板など)があり、通りにくい」(13.9%)、「介助者がいない」(8.6%)、「障害者用の駐車スペースが少ない」(7.2%)、「車いす用のトイレや手すりがない」(5.2%)、「点字ブロックや音響式信号の整備が不十分」(1.5%)の順になっている。一方、「特に困ることはない」と答えた人は25.1%となっている。

身体障害者では、「電車やバスの乗り降りがしにくい」(26.7%)が最も多く、以下、「自動車や自転車がなくて危険を感じる」(24.5%)、「建物や駅にエレベーターがない」(24.0%)、「道路や利用する建物に段差が多い」(23.8%)、「発作など突然の体調の変化が心配」(19.5%)、「道路上に障害物(自転車・看板など)があり、通りにくい」(17.1%)、「困ったとき周囲の人に手助けをお願いしにくい」(11.6%)、「障害者用の駐車スペースが少ない」(9.2%)、「介助者がいない」(8.5%)、「車いす用のトイレや手すりがない」(7.2%)、「点字ブロックや音響式信号の整備が不十分」(1.3%)の順になっている。一方、「特に困ることはない」と答えた人は21.8%となっている。

知的障害者では、「自動車や自転車がなくて危険を感じる」(27.1%)が最も多く、以下、「困ったとき周囲の人に手助けをお願いしにくい」(24.3%)、「発作など突然の体調の変化が心配」(21.5%)、「電車やバスの乗り降りがしにくい」(17.7%)、「道路上に障害物(自転車・看板など)があり、通りにくい」(12.7%)、「介助者がいない」(11.6%)、「道路や利用する建物に段差が多い」(11.0%)、「建物や駅にエレベーターがない」(9.9%)、「障害者用の駐車スペースが少ない」(7.7%)、「車いす用のトイレや手すりがない」(3.9%)、「点字ブロックや音響式信号の整備が不十分」(1.7%)の順になっている。一方、「特に困ることはない」と答えた人は27.6%となっている。

精神障害者で、「発作など突然の体調の変化が心配」(36.9%)が最も多く、以下、「自動車や自転車がなくて危険を感じる」(22.5%)、「困ったとき周囲の人に手助けをお願いしにくい」(16.3%)、「電車やバスの乗り降りがしにくい」(10.6%)、「建物や駅にエレベーターがない」(8.8%)、「介助者がいない」と「道路や利用する建物に段差が多い」(各8.1%)、「道路上に障害物(自転車・看板など)があり、通りにくい」(6.9%)、「点字ブロックや音響式信号の整備が不十分」(2.5%)、「障害者用の駐車スペースが少ない」(2.5%)、「車いす用のトイレや手すりがない」(1.9%)の順になっている。一方、「特に困ることはない」と答えた人は28.1%となっている。(図 - 4 - 3)

(4) 外出時の交通手段

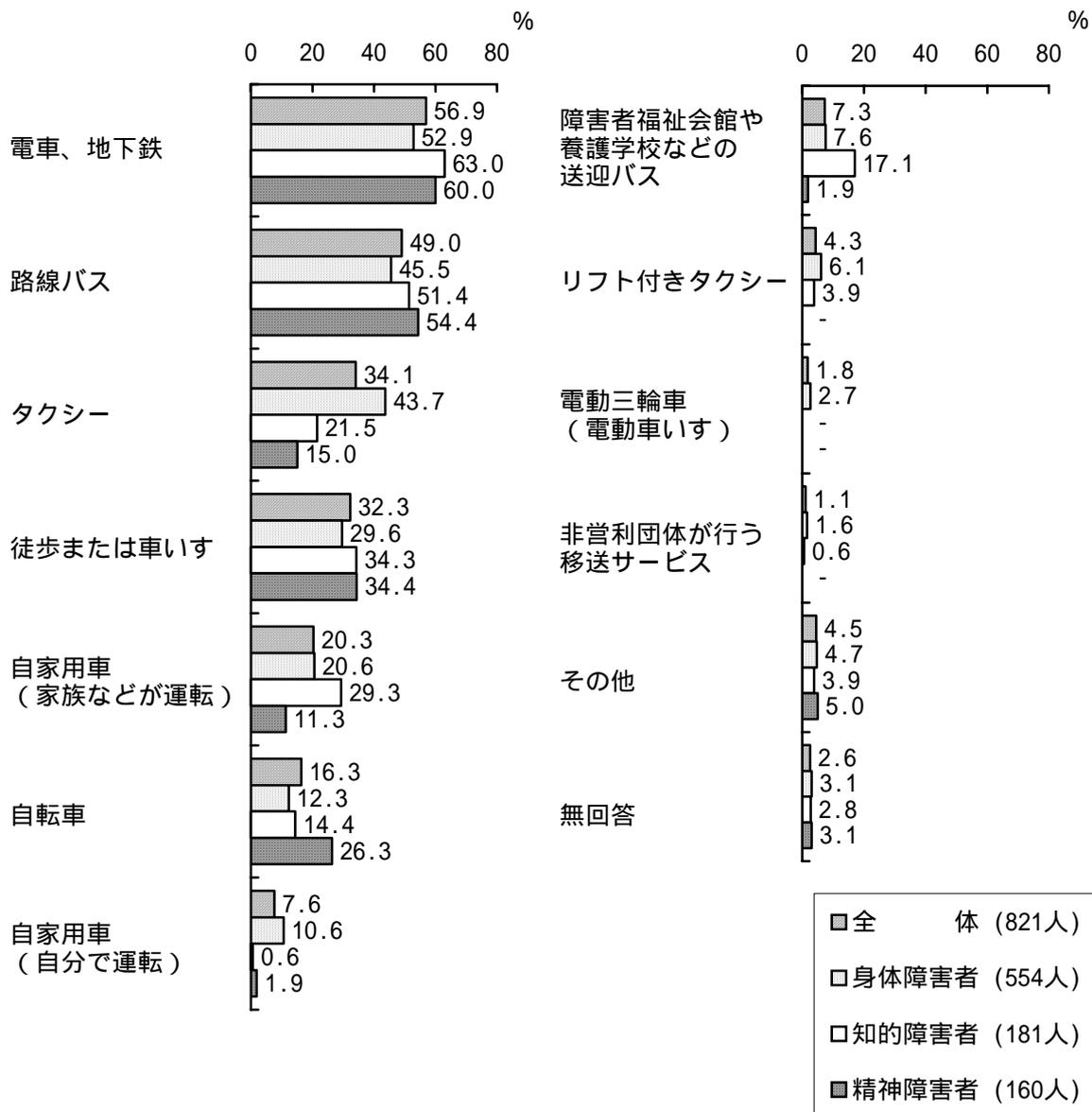
「電車、地下鉄」「路線バス」などの公共交通機関が主

(全員の方に)

問 25 . あなた (ご本人) が、外出に利用する主な交通手段は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

図 - 4 - 4



外出に利用する主な交通手段としては、全体では「電車、地下鉄」(56.9%)が最も多く、以下、「路線バス」(49.0%)、「タクシー」(34.1%)、「徒歩または車いす」(32.3%)、「自家用車(家族などが運転)」(20.3%)、「自転車」(16.3%)、「自家用車(自分で運転)」(7.6%)、「障害者福祉会館や養護学校などの送迎バス」(7.3%)、「リフト付きタクシー」(4.3%)、「電動三輪車(電動車いす)」(1.8%)、「非営利団体が行う移送サービス」(1.1%)の順になっている。

身体障害者では、「電車、地下鉄」(52.9%)が最も多く、以下、「路線バス」(45.5%)、「タクシー」(43.7%)、「徒歩または車いす」(29.6%)、「自家用車(家族などが運転)」(20.6%)、「自転車」(12.3%)、「自家用車(自分で運転)」(10.6%)、「障害者福祉会館や養護学校などの送迎バス」(7.6%)、「リフト付きタクシー」(6.1%)、「電動三輪車(電動車いす)」(2.7%)、「非営利団体が行う移送サービス」(1.6%)の順になっている。

知的障害者では、「電車、地下鉄」(63.0%)が最も多く、以下、「路線バス」(51.4%)、「徒歩または車いす」(34.3%)、「自家用車(家族などが運転)」(29.3%)、「タクシー」(21.5%)、「障害者福祉会館や養護学校などの送迎バス」(17.1%)、「自転車」(14.4%)、「リフト付きタクシー」(3.9%)、「非営利団体が行う移送サービス」(0.6%)、「自家用車(自分で運転)」(0.6%)の順になっている。

精神障害者では、「電車、地下鉄」(60.0%)が最も多く、以下、「路線バス」(54.4%)、「徒歩または車いす」(34.4%)、「自転車」(26.3%)、「タクシー」(15.0%)、「自家用車(家族などが運転)」(11.3%)、「障害者福祉会館や養護学校などの送迎バス」と「自家用車(自分で運転)」(各1.9%)の順になっている。(図 - 4 - 4)

5. 働くことについて

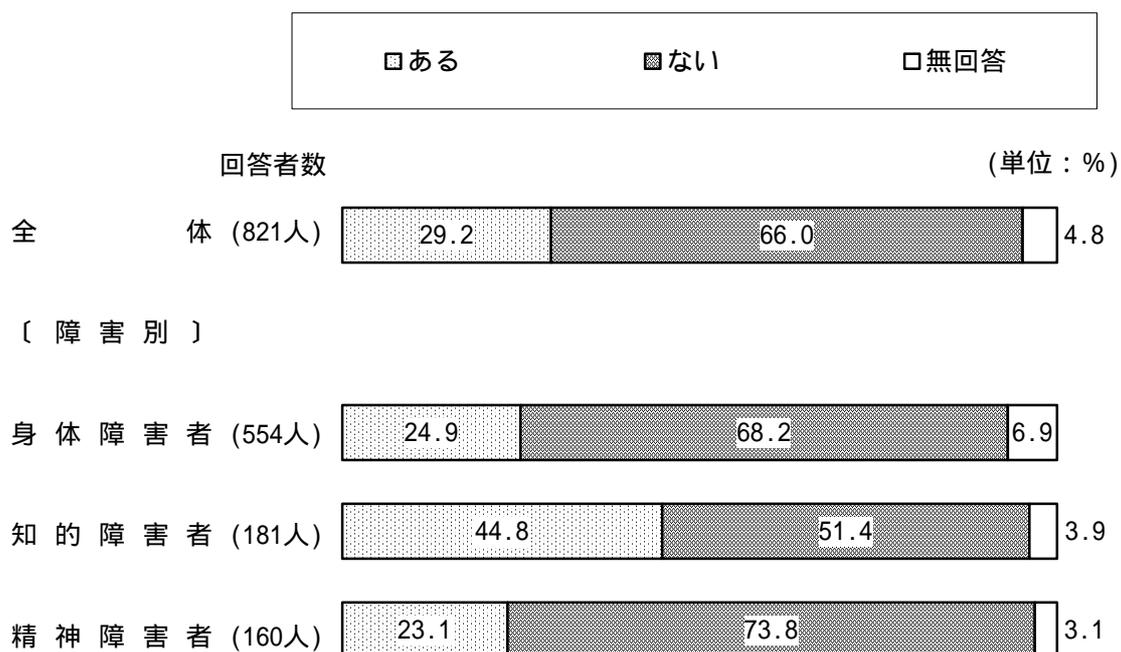
(1) 就労による定期的な収入の有無

定期的な収入のある人は3割

(全員の方に)

問26. あなた(ご本人)は、給料など就労による定期的な収入はありますか。(は1つ)

図 - 5 - 1



就労による定期的な収入の有無については、全体では「ある」と答えた人が29.2%、「ない」と答えた人が66.0%となっている。

身体障害者では、「ある」と答えた人が24.9%、「ない」と答えた人が68.2%となっている。

知的障害者では、「ある」と答えた人が44.8%、「ない」と答えた人が51.4%となっている。

精神障害者では、「ある」と答えた人が23.1%、「ない」と答えた人が73.8%となっている。

(図 - 5 - 1)

表 - 5 - 1 年齢別

単位：%

	回答者数	ある	ない	無回答
全体	821	29.2	66.0	4.8
0～11歳	20	-	100.0	-
12～19歳	33	15.2	84.8	-
20～29歳	38	65.8	34.2	-
30～39歳	97	55.7	43.3	1.0
40～49歳	88	55.7	40.9	3.4
50～59歳	102	37.3	59.8	2.9
60～69歳	147	21.1	74.8	4.1
70～79歳	153	19.0	76.5	4.6
80歳以上	135	5.9	80.0	14.1

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別で20歳以上を見ると、「ある」と答えた人は年齢が若いほど多くなる傾向が見られ、20～49歳では「ある」が半数以上となっている。一方、「ない」と答えた人は年齢が高くなるほど多くなる傾向が見られ、60歳以上では7割以上となっている。(表 - 5 - 1)

表 - 5 - 2 身体障害者手帳の等級別

単位：%

	回答者数	ある	ない	無回答
全体	554	24.9	68.2	6.9
1級	210	20.0	72.4	7.6
2級	84	22.6	72.6	4.8
3級	93	26.9	66.7	6.5
4級	107	23.4	69.2	7.5
5級	37	45.9	51.4	2.7
6級	23	43.5	43.5	13.0

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

身体障害者手帳の等級別に見ると、「ある」と答えた人は、5級、6級の人で4割台半ばとなっている。一方、「ない」と答えた人は高い等級ほど割合が多くなっている。(表 - 5 - 2)

表 - 5 - 3 愛の手帳の度数別

単位: %

	回答者数	ある	ない	無回答
全体	181	44.8	51.4	3.9
1度	14	14.3	57.1	28.6
2度	43	34.9	60.5	4.7
3度	54	48.1	51.9	-
4度	70	54.3	44.3	1.4

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

愛の手帳の度数別に見ると、「ある」と答えた人は度数が低いほど多くなる傾向が見られ、4度の人では54.3%と半数を超えている。(表 - 5 - 3)

表 - 5 - 4 精神障害者保健福祉手帳の等級別

単位: %

	回答者数	ある	ない	無回答
全体	160	23.1	73.8	3.1
1級	22	4.5	81.8	13.6
2級	84	25.0	75.0	-
3級	54	27.8	68.5	3.7

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

精神障害者保健福祉手帳の等級別に見ると、「ない」と答えた人は1級で81.8%となっており、等級が低いほど割合も少なくなっている。(表 - 5 - 4)

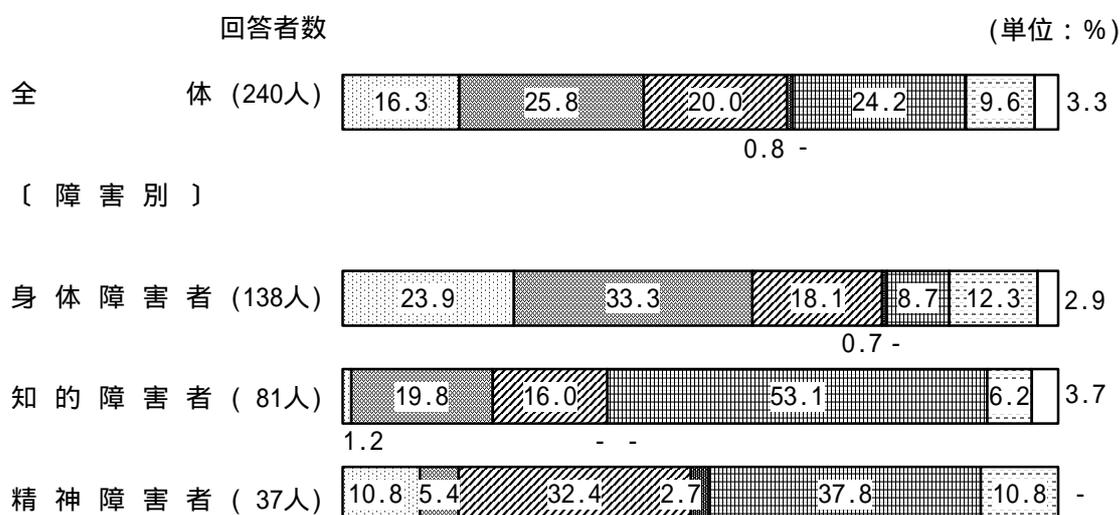
(2) 現在の就労形態

「常勤の会社員、公務員、団体職員」「作業所に通所」がそれぞれ4人に1人

(問26で「1. ある」と答えた方に)

問27. あなた(ご本人)の現在の就労形態をお答えください。(は1つ)

図 - 5 - 2



現在の就労形態は、全体では、「常勤の会社員、公務員、団体職員」と答えた人が25.8%で最も多く、次いで、「作業所に通所」(24.2%)と答えた人も2割半となっている。以下、「アルバイト、パート、非常勤職員」(20.0%)、「自営業、家族従業員」(16.3%)、「有償ボランティア」(0.8%)となっている。

身体障害者では、「常勤の会社員、公務員、団体職員」(33.3%)と答えた人が最も多く、以下、「自営業、家族従業員」(23.9%)、「アルバイト、パート、非常勤職員」(18.1%)、「作業所に通所」(8.7%)、「有償ボランティア」(0.7%)となっている。

知的障害者では、「作業所に通所」(53.1%)と答えた人が最も多く半数強を占める。以下、「常勤の会社員、公務員、団体職員」(19.8%)、「アルバイト、パート、非常勤職員」(16.0%)、「自営業、家族従業員」(1.2%)となっている。

精神障害者では、「作業所に通所」(37.8%)と答えた人が4割弱で最も多く、次いで、「アルバイト、パート、非常勤職員」(32.4%)と答えた人が3割強となっている。以下、「自営業、家族従業員」(10.8%)、「常勤の会社員、公務員、団体職員」(5.4%)、「有償ボランティア」(2.7%)となっている。(図 - 5 - 2)

表 - 5 - 5 年齢別

単位：%

	回答者数	自営業、 家族従業員	常勤の会社員、 公務員、 団体職員	アルバイト、 パート、 非常勤職員	有償ボランティア	内職	作業所に 通所	その他	無回答
全体	240	16.3	25.8	20.0	0.8	-	24.2	9.6	3.3
0～11歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12～19歳	5	-	20.0	20.0	-	-	60.0	-	-
20～29歳	25	4.0	28.0	12.0	-	-	48.0	8.0	-
30～39歳	54	3.7	33.3	27.8	-	-	27.8	3.7	3.7
40～49歳	49	8.2	28.6	22.4	-	-	32.7	8.2	-
50～59歳	38	13.2	34.2	15.8	2.6	-	26.3	7.9	-
60～69歳	31	35.5	16.1	29.0	3.2	-	3.2	3.2	9.7
70～79歳	29	41.4	10.3	10.3	-	-	3.4	27.6	6.9
80歳以上	8	37.5	12.5	-	-	-	-	37.5	12.5

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、60歳代、70歳代では、「自営業、家族従業員」と答えた人が、それぞれ35.5%、41.4%と高く、「作業所に通所」と答えた人が3%と低くなっている。（表 - 5 - 5）

表 - 5 - 6 身体障害者手帳の等級別

単位：%

	回答者数	自営業、 家族従業員	常勤の会社員、 公務員、 団体職員	アルバイト、 パート、 非常勤職員	有償ボランティア	内職	作業所に 通所	その他	無回答
全体	138	23.9	33.3	18.1	0.7	-	8.7	12.3	2.9
1級	42	33.3	35.7	14.3	-	-	2.4	9.5	4.8
2級	19	5.3	36.8	26.3	-	-	21.1	5.3	5.3
3級	25	28.0	32.0	12.0	4.0	-	4.0	20.0	-
4級	25	16.0	36.0	20.0	-	-	12.0	16.0	-
5級	17	29.4	23.5	23.5	-	-	11.8	11.8	-
6級	10	20.0	30.0	20.0	-	-	10.0	10.0	10.0

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

身体障害者手帳の等級別では、「自営業、家族従業員」は1級の人で33.3%と高く、2級の人で5.3%と低くなっている。「作業所に通所」は2級の人で21.1%と高くなっている。（表 - 5 - 6）

表 - 5 - 7 愛の手帳の度数別

単位：%

	回答者数	自営業、 家族従業員	常勤の会社員、 公務員、 団体職員	アルバイト、 パート、 非常勤職員	有償ボラン ティア	内職	作業所に 通所	その他	無回答
全体	81	1.2	19.8	16.0	-	-	53.1	6.2	3.7
1度	2	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-
2度	15	-	-	6.7	-	-	86.7	-	6.7
3度	26	-	19.2	3.8	-	-	69.2	7.7	-
4度	38	2.6	26.3	26.3	-	-	31.6	7.9	5.3

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

愛の手帳の度数別では、「作業所に通所」と答えた人は、2度の人で86.7%、3度の人で69.2%と高いが、4度の人で31.6%と低くなっている。「常勤の会社員、公務員、団体職員」、「アルバイト、パート、非常勤職員」はともに4度の人で26.3%と高くなっている。(表 - 5 - 7)

表 - 5 - 8 精神障害者保健福祉手帳の等級別

単位：%

	回答者数	自営業、 家族従業員	常勤の会社員、 公務員、 団体職員	アルバイト、 パート、 非常勤職員	有償ボラン ティア	内職	作業所に 通所	その他	無回答
全体	37	10.8	5.4	32.4	2.7	-	37.8	10.8	-
1級	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-
2級	21	14.3	4.8	19.0	4.8	-	52.4	4.8	-
3級	15	6.7	6.7	53.3	-	-	13.3	20.0	-

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

精神障害者保健福祉手帳の等級別では、「作業所に通所」は2級の人で52.4%と高く、3級の人で13.3%と低くなっている。一方、「アルバイト、パート、非常勤職員」では3級の人で53.3%と高く、2級の人で19.0%と低くなっている。(表 - 5 - 8)

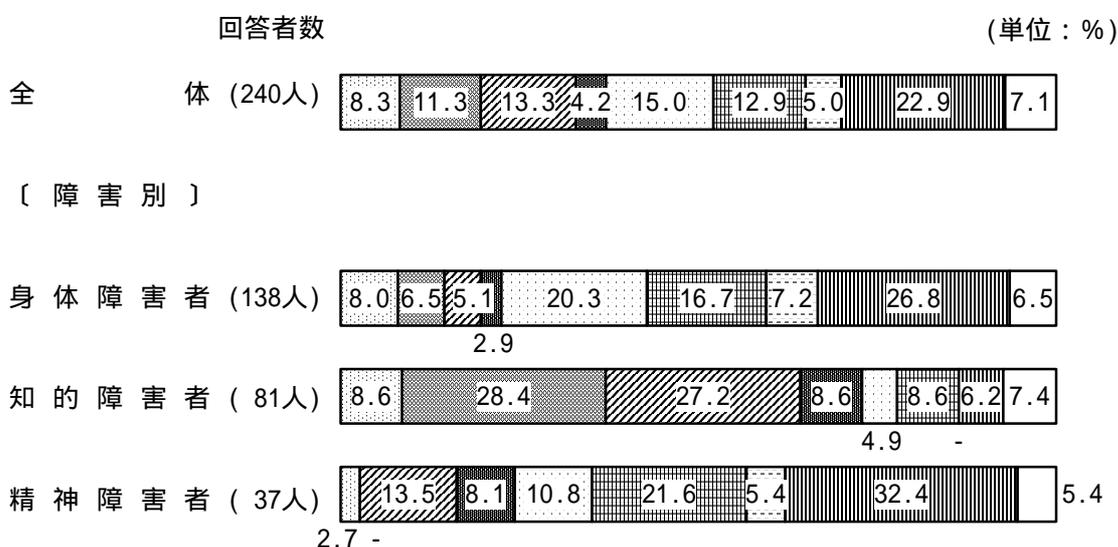
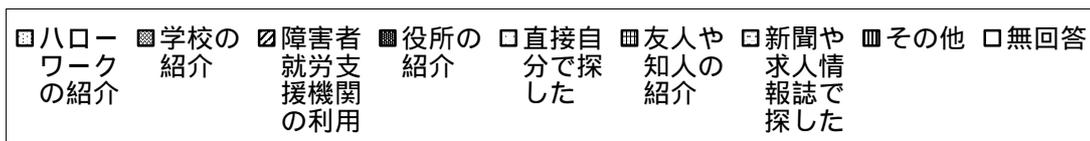
(3) 仕事を見つけた方法

自分で探した人が1割半

(問26で「1.ある」と答えた方に)

問28. あなた(ご本人)は、現在の仕事をどのような方法で見つけましたか。(は1つ)

図 - 5 - 3



現在の仕事を見つけた方法は、全体では、「直接自分で探した」と答えた人が15.0%で最も多く、以下、「障害者就労支援機関の利用」(13.3%)、「友人や知人の紹介」(12.9%)、「学校の紹介」(11.3%)、「ハローワークの紹介」(8.3%)、「新聞や求人情報誌で探した」(5.0%)、「役所の紹介」(4.2%)となっている。

身体障害者では、「直接自分で探した」(20.3%)が最も多く、以下、「友人や知人の紹介」(16.7%)、「ハローワークの紹介」(8.0%)、「新聞や求人情報誌で探した」(7.2%)、「学校の紹介」(6.5%)、「障害者就労支援機関の利用」(5.1%)、「役所の紹介」(2.9%)となっている。

知的障害者では、「学校の紹介」(28.4%)が最も多く、以下、「障害者就労支援機関の利用」(27.2%)、「ハローワークの紹介」、「役所の紹介」、「友人や知人の紹介」(各8.6%)、「直接自分で探した」(4.9%)となっている。

精神障害者では、「友人や知人の紹介」(21.6%)が最も多く、以下、「障害者就労支援機関の利用」(13.5%)、「直接自分で探した」(10.8%)、「役所の紹介」(8.1%)、「新聞や求人情報誌で探した」(5.4%)、「ハローワークの紹介」(2.7%)の順になっている。(図 - 5 - 3)

(4) 仕事に関する不安や不満

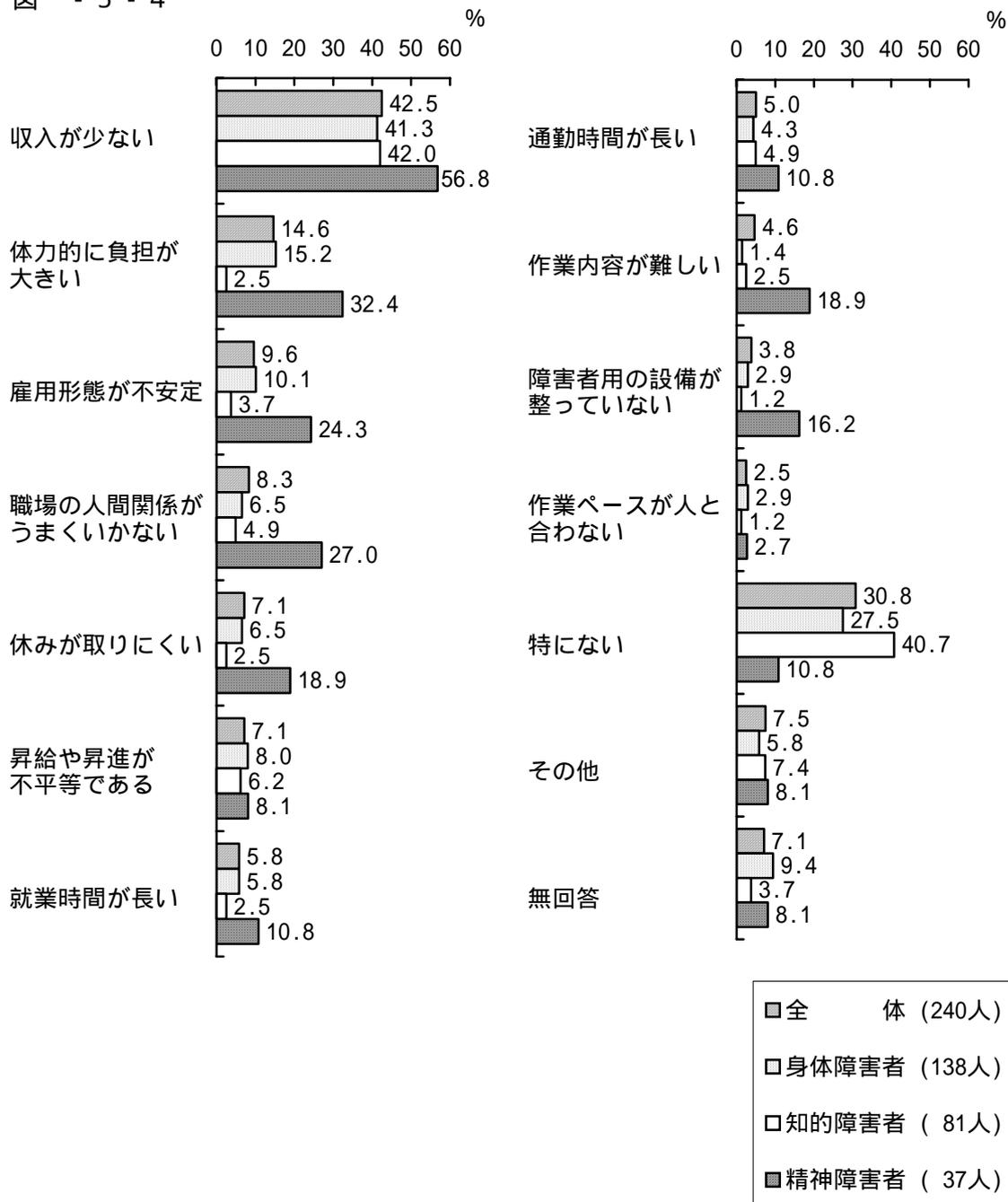
6割強が不満あり、最も多いのは収入が少ないこと

(問26で「1.ある」と答えた方に)

問29. あなた(ご本人)は、現在の仕事に関して不安や不満はありますか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 5 - 4



現在の仕事に関する不安や不満については、全体では、「収入が少ない」(42.5%)が最も多く、次いで、「体力的に負担が大きい」(14.6%)があげられている。以下、1割未満で「雇用形態が不安定」(9.6%)、「職場の人間関係がうまくいかない」(8.3%)、「休みが取りにくい」と「昇給や昇進が不平等である」(各7.1%)、「就業時間が長い」(5.8%)、「通勤時間が長い」(5.0%)、「作業内容が難しい」(4.6%)、「障害者用の設備が整っていない」(3.8%)、「作業ペースが人と合わない」(2.5%)の順になっている。一方、「特にない」と答えた人は30.8%となっている。

身体障害者では、「収入が少ない」(41.3%)が最も多く、以下、「体力的に負担が大きい」(15.2%)、「雇用形態が不安定」(10.1%)、「昇給や昇進が不平等である」(8.0%)、「休みが取りにくい」と「職場の人間関係がうまくいかない」(各6.5%)、「就業時間が長い」(5.8%)、「通勤時間が長い」(4.3%)、「作業ペースが人と合わない」と「障害者用の設備が整っていない」(各2.9%)、「作業内容が難しい」(1.4%)の順になっている。一方、「特にない」と答えた人は27.5%となっている。

知的障害者では、「収入が少ない」(42.0%)が最も多く、以下、「昇給や昇進が不平等である」(6.2%)、「職場の人間関係がうまくいかない」と「通勤時間が長い」(各4.9%)、「雇用形態が不安定」(3.7%)、「作業内容が難しい」(2.5%)、「休みが取りにくい」(2.5%)、「就業時間が長い」(2.5%)、「体力的に負担が大きい」(2.5%)、「作業ペースが人と合わない」(1.2%)、「障害者用の設備が整っていない」(1.2%)の順になっている。一方、「特にない」と答えた人は40.7%となっている。

精神障害者では、「収入が少ない」(56.8%)が最も多く、以下、「体力的に負担が大きい」(32.4%)、「職場の人間関係がうまくいかない」(27.0%)、「雇用形態が不安定」(24.3%)、「作業内容が難しい」(18.9%)、「休みが取りにくい」(18.9%)、「障害者用の設備が整っていない」(16.2%)、「就業時間が長い」(10.8%)、「通勤時間が長い」(10.8%)、「昇給や昇進が不平等である」(8.1%)、「作業ペースが人と合わない」(2.7%)の順になっている。一方、「特にない」と答えた人は10.8%と、他の障害者に比べ少なくなっている。(図 - 5 - 4)

表 - 5 - 9 就労形態別

単位：%

	回答者数	収入が少ない	体力的に負担が大きい	雇用形態が不安定	職場の人間関係がうまくいかない	休みが取りにくい	昇給や昇進が不平等である	就業時間が長い
全体	240	42.5	14.6	9.6	8.3	7.1	7.1	5.8
自営業、家族従業員	39	30.8	15.4	-	5.1	-	-	2.6
常勤の会社員、公務員、団体職員	62	41.9	19.4	3.2	11.3	9.7	12.9	8.1
アルバイト、パート、非常勤職員	48	37.5	20.8	29.2	8.3	18.8	10.4	8.3
有償ボランティア	2	100.0	-	-	-	-	-	-
内職	-	-	-	-	-	-	-	-
作業所に通所	58	58.6	10.3	6.9	8.6	3.4	3.4	5.2
その他	23	34.8	4.3	13.0	8.7	-	4.3	4.3
無回答	8	25.0	-	-	-	-	12.5	-

	回答者数	通勤時間が長い	作業内容が難しい	障害者用の設備が整っていない	作業ペースが人と合わない	特にない	その他	無回答
全体	240	5.0	4.6	3.8	2.5	30.8	7.5	7.1
自営業、家族従業員	39	-	-	2.6	-	35.9	5.1	12.8
常勤の会社員、公務員、団体職員	62	8.1	1.6	3.2	8.1	29.0	1.6	4.8
アルバイト、パート、非常勤職員	48	6.3	6.3	4.2	-	31.3	10.4	4.2
有償ボランティア	2	50.0	-	-	-	-	-	-
内職	-	-	-	-	-	-	-	-
作業所に通所	58	3.4	10.3	6.9	1.7	27.6	12.1	1.7
その他	23	4.3	4.3	-	-	30.4	13.0	17.4
無回答	8	-	-	-	-	50.0	-	25.0

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

就労形態別に見ると、「収入が少ない」は作業所に通所している人で58.6%と6割弱となっている。また、アルバイト、パート、非常勤職員は、「体力的に負担が大きい」(20.8%)、「雇用形態が不安定」(29.2%)、「休みが取りにくい」(18.8%)で、常勤の会社員、公務員、団体職員は「昇給や昇進が不平等である」(12.9%)で、それぞれ多くなっている。(表 - 5 - 9)

(5) 希望する働き方

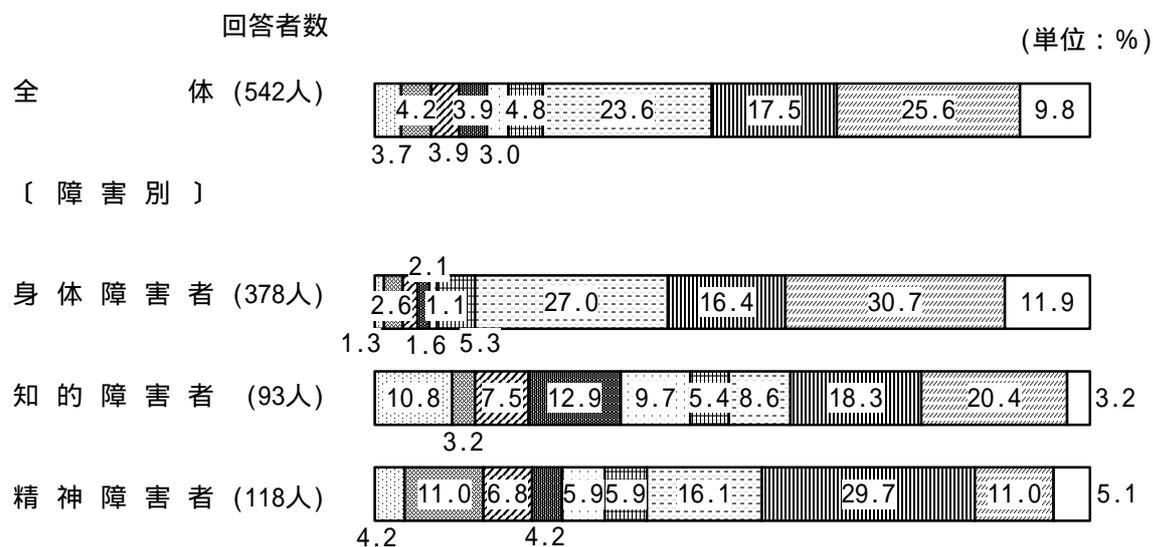
働きたいと答えたのは2割強、希望する働き方はさまざま

(問26で「2.ない」と答えた方に)

問30. あなた(ご本人)は、今後、どのように働きたいと思いますか。(は1つ)

図 - 5 - 5

□ 一般企業などで常勤の社員として働きたい	■ パート・アルバイトとして働きたい	▣ 障害者の雇用が多い職場で働きたい	■ 指導員がいて支援をしてくれる職場で働きたい	□ 作業所や就労支援事業所などで働きたい	▣ 働きたいが、働く場所以は特に希望はない	□ 働きたいくない	▣ わからない	□ その他	□ 無回答
-----------------------	--------------------	--------------------	-------------------------	----------------------	-----------------------	-----------	---------	-------	-------



今後、どのように働きたいと思うかたずねたところ、全体では、「働きたくない」と答えた人が 23.6%、働きたいとする 5 項目を答えた人が合わせて 23.5%とともに 2 割強となっている。個々の項目では、「働きたいが、働く場所は特に希望はない」(4.8%)、「パート・アルバイトとして働きたい」(4.2%)、「障害者の雇用が多い職場で働きたい」と「指導員がいて支援をしてくれる職場で働きたい」(各 3.9%)、「一般企業などで常勤の社員として働きたい」(3.7%)、「作業所や就労支援事業所などで働きたい」(3.0%)となっている。

身体障害者では、「働きたくない」と答えた人が 27.0%、働きたいとする人が合わせて 14.0%となっている。希望する働き方は、「働きたいが、働く場所は特に希望はない」(5.3%)、「パート・アルバイトとして働きたい」(2.6%)、「障害者の雇用が多い職場で働きたい」(2.1%)、「指導員がいて支援をしてくれる職場で働きたい」(1.6%)、「一般企業などで常勤の社員として働きたい」(1.3%)、「作業所や就労支援事業所などで働きたい」(1.1%)となっている。

知的障害者では、「働きたくない」と答えた人が 8.6%と少なく、働きたいとする人が合わせて 49.5%となっている。希望する働き方は、「指導員がいて支援をしてくれる職場で働きたい」(12.9%)、「一般企業などで常勤の社員として働きたい」(10.8%)、「作業所や就労支援事業所などで働きたい」(9.7%)、「障害者の雇用が多い職場で働きたい」(7.5%)、「働きたいが、働く場所は特に希望はない」(5.4%)、「パート・アルバイトとして働きたい」(3.2%)となっている。

精神障害者では、「働きたくない」と答えた人が 16.1%で、働きたいとする人が合わせて 38.0%と 4 割近くを占めている。希望する働き方は、「パート・アルバイトとして働きたい」(11.0%)、「障害者の雇用が多い職場で働きたい」(6.8%)、「作業所や就労支援事業所などで働きたい」と「働きたいが、働く場所は特に希望はない」(各 5.9%)、「一般企業などで常勤の社員として働きたい」と「指導員がいて支援をしてくれる職場で働きたい」(各 4.2%)となっている。(図 - 5 - 5)

表 - 5 - 10 年齢別

単位:%

	回答者数	働きたい(計)	一般企業などで常勤の社員として働きたい	パート・アルバイトとして働きたい	障害者の雇用が多い職場で働きたい	指導員がいて支援をしてくれる職場で働きたい	作業所や就労支援事業所などで働きたい	働きたいが、働く場所は特に希望はない	働きたくない	わからない	その他	無回答
0～11歳	20	60.0	25.0	5.0	5.0	25.0	-	-	-	35.0	-	5.0
12～19歳	28	78.6	17.9	3.6	14.3	21.4	21.4	-	7.1	7.1	7.1	-
20～29歳	13	53.8	-	15.4	23.1	7.7	7.7	-	-	30.8	15.4	-
30～39歳	42	52.4	7.1	16.7	11.9	2.4	7.1	7.1	7.1	23.8	11.9	4.8
40～49歳	36	33.3	8.3	5.6	5.6	2.8	8.3	2.8	19.4	22.2	22.2	2.8
50～59歳	61	27.9	3.3	4.9	4.9	3.3	1.6	9.8	14.8	26.2	24.6	6.6
60～69歳	110	24.5	-	5.5	1.8	3.6	1.8	11.8	30.0	12.7	22.7	10.0
70～79歳	117	5.1	0.9	0.9	0.9	-	-	2.6	34.2	19.7	27.4	13.7
80歳以上	108	1.9	0.9	-	-	0.9	-	-	29.6	8.3	45.4	14.8

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、『働きたい』と答えた就労意欲のある人は、年齢が低いほど多くなる傾向が見られ、12～19歳で78.6%、0～11歳で60.0%、20、30歳代で50%強となっている。(表 - 5 - 10)

表 - 5 - 11 身体障害者手帳の等級別

単位:%

	回答者数	働きたい(計)	一般企業などで常勤の社員として働きたい	パート・アルバイトとして働きたい	障害者の雇用が多い職場で働きたい	指導員がいて支援をしてくれる職場で働きたい	作業所や就労支援事業所などで働きたい	働きたいが、働く場所は特に希望はない	働きたくない	わからない	その他	無回答
1級	152	12.5	1.3	2.0	2.6	2.0	-	4.6	24.3	13.8	37.5	11.8
2級	61	11.5	1.6	3.3	1.6	1.6	-	3.3	29.5	19.7	24.6	14.8
3級	62	12.9	-	-	-	1.6	3.2	8.1	32.3	12.9	29.0	12.9
4級	74	21.6	2.7	6.8	2.7	1.4	2.7	5.4	18.9	23.0	28.4	8.1
5級	19	15.8	-	-	5.3	-	-	10.5	47.4	10.5	15.8	10.5
6級	10	-	-	-	-	-	-	-	40.0	20.0	20.0	20.0

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

身体障害者手帳の等級別では、『働きたい』と答えた就労意欲のある人は、4級の人で21.6%と多くなっている。また、『働きたくない』と答えた人は5級の人で47.4%、6級の人で40.0%と多くなっている。(表 - 5 - 11)

表 - 5 - 12 愛の手帳の度数別

単位:%

	回答者数	働きたい (計)	一般企業などで常勤の社員として働きたい	パート・アルバイトとして働きたい	障害者の雇用が多い職場で働きたい	指導員がいて支援をしてくれる職場で働きたい	作業所や就労支援事業所などで働きたい	働きたいが、働く場所は特に希望はない	働きたくない	わからない	その他	無回答
1度	8	12.5	12.5	-	-	-	-	-	12.5	37.5	37.5	-
2度	26	38.5	-	-	7.7	15.4	15.4	-	3.8	23.1	30.8	3.8
3度	28	60.7	7.1	3.6	10.7	14.3	14.3	10.7	3.6	14.3	17.9	3.6
4度	31	58.1	22.6	6.5	6.5	12.9	3.2	6.5	16.1	12.9	9.7	3.2

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

愛の手帳の度数別では、『働きたい』と答えた就労意欲のある人は、3、4度の人で60%前後と高くなっている。また、「一般企業などで常勤の社員として働きたい」と答えた人は4度の人で22.6%と高くなっている。(表 - 5 - 12)

表 - 5 - 13 精神障害者保健福祉手帳の等級別

単位:%

	回答者数	働きたい (計)	一般企業などで常勤の社員として働きたい	パート・アルバイトとして働きたい	障害者の雇用が多い職場で働きたい	指導員がいて支援をしてくれる職場で働きたい	作業所や就労支援事業所などで働きたい	働きたいが、働く場所は特に希望はない	働きたくない	わからない	その他	無回答
1級	18	22.2	-	11.1	5.6	-	5.6	-	11.1	55.6	11.1	-
2級	63	39.7	3.2	12.7	9.5	-	7.9	6.3	20.6	28.6	7.9	3.2
3級	37	43.2	8.1	8.1	2.7	13.5	2.7	8.1	10.8	18.9	16.2	10.8

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

精神障害者保健福祉手帳の等級別では、『働きたい』と答えた就労意欲のある人は、3級の人で43.2%と高く、「指導員がいて支援をしてくれる職場で働きたい」では13.5%となっている。また、「わからない」は1級の人で55.6%と高くなっている。(表 - 5 - 13)

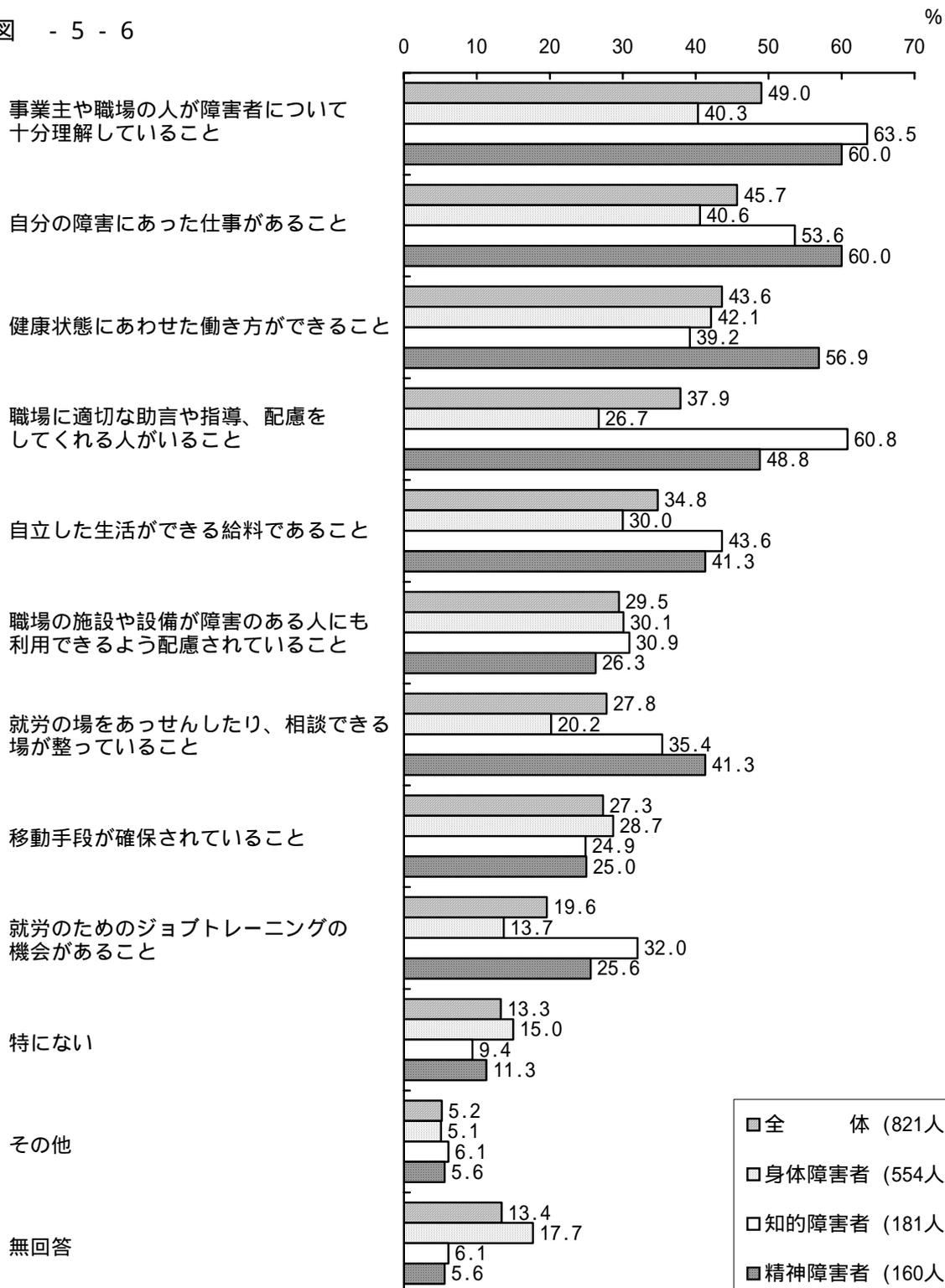
(6) 障害者が働くための環境整備

大切なのは、職場の理解、自分の障害にあった仕事、健康状態にあわせた働き方

(全員の方に)

問 31 . あなた (ご本人) は、障害者が働くためには、どのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 5 - 6



障害者が働くためには、どのような環境が整っていることが大切だと思うかたずねたところ、全体では、「事業主や職場の人が障害者について十分理解していること」(49.0%)が最も多く、次いで「自分の障害にあった仕事があること」(45.7%)、「健康状態にあわせた働き方ができること」(43.6%)も4割以上であげられている。以下、「職場に適切な助言や指導配慮をしてくれる人がいること」(37.9%)、「自立した生活ができる給料であること」(34.8%)、「職場の施設や設備が障害のある人にも利用できるよう配慮されていること」(29.5%)、「就労の場をあっせんしたり、相談できる場が整っていること」(27.8%)、「移動手段が確保されていること」(27.3%)、「就労のためのジョブトレーニングの機会があること」(19.6%)の順になっている。

身体障害者では、「健康状態にあわせた働き方ができること」(42.1%)が最も多く、次いで「自分の障害にあった仕事があること」(40.6%)、「事業主や職場の人が障害者について十分理解していること」(40.3%)が4割強となっている。以下、「職場の施設や設備が障害のある人にも利用できるよう配慮されていること」(30.1%)、「自立した生活ができる給料であること」(30.0%)、「移動手段が確保されていること」(28.7%)、「職場に適切な助言や指導配慮をしてくれる人がいること」(26.7%)、「就労の場をあっせんしたり、相談できる場が整っていること」(20.2%)、「就労のためのジョブトレーニングの機会があること」(13.7%)の順になっている。

知的障害者では、「事業主や職場の人が障害者について十分理解していること」(63.5%)が6割強で最も多く、次いで、「職場に適切な助言や指導配慮をしてくれる人がいること」(60.8%)、「自分の障害にあった仕事があること」(53.6%)が5割以上となっている。以下、「自立した生活ができる給料であること」(43.6%)、「健康状態にあわせた働き方ができること」(39.2%)、「就労の場をあっせんしたり、相談できる場が整っていること」(35.4%)、「就労のためのジョブトレーニングの機会があること」(32.0%)、「職場の施設や設備が障害のある人にも利用できるよう配慮されていること」(30.9%)、「移動手段が確保されていること」(24.9%)の順になっている。

精神障害者では、「事業主や職場の人が障害者について十分理解していること」と「自分の障害にあった仕事があること」(各60.0%)が6割で最も多く、次いで「健康状態にあわせた働き方ができること」(56.9%)が半数以上となっている。以下、「職場に適切な助言や指導配慮をしてくれる人がいること」(48.8%)、「自立した生活ができる給料であること」(41.3%)、「就労の場をあっせんしたり、相談できる場が整っていること」(41.3%)、「職場の施設や設備が障害のある人にも利用できるよう配慮されていること」(26.3%)、「就労のためのジョブトレーニングの機会があること」(25.6%)、「移動手段が確保されていること」(25.0%)の順になっている。(図 - 5 - 6)

表 - 5 - 14 身体障害者手帳に記載された障害名別

単位:%

	回答者数	健康状態にあわせた働き方ができること	自分の障害にあった仕事があること	事業者や職場の人が障害者について十分理解していること	職場の施設や設備が障害のある人に利用できること	自立した生活ができること	移動手段が確保されていること	
全体	554	42.1	40.6	40.3	30.1	30.0	28.7	
手帳に記載の障害名	上肢機能障害	111	43.2	43.2	44.1	34.2	27.0	35.1
	下肢機能障害	201	43.3	42.3	42.8	33.3	31.8	35.8
	体幹機能障害	63	50.8	50.8	49.2	49.2	30.2	46.0
	内部機能障害	147	49.0	42.2	39.5	27.9	29.3	21.1
	視覚障害	47	23.4	36.2	34.0	25.5	29.8	21.3
	聴覚障害・平衡機能障害	44	31.8	31.8	34.1	25.0	22.7	20.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	23	34.8	43.5	34.8	30.4	30.4	26.1
	肢体不自由(脳原性まひ)	17	29.4	35.3	47.1	41.2	47.1	41.2
	その他	33	39.4	42.4	39.4	27.3	27.3	24.2

	回答者数	職場に適切な配慮をしてくれる人	就労の場をあたせる機会が	就労のためのジョブあり	特にな	その他	無回答	
全体	554	26.7	20.2	13.7	15.0	5.1	17.7	
手帳に記載の障害名	上肢機能障害	111	27.0	19.8	16.2	15.3	6.3	15.3
	下肢機能障害	201	28.9	21.4	14.9	12.4	6.0	19.4
	体幹機能障害	63	33.3	25.4	20.6	12.7	7.9	11.1
	内部機能障害	147	24.5	19.0	10.9	15.6	3.4	18.4
	視覚障害	47	25.5	21.3	10.6	21.3	6.4	21.3
	聴覚障害・平衡機能障害	44	25.0	18.2	13.6	20.5	2.3	22.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	23	26.1	26.1	13.0	21.7	-	21.7
	肢体不自由(脳原性まひ)	17	23.5	23.5	23.5	17.6	11.8	17.6
	その他	33	36.4	21.2	18.2	15.2	3.0	12.1

注:網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

身体障害者手帳に記載された障害名別に見ると、体幹機能障害は「健康状態にあわせた働き方ができること」「自分の障害にあった仕事があること」「事業者や職場の人が障害者について十分理解していること」「職場の施設や設備が障害のある人に利用できること」が多く、それぞれ50%前後となっている。また、内部機能障害の人も「健康状態にあわせた働き方ができること」で49.0%となっている。(表 - 5 - 14)

6 . 保健福祉サービスなどについて

(1) 利用した相談サービス

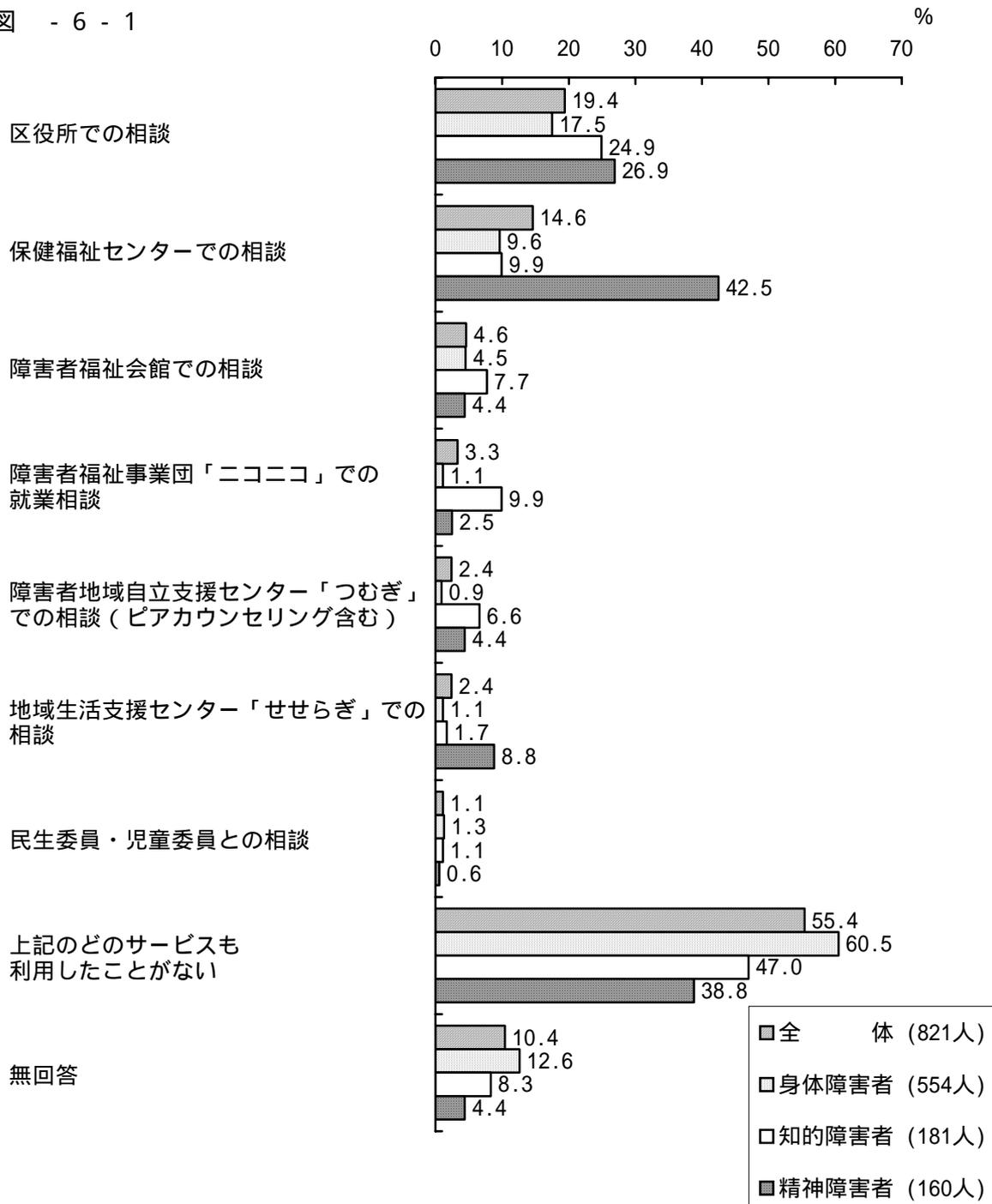
半数以上が利用なし、利用した中で多いのは区役所と保健福祉センター

(全員の方に)

問 32 . あなた(ご本人)は、過去 1 年の間に、次の相談サービスを利用したことがありますか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 6 - 1



利用した相談サービスは、全体では、「区役所での相談」(19.4%)が最も多く、以下、「保健福祉センターでの相談」(14.6%)、「障害者福祉会館での相談」(4.6%)、「障害者福祉事業団「ニコニコ」での就業相談」(3.3%)、「障害者地域自立支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む)」と「地域生活支援センター「せせらぎ」での相談」(各2.4%)、「民生委員・児童委員との相談」(1.1%)の順になっている。一方、「上記のどのサービスも利用したことがない」と答えた人が55.4%と過半数を占める。

身体障害者では、「区役所での相談」(17.5%)が最も多く、以下、「保健福祉センターでの相談」(9.6%)、「障害者福祉会館での相談」(4.5%)、「民生委員・児童委員との相談」(1.3%)、「地域生活支援センター「せせらぎ」での相談」と「障害者福祉事業団「ニコニコ」での就業相談」(各1.1%)、「障害者地域自立支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む)」(0.9%)の順になっている。一方、「上記のどのサービスも利用したことがない」と答えた人が60.5%と6割を占める。

知的障害者では、「区役所での相談」(24.9%)が最も多く、以下、「保健福祉センターでの相談」と「障害者福祉事業団「ニコニコ」での就業相談」(各9.9%)、「障害者福祉会館での相談」(7.7%)、「障害者地域自立支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む)」(6.6%)、「地域生活支援センター「せせらぎ」での相談」(1.7%)、「民生委員・児童委員との相談」(1.1%)の順になっている。一方、「上記のどのサービスも利用したことがない」と答えた人が47.0%と半数近くを占める。

精神障害者では、「保健福祉センターでの相談」(42.5%)が最も多く、以下、「区役所での相談」(26.9%)、「地域生活支援センター「せせらぎ」での相談」(8.8%)、「障害者福祉会館での相談」と「障害者地域自立支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む)」(各4.4%)、「障害者福祉事業団「ニコニコ」での就業相談」(2.5%)、「民生委員・児童委員との相談」(0.6%)の順になっている。一方、「上記のどのサービスも利用したことがない」と答えた人が38.8%となっている。(図 - 6 - 1)

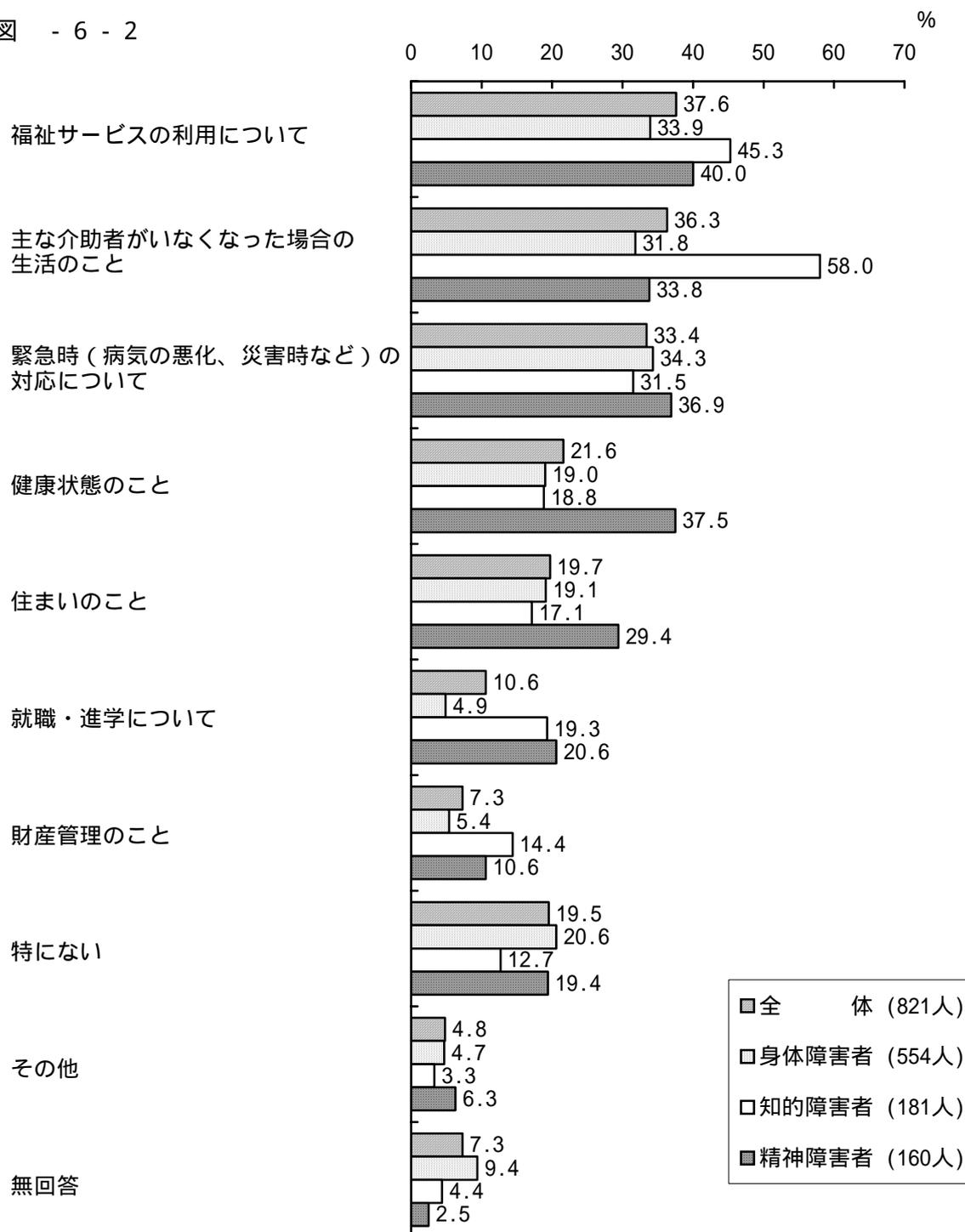
(2) 「すこやか福祉センター」でしたい相談

「福祉サービスの利用」「主な介助者がいなくなった場合の生活のこと」「緊急時の対応について」が多い

(全員の方に)

問33. 区では、身近な地域に子ども、障害者、高齢者の保健福祉に関する相談を総合的に受ける(仮称)すこやか福祉センターの開設を予定していますが、あなた(ご本人)は、そこでどのような相談をしたいと思いますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 6 - 2



子ども、障害者、高齢者の保健福祉に関する相談を総合的に受ける（仮称）「すこやか福祉センター」の開設を予定しているが、どのような相談をしたいと思うかたずねたところ、「福祉サービスの利用について」（37.6％）が最も多く、次いで、「主な介助者がいなくなった場合の生活のこと」（36.3％）、「緊急時（病気の悪化、災害時など）の対応について」（33.4％）が3割以上となっている。以下、「健康状態のこと」（21.6％）、「住まいのこと」（19.7％）、「就職・進学について」（10.6％）、「財産管理のこと」（7.3％）の順になっている。

身体障害者では、「緊急時（病気の悪化、災害時など）の対応について」（34.3％）が最も多く、次いで、「福祉サービスの利用について」（33.9％）、「主な介助者がいなくなった場合の生活のこと」（31.8％）が3割以上となっている。以下、「住まいのこと」（19.1％）、「健康状態のこと」（19.0％）、「財産管理のこと」（5.4％）、「就職・進学について」（4.9％）の順になっている。

知的障害者では、「主な介助者がいなくなった場合の生活のこと」（58.0％）が最も多く、6割近くとなっている。以下、「福祉サービスの利用について」（45.3％）、「緊急時（病気の悪化、災害時など）の対応について」（31.5％）、「就職・進学について」（19.3％）、「健康状態のこと」（18.8％）、「住まいのこと」（17.1％）、「財産管理のこと」（14.4％）の順になっている。

精神障害者では、「福祉サービスの利用について」（40.0％）が最も多く、以下、「健康状態のこと」（37.5％）、「緊急時（病気の悪化、災害時など）の対応について」（36.9％）、「主な介助者がいなくなった場合の生活のこと」（33.8％）、「住まいのこと」（29.4％）、「就職・進学について」（20.6％）、「財産管理のこと」（10.6％）の順になっている。（図 - 6 - 2）

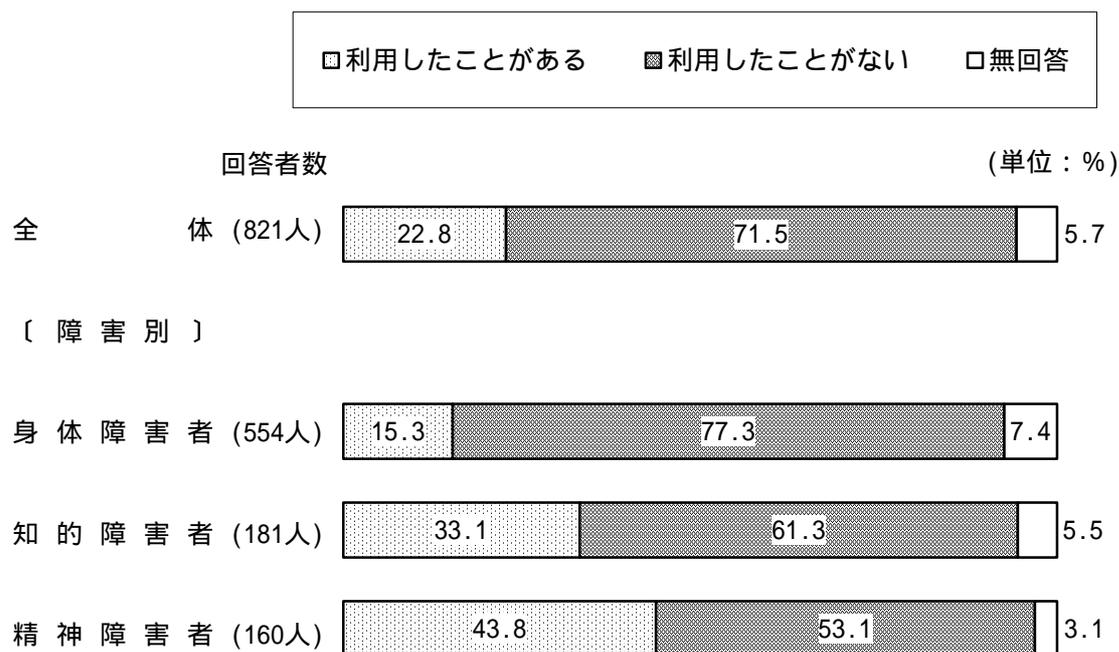
(3) 障害福祉サービスの利用

利用したことがある人は2割強

(全員の方に)

問34. あなた(ご本人)は、過去1年の間に、障害者自立支援法などによる障害福祉サービスを利用したことがありますか。(は1つ)

図 - 6 - 3



過去1年の間に、障害者自立支援法などによる障害福祉サービスを利用したかたずねたところ、全体では、「利用したことがある」と答えた人が22.8%、「利用したことがない」と答えた人が71.5%となっている。

身体障害者では、「利用したことがある」と答えた人が15.3%、「利用したことがない」と答えた人が77.3%となっている。

知的障害者では、「利用したことがある」と答えた人が33.1%、「利用したことがない」と答えた人が61.3%となっている。

精神障害者では、「利用したことがある」と答えた人が43.8%、「利用したことがない」と答えた人が53.1%となっている。(図 - 6 - 3)

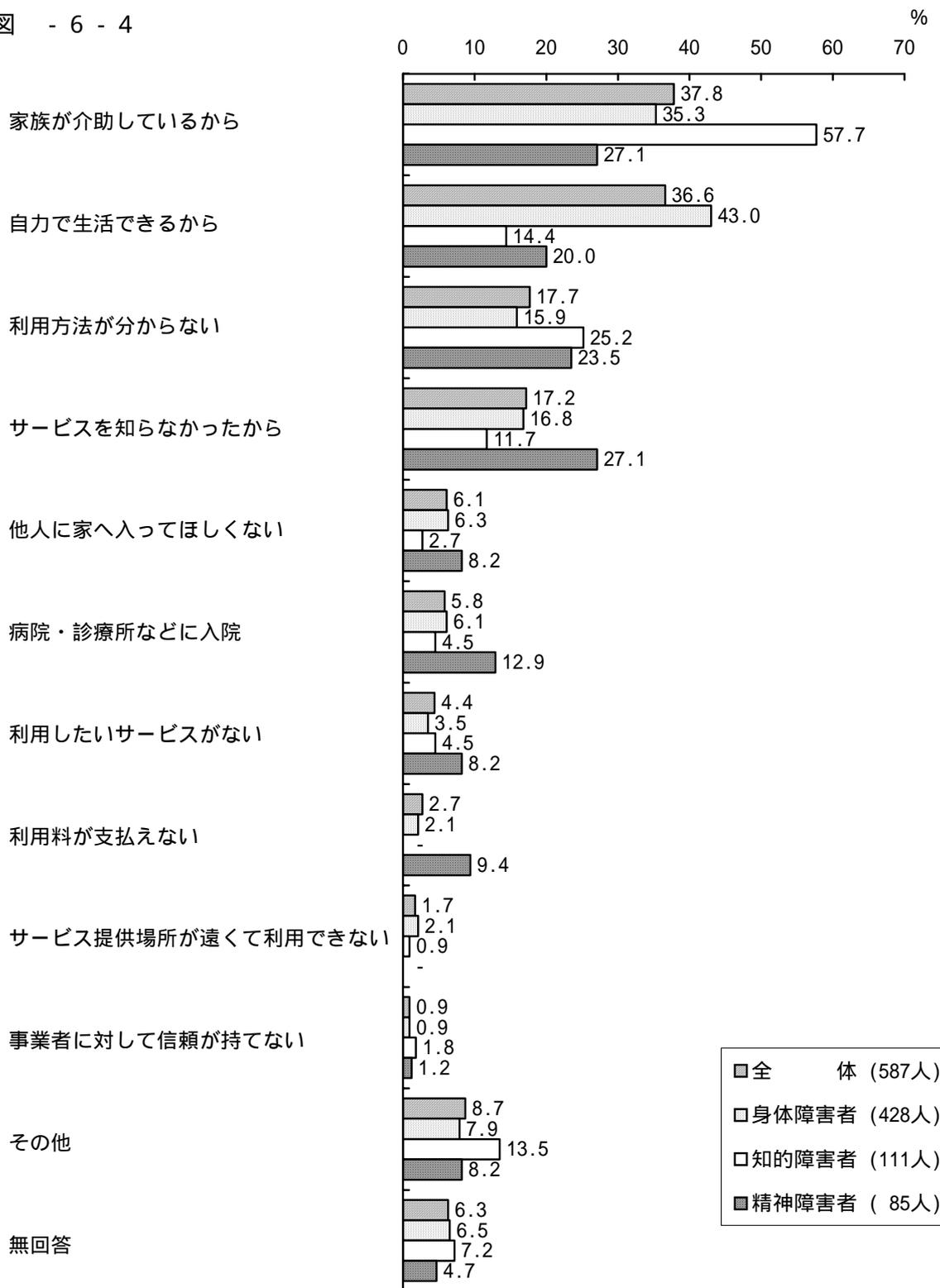
(4) 障害福祉サービスを利用していない理由

主な理由は「家族が介助しているから」「自力で生活できるから」

(問 34 で「 2 . 利用したことがない」と答えた方に)

問 35 . 障害福祉サービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 6 - 4



障害福祉サービスを利用したことがないと答えた人に、その理由をたずねた。全体では、「家族が介助しているから」(37.8%)が最も多く、次いで、「自力で生活できるから」(36.6%)が主な理由としてあげられている。以下、「利用方法が分からない」(17.7%)、「サービスを知らなかったから」(17.2%)、「他人に家へ入ってほしくない」(6.1%)、「病院・診療所などに入院」(5.8%)、「利用したいサービスがない」(4.4%)、「利用料が支払えない」(2.7%)、「サービス提供場所が遠くて利用できない」(1.7%)、「事業者に対して信頼が持てない」(0.9%)の順になっている。

身体障害者では、「自力で生活できるから」(43.0%)が最も多く、次いで、「家族が介助しているから」(35.3%)が主な理由としてあげられている。以下、「サービスを知らなかったから」(16.8%)、「利用方法が分からない」(15.9%)、「他人に家へ入ってほしくない」(6.3%)、「病院・診療所などに入院」(6.1%)、「利用したいサービスがない」(3.5%)、「サービス提供場所が遠くて利用できない」と「利用料が支払えない」(各2.1%)、「事業者に対して信頼が持てない」(0.9%)の順になっている。

知的障害者では、「家族が介助しているから」(57.7%)が最も多く、以下、「利用方法が分からない」(25.2%)、「自力で生活できるから」(14.4%)、「サービスを知らなかったから」(11.7%)、「利用したいサービスがない」と「病院・診療所などに入院」(各4.5%)、「他人に家へ入ってほしくない」(2.7%)、「事業者に対して信頼が持てない」(1.8%)、「サービス提供場所が遠くて利用できない」(0.9%)の順になっている。

精神障害者では、「家族が介助しているから」と「サービスを知らなかったから」(各27.1%)が最も多く、次いで「利用方法が分からない」(23.5%)、「自力で生活できるから」(20.0%)が2割以上となっている。以下、「病院・診療所などに入院」(12.9%)、「利用料が支払えない」(9.4%)、「他人に家へ入ってほしくない」と「利用したいサービスがない」(各8.2%)、「事業者に対して信頼が持てない」(1.2%)の順になっている。(図 - 6 - 4)

(5)「アシストなかの(権利擁護センター)」の認識

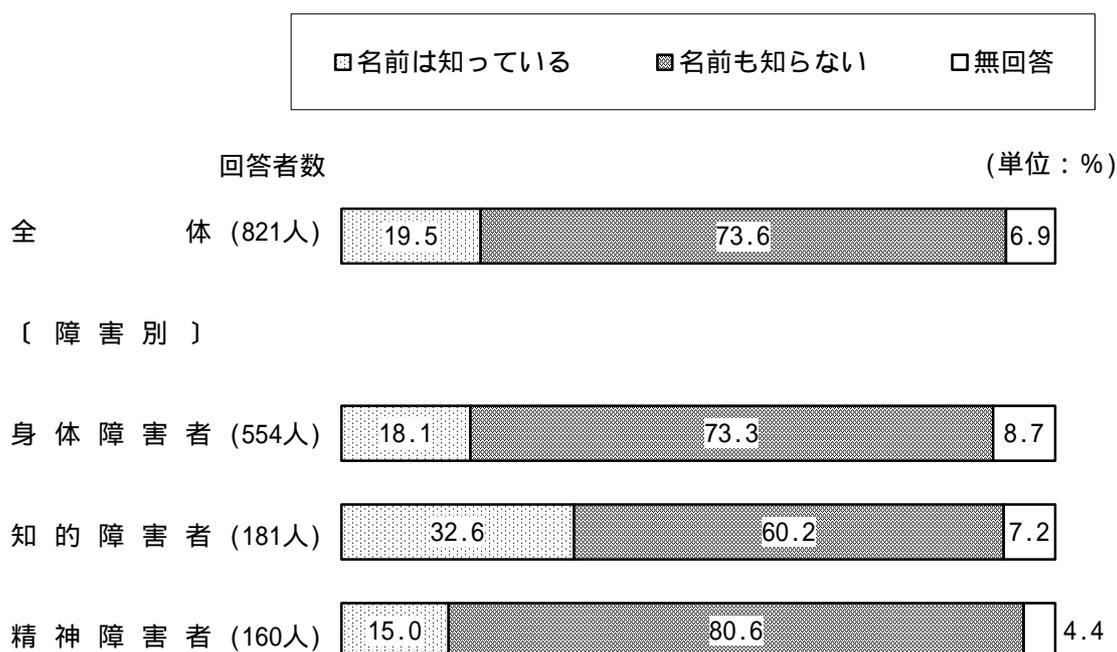
名前は知っていると答えた人が2割

(全員の方に)

問36. あなた(ご本人)は、保健福祉サービスの利用や権利擁護に関する相談、日常的な金銭管理サービスなどを行っているアシストなかの(権利擁護センター)をご存知ですか。

(は1つ)

図 - 6 - 5



「アシストなかの(権利擁護センター)」については、全体では、「名前を知っている」と答えた人が19.5%と2割にとどまる。一方、「名前も知らない」と答えた人が73.6%となっている。

身体障害者では、「名前を知っている」と答えた人が18.1%、「名前も知らない」と答えた人が73.3%となっている。

知的障害者では、「名前を知っている」と答えた人が32.6%、「名前も知らない」と答えた人が60.2%となっている。

精神障害者では、「名前を知っている」と答えた人が15.0%、「名前も知らない」と答えた人が80.6%となっている。(図 - 6 - 5)

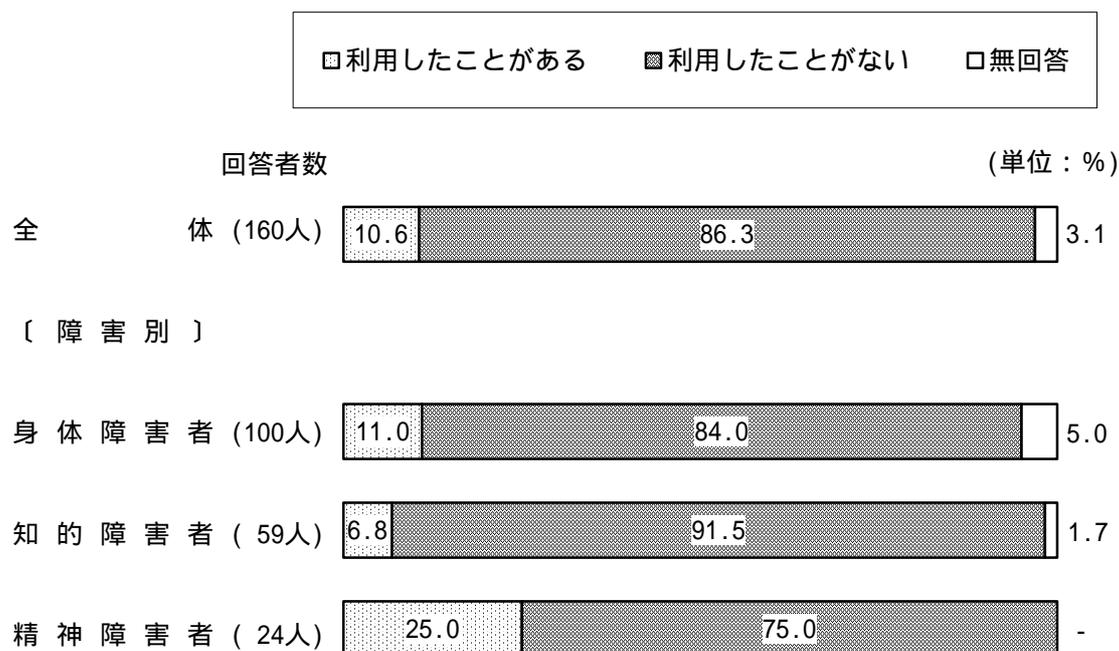
(6)「アシストなかの」の利用

知っている人のうち、利用したことがあるのは1割

(問36で「1.名前は知っている」と答えた方に)

問37.アシストなかのを利用したことがありますか。(は1つ)

図 - 6 - 6



「アシストなかの」の名前を知っていると答えた人に、利用したことがあるかたずねたところ、全体では、「利用したことがある」と答えた人が10.6%にとどまり、「利用したことがない」と答えた人が86.3%を占めている。

身体障害者では、「利用したことがある」と答えた人が11.0%、「利用したことがない」と答えた人が84.0%となっている。

知的障害者では、「利用したことがある」と答えた人が6.8%、「利用したことがない」と答えた人が91.5%となっている。

精神障害者では、「利用したことがある」と答えた人が25.0%、「利用したことがない」と答えた人が75.0%となっている。(図 - 6 - 6)

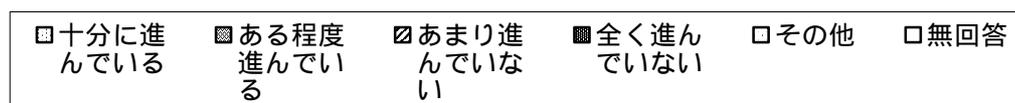
(7) 中野区の施設のバリアフリー化

進んでいると答えた人が4割

(全員の方に)

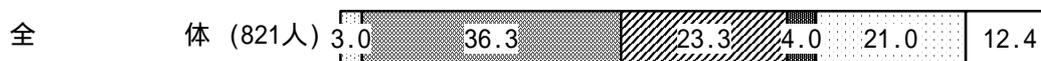
問 38 . 中野区にある施設や建物について伺います。施設のバリアフリー化は進んでいると思いますか。(1 は 1 つ)

図 - 6 - 7

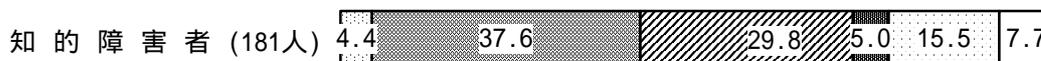
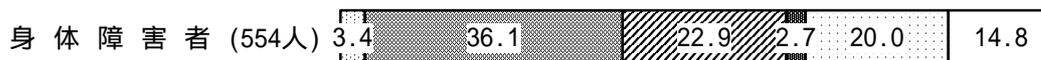


回答者数

(単位 : %)



[障 害 別]



中野区の施設のバリアフリー化については、全体では、「十分に進んでいる」と答えた人は3.0%、「ある程度進んでいる」と答えた人は36.3%と、進んでいると答えた人が4割となっている。一方、「あまり進んでいない」と答えた人は23.3%、「全く進んでいない」と答えた人は4.0%となっている。

身体障害者では、「十分に進んでいる」と答えた人は3.4%、「ある程度進んでいる」と答えた人は36.1%と、進んでいると答えた人が4割となっている。一方、「あまり進んでいない」と答えた人は22.9%、「全く進んでいない」と答えた人は2.7%となっている。

知的障害者では、「十分に進んでいる」と答えた人は4.4%、「ある程度進んでいる」と答えた人は37.6%と、進んでいると答えた人が4割強となっている。一方、「あまり進んでいない」と答えた人は29.8%、「全く進んでいない」と答えた人は5.0%となっている。

精神障害者では、「十分に進んでいる」と答えた人は5.0%、「ある程度進んでいる」と答えた人は28.8%と、進んでいると答えた人が3割強となっている。一方、「あまり進んでいない」と答えた人は20.6%、「全く進んでいない」と答えた人は9.4%となっている。(図 - 6 - 7)

表 - 6 - 1 身体障害者手帳に記載された障害名別

単位：%

		回答者数	十分に 進んでいる	ある程度 進んでいる	あまり 進んでいない	全く 進んでいない	その他	無回答
全体		554	3.4	36.1	22.9	2.7	20.0	14.8
手帳に記載の障害名	上肢機能障害	111	2.7	37.8	29.7	4.5	13.5	11.7
	下肢機能障害	201	2.5	37.8	21.4	4.5	16.4	17.4
	体幹機能障害	63	3.2	34.9	31.7	6.3	15.9	7.9
	内部機能障害	147	2.0	39.5	23.1	0.7	23.1	11.6
	視覚障害	47	6.4	31.9	12.8	2.1	27.7	19.1
	聴覚障害・平衡機能障害	44	2.3	27.3	25.0	-	27.3	18.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	23	8.7	43.5	21.7	-	17.4	8.7
	肢体不自由(脳原性まひ)	17	5.9	29.4	23.5	17.6	11.8	11.8
	その他	33	12.1	24.2	18.2	-	24.2	21.2

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

身体障害者手帳に記載された障害名別に見ると、「十分に進んでいる」「ある程度進んでいる」と答えた人は音声・言語・そしゃく機能障害でそれぞれ 8.7%、43.5%と多くなっている。一方、「あまり進んでいない」と答えた人は上肢機能障害(29.7%) 体幹機能障害(31.7%)で、「全く進んでいない」と答えた人は肢体不自由(脳原性まひ)(17.6%)でそれぞれ多くなっている。(表 - 6 - 1)

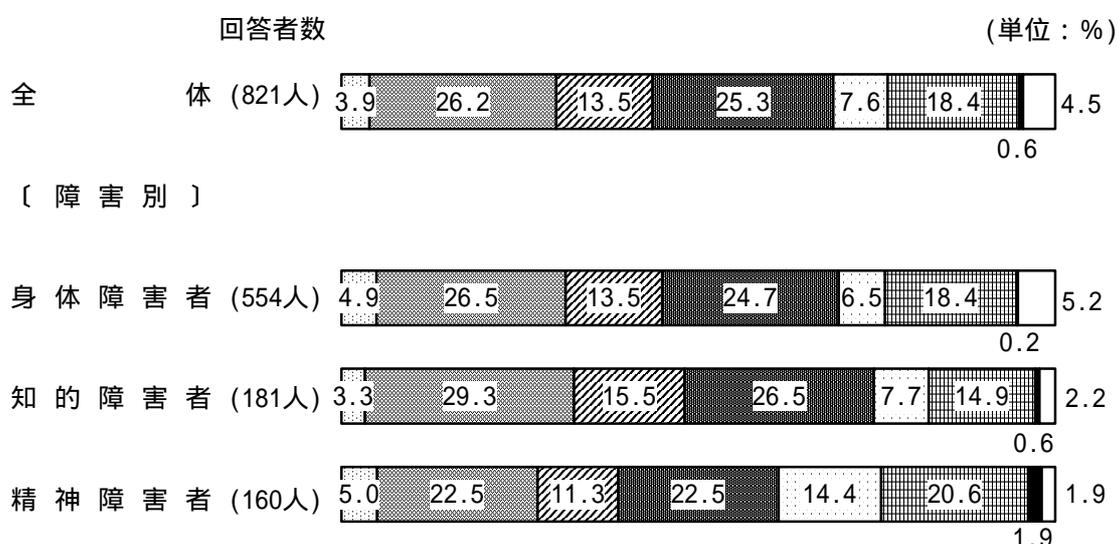
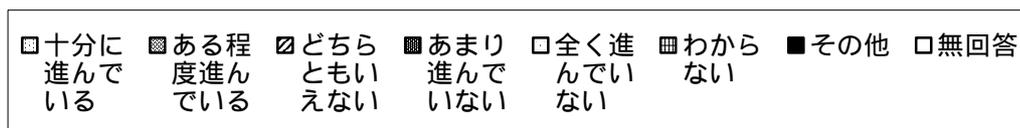
(8) 障害者に対する理解

進んでいると答えた人が3割

(全員の方に)

問 39 . 障害者に対する理解は進んでいると思いますか。(1 は 1 つ)

図 - 6 - 8



障害者に対する理解については、全体では、「十分に進んでいる」と答えた人は3.9%、「ある程度進んでいる」と答えた人は26.2%と、進んでいると答えた人が3割となっている。一方、「あまり進んでいない」と答えた人は25.3%、「全く進んでいない」と答えた人は7.6%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は13.5%となっている。

身体障害者では、「十分に進んでいる」と答えた人は4.9%、「ある程度進んでいる」と答えた人は26.5%、「あまり進んでいない」と答えた人は24.7%、「全く進んでいない」と答えた人は6.5%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は13.5%となっている。

知的障害者では、「十分に進んでいる」と答えた人は3.3%、「ある程度進んでいる」と答えた人は29.3%と、進んでいると答えた人が3割強となっている。一方、「あまり進んでいない」と答えた人は26.5%、「全く進んでいない」と答えた人は7.7%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は15.5%となっている。

精神障害者では、「十分に進んでいる」と答えた人は5.0%、「ある程度進んでいる」と答えた人は22.5%と、進んでいると答えた人が3割弱となっている。一方、「あまり進んでいない」と答えた人は22.5%、「全く進んでいない」と答えた人は14.4%となっている。また、「どちらともいえない」と答えた人は11.3%となっている。(図 - 6 - 8)

(9) 充実してほしい施策

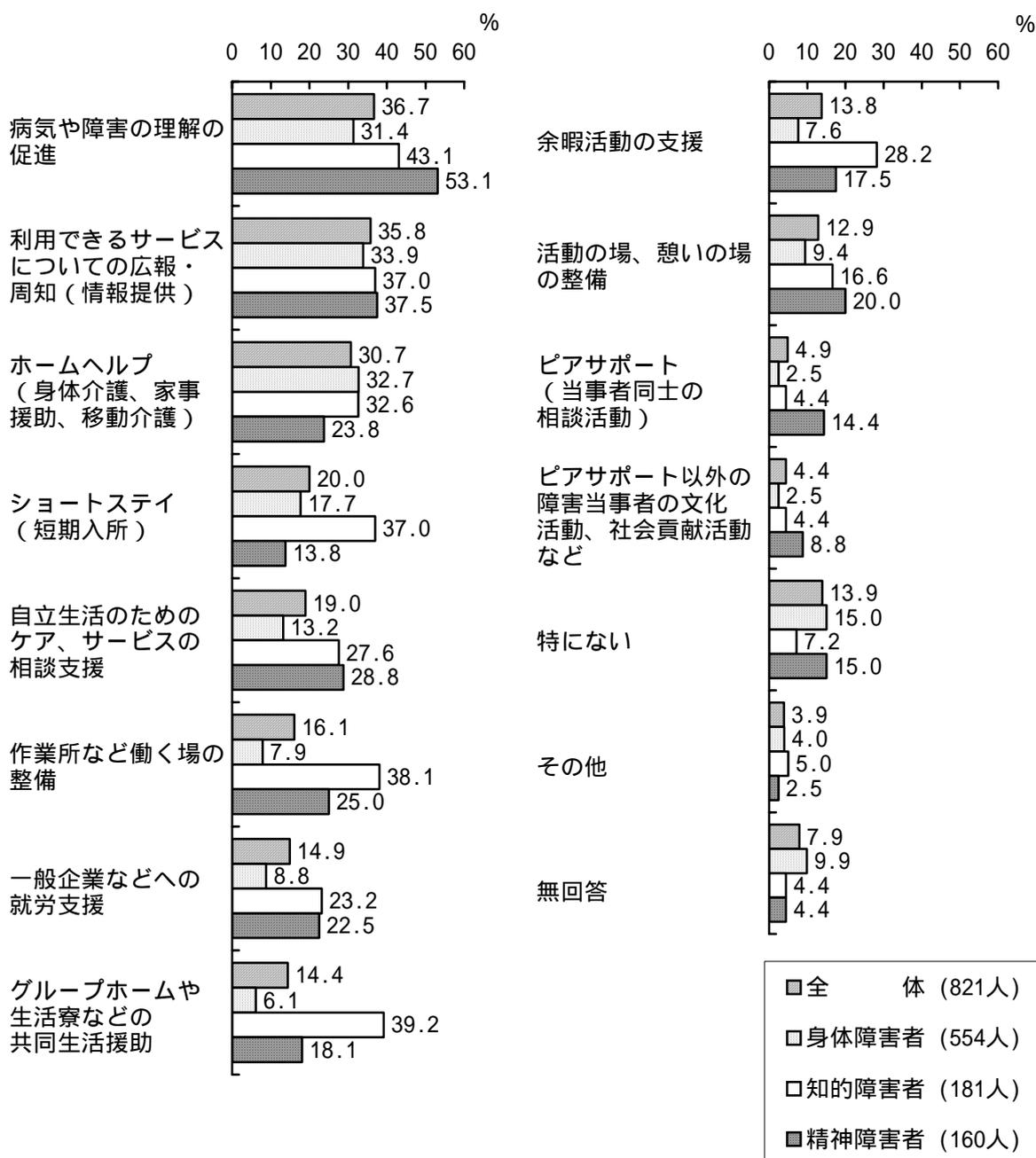
「病気や障害の理解の促進」「利用できるサービスについての広報・周知(情報提供)」「ホームヘルプ(身体介護、家事援助、移動介護)」への要望が多い

(全員の方に)

問 40 . あなた (ご本人) は次の施策のうち、特に充実してほしいと思うものはどれですか。

(あてはまるものすべてに)

図 - 6 - 9



充実してほしい施策については、全体では、「病気や障害の理解の促進」(36.7%)が最も多く、次いで、「利用できるサービスについての広報・周知(情報提供)」(35.8%)、「ホームヘルプ(身体介護、家事援助、移動介護)」(30.7%)が3割以上であげられている。以下、「ショートステイ(短期入所)」(20.0%)、「自立生活のためのケア、サービスの相談支援」(19.0%)、「作業所など働く場の整備」(16.1%)、「一般企業などへの就労支援」(14.9%)、「グループホームや生活寮などの共同生活援助」(14.4%)、「余暇活動の支援」(13.8%)、「活動の場、憩いの場の整備」(12.9%)、「ピアサポート(当事者同士の相談活動)」(4.9%)、「ピアサポート以外の障害当事者の文化活動、社会貢献活動など」(4.4%)の順になっている。

身体障害者では、「利用できるサービスについての広報・周知(情報提供)」(33.9%)が最も多く、次いで、「ホームヘルプ(身体介護、家事援助、移動介護)」(32.7%)、「病気や障害の理解の促進」(31.4%)が3割以上であげられている。以下、「ショートステイ(短期入所)」(17.7%)、「自立生活のためのケア、サービスの相談支援」(13.2%)、「活動の場、憩いの場の整備」(9.4%)、「一般企業などへの就労支援」(8.8%)、「作業所など働く場の整備」(7.9%)、「余暇活動の支援」(7.6%)、「グループホームや生活寮などの共同生活援助」(6.1%)、「ピアサポート(当事者同士の相談活動)」と「ピアサポート以外の障害当事者の文化活動、社会貢献活動など」(各2.5%)の順になっている。

知的障害者では、「病気や障害の理解の促進」(43.1%)が4割強で最も多く、次いで、「グループホームや生活寮などの共同生活援助」(39.2%)、「作業所など働く場の整備」(38.1%)、「ショートステイ(短期入所)」(37.0%)、「利用できるサービスについての広報・周知(情報提供)」(37.0%)、「ホームヘルプ(身体介護、家事援助、移動介護)」(32.6%)が3割以上であげられている。以下、「余暇活動の支援」(28.2%)、「自立生活のためのケア、サービスの相談支援」(27.6%)、「一般企業などへの就労支援」(23.2%)、「活動の場、憩いの場の整備」(16.6%)、「ピアサポート(当事者同士の相談活動)」と「ピアサポート以外の障害当事者の文化活動、社会貢献活動など」(各4.4%)の順になっている。

精神障害者では、「病気や障害の理解の促進」(53.1%)が5割強で最も多く、次いで、「利用できるサービスについての広報・周知(情報提供)」(37.5%)があげられている。以下、「自立生活のためのケア、サービスの相談支援」(28.8%)、「作業所など働く場の整備」(25.0%)、「ホームヘルプ(身体介護、家事援助、移動介護)」(23.8%)、「一般企業などへの就労支援」(22.5%)、「活動の場、憩いの場の整備」(20.0%)、「グループホームや生活寮などの共同生活援助」(18.1%)、「余暇活動の支援」(17.5%)、「特にない」(15.0%)、「ピアサポート(当事者同士の相談活動)」(14.4%)、「ショートステイ(短期入所)」(13.8%)、「ピアサポート以外の障害当事者の文化活動、社会貢献活動など」(8.8%)の順になっている。(図 - 6 - 9)

表 - 6 - 2 身体障害者手帳に記載された障害名別

単位: %

	回答者数	利用できるサービスについて の広報・周知 (情報提供)	ホームヘルプ(身体 介護、家事援助、移 動介護)	病気や障害の理解の 促進	ショートステイ(短 期入所)	自立生活のための相 談 支援	活動の場、憩いの場 の整備	一般企業などへの就 労支援	作業所など働く場の 整備
全体	554	33.9	32.7	31.4	17.7	13.2	9.4	8.8	7.9
手帳に記載の障害名	上肢機能障害	111	37.8	45.0	32.4	26.1	17.1	10.8	13.5
	下肢機能障害	201	36.8	38.8	33.8	19.4	16.9	10.4	8.5
	体幹機能障害	63	30.2	50.8	30.2	33.3	15.9	9.5	6.3
	内部機能障害	147	39.5	26.5	32.7	15.6	13.6	10.9	7.5
	視覚障害	47	19.1	25.5	19.1	17.0	4.3	10.6	2.1
	聴覚障害・平衡機能障害	44	43.2	22.7	38.6	20.5	11.4	9.1	6.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	23	34.8	39.1	34.8	21.7	13.0	-	8.7
	肢体不自由(脳原性まひ)	17	23.5	52.9	35.3	17.6	17.6	5.9	17.6
	その他	33	21.2	30.3	30.3	21.2	15.2	9.1	15.2

	回答者数	余暇活動の支援	グループホームや生活 支援などの共同生活	障害当事者の文化活動 など	ピアサポート(当事 者同士の相談活動)	特にな い	その他	無回 答
全体	554	7.6	6.1	2.5	2.5	15.0	4.0	9.9
手帳に記載の障害名	上肢機能障害	111	12.6	9.0	3.6	4.5	10.8	8.1
	下肢機能障害	201	8.0	6.0	3.0	3.0	11.9	9.5
	体幹機能障害	63	3.2	3.2	3.2	3.2	17.5	6.3
	内部機能障害	147	8.2	6.8	2.0	2.0	16.3	8.2
	視覚障害	47	6.4	-	2.1	-	29.8	4.3
	聴覚障害・平衡機能障害	44	2.3	9.1	-	-	6.8	15.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	23	4.3	4.3	8.7	4.3	4.3	8.7
	肢体不自由(脳原性まひ)	17	11.8	17.6	11.8	5.9	17.6	5.9
	その他	33	9.1	6.1	-	3.0	12.1	21.2

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

身体障害者手帳に記載された障害名別に見ると、「利用できるサービスについての広報・周知(情報提供)」と答えた人は聴覚障害・平衡機能障害(43.2%)、内部機能障害(39.5%)で多く、「ホームヘルプ(身体介護、家事援助、移動介護)」と答えた人は上肢機能障害(45.0%)、下肢機能障害(38.8%)、体幹機能障害(50.8%)、音声・言語・そしゃく機能障害(39.1%)、肢体不自由(脳原性まひ)(52.9%)で多くなっている。「病気や障害の理解の促進」は聴覚障害・平衡機能障害(38.6%)で多くなっている。(表 - 6 - 2)

表 - 6 - 3 精神障害者保健福祉手帳の診断名別

単位：%

	回答者数	病気や障害の理解の促進	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供)	自立生活のための相談支援	作業所など働く場の整備	ホームヘルプ(身体介護、家事援助、移動介護)	一般企業などへの就労支援	活動の場、憩いの場の整備	グループホームや生活支援	
全体	160	53.1	37.5	28.8	25.0	23.8	22.5	20.0	18.1	
診断名	統合失調症	82	53.7	40.2	30.5	32.9	18.3	19.5	22.0	20.7
	気分障害(躁うつ病、うつ病)	34	67.6	50.0	29.4	20.6	29.4	26.5	26.5	5.9
	神経症	15	46.7	33.3	33.3	26.7	13.3	33.3	13.3	13.3
	人格および行動の障害	12	41.7	41.7	25.0	16.7	16.7	33.3	8.3	8.3
	てんかん	15	46.7	20.0	6.7	13.3	33.3	6.7	6.7	26.7
	アルコール、薬物依存症	5	-	40.0	40.0	40.0	20.0	20.0	40.0	-
	その他	22	59.1	45.5	27.3	9.1	22.7	36.4	18.2	22.7

	回答者数	余暇活動の支援	ピアサポーター(当事者同士の相談活動)	ショートステイ(短期入所)	障害当事者の文化活動など社会貢献活動	ピアサポーター以外の活動	特になし	その他	無回答
全体	160	17.5	14.4	13.8	8.8	15.0	2.5	4.4	
診断名	統合失調症	82	19.5	17.1	15.9	9.8	15.9	1.2	3.7
	気分障害(躁うつ病、うつ病)	34	17.6	14.7	5.9	8.8	11.8	2.9	-
	神経症	15	13.3	20.0	13.3	6.7	26.7	-	-
	人格および行動の障害	12	16.7	16.7	8.3	16.7	25.0	-	8.3
	てんかん	15	6.7	13.3	20.0	6.7	13.3	-	6.7
	アルコール、薬物依存症	5	20.0	20.0	-	-	20.0	-	-
	その他	22	18.2	13.6	18.2	9.1	9.1	9.1	-

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

精神障害者保健福祉手帳の診断名別に見ると、「病気や障害の理解の促進」「利用できるサービスについての広報・周知(情報提供)」「ホームヘルプ(身体介護、家事援助、移動介護)」「活動の場、憩いの場の整備」と答えた人は気分障害(躁うつ病、うつ病)でそれぞれ67.6%、50.0%、29.4%、26.5%と多くなっている。また、「作業所など働く場の整備」と答えた人は統合失調症で32.9%と多くなっている。(表 - 6 - 3)

表 - 6 - 4 介護保険の要支援・要介護認定の有無別

単位: %

	回答者数	病気や障害の理解の促進	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供)	利用できるサービス	ホームヘルプ(身体介護、家事援助、移動介護)	ショートステイ(短期入所)	自立生活のためのケア、サービスの相談支援	作業所など働く場の整備	一般企業などへの就労支援	グループホームや生活支援などの共同生活
全体	821	36.7	35.8	30.7	20.0	19.0	16.1	14.9	14.4	
要支援1	29	27.6	41.4	44.8	17.2	13.8	6.9	6.9	10.3	
要支援2	45	22.2	33.3	51.1	8.9	13.3	2.2	-	2.2	
要介護1	8	25.0	50.0	62.5	25.0	12.5	12.5	-	12.5	
要介護2	37	37.8	40.5	56.8	24.3	8.1	8.1	2.7	10.8	
要介護3	42	38.1	33.3	50.0	45.2	16.7	11.9	4.8	9.5	
要介護4	24	45.8	41.7	54.2	58.3	12.5	12.5	-	16.7	
要介護5	22	31.8	50.0	36.4	50.0	4.5	9.1	9.1	13.6	
要支援・要介護認定は受けていない	478	39.7	38.7	26.6	17.8	24.1	19.0	20.3	17.2	

	回答者数	余暇活動の支援	活動の場、憩いの場の整備	ピアサポーター(当事者)との相談活動	ピアサポーター(当事者)の活動(文化以外の活動)	特になし	その他	無回答
全体	821	13.8	12.9	4.9	4.4	13.9	3.9	7.9
要支援1	29	10.3	10.3	3.4	3.4	6.9	3.4	13.8
要支援2	45	6.7	2.2	2.2	2.2	13.3	-	8.9
要介護1	8	-	-	-	-	12.5	-	-
要介護2	37	-	10.8	-	2.7	5.4	5.4	2.7
要介護3	42	11.9	21.4	4.8	2.4	9.5	-	7.1
要介護4	24	12.5	4.2	4.2	4.2	-	8.3	8.3
要介護5	22	4.5	4.5	-	-	9.1	4.5	13.6
要支援・要介護認定は受けていない	478	17.6	16.1	7.1	5.6	14.2	4.4	5.4

注: 網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

介護保険の要支援・要介護認定の有無別に見ると、「病気や障害の理解の促進」と答えた人は要介護4の人で45.8%となっている。「利用できるサービスについての広報・周知(情報提供)」と答えた人は要支援1、要介護1、4、5で多く、「ホームヘルプ(身体介護、家事援助、移動介護)」と答えた人は全ての要支援度、要認定度で多くなっている。また、「自立生活のためのケア、サービスの相談支援」「一般企業などへの就労支援」と答えた人は要支援・要介護認定は受けていない人で多くなっている。(表 - 6 - 4)

表 - 6 - 5 家族構成別

単位：%

	回答者数	病気の促進や障害の理解の	知ることができるサービス（情報提供）	利用できるサービス（周知）	ホームヘルプ（身体移動介助）	ショートステイ（短期入所）	自立生活のための相談支援	作業所など働く場の整備	一般企業などへの就労支援	グループホームや生活支援などの共同生活
全体	821	36.7	35.8	30.7	20.0	19.0	16.1	14.9	14.4	
ひとり暮らし	212	40.6	31.6	33.5	7.1	18.4	10.8	13.7	7.1	
夫婦だけ	156	28.2	34.0	28.8	19.9	8.3	4.5	5.8	5.8	
配偶者と子どもと同居	84	31.0	33.3	19.0	14.3	14.3	4.8	9.5	3.6	
親と同居	197	46.7	44.7	32.0	37.6	28.9	38.1	26.9	31.5	
親と子どもと同居	20	20.0	20.0	15.0	5.0	30.0	15.0	20.0	25.0	
子どもと同居	64	32.8	40.6	46.9	28.1	14.1	6.3	6.3	7.8	
その他	79	34.2	31.6	29.1	16.5	24.1	16.5	17.7	24.1	

	回答者数	余暇活動の支援	活動の場、憩いの場の整備	ピアサポーター（当事者同士の相談活動）	ピアサポーター（当事者同士の相談活動）	障害当事者の文化活動など	特になし	その他	無回答
全体	821	13.8	12.9	4.9	4.4	13.9	3.9	7.9	
ひとり暮らし	212	8.5	9.0	5.7	5.2	17.9	2.4	8.0	
夫婦だけ	156	3.8	9.6	1.9	1.9	16.0	4.5	9.6	
配偶者と子どもと同居	84	13.1	11.9	2.4	2.4	14.3	4.8	7.1	
親と同居	197	29.4	19.8	8.6	8.1	8.6	6.1	1.0	
親と子どもと同居	20	-	15.0	5.0	-	10.0	-	35.0	
子どもと同居	64	7.8	7.8	4.7	3.1	17.2	1.6	4.7	
その他	79	15.2	16.5	2.5	1.3	6.3	3.8	19.0	

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

家族構成別に見ると、全体的に親と同居している人で割合が多くなっている。（表 - 6 - 5）

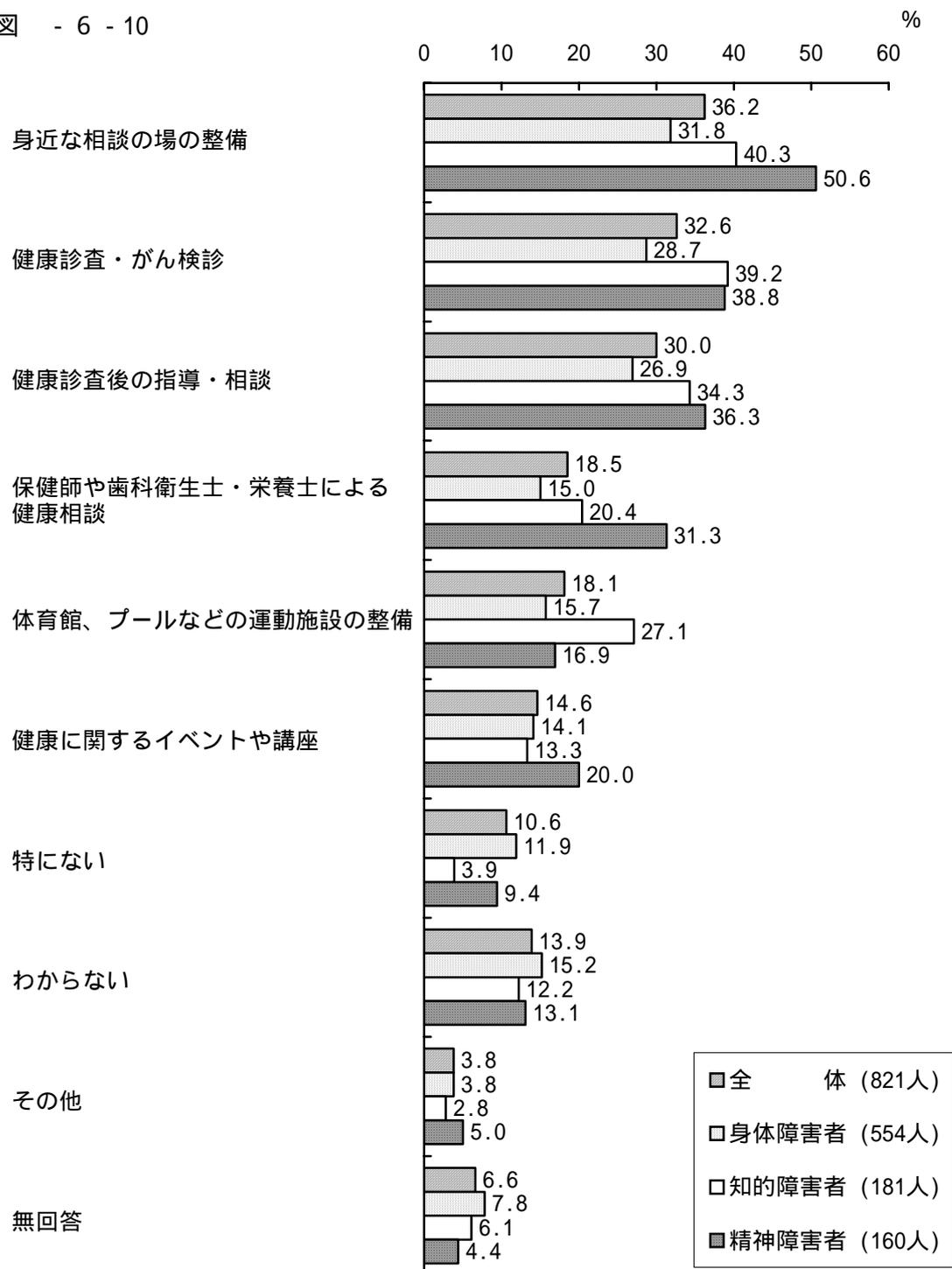
(10) 障害者を含めた区の健康づくりに関して力を入れるべき事業

「身近な相談の場の整備」「健康診査・がん検診」「健康診査後の指導・相談」に要望が多い

(全員の方に)

問41. あなた(ご本人)は、障害者を含めた区の健康づくりに関する事業で、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに)

図 - 6 - 10



障害者を含めた区の健康づくりに関する事業で、力を入れるべきこととしては、全体では、「身近な相談の場の整備」(36.2%)が3割半で最も多く、次いで、「健康診査・がん検診」(32.6%)、「健康診査後の指導・相談」(30.0%)が3割以上であげられている。以下、「保健師や歯科衛生士・栄養士による健康相談」(18.5%)、「体育館、プールなどの運動施設の整備」(18.1%)、「健康に関するイベントや講座」(14.6%)の順になっている。

身体障害者では「身近な相談の場の整備」(31.8%)が3割強で最も多く、次いで、「健康診査・がん検診」(28.7%)、「健康診査後の指導・相談」(26.9%)が3割弱であげられている。以下、「体育館、プールなどの運動施設の整備」(15.7%)、「保健師や歯科衛生士・栄養士による健康相談」(15.0%)、「健康に関するイベントや講座」(14.1%)の順になっている。

知的障害者では、「身近な相談の場の整備」(40.3%)が4割で最も多く、次いで、「健康診査・がん検診」(39.2%)、「健康診査後の指導・相談」(34.3%)が3割以上であげられている。以下、「体育館、プールなどの運動施設の整備」(27.1%)、「保健師や歯科衛生士・栄養士による健康相談」(20.4%)、「健康に関するイベントや講座」(13.3%)の順になっている。

精神障害者では、「身近な相談の場の整備」(50.6%)が5割で最も多く、「健康診査・がん検診」(38.8%)、「健康診査後の指導・相談」(36.3%)、「保健師や歯科衛生士・栄養士による健康相談」(31.3%)が3割以上であげられている。以下、「健康に関するイベントや講座」(20.0%)、「体育館、プールなどの運動施設の整備」(16.9%)の順になっている。(図 - 6 - 10)

表 - 6 - 6 年齢別

単位：%

	回答者数	身近な相談の場の整備	健康診断・がん検診	健康診断後の指導・相談	保健師や歯科衛生士・栄養士による健康相談	体育館、プールなどの運動施設の整備	健康に関するイベントや講座	特になし	わからない	その他	無回答
全体	821	36.2	32.6	30.0	18.5	18.1	14.6	10.6	13.9	3.8	6.6
0～11歳	20	45.0	50.0	25.0	25.0	40.0	5.0	-	-	5.0	-
12～19歳	33	42.4	36.4	36.4	27.3	42.4	12.1	6.1	6.1	-	6.1
20～29歳	38	50.0	39.5	28.9	13.2	28.9	18.4	5.3	7.9	2.6	5.3
30～39歳	97	51.5	41.2	39.2	24.7	26.8	13.4	7.2	13.4	6.2	4.1
40～49歳	88	44.3	38.6	35.2	20.5	21.6	14.8	9.1	14.8	5.7	3.4
50～59歳	102	35.3	33.3	31.4	24.5	21.6	17.6	11.8	10.8	1.0	5.9
60～69歳	147	30.6	26.5	24.5	16.3	14.3	12.9	10.2	17.0	6.1	6.8
70～79歳	153	24.8	27.5	22.9	13.1	9.2	13.7	17.0	16.3	3.9	7.8
80歳以上	135	31.9	28.9	31.1	15.6	9.6	16.3	10.4	16.3	0.7	10.4

注：網がけは全体結果よりも5ポイント以上多いもの

年齢別に見ると、全体的に0～49歳までの年代で割合が多くなっており、「身近な相談の場の整備」と答えた人では20～29歳で50.0%、30～39歳で51.5%、「健康診断・がん検診」と答えた人では0～11歳で50.0%と、それぞれ約半数となっている。(表 - 6 - 6)

(11) 日常生活で困っていること(自由回答)

(全員の方に)

問 42. 日常生活で困っていることがありましたら、ご自由にお書きください。

日常生活で困っていることについて、自由に書いてもらったところ、250人から276件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

<行政や制度について>(15件)

5年に1度身障(障害)年金を受け続ける為の診断書を記入してもらう為に病院をさがしたが(普段は内科通院の為、整形外科には通院していない)何件も断わられて困りました。年金は私たちの生活基盤になるものなので是非スムーズに手続きできるようにしてもらいたい。(男性/55歳~59歳)

障害者自立支援法が施行されています。重度重複障害者は少数のため肢体不自由としても知的障害者としても受止めて頂けずに困って居ります。是非重度の子供達が行き場をなくすことのないよう宜しくお願い致します。(男性/40歳~44歳)

区営住宅に住んでいますが、1年に1回程度で良いので生活上困って居る事があるか訪問してほしい。(男性/65歳~69歳)

(1)後期高齢者医療保険の保険料 (2)現在の障害の程度、病状について対応してくれる病院が少なく困っている(女性/75歳~79歳)

家賃生活なので年金だけで生活出来ないの、都営住宅への入居をしやすい条件にしてほしい。(男性/60歳~64歳)

介護保険と自立支援を総合的に相談できる部門があるとありがたいです。(男性/80歳以上)

<保健福祉の相談・サービスについて>(32件)

発作的に起った時の身体的苦痛、痛みなどの時、TEL119にかけられる程でもないが心細くなり困った時がありますが、この様な時、どの様にしたらよろしいでしょうか。高齢者に対する医療面のサービスの情報を充実して頂き、区報等に掲載して頂ければとお願い致します。(女性/80歳以上)

障害のことを相談する機関が少ない。交流する場を増やしてほしい。(女性/20歳~24歳)

福祉サービス事業所が変更したり、介護士の方が度々変わるので慣れるまで、困ります。(男性/80歳以上)

ショートステイが難しく親の負担が多い。親が病気したらどうなるのか不安。(男性/20歳~24歳)

ホームヘルパーさんに時間内ではどんな事でもお願い出来るようにしていただきたい。(女性/80歳以上)

学齢期においても移動支援の支給を受けられるようになったのは、嬉しく思いますが、実際にその制度を利用しようと思っても、それを受けて頂けるヘルパーさんがなかなか見つからず思

うように利用できないこと。(男性 / 12 歳 ~ 17 歳)

ショートステイを時々利用させていただいておりますが、順番待ち等、必要な期間の確保が難しく、他県の施設へ行く事になる(男性 / 55 歳 ~ 59 歳)

今、現在、高校3年生の愛の手帳をいただいている息子がおります。定時制高校に通っておりますが、今後社会に出ていくことを考えると、不安になります。知的な遅れがあり、躁鬱の気があり、人と接するのが苦手で、普段は1人で自宅にいることが多いです。「何か始めてみたい」と本人は申しておりますが、どこにご相談したらいいか、悩んでおります。(男性 / 12 歳 ~ 17 歳)

外出の際は同伴者付でタクシー券を使用していますが、中野区の財政上、数年前から交付数が少なくなりましたが、自宅の支払いでタクシーを使用しております。何分「電車」「バス」に乗ることができませんので少数でも多く交付して頂けたら幸いとお願ひする次第です。(男性 / 80 歳以上)

障害者でも普通に働いて、その給料で生活できるようにしてほしい。(女性 / 20 歳 ~ 24 歳)

ヘルパーさんの時間を増やしてほしい。介護者が息抜きできない。(男性 / 60 歳 ~ 64 歳)

家での事は家族も協力してくれていますので、それほどこまりませんが、外出する時に介助が必要なので出来るだけ介護をお願いしたい。郵便物の書類がわからないのが特に困ります。(女性 / 65 歳 ~ 69 歳)

介護保険法の介護認定が、一昨年の法改正により、「要介護1」から「要支援2」に変わり、今後サービスの回数、時間が減少し、困っている。要支援のため「車いす」のレンタルも受けられず、自己負担となっている。(女性 / 80 歳以上)

現在はまだ5才ですし、保育園やアポロ園での指導を受け、知的な遅れや自閉症的傾向がありながらも、少しずつ成長していっております。しかし就学後はアポロ園等相談できる療育施設が無くとても不安です。就学中にも定期的に相談(電話のみでなく)できる所(アポロ園の民営化に伴い広範囲で見て頂けたらと思います)が欲しいです。将来この子が自立して働いていけるか、それを思うと本当に不安です。根気良く仕事を教えてくださる施設、又、仕事に対してきちんと見合った賃金をいただけるという保障、私達親の願ひは行き着くところはそれにつきます。その為私達親も今から出来る限りのことを教えてあげたいと思う毎日です。(男性 / 0 歳 ~ 5 歳)

< 経済的問題について > (24 件)

経済的に困っている(年金によりいろいろなものをひかれて生活ができなくなる)食事を毎日してほしい そうじをきれいにしてほしい(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

長期入院中で入院費が高額で困っている(女性 / 55 歳 ~ 59 歳)

日常生活費に困っています(女性 / 70 歳 ~ 74 歳)

家賃を援助して欲しい(男性 / 80 歳以上)

仕事が出来なくなった際、生活を続けられない。金銭面での不安が消えない。(女性 / 35 歳 ~ 39 歳)

昨年主人が亡くなり、遺族年金で暮していますのでこのさき不安です。住まいその他(女性 / 60 歳 ~ 64 歳)

年金から保険料を差し引かれるのは、こまる。買物のお金がなくなる。(女性 / 65 歳 ~ 69 歳)

今の所、働く場所があり、月々、金銭的に困ってはいるが、61才の私には、あと何年働けるかわからない。年金もわずかだし。今後の生活を考えると、生きている意味もなく不安！（女性 / 60歳～64歳）

<施設整備・入所について>（17件）

現在は親が同居していますので、特に困ることはありませんが、グループホーム等が沢山出来れば入居することもできるのではと思っています（女性 / 30歳～34歳）

親が高齢になり、両親65才以上になり、病気になってもあずかってもらえる所がないこと。（男性 / 35歳～39歳）

母と二人ぐらして生活保護を受けてます。障害のある人になるべく都営、区営住宅があたるようにして下さい。（男性 / 35歳～39歳）

知的障害なので、施設を探しても断られるので困っています。（男性 / 75歳～79歳）

現在本人は療養型病院に入院中ですが、いずれ退院させ、グループホームか、在宅に近い環境で介護サービスを受けたいと思っていますが、いい所がない。自宅を使って小規模多機能介護施設か、共同生活の場をつくれなにかと思案中です。（男性 / 60歳～64歳）

現在、重身の療育施設は看護師不足で、緊急短期入院がほとんど、受け入れる事ができません。親が高齢化していくなかで、これほど心配な事はありません。親が病気になったり、親亡き後、子供が安心して行かれる施設をお願いします。そして、子供がハンデを抱えての人生でも、生まれてきてよかった。と思える一生になってほしいと願っています。（女性 / 30歳～34歳）

短期入所で施設をお願いする場合、医療行為をしていただける所がありません。今後江古田の森に緊急一時が出来るようですので、是非お願い致します。家族が急病になった時お願いする施設がないのは、心配です。よろしく申し上げます。（女性 / 30歳～34歳）

<一人の時や緊急時の対応について>（20件）

現在の所は特に困ってはいないが、年の事を考えると自分の事ができなくなる将来は家族がいないため不安。（女性 / 55歳～59歳）

家族が働きに行き留守の時に具合が悪くなった場合が心配。（女性 / 75歳～79歳）

親が健康のうちが良いが、一人になった時までに自立できるようにするが、それがうまくいかない場合、後見人制度や、施設の整備が出来ている事を希望する。（女性 / 25歳～29歳）

緊急一時やまと荘にお願いしたくても、土日などで空いていないことが多いです。やむをえずヘルパーさんにたのんだりしますが、本当に緊急の時はどうなるのか、不安な気がします。（女性 / 12歳～17歳）

発作が突然くるので自由に外に出られない。（発作の時意識がなくなる為ヘルパーなしでは1人で出歩けない事）（男性 / 50歳～54歳）

介助してくれる親が高齢になり健康にも不安になる時があります。親が入院した時自分はどうなるのか不安です。（女性 / 35歳～39歳）

現在のところはまあまあ状態ですが、80歳という年齢のため、いつ何があってもおかしくないので、非常事態のときの対応についてどうしたらよいか、どんな方法があるのか教えて頂きたいと思っています。（女性 / 80歳以上）

現在(小6) 身辺自立はほぼできていますが、外出時などは大人が付き添わないと何もできません。(買物、通院など) 常に母子が共に行動しています。親が突然倒れた時など、どうすればよいのか、本人は全く理解できていないと思います。(男性/6歳~11歳)

本人に知的障害があり、心も病んでおりますので母親が記入しました。母親が病気になったり、死んだりした場合にどうなるだろうと不安です。相談できる人、家に来て下さる人がいてくれたら、有難いと思います。(女性/40歳~44歳)

< 病気・年齢・体調などについて > (24件)

加齢に伴う身体的障害と合せてリュウマチ・狭心症など重なり毎日が苦勞の連続です。経済的にも夫婦共に年金での暮しで大変です。出来るだけ自力で生活を維持したいと考えていますが、病気がこれ以上進行しないことを願って居ります。(男性/70歳~74歳)

目が見えない上にころんで今はねたきりなので、全部家族にふたんがかかるので起きあがれるまで病院や施設に入れてもらえるとありがたいです。(女性/80歳以上)

C型慢性肝炎を患っているが、福祉手当がでない。慢性肝炎より悪化する率が高いので、何とかしてほしいと思う。(男性/50歳~54歳)

身障と高齢の不安・不自由さ(女性/80歳以上)

ちょっとした体調の悪さ(頭痛、おうとなど)で動揺しても相談できずに不安のまま、次の日まで過ごして精神的に不安定になる。主治医でなくても軽い不安などを相談して、薬を飲んだ方がよいのか、横になって安静になった方がよいのか相談できる所があると良い。介護を必要としている親について相談、指導がほしいのにどこにも相談できない。(女性/40歳~44歳)

起立困難のため歩行がよく出来ず、電動車イスがないとリハビリ病院にもいけません。(男性/70歳~74歳)

呼吸器機能障害のため歩行が少ししか出来ないために、アパートが古く、風呂がなく、銭湯に行く時が一番困ります。(男性/65歳~69歳)

歩行困難のため殆んど外出出来ない(女性/80歳以上)

現在、再発ガンを治療中で、働きたくても働けない。昨年9月まで抗ガン剤治療を受けていたが、副作用がひどくて中止した。末期ガンになった時、補助してくれる人が欲しい。(女性/50歳~54歳)

困っている事だらけです。精神障害者をもつ家族の健康にすこしづつ支障が出てきている事が不安です。(女性/30歳~34歳)

聴覚障害もあり(知的障害と)、他人とのコミュニケーションが取りにくい為、家族以外の介護が難しく親が体力がなくなってきたり、病気の時がとても不安。(女性/6歳~11歳)

長期入院で転院をくり返しているが、今後どうすればよいかわからない。(女性/55歳~59歳)

< 障害への理解について > (8件)

私は、統合失調症ですが、偏見があり、病気を知るとだれもつき合ってくれなくなる。さびしいです。そして私は医者通いが多いので、くたびれます。偏見のない社会がほしい。とても働けない体で残念です。ヘルパーに来てもらって、やっと生活、一人ぐらしができてる状態です。(女性/60歳~64歳)

電車通勤ですが、見た目には障害がある様に見えない為、席に座りずらいです。(ゆずっても

らう事ありません)通勤だけで体力がないので毎日とても疲れます。電車が空いている時間に通勤は出来ないの、健康な方にはこういう人もいるのだと知ってほしいです。又は何か、障害があることを伝えるストラップ(妊婦様のストラップみたいなものなど)などがあるといいなと思います。(女性/35歳~39歳)

小学校の中に障害者学級のようなものがあるそうだが、弥生町(家の近く、中野駅より南)の方にはなく、遠くまで通うようになりそうで不安。まわりの人が障害について知識がなく、誤解していることが多い。自閉症はなおると思っている。親の育て方でなるものだと大半の人が思っているのびっくりした。(男性/0歳~5歳)

一般企業への就労を希望しているが、身体障害者とくらべて精神障害の人の採用があまり通らないように思う。まだまだ、精神障害者への理解が低いと思う。(男性/50歳~54歳)

<交流の機会・趣味等について>(7件)

話しをしたいが相手がいない。(男性/55歳~59歳)

余暇の時間に趣味の事でも出来れば良いが薬の副作用で舌がかわいて人と長く(短くても)話せないの、習い事が出来ない(日常はまめに水分を口に含んだりしている)(女性/60歳~64歳)

周囲の人達とのコミュニケーションが欲しいが、体調が悪い日が多く、約束しても出かけられないので、淋しい日が続いている。配偶者が多くをサポートしてくれているが、老齢化していくことが心配。(女性/60歳~64歳)

<就労支援について>(5件)

仕事を見つける方法がわからない。(女性/35歳~39歳)

今現在はないですが、将来の就職に不安があります。(男性/12歳~17歳)

63才女性です。働きたいのですがどこも使ってくれる所がありません。生活も苦しくとても楽しい老後とはいえませんが、障害もあり働くのは無理かも知れませんが何とかならないでしょうか。(女性/60歳~64歳)

今年33歳になる息子がいますが、とにかく仕事がきまりません。二ヶ月~三ヶ月でやめてきます。親は先にいきます。とにかく定職をもってほしいと願っています。自立の道を歩んでもらいたいです。(男性/30歳~34歳)

<他人の介護について>(3件)

障害を持ちながらも配偶者の介護を受けて日常生活は今のところは支障なく暮らしているが、何れも後期高齢者であるが為、同居の障害のある子供の介護・支援が困難になって来た事。(男性/80歳以上)

両親が高齢(又、障害者)でこの先介護がだんだん困難になるので心配。(男性/45歳~49歳)

<情報提供について>(5件)

日常生活で困っている人は、どこそこへ電話をなさいと毎月の中野区報で、わかるようにお知らせ下されたくお願い申し上げます。(男性/80歳以上)

区報(中野だより)等の活字が小さいので大きくしてほしい。(男性/80歳以上)

私は内部障害です。一生いろいろな病院とは縁が切れません。病院により質が良い所と悪い所の差が大きい事があります。そこで病院内等の必要な情報が得られる所が、又はPC上にあるといいと思います。セクハラなどにもあうので、そのような相談先もあるといいです。障害者だからただ設備などハード面を充実させればいいというのではなく、人としてよいよい生活が送れるようソフト面も考えて頂きたいと思います。(女性/50歳~54歳)

<生活面全般について>(18件)

重いゴミを出す時や(マンションの7階なので)家具の移動の時に非常に困っております。足の身障の為、重い物が持てません。(女性/65歳~69歳)

ゴミの集積所が遠く収集時間も早いため、朝、ヘルパーさんが来てからでは間に合わないの、ゴミ出しに困っています。選挙の時、投票所まで行くのが困難なので郵便投票ができるように障害者の条件の緩和をお願いします。(女性/70歳~74歳)

私の場合は障害者と言っても比較的軽度なので日常生活上のことは工夫して行っているのですが、あまり困りは感じていないが、高齢の事もあり、高い処の作業が必要な場合、例えば天井の電球交換、高い位置の清掃、外灯交換、浴槽内や床下収納の清掃のように、かがんで行う作業に困っています。(女性/65歳~69歳)

家の掃除、週1回、1時間ですが、介護保険の適用がない為、全額自己負担となっております。(女性/80歳以上)

日常の買物に行くのがつらい。親が買ってくる時もあるが、高齢なのでかわいそう。入浴するのが嫌。多数の人がいる所へ行けない。(女性/50歳~54歳)

生活面全体に一部介助が必要な為手がかかり困ります。親も高齢になりだんだんと大変になって来ました。(女性/35歳~39歳)

食事の支度が自分で出来ない。洗濯が自分で出来ない。体力低下で色々と困ることが多い。(日常生活上)(男性/50歳~54歳)

精神薬を飲んでいても体の調子の悪い日があり家事が十分出来ない時があります。又、ねむれない日もあり1日、1日が戦いみたいなものです。外見では他人にはわからなくても、他人の援助が必要な時があります。身内にも作業所関係者にもまだまだ精神病の理解が少なく、又、他人にはもっとわからないと思います。(女性/50歳~54歳)

<環境整備について>(25件)

車道から歩道に行く段差がまだ改善されていない。殆んど平らにしてもらわないと、ひっくり返りそうで危険です。(男性/65歳~69歳)

中野駅は車イスで利用しづらい。駅の方々のサポートはあるが混雑の時間帯などは非常にはずかしく肩身がせまい思いがする。歩いたりタクシーで高円寺駅まで行って電車を利用している(周囲の車イスの利用者にもそういう方が多い)区役所、病院、サンプラザ、商店街等が多いのに、なぜ駅にエレベーターすらないのかギモンに感じている。(男性/60歳~64歳)

車イスで自由にどこでも行けるとありがたいです。(男性/60歳~64歳)

駅のエスカレーターが登りのは付いていても、降りの方のエスカレーターが付いていない所が多い。足の悪い人はくだりの階段の方が辛いです。(女性/60歳~64歳)

・道路工事を行った後等、特に段差(凸凹ありすぎる)ができるので転びやすい ・中野サン

モールの様なタイル貼りの歩道は雨などの時は特にすべりやすく危ないので、各地で改装する時等、区で助言してほしい。・現在区内には2ヶ所緊急一時保護施設がありますが、緊急の緊急という、もう一步先のワクを作してほしい。(例えば2ヶ所が満杯の時、葬儀等急にあった場合、預かってもらえるようにしてほしい) 問43にもつながりますが。(女性/30歳~34歳)

押し車をつかって買物に時々出かけますが、途中チョット腰かけられる椅子かベンチでもあったら良いなあと考えています。(女性/80歳以上)

中野駅、新中野(片方のみ)エレベーターがなく、駅員への介助を依頼しなければならないので困る。(女性/0歳~5歳)

現在は、沼袋に住んでいますが、平和の森前の道が、せまくて交通が難しいです。いつか、事故が、おきるのか心配です。(男性/25歳~29歳)

・買い物の時、店によってはバギーで動けるスペースがなかったり、混雑時にはバギーが動けず、買い物できなかつたりする。・障害があるため抱っこで遊ぶことが多く、親が抱っこして遊ばせたり、寝かせたりして遊べる遊具がある施設が身近にあるとよいと思う。・中杉通り沿いの歩道が狭く、電柱があるため、バギーが通りづらい。(女性/0歳~5歳)

<プライバシーについて>(5件)

訪問介護を受けていたが、突然サービス終了の通告を受けた。幸い、職員が独立開業し、同様のサービスを受けることができるようになったが、施設及び区ともにあまりに無責任な感じがした。介護サービスが不断の構えでできるようにして欲しい。(女性/18歳~19歳)

<住宅について>(17件)

風呂場が遠いので困っています。一日も早く風呂のある公営住宅がほしいです。(女性/70歳~74歳)

部屋にあるのはトイレだけなので洗面所に風呂も無いので改装したいがお金もない。借りられる方法はないのでしょうか。(女性/80歳以上)

民間アパートに住んでいるので家賃が高くてこの先、長く続けていけるか不安です。都営住宅も何年も申込んでいるが当たらない。(女性/55歳~59歳)

・部屋がせまくて生活しづらいです。・自宅介護なので、消耗品の負担が多額になり大変です。(女性/35歳~39歳)

都営の為、風呂が小さいに制限があり、現在使っている能力では限界と言われるが、シャワーの水圧がとても低い為、お風呂に時間がかかる。寒い、流した気がしない、など。とてもこまっているがどうにもできない。(男性/0歳~5歳)

浴室が無い為、困っている。医師から銭湯は駄目と言われている為、近くのコインシャワーにヘルパーと行っている。部屋の前から急な坂道の為、歩行もとても大変です。(男性/65歳~69歳)

日常生活が独居でヘルパー週2で利用しているが区の施設に入居希望したい。現在のマンションからは立ちのきをせめられている。私の今後の住まいがない。(男性/80歳以上)

住居の問題 72才で障害者である者には借りる事は困難です。2年前の更新するごとにビクビクしなければならない、今日この頃です。公営住宅に入居できれば幸いです。(男性/70歳~

74 歳)

< 金銭管理について > (5 件)

ひとり暮らしなので、病気になった時の金銭管理及び身の世話をしてくれる人がいない。(女性 / 50 歳 ~ 54 歳)

お金の管理ができない。そうじができない。(男性 / 25 歳 ~ 29 歳)

< マナーについて > (11 件)

・ 日常、つえをついて歩いています。自転車がかなりのスピードで歩道を走っていくので、とてもこわい思いをしています。・ 町の中にベンチがあるとうれしいです。ちょっと腰をかけるだけで楽になるのです。バス停に、ベンチがある所は、とても助かります。(女性 / 50 歳 ~ 54 歳)

中野区は道が狭く、車が多く、通学する際に本当に危ないです。スクールゾーンの時間帯に勝手にバリケードをどかして走っている車も多いです。せめて登校する時間だけでもパトロールをお願いしたいです。(女性 / 6 歳 ~ 11 歳)

直接福祉とは関係ないかもしれませんが、歩道の整備を早くして下さい。自転車の無謀な走りは凶器です。安心して歩けるようにはっきり区別して下さい。自動車の為の道路拡張で、小売店がなくなり、日々の生活にも不便です。施政者はここで生活する人の事は考えているのでしょうか？(女性 / 80 歳以上)

最近、携帯電話を殆どの方が持っており、且つ公共機関の中のあらゆる場所でひっきりないに利用しているため、ペースメーカーを埋めこんでいる者の居場所がありません。(医者は最低 25 ~ 30 cm 離れていればよいといわれていますが、その条件も確保できません)。従ってタクシーと使う回数が非常に多く、福祉タクシー券をいただいてとても助かっていますが、月 1 ~ 2 回の通院でも足りず、更なる拡大をお願いしたいところです。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

道路上 (自宅の前とか) に自転車をいつもおいている事 (男性 / 70 歳 ~ 74 歳)

< その他について > (35 件)

日常的にはいろいろな方から助けてもらえるが非常時 (地震等) の時を考えるととても不安。(男性 / 60 歳 ~ 64 歳)

現在作業所に通所していますが、こだわりが強い為、又新しく入所した利用者の方との関わりに時間がかかり緊張、不安から休む事が多い。(男性 / 30 歳 ~ 34 歳)

腰痛をだましだまし介護をしています。病院での治療や入院が必要でも介護を頼める人がいないので、たおれるまで、がんばるしかありません。(男性 / 20 歳 ~ 24 歳)

今、小学校 5 年生ですが、中学の事を考えると、特別支援学級のある学校が少なく、通学手段に不便を感じる。(男性 / 6 歳 ~ 11 歳)

今のところ個人的に不自由な事はありません。障害者手帳を給付してもらうのも、本当に介護を必要となさっている方が、他にも多くいらっしゃることを思うと。申し訳ない限りと思っております。(女性 / 30 歳 ~ 34 歳)

(12) 保健福祉行政全体への意見・要望（自由回答）

（全員の方に）

問 43．保健福祉行政全体や今回の保健福祉サービス意向調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

保健福祉行政全体について、要望、意見を自由に書いてもらったところ、189人から206件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

<保健福祉の相談、サービスについて>（46件）

外に出たくても1人で出られない人も沢山いると思います。そのような方々の所にせめて週に1回位、困っている事とかないかとか元気で暮しているか、もっと細かい所に気を配ってほしいです。お金を払えない方々も沢山いると思います。自分がその時なにをしてほしいか考えて今一度皆さんで考え行動してほしいです。（女性/65歳～69歳）

軽度の障害者や後期高齢者の容態が急変して、介護や入院治療が必要になった時、関係機関に申告すれば希望する介護や入院治療が容易に受けられるような制度ができれば有り難いと思っています。（男性/75歳～79歳）

デイケアでお世話になっています。家に一人で居ると頭がヘンになってしまいそうなので、グループ活動をできる場があることは助かっています。私は精神障害3級なので比較的軽度と思いますが、なるべく早く（あせるのはよくないが）パートか就職か仕事について自立した生活ができるようにしたいです。また、せせらぎのカウンセラーの先生に最近お世話になっていますが、困っていることとか生活問題点等、ケースワーカーや保健所では話しづらいことも話して助かっています。（男性/50歳～54歳）

親なきあとの、日常的な金銭サービス、グループホームや作業所指導員の充実等、実務的なサービスの強化をお願いします。（女性/40歳～44歳）

どんなサービスがあるのか、どこで教えてもらえるのかすらわかりませんでした。災害の時の問い合わせ区役所でした事がありますがそのまま放っておかれてます。あんまり期待してもいけないのかなと感じましたがリハビリ等相談に乗ってもらえる所や人がいればそれは心強いです。また介護している人間のメンタル的なケアをサポートしてもらえるか、せめてサポートしてくれる所を紹介してもらえたらと思います。（男性/60歳～64歳）

区によって福祉サービスの内容に差が生じるのはしかたがないが、担当者によって紹介内容が違ったり、知っている、知らないで、差が生じることをないようにしてほしい。手引きなどを見れば分かるようになっていると云われるが、案件などによって異なり、複雑なため、素人には理解し難いので、障害程度などの条件を入力すれば、受けることのできるサービスが一目瞭然というようなホームページなどのサービスを作ってほしい。（女性/18歳～19歳）

障害の程度の重い方は福祉のサービスを大変頼りにされていると思います。どうぞ利用される側の立場になって考えて、有効なプランを実現してください。暖かい思いやりの心が伝わるように、親切の押し売りおしつけにはならないように、ご配慮下さい。（女性/60歳～64歳）

区役所に電話したり、地域センターに電話すると、担当者のたらいまわしや、個人ごとの知識差を感じることもある。担当の人だけが詳しいのではなく、これだけ制度が変わっていくのだから、皆で同じレベルに近づく努力をもっとしてほしい。せめて、最新にいつも担当する人などを決めてほしい。誰とも親しくなることができず、いつもはじめましてのような状態で相談しにくい。(女性 / 35 歳 ~ 39 歳)

親も高齢になり病気等で障害者を緊急に介護できなくなった時にすみやかに援助していただきたいと思います。緊急一時保護やショートステイ等の申し込みは済ませておいて、何かの時はすぐに利用出来るように準備をしておきたいと思います。が、現実には緊急時に利用出来ていません。(満床の時が多い)(男性 / 35 歳 ~ 39 歳)

介護保険のスタート時は、家族の負担を減らす事が一つの目的にありましたが、ダンダンと家族でカバーする方向へ転向している。そしてその保険料は変更(減額)してない。大いに不満です。(女性 / 80 歳以上)

高齢で体が不自由な人にとってもっとヘルパーさんを付けて頂きたい。以前は週 2 回来てくださったのに、同居の(子 1 人)が居る為なくなってしまい大変不自由しています。(女性 / 80 歳以上)

障害者の相談がもっと気楽に出来ると助かります。(女性 / 35 歳 ~ 39 歳)

なかのん(バス)の経路を変更してもらいたい。我家は駅にも遠くタクシーもめったに来ない区内でも交通の不便なところです。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

リハビリを主体としたディサービス所があったらうれしいです。(女性 / 55 歳 ~ 59 歳)

ヘルパーさんの充実、ショートステイの充実、重度グループホームの充実(女性 / 25 歳 ~ 29 歳)

今回の調査で色々な相談センターがあるのを知る事が出来たが精神障害者はどこへ行ったらいいのか不明。(女性 / 30 歳 ~ 34 歳)

障害者本人の病状や生活環境(状況)はそれぞれ違います。福祉サービスについてはたびたび変更があり、福祉関係に従事する方々は本当に大変だと思います。自分や家族に身障者がいたら… と思い担当部所も現場も今何が大事かを考えて、良い福祉サービスになることを願っています。施設職員の処遇も合わせて見直しが必要かもしれません。(男性 / 60 歳 ~ 64 歳)

介護サービスと言っても障害者にとっては高く払うこと出来ない(男性 / 80 歳以上)

親の具合が悪い時に、障害児を 1 日預かっていただけるか、家事を代行して下さるサービスが充実するとありがたいです。(急な要望にも対応してもらえるサービス)障害者に共通していえることは"自立"です。親なきあとも寿命を人間らしくまっとうできるように、"働く場" "働ける環境づくり" に重点をおいて、福祉サービスの充実を図ってほしい。(男性 / 6 歳 ~ 11 歳)

< 区や制度への要望 > (33 件)

区の職員に手続きの事で相談へ行っても、職員自身がよくわかっていない。もっと勉強するべきでは。誰に相談していいのか?とまどいます。(男性 / 12 歳 ~ 17 歳)

行政事務手続きをもっと簡単にして欲しい。補聴器修理(補聴器の相談について)が障害福祉課に 1 ヶ月に 2 回補聴器屋がきているとは知りませんでした。そういうささいな事を事前に前もって教えてほしい。(女性 / 65 歳 ~ 69 歳)

福祉手帳で JR などの路線も安く乗れるようにしてほしいです。(女性 / 25 歳 ~ 29 歳)

障害年金は、とても生活が出来る金額ではありません。かといって健康な方と同じに働く事は体調をますます悪くするので出来ません。常に不安をかかえながらの生活をしているので、もう少し年金があるとか仕事の調整が出来るなど安心していただける様になるといいと思います。

(女性 / 35 歳 ~ 39 歳)

障害を持つ人たちや家族のことを一番に考え行政をすすめてほしい。(女性 / 6 歳 ~ 11 歳)

私は老人ですので、いつも思うのですが、福祉も介護も、手続きや書類が大変で、身体が動かなくなったり、頭が働かなくなったらどうしようもありません。(女性 / 80 歳以上)

障害者の入院にあたっては付添わなければなりません。その時は個室を利用しなければなりませんのでその差額ベット代の負担が大きいです。心配なく入院生活が出来る様な行政にお願いしたいと思います。(男性 / 35 歳 ~ 39 歳)

会社勤めにより平日区役所にいけないため、区役所経由で「つむぎ」を利用することがあるが、双方の連携が取れていない。障害者に対してだけではなく、平日のみの営業をされても利用したくても利用できない。もっと働いている障害者の立場も考えて欲しい。毎日夜遅くまで営業してなくていいので、必要な時は事前連絡することで、営業時間の延長等対応して欲しい。

(男性 / 30 歳 ~ 34 歳)

障害者が外に出て生き生きと生活できる様な場所や手段を考えてほしいです。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

行政側にとって、医療機関と話し合える場があるならばやはり予防医学等について考えてほしい。高齢になれば必ず医療費がかかり、区の財政に関係すると思われれます。連携をとって早い時期より、高額な治療をとらなくてよい保健、健康面等、検討してほしいと思います。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

知的障害者の区役所での雇用を積極的に考えていただければと思います。(男性 / 12 歳 ~ 17 歳)

< 障害への理解について > (13 件)

障害者ひとりひとりの症状にあわせたケアを要望する。同じ病名でもひとりとして同じ人間はいないということをもっと知ってほしい。(男性 / 20 歳 ~ 24 歳)

従来障害者福祉は身体障害者が中心であったように思われます。自分で要望や意見が言える身体障害者向けの福祉も大事ですが、自分で要望や意見が表現できない、認知症(知能障害)が高齢化とともに、人口の大きな部分を占めるようになっていきます。これからは認知症に力点を置いた保健福祉行政、サービスをお願いしたいと思います。(男性 / 60 歳 ~ 64 歳)

私の場合「うつ」で午前中はほとんどだめだし、午後 3 ~ 4 時ごろから夜は、元気が出てくる。そういう時間帯に友だちに迷惑かけずにコミュニケーションがとれる場所がほしい。(女性 / 60 歳 ~ 64 歳)

障害者の中でも、精神障害者への理解が、されていない。(女性 / 45 歳 ~ 49 歳)

手帳により利用できる等級が上がってきていて利用できなくなっている事がある。すべての基準が大人の障害で見ている、子どもの目線で見られていない気がします。同じ障害でも大人は大丈夫だが子供は無理な事(知的障害を併発している場合など)もあります。利用者(障害者・児)の個々の状態をはあくした上で色々決めていってほしいです。(女性 / 12 歳 ~ 17 歳)

知的・精神障害者に対する世間の風当たりが激しいので、そういった方々が暮しやすい環境整備してほしいです。(男性 / 30 歳 ~ 34 歳)

< 情報提供、情報保障について > (10 件)

法律用語での質問がありますが (例えば障害者自立支援法によるなど) 分かりやすく書いて頂くと理解し易いのではないかと思います。(男性 / 80 歳以上)

私の場合統合失調症とはいえ、てんかんのような症状がでますので出先で、具合悪くなったらどうしようといつも思っています。精神障害者福祉手帳は、路線バスに乗りますとき半額になり助かります。情報は区報で得るようにしていますので、これからも精神障害者の人たちにとっても役立つ情報を期待しております。(女性 / 45 歳 ~ 49 歳)

福祉サービスの P R が欲しい。なにがあるか分からないので利用していない。(男性 / 70 歳 ~ 74 歳)

「障害者福祉のしおり」の「対象」の記載内容が十分に具体的でないものがある。(男性 / 35 歳 ~ 39 歳)

高齢にして身体障害になり、現在入院中です。要介護認定、身体障害申請等、いろいろな手続は区役所に相談に行き、知りました。全ては申請する事により得られるので、利用できるサービスについての情報提供を徹底するようにご配慮して下さい。(男性 / 80 歳以上)

16 才まではまったく健康であった為一般の学校に通っていて突然このような病気 (てんかん) になり区での学校紹介・福祉サービスなどの情報をもっといち早く教えてほしい。(男性 / 50 歳 ~ 54 歳)

< 本調査について > (41 件)

意見を反映して、改善できるものはして頂きたい。(女性 / 80 歳以上)

「全介助の子ども」だと答えにくい質問が多い。障害の程度によって質問の内容を変えるべきだと思う。(男性 / 12 歳 ~ 17 歳)

今回のアンケートは自立できる障害者が前提となっているが、それ以下の障害者 (自立不可能な重度者) への配慮がない。(男性 / 30 歳 ~ 34 歳)

以前より “ 介護 ” という言葉がポピュラーになった事で介護を必要とする方々が住みやすくなって来たかと思っております。ただ、きっと他にも目の届かないようなところに、介護を必要とする人がいるのではないかと。こういった調査を広めていき、情報が届く事を祈ります。(女性 / 30 歳 ~ 34 歳)

このようなアンケートの機会を与えて頂き、区が障害者に前向きに取り組んで下さっている事がよく分かります。小さくてもいいですが一歩でも理解と援助が与えられる様になると有り難いと思います。気にかけて下さっている事が分かっただけでも嬉しい気持ちになりました。ありがとうございました。(女性 / 50 歳 ~ 54 歳)

・ 調査対象が子どもの場合、調査項目が、現状では答えづらいものがあった。子どもの対象の意向調査が必要ではないか。・ 障害のある子どもの就学について、発達障害については、行政でも整備されてきているように思うが、肢体不自由児、他の場合、地域の学校に就学することを断念しなければならない現状だと思う。肢体不自由児でも地域の学校 (住みなれた地域) に通い易いように行政でも力を入れて取り組んでほしい (女性 / 0 歳 ~ 5 歳)

サービス意向調査を実施することはとても良いと思います。例えば、勝手に飲み物を提供されるよりも、「何をお飲みになりますか」と聞かれる方が有り難いことです。(女性 / 35 歳 ~ 39 歳)

<施設整備について> (17件)

地震の後で共同の生活をしなければならない時トイレが心配です。一人で立ったり走ったりが困難です。(女性/75歳~79歳)

今までの保健福祉センター(4か所?)は遠かったので、地域センター位の近い所に「すこやか福祉センター」が開設されると助かります。(女性/70歳~74歳)

江古田の森も、使えるようにしてほしい。障害がある年寄りはどうしたら良いのかわかりません。不安です。(男性/70歳~74歳)

誰もが安心してくらししていけるように、福祉に力を入れていただきたいと思います。老人ホーム等の施設も、年金で入所出来るような、また希望すれば入れるようにふやしていただきたいと思います。(男性/80歳以上)

年をとってから入るグループホームでなく、若い時から入れるようにもっと他県や他区のようにグループホームを作ってほしい。中野区にグループホームが4件しかないと聞いたときには驚きました。40人位しか利用できないということを考えると、あまりにも軽視されているなど思っています。(男性/20歳~24歳)

看護施設がもっとたくさんほしい事。(男性/80歳以上)

作業所の数を増やして欲しいです。(男性/25歳~29歳)

病院(医師のいるホームに入居したい)とはいわないが、なかなか受け入れてくれる施設がなく、順番まちが多すぎる。現在100名まち(男性/80歳以上)

中野区には、障害者の施設があまり充実していないと思います。(あっても施設の規模が小さい)。病気の重さ別の施設があると、それぞれの方に合ったケアが出来るのではないのでしょうか?特に精神障害者は、障害者おしでもコミュニケーションの面などでお互いの理解(病気への)が出来なかつたりします。その辺のコミュニケーションケアや、一般への理解を進めていていただきたいです。そのためにも施設やサポートの方たちを充実してほしいです。お願いします。(女性/30歳~34歳)

西武線の野方駅の階段、エスカレーターが早く出来ればと希望しています。(女性/65歳~69歳)

障害者の病院が中野区からは全部遠いのが困ります。区内に指定病院がほしいです。(男性/40歳~44歳)

<就労支援、所得保障について> (9件)

作業所で働いているが1ヶ月2000円にもならない。もう少し額を多くしてもらえないものか。(男性/45歳~49歳)

作業所を通して週3~週4日、1日3時間程度などのきめ細かな仕事を紹介してほしい。(女性/50歳~54歳)

障害者でも時給のいい仕事があればいいと思います。福祉サービスを受けずらい人には、集団で安く受けられるサービスもあってほしいです。お金がなくて暮らしづらい障害者をなんとかしてほしいです。(女性/50歳~54歳)

<環境整備について> (8件)

近くに老人ホームやショートステイができる施設を増やしてほしい。もっと安全に外出できる

ようにして欲しい。(男性 / 65 歳 ~ 69 歳)

障害者のみならず、高齢者も含めて自立して生活できるようなハード面も含めて環境整備を強化することが大切と考える。道路一つとりあげても中が狭く車イスや歩行者にとっても凹凸が多く危険が多く自立をさまたげる要因になっていると思います。ソフト面でも活用しやすい情報提供の方法を考えていく必要があると思います。(女性 / 65 歳 ~ 69 歳)

・ 今後の高齢者増加を考えますと、車椅子利用が欠かせないと思います。ぜひ建物のバリアフリーや障害者用トイレの増設は不可欠です。更に道路の整備(デコボコをなくすこと、道中の確保)等の町づくりから手がけて頂きたいとお願い申し上げます。 ・ ひとり暮らしの方へはぜひ声をかけ、元気づけるシステムも考えて頂きたい。(女性 / 60 歳 ~ 64 歳)

< 今後の不安 > (7 件)

沢山の質問、アンケートがありました。障害者にとって少しでも安心して暮らせる中野区であってほしいと思います。親が高齢になるにつれ子供のこれからが心配です。(女性 / 30 歳 ~ 34 歳)

全体の事については全く分かりませんが、1 老人としては今日一日をつつがなく無事に過ごせた事を感謝する毎日です。行政での福祉サービスの思いやり・理解がすみずみに行き届いて年を重ねる事に不安を持たずにすごせたら嬉しいと思います。(女性 / 75 歳 ~ 79 歳)

< その他 > (22 件)

小生は現在腎不全で透析中ですが、自分の事は自分で成る可くいたしたいと心がけています。(男性 / 80 歳以上)

おかげ様で生活保護を受けさせていただき、日々過ごす事が出来て感謝しております。(男性 / 65 歳 ~ 69 歳)

有難うございます。これから先の事が心配です。よろしくご指導下さい。(女性 / 80 歳以上)
障害者利用向上の為に細かく取組んで下さり感謝いたします。今後も住みやすい、利用しやすい、中野区を期待しております。よろしくお願ひ致します。(女性 / 45 歳 ~ 49 歳)

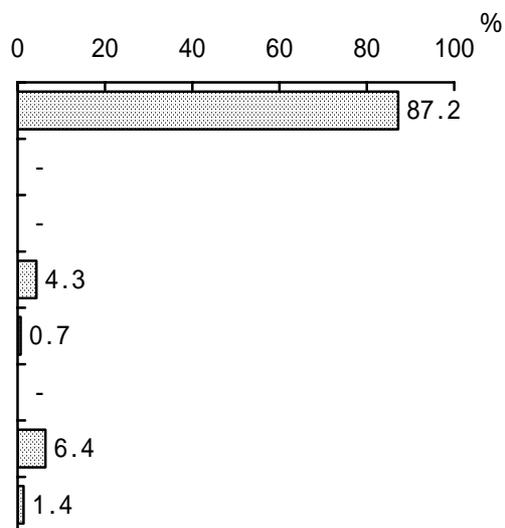
あまり他人の力は借りたくない。自己責任を中心に日常生活をしています。(男性 / 70 歳 ~ 74 歳)

施設入所者調査

1 . 回答者の属性

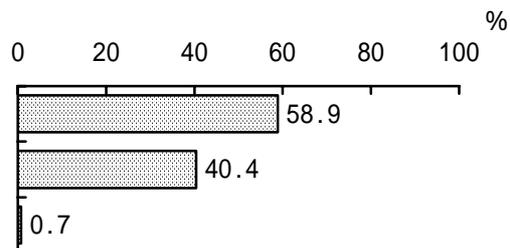
(1) アンケートの回答者

区分	回答者数	構成比 (%)
本人	123	87.2
配偶者	0	-
子どもまたはその配偶者	0	-
親	6	4.3
兄弟姉妹	1	0.7
友人、知人	0	-
その他	9	6.4
無回答	2	1.4
全体	141	100.0



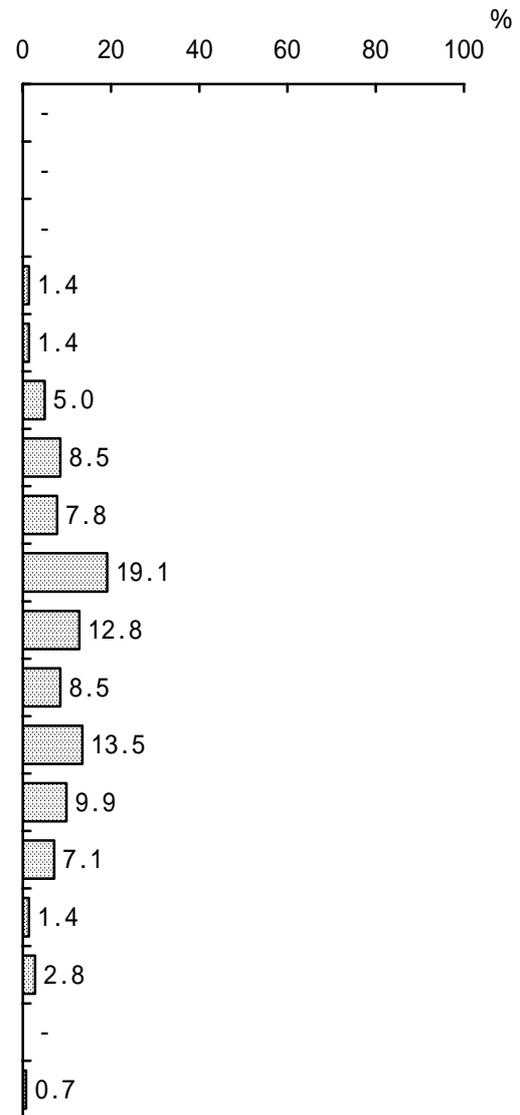
(2) 本人の性別

区分	回答者数	構成比 (%)
男性	83	58.9
女性	57	40.4
無回答	1	0.7
全体	141	100.0



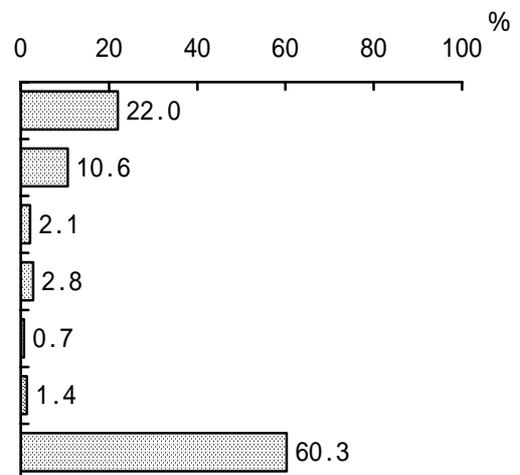
(3) 本人の年齢

区分	回答者数	構成比 (%)
0歳～5歳	0	-
6歳～11歳	0	-
12歳～17歳	0	-
18歳～19歳	2	1.4
20歳～24歳	2	1.4
25歳～29歳	7	5.0
30歳～34歳	12	8.5
35歳～39歳	11	7.8
40歳～44歳	27	19.1
45歳～49歳	18	12.8
50歳～54歳	12	8.5
55歳～59歳	19	13.5
60歳～64歳	14	9.9
65歳～69歳	10	7.1
70歳～74歳	2	1.4
75歳～79歳	4	2.8
80歳以上	0	-
無回答	1	0.7
全体	141	100.0



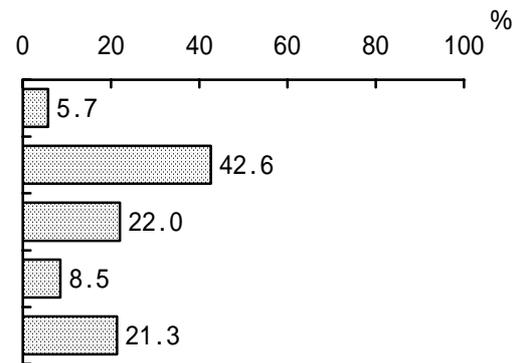
(4) 身体障害者手帳の等級

区分	回答者数	構成比 (%)
1級	31	22.0
2級	15	10.6
3級	3	2.1
4級	4	2.8
5級	1	0.7
6級	2	1.4
無回答	85	60.3
全体	141	100.0



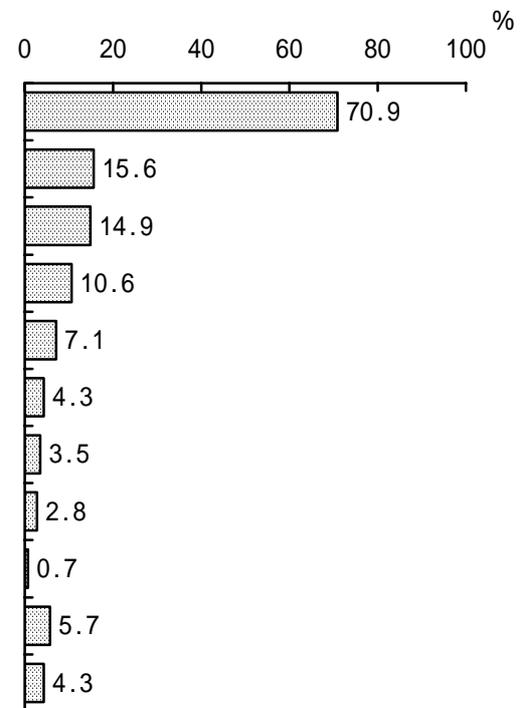
(5) 愛の手帳の度数

区分	回答者数	構成比 (%)
1度	8	5.7
2度	60	42.6
3度	31	22.0
4度	12	8.5
無回答	30	21.3
全体	141	100.0

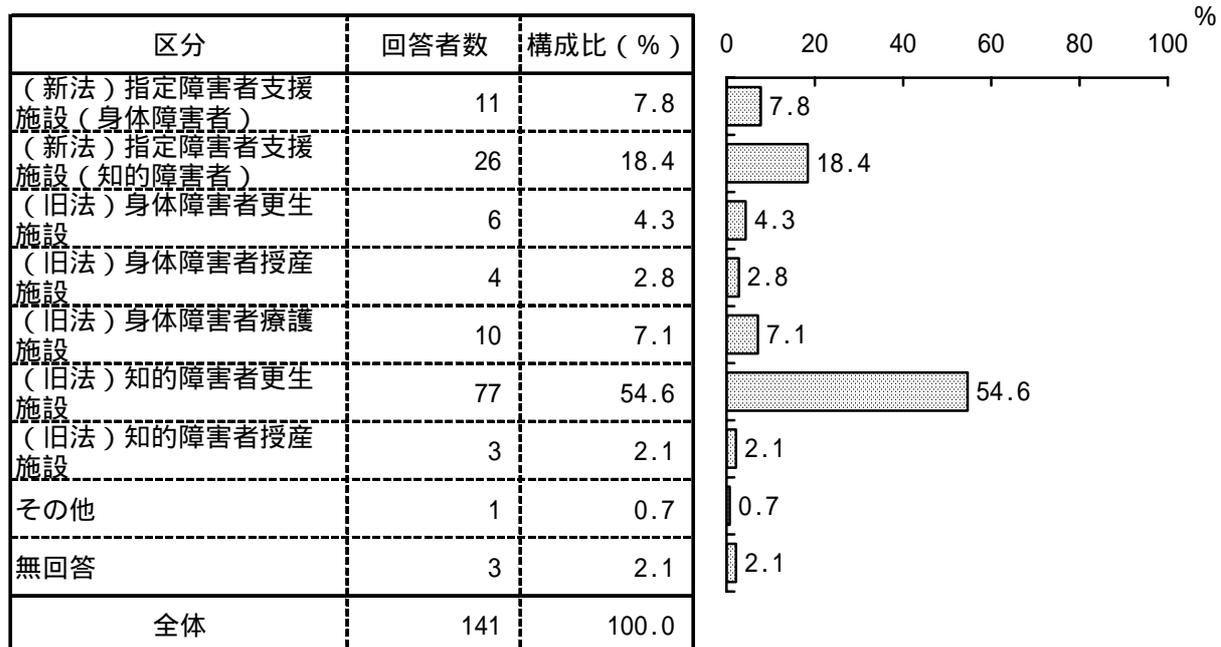


(6) 障害の種類

区分	回答者数	構成比 (%)
知的障害	100	70.9
体幹機能障害	22	15.6
下肢機能障害	21	14.9
上肢機能障害	15	10.6
肢体不自由 (脳原性まひ)	10	7.1
聴覚障害・平衡機能障害	6	4.3
内部機能障害	5	3.5
音声・言語・そしゃく機能障害	4	2.8
視覚障害	1	0.7
その他	8	5.7
無回答	6	4.3
全体	141	100.0



(7) 入所施設の種類



2. 入所について

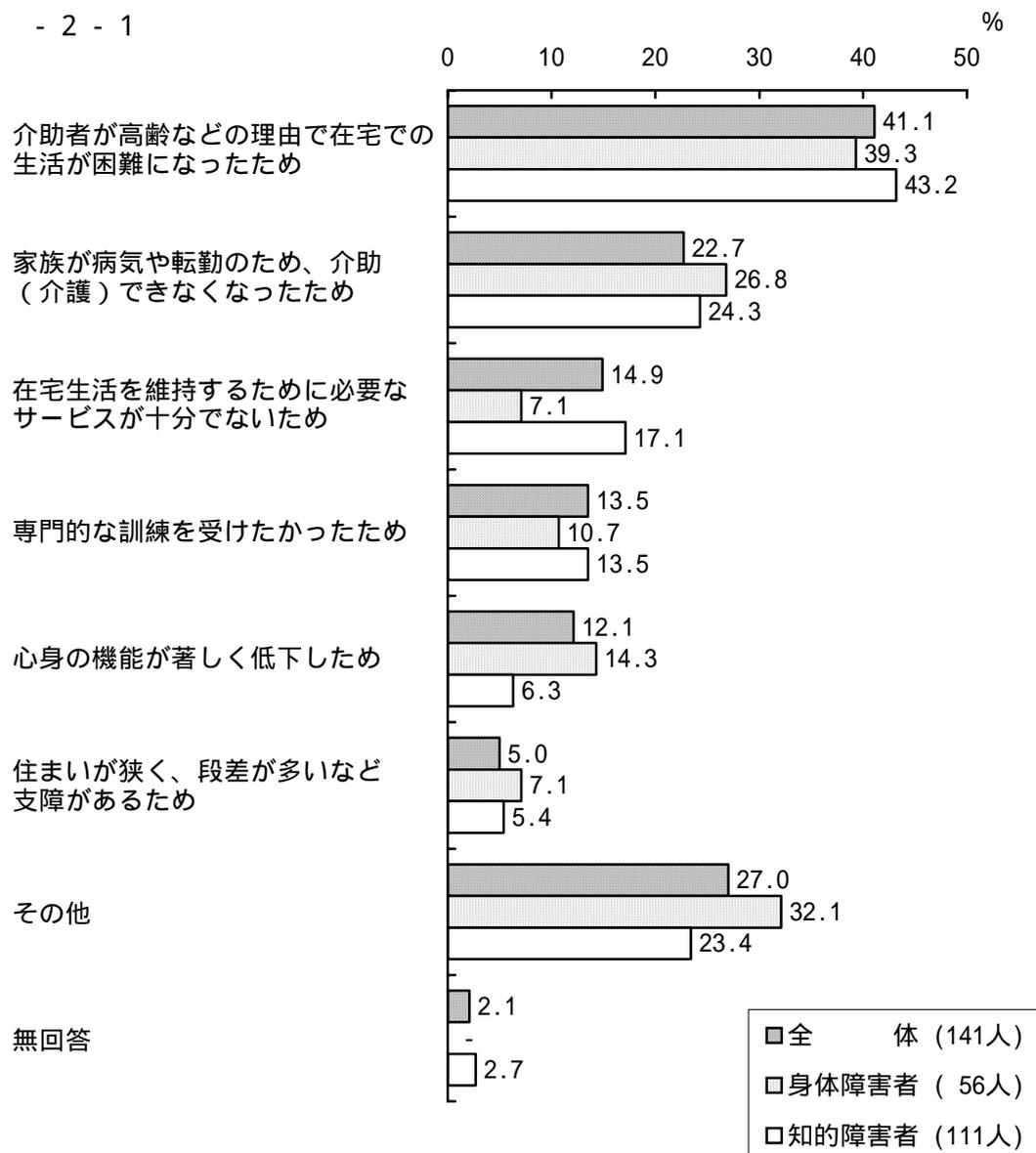
(1) 入所理由

「介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため」が4割強

(全員の方に)

問7. 現在の施設に入所することになった理由はなんですか。(あてはまるものすべてに)

図 - 2 - 1



現在の施設に入所することになった理由としては、全体では、「介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため」(41.1%)が最も多く、以下、「家族が病気や転勤のため、介助(介護)できなくなったため」(22.7%)、「在宅生活を維持するために必要なサービスが十分でないため」(14.9%)、「専門的な訓練を受けたかったため」(13.5%)、「心身の機能が著しく低下したため」(12.1%)、「住まいが狭く、段差が多いなど支障があるため」(5.0%)の順になっている。

身体障害者では、「介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため」(39.3%)が最も多く、以下、「家族が病気や転勤のため、介助(介護)できなくなったため」(26.8%)、「心身の機能が著しく低下したため」(14.3%)、「専門的な訓練を受けたかったため」(10.7%)、「住まいが狭く、段差が多いなど支障があるため」(7.1%)、「在宅生活を維持するために必要なサービスが十分でないため」(7.1%)の順になっている。

知的障害者では、「介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため」(43.2%)が最も多く、以下、「家族が病気や転勤のため、介助(介護)できなくなったため」(24.3%)、「在宅生活を維持するために必要なサービスが十分でないため」(17.1%)、「専門的な訓練を受けたかったため」(13.5%)、「心身の機能が著しく低下したため」(6.3%)、「住まいが狭く、段差が多いなど支障があるため」(5.4%)の順になっている。(図 - 2 - 1)

表 - 2 - 1 性別、年齢別

単位：%

	総数	が理由で在宅生活が困難になったため	介助者が高齢などの生活のため	家族が病気や転勤のため、介助（介護）できなくなったため	在宅生活を維持するために必要なサービスが不足しているため	専門的な訓練を受けたため	心身の機能が著しく低下したため	住まいが狭く、障がいのため	その他	無回答
全体	141	41.1	22.7	14.9	13.5	12.1	5.0	27.0	2.1	
性別										
男性	83	34.9	18.1	16.9	14.5	10.8	3.6	36.1	2.4	
女性	57	49.1	29.8	12.3	12.3	14.0	7.0	12.3	1.8	
年齢別										
0～11歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12～19歳	2	-	-	-	-	100.0	100.0	-	-	-
20～29歳	9	22.2	22.2	-	11.1	-	-	66.7	-	-
30～39歳	23	34.8	30.4	17.4	8.7	8.7	13.0	26.1	-	
40～49歳	45	55.6	24.4	13.3	15.6	-	2.2	24.4	-	
50～59歳	31	38.7	22.6	19.4	12.9	12.9	3.2	12.9	6.5	
60～69歳	24	41.7	12.5	20.8	20.8	29.2	-	33.3	4.2	
70～79歳	6	16.7	33.3	-	-	16.7	-	50.0	-	
80歳以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

性別に見ると、「介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため」（女性 49.1%、男性 34.9%）、「家族が病気や転勤のため、介助（介護）できなくなったため」（女性 29.8%、男性 18.1%）で、それぞれ女性の方が 10 ポイント以上高くなっている。（表 - 2 - 1）

年齢別に見ると、「介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため」と答えた人は 40 歳代で 55.6%、「専門的な訓練を受けたため」と答えた人は 60 歳代で 29.2%と、それぞれ全体より 10 ポイント以上高くなっている。（表 - 2 - 1）

表 - 2 - 2 身体障害者手帳の等級別

	総数	が理介 困由助 難で者 になが 宅高 つて たの た生 た活	でた家 できめ なく、 介病 助気 つた(や た介 た護 た勤 ため)	低心 下身の した機 ため能 が著 しく	た専 か門 つた たな た訓 た練 たを た受 け	るが住 た多まい ためい が狭 く、 支 障 が あ 差	入た在 がに宅 十分必 で要生 ないな いたサ たー たビ る	その他	
全体	56 (%)	22 39.3	15 26.8	8 14.3	6 10.7	4 7.1	4 7.1	18 32.1	
等級	1級	31 (%)	15 48.4	8 25.8	6 19.4	3 9.7	2 6.5	2 6.5	9 29.0
	2級	15 (%)	6 40.0	3 20.0	2 13.3	2 13.3	2 13.3	- -	4 26.7
	3級	3 (%)	- -	1 33.3	- -	- -	- -	- -	2 66.7
	4級	4 (%)	- -	2 50.0	- -	1 25.0	- -	- -	2 50.0
	5級	1 (%)	- -	- -	- -	- -	- -	1 100.0	1 100.0
	6級	2 (%)	1 50.0	1 50.0	- -	- -	- -	1 50.0	- -

表 - 2 - 3 愛の手帳の度数別

	総数	が理介 困由助 難で者 になが 宅高 つて たの た生 た活	でた家 できめ なく、 介病 助気 つた(や た介 た護 た勤 ため)	入た在 がに宅 十分必 で要生 ないな いたサ たー たビ る	た専 か門 つた たな た訓 た練 たを た受 け	低心 下身の した機 ため能 が著 しく	るが住 た多まい ためい が狭 く、 支 障 が あ 差	その他	無回答	
全体	111 (%)	48 43.2	27 24.3	19 17.1	15 13.5	7 6.3	6 5.4	26 23.4	3 2.7	
度数	1度	8 (%)	6 75.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	- -	- -	- -	
	2度	60 (%)	23 38.3	13 21.7	11 18.3	8 13.3	3 5.0	5 8.3	17 28.3	1 1.7
	3度	31 (%)	13 41.9	6 19.4	3 9.7	4 12.9	2 6.5	1 3.2	7 22.6	2 6.5
	4度	12 (%)	6 50.0	6 50.0	3 25.0	1 8.3	- -	- -	2 16.7	- -

3 . 今後の生活について

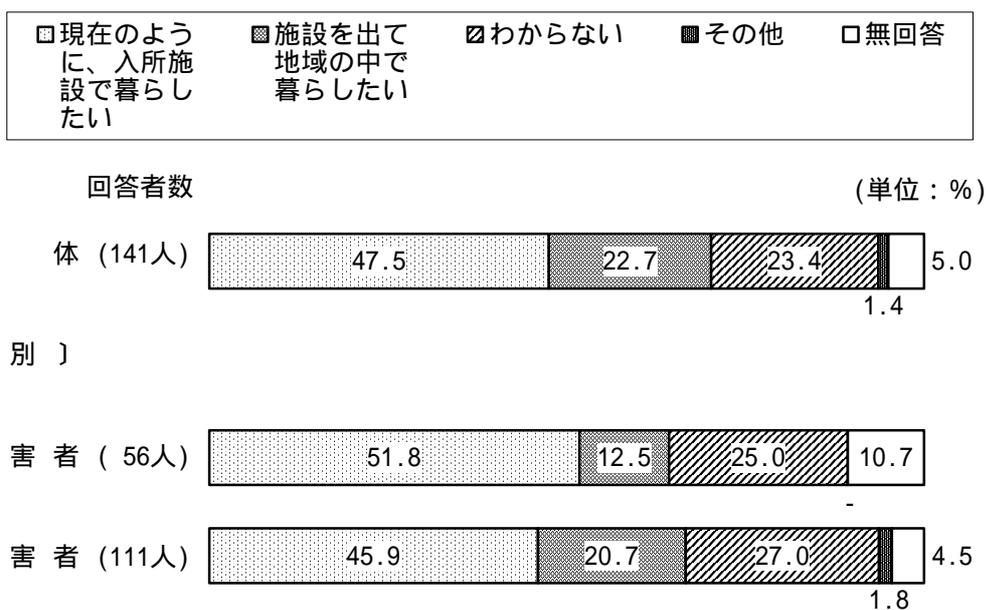
(1) 生活したい場所

現在のように、入所施設で暮らしたい人が半数近く

(全員の方に)

問 8 . 今後、どこで生活したいですか。(〇 は 1 つ)

図 - 3 - 1



今後、生活したい場所については、「現在のように、入所施設で暮らしたい」(47.5%)と答えた人が半数近くを占めている。「施設を出て地域の中で暮らしたい」と答えた人は22.7%、「わからない」と答えた人は23.4%となっている。

身体障害者では、「現在のように、入所施設で暮らしたい」(51.8%)と答えた人が半数強を占めている。「施設を出て地域の中で暮らしたい」と答えた人は12.5%、「わからない」と答えた人は25.0%となっている。

知的障害者では、「現在のように、入所施設で暮らしたい」(45.9%)と答えた人が4割半を占めている。「施設を出て地域の中で暮らしたい」と答えた人は20.7%、「わからない」と答えた人は27.0%となっている。(図 - 3 - 1)

図 - 3 - 1 性別、年齢別

単位：%

		総 数	施現在 設での 暮らし たい、 入所	で施設 暮らし したい 地域 の中	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体		141	47.5	22.7	23.4	1.4	5.0
性別	男性	83	48.2	26.5	21.7	-	3.6
	女性	57	47.4	17.5	24.6	3.5	7.0
年齢別	0～11歳	-	-	-	-	-	-
	12～19歳	2	-	-	-	-	100.0
	20～29歳	9	44.4	44.4	11.1	-	-
	30～39歳	23	47.8	26.1	21.7	-	4.3
	40～49歳	45	44.4	13.3	35.6	-	6.7
	50～59歳	31	38.7	25.8	25.8	6.5	3.2
	60～69歳	24	66.7	25.0	8.3	-	-
	70～79歳	6	66.7	16.7	16.7	-	-
80歳以上	-	-	-	-	-	-	

性別に見ると、「施設を出て地域の中で暮らしたい」と答えた人は男性（26.5%）の方が女性（17.5%）より9ポイント高くなっている。（表 - 3 - 1）

年齢別に見ると、「現在のように、入所施設で暮らしたい」と答えた人は60～70歳代で66.7%、「わからない」と答えた人は40歳代で35.6%と、それぞれ全体を10ポイント以上上回っている。（表 - 3 - 1）

図 - 3 - 2 身体障害者手帳の等級別

		総数	施設在 での暮ら しにた い入所	施設を 出した い地 域の中	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体		56 (%)	29 51.8	7 12.5	14 25.0	- -	6 10.7
等級	1級	31 (%)	15 48.4	5 16.1	9 29.0	- -	2 6.5
	2級	15 (%)	8 53.3	1 6.7	3 20.0	- -	3 20.0
	3級	3 (%)	1 33.3	1 33.3	1 33.3	- -	- -
	4級	4 (%)	2 50.0	- -	1 25.0	- -	1 25.0
	5級	1 (%)	1 100.0	- -	- -	- -	- -
	6級	2 (%)	2 100.0	- -	- -	- -	- -

図 - 3 - 3 愛の手帳の度数別

		総数	施設在 での暮ら しにた い入所	施設を 出した い地 域の中	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答
全体		111 (%)	51 45.9	23 20.7	30 27.0	2 1.8	5 4.5
度数	1度	8 (%)	5 62.5	- -	3 37.5	- -	- -
	2度	60 (%)	28 46.7	11 18.3	16 26.7	2 3.3	3 5.0
	3度	31 (%)	10 32.3	9 29.0	10 32.3	- -	2 6.5
	4度	12 (%)	8 66.7	3 25.0	1 8.3	- -	- -

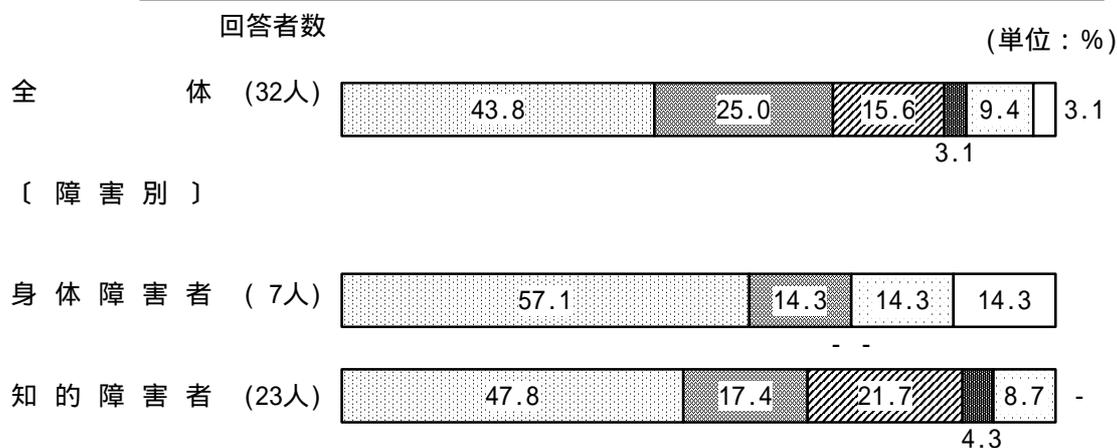
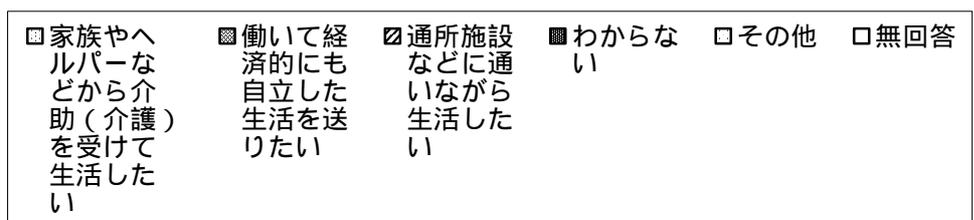
(2) 施設退所後の生活

「家族やヘルパーなどから介助（介護）を受けて生活したい」が4割強

(問 8 で「 2 . 施設を出て地域の中で暮らしたい」と答えた方に)

問 9 . 仮に施設を退所するとしたら、どのような生活を送りたいですか。(1 つ)

図 - 3 - 2



施設を出て地域の中で暮らしたいと答えた人に、施設退所後にどのような生活を送りたいかたずねた。全体では、「家族やヘルパーなどから介助（介護）を受けて生活したい」と答えた人が 43.8% で最も多く、「働いて経済的にも自立した生活を送りたい」と答えた人が 25.0%、「通所施設などに通いながら生活したい」と答えた人が 15.6% となっている。

身体障害者では、「家族やヘルパーなどから介助（介護）を受けて生活したい」と答えた人が 57.1% で最も多く、「働いて経済的にも自立した生活を送りたい」と答えた人が 14.3% となっている。

知的障害者では、「家族やヘルパーなどから介助（介護）を受けて生活したい」と答えた人が 47.8% で最も多く、「通所施設などに通いながら生活したい」と答えた人が 21.7%、「働いて経済的にも自立した生活を送りたい」と答えた人が 17.4% となっている。(図 - 3 - 2)

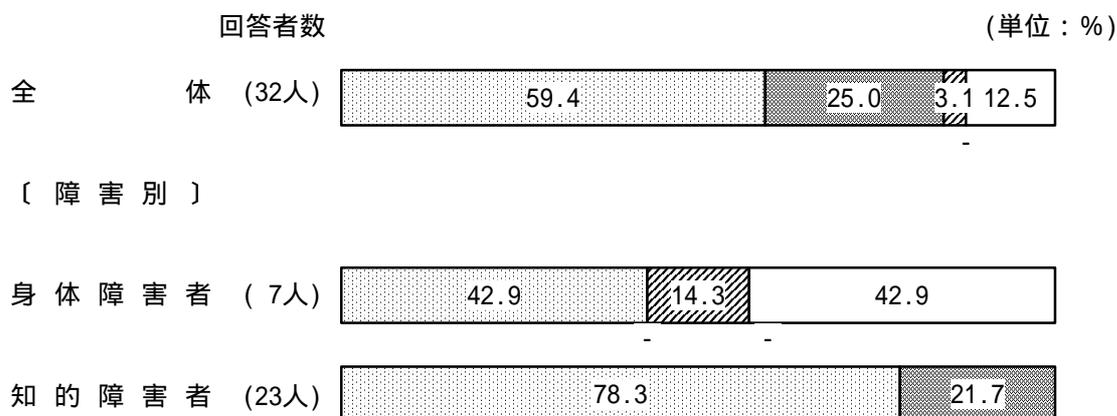
(3) 施設退所後に住みたい場所

中野区内に住みたい人が6割

(問8で「2. 施設を出て地域の中で暮らしたい」と答えた方に)

問10. 施設を退所したら、どこに住みたいです。(は1つ)

図 - 3 - 3



施設を出て地域の中で暮らしたいと答えた人に、施設退所後に住みたい場所をたずねた。全体では、「中野区内に住みたい」と答えた人が59.4%、「特に場所はこだわらない」と答えた人が25.0%となっている。

身体障害者では、「中野区内に住みたい」と答えた人が42.9%となっている。

知的障害者では、「中野区内に住みたい」と答えた人が78.3%、「特に場所はこだわらない」と答えた人が21.7%となっている。(図 - 3 - 3)

(4) 保健福祉行政全体への意見・要望 (自由回答)

(全員の方に)

問 11 . 保健福祉行政全体や今回の保健福祉サービス意向調査について、ご要望やご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

保健福祉行政全体や今回の調査について、要望、意見を自由に書いてもらったところ、31 人から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

作業所を増やしてほしい。工賃など見直してほしい。(男性 / 45 歳 ~ 49 歳)

施設利用者の障害程度区分調査結果によって施設利用が困難になる場合、地域にその受皿があるかどうか、保護者の不安は大きい。(女性 / 45 歳 ~ 49 歳)

知的障害者施設につとめている職員ですが、地域に戻るわけにも行かない知的障害者の施設は今までどおりに絶対必要だと思います。アンケートは無駄、現場を見るべきだと思います。(女性 / 60 歳 ~ 64 歳)

グループホームを多く立ち上げてほしいです。(女性 / 55 歳 ~ 59 歳)

施設を出て地域で暮らすには、「負担金は？病気になったら？外出は？保護者の負担は？使えるサービスは？」等具体的に生活するイメージがわくようなものを G・H、ケアホーム等で具体例を挙げて示して頂けたらと思います。(男性 / 45 歳 ~ 49 歳)

障害者自立支援法の成立により、負担が大幅に増し、施設の方でも財政が厳しくなり、サービス内容が低下してきていると思います。(女性 / 65 歳 ~ 69 歳)

区の介護タクシーの利用を便利にしてほしい。予約開始の時期や、車の台数の増加、タクシー券の配布枚数を増やしてほしい。(男性 / 40 歳 ~ 44 歳)

施設入所している費用全体については、本人の収入によって計算をしてもらいたいです。(女性 / 60 歳 ~ 64 歳)

施設からの地域移行が進むようにしてください。(女性 / 45 歳 ~ 49 歳)

障害者の集いなどを設け、他の障害者と話したり自分の話を聞いてほしい。(男性 / 35 歳 ~ 39 歳)

アンケートを行うだけでなく、実態に沿った対策を立ててほしい。(男性 / 45 歳 ~ 49 歳)

施設において現在新法移行について判定基準に合わせると地域に出て暮らさなければいけないが現在のように施設で暮らしたいのが現実です。(男性 / 30 歳 ~ 34 歳)

もう少し人口の多いところに住みたい。もう少しよい所に住みたい (中野区のマンション等)、電車で通勤したい。(男性 / 40 歳 ~ 44 歳)

ご本人すでに施設で 41 年生活され、聴力障害、言語障害をお持ちのため、今後について意思の確認は難しいです。が、障害程度 (知的障害) から環境への適応能力等考え、現在の暮らしの継続を望まれると思います。(男性 / 60 歳 ~ 64 歳)

調査票と単純集計

ねん ど ほけん ふくし かん
2008年度保健福祉サービスに関する

ちょうさ
アンケート調査

しょうがいふくし いこうちょうさ
「障害福祉サービス意向調査」

しょうがいしゃちょうさ
《障害者調査》

ちょう さ ひょう
調査票

なか の く
中野区

ちょうさ きにゆう ねが
【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合は、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えください。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に印をつけてください。
6. 「その他（具体的に）」に印をつけられた方は、お手数ですが具体的に記入ください。
7. ご記入いただきました調査票は、平成20年5月8日（木）までに、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて郵送してください。
8. 調査の内容や記入方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

なかのくほけんふくしぶきかくちょうせいたんとう
中野区保健福祉部企画調整担当

でんわ 3228-5609 FAX 3228-5662
電話

E-mail hokenfukusikeiei@city.tokyo-nakano.lg.jp

* 各選択肢及び無回答の数値は単純集計結果、単位は「%」。回答者数の単位は「人」。

質問の上に（全員のの方に）と記載のあるものは全員のの方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

はじめに、あなた（あて名の方ご本人）の、基本的なことについておたずねします。

（全員のの方に）

問1 . このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。（は1つ） 回答者数821
 複数の方が相談して回答される場合は、主に回答される方一人に をつけてください。

70.6	ご本人（代筆の方が記入される場合を含む）	
4.1	配偶者	2.1 兄弟姉妹
3.9	子どもまたはその配偶者	0.2 友人、知人
15.6	親	1.3 その他
		2.1 無回答

（全員のの方に）

問2 . あなた（ご本人）の性別をお答えください。（は1つ） 回答者数821

48.1	男性	50.3	女性	1.6	無回答
------	----	------	----	-----	-----

（全員のの方に）

問3 . あなた（ご本人）の平成20年4月1日現在の年齢をお答えください。

（は1つ） 回答者数821

0.9	0歳～5歳	5.7	30歳～34歳	9.4	60歳～64歳
1.6	6歳～11歳	6.1	35歳～39歳	8.5	65歳～69歳
2.9	12歳～17歳	6.1	40歳～44歳	8.2	70歳～74歳
1.1	18歳～19歳	4.6	45歳～49歳	10.5	75歳～79歳
2.4	20歳～24歳	6.2	50歳～54歳	16.4	80歳以上
2.2	25歳～29歳	6.2	55歳～59歳	1.0	無回答

ぜんいん かた
(全員の方向に)

問4 . あなた(ご本人)の身体障害者手帳・愛の手帳(療育手帳)・精神障害者保健福祉手帳の等級をお答えください。複数の手帳をお持ちの方は、それぞれの等級についてお答えください。

(1) 身体障害者手帳(は1つ) 回答者数 821

25.6	1 級	10.2	2 級	11.3	3 級	13.0	4 級
4.5	5 級	2.8	6 級	32.5	無回答		

(2) 愛の手帳(は1つ) 回答者数 821

1.7	1 度	5.2	2 度	6.6	3 度	8.5	4 度	78.0	無回答
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	-----

(3) 精神障害者保健福祉手帳(は1つ) 回答者数 821

2.7	1 級	10.2	2 級	6.6	3 級	80.5	無回答
-----	-----	------	-----	-----	-----	------	-----

(身体障害者手帳をお持ちの方に)

問5 . あなた(ご本人)の身体障害者手帳に記載された障害名をお答えください。

(あてはまるものすべてに) 回答者数 554

20.0	上肢機能障害	7.9	聴覚障害・平衡機能障害
36.3	下肢機能障害	4.2	音声・言語・そしゃく機能障害
11.4	体幹機能障害	3.1	肢体不自由(脳原性まひ)
26.5	内部機能障害	6.0	その他()
8.5	視覚障害	4.7	無回答

(精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方に)

問6 . 差し支えがなければ、あなた(ご本人)の診断名をお答えください。

(あてはまるものすべてに) 回答者数160

51.3	統合失調症	9.4	てんかん
21.3	気分障害(躁うつ病、うつ病)	3.1	アルコール、薬物依存症
9.4	神経症	13.8	その他(具体的に)
7.5	人格および行動の障害	6.3	無回答

ぜんいん かた
(全員のの方に)

問7 . あなた(ご本人)は介護保険の要支援・要介護認定を受けていますか。(は1つ) 回答者数 821

3.5	ようしえん 要支援 1	5.1	ようかいご 要介護 3	
5.5	ようしえん 要支援 2	2.9	ようかいご 要介護 4	
1.0	ようかいご 要介護 1	2.7	ようかいご 要介護 5	
4.5	ようかいご 要介護 2	58.2	ようしえん 要支援・	ようかいごにんてい 要介護認定は受けていない
		16.6	無回答	

あなた(あて名の方ご本人)のお住まいについておたずねします

ぜんいん かた
(全員のの方に)

問8 . あなた(ご本人)の家族構成をお答えください。(は1つ) 回答者数821

25.8	ひとり暮らし	2.4	おや 親と子どもと同居
19.0	ふうふ 夫婦だけ	7.8	こ 子どもと同居
10.2	はいぐうしや 配偶者と子どもと同居	9.6	た その他
24.0	おや 親と同居	1.1	無回答

ぜんいん かた
(全員のの方に)

問9 . あなた(ご本人)のお住まいは次のどれにあたりますか。(は1つ) 回答者数821

43.5	もちえ 持ち家(一戸建て)	1.6	せいかつりょう 生活寮、グループホーム
16.9	もちえ 持ち家	25.0	みんかんちんたいじゅうたく 民間賃貸住宅
	(マンションなどの集合住宅)		(アパート・マンションなど)
6.2	こうえいじゅうたく 公営住宅(都営・区営住宅など)	5.2	た その他
		1.6	無回答

ぜんいん かた
(全員のの方に)

問10. あなた(ご本人)の住宅で困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数821

16.4 老朽化しているが、改修や建て替えができない

16.7 バリアフリーになっていない

15.1 部屋が狭い

11.9 家賃が高い

3.0 アパートなどの契約時の保証人がいない

1.9 立ち退きを迫られている

9.6 その他(具体的に)

41.8 特にない

6.2 無回答

ぜんいん かた
(全員のの方に)

問11. 火事や地震などの災害に関して、障害があるためにあなた(ご本人)が不安を感じていることはありますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数821

21.1 火災の発生などを消防署や周囲の方へ連絡できない

32.2 初期消火ができない

18.6 地震などの情報を得にくい

33.6 一時的であっても避難場所で過ごすことが難しい

32.6 自力で避難できない

11.8 その他(具体的に)

31.7 特にない

4.9 無回答

あなた（あて名の方ご本人）の日常生活の介護や支援についておたずねします

（全員のの方に）

問12．あなた（ご本人）の日常生活で介助を必要とすることはありますか。（あてはまるものすべてに） 回答者数821

9.9 食事をする	35.0 日常の買い物
34.1 食事の支度や片付け	29.2 金銭管理
14.5 トイレ	22.4 服薬管理
16.9 着替え	34.6 外出する
24.0 入浴	6.9 その他（具体的に）
38.1 掃除・片付け	35.7 介助を必要とすることは特にない
	5.5 無回答

（問12で「1～11」をお答えの方に）

問13．あなた（ご本人）の主な介助者はどなたですか。（は1つ） 回答者数 483

31.7 父母	13.0 ホームヘルパー
23.2 配偶者	- ボランティア
14.7 子ども	12.2 その他（具体的に）
1.9 近所の人、友人・知人	3.3 無回答

（全員のの方に）

問14．あなた（ご本人）の主な介助者が急病・事故などで介助が困難になった場合、どのようにしたいですか。（は1つ） 回答者数821

21.7 同居している他の家族に頼む
16.3 同居していない家族や親戚に頼む
23.4 介助（介護）や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用する
15.0 施設の短期入所（ショートステイ）を利用する
14.3 その他
9.4 無回答

ぜんいん かた
(全員のの方に)

問15. もし、あなた(ご本人)がひとり暮らしになった場合を想定すると、どのようなところで生活したいと思いますか。現在、すでにひとり暮らしの方は、今後の意向をお答えください。(は1つ) 回答者数821

42.1	今の住宅に引き続き暮らしたい	
13.4	公営住宅(都営・区営住宅など)に入居したい	
9.4	ケアホーム、グループホームなどに入居したい	
13.5	施設に入所したい	
15.2	わからない	
3.4	その他(具体的に)
2.9	無回答	

ぜんいん かた
(全員のの方に)

問16. あなた(ご本人)は、平日の日中は主にどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数821

59.9	自宅で過ごしている	36.9	病院へ通院している
18.8	職場や自宅で仕事をしている	6.5	病院などの機能訓練を受けている
8.0	授産施設や作業所で仕事をしている	10.8	趣味やスポーツ活動をしている
11.2	デイケアなどに通所している	10.5	その他
5.7	学校(幼稚園等含む)へ通っている	1.2	無回答

ぜんいん かた
(全員のの方に)

問17. あなた(ご本人)は、休日の日中は主にどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数821

83.3	自宅で過ごしている	8.5	病院へ通院している
2.1	職場や自宅で仕事をしている	2.7	病院などの機能訓練を受けている
0.7	授産施設や作業所で仕事をしている	19.7	趣味やスポーツ活動をしている
2.6	デイケアなどに通所している	17.4	その他
0.4	学校(幼稚園等含む)へ通っている	1.5	無回答

ぜんいん かた
(全員のの方に)

と
問18. あなた(ご本人)のご近所とのつきあいはどのようなものですか。(は1つ)

回答者数 821

- | | | |
|------|---|---------|
| 11.4 | こま 困っているときお互いに相談したり助け合ったりするなど、親しくおつきあいでいる | |
| 3.9 | ちょうかい 町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう | |
| 16.4 | たまに世間話をする程度 | |
| 38.4 | かお あ 顔を合わせたときに会釈する程度 | |
| 26.3 | つきあいがほとんどない | 3.5 無回答 |

ぜんいん かた
(全員のの方に)

と
問19. あなた(ご本人)は今後、どのような活動をしてみたいと思いますか。(あてはまるものすべてに)

回答者数821

- | | | |
|------|--------------------------------|----------|
| 16.6 | かいご サービスを受けながら色々な活動をしたい | |
| 10.7 | デイケアの様などころで色々な活動をしたい | |
| 29.2 | しゅみ やスポーツを中心とした活動をしたい | |
| 7.6 | ボランティア活動をしたい | |
| 13.2 | せんもんてき 専門的な知識や技術を身につけられる活動がしたい | |
| 27.5 | その他 | 18.1 無回答 |

ぜんいん かた
(全員のの方に)

と
問20. あなた(ご本人)は仕事に就くための訓練や自立した生活ができるような訓練を受けていますか。(は1つ)

回答者数821

- | | | |
|------|----------|-------------------|
| 13.9 | う 受けている | と
問22 へお進みください |
| 81.0 | う 受けていない | と
問21 へお進みください |
| 5.1 | 無回答 | |

と
(問20で「2. 受けていない」とお答えの方に)

と
問21. 今後、訓練を受ける気持ちはありますか。(は1つ)

回答者数665

- | | | |
|------|------------------------|---------|
| 39.1 | くんれん 訓練を受ける必要はない | |
| 17.6 | 今後、受けてみたいと考えている | |
| 9.0 | くんれん 訓練は必要だと思うが、受けたくない | |
| 28.7 | わからない | 5.6 無回答 |

あなた（あて名の方ご本人）の外 出 状 況 についておたずねします

（全員のの方に）

問22．あなた（ご本人）は、一週間に、どのくらい外出しますか。（は1つ）

回答者数821

35.3	ほとんど毎日	19.0	1～2日程度	4.0	まったくない
29.7	3～5日程度	8.2	ほとんどない	3.8	無回答

（全員のの方に）

問23．あなた（ご本人）の外 出 の主な目的は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

回答者数821

20.3	通勤や通学	3.4	ボランティアや地域行事への参加
15.3	福祉施設や作業所などへの通所	18.3	友人と会うため
49.6	買物	35.8	散歩
53.7	通院	1.3	特にない
22.8	趣味・スポーツなど	11.9	その他
		3.3	無回答

（全員のの方に）

問24．あなた（ご本人）が外出する時に困ることはありますか。（あてはまるものすべてに○）

回答者数821

8.6	介助者がいない		
14.5	困ったとき周囲の人に手助けをお願いしにくい		
13.9	道路上に障害物（自転車・看板など）があり、通りにくい		
1.5	点字ブロックや音響式信号の整備が不十分		
21.7	電車やバスの乗り降りがしにくい		
18.9	道路や利用する建物に段差が多い		
5.2	車いす用のトイレや手すりがない		
17.9	建物や駅にエレベーターがない		
7.2	障害者用の駐車スペースが少ない		
21.2	発作など突然の体調の変化が心配		
24.1	自動車や自転車がなくて危険を感じる		
25.1	特に困ることはない		
9.9	その他	6.6	無回答

(全員の^{ぜんいん}方に^{かた})

問25. あなた(ご本人^{ほんにん})が、外出^{がいしゅつ}に利用^{りよう}する主な交通手段^{おも こうつうしゅだん}は何^{なん}ですか。(あてはまるものすべてに○) 回答者数821

7.3 障害者福祉会館や養護学校 などの送迎バス	20.3 自家用車(家族などが運転)
49.0 路線バス	7.6 自家用車(自分で運転)
34.1 タクシー	16.3 自転車
4.3 リフト付きタクシー	1.8 電動三輪車(電動車いす)
56.9 電車、地下鉄	32.3 徒歩または車いす
1.1 非営利団体が行う移送サービス	4.5 その他(具体的に)
	2.6 無回答

働くことについておたずねします

(全員の^{ぜんいん}方に^{かた})

問26. あなた(ご本人^{ほんにん})は、給料^{きゅうりょう}など就労^{しゅうろう}による定期的な収入^{ていきてき しゅうにゅう}はありますか。(は1つ) 回答者数821

29.2 ある	問27 へお進みください
66.0 ない	問30 へお進みください
4.8 無回答	

(問26で「1. ある」とお答え^{こた}の方に^{かた})

問27. あなた(ご本人^{ほんにん})の現在の就労形態^{げんざい しゅうろうけいたい}をお答え^{こた}ください。(は1つ) 回答者数 240

16.3 自営業、家族従業員	- 内職
25.8 常勤の会社員、公務員、団体職員	24.2 作業所に通所
20.0 アルバイト、パート、非常勤職員	9.6 その他(具体的に)
0.8 有償ボランティア	3.3 無回答

(問26で「1. ある」とお答え^{こた}の方に^{かた})

問28. あなた(ご本人^{ほんにん})は、現在の仕事^{げんざい しごと}をどのような方法^{ほうほう}で見つけましたか。(は1つ) 回答者数240

8.3 ハローワークの紹介	15.0 直接自分で探した
11.3 学校の紹介	12.9 友人や知人の紹介
13.3 障害者就労支援機関の利用	5.0 新聞や求人情報誌で探した
4.2 役所の紹介	22.9 その他
	7.1 無回答

(問26で「1. ある」とお答えの方に)

問29. あなた(ご本人)は、現在の仕事に関して不安や不満はありますか。(あてはまるものすべてに)

回答者数240

42.5	収入が少ない	9.6	雇用形態が不安定
4.6	作業内容が難しい	3.8	障害者用の設備が整っていない
7.1	休みが取りにくい	7.1	昇給や昇進が不平等である
5.8	就業時間が長い	5.0	通勤時間が長い
2.5	作業ペースが人と合わない	30.8	特にない
8.3	職場の人間関係がうまくいかない	7.5	その他
14.6	体力的に負担が大きい	7.1	無回答

(問26で「2. ない」とお答えの方に)

問30. あなた(ご本人)は、今後、どのように働きたいと思いますか。(は1つ)

回答者数 542

3.7	一般企業などで常勤の社員として働きたい
4.2	パート・アルバイトとして働きたい
3.9	障害者の雇用が多い職場で働きたい
3.9	指導員がいて支援をしてもらえる職場で働きたい
3.0	作業所や就労支援事業所などで働きたい
4.8	働きたいが、働く場所は特に希望はない
23.6	働きたくない
17.5	わからない
25.6	その他
9.8	無回答

ぜんいん かた
(全員のみに)

問31. あなた(ご本人)は、障害者が働くためには、どのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数821

- 27.3 移動手段が確保されていること
- 43.6 健康状態にあわせた働き方ができること
- 49.0 事業主や職場の人が障害者について十分理解していること
- 34.8 自立した生活ができる給料であること
- 29.5 職場の施設や設備が障害のある人にも利用できるよう配慮されていること
- 37.9 職場に適切な助言や指導、配慮をしてくれる人がいること
- 45.7 自分の障害にあった仕事があること
- 27.8 就労の場をあっせんしたり、相談できる場が整っていること
- 19.6 就労のためのジョブトレーニングの機会があること
- 13.3 特にない
- 5.2 その他(具体的に)
- 13.4 無回答

保健福祉サービスなどについておたずねします

ぜんいん かた
(全員のみに)

問32. あなた(ご本人)は、過去1年の間に、次の相談サービスを利用したことがありますか。(あてはまるものすべてに) 回答者数821

- 14.6 保健福祉センターでの相談
- 19.4 区役所での相談
- 4.6 障害者福祉会館での相談
- 2.4 障害者地域自立支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む)
- 2.4 地域生活支援センター「せせらぎ」での相談
- 1.1 民生委員・児童委員との相談
- 3.3 障害者福祉事業団「ニコニコ」での就業相談
- 55.4 上記のどのサービスも利用したことがない
- 10.4 無回答

(全員の 方に)

問33 . 区では、身近な地域に子ども、障害者、高齢者の保健福祉に関する相談を総合的に受ける(仮称)すこやか福祉センターの開設を予定していますが、あなた(ご本人)は、そこでどのような相談をしたいと思いませんか。(あてはまるものすべてに)

回答者数 821

37.6	福祉サービスの利用について	
21.6	健康状態のこと	
19.7	住まいのこと	
10.6	就職・進学について	
7.3	財産管理のこと	
33.4	緊急時(病気の悪化、災害時など)の対応について	
36.3	主な介助者がなくなった場合の生活のこと	
19.5	特になし	
4.8	その他(具体的に)
7.3	無回答	

(全員の 方に)

問34 . あなた(ご本人)は、過去1年の間に、障害者自立支援法などによる障害福祉サービスを利用したことがありますか。(は1つ)

回答者数821

22.8	利用したことがある	問36 へお進みください
71.5	利用したことがない	問35 へお進みください
5.7	無回答	

(問34で「2. 利用したことがない」とお答えの方に)

問35 . 障害福祉サービスを利用していない理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに)

回答者数587

36.6	自力で生活できるから	0.9	事業者に対して信頼が持てない
37.8	家族が介助しているから	2.7	利用料が支払えない
6.1	他人に家へ入ってほしくない	17.7	利用方法が分からない
4.4	利用したいサービスがない	17.2	サービスを知らなかったから
1.7	サービス提供場所が遠くて利用できない	5.8	病院・診療所などに入院
		8.7	その他
		6.3	無回答

ぜんいん かた
(全員のの方に)

と
問36. あなた(ご本人)は、保健福祉サービスの利用や権利擁護に関する相談、日常的な
きんせんかんり おこな けんりようご ぞんじ
金銭管理サービスなどを行っているアシストなかの(権利擁護センター)をご存知で
すか。(は1つ) 回答者数821

19.5	なまえ し 名前は知っている	と 問37 へお進みください
73.6	なまえ し 名前も知らない	と 問38 へお進みください
6.9	無回答	

と
(問36で「1. 名前は知っている」とお答えの方に)

と
問37. アシストなかのを利用したことがありますか。(は1つ) 回答者数160

10.6	りよう 利用したことがある
86.3	りよう 利用したことがない
3.1	無回答

ぜんいん かた
(全員のの方に)

と
問38. 中野区にある施設や建物について伺います。施設のバリアフリー化は進んでいると
おも
思いますか。(は1つ) 回答者数821

3.0	じゅうぶん すす 十分に進んでいる	23.3	あまりすす あまり進んでいない	21.0	その他
36.3	ていどすす ある程度進んでいる	4.0	まったくすす 全く進んでいない	12.4	無回答

ぜんいん かた
(全員のの方に)

と
問39. 障害者に対する理解は進んでいると思いますか。(は1つ) 回答者数821

3.9	じゅうぶん すす 十分に進んでいる	25.3	あまりすす あまり進んでいない	0.6	その他
26.2	ていどすす ある程度進んでいる	7.6	まったくすす 全く進んでいない	4.5	無回答
13.5	どちらともいえない	18.4	わからない		

ぜんいん かた
(全員の方に)

問40 . あなた (ご本人) は次の施策のうち、特に充実してほしいと思うものはどれですか。

(あてはまるものすべてに)

回答者数821

- 30.7 ホームヘルプ (身体介護、家事援助、移動介護)
- 20.0 ショートステイ (短期入所)
- 14.4 グループホームや生活寮などの共同生活援助
- 16.1 作業所など働く場の整備
- 19.0 自立生活のためのケア、サービスの相談支援
- 4.9 ピアサポート (当事者同士の相談活動)
- 4.4 ピアサポート以外の障害当事者の文化活動、社会貢献活動など
- 13.8 余暇活動の支援
- 12.9 活動の場、憩いの場の整備
- 14.9 一般企業などへの就労支援
- 35.8 利用できるサービスについての広報・周知 (情報提供)
- 36.7 病気や障害の理解の促進
- 13.9 特にない
- 3.9 その他 (具体的に)
- 7.9 無回答

ぜんいん かた
(全員の方に)

問41 . あなた (ご本人) は、障害者を含めた区健康づくりに関する事業で、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。 (あてはまるものすべてに) 回答者数821

- 14.6 健康に関するイベントや講座
- 18.1 体育館、プールなどの運動施設の整備
- 18.5 保健師や歯科衛生士・栄養士による健康相談
- 32.6 健康診査・がん検診
- 30.0 健康診査後の指導・相談
- 36.2 身近な相談の場の整備
- 10.6 特にない
- 13.9 わからない
- 3.8 その他 (具体的に)
- 6.6 無回答

ぜんいん かた
(全員の方向)

問42 . 日常生活で困っていることがありましたら、ご自由にお書きください。

ぜんいん かた
(全員の方向)

問43 . 保健福祉行政全体や今回の保健福祉サービス意向調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

きょうりょく
ご協力ありがとうございました

ねんどほけんふくし かん
2008年度保健福祉サービスに関する

ちょうさ
アンケート調査

しょうがいふくし いこうちょうさ
「障害福祉サービス意向調査」

しせつにゆうしょしゃ
《施設入所者》

ちょう さ ひょう
調査票

なか の く
中野区

ちょうさ きにゆう ねが
【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合は、ご家族や施設職員の方が、ご本人の立場に立ってお答えください。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に印をつけてください。
6. 「その他（具体的に）」に印をつけられた方は、お手数ですが具体的に記入ください。
7. ご記入いただきました調査票は、平成20年5月8日（木）までに、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて郵送してください。
8. 調査の内容や記入方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

なかのくほけんふくしぶきかくちょうせいたんとう
中野区保健福祉部企画調整担当

でんわ
電話 3228 - 5609 FAX 3228 - 5662

E-mail hokenfukusikeiei@city.tokyo-nakano.lg.jp

* 各選択肢及び無回答の数値は単純集計結果、単位は「%」。回答者数の単位は「人」。

質問の上に（全員のの方に）と記載のあるものは全員のの方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

（全員のの方に）

問1. このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。（は1つ） 回答者数141
 複数の方が相談して回答される場合は、主に回答される方一人に をつけてください。

87.2	ご本人（ご家族や施設職員の方が代筆される場合を含む）			
-	配偶者	0.7	兄弟姉妹	
-	子どもまたはその配偶者		-	友人、知人
4.3	親	6.4	その他	1.4 無回答

（全員のの方に）

問2. あなた（あて名の方ご本人）の性別をお答えください。（は1つ） 回答者数141

58.9	男性	40.4	女性	0.7 無回答
------	----	------	----	---------

（全員のの方に）

問3. あなた（あて名の方ご本人）の平成20年4月1日現在の年齢をお答えください。
 （は1つ） 回答者数141

-	0歳～5歳	8.5	30歳～34歳	9.9	60歳～64歳
-	6歳～11歳	7.8	35歳～39歳	7.1	65歳～69歳
-	12歳～17歳	19.1	40歳～44歳	1.4	70歳～74歳
1.4	18歳～19歳	12.8	45歳～49歳	2.8	75歳～79歳
1.4	20歳～24歳	8.5	50歳～54歳	-	80歳以上
5.0	25歳～29歳	13.5	55歳～59歳	0.7	無回答

（全員のの方に）

問4. あなた（あて名の方ご本人）の身体障害者手帳・愛の手帳（療育手帳）の等級をお答えください。両方の手帳をお持ちの方は、それぞれについてお答えください。

（1）身体障害者手帳（は1つ）

回答者数 141

22.0	1級	2.1	3級	0.7	5級
10.6	2級	2.8	4級	1.4	6級
				60.3	無回答

(2) 愛の手帳 (は1つ)

回答者数 141

5.7	1度	42.6	2度	22.0	3度	8.5	4度	21.3	無回答
-----	----	------	----	------	----	-----	----	------	-----

(全員の方向に)

問5 . あなた (あて名の方ご本人) の障害の種類は何ですか。(身体障害者手帳や愛の手帳に記載された障害名について、すべてに をしてください) 回答者数 141

10.6	上肢機能障害	0.7	視覚障害
14.9	下肢機能障害	4.3	聴覚障害・平衡機能障害
15.6	体幹機能障害	2.8	音声・言語・そしゃく機能障害
3.5	内部機能障害	7.1	肢体不自由 (脳原性まひ)
70.9	知的障害	5.7	その他 (具体的に)
		4.3	無回答

(全員の方向に)

問6 . あなた (あて名の方ご本人) が現在入所している施設は、次のどれにあてはまりますか。(は1つ) 回答者数141

7.8	(新法) 指定障害者支援施設 (身体障害者)	2.8	(旧法) 身体障害者授産施設
18.4	(新法) 指定障害者支援施設 (知的障害者)	7.1	(旧法) 身体障害者療護施設
54.6	(旧法) 知的障害者更生施設	2.1	(旧法) 知的障害者授産施設
4.3	(旧法) 身体障害者更生施設	0.7	その他 (具体的に)
		2.1	無回答

(全員の方向に)

問7 . 現在の施設に入所することになった理由はなんですか。(あてはまるものすべてに) 回答者数 141

12.1	心身の機能が著しく低下したため		
41.1	介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため		
5.0	住まいが狭く、段差が多いなど支障があるため		
14.9	在宅生活を維持するために必要なサービスが十分でないため		
13.5	専門的な訓練を受けたかったため		
22.7	家族が病気や転勤のため、介助 (介護) できなくなったため		
27.0	その他 (具体的に)	2.1	無回答

ぜんいん かた
(全員の方向に)

問8 . 今後、どこで生活したいですか。(は1つ)

回答者数 141

47.5	げんざい にゆうしょしせつ く 現在のよう、入所施設で暮らしたい	▶ 問11へ
22.7	しせつ で ちいき なか く 施設を出て地域の中で暮らしたい	
23.4	わからない	▶ 問11へ
1.4	その他(具体的に)	5.0 無回答

(問8で「2」をお答えの方)

問9 . 仮に施設を退所するとしたら、どのような生活を送りたいですか。(は1つ)

回答者数 32

43.8	かぞく かいじょ かいご う せいかつ 家族やヘルパーなどから介助(介護)を受けて生活したい	
25.0	はたら けいざいてき じりつ せいかつ おく 働いて経済的にも自立した生活を送りたい	
15.6	つうしょしせつ かよ せいかつ 通所施設などに通いながら生活したい	
3.1	わからない	
9.4	その他(具体的に)	3.1 無回答

(問8で「2」をお答えの方)

問10 . 施設を退所したら、どこに住みたいですか。(は1つ)

回答者数32

59.4	なかのくない す 中野区内に住みたい	
25.0	とく ばしょ 特に場所はこだわらない	
3.1	その他(具体的に)	
-	わからない	12.5 無回答

ぜんいん かた
(全員の方向に)

問11 . 保健福祉行政全体や今回の保健福祉サービス意向調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

きょうりょく
ご協力ありがとうございました

平成 20 (2008) 年度 障害福祉サービス意向調査
(障害者調査 / 施設入所者調査)
報告書

発行日	平成 20 (2008) 年 8 月
印刷登録番号	20 中保経第 5 号
発行	中野区保健福祉部企画調整担当 〒164-8501 東京都中野区中野 4-8-1 電話 03-3228-5609 (直通)
編集分析	社団法人 中央調査社 〒104-0061 東京都中央区銀座 6-16-12 電話 03-3549-3121 (代表)